

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 50 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 50



平成 15 ( 2003 ) 年度

April 2003    March 2004

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 50 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 50

平成 15 ( 2003 ) 年度

April 2003—March 2004

# まえがき

学長 荒木 勤

隙ゆく駒。考えてみると時の流れは早いもので、日本医科大学医学研究業績年報もはや第50巻を数えるに至りました。

本学の大学院重点化にともなって、年々質の高い基礎研究も重視され、その欧文論文数も増加の一途をたどっております。

とは言うものの大学の研究業績に対する評価は単に論文の数ではありません。研究の深さです。研究の幅です。大学での研究は事業化を考慮した研究、経済効果が見込まれる研究にまで踏み込まねばなりません。

大学は高度な教育研究を推進する「知の拠点」として専門教育、質の高い研究を推進発展させることを使命としております。

この中であって、研究の国際化へのステップに立ち遅れてはなりません。研究の国際化に関しては、大学間競争の中で大学の個性化を図り、国際化を進めることになると考えます。グローバル化の中での競争原理は必然的に勝者と敗者を生みだします。勝者となるには、本学が世界に向けて発進する研究効果がいかに多くの研究者に引用される特色ある研究かが重要でしょう。

このような視点から第50巻（2003年度）の研究業績年報をみて頂きたいと思えます。

論文数のみならず、内容的にも国内外で高く評価されるものがおおく、独創的な研究も多くなってきたことは大変心強いものがあります。ハイテクリサーチセンター整備事業、学術フロンティア推進事業、バイオベンチャー研究開発等の研究は着々とその成果を挙げていることに本年報から伺い知ることができます。

本学の知の創造と活用により、国際競争力のある研究が更に競争原理の働いた個性輝く発展へと展開して行くことを期待します。

大学が求められている社会貢献を進める上でも、学術研究の進展の上でも、常に革新を求め、時代と共に歩む研究者を育てて行くことは本学にとって益々重要になってきたと思えます。

# 目 次

## 〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学 .....	1
[国文学] .....	1
[心理学] .....	1
[歴史学] .....	2
[文化人類学] .....	3
[経済学] .....	3
2. 自然科学 .....	4
[数 学] .....	4
[物理学] .....	5
[化 学] .....	6
[生物学] .....	7
3. 外国語 .....	10
[英 語] .....	10
[ドイツ語] .....	11
4. スポーツ科学 .....	12
[スポーツ科学] .....	12

## 〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座 .....	17
2. 解剖学第二講座 .....	19
3. 生理学第一講座 .....	22
4. 生理学第二講座 .....	26
5. 生化学第一講座 .....	29
6. 生化学第二講座 .....	32
7. 薬理学講座 .....	37
[薬理学] .....	37
[臨床薬理センター] .....	39
8. 病理学第一講座 .....	41
9. 病理学第二講座 .....	47
10. 微生物学・免疫学講座 .....	52
11. 衛生学・公衆衛生学講座 .....	58
12. 法医学講座 .....	61
13. 医療管理学講座 .....	64
14. 基礎医学共同研究利用施設 .....	70
[実験動物管理室] .....	70
[中央電子顕微鏡研究施設] .....	71
[情報科学センター] .....	74

### 〔3〕臨床医学

1. 内科学第一講座	79
[ 付属病院第1内科 ( 一般内科, 循環器内科, 肝臓内科 ) ]	79
[ 付属病院老人科 ]	97
[ 第二病院内科 ( 内科, 循環器科 ) ]	101
[ 多摩永山病院内科, 循環器内科 ]	102
2. 内科学第二講座	106
[ 付属病院第2内科 ( 神経内科, 腎臓内科 ) ]	106
[ 付属病院リウマチ科 ]	124
3. 内科学第三講座	129
[ 付属病院第3内科 ( 血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科 ) ]	129
4. 内科学第四講座	142
[ 付属病院呼吸器内科 ]	142
5. 精神医学講座	152
[ 付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科 ]	152
[ 付属病院東洋医学科 ]	157
6. 小児科学講座	159
[ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ]	159
7. 放射線医学講座	173
[ 付属病院放射線科 ]	173
[ 第二病院放射線科 ]	184
[ 多摩永山病院放射線科 ]	186
[ 千葉北総病院放射線科 ]	188
8. 皮膚科学講座	191
[ 付属病院皮膚科 ]	191
[ 第二病院皮膚科 ]	198
[ 多摩永山病院皮膚科 ]	200
[ 千葉北総病院皮膚科 ]	201
9. 外科学第一講座	203
[ 付属病院第1外科 ( 消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科 ) ]	203
[ 多摩永山病院消化器科 ]	230
[ 多摩永山病院外科 ( 消化器外科・乳腺外科・一般外科, 呼吸器外科・血管外科 ) ]	234
[ 千葉北総病院外科 ]	239
10. 外科学第二講座	241
[ 付属病院第2外科 ( 内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科 ) ・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ]	241
[ 第二病院外科 ( 外科, 心臓血管外科 ) ]	256
11. 脳神経外科学講座	258
[ 付属病院脳神経外科 ]	258
[ 第二病院脳神経外科 ]	282

	[ 多摩永山病院脳神経外科 ] .....	284
	[ 千葉北総病院脳神経外科 ] .....	287
12.	整形外科学講座 .....	293
	[ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科 ] .....	293
13.	産婦人科学講座 .....	301
	[ 付属病院女性診療科・産科 ] .....	301
	[ 第二病院女性診療科・産科 ] .....	309
	[ 多摩永山病院女性診療科・産科 ] .....	312
	[ 千葉北総病院女性診療科・産科 ] .....	315
14.	耳鼻咽喉科学講座 .....	317
	[ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・ 多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科 ] .....	317
15.	泌尿器科学講座 .....	334
	[ 付属病院泌尿器科 ] .....	334
	[ 第二病院泌尿器科 ] .....	338
	[ 多摩永山病院泌尿器科 ] .....	339
	[ 千葉北総病院泌尿器科 ] .....	340
16.	眼科学講座 .....	341
	[ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ] .....	341
	[ 千葉北総病院眼科 ] .....	344
17.	麻酔科学講座 .....	347
	[ 付属病院麻酔科 ] .....	347
	[ 第二病院麻酔科 ] .....	354
	[ 多摩永山病院麻酔科 ] .....	356
	[ 千葉北総病院麻酔科 ] .....	357
18.	救急医学講座 .....	360
	[ 付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急部・ 多摩永山病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック ] .....	360
	[ 第二病院救命救急部 ] .....	372
	[ 多摩永山病院救命救急センター ] .....	375
	[ 千葉北総病院救命救急センター ] .....	376
	[ 新東京国際空港クリニック ] .....	383
19.	形成外科学講座 .....	384
	[ 付属病院形成外科・美容外科 ] .....	384
	[ 第二病院形成外科 ] .....	392
	[ 千葉北総病院形成外科 ] .....	393
20.	付属病院付置施設等 .....	395
	[ 付属病院遺伝診療科 ] .....	395
	[ 付属病院集中治療室 ] .....	396

	[ 付属病院病理部 ] .....	403
	[ 付属病院中央検査部 ] .....	409
	[ 付属病院薬剤部 ] .....	411
	[ 付属病院生理機能センター ] .....	414
	[ 付属病院看護部 ] .....	416
	[ 付属病院放射線科技師室 ] .....	419
	[ 付属病院医療安全管理部 ] .....	420
	[ ワクチン療法研究施設 ] .....	421
21.	第二病院付置施設等 .....	423
	[ 第二病院消化器病センター ] .....	423
	[ 第二病院リハビリテーションセンター ] .....	431
	[ 第二病院病理部 ] .....	433
	[ 第二病院中央検査室 ] .....	437
	[ 第二病院薬剤科 ] .....	438
	[ 第二病院看護部 ] .....	439
22.	多摩永山病院付置施設等 .....	441
	[ 多摩永山病院病理部 ] .....	441
	[ 多摩永山病院中央検査室 ] .....	446
	[ 多摩永山病院薬剤科 ] .....	446
	[ 多摩永山病院看護部 ] .....	448
	[ 多摩永山病院放射線科技師室 ] .....	448
23.	千葉北総病院付置施設等 .....	450
	[ 千葉北総病院内科 ] .....	450
	[ 千葉北総病院集中治療室 ] .....	459
	[ 千葉北総病院リハビリテーション科 ] .....	463
	[ 千葉北総病院病理部 ] .....	464
	[ 千葉北総病院中央検査室 ] .....	468
	[ 千葉北総病院薬剤科 ] .....	469
	[ 千葉北総病院中央画像検査室 ] .....	471
	[ 千葉北総病院歯科 ] .....	473
	[ 千葉北総病院看護部 ] .....	474

#### 〔4〕付置研究施設

1.	老人病研究所 .....	479
	[ 病理学部門 ] .....	479
	[ 生化学部門 ] .....	482
	[ 免疫部門 ] .....	486
	[ 疫学部門 ] .....	488
	[ 分子生物学部門 ] .....	491
	[ 臨床部門 ] .....	500

〔5〕その他

1. 教育推進室 .....	505
付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況 .....	509
1. 平成15年度科学研究費補助金交付決定一覧 .....	509
2. 平成15年度科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況 .....	516
3. 平成15年度厚生労働省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況 .....	516
4. 平成15年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況 .....	518
5. 平成15年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕.....	519



## 〔 1 〕 基 礎 科 学

# 1. 人文科学・社会科学

## [ 国文学 ]

### 研究概要

本年度は、主に、以前に発表した芥川龍之介に関する論文を見直し、『芥川龍之介と江戸・東京』という論文集を刊行するための研究・調査を行った。そして、書き下ろしの論文として、江戸文化への造詣が深い東京出身の作家という共通点を持つ芥川龍之介と夏目漱石を比較検討し、「芥川龍之介における夏目漱石 『それから』のそれから」を執筆した。また、日本医科大学での国文学の講義「病いと文学」においては、本書掲載の「芥川龍之介における私小説 「歯車」について」「『歯車』の銀座」で論じた「ドッベルゲンガー」「神経症」「不眠症」などを扱った。

書評では、芥川龍之介研究で知られる菊地 弘氏の、芥川を中心とする大正・昭和の作家を論じた『作家の風貌』を取り上げ、芥川龍之介の周辺作家達が現代文学に与えた影響を探求した。

講演では、「森 外と無縁坂」「芥川龍之介と築地・本所・新宿・田端」など、近代作家と東京との関わりを一貫したテーマとして扱った。

他に、エッセイ集として、一昨年の上野大学研修体験を描いた『21世紀ロンドン幻視行 英京倫敦膝栗毛』を上梓した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 書評：

- 1) 神田由美子：菊地 弘『作家の風貌』。昭和文学研究 2003；171-171。
- 2) 神田由美子：菊地 弘『作家の風貌』。国文学解釈と鑑賞 2004；69(4)：190-190。

#### 著書

- 1) 神田由美子：〔自著〕二十一世紀ロンドン幻視行：英京倫敦膝栗毛，2003；pp1-168，碧天社。
- 2) 神田由美子：〔自著〕芥川龍之介における夏目漱石：「それから」のそれから。芥川龍之介と江戸・東京，2004；pp1-269，双文社。

#### 学会発表

##### (1) 招待講演：

- 1) 神田由美子：森 外の東京：「雁」の無縁坂。旧制山口高等学校現代文化研究会，2003。10。
- 2) 神田由美子：芥川龍之介の江戸・東京。東京の文士村」研究会，2003。11。

## [ 心理学 ]

### 研究概要

本年度は、コラージュ療法と投映描画法テストバッテリーの臨床的研究と啓蒙活動に加えて、日本芸術療学会誌に2002年10月以来取り組んでいた総説論文「投映描画法テストの動向と展望」を発表できたことで、研究の一つの区切りがついた年度であった。

1. 日本芸術療学会誌に総説「投映描画法テストの動向と展望」を香月菜々子氏と鋤柄のぞみ氏との共同研究として発表した。

2. 日本心理臨床学会において「投影描画法テストバッテリーの検討 その2」を鈴木康明氏と発表した。
3. 日本医科大学基礎紀要に「コラージュ作品の表現特徴に関する研究の動向」を早稲田大学大学院の寺西孝裕氏と共著で発表した。

Nurse Educationに原著「看護師の燃え尽きについて考える：心理学の立場から」を執筆した。

日本精神衛生学会誌「心の健康」にブックガイド「アートセラピーについて理解するための三冊」を執筆した。

4. コラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動を本年度も行った。東京コラージュ療法研究会を5回行った。今年度は日本各地のコラージュ療法研究会の代表者に研究会の概要と事例発表をしてもらった。5月は東海の中村勝治氏, 7月は京都文教の森谷寛之氏と徳島の川瀬公美子氏, 9月は広島1の山本映子氏, 広島2の鷹村アヤ子氏, 11月は九州の西村喜文氏, 2月は東京の杉浦, 入江茂氏, 服部令子氏, 近喰ふじ子氏が担当した。その他, 長野県教育センター, 法務省研修センター, 東京家庭裁判所, 投映法フォーラムなどで講師を務めた。また日本心理臨床学会で座長, 日本芸術療法学会で座長と研修会の講師を務めた。
5. 学生相談室が開室以来9年目となった。新入生全員にUPI(学生健康調査)を行った。また今年度は新しくFFIテスト(5因子性格検査)を導入した。2002年度の相談室活動報告およびUPI, FFIの結果などを含めた学生相談室報告書第8号を発行した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 杉浦京子, 寺西孝裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>早稲田大学大学院文学研究科): コラージュ作品の表現特徴に関する研究の動向。日本医科大学基礎科学紀要 2003; (33): 15-21。
- 2) 杉浦京子: 看護師の燃えつきについて考える: 心理学の立場から。NURSE EDUCATION 2003 2003; 4(5): 54-61。

#### (2) 綜説:

- 1) 杉浦京子, 香月菜々子<sup>1)</sup>, 鋤柄のぞみ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学保健管理センター・上智大学大学院博士後期課程, <sup>2)</sup>青梅市教育相談所): 投映描画法テストの動向と展望。日本芸術療法学会誌 2004; 34(1): 5-37。

#### (3) ブックガイド:

- 1) 杉浦京子: アートセラピーについて理解するための三冊。日本精神衛生学会誌 「心の健康」 2003; 18(1): 91-92。

### 学会発表

#### (1) 研修会:

- 1) 杉浦京子: コラージュ療法とはなにか。日本芸術療法学会, 2003. 8。

#### (2) ポスターセッション:

- 1) 杉浦京子, 鈴木康明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国士舘大学): 投映描画法テスト・バッテリーの検討 その2: 星と波テスト・ワルテック描画テスト・バウムテストの検討。日本心理臨床学会, 2003. 9。

## [ 歴史学 ]

### 研究概要

平成13(2001)年6月より『南北朝遺文』関東編(1333年12月~1395年12月までの関東およびその西に接する伊豆・駿河・甲斐・信濃・越後・佐渡に関する古文書を編年順に収めた史料集, 全6巻の予定)の編纂作業を行っている(佐藤和彦・帝京大学教授, 山田邦明・東京大学史料編纂所助教授, 伊東和彦・本学非常勤講師, 角田朋彦・駒澤

大学院生)。

平成15(2003)年度は、第一巻(1333年12月～1338年12月)の2004年度内の刊行を目指して校正作業を行っている。

## [文化人類学]

### 研究概要

文化・文明の構造と機能，人間の行動原理と文化・文明との関連性，生活の豊かさの本質，現代社会における宗教的精神性の意義，日本人の心，理想的社会像等について究明している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 研究ノート：

- 1) 伊藤末博：感謝する心の深まりと宗教的心ならびに理想社会について。日医大基礎科学紀要 2003；(33)：55-64。

## [経済学]

### 研究概要

経済理論研究および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し，これまでの研究を継続発展させてきた。日本経済は対米，対中・東アジア関係を緊密化させたが，それは3者間の貿易，資本取引面でのいびつな関係を伴っており，とても持続可能なものとはみなされない。その現状をマクロでとらえるとともに，ミクロ面からも電気・電子産業，自動車産業における依存関係を通して明らかにしてきた。

また，現状把握のための理論的枠組みとなる現代資本主義論の理論的整理にも着手したところである。

従来から実施してきている電子マネーに関する研究は，貨幣論における理論的整理に基づいて電子マネーの設計のあり方に関する論考をまとめた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 三輪春樹：メイドインチャイナの時代の東アジアと日本。21世紀アジア学会紀要 2003；(1)：79-97。
- 2) 三輪春樹：電子マネーの創り方。21世紀アジア学会紀要 2004；(2)：127-146。

##### (2) 研究報告書：

- 1) 太田保世<sup>1)</sup>，三浦宏一<sup>2)</sup>，黒坂知子<sup>3)</sup>，三輪春樹，山口克彦<sup>4)</sup>，丸山史生<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>財団法人 太田綜合病院，<sup>2)</sup>社団法人先端技術産業調査会，<sup>3)</sup>東京医科大学 看護専門学校，<sup>4)</sup>太田熱海病院，<sup>5)</sup>社団法人先端技術産業調査会)：介護療養型医療施設における療養環境向上のあり方に関する調査研究。介護療養型医療施設における療養環境向上のあり方に関する調査研究 2004；pp1-73。

## 2. 自然科学

### [ 数学 ]

#### 研究概要

4次元 hierarchical  $O(N)$  model の繰り込み群軌道を  $N$  が十分大きい場合に追跡し, 連続極限が Gauss 測度になることの証明を完成した。(渡辺)

Kantorovich型不等式の拡張について考察し, かなりすっきりした結果を出した。relative operator entropy の jointly concavity に関することの別証明を得た。(儀我)

独立な確率変数の作り方について調べている。(飯田)

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Giga M, Furuta T<sup>1)</sup>, Yanagida M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo University of Science): Simple proof of jointly concavity of the relative operator entropy  $S(A \setminus B) = A^{1/2} \log(A^{-1/2} B A^{-1/2}) A^{1/2}$ . Mathematical Inequal. Appl 2003 ; 6 (4): 713-714 .
- 2) Giga M, Cho M<sup>1)</sup>, Han YM<sup>2)</sup>, Furuya T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Kanagawa University, <sup>2)</sup> Iowa University, <sup>3)</sup> Niigata University): Spectral mapping theorems for hyponormal operators. Mathematical Proceedings of the Royal Irish Academy 2003 ; 103A (2): 209-216 .
- 3) Giga M, Yanagida M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo University of Science ): Order preserving inequalities induced by some operator functions and its applications. Trends in Mathematics 2003 ; 6 (2): 149-153 .
- 4) Watanabe H : Some applications of renormalization group analysis, in " A garden of quanta ". World Scientific 2003 ; 385-398 .
- 5) Giga M, Furuta T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo University of Science): A complementary result of Kantorovich type order preserving inequalities by Micić-Pecarić-Seo. Linear Algebra and its Applications 2003 ; (369): 27-40 .
- 6) Giga M : Kantorovich type inequalities for  $1 > p > 0$ . Journal of Inequalities in Pure and Applied Mathematics 2003 ; 2-13 .

##### (2) 研究報告書:

- 1) Giga M : Some extensions of Kantorovich type inequalities. 第12回関数空間セミナー報告集 pp54-59 .
- 2) Giga M : Some operator functions implying order preserving inequalities. 数理解析研究所 講究録 2003 ; 1312 : pp126-133 .

##### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) Giga M, Yanagida M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo University of Science): Order preserving inequalities induced by some operator functions and its applications. KOTAC 2003 Operator Theory and Its Applications ( Chungnam National University, Daejeon, Korea ), 2003 . 6 .
- 2) Giga M : Some extensions of Kantorovich type inequalities. International Conference on Matrix Analysis and Applications ( Nova Southeastern University, Florida, USA ), 2003 . 12 .
- 3) 儀我真理子 : Some extensions of Kantorovich type inequalities. 作用素不等式に関わる最近の話題, 2003 . 11 .

- 4) 儀我真理子：微積分は教養の数学に向いているか．数学教育学会 夏季研究会，2003．6．
- 5) 渡辺 浩：4次元階層モデルのくりこみ群軌道．日本数学会，2003．9．
- 6) 儀我真理子：カントロピッチ型不等式の拡張．日本数学会 秋季総合分科会，2003．9．
- 7) 儀我真理子：人間の心に沿った数学を．数学教育学会 秋季例会，2003．9．
- 8) 儀我真理子：Kantorovich type inequalities の拡張．第12回関数空間セミナー，2003．12．

(2) 研究集会：

- 1) 渡辺 浩：4次元O(N)階層模型の自明性．繰り込み群の数理科学での応用，2003．9．

## [ 物理学 ]

### 研究概要

1. 1) 以前にフロンティア分子軌道がミオシンによるATP加水分解の初期過程を示唆するという結果を得たが，その発展的研究を行っている．2) 非経験的分子軌道法の時間を含めた動的な拡張を目的に手法の開発を進めている．[香川]
2. 1) タンパク質の構造機能相関に関して，分子の振動状態に着目して研究手法の開発を行っている．2) まだ3次元構造のわかっていないT-Cell Receptorの構造を予測し，抗原提示側の特殊なペプチドとの相互作用を議論した．[菊地]
3. 前年度と同じく量子と古典の対応領域での自然記述をカオスを通して把握することを試みている．また，神経系の物理的モデルの確立を試みている．さらに，生と死の境界を物理的に記述することを試みている．[須田]
4. 引き続き，素粒子の質量をハイブリッドのポテンシャル（遠距離ではリニアポテンシャル，近距離ではクーロンポテンシャルに近づく）で分析している．一方，HLFQCD（ハミルトニアン・ライトフロントQCD）の方は，当初のねらいとは違い，我々の考え方ではそれほどうまくいかないことが分かってきた．[三浦]

### 研究業績

#### 論 文

(1) 原著：

- 1) Kikuchi H, Kubo M<sup>1)</sup>, Watanabe N<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Waseda Univ. , <sup>2)</sup>Center for Information Sciences, Nippon Medical School ): Computational method for calculating multidimensional Franck-Condon factors : Based on Sharp-Rosenstock's method . J. Chem. Phys 2003 ; 119 ( 2 ): 729-736 .

#### 著 書

- 1) Mimuro M<sup>1)</sup>, Kikuchi H ( <sup>1)</sup>Kyoto Univ. ): [ 分担 ] Antenna Systems and Energy Transfer in Cyanophyta and Rhodophyta . Advances in Photosynthesis and Respiration Volume 13, Light-Harvesting Antennas in Photosynthesis ( B. R. Green and W. W. Parson ), 2003 ; pp281-306 , Kluwer Academic Publishers, Dordrecht/Boston/London .
- 2) 菊地浩人：[ 分担 ] 光合成事典 日本光合成研究会編（編集委員長：高宮健一郎），2003；学会出版センター．

#### 学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) Suda N, Hidaka T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Shonan Institute of Technology ): Quantum Effect on Classical Chaos, Decoherence, and Irreversibility Using Femtosecond Laser Light . The 10th International Workshop on Femtosecond Technology FST 2003 ( Makuhari Messe, Chiba, Japan ), 2003 . 7 .

(2) 一般講演：

- 1) 香川 浩，川内 進<sup>1)</sup>，田村祐介<sup>2)</sup>，森 和英<sup>3)</sup>，鈴木一成<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>東工大院，<sup>2)</sup>日本SGI，<sup>3)</sup>WCSC，<sup>4)</sup>高千穂

- 大): FVMO法を用いた仮想的数値シミュレーション. 日本コンピュータ化学会2003秋季年会, 2003. 10.
- 2) 大塚輝人<sup>1)</sup>, 香川 浩, 立川仁典<sup>2)</sup>, 森 和英<sup>3)</sup>, 鈴木一成<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>産業安全研, <sup>2)</sup>横浜市大院, <sup>3)</sup>WCSC, <sup>4)</sup>高千穂大): FVMO法による分子構造・電子状態の同時最適化手法の開発. 日本コンピュータ化学会2003秋季年会, 2003. 10.
- 3) 森 和英<sup>1)</sup>, 後藤真史<sup>1)</sup>, 中野 隆<sup>2)</sup>, 大江親臣<sup>1)</sup>, 香川 浩(<sup>1)</sup>WCSC, <sup>2)</sup>東工大院): 量子化学計算における数式処理の利用. 日本コンピュータ化学会2003秋季年会, 2003. 10.
- 4) 須田信弘: 古典カオスの量子領域での挙動. 日本物理学会第59回年会, 2004. 3.

## [ 化学 ]

### 研究概要

石田:

シリカゲルTLCに関する研究

- (1) ジルコニウム(IV), ハフニウム(IV), および他の金属の三成分分離
- (2) 塩類 - 有機溶媒 - 水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離
- (3) 希土類元素の吸着挙動の解明

菅原:

アルカリ金属 - ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成および, 不飽和酸とジクロロカルベンの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成
- (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中:

質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究

- (1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン, 電子移動反応

中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究

- (1) 生体内微量元素等と疾患, 環境等との関連

永井:

2, 2'-ピペリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム(II)混合配位子錯体の溶液化学

- (1) 錯体の合成
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究.
- (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田:

CMセルロースTLCおよびゼオライトTLCに関する研究

- (1) 塩類水溶液系 - 有機溶媒混合系における希土類金属の陽イオン交換吸着挙動
- (2) 吸着挙動におよぼす諸因子の検討
- (3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明

貴金属元素の分離および定量に関する研究

(1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構

(2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Wang H<sup>1)</sup>, Takashi O<sup>1)</sup>, Hiroshi T<sup>2)</sup>, Mikio T, Eiichi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Chemistry, College of Science, Rikkyo University, <sup>2)</sup> Department of Radiological Science, School of Health Science, International University of Health and Welfare ): The unexpected reactions of [RuCl<sub>3</sub> (2mqn) NO] ( H<sub>2</sub>mqn=2-methyl-8-quinolinol ) with 2-chloro-8-quinolinol ( H<sub>2</sub>cqn ) and of [RuCl ( 2cqn ) ( 2mqn ) NO] on photoirradiation . Inorganica Chimica Acta 2004 ; 357 : 1303-1308 .

## [ 生物学 ]

### 研究概要

1) 北極圏のように生育可能な期間が短く年毎の変動も激しい環境において、植物が示す適応現象を明らかにする目的で生態学的な研究をしている。北極圏は温暖化の影響が最も大きいと危惧され、その植物生態に関する基礎データの収集は、気候変化に対する生態系の反応予測の上でも重要である。プレフォーメーション（翌春の成長のために芽に葉や繁殖器官を準備する現象）、フェノロジー（一生育期内での成長と繁殖のスケジュール）、生態特性の遺伝的変異に主眼をおいて研究している。ヒガンバナは夏季に葉を落とすという、温帯の多年生植物としては特異な生活史を持つ。物質生産や栄養塩経済の観点から、こうした生活史が持つ適応的な意義を明らかにする研究を始めた（国内共同研究）。（西谷）

2) カロテノイド色素に関して、物理化学的性質、紅色光合成細菌のケト化酵素とメトキシ化酵素の遺伝子の単離と酵素の性質、海洋細菌の非対称的な環化酵素の性質と遺伝子の単離、緑色イオウ光合成細菌の色素分析と色素の生理学的性質、ゲノム配列が発表されたシアノバクテリアを中心に色素の同定と生合成遺伝子の推定、原始的緑藻の進化と色素組成の関係、イモリ腹部の赤色色素の同定、海産動物のカロテノイド脂肪酸エステル分析法の開発、などを研究している（国際、国内共同研究）。（高市）

3) 英語の生理活性脂質データベース LIPID<sub>BANK</sub> for Web のカロテノイド部門の責任者としてデータの追加・修正をした。「カロテノイド」の本の編集と執筆をしており、来年度には出版予定である。国際原核光合成生物シンポジウム（2003年、東京）の組織委員、日本植物生理学会の評議委員を務めた。他大学の大学院学生などに対する研究指導も行っている。（高市）

4) 正形類のバフンウニの受精から稚ウニまでの飼育法を確立し、次いで今年度は不正形類のタクノマクラの飼育法を確立した。棘皮動物の体腔細胞について培養、機能、発生学上の由来などの検討を継続した。（関）

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Matsui K<sup>1)</sup>, Takaichi S, Nakamura M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Waseda Univ. ): Morphological and biochemical changes in carotenoid granules in the ventral skin during growth of the Japanese newt *Cynops pyrrhogaster* . Zool. Sci. 2003 ; 20 ( 4 ) : 435-440 .

2) Yoshii Y<sup>1)</sup>, Takaichi S, Maoka T<sup>2)</sup>, Inouye I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Tsukuba , <sup>2)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ. ): Pho-



tosynthetic pigment composition in the primitive green alga *Mesostigma viride* (Prasinophyceae): Phylogenetic and evolutionary implications. J. Phycol. 2003; 39 (3): 570-576.

- 3) Takaichi S, Matsui K<sup>1)</sup>, Nakamura M<sup>1)</sup>, Muramatsu M<sup>2)</sup>, Hanada S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Waseda Univ. , <sup>2)</sup>Natl. Inst. Advanced Industrial Sci. Technol. ): Determination of fatty acids of astaxanthin monoesters and diesters in krill by mild mass spectrometry. Comp. Biochem. Physiol. 2003; 136 B (2): 317-322.
- 4) Pinta V<sup>1)</sup>, Ouchane S<sup>1)</sup>, Picaud M<sup>1)</sup>, Takaichi S, Astier C<sup>1)</sup>, Reiss-Husson F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Centre de Genetique Moleculaire ): Characterization of unusual set of hydroxy- and ketocarotenoids in *Rubrivivax gelatinosus*: Involvement of CrtF or CrtA. Arch. Microbiol. 2003; 179 (5): 354-362.
- 5) Teramoto M<sup>1)</sup>, Takaichi S, Inomata Y<sup>1)</sup>, Ikenaga H<sup>1)</sup>, Misawa N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Marine Biotechnol. Inst. ): Structural and functional analysis of a lycopene -monocyclase gene isolated from a unique marine bacterium that produces myxol. FEBS Lett. 2003; 545 (2-3): 120-126.
- 6) Hirabayashi H<sup>1)</sup>, Ishii T<sup>1)</sup>, Takaichi S, Inoue K<sup>2)</sup>, Uehara K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Osaka Pref. Univ. , <sup>2)</sup>Kanagawa Univ. ) : The role of carotenoids in the photoadaptation of brown-colored sulfur bacterium *Chlorobium phaeobacteroides*. Photochem. Photobiol. 2004; 79 (3): 280-285.

## (2) 研究報告書:

- 1) 西谷里美: 変動環境における, プレフォーメーションの意義: 北極圏のムカゴトラノオを例として. 科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書 2004; pp1-47.

## 著書

- 1) 関 俊則: [翻訳] 微生物生態学. Brock 微生物学(室伏きみ子, 関 啓子監訳), 2003; pp651-728, オーム社.
- 2) 高市真一: [分担] カロテノイドの生合成, 他48項目/全約2300項目. 光合成事典(日本光合成研究会編), 2003; 学会出版センター.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) Hirabayashi H<sup>1)</sup>, Ishii T<sup>1)</sup>, Takaichi S, Uehara K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Osaka Pref. Univ. ): A novel carotenoid function in *Cb. phaeobacteroides*. Symposium on Photochemistry and Photobiology of Complexes Including Supramolecular Systems and Coordination Compounds (Kusatsu), 2003. 8.

### (2) ワークショップ:

- 1) Hirabayashi H<sup>1)</sup>, Ishii T<sup>1)</sup>, Takaichi S, Inoue K<sup>2)</sup>, Uehara K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Osaka Pref. Univ. , <sup>2)</sup>Kanagawa Univ. ) : Brown sulfur bacterium *Cb. phaeobacteroides* controls carotenoids' composition for the photoadaptation. International Workshop on Green and Heliobacteria (Kisarazu), 2003. 8.

### (3) 一般講演:

- 1) Takaichi S: Carotenogenesis in anoxygenic photosynthetic bacteria. 11th International Symposium on Phototrophic Prokaryote (Tokyo), 2003. 8.
- 2) Mochimaru M<sup>1)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup>Komazawa Univ. ): Pigments in the cyanobacterium *Anabaena* sp. PCC 7120. 11th International Symposium on Phototrophic Prokaryote (Tokyo), 2003. 8.
- 3) Hirabayashi H<sup>1)</sup>, Ishii T<sup>1)</sup>, Takaichi S, Uehara K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Osaka Pref. Univ. ): The role of carotenoids in the photoadaptation of brown sulfur bacterium *Cb. phaeobacteroides*. 11th International Symposium on Phototrophic Prokaryote (Tokyo), 2003. 8.
- 4) Harada J<sup>1)</sup>, Takaichi S, Nagashima KVP<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>2)</sup>, Matsuura K<sup>1)</sup>, Shimada K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Tokyo Metro. Univ. ,

- <sup>2)</sup> Kanagawa Univ. ): Antioxidative activities of carotenoid species in purple photosynthetic bacteria : in vivo evaluation in a carotenoid mutant series of *Rubrivivax gelatinosus* . 11th International Symposium on Phototrophic Prokaryote ( Tokyo ), 2003 . 8 .
- 5) Takaichi S , Mochimaru M<sup>1)</sup> , Maoka T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Komazawa Univ. , <sup>2)</sup> Kyoto Pharmaceut. Univ. ): Carotenoids and carotenogenesis pathway in the cyanobacterium *Anabaena* sp. PCC 7120 . Gordon Research Conference on Carotenoids ( Ventura ), 2004 . 1 .
- 6) 高市真一 , 松井久実<sup>1)</sup> , 中村正久<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 早大・教育・生物 ): オキアミのアスタキサンチン・エステル : 質量分析による脂肪酸分析 . 日本農芸化学会2003年度大会 , 2003 . 4 .
- 7) 高市真一 , 平林博樹<sup>1)</sup> , 石井孝定<sup>1)</sup> , 上原 赫<sup>1)</sup> , 佐賀佳央<sup>2)</sup> , 民秋 均<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 大阪府大・先端研 , <sup>2)</sup> 立命館大・理工 ): 緑色硫黄細菌 *Chlorobium* 属のカロテノイド . 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー XI , 2003 . 6 .
- 8) 高市真一 , 平林博樹<sup>1)</sup> , 石井孝定<sup>1)</sup> , 上原 赫<sup>1)</sup> , 佐賀佳央<sup>2)</sup> , 民秋 均<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 大阪府大・先端研 , <sup>2)</sup> 立命館大・理工 ): 緑色硫黄細菌 *Chlorobium* 属のカロテノイド : 7, 8-ジヒドロカロテン , カロテノイド配糖体エステルの存在 . 第17回カロテノイド研究会談話会 , 2003 . 9 .
- 9) 西谷里美 , 増沢武弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 静岡大理 ): 北極圏のムカゴトラノオ : むかごの耐凍性と発芽特性 . 第26回極域生物シンポジウム , 2003 . 12 .
- 10) 高市真一 : 緑色硫黄細菌のカロテノイド生合成には何種類の酵素が必要か ? . 第45回日本植物生理学会年会 , 2004 . 3 .
- 11) 持丸真里<sup>1)</sup> , 眞岡孝至<sup>2)</sup> , 高市真一 ( <sup>1)</sup> 駒澤大・文・自然 , <sup>2)</sup> 京都薬科大 ): シアノバクテリア *Anabaena* sp. PCC7120のカロテノイドと生合成経路 . 第45回日本植物生理学会年会 , 2004 . 3 .

## 3. 外国語

### [ 英語 ]

#### 研究概要

The English Department's syllabus for the 2003 academic year included, as usual, training in the four major language skills. In the writing component, instruction was given in academic writing skills, focusing on the sex ratio in relation to natural selection as explained by Richard Dawkins. Seminars were given on media English to the first-year students, and the second-year students were offered a series of lectures on ' Maternity in 18th- and 19th-century British Literature ' and on ' Women Writers in 19th- and 20th-century Britain and America ' .

The department continued to pursue both linguistic and literary research and contributed to several publications in the 2003 academic year.

In the linguistic field, the published work included a paper on the development of contrastive rhetoric studies between Japanese and English ; in particular, extensive research was carried out into the nature of English writing by Japanese university-level students as revealed in the literature on second language writing over the last 35 years. Work also continued on the identification and classification of commonly witnessed grammatical and lexical misconceptions in Japanese students' English writing. For the third consecutive year we cooperated in the collection and editing of materials from the American Heart Association's annual conference, held this time in Orlando, Florida in November, 2003.

Literary research was carried out and continues into ' Body, Medicine and Culture ' . Special attention was paid to the significance of the wet nurse in the post-colonial context in Maria Edgeworth's fiction and to Audre Lorde's experience of breast cancer. Part of this research has already been published, and more publications are scheduled. Further pedagogical research was also completed with the publication of a discourse analysis of David Mamet's *Oleanna*.

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) 中村哲子 : 女が支えるアイルランド 『<sup>アンニュイ</sup>倦怠』におけるエッジワースのジェンダー観 . 日本医科大学基礎科学紀要 2003 ; ( 33 ) : 43-53 .

##### (2) 綜説 :

- 1) Nishikawa S : An Overview of Contrastive Rhetoric Studies between Japanese and English . The Bulletin of Liberal Arts and Sciences Nippon Medical School 2003 ; ( 33 ) : 1-13 .

##### (3) Articles :

- 1) Minton T , Petersen M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Meiji University ) : Speaking of English, 日本人の英語を斬る [ 第1回 ] . English Journal 2003 ; 33 ( 4 ) : 65-76 .
- 2) Minton T , Petersen M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Meiji University ) : Speaking of English, 日本人の英語を斬る [ 第2回 ] . English Journal 2003 ; 33 ( 5 ) : 37-50 .
- 3) Minton T , Petersen M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Meiji University ) : Speaking of English, 日本人の英語を斬る [ 第3回 ] . English Journal 2003 ; 33 ( 6 ) : 33-48 .
- 4) ミントン T : Learning, Improving, 日本人の間違いだらけ英文法完全治療クリニック . イングリッシュ・ジャーナル 2003 ; 33 ( 1-12号, 毎号2ページ分 ) .
- 5) Minton T : The Swingle Singers . イングリッシュ・ジャーナル 2003 ; 33 ( 12 ) : 12-13 .

## 著 書

- 1) Fellows J<sup>1</sup>) gen ed, Nakamura T ( <sup>1</sup>) Cambridge University ): [ 分担編集 ] Annual Bibliography of English Language and Literature for 2002, Vol. 77, 2003 ; Manley Publishing for the Modern Humanities Research Association, Leeds .
- 2) 中村哲子 : [ 分担 ] すれ違う意志と会話の変貌 戯曲 David Mamet, *Oleanna* . 英語の教え方学び方 ( 齋藤兆史 ), 2003 ; pp109-130, 東京大学出版会 .
- 3) 中村哲子 : [ 分担 ] 乳母の戦略 エッジワースの『<sup>アンニョイ</sup>倦怠』にみるイングランドとアイルランドの相克 . 運動 + ( 反 ) 成長 身体医文化論II ( 武藤浩史・樽沼範久 ), 2003 ; pp202-218, 慶應義塾大学出版会 .
- 4) 山口俊治, ミントン T : [ 共著 ] 英単語 Make it! ( ベイシック・コース ), 2004 ; 語学春秋社 .

## [ ドイツ語 ]

### 研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら「教えやすく、習いやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く"Kommunikativer Sprachunterricht"が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめている。

なお、教室員の個別的活動について言えば、国信はヴィンケルマン研究およびその日本における受容史について、安藤は日独文化交流史研究の一環として、幕末・明治における来日外国人の足跡とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳を行なっている。横内は初級ドイツ語教育における諸問題について調べている。

### 研究業績

#### 論 文

##### (1) 原著 :

- 1) 安藤 勉 : クルト・グラザーに関するノート . 日独文化交流史研究 2003 ; 5 .

## 著 書

- 1) 金森誠也<sup>1)</sup>, 安藤 勉 ( <sup>1</sup>) 元広島大学 ): [ 翻訳および解題 ] コリン・ロス : 日中戦争見聞記, 2003 ; 講談社学術文庫 .
- 2) 安藤 勉 : [ 翻訳および解題 ] ヨーゼフ・クライナー ( ボン大学教授・同日本文化研究所長 ): 江戸・東京の中のドイツ, 2003 ; 講談社学術文庫 .

### 学会発表

##### (1) 一般講演 :

- 1) 国信浩洋 : ヒュースケンの日本日記について : G・ワグネルの抄訳より . 日本独学史学会, 2003 . 12 .
- 2) 安藤 勉 : 上原専禄のウィーン : A・スラヴィクとの友情 . 日本独学史学会, 2003 . 12 .

## 4. スポーツ科学

### [ スポーツ科学 ]

#### 研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。1) 持久的運動トレーニングがストレス負荷時の肝障害を抑制することを明らかにし、これを論文として発表した (J. Appl. Physiol. )。2) 尾部懸垂により廃用性筋萎縮をラットに起こさせた際に、定期的に骨格筋に温熱負荷すると骨格筋の Heat shock protein 70 の増加が生じ、筋萎縮が軽減されることを明らかにした。3) 尾部懸垂により廃用性筋萎縮をラットに起こさせた際に、定期的に下肢筋に低周波を与え短縮性筋収縮を行わせると、骨格筋での Akt のリン酸化が増加して、筋萎縮の抑制がもたらされることを明らかにした (伊藤超短波株式会社, 日本獣医畜産大学との共同研究)。4) メロンより注出した Superoxide dismutase を大量に含むオキシカインの投与が、ギブス固定による骨格筋萎縮を抑制することを明らかにした (コンビ株式会社, 東京農業大学との共同研究)。

武藤：以下の項目について研究を行った。1) 昨年度より引き続き、発展途上にあるカンボジア・シュムリアップ州青少年の体格および体力、生活習慣等の調査研究を行った。体格は同年齢の日本人と比較して顕著に劣り、体力では男女とも特に筋力が影響する種目に劣り、女子では加齢に伴う発達が見られなかった。故に、体格の向上と、体力では筋力、瞬発力、敏捷性を含む運動を加味した体育授業の広範囲にわたるプログラム、さらに女子に対しての一層の体育指導の必要性が示唆された。2) 昨年度開発した測定器具 (マルチデジタイマ) を使用し、高齢者を対象とした生活活動力テストバッテリーを開発した。その結果、従来の測定方法より有用性が高いことを明らかにした。さらに生活活動力と生活習慣との関係を検討し、定期的に運動を行っている高齢者の生活活動力が高いことが明らかになった。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mikami T, Sumida S<sup>1)</sup>, Ishibashi Y<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Osaka Gakuin Univ. , <sup>2)</sup>Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School ): Endurance exercise training inhibits activity of plasma GOT and liver caspase-3 of rats exposed to stress by induction of heat shock protein 70 . J. Appl. Physiol 2004 ; ( 96 ): 1776-1781 .
- 2) 山内 賢<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 渡部隼二<sup>2)</sup>, 平田大輔<sup>1)</sup>, 岡田千あき<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>慶應義塾大学体育研究所, <sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学, <sup>3)</sup>大阪外国語大学 ): カンボジア・シュムリアップ州の青少年における生活習慣と体力の関係 ( その1 ). 慶應義塾大学体育研究所紀要 2004 ; 43 ( 1 ): 1-10 .
- 3) 三上俊夫, 太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>大学院医学研究科, 加齢科学, 細胞生物学 ): 運動前の身体加温は運動時の骨格筋損傷を抑制するか否か : 熱ショックタンパク質 70 ( HSP70 ) の発現からの検討 . デサントスポーツ科学 2004 ; 24 : 145-152 .

##### (2) Brief Paper :

- 1) Muto M, Watanabe R<sup>1)</sup>, Yamauchi K<sup>2)</sup>, Okada C<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Kanagawa University of Human Services , <sup>2)</sup>Institute of Physical Education, Keio University , <sup>3)</sup>Osaka University of Foreign Studies ): Physique and physical performance of Cambodian youth in Siem reap Province . Journal of Physical Exercise and Sports Science 2003 ; 9 ( 1 ): 1-6 .

(3) 研究報告 :

- 1) 増田敬子<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>2)</sup>, 武藤三千代, 三村由紀<sup>3)</sup>, 山口由子<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立衛生短期大学,  
<sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学,<sup>3)</sup>防衛大学校): 10m 障害物歩行における測定方法の検討. 運動とスポーツの科学 2003 ; 9 (1): 51-58 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Muto M : The Study of Physique and Physical Performance in the Youth of Siem reap Province in Cambodia . The 1st Japan and Cambodian friendship Symposium ( Siem reap, Cambodia ), 2003 . 11 .

(2) 一般講演 :

- 1) 檜垣靖樹<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 小山勝弘<sup>2)</sup>, 清野哲也<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>佐賀医科大学予防医学,<sup>2)</sup>山梨大学教育人間科学部,<sup>3)</sup>木更津高等専門学校): 酸化ストレスによる骨格筋の糖取り込み亢進機序. 第11回日本運動生理学会大会, 2003 . 8 .
- 2) 武藤三千代, 山内 賢<sup>1)</sup>, 平田大輔<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学体育研究所,<sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学): カンボジアシュムリアップ州の青少年における体格と体力について. 日本体育学会第54回大会, 2003 . 9 .
- 3) 山内 賢<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 平田大輔<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学体育研究所,<sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学): カンボジアシュムリアップ州の青少年における生活習慣と運動能力について. 日本体育学会第54回大会, 2003 . 9 .
- 4) 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 山内 賢<sup>2)</sup>, 増田敬子<sup>3)</sup>, 平田大輔<sup>2)</sup>, 小林 勉<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学,<sup>2)</sup>慶應義塾大学体育研究所,<sup>3)</sup>神奈川県立衛生短期大学,<sup>4)</sup>日本工業大学): 高齢者の生活活動力テストの検討. 日本体育学会第54回大会, 2003 . 9 .
- 5) 八木 孝<sup>1)</sup>, 高橋和久<sup>1)</sup>, 福永景子<sup>1)</sup>, 宮川雄一<sup>1)</sup>, 三上俊夫(<sup>1)</sup>医学部第2学年): 熱負荷による骨格筋HSP70の増加は廃用性筋萎縮を抑制するか否か. 第71回日本医科大学医学総会, 2003 . 9 .
- 6) 檜垣靖樹<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 藤井宜晴<sup>2)</sup>, 坂本 啓<sup>2)</sup>, 小山勝弘<sup>3)</sup>, 清野哲也<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>佐賀医科大学予防医学,<sup>2)</sup>ハーバード大学ジョスリン糖尿病センター,<sup>3)</sup>山梨大学教育人間科学部,<sup>4)</sup>木更津高等専門学校): 酸化ストレスは骨格筋のエネルギー低下を引き起こすか: 骨格筋糖糖輸送への関与. 第58回日本体力医学会大会, 2003 . 9 .
- 7) 武藤三千代, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 山内 賢<sup>2)</sup>, 平田大輔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学,<sup>2)</sup>慶應義塾大学体育研究所): 高齢者における生活活動力と生活習慣(1): 起き上がり時間について. 第62回日本公衆衛生学会総会, 2003 . 10 .
- 8) 平田大輔<sup>1)</sup>, 山内 賢<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 渡部隼二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学体育研究所,<sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学): 高齢者における生活活動力と生活習慣(2): ジグザグ歩行について. 第62回日本公衆衛生学会総会, 2003 . 10 .
- 9) 山内 賢<sup>1)</sup>, 平田大輔<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 渡部隼二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学体育研究所,<sup>2)</sup>神奈川県立保健福祉大学): 高齢者における生活活動力と生活習慣(3): 反応時間について. 第62回日本公衆衛生学会総会, 2003 . 10 .
- 10) 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 山内 賢<sup>2)</sup>, 平田大輔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立保健福祉大学,<sup>2)</sup>慶應義塾大学体育研究所): 高齢者における生活活動力と生活習慣(4): ボール移動時間測定について. 第62回日本公衆衛生学会総会, 2003 . 10 .

## 〔 2 〕 基 礎 医 学

# 1. 解剖学第一講座

## 研究概要

今年度の解剖学第一講座は、研究・教育共に大きな転換期を迎えた。平成15年3月31日付けで山下和雄主任教授が定年退官された。4月から6月までの3ヶ月間、解剖学第二講座・伊藤博信主任教授が代行を務めた。7月1日付けで自治医科大学・解剖学講座より瀧澤俊広が主任教授として着任した。

瀧澤着任後、当教室は一丸となって、下記分子解剖学的研究を展開し、医学の発展に寄与する研究体制づくりを進めた。

(1) Fc $\gamma$ 受容体の分子解剖学：最近我々は、胎盤胎児血管内皮細胞のIgG輸送体と考えられる、II型Fc受容体を含む、従来全く知られていない新しい細胞内小器官を発見し、その解析に着手した。同時に、この研究の一環として、自治医科大学・屋代 隆教授・鈴木光明教授・松原茂樹教授と共同研究を行った。

(2) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：生きた細胞でのII型Fc受容体-小胞の可視化および解析を行うために、大学院生の三嶋が中心となり、GFP融合Fc受容体発現ベクター作製に着手した。

(3) RNAiを用いた機能形態解析と臨床応用：大学院生の三嶋、水口が中心となり、RNAiの臨床応用のための基盤研究を行った。特異的に抑制効果が確認された一部のRNAiは、当ベンチャー育成センターを介して、特許出願がなされた(外科学第1講座・田尻 孝教授との共同研究)。

平成15年10月1日付けで倉澤剛太郎(平成6年自治医科大学卒業、群馬県西吾妻福祉病院・産婦人科・泌尿器科医師)が研究生として加わった。平成15年12月28日市川安昭助手が逝去された(享年53歳)。平成16年2月1日付けで瀧澤敬美(平成63年日本女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻修了、医博、鐘紡化粧品研究所研究員)が助手として採用された。平成16年3月31日付けで今城純子講師は退職し、防衛医科大学校・解剖学第一講座教授として転出した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Imaki J, Onodera H<sup>1)</sup>, Mishima T, Yoshida K<sup>2)</sup>, Sakai M<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Biochemistry, Hokkaido University School of Medicine): Developmental expression of mafB messenger ribonucleic acids in rat skin by in situ hybridization histochemistry. J Dermatol Sci 2003; 33(2): 134-136.
- 2) Mishima T, Hamada T<sup>1)</sup>, Ui-Tei K<sup>2)</sup>, Takahashi F<sup>2)</sup>, Miyata Y<sup>3)</sup>, Imaki J, Suzuki H<sup>3)</sup>, Yamashita K (<sup>1)</sup> Creative Research Promoting Program Stem Cell Translational Laboratory, Riken Kobe Institute Center for Developmental Biology, <sup>2)</sup> UPBSB, Department of Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo, <sup>3)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School): Expression of DDAH1 in chick and rat embryos. Brain Res Dev Brain Res 2004; 148(2): 223-232.
- 3) Takemasa T<sup>1)</sup>, Sugimoto K, Miyazaki M<sup>1)</sup>, Machida M<sup>1)</sup>, Ikeda S<sup>1)</sup>, Hitomi Y<sup>2)</sup>, Kizaki T<sup>2)</sup>, Ohno H<sup>2)</sup>, Yamashita K, Hoga S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Exercise Physiology, Institute of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba, <sup>2)</sup> Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University School of Medicine): Simple method for the identification of oxidative fibers in skeletal muscle. Eur J Appl Physiol 2004; 91(2-3): 357-359.



(2) 綜説 :

- 1) 吉田和彦<sup>1)</sup>, 原田高幸<sup>1)</sup>, 原田知加子<sup>1)</sup>, 加瀬 諭<sup>1)</sup>, 池田裕美<sup>2)</sup>, 酒井正春<sup>2)</sup>, 西 信三<sup>2)</sup>, 今城純子, 中山啓子<sup>3)</sup>, 永濱裕康<sup>3)</sup>, 中山敬一<sup>3)</sup>, 大野重昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北海道大学医学部眼科学, <sup>2)</sup>同生化学, <sup>3)</sup>九州大学生体防御医学研究所細胞機能制御学): 角膜上皮剥離後および発生過程の水晶体の細胞増殖における細胞周期調節蛋白 . 日本眼科学会雑誌 2003 ; 107 ( 11 ): 678-686 .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Takayama T<sup>1)</sup>, Matsubara S<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup>, Anderson Clark L<sup>2)</sup>, Robinson John M<sup>3)</sup>, Takizawa T ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical School , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Ohio State University , <sup>3)</sup> Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University ): Expression of FcγRIIb2 in the Developing Human Placenta : Feasibility of FcγRIIb2-compartment as IgG-transporter . 43rd Annual Meeting, the American Society for Cell Biology ( San Francisco, CA, USA ), 2003 . 12 .

## 2. 解剖学第二講座

### 研究概要

解剖学第二講座の研究は、神経解剖学と人体肉眼解剖学の二つの分野からなっているが、いずれも比較形態学を土台としている。これは人間の病気の多くが進化の歪みに起因していると考えられるためである。ヒトの進化上の特徴は「大脳化」と「直立二足歩行」である。大脳化の影響は胎児に迄および、その結果は産科や婦人科などの問題となっている。ヒトはその解決策として生理的早産の道を選んだが、そのため新生児や小児科領域の問題が新たに生じた。急速な大脳新皮質の発達は精神科や脳外科領域で生ずる問題の原因となっている。直立二足歩行は整形外科領域の問題をはじめ、多くの分野で問題を生じている。

神経解剖学の分野では、系統発生と進化を土台とした比較神経学を主体としている。研究の基本的なアイデアは、全ての脊椎動物の脳は共通の基本設計に基づいて形成され、各々の種が獲得した生態的地位によって修飾されている、というものである。これまで、種に特有な脳構造をその種のもつ生態的地位を解析することによって意味づけし、中枢神経系の成立機構そのものの解明を目指してきた。現在、大脳新皮質の進化の解明、特に無層性皮質の成立証明、

二つ以上の異なる種類の情報（特に視覚と一般性感覚）の脳内での関連機構の解明、各種感覚系上行路の系統発生的な解析、脳内の各所に分布するGnRHニューロンの機能とその起源の解明、視床下部の進化、中枢から感覚器、または高次のセンターから低次のセンターへ向かういわゆる遠心性感覚投射の解析と機能の解明、などに重点を置いている。通常のニッスル染色やゴルジ染色による細胞構築の解析、ボディアン染色による神経線維の解析、標識法を用いた実験的な線維連絡の解析、シナプス構築の解析などの他、免疫組織化学や異種間の胚の移植実験などの手法を用いて光学顕微鏡および電子顕微鏡のレベルで実験を行なっている。

肉眼解剖学の分野では、臨床上役立つものを一義的に考え、ヒトを中心として研究を進めている。成人に見られる異常構造（variation）や正常構造のパターンの成立機序を説明するためにヒトの胎児を用いて発生学的な検索を行ない、同時に、各種の食虫類や霊長類も合わせて用いて比較解剖学的な検索も行なっている。これらの対象となる範囲は、運動器系（筋肉と骨格）、循環器系、肝臓の門脈系、泌尿器系（特に腎臓）、末梢神経系、などである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Xue H-G, Yamamoto N, Yang C-Y, Kerem G, Yoshimoto M, Imura K, Ito H : Fiber connections of the torus longitudinalis and optic tectum in holocentrid teleosts . J Comp Neurol 2003 ; 462 ( 1 ): 194-212 .
- 2) Xue H-G, Yang C-Y, Ito H : Topographical projections to the nucleus prethalamicus from the cerebellum, optic tectum and telencephalon in holocentrid teleosts . Brain Res 2003 ; 992 ( 2 ): 146-150 .
- 3) Takayama M<sup>1)</sup>, Onuki A<sup>1)</sup>, Yosino T<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Ito H, Kohbara J<sup>1)</sup>, Somiya H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Mie University ) : Sound characteristics and the sound producing system in silver sweeper, *Pempheris schwenkii* ( Perciformes : Pempheridae ). J Mar Biol Ass UK 2003 ; 83 : 1317-1320 .
- 4) Saigusa H<sup>1)</sup>, Yamashita K, Tanuma K, Saigusa M<sup>2)</sup>, Niimi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Otolaryngology , <sup>2)</sup> Private practice, Oral and Maxillofacial Surgery ) : Morphological studies for retrusive movement of the human adult tongue . Clinical Anatomy 2004 ; 17 : 93-98 .
- 5) Ishizaki M<sup>1)</sup>, Iigo M<sup>2)</sup>, Yamamoto N, Oka Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biological Sciences, Tokyo University , <sup>2)</sup> Department of Anatomy, St. Marianna School of Medicine ) : Different modes of gonadotropin-releasing hormone ( GnRH ) release from multiple GnRH systems as revealed by radioimmunoassay using brain slices of a

teleost, the dwarf gourami *Colisa lalia*. *Endocrinology* 2004 ; 145 : 2092-2103 .

- 6) 三枝英人<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 粉川隆行<sup>1)</sup>, 愛野威一郎<sup>1)</sup>, 岩崎智治<sup>1)</sup>, 中村 毅<sup>1)</sup>, 新見成二<sup>2)</sup>, 八木聰明<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学, <sup>2)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚学科学): 後房型披裂軟骨脱臼症に対する徒手整復術. *喉頭* 2003 ; 15 : 103-108 .
- 7) 高松 眞: ラット最長筋の筋紡錘における感覚神経終末の組織化学的観察. *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 (4): 342-350 .

## (2) 綜説:

- 1) Ito H : Is the cerebral neocortex peculiar to mammals? . *Springer Science* 2003 ; 18 (2): 6-9 .
- 2) Yamamoto N : Three gonadotropin-releasing hormone ( GnRH ) neuronal groups with special reference to teleosts . *Anatomical Science International* 2003 ; 78 : 139-155 .
- 3) Saito T , Endo M<sup>1)</sup>, Hiraga K<sup>1)</sup>, Kaneko A<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>National Cancer Center Hospital ): Clinical trial of funduscopy under general anesthesia for pediatric outpatients with retinoblastoma . *International Journal of Clinical Oncology* 2004 ; 9 (1): 36-41 .
- 4) 山本直之: 脳と心. 祈月書院報 2003 ; 20 : 1-2 .
- 5) 山本直之, 伊藤博信: ヒトの脳の神経細胞数を本当に数えたデータは存在するのか. *Clinical Neuroscience* 2004 ; 22 : 234-234 .

## 著 書

- 1) 田沼久美子: [ 分担 ] マッサージと血行. 医療スタッフのためのリハビリメイク ( 百束比古監修 ), 2003 ; pp71-74, 克誠堂 ( 東京 ).

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類における終脳への上行路 ( シンポジウム「脳の比較解剖: 終脳の系統発生」). 第108回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003 . 4 .
- 2) 澤井信彦, 伊藤博信: 硬骨魚類における終脳からの下行路 ( シンポジウム「脳の比較解剖: 終脳の系統発生」). 第108回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003 . 4 .
- 3) 伊藤博信: 硬骨魚類における脳の形態と生態的地位の関連. 第6回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2003 . 8 .
- 4) 石川裕二<sup>1)</sup>, 景 崇洋<sup>1)</sup>, 山本直之, 吉本正美, 丸山耕一<sup>1)</sup>, 伊藤博信 (<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): メダカ胚の脳の区画化について. 第6回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2003 . 8 .
- 5) 山本直之, 伊藤博信: コイ科魚類の聴覚および側線感覚上行路. 第6回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2003 . 8 .
- 6) Yang C-Y, 山本直之, Xue H-G, 吉本正美, 伊藤博信: スズキ型魚類の糸球体核前部はコイ科魚類の浅視蓋前域核大細胞部に相当する核である. 第6回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2003 . 8 .
- 7) 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピアの糸球体前核交連部 ( PGc ) の線維連絡. 第6回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2003 . 8 .
- 8) 澤井信彦, 井村幸介, 山本直之, 伊藤博信: スズキ型魚類における終脳からの下行路. 第6回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2003 . 8 .

### (2) 一般講演:

- 1) Saito T , Hagiwara M<sup>1)</sup>, Oi Y<sup>2)</sup>, Inoue T<sup>3)</sup>, Yoshimoto M , Ito H : Particular Attention of the medial branch of the posterior rami of the spinal nerve in the lower thoracic region for the epidural needle insertion .

- Joint meeting of American Association of the Clinical Anatomy and European Association of Clinical Anatomy (Graz, Austria), 2003. 7.
- 2) Masuda R<sup>1)</sup>, Yokoyama K<sup>1)</sup>, Tanuma K, Inoue T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Chiba-Hokusho Hospital): Anatomical study to determine optional needle placement for Preventing ischemic injury to the spinal cord during celiac plexus and Splanchnic nerve blocks in retrocruial approach. XXII Annual ESRA Congress (European Society of Regional Anesthesia)(マルタ共和国パーチェビル), 2003. 9.
  - 3) Yang C-Y, 山本直之, Xue H-G, 吉本正美, 伊藤博信: 硬骨魚類系球体核の2種類の細胞の線維連絡. 第108回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003. 4.
  - 4) Xue H-G, 山本直之, Yang C-Y, 井村幸介, 伊藤博信: 硬骨魚類イトウダいの小脳体への入力. 第108回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003. 4.
  - 5) 浅川光夫: ヒト腎盤腎杯系の分類について. 第108回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003. 4.
  - 6) 斎藤敏之, 半沢義則<sup>1)</sup>, 清水昭伸<sup>1)</sup>, Abousayf FK<sup>2)</sup>, 吉本正美, 伊藤博信(<sup>1)</sup>東京農工大・院. 情報工学, <sup>2)</sup>ハワイ大学・統計学科): 正位心と逆位心の三次元解析. 第108回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003. 4.
  - 7) 三枝英人<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 山下和雄<sup>2)</sup>, 田沼 裕<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医大・耳鼻咽喉科学, <sup>2)</sup>同・解剖第1, <sup>3)</sup>帝京大・医・解剖): 舌神経の神経線維解析学的研究. 第108回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003. 4.
  - 8) 山本直之, 伊藤博信: コイ科魚類における系球体前核を介した終脳上行路. 第26回日本神経科学会, 2003. 7.
  - 9) Xue H-G, 山本直之, Yang C-Y, Kerem G, 吉本正美, 伊藤博信: Projections of the trigeminal sensory nucleus in a teleost tilapia *Oreochromis niloticus*. 第26回日本神経科学会, 2003. 7.
  - 10) Kerem G, 吉本正美, Yang C-Y, Xue H-G, 山本直之, 伊藤博信: Somatotopic distribution of trigeminal ganglion cells in a teleost, tilapia. 第26回日本神経科学会, 2003. 7.
  - 11) 石川裕二<sup>1)</sup>, 景 崇洋<sup>1)</sup>, 山本直之, 吉本正美, 丸山耕一<sup>1)</sup>, 伊藤博信(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): メダカ胚における脳の区画的構造. 第26回日本神経科学会, 2003. 7.
  - 12) 木下雅恵<sup>1)</sup>, 山本直之, 伊藤博信, 浦野明央<sup>1)</sup>, 伊藤悦朗<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>北大・院理・生物科学, <sup>2)</sup>同・創成): ニジマス *Oncorhynchus mykiss* 視蓋からの投射. 第74回日本動物学会, 2003. 9.
  - 13) 西村陽子<sup>1)</sup>, 渡辺さなみ<sup>1)</sup>, 浅川光夫(<sup>1)</sup>本学4年生): 本邦成人腎臓容積と断面積における形態計測学的検索. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
  - 14) 鈴木俊彦<sup>1)</sup>, 田沼久美子(<sup>1)</sup>本学学生): 総肝動脈の起始異常1例とその成因に関する考察. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
  - 15) 石田信也<sup>1)</sup>, 石坂公介<sup>1)</sup>, 石田明日香<sup>1)</sup>, 石原 茜<sup>1)</sup>, Xue H-G(<sup>1)</sup>本学学生): 精巣静脈の破格1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
  - 16) 斎藤敏之, 田 秀蘭<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>2)</sup>, 吉本正美(<sup>1)</sup>東京都共済東部地域病院, <sup>2)</sup>日本大学・歯・麻酔科): 舌がんに用新経鼻挿管チューブの考案. 第22回日本臨床麻酔学会, 2003. 10.
  - 17) 斎藤敏之, 田 秀蘭<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>2)</sup>, 吉本正美(<sup>1)</sup>東京都共済東部地域病院, <sup>2)</sup>日本大学・歯・麻酔科): 肺血栓モニターの開発. 第22回日本臨床麻酔学会, 2003. 10.
  - 18) Kerem G, 吉本正美, 山本直之, Yang C-Y, Xue H-G, 伊藤博信: スズキ型魚類ティラピアの三叉神経節の形態と神経節細胞の体部位局在性分布. 第14回日本医科大学外国人留学生研究会, 2003. 11.
  - 19) Saigusa H<sup>1)</sup>, Tanuma K, Yamashita K(<sup>1)</sup> Department of Otolaryngology): Morphological study for the vertical intrinsic muscle of the human tongue. 第91回日本解剖学会関東地方会, 2003. 11.

### 3. 生理学第一講座

#### 研究概要

本年度の最大の成果は加藤昌克助教授を中心に過去3年間にわたって行ってきた、トランスジェニック法により蛍光タンパクを発現させ、ラット性腺刺激ホルモン放出ホルモン (GnRH) 産生ニューロンを可視化する試みが成功し、論文公表に至ったことである。この動物を用いることで、生殖内分泌制御の細胞生理学的検討や、思春期発達の機序の理解が急速に進むと期待される。本論文を含め、今年度も多数の論文を何れも評価の高い国際的雑誌に公表することができた。学部教育では引き続き少人数の実習を重視し、基礎配属では新たに熱心な学生を2名を迎えることができた。科学研究費補助金では基盤研究 (B), (C) と若手研究 (B) の継続課題3件に加え、3件を申請したが、新規課題は採択に至らなかった。昨年提出した「適応脳」に引き続き、本年は「脂溶性シグナル分子による脳機能の制御」と題する特定領域の新規発足を提案し事務局として奔走したが採択されなかった。日本学術振興会 (学振) 日米科学協力事業「脳研究」分野では昨年終了した「性成熟と情動行動」に代わり、「脳の発生分化と情動・認知機構の解析」が横浜市立大学大学院総合理科学研究科の林しん治教授を代表として発足した。米国側の研究代表は2000年10月から2ヶ月間、学振のNIH短期招聘プログラムにより本研究室に訪問教授として滞在したニューヨーク市立大学心理学 Luine教授である。昨年度始まった企業との共同研究も着実に進展している。研究室の多くが、今年度もGnRHや脳内エストロゲン受容体発現等について招待講演に招かれた。また、内分泌攪乱化学物質に対する社会的関心の高まりが持続していることもあり、この方面についても葉山湘南国際村で開催された内分泌攪乱化学物質特別シンポジウム (6月) などで講演の機会を与えられている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Parhar IS, Sato H, Sakuma Y: Ghrelin gene in cichlid fish is modulated by sex and development. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2003; 305 (1): 169-175.
- 2) Drennon K<sup>1)</sup>, Moriyama S<sup>2)</sup>, Kawachi H<sup>2)</sup>, Small B<sup>3)</sup>, Silverstein J<sup>4)</sup>, Parhar IS, Shepherd B<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biology, University of Kentucky, <sup>2)</sup> School of Fisheries Sciences, Kitasato University, <sup>3)</sup> USDA/ARS Catfish Genetics Research Unit, <sup>4)</sup> USDA/ARS National Center for Cool and Cold Water Aquaculture): Development of an Enzyme-Linked Immunosorbent Assay (ELISA) for the Measurement of Plasma Growth Hormone (GH) Levels in Channel Catfish (*Ictalurus punctatus*): Assessment of environmental salinity and GH-secretagogues on Plasma GH Levels. *General and Comparative Endocrinology* 2003; 133 (2003): 314-322.
- 3) Miranda LA<sup>1)</sup>, Strobl-Mazzulla PH<sup>1)</sup>, Strussmann CA<sup>2)</sup>, Parhar IS, Somoza GM<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Instituto de Investigaciones Biotecnológicas/Instituto Tecnológico de Chascomus (CONICET-UNSAM), Camino de Circunvalación Laguna, <sup>2)</sup> Tokyoo University of Fisheries): Gonadotropin-releasing hormone neuronal development during the sensitive period of temperature sex determination in the pejerrey fish, *Odontesthes bonariensis*. *General and Comparative Endocrinology* 2003; 132 (2003): 444-453.
- 4) Ohnishi H, Kondo Y, Sakuma Y: Oestrogen-induced vigorous mounting in female rats carrying hypothalamic knife cuts. *Journal of Neuroendocrinology* 2003; 15 (6): 602-606.
- 5) Wanapirak C<sup>1)</sup>, Kato M<sup>1)</sup>, Onishi Y<sup>1)</sup>, Wada-Kiyama Y, Kiyama R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Research Center for Glycoscience, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology): Evolutionary Conservation and Func-

tional Synergism of Curved DNA at the Mouse epsilon-and Other Globin-Gene Promoters . Journal of Molecular Evolution 2003 ; 56 ( 2003 ): 649-657 .

- 6) Parhar IS , Soga T , Ogawa S , Sakuma Y : FSH and LH-beta subunits in the preoptic nucleus : Ontogenic expression in teleost . General and Comparative Endocrinology 2003 ; 132 ( 3 ): 369-378 .
- 7) Parhar IS , Ogawa S , Hamada T , Sakuma Y : Single-cell real-time quantitative PCR of immunofluorescently identified neurons of GnRH subtypes in cichlid fish . Endocrinology 2003 ; 144 ( 8 ): 3297-3300 .
- 8) Kato M , Ui-Tei K<sup>1)</sup> , Watanabe M , Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Department of Biophysics and Biochemistry, School of Science, University of Tokyo ): Characterization of voltage-gated calcium currents in gonadotropin-releasing hormone neurons tagged with green fluorescent protein in rats . Endocrinology 2003 ; 144 ( 11 ): 5118-5125 .
- 9) Yamada K<sup>1)</sup> , Kondo Y , Toda K<sup>2)</sup> , Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Psychology, Mejiro University , <sup>2)</sup> Molecular Genetics, Kochi Medical School ): Behavioral Evaluation of Sociosexual Dysfunction in Aromatase Knockout Mice . Japanese Journal of Reproductive Endocrinology 2003 ; 8 : 61-66 .
- 10) Kato M<sup>1)</sup> , Onishi Y<sup>1)</sup> , Kiyama Y , Abe T<sup>2)</sup> , Ikemura T<sup>2)</sup> , Kogan S<sup>3)</sup> , Bolshoy A<sup>3)</sup> , Trifonov EN<sup>3)</sup> , Kyama R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Research Institute of Glycoscience, National Industrial Science and Technology , <sup>2)</sup> Division of Evolutionary Genetics, Department of Population Genetics National Institute of Genetics , <sup>3)</sup> Genome Diversity Center Institute of Evolution University of Haifa ): Dinucleosome DNA of Human K562 Cells : Experimental and Computational Characterizations . Journal of Molecular Biology 2003 ; 332 ( 1 ): 111-125 .
- 11) Oriyasa C , Sakuma Y : Possible involvement of preoptic estrogen receptor beta-positive cells in luteinizing hormone surge in the rat . Domestic Animal Endocrinology 2003 ; 25 ( 2003 ): 83-92 .
- 12) Tetsuzi K<sup>1)</sup> , Toru M<sup>2)</sup> , Ritsuko S<sup>3)</sup> , O'Rear E A<sup>4)</sup> , Hideo S<sup>5)</sup> , Nobuhiro U ( <sup>1)</sup> Tsukasa Sokken Co. , Ltd. , <sup>2)</sup> Department of Medicine and Biosystemic Science, Kyushu University , <sup>3)</sup> Second Department of Internal Medicine, Kurume University School of Medicine , <sup>4)</sup> University of Oklahoma, School of Chemical Engineering and Materials Science , <sup>5)</sup> Moriyama Municipal Hospital ): A New Quantitative Filtration Apparatus to Evaluate Erythrocyte Deformability . Japanese Journal of Physiology 2003 ; 53 ( 6 ): 481-486 .
- 13) Terasaka S<sup>1)</sup> , Aita Y<sup>1)</sup> , Inoue A<sup>1)</sup> , Hayashi S<sup>2)</sup> , Nishigaki M<sup>3)</sup> , Aoyagi K<sup>3)</sup> , Sasaki H<sup>3)</sup> , Wada-Kiyama Y , Sakuma Y , Akaba S<sup>4)</sup> , Tanaka J<sup>5)</sup> , Sone H<sup>5)</sup> , Yonemoto J<sup>5)</sup> , Tanji M<sup>6)</sup> , Kiyama R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Research Center for Glycoscience, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology , <sup>2)</sup> Division of Endocrinology, Saitama Cancer Center Research Institute , <sup>3)</sup> Genetics Division, National Cancer Center Research Institute , <sup>4)</sup> Innovation Research Center, Nissui Pharmaceutical Co. , Ltd. , <sup>5)</sup> Endocrine Disruptors & Dioxin Research Project, National Institute for Environmental Studies , <sup>6)</sup> InfoGenes Co. , Ltd. ): Expression profiling of the estrogen responsive genes for evaluation of estrogen activity among natural estrogens and industrial chemicals using a customized DNA microarray . Environ Health Perspect Toxicogenomics 2004 ; 112 ( 7 ): 773-781 .

## (2) 総説 :

- 1) 佐久間康夫 : 脳の性分化の生理機序 : 内分泌攪乱物質の影響を考える . 脳の科学 2003 ; 25 ( 7 ): 1115-1123 .
- 2) 佐久間康夫 : レポーター遺伝子の導入により可視化したエストロゲン受容体 陽性ニューロン . 日本比較内分泌学会ニュース 2003 ; 0 ( 110 ): 2-9 .
- 3) 佐久間康夫 : 性ホルモンによる自律神経機能の修飾 . クリニカルニューロサイエンス 2003 ; 21 ( 12 ): 1377-1380 .

## 学会発表

### (1) 招待講演 :

- 1) Parhar IS : Functional Diversity of GnRH Molecules and Receptors . 7th International Symposium on Reproductive Physiology of Fish ( Mie, Japan ), 2003 . 5 .
- 2) Parhar IS : Programming the GnRH neuronal systems during early development . The 14th Fukuoka International Symposium on Perinatal Medicine ( Fukuoka, Japan ), 2003 . 9 .
- 3) Parhar IS : Functional Significance of GnRH Molecules and Receptors . International Symposium on the Growth and Reproduction of Fish ( Taiwan, China ), 2003 . 10 .
- 4) Sakuma Y : Estrogen receptor alpha mediated brain sex differentiation and its endocrine consequence in rodents . Society for Neuroscience 33rd Annual meeting ( New Orleans, USA ), 2003 . 11 .
- 5) Parhar IS : GnRH subtypes : Ontogeny and control of pituitary . Brain-pituitary2003, 横浜 , 2003 . 9 .
- 6) 折笠千登世, 佐久間康夫 : エストロゲン受容体 による排卵調節 . 第108回日本解剖学会総会 , 2003 . 4 .
- 7) 佐久間康夫 : 脳の性分化の制御過程 . 内分泌攪乱化学物質特別シンポジウム , 2003 . 6 .
- 8) 佐久間康夫 : Estrogen receptor mediated brain sex differentiation and its endocrine consequence in rodents . 第6回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .

### (2) シンポジウム :

- 1) 佐久間康夫, 加藤昌克 : 可視化したラットGnRHニューロンに発現する電位依存性カルシウムチャンネル . 第26回日本神経科学大会 , 2003 . 7 .
- 2) 丸山 徹<sup>1)</sup>, 岡本和彦<sup>2)</sup>, 馬渡志郎<sup>3)</sup>, 藤野武彦<sup>4)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>九州大学・健康科学センター , <sup>2)</sup>同・病態修復内科 , <sup>3)</sup>福岡女子大学・人間環境 , <sup>4)</sup>レオロジー機能食品研究所 ) : Ca拮抗剤 verapamil は赤血球の tertial butyl hydroperoxide による酸化障害を軽減する . 膜シンポジウム2003 , 2003 . 11 .

### (3) セミナー :

- 1) 大西芳秋<sup>1)</sup>, 加藤 愛<sup>1)</sup>, 木山裕子, 木山亮一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>産総研・糖鎖工学研究センター ) : クロマチンオーガナイザーであるベントDNAの転写調節機構 . 遺伝研研究会「クロマチンの生物学」, 2003 . 11 .

### (4) 一般講演 :

- 1) Ogawa S, Soga T, Sakuma Y, Parhar IS : Modulation of GnRH Subtypes by social stress and aggressive behavior . 7th International Symposium on Reproductive Physiology of Fish ( Mie, Japan ), 2003 . 5 .
- 2) Orikasa C, Kondo Y, Sakuma Y : Sex difference in ER mRNA expression in the rat bento-medial hypothalamic nucleus during development . Society for Behavioral Neuroendocrinology ( Cincinnati, Ohio, USA ), 2003 . 6 .
- 3) Kondo Y, Xiao K, Sakuma Y : Odor preference in male and female rats : Effects of castration and gonadal steroids . Society for Behavioral Neuroendocrinology ( Cincinnati, Ohio, USA ), 2003 . 6 .
- 4) Yamada K<sup>1)</sup>, Kondo Y, Sakuma Y ( <sup>1)</sup>Psychology, Mejiro University, Tokyo ) : Olfactory input is required in the establishment of place preference associated with coital stimuli . Society for Behavioral Neuroendocrinology ( Cincinnati, OH ), 2003 . 6 .
- 5) Kiyama R<sup>1)</sup>, Kato M<sup>1)</sup>, Onishi Y<sup>1)</sup>, Wada-Kiyama Y ( <sup>1)</sup>Reserch Center for Glycoscience, National Institute of Adbanced Industrial Science and Technology ) : A comprehensive nucleosome study of human K562 cells : active dinucleosomes at HS2 of -LCR . The Americam Society of Hematorogy 45th Annual Meeting ( San Diego, CA, USA ), 2003 . 12 .
- 6) 加藤昌克, 佐久間康夫 : ラットGnRHニューロンに発現するカルシウムチャンネルの機能的解析 . 第30回日本神経内分泌学会 , 2003 . 9 .
- 7) 守屋加奈子<sup>1)</sup>, 酒井ちさ乃<sup>1)</sup>, 山田一夫<sup>1)</sup>, 近藤保彦, 戸田勝巳<sup>2)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup>目白大学人間社会学部 ,

- 2) 高知医科大学遺伝子病態制御学分野): アロマターゼ欠損雄マウスの行動特性．第238回生理学東京談話会，2003．10．
- 8) 伊藤 舞<sup>1)</sup>，清水奈津江<sup>1)</sup>，山田一夫<sup>1)</sup>，近藤保彦，佐久間康夫( <sup>1)</sup> 目白大学人間社会学部): 交尾刺激を報酬とした雌ラットの条件性場所選好．第238回生理学東京談話会，2003．10．
- 9) 近藤保彦，肖 凱，佐久間康夫: 性嗜好性の性ホルモン調節: 去勢および異性ホルモン投与の効果．日本動物心理学会第63回大会，2003．11．
- 10) 山田一夫<sup>1)</sup>，近藤保彦，守屋加奈子<sup>1)</sup>，酒井ちさ乃<sup>1)</sup>，伊藤 舞<sup>1)</sup>，戸田勝巳<sup>2)</sup>，佐久間康夫( <sup>1)</sup> 目白大学人間社会学部，<sup>2)</sup> 高知医科大学医科学教室): エストロゲン合成酵素欠損雄マウスの行動特性．日本動物心理学会第63回大会，2003．11．
- 11) 肖 凱，近藤保彦，佐久間康夫: ラットにおける性嗜好性の性分化: 周生期ホルモン操作の効果．第8回日本生殖内分泌学会学術集会，2003．11．
- 12) 谷内 通<sup>1)</sup>，近藤佐和<sup>1)</sup>，近藤保彦( <sup>1)</sup> 金沢大学心理学部): 雄の性的匂いを手がかりとした雌ラットによる弁別学習．日本動物心理学会第63回大会発表，2003．11．



## 4. 生理学第二講座

### 研究概要

当講座ではストレス反応調節機構や摂食・エネルギー代謝調節機構の解明および中枢性摂食異常症の病因・病態の解明を中心に、てんかん発症や神経変性機序の解明を目的とした研究が行われている。今年度もそれらの成果が学会や論文として発表されたが、発表論文の主な内容は以下の如くである。

神経性食欲不振症がなぜ女性に多く発症するかという生物学的機序の解明を目指し、ストレスによる摂食抑制を雌雄ラットで比較した。心理ストレスによる摂食抑制が雌ラットで有意に強く、この抑制が両側卵巣摘除で弱まり、エストラジオールの補充で回復するという結果を得た。これは、心理ストレスがその発症に強く関与している神経性食欲不振症患者の大部分が女性であるという生物学的機序にエストロゲンが関与していることを示唆するものである。ラットを用い、摂取エネルギー制限下で生じる脂肪組織内でのPPAR- $\alpha$ や11 $\beta$ -HSD1の発現の変化を明らかにした。

細胞には飢餓条件下でオートファジー（自食作用）と呼ばれる自己分解系が存在することが明らかになっている。哺乳細胞におけるオートファジーは飢餓応答だけではなく細胞分化、細胞死においても誘導されることが明らかになりつつある。哺乳細胞におけるオートファジー実行タンパク質の一種であるAPG10を単離・同定しその機能を明らかにした。

正常脳ではほとんど認められないプロスタグランジン合成酵素（PG-COX2）が、てんかん発作後に強く誘導されたことと、COX2遺伝子欠損動物ではてんかん焦点形成が有意に抑制されたことから、われわれは、脳内PGがてんかん焦点形成を強く促進するものと結論した。

パーキンソン病などで認められる大脳基底核の神経変性の発生メカニズムにおけるマイクログリアの関与様式を解明するために、大脳基底核変性モデルマウスを用いて活性化型マイクログリアの神経細胞貪食様式を明らかにした。

### 研究業績

#### 論文

〔2002年度追加分〕

#### 研究報告書：

- 1) 芝崎 保, 栗山秀樹, 大畠久幸：なぜ神経性食欲不振症はほとんど女性か；ストレスによる食欲抑制の性差の検討。厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究 平成14年度総括・分担研究報告書 2003；pp14-17。

#### (1)原著：

- 1) Takemiya T<sup>1,2)</sup>, Suzuki K<sup>2)</sup>, Sugiura H<sup>2)</sup>, Yasuda S<sup>2)</sup>, Yamagata K<sup>2)</sup>, Kawakami Y<sup>1)</sup>, Maru E ( <sup>1)</sup> Department of Physiology, Tokyo Women's Medical University, <sup>2)</sup> Department of Neuropharmacology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience): Inducible brain COX-2 facilitates the recurrence of hippocampal seizures in mouse rapid kindling. Prostaglandins Other Lipid Mediat 2003 ; 71 (3-4): 205-216 .
- 2) Aoki E<sup>1)</sup>, Shibasaki T, Kawana T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School): Intermittent foot shock stress prolongs the telogen stage in the hair cycle of mice. Exp Dermatol 2003 ; 12(4): 371-377 .
- 3) Onose H<sup>1)</sup>, Tamura Y<sup>1)</sup>, Fujita H<sup>1)</sup>, Nakano T<sup>1)</sup>, Shibasaki T ( <sup>1)</sup> Department of Endocrinology and Metabolism, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital): A case of Sheehan's syndrome with panhypopituitarism due to the impairment of both the hypothalamus and the pituitary. Endocr J 2003 ; 50 (4): 415-

- 4) Nemoto T , Tanida I<sup>1)</sup>, Tanida-Miyake E<sup>1)</sup>, Minematsu-Ikeguchi N<sup>1)</sup>, Yokota M<sup>1,2)</sup>, Ohsumi M<sup>2)</sup>, Ueno T<sup>1)</sup>, Kominami E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Biochem, Juntendo Univ. , Medical School , <sup>2)</sup>Dept. Biosci. , Teikyo Univ. Sci & Tech ): The Mouse APG10 Homologue, an E2-like Enzyme for Apg12p Conjugation, Facilitates MAP-LC3 Modification . *J Biol Chem* 2003 ; 278 ( 41 ): 39517-39526 .
- 5) Cho BP<sup>1)</sup>, Sugama S , Shin DH<sup>1)</sup>, DeGiorgio LA<sup>1)</sup>, Kim SS<sup>1)</sup>, Kim YS<sup>1)</sup>, Lim SY<sup>1)</sup>, Park KC<sup>1)</sup>, Volpe BT<sup>1)</sup>, Cho S<sup>1)</sup>, Joh TH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Burke Research Institute, Weill Medical College at Cornell University ): Microglial phagocytosis of dopamine neurons at early phase of apoptosis . *Cell Mol Neurobiol* 2003 ; 23 ( 4-5 ): 551-560 .
- 6) Yang L<sup>1)</sup>, Sugama S , Chirichigno JW<sup>1)</sup>, Gregorio J<sup>1)</sup>, Lorenzl S<sup>1)</sup>, Shin DH<sup>1)</sup>, Browne SE<sup>1)</sup>, Shimizu Y<sup>1)</sup>, Joh TH<sup>1)</sup>, Beal MF<sup>1)</sup>, Albers DS<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Neurochemistry and Neurodegenerative Disease Laboratory, Weill Medical College at Cornell University ): Minocycline enhances MPTP toxicity to dopaminergic neurons . *J Neurosci Res* 2003 ; 23 ( 4-5 ): 278-285 .
- 7) Kim K<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Arai K , Takano K<sup>2)</sup>, Yasufuku-Takano J<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>, Shibasaki T ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Nephrology and Endocrinology, Tokyo University ): Ghrelin mRNA and GH secretagogue receptor mRNA in human GH-producing pituitary adenomas are affected by mutations in the subunit of G protein . *Clin Endocrinol* 2003 ; 59 ( 5 ): 630-636 .
- 8) Arai K , Soga T , Ohata H , Otagiri A , Shibasaki T : Effects of food restriction on peroxisome proliferator-activated receptor- and glucocorticoid receptor signaling in adipose tissues of normal rats . *Metabolism* 2004 ; 53 ( 1 ): 28-36 .
- 9) Kuriyama H , Shibasaki T : Sexual differentiation of the effects of emotional stress on food intake in rats . *Neuroscience* 2004 ; 124 ( 2 ): 459-465 .
- 10) Solforosi L<sup>1)</sup>, Criado JR<sup>1)</sup>, McGavern DB<sup>1)</sup>, Wirz S<sup>1)</sup>, Sanches-Alavez M<sup>1)</sup>, Sugama S , DeGiorgio LA<sup>1)</sup>, Volpe BT<sup>1)</sup>, Wiseman E<sup>1)</sup>, Abalos G<sup>1)</sup>, Masliah E<sup>1)</sup>, Gilden D<sup>1)</sup>, Oldstone MB<sup>1)</sup>, Conti B<sup>1)</sup>, Williamson RA<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Immunology, The Scripps Research Institute ): Cross-linking cellular prion protein triggers neuronal apoptosis in vivo . *Science* 2004 ; 303 ( 5663 ): 1514-1516 .
- 11) Lorenzl S<sup>1)</sup>, Calingasan N<sup>1)</sup>, Yang L<sup>1)</sup>, Albers DS<sup>1)</sup>, Sugama S , Gregorio J<sup>1)</sup>, Krell HW<sup>1)</sup>, Chirichigno J<sup>1)</sup>, Joh TH<sup>1)</sup>, Beal MF<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Neurology and Neuroscience, Weill Medical College of Cornell University ): Matrix metalloproteinase-9 is elevated in 1-methyl-4-phenyl-1, 2, 3, 6-tetrahydropyridine-induced parkinsonism in mice . *Neuromolec Med* 2004 ; 5 ( 2 ): 119-132 .

## (2) 総説 :

- 1) Ohata H , Shibasaki T : The CRF peptide family in appetite regulation and energy balance . *Curr Med Chem* 2003 ; 3 ( 3 ): 243-255 .
- 2) 小田切あすか , 芝崎 保 : グレリン受容体 ( GHS-R ) の機能 . *BIO Clinica* 2003 ; 18 ( 6 ): 34-38 .
- 3) 大畠久幸 , 芝崎 保 : ストレスと本能および情動行動 . *Clin Neurosci* 2003 ; 21 ( 9 ): 1034-1036 .
- 4) 新井桂子 , 芝崎 保 : メラノコルチン4型受容体 ( MC4-R ) 遺伝子異常 . *日本臨床* 2003 ; 61 ( 6 ): 749-755 .
- 5) 新井桂子 , 芝崎 保 : CRF ( corticotropin-releasing hormone ) とそのファミリーペプチドの作用 . *神経研究の進歩* 2003 ; 47 ( 3 ): 381-388 .
- 6) 石井新哉<sup>1)</sup>, 芝崎 保 ( <sup>1)</sup>内科学第3) : 摂食行動の分子生物学 . *分子精神医学* 2003 ; 3 ( 3 ): 185-190 .

## (3) 研究報告書 :

- 1) 芝崎 保 , 小田切あすか , 新井桂子 : ニコチンによる食欲抑制機序に関する解析 . 平成 14 年度喫煙科学研究財団研究年報 2003 ; pp638-643 .
- 2) 小田切あすか , 周東佑仁<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup>, 芝崎 保 ( <sup>1)</sup>内科学第3) : グレリン/growth hormone

secretagogue (GHS) 受容体 (GHSR) 発現抑制トランスジェニックラットを用いたGH分泌調節機序におけるGHSRの役割に関する検討．平成14年度財団法人成長科学協会研究年報 2003；(26): pp163-169．

- 3) 関野あずさ, 大島久幸, 小田切あすか, 芝崎 保: 拘束ストレスによる摂食抑制にCRF1型および2型受容体拮抗薬が及ぼす影響．ACTH RELATED PEPTIDES 2003；14: pp9-13．
- 4) 芝崎 保, 眞野あすか, 根本崇宏, 関野あずさ: 視床下部グレリン受容体の機能: 同受容体発現抑制トランスジェニックラットを用いた検討．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究 平成15年度総括・分担研究報告書 2004；pp9-13．

#### 学会発表

##### (1) セミナー:

- 1) 芝崎 保: CRFファミリーペプチド研究の新たな展開: 中枢神経系と末梢での作用(ランチョンセミナー)．第30回日本神経内分泌学会, 2003. 9.

##### (2) 一般講演:

- 1) Otagiri A, Iketani M, Inada S, Sekino A, Yamauchi N, Shibasaki T: Urocortin II-like immunoreactivity in the hypothalamic paraventricular nucleus and the supraoptic nucleus increases under water-deprivation in rats. The Endocrine Society's 85th Annual Meeting (Philadelphia), 2003. 6.
- 2) Hotta M<sup>1)</sup>, Ohwada R<sup>2)</sup>, Katakami H<sup>3)</sup>, Hizuka N<sup>2)</sup>, Shibasaki T, Takano K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>National Graduate Institute for Policy Studies, Health Services Ctr, <sup>2)</sup>Tokyo Women's Medical University, Dept of Med, <sup>3)</sup>Miyazaki Medical College, Dept of Med): The suppressive effect of intravenous glucose infusion on ghrelin secretion in anorexia nervosa patients. The Endocrine Society's 85th Annual Meeting (Philadelphia), 2003. 6.
- 3) 大島久幸, 芝崎 保: Corticotropin-releasing factorの脳室内投与における摂食抑制に及ぼすCRA1000とanti-sauvagine-30の効果．第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 4) 小田切あすか, 稲田詩乃, 関野あずさ, 山内直子, 芝崎 保: UrocortinII (UcnII) の体液調節における役割について．第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 5) 稲田詩乃, 小田切あすか, 山内直子, 芝崎 保: 各種ストレス下のUcnIIIの発現について．第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 6) 関野あずさ, 大島久幸, 小田切あすか, 芝崎 保: 拘束ストレスによる摂食抑制にCRF (corticotropin -releasing factor) 1型及び2型受容体拮抗薬が及ぼす影響．第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 7) 小田切あすか, 関野あずさ, 大坂寿雅<sup>1)</sup>, 根本崇宏, 稲田詩乃, 杉原 仁<sup>2)</sup>, 及川眞一<sup>2)</sup>, 芝崎 保(<sup>1)</sup>国立健康栄養研究所栄養所要量研究部, <sup>2)</sup>内科学第3): GHS受容体(GHS-R)発現抑制トランスジェニックラットにおけるエネルギー代謝について．第30回日本神経内分泌学会, 2003. 9.
- 8) 根本崇宏, 眞野あすか, 芝崎 保: 褐色細胞腫細胞におけるウロコルチン2およびウロコルチン3の作用解析．第15回CRH・ACTH研究会, 2004. 3.
- 9) 原田嘉夫: 脊髄一次求心性脱分極に關与するグルタミン酸受容体．第77回日本薬理学会年会, 2004. 3.

## 5. 生化学第一講座

### 研究概要

本教室では、近年情報伝達や病態などに広くかかわっている活性酸素種などの生成と制御機能を中心として、タンパク質の構造と機能、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因などに取り組んでいる。それらの中心は金属やフラビンなど補欠分子族をもつ蛋白質であり、分子生物学的手法、分光学やX線結晶解析をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1) 低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素/脱水素酵素についてはX線結晶解析による三次元構造の解析結果を基に、発現系を用い種々の変異酵素を作成し、酵素の構造と反応機構、脱水素酵素型から酸化酵素型への変換機構、スーパーオキシド生成機構、阻害剤の開発などの研究を行っている。X線結晶解析ではさらに高分解能および種々の阻害剤との複合体の解析を行って特異な反応機構の解明を進めている。さらに変異体のトランスジェニックマウスを作成し、その生理・病理的役割の解明を進めている。

2) 細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質と予想されるHBP23に関して、その性質、誘導機構について分析し、大量発現系の構築を行い、その変異体の作成とその性質の検討を引き続き行った。立体構造の解明を行ったが、引き続き変異体の構造とヘム結合の様式につき研究も行っている。また、病理・生理的解明をモデルマウスなどを用いて進めている。

3) 上記以外の金属を有するタンパク質の分光学的研究とともに、さらにプロテオミックス法と結びつけ、新しい金属タンパク質の網羅的検索を行っている。大腸菌における亜鉛タンパク質の検索に続き、現在鉄タンパク質の検索をヒト培養細胞を用いて行っている。さらに、これと関連し胎盤等のヒトの病態解析も行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kuwabara Y, Nishino T, Okamoto K, Matsumura T, Eger B T<sup>1)</sup>, Pai E F<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup>University of Toronto ): Unique amino acids cluster for switching from the dehydrogenase to oxidase form of xanthine oxidoreductase . Proc. Natl. Acad. Sci. USA 2003 ; 100 ( 14 ): 8170-8175 .
- 2) Li Z<sup>1)</sup>, Shokes JE<sup>1)</sup>, Kounosu A, Imai T<sup>2)</sup>, Iwasaki T, Scott RA<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Univ. Georgia , <sup>2)</sup>立教大・理 ): X-ray absorption spectroscopic analysis of reductive [2Fe-2S] cluster degradation in hyperthermophilic archaeal succinate : caldariellaquinone oxidoreductase subunits . Biochemistry 2003 ; 42 ( 50 ): 15003-15008 .
- 3) Kounosu A, Li Z<sup>1)</sup>, Cospér NJ<sup>1)</sup>, Shokes JE<sup>1)</sup>, Scott RA<sup>1)</sup>, Imai T<sup>2)</sup>, Urushiyama A<sup>2)</sup>, Iwasaki T ( <sup>1)</sup>Univ. Georgia , <sup>2)</sup>立教大・理 ): Engineering a three-cysteine, one-histidine ligand environment into a new hyperthermophilic archaeal Rieske-type [2Fe-2S] ferredoxin from *Sulfolobus solfataricus* . J. Biol. Chem 2004 ; 279 ( 13 ): 12519-12528 .
- 4) Iwasaki T, Kounosu A, Kolling DRJ<sup>1)</sup>, Crofts AR<sup>1)</sup>, Dikanov SA<sup>1)</sup>, Jin A<sup>2)</sup>, Imai T<sup>2)</sup>, Urushiyama A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Univ. Illinois-UC , <sup>2)</sup>立教大・理 ): Characterization of the pH-dependent resonance Raman transitions of archaeal and bacterial Rieske [2Fe-2S] proteins . J. Am. Chem. Soc 2004 ; 126 ( in press ): 4788-4789 .
- 5) Okamoto K, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Hille R<sup>2)</sup>, Eger B T<sup>3)</sup>, Pai E F<sup>3)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup>Fuji Yakuhin Co. , <sup>2)</sup>Ohio State University , <sup>3)</sup>University of Toronto ): The Crystal Structure of Xanthine Oxidoreductase during Catalysis : Implication for Reaction Mechanism and Enzyme Inhibition . Proc. Natl. Acad. Sci. USA 2004 ; 101 ( 21 ): 7931-7936 .

(2) 綜説：

- 1) 岩崎俊雄, 鴻巣麻子: 極限微生物から学ぶ酸素呼吸系獲得への道: エネルギー代謝系機能進化の分子基盤. 極限環境微生物学会誌 2003 ; 2 ( 2 ): 5-7 .
- 2) 岡本 研, 西野武士: 目でみるキサンチンオキシダーゼ/デヒドロゲナーゼの立体構造. 高尿酸血症と痛風 2004 ; 12 ( 1 ): 1-6 .

著 書

- 1) 市田公美<sup>1)</sup>, 山口雄一郎<sup>1)</sup>, 松村智裕 ( <sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学 ): [ 共著 ] キサンチンデヒドロゲナーゼ ( XDH ) [ キサンチンオキシダーゼ ( XO ) ]. 日本臨牀 増刊号, 2003 ; pp98-102, 日本臨牀社 .

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 西野武士: キサンチンオキシターゼ ( タンパク質の産業利用 ). 第18回大学と科学公開シンポジウム, 2003 . 12 .
- 2) 西野武士: キサンチン脱水素酵素の各種阻害剤の解析結果から見た酵素の性質と反応機構. 第37回日本痛風・核酸代謝学会, 2004 . 2 .

(2) シンポジウム：

- 1) 桑原慶充, 西野朋子, 岡本 研, 松村智裕, 川口裕子, Eger B T<sup>1)</sup>, Pai E F<sup>1)</sup>, 西野武士 ( <sup>1)</sup>University of Toronto ): キサンチン脱水素酵素から酸化酵素への変換の分子機構 ( タンパク質の高次構造変化による機能制御 ). 第26回日本分子生物学会, 2003 . 12 .

(3) ワークショップ：

- 1) 岩崎俊雄, 鴻巣麻子: 古細菌呼吸系複合タンパク質の発現と構造機能解析へアプローチ: コハク酸: キノン酸化還元酵素を例に. 超好熱古細菌の構造ゲノミクスのためのワークショップ, 2003 . 11 .

(4) 一般講演：

- 1) Matsumura T , Kuwabara Y , Nishino T , Okamoto K , Eger B T<sup>1)</sup>, Pai E F<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup>University of Toronto ): An unique amino acids cluster for switching from the dehydrogenase to oxidase form of xanthine oxidoreductase . Gordon Research Conferences ( Meriden, New Hampshire ), 2003 . 6 .
- 2) Yamaguchi Y<sup>1)</sup>, Matsumura T , Ichida K<sup>1)</sup>, Ohno I<sup>1)</sup>, Hosoya T<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup>Jikei University School of Medicine ): Human xanthine oxidase can be converted to aldehyde oxidase types in substrate specificity by mutation of amino acid residues in the active site : Role of Glutamate 803 or Arginine 881 in purine substrate activation . Gordon Research Conferences ( Meriden, New Hampshire ), 2003 . 6 .
- 3) Iwasaki T , Kounosu A , Samoilova RI<sup>1)</sup>, Dikanov SA<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Russian Acad. Sci. , <sup>2)</sup>Univ. Illinois-UC ): A comparative two-dimensional ESEEM study of histidine coordination to [2Fe-2S] cluster in archaeal high- and low-potential Rieske-type proteins from Sulfolobus . 5th Meeting of the European Federation of EPR Groups ( EFEPFR ) ( Lisbon, Portugal ), 2003 . 9 .
- 4) Iwasaki T , Kounosu A , Aoshima A<sup>1)</sup>, Ohmori D<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東大・農, <sup>2)</sup>順天堂大・化 ): Topology and assembly of archaeal respiratory complex II . 第76回日本生化学会大会, 2003 . 10 .
- 5) Kounosu A , Imai T<sup>1)</sup>, Urushiyama A<sup>1)</sup>, Ohmori D<sup>2)</sup>, Li Z<sup>3)</sup>, Cosper NJ<sup>3)</sup>, Shokes JE<sup>3)</sup>, Scott RA<sup>3)</sup>, Dikanov SA<sup>4)</sup>, Tanaka N<sup>5)</sup>, Kumasaka T<sup>5)</sup>, Iwasaki T ( <sup>1)</sup>立教大・理, <sup>2)</sup>順天堂大・化, <sup>3)</sup>Univ. Georgia, <sup>4)</sup>Univ. Illinois-UC, <sup>5)</sup>東工大・生命理工 ): Characterization and crystallization of archaeal Rieske-type protein variants with modified cluster environments . 第76回日本生化学会大会, 2003 . 10 .
- 6) Kusano T , Nishino To , Okamoto K , Nishino Ta : Purification of xanthine dehydrogenase/oxidase convert-

- ing factor exist in bovine milk . 第76回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .
- 7) Nishino To , Hori H<sup>1)</sup> , Matsumura T , Kawaguchi Y , Okamoto K , Nishino Ta ( <sup>1)</sup> Ehime University ): Two disulfide bridges associated to Xanthine Dehydrogenase to Oxidase Conversion . 第76回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .
- 8) Yamaguchi Y<sup>1)</sup> , Matsumura T , Ichida K<sup>1)</sup> , Ohno I<sup>1)</sup> , Hosoya T<sup>1)</sup> , Nishino T ( <sup>1)</sup> Jikei University School of Medicine ): A point mutation of xanthine dehydrogenase led its substrate specificity likely to aldehyde oxidase . 第76回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .
- 9) Okamoto K , Matsumoto K<sup>1)</sup> , Nishino To , Eger B T<sup>2)</sup> , Pai E F<sup>2)</sup> , Nishino Ta ( <sup>1)</sup> Fuji Yakuhin Co. , <sup>2)</sup> University of Toronto ): Crystal Structures of Reaction Intermediates of Xanthine Dehydrogenase . 第76回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .
- 10) Abe Y , Matsumura T , Nishino T : Peroxidase activity of rat liver heme binding protein, HBP23 . 第76回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .
- 11) Mine K , Katayama A , Nishino T , Kuwabara Y , Shin S<sup>1)</sup> , Takeshita T ( <sup>1)</sup> Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital ): Proteome Analysis of Human Placenta . 第76回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .
- 12) 神 明久<sup>1)</sup> , 岩崎俊雄 , 今井竹夫<sup>1)</sup> , 漆山秋雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 立教大・理 ): フェレドキシンの共鳴ラマンスペクトルの解析 . 第53回錯体化学討論会 , 2003 . 9 .
- 13) 山口雄一郎<sup>1)</sup> , 松村智裕 , 岡本 研 , 市田公美<sup>1)</sup> , 大野岩男<sup>1)</sup> , 細谷龍男<sup>1)</sup> , 西野武士 ( <sup>1)</sup> 東京慈恵会医科大学 ): 活性部位変異体を用いたキサンチン酸化酵素基質特異性の変化 . 第37回日本痛風・核酸代謝学会 , 2004 . 2 .

## 6. 生化学第二講座

### 研究概要

遺伝性疾患に対する遺伝子治療・細胞治療の可能性を検討している。遺伝子治療は遺伝性疾患のみならず、悪性腫瘍や生活習慣病の治療法としても期待されているが、実用化には未だ多くの技術開発と基礎研究が必要である。特に2000年に報告された遺伝子治療が原因と考えられる白血病の発症により、ウイルスベクターの安全性に対しての抜本的見直しが求められている。HIVベクターは、エイズの遺伝子治療を目的に我々が開発したレトロウイルスベクターの一種であるが、安全性の問題が課題となっている。これまでのベクター構造の改良により増殖性ウイルスが発生する可能性はほぼ無くなったと考えられるが、染色体への組み込みによる発癌の可能性が危惧されている。組み込まれたウイルスゲノムと周囲の遺伝子との相互作用を定量的に調べるアッセイ方法を新たに開発し、HIVベクターの安全性の再評価を行っている。同時にHIVベクターの有用性を検証するため動物モデルを使った遺伝子治療実験を進めている。X連鎖無ガンマグロブリン血症(XLA)、眼内新生血管病、慢性関節リウマチ、白血病、多発性骨髄腫(MM)などに対する有効性を確認している。

一方、病原性が無く、安全なウイルスベクターとして期待されながら効率の高い作製法が無いため実用化が遅れているアデノ随伴ウイルス(AAV)ベクターの改良を進めている。これまでの2型サブタイプに加え、1型と5型のAAVを基にしたベクターを作製した。1型AAVベクターが極めて高い効率で筋肉組織に遺伝子導入できることを示した。

アリルスルファターゼ(ASA)遺伝子の遺伝的欠損により神経系にスルファチドが蓄積する異染性白質ジストロフィー(MLD)のモデルマウスを対象に、遺伝性神経変性疾患の治療法の開発を進めている。胎児MLDマウスの脳線条体から神経幹細胞を含む細胞塊(neurosphere)を調整する方法を確立した。レンチウイルスベクターによりASA遺伝子を導入した神経幹細胞を脳実質に直接移植したところニューロンやアストロサイトに分化した細胞が確認された。特殊染色により移植細胞周囲でのスルファチドの減少が認められた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Takatori M<sup>1)</sup>, Takahuji H<sup>1)</sup>, Uchida N<sup>1)</sup>, Inami M<sup>1)</sup>, Miyake K, Honda H<sup>2)</sup>, Hirai H<sup>3)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, <sup>2)</sup> Department of Developmental Biology, Division of Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, <sup>3)</sup> Department of Hematology/Oncology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo ): Myeloproliferative disease in transgenic mice expressing P230 Bcr/Able : longer disease latency, thrombocytosis and mild leukocytosis . Blood 2003 ; 102 : 320-322 .
- 2) Sugiyama O, Orimo H, Suzuki S, Yamashita K<sup>1)</sup>, Ito H<sup>2)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy, <sup>2)</sup> Department of Orthopaedic Surgery ): Bone formation following transplantation of genetically modified primary bone marrow stromal cells . Journal of Orthopaedic Research 2003 ; 21 : 630-637 .
- 3) Migita M<sup>1)</sup>, Hamada H<sup>1)</sup>, Fujimura J<sup>1)</sup>, Watanabe A, Shimada T, Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Paediatrics ): Glucocerebrosidase level in the cerebrospinal fluid during enzyme replacement therapy -unsuccessful treatment to the neurological abnormality of type 2 Gaucher disease . Eur J Paed 2003 ; 162 : 524-525 .
- 4) Igarashi T, Miyake K, Kato K<sup>2)</sup>, Watanabe A, Ishizaki M<sup>3)</sup>, Ohara K<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology, <sup>2)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism, <sup>3)</sup> Department of Pathology ): Lentivirus-mediated expression of angiostatin efficiently inhibits neovascularization in a murine proliferative retinopathy

model . Gene Therapy 2003 ; 10 : 219-226 .

- 5) Tanaka R<sup>1)</sup>, Komine-Kobayashi M<sup>1)</sup>, Mochizuki H<sup>1)</sup>, Yamada M<sup>1)</sup>, Furuya T<sup>1)</sup>, Migita M, Shimada T, Mizuno Y<sup>1)</sup>, Urabe T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine): Migration of EGFP expressing bone marrow-derived microglia/macrophage into the mice brain following permanent focal ischemia . Neuroscience 2003 ; 117 : 531-539 .
- 6) Migita M<sup>1)</sup>, Uchikoba Y<sup>1)</sup>, Oriomo H, Shimada T<sup>1)</sup>, Matsumoto T<sup>1)</sup>, Hayakawa J<sup>1)</sup>, Fujino O<sup>1)</sup>, Saitoh M<sup>2)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pediatrics, <sup>2)</sup>Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, The University of Tokyo): Genetic diagnosis of Werdnig-Hoffmann disease-A problem for application to prenatal diagnosis . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 : 45-48 .
- 7) Migita M<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>, Hayakawa J<sup>1)</sup>, C, L Z<sup>1)</sup>, Morita T<sup>2)</sup>, Ohshiro K<sup>3)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pediatrics, <sup>2)</sup>Department of Pediatrics, Tosei Hospital, Shizuoka, <sup>3)</sup>Department of Pediatrics Surgery, Juntendo University): Home treatment with enzyme replacement therapy for Gaucher disease . Pediatr Int 2003 ; 45 : 363-365 .
- 8) Furuya T<sup>1)</sup>, Tanaka R<sup>1)</sup>, Urabe T<sup>1)</sup>, Hayakawa J, Migita M, Shimada T, Mizuno Y<sup>1)</sup>, Mochizuki H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine): Establishment of modified chimeric mice using GFP bone marrow as a model for neurological disorders . NeuroReport 2003 ; 14 : 629-631 .
- 9) Choi JB<sup>1)</sup>, Uchino H<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Iwashita N<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Mochizuki H<sup>2)</sup>, Migita M, Shimada T, Kawamori R<sup>1)</sup>, Watada H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Medicine, Metabolism and Endocrinology, Juntendo University School of Medicine, <sup>2)</sup>Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine): Little evidence of transdifferentiation of bone marrow-derived cells into pancreatic beta-cells . Diabetologia 2003 ; 46 : 1366-1374 .
- 10) Ogawa R<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Watanabe A, Migita M, Shimada T, Hyakusoku H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Plastic and Reconstructive Surgery): Osteogenic and chondrogenic differentiation by adipose-derived stem cells harvested from GFP mice . Biochemical Biophysical Research Communications 2004 ; 313 : 871-877 .
- 11) Watanabe A, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Mizuki T<sup>1)</sup>, Tanosaki S<sup>1)</sup>, Shimada T, Dan K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Internal Medicine): Near-triploidy and near-tetraploidy in hematological malignancies and mutation of the p53 gene . Clin Lab Haem 2004 ; 26 : 25-30 .
- 12) 鈴木由美<sup>1,2)</sup>, 渡辺裕子<sup>1,2)</sup>, 千葉弘子<sup>1,2)</sup>, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>遺伝診療科, <sup>2)</sup>付属病院看護部): 日本医科大学付属病院遺伝外来における遺伝カウンセリングの実践と看護職の役割 . 日本看護研究会 2003 ; 1 (1): 28-34 .
- 13) 浅野ありさ<sup>1,2)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 右田 真<sup>1,2)</sup>, 渡辺裕子<sup>2,4)</sup>, 鈴木由美<sup>2,4)</sup>, 千葉弘子<sup>2,4)</sup>, 堺 則康<sup>2,3)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>小児科, <sup>2)</sup>遺伝診療科, <sup>3)</sup>皮膚科, <sup>4)</sup>看護部): 遺伝外来の実際: 遺伝カウンセリングでクライアントが抱える問題点 . 小児科 2003 ; 44 (7): 1145-1150 .
- 14) 千葉弘子<sup>1)</sup>, 渡辺裕子<sup>1)</sup>, 鈴木由美<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 島田 隆(<sup>1)</sup>付属病院看護部): FAP患者家族の遺伝子診断に関する意思決定への支援 . 月刊ナーシング 2004 ; 24 (1): 44-46 .

#### 学会発表

##### (1) 招待講演:

- 1) Shimada T : Gene therapy for lysosomal storage diseases . UK-Japan Gene Therapy Workshop ( Oxford, UK ), 2004 . 3 .

##### (2) 一般講演:

- 1) Orimo H, Shimada T : Isolation of upstream region of the human tissue-nonspecific alkaline phosphatase



- gene and its regulation by all-trans retinoic acid . The 1st Joint Meeting of the International Bone and Mineral Society ( IBMS ) and the Japanese Society for Bone and Mineral Research ( JSBMR )( Osaka, Japan ), 2003 . 6 .
- 2) Takinami H<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Goseki-Sone M<sup>2)</sup>, Orimo H , Hamatani R<sup>2)</sup>, Ishikawa I<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Periodontology, Department of Hard Tissue Engineering, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University ,  
<sup>2)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University ): Mutant ( F310L ) TNSALP gene from hypophosphatasia . Europerio 4 ( Berlin, Germany ), 2003 . 6 .
  - 3) Hisayasu S , Adachi K , Kinoshita H , Hirai Y , Shimada T : Protein Transduction of AAV Rep 78 Can Support AAV vector packing . The 6th Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy ( Washington, DC ), 2003 . 6 .
  - 4) Noro T<sup>1)</sup>, Miyake K , Suzuki N , Uchida E<sup>2)</sup>, Misawa T<sup>1)</sup>, Yamazaki Y<sup>1)</sup>, Shimada T (<sup>1)</sup> Department of Surgery, Tokyo Jikei Medical School ,<sup>2)</sup> Department of Surgery ): AAV-Mediated Anti-Angiogenic Therapy of Pancreatic Cancer in an Orthotopic Metastatic Model in Golden Hamsters : Influence of Route of AAV Vector Administration . The 6th Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy ( Washington, DC ), 2003 . 6 .
  - 5) Takahashi H , Miyake K , Yoshino S<sup>1)</sup>, Shimada T (<sup>1)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism ): AAV Vector Mediated Anti-Angiogenic Gene Therapy for Collagen-Induced Arthritis in Mice . The 6th Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy ( Washington, DC ), 2003 . 6 .
  - 6) Tanabe H , Miyake K , Shimada T : HIV Mediated Expression of Bruton's Tyrosine Kinase in Hematopoietic Stem Cells Promotes B Cells Development but Not Restore Immunoglobulin Production in X-Linked Immunodeficient Mice . The 6th Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy ( Washington, DC ), 2003 . 6 .
  - 7) Watanabe A<sup>1)</sup>, Sakai N , Wada T<sup>2)</sup>, Fujimoto M<sup>3)</sup>, Fukushima Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 遺伝診療科 ,<sup>2)</sup> 信州大学付属病院遺伝子診療部 ,<sup>3)</sup> 自治医大皮膚科 ): COL3A1 mutations in Japanese patients with Ehlers-Danlos syndrome type IV ( EDSIV ). The 53rd annual meeting of the American Society of Human Genetics ( Los Angeles ), 2003 . 11 .
  - 8) Shimada T , Zenri K , Ogawa K , Takahashi H , Hirai Y , Seino Y<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine ,<sup>2)</sup> Department of Pathology ): AAV Vector Mediated Gene Therapy of Fabry Knockout Mice . The 53rd Annual Meeting of The American Society of Human Genetics ( Los Angeles, California ), 2003 . 11 .
  - 9) Hayakawa J<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Fukazawa R<sup>1)</sup>, Adachi K , Shimada T , Fukunaga Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pediatrics ): Pretreatment of donor mice with dextran sulfate enhances homing of hematopoietic stem cells . The 45th Annual Meeting of The American Society of Hematology ( San Diego ), 2003 . 12 .
  - 10) Inokuchi K<sup>1)</sup>, Miyake K , Miyake-Suzuki N , Inami M<sup>2)</sup>, Yamaguchi H , Tanosaki S , Dan K , Shimada T : Adenoviral vector mediated anti-angiogenetic molecular, Endostatin, is effective for myeloproliferative disease of p230BCR/ABL expressing transgenic mouse . The 45th Annual Meeting of The American Society of Hematology ( San Diego ), 2003 . 12 .
  - 11) Takinami H<sup>1)</sup>, Goseki-Sone M<sup>2)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Orimo H , Hamatani R<sup>2)</sup>, Fukushi-Irie M<sup>2)</sup>, Ishikawa I<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Periodontology, Department of Hard Tissue Engineering, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University ,<sup>2)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University ): Functional analysis of the mutant ( F310L and V365I ) tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene . 第5回 ALPS ( アルカリホスファターゼ ) 研究会 , 2003 . 7 .
  - 12) Komaru K<sup>1,2)</sup>, Ishida Y<sup>1,3)</sup>, Kono S<sup>3)</sup>, Goseki-Sone M<sup>4)</sup>, Orimo H , Amaya Y<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Bio-

- chemistry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences ,<sup>2)</sup> Kitasato Junior College of Health and Hygienic Sciences ,<sup>3)</sup> Division of Removable Prosthodontics, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences ,<sup>4)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University ): Biosynthesis and degradation of tissue-nonspecific alkaline phosphatase with a deletion of T at nucleotide 1559 . 第5回 ALPS ( アルカリホスファターゼ ) 研究会 , 2003 . 7 .
- 13) Orimo H , Shimada T : Regulation of the human tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene by fat-soluble vitamins . 第5回 ALPS ( アルカリホスファターゼ ) 研究会 , 2003 . 7 .
- 14) Hirai Y , Seino Y<sup>1)</sup> , Fukuda Y<sup>2)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): AAV Vector Mediated Gene Therapy of Fabry Disease : Histological and Functional Evaluation of Fabry Knockout Mice . The 9th Annual Meeting of The Japan Society of Gene Therapy , 2003 . 7 .
- 15) Takahashi H<sup>1)</sup> , Miyake K , Yoshino S<sup>1)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism ): AAV Vector Mediated anti-angiogenic gene therapy for collagen-induced arthritis in mice . The 9th Annual Meeting of The Japan Society of Gene Therapy , 2003 . 7 .
- 16) Noro T<sup>1)</sup> , Miyake K , Suzuki N , Uchida E<sup>2)</sup> , Misawa T<sup>1)</sup> , Yamazaki Y<sup>1)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Jikei University, School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Surgery ): AAV-mediated Continuous Secretion of Endostatin Inhibits Pancreatic Tumor Growth and Metastasis : Influence of Route of AAV Vector . The 9th Annual Meeting of The Japan Society of Gene Therapy , 2003 . 7 .
- 17) Kashiwakura Y<sup>1)</sup> , Tamayose K<sup>2)</sup> , Nakamura T<sup>3)</sup> , Shimada T , Daida H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Cardiology, Juntendo University School of Medicine , <sup>2)</sup> Departments of Hematology, Juntendo University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Molecular Regenerative Medicine and Course of Advanced Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine ): C-Met is a Co-Receptor for Adeno-Associated virus type 2 ( AAV 2 ) infection . The 9th Annual Meeting of The Japan Society of Gene Therapy , 2003 . 7 .
- 18) Orimo H , Shimada T : Effects of vitamin D on the expression of the human tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene . 第76回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .
- 19) Komaru K<sup>1, 2)</sup> , Ishida Y<sup>1, 3)</sup> , Kohno S<sup>3)</sup> , Goseki-Sone M<sup>4)</sup> , Orimo H , Amaya Y<sup>1)</sup> , Oda K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Biochemistry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences , <sup>2)</sup> Kitasato Junior College of Health and Hygienic Sciences , <sup>3)</sup> Division of Removable Prosthodontics, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences , <sup>4)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University ): Biosynthesis and degradation of a mutant tissue-nonspecific alkaline phosphatase caused by a deletion of T at nucleotide 1559 . 第76回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .
- 20) 折茂英生 , 島田 隆 : ヒト組織非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子上流の解析とレチノイン酸による発現調節 . 第57回日本栄養・食糧学会大会 , 2003 . 5 .
- 21) 神田佳和 : ヒト母乳由来増殖因子の活性部位とその分化誘導活性 . 第56回日本細胞生物学会大会 , 2003 . 5 .
- 22) 堺 則康<sup>1, 2)</sup> , 渡邊 淳<sup>1)</sup> , 浅野ありさ<sup>1, 3)</sup> , 鈴木由美<sup>1, 4)</sup> , 小川俊一<sup>3)</sup> , 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 遺伝診療科 , <sup>2)</sup> 皮膚科 , <sup>3)</sup> 小児科 , <sup>4)</sup> 看護部 ): 由来不明の染色体異常症に対する情報提供のあり方について . 第27回日本遺伝カウンセリング学会 , 2003 . 6 .
- 23) 渡邊 淳<sup>1)</sup> , 浅野ありさ<sup>1, 2)</sup> , 平井幸彦 , 倉井年幸<sup>3)</sup> , 木下裕康 , 北川 亮 , 渡部 昇<sup>4)</sup> , 伊藤高司<sup>4)</sup> , 島田隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科 , <sup>2)</sup> 小児科学 , <sup>3)</sup> 眼科学 , <sup>4)</sup> 情報科学センター ): 情報収集並びにロールプレーを取り入れた臨床遺伝実習の試み . 第27回日本遺伝カウンセリング学会 , 2003 . 6 .
- 24) 鈴木由美<sup>1, 2)</sup> , 渡辺裕子<sup>1, 2)</sup> , 千葉弘子<sup>1, 2)</sup> , 浅野ありさ<sup>1, 3)</sup> , 右田 真<sup>1, 3)</sup> , 渡邊 淳<sup>1)</sup> , 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 遺伝診療科 , <sup>2)</sup> 看護部 , <sup>3)</sup> 小児科 ): チーム医療としての遺伝診療における看護職の役割 . 第27回日本遺伝カウンセリング学会 , 2003 . 6 .

- 25) 渡邊 淳, 平井幸彦, 渡部 昇<sup>1)</sup>, 伊藤高司<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>(1)</sup>情報科学センター): インターネットによる情報収集ならびにロールプレーを取り入れた臨床遺伝実習の試み. 第35回日本医学教育学会大会, 2003. 7.
- 26) 渡邊 淳, 島田 隆: 医学教育における臨床遺伝の重要性. 第35回日本医学教育学会大会, 2003. 7.
- 27) 小川 令, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 島田 隆, 早川 潤<sup>2)</sup>, 右田 真<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科, <sup>2)</sup>小児科): GFPトランスジェニックマウス由来脂肪組織幹細胞を用いた骨, 軟骨細胞新生. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 28) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 平井幸彦, 浅野ありさ<sup>1, 2)</sup>, 木下裕康, 倉井年幸<sup>3)</sup>, 北川 亮, 渡部 昇<sup>4)</sup>, 伊藤高司<sup>4)</sup>, 島田隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>遺伝診療科, <sup>2)</sup>小児科, <sup>3)</sup>眼科, <sup>4)</sup>情報科学センター): インターネットを用いた情報収集に対応する医学教育の試み. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 29) 星野有哉<sup>1, 2, 3)</sup>, Jensen Roy A<sup>2)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>(1)</sup>第二病院・消化器病センター, <sup>2)</sup>ヴァンダービルト大学・病理学, <sup>3)</sup>平塚胃腸病院): MMTV-BRCA1 (がん抑制遺伝子)トランスジェニックマウスを用いた化学発ガンによる発ガン機構の解析. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 30) 千葉弘子<sup>1)</sup>, 渡辺裕子<sup>1)</sup>, 鈴木由美<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>(1)</sup>看護部, <sup>2)</sup>小児科): FAP患者家族の遺伝子診断に対する意思決定への支援. 第2回日本遺伝看護研究会, 2003. 9.
- 31) 鈴木由美<sup>1)</sup>, 渡辺裕子<sup>1)</sup>, 千葉弘子<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 堺 則康<sup>3)</sup>, 渡邊 淳, 島田 隆<sup>(1)</sup>看護部, <sup>2)</sup>小児科, <sup>3)</sup>皮膚科): 由来不明の染色体異常症児の両親に対する遺伝カウンセリングと社会資源活用への支援. 第2回日本遺伝看護研究会, 2003. 9.
- 32) 渡辺裕子<sup>1)</sup>, 千葉弘子<sup>1)</sup>, 鈴木由美<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>(1)</sup>看護部, <sup>2)</sup>小児科): 筋緊張性ジストロフィー2例の経験から: 社会的状況が自己決定にもたらす影響についての検討. 第2回日本遺伝看護研究会, 2003. 9.
- 33) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 堺 則康<sup>2)</sup>, 和田敬仁<sup>3)</sup>, 藤本美津夫<sup>4)</sup>, 福嶋義光<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup>同皮膚科, <sup>3)</sup>信州大学付属病院遺伝診療科, <sup>4)</sup>自治医大皮膚科): Ehlers-Danlos syndrome type IV (EDSIV) の遺伝診療. 第48回日本人類遺伝学会, 2003. 10.
- 34) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>1, 2)</sup>, 平井幸彦, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>遺伝診療科, <sup>2)</sup>小児科): 「色覚特性」に対応する遺伝医学教育の必要性. 第48回日本人類遺伝学会, 2003. 10.
- 35) 小川 令, 水野博司<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 百束比古<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>(1)</sup>形成外科): 脂肪組織幹細胞における骨・軟骨細胞新生: GFPトランスジェニックマウスを用いて. 第33回日本創傷治癒学会, 2003. 12.
- 36) 小川 令, 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 右田 真<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>(1)</sup>形成外科, <sup>2)</sup>小児科): GFPトランスジェニックマウス由来脂肪組織幹細胞を用いた骨・軟骨・脂肪細胞への分化誘導. 第3回日本再生医療学会総会, 2004. 3.

## 7. 薬理学講座

### [ 薬理学 ]

#### 研究概要

当講座では、内因性生理活性物質および薬物と生体の相互作用について、神経伝達を制御する物質を中心に研究し、新しい作用機序に基づいた薬の開発を目指している。主な研究の概要と15年度の進行状況は以下のとおりである。

##### 1. 精神神経疾患の神経基盤の解明

精神神経疾患動物モデルを作成し、神経伝達の異常を分子生物学、行動科学、電気生理学的に解析している。15年度は恐怖条件付けモデル動物を作成し、情動記憶によって変化する候補遺伝子について組織化学的解析を行った。また霊長類における疾患研究の端緒として、サルを用いた神経伝達物質受容体分布の検討に着手した。

##### 2. GABA シナプス伝達の修飾機構の解明

小脳における内在性神経伝達物質による抑制性神経伝達の修飾機構について検討している。15年度は小脳プルキンエ細胞で観察されるGABA作動性抑制性伝達の増強がプリン作動性受容体を介してシナプス前性、後性と2つの機構で起こることを見出した。

##### 3. 痛みの発症・持続機構の解明

神経因性疼痛の発症に関わる神経回路の可塑的变化を解明することを目指している。15年度はグリア細胞株由来神経栄養因子の補充によって疼痛が緩和されることを報告したことに続いて、本因子による疼痛緩和効果がどのような機構に基づいておこなわれるかを、組織化学的手法を組み合わせることで検討した。その結果、いくつかの情報伝達系分子を同定し、現在検討中である。

##### 4. GABA 受容体と相互作用する分子の検討

GABA シナプス伝達の修飾機構の解明に向けて、膜表面GABA受容体発現を調節する相互作用蛋白分子の同定を試み、2つの新規候補分子を見出した。

##### 5. 細胞周期阻害因子p21の細胞分化に伴う細胞内局在制御機構の解明

細胞の終末分化過程でp21は初期には核に局在し細胞周期を停止させ、分化後には細胞質にも局在しアポトーシス抑制作用をもつことを報告した。15年度はp21の核移行シグナルを抑制する分子の発現により、細胞質に局在するようになる機構を明らかにした。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Nagano M, Suzuki H : Quantitative analyses of expression of GDNF and neurotrophins during postnatal development in rat skeletal muscles. *Neurosci Res* 2003 ; 45 : 391-399 .
- 2) Nagano M, Sakai A<sup>1)</sup>, Takahashi N<sup>2)</sup>, Umino M<sup>2)</sup>, Yoshioka K<sup>1)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Graduate School of Allied Health Sciences, Tokyo Med Dent Univ , <sup>2)</sup> Anesthesiol Clin Physiol, Tokyo Med Dent Univ ): Decreased expression of glial cell line-derived neurotrophic factor signaling in rat models of neuropathic pain . *Br J Pharmacol* 2003 ; 140 : 1252-1260 .
- 3) Ninomiya N<sup>1)</sup>, Nemoto K, Okamura T, Suzuki H, Yamamoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine ): A novel experimental method for the study of intestinal paralysis due to endotoxemia . *J Jap Assoc Acute Med* 2003 ; 14 ( 5 ) : 241-250 .
- 4) Takei T<sup>1)</sup>, Saegusa H<sup>1)</sup>, Zong S<sup>1)</sup>, Murakoshi T, Makita K<sup>1)</sup>, Tanabe T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med Dent Univ ):

Anesthetic Sensitivities to Propofol and Halothane in Mice Lacking the R-type (Cav2.3) Ca<sup>2+</sup> Channel .  
Anesth Analg 2003 ; 97 : 96-103 .

- 5) Takei T<sup>1)</sup>, Saegusa H<sup>1)</sup>, Zong S<sup>1)</sup>, Murakoshi T, Makita K<sup>1)</sup>, Tanabe T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med Dent Univ ): Increased sensitivity to halothane but decreased sensitivity to propofol in mice lacking the N-type Ca<sup>2+</sup> channel .  
Neurosci Lett 2003 ; 350 : 41-45 .
- 6) Mishima T<sup>1)</sup>, Hamada T<sup>2)</sup>, Ui-Tei K<sup>3)</sup>, Takahashi F<sup>3)</sup>, Miyata Y, Imaki J<sup>1)</sup>, Suzuki H, Yamashita K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy , <sup>2)</sup> Riken Kobe Institute Center for Developmental Biology , <sup>3)</sup> University of Tokyo ): Expression of DDAH1 in chick and rat embryos . Dev Brain Res 2004 ; 148 : 223-232 .

#### 学会発表

##### (1) 招待講演 :

- 1) 鈴木秀典 : 神経因性疼痛と神経栄養因子 . 第31回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会 , 2003 . 9 .

##### (2) シンポジウム :

- 1) 鈴木秀典 : 情動記憶獲得の分子基盤とGABA<sub>A</sub>受容体 . 戦略的創造研究推進事業CREST「脳を知る」シンポジウム , 2003 . 10 .

##### (3) 一般講演 :

- 1) Saitow F, Murakoshi T, Suzuki H, Konishi S<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> CREST, JST , <sup>2)</sup> Mitsubishi Kagaku Inst Life Sci ): Pre-and postsynaptic enhancement of cerebellar GABAergic transmission following purinergic receptor activation . Society for Neuroscience 33rd Annual Meeting ( New Orleans ( USA ) ), 2003 . 11 .
- 2) Murakoshi T, Saitow F, Song S-Y<sup>1,2)</sup>, Suzuki H, Konishi S<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> CREST, JST , <sup>2)</sup> Mitsubishi Kagaku Inst Life Sci ): Stimulation-induced slow oscillation in inhibitory network of the rat amygdala and its tachykinin-ergic modulation . Society for Neuroscience 33rd Annual Meeting ( New Orleans ( USA ) ), 2003 . 11 .
- 3) 村越隆之, 齋藤文仁, 宋 時栄<sup>1,2)</sup>, 鈴木秀典, 小西史朗<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三菱化学生命科学研究所 , <sup>2)</sup> CREST, JST ): 扁桃体におけるタキニン作動性調節 . 第26回日本神経科学大会 , 2003 . 7 .
- 4) 齋藤文仁, 村越隆之, 鈴木秀典, 小西史朗<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三菱化学生命科学研究所 , <sup>2)</sup> CREST, JST ): 小脳皮質におけるGABA伝達の代謝型プリン受容体による増強 . 第26回日本神経科学大会 , 2003 . 7 .
- 5) 齋藤文仁, 村越隆之, 鈴木秀典, 小西史朗<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三菱化学生命科学研究所 , <sup>2)</sup> CREST, JST ): 小脳GABAシナプスのP2Y受容体を介する短期および長期増強機構 . 第46回日本神経化学会 , 第41回日本生物物理学会合同年会 , 2003 . 9 .
- 6) 齋藤文仁, 村越隆之, 鈴木秀典, 小西史朗<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三菱化学生命科学研究所 , <sup>2)</sup> CREST, JST ): 小脳ブルキン工細胞における代謝型プリン受容体活性化に伴うGABAシナプス増強機構 . 戦略的創造研究推進事業CREST「脳を知る」シンポジウム , 2003 . 10 .
- 7) 永野昌俊, 藤村樹里, 村越隆之, 鈴木秀典 : ラット扁桃体におけるGABA<sub>A</sub>受容体サブユニットの定量的解析 . 戦略的創造研究推進事業CREST「脳を知る」シンポジウム , 2003 . 10 .
- 8) 村越隆之, 松本あづみ<sup>1,2)</sup>, 齋藤文仁, 宋 時栄<sup>1,3)</sup>, 鈴木秀典, 小西史朗<sup>1,3)</sup> ( <sup>1)</sup> 三菱化学生命科学研究所 , <sup>2)</sup> 山口大学 , <sup>3)</sup> CREST, JST ): 扁桃体において求心性線維刺激で誘発されるGABA作動性回路の振動的活動とタキニンによる修飾 . 戦略的創造研究推進事業CREST「脳を知る」シンポジウム , 2003 . 10 .
- 9) 橋本直子<sup>1)</sup>, 蒔苗浩司<sup>2)</sup>, 鈴木秀典, 小西史朗<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三菱化学生命科学研究所 , <sup>2)</sup> CREST, JST ): GABA<sub>A</sub>受容体と相互作用する細胞内分子の探索 . 戦略的創造研究推進事業CREST「脳を知る」シンポジウム , 2003 . 10 .
- 10) 原田尚重<sup>1)</sup>, 根本香代, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学 ): カンナビノイドによるモルモット腸管弛緩作用 . 第31回日本救急医学会総会 , 2003 . 11 .
- 11) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代, 原田尚重<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学 ): エンドトキシン誘発モルモット腸

- 管麻痺に対するカンナビノイドについて．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 12) 二宮宣文<sup>1)</sup>，根本香代，原田尚重<sup>1)</sup>，鈴木秀典，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): エンドトキシン血症における内因性カンナビノイドの関与について．第9回日本エンドトキシン研究会，2003．11．
- 13) 浅田 穰，Domenico D<sup>1)</sup>，湯尾 明<sup>2)</sup>，鈴木秀典，水谷修紀<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Inst Nazi Tumori, Italy，<sup>2)</sup>国際医療センター，<sup>3)</sup>東京医科歯科大学): BRAP2はp21Cip1の核移行シグナルを抑制する．第26回日本分子生物学会年会，2003．12．
- 14) 浅田 穰，水谷修紀<sup>1)</sup>，一条秀憲<sup>2)</sup>，鈴木秀典(<sup>1)</sup>東京医科歯科大学，<sup>2)</sup>東京大学): 細胞質p21によるストレス応答キナーゼ阻害機構．第77回日本薬理学会年会，2004．3．
- 15) 坂井 敦<sup>1)</sup>，永野昌俊，吉岡耕一<sup>1)</sup>，鈴木秀典(<sup>1)</sup>東京医科歯科大学): 神経因性疼痛におけるGDNF情報伝達系の発現低下．第77回日本薬理学会年会，2004．3．
- 16) 松本あづみ<sup>1,2)</sup>，齋藤文仁，宋 時栄<sup>2,3)</sup>，鈴木秀典，小西史朗<sup>2,3)</sup>，村越隆之(<sup>1)</sup>山口大学，<sup>2)</sup>三菱化学生命科学研究所，<sup>3)</sup>CREST, JST): 扁桃体におけるGABAシナプスのパーストオッシレーションとタキキニンによる調節．第77回日本薬理学会年会，2004．3．

## [ 臨床薬理センター ]

### 研究概要

臨床薬理センターでは臨床薬理学の立場から次のような研究を行っている．

1. Population pharmacokineticsの研究：NONMEM (Non-Linear Mixed Effect Model) は患者一人当たりの採血点が1-2点でも解析可能なpopulation pharmacokinetics理論を応用した薬物動態解析プログラムである．抗不整脈薬の光学異性体の薬物動態の特徴を分析した．
2. センター長の大橋は，新GCPに関する平成9年度，10年度，厚生科学研究の"モニタリングと監査のあり方"に参加し，また平成11年度"医療機関におけるモニタリング受け入れガイドライン"作成のため厚生省の作業班に参加し，この方面の研究を重ねてきた．これまで，治験データの品質管理，品質保証部門を臨床薬理センターが担当した．その中で「照合率」，「不整合率」などによる品質評価尺度を提唱してきた．今後更に医療機関自らが行うデータマネジメントについて研究を進めていく．
3. 本学で実施された臨床試験(治験)のプロトコールを，症例数の設定，評価項目，統計解析について分析し，試験デザインの品質の面から検討し，改善すべき点を考察した．
4. 薬害予防の立場から医薬品の有害事象に関する情報収集を行い，内容を分析している．
5. *Helicobacter pylori* (HP) urease蛋白を構成する合成ペプチド群を作成し，ELISA法により中和抗体の認識部位と最小抗原決定基を同定した．これらの同定部位のペプチドを合成し，ウサギに免疫して得られた血清よりIgGを精製し，これらの中和抗体とPPIであるlansoprazole, rabeprazole等とのHP ureaseに対する中和能について比較検討を行った．また，*Helicobacter pylori* (HP) 抗生物質耐性菌のureaseに対する中和能についても比較検討を行っている．
6. 自然発症慢性膵炎モデルのWBN / Kobラットを用いた抗慢性膵炎治療薬の効果の評価法に関する研究．開発中の膵炎治療薬の本モデルによる薬効評価とヒトにおける臨床試験結果との関連も併せて検討している．

### 研究業績

#### 著書

- 1) 大橋和史：〔分担〕癌化学療法の臨床薬理．疾患からみた臨床薬理学 - 改定2版 - (大橋京一・藤村昭夫)，2003；pp331-351，じほう．

## 学会発表

### (1) セミナー：

- 1) 大橋和史, 阿曾亮子, 廣田 薫：コアカリキュラムにももの申す！ - これでいいのか薬物治療学教育 - 各大学の現状 日本医科大学の臨床薬理学コースについて．第18回臨床薬理富士五湖カンファランス, 2003．8．

### (2) 一般講演：

- 1) 阿曾亮子, 廣田 薫, 太田詩穂子, 大橋和史：日本医科大学附属4病院薬物治験審査委員会（IRB）年間報告（平成14年度）. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003．9．
- 2) 阿曾亮子, 廣田 薫, 大橋和史：臨床試験 / 治験の試験デザインの分析．第24回日本臨床薬理学会年会, 2003．12．
- 3) 廣田 薫, 阿曾亮子, 太田詩穂子, 大橋和史： *Helicobacter pylori* (HP) urease に対する中和抗体と lansoprazole による中和活性の比較検討．第24回日本臨床薬理学会年会, 2003．12．

## 8. 病理学第一講座

### 研究概要

基礎的な研究としては、肺臓病理学、腎臓病理学、心臓病理学、眼科病理学を中心に行なわれた。肺臓では、間質性肺炎におけるKL-6の局在と産生、MMP-2ノックアウトマウスにおける実験的肺線維症の特徴、膠原病肺におけるエピモルフィン、剥離性間質性肺炎の病態、胎生肺からみた間質性肺炎の病態、創傷治癒と癒着、肺癌の治療薬に対する耐性、分子標的肺癌治療薬として注目されたイレッサによる間質性肺炎の病理、腎臓では、進行性糸球体腎炎モデルにおけるHGFの治療効果、生検腎糸球体基底膜の電顕的デンシティーの変化、実験的増殖性腎炎、糖尿病性腎症、心臓では心筋梗塞巣内の凝固壊死心筋の残存、心弁膜硬化と動脈硬化、心房細動心耳の病理、眼では、角膜アルカリ熱傷における羊膜移植、含水性アクリル眼内レンズの電顕的観察などが報告された。また、免疫電顕などの病理形態学的研究法の工夫に関するものも行われた。これらの研究の一部には、基礎配属学生が行ったものも含まれることを特筆したい。

学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究も活発に行われた。各種間質性肺炎、シェーグレン症候群の肺病変、間質性肺炎に伴う異型上皮、各種肺癌、Alport症候群腎移植後の壊死性糸球体腎炎、腎癌合併膜性腎症、溶連菌感染に伴う急性腎不全、ネフローゼ症候群、IgA腎症などの各種糸球体腎炎、悪性リンパ腫、子宮体癌、乳癌、小児白血病、各種細胞診、冬季応急診療などでの報告が行われた。

また、昨年度から肺臓、腎臓、角膜、心臓弁膜などにおける「難治性線維性疾患の病態・機序の解明と治療への応用研究」が重点研究として立ち上げられており、今後の発展が期待される。最後に、今年度の問題点として、欧文による原著論文作成が、病理診断業務、学部学生教育に対する熱意に比較し疎かにされた感は否めない。この点は、今後の教室の課題として挙げておかなければならない。

### 研究業績

#### 論文

[2002年度追加分]

原著：

- 1) Fukuda Y : Pathology and structural remodelling in bronchiolitis obliterans/bronchiolitis obliterans organizing pneumonia . Eur Respir Rev 2002 ; 12 : 291-292 .
- 2) 松原美幸<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 川本雅司, 相本隆幸<sup>4)</sup>, 内田英二<sup>4)</sup>, 秋丸琥甫<sup>4)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 放射線医学, <sup>3)</sup> 病理学第2, <sup>4)</sup> 外科学第1): 画像が細胞診断に有用であった脾腫瘍の1例 . 日本臨床細胞学会東京都支部会報 2002 ; 20 (1) : 27-28 .
- 3) 高山守正<sup>1)</sup>, 安藤岳史<sup>2)</sup>, 川本雅司, 中村 隆<sup>3)</sup>, 五十嶋一成<sup>4)</sup>, 五十嶋博文<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学第1, <sup>2)</sup> 同学友会山岳部 (医学部6年), <sup>3)</sup> 中村病院, <sup>4)</sup> 自衛隊仙台病院, <sup>5)</sup> 北アルプス太郎平小屋): 北アルプス中高年登山者における登山中の健康障害イベント発症の予測: 山小屋でのSpO<sub>2</sub>測定の意義 . 登山医学 JJ Mountain Med 2002 ; 22 : 91-100 .
- 4) 赤石純子<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 川本雅司 (<sup>1)</sup> 外科学第2): 肺原発 MALT Lymphomaの1例 . 肺癌 2003 ; 43 (1) : 41-45 .

研究報告書：

- 1) 福田 悠 : NSIP, COP/BOOPのモデルとしてのMatrix metalloproteinase 2 ノックアウトマウスにおけるブレオマイシン肺線維症 . 厚生科学研究特定疾患対策研究事業びまん性肺疾患研究班 平成13年度報告書 2002 ; pp240-244 .



(1) 原著 :

- 1) Sato S<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Shimizu A, Kitamura H, Adachi A<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Dai W<sup>1)</sup>, Wakamatsu K, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電顕施設): Identification of an electron densification of the glomerular basement membrane in renal biopsy specimen . Med Electron Micro 2003 ; 2 ( 36 ): 106-111 .
- 2) Okada D, Kawamoto M, Koizumi K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Fukuda Y (<sup>1)</sup>外科第2): Immunohistochemical study of the expression of drug - resistant proteins in large cell neuroendocrine carcinoma of the lung . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2003 ; 51 ( 7 ): 272-276 .
- 3) Mori T, Shimizu A, Masuda Y, Fukuda Y, Yamanaka N : Hepatocyte growth factor - stimulating endothelial cell growth factor accelerating glomerular capillary repair in experimental progressive glomerulonephritis . Nephron Exp nephrol 2003 ; 94 : e44-e55 .
- 4) Fujita Y<sup>1)</sup>, Kashiwagi T<sup>1)</sup>, Takei H<sup>1)</sup>, Takada D<sup>1)</sup>, Kitamura H, Iino Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第2): Membranous nephropathy complicated by renal cell carcinoma . Clinical experimental nephrology 2004 ; 8 ( 1 ): 59-62 .
- 5) 北村博司, 杉崎祐一: 生体腎移植後に壊死性糸球体腎炎を呈したAlport症候群の1例 . 腎と透析 2003 ; 55 ( 3 ): 185-195 .
- 6) 松原美幸<sup>1)</sup>, 川本雅司, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): 間質性肺炎に出現する異型腺系細胞 . 日本臨床細胞学会誌 2003 ; 42 ( 4 ): 271-274 .
- 7) 北村博司, 杉崎祐一: メサンギウム・管内増殖と巣状糸球体硬化病変を認めたネフローゼ症候群の1例 . 腎と透析 2003 ; 55 ( 3 ): 409-415 .
- 8) 松橋智彦<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 馬場直美<sup>1)</sup>, 西 弥生<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 中山智子, 川本雅司, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 高テストステロン血症を示した卵巣硬化性間質性腫瘍の1例 . 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2003 ; 52 ( 4 ): 485-488 .
- 9) 富樫真由子<sup>1)</sup>, 田村浩一, 萬里小路直樹<sup>1)</sup>, 福田 悠, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>昭和女子大学大学院): 心臓弁膜と大動脈・冠動脈硬化性病変の関連性と相違点: 剖検例による病理学的比較検討 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ): 496-508 .
- 10) 田村浩一, 松原美幸<sup>1)</sup>, 川本雅司(<sup>1)</sup>付属病院病理部): スライドカンファレンス 3 呼吸器 . 日臨細胞学会東京都支部会報 2003 ; 21 : 18-19 .
- 11) 大森寛子<sup>1)</sup>, 田村浩一, 小野真平<sup>1)</sup>, 揖斐孝之<sup>1)</sup>, 橋本 聡<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>医学部学生): 心筋梗塞巣内の凝固壊死心筋の残存について . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ): 509-514 .
- 12) 坂本静樹<sup>1)</sup>, 三富規行<sup>2)</sup>, 田村浩一, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 勝田悌実<sup>4)</sup>, 福田 悠, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 森 修<sup>3)</sup>, 長田裕二<sup>2)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山崎峰夫<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>内科学第3, <sup>3)</sup>病理学第2, <sup>4)</sup>内科学第1, <sup>5)</sup>内科学第4): 出血性脳硬塞をきたしたクリプトコッカス髄膜炎合併アルコール性肝硬変の1例 . 内科 2004 ; 93 ( 2 ): 348-357 .
- 13) 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂根 学<sup>2)</sup>, 飯野靖彦<sup>3)</sup>, 田村浩一, 壇 和夫<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>, 青木 宏<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>4)</sup>, 杉崎祐一, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 福田 悠, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 金子礼志<sup>2)</sup>, 清水 章, 清野精彦<sup>5)</sup>, 高野照夫<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>リウマチ科, <sup>3)</sup>内科学第2, <sup>4)</sup>病理学第2, <sup>5)</sup>内科学第1): 関節リウマチの長期経過中に合併した全身性エリテマトーデスの1例 . 内科 2004 ; 92 ( 5 ): 951-959 .

(2) 綜説 :

- 1) 功刀しのぶ, 福田 悠, 吾妻安良太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4): 筋線維芽細胞 特集: 内科キーワード2003 . 内科 2003 ; 1000-1001 .
- 2) 中山智子, 福田 悠: 質疑応答; 器質化肺炎の病理所見 . 日本医事新報 2003 ; 4140 : 110-111 .

- 3) 中山智子, 福田 悠: 特発性間質性肺炎の病因, 病態; 線維化の病理, 病態. 日本胸部臨床 2003; 62: S140-S146.
  - 4) 中沢 賢<sup>1)</sup>, 田島広之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野沢志郎<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>4)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>内科学第4, <sup>3)</sup>外科学第2, <sup>4)</sup>病理学第2): CTガイド下経皮的肺生検の実際; 適応, 手技, 合併症およびその対策 特集: 肺癌, スクリーニングから確定診断, 治療まで. 臨床画像 2003; 19: 422-428.
  - 5) 福田 悠: 肺線維症における筋線維芽細胞 特集: 筋線維芽細胞. 病理と臨床 2003; 21: 366-373.
  - 6) 福田 悠: 剖検例にみるゲフィチニブ急性肺障害の病理学的特徴 特集: 分子標的薬「ゲフィチニブ(イレッサ)」の急性肺障害をめぐって. 日本胸部臨床 2003; 62: 506-515.
  - 7) 福田 悠: イレッサ肺障害の up to date 2) イレッサによる急性肺障害の病理 特集: 薬剤性肺炎. 呼吸器科 2003; 4: 50-57.
  - 8) 中山智子, 福田 悠: 線維化の病理・病態. III. 特発性間質性肺炎の病因・病態. 日本胸部臨床 2003; 62: S140-S146.
  - 9) 功刀しのぶ, 福田 悠: 胎生肺の形態変化-成人呼吸器疾患との接点 特集: 肺の成長と発育: 成人の呼吸器疾患との接点. The Lung Perspectives 2004; 12: 15-18.
  - 10) 北村博司: 腎生検病理診断法: 糖尿病性腎症にともなう病変. 腎と透析 2004; 56(3): 298-305.
  - 11) 中山智子: 間質性疾患の病理 特集: 呼吸不全. Medical Practice 2004; 21: 565-570.
- (3) 研究報告書:
- 1) 中山智子, 河野修興<sup>1)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup>広島大学病態制御医学講座分子内科学): 間質性肺炎肺組織におけるKL-6の局在と産生の同定. 厚生労働省科学研究特定疾患対策研究事業びまん性肺疾患研究班 平成14年度報告書 2003; pp154-159.

## 著 書

- 1) 福田 悠: [分担] 3 肺の構成細胞・細胞外基質. 内科学 第2版(黒川 清, 松澤佑次, 北 徹, 貫和敏博, 永井良三, 千葉 勉, 井廻道夫, 岡 芳知編), 2003; pp183-189, 文光堂.
- 2) 福田 悠: [分担] ゲフィチニブと肺病変: 病理学の立場から. Annual Review 呼吸器 2004(工藤翔二, 土屋了介, 金沢 実, 太田 健編), 2004; pp130-136, 中外医学社.

## 学会発表

[ 2002 年度追加分 ]

### 一般講演:

- 1) Takahashi H<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Fujimoto C<sup>1)</sup>, Ohara K<sup>1)</sup>, Ishizaki M ( <sup>1)</sup>眼科): Immunohistochemical observation of the effects of the amniotic membrane after corneal alkali burn. ARVO (Florida), 2002. 5.
- 2) 高橋 浩<sup>1)</sup>, 五十嵐勉<sup>1)</sup>, 藤本千秋<sup>1)</sup>, 大原国俊<sup>1)</sup>, 石崎正通 ( <sup>1)</sup>眼科): 角膜アルカリ熱傷に対する羊膜移植の免疫組織学的検討. 日本眼科学会総会, 2002. 5.

### (1) 特別講演:

- 1) 川本雅司: 創傷治癒と癒着: 病理からのアプローチ. 第1回兵庫創傷治癒研究会, 2004. 3.

### (2) 招待講演:

- 1) 川本雅司: 上皮および中皮被覆器官における創傷治癒と癒着. 癒着制御研究会, 2003. 9.

### (3) 教育講演:

- 1) 福田 悠: 肺-3 亜急性に発症し, 両側斑状, 網状陰影を呈した間質性肺炎. 第92回日本病理学会総会, 2003. 4.

(4) セミナー :

- 1) 石崎正道 : 実験的増殖性糸球体腎炎 : Thy-1. 1 糸球体腎炎 . 第 14 回日本医科大学感染 , 免疫 , アレルギー , 2003 . 12 .

(5) ワークショップ :

- 1) 北村博司 : 尿細管間質病変 : 傍尿細管毛細血管と間質・尿細管病変 . 第 2 回日本腎病理協会研究会 , 2004 . 1 .
- 2) 中山智子 , 福田 悠 : イレッサによる肺障害の病理 テーマ : 薬剤性肺障害 . 第 44 回日本呼吸器学会総会 , 2004 . 3 .

(6) 一般講演 :

- 1) Igarashi T<sup>1)</sup>, Kurai T<sup>1)</sup>, Hayakawa J<sup>2)</sup>, Kawabata K<sup>3)</sup>, Miyake K<sup>3)</sup>, Ishizaki M, Takahashi H<sup>1)</sup>, Ohara K<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>眼科 , <sup>2)</sup>小児科 , <sup>3)</sup>生化学第 2 ): Bone Marrow Cells Migrated into the Retinal Tissue of the Newborn Mice and Differentiated into Retinal Cells . ARVO ( Florida ), 2003 . 5 .
- 2) Wang M<sup>1)</sup>, Ohara K<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Hori J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>眼科 ): Fate and Immunogenicity of Allogenic Amniotic Epithelium Heterotopically Transplanted on the Ocular Surface . ARVO ( Florida ), 2003 . 5 .
- 3) Kitamura H : A case of three-year-old girl with hemato-proteinuria after burn . 第 70 回関東小児腎臓研究会 , 2003 . 12 .
- 4) 葉山修陽<sup>1)</sup>, 栗原 怜<sup>2)</sup>, 小野田教高<sup>2)</sup>, 須賀 優<sup>2)</sup>, 櫻井祐成<sup>2)</sup>, 大和田一博<sup>2)</sup>, 北村博司, 大図弘之<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 , <sup>2)</sup>春日部秀和病院腎臓内科 , <sup>3)</sup>小尾医院 ): Chance proteinuria にて発見され , IF にて unusual な沈着 pattern を呈した amyloidosis の 1 症例 . 第 34 回埼玉腎臓研究会 , 2003 . 4 .
- 5) 北村博司, 益田幸成, 清水 章, 石崎正道, 福田 悠, 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院病理部 ): 糖尿病性 ( DM ) 腎症における間質病変と傍尿細管毛細血管 ( PTC ) の傷害 . 第 92 回日本病理学会総会 , 2003 . 4 .
- 6) 中山智子, 益田幸成, 石崎正道, 福田 悠 : 間質性肺炎肺組織における KL-6 産生と局在の検討 . 第 92 回日本病理学会総会 , 2003 . 4 .
- 7) 功刀しのぶ, 中山智子, 川本雅司, 福田 悠 : 剥離性間質性肺炎 ( DIP ) におけるマクロファージの集簇 , 線維化 , 肺泡拡張の形成の検討 . 第 92 回日本病理学会総会 , 2003 . 4 .
- 8) 富樫真由子, 田村浩一, 杉崎祐一, 萬里小路直樹<sup>1)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup>昭和女子大学大学院 ): 心臓弁膜硬化症と大動脈・冠動脈硬化症の関連性について . 第 92 回日本病理学会総会 , 2003 . 4 .
- 9) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>2)</sup>, 松原美幸<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 王 若皎<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>4)</sup>, 田村浩一, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>病理学第 2 , <sup>2)</sup>整形外科 , <sup>3)</sup>付属病院病理部 , <sup>4)</sup>中央電顕施設 ): 紡錘型細胞肉腫の亜型診断 3 例の診断困難例 . 第 92 回日本病理学会総会 , 2003 . 4 .
- 10) 寺崎泰弘<sup>1)</sup>, 福田 悠, 菅 守隆<sup>1)</sup>, 竹屋元裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>熊本大学病理学 ): 膠原病肺における uPA, MMP-2 を介したエピモルフィンの役割 . 第 92 回日本病理学会総会 , 2003 . 4 .
- 11) 斎藤恒徳<sup>1)</sup>, 内田大介<sup>1)</sup>, 斉藤智成<sup>1)</sup>, 田村浩一, 福田 悠 ( <sup>1)</sup>医学部学生 ): 心房細動根治手術時に切除された左心耳の病理所見に対する臨床病理学的検討 . 第 92 回日本病理学会総会 , 2003 . 4 .
- 12) 葉山修陽<sup>1)</sup>, 飯塚美穂<sup>2)</sup>, 柏木哲也<sup>2)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 北村博司, 栗原 怜<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 , <sup>2)</sup>内科学第 2 , <sup>3)</sup>春日部秀和病院腎臓内科 ): ANCA 関連腎炎における予後推定因子に関する臨床病理学的検討 . 第 46 回日本腎臓学会 , 2003 . 5 .
- 13) 鈴木裕子<sup>1)</sup>, 野津朋子<sup>1)</sup>, 尾和香澄<sup>1)</sup>, 兼村俊範<sup>1)</sup>, 近藤光子<sup>1)</sup>, 永井厚志<sup>1)</sup>, 中山智子 ( <sup>1)</sup>東京女子医科大学内科学第 1 ): ゲフィチニブを含む抗癌剤の投与後に急性肺傷害を生じた肺腺癌の 1 例 . 間質性肺疾患研究会 , 2003 . 6 .
- 14) 北村博司 : Second renal biopsy を行ったばどう膜炎を伴う尿細管間質性腎炎 ( TINU ) 症候群 3 症例の検討 . 第 69 回関東小児腎臓研究会 , 2003 . 6 .
- 15) 北村博司 : 急性間質性腎炎に続発したネフロローゼ症候群の 1 例 . 第 69 回関東小児腎臓研究会 , 2003 . 6 .

- 16) 北村博司：リンパ球クロスマッチ陽性の父親をドナーとして生体腎移植を行った腎不全の1例．第69回関東小児腎臓研究会，2003．6．
- 17) 北村博司：BKV腎症と診断された移植腎患者における移植腎生検の経時的検討．移植腎病理研究会 第7回学術集会，2003．7．
- 18) 石川義典<sup>1)</sup>，平田知巳<sup>1)</sup>，小泉 潔<sup>1)</sup>，山岸茂樹<sup>1)</sup>，平井恭二<sup>1)</sup>，岡本淳一<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>(1)</sup>外科学第2)：縦隔腫瘍と鑑別困難であった原発性肺癌の1例．第127回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2003．9．
- 19) 野呂林太郎<sup>1)</sup>，吉村明修<sup>1)</sup>，細見幸生<sup>1)</sup>，岡野哲也<sup>1)</sup>，小久保豊<sup>1)</sup>，弦間昭彦<sup>1)</sup>，功刀しのぶ，福田 悠，工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4)：Gefitinib ( Iressa ) による間質性肺炎の臨床病理学的検討：剖検例の検討．第151回日本呼吸器学会関東地方，2003．9．
- 20) 森 健<sup>1)</sup>，本橋典久<sup>1)</sup>，林 宏紀<sup>1)</sup>，吉岡央子<sup>1)</sup>，山本和男<sup>1)</sup>，村田 朗<sup>1)</sup>，木田厚端<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>，功刀しのぶ，福田 悠，桑子智之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4，<sup>2)</sup>放射線科)：検診にて腎血管脂肪腫で発見された肺リンパ管平滑筋症の1例．第156回日本呼吸器学会関東地方会，2003．9．
- 21) 北村博司，益田幸成，石崎正通，杉崎祐一：ネフローゼ症候群を呈し腎生検にて診断された intravascular large B cell lymphoma ( LBCL ) の1例．第33回日本腎臓病学会東部学術集会，2003．9．
- 22) 石原 力<sup>1)</sup>，金子朋広<sup>1)</sup>，高田大輔<sup>1)</sup>，飯塚美穂<sup>1)</sup>，岸雄一郎<sup>1)</sup>，斉藤京子<sup>1)</sup>，北村博司，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：長期低K血症による間質障害に合併した1型尿細管性アシドーシスの1例．第33回日本腎臓病学会東部学術集会，2003．9．
- 23) 高田大輔<sup>1)</sup>，金子朋広<sup>1)</sup>，岸雄一郎<sup>1)</sup>，飯塚美穂<sup>1)</sup>，斉藤京子<sup>1)</sup>，北村博司，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：非典型的な病理組織像を呈した溶連菌感染後急性糸球体腎炎の1例．第33回日本腎臓病学会東部学術集会，2003．9．
- 24) 葉山修陽<sup>1)</sup>，栗原 怜<sup>2)</sup>，櫻井祐成<sup>2)</sup>，小野田教高<sup>2)</sup>，大和田一博<sup>2)</sup>，須賀 優<sup>2)</sup>，北村博司，大岡弘之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科，<sup>2)</sup>春日部秀和病院腎臓内科，<sup>3)</sup>小尾医院)：AL型AmyloidosisにIFにてIgG, C3の陽性所見を呈した1症例．第33回日本腎臓病学会東部学術集会，2003．9．
- 25) 岸雄一郎<sup>1)</sup>，金子朋広<sup>1)</sup>，高田大輔<sup>1)</sup>，北村博司，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：潰瘍性大腸炎には併発した抗リン脂質抗体症候群による腎障害の1例．第33回日本腎臓病学会東部学術集会，2003．9．
- 26) 町田佳恵<sup>1)</sup>，岸雄一郎<sup>1)</sup>，金子朋広<sup>1)</sup>，北村博司，武井寛之<sup>1)</sup>，松信精一<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：Benign MGUSに併発したIdiopathic nodular glomerulosclerosisが疑われた1例．第33回日本腎臓病学会東部学術集会，2003．9．
- 27) 橋本和政<sup>1)</sup>，葉山修陽<sup>1)</sup>，北村博司，飯野靖彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科，<sup>2)</sup>内科学第2)：FSGSと考えられた1症例．第33回日本腎臓病学会東部学術集会，2003．9．
- 28) 中山智子，功刀しのぶ，川本雅司，福田 悠：ゲフィチニブ(イレッサ)による急性肺傷害の病理学的検討．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 29) 松橋智彦<sup>1)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，馬場直美<sup>1)</sup>，西 弥生<sup>1)</sup>，里見操緒<sup>1)</sup>，米山剛一<sup>1)</sup>，中山智子，川本雅司，杉崎祐一<sup>(1)</sup>女性診療科・産科)：血中テストステロン高値を呈した卵巣硬化性間質性腫瘍の1例．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 30) 安藤岳史<sup>1)</sup>，川本雅司，石川 源<sup>2)</sup>，清水 享<sup>3)</sup>，本澤龍生<sup>4)</sup>，山本 剛<sup>5)</sup>，大泉 旭<sup>6)</sup>，森 淳<sup>7)</sup>，高山守正<sup>8)</sup>，五十嶋一成<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学麻酔科，<sup>2)</sup>埼玉医科大学川越医療センター，<sup>3)</sup>東部地域病院麻酔科，<sup>4)</sup>本澤医院，<sup>5)</sup>高度救命救急センター，<sup>6)</sup>集中治療室，<sup>7)</sup>整形外科，<sup>8)</sup>内科学第1，<sup>9)</sup>自衛隊東北方面総監部)：志賀高原ジャイアント診療所における冬季応急診療患者の動向．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 31) 松橋智彦<sup>1)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，馬場直美<sup>1)</sup>，西 弥生<sup>1)</sup>，里見操緒<sup>1)</sup>，米山剛一<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>，中山智子，川本雅司，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科，<sup>2)</sup>病理部)：血中テストステロン高値を呈した卵巣硬化性間質性腫瘍の1例．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．

- 32) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 東 敬子<sup>2)</sup>, 秋山裕美<sup>2)</sup>, 武内俊次<sup>3)</sup>, 杉崎祐一, 北川泰之<sup>4)</sup>, 横山宗伯<sup>5)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電顕施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>同整形外科, <sup>4)</sup>付属病院整形外科, <sup>5)</sup>病理学第2 ): 四肢の顆粒細胞腫の2例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 33) 戴 威<sup>1)</sup>, 並松茂樹<sup>2)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 石崎正通, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>中央電顕施設, <sup>2)</sup>付属病院病理部 ): 2.5%グルタルアルデヒド固定した組織は免疫電顕が可能か 2. II型肺胞上皮細胞内の好オスミウム小体. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 34) 松井洋法<sup>1)</sup>, 小原澤英彰<sup>1)</sup>, 廣瀬敦視<sup>1)</sup>, 志和利彦<sup>1)</sup>, 大原國俊<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 佐佐木喜広<sup>2)</sup>, 安達彰子<sup>2)</sup>, 石崎正通, 高島良子<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学眼科, <sup>2)</sup>同中央電顕施設, <sup>3)</sup>日本電子応用研究センター ): 白内障手術後に混濁をきたした含水性アクリル眼内レンズの電子顕微鏡観察. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 35) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 戴 威<sup>1)</sup>, 北村博司, 石崎正通, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>中央電顕施設 ): 近位尿管上皮細胞内に出現する autophagic cytosome について: 腎生検. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 36) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 細根 勝<sup>2)</sup>, 並松茂樹<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電顕施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>付属病院病理部 ): Microvillous Lymphoma with CD30+ALCL-B features の1例. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 37) 安達彰子<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 戴 威<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>中央電顕施設, <sup>2)</sup>小児科 ): 小児白血病患者末梢血の電子顕微鏡観察 2. 走化性を示す好中球. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 38) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 北川泰之<sup>3)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup>, 川本雅司, 田村浩一<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>整形外科学, <sup>4)</sup>千葉北総病院病理部 ): 多型細胞肉腫の細胞像を示した肺癌大腿部転移と思われる1例. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 39) 松本亜紀<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 川本雅司, 福田 悠 ( <sup>1)</sup>内科学第4 ): 気腫性病変を伴うIPFの1例. Fibrosis and Emphysema Research Meeting 第4回研究会, 2003. 11.
- 40) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 戴 威<sup>1)</sup>, 並松茂樹<sup>2)</sup>, 石崎正通 ( <sup>1)</sup>中央電顕施設, <sup>2)</sup>付属病院病理部 ): サーファクタント特異性蛋白 (SP-C) のII型肺胞上皮細胞内の局在: 免疫電顕法を用いて. 第39回日本界面医学会学術研究会, 2003. 11.
- 41) 中山智子, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 川本雅司, 福田 悠 ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): 肺腺癌に対し gefitinib ( イレッサ ) を使用後, 呼吸不全で死亡した1例. 第124回東京病理集談会, 2003. 12.
- 42) 赤城一郎<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田友巳<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 木下康弘<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 榎本 豊<sup>1)</sup>, 宮本哲也<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 中島由貴<sup>1)</sup>, 中山景介<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 川本雅司 ( <sup>1)</sup>外科学第2 ): 右肺上葉Basaloid carcinomaの1手術例. 第138回日本肺癌学会関東支部会, 2003. 12.
- 43) 北村博司: A群溶血性連鎖球菌感染症を契機に急性腎不全を呈したIgA腎症の1例. 第34回東京腎生検カンファレンス, 2003. 12.
- 44) 高田大輔<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 北村博司, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部 ): 溶連菌感染を契機に発症し非定型的な病理組織像を呈した急性腎不全の1例. 第36回東京腎生検カンファレンス, 2004. 3.
- 45) 根井貴仁<sup>1)</sup>, 松本亜紀<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 福田 悠 ( <sup>1)</sup>内科学第4 ): シェ - グレン症候群 ( SjS ) に合併した間質性肺炎の予後 その予後を気管支検査で予測できるか. 第44回日本呼吸器学会総会, 2004. 3.

## 9. 病理学第二講座

### 研究概要

現在、病理学第二講座では、人体病理学および実験病理学の効果的な融合と治療への応用を目標に以下の内容を中心に研究を進めている。

腫瘍の増殖進展に関する研究；腫瘍細胞の増殖進展転移にともなう細胞内のmycなどの癌遺伝子，癌抑制遺伝子の発現の変化，keratinocyte growth factor (KGF)などの増殖因子とその受容体の関与やルミカンやラミニンなどの細胞外基質の産生や細胞外基質との接着状態による影響についても検討している。また，これらの遺伝子や蛋白質の発現を直接調節することで生ずる変化や調節に関与する因子（熱ショック蛋白など）の役割細胞および内シグナル伝達機構について検討している。

癌の増殖，転移に重要な役割を果たす血管およびリンパ管にも注目し，血管内皮細胞やリンパ管増殖に関与するVascular endothelial growth factor (VEGF)などの増殖因子やそれらの受容体の関与についても研究を行っている。

消化器疾患に関する研究；特に胃，消化器疾患に関しては，過去7年間に集積した胃生検23000例を用い，ヘリコバクターピロリと胃炎，胃癌発生との関連やアジア，アフリカ各国の民族差も含め解析を進めている。また，各種肝障害ならびに肝癌や胃癌発生におけるチトクロームP450など薬物代謝酵素の関与やp53癌抑制遺伝子などの遺伝子異常や遺伝子多型との関係についても検討している。

心血管系に関する研究；動脈硬化，心筋梗塞症や糖尿病における血管障害や組織障害の発生機序の解明を目的に，これらの病態発生に関わる形態変化をレーザー顕微鏡や電子顕微鏡などの種々の顕微鏡観察を用いて解析している。さらに病態の発生進展に関連する脂質成分，変性糖化物質（AGEs）やFGF（Fibroblast growth factor）などの増殖因子，フィブロネクチンなどの細胞外基質成分などの関与および，病態の進展に関連する細胞内外の蛋白質の産生とこれらの遺伝子の発現・調節機構について検討している。

脳神経疾患に関する研究；脳神経病理学の領域では，老人性痴呆症であるアルツハイマー病やパーキンソン病，レビー小体病などの中枢神経変性疾患の形態的变化を中心に研究を進めている。特にアルツハイマー病に関しては，病態の発生進展に重要な老人斑の形成に注目し，老人斑の形成に関与する異常燐酸化Tau蛋白質や $\beta$ -amyloidなどの異常沈着物の発生機序の解明を目指して研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kudo M, Wang Y<sup>1)</sup>, Xu M<sup>1)</sup>, Ayub A<sup>1)</sup>, Ashraf M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Pathology and Laboratory Medicine, University of Cincinnati Medical Center ): Adenosine A ( 1 ) receptor mediates late preconditioning via activation of PKC-delta signaling pathway . Am J Physiol Heart Circ Physiol 2002 ; 283 : H296-H301 .
- 2) Asano G, Takashi E, Ishiwata T, Onda M, Yokoyama M : Pathogenesis and protection of ischemia and reperfusion injury in myocardium . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 : 384-392 .
- 3) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito, H<sup>1)</sup>, Sawaizumi T<sup>1)</sup>, Matsubara M<sup>1)</sup>, Yokoyama M, Naito Z ( <sup>1)</sup>Department of Plastic Surgery ): Fine needle aspiration cytology for soft tissue tumours of the hand . J Hand Surg 2003 ; 28 : 582-585 .
- 4) Kato S, Tajiri T, Matsukura N, Matsuda N, Taniyai N, Mamada H, Yoshida H, Kiyama T, Naito Z ( 1 ) Surgery for Organ Function and Biological Regulation ): Genetic polymorphisms of aldehyde dehydrogenase

- 2, cytochrome p450 2E1 for liver cancer risk in HCV antibody-positive japanese patients and the variations of CYP2E1 mRNA expression levels in the liver due to its polymorphism . *Scand J Gastroenterol* 2003 ; 38 : 886-893 .
- 5) Tanaka-Nozaki M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Takasaki H<sup>1)</sup>, Yoshimura K<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Naito Z , Sugizaki Y<sup>1)</sup>, Merk HF<sup>1)</sup>, Blomeke B<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery): Intratumoral induction of thymidylate synthase mRNA by 5-FU in colorectal cancer patients : association with survival . *Oncol Rep* 2003 ; 10 : 1425-1429 .
- 6) Saika S<sup>1)</sup>, Miyamoto T<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Ishida I<sup>1)</sup>, Ohonishi Y<sup>1)</sup>, Ooshima A<sup>1)</sup>, Ishiwata T , Asano G , Chikama T<sup>1)</sup>, Shiraishi A<sup>1)</sup>, Lui CY<sup>2)</sup>, Kao WW<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Ophthalmology , <sup>2)</sup>Department of ophthalmology, University of Cincinnati Medical Center ): Response of lens epithelial cells to injury : role of lumican in epithelial-mesenchymal transition . *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2003 ; 44 : 2094-2102 .
- 7) Kudo M , Wang Y<sup>1)</sup>, Wani MA<sup>1)</sup>, Xu M<sup>1)</sup>, Ayub A<sup>1)</sup>, Ashraf M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology and Laboratory Medicine, University of Cincinnati Medical Center ): Implantation of bone marrow stem cells reduces the infarction and fibrosis in ischemic mouse heart . *J Mol Cell Cardiol* 2003 ; 35 : 1113-1119 .
- 8) Shinji S , Ishiwata T , Tajiri T , Tanaka N , Seya T , Kawahara K , Yokoyama M , Naito Z : External Whole-body Image of EGFP Gene Expression . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 6 ) : 86-87 .
- 9) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Sawaizumi T<sup>1)</sup>, Matsubara M<sup>2)</sup>, Yokoyama M , Naito Z (<sup>1)</sup>Department of Orthopaedic Surgery , <sup>2)</sup>Division of Surgical Pathology ): Fine needle aspiration cytology for soft tissue tumours of the hand . *J Hand Surg [Br]* 2003 ; 28 ( 6 ) : 582-585 .
- 10) Asano G , Takashi E , Ishiwata T , Onda M , Yokoyama M , Naito Z , Ashraf M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup> : Pathogenesis and protection of ischemia and reperfusion injury in myocardium . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 5 ) : 384-392 .
- 11) Naito Z , Takashi E , Xu G , Ishiwata T , Teduka K , Yokoyama M , Yamada N , Sugisaki Y , Asano G : Different influences of hyperglycemic duration on phosphorylated extracellular signal-regulated kinase 1/2 in rat heart . *Exp Mol Pathol* 2003 ; 74 ( 1 ) : 23-32 .
- 12) Ishiwata T , Naito Z , Fujii T , Ishiwata S : Effect of morpholino antisense oligonucleotide against lumican mRNA in human embryonic kidney ( HEK ) 293 cells . *Pathol Int* 2004 ; 54 : 77-81 .
- 13) Xu G , Takashi E , Kudo M , Ishiwata T , Naito Z : Contradictory effects of short- and long-term hyperglycemias on ischemic injury of myocardium via intracellular signaling pathway . *Exp Mol Pathol* 2004 ; 76 : 57-65 .
- 14) Niggemann P<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Naito Z , Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology ): A comparative study of the microcirculatory changes in the developing liver cirrhosis between the central and peripheral parts of the main lobe in mice . *Hepatol Res* 2004 ; 28 : 57-65 .
- 15) Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Yokota A<sup>2)</sup>, Nakai A<sup>2)</sup>, Liu A<sup>3)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup>Department of Pathology, Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup>Obstetrics and Gynecology, Tamanagayama Hospital , <sup>3)</sup>Central Institute for Electron microscopic Research ): Deciduioid mesothelioma in the pelvic cavity . *Pathol Int* 2004 ; 54 : 67-72 .
- 16) Xu G , Takashi E : Opposite Effects of Short- and Long-Term Hyperglycemia on Ischemic Injury of Myocardium via Intracellular Signaling Pathway . *Exp Mol Pathol* 2004 ; 76 : 57-65 .
- 17) Naito Z , Takashi E : Different influences of hyperglycemic duration on phosphorylated extracellular signal-regulated kinase 1/2 in rat heart . *Exp Mol Pathol* 2004 ; 74 : 23-32 .
- 18) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 内藤

- 善哉 (1) 外科学第1): 下行結腸癌卵管転移の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2003 ; 23 (5): 815-819 .
- 19) 恩田宗彦, 津久井拓<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 関節リウマチの長期経過中に合併した全身性エリテマトーデスの1例. 内科 2003 ; 92 (5): 951-959 .
- 20) 松原美幸<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 横山宗伯, 恩田宗彦 (<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第1): 間質性肺炎に出現する異型腺系細胞. 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 : 271-274 .
- 21) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 恩田宗彦 (<sup>1)</sup>放射線医学): CTガイド下経皮肺性軒の実際. 臨床画像 2003 ; 19 : 422-428 .
- 22) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 武内俊次<sup>2)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同整形外科): 超音波と穿刺吸引細胞診 軟部腫瘍: 細胞形態学的特徴と画像診断. Med Technol 2003 ; 31 (12): 1289-1296 .
- 23) 松原美幸, 川本雅司, 横山宗伯, 恩田宗彦, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): 間質性肺炎に出現する異型腺系細胞. 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 (4): 271-274 .
- 24) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, LIU A-M<sup>3)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>電子顕微鏡施設): 脳原発小細胞骨肉腫の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 (3): 224-229 .
- 25) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 柳田裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同外科): 乳腺硬癌に関する細胞学的, 組織学的検討 穿刺吸引細胞診でいかに正しく診断するか. 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 (1): 64-72 .
- 26) 高橋 翼<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕広<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>外科学第1): 硬化型と肉腫様変化を伴う肝細胞癌の1切除例. 肝臓 2003 ; 44 (10): 533-537 .
- 27) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup>臓器病態制御外科): 腹壁癭痕ヘルニア破裂の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2004 ; 23 (5): 815-819 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) Y M<sup>1)</sup>, Matubara M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Kitagawa Y<sup>3)</sup>, Takeuti T<sup>3)</sup>, Ito H<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Division of Surgical Pathology, <sup>2)</sup>Division of Surgical Pathology, Tamagayama Hospital, <sup>3)</sup>Department of Orthopedic Surgery): Fine Needle Aspiration Cytology of Soft-tissue Tumors. The Ninth Thai-Japanese Workshop in a diagnostic Cytopathology (Hua-Hin), 2003 . 1 .
- 2) Y M<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Watanabe M<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Komine O<sup>1)</sup>, M2 Y<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Center for Digestive Diseases, Second Hospital Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Division of Pathology, Second Hospital Nippon Medical School ): Expression of keratinocyte growth factor receptor (KGFR/FGFR-2IIIb) in human colorectal cancer cell lines and colorectal cancer tissues. The 20th congress of pan-pacific surgical association Japan chapter (GUAM), 2003 . 10 .
- 3) Shinji S<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Takasaki H<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Aida K<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Kan H<sup>1)</sup>, Matuda A<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Yokoyama M, Naito Z, Sugisaki Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Tamagayama Hospital, <sup>2)</sup>Department of Pathology): TS, DPD, TP, OPRT Gene expression in colorectal carcinoma using RT-PCR after Laser Capture Microdissection (LCM) from paraffin embedded samples. 11th United European Gastroenterology Week 2003 (Madrid), 2003 . 11 .
- 4) Shinji S<sup>1)</sup>, T, T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Ishiwata T, N, Z, Sugisaki Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery,



- <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital): Lumican expression in human carcinoid tumor . 11th United European Gastroenterology Week 2003 ( Madrid ), 2003 . 11 .
- 5) Machida M<sup>1)</sup>, Kameyama K, Onda M, Endo M<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Radiology): Basical examination of an atherosclerotic protein-lipid composition model for the stabilization of atheroma by way of a photosensitivity agent or hematoporphyrin . European Congress of Radiology ( Vienna ), 2004 . 3 .
- 6) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 恩田宗彦, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隅崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学ハイテクリサーチセンター): 動脈硬化モデルにおけるヘマトポルフィリンを用いたフォトシグナル解析 . 第62回日本医学放射線学会総会, 2003 . 4 .
- 7) 横山宗伯, 北川泰之<sup>1,2)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 恩田 宗彦, 田村浩一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科学,<sup>2)</sup> 付属病院病理部): 紡錘形細胞肉腫の亜型診断, 3例の診断困難例 . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 8) 王 若皎, 石渡俊行, 内藤善哉, 恩田宗彦, 横山宗伯, 杉崎祐一: ラット血管平滑筋細胞の増殖におけるKGFとその受容体の発現と役割 . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 9) 横山宗伯, 恩田宗彦, 内藤善哉, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>2)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部,<sup>2)</sup> 整形外科学,<sup>3)</sup> 中央電顕施設): 紡錘形細胞肉腫の亜型診断, 3例の診断困難例 . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 10) 北川泰之<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 沢泉卓哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 整形外科学,<sup>2)</sup> 多摩永山病院病理部): 手の軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の経験 . 第46回日本手の外科学会総会, 2003 . 4 .
- 11) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>2)</sup>, 松島申治<sup>2)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉, 劉 愛民<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部,<sup>2)</sup> 多摩永山病院外科,<sup>3)</sup> 中央電子顕微鏡施設): 肺・縦隔腫瘍の術中迅速診断に対する細胞診および免疫染色の応用 . 第44回日本臨床細胞学会総会, 2003 . 5 .
- 12) 鈴木康之<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 青木孝文<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>1)</sup>, 横山宗伯 (<sup>1)</sup> 整形外科学): 骨化性脂肪腫の1例 . 第36回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2003 . 7 .
- 13) 横山宗伯, 内藤善哉, 北川泰之<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 武内俊次<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 整形外科,<sup>2)</sup> 付属病院病理部,<sup>3)</sup> 多摩永山病院病理部,<sup>4)</sup> 同整形外科): 軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の有用性, 日本医大7年間の経験 . 第36回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2003 . 7 .
- 14) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター,<sup>2)</sup> 同病理部): 培養大腸癌細胞およびヒト大腸癌組織における keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR 2IIIb ) の発現 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 15) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 田村浩一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1,<sup>2)</sup> 付属病院病理部): 腹部食道癌における組織型による p53 および VEGF の発現の相違に関する検討 . 第62回日本癌学会総会, 2003 . 9 .
- 16) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 外科学第1): Laser Capture Microdissection を用いた RT-PCR 法による大腸癌切除パラフィン包埋標本における核酸代謝酵素の mRNA 発現量の検討 . 第62回日本癌学会総会, 2003 . 9 .
- 17) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 秋山 裕美<sup>2)</sup>, 武内俊次<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>4)</sup>, 北川泰之, 横山宗伯 (<sup>1)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設,<sup>2)</sup> 多摩永山病院病理部,<sup>3)</sup> 同整形外科,<sup>4)</sup> 付属病院病理部): 四肢の顆粒細胞腫の2例 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 18) Gulnar K, 石渡俊行, 横山宗伯, 内藤善哉, 杉崎 祐一: ヒト子宮頸癌における Keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR2iiib ) の局在の検討 . 第62回日本癌学会総会, 2003 . 9 .
- 19) 徐 光, 喬 炎, 手塚 潔, 工藤光洋, 石渡俊行: 高血糖状態による虚血再灌流傷害と心筋細胞のアポトーシス: 細胞内伝達情報経路の関与 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .

- 20) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉, 田村浩一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理部): 下部食道扁平上皮癌におけるp53およびVEGFの発現に関する免疫組織化学的検討. 第14回消化器癌発生学会, 2003. 10.
- 21) 横山宗伯, 松原美幸<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 土屋真一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 川本雅司<sup>4)</sup>, 内藤善哉(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>整形外科, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>4)</sup>病理学第1): 多型細胞肉腫の細胞像を示した肺癌大腿部転移と思われる1例. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 22) 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 土屋真一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 横山宗伯(<sup>1)</sup>病理部): 口腔の穿刺細胞診に出現した悪性エナメル上皮腫の1例. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 23) 浅川一恵<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 土屋真一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 土居大祐<sup>2)</sup>, 横山宗伯(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>女性診療科・産科): 類内膜腺癌を否定し得なかった子宮留膿腫の1例. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 24) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 恩田宗彦, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隅崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 動脈硬化粥腫タンパク脂質モデルに対する光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いた粥腫安定化への基礎検討. 第44回日本脈管学会総会, 2003. 11.
- 25) 勝田美和子, 田尻 孝, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 谷合信彦, 木山輝郎, 内田英二, 進士誠一, 笹島耕二, 山下精彦, 石渡俊行, 内藤善哉, 田村浩一, 杉崎祐一: 下部食道癌におけるp53およびVEGFの発現に関する免疫組織化学的検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 26) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 内藤善哉(<sup>1)</sup>外科学第1): 下行結腸癌卵管転移の1例. 第58回日本大腸肛門病学会, 2003. 11.
- 27) 亀山孝二, 町田 稔<sup>1)</sup>, 王 若皎, 恩田宗彦, 横山宗伯, 内藤善哉(<sup>1)</sup>放射線医学): 冠動脈硬化脂質蓄積病巣の偏光成分と間質成分モデルの散乱分光と位相解析. 第44回日本脈管学会総会, 2003. 11.
- 28) 徐 光, 喬 炎, 石渡俊行, 内藤善哉: 心筋細胞のアポトーシスと高血糖による虚血再灌流傷害増悪の機序解明. 第14回(学)日本医科大学外国人留学生研究発表会, 2003. 11.
- 29) 喬 炎, 徐 光, 石渡俊行, 内藤善哉: ERK1/2の高血糖による活性化と虚血心筋細胞のapoptosis. 第10回日本未病システム学会, 2004. 1.

## 10. 微生物学・免疫学講座

### 研究概要

当微生物学・免疫学講座では「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、教室員および大学院生が一丸となって感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などに関連した研究を展開し、将来の医学への応用をめざしている。

#### 感染症学および感染免疫学：

[A] HIVに対する免疫応答の検討とワクチン開発：(1) HIV-P18特異的キラーT細胞(CTL)をウイルス外皮糖蛋白gp120抗原とTLR3のligandであるpoly(I:C)で皮下免疫することによって誘導されることを見いだした。(2) P18-特異的T細胞レセプター発現トランスジェニックマウスにP18組み換えワクチニアウイルスを腹腔内接種したところ、ウイルス粒子が小腸に集積し粘膜上皮内リンパ球が活性化しウイルス制御を担うことを発見した。(3) 非分裂系である樹状細胞に効率よく感染するNef遺伝子欠損HIVを開発した。

[B] 皮膚・粘膜組織における基本免疫系の解明：(1) 皮内ランゲルハンス細胞は一般の樹状細胞は異なりLPSに応答するTLR4を欠損しており、皮膚常在菌には反応しにくい状況にあることを観察した。(2) 経口投与した骨粗鬆症に対する薬剤Risendronateは粘膜免疫を担うV<sub>2</sub>V<sub>2</sub>T細胞を活性化させた。

[C] ヘリコバクター・ピロリのウレアーゼを不活性化する抗体が感染予防効果を有するか否かを追跡するためのマウスモデル系を確立した。

[D] 結核菌脂質抗原を提示する新しいタイプの抗原提示分子であるCD1分子について、基礎・臨床両面での研究を展開している。とくに今後の抗結核脂質ワクチンの開発をめざし、モルモットを用いた結核菌感染モデルの確立やCD1トランスジェニックマウスの作製・解析を進めている。

#### 腫瘍免疫学：

[A] 腫瘍抗原の同定(1) 弱酸抽出法により得られた腫瘍抗原を付与した異型の樹状細胞によりNKT細胞が誘導されることを見いだした。また、X線照射によってもこうした抗原が効率よく得られることを発見した。(2) T細胞腫瘍にFP遺伝子を発現させた場合、この腫瘍を制御するのは、NKT細胞に類似した細胞群であることを突き止めた。今後は、基本免疫システムを利用した腫瘍免疫の研究が展開されていくものと期待される。

アレルギー・膠原病学：IgA腎症の発病モデルマウスを使用し、その原因が粘膜におけるIgA分泌を担うpoly IgRの発現低下に関与することを見いだした。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shinya E, Hidaka C, Owaki A, Shimizu M, Li Y, Watanabe K, Watari E, Hayami M<sup>1)</sup>, Klatzmann D<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Institute for Virus Research, Kyoto University, <sup>2)</sup> Laboratoire de biologie et therapeutique des pathologies immunitaires ): Effect of Nef-deleted pseudotyped HIV virions bearing an enhanced green fluorescent protein gene in the env on HIV-sensitive transformed T cells. Biomed Res 2003; 24(4): 59-69.
- 2) Iida T<sup>1)</sup>, Kuwata T<sup>2)</sup>, Ui M<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Miura T<sup>2)</sup>, Ibuki K<sup>2)</sup>, Takahashi H, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Imanishi J<sup>1)</sup>, Hayami M<sup>2)</sup>, Kita M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology, Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>2)</sup> Laboratory of Viral Pathogenicity, Institute for Virus Research, Kyoto University ): Augmentation of antigen-specific cytokine responses in the early phase of vaccination with a live-attenuated simian/human im-

muno-deficiency chimeric virus expressing IFN-g . Arch Virol 2003 ; 149 ( 4 ) : 743-757 .

- 3) Kawashima T , Norose Y , Watanabe Y , Enomoto Y , Narazaki H , Watari E , Tanaka S<sup>1)</sup> , Takahashi H , Yano I<sup>2)</sup> , Brenner Michael B<sup>3)</sup> , Sugita M ( <sup>1)</sup>Second Department of Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Japan BCG Laboratory , <sup>3)</sup>Lymphocyte Biology Section, Division of Rheumatology, Immunology, and Allergy, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School ) : Major CD8 T cell response to live Bacillus Calmette-Guerin is mediated by CD1 molecules . J Immunol 2003 ; 170 ( 11 ) : 5345-5348 .
- 4) Fujimoto C , Nakagawa Y , Shimizu M , Ohara K<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup>Department of Ophthalmology ) : Isolation of antigenic substances from HIV-1 envelope gp120 gene transfectants by mild acid elution and X-irradiation treatment : for the development of CTL-based immunotherapy . Biomed Res 2003 ; 24 ( 6 ) : 115-124 .
- 5) Takeuchi J , Watari E , Shinya E , Norose Y , Matsumoto M<sup>1)</sup> , Seya T<sup>1)</sup> , Sugita M , Kawana S<sup>2)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup>Department of Immunology, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease , <sup>2)</sup>Department of Dermatology, Nippon Medical School ) : Down-regulation of Toll-like receptor expression in monocytes-derived Langerhans cell-like cells : implications of low-responsiveness to bacterial components in the epidermal Langerhans cells . Biochem Biophys. Res Commun 2003 ; 306 ( 4 ) : 674-679 .
- 6) Akahata W<sup>1)</sup> , Ido E<sup>1)</sup> , Akiyama H<sup>1)</sup> , Uesaka H<sup>1)</sup> , Enose Y<sup>1)</sup> , Horiuchi R<sup>1)</sup> , Kuwata T<sup>1)</sup> , Goto T<sup>2)</sup> , Takahashi H , Hayami M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Institute for Virus Research, Kyoto University , <sup>2)</sup>College of Medical Technology, Kyoto University ) : DNA vaccination of macaques by a full-genome simian/human immunodeficiency virus type 1 plasmid chimera that produces non-infectious virus particles . J Gen Virol 2003 ; 84 ( 8 ) : 2237-2244 .
- 7) Pena-Cruz V<sup>1)</sup> , Ito S<sup>2)</sup> , Dascher Christopher C<sup>3)</sup> , Brenner Michael B<sup>3)</sup> , Sugita M ( <sup>1)</sup>Department of Immunology and Infectious Disease, Harvard School of Public Health , <sup>2)</sup>Department of Neurobiology, Harvard Medical School , <sup>3)</sup>Division of Rheumatology, Immunology, and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School ) : Epidermal Langerhans cells efficiently mediate CD1a-dependent presentation of microbial lipid antigens to T cells . J Invest Dermatol 2003 ; 121 ( 3 ) : 517-521 .
- 8) Cernadas M<sup>1)</sup> , Sugita M , van der Wel N<sup>2)</sup> , Cao X<sup>3)</sup> , Gumperz Jenny E<sup>4)</sup> , Maltsev S<sup>5)</sup> , Besra Gurdyal S<sup>5)</sup> , Behar Samuel M<sup>4)</sup> , Peters Peter J<sup>2)</sup> , Brenner Michael B<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Division of Pulmonary and Critical Care Medicine , <sup>2)</sup>The Nether lands Cancer Institute , <sup>3)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Department of Cellular Biochemistry, Max Plank Institute of Biochemistry , <sup>4)</sup>Lymphocyte Biology Section, Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Department of Medicine, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School , <sup>5)</sup>School of Biosciences, University of Birmingham ) : Lysosomal localization of murine CD1d mediated by AP-3 is necessary for NK T cell development . J Immunol 2003 ; 171 ( 8 ) : 4149-4155 .
- 9) Ishii R , Shimizu M , Nakagawa Y , Shimizu K<sup>1)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup>Second Department of Surgery ) : In vivo priming of natural killer T cells by dendritic cells pulsed with hepatoma-derived acid-eluted substance . Cancer Immunol Immunother 2003 ; 53 ( 11 ) : 383-390 .
- 10) Kim Y , Nakagawa Y , Sugiyama H , Sihimizu M , Takeshita T<sup>1)</sup> , Araki T<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology ) : Induction of CD4<sup>+</sup> murine natural killer T-like cells by immunization with syngeneic thymoma expressing embryonic a-fetoprotein . Cell Immunol 2003 ; 226 ( 1 ) : 1-10 .
- 11) Fujimoto C , Nakagawa Y , Ohara K<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup>Department of Ophthalmology ) : Polyriboinosinic polyribocytidylic acid ( Poly ( I : C ) ) /TLR3 signaling allows class I processing of exogenous protein and induction of HIV-specific CD8<sup>+</sup> CTLs . Int Immunol 2004 ; 16 ( 1 ) : 55-63 .
- 12) Yanagihara T , Kumagai Y , Norose Y , Moro I<sup>1)</sup> , Nanno M<sup>2)</sup> , Murakami M<sup>3)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup>Department of Pathology, Nihon University School of Dentistry , <sup>2)</sup>Department of Pathology, Nihon University School of Dentistry , <sup>3)</sup>Department of Pediatrics, Nippon Medical School ) : Age dependent decrease of poly-

meric Ig receptor expression and IgA elevation in ddY mice : a possible cause of IgA nephropathy . Lab Invest 2004 ; 84 ( 1 ): 63-70 .

- 13) Saito T , Tada K , Shimizu M , Nakamura T<sup>1)</sup> , Ito H<sup>2)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Institute of Medical Science for Aging , <sup>2)</sup> Department of Orthopedics, Nippon Medical School ): Orally administrated residronate can commit V 2V 2 T cells to IFN-g secreting effectors in patients with osteoporosis . Biomed Res 2004 ; 24 ( 1 ): 59-69 .
- 14) Winau F<sup>1)</sup> , Schwierzeck V<sup>1)</sup> , Hurwitz R<sup>2)</sup> , Rimmel N<sup>3)</sup> , Sieling Peter A<sup>4)</sup> , Modlin Rober L<sup>4)</sup> , Porcelli Steven A<sup>5)</sup> , Brinkmann V<sup>6)</sup> , Sugita M , Sandhoff K<sup>3)</sup> , Kaufmann Stefan H E<sup>1)</sup> , Schaible Ulrich E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Immunology, Max-Planck-Institute for Infection Biology , <sup>2)</sup> Central Core Facility Protein ABiochemistry, Max-Planck-Institute for Infection Biology , <sup>3)</sup> Kekule Institute of Organic Chemistry and Biochemistry , <sup>4)</sup> Division of Dermatology, Department of Medicine, David Geffen School of Medicine at UCLA , <sup>5)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Albert Einstein College of Medicine , <sup>6)</sup> Max-Planck-Institute for Infection Biology, Central Core Facility Microscopy ): Saposin C is required for lipid presentation by human CD1b . Nat Immunol 2004 ; 5 ( 2 ): 169-174 .

## (2) 綜説 :

- 1) 高橋秀実 : HIV ワクチンの展望 . Vita 2003 ; 20 ( 4 ): 43-47 .
- 2) Takahashi H : Antigen presentation in vaccine development . Comp Immunol Microbiol & Infect Dis 2003 ; 26 : 309-328 .
- 3) Sugita M , Cernadas M<sup>1)</sup> , Brenner Michael B<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonary and Critical Care Medicine, Brigham and Women's Hospital , <sup>2)</sup> Lymphocyte Biology Section, Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School ): New insights into pathways for CD1-mediated antigen presentation . Current Opinion in Immunology 2004 ; 16 ( 1 ): 90-95 .
- 4) 川島徹生 , 杉田昌彦 : CD1 分子を介した脂質抗原提示 : 結核菌と闘う新しい免疫システム . 医学のあゆみ 2003 ; 205 ( 1 ): 41-44 .
- 5) 高橋秀実 : ウイルス感染と免疫応答 . 炎症と免疫 2003 ; 11 ( 3 ): 247-248 .
- 6) 高橋めぐみ , 中川洋子 , 高橋秀実 : エピトープペプチドによるキラー T 細胞の特異的活性抑制と細胞死の誘導 . 炎症と免疫 2003 ; 11 ( 3 ): 249-255 .
- 7) 高橋秀実 : 免疫システムの新たな実体 : 基本免疫と獲得免疫 . 日本臨床腸内微生物学会雑誌 2003 ; 4 ( 1 ): 30-34 .
- 8) 杉田昌彦 : CD1 : 結核菌感染防御を担う新たな免疫システム . 炎症・感染・免疫 2003 ; 33 ( 4 ): 20-30 .
- 9) 榎本 豊 , 杉田昌彦 : CD1 分子を介した結核菌脂質抗原の提示 . 臨床免疫 2004 ; 41 ( 1 ): 83-87 .
- 10) 渡邊嘉之 , 杉田昌彦 : 結核免疫における CD1 分子の役割 . Annual Review 2004 呼吸器 2004 ; 9-15 .
- 11) 大脇敦子 , 中川洋子 , 杉田昌彦 : 結核菌脂質に対する免疫応答とその意義 . 化学療法の領域 2004 ; 20 ( 2 ): 105-109 .
- 12) 川島徹生 , 渡理英二 , 野呂瀬嘉彦 , 杉田昌彦 : 結核菌に対する CD8T 細胞応答性には CD1 分子が関与する . 臨床免疫 2004 ; 41 ( 3 ) .

## 著 書

- 1) 高橋秀実 , 林 英生 , 岩本愛吉 , 神谷 茂 : [ 共著 ] ブラック微生物学 , 2003 ; 丸善 .
- 2) 高橋秀実 , 永田和宏 , 宮坂昌之 , 宮坂信之 , 山本一彦 : [ 共著 ] 分子生物学・免疫学キーワード辞典 , 2003 ; 医学書院 .

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：ピロリ菌ウレアーゼに対する免疫応答と胃病変．第2回 Tokyo Downtown Medical Forum，2003．1．
- 2) 高橋秀実：免疫学の視点から見た東洋医学．第19回日本大学東洋医学研究会学術集会，2003．4．
- 3) 高橋秀実：感染症における様々な症候の本体．2003年国際歯科学士会日本部会，2003．12．
- 4) 高橋秀実：Innate ImmunityとAcquired Immunityとの相互関連：エイズワクチン開発に向けて．平成16年富山医科薬科大学学術講演会，2004．2．

### (2) 招待講演：

- 1) 杉田昌彦：結核菌感染防御を担う新たな免疫システム．国立感染症研究所セミナー，2003．4．
- 2) 杉田昌彦：CD1・脂質抗原提示系が担う感染防御機構．第11回東京免疫フォーラム，2003．5．
- 3) 杉田昌彦：CD1・脂質抗原提示系が担う生体防御機構の研究：その現状と未来．京都大学ウイルス研究所セミナー，2003．6．
- 4) 杉田昌彦：CD1：脂質抗原提示系が担う生体防御機構．獨協医科大学セミナー，2003．7．
- 5) 杉田昌彦：CD1：結核菌感染防御を担う新しい免疫システム．呼吸器感染免疫研究会・第12回京都セミナー，2003．8．
- 6) 杉田昌彦：CD1：脂質抗原を提示する新しいタイプの抗原提示分子．漢方医薬財団研究会，2003．9．
- 7) 杉田昌彦：細菌脂質に対する免疫応答：臨床展開に向けて．第30回多摩耳鼻咽喉科臨床研究会，2003．11．

### (3) シンポジウム：

- 1) Sugita M：Major CD8 T cell response to mycobacteria is mediated by CD1 molecules．The Awaji International Forum on Infection and Immunity (Awaji-shima, Japan)，2003．8．
- 2) 杉田昌彦：細菌由来脂質成分の認識機構．第14回日本生体防御学会シンポジウム，2003．7．
- 3) 高橋秀実：Poly (I : C) を介した外来性ウイルス蛋白特異的なCTLの誘導．第51回日本ウイルス学会総会，2003．10．
- 4) 高橋秀実：HIV ワクチン開発における新たな方策と免疫学的指標．ヒューマンサイエンス財団主催エイズワクチンシンポジウム，2003．10．

### (4) ワークショップ：

- 1) Takahashi H, Ichikawa M, Satomi M, Takahashi M, Sugita M, Takeshita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology ): Expression of DC-SIGN on breast milk macrophages : Implications for HIV vertical transmission . The 3rd Awaji International Forum on Infection and Immunity ( Awaji-shima, Japan ), 2003 . 8 .
- 2) Fujimoto C, Goto R, Nakagawa Y, Takahashi H : Poly ( I : C ) signaling allows class I processing of exogenous protein and induction of HIV-specific CTLs . The 3rd Awaji International Forum on Infection and Immunity ( Awaji-shima, Japan ), 2003 . 8 .
- 3) Pena-Cruz V<sup>1)</sup>, Ito S<sup>2)</sup>, Dascher Christopher C<sup>3)</sup>, Brenner Michael B<sup>4)</sup>, Sugita M ( <sup>1)</sup> Department of Immunology and Infectious Disease, Harvard School of Public Health , <sup>2)</sup> Department of Neurology, Harvard Medical School , <sup>3)</sup> Division of Rheumatology, Immunology, and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School ): Epidermal Langerhans cells efficiently mediated CD1a-dependent presentation of microbial lipid antigens to T cells . 8th International Workshop on Langerhans cells ( Tokyo, Japan ), 2003 . 9 .
- 4) Takeuchi J, Watari E, Shinya E, Norose Y, Matsumoto M<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Sugita M, Kawana S<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Immunology, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease , <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School ): Down-regulation of toll-like receptor expression in monocyte-derived Langerhans cell-like cells : implications of low-responsiveness to bacterial components in epidermal langerhans cells . 8th International Workshop in Langerhans cells ( Tokyo, Japan ), 2003 . 9 .

- 5) Takahashi H, Fujimoto C, Nakagawa Y : Polyriboinosinic Polyribo-cytidylic Acid ( Poly ( I : C )) /TLR3 signaling allows class I processing of exogenous protein and induction of HIV-1 gp120-specific CD8<sup>+</sup> CTLs . Japan-US Cooperative Medical Science Program : The 16th Joint Scientific Meeting of AIDS ( Nashville, USA ), 2004 . 3 .
- 6) Sugita M : AP-3-dependent immunity against microbial infection . 第56回日本細胞生物学会シンポジウム , 2003 . 5 .
- 7) 杉田昌彦, 倉根修二 : 新しいワクチン戦略 : その理論と実際 . 第52回日本感染症学会東日本地方会・第50回日本化学療法学会東日本支部会・第86回日本細菌学会関東支部会合同学術集会 合同学術集会ワークショップ , 2003 . 10 .
- (5) 一般講演 :
- 1) Shinya E, Owaki A, Shimizu M, Watanabe E, Satomi M, Hidaka C, Watari E, Takahashi H : HIV-1 augmented interleukin ( IL ) -12p70 production but inhibited phenotypic maturation of LPS stimulated-dendritic cells . 第16回日本エイズ学会総会 , 2003 . 11 .
  - 2) Watanabe Y, Watari E, Enomoto Y, Owaki A, Norose Y, Takahashi H, Hiromatsu K<sup>1)</sup>, Yano I<sup>2)</sup>, Sugita M ( <sup>1)</sup>Department of Parasitology, Miyazaki Medical School , <sup>2)</sup>Japan BCG Laboratory ): In vivo induction of CD1-dependent immunity by BCG vaccine . 第33回日本免疫学会総会 , 2003 . 12 .
  - 3) Sugita M, Pena-Crua V<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Immunology and Infectious Disease, Harvard School of Public Health ): Epidermal Langerhans cells efficiently mediate CD1a-dependent presentation of microbial lipid antigens to T cells . 第33回日本免疫学会総会 , 2003 . 12 .
  - 4) Shinya E, Owaki A, Shimizu M, Takeuchi J, Satomi M, Hidaka C, Watari E, Sugita M, Takahashi H : Human immunodeficiency virus-1 Nef down regulates lipid antigen presenting CD1a in immature dendritic cells : another way for immune evasion? . 第33回日本免疫学会総会 , 2003 . 12 .
  - 5) Kumagai Y, Tanagihara T, Yamanishi S, Iizumi T, Norose Y, Takahashi H : The increase of serum IgA level in aged ddy mice is caused by the decrease of poly-Ig receptor expression on the mucosal surface . 第33回日本免疫学会総会 , 2003 . 12 .
  - 6) Takahashi H, Fujimoto C, Watanabe E, Owaki A, Watari E, Nakagawa Y : Polyriboinosinic polyribo-cytidylic acid ( Poly ( I : C )) /TLR3 signaling allows class I processing of exogenous protein and induction of HIV-specific CD8<sup>+</sup> CTLs . 第33回日本免疫学会総会 , 2003 . 12 .
  - 7) 堀内勲生<sup>1)</sup>, 榎瀬良美<sup>1)</sup>, 伊吹謙太郎<sup>1)</sup>, 三宅在子<sup>1)</sup>, 鈴木 元<sup>1)</sup>, 高橋めぐみ, 斉藤尚紀<sup>1)</sup>, 仲宗根正<sup>2)</sup>, 本多三男<sup>2)</sup>, 高橋秀実, 速水正憲<sup>1)</sup>, 三浦智行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>京大ウイルス研 , <sup>2)</sup>国立感染症研究所・エイズ研究センター ): 強毒SHIVのアカゲザル経直腸感染初期における腸管粘膜免疫応答の解析 . 第51回日本ウイルス学会総会 , 2003 . 10 .
  - 8) 斉藤尚紀<sup>1)</sup>, 高橋めぐみ, 赤畑 渉<sup>1)</sup>, 清水真澄, 日高千鶴乃, 新谷英滋, 伊吹謙太郎<sup>1)</sup>, 三浦智行<sup>1)</sup>, 速水正憲<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>京大ウイルス研 ): SIV/SHIV接種ザルにおけるNKT細胞の動態解析に向けて : サルCD1d分子の解析と発現 . 第16回日本エイズ学会総会 , 2003 . 11 .
  - 9) 里見操緒, 清水真澄, 市川雅男, 新谷英滋, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>産婦人科学 ): ヒト母乳中マクロファージを介したHIV感染伝播メカニズムの解明に向けて . 第16回日本エイズ学会総会 , 2003 . 11 .
  - 10) 栗林秀樹, 若林あや子, 清水真澄, 金子礼志<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦, 中川洋子, Wang J<sup>2)</sup>, 熊谷善博, Margulies David H<sup>2)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>日本医科大学リウマチ科 , <sup>2)</sup>Molecular Biology Section, National Institute of Allergy and Infectious Disease, National Cancer Institute, National Institutes of Health ): HIV-V3 ( P18 ) 特異的CTL-TCR発現トランスジェニックマウスを用いたウイルス感染防御能の解析 . 第16回日本エイズ学会総会 , 2003 . 11 .
  - 11) 蔭山豪一<sup>1)</sup>, 金川寿賀代<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>2)</sup>, 杉田昌彦, 小柴賢洋<sup>1)</sup>, 河野誠司<sup>1)</sup>, 熊谷俊一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>神戸大学大学院

- 臨床病態免疫学,<sup>2)</sup>大阪医科大学病態検査学): TAP2変異遺伝子(TAP\*2Bky2)を導入した細胞のMHC class Iが提示するペプチドの同定. 第33回日本免疫学会総会, 2003. 12.
- 12) 杉山弘高, 金 栄淳, 中川洋子, 清水真澄, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 高橋秀実(<sup>1)</sup>産婦人科学): IL-13を分泌しCD25<sup>+</sup>CD4<sup>+</sup>CD3<sup>+</sup>でかつNKT様の形質を持つ新しいT細胞の誘導と解析. 第33回日本免疫学会総会, 2003. 12.
- 13) 斉藤 善, 多田欣司, 清水真澄, 中村哲郎<sup>1)</sup>, 高橋秀実(<sup>1)</sup>加齢医科学研究所): 骨粗鬆症患者におけるセドロネード内服投与によるgdT細胞への影響. 第33回日本免疫学会総会, 2003. 12.
- 14) 中川洋子, 清水真澄, 渡邊恵理, 栗林秀樹, 高橋秀実: HIV-env抗原特異的キラーT細胞の認識エピトープに関する研究: 細胞外processingの可能性について. 第33回日本免疫学会総会, 2003. 12.
- 15) 清水真澄, 藤本千明, 後藤理恵, 中川洋子, 高橋秀実: 弱酸抽出法ならびにX線照射によるHIV-1エンベロープgp160遺伝子導入細胞からの抗原物質の抽出. 第33回日本免疫学会総会, 2003. 12.
- 16) 渡理英二, 竹内淳子, 清水真澄, 新谷英滋, 野呂瀬嘉彦, 山西慎吾, 松本美佐子<sup>1)</sup>, 瀬谷 司<sup>1)</sup>, 杉田昌彦, 川名誠司<sup>2)</sup>, 高橋秀実(<sup>1)</sup>大阪府立成人病センター・免疫,<sup>2)</sup>日本医大・皮膚科): 単球由来ランゲルハンス細胞様細胞におけるToll-like receptorの発現低下: 表皮ランゲルハンス細胞の細菌菌体成分に対する低応答性. 第33回日本免疫学会総会, 2003. 12.
- 17) 高橋めぐみ, 日高千鶴乃, 速水正憲<sup>1)</sup>, 高橋秀実(<sup>1)</sup>京大・ウイルス研): SIV感染に対するCD4陽性T細胞とCD4/8陽性T細胞の感受性の相違. 第33回日本免疫学会総会, 2003. 12.
- 18) 荒木清人<sup>1)</sup>, 藤尾圭志<sup>1)</sup>, 中川洋子, 高橋秀実, 山本一彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大・院医・アメリウ内科): 単一細胞からの遺伝情報に基づくHIVウイルス特異的T細胞抗原受容体の試験管内における機能的再構築. 第33回日本免疫学会総会, 2003. 12.
- 19) 若林あや子, 西山康裕, 飯泉 匡, 後藤理恵, 清水真澄, 熊谷善博, 高橋秀実: 経口投与によるIELにおけるOVA特異的CTLの動態. 第33回日本免疫学会総会, 2003. 12.



## 11. 衛生学・公衆衛生学講座

### 研究概要

講座主任の交代はあったが、各スタッフの研究内容は継続して進められ、そのまとめを学会あるいは学術論文として発表することができた。主な研究内容を述べると、

- ・重症心身障害者の身体活動度が骨密度に及ぼす影響に関する研究（平成13～15年度科学研究費補助金基盤研究（C）（2））、地域在住女性集団の骨密度の脆弱性に関連する要因の分析、禁煙が健康に及ぼす影響に関する研究（喫煙科学研究財団補助金）（川田智之）
- ・シアン解毒酵素であるメルカプトピルピリン酸硫黄転移酵の構造と機能の研究：1）生体内一酸化硫黄の発生機構と生理作用（内藤記念科学振興財団補助金）2）メルカプト乳酸システインジスルフィド尿症の発症機序および分子疫学（横浜総合医学振興財団補助金）（永原則之）
- ・ウイルス肝炎地域流行の30余年にわたる追跡研究の総括（若山葉子）
- ・免疫系酵素グランザイム3に対するモノクローナル抗体の作製（稲垣弘文）
- ・パーフォリンノックアウトマウスを用いた、有機リン農薬による免疫機能低下機序の解明（平成15年度科学研究費補助金基盤研究（C）（2））、有機リン農薬クロルピリフォスによる細胞死の機序、化学物質によるグランザイムA及びグラニューライシンへの影響（李 卿）
- ・コチニンを指標にした喫煙のバイオロジカルモニタリングと、地域における禁煙介入研究（勝又聖夫）
- ・生体の免疫系におけるグランザイム3の役割の解明（その検出方法と基質特異性の検討）（平田幸代）
- ・鉛中毒で活性低下するポルフォピリノーゲン合成酵素の酵素学的、分子生物学的研究（澤田典里）
- ・大気汚染物質が呼吸器に及ぼす健康影響に関する実験的および疫学的研究（李英姫）

研究テーマはさまざまであるが、環境医科学、広くは衛生・公衆衛生学の中から、各人の興味や学習経験に従い、社会医学に寄与する内容の研究テーマを選んで、すすめられている。特に疫学調査については対象が人であり、長年にわたる研究にもなりうるため、単年度の「業績」という範疇に収まらないことも多い。

研究には明確な「目的」を設定することは必要条件であるが、一方、一時的な興味や流行でテーマが右往左往するのも注意すべきである。確固とした信念を持ちながら、各自の研究がすすめられるように研究環境を整えていきたい。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Sreeja VG, Nagahara N, Li Q, Minami M : New aspects in pathogenesis Konzo : Neural cell damage directly caused by linamarin contained in cassava (*Manihot esculenta Crantz*). Br J Nutri 2003 ; 90 (3): 467-472 .
- 2) Okada S<sup>1)</sup>, Li Q, Whitin John C<sup>1)</sup>, Clayberger C<sup>1)</sup>, Krensky Alan M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Stanford University School of Medicine ): Intracellular Mediators of Granulysin-Induced Cell Death . J Immunol 2003 ; 171 (5): 2556-2562 .
- 3) Kawada T, Ikagawa T<sup>1)</sup>, Ikeda E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Medical Student of Gunma University ): Factors affecting bone mineral density in the general adult female population in Japan . Percept Mot Skills 2003 ; 97 (3): 723-730 .
- 4) Kawada T : Difference of body mass index stratified by the period of smoking cessation from a cross-sectional study . Arch Med Res 2004 ; 35 (2): 181-184 .

- 5) 中台亜里, 稲垣弘文, 南 正康, 高橋秀依<sup>1)</sup>, 南目梨江<sup>1)</sup>, 大沢基保<sup>1)</sup>, 池上四郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学薬学部): 中国製ダイエット用健康食品中の *N*-nitrosofenfluramine の光学純度の決定. 薬学雑誌 2003 ; 123 ( 9 ): 805-809 .
- (2) 綜説 :
- 1) Kawada T : The effect of noise on the health of children . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 1 ): 5-10 .
  - 2) Nagahara N , Li Q , Sawada N : Do antidotes for acute cyanide poisoning act on mercaptopyruvate sulfurtransferase to facilitate detoxification ? . Curr Drug Targets Immune Endocr Metabol Disord 2003 ; 3 ( 3 ): 198-204 .
- (3) 研究報告書 :
- 1) 永原則之: メルカプト乳酸システインジスルフィド尿症の分子疫学的研究. 横浜総合医学振興財団時報報告書 2003 ; pp44-47 .
  - 2) 川田智之: 重症心身障害者の身体活動度が骨密度に及ぼす影響に関する研究. 平成 13 ~ 15 年度科学研究費補助金 ( 基盤研究 ( C ) ( 2 ) ) 研究成果報告書 2004 .
- (4) その他 :
- 1) 永原則之: 研究者の心の支え. 内藤記念財団時報 2003 ; 72 : 16 .

#### 学会発表

- (1) 特別講演 :
- 1) 川田智之: 騒音の睡眠影響: レム睡眠に焦点をあてて. 第 71 回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- (2) 一般講演 :
- 1) Nagahara N : Regulation of mercaptopyruvate pathway in a cysteine metabolism by redox balance : inhibition-reactivation cycle of mercaptopyruvate sulfurtransferase . 8th International Congress on Amino Acids and Proteins ( Roma ), 2003 . 9 .
  - 2) Sawada N , Nagahara N , Kawada T : Activation mechanism of porphobilinogen synthase by a reducing agent . 8th International Congress on Amino Acids and Proteins ( Roma ), 2003 . 9 .
  - 3) 李 卿, Okada S<sup>1)</sup>, Clayberger C<sup>1)</sup>, Krensky Alan M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pediatrics, Stanford University School of Medicine): 農薬 Rotenone が Granulysin による アポトーシスを抑制する. 第 76 回日本産業衛生学会, 2003 . 4 .
  - 4) Sawada N , Nagahara N , Kawada T : The role of 4 cysteines in an active center of porphobilinogen synthase . 第 76 回日本生化学会大会, 2003 . 10 .
  - 5) Nagahara N , Li Q , Shimizu T , Fujii-Kuriyama Y<sup>1)</sup>, Kawada T (<sup>1)</sup>University of Tsukuba): A point mutation is a silencer element markedly reduce a promoter activity of human mercaptopyruvate sulfurtransferase gene : A possible pathogenesis of mercaptolactate-cysteine disulfiduria . 第 76 回日本生化学会大会, 2003 . 10 .
  - 6) Hirata Y , Li Q , Inagaki H , Nagahara N , Kawada T : Tissue distribution of granzyme 3 ( K ) mRNA expression in rats . 第 76 回日本生化学会大会, 2003 . 10 .
  - 7) 川田智之, 勝又聖夫, 若山葉子: 自覚的健康度と生命予後. 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 2003 . 10 .
  - 8) 勝又聖夫, 川田智之, 高橋修和<sup>1)</sup>, 深沢幸枝<sup>2)</sup>, 上田美穂<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>社会福祉法人孝慈会, <sup>2)</sup>山梨県早川町福祉保健課): 住民健診時における喫煙の健康問題への取り組み. 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 2003 . 10 .
  - 9) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: 室内環境汚染物質に対する塗装用塗料の影響. 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 2003 . 10 .
  - 10) 若山葉子, 勝又聖夫, 植田悠紀子<sup>1)</sup>, 川田智之(<sup>1)</sup>県立長崎シーボルト大学看護栄養学部看護学科): 肝炎流行地区の予後の検討. 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 2003 . 10 .
  - 11) 若山葉子, 植田悠紀子<sup>1)</sup>, 川田智之(<sup>1)</sup>県立長崎シーボルト大学看護栄養学部看護学科): ウイルス肝炎流行地

域住民の予後の検討～約30年間の追跡成績～．第68回日本民族衛生学会総会，2003．11．

12) 平田幸代，李 卿，稲垣弘文，永原則之，川田智之：Serine protease inhibitorのヒトGranzyme 3活性への影響．日本薬学会第124年会，2004．3．

13) 平田幸代，稲垣弘文，清水孝子，李 卿，川田智之：抗ヒトGranzyme 3モノクローナル抗体の作製．日本薬学会第124年会，2004．3．

14) 平田紀美子，勝又聖夫，稲垣弘文，川田智之：非喫煙者の環境タバコ煙曝露状況と唾液中Cotinineの関わり．日本薬学会第124年会，2004．3．

(3) 海外留学報告：

1) 李 卿：Granulysinによるアポトーシスおよびそのメカニズム．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．

(4) 国際シンポジウム：

1) Li Q, Nakadai A, Kawada T：Organophosphorus pesticides induce inhibition on cellular immune response．The 21st International Kumamoto Medical Bioscience Symposium (Kumamoto)，2003．10.17．

## 12. 法医学講座

### 研究概要

#### 1. 臨床法医中毒学

急性薬物中毒の疑われる救急患者の緊急薬物分析法を開発し，GC/MS，LC/MS等を用いた高精度の分析システムの開発に取り組んでいる．また，毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析，LC/MSを用いたTetrodotoxin等の微量毒物検出法の開発にも取り組んでいる．

#### 2. トリカプト毒に関する研究

トリカプト毒について，急性中毒のみならず，長期投与における生体内での代謝，死体内での物理・化学的变化等についても実験的研究を行っている．同時にLC/MS，GC/MSによる毒物および代謝物の微量定量法について開発，検討している．

#### 3. アルコール代謝

アルコール代謝の鍵酵素であるADH1・ADH3の寄与とその調節機構を分子生物学・生化学・薬物動態学的に検討している．また，アルコール感受性の性差・個体差，アルコール関連障害の機序を培養細胞およびノックアウトマウスを用いて研究している．さらに，溶液構造の生体への影響について，培養心筋細胞内小器官および分子レベルで検討している．

#### 4. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて死体の筋肉や臓器中のリン化合物・有機酸・アミノ酸などのNMRによる分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し，本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている．また，形成外科学・救急医学等と共同研究を行っている．

#### 5. 法医学実務的研究

平成15年6月より千葉県警察の司法解剖を受託している（法医学解剖室が本学に整備されるまで，当分の間日本大学医学部法医学解剖室を借用）ので，剖検例にかかわる具体的問題を研究・検討している．また，死後変化の病理組織学的検討，死後経過時間推定に関する実務的研究，骨からの年齢推定に関する検討等を行っている．さらに，剖検例以外にも刑事・民事にかかわる事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mashimo K, Sato S<sup>1)</sup>, Ohno Y ( <sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches ): Chronic effects of ethanol on cultured myocardial cells : ultrastructural and morphometric studies . Virchows Arch 2003 ; 442 ( 4 ): 356-363 .
- 2) Sakai Y<sup>1)</sup>, Wakamatsu S<sup>1)</sup>, Hirakawa K ( <sup>1)</sup>Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Tokyo Women's Medical University, Daini Hospital ): Identification of foreign material from abscesses after injection mammoplasty, by implant alleged to be collagen . Plast Reconstr Surg 2003 ; 112 ( 3 ): 931-933 .
- 3) Hayakawa H, Nihira M, Tomita Y, Hayashida M, Ohno Y : Influence of putrefaction on concentrations of *aconitum* alkaloids in tissues . Jpn J Forensic Toxicol 2003 ; 21 ( 3 ): 235-244 .
- 4) Haseba T, Tomita Y, Kurosu M, Ohno Y : Dose and time changes in liver alcohol dehydrogenase ( ADH ) activity during acute alcohol intoxication involve not only classI also classIII ADH and govern elimination rate of blood ethanol . Legal Medicine 2003 ; 5 : 202-211 .

- 5) Shimizu A<sup>1)</sup>, Yamada Y<sup>1)</sup>, Mizuta T<sup>1)</sup>, Haseba T, Sugai S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Bioengineering, Faculty of Engineering, Soka University): The contribution of the dynamic behavior of a water molecule to the amyloid formation of yeast alcohol dehydrogenase. J Mol Liq 2003; 109: 45-52.
- 6) Hayashida M, Hayakawa H, Wada K, Nihira M, Ohno Y: Sensitive determination of tetrodotoxin using column-switching liquid chromatography-mass spectrometry with electrospray ionization in mouse serum. Journal of Analytical Toxicology 2004; 28(1): 46-49.
- 7) Tomita Y, Nihira M, Ohno Y, Sato S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches): Ultrastructural changes during in situ early postmortem autolysis in kidney, pancreas, liver, heart and skeletal muscle of rats. Legal Medicine 2004; 6: 25-31.
- 8) 大野曜吉: 保険金支払紛争例における鑑定: 鑑定人の立場から. 賠償科学 2003; 29: 37-45.
- 9) 矢嶋幸仁<sup>1)</sup>, 舟山真人<sup>1)</sup>, 境 純<sup>1)</sup>, 橋谷田真樹<sup>1)</sup>, 那谷雅之<sup>1)</sup>, 金涌佳雅<sup>1)</sup>, 美作宗太郎<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 大野曜吉(<sup>1)</sup>東北大学大学院医学系研究科社会医学講座法医学分野): 特異な成傷器による損傷の考察. 法医学の実際と研究 2003; 46: 77-84.
- 10) 栗崎恵美子<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 大野曜吉, 増子博文<sup>2)</sup>, 岡野高明<sup>2)</sup>, 丹羽真一<sup>2)</sup>, 平岩幸一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>福島県立医科大学医学部法医学, <sup>2)</sup>同神経精神医学): Triageによる抗うつ剤のスクリーニング. 法医学の実際と研究 2003; 46: 95-98.

(2) 座談会:

- 1) 野村好弘<sup>1)</sup>, 平沼高明<sup>2)</sup>, 大野曜吉, 伊藤文夫<sup>3)</sup>, 杉田雅彦<sup>4)</sup>, 黒井克昌<sup>5)</sup>, 塩崎 勤<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立大学法学部教授, <sup>2)</sup>昭和大学医学部客員教授・弁護士, <sup>3)</sup>損害保険料率算出機構, <sup>4)</sup>静岡県弁護士会・弁護士, <sup>5)</sup>昭和大学付属豊洲病院外科助教授, <sup>6)</sup>桐蔭横浜大学法学部教授・弁護士): 判例診断「乳癌手術法の選択可能性と医師の説明義務」. 賠償科学 2003; 29: 135-152.
- 2) 野村好弘<sup>1)</sup>, 大國 壽<sup>2)</sup>, 斎藤寛和<sup>3)</sup>, 伊藤文夫<sup>4)</sup>, 平沼高明<sup>5)</sup>, 大野曜吉, 塩崎 勤<sup>6)</sup>, 杉田雅彦<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立大学法学部教授, <sup>2)</sup>日本医科大学名誉教授, <sup>3)</sup>さいとう医院院長・日本医科大学兼任講師, <sup>4)</sup>損害保険料率算出機構, <sup>5)</sup>弁護士 昭和大学医学部客員教授, <sup>6)</sup>弁護士 桐蔭横浜大学法学部教授, <sup>7)</sup>静岡県弁護士会・弁護士): 判例診断「MRSA感染死訴訟」. 賠償科学 2003; 29: 118-134.
- 3) 野村好弘<sup>1)</sup>, 杉田雅彦<sup>2)</sup>, 伊藤文夫<sup>3)</sup>, 木之元直樹<sup>4)</sup>, 黒木宣夫<sup>5)</sup>, 児玉安司<sup>6)</sup>, 平沼高明<sup>7)</sup>, 加藤雅治<sup>8)</sup>, 大野曜吉(<sup>1)</sup>明治学院大学法学部教授, <sup>2)</sup>静岡県弁護士会・弁護士, <sup>3)</sup>損害保険料率算出機構, <sup>4)</sup>第一東京弁護士会・弁護士, <sup>5)</sup>東邦大学医学部佐倉病院助教授, <sup>6)</sup>第二東京弁護士会・弁護士 東海大学医学部教授, <sup>7)</sup>第一東京弁護士会・弁護士 昭和大学医学部客員教授, <sup>8)</sup>昭和大学医学部講師・産業医): 判例診断「過労死と企業の損害賠償責任(電通過労死自殺事件)」. 賠償科学 2003; 30: 115-136.

(3) その他:

- 1) 大野曜吉: 閻魔帳「ある刑事裁判の結末に思う」. 賠償科学 2003; 30: 137.

著 書

- 1) 大野曜吉, 早川秀幸, 和田健太郎: [分担] トリカブト中毒. 外来診療のすべて 改訂第3版(高久史磨), 2003; pp1022-1023, メジカルビュー社(東京).

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Kawahara S<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Aoki R<sup>1)</sup>, Hirakawa K(<sup>1)</sup>Dept of Plastic and Reconstructive Surgery): Long-term results of the salvage operation of silicone or hydrocarbon implanted breasts using bilaterally divided free reduced-TRAM flaps. Congress of the world society for reconstructive microsurgery(Heidelberg),

2003 . 6 .

- 2) 林田真喜子, 仁平 信, 早川秀幸, 和田健太郎, 守谷直樹, 大野曜吉, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 法医中毒学的臨床薬毒物分析の最近の動向 . 第87次日本法医学会総会, 2003 . 4 .
  - 3) 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 陳 貴史<sup>1)</sup>, 平川慶子, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 大久保誠二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>内科学第2): 実験用磁気共鳴イメージング装置を使用した生体内埋入物質のMRI画像診断の有用性 . 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003 . 4 .
  - 4) 水野博司<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 妙見章一<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>1)</sup>, 平川慶子(<sup>1)</sup>形成外科学): 脂肪注入により乳房増大手術を施行された2症例の検討 . 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003 . 4 .
  - 5) 崔 范来, 大野曜吉, 長谷場健, 早川秀幸: 中国における司法・行政制度と法医制度 . 第87次日本法医学会総会, 2003 . 4 .
  - 6) 平川慶子, 植草協子, 河原理子<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 大野曜吉(<sup>1)</sup>形成外科学): 美容医療における異物埋入術後障害の摘出標本のNMRによる成分分析例 . 第87次日本法医学会総会, 2003 . 4 .
  - 7) 林田真喜子, 早川秀幸, 和田健太郎, 仁平 信, 大野曜吉, 清水尚登<sup>1)</sup>, 岩田和則<sup>2)</sup>, 関根 均<sup>3)</sup>, 宮口 一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>横河アナリティカルシステムズ(株), <sup>2)</sup>昭和電工(株), <sup>3)</sup>埼玉県警・科捜研): マウスにおける経時的血清中アコニチン濃度変化に及ぼすテトロドトキシンの影響 . 日本法中毒学会第22年会, 2003 . 7 .
  - 8) 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子, 大野曜吉(<sup>1)</sup>形成外科学): 生体内埋入物のNMR成分分析法: 特にHRMAS (High Resolution Magic Angle Spinning) 法を用いた分析について . 第26回日本美容外科学会総会(第88回学術集会), 2003 . 10 .
  - 9) 和田健太郎, 仁平 信, 早川秀幸, 富田ゆかり, 林田真喜子, 大野曜吉: アコニチン慢性投与による臓器中の濃度変化および心電図への影響について . 第71回日本法医学会関東地方会, 2003 . 10 .
- (2) 個別報告:
- 1) 長谷場健: アルコールの医学と法的諸問題 . 日本賠償科学会第43回研究会, 2003 . 12 .

## 13. 医療管理学講座

### 研究概要

医療管理学教室は基礎医学であるが、臨床とのつながりの強い社会医学としての位置づけで発展してきた。平成16年からの医師国家試験の必須問題で38%が医療管理学の範疇になり、その存在感が増してきた。社会的発言の機会も増え、高柳は厚生省をはじめ宮城県、茨城県などの地方自治体の各種委員会の委員に委嘱され、放送大学では「患者による医療」講座を受け持つなど、社会教育で患者中心の医療の実現に寄与している。

学部教育では3年生の基礎配属で患者体験、腎透析患者の精神安寧の実験を行った。4年生の授業ではブループリントに沿い、教室独自のカリキュラムを作成した。OSCEにあわせて、医療面接では模擬患者による授業を行った。またOSCE実施直前には、OSCEの面接官全員にOSCEの実際についてのワークショップを行い、標準的な面接を行えるように取り組んできた。BSLではヴァーチャル患者体験による医療情報収集実習を行い、医師としての自覚を高めるユニークな授業を展開した教室は、医療福祉の質をテーマに研究を展開してきた。質の指標の研究と評価の対象を広げることから患者中心の質向上の方法論としてNBM (narrative based medicine) をとりあげた。客員教授の木村は、福祉用具の開発の研究を行い多くの論文を発表した。高柳はNBM研究を行い、大和證券ヘルスリサーチ財団の助成により、排泄困難患者に盲腸ポート手術を提供し、QOLを高める研究を行った。また太田は14年度の厚生労働科学研究の助成を受けて、リハビリ病院機能評価スタンダードを作成し、その検証を行う研究を行い、その成果を発表した。研究生の王国辰は中国と日本のリハビリテーションの比較研究を行い、萩原由希子はハーバード大学大学院公衆衛生学でストレスと精神安寧についての研究を行い修士号を取得した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 高柳和江: のみこまずに語る医療。癒しの環境 2003; 8(1): 43-47.
- 2) 小林順子<sup>1)</sup>, 太田久彦, 木村哲彦, 伊藤高司<sup>2)</sup>, 後藤正幸<sup>3)</sup>, 大久保寛基<sup>4)</sup>, 大成 尚<sup>4)</sup>, 浜田利満<sup>5)</sup>, 高倉保幸<sup>6)</sup>, 陶山哲夫<sup>6)</sup>, 高橋邦泰<sup>7)</sup>, 比留間ちづ子<sup>8)</sup>, 羽生耀子<sup>9)</sup>, 橋谷美智子<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会, <sup>2)</sup>日本医科大学情報科学センター, <sup>3)</sup>武蔵野工業大学, <sup>4)</sup>早稲田大学理工学部, <sup>5)</sup>那須大学都市経済学, <sup>6)</sup>埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科, <sup>7)</sup>埼玉医科大学短期大学, <sup>8)</sup>東京女子医科大学リハビリテーション部, <sup>9)</sup>臨床福祉専門学校, <sup>10)</sup>日本リハビリテーション専門学校): リハビリテーション診療データベースの開発(1): 身体機能・ADL評価. 医療情報学 2003; (23): 375-376.
- 3) 太田久彦, 小林順子<sup>1)</sup>, 木村哲彦, 伊藤高司<sup>2)</sup>, 後藤正幸<sup>3)</sup>, 大久保寛基<sup>4)</sup>, 大成 尚<sup>4)</sup>, 浜田利満<sup>5)</sup>, 高倉保幸<sup>6)</sup>, 陶山哲夫<sup>6)</sup>, 高橋邦泰<sup>7)</sup>, 比留間ちづ子<sup>8)</sup>, 羽生耀子<sup>9)</sup>, 橋谷美智子<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会, <sup>2)</sup>日本医科大学情報科学センター, <sup>3)</sup>武蔵野工業大学, <sup>4)</sup>早稲田大学理工学部, <sup>5)</sup>那須大学都市経済学, <sup>6)</sup>埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科, <sup>7)</sup>埼玉医科大学短期大学, <sup>8)</sup>東京女子医科大学, <sup>9)</sup>臨床福祉専門学校, <sup>10)</sup>日本リハビリテーション専門学校): リハビリテーション診療データベースの開発(2): 治療の記述と「治療対効果」の分析. 医療情報学 2003; (23): 377-378.
- 4) 高柳和江: 救急医療における自己決定と医師の裁量権. 日本臨床救急医学会雑誌 2003; 6(2): 139-139.
- 5) 高柳和江: 小児外科のアイデンティティ: 胎児診断で高度奇形の小児外科医療の無益性. 日本小児外科学会雑誌 2003; 39(3): 515-515.
- 6) 高柳和江: 脊髄損傷患者における排便障害の実態とQOL向上のための順行性排便手術のトレードオフ. 日本リハビリテーション医学会誌 2003; (40): 427-427.

- 7) 高柳和江：医療の質と医学会の方向性：英米との比較から．病院管理 2003；(40)：164-164．
  - 8) 高柳和江：ホッとする病院，元気になる病院：癒しの環境づくり．日赤医学第39回日本赤十字社医学会総会特集号 2003；55(1)：55-55．
  - 9) 高柳和江：高齢者の生活主観的意識度の重視度．日本公衆衛生学会誌 2003；(62)：173-173．
  - 10) 高柳和江：緩和医療におけるリスクマネジメント．癒しの環境 2004；9(1)：64-69．
  - 11) 高柳和江：脊髄損傷者の排便管理の実態と盲腸ポート手術による患者のQOL向上．大和證券ヘルス財団研究業績集 2004；27：54-59．
- (2) 綜説：
- 1) 高柳和江：超高齢者は超元気．全老連 2003；(270)：6-7．
  - 2) 高柳和江：パッチとNarrative Based Medicine．心と社会 2003；34(1)：83-90．
  - 3) 高柳和江：顧客満足を考える．アポロニア21 2003；(112)：84-85．
  - 4) 高柳和江：視覚と聴覚の解釈．アポロニア21 2003；(113)：84-85．
  - 5) 高柳和江：センチネリアンと吉田富三先生．がんに克つ 2003；5(7)：44-45．
  - 6) 高柳和江：「医療提供」の重要性を認識し良質なサービス提供体制の構築を．日本医療法人協会ニュース 2003；(227)：8-9．
  - 7) 高柳和江：医療における自己決定．アポロニア21 2003；(114)：86-87．
  - 8) 高柳和江：ロールモデル普通の人生をしっかりと生きる．がんに克つ 2003；5(10)：40-41．
  - 9) 高柳和江：美女と野獣．アポロニア21 2003；(115)：102-103．
  - 10) 高柳和江：医学無益性．TMDC MATE 2003；(231)：11-11．
  - 11) 高柳和江：行くところを決めざりぎりまで生き延びる．文藝春秋 2003；81(9)：180-181．
  - 12) 高柳和江：どんなときにセカンドオピニオンを求めたらよいか．健康ガイドブック 2003；(1)：12-12．
  - 13) 高柳和江：ソウルメイト．家の光ニュース 2003；(678)：8-9．
  - 14) 高柳和江：哲学者西田幾太郎の「呼吸をするも快樂なり」を実感．がんに克つ 2003；5(12)：40-41．
  - 15) 高柳和江：安全は獲得するもの．アポロニア21 2003；(116)：102-103．
  - 16) 高柳和江：病院の安全管理を見直そう！恐ろしい病院内の事件．月刊ナースデータ 2003；24(8)：28-30．
  - 17) 高柳和江：重視されてきたNBM(ナラティブ・ベースト・メディシン)．健康ガイドブック 2003；(2)：12-12．
  - 18) 高柳和江：高齢者尊厳をもって生きられるために：痴呆でも人間として生きる．魁 2003；(2)：26-29．
  - 19) 高柳和江：死は自然の営み．がんに克つ 2003；5(14)：40-41．
  - 20) 高柳和江：速読．アポロニア21 2003；(117)：102-103．
  - 21) 高柳和江：不思議の国のアリス：人間としての尊厳と権利を求めて．現代性教育研究月報 2003；21(9)：10-13．
  - 22) 高柳和江：自然治癒．アポロニア21 2003；(118)：102-103．
  - 23) 高柳和江：医師とどう対等にはなしていくか．健康ガイドブック 2003；(3)：12-12．
  - 24) 高柳和江：自然治癒力：生き抜く基本は自分を好きになること．がんに克つ 2003；5(18)：42-43．
  - 25) 高柳和江：社会医療教育と異文化需要能力．アポロニア21 2003；(119)：102-103．
  - 26) 高柳和江：自然治癒の存在をもっと認めるべきである．がんに克つ 2003；5(20)：42-43．
  - 27) 高柳和江：宮城こども病院の開設．アポロニア21 2003；(120)：102-103．
  - 28) 高柳和江：病院を「不思議の国」から「癒しの国」に変えてみたい．NIC Healthcare Partner 2003；1(4)：2-4．
  - 29) 高柳和江：病人の食事．アポロニア21 2004；(121)：98-99．
  - 30) 高柳和江：音楽が楽しみ．アポロニア21 2004；(122)：98-99．



- 31) 高柳和江：照明がもたらす癒しの環境．MEDI・LIGHT 2004；4-5．
- 32) 高柳和江：エネジャイズ．アポロニア21 2004；(123)：98-99．
- (3) 研究報告書：
- 1) 太田久彦：脳卒中リハビリテーションアウトカム評価のための統計学的手法の研究開発．平成14年度厚生科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業 研究実績報告集 2003；pp287-291．
  - 2) 太田久彦：『リハビリテーション病院機能評価スタンダードVer. 1. 0』に基づいた病院の評価の実際：サーベイヤー評価と自己評価．厚生労働科学研究費補助金総合研究報告書 「アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発」 2003；pp221-234．
  - 3) 太田久彦：『リハビリテーション病院機能評価スタンダードVer. 1. 0』による自己評価とその分析．厚生労働科学研究費補助金総合研究報告書 「アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発」 2003；pp179-220．
  - 4) 太田久彦：リハビリテーション病院機能評価スタンダードの開発．厚生労働科学研究費補助金総合研究報告書 「アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発」 2003；pp81-134．
  - 5) 太田久彦：Prospective studyによる脳卒中リハビリテーションのアウトカム評価．厚生労働科学研究費補助金総合研究報告書 「アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発」 2003；pp59-80．
  - 6) 太田久彦：急性期脳卒中リハビリテーションのアウトカム評価の研究開発(3)．厚生労働科学研究費補助金総合研究報告書 「アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発」 2003；pp25-58．
  - 7) 太田久彦：急性期脳卒中リハビリテーションのアウトカム評価の研究開発(2)．厚生労働科学研究費補助金総合研究報告書 「アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発」 2003；pp25-42．
  - 8) 太田久彦：急性期脳卒中リハビリテーションのアウトカム評価の研究開発(1)．厚生労働科学研究費補助金総合研究報告書 「アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発」 2003；pp9-24．
  - 9) 太田久彦：アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価．平成13年度厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業研究実績報告集 2003；pp421-446．
  - 10) 河田耕一<sup>1)</sup>，木村哲彦，石田健司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>高知工業大学，<sup>2)</sup>高知医科大学)：全方向移動可能な歩行訓練機．知能メカトロニクスワークショップ論文集 2003；(8)：pp229-230．
  - 11) 河田耕一<sup>1)</sup>，木村哲彦，石田健司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>高知工業大学，<sup>2)</sup>高知医科大学)：転倒防止できる全方向移動型歩行訓練機．日本機械学会誌 2003；(3)：pp145-146．
  - 12) 四宮葉一<sup>1)</sup>，木村哲彦，石田健司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>松下電工，<sup>2)</sup>高知医科大学)：糖尿病への適応を考えた他動運動訓練機の可能性．日本機械学会誌 2003；(3)：pp5-8．
  - 13) 王 碩玉<sup>1)</sup>，木村哲彦，石田健司<sup>2)</sup>，勝村俊二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>高知工業大学，<sup>2)</sup>高知医科大学，<sup>3)</sup>東京医科大学)：膝にやさしい糖尿病用他動運動機の新しい試み．日本機械学会誌 2003；(5)：pp5-8．

## 著 書

- 1) MacDonell Christine：〔翻訳〕CARF インターナショナル報告書．リハビリテーションネットワーク研究，2003；pp7-14，リハビリテーション研究会．
- 2) 高柳和江：〔自著〕砂漠とハイヒール，2004；春秋社．
- 3) 高柳和江：〔分担〕外来診療サービスのあるべき姿と外来看護師の役割．患者様をお待たせしない外来，2004；pp6-12，日総研出版．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 高柳和江：医療における癒しの環境．北九州POS研究会，2003．4．
- 2) 高柳和江：療養病床におけるアメニティーについて．徳島県介護療養型医療施設協議会（徳島），2003．5．
- 3) 高柳和江：不思議の国のアリス：人間としての尊厳と権利を求めて．第33回全国性教育研究大会，2003．8．
- 4) 高柳和江：カイロプラクティス．第1回協同組合カイロプラティック新京都シンポジウム，2003．9．
- 5) 高柳和江：医療における癒しの環境．明石市医師会病診連携交流会（明石），2003．9．
- 6) 高柳和江：患者中心の医療・世界の視点から．医薬分業フォーラム：患者主体の開かれた医療を考える，2003．10．
- 7) 高柳和江：癒しの環境とは．第4回私立医科大学事務職員海外研修団海外研修後における継続教育研修会，2003．10．
- 8) 高柳和江：患者の権利が守られる医療：看護の実現に向けて．全国自治体病院協議会看護管理研修会，2003．11．
- 9) 高柳和江：高齢者に対する癒しの環境．第15回北海道老年期痴呆研究会，2003．11．
- 10) 高柳和江：癒しの医療・介護．第19回全国在宅訪問栄養食事指導研究会全国大会，2003．11．
- 11) 木村哲彦：福祉用具の開発に期待する．経済産業省医療福祉シンポジウム，2003．12．
- 12) 高柳和江：医療の質と患者安全管理：根本原因分析法．日本医師会生涯教育講座，2003．12．
- 13) 高柳和江：これからの医療システム．神戸大学医学部特別講座（神戸），2003．12．
- 14) 高柳和江：これからの医療．聖マリアンナ医科大学（東京），2003．12．
- 15) 高柳和江：医療安全対策とそのポイント．全国自治体病院協議会自治体病院院長・幹部職員セミナー，2004．1．

### (2) 教育講演：

- 1) 高柳和江：ホッとする病院，元気になる病院．第39回日本赤十字医学会総会，2003．10．
- 2) 高柳和江：救急医療の質の向上：Peer Review．第10回近畿外傷診療フォーラム，2004．2．

### (3) シンポジウム：

- 1) 高柳和江：学会は質の保証をできるのか．第27回日本医学会総会，2003．4．
- 2) 高柳和江：新しい医療システムを創ろう．第27回日本医学会総会，2003．4．
- 3) 高柳和江：救急医療における自己決定と医師の裁量権．第6回日本臨床救急医学会総会，2003．4．

### (4) 一般講演：

- 1) 太田久彦，小林順子<sup>1)</sup>，木村哲彦，陶山哲夫<sup>2)</sup>，高橋修輔<sup>2)</sup>，中島英樹<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会，<sup>2)</sup>日本医科大学リハビリ科，<sup>3)</sup>都立豊島病院）：脳卒中の治療成績を指標としたリハビリテーション病院のアウトカム評価の試行．第40回日本リハビリテーション医学会学術集会，2003．6．
- 2) Takayanagi K：Japanese Preference and Acceptance for QOL Improvement Surgery with Antigrade Enema for Inconti．The Association for Health Services Research（医療管理研究会）（USA），2003．6．
- 3) Ota H，Tanno M<sup>1)</sup>，Tanaka H<sup>1)</sup>，Kobayashi M<sup>2)</sup>，Yoshino S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学リウマチ科，<sup>2)</sup>クレコンリサーチ&コンサルティング）：Patient reported outcomes for rheumatoid arthritis in Japan．ISPOR, First Asia-Pacific Conference（Japan），2003．9．
- 4) Ota H，Tanno M<sup>1)</sup>，Tanaka H<sup>1)</sup>，Kobayashi M<sup>2)</sup>，Yoshino S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学リウマチ科，<sup>2)</sup>クレコンリサーチ&コンサルティング）：Correlation between the health assessment questionnaire（HAQ）and utility values in rheumatoid arthritis patients．ISPOR, First Asia-Pacific Conference（Japan），2003．9．
- 5) Tanno M<sup>1)</sup>，Ota H，Tanaka H<sup>1)</sup>，Kobayashi M<sup>2)</sup>，Yoshino S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学リウマチ科，<sup>2)</sup>クレコンリサーチ&コンサルティング）：Caregiver burden for patients with rheumatoid arthritis in Japan．ISPOR, First Asia-Pacific Conference（Japan），2003．9．
- 6) 田中秀和<sup>1)</sup>，丹野 亮<sup>1)</sup>，吉野慎一<sup>1)</sup>，太田久彦，木村哲彦（<sup>1)</sup>日本医科大学リウマチ科）：関節リウマチに対する抗リウマチ剤の効用調査の試行 丹野 亮，太田久彦，木村哲彦．第47回日本リウマチ学会総会・学術集

- 会，2003．4．
- 7) 高柳和江：小児外科のアイデンティティ：胎児診断で高度奇形の小児外科医の無益性．第40回日本小児外科学会総会，2003．5．
  - 8) 太田久彦，小林順子<sup>1)</sup>，木村哲彦，陶山哲夫<sup>2)</sup>，草野修輔<sup>2)</sup>，高橋邦泰<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会，<sup>2)</sup>日本医科大学リウマチ科)：リハビリテーション・データベースシステム構築と治療情報標準化の試み．第40回日本リハビリテーション医学会学術集会，2003．6．
  - 9) 小林順子<sup>1)</sup>，太田久彦，木村哲彦，高倉保幸<sup>2)</sup>，陶山哲夫<sup>2)</sup>，大久保寛基<sup>3)</sup>，大成 尚<sup>3)</sup>，後藤正幸<sup>4)</sup>，高橋邦泰<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会，<sup>2)</sup>埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科，<sup>3)</sup>早稲田大学理工学部，<sup>4)</sup>武蔵野工業大学，<sup>5)</sup>埼玉医科大学短期大学)：リハビリテーションデータベース開発：報告(1) - 治療と効果の表示 - ．第53回日本病院学会，2003．6．
  - 10) 太田久彦，小林順子<sup>1)</sup>，木村哲彦，高倉保幸<sup>2)</sup>，陶山哲夫<sup>2)</sup>，高橋邦泰<sup>3)</sup>，大久保寛基<sup>4)</sup>，大成 尚<sup>4)</sup>，後藤正幸<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会，<sup>2)</sup>埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科，<sup>3)</sup>埼玉医科大学短期大学，<sup>4)</sup>早稲田大学理工学部，<sup>5)</sup>武蔵野工業大学環境情報学部)：リハビリテーションデータベース開発：報告(2) - 用語の標準化 - ．第53回日本病院学会，2003．6．
  - 11) 高柳和江，星 和夫<sup>1)</sup>，正木美恵子(<sup>1)</sup>青梅市立総合病院)：脊髄損傷患者におけるQOL向上のための順行性排便手術受諾のトレードオフ．第53回日本病院学会，2003．6．
  - 12) 高柳和江，木村哲彦：脊髄損傷患者における排便障害の実態とQOL向上のための順行性排便手術のトレードオフ．第40回日本リハビリテーション医学会学術集会，2003．6．
  - 13) 正木幸善<sup>1)</sup>，高柳和江(<sup>1)</sup>青梅市立総合病院)：盲腸ポート手術(順行性強制排便手術)による排便コントロール．第20回日本二分脊椎研究会，2003．7．
  - 14) 高柳和江：NBM(患者の物語医学)による医学教育．第35回日本医学教育学会大会，2003．7．
  - 15) 太田久彦，小林順子<sup>1)</sup>，木村哲彦，高橋邦泰<sup>2)</sup>，草野修輔<sup>3)</sup>，陶山哲夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会，<sup>2)</sup>埼玉医科大学短期大学，<sup>3)</sup>埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科)：リハビリテーション病院におけるアウトカム評価のためのongoing database構築の検討．第41回日本病院管理学会学術総会，2003．10．
  - 16) 太田久彦，小林順子<sup>1)</sup>，木村哲彦，高倉保幸<sup>2)</sup>，陶山哲夫<sup>2)</sup>，高橋邦泰<sup>3)</sup>，比留間ちづ子<sup>4)</sup>，羽生耀子<sup>5)</sup>，後藤正幸<sup>6)</sup>，大成 尚<sup>7)</sup>，浜田利満<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会，<sup>2)</sup>埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科，<sup>3)</sup>埼玉医科大学短期大学，<sup>4)</sup>東京女子医科大学リハビリテーション部，<sup>5)</sup>臨床福祉専門学校，<sup>6)</sup>武蔵野工業大学環境情報学部，<sup>7)</sup>早稲田大学理工学部，<sup>8)</sup>那須大学年経学)：リハビリテーションデータベース開発(1)．リハビリテーション・ケア合同研究大会，2003．10．
  - 17) 小林順子<sup>1)</sup>，太田久彦，木村哲彦，高倉保幸<sup>2)</sup>，陶山哲夫<sup>2)</sup>，高橋邦泰<sup>3)</sup>，比留間ちづ子<sup>4)</sup>，羽生耀子<sup>5)</sup>，後藤正幸<sup>6)</sup>，大成 尚<sup>7)</sup>，浜田利満<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会，<sup>2)</sup>埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科，<sup>3)</sup>埼玉医科大学短期大学，<sup>4)</sup>東京女子医科大学リハビリテーション部，<sup>5)</sup>臨床福祉専門学校，<sup>6)</sup>武蔵野工業大学，<sup>7)</sup>早稲田大学理工学部，<sup>8)</sup>那須大学都市経済学部)：リハビリテーションデータベース開発(2)．リハビリテーション・ケア合同研究大会，2003．10．
  - 18) 高柳和江，一戸真子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高崎健康福祉大学)：高齢者の生活主体的意識度の重視度．第62回日本公衆衛生学会総会，2003．10．
  - 19) 高柳和江：医療の質と医学会の方向性：英米との比較から．第41回日本病院管理学会，2003．10．
  - 20) 小林順子<sup>1)</sup>，太田久彦，木村哲彦，伊藤高司<sup>2)</sup>，後藤正幸<sup>3)</sup>，大久保寛基<sup>4)</sup>，大成 尚<sup>4)</sup>，浜田利満<sup>5)</sup>，高倉保幸<sup>6)</sup>，陶山哲夫<sup>6)</sup>，比留間ちづ子<sup>7)</sup>，羽生耀子<sup>8)</sup>，橋谷美智子<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会，<sup>2)</sup>日本医科大学情報科学センター，<sup>3)</sup>武蔵野工業大学，<sup>4)</sup>早稲田大学理工学部，<sup>5)</sup>那須大学都市経済学，<sup>6)</sup>埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科，<sup>7)</sup>東京女子医科大学リハビリテーション部，<sup>8)</sup>臨床

福祉専門学校，<sup>9)</sup>日本リハビリテーション専門学校): リハビリテーション診療データベースの開発(1): 身体機能・ADL評価．第23回医療情報学連合大会，2003．11．

- 21) 太田久彦，小林順子<sup>1)</sup>，木村哲彦，伊藤高司<sup>2)</sup>，後藤正幸<sup>3)</sup>，大久保寛基<sup>4)</sup>，大成 尚<sup>4)</sup>，浜田利満<sup>5)</sup>，高倉保幸<sup>6)</sup>，陶山哲夫<sup>6)</sup>，高橋邦泰<sup>7)</sup>，比留間ちづ子<sup>8)</sup>，羽生耀子<sup>9)</sup>，橋谷美智子<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会，<sup>2)</sup>日本医科大学情報科学センター，<sup>3)</sup>武蔵野工業大学，<sup>4)</sup>早稲田大学理工学部，<sup>5)</sup>那須大学都市経済学部，<sup>6)</sup>埼玉医科大学総合医療センターリハビリテーション科，<sup>7)</sup>埼玉医科大学短期大学，<sup>8)</sup>東京女子医科大学リハビリテーション科，<sup>9)</sup>臨床福祉専門学校，<sup>10)</sup>日本リハビリテーション専門学校): リハビリテーション診療データベースの開発(2): 治療の記述と「治療対効果」の分析．第23回医療情報学連合大会，2003．11．
- 22) 高柳和江，木村哲彦：脊損患者の排便困難の実態とQOL向上の為の順行性強制排便手術 (preference and acceptance for QOL improvent surgery with antegrade enema for incontinence)．第38回日本脊髄障害医学会，2003．11．
- 23) 高柳和江：癒しが果たす未病対策．第3回未病臨床検査セミナー，2003．11．

## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [ 実験動物管理室 ]

#### 研究概要

実験動物管理室では、実験動物飼育室の感染管理、清浄度の維持・改善のための飼育管理方法の検討のほか、新しい疾患モデル動物の開発あるいは既知の実験動物の新たな有用性および特性の解析を行っている。

SPFバリア領域については、定期的に微生物学的モニタリングを行うことによって、各飼育室の衛生状態を把握し、清浄度の維持および感染防御対策に応用している。

WBN/Kob ratの雄は3ヶ月齢で膵炎を、9ヶ月齢で糖尿病を発症する非肥満の2型糖尿病モデル動物である。このラットに、レプチン受容体の異常により肥満を起こす突然変異遺伝子 (*Lepr<sup>fa</sup>*) を導入したコンジェニック系を育成中であり、N10世代に達している。このコンジェニック系のホモ個体では、雄だけでなく、雌においても3ヶ月齢で尿糖陽性個体が認められ、雄における糖尿病発症時期の早期化だけでなく、雌においても糖尿病発症させることが明らかとなった。また、長期飼育では、糖尿病発症時期の早期化により合併症の重篤化が認められた。現在、発症の機構および糖尿病性合併症の病態について、さらに詳細に検索を行っている。

イヌ回虫やネコ回虫は、公園の砂場において乳幼児に感染する例が報告され問題となっている寄生虫であるが、この寄生虫感染に起因する運動失調の唯一の動物モデルとしてスナネズミが好適であることを、当施設にて継代繁殖している近交系スナネズミを用いて明らかにした。

近年代替補完医療が注目されているが、医学的検証が不十分なものが多いため、動物実験による検証を試みた。植物性精油の抗ヒスタミン薬様作用およびサメ軟骨中の抗ガン作用を示す成分について *in vivo* および *in vitro* のモデル双方の実験によって検討を行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Akao N<sup>1)</sup>, Tomoda M<sup>1)</sup>, Hayashi E<sup>1)</sup>, Suzuki R<sup>2)</sup>, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K, Fujita K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東医歯大, <sup>2)</sup> 高知医大 ): Cerebellar ataxia due to *Toxocara* infection in Mongolian gerbils, *Meriones unguiculatus*. *Veterinary Parasitology* 2003 ; 113 : 229-237 .
- 2) Zhang X-J<sup>1)</sup>, Katsuta Y<sup>1)</sup>, Akimoto T, Ohsuga M<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ): Intrapulmonary vascular dilatation and nitric oxide in hypoxemic rats with chronic bile duct ligation. *Journal of Hepatology* 2003 ; 39 : 724-730 .
- 3) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄, 佐藤健司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都府大 ): ガンに及ぼすサメ軟骨の影響. 21世紀食と健康フォーラム論文集 2003 ; 20-22 .

##### (2) 研究報告書：

- 1) 佐藤健司<sup>1)</sup>, 菅沼眞澄 ( <sup>1)</sup> 京都府大 ): サメ軟骨由来のMMP-9阻害活性物質の経口摂取によるマウス移植癌の増殖抑制. (財) サッポロ生物科学振興財団 第17回助成研究報告書 2003 ; pp25-30 .

##### 著書

- 1) Sato K<sup>1)</sup>, Murata N<sup>2)</sup>, Tsutsumi M<sup>2)</sup>, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K, Kitahashi T<sup>1)</sup>, Nishimura K<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Ohtsuki K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都府大, <sup>2)</sup> 奈良医大 ): [ 分担 ] Moderation of chemo-induced cancer by water extract of dried shark fin : anti-cancer effect of shark cartilage. *More efficient utilization of fish and*

fisheries products ( Sakaguchi Morihiko Ed. ), 2004 ; Elsevier Science .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄, 佐藤健司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都府大): ガンに及ぼすサメ軟骨の効果 . 第5回21世紀食と健康フォーラム, 2003 . 11 .

### (2) 一般講演 :

- 1) Zhang X-J<sup>1)</sup>, Katsuta Y<sup>1)</sup>, Akimoto T, Ohsuga M<sup>1)</sup>, Katou Y<sup>1)</sup>, Nagato T<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>1)</sup>, Komeichi H<sup>1)</sup>, Satomura K<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): Intrapulmonary vascular dilatation and nitric oxide in hypoxic rats with chronic bile duct ligation . 54th Annual Meeting of the American Association for the study of the Liver Diseases. ( Boston, USA ), 2003 . 10 .
- 2) 張 雪君<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 秋元敏雄, 大須賀勝<sup>1)</sup>, 長戸孝道<sup>1)</sup>, 清水秀治<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 二次性胆汁性肝硬変ラットにおける肺内血管拡張と低酸素血症 . 第39回日本肝臓学会総会, 2003 . 5 .
- 3) 菅沼 (清水) 眞澄, 城田恵次郎<sup>1)</sup>, 七戸和博 (<sup>1)</sup>東武医技専): アロマオイルのアレルギー軽減作用 . 第32回日本比較臨床医学会, 2003 . 6 .
- 4) 浦山利巳, 手塚 進, 山崎邦広, 秋元敏雄, 佐久間康夫: 基礎医学動物室SPF飼育エリアにおける微生物モニタリングおよび空中落下細菌検査, 緑膿菌を対象とした環境検査について (第6報). 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 5) 張 雪君<sup>1)</sup>, 秋元敏雄, 大須賀勝<sup>1)</sup>, 加藤良人<sup>1)</sup>, 長戸孝道<sup>1)</sup>, 清水秀治<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>: 肝肺症候群における一酸化窒素の関与: 二次性胆汁性肝硬変ラットでの検討 . 第10回日本門脈圧亢進症学会, 2003 . 9 .
- 6) 秋元敏雄, 市川安昭<sup>1)</sup>, 布施雅規<sup>2)</sup>, 益山 拓<sup>3)</sup>, 仲間一雅<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第1, <sup>2)</sup>信州大学, <sup>3)</sup>(株)鳥居薬品, <sup>4)</sup>(株)サイエンス・サービス): WBN/Kob-*Lep<sup>fa</sup>*コンジェニック系の長期飼育による膵病変の推移について . 第136回日本獣医学会学術集会, 2003 . 10 .
- 7) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄: アロマオイルの抗ヒスタミン作用 . 第136回日本獣医学会学術集会, 2003 . 10 .
- 8) 秋元敏雄, 市川安昭<sup>1)</sup>, 仲間一雅<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第1, <sup>2)</sup>(株)サイエンス・サービス): WBN/Kob-*Lep<sup>fa</sup>*コンジェニック系の長期飼育による病態について . 第18回日本糖尿病動物研究会, 2004 . 1 .
- 9) 若林正生<sup>1)</sup>, 鳥越宏美<sup>1)</sup>, 浅田忠利<sup>1)</sup>, 菅沼眞澄, 七戸和博 (<sup>1)</sup>日獣大): モルモット腸管を用いた木酢液の抗ヒスタミン作用の検討 . 第27回日獣医学会総会, 2004 . 2 .
- 10) 福永典隆<sup>1)</sup>, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 飯野正昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉工大): 超音波処理によるタンパク質封入ラット赤血球の循環内寿命 . 第27回日獣医学会総会, 2004 . 2 .
- 11) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄, 佐藤健司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都府大): サメ軟骨の抗ガン作用の本体 . 第77回日本薬理学会年会, 2004 . 3 .

## [ 中央電子顕微鏡研究施設 ]

### 研究概要

本研究施設では, ヒト組織の電顕診断・動物実験による研究, および電顕技術開発を行っている .

また臨床, ならびに基礎医学の各講座との共同研究や電顕技術の提供が行われている .

年間400例余りの検体が電顕診断として処理されている . 今年はこちらの検体を用いて紡錘形細胞肉腫の3例, 顆粒細胞腫の2例, microvillous リンパ腫の1例を対象に解析を試みた . また, 小児白血病末血60例について走化性を示す

好中球の出現率の検索，あるいは腎生検100例について近位尿細管上皮細胞に出現する autophagic cytosome の意義についても解析し学会報告をした。

電顕技術開発としては，グルタルアルデヒド固定した組織は抗原が失活する為に免疫電顕には不適とされていたが，無水シトラコン酸溶液で免疫賦活化することにより可能となる新しい免疫電顕法を開発し報告した。また計装化ウルトラマイクロトームの開発も行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Mashimo K<sup>1)</sup>, Sato S, Ohno Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Legal Medicine ): Chronic effects of ethanol on cultured myocardial cells : ultrastructural and morphometric studies . Virchows Arch 2003 ; 442 : 356-363 .
- 2) Sato S, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Kitamura H<sup>1)</sup>, Adachi A, Sasaki Y, Dai W, Wakamatsu K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>1st Dept. of Pathology ): Identification of an electron densification of the glomerular basement membrane in renal biopsy specimens . Med Electron Microsc 2003 ; 36 : 106-111 .
- 3) Shimura T<sup>1)</sup>, Mori O<sup>2)</sup>, Kitamura T<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Neurosurgery , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology ): Central neurocytoma expressing characteristics of ependymal differentiation : electron microscopic finding of two cases . Med Electron Microsc 2003 ; 36 : 98-105 .
- 4) Sato S, Sasaki Y, Adachi A, Dai W, Liu XL, Namimatsu S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Division of Surgical Pathology, Nippon Med. Sch. Hospital ): Use of oolong tea extract ( OTE ) for elastin staining and enhancement in ultrathin sections . Med Electron Microsc 2003 ; 36 : 179-182 .
- 5) Tomita Y<sup>1)</sup>, Nihira M<sup>1)</sup>, Ohno Y<sup>1)</sup>, Sato S ( <sup>1)</sup>Dept. of Legal Medicine ): Ultrastructural changes during in situ early postmortem autolysis in kidney, pancreas, liver, heart and skeletal muscle of rats . Legal Medicine 2004 ; 6 : 25-31 .
- 6) Liu AM, Sugisaki Y, Hosone M<sup>1)</sup>, Namimatsu S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Division of Surgical Pathology, Nippon Med. Sch. Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup>Division of Surgical Pathology, Nippon Med. Sch. Hospital ): CD30<sup>+</sup>TIA-1<sup>+</sup>ALK<sup>+</sup>anaplastic large cell lymphoma : Studies of three cases by flow cytometry analysis, immunohistochemistry and electron microscopy . Acta Histochem. Cytochem 2004 ; 37 ( 1 ): 21-30 .
- 7) Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Yokota A<sup>2)</sup>, Nakai A<sup>2)</sup>, Liu A, Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hp. , <sup>2)</sup>Dept. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Med. Sch. Hp. , <sup>3)</sup>Dept. of Pathology 2 ): Deciduoid mesothelioma in the pelvic cavity . Pathology International 2004 ; 54 : 67-72 .
- 8) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 劉 愛民, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 , <sup>2)</sup>同脳神経外科 , <sup>3)</sup>病理学第2 ) : 脳原発小細胞肉腫の1例 . 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 ( 3 ): 224-229 .
- 9) 佐藤 茂, 劉 効蘭, 上田眞太郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本大学大学院理工学研究科医療・福祉工学専攻 ): 過酸化水素投与による急性肺障害時の肺サーファクタントの分泌促進と不活性化に関する電子顕微鏡的観察 . 日本界面医学会雑誌 2003 ; 34 : 32-41 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 藤原正和<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 井上京子, 潘 欣<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>

- (<sup>1</sup>老人病研究所病理部門): Efficient Gene Silencing by Small Interfering RNA. 第92回日本病理学会総会, 2003. 4.
- 2) 海津聖彦<sup>1</sup>), 前田美穂<sup>1</sup>), 劉 效蘭, 安達彰子, 佐藤 茂, 福永慶隆<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>付属病院小児科): 小児白血病における末梢血の電子顕微鏡観察による検討: 形態学的に走化性を示す好中球. 第107回日本小児科学会, 2003. 4.
- 3) 横山宗伯<sup>1</sup>), 北川泰之<sup>2</sup>), 松原美幸<sup>3</sup>), 恩田宗彦<sup>1</sup>), 王 若皎<sup>1</sup>), 劉 愛民, 田村浩一<sup>3</sup>), 内藤善哉<sup>1</sup>), 伊藤博元<sup>2</sup>), 杉崎祐一 (<sup>1</sup>病理学第2, <sup>2</sup>付属病院整形外科, <sup>3</sup>同病理部): 紡錘形細胞肉腫の亜型診断. 3例の診断困難例. 第92回日本病理学会総会, 2003. 4.
- 4) 前田昭太郎<sup>1</sup>), 細根 勝<sup>1</sup>), 片山博徳<sup>1</sup>), 劉 愛民, 金澤宏美<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2</sup>同内科): 冠状動脈に浸潤し, 心筋梗塞をきたした心臓線維肉腫の1例. 第92回日本病理学会総会, 2003. 4.
- 5) 片山博徳<sup>1</sup>), 前田昭太郎<sup>1</sup>), 細根 勝<sup>1</sup>), 山本英希<sup>2</sup>), 松島申治<sup>2</sup>), 横山宗伯<sup>3</sup>), 内藤善哉<sup>3</sup>), 劉 愛民 (<sup>1</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2</sup>同外科, <sup>3</sup>病理学第2): 肺・縦隔腫瘍の術中迅速診断に対する細胞診および免疫染色の応用. 第92回日本病理学会総会, 2003. 4.
- 6) 丹羽博嗣<sup>1</sup>), 谷山 明<sup>2</sup>), 鈴木敏洋<sup>3</sup>), 朝妻貞子<sup>1</sup>), 広畑泰久, 朝倉健太郎<sup>4</sup>), 依田智子<sup>5</sup>) (<sup>1</sup>シーエーシーズ, <sup>2</sup>住友金属, <sup>3</sup>タイゴールド, <sup>4</sup>東京大学工学系研究科, <sup>5</sup>日立製作所): 細いナイフによる計装化ウルトラマイクロトームの位置感度向上の検討. 日本顕微鏡学会第59回学術講演会, 2003. 6.
- 7) 星埜由典<sup>1</sup>), 鈴木敏洋<sup>2</sup>), 丹羽博嗣<sup>3</sup>), 朝妻貞子<sup>3</sup>), 谷山 明<sup>4</sup>), 朝倉健太郎<sup>5</sup>), 広畑泰久 (<sup>1</sup>東洋インキ製造, <sup>2</sup>タイゴールド, <sup>3</sup>シーエーシーズ, <sup>4</sup>住友金属, <sup>5</sup>東京大学工学系研究科): 歪みゲージを用いた計装化ウルトラマイクロトームの開発 (2). 日本顕微鏡学会第59回学術講演会, 2003. 6.
- 8) 朝倉健太郎<sup>1</sup>), 広畑泰久, 鈴木敏洋<sup>2</sup>), 今村裕子<sup>3</sup>), 中村新一<sup>4</sup>), 長澤忠広<sup>5</sup>), 宅間三千代<sup>6</sup>), 金堂善一郎<sup>7</sup>) (<sup>1</sup>東京大学工学系研究科, <sup>2</sup>タイゴールド, <sup>3</sup>東芝, <sup>4</sup>東芝アナリシス, <sup>5</sup>コニカ, <sup>6</sup>日立計測器サービス, <sup>7</sup>池上精機): 計装化ウルトラマイクロトームによる金属ナイフの検討 (2). 日本顕微鏡学会第59回学術講演会, 2003. 6.
- 9) 朝倉健太郎<sup>1</sup>), 広畑泰久, 丹羽博嗣<sup>2</sup>), 今村裕子<sup>3</sup>), 中村新一<sup>4</sup>), 鈴木敏洋<sup>5</sup>), 島崎広美<sup>6</sup>) (<sup>1</sup>東京大学工学系研究科, <sup>2</sup>シーエーシーズ, <sup>3</sup>東芝, <sup>4</sup>東芝ナノアナリシス, <sup>5</sup>タイゴールド, <sup>6</sup>凸版印刷): 計装化ウルトラマイクロトームを用いた鉛フリーはんだの材質と切削力. 日本顕微鏡学会第59回学術講演会, 2003. 6.
- 10) 秋元 剛<sup>1</sup>), 広畑泰久, 白川伊吹<sup>1</sup>), 杉 晴夫<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>帝京大学医学部生理学教室): ガス雰囲気試料室を使った Myosin Rod Co-Filament のその場観察. 日本顕微鏡学会第59回学術講演会, 2003. 6.
- 11) 依田智子<sup>1</sup>), 朝倉健太郎<sup>2</sup>), 広畑泰久, 今村裕子<sup>3</sup>), 鈴木敏洋<sup>4</sup>), 島崎広美<sup>5</sup>), 星埜由典<sup>6</sup>) (<sup>1</sup>日立製作所, <sup>2</sup>東京大学工学系研究科, <sup>3</sup>東芝, <sup>4</sup>タイゴールド, <sup>5</sup>凸版印刷, <sup>6</sup>東洋インキ): 計装化ウルトラマイクロトームを用いたはんだ / Cu 接続界面の評価. 日本顕微鏡学会第59回学術講演会, 2003. 6.
- 12) 劉 愛民, 前田昭太郎<sup>1</sup>), 細根 勝<sup>1</sup>), 東 敬子<sup>1</sup>), 秋山裕美<sup>1</sup>), 武内俊次<sup>2</sup>), 杉崎祐一, 北川泰之<sup>3</sup>), 横山宗伯<sup>4</sup>), 内藤善哉<sup>4</sup>) (<sup>1</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2</sup>同整形外科, <sup>3</sup>付属病院整形外科, <sup>4</sup>病理学第2): 四肢の顆粒細胞腫の2例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 13) 松村豪一<sup>1</sup>), 遠山 益<sup>1</sup>), 広畑泰久, 佐藤 茂, 上田眞太郎<sup>2</sup>), 高橋常男<sup>3</sup>) (<sup>1</sup>聖学院大学人間福祉学科, <sup>2</sup>日本大学大学院理学研究科医療・福祉工学専攻, <sup>3</sup>神奈川歯科大学口腔解剖学): イモリ成体呼吸器の超微形態学的研究. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 2003. 10.
- 14) 戴 威, 並松茂樹<sup>1</sup>), 佐藤 茂, 石崎正通<sup>2</sup>), 杉崎祐一 (<sup>1</sup>付属病院病理部, <sup>2</sup>病理学第1): 2.5% グルタルアルデヒド固定した組織は免疫電顕が可能か 2. II 型肺胞上皮細胞内の好オスミュウム小体. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 2003. 10.
- 15) 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 安達彰子, 戴 威, 北村博司<sup>1</sup>), 石崎正通<sup>1</sup>), 杉崎祐一 (<sup>1</sup>病理学第1): 近位尿管上皮細胞内に出現する autophagic cytosome について - 腎生検. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 2003. 10.
- 16) 松井洋法<sup>1</sup>), 小原澤英彰<sup>1</sup>), 廣瀬敦視<sup>1</sup>), 志和利彦<sup>1</sup>), 大原國俊<sup>1</sup>), 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 安達彰子, 石崎正



通<sup>2)</sup>, 高島良子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院眼科,<sup>2)</sup>同病理学第1,<sup>3)</sup>日本電子(株)応用研究センター): 白内障手術後に混濁をきたした含水性アクリル眼内レンズの電子顕微鏡観察. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 2003. 10.

- 17) 劉 愛民, 杉崎祐一, 細根 勝<sup>1)</sup>, 並松茂樹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>2)</sup>付属病院病理部): Microvillous Lymphoma with CD30+ALCL-B featuresの1例. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 2003. 10.
- 18) 安達彰子, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 戴 威, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>付属病院小児科): 小児白血病患者末梢血の電子顕微鏡観察 2. 走化性を示す好中球. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 2003. 10.
- 19) 佐藤 茂, 戴 威, 並松茂樹<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部,<sup>2)</sup>病理学第1): サーファクタント特異性蛋白(SP-C)のII型肺胞上皮細胞内の局在: 免疫電顕法を用いて. 第39回日本界面医学会学術研究会, 2003. 11.

## [ 情報科学センター ]

### 研究概要

#### 1. 教育の研究

本年は、仮想大学システムJenzabarを試験導入し、研究分野として「医学教育学」に眼を向けた年である。

高等教育のIT化は、現在の大学生き残り競争の時代の中で、各大学が必死に取り組んでおり、種々の試みがなされて、紆余曲折をしながら発展、普及している。

医科大学においても、今後避けては通れない時代である。教育の改善、進化に情報技術が、どのように貢献できるか、実践活動そのものを、重要な「研究」として捉えていく事になる。

実際の授業である以上、極端な実験的教育を行なうわけにはいかないであろうが、今後も先進的な試みを積極的に行なう事となる。

関連して、本年、新丸子に常設のマルチメディア教室、図書館にビデオ編集設備が出来たことは、本学の教育の情報化に対して、大きな期待が持てた。

新丸子校舎の設備については、すでにCBTでの利用が試されているほか、各種講習会を円滑に行なう環境として利用が進んでいる。学内ビデオオンデマンド システムも多くの番組が整備され始め、学内での認知も広がってきている。

#### 2. BMI

Bio-Medical Informaticsの環境整備を進める予定であったが、その歩みは遅々としてしまった。

しかし、遅々としても進んでいる事は確かである。本年は学内での多くの御指導、御助力をいただき、今後センターとして、本来的な「Computeing」の分野で生命科学への貢献が始まる予想をしており、心が弾む。

#### 3. 学内LAN

平成15年8月は、インターネットセキュリティの点では記憶すべき年となるであろう。本学も大きな被害を蒙り、約1ヶ月多忙な日々を過ごしてしまった。ネットワークに接続しただけで感染するワームは、この後次々と現れ、対策としてダイヤルアップ回線の停止を行なった。適正なセキュリティ対策は常に調査し、本学の状況に対応した対策をしっかりと研究する必要がある。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

1) Kikuchi H<sup>1)</sup>, Kubo M<sup>2)</sup>, Watanabe N, Suzuki H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Physics, Nippon Medical School,

<sup>2)</sup>Waseda Univ. ): Computational method for calculating multidimensional Franck-Condon factors : Based on Sharp-Rosenstock's method . J Chem Phys 2003 ; 119 ( 2 ): 729-736 .

(2) 研究報告書 :

- 1) Kawamo K , Toyama M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Kanagawa Prefectural Fijisawa High School ): Effects of Qigong Training on High School Students - I . J Intl Soc Life Info Sci 2003 ; 21 ( 2 ): pp382-386 .
- 2) Kawano K , Konjiki F<sup>1)</sup>, Ago Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Tokyo Kasei University , <sup>2)</sup>Bunkyo Gakuin University ): Psychological Effects and Sexual Differences in EEG Values during Collage Making . J Intl Soc Life Info Sci 2004 ; 22 ( 1 ): pp60-64 .

著 書

- 1) 河野貴美子 : [ 共著 ] 脳波で探るこころとからだ . 潜在能力の科学 ( 山本幹男他 ) , 2004 ; pp92-114 , 国際生命情報科学会 .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 河野貴美子 : 脳波からみた日本人・欧米人の脳内計算処理方法の比較検討 . 日本数学協会 , 2003 . 8 .
- 2) 河野貴美子 , 外山美恵子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立藤沢高等学校) : 高校生における気功の鍛錬とその効果 : 第1報 . 第16回生命情報科学シンポジウム , 2003 . 8 .
- 3) 河野貴美子 : 脳の計算処理における日本人と欧米人の比較 : 脳波およびアンケートによる検討 . 第33回日本臨床神経生理学会 , 2003 . 10 .
- 4) 河野貴美子 : 脳波に現れる瞑想法の差異 . 第19回日本催眠学会学術集会 , 2003 . 10 .
- 5) 渡部 昇 , 河野貴美子 , 滋野恭子 , 奥重秀彦 , 伊藤高司 : 学習ツールとしてのPCと学生用情報環境の整備 . 平成15年度情報処理教育研究集会 , 2003 . 11 .
- 6) 渡部 昇 , 河野貴美子 , 滋野恭子 , 奥重秀彦 , 伊藤高司 : 学生用のコンピュータの環境整備・運用・サポート . 第23回医療情報学連合大会 ( 第4回医療情報学会学術大会 ) , 2003 . 11 .
- 7) 伊藤高司 , 河野貴美子 , 渡部 昇 , 滋野恭子 , 奥重秀彦 : 授業サポートシステムとしてのあるe-Learningシステムの試用と評価 . 第23回医療情報学連合大会 ( 第4回医療情報学会学術大会 ) , 2003 . 11 .
- 8) 河野貴美子 : 熟高齢者における気功鍛錬効果の検討 . 人体科学会第13回大会 , 2003 . 12 .
- 9) 河野貴美子 , 近喰ふじ子<sup>1)</sup>, 吾郷晋浩<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京家政大学 , <sup>2)</sup>文京学院大学) : コラージュ制作による心理状態変化と脳波に現れる男女の差異 . 第17回生命情報科学シンポジウム , 2004 . 3 .

## 〔 3 〕 臨 床 医 学

# 1. 内科学第一講座

## [ 付属病院第 1内科 ( 一般内科, 循環器内科, 肝臓内科 ) ]

### 研究概要

#### 研究業績

内科学第一教室では循環器病学, 肝臓病学, 糖尿病学, ならびに再生医学を中心に以下に示すような臨床的, 基礎的研究を行った.

循環器病学では, 不整脈に関する研究として, 1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法, 薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈, 突然死発生との関連の検討, 2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用, 臨床効果の検討, 3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療, 4) 失神患者における自律神経機能の評価, 5) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討.

虚血性心疾患, 心筋疾患に関する研究として, 1) 薬剤負荷心エコー図法やstrain rate imagingによるviable myocardium, 心筋虚血の検出, 2) 虚血性心疾患における圧受容体反射, 3) 急性心筋梗塞後の左室リモデリング, 4) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連, 5) 虚血心筋保護法の検討, 6) 虚血性心疾患, 心筋疾患における成長因子, 細胞増殖因子の検討, 7) 慢性心不全における進行性心筋障害の病態と治療法の検討, 8) 心臓リハビリテーション.

肝臓病学では, 1) 門脈圧亢進症の病態, 薬物療法に関する検討, 2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態, 3) SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生, 4) 慢性肝疾患における肺循環異常, 5) 二次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化とNOの関係.

糖尿病学では, 1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性, 2) 糖尿病患者における自律神経機能, 3) 無症候性心筋虚血の病態, を検討している.

再生医学の臨床応用は2002年より開始され, 首都圏で初めて「骨髄細胞移植を用いた末梢性血管疾患 (慢性閉塞性動脈硬化症・パージャール病・糖尿病性壊疽) への血管再生療法」の臨床応用に成功した. また重症心不全, 虚血性心筋症の心臓へ骨髄細胞を移植する心筋再生療法も2003年より始まった. さらに日本獣医畜産大学との共同研究で免疫抑制剤不要の夢の治療法となるバイオ人工臓の開発も研究中である.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Tanaka K, Seino Y, Ohbayashi K, Takano T: Cardiac Emergency Triage and Therapeutic Decisions Using Whole Blood Rapid Troponin T Test for Patients With Suspicious Acute Coronary Syndrome. Jpn Circ J 2001; 65 (5): 424-428.
- 2) Hirayama Y, Kuruma A<sup>1)</sup>, Hiraoka M<sup>2)</sup>, Kawano S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Brain Science Institute RIKEN, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Diseases Medical Research Institute Tokyo Medical and Dental University ): Calcium-Activated Cl<sup>-</sup> Current Is Enhanced by Acidosis and Contributes to the Shortening of Action Potential Duration in Rabbit Ventricular Myocytes. Jpn J Physiol 2002; 52 (3): 293-300.
- 3) Buell HE, Stables RH, DeLong ER, Shuping KB, Killip DM, Lever HM, McKenna WJ, Rubin D, Sigwart U, Takayama M, Wagner GS, Eisentein EL, Spencer WH: Percutaneous transluminal septal reduction for hypertrophic obstructive cardiomyopathy: report from an international pilot study. J Med Syst 2002; 26 (4): 293-300.

- 4) Seino Y , Hori M<sup>1)</sup> , Sonoda T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> The First Department of Internal Medicine Osaka University , <sup>2)</sup> Osaka Prefecture General Hospital ): Multicenter Prospective Investigation on Cardiovascular Adverse Effects of Tacrolimus in Kidney Transplantations . Cardiovascular Drugs and Therapy 2003 ; 17 ( 2 ): 141-149 .
- 5) Ohmura K, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Endoh Y, Atarashi H, Katoh T, Takano T : Electrocardiographic and electrophysiological characteristics of atrial fibrillation organized into atrial flutter by oral administration of class I antiarrhythmic agents . Pacing Clin Electrophysiol 2003 ; 26 ( 3 ): 692-702 .
- 6) Kameyama M , Hirayama Y , Saitoh H , Maruyama M , Atarashi H , Takano T : Possible Contribution of the Sarcoplasmic Reticulum Ca<sup>2+</sup> Pump Function to Electrical and Mechanical Alternans . J Electrocardiol 2003 ; 36 ( 2 ): 125-135 .
- 7) Tang X<sup>1)</sup> , Kodani Y , Takano H , Hill M<sup>1)</sup> , Shinmura K<sup>1)</sup> , Vondriaka TM<sup>1)</sup> , Ping P<sup>1)</sup> , Bolli R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Cardiology, University of Louisville ): Protein tyrosine kinase signaling is necessary for NO donor-induced late preconditioning against myocardial stunning . Am J Physiol Heart Circ Physiol 2003 ; 284 ( 4 ): 1441-1448 .
- 8) Yamashita T<sup>1)</sup> , Sekiguchi A<sup>1)</sup> , Iwasaki Y , Sagara K<sup>1)</sup> , Iinuma H<sup>1)</sup> , Hatano S<sup>1)</sup> , Fu LT<sup>1)</sup> , Watanabe H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute ): Circadian Variation of Cardiac K<sup>+</sup> Channel Gene Expression . Circulation 2003 ; 107 : 1917-1922 .
- 9) Seino Y , Ogata K , Takano T , Ishii J<sup>1)</sup> , Hishida H<sup>1)</sup> , Morita H<sup>2)</sup> , Takeshita H<sup>2)</sup> , Takagi Y<sup>3)</sup> , Sugiyama H<sup>3)</sup> , Tanaka T<sup>4)</sup> , Kitaura Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology Fujita Health University , <sup>2)</sup> Osaka Mishima Critical Care Center , <sup>3)</sup> Department of Clinical Pathology, Showa University , <sup>4)</sup> The Third Department of Medicine Osaka Medical College ): Use of a Whole Blood Rapid Panel Test for Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein in Patients with Acute Chest Pain : Comparison with Rapid Troponin T and Myoglobin Tests . Ame J Med 2003 ; 115 ( 3 ): 185-190 .
- 10) Okumura S , Takagi G , Kawabe J , Yang G , Lee M , Hong C , Liu J , Vatner D , Sadoshima J , Vatner S<sup>1)</sup> , Ishikawa Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cell Biology and Molecular Medical ): Disruption of type 5 adenylyl cyclase gene preserves cardiac function against pressure overload . PNAS 2003 ; 100 ( 17 ): 9986-9990 .
- 11) Kumita S<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Cho K<sup>1)</sup> , Sato N<sup>1)</sup> , Nakajo H<sup>1)</sup> , Toba M<sup>1)</sup> , Fukushima Y<sup>1)</sup> , Mizumura S<sup>1)</sup> , Takano T , Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Assessment of left ventricular function using solid-state gamma camera equipped with a highly-sensitive collimator . Ann Nucl Med 2003 ; 17 ( 6 ): 517-520 .
- 12) Takahashi Y , Takayama M , Sato N , Nitta T , Tanaka S , Takano T : Restoration of endothelial function after repaired coarctation of the aorta : a case report . Angiology 2003 ; 54 ( 5 ): 609-611 .
- 13) Shimizu S , Satomura K , Aramaki T , Katsuta Y , Takano T , Omoto Y<sup>1)</sup> : Hepatic chymase level in chronic hepatitis : co-localization of chymase with fibrosis . Hepatol Res 2003 ; 27 ( 1 ): 62-66 .
- 14) Yamashita T , Ogawa S , Aizawa Y , Atarashi H , Inoue H , Ohe T , Okumura K , Kato T , Kamakura S , Kumagai K , Kurachi Y , Kodama I , Koretsune Y , Saikawa T , Sakurai M , Sugi K , Nakaya H , Nakayama T , Hirai M , Fukatani M , Mitamura H , Yamazaki T ( J-RHYTHM Clinical Trial Center ) The Cardiovascular Institute : Investigation of the Optimal Treatment Strategy for Atrial Fibrillation in Japan : The J-RHYTHM ( Japanese Rhythm Management Trial for Atrial Fibrillation ) Study Design . Circ J 2003 ; 67 ( 9 ): 738-741 .
- 15) Hayashi M , Kobayashi Y , Morita N , Iwasaki Y , Ohmura K , Atarashi H , Katoh T , Takano T : Clinical Significance and Contributing Factors os Long-Term Variability in Induced Ventricular Tachyarrhythmias . J Cardiovasc Electrophysiol 2003 ; 14 ( 10 ): 1049-1056 .
- 16) Zhang X , Katsuta Y , Akimoto T<sup>1)</sup> , Ohsuga M , Aramaki T , Takano T ( <sup>1)</sup> Laboratory of Animal Medicine ): Intrapulmonary vascular dilatation and nitric oxide in hypoxemic rats with chronic bile duct ligation .

- J Hepatol 2003 ; 39 ( 5 ) : 724-730 .
- 17) Yamashita T , Sekiguchi A , Iwasaki Y , Sagara K , Hatano S , Iinuma H , Aizawa T , Fu LT ( The Cardiovascular Institute ) : Thrombomodulin and Tissue Factor Pathway Inhibitor in Endocardium of Rapidly Paced Rat Atria . Circulation 2003 ; 108 : 2450-2452 .
  - 18) Satomura K , Yin M , Shimizu S , Kato Y , Nagano Y , Komeichi H , Ohsuga M , Katsuta Y , Aramaki T , Omoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Biologic Research Institute, Otsuka Pharmaceutical Co Ltd ) : Increased Chymase in Livers with Autoimmune Disease : Colocalization with Fibrosis . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ) : 490-495 .
  - 19) Katoh T , Yodogawa K , Ohno T , Hayakawa H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kugayama Hospital ) : Improvement of the Diagnostic Accuracy in Computer-Assisted Differential Diagnosis for Wide QRS Premature Complexes . Circ J 2003 ; 67 ( 12 ) : 1036-1040 .
  - 20) Jian W<sup>1)</sup> , Tajima H<sup>1)</sup> , Murata S<sup>1)</sup> , Abe Y<sup>1)</sup> , Hakozaiki K<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Kasuga M , Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ) : Renal artery stenosis in a patient with Leriche syndrome : brachial artery access for stent placement . Radiat Med 2004 ; 22 ( 1 ) : 49-51 .
  - 21) Hirayama Y , Atarashi H , Kobayashi Y , Takano T : Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitors are not Effective at Inhibiting Further Fibrous Changes in the Atria in Patients With Chronic Atrial Fibrillation . Jpn Heart J 2004 ; 45 ( 1 ) : 93-101 .
  - 22) Miyauchi M , Kobayashi Y , Miyauchi Y , Abe J , Morita N , Iwasaki YK , Hayashi M , Takano T : Parasympathetic Blockade Promotes Recovery from Atrial Electrical Remodeling Induced by Short-term Rapid Atrial Pacing . Pacing Clin Electrophysiol 2004 ; 27 ( 1 ) : 33-37 .
  - 23) Okamatsu K , Takano M , Sakai S , Ishibashi F , Uemura R , Takano T , Mizuno K : Elevated troponin T levels and lesion characteristics in non-ST-elevation acute coronary syndromes . Circulation 2004 ; 109 ( 4 ) : 465-470 .
  - 24) Seino Y , Tomita Y , Takano T , Ohbayashi K : Office Cardiologists Cooperative Study on Whole Blood Rapid Panel Tests in Patients With Suspicious Acute Myocardial Infarction : Comparison Between Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein and Troponin T Tests . Circ J 2004 ; 68 ( 2 ) : 144-148 .
  - 25) Amano Y , Takayama M , Amano M , Kumazaki T : MRI of cardiac morphology and function after percutaneous transluminal septal myocardial ablation for hypertrophic obstructive cardiomyopathy . Am J Roentgenol 2004 ; 182 ( 2 ) : 523-527 .
  - 26) Seino Y , Ogawa A , Yamashita T , Fukushima M , Ogata K , Fukumoto H , Takano T : Application of NT-proBNP and BNP measurements in cardiac care : a more discerning marker for the detection and evaluation of heart failure . Eur J Heart Failure 2004 ; 6 : 295-300 .
  - 27) 小野寺威夫 , 小林義典 , 井野 威 , 新 博次 , 加藤貴雄 , 高野照夫 : 発作性上室性頻拍におけるST低下の臨床的特徴とその発生機序 . 2003 ; 23 ( 3 ) : 262-270 .
  - 28) 宮本正章 , 高野仁司 , 藤田進彦 , 小鹿野道雄 , 百束比古<sup>1)</sup> , 安武正弘 , 高木啓倫 , 太良修平 , 水野博司<sup>1)</sup> , 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 形成外科学 ) : 糖尿病足病変の治療 重症難治性糖尿病性壊疽に対する自己骨髄細胞浸透人工真皮を用いた血管再生細胞治療 . 糖尿病と血管 2003 ; 8 ( 1 ) : 31-37 .
  - 29) 宮本正章 , 安武正弘 , 高野仁司 , 高木 元 , 高木啓倫 , 水野博司<sup>1)</sup> , 汲田伸一郎<sup>2)</sup> , 落 雅美<sup>3)</sup> , 坂本篤裕<sup>4)</sup> , 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 形成外科学 , <sup>2)</sup> 放射線医学 , <sup>3)</sup> 外科学第2 , <sup>4)</sup> 麻酔科学 ) : 難治性疾患への再生医療 : 重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞を利用した新しい血管再生治療 . 麻酔 2003 ; 52 ( 増刊 ) : 67-75 .
  - 30) 細川雄亮 , 高野仁司 , 大野忠明 , Zreiqat J , 中込明裕 , 高山守正 : 孤立性中流部閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的な心筋中隔焼灼術 . 2003 ; 18 ( 6 ) : 549-556 .
  - 31) 山本 剛 , 高木啓倫 , 亀山幹彦 , 林 明聡 , 坪 宏一 , 佐藤直樹 , 田中啓治 , 高野照夫 , 田島廣之<sup>1)</sup> , 隈崎達

- 夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線医学): 重症急性肺血栓症に対する積極的カテーテル治療の効果. 脈管学 2004 ; 44 ( 1 ): 1-5 .
- (2) 綜説 :
- 1) Maruyama M , Kobayashi Y , Kodani E , Hirayama Y , Atarashi H , katoH T , Takano T : Osborn Waves : History and Significance . Indian Pacing and Electrophysiol J 2004 ; 4 ( 1 ): 33-39 .
  - 2) 岩崎雄樹 , 山下武志<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>心臓血管研究所第三研究部): 心房細動におけるイオンチャンネルのリモデリング - 心房細動にみられるさまざまなイオンチャンネルのリモデリングの機序と病態生理学的意義 . 医学のあゆみ 2002 ; 2000 ( 9 ): 701-705 .
  - 3) 岩崎雄樹 他: 抗不整脈薬による停止と薬剤選択 . 臨床医 2002 ; 28 ( 6 ): 669-703 .
  - 4) 説田浩一<sup>1)</sup> , 清野精彦 ( <sup>1</sup> 都立駒込病院循環器内科 ): ESC/ACC 心筋梗塞診断基準 . 臨床検査 2002 ; 46 ( 10 ): 1140-1143 .
  - 5) 岩崎雄樹 , 山下武志<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>心臓血管研究所第三研究部): 心房細動 , 心房粗動 , 上室性頻拍 . Mebio 2003 ; 20 ( 1 ) .
  - 6) 高野照夫: 急性冠症候群: 診断と治療の進歩 . 日本内科学会 2003 ; 93 ( 2 ): 1-2 .
  - 7) 高山守正: 急性冠症候群の診断 . 日本臨床 2003 ; 61 ( 増5 ): 303-311 .
  - 8) 加藤貴雄: 不整脈診療の新しい展開 . 成人病と生活習慣病 2003 ; 33 ( 5 ): 535-544 .
  - 9) 高野照夫: 急性心筋梗塞の診断・治療: 将来への期待 . 日本医事新報 2003 ; 4126 : 1-14 .
  - 10) 林 明聡 , 加藤貴雄: 心房粗細動の薬物療法 . ICUとCCU 2003 ; 27 ( 5 ): 339-351 .
  - 11) 岸田 浩: 安全対策と薬剤性QT延長症候群 . Jpn J Electrocardiol 2003 ; 23 ( 3 ): 251-252 .
  - 12) 清野精彦: 心筋生化学マーカーによる梗塞サイズの評価 . 日本臨床 2003 ; 61 ( 増5 ): 417-425 .
  - 13) 佐藤直樹<sup>1)</sup> , 高野照夫 ( <sup>1</sup> 付属病院集中治療室 ): 急性心筋梗塞に対するニトログリセリン . ICUとCCU 2003 ; 26 ( 5 ): 369-373 .
  - 14) 林 明聡<sup>1)</sup> , 加藤貴雄 ( <sup>1</sup> 集中治療室 ): 不整脈のマネジメント: 最近の進歩 . ICUとCCU 2003 ; 27 ( 5 ): 339-350 .
  - 15) 加藤貴雄: 不整脈診療の新しい展開 . 成人病と生活習慣病 2003 ; 33 ( 5 ): 535-544 .
  - 16) 岸田 浩 , 鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科): 狭心症の臨床・狭心症に対する薬物療法 . 日本臨床 2003 ; 61 ( 増5 ): 93-97 .
  - 17) 高山守正 , 高野照夫: 東京都CCUネットワーク . 救急医学 2003 ; 27 ( 6 ): 713-718 .
  - 18) 加藤貴雄: 心房細動の治療戦略をめぐって . 呼と循 2003 ; 51 ( 6 ): 535-535 .
  - 19) 高山守正 , 原 和弘<sup>1)</sup> , 本江純子<sup>1)</sup> , 中村正人<sup>1)</sup> , 代田浩之<sup>1)</sup> , 木村 満<sup>1)</sup> , 村上幹高<sup>1)</sup> , 住吉徹哉<sup>1)</sup> , 河口正雄<sup>1)</sup> , 林田憲明<sup>1)</sup> , 笠貫 宏<sup>1)</sup> , 河合 靖<sup>1)</sup> , 竹下 聡<sup>1)</sup> , 相良耕一<sup>1)</sup> , 百村伸一<sup>1)</sup> , 五十嵐正樹<sup>1)</sup> , 長尾 健<sup>1)</sup> , 内山隆史<sup>1)</sup> , 吉野秀朗<sup>1)</sup> , 逆井 誠<sup>1)</sup> , 桜田春水<sup>1)</sup> , 田中啓治 , 市川誠一<sup>1)</sup> , 久保一郎<sup>1)</sup> , 宮本敬長<sup>1)</sup> , 丹羽明博<sup>1)</sup> , 吉良有二<sup>1)</sup> , 稲葉茂樹<sup>1)</sup> , 香川 昇<sup>1)</sup> , 坂本保己<sup>1)</sup> , 高野照夫 ( <sup>1</sup> 東京都CCU連絡協議会 ): 東京都CCUネットワークの2001年活動実績報告書 . ICUとCCU 2003 ; 27 ( 6 ): 487-491 .
  - 20) 山下照代 , 清野精彦: 心不全と腎機能障害 . 腎と透析 2003 ; 増刊: 303-307 .
  - 21) 小林義典: 心房細動と高血圧症 . Heart View 2003 ; 7 ( 4 ): 30-35 .
  - 22) 小林義典: 薬物併用の利点と問題点 . 治療学 2003 ; 37 ( 7 ): 49-52 .
  - 23) 岩崎雄樹 , 山下武志<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>心臓血管研究所第三研究部): 心房細動の発生の分子メカニズム . Heart View 2003 ; 7 ( 4 ): 58-62 .
  - 24) 岩崎雄樹 , 山下武志<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>心臓血管研究所第三研究部): 電気的リモデリングを治療に活かせるか? . Heart View 2003 ; 7 ( 8 ): 124-129 .
  - 25) 岩崎雄樹 , 加藤貴雄: 嚔下性失神と咳嗽失神 . 循環器科 2003 ; 54 ( 2 ): 162-166 .
  - 26) 岸田 浩: 心電図どこまで読めるか . Heart View 2003 ; 7 ( 9 ): 119-123 .

- 27) 宮本正章, 安武正弘, 高野仁司, 高木 元, 高木啓倫, 水野博司<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>4)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>形成外科学, <sup>2)</sup>放射線医学, <sup>3)</sup>外科学第2, <sup>4)</sup>麻酔科学 ): 重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞移植血管再生治療の現状. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 5 ): 436-441 .
- 28) 加藤貴雄: 臨床医のためのやさしい心電図の読み方 幅の広いQRS. 総合臨床 2003 ; 52 ( 10 ): 2825-2830 .
- 29) 加藤貴雄: 臨床医のためのやさしい心電図の読み方 ST低下. 総合臨床 2003 ; 52 ( 11 ): 3091-3095 .
- 30) 宮本正章: 糖尿病を合併したASOに血管再生療法は有効か. 臨床医のための循環器診療 2003 ; 2 : 17-23 .
- 31) 清野精彦, 高野照夫: 2000年ESC/ACC心筋梗塞再定義を受けて. 検査と技術 2003 ; 31 ( 12 ): 1340-1342 .
- 32) 堀江 格, 松浦隆彦<sup>1)</sup>, 山藤由明<sup>2)</sup>, 五代和紀<sup>1)</sup>, 足立晶子<sup>1)</sup>, 前田直人<sup>2)</sup>, 村脇義和<sup>2)</sup>, 陶山和子<sup>3)</sup>, 武地幹夫<sup>4)</sup>, 近藤雅雄<sup>5)</sup>, 荒牧琢己 ( <sup>1)</sup>日野病院, <sup>2)</sup>鳥取大学医学部, <sup>3)</sup>西伯病院, <sup>4)</sup>江尾診療所, <sup>5)</sup>国立健康栄養研究所 ): ポルフィリン症の相談窓口開設1年3ヶ月の経験. Jpn Pharmacol Ther 2003 ; 31 ( 増1 ): 73-75 .
- 33) 加藤貴雄: 臨床医のためのやさしい心電図の読み方 ST上昇. 総合臨床 2003 ; 52 ( 12 ): 3287-3293 .
- 34) 宮本正章: 小児難治性アトピー性皮膚炎に奏効した漢方エキス製剤合方の経験. 漢方医学 2003 ; 27 ( 5 ): 18-18 .
- 35) 高木 元, 清野精彦: 心肥大の降圧療法と臓器保護. 成人病と生活習慣病 2003 ; 33 ( 12 ): 1515-1521 .
- 36) 小林義典: 非薬物治療の役割: 特にICDによる突然死一次予防について. Ther Res 2004 ; 25 ( 1 ): 98-110 .
- 37) 加藤貴雄: 臨床医のためのやさしい心電図の読み方 SIQIIIITIII型. 総合臨床 2004 ; 53 ( 1 ): 189-194 .
- 38) 岸田 浩: 1枚の心電図から. 日本医事新報 2004 ; 4159 : 69-72 .
- 39) 岸田 浩: 無症候性心筋虚血. 今月の治療 2004 ; 11 ( 臨時増刊 ): 53-56 .
- 40) 平澤泰宏, 加藤貴雄: 洞不全症候群. 今月の治療 2004 ; 11 ( 臨時増刊 ): 120-123 .
- 41) 丸山光紀, 新 博次: 非持続性心室頻拍の対処法. 臨床医 2004 ; 30 ( 1 ): 51-55 .
- 42) 山本 剛, 高野照夫: 抗凝固療法・線溶療法(容量, 投与期間など)(特集: 急性肺血栓塞栓症: 予防ガイドライン制定の意義). 日本臨床 2004 ; 61 ( 10 ): 1757-1763 .
- 43) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 急性発症の治療はどう行うか(特集: 急性肺塞栓診療の最前線). 臨床医 2004 ; 30 ( 3 ): 340-343 .
- 44) 高野照夫: 心臓突然死とprehospital care. 東京都医師会 2004 ; 57 ( 2 ): 122-126 .
- 45) 加藤貴雄: 臨床医のためのやさしい心電図の読み方 QT延長. 総合臨床 2004 ; 53 ( 2 ): 384-389 .
- 46) 清野精彦, 高野照夫: 心筋生化学マーカーによる評価: multimarker Strategy. 日本内科学会 2004 ; 93 ( 2 ): 35-42 .
- 47) 岸田 浩, 平山悦之, 小林義典, 新 博次<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科 ): 心電学研究の進歩. 循環器専門医 2004 ; 12 ( 1 ): 95-101 .
- 48) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 急性発症の治療はどう行うか. 臨床医 2004 ; 30 ( 3 ): 340-343 .
- 49) 清野精彦: 急性心不全治療のアルゴリズム. Heart View 2004 ; 8 ( 3 ): 66-73 .
- 50) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛, 田中啓治, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>放射線医学 ): カテーテル血管内治療の効用と限界. ICUとCCU 2004 ; 28 ( 3 ): 181-184 .

### (3) 研究報告書:

- 1) 高野照夫: 難治性血管炎に関する調査報告書. 難治性血管炎に関する調査報告書 平成14年度総括・分担研究報告書 2003 ; pp71-72 .
- 2) 岸田 浩, 児玉和久<sup>1)</sup>, 平山篤志<sup>1)</sup>, 田邊晃久<sup>2)</sup>, 齋藤 穎<sup>3)</sup>, 川久保清<sup>4)</sup>, 李 鍾大<sup>5)</sup>, 高瀬凡平<sup>6)</sup>, 西崎光弘<sup>7)</sup>, 草間芳樹, 小出 靖<sup>8)</sup>( <sup>1)</sup>大阪警察病院, <sup>2)</sup>東海大学医学部内科学, <sup>3)</sup>第二内科, <sup>4)</sup>共立女子大学家政学部, <sup>5)</sup>福井大学第一内科, <sup>6)</sup>防衛医科大学校第一内科, <sup>7)</sup>横浜南共済病院循環器科, <sup>8)</sup>杏林大学医学部第二内科 ): 虚血性心疾患診療のための負荷試験による心電情報の有効性に関する委員会. 2003 ; 23 ( 6 ): pp665-667 .



- 3) 佐藤直樹, 小林義典: 難治性心不全の治療. 東京内科医会 2003 ; 19 (1): pp33-42 .
- 4) 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂根 学<sup>2)</sup>, 飯野靖彦<sup>3)</sup>, 田村浩一<sup>4)</sup>, 壇 和夫<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup>, 青木 宏<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>4)</sup>, 杉崎祐一<sup>4)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>4)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 金子礼志<sup>2)</sup>, 清水 章<sup>4)</sup>, 清野精彦, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>リウマチ科, <sup>3)</sup>内科学第2, <sup>4)</sup>病理学第1, <sup>5)</sup>病理学第2 ): 間接リウマチの長期経過中に合併した全身性エリテマトーデスの1例. 内科 2003 ; 92 (5): pp951-960 .
- 5) 川久保清<sup>1)</sup>, 伊東春樹<sup>2)</sup>, 勝村俊仁<sup>3)</sup>, 岸田 浩, 古賀義則<sup>4)</sup>, 坂本静男<sup>5)</sup>, 下光輝一<sup>6)</sup>, 高田英臣<sup>7)</sup>, 高橋幸宏<sup>8)</sup>, 中澤 誠<sup>9)</sup>, 長嶋正実<sup>10)</sup>, 野原隆司<sup>11)</sup>, 橋本 通<sup>12)</sup>, 馬場礼三<sup>13)</sup>, 武場春樹<sup>14)</sup>, 山崎 元<sup>15)</sup> ( <sup>1)</sup>共立女子大学家政学部栄養学科, <sup>2)</sup>心臓血管研究所付属病院, <sup>3)</sup>東京医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>4)</sup>久留米大学付属医療センター循環器科, <sup>5)</sup>早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科, <sup>6)</sup>東京医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>7)</sup>横浜市スポーツ医科学センター内科診療所, <sup>8)</sup>榊原記念病院心臓外科, <sup>9)</sup>東京女子医科大学日本心臓血管研究所循環器小児科, <sup>10)</sup>あいち小児保健医療総合センター, <sup>11)</sup>田附興風会北野病院循環器内科, <sup>12)</sup>昭和藤が丘リハビリテーション病院循環器内科, <sup>13)</sup>愛知医科大学小児科学講座, <sup>14)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院循環器内科, <sup>15)</sup>慶應義塾大学 ): 心疾患患者の学校, 職域, スポーツにおける運動許容条件に関するガイドライン. Circ J 2003 ; 67 (SIV): pp1261-1326 .
- 6) 荒牧琢己, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 勝田悌実, 里村克章: 都内自己免疫肝炎患者の実態調査に関する研究, とくに国内他地域との差について. 平成14年度特殊疾病 (難病) に関する研究報告書 2004 ; pp29-36 .
- 7) 坂本静樹<sup>1)</sup>, 三富規行<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>, 勝田悌実, 津久井拓<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>5)</sup>, 横山宗伯<sup>4)</sup>, 森修<sup>6)</sup>, 長田祐二<sup>2)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 山崎峰夫<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>内科学第3, <sup>3)</sup>付属病院病理部, <sup>4)</sup>病理学第2, <sup>5)</sup>病理学第1, <sup>6)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>7)</sup>内科学第4 ): 出血性脳梗塞をきたしたクリプトコッカス髄膜炎合併アルコール性肝変の1例. 内科 2004 ; 93 (2): pp348-357 .
- 8) 野村政則<sup>1)</sup>, 本田 喬<sup>2)</sup>, 長村良章<sup>3)</sup>, 高山守正, 平沢邦彦<sup>4)</sup>, 牛島明子<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>藤田保健衛生大学, <sup>2)</sup>済生会熊本病院, <sup>3)</sup>山田循環器医院, <sup>4)</sup>市立旭川病院 ): 急性冠症候群の専門医への紹介. 日本内科学会 2004 ; 93 (2): pp128-147 .

## 著 書

- 1) 岩崎雄樹: [ 分担 ] 心房細動の分子生物学. 心房細動 (山下武志): pp52-61, メジカルビュー社 .
- 2) 小林義典: [ 分担 ] 心房細動のレートコントロール. EBM 循環器疾患の治療2004 - 2005 (三田村秀雄), 2003 ; pp466-475, 中外医学社 .
- 3) 加藤祐子, 清野精彦: [ 分担 ] 生化学的指標により予後を推定できるか?. EBM 循環器疾患の治療2004 - 2005 (三田村秀雄), 2003 ; pp236-244, 中外医学社 .
- 4) 田中啓治: [ 分担 ] 補助循環はどのタイミングで開始するのか: 内科の立場から. EBM 循環器疾患の治療2004 - 2005 (三田村秀雄), 2003 ; pp428-435, 中外医学社 .
- 5) 清野精彦, 加藤祐子, 小川晃生, 山下照代: [ 分担 ] 神経体液因子測定は心不全診療に必要なか?. EBM 循環器疾患の治療2004 - 2005 (三田村秀雄), 2003 ; pp250-258, 中外医学社 .
- 6) 小川晃生, 山下照代, 清野精彦: [ 分担 ] 心不全. 内科学レビュー (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢), 2003 ; pp46-51, 総合医学社 .
- 7) 岩崎雄樹, 山下武志<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>心臓血管研究所第三研究部 ): [ 分担 ] 甲状腺機能亢進症の不整脈. 抗不整脈薬のすべて (小川 聡, 大江 透, 井上 博), 2003 ; pp262-266, 先端医学社 .
- 8) 田中啓治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): [ 分担 ] 心筋梗塞の初期症状. 急性心筋梗塞を見逃さないために (島崎修次, 高野照夫, 田中啓治), 2003 ; pp3-6, 杏林大学医学部救急医学教室 .
- 9) 清野精彦: [ 分担 ] 急性心筋梗塞を見逃さないために: 血液検査による心筋梗塞の迅速診断. 急性心筋梗塞を見逃さないために (島崎修次, 高野照夫, 田中啓治), 2003 ; pp15-20, 杏林大学医学部救急医学教室 .

- 10) 佐藤直樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): [分担] 重傷度や合併症のチェック。急性心筋梗塞を見逃さないために(島崎修次, 高野照夫, 田中啓治), 2003; pp32-40, 杏林大学医学部救急医学教室。
- 11) 高山守正: [分担] なぜ緊急冠動脈造影が必要か。急性心筋梗塞を見逃さないために(島崎修次, 高野照夫, 田中啓治), 2003; pp53-57, 杏林大学医学部救急医学教室。
- 12) 安武正弘: [分担] 冠動脈集中治療室(CCU)の機能。急性心筋梗塞を見逃さないために(島崎修次, 高野照夫, 田中啓治), 2003; pp62-64, 杏林大学医学部救急医学教室。
- 13) 高野照夫, 高山守正: [分担] 東京都CCUネットワークの機能と活動状況。急性心筋梗塞を見逃さないために(島崎修次, 高野照夫, 田中啓治), 2003; pp78-86, 杏林大学医学部救急医学教室。
- 14) 岸田 浩: [分担] 虚血性心疾患治療薬の臨床薬理。臨床薬理学(日本臨床薬理学会), 2003; pp360-369, 医学書院。
- 15) 雪吹周生, 岸田 浩: [分担] 昇圧薬。治療薬ガイド2003~2004(和田攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内慰義), 2003; pp275-281, 文光堂。
- 16) 加藤貴雄, 堀江 格: [分担] 右脚ブロックと左脚ブロックでは臨床症状や予後に差がありますか? また2~3枝ブロックの典型的な心電図所見と, その意味を教えてください。不整脈 診療ガイドランス(相沢義房), 2003; pp57-59, メジカルビュー社。
- 17) 林 明聡<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室): [分担] 急性心不全の薬物療法。心不全治療への挑戦(堀 正二), 2003; pp98-107, メジカルビュー社。
- 18) 岸田 浩: [分担] 薬はどのように管理すれば飲み忘れませんか。虚血性心疾患診療ガイドランス(上松瀬勝男), 2003; pp226-226, メジカルビュー社。
- 19) 草間芳樹, 安武正弘: [分担] 再灌流と不整脈。新不整脈学(杉本恒明, 井上 博), 2003; pp81-83, 南江堂。
- 20) 加藤貴雄: [分担] 心室遅延電位。新不整脈学(杉本恒明, 井上 博), 2003; pp137-140, 南江堂。
- 21) 加藤貴雄: [分担] 管理・治療の進め方。新しい診断と治療のABC15 心房細動(笠貫宏), 2003; pp99-109, 最新医学社。
- 22) 加藤貴雄: [分担] 心臓の働きとしくみ。心臓ペースメーカー・埋込み型除細動器(田中茂夫), 2003; pp6-9, 医薬ジャーナル社。
- 23) 小林義典: [分担] 不整脈とは。心臓ペースメーカー・植込み型除細動器(田中茂夫), 2003; pp10-17, 医薬ジャーナル社。
- 24) 加藤貴雄: [分担] Sicilian Gambitに基づく抗不整脈薬の分類。今日の治療指針2004(山口 徹, 北原光夫), 2004; pp246-247, 医学書院。
- 25) 清野精彦: [分担] 不安定狭心症, 非ST上昇型梗塞。今日の治療指針2004(山口 徹, 北原光夫), 2004; pp258-261, 医学書院。
- 26) 高野照夫: [分担] 急性心筋梗塞(内科)。今日の治療指針2004(山口 徹, 北原光夫), 2004; pp261-264, 医学書院。
- 27) 加藤祐子, 清野精彦: [分担] オマパトリラート。新世代の循環器薬物療法(北畠 顕), 2004; pp128-133, メジカルビュー社。
- 28) 清野精彦, 加藤祐子, 山下照代: [分担] 心不全。内科学レビュー(酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢), 2004; pp43-50, 総合医学社。
- 29) 小林義典, 高野照夫: [分担] 急性心筋梗塞における不整脈と伝導障害。循環器疾患最新の治療2004-2005(山口 徹, 堀 正二), 2004; pp60-65, 南江堂。
- 30) 高山守正: [分担] 閉塞性肥大型心筋症へのPTSD。循環器疾患最新の治療2004-2005(山口 徹, 堀 正二), 2004; pp18-23, 南江堂。

## 学会発表

[ 2002 年度追加分 ]

### 一般講演 :

- 1) Setsuta K<sup>1)</sup>, Arao M<sup>1)</sup>, Seino Y, Takano T ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Ongoing myocardial damage in patients with hypertensive heart disease without left ventricular systolic dysfunction . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 2) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y, Ogawa T, Takano T ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Persistence of ongoing myocardial damage predicts poor long-term prognosis in patients with chronic heart failure . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 3) Setsuta K<sup>1)</sup>, Arao M<sup>1)</sup>, Imai T<sup>1)</sup>, Seino Y, Takano T ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Ongoing myocardial damage in patients with hypertensive left ventricular hypertrophy without systolic dysfunction also predicts future cardiac events . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .

### ( 1 ) 特別講演 :

- 1) 浅井邦也 : 加齢によるエンドセリン B 受容体由来の血管収縮奇異性亢進とアポトーシスを介した血管内皮細胞障害 . 第 71 回日本医科大学医学会総会 , 2003 . 9 .
- 2) 加藤貴雄 : 心臓微小電位研究におけるウェーブレット変換法の応用 . 第 14 回体表心臓微小電位研究会 , 2004 . 2 .
- 3) 勝田悌実 : 慢性肝疾患における肺循環異常 . 第 36 回臨床肝臓懇話会 , 2004 . 3 .

### ( 2 ) 招待講演 :

- 1) 宮本正章 , 安武正弘 , 高野仁司 , 高木 元 , 高木啓倫 , 水野博司<sup>1)</sup> , 汲田伸一郎<sup>2)</sup> , 落 雅美<sup>3)</sup> , 坂本篤裕<sup>4)</sup> , 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 形成外科 , <sup>2)</sup> 放射線科 , <sup>3)</sup> 外科学第 2 , <sup>4)</sup> 麻酔科 ) : 難治性疾患への再生治療 : 重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞を利用した新しい血管再生治療 . 日本麻酔科学会第 50 回学術集会 , 2003 . 5 .

### ( 3 ) 教育講演 :

- 1) 高山守正 : 薬物不応性 HOCM への PTSCMA : 治療的心筋壊死作成による左室内閉塞の解除 . 日本心臓病学会教育セミナー , 2003 . 6 .
- 2) 清野精彦 : Acute coronary syndrome の治療ストラテジー . 第 51 回日本心臓病学会学術集会 , 2003 . 9 .

### ( 4 ) シンポジウム :

- 1) Takayama M , Ohno T , Zreiqat J , Takano H , Nakagomi A , Takano T : Percutaneous catheter alcohol ablation for medically refractory patients with HOCM : The experience in Asia ( Surgical vs non-surgical ablation ) . 5th European Workshop on Hypertrophic Cardiomyopathy ( Schweinfurt , Germany ) , 2003 . 11 .
- 2) 山本 剛<sup>1)</sup> , 坪 宏一<sup>1)</sup> , 藤田進彦<sup>1)</sup> , 佐藤直樹<sup>1)</sup> , 田中啓治<sup>1)</sup> , 高山守正 , 高野照夫 , 酒井俊太<sup>2)</sup> , 葉山修陽<sup>3)</sup> , 水野杏一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院内科 , <sup>3)</sup> 内科学第 2 ) : 透析症例に対する PCI の問題点とその対策 : 凝固系異常について ( 透析症例に対する PCI の問題点とその対策 ) . 第 9 回日本血管内治療学会総会 , 2003 . 4 .
- 3) 清野精彦 : 心筋トロポニンと全血迅速診断法 ( 心筋傷害と心筋 / 血管マーカー ) . 第 12 回日本臨床化学会関東支部総会 , 2003 . 5 .
- 4) 青木 聡 , 中込明裕 , 山根吉人 , 高野仁司 , 遠藤康美 , 浅井邦也 , 安武正弘 , 草間芳樹 , 高山守正 , 清野精彦 , 高野照夫 : C 反応性蛋白は急性冠症候群の発症に直接関与する ( Acute Coronary Syndrome の病態を解明する ) . 第 51 回日本心臓病学会学術集会 , 2003 . 9 .
- 5) 平山悦之 : 心電図オルタナンスの発生機序に関する研究 ( 交互脈 : 心電図から細胞内分子へ : 新たなる旅立ち ) .

第20回日本心電学会学術集会，2003．9．

- 6) 宮本正章：重症難治性糖尿病性壊疽および潰瘍に対する自己骨髄幹細胞浸透人工真皮を用いた血管再生療法（人工臓器・臓器移植・再生医療のベストミックス）．第41回日本人工臓器学会大会，2003．10．
- 7) 高山守正，安武正弘，高野照夫，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>集中治療室）：虚血性心疾患：心臓救急診療にてガイドラインをどのように生かすか？（急性期治療のガイドラインと診療の実際）．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．10．
- 8) 宮本正章，安武正弘，高野仁司，高木啓倫，藤田進彦，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，田近賢二<sup>2)</sup>，坂本篤裕<sup>3)</sup>，水野博司<sup>4)</sup>，落 雅美<sup>5)</sup>，高山守正，高野照夫（<sup>1)</sup>放射線科，<sup>2)</sup>内科学第3，<sup>3)</sup>麻酔科，<sup>4)</sup>形成外科，<sup>5)</sup>外科学第2）：重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞移植血管再生療法（血管新生療法を含む再生医療）．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 9) 佐藤直樹<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，藤田進彦<sup>1)</sup>，坪 宏一<sup>1)</sup>，森田典成<sup>1)</sup>，小野卓哉<sup>1)</sup>，高野照夫，田中啓治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>集中治療室）：急性心不全におけるサイトカイン測定意義：重症度および治療効果判定の指標として（重症心不全の治療法は進歩したか？）．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．

(5) パネルディスカッション：

- 1) 高山守正：PTSMA 手技の実際．第12回日本心血管インターベンション学会学術集会，2003．6．
- 2) 高山守正：東京ハートライン（CCUと救急隊の医療連携：現在の問題点および今後の方向性）．第23回東京CCU研究会，2003．11．
- 3) 林 明聡<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，加藤貴雄，森田典成<sup>1)</sup>，小野卓哉<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，武田晋浩<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，小林義典，高野照夫（<sup>1)</sup>集中治療室）：血行動態の破綻をきたし電気的除細動不応の心房細動に対する塩酸ニフェカレントを用いた新戦略．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．
- 4) 坪 宏一<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>2)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，藤田進彦<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，小野卓哉<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，高野照夫（<sup>1)</sup>集中治療室，<sup>2)</sup>放射線科）：微小循環評価における<sup>99m</sup>Tc-MAA 心筋GATED-SPECTの有用性の検討．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．

(6) ワークショップ：

- 1) 田中古登子，太田真夫，高野照夫：正常アルブミン尿2型糖尿病における腎血行動態予備能（RFR）と各種関連因子の検討．第40回日本臨床生理学会総会，2003．10．

(7) 一般講演：

- 1) Seino Y, Fukushima M, Kumita S, Cho K, Kumazaki T, Takano T: Ongoing myocardial damage in non-ischemic cardiomyopathy is related to impaired mitochondrial retention of sestamibi. 6th International Conference of Nuclear Cardiology (Florence, Italy), 2003. 4.
- 2) Yodogawa K, Morita N, Takayama H, Ohara T, Tateoka K, Taniguchi H, Horie T, Hirasawa Y, Abe J, Iwasaki Y, Hayashi M, Ohmura K, Hirayama Y, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T: A novel approach for detecting Brugada syndrome. North American Society of Pacing and Electrophysiology 2003 24th the Annual Scientific Sessions (Washington, DC, USA), 2003. 5.
- 3) Tateoka K, Iwasaki Y, Ono T, Kobayashi Y, Horie T, Taniguchi H, Abe J, Yodogawa K, Morita N, Hayashi M, Kawaguchi N, Ohmura K, Ohara T, Hirayama Y, Saitoh H, Katoh T, Takano T: Useful method for the patients with alcohol related syncope. North American Society of Pacing and Electrophysiology 2003 24th the Annual Scientific Sessions (Washington, DC, USA), 2003. 5.
- 4) Ohno T, Honma H, Munakata R, Yoshikawa M, Matsuzaki T, Takayama M, Takano T: The new index of regional left ventricular function using strain rate imaging in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy. 14th Annual Scientific Sessions of the American Society of Echocardiography (Las Vegas, USA), 2003. 6.

- 5) Yoshida H , Kusama Y , Yasutake M , Kato K , Takano H , Kishida H , Takano T : Pharmacological pre-conditioning with bradykinin affords myocardial protection not only through PKC-dependent, but also endogenous NO-dependent mechanisms . International Society for Heart Research European Section 2003 ( Strasbourg, France ), 2003 . 6 .
- 6) Tanaka K : Evaluation of renal functional reserve and related factors in Type 2 diabetes with normalalbuminuria . 18th International Diabetes Federation Congress ( Paris, France ), 2003 . 8 .
- 7) Zhang X-J , Katsuta Y , Akimoto T , Ohsuga M , Kato Y , Nagato T , Shimizu S , Komeichi H , Satomura K , Aramaki T : Intrapulmonary vascular dilation and nitric oxide in hypoxemic rats with chronic bile duct ligation . 54th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases ( Boston, USA ), 2003 . 10 .
- 8) Takayama M , Hosokawa Y , Kamiya M , Shibui T , Zreiqat J , Kawashima S , Yamane Y , Ohno T , Takano H , Nakagomi A , Takano T : Early and sustained efficacy of percutaneous catheter alcohol ablation for medically refractory patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy . Cardiomyopathy and Heart Failure 2003 ( Sapporo, Japan ), 2003 . 10 .
- 9) Hosokawa Y , Takayama M , Ohno T , Zreiqat J , Takano H , Nakagomi A , Takano T : Successful catheter treatment for hypertrophic cardiomyopathy with isolated mid-ventricular obstruction . Cardiomyopathy and Heart Failure 2003 ( Sapporo, Japan ), 2003 . 10 .
- 10) Katoh T , Takayama H , Yodogawa K , Ohara T , Takano T : A new noninvasive evaluation of arrhythmogenesis by wavelet transform analysis in patients with hypertrophic cardiomyopathy . 2nd Sino-Japanese Conference on Transtelephonic ECG and 1st Sino-Japanese Symposium on Noninvasive Image Diagnostics in CVD ( Shanghai, China ), 2003 . 11 .
- 11) Iwasaki Y , Yamashita T<sup>1)</sup> , Sekiguchi A<sup>1)</sup> , Sagara K<sup>1)</sup> , Hatano S<sup>1)</sup> , Iinuma H<sup>1)</sup> , Fu L-T<sup>1)</sup> , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute ): Glucocorticoid induces atrial arrhythmogenesis via modification of ion channel gene expression in rats : Molecular evidence for stress-induced atrial fibrillation . American Heart Association Scientific Sessions 2003 ( Orlando, USA ), 2003 . 11 .
- 12) Tateoka K : Useful provocation test for the patients . EUROPACE 2003 ( France ), 2003 . 12 .
- 13) Takayama M : Effectiveness and safety of percutaneous septal alcohol ablation for medically resistant patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy : singlecenter experience . 14th Asian Pacific Congress of Cardiology ( Singapore ), 2004 . 1 .
- 14) 加藤祐子 : Mitochondrial dysfunction occurs on skeletal muscle as well as on heart in adriamycin cardiomyopathy rats . 第7回日本心不全学会学術集会 , 2003 . 10 .
- 15) Ohno T , Honma H , Munakata R , Yoshikawa M , Yokoshima T , Fukuma Y , Yasutake H , Itoh K , Takayama M , Takano T : Effects of percutaneous transluminal septal myocardial ablation on myocardial deformation in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy using ultrasonic strain measurements . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 16) Setsuta K<sup>1)</sup> , Seino Y , Takano T ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Is there any prognostic difference in ongoing myocardial damage between ischemic and non-ischemic chronic heart failure? . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 17) Okumura S , Kawabe J<sup>1)</sup> , Takagi G , Takano T , Ishikawa Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of 1st Internal Medicine, Asahikawa Medical College , <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Research, Yokohama City University, Graduate School of Medical Science ): Disruption of the type 5 adenylyl cyclase gene preserves cardiac function against pressure overload . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .

- 18) Nakagomi A , Hirasawa Y , Yamane Y , Takagi G , Takano H , Aoki S , Asai K , Endoh Y , Yasutake M , Kusama Y , Takayama M , Takano T : Statins therapy attenuates monocyte proinflammatory cytokines production by C-reactive protein and reduces cardiac events in patients with chronic heart failure . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 19) Yodogawa K , Morita N , Ohara T , Takayama H , Ogano M , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Horie T , Taniguchi H , Hirasawa Y , Abe J , Iwasaki Y , Maruyama M , Ono T , Miyauchi Y , Hirayama Y , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T : A new electrographical approach for differential diagnosis between ARVC and Brugada syndrome . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 20) Abe J , Kobayashi Y , Ogano M , Okazaki R , Ueno A , Tateoka T , Horie T , Taniguchi H , Hirasawa Y , Yodogawa K , Iwasaki Y , Morita N , Hayashi M , Miyauchi Y , Ohmura K , Hirayama Y , Katoh T , Takano T : Signal-averaged P wave in patients with paroxysmal atrial fibrillation provoked by focal repetitive atrial excitation . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 21) Miyauchi Y , Kobayashi Y , Ogano M , Okazaki R , Ueno K , Tateoka K , Horie T , Taniguchi H , Yodogawa K , Hirasawa Y , Abe J , Iwasaki Y , Hayashi M , Maruyama M , Morita N , Ohara T , Katoh T , Takano T : Electrophysiological characteristics of the posterior border of Koch's triangle in relation to the development of atrioventricular nodal reentrant tachycardia . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 22) Taniguchi H , Miyauchi Y , Kobayashi Y , Ogano M , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Horie T , Yodogawa K , Hirasawa Y , Abe J , Morita N , Iwasaki Y , Ohara T , Yashima M , Hirayama Y , Katoh T , Takano T : Three-dimensional distribution of the mid-diastolic and pre-systolic potentials during idiopathic left ventricular tachycardia . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 23) Iwasaki Y , Yamashita T<sup>1)</sup> , Sekiguchi A<sup>1)</sup> , Hatano S<sup>1)</sup> , Sagara K<sup>1)</sup> , Iinuma H<sup>1)</sup> , Aizawa T<sup>1)</sup> , Fu L-T<sup>1)</sup> , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute ): HCN4 transcripts and proteins are abundantly expressed in rat pulmonary veins . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 24) Horie T , Kobayashi Y , Ogano M , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Taniguchi H , Yodogawa K , Hirasawa Y , Abe J , Iwasaki Y , Morita N , Hayashi M , Maruyama M , Ohmura K , Ohara T , Katoh T , Takano T : Adenosine-sensitive atrial tachycardia involving atrioventricular nodal slow pathway . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 25) Horie T , Miyauchi Y , Kobayashi Y , Ogano M , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Taniguchi H , Yodogawa K , Hirasawa Y , Abe J , Iwasaki Y , Morita N , Hayashi M , Maruyama M , Ohara T , Ohmura K , Katoh T , Takano T : Identification of the critical narrow isthmus of macroreentrant atrial tachycardia using electroanatomical mapping system. Implication of “ one burn ” ablation . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 26) Yamashita T , Seino Y , Ogawa A , Fukushima M , Ogata K , Yasutake M , Takano T : NT-proBNP is a novel biomarker of integrated cardio-renal function for risk stratification in patients with acute coronary syndrome . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 27) Okumura S , Kawabe J<sup>1)</sup> , Takagi G , Takano T , Ishikawa Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 1st Department of Internal Medicine, Asahikawa Medical College , <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Research, Yokohama City University, Graduate School of Medical Sciences ): -adrenergic and muscarinic regulation of the heart requires type 5 adenylyl cyclase . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 28) Hirasawa Y , Nakagomi A , Kobayashi Y , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Horie T , Taniguchi H , Yo-

- dogawa K , Abe J , Morita N , Iwasaki Y , Miyauchi Y , Aoki S , Ohra T , Yashima M , Hirayama Y , Katoh T , Takano T : Amiodarone reduces monocyte proinflammatory cytokines production and improves cardiac function in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy and ventricular tachycardia . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 29) Takagi H<sup>1)</sup> , Yasutake M , Morita N<sup>1)</sup> , Hayashi M , Akutsu K<sup>1)</sup> , Fujita N<sup>1)</sup> , Yamamoto T<sup>1)</sup> , Ono T<sup>1)</sup> , Satoh N<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Takano T ( <sup>1)</sup> Department of ICU/CCU ): Plasma urotensin II in patients with acute heart failure . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 30) Morita N<sup>1)</sup> , Takagi H<sup>1)</sup> , Fujii M<sup>1)</sup> , Akutsu K<sup>1)</sup> , Fujita N<sup>1)</sup> , Yamamoto T<sup>1)</sup> , Ono T<sup>1)</sup> , Satoh N<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Iwasaki Y , Hayashi M , Miyauchi Y , Hirayama Y , Kobayashi Y , Takayama M , Katoh T , Takano T , Nitta T<sup>2)</sup> , Ochi M<sup>2)</sup> , Shimizu K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> The Coronary Care Unit , <sup>2)</sup> The Second Department of Surgery ): Efficacy of biventricular pacing using epicardial lead system in patients with chronic heart failure . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 31) Kamiya M , Satoh N<sup>1)</sup> , Tokuyama K , Asai K , Tanaka K<sup>1)</sup> , Takano T ( <sup>1)</sup> Coronary Care Unit ): Is the combination therapy with colforsin daropate and landiolol useful in acute myocardial damage? . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 32) Yodogawa K , Seino Y , Ogano M , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Horie T , Taniguchi H , Hirasawa Y , Abe J , Morita N , Iwasaki Y , Maruyama M , Takayama H , Miyauchi Y , Hirayama Y , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T : Non-invasive detection of latent cardiac sarcoidosis using signal averaged electrocardiogram . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 33) Tsuchida T , Oikawa K , Aisu N , Kato Y , Kato K , Ushijima A , Mabuchi K , Takano T : The relation between impaired response of norepinephrine to exercise and peripheral 123I-MIBG imaging in chronic heart failure . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 34) 細川雄亮 , 宮地秀樹 , 洪井俊之 , 川嶋修司 , Zreiqat J , 高木啓倫 , 山根吉人 , 坪 宏一 , 山本 剛 , 藤田進彦 , 高野仁司 , 青木 聡 , 浅井邦也 , 佐藤直樹 , 中込明裕 , 草間芳樹 , 高山守正 , 高野照夫 : PT SMA を施行した孤立性左室中流部閉塞による閉塞性肥大型心筋症の3例 . 第22回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会 , 2003 . 4 .
- 35) 古明地弘和 : 自己免疫性肝炎における反復肝生検による肝組織所見の短期的 , 長期的経過 . 第88回日本消化器病学会総会 , 2003 . 4 .
- 36) 大野忠明 , 本間 博 , 時田祐吉 , 宗像 亮 , 吉川雅智 , 横島友子 , 安武ひろ子 , 福岡祐美子 , 伊藤恵子 , 菅原博子 , 高山守正 , 高野照夫 , 松崎つや子 : Strain rate imaging による閉塞性肥大型心筋症の治療効果の新しい評価法 . 第14回日本心エコー学会学術集会 , 2003 . 4 .
- 37) 山本 剛<sup>1)</sup> , 高木啓倫<sup>1)</sup> , 林 明聡<sup>1)</sup> , 坪 宏一<sup>1)</sup> , 藤田進彦<sup>1)</sup> , 小野卓哉<sup>1)</sup> , 佐藤直樹<sup>1)</sup> , 田中啓治<sup>1)</sup> , 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): トロポニンを用いた心筋梗塞再定義の問題点 . 第100回日本内科学会講演会 , 2003 . 4 .
- 38) 高山守正<sup>1)</sup> , 安藤岳史<sup>1)</sup> , 川本雅司<sup>12)</sup> , 中村 隆<sup>3)</sup> , 五十嶋一成<sup>14)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学山岳医学研究会 , <sup>2)</sup> 病理学第1 , <sup>3)</sup> 中村病院 , <sup>4)</sup> 自衛隊仙台病院内科 ): 北アルプス中高年登山者の登山時の疾病発症予防 : 山小屋での SpO2 測定の意義 . 第14回日本臨床モニター学会総会 , 2003 . 4 .
- 39) ブレイガット ジハード , 高山守正 , 高野仁司 , 佐藤直樹<sup>1)</sup> , 安武正弘 , 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): 抗血小板薬投与における血小板・止血機能のモニター : 血小板凝集能ならびにソノクロット法によるアスピリン単独と多剤併用投与の効果の検討 . 第14回日本臨床モニター学会総会 , 2003 . 4 .
- 40) 洪井俊之 , 清水秀治 , 小原俊彦 , 中込明裕 , 加藤良人 , 古明地弘和 , 大須賀勝 , 里村克章 , 勝田悌実 , 辰口篤志<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3 ): 出血源の同定に難渋し , 小腸内視鏡検査 ( double balloon 法 ) により発見し得た小腸 Gastrointestinal stromal tumor の1例 . 第279回日本消化器病学会関東支部例会 , 2003 . 5 .

- 41) 淀川顕司, 小原俊彦, 清野精彦, 高山秀男, 館岡克彦, 谷口宏史, 堀江 格, 平澤泰宏, 阿部純子, 岩崎雄樹, 森田典成, 林 明聡, 清水秀一, 小野卓哉, 八島正明, 大村和子, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: Late potential in sarcoidosis. 第18回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術集会, 2003. 5.
- 42) 小原俊彦, 八島正明, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, Chen Pen-S<sup>1)</sup>, Karagueuzian Hrayr S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cedars-Sinai Medical Center): スパイラルエントリーの成因: 高解像度マッピングからの所見. 第18回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術集会, 2003. 5.
- 43) 丸山光紀<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 宮本新次郎<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>1)</sup>, 井野 威<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 頻拍中の心房entrainment pacingが心房頻拍との鑑別に有用だったFast/Slow型房室結節リエントリー性頻拍の1例. 第33回臨床心臓電気生理研究会, 2003. 5.
- 44) 川嶋修司, 馬淵浩輔, 古明地弘和, 大須賀勝, 高山守正, 高野照夫, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 不安定狭心症に対する冠動脈形成術中に大量の冠動脈内血栓形成を認めたII型へバリン惹起性血小板減少症の1例. 第508回日本内科学会関東地方会, 2003. 5.
- 45) 張 雪君, 勝田悌実, 秋元敏雄<sup>1)</sup>, 大須賀勝, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 荒牧琢己(<sup>1)</sup>実験動物管理室): 二次性胆汁性肝硬変ラットにおける肺内血管拡張と低酸素血症. 第39回日本肝臓学会総会, 2003. 5.
- 46) 淀川顕司, 森田典成, 高山英男, 小原俊彦, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: Brugada症候群における心電図QRS内異常高周波成分の検出. 第42回日本エム・イー学会大会, 2003. 6.
- 47) 田中古登子, 川嶋修司, 藤田進彦, 藤岡幹雄, 宮本正章, 橋本英洋, 太田眞夫, 高野照夫: 2型糖尿病腎症の血管内皮障害関連因子への加齢による影響の検討. 第23回日本老年学会総会, 第45回日本老年医学学会学術集会, 2003. 6.
- 48) 藤田進彦<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 宮地秀樹, 岩崎雄樹, 安武正弘, 高野照夫, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>遺伝診療科): 発症から14年後に診断に至った心筋症を合併したMELASの1例. 第188回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 6.
- 49) 細川雄亮, 宗像 亮, 東 春香, 渋井俊之, 川嶋修司, Zreiqat J, 山根吉人, 大野忠明, 高野仁司, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹, 中込明裕, 草間芳樹, 高山守正: 発作性心房細動により症状憎悪を繰り返す閉塞性肥大型心筋症にPTSMAを施行した2例. 第12回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2003. 6.
- 50) 渋井俊之, 藤本啓志, 細川雄亮, Zreiqat J, 川嶋修司, 山根吉人, 大野忠明, 高野仁司, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室): 心筋虚血判定困難なLAD近位部病変をpressure wireで評価しCutting StentとPTSMAを同時施行した閉塞性肥大型心筋症の1例. 第12回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2003. 6.
- 51) 高山英男, 加藤貴雄: 致死性心室性不整脈の発生とQRSオルタナンスの関係: ウェーブレット変換を用いた解析. 第23回ホルター心電図研究会, 2003. 6.
- 52) 小川晃生, 清野精彦, 山下照代, 緒方憲一, 高野照夫, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 各種心筋マーカによる非ST上昇型急性冠症候群における微小心筋傷害の分析: 特にN terminal pro-BNPについて. 第23回心筋梗塞研究会, 2003. 7.
- 53) 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 山本雪貴美<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 福間長知, 美浦和代, 木村祐子, 牛島明子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫(<sup>1)</sup>生理機能センター): 心筋梗塞例における運動療法が血中ビタミンC濃度に及ぼす影響. 第9回日本心臓リハビリテーション学会, 2003. 7.
- 54) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 山本雪貴美<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 福間長知, 美浦和代, 木村祐子, 高野照夫(<sup>1)</sup>生理機能センター): 心臓リハビリテーションおよび関連する研究において臨床検査技師のはたす役割. 第9回日本心臓リハビリテーション学会, 2003. 7.
- 55) 加藤政利<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 山本雪貴美<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>,



- 齋藤公一<sup>1)</sup>, 福間長知, 牛島明子, 美浦和代, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 自転車エルゴメーターのペダル回転速度が換気応答に与える影響. 第9回日本心臓リハビリテーション学会, 2003. 7.
- 56) 宮本正章: 重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞移植血管再生療法. 第2回日本組織移植学会・学術集会, 2003. 8.
- 57) 張 雪君, 勝田悌実, 秋元敏雄<sup>1)</sup>, 大須賀勝, 加藤良人, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 荒牧琢己 ( <sup>1)</sup>実験動物管理室 ): 肝肺症候群における一酸化窒素の関与: 二次性胆汁性肝硬変ラットでの検討. 第10回日本門脈圧亢進症学会総会, 2003. 9.
- 58) 加藤政利<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 山本雪貴美<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 福間長知, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 下肢エルゴメーター運動負荷試験におけるペダル回転速度の差異が換気応答に与える影響. 第71回日本医科大学医学部総会, 2003. 9.
- 59) 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 山本雪貴美<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 福間長知, 加藤和代, 加藤祐子, 牛島明子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 酸化ストレスの定量化における血中ビタミンC濃度測定の有用性. 第71回日本医科大学医学部総会, 2003. 9.
- 60) 岩井宏樹<sup>1)</sup>, 高木 元, 福間長知, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>医学部第5学年 ): 左右冠動脈左室交通症, 心室中隔欠損および卵円孔開存を合併した1例. 第71回日本医科大学医学部総会, 2003. 9.
- 61) 松崎つや子<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup>, 横島友子, 大野忠明, 福間祐美子, 安武ひろ子, 菅原博子, 伊藤恵子, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): Strain rate imaging法による肥大大心筋収縮スタイルの検討. 第71回日本医科大学医学部総会, 2003. 9.
- 62) 内谷栄一<sup>1)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup>, 宮本正章, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>形成外科・美容外科 ): 自家骨髄幹細胞含浸人工真皮を利用した難治性皮膚潰瘍の治療. 第71回日本医科大学医学部総会, 2003. 9.
- 63) 瀧澤憲一<sup>1)</sup>, 宮田 朗<sup>1)</sup>, 高山守正, 桃井貴裕<sup>2)</sup>, 安藤岳史<sup>3)</sup>, 中村 隆<sup>4)</sup>, 五十嶋一成<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学第4学年, <sup>2)</sup>同第5学年, <sup>3)</sup>麻酔科, <sup>4)</sup>中村病院, <sup>5)</sup>自衛隊東北方面総監部 ): 中高年登山者における日常トレーニングの実態: 北アルプス山岳診療所の調査報告 ( 日本医科大学山岳医学研究会 ). 第71回日本医科大学医学部総会, 2003. 9.
- 64) 安藤岳史<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 石川 源<sup>3)</sup>, 清水 亨<sup>4)</sup>, 本澤達生<sup>5)</sup>, 山本 剛<sup>6)</sup>, 大泉 旭<sup>7)</sup>, 森 淳<sup>8)</sup>, 高山守正, 五十嶋一成<sup>9)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学麻酔科, <sup>2)</sup>同病理学第1, <sup>3)</sup>埼玉医科大学川越医療センター, <sup>4)</sup>東部地域病院麻酔科, <sup>5)</sup>本澤医院, <sup>6)</sup>集中治療室, <sup>7)</sup>高度救命救急センター, <sup>8)</sup>整形外科, <sup>9)</sup>自衛隊東北方面総監部 ): 志賀高原ジャイアント診療所における最近の応急診療患者の動向. 第71回日本医科大学医学部総会, 2003. 9.
- 65) 木村祐子, 福間長知, 牛島明子, 美浦和代, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫, 中村利枝<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 健康人における高回転数エルゴメーター負荷は換気血流不均衡を伴わずに  $V_E/V_{CO_2}$ slope を増大させる. 第51回日本心臓病学会学術集会, 2003. 9.
- 66) 土田貴也, 福間長知, 愛須紀子, 牛島明子, 美浦和代, 加藤祐子, 馬淵浩輔, 高野照夫: 慢性心不全患者における中枢性化学受容体反射感受性亢進と運動負荷に対するノルエピネフリンの分泌能および心拍反応性の改善. 第51回日本心臓病学会学術集会, 2003. 9.
- 67) 福間長知, 美浦和代, 牛島明子, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 齋藤公一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 心筋梗塞患者に対する運動療法が酸化ストレスマーカーに及ぼす影響. 第51回日本心臓病学会学術集会, 2003. 9.
- 68) ズライガット ジハド, 高山守正, 山根吉人, 大野忠明, 高野仁司, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 右冠動脈下壁枝への経皮的な中隔心筋焼灼術が左室内圧

- 較差軽減に有効であった左室中部閉塞性肥大型心筋症の1例．第51回日本心臓病学会学術集会，2003．9．
- 69) 五十嵐亜希<sup>1)</sup>，福岡長知，菅谷寿理<sup>1)</sup>，山本雪貴美<sup>1)</sup>，吉田由紀子<sup>1)</sup>，中村利枝<sup>1)</sup>，斎藤公一<sup>1)</sup>，美浦和代，土田貴也，馬淵浩輔，高野照夫( <sup>1</sup>生理機能センター)：心筋梗塞患者における酸化ストレスの指標としてのビタミンC：ビタミンC濃度・摂取量と過酸化脂質の関係．第51回日本心臓病学会学術集会，2003．9．
- 70) 中村利枝<sup>1)</sup>，福岡長知，加藤政利<sup>1)</sup>，五十嵐亜希<sup>1)</sup>，菅谷寿理<sup>1)</sup>，斎藤公一<sup>1)</sup>，加藤祐子，牛島明子，愛須紀子，高野照夫( <sup>1</sup>生理機能センター)：エルゴメーターのペダル回転速度が運動負荷時の換気応答に及ぼす影響．第51回日本心臓病学会学術集会，2003．9．
- 71) 美浦和代，福岡長知，加藤祐子，愛須紀子，土田貴也，馬淵浩輔，高野照夫：心筋梗塞後患者におけるアスコルビン酸投与後の運動負荷時ノルエピネフリン分泌能及び心拍反応性の改善．第51回日本心臓病学会学術集会，2003．9．
- 72) 土田貴也，福岡長知，愛須紀子，牛島明子，美浦和代，加藤祐子，馬淵浩輔，高野照夫：化学受容体反射による安静時と運動負荷時の血圧制御．第51回日本心臓病学会学術集会，2003．9．
- 73) 今井英彦<sup>1)</sup>，清野精彦，篠山重威<sup>2)</sup>( <sup>1</sup>武蔵大学経済学部，<sup>2</sup>浜松労災病院)：夜間Cheyne-stokes呼吸を合併する慢性心不全症例に対する在宅夜間酸素療法の医療経済効果の分析：CHF-HOT研究会の成績に基づいて．第51回日本心臓病学会学術集会，2003．9．
- 74) 牛島明子，福岡長知，加藤和代，加藤祐子，愛須紀子，土田貴也，馬淵浩輔，高野照夫：運動負荷に対する心筋の電氣的適応異常と運動障害：運動負荷時心電図QT間隔から見た検討．第40回日本臨床生理学会総会，2003．9．
- 75) 龜山幹彦<sup>1)</sup>，大野則彦<sup>1)</sup>，丸山光紀<sup>1)</sup>，緒方憲一<sup>1)</sup>，松本 真<sup>1)</sup>，宮本新次郎<sup>1)</sup>，田寺 長<sup>1)</sup>，鈴木 健<sup>1)</sup>，新博次<sup>1)</sup>，岸田 浩( <sup>1</sup>多摩永山病院内科)：本邦における薬剤性QT延長症候群によるtorsade de pointes症例の臨床的特徴．第20回日本心電学会学術集会，2003．9．
- 76) 谷口宏史，小林義典，宮内靖史，岡崎怜子，館岡克彦，堀江 格，平澤康宏，淀川顕司，阿部純子，岩崎雄樹，森田典成，林 明聡，大村和子，小原俊彦，平山悦之，加藤貴雄，岸田 浩，高野照夫：特発性左側心室頻拍における緩徐伝導路の空間的拡がり：カルト・システムを用いた検討．第20回日本心電学会学術集会，2003．9．
- 77) 森田典成<sup>1)</sup>，小林義典，上野 亮，岡崎怜子，館岡克彦，谷口宏史，堀江 格，平澤康宏，淀川顕司，阿部純子，岩崎雄樹，林 明聡，宮内靖史，小原俊彦，大村和子，平山悦之，新 博次<sup>2)</sup>，加藤貴雄，高野照夫( <sup>1</sup>集中治療室，<sup>2</sup>多摩永山病院内科)：心房粗動症例における右房分界核の横断伝導ブロックと解剖学的特徴．第20回日本心電学会学術集会，2003．9．
- 78) 館岡克彦，岩崎雄樹，小林義典，堀江 格，谷口宏史，阿部純子，平澤康宏，淀川顕司，森田典成，林 明聡，小野卓哉，宮内靖史，大村和子，平山悦之，斎藤寛和，加藤貴雄，岸田 浩，高野照夫：アルコール負荷head-up tilt試験の有用性．第20回日本心電学会学術集会，2003．9．
- 79) 淀川顕司，小原俊彦，高山英男，岡崎怜子，館岡克彦，谷口宏史，堀江 格，平澤康宏，阿部純子，岩崎雄樹，森田典成，小野卓哉，宮内靖史，八島正明，平山悦之，小林義典，加藤貴雄，岸田 浩，高野照夫：右脚ブロック症例における加算平均心電図および心電図周波数解析の臨床的意義．第20回日本心電学会学術集会，2003．9．
- 80) 小野卓哉，斎藤寛和，林 明聡，大村和子，小林義典，イーガン<sup>1)</sup>，ナトコヴァカサリン<sup>1)</sup>，田中啓治，加藤貴雄，岸田 浩，高野照夫，マリックマレック<sup>1)</sup>( <sup>1</sup>セントジョージ病院心臓科学部門)：植え込み型除細動器植え込み群におけるT-wave morphology analysisの特徴．第20回日本心電学会学術集会，2003．9．
- 81) 岩崎雄樹，山下武志<sup>1)</sup>，関口昭子<sup>1)</sup>，相良耕一<sup>1)</sup>，飯沼宏之<sup>1)</sup>，傳 隆泰<sup>1)</sup>，小林義典，加藤貴雄，岸田 浩，高野照夫( <sup>1</sup>心臓血管研究所付属病院)：Glucocorticoid induced ion channel gene expression in rat atrium．第20回日本心電学会学術集会，2003．9．
- 82) 野村敦宣<sup>1)</sup>，小川友祐<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，小林義典，斎藤寛和，新 博次<sup>2)</sup>，加藤貴雄，岸田 浩，高野照夫( <sup>1</sup>千葉北総病院循環器センター，

- 2) 多摩永山病院内科): Brugada型心電図波形の日内変動. 第20回日本心電学会学術集会, 2003. 9.
- 83) 古明地弘和, 春日和美, 藤本啓志, 加藤良人, 長戸孝道, 清水秀治, 張 雪君, 大須賀勝, 宮本正章, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 高野照夫: 肝疾患における非侵襲的肝弾性度測定の有用性の検討. 第40回日本臨床生理学会総会, 2003. 10.
- 84) 小林義典, 森田典成, 阿部純子, 林 明聡, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 平山悦之, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫: 下位右房解剖学的峡部の伝導特性: 伝導方向による差異. 第40回日本臨床生理学会総会, 2003. 10.
- 85) 板倉潮人<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 藤井正大<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>(1)</sup> 集中治療室): OptiQを用いた連続心拍出量測定における異なる測定モードの有用性の比較検討. 第40回日本臨床生理学会総会, 2003. 10.
- 86) 中村利枝<sup>1)</sup>, 福間長知, 加藤政利<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 加藤祐子, 高野照夫<sup>(1)</sup> 生理機能センター): エルゴメーター回転速度がVE/VCO<sub>2</sub>slopeに及ぼす影響. 第40回日本臨床生理学会総会, 2003. 10.
- 87) 大須賀勝, 勝田悌実, 張 雪君, 秋元敏雄<sup>1)</sup>, 加藤良人, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 荒牧琢己<sup>(1)</sup> 実験動物管理室): 門脈圧亢進症モデルとしての長期生存二次性胆汁性肝硬変ラットの有用性. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 88) 横島友子, 本間 博, 大野忠明, 福間祐美子, 安武ひろ子, 菅原博子, 伊藤恵子, 高野照夫, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 生理機能センター): Strain rate imagingによる肥大型心筋収縮様式の検討. 日本超音波医学会第15回関東甲信越地方会, 2003. 10.
- 89) 牛島明子, 本間 博, 大野忠明, 古明地弘和, 橋本英洋, 高野照夫, 天野康雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>2)</sup>, 佐藤淳子<sup>2)</sup>, 水瀬 学<sup>2)</sup>, 石井玲子<sup>2)</sup>, 斉藤公一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線科, <sup>2)</sup> 生理機能センター): 間質性肺炎, 胸部大動脈瘤とともに偶然発見された心房中隔の脂肪性肥大の1例. 日本超音波医学会第15回関東甲信越地方会, 2003. 10.
- 90) 高山守正: 東京都におけるCCUネットワークの活動状況(2002年度実績報告). 第23回東京CCU研究会, 2003. 11.
- 91) 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 田島廣之<sup>2)</sup>, 中沢 賢<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 放射線科): 急性肺塞栓症において“subacute”および“acute on chronic”と呼ばれる病態は存在するか?. 第10回肺塞栓症研究会・学術集会, 2003. 11.
- 92) 白壁章宏, 藤本啓志, 大野忠明, 浅井邦也, 高木 元, 高山守正, 高野照夫, 羽賀洋一<sup>1)</sup>, 佐地 勉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東邦大学第一小児科): 二期的施行のPTSMAが奏功した左室流出路兼中流部閉塞による重症閉塞性肥大型心筋症の小児例. 第190回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 93) 細川雄亮<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 與田小百合<sup>1)</sup>, 伊藤憲祐<sup>1)</sup>, 石川正也<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 吉田博史<sup>1)</sup>, 石井健輔<sup>1)</sup>, 佐藤 越<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 宮本新次郎<sup>1)</sup>, 小谷栄太郎<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>1)</sup>, 雪吹周夫<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 佐々木朝子, 丸山光紀<sup>(1)</sup> 多摩永山病院内科): 徐脈性不整脈に右室ペースングを挿入したところ左室奇異性収縮を生じ, うっ血性心不全を発症した症例. 第190回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 94) 岩井宏樹<sup>1)</sup>, 高木 元, 福間長知, 高野照夫<sup>(1)</sup> 医学部第5学年): 左右冠動脈左室交通症, 心室中隔欠損症及び卵円孔開存症を合併した1例. 第190回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 95) 田口志保<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 藤田正大<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 村田広茂, 高木 元, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, 佐々木 孝<sup>2)</sup>, 矢島俊巳<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 外科学第2): 特発性心室細動に対しカテーテルアブレーションが有効であった1症例. 第190回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 96) 小杉宗範, 小原俊彦, 中込明裕, 大須賀勝, 高野照夫, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 集中治療室): 心タンポナーデによる呼吸困難を契機に診断されたSLEの1例. 第514回日本内科学会関東地方会, 2003. 12.

- 97) 高山守正, 高野照夫 (1) 東京都CCU連絡協議会事務局): 急性心血管疾患への地域救急患者搬入システム構築においてCCUに何を求めるか? 東京都におけるCCUネットワーク組織再編を通して. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.
- 98) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 (1) 集中治療室): 高齢者非ST上昇型急性冠症候群に対する早期侵襲的治療は有効か?. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.
- 99) 神谷正孝, 高山守正, 川嶋修司, 洪井俊之, 山根吉人, 高野仁司, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘, 中込明裕, 草間芳樹, 高野照夫, 桧山一弘<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup> (1) 集中治療室, 2) 外科学第2): 超高齢者の重症冠動脈障害へのカテーテル治療または外科治療施行後遠隔期の身体機能と感情面の評価. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.
- 100) 青木亜佐子, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 福間長知, 小林義典, 清野精彦, 高野照夫: 拡張型心筋症に伴った家族性房室ブロックの1例. 第191回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 2.
- 101) 山下直子<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 牧野 晃<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 藤井正大<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 新田 隆<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 田中邦夫<sup>3)</sup> (1) 集中治療室, 2) 外科学第2, 3) 博慈会記念総合病院循環器内科): 頻脈性心房細動を契機に早期に診断された外傷性三尖弁閉鎖不全症の1例. 第191回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 2.
- 102) 高木啓倫, 宮本正章, 小鹿野道雄, 山下照代, 加藤活人, 宗像 亮, 淀川顕司, 藤田進彦, 高野仁司, 安武正弘, 高野照夫, 田近賢二<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup> (1) 内科学第3, 2) 麻酔科, 3) 放射線科, 4) 外科学第2): 自己骨髄幹細胞移植による血管新生療法の成績. 日本医科大学医学会第109回例会, 2004. 2.
- 103) 小野卓哉<sup>1)</sup>, 斎藤寛和, 森田典成<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 小林義典, マリック マレック<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 (1) 集中治療室, 2) ロンドン大学): QT dispersionは心疾患のrisk stratification有用か?: T wave morphology analysisと比較して. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004. 3.
- 104) 森田典成<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 小林義典, 高野照夫 (1) 集中治療室): 繰り返しアダムスストークス発作を生じる特発性心室細動に対してアブレーションを行い救命した1例. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004. 3.
- 105) 坏 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 藤井正大<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 (1) 集中治療室): 急性大動脈解離におけるD-dimer迅速定量測定キット (Cardiac D-dimer) の意義. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004. 3.
- 106) 東 春香, 古明地弘和, 加藤良人, 清水秀治, 張 雪君, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 限局性強皮症合併原発性胆汁性肝硬変におきた門脈肺高血圧症にBeraprost sodiumが有効であった1例. 第36回臨床肝臓懇話会, 2004. 3.
- 107) Setsuta K<sup>1)</sup>, Arai M<sup>1)</sup>, Imai T<sup>1)</sup>, Seino Y, Takano T (1) Tokyo Metropolitan Komagome Hospital): Ongoing myocardial cell membrane damage in patients with chronic heart failure: analysis by heart-type fatty acid binding protein and troponin T. The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2004. 3.
- 108) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 田島廣之<sup>2)</sup> (1) 集中治療室, 2) 放射線科): 高度の肺高血圧を伴った急性肺塞栓症例の検討. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004. 3.
- 109) Kamiya M, Takayama M, Kawashima S, Shibui T, Yamane Y, Takagi G, Takano H, Aoki S, Asai K, Satoh N, Yasutake M, Nakagomi A, Kusama Y, Takano T, Hinokiyama K<sup>1)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup> (1) The Second Department of Surgery): Evaluation of functional and emotional status long after catheter or surgical coro-

nary revascularization in octogenarian with severe coronary artery disease . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .

- 110) Katoh K , Fukuma N , Ushijima A , Kimura Y , Aisu N , Tsuchida T , Mabuchi K , Takano T : Ascorbic acid improves sympathetic dysfunction in the patients with decreased ascorbic acid concentration after myocardial infarction . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 111) Fukuma N , Tsuchida T , Ushijima A , Kato K , Kimura-Kato Y , Aisu N , Mabuchi K , Takano T : Baroreceptor reflex plays a role in encouragement of blood pressure elevation in later stage of exercise . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 112) Katou K , Fukuma N , Ushijima A , Kimura Y , Aisu N , Tsuchida T , Mabuchi K , Takano T : Effects of ascorbic acid on sympathetic function in patients with heart failure after myocardial infarction . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 113) Sugaya J<sup>1)</sup> , Fukuma N , Yamamoto Y<sup>1)</sup> , Igarashi A<sup>1)</sup> , Nakamura T<sup>1)</sup> , Saitoh K<sup>1)</sup> , Ushijima A , Kato K , Kimura-Kato Y , Tsuchida T , Aisu N , Mabuchi K , Takano T ( <sup>1)</sup>Physiological Examination Center ) : Mental stress affects the production of nitric oxide and cytokine in patients with acute myocardial infarction . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 114) Ueno A , Kobayashi Y , Ogano M , Okazaki R , Tateoka K , Horie T , Taniguchi H , Abe J , Hirasawa Y , Yodagawa K , Iwasaki Y , Morita N , Maruyama M , Miyauchi Y , Ohara T , Hirayama Y , Katoh T , Takano T : Role of electrophysiological study in risk stratification of sudden death in patients with dilated cardiomyopathy and non-sustained ventricular tachycardia . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 115) Yamamoto T<sup>1)</sup> , Takagi H<sup>1)</sup> , Morita N<sup>1)</sup> , Akutsu K<sup>1)</sup> , Fujita N<sup>1)</sup> , Ono T<sup>1)</sup> , Satoh N<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Yasutake M , Takano T , Tajima H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Intensive and Coronary Care Unit , <sup>2)</sup>Department of Radiology ) : Aggressive catheter treatment interrupts development of persistent pulmonary hypertension even in "subacute" massive pulmonary embolism patients . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 116) Tateoka K , Kobayashi Y , Okazaki R , Ueno A , Horie T , Taniguchi H , Abe J , Hirasawa Y , Yodogawa K , Morita N , Maruyama M , Ono T , Miyauchi Y , Ohara T , Ohsaka M , Hirayama Y , Saitoh H , Katoh T , Takano T : The usefulness of alcohol head-up tilt test in patients with alcohol related syncope . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .

( 8 ) Featured Research Session :

- 1) Ishikawa Y<sup>1)</sup> , Yatani A<sup>2)</sup> , Kawabe J<sup>3)</sup> , Takano T , Okumura S ( <sup>1)</sup>Department of Cardiovascular Research, Yokohama City University Graduate School of Medical Science , <sup>2)</sup>University of Medicine and Dentistry of New Jersey , <sup>3)</sup>Department of 1st Internal Medicine, Asahikawa Medical College ) : The type 5 Adenylyl cyclase mediates Ca<sup>2+</sup>-mediated regulation of Ca<sup>2+</sup>channels in the heart . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 2) Takayama M , Shibui T , Kawashima S , Hosokawa Y , Yoshikawa M , Zreiqat J , Yamane Y , Takagi G , Ohno T , Takano H , Aoki S , Asai K , Satoh N , Nakagomi A , Takano T : Excellent early and late clinical result of percutaneous catheter treatment with alcohol ( PT SMA ) for symptomatic hypertrophic obstructive cardiomyopathy . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .

( 9 ) Morning Lecture :

- 1) Takayama M : Diagnostic Strategy of Chest Pain . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .

2) Kobayashi Y : Clinical characteristics and management of tachyarrhythmias associated with myocardial infarction and congestive heart failure . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .

(10) ファイアーサイドカンファランス :

- 1) 小林義典 : 非薬物治療の役割 : 特に ICD による突然死一次予防について ( 低心機能例における不整脈とその治療戦略 ) . 第 20 回日本心電学会学術集会 , 2003 . 9 .
- 2) 安武正弘 : 虚血中 , 再灌流各時相における細胞内イベントと心筋保護 . 第 20 回日本心電学会学術集会 , 2003 . 9 .
- 3) 清野精彦 : 新しい心筋マーカーによる微小心筋傷害の診断 ( 急性冠症候群の心電図を読む : 心電図から病態がどこまでわかるか ) . 第 20 回日本心電学会学術集会 , 2003 . 9 .

(11) 要望演題 :

- 1) 宮本正章 , 安武正弘 , 高野仁司 , 高木啓倫 , 藤田進彦 , 汲田伸一郎<sup>1)</sup> , 田近賢二<sup>2)</sup> , 坂本篤裕<sup>3)</sup> , 水野博司<sup>4)</sup> , 落 雅美<sup>5)</sup> , 高山守正 , 高野照夫 ( <sup>1)</sup>放射線科 , <sup>2)</sup>内科学第 3 , <sup>3)</sup>麻酔科 , <sup>4)</sup>形成外科 , <sup>5)</sup>外科学第 2 ) : 重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞移植血管再生療法 ( 再生医療から臓器・組織移植医療へのアプローチ ) . 第 39 回日本移植学会総会 , 2003 . 10 .

## [ 付属病院老人科 ]

### 研究概要

高齢者の糖尿病 , 動脈硬化 , 脂質代謝異常 , 老年期痴呆および尿路感染症などに関する臨床的研究を行った .

糖尿病に関して , 1) 糖尿病患者の食後血糖値は加齢の影響を受けないことを明らかにした . 2) 糖尿病患者の粥状動脈硬化症の特徴を頸動脈超音波所見および炎症反応との関連から明らかにした . 3) コレスチミドの血糖降下作用に GLP-1 の関与を示唆する成績を得た . 4) 厚生労働省長寿科学総合研究「高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較研究」を開始した . 5) 高齢者糖尿病患者の自律神経機能の評価法としてのウエーブレット解析の有用性を検討した .

動脈硬化に関して , 1) 超音波所見による総頸動脈の内径が粥状動脈硬化の指標として有用であることを明らかにした . 2) PWV , ABI 測定の臨床的意義を心血管病変との関連から明らかにした . 3) 総頸動脈超音波検査の臨床的有用性を検討した . 4) 頸動脈超音波所見による粥状動脈硬化と炎症反応の面から老年者の特異性を明らかにした .

脂質代謝に関して , 1) 血清 Lp ( a ) フェノタイプおよび相対的リンパ球率と虚血性心疾患との関連を経年観察にて検討した . 2) アトルバスタチンおよびプラバスタチンの多面的効果を高感度 CRP および血管内皮機能の面より明らかにした . 3) 2002 年の日本動脈硬化学会・動脈硬化性疾患診療ガイドライン発表後の高齢者高脂血症治療への影響を当科外来におけるガイドライン発表前後における高脂血症の管理状況の変化から検討した . 痴呆に関しては痴呆専門病院における , 痴呆患者の予後および死因の検討を行った .

尿路感染症に関して , 1) 高齢女性の無症候性白血球尿が自律神経機能と密接な関連を有することをウエーブレット解析で明らかにした . 2) 膀胱内尿量測定装置 BVI-6100 の臨床的有用性を検討した .

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Suzuki T , Oba K , Igari Y , Matsumura N , Inuzuka Y , Kigawa Y , Ajiro Y , Okazaki K , Nakano H , Metori S : Four-year prospective study of the influence of elevated serum lipoprotein ( a ) concentration on ischaemic heart disease and cerebral infarction in elderly patients with type-2 diabetes . Geriatrics and Gerontology International 2003 ; 3 ( 2 ) : 106-112 .

- 2) 福長麻美, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: Pravastatin 投与の血管内皮機能に及ぼす影響に関する検討. Geriatr Med 2003; 41 (10): 1509-1514.
- 3) 與田小百合, 吉松寛臣, 山田宰弘, 野呂瀬準, 二見章子, 鈴木一成, 新井みどり, 工藤律子, 山下直子, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 外来における非侵襲的な動脈硬化および骨密度検査の臨床的有用性. Geriatr Med 2003; 41 (12): 1867-1871.

(2) 綜説:

- 1) 大庭建三: 高齢者への糖尿病指導においてどのような工夫が効果的でしょうか. Ask Me 2003; 3 (夏号): 5-5.
- 2) 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者の生活習慣病; 糖尿病. ジェロントロジーニューホライズン 2003; 15 (3): 231-236.
- 3) 中野博司, 岡崎恭次, 大庭建三: 高齢者における肥満. 日本臨床 2003; 61 (増刊号6): 880-885.
- 4) 犬塚有紀, 中野博司, 大庭建三: 高齢者の疾患と治療の進め方: 糖尿病, その他の代謝性疾患. 医学と薬学 2003; 50 (2): 145-152.
- 5) 大庭建三, 斉藤好史, 伊藤 民, 中野博司: 高齢者糖尿病の経口血糖降下療法の実際: ナテグリニドの使用経験も含め. Prog. Med 2003; 23 (10): 2639-2647.
- 6) 大庭建三: エビデンスからみた高齢者高脂血症の診療. 東京都医師会雑誌 2004; 57 (2): 135-145.

(3) 研究報告書:

- 1) 大庭建三, 中野博司, 岡崎恭次: 大動脈脈波速度と Ankle-Brachial Index の併用により心血管病変の検出精度は向上するか: 断面調査による検討. 厚生労働省長寿科学総合研究事業「高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較研究」平成15年度報告書 2004; pp70-83.

著 書

- 1) 大庭建三: [分担] 糖尿病と低血糖: 低血糖症. 長寿科学事典 (祖父江逸郎), 2003; pp581-582, 医学書院.
- 2) 中野博司: [分担] 老年期糖尿病とHbA1, HbA1Cについて. 老年病診療Q & A (小澤利男 他), 2003; pp1166-1169, 六法出版.
- 3) 犬塚有紀, 大庭建三: [分担] 老年期軽度耐糖能異常者の取り扱い. 老年病診療Q & A (小澤利男 他), 2003; pp1143-1143, 六法出版.
- 4) 松村典昭, 大庭建三: [分担] 老年者糖尿病と下肢の末梢動脈硬化症. 老年病診療Q & A (小澤利男 他), 2003; pp1162-1163, 六法出版.
- 5) 大内耐義<sup>1)</sup>, 大庭建三, 中野博司ほか<sup>(1)</sup> 東京大学老年病科): [編集] 老年医学up date 2003-04, 2003; メジカルビュー社.
- 6) 中野博司, 大庭建三: [分担] 老年期糖尿病. 老年病診療Q & A (小澤利男 他), 2003; pp1141-1143, 六法出版.
- 7) 渡邊健太郎, 大庭建三: [分担] 老年期糖尿病患者に発症した脳卒中の治療. 老年病診療Q & A (小澤利男 他), 2003; pp1149-1149, 六法出版.
- 8) 大庭建三, 中野博司: [分担] 特別な管理を要する糖尿病: 高齢者. 糖尿病学の進歩2003 (日本糖尿病学会), 2003; pp87-89, 診断と治療社.
- 9) 大庭建三 他: [編集] 老年医療の歩みと展望; 養生訓から現代医療の最先端まで (日本老年医学会学会史ワーキンググループ), 2003; メジカルビュー社.
- 10) 大庭建三: [分担] 糖尿病: 加齢と糖尿病. 老年医療の歩みと展望; 養生訓から現代医療の最先端まで (日本老年医学会), 2003; pp157-159, メジカルビュー社.

## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 大庭建三：高齢化社会の糖尿病；老年糖尿病患者の管理．第38回糖尿病学の進歩，2004．2．

### (2) シンポジウム：

- 1) 大庭建三：高齢者の糖尿病：高齢者糖尿病の高脂血症の管理はどうあるべきか．第45回日本老年医学会学術集会，2003．6．

### (3) セミナー：

- 1) 大庭建三：高齢者高脂血症の診断と治療：最近の知見から．日本循環器学会九州地方会第95回学術集会，2003．12．

### (4) 一般講演：

- 1) Suzuki T, Watanabe K, Okazaki K, Nakano H, Oba K : Relation between apo ( a ) lipoprotein phenotypes ; relative lymphocyte count and ischaemic heart disease ( IHD ). 13th International Symposium on Atherosclerosis ( Kyoto ), 2003 . 8 .
- 2) Watanabe K, Okazaki K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Intima-media thickness is related to inflammatory change of atherosclerosis . 13th International Symposium on Atherosclerosis ( Kyoto ), 2003 . 8 .
- 3) Okazaki K, Watanabe K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Is the common carotid artery ( CCA ) diameter useful indicator of atherosclerosis? . 13th International Symposium on Atherosclerosis ( Kyoto ), 2003 . 8 .
- 4) Nakano H, Watanabe K, Okazaki K, Suzuki T, Oba K : Effect of atorvastatin on hypersensitivity CRP in patients treated with natural statins . 13th International Symposium on Atherosclerosis ( Kyoto ), 2003 . 8 .
- 5) Nakano H, Matsumura N, Igari Y, Watanabe K, Magata Y, Okazaki K, Suzuki T, Oba K : Effect of atorvastatin on hypersensitivity CRP in patients with treated with natural statins . The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Tokyo ), 2003 . 11 .
- 6) Matsumura N, Igari Y, Watanabe K, Magata Y, Okazaki K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Clinical usefulness of autonomic nervous system function test ( Wavelet analysis ) in elderly diabetic patients . The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology , 2003 . 11 .
- 7) Magata Y, Matsumura N, Igari Y, Watanabe K, Okazaki K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Aging and postmeal glucose fluctuacious in type 2 diabetic patients . The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Tokyo ), 2003 . 11 .
- 8) Okazaki K, Watanabe K, Igari Y, Matsumura N, Magata Y, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Is the CCA diameter useful index of atherosclerosis? . The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Tokyo ), 2003 . 11 .
- 9) Watanabe K, Matsumura N, Igari Y, Magata Y, Okazaki K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Inflammation is poor related to the development of atherosclerosis in the elderly . The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Tokyo ), 2003 . 11 .
- 10) Igari Y, Matsumura N, Watanabe K, Magata Y, Okazaki K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Asymptomatic pyuria and autonomic nerve function in women . The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology ( Tokyo ), 2003 . 11 .
- 11) 山本裕子, 猪狩吉雅, 松村典昭, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三：膀胱内尿量測定装置BVI-6100の臨床的有用性に関する検討．第5回Geriatric Medical Frontier Forum, 2003．3．
- 12) 松村典昭, 猪狩吉雅, 安岡比呂子, 中谷千瑞子, 矢野 誠, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三：高齢者糖尿病の自律神経機能に関する検討：ウエーブレット解析の臨床的有用性．第100回日本内科学会講演会, 2003．4．
- 13) 鈴木達也, 二見章子, 関水健一, 松村典昭, 猪狩吉雅, 木川好章, 中野博司, 大庭建三：虚血性心疾患 ( IHD )



- に対する血清Lp(a)フェノタイプおよび相対的リンパ球率の影響について：7年間の経年観察2003.4.2.第100回日本内科学会講演会,2003.4.
- 14) 澗瀧由美子,山下直子,高井恵美子,斉藤好史,関水憲一,藤本あみか,鈴木達也,中野博司,大庭建三:糖尿病患者の食後血糖値の変動には年代間の差はない.第100回日本内科学会講演会,2003.4.
  - 15) 渡邊健太郎,岡崎恭次,與田小百合,新井みどり,大内基司,工藤律子,鈴木達也,中野博司,大庭建三:頭頸部動脈の超音波検査で得られる指標の臨床的有用性.第100回日本内科学会講演会,2003.4.
  - 16) 渡邊健太郎,岡崎恭次,新井みどり,大内基司,中谷千瑞子,鈴木達也,中野博司,大庭建三:粥状動脈硬化に糖尿病の臨床的特殊性があるか:頭頸部動脈および炎症反応の面からの検討.第46回日本糖尿病学会年次学術集会,2003.5.
  - 17) 澗瀧由美子,山下直子,高井恵美子,斉藤好史,関水憲一,鈴木達也,中野博司,大庭建三:糖尿病患者の食後血糖値の変動に関する検討:年代別・治療法別の検討.第46回日本糖尿病学会年次学術集会,2003.5.
  - 18) 松村典昭,猪狩吉雅,倉辻公美,犬塚有紀,鈴木達也,中野博司,大庭建三:高齢者糖尿病の自律神経機能:ウエーブレット解析の臨床的有用性に関する検討.第46回日本糖尿病学会年次学術集会,2003.5.
  - 19) 村田雄一<sup>1,2)</sup>,倉辻公美,木川暁子<sup>1)</sup>,木川好章<sup>1)</sup>,鈴木英朗<sup>2)</sup>,竹澤健司<sup>2)</sup>,鈴木達也,中野博司,大庭建三,遠藤俊吉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>飯能好友病院,<sup>2)</sup>日本医科大学精神医学):痴呆専門病院における予後および死因の検討.第18回日本老年精神医学会,2003.6.
  - 20) 猪狩吉雅,松村典昭,上田幸弘,野呂瀬準,須澤直木,倉辻公美,犬塚有紀,鈴木達也,中野博司,大庭建三:無症候性白血球尿に関する検討:自律神経機能の面からの検討.第45回日本老年医学会学術集会,2003.6.
  - 21) 渡邊健太郎,岡崎恭次,與田小百合,新井みどり,工藤律子,大内基司,増谷祐人,鈴木達也,中野博司,大庭建三:粥状動脈硬化に老年者の臨床的特殊性があるか:頭頸部および炎症反応の面からの検討.第45回日本老年医学会学術集会,2003.6.
  - 22) 澗瀧由美子,山下直子,伊藤 民,斉藤好史,高井恵美子,渡邊健太郎,岡崎恭次,鈴木達也,中野博司,大庭建三:糖尿病患者の治療法別の食後血糖値の変動に関する検討-年代別の検討.第45回日本老年医学会学術集会,2003.6.
  - 23) 松村典昭,猪狩吉雅,中谷千瑞子,山口 寛,矢野 誠,犬塚有紀,鈴木達也,中野博司,大庭建三:高齢者糖尿病の自律神経機能:ウエーブレット解析の臨床的有用性に関する検討.第45回日本老年医学会学術集会,2003.6.
  - 24) 鈴木達也,鈴木一成,二見章子,関水憲一,松村典昭,猪狩吉雅,奥山 裕,木川好章,中野博司,大庭建三:老年者における虚血性心疾患(IHD)に対する血清Lp(a)フェノタイプおよび相対的リンパ球率の影響について:7年間の経年観察.第45回日本老年医学会学術集会,2003.6.
  - 25) 野呂瀬準,吉松寛臣,関水憲一,與田小百合,渡邊健太郎,澗瀧由美子,鈴木達也,中野博司,大庭建三:糖尿病患者の食後血糖値は加齢の影響をうけるか:血糖日内変動からの比較.第71回日本医科大学医学会総会,2003.9.
  - 26) 山本祐子,山田幸弘,鈴木一成,二見章子,猪狩吉雅,松村典昭,犬塚有紀,鈴木達也,中野博司,大庭建三:アディポネクチンを測定した高度肥満empty sella syndromeの1例.第71回日本医科大学医学会総会,2003.9.
  - 27) 関水一成,澗瀧由美子,山下直子,鈴木一成,猪狩吉雅,松村典昭,鈴木達也,中野博司,大庭建三:転移巣により発見された高齢者原発性肺癌の3例.第38回日本老年医学会関東甲信越地方会,2003.9.
  - 28) 犬塚有紀,二見章子,鈴木一成,関水憲一,鈴木達也,中野博司,大庭建三:当科における高齢患者の血清脂質管理の現状.第4回Geriatric Medical Frontier Forum,2003.10.
  - 29) 鈴木達也:血清Lp(a)およびそのフェノタイプの臨床的意義.第3回加齢と代謝研究会,2004.2.
  - 30) 野呂瀬準,山本裕子,関水憲一,澗瀧由美子,猪狩吉雅,松村典昭,渡邊健太郎,鈴木達也,中野博司,大庭

建三：大腿静脈より挿入したIVHカテーテルが下腹壁静脈を介して腹直筋壊死をきたした1例．第39回日本老年医学会関東甲信越地方会，2004．3．

## [ 第二病院内科（内科，循環器科）]

### 研究概要

循環器，神経内科および腎臓病学の領域を中心とした著書，学会発表があった．

循環器病学では，虚血性心疾患領域の画像診断に関する研究と，比較的稀な症例を経験したのでそれを発表した．

神経内科においては，痴呆，特にアルツハイマー型痴呆に関する診断，治療についての著書，学会発表が数多くなされた．

腎臓病学においては，血液浄化療法を中心とした研究がなされた．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 村澤恒男，酒井行直，伊佐治剛，網谷賢一，山口朋禎，宗像一雄：安定期維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図の変動：徐水率，血液データ，神経体液性因子との関連性について．日本透析医学会雑誌 2003；36：1685-1691．
- 2) 北村 伸，山室 学，酒寄 修<sup>1)</sup>，石渡明子<sup>2)</sup>，駒場裕一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科，<sup>2)</sup>付属病院内科学第2)：Characteristic diagnostic imaging findings in Alzheimer's disease．JMAJ 2003；46：269-276．

##### (2) 綜説：

- 1) 北村 伸：アルツハイマー型痴呆と脳血管障害の関係．認知神経科学 2003；5(3)：159-164．
- 2) 北村 伸：痴呆とかかりつけ医：アルツハイマー型痴呆のスクリーニング．埼玉医学会雑誌 2003；38(1)：131-133．
- 3) 北村 伸：アルツハイマー型痴呆と脳血管性痴呆の境界と相同性をどうとらえるか どう診断すべきか．老年精神医学会雑誌 2003；14：70-77．
- 4) 北村 伸：孤発性Alzheimer病 予後．日本臨床 増刊号 2004；62：81-85．

#### 著書

- 1) 峰松一夫：〔分担〕脳血管性痴呆の画像診断の有用性と落とし穴．脳卒中診療のコツと落とし穴，2003；pp182-183，中山書店．

#### 学会発表

##### (1) セミナー：

- 1) 北村 伸：脳血管障害とアルツハイマー型痴呆の関係．第8回認知神経科学会，2003．7．

##### (2) 一般講演：

- 1) Murasawa T，Sakai Y，Ono T<sup>1)</sup>，Isaji G，Amitani K，Yamaguchi T，Nishigaki T，Munakata K(<sup>1)</sup>Coronary Cre Unit, Nippon Medical School Hospital)：Hemodialysis-associated increases in QT dispersion and ARIdispersion are related to changes in the renin-angiotensin system in patients undergoing maintenance-dialysis．World Congress of Nephrology 2003 (Berlin)，2003．6．
- 2) 網谷賢一，竹永清人，山口朋禎，高橋直人，星野公彦，内田高浩，岩原信一郎，宗像一雄：心臓カテーテル検査により後腹膜出血をきたした1例．日本医科大学医学会第110回例会，2003．5．

- 3) 村澤恒男, 酒井行直, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 伊佐治剛, 網谷賢一, 山口朋禎, 西垣朝裕, 宗像一雄<sup>(1)</sup> (付属病院集中治療室): 維持透析患者の血液透析に伴うQT およびARI dispersion の変動: RAA系の関与. 第46回日本腎臓学会学術総会, 2003. 5.
- 4) 北村 伸, 山室 学, 劉 春玲, 宗像一雄, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) (付属病院第二内科): 脳血流所見よりみた脳血管性痴呆におけるアルツハイマー型痴呆の関与についての検討. 日本神経学会総会, 2003. 5.
- 5) 村澤恒男, 酒井行直, 小野卓哉, 伊佐治剛, 網谷賢一, 山口朋禎, 西垣朝裕, 宗像一雄: 維持透析患者の血液透析に伴うQT dispersion およびARI dispersion の変動とその相違点. 第48回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2003. 6.
- 6) 酒井行直, 網谷賢一, 村澤恒男, 宗像一雄, 門松 豊<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup>, 尾崎 傑<sup>1)</sup> (1) (第二病院血液浄化療法室): 肝硬変による難治性腹水をコントロールし得た腹膜透析導入の1例. 第48回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2003. 6.
- 7) 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄, 門松 豊<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup> (1) (血液浄化療法室): 維持透析患者における血液透析前後の細胞内外水分量の変化率とANP, BNPとの関連についての検討. 第48回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2003. 6.
- 8) 磯野友昭<sup>1)</sup>, 尾崎 傑<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>, 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄: 新規型エンドホールタイプダブルルーメンカテーテルと従来型ヘパリンコーティングタイプダブルルーメンカテーテルとの比較検討. 第48回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2003. 6.
- 9) 尾崎 傑<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>, 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄<sup>(1)</sup> (血液浄化療法室): Pulse Wave Transit Time を用いた血液透析中の血圧変動予測. 第48回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2003. 6.
- 10) 鯨澤理人, 山口朋禎, 伊佐治剛, 網谷賢一, 寺田秀人, 本郷公英, 岩本将人, 宗像一雄: 骨髄異形成症候群および原発性胆汁性肝硬変症の経過中に肺胞蛋白症を発症した1例. 日本内科学会関東地方会510回例会, 2003. 7.
- 11) 竹永清人, 伊佐治剛, 酒井行直, 岩原信一郎, 寺田秀人, 村澤恒男, 北村 伸, 宗像一雄: 血漿交換療法が奏効し寛解に至った, P-ANCA 関連血管炎症候群による急性肺障害の1例. 第12回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2003. 8.
- 12) 山賀節子<sup>1)</sup>, 西島美輝子<sup>1)</sup>, 越谷美由紀<sup>1)</sup>, 隠岐和美<sup>1)</sup>, 荒木久美<sup>1)</sup>, 荒井誠一<sup>1)</sup>, 渡部紀子<sup>1)</sup>, 高久貴子<sup>1)</sup>, 新宅孝征<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>2)</sup>, 内田拓実, 宗像一雄<sup>(1)</sup> (第二病院中央検査室, <sup>2)</sup> 同 消化器病センター): 経胸壁心臓超音波検査におけるTVI法の有用性の検討. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 13) 高橋直人, 竹永清人, 網谷賢一, 山口朋禎, 内田高浩, 星野公彦, 岩原信一郎, 宗像一雄, 内田拓実<sup>1)</sup> (1) (牧田総合病院): 無症候性心筋虚血にMultiple Spontaneous Coronary Dissectionを認めた1例. 日本循環器学会第189回関東甲信越地方会, 2003. 9.
- 14) 伊佐治剛, 竹永清人, 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄: 過去3年間に当科で経験したANCA関連腎炎の3例. 日本医科大学医学会第111回例会, 2003. 11.

## [ 多摩永山病院内科, 循環器内科 ]

### 研究概要

循環器専攻の内科医により構成されているが, 多摩地区の中核病院としての機能を維持するため, 内科全般を診療対象とする体制をとっている. 臨床研究が主体となるが, 実験的研究にも積極的に従事している.

- 1) 虚血性心疾患に関する経皮的カテーテル治療に関連したインターベンション, 非観血的評価法による治療効果ならびに予後判定に関する研究.
- 2) 臨床電気生理学的検査を中心とした不整脈の診断, 治療に関する研究.
- 3) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療法に関する研究.

4) ブルガダ症候群に関連した全国的な多施設共同研究 .

5) 心不全における 受容体, レニン・アンギオテンシン系の役割に関する研究 .

上記の循環器領域における虚血, 不整脈, 心不全といった中心的研究テーマにつき重要な研究活動を行っている . また, 当院薬剤部との協力により慢性肺疾患, 心疾患, 糖尿病患者のQOL改善を目的とした臨床課題についても積極的に取り組んでいる . 平成15年7月より東京都CCUネットワークに加盟し, 夜間胸痛患者さんの受け入れも積極的に対応している .

## 研究業績

### 論文

(1) 原著 :

- 1) Kameyama M , Hirayama Y<sup>1)</sup> , Saitoh H<sup>1)</sup> , Maruyama M , Atarashi H , Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Medicine ) : Possible contribution of the sarcoplasmic reticulum Ca ( 2+ ) pump function to electrical and mechanical alternans . Journal of Electrocardiology 2003 ; 36 ( 2 ) : 125-135 .
- 2) Tang X L<sup>1)</sup> , Kodani E , Takano H<sup>2)</sup> , Hill M<sup>1)</sup> , Shinmura K<sup>1)</sup> , Vondriaka TM<sup>1)</sup> , Ping P<sup>1)</sup> , Bolli R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Cardiology, University of Louisville , <sup>2)</sup> First Department of Internal Medicine ) : Protein tyrosine kinase signaling is necessary for NO donor-induced late preconditioning against myocardial stunning . Am J Physiol Heart Circ Physiol 2003 ; 284 ( 4 ) : H1441-H1448 .
- 3) Yamashita T<sup>1)</sup> , Ogawa S<sup>2)</sup> , Aizawa Y<sup>3)</sup> , Atarashi H , Inoue H<sup>4)</sup> , Ohe T ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Nigata University Graduate School , <sup>4)</sup> Second Department of Internal Medicine Toyama Medical School of Medicine , <sup>6)</sup> Okayama University, Graduate School of Medicine ) : Investigation of optimal treatment strategy for atrial fibrillation in Japan-The J -RHYTHM : ( Japanese Rhythm Management Trial for Atrial Fibrillation ) study design . Circ J 2003 ; 67 ( 9 ) : 738-741 .
- 4) Maruyama M , Kawaguchi N , Miyamoto S , Tadera T , Ino T , Atarashi H : Pseudotermination of Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia Related to Isorhythmic Atrioventricular Dissociation . PACE 2003 ; 26 : 2338-2339 .
- 5) Hayashi M<sup>1)</sup> , Kobayashi Y<sup>1)</sup> , Morita N<sup>1)</sup> , Iwasaki Y<sup>1)</sup> , Ohmura K<sup>1)</sup> , Atarashi H , Katoh T<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> : Clinical significance and contributing factors of long-term variability in induced ventricular tachyarrhythmias . Jcardiovas Electrophysiol 2003 ; 14 ( 10 ) : 1049-1056 .
- 6) Maruyama M<sup>1)</sup> , Kobayashi Y<sup>1)</sup> , Kodani E , Hirayama Y<sup>1)</sup> , Atarashi H , Katoh T<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ) : Osborn Wave : History and Significance . Indian Pacing and Electrophysiology Journal 2004 ; 4 ( 1 ) : 33-39 .
- 7) Hirayama Y<sup>1)</sup> , Atarashi H , Kobayashi Y<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> : Angiotensin-converting enzyme inhibitor are not effective at inhibiting further fibrous changes in the atria in patients with chronic atrial fibrillation . Jpn Heart J 2004 ; 45 : 93-101 .
- 8) 新 博次 : Brugada症候群の診断と予後 . 心電図 2003 ; 23 ( supplement4 ) : s-4-5-s-4-8 .
- 9) 新 博次 : QT延長 . 臨床薬理 2004 ; 35 ( 2 ) : 305-308 .
- 10) 新 博次 : 「AFFIRM試験」および「心房細動治療指針ガイドライン」に関するアンケート調査結果速報 : リズムマネジメントに関する結果速報 . 心臓 2004 ; 36 ( 3 ) : 256-259 .
- 11) 新 博次 : アンジオテンシンII受容体拮抗薬バルサルタンの使用経験 . 臨床と研究 2004 ; 81 ( 3 ) : 524-528 .

(2) 綜説 :

- 1) 新 博次 : Brugada症候群の診断とSCN5A変異 . 心臓 2003 ; 35 ( 4 ) : 280-281 .

- 2) 岸田 浩, 鈴木 健: 狭心症の臨床: 狭心症に対する薬物療法. 日本臨牀 2003; 61 (増刊号5): 93-97.
- 3) 新 博次: Brugada症候群の予後: 日本と欧米で差はあるのか. Heart View 2003; 17 (8): 51-55.
- 4) 新 博次: 突然死予防の新しいstrategy: Brugada症候群について. 心臓 2004; 36 (1): 3-8.
- 5) 丸山光紀, 新 博次: 非持続性心室頻拍の対処法. 臨床医 2004; 30 (1): 51-55.
- 6) 新 博次: Ca拮抗薬と不整脈. CLINICAL CALCIUM 2004; 14 (3): 454-456.
- 7) 新 博次: 心房細動. 成人病と生活習慣病 2004; 34 (3): 193-196.

## 著 書

- 1) 雪吹周生, 岸田 浩: [分担]昇圧薬. 治療薬ガイド2003~2004 (和田 攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内慰義), 2003; pp275-281, 文光堂.
- 2) 井上 博<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>(1)</sup> 富山医科薬科大学第二内科): [共著]心房細動の治療と管理, 2004; 医学書院.
- 3) 新 博次: [分担]薬理的徐細動と電氣的徐細動. 「心房細動 - 予防・管理・治療」(永井良三, 西村敬史編), 2004; pp102-107, 南江堂.
- 4) 新 博次: [分担]不整脈. 内科学レビュー - 2004 (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢監修), 2004; pp38-42, 総合医学社.
- 5) 新 博次: [分担]不整脈. 新全科「家庭の医学」, 2004; pp775-780, 社会保険出版社.
- 6) 雪吹周生: [分担]心筋梗塞. ガイドライン外来診療2004 (泉 孝英), 2004; pp358-360, 日経メディカル.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 新 博次: 治療薬による重篤な有害反応の予測・予防: QT延長. 第24回日本臨床薬理学会年会, 2003. 12.
- 2) 新 博次: 心房中隔欠損と心房細動 ASD & Af (10min). 第6回成人先天性心疾患研究会, 2004. 1.

### (2) 一般講演:

- 1) 大塚俊昭, 雪吹周生, 徳山権一, 山科育子, 石井健輔, 亀山幹彦, 丸山光紀, 大野則彦, 笠神康平, 松本 真, 緒方憲一, 宮本新次郎, 小谷英太郎, 遠藤康実, 田寺 長, 鈴木 健, 新 博次, 岸田 浩, 高野照夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第1): Transverse Trunkを介した左前下行枝病変のカテーテル治療に成功したSingle Coronary Artery合併狭心症の1例. 第186回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2002. 12.
- 2) 丸山光紀, 亀山幹彦, 宮本新次郎, 松本 真, 緒方憲一, 田寺 長, 井野 威, 新 博次, 小林義典<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第1): 頻拍中の心房entrainment pacingが心房頻拍との鑑別に有用だったFast / Slow型房室結節リエントリー性頻拍の1例. 第33回臨床電気生理研究会, 2003. 5.
- 3) 亀山幹彦, 丸山光紀, 緒方憲一, 松本 真, 宮本新次郎, 田寺 長, 鈴木 健, 新 博次, 大野則彦, 岸田浩<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第1): 本邦における薬剤性QT延長症候群Torsade de pointes症例の臨床的特徴. 第20回日本心電学会学術集会, 2003. 9.
- 4) 雪吹周生, 石井健輔, 大塚俊昭, 笠神康平, 小谷英太郎, 鈴木 健, 新 博次, 皆川規雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>隆生会皆川病院): ニトログリセリンによる降圧作用と脈波伝播速度; 動脈硬化危険因子の影響. 第35回日本動脈硬化学会総会, 2003. 9.
- 5) 藤本啓志, 小谷英太郎, 宮本新次郎, 佐藤 越, 松本 真, 緒方憲一, 田寺 長, 雪吹周生, 鈴木 健, 新 博次: 大酒家にみられた完全房室ブロックの1例. 第189回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 9.
- 6) 雪吹周生, 吉田博史, 加藤活人, 宮地秀樹, 細川雄亮, 加藤浩司, 石井健輔, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次: HMG-CoA還元酵素阻害薬(スタチン)の内膜増生抑制作用; スtent内/周縁部の比較. 第35回日本動脈硬化学会総会, 2003. 9.
- 7) 緒方憲一, 新 博次, 井上 博<sup>1)</sup>, 相澤義房<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>富山医科薬科大学医学部第2内科, <sup>2)</sup>新潟大学大学院循環器

- 分野): Brugada症候群の心電図診断におけるI群抗不整脈薬ピルジカイニド静注の意義: 不完全右脚ブロック症例を対象としたST上昇誘発試験. 第20回日本心電学会学術集会, 2003. 9.
- 8) 菊池宏久<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, 木下宏文<sup>1)</sup>, 今井和夫<sup>1)</sup>, 新井健三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>本庄総合病院内科): NO<sub>2</sub>ガス中毒によりstage III (2nd acute phase) にまで進行した急性肺水腫の1例. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
- 9) 佐藤 越, 石川正也, 吉田博史, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 多摩永山病院内科における甲状腺疾患の疫学的調査. 日本医科大学医学会第111回例会, 2003. 11.
- 10) 石井健輔, 宮本新次郎, 丸山光紀, 緒方憲一, 佐藤 越, 松本 真, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 鈴木 健, 新 博次, 山本英希<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 金属アレルギーによりペースメーカー植え込みに難渋したダウン症候群の1例. 第190回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 11) 細川雄亮, 宮地秀樹, 加藤活人, 與田小百合, 伊藤憲祐, 石川正也, 加藤浩司, 亀山幹彦, 吉田博史, 石井健輔, 佐藤 越, 松本 真, 緒方憲一, 宮本新次郎, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次, 佐々木朝子, 丸山光紀: 徐脈性不整脈に右室ペースメーカーを挿入したところ左室奇異性収縮を生じ, うっ血性心不全を発症した症例. 第190回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 12) 雪吹周生, 石井健輔, 大塚俊昭, 笠神康平, 小谷英太郎, 鈴木 健, 新 博次, 皆川規雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>隆盛会皆川病院): ニトログリセリンによる降圧作用と脈波伝播速度; 動脈硬化危険因子の影響. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.
- 13) 佐藤 越, 石川正也, 吉田博史, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 新 博次: 内科外来通院中の甲状腺機能低下症とその臨床的背景の検討. 第38回日本成人病学会, 2004. 1.

## 2. 内科学第二講座

### [ 付属病院第 2内科 ( 神経内科, 腎臓内科 ) ]

#### 研究概要

内科学第二講座は、神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております。神経内科では脳血管障害、特に脳梗塞の病態解明および治療を主要テーマとして取り組んでいる。研究にあたっては動物実験に基づく基礎的なアプローチと臨床データに基づいた臨床的アプローチの両面から行っている。

実験的研究では、主としてラットを用いた中大脳動脈閉塞モデルを使用して脳梗塞の病態の解明のためオートラジオグラフィ法やマイクロアッセイ法を用いて局所脳循環代謝を測定している。

また、脳梗塞体積および脳浮腫容積を測定し、各種薬剤の脳保護作用および治療可能時間 ( Therapeutic Time Window ) を検討している。近年、当教室で力を注いでいる研究の一つは免疫抑制薬、フリーラジカルスカベンジャーおよびそれらと軽微低体温療法の併用による脳の保護作用であるが、それらの治療薬や治療法のアポトーシス誘導遺伝子への影響についても検討を行なっている。

また、脳虚血モデルを用いてウイルスベクターを用いた遺伝子治療や脳保護蛋白の導入による治療も試みている。臨床的には脳卒中急性期の早期診断・早期治療に取り組んでおり、MRI を用いた Diffusion, Perfusion Weighted Image による診断法の開発に力を注いでいる。その他、脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECT 等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。また、脳梗塞の予防ではスタチンの効果について、パーキンソン病では病態生理とともに長期間に渡る薬剤効果の検討を行なっている。

腎臓内科では、従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割についても研究を進めており、さらに厚生労働省の腎傷害研究班の一員として多嚢胞腎の調査研究も行っている。

また、腎クリニックや千葉北総病院内科、第二病院内科および脳卒中センター ( SCU ) に教室員の派遣を行い、各施設での診療・研究に貢献している。

以上、当教室では神経および腎臓内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた論文を発表している。

#### 研究業績

##### 論文

[ 2002 年度追加分 ]

原著：

- 1) Sakamaki M, Igarashi H, Nishiyama Y, Hagiwara H, Ando J<sup>1)</sup>, Chishiki T<sup>2)</sup>, Curran BC<sup>3)</sup>, Katayama Y ( <sup>1)</sup>北村山公立病院放射線科, <sup>2)</sup>同神経内科, <sup>3)</sup>カルフォルニア大学外科 ): Effects of glycerol on ischemic cerebral edema assessed by magnetic resonance imaging. J Neurol Sci 2002 ; 209 : 69-74 .

総説：

- 1) 駒場祐一：脳血管性痴呆 - アルツハイマー型痴呆との鑑別を中心に。第 18 回 Brain Function Imaging Conference - 記録集 - 脳機能研究会 2002 ; ISSN1341 ( 4984 ) : 17-20 .
- 2) 飯野靖彦：腎臓の未病のチェックポイントと治療。Progress in Medicine 2002 ; 22 : 2315-2318 .
- 3) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>都立荏原病院 神経内科 ): 抗凝固療法。神経内科 増刊号 2003 ; 58 ( 3 ) : 265-270 .

(1) 原著 :

- 1) Katsumata T , Muramatsu H , Nakamura H , Nishiyama Y , Aoki Y , Katayama Y : Neuroprotective effect Of NS-7, a novel Na<sup>+</sup>and Ca<sup>2+</sup>channel blocker, in a focal ischemic model in the rat . Brain Research 2003 ; 969 : 168-174 .
- 2) Suzuki K , Matsuzawa H , Igarashi H , Watanabe M , Nakayama N , Kwee IL , Nakada T : All-phase MR angiography using independent component analysis of dynamic contrast enhanced MRI time series : - MRA . Magnetic Resonance in Medical Sciences 2003 ; 2 : 23-27 .
- 3) Otori T , Katsumata T , Muramatsu H , Kashiwagi F , Katayama Y , Terashi A : Long-term measurement of cerebral blood flow and metabolism in a rat chronic hypoperfusion model . Clin Exp pharmacol Physiol 2003 ; 30 : 266-272 .
- 4) Halder RC , Abe T , Mannoor MK , Morshed SR , Ariyasinghe A , Watanabe H , Kawamura H , Sekikawa H , Hamada H , Nishiyama Y , Ishikawa H , Toba K , Abo T : Onset of hepatic erythropoiesis after malarial infection in mic . Parasitol Int 2003 ; 52 : 259-268 .
- 5) Mishina M , Ohyama M , Ishii K , Mitani K , Oda K , Kimura Y , Sasaki T , Ishiwata K , Fukuchi T , Kobayashi S , Kitamura S , Katayama Y : Midbrain Hypometabolism : An Early Diagnostic Sign for Progressive Supranuclear Palsy . J Nucl Med 2003 ; 44 : S233 .
- 6) Mishina M , Senda M<sup>1)</sup> , Kiyosawa M<sup>1)</sup> , Ishiwata K<sup>1)</sup> , Anne G De V<sup>2)</sup> , NakanoH<sup>3)</sup> , Toyama H<sup>1)</sup> , Oda K<sup>1)</sup> , Kimura Y<sup>1)</sup> , Ishii K<sup>1)</sup> , Sasaki T<sup>1)</sup> , Ohyama M , Komaba Y , Kobayashi S<sup>4)</sup> , Kitamura S , Katayama Y ( <sup>1)</sup>Positron medical center, Tokyo Metropolitan Insitute of gerontology , <sup>2)</sup>Positron Tomography Laboratory, University of Louvain , <sup>3)</sup>Department of Ophthalmology, Tsukuba University , <sup>4)</sup>Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital ) : Increased regional cerebral blood flow but normal distribution of GABA<sub>A</sub> receptor in the visual cortex of subjects with early-onset blindness . Neuroimage 2003 ; 19 ( 1 ) : 125-131 .
- 7) Igarashi H , Hamamoto M , Yamaguchi H , Okubo S , Nagashima J , Nagayama H , Amemiya S , Katayama Y : Cerebral Blood Flow Index : Dynamic perfusion MRI delivers a simple and good predictor for the outcome of acute-stage ischemic lesion . J Comput Assist Tomogr 2003 ; 27 : 874-881 .
- 8) Fujita Y , Ezura Y , Emi M , Ono S , Takada D , Takahashi K , Uemura K , Iino Y , Katayama Y , Bujo H , Saito Y : Hypertriglyceridemia associated with amino acid variation Asn985Tyr of the RP1 gene . J Hum Genet 2003 ; 48 : 305-308 .
- 9) Iino Y , Hayashi M , Kawamura T , Shiigai T , Tomino Y , Yamada K , Kitajima T , Ideura T , Koyama A , Sugisaki T , Suzuki H , Umemura S : Interim evidence of the renoprotective effect of the angiotensinII receptor antagonist losartan versus the calcium channel blocker amlodipine in patients with chronic kidney disease and hypertension . Clin Exp Nephrol 2003 ; 3 : 221-230 .
- 10) Katsura K , Kurihara J , Watanabe M , Takahashi K , Katayama Y : FK506 facilitates the normalization of post - ischemic perturbation of protein kinase and tyrosine phosphorylation in the gerbil hippocampal CA1 sectors . International Congress Series 2003 ; 1252 : 135-140 .
- 11) Okubo S , Igarashi H , Yamaguchi H , Arie K , Sakamaki M , Mizukoshi G , Aoki Y , Katayama Y : Therapeutic time window on rt-PA on embolic stroke in rat . International Congress Series 2003 ; 1252 : 203-207 .
- 12) Kamiya T , Katayama Y : Mild hypothermia enhances efficacy of neuroprotective agents in cerebral ischemia in rats . International Congress Series 2003 ; 1252 : 93-101 .
- 13) Igarashi H , Kwee IL , Okubo S , Nakada T , Katayama Y : Predicting pathological fate of focal cerebral ischemia using 1H-magnetic resonance spectroscopic imaging . International Congress Series 2003 ; 1252 :



341-344 .

- 14) Katsura K , Kurihara J<sup>1)</sup> , Hiraide T , Takahashi K , Kato H<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 帝京大学医学部 ): Effects of FK506 on the translocation of protein kinase C and CaM kinaseII in the gerbil hippocampal CA1 neurons . *Neurol Res* 2003 ; 25 : 522-527 .
- 15) Takada D , Ezura Y , Ono S , Iino Y , Katayama Y , Xin Y , Wu LL , Larringa-Shum S , Stephenson SH , Hunt SC , Hopkins PN , Emi M : Growth hormone receptor variant ( L526I ) modifies plasma HDL cholesterol phenotype in familial hypercholesterolemia : intra-familial association study in an eight-generation hyperlipidemic kindred . *Am J Med Genet* 2003 ; 30 ( 121A ( 2 ) ): 136-140 .
- 16) Nakamura M , Hamamoto M , Uchida S , Nagayama H , Amemiya S , Okubo S , Tanaka K : A case of micrographia after subcortical infarction : possible involvement of frontal lobe function . *Eur J Neurol* 2003 ; 10 ( 5 ): 593-596 .
- 17) Ono S , Ezura Y , Emi M , Fujita Y , Takada D , Sato K , Ishigami T , Umemura S , Takahashi K , Kamimura K , Bujo H , Saito Y : A promoter SNP ( -1323T>C ) in G-substrate gene ( G SBS ) correlates with hypercholesterolemia . *J Hum Genet* 2003 ; 48 : 447-450 .
- 18) Hasegawa D , Orima H , Fujita M , Nakamura S , Takahashi K , Okubo S , Igarashi H , Hashizume K : Diffusion-weighted imaging in kainic acid-induced complex partial status epilepticus in dogs . *Brain Res* 2003 ; 983 : 115-127 .
- 19) Katsura K , Kurihara J , Watanabe M , Takahashi K , Katayama Y : FK506 attenuates the post-ischemic perturbation of protein kinases and tyrosine phosphorylation in the gerbil hippocampal CA1 sectors . *Acta Neurochir* 2003 ; 86 : 113-116 .
- 20) Kamiya T , Nito C , Ueda M , Kato K , Amemiya S , Terashi A , Katayama Y : Mild hypothermia enhances the neuroprotective effects of a selective thrombin inhibitor following transient focal ischemia in rats . *Acta Neurochir* 2003 ; 86 : 195 -198 .
- 21) Igarashi H , Hamamoto M , Yamaguchi H , Okubo S , Nagashima J , Nagayama H , Amemiya S , Ariei K , Sakamaki M , Katayama Y : Cerebral blood flow index image as a simple indicator for the fate of acute ischemic lesion . *Acta Neurochir* 2003 ; 86 : 241-246 .
- 22) Yamazaki M , Hasegawa M , Mori O , Murayama S , Tsuchiya K , Ikeda K , Katayama Y , Oyanagi K : Novel tau-positive fine granules in the cerebral white matter of tauopathies . *Brain Pathol* 2003 ; 13 : S58 .
- 23) Komaba Y , Mishina M , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター ): Crossed cerebellar diaschisis in patients with cortical infarction : Logistic regression analysis . *J Cereb Blood Flow Metab* 2003 ; 23 : S556 .
- 24) Mishina M , Ohyama M , Ishii K<sup>1)</sup> , Mitani K , Oda K<sup>1)</sup> , Kimura Y<sup>1)</sup> , Sasaki T<sup>1)</sup> , Ishiwata K<sup>1)</sup> , Fukuchi T , Komaba Y , KobayashiS<sup>2)</sup> , Kitamura S , Katayama Y ( <sup>1)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital ): 【 18F 】 flurodexoxyglucose uptake and clinical deterioration in progressive supranuclear palsy . *J Cereb Blood Flow Metab* 2003 ; 23 : S589 .
- 25) Kitamura S : Characteristic diagnostic imaging findings in Alzheimer's disease . *JMAJ* 2003 ; 46 : 269-276 .
- 26) Nomoto T , Okada T , Shimazaki K , Mizukami H , Matsushita T , Hanazono Y , Kume A , Katsura K , Katayama Y , Ozawa K : Distinct patterns of gene transfer to gerbil hippocampus with recombinant adeno-associated virus type 2 and 3 . *Neuroscience Letters* 2003 ; 340 : 153-157 .
- 27) Oyanagi K , Yamazaki M , Takahama S , Kawakami E , Chen KM , Wakabayashi K , Takahashi H , Iwatsubo T , Kasegawa M : Elimination of NFT/PHF in the parkinsonism-dementia complex of Guam : Obser-

- vation in human and inoculated rat brains . Brain Pathol 2003 ; S58-59 .
- 28) Yamazaki M , Hasegawa M , Mori O , Murayama S , Tsuchiya K , Ikeda K , Katayama Y , Oyanagi K : Novel tau-positive fine granules in the cerebral white matter of tauopathies . Brain Pathol 2003 ; S58 .
- 29) Oyanagi K , Yamazaki M , Wada M , Watabe K , Kawakami E , Kato S , Morita T , Takahashi H , Mizutani T : Alteration of rough endoplasmic reticulum in the anterior horn cells in amyotrophic lateral sclerosis . Brain Pathol 2003 ; S120 .
- 30) Fujita Y , Ezura Y , Emi M , Sato K , Takada D , Iino Y , Katayama Y , Takahashi K , Kamimura K , Bujo H , Saito Y : Hypercholesterolemia associated with splice-junction variation of inter-alpha-trypsin inhibitor heavy chain 4 ( ITIH4 ) gene . J Hum Genet 2004 ; 49 : 24-28 .
- 31) Sato K , Emi M , Ezura Y , Fujita Y , Takada D , Ishigami T , Umemura S , Xin Y , Wu LL , Larrinaga-Shum S , Stephenson SH , Hunt SC , Hopkins PN : Soluble epoxide hydrolase variant ( Glu287Arg ) modifies plasma total cholesterol and triglyceride phenotype in familial hypercholesterolemia : intrafamilial association study in an eight-generation hyperlipidemic kindred . J Hum Genet 2004 ; 49 : 29-34 .
- 32) Komaba Y , Mishina M , Utsumi K , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Mori O , Katayama Y ( <sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター ) : Crossed cerebellar diaschisis in patients with cortical infarction logistic regression analysis to control for confounding effects . Stroke 2004 ; 35 : 472-476 .
- 33) Fujita Y , Kashiwagi T , Takei H , Takada D , Kitamura H , Iino Y , Katayama Y : Membranous nephropathy complicated by renal cell carcinoma . Clin Exp Nephrol 2004 ; 8 : 59 -62 .
- 34) Kurihara J<sup>1)</sup> , Katsura K , Siesjö BK , Wieloch T ( <sup>1</sup>帝京大学医学部 ) : Hyperglycemia and hypercapnia differently affect post-ischemic changes in protein kinases and protein phosphorylation in the rat cingulate cortex . Brain Res 2004 ; 995 : 218-225 .
- 35) Iino Y , Hayashi M , Kawamura T , Shiigai T , Tomino Y , Yamada K , Kitajima T , Ideura T , Koyama A , Sugisaki T , Suzuki H , Umemura S : Renoprotective effect of losartan in comparison to amlodipine in patients with chronic kidney disease and hypertension . Hypertension Res 2004 ; 5 : 9-11 .
- 36) 須田 智 , 五十嵐博中 , 新井裕至 , 小島康正 , 酒巻雅典 , 西山 穰 , 安藤 順 , 知識鐵郎 , 片山泰朗 : 急性期脳梗塞における MCI-186 ( edaravone ) の抗脳浮腫効果 : MRI 緩和時間を用いた抗脳浮腫効果の mapping . Progress in Research on Brain Edema and ICP 2003 ; 55-60 .
- 37) 神谷達司 , 仁藤智香子 , 上田雅之 , 片山泰朗 : 免疫抑制薬 ( FK506 ) の脳梗塞急性期治療への臨床応用 : 免疫抑制薬の神経保護作用のメカニズムの解明 . 臨床薬理の進歩 2003 ; 24 : 46-52 .
- 38) 山崎峰雄 , 森 修<sup>1)</sup> , 新井裕至 , 山崎昌子<sup>2)</sup> , 小宮山佐<sup>2)</sup> , 片山泰朗 ( <sup>1</sup>日本医科大学付属千葉北総病院病理部 , <sup>2</sup>初石病院内科 ) : 痴呆専門病棟における連続剖検 100 例の神経病理学的検討 . 老年医学 2003 ; 42 : 1668-1673 .
- 39) 上田雅之 , 神谷達司 , 五十嵐博中 , 勝又俊弥 , 赫 彰郎 , 片山泰朗 : ピンスワンガー型白質脳症の成因 : 実験的白質病変 . 老年期痴呆研究会誌 2003 ; 20-25 .
- 40) 片山泰明 , 五十嵐博中 : 脳梗塞急性期の診断・治療の新しい展開 脳梗塞の最新トピックス : 基礎と臨床の cross talk . 臨床神経学 2003 ; 43 : 887-890 .
- 41) 栗原 怜 , 柏木哲也 , 葉山修陽 : 1, 2 次性副甲状腺機能亢進症に対する Calcitonin 静注療法の効果 ( 1 年間の観察 ) . 第 14 回腎と VitD 研究会誌 2004 ; 84-84 .
- 42) 中村美津恵 , 高橋みか子 , 五明麻葉 , 吉田千鶴 , 梅木いずみ , 関口千春 , 柏木哲也 : 透析皮膚掻痒症に対するセラミド配合入浴剤の使用経験 . 日本血液浄化技術研究会誌 2004 ; 11 ( 1 ) : 39-45 .
- 43) 片山泰朗 , 白田和弘 , 西山康裕 , 桂研一郎 : 脳卒中後のうつ . 日本老年医学会誌 2003 ; 40 ( 2 ) : 127-129 .

(2) 綜説：

- 1) 北村 伸：痴呆とかかりつけ医：アルツハイマー型痴呆のスクリーニング．埼玉医学会雑誌 2003；38：131-133．
- 2) 五十嵐博中，大久保誠二，青木裕明<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>(1)</sup>日本新薬創薬研究所)：連載 脳卒中モデル：脳塞栓モデル．分子脳血管病 2003；3：95-99．
- 3) 上田雅之，片山泰朗：虚血性脳卒中後のエストロゲン補充療法についての臨床試験．海外論文紹介 Top Journal Up To Date：分子脳血管病 2003；4：447-469．
- 4) 五十嵐博中，井田正博<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>(1)</sup>都立荏原病院放射線科)：脳卒中の分子画像診断：MRによる脳循環代謝の測定．分子脳血管病 2003；2(2)：46-53．
- 5) 神谷達司，片山泰朗：4. 血管閉塞モデル (Pulsinelli & Brierley モデル)．分子脳血管病 第7回 脳虚血モデル 2003；3：95-98．
- 6) 飯野靖彦：腎疾患のプライマリケアとしての尿検査のすすめ．New Modern Urinalysis 2003；2-4．
- 7) 北村 伸：アルツハイマー型痴呆と脳血管障害の関係．認知神経学 2003；5：159-164．
- 8) 大鳥達雄，片山泰朗：ベッドサイドの神経診断(2) 片麻痺．Clinical Neuroscience 2003；21(4)：399-401．
- 9) 富川節子<sup>1)</sup>，駒場祐一，沖理通子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院眼科)：超高齢者の白内障手術時における眼心反射および循環動態の変化．あたらしい眼科(第41回日本白内障学会) 2003；20：525-529．
- 10) 西山康裕，片山泰朗：特集 老人によくみられる疾患と薬物療法 3. 脳卒中．医薬ジャーナル社 2003；39：85-90．
- 11) 北村 伸，山室 学，酒寄 修，石渡明子，駒場祐一：加齢による物忘れからアルツハイマー型痴呆発症までの脳血流の変化．神経内科 2003；59：413-416．
- 12) 西山 穰，片山泰朗：慢性脳虚血モデル．分子脳血管病 2003；2：83-89．
- 13) 松信精一：ヨーロッパの透析事情．腎と透析 2003；54：661-663．
- 14) 片山泰朗：脳血管障害(脳卒中)とはどのようなもの？．BRAIN ナーシング 2003；19：10-18．
- 15) 長尾毅彦，井田正博<sup>1)</sup>，横地正之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>都立荏原病院診療放射線科，<sup>2)</sup>同神経内科)：髄膜脳炎．これだけは知っておきたい臨床医の画像診断 2003；29：752-753．
- 16) 柏木哲也，松信精一，飯野靖彦：腎生検．内科キーワード 2003；91：1129-1130．
- 17) 五十嵐博中，片山泰朗：急性期脳血管障害の新しいMR診断．Heart View 2003；7：35-40．
- 18) 長尾毅彦，片山泰朗，横地正之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立荏原病院神経内科)：心原性脳塞栓症の再発予防．Heart View 2003；7(7)：846-849．
- 19) 桂研一郎，片山泰朗：脳梗塞急性期の治療戦略．Medicina 2003；40：1161-1163．
- 20) 長尾毅彦，寺尾 元<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立荏原病院耳鼻咽喉科)：めまいについて．明日の友 2003；(144)：14-26．
- 21) 勝又俊弥，片山泰朗：脳梗塞患者における生活習慣病のコントロール：高脂血症と脳梗塞．Mebio 2003；20：29-34．
- 22) 山崎峰雄，片山泰朗：痴呆 高齢者の疾患と治療の進め方．医学と薬学 2003；50(2)：129-138．
- 23) 金子朋広，飯野靖彦：電解質異常．代謝性脳障害 救急医学 2003；27(8)：948-950．
- 24) 金子朋広，飯野靖彦：尿タンパク定量の問題点．内科診療Q&A 2003；(36)：994-997．
- 25) 金子朋広，飯野靖彦：新鮮尿の室温放置の経時変化．内科診療Q&A 2003；(36)：1106-1107．
- 26) 駒場祐一，片山泰朗：脳卒中の啓発運動と医学教育．脳と循環 2003；1：51-54．
- 27) 五十嵐博中，片山泰朗：様変わりする脳梗塞の急性期治療2 画像診断法の進歩と意義．治療学 2003；37：52-60．
- 28) 片山泰朗：Research for Organic Depression21 第1回講演録．Geriatric Medicine 2003；41(10)：1524-1526．
- 29) 長尾毅彦，片山泰朗，横地正之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立荏原病院神経内科)：脳梗塞急性期の治療戦略“MR Based：Strokology”．救急・集中治療 2003；15(12)：1255-1266．

- 30) 片山泰朗, 上田雅之, 水越元気: 予防と対策・母体搬送のタイミング 中枢神経血管系アクシデント. 産婦人科の実際 2003; 52: 1587-1594.
- 31) 西山康裕, 片山泰朗: 脳卒中後のうつ症状. 日本医事新報 2003; 4155: 105-105.
- 32) 長尾毅彦, 船田信顕<sup>1)</sup>, 高橋 学<sup>2)</sup>, 森 秀生<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>都立駒込病院検査科, <sup>2)</sup>都立荏原病院検査科, <sup>3)</sup>順天堂大学脳神経内科): 流暢性失語で発症し, 左側頭葉に高度の萎縮を認めた1例. 脳と神経 2003; 55: 1073-1085.
- 33) 桂研一郎, 片山泰朗: 今後期待される脳卒中治療薬と遺伝子治療・再生医療. 臨床と研究 別冊 2003; 80: 101-106.
- 34) 高田大輔, 飯野靖彦: これだけは知っておきたい輸液の基礎知識. Junior 2003; 421: 1-7.
- 35) 高橋さやか, 高田大輔, 飯野靖彦: 体液量の把握と対応. medicina 2003; 40: 1796-1799.
- 36) 山崎峰雄: ALSに関する最近のトピックス痙縮優位のALS with dementia. 医学のあゆみ 2003; 205: 127-131.
- 37) 岸雄一郎, 飯野靖彦: 腎血管性高血圧の腎病変 - 狭窄腎, 対側腎. 腎と透析 2003; 54(3): 287-290.
- 38) 和田健太郎, 飯野靖彦: SIADH. 腎と透析 2003; 55: 357-361.
- 39) 飯野靖彦: 腎性貧血の新しい治療法. 腎と透析 2003; 54: 549-553.
- 40) 岸雄一郎, 飯野靖彦: 腎血管性高血圧. 腎と透析 増刊号 2003; 55: 316-320.
- 41) 飯野靖彦, 三宅祥三, 小西敏郎: クリテカルパスは避けて通れない道. 成人病と生活習慣病 2003; 33: 633-642.
- 42) 片山茂裕, 下門顕太郎, 飯野靖彦: 降圧治療で脳・心・腎と血管を守る. 成人病と生活習慣病 2003; 33: 1425-1433.
- 43) 飯野靖彦: 慢性糸球体腎炎の降圧療法と臓器保護. 成人病と生活習慣病 2003; 33: 1526-1529.
- 44) 飯野靖彦, 山内 淳, 中尾俊之, 長浜正彦, 木村靖和: 実地医家が遭遇する水・電解質異常. 日本内科学会雑誌 2003; 92: 122-141.
- 45) 飯野靖彦: 検尿の勧め委員会について. 尿検査教本 2003 - 2004 臨床病理レビュー 2003; 7-11.
- 46) 北村 伸: アルツハイマー型痴呆と脳血管性痴呆の境界と相同性をどうとらえるか どう診断すべきか. 老年精神医学雑誌 増刊号 2003; 14: 70-77.
- 47) 大鳥達雄, 片山泰朗: 若年性遺伝性Binswanger型脳血管性痴呆. 痴呆学 2 2004; 62: 331-334.
- 48) 北村 伸: 孤発性Alzheimer病予後. 日本臨床 増刊号1 2004; 62: 81-85.
- 49) 桂研一郎: 一過性脳虚血発作の新しい定義の提唱. 分子脳血管病 2004; 3: 103-105.
- 50) 長尾毅彦: 老年期痴呆. 薬局 2004; 55: 271-277.
- 51) 酒寄 修, 葉山修陽: 透析患者の一過性脳虚血発作. 腎と透析 2004; 56: 215-219.
- 52) 坂本静樹, 三富規行, 田村浩一, 内藤善哉, 勝田梯実, 津久井拓, 福田 悠, 横山宗伯, 森 修, 長田祐二, 勝又俊弥, 杉崎祐一, 山崎峰雄, 吉村明修: 出血性脳梗塞をきたしたクリプトコッカス髄膜炎合併アルコール性肝硬変の1例. 内科 2004; 93: 348-357.
- 53) 上田雅之, 片山泰朗: 脳梗塞: 病態診断と治療の進歩. 病期別の抗血栓療法. 超急性期の抗血栓療法. 血栓と循環 2004; 12: 26-31.
- 54) 飯野靖彦: 急速に腎機能低下をきたす症例の診かた. 腎と透析 2004; 56: 311-314.
- 55) 飯野靖彦: フローチャートでみる生活習慣病: 蛋白尿. 成人病と生活習慣病 2004; 34: 265-267.
- 56) 飯野靖彦, 大林完二: 外来診療のポイント: 腎不全の進展阻止のために. 日本医師会雑誌 2004; 131: 445-450.
- 57) 石渡明子, 蓑島 聡<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ワシントン大学放射線科): 特集 痴呆の脳機能画像診断(企画: 福山秀直) アルツハイマー病の脳ブドウ糖代謝. Cognition and Dementia 2004; 3: 7-14.

(3) 症例報告:

- 1) Utsumi K, Amemiya S, Iizuka M, Iino Y, Katayama Y: Acute posterior leukoencephalopathy in a patient

with nephritic syndrome . Clin Exp Nephrol 2003 ; 63-66 .

- 2) 熊谷智昭, 山崎峰雄, 桂研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: 脊髄小脳変性症様症状を呈し, MRIで両側歯状核赤核路の病変を認めた症例. 脳と神経 2003 ; 55 : 723-730 .
- 3) 坂本静樹, 三富規行, 内藤善哉, 勝田悌実, 津久井拓, 福田 悠, 横山宗伯, 森 修, 長田祐二, 勝又俊弥, 杉崎祐一, 山崎峰雄, 吉村明修: 出血性脳梗塞をきたしたクリプトコッカス髄膜炎合併アルコール性肝硬変の1例. 内科 Conference Room 2004 ; 93 : 348-357 .

## 著 書

- 1) 片山泰明, 臼田和弘: 6. PSDの治療 1) PSD治療の意義. よくわかる脳卒中後遺症におけるうつ病・うつ状態のマネジメント: 神経内科・精神科の立場から. (平井俊策, 樋口輝彦) 2003 ; pp42-48 .
- 2) 松信精一, 柏木哲也, 飯野靖彦: [分担] A 全身の症状・症候 血清K濃度異常. 外来診察のすべて(高久史磨), 2003 ; pp128-129 .
- 3) 松信精一, 柏木哲也, 飯野靖彦: [分担] 主要症状の診療ポイント 全身の症状・症候: 血清K濃度異常. 外来診療のすべて 改訂版第3版(高久史磨), 2003 ; pp128-129, メジカルビュー社 .
- 4) 五十嵐博中, 片山泰朗: [分担] MRでどこまでわかるか 脳血管障害のMRI, MRS. 脳卒中最前線: 急性期の診断からリハビリテーションまで 第3版(福井国彦, 藤田 勉, 宮坂元磨 編), 2003 ; pp427-436, 医歯薬出版 .
- 5) 飯野靖彦: [自著] 一目でわかる輸液 第2版. Medsi, 2003 ; pp1-108, メディカルサイエンスインターナショナル .
- 6) 小野田教皇, 柏木哲也: [共著] 副甲状腺PEITの実際. 新しい透析骨症 第一版, 2003 ; pp233-238, 日本メディカルセンター .
- 7) 飯野靖彦: [自著] スカットモンキー・ハンドブック(基本的臨床技能の手引き). Medsi(飯野靖彦 監訳), 2003 ; pp1-992, メディカルサイエンスインターナショナル .
- 8) 三品雅洋: [共著] 脳保護薬エダラボン. 脳梗塞急性期治療症例集I, 2003 ; pp49-51, 医薬ジャーナル社 .
- 9) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: [分担] コレステロール塞栓 ステロイド投与の有効性. 腎疾患治療のエビデンス(黒川 清), 2003 ; pp202-204, 文光堂 .
- 10) 飯野靖彦: [共著] 薬剤性腎障害. 内科学第2版(黒川 清, 松澤祐次 編集), 2003 ; pp1544-1545, 文光堂 .
- 11) 飯野靖彦: [共著] 降圧薬療法の選択と血圧目標値. 透析療法 第2版(佐中, 秋葉 隆 編集), 2003 ; pp275-276, 中外医学社 .

## 学会発表

[ 2002 年度追加分 ]

一般講演 :

- 1) Nishiyama Y, Hamada H, Katayama Y, Takahashi H, Ishikawa H : B cell-mediated downregulation of intestinal epithelial cell turnover by control the activity of enteric microorganisms . 11th international congress of mucosal immunology (Orland, USA ), 2002 . 6 .
- 2) Ishikawa H, Nishiyama Y, Nonaka S, Hamada H : Extrathymic development of precursor intraepithelial T cell in the mouse gut cryptopaches . 11th international congress of mucosal immunology (Orland, USA ), 2002 . 6 .
- 3) Hamada H, Nishiyama Y, Nonaka S, Ishikawa H : Multiple isolated lymphoid follicles are aligned at roughly regular intervals along the antimesenteric wall of the mouse small intestine . 11th international congress of mucosal immunology (Orland, USA ), 2002 . 6 .

- 4) 大久保誠二, 五十嵐博中, 酒巻雅典, 水越元気, 片山泰朗: Rat focal ischemia におけるMRマグネット内での脳虚血作成と脳血流, 拡散係数連続測定法の開発. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 片山泰朗: 脳梗塞急性期の診断・治療の新しい展開. 第5回広島臨床脳循環代謝研究会, 2003. 6.
- 2) 片山泰朗: 臓器保護を目指した高血圧治療: 脳. ニューロタン5周年記念講演会, 2003. 7.
- 3) 片山泰朗: 生活習慣病と脳卒中. 第5回生活習慣病を考える会, 2003. 7.
- 4) 五十嵐博中, 大久保誠二, 桂研一郎, 須田 智, 酒巻雅典, 水越元気, 片山泰朗: MRI を用いた脳保護薬の基礎的検討およびその臨床応用. 第7回「脳梗塞フォーラム」研究集会, 2003. 7.
- 5) 片山泰朗: 脳梗塞に伴う降圧治療. 全国N型カルシウムチャンネル研究会, 2003. 9.
- 6) 長尾毅彦: 当院における急性期脳梗塞診療の実際. 第64回東海核医学セミナー, 2003. 9.
- 7) 上田雅之: 虚血性耐性現象と虚血性神経細胞死の機序に対する脱分極モニターによるアプローチ. 第71回日本医科大学医学会総会 海外留学生講演, 2003. 9.
- 8) 片山泰朗: 高血圧と脳血管障害. 第4回多摩地区N型チャンネル研究会, 2003. 10.
- 9) 神谷達司: オザグレルナトリウムとエダラボン併用療法の脳保護効果: 実験的検討. 第3回オザグレル学術講演会, 2003. 11.
- 10) 駒場祐一: 発症24時間以内ラクナ梗塞およびアテローム血栓性梗塞における退院重症度を決定する因子: ロジスティック回帰分析. 第3回オザグレル学術講演会, 2003. 11.
- 11) 長尾毅彦: 脳梗塞における血液凝固異常: 治療法選択のための基礎知識. 第60回江戸川医師会 内科系臨床研究会, 2003. 11.
- 12) 片山泰朗: 慢性期脳梗塞の血流動態とその治療意義. Fighting Vascular Events in Tokyo, 2003. 12.

(2) シンポジウム:

- 1) 片山泰朗: 脳梗塞急性期の診断・治療の新しい展開. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 2) 片山泰朗: 急性期脳保護. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 3) 五十嵐博中, 大久保誠二, 濱本 真, 酒巻雅典, 水越元気, 山口 博, 片山泰朗: 急性期脳梗塞の therapeutic decision making tool としてのMRI. 第6回日本ヒト脳機能マッピング学会, 2004. 3.

(3) ランチョンセミナー:

- 1) 片山泰朗: 脳血管障害後遺症, 特に意欲低下を中心に. 第45回日本老年医学会総会, 2003. 6.

(4) 一般講演:

- 1) Iino Y: Iron supplementation in rHuEPO therapy in patients with endstage renal failure. IFCC Working Group "Laboratory Management of rHuEPOT" (Spain), 2003. 5.
- 2) Oyanagi K, Yamazaki M, Takahama S, Kawasaki E, K-M C, Wakabayashi K, Takahashi H, Iwatsubo T, Hasegawa M: On the elimination of NFT/PHF: observation in the parkinsonism-dementia complex of Guam with reference of the inoculation to rat brain. 79th Annual Meeting of the American Association of Neuropathologist (Orlando, USA), 2003. 6.
- 3) Iino Y: Renoprotective effect of losartan in comparison to amlodipine in patients with chronic kidney disease and hypertension; a report from Japanese losartan therapy intended for the global renal protection in hypertensive patients (light study). The 17th World Congress of Nephrology (Berlin), 2003. 6.
- 4) Kamiya T: A selective thrombin inhibitor prevents thrombin-induced neuronal cell death and mild hypothermia enhances its neuroprotective effects following transient focal ischemia in rats. The XXIst International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Brain'03) (Calgary, Canada), 2003. 6.
- 5) Ueda M, Nowak TS J: Delayed injury progression vs. lasting protection following ischemic preconditioning

- in rat hippocampus. A quantitative depolarization-monitored study with long survival times . The XX1st International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Brain'03 )( Calgary, Canada ), 2003 . 6 .
- 6) Komaba Y , Mishina M , Kobayashi S , Katayama Y : Crossed cerebellar diaschisis in patients with cortical infarction : Logistic regression analysis . XX1st International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function ( Calgary, Canada ), 2003 . 6 .
- 7) Yamazaki M , Hasegawa M<sup>1)</sup>, Mori O , Murayama S<sup>3)</sup>, Tsuchiya K<sup>4)</sup>, Ikeda K<sup>1)</sup>, Katayama Y , Oyanagi K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Institute of Psychiat , <sup>2)</sup> Tokyo Institute for Neurosci. , <sup>3)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontol , <sup>4)</sup> Metropolitan Matsuzawa Hosp ): Novel tau-positive fine granules in the cerebral white matter of tauopathies . XVth Congress of the International Society of Neuropathology ( Torino, Italy ), 2003 . 9 .
- 8) Oyanagi K , Yamazaki M , Takahama S , Kawakami E , K-M C , Wakabayashi K , Takahashi H , Iwatsubo T , Hasegawa M : Elimination of NFT/PHF in the parkinsonism-dementia complex of Guam : observation in human and inoculated rat brains . XVth Congress of the International Society of Neuropathology ( Torino, Italy ), 2003 . 9 .
- 9) Oyanagi K , Yamazaki M , Wada M , Watabe K , Kawakami E , Kato S , Morita T , Takahashi H , Mizutani T : Alteration of rough endoplasmic reticulum in the anterior horn cells in amyotrophic lateral sclerosis . XVth Congress of the International Society of Neuropathology ( Torino, Italy ), 2003 . 9 .
- 10) Kato K , Kamiya T , Shimazaki K<sup>1)</sup>, Inaba T , Katayama Y ( <sup>1)</sup> 自治医科大学生理学教室 ): Change of anti-apoptotic protein expression with low dose 3-nitropropionic acid treatment in the gerbil hippocampus . Society for Neuroscience 33rd Annual Meeting ( New Orleans, USA ), 2003 . 11 .
- 11) Komaba Y , Mishina M , Kobayashi S<sup>1)</sup>, Katayama Y ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科 ): Crossed cerebellar diaschisis in patients with cortical infarction using logistic regression analysis . The 29th International Stroke Conference ( San Diego, USA ), 2004 . 2 .
- 12) Nomoto T , Okada T , Shimazaki K , Yoshioka T , Maeda Y , Takeuchi K , Mizukami H , Matsushita T , Kume A , Katsura K , Yamamoto K , Ikeda U , Ohkawara S , Katayama Y , Ozawa K : Adeno-associated viral vector-mediated intramuscular delivery of interleukin-10 gene reduces blood pressure and stroke episode in stroke-prone spontaneously hypertensive rats . The Japan Society of Gene Therapy The 9th annual meeting 2003 , 2003 . 7 .
- 13) 西山康裕 , 石川博通 , 高橋秀美 , 片山泰朗 : Bリンパ球による腸管上皮細胞ターンオーバーの制御 . 第100回日本内科学会総会 , 2003 . 4 .
- 14) 坂本静樹 , 瀬田健博 , 臼田和弘 , 福地孝明 , 片山泰朗 : 非ヘルペス性急性辺縁系脳炎における両側海馬病変の検討 . 第100回日本内科学会総会 , 2003 . 4 .
- 15) 神谷達司 , 仁藤智香子 , 上田雅之 , 雨宮志門 , 加藤健吾 , 片山泰朗 : ラジカル消去薬 edaravone と超軽微低体温併用療法による脳保護効果増強作用の検討 . 第100回日本内科学会総会 , 2003 . 4 .
- 16) 永山 寛 , 濱本 真 , 片山泰明 : レボドーパ動態における性差の影響 . 第100回日本内科学会総会 , 2003 . 4 .
- 17) 金子朋広 , 宮田忠幸 , 高田大輔 , 飯野靖彦 , 片山泰明 : C型肝炎関連クリオグロブリン血症に伴う慢性増殖性腎炎 ( MPGN ) に対する治療法の検討 . 第100回日本内科学会総会 , 2003 . 4 .
- 18) 大久保誠二 , 五十嵐博中 , 山口 博 , 濱本 真 , 有井一正 , 水越元気 , 片山泰明 : 主幹動脈系脳梗塞急性期に対する各種脳灌流 MRI map の検討 . 第100回日本内科学会総会 , 2003 . 4 .
- 19) 瀬田健博 , 福地孝明 , 桂研一郎 , 駒場祐一 , 五十嵐博中 , 永山 寛 , 勝又俊弥 , 神谷達司 , 坂本静樹 , 片山泰明 : 脳梗塞 ( ラクナ梗塞 ) 患者におけるシロスタゾール投与前後の脳血流の検討 . 第100回日本内科学会総会 , 2003 . 4 .

- 20) 内海甲一, 田中紀子, 桂研一郎, 坂本静樹, 飯野靖彦, 片山泰朗: ファブリー病における腎機能障害の発症進展と接着分子. 第100回日本内科学会総会, 2003. 4.
- 21) 西山 穰, 勝又俊弥, 田中紀子, 片山泰朗: 脳梗塞の臨床病型との関連における頸動脈エコー上のPI値の意義. 第22回日本脳神経超音波学会, 2003. 4.
- 22) 葉山修陽, 橋本和政, 北村博司, 水野杏一: FSGSと思われる1症例. 第89回千葉県腎疾患懇話会, 2003. 4.
- 23) 内海甲一: 酵素補充療法の臨床導入. 第27回千駄木脈管カンファレンス「遺伝性心血管系疾患への挑戦」, 2003. 5.
- 24) 北村 伸, 山室 学, 劉 春玲, 宗像一雄, 片山泰朗: 脳血流所見よりみた脳血管性痴呆におけるアルツハイマー型痴呆の関与についての検討. イブニングセミナー
- 25) 山崎峰雄, 岩坪 威<sup>2)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 片山泰朗, 小柳清光<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第2, <sup>2)</sup>東京大学薬学部臨床薬学, <sup>3)</sup>東京都神経研神経病理): グラム島パーキンソニズム痴呆症(PDC)脳におけるリン酸化 シヌクレインの発現 アルツハイマー病・レビー小体痴呆症との比較. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 26) 上田雅之, 神谷達司, 片山泰朗, Nowak TS Jr.: 前脳虚血によるERK, c-Jun のリン酸化. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 27) 桂研一郎, 栗原順一, 片山泰朗: 脳虚血再灌流時Tyrosine リン酸化, ERKへのAcidosis の影響. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 28) 坂本静樹, 瀬田健博, 山崎峰雄, 水村 直<sup>1)</sup>, 片山泰朗(<sup>1)</sup>放射線科): アルツハイマー型痴呆の塩酸ドネペジル投与前後における脳血流の2 群間比較. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 29) 永山 寛, 濱本 真, 片山泰朗: Levodopa動態に影響を及ぼす因子の検討. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 30) 駒場祐一, 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗: 皮質梗塞患者におけるipsilateral thalamic diaschisis: 交絡因子をコントロールしたlogistic 解析による検討. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 31) 西山 穰, 勝又俊弥, 田中紀子, 白田和弘, 有井孝子, 仁藤智香子, 大久保誠二, 山口 博, 片山泰朗: 頸動脈エコー上のブランク性状と脳梗塞の臨床病型及び危険因子の関連の検討. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 32) 五十嵐博中, 山口 博, 濱本 真, 大久保誠二, 酒巻雅典, 水越元気, 片山泰朗: T<sub>2</sub>\*低信号領域とその危険因子: 脳梗塞急性期症例における検討. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 33) 大鳥達雄, Mcintosh TK, Welsh FA, 片山泰朗: ラット頭部外傷後における虚血耐性現象と脳内グリコーゲン量の関係についての検討. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 34) 勝又俊弥, 西山 穰, 田中紀子, 大久保誠二, 片山泰朗: 頸動脈エコー上のパラメーターからみたラクナ梗塞とアテローム血栓性脳梗塞の鑑別. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 35) 神谷達司, 仁藤智香子, 上田雅之, 加藤健吾, 雨宮志門, 片山泰朗: ラット脳血栓モデルにおけるエダラボンとオザグレルナトリウム併用の脳保護増強効果. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 36) 雨宮志門, 神谷達司, 仁藤智香子, 加藤健吾, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおけるedaravoneの抗アポトーシス効果に関する研究. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 37) 中村秀紀, 萩原 浩, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: けいれん発作時と発作間欠期のCT Perfusion. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 38) 萩原 浩, 中村秀紀, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: Perfusion CTによる島皮質early CT sign の検討. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 39) 大山雅史, 石井賢二, 三品雅洋, 三谷和子, 北村 伸, 織田圭一, 木村裕一, 河村和紀, 佐々木徹, 片山泰朗, 石渡喜一: アルツハイマー病におけるシグマ受容体リガンド<sup>11</sup>C-SA4503 と糖代謝の検討. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.
- 40) 長尾毅彦, 井田正博<sup>1)</sup>, 大西貴弘<sup>1)</sup>, 中村公行<sup>1)</sup>, 李 理江<sup>1)</sup>, 片山泰朗, 横地正之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立荏原病院診療放射線科, <sup>2)</sup>同神経内科): 脳梗塞超急性期における<sup>1</sup>H-MRSによる脳組織viabilityの検討. 第44回日本神



経学会総会，2003．5．

- 41) 水越元気，井田正弘<sup>1)</sup>，五十嵐博中，長尾毅彦，大久保誠二，横地正之<sup>2)</sup>，片山泰朗<sup>(1)</sup>東京都立荏原病院 放射線科，<sup>2)</sup>同 神経内科): 脳虚血急性期病巣におけるNAAの減少速度に関する検討：ヒトおよびラットにおける差異．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 42) 中澤 勝：尾状核頭部病変における脳表血流分布．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 43) 三品雅洋，石井賢二，石渡喜一，三谷和子，北村 伸，大山雅史，酒寄 修，濱本 真，福地孝明，小林士郎，片山泰朗：[<sup>11</sup>C] SA 4305 PETを用いたパーキンソン病におけるシグマ1受容体分布の研究．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 44) 仁藤智香子，大山雅史，片山泰朗，長尾毅彦，水村 直<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): アルツハイマー型痴呆における局所脳機能と記憶力テスト項目の相関：eZISを用いて．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 45) 須田 智，五十嵐博中，新井裕至，小島康正，酒巻雅典，西山 穰，安藤 順，知識鐵郎，片山泰朗：急性期脳梗塞におけるMRI 緩和時間を用いたedaravoneの抗脳浮腫効果についての検討．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 46) 三谷和子，山之内博，石井賢二，三品雅洋：Lewy小体型痴呆における黒質線条体ドパミン系機能．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 47) 鈴木正彦，石井賢二，三谷和子，三品雅洋，井上聖啓，山之内博：Parkinson病の線条体における節前・節後ドパミン機能の相関的解析．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 48) 三品雅洋，石井賢二，石渡喜一，三谷和子，北村 伸，大山雅史，酒寄 修，濱本 真，福地孝明，小林士郎，片山泰朗：PETを用いたパーキンソン病におけるシグマ受容体分布の研究．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 49) 大久保誠二，五十嵐博中，濱本 真，山口 博，有井一正，酒巻雅典，水越元気，片山泰朗：主幹動脈系脳梗塞急性期decision makingのための脳灌流MRI perfusion map選択．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 50) 西山康裕，白田和弘，神谷達司，五十嵐博中，坂本静樹，山崎峰雄，勝又俊弥，駒場祐一，桂研一郎，片山泰朗：脳卒中後うつ病の疫学および病変部位の検討．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 51) 山崎峰雄，岩坪 威<sup>1)</sup>，森 修<sup>2)</sup>，片山泰朗，小柳清光<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東大院薬・臨床薬学，<sup>2)</sup>日本医科大学病理学第2，<sup>3)</sup>東京都神経研神経病理): グラム島パーキンソンニズム痴呆症(PDC)脳におけるリン酸化 シヌクレインの発現：アルツハイマー病・レビー小体痴呆症との比較．第44回日本神経病理学会総会，2003．5．
- 52) 山崎峰雄，森 修<sup>1)</sup>，山崎昌子<sup>2)</sup>，大秋美治<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>(1)</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部，<sup>2)</sup>初石病院神経内科): 緩徐進行性の左上肢の巧緻運動障害・歩行障害で発症し，画像上大脳萎縮の左右差を認めた進行性核上性麻痺の1剖検例．第44回日本神経病理学会総会，2003．5．
- 53) 森 修<sup>1)</sup>，山崎峰雄，山崎昌子<sup>2)</sup>，志村俊郎<sup>3)</sup>，大秋美治，小黑辰夫，清水秀樹，片山泰朗，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第2，<sup>2)</sup>初石病院神経内科，<sup>3)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 海馬錐体細胞に特異な空胞化を示した，辺縁系脳炎の1例．第44回日本神経病理学会総会，2003．5．
- 54) 小柳清光<sup>1)</sup>，山崎峰雄，和田 学<sup>2)</sup>，河上江美子<sup>1)</sup>，渡部和彦<sup>3)</sup>，加藤修一<sup>4)</sup>，森田 俊<sup>5)</sup>，高橋 均<sup>6)</sup>，水谷俊雄<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>東京都神経研神経病理，<sup>2)</sup>山形大学第3内科，<sup>3)</sup>東京都神経研分子神経病理，<sup>4)</sup>東京都立神経病院神経内科，<sup>5)</sup>信楽園病院検査科，<sup>6)</sup>新潟大学脳研病理，<sup>7)</sup>東京都立神経病院検査科): 筋萎縮性側索硬化症：脊髄前角細胞におけるリボソーム，粗面小胞体の変化は病変初期に止まらない．第44回日本神経病理学会総会，2003．5．
- 55) 小柳清光<sup>1)</sup>，山崎峰雄，高濱祥子<sup>1)</sup>，河上江美子<sup>1)</sup>，高橋 均<sup>2)</sup>，岩坪 威<sup>3)</sup>，長谷川成人<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京都神経研神経病理，<sup>2)</sup>新潟大学脳研病理，<sup>3)</sup>東京大学薬学部臨床薬学，<sup>4)</sup>東京都精神研分子神経生物学): グラム島パーキンソン痴呆症大脳から抽出したNFT/PHFのラット脳内接種：経時的形態変化．第44回日本神経病理学会総会，2003．5．
- 56) 飯野靖彦：蛋白尿に対するアンジオテンシン受容体拮抗薬とアルドステロン拮抗薬の併用療法．第46回日本腎

臓学会学術総会，2003．5．

- 57) 内海甲一，田中紀子，飯塚美穂，岸雄一郎，松信精一，桂研一郎，坂本静樹，飯野靖彦，片山泰朗：ミスセンス変異（R112C）がみられたFabry病患者の1家系．第46回日本腎臓学会学術総会，2003．5．
- 58) 葉山修陽，橋本和政，水野杏一<sup>1)</sup>，柏木哲也，飯野靖彦，北村博司<sup>2)</sup>，栗原 怜<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院内科，<sup>2)</sup>日本医科大学病理学第1，<sup>3)</sup>春日部秀和病院腎臓内科）：ANCA関連腎炎における予後推定因子に関する臨床的検討．第46回日本腎臓学会学術総会，2003．5．
- 59) 柏木哲也，松信精一，金子朋広，飯塚美穂，岸雄一郎，斎藤サビーネ京子，高田大輔，内海甲一，飯野靖彦，片山泰朗：保存期腎不全におけるNT-Pro BNP．第46回日本腎臓学会学術総会，2003．5．
- 60) 松信精一，柏木哲也，飯塚美穂，岸雄一郎，斎藤サビーネ京子，高田大輔，金子朋広，内海甲一，青木 宏，飯野靖彦，片山泰朗：血液透析患者においてNT-Pro BNPは左心機能の評価に有用か？．第46回日本腎臓学会学術総会，2003．5．
- 61) 五十嵐博中，大久保誠二，水口幸代，酒巻雅典，水越元気，中井利仁<sup>1)</sup>，片山泰朗（<sup>1)</sup>パリアン・テクノロジーズ・ジャパン・リミテッド）：Multi-parametric MRIによるglycerolの虚血性脳浮腫に対する効果のモニタリング．第6回脳浮腫・頭蓋内圧研究会，2003．5．
- 62) 原 啓子：MRSが診断に有用であったBrain tumorの1症例．東京内科医会学術講演会，2003．5．
- 63) 塚本和久：診断が困難であった四肢麻痺の1症例．東京内科医会学術講演会，2003．5．
- 64) 平間章郎：多臓器嚢瘍の1症例．東京内科医会学術講演会，2003．5．
- 65) 勝又俊弥，西山 穰，片山泰朗：頸動脈エコー所見からみた都市部脳梗塞患者．第12回日本脳ドック学会総会，2003．6．
- 66) 五十嵐博中，濱本 真，大久保誠二，山口 博，酒巻雅典，水越元気，片山泰朗：脳灌流MRIにおける脳血流量の定量性について：SPECTとの比較．第12回日本脳ドック学会総会，2003．6．
- 67) 藤田有子，江面陽一<sup>1)</sup>，佐藤恵子<sup>1)</sup>，武城英明<sup>2)</sup>，斉藤 康<sup>3)</sup>，飯野靖彦，片山泰朗，江見 充<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>千葉大学臨床遺伝子応用医学，<sup>3)</sup>同細胞治療学）：Retinitis Pigmentosa 1遺伝子多型と高脂血症患者における中性脂肪値との相関解析．第13回Medical Genetics研究会，2003．6．
- 68) 小野秀二，藤田有子，佐藤恵子，石上友章，武城英明，斎藤 康，梅村 敏，江見 充：G-基質蛋白（GSBS）遺伝子のプロモーター領域遺伝子多型 - 1323T > Cと成人高コレステロール患者におけるHDLコレステロール値との相関．第13回Medical Genetics研究会，2003．6．
- 69) 田口志保，山崎峰雄，永山 寛，桂研一郎，坂本静樹，片山泰朗：神経所見に左右差を認め，Kosaka - Shibayama diseaseと考えられた1例．第165回日本神経学会関東地方会，2003．6．
- 70) 長尾毅彦，久松めぐみ，平林久吾<sup>1)</sup>，横地正之<sup>1)</sup>，片山泰朗（<sup>1)</sup>都立荏原病院神経内科）：脳梗塞で発症し，遺伝子点変異を見出したプロテインC欠乏症の1家系．第165回日本神経学会関東地方会，2003．6．
- 71) 西山 穰，勝又俊弥，田中紀子，有井孝子，仁藤智香子，大久保誠二，山口 博，片山泰朗：ラクナ梗塞患者における急性期治療薬と機能予後との関連の検討．第21回日本神経治療学会総会，2003．6．
- 72) 駒場祐一，三品雅洋，福地孝明，水成隆之，小林士郎，片山泰朗，寺本 明：発症24時間以内ラクナ梗塞およびアテローム血栓性梗塞における退院重症度を決定する因子についての検討．第21回日本神経治療学会総会，2003．6．
- 73) 五十嵐博中，濱本 真，山口 博，大久保誠二，酒巻雅典，水越元気，片山泰朗：主幹動脈系脳梗塞急性期における治療法選択の為の脳灌流MRI perfusion mapの選択．第21回日本神経治療学会総会，2003．6．
- 74) 瀬田健博，永山 寛，内海甲一，濱本 真，荒木俊彦，横地正之，桂研一郎，神谷達司，片山泰朗：ギランバレー症候群（GBS）における予後関連因子及び予後と治療法についての検討．第21回日本神経治療学会総会，2003．6．
- 75) 永山 寛，濱本 真，片山泰朗：高齢Parkinson病でのlevodopa動態における性差．第21回日本神経治療学会

- 総会, 2003 . 6 .
- 76) 坂本静樹, 瀬田健博, 片山泰朗: Donepezil HCl 投与による Alzheimer 病の治療効果と脳血流変化の検討 . 第 21 回日本神経治療学会総会, 2003 . 6 .
- 77) 福地孝明, 瀬田健博, 桂研一郎, 五十嵐博中, 神谷達司, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター ): 脳梗塞 (ラクナ梗塞) 患者発症急性期と慢性期でのシロスタゾールの局所脳血流量, 血小板機能への影響 . 第 21 回日本神経治療学会総会, 2003 . 6 .
- 78) 長尾毅彦, 水村 直<sup>1)</sup>, 仁藤智香子, 大山雅史, 片山泰朗, 横地正之<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学放射線医学, <sup>2)</sup>東京都立荏原病院神経内科 ): アルツハイマー型痴呆におけるドネペジル反応性の予測: 新しい画像解析ソフトウェアZIS を用いて . 第 21 回日本神経治療学会総会, 2003 . 6 .
- 79) 佐藤優子, 木嶋祥一郎, 野村浩一, 山口 博, 濱本 真, 片山泰朗: 高齢者の抗リン脂質抗体陽性者の脳梗塞 2 次予防法としての抗血小板療法・抗凝固療法についての検討 . 第 21 回日本神経治療学会総会, 2003 . 6 .
- 80) 永山 寛, 濱本 真, 片山泰朗: 高齢パーキンソン病患者でのレボドーパ動態に影響する要因の検討 . 第 45 回日本老年医学会総会, 2003 . 6 .
- 81) 山崎峰雄, 森 修<sup>1)</sup>, 山崎昌子<sup>2)</sup>, 新井裕至, 小宮山佐<sup>2)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>初石病院 神経内科 ): 痴呆専門病棟における 11 年連続剖検 103 例の神経病理学的検討 . 第 45 回日本老年医学会総会, 2003 . 6 .
- 82) 坂本静樹, 瀬田健博, 山崎峰雄, 中沢 勝, 片山泰朗: Alzheimer 病に対する塩酸 donepezil 治療の有効例と無効例の検討 . 第 45 回日本老年医学会総会, 2003 . 6 .
- 83) 須田 智, 佐藤優子, 木嶋祥一郎, 山口 博, 濱本 真, 片山泰朗: 高齢者脳梗塞患者における臨床病型と発症 24 時間以内の血清 CRP 値に関する検討 (第 2 報) . 第 45 回日本老年医学会総会, 2003 . 6 .
- 84) 西山康裕, 坂本静樹, 駒場祐一, 五十嵐博中, 勝又俊弥, 神谷達司, 片山泰朗: 老年患者における脳梗塞後うつ状態の特徴 . 第 45 回日本老年医学会総会, 2003 . 6 .
- 85) 野村浩一, 金子朋広, 岸雄一郎, 青木 宏, 飯野靖彦, 片山泰朗: 慢性腎不全に合併した後天性血友病に対する治療法の検討 . 第 48 回日本透析医学会学術集会・総会, 2003 . 6 .
- 86) 岸雄一郎, 金子朋広, 斎藤サビ - ネ京子, 高田大輔, 王 恒維, 内海甲一, 柏木哲也, 青木 宏, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 血漿交換療法が有効であった SLE による肺胞出血の 1 例 . 第 48 回日本透析医学会学術集会・総会, 2003 . 6 .
- 87) 飯塚美穂, 橋本和政, 葉山修陽: 心筋梗塞後の再開通冠動脈に Braid like lesion を認めた SLE を原疾患とした維持血液透析の 1 症例 . 第 48 回日本透析医学会学術集会・総会, 2003 . 6 .
- 88) 飯野靖彦: 保存期・透析期腎不全の高カリウム血症をいかにコントロールするか . 第 48 回日本透析医学会総会, 2003 . 6 .
- 89) 平間章郎, 西山康裕, 桂研一郎, 岡村正哉, 山崎峰雄, 駒場祐一, 坂本静樹, 片山泰朗: 眼内炎で発見された多臓器膿瘍の 1 例 . 第 509 回日本内科学会関東地方会, 2003 . 6 .
- 90) 三品雅洋, 駒場祐一, 田中伸幸, 阿部 新, 桜澤 誠, 酒井直之, 金 景成, 山田 明, 水谷暢秀, 小暮一成, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 酒寄 修, 濱本 真, 片山泰朗, 寺本 明: エグラボン併用と心原性脳塞栓出血性変化に関するロジステック回帰分布を用いた検討 . 第 53 回東葛地区脳神経外科研究会, 2003 . 6 .
- 91) 野本達也, 岡田尚巳<sup>1)</sup>, 島崎久仁子<sup>2)</sup>, 吉岡 徹<sup>1)</sup>, 竹内公一<sup>3)</sup>, 水上浩明<sup>1)</sup>, 桂研一郎, 久米晃啓<sup>1)</sup>, 大河原重雄<sup>3)</sup>, 片山泰朗, 小澤敬也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>自治医科大学分子病態研究センター, <sup>2)</sup>同生理学, <sup>3)</sup>同解剖学 ): 脳血管障害に対するアデノ随伴ウイルスベクターを用いた遺伝子治療基盤研究 . 第 2 回自治医科大学シンポジウム, 2003 . 7 .
- 92) 岸雄一郎, 金子朋広, 高田大輔, 内海甲一, 松信精一, 勝又俊弥, 桂研一郎, 飯野靖彦, 片山泰朗, 北村博司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第 1 ): Benign MGUS に idiopathic nodular glomerulosclerosis が併発したと考えられた 1 症例 . 第

510回日本内科学会関東地方会，2003．7．

- 93) 北村 伸：脳血管障害とアルツハイマー型痴呆の関係．第8回認知神経科学会，2003．7．
- 94) 田中伸幸，三品雅洋，駒場祐一，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎，酒巻雅典，濱本 真，寺本 明，片山泰朗：エダラボン・ヘパリン併用と心原性脳塞栓出血性変化：ロジステック回帰分析を用いた検討．第1回フリーラジカルと脳疾患 東日本研究会，2003．8．
- 95) 中村秀紀，萩原 浩，五十嵐博中，片山泰朗：けいれん発作時と間欠期のCT Perfusion．第22回The Mt. Fuji Workshop on CVD，2003．8．
- 96) 萩原 浩，中村秀紀，五十嵐博中，神谷達司，片山泰朗：Perfusion CTによる島皮質early CT sign の検討．第22回The Mt. Fuji Workshop on CVD，2003．8．
- 97) 西山康裕，山崎峰雄，勝又俊弥，坂本静樹，片山泰朗：家族性アミロイドポリニューロパチーに心原性脳塞栓を合併した1例．第166回日本神経学会関東地方会，2003．9．
- 98) 西田昌史<sup>1)</sup>，野原千洋子<sup>1)</sup>，長尾毅彦，平林久吾<sup>1)</sup>，横地正之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立荏原病院 神経内科)：Transient hyperglycemic hemiplegiaの2例．第166回日本神経学会関東地方会，2003．9．
- 99) 渡辺めぐみ，平出智晴，酒寄 修，濱本 真，片山泰朗：進行性痴呆症状で発症した高齢初発SLEの1例．第166回日本神経学会関東地方会，2003．9．
- 100) 長尾毅彦，船田信顕<sup>1)</sup>，高橋 学<sup>2)</sup>，森 秀生<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立駒込病院検査科，<sup>2)</sup>東京都立荏原病院検査科，<sup>3)</sup>順天堂大学脳神経内科)：流暢性失語で発症し，左側頭葉に高度の萎縮を認めた1例．第1回Neuro CPC東京，2003．9．
- 101) 五十嵐博中，大久保誠二，中井利仁<sup>1)</sup>，酒巻雅典，水越元気，片山泰朗(<sup>1)</sup>パリアン・ジャパン)：Multi Parametric MRI による glycerol の虚血性脳浮腫に対する効果のモニタリング．第31回日本磁気共鳴医学会大会，2003．9．
- 102) 大久保誠二，五十嵐博中，酒巻雅典，片山泰朗：MRマグネット内でのRat focal ischemia の作成と脳血流，拡散係数連続測定．第31回日本磁気共鳴医学会大会，2003．9．
- 103) 酒巻雅典，大久保誠二，五十嵐博中，水越元気，片山泰朗：Free Radical Scavenger の脳虚血後secondary ADC decline に対する効果．第31回日本磁気共鳴医学会大会，2003．9．
- 104) 水越元気，井田正弘，五十嵐博中，長尾毅彦，大久保誠二，横地正之，片山泰朗：脳虚血急性期病巣におけるN-acetyl aspartate の減少速度に関する検討．第31回日本磁気共鳴医学会大会，2003．9．
- 105) 金子朋広，飯野靖彦，片山泰朗：外傷性くも膜下出血に合併した低Na血症の1例．第33回日本腎臓学会東部学術大会，2003．9．
- 106) 高田大輔，金子朋広，岸雄一郎，飯塚美穂，齋藤サビーネ京子，王 恒維，青木 宏，北村博司<sup>1)</sup>，飯野靖彦，片山泰朗(<sup>1)</sup>病理学第1)：非典型的な病理組織像を呈した溶連菌感染後急性糸球体腎炎の1例．第33回日本腎臓学会東部学術大会，2003．9．
- 107) 岸雄一郎，金子朋広，齋藤サビーネ京子，飯塚美穂，高田大輔，北村博司<sup>1)</sup>，飯野靖彦，片山泰朗(<sup>1)</sup>病理学第1)：潰瘍性大腸炎に併発した抗リン脂質抗体症候群による腎障害の1例．第33回日本腎臓学会東部学術大会，2003．9．
- 108) 町田佳恵，岸雄一郎，金子朋広，北村博司<sup>1)</sup>，武井寛之，松信精一，飯野靖彦，片山泰朗(<sup>1)</sup>病理学第1)：Benign MGUS に併発したidiopathic nodular glomerulosclerosis が疑われた1症例．第33回日本腎臓学会東部学術大会，2003．9．
- 109) 石原 力，金子朋広，高田大輔，飯塚美穂，岸雄一郎，齋藤サビーネ京子，北村博司<sup>1)</sup>，飯野靖彦，片山泰朗(<sup>1)</sup>病理学第1)：長期低K血症による間質障害に合併したI型尿細管性アシドーシスの1例．第33回日本腎臓学会東部学術大会，2003．9．
- 110) 葉山修陽，橋本和政，水野杏一<sup>1)</sup>，北村博司<sup>2)</sup>，栗原 怜<sup>3)</sup>，小野田教高<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院

- 内科,<sup>2)</sup>日本医科大学病理第1,<sup>3)</sup>春日部秀和病院腎臓内科): AL型 amyloidosis に IF にて IgG, C3 の陽性所見を呈した1例. 第33回日本腎臓学会東部学術大会, 2003. 9.
- 111) 橋本和政, 葉山修陽, 北村博司, 飯野靖彦: PSGS と考えられた1症例. 第33回日本腎臓学会東部学術大会, 2003. 9.
- 112) 岸雄一郎, 金子朋広, 飯野靖彦, 北村博司<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>病理学第1): 潰瘍性大腸炎に併発した抗リン脂質抗体症候群による腎障害の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 113) 五十嵐博中, 片山泰朗: 多核種磁気共鳴法を用いた脳虚血時におけるエネルギー代謝状態の解明: 超急性期脳梗塞における組織予後の予測. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 114) 桂研一郎, 片山泰朗: 新しい蛋白治療の脳梗塞への応用. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 115) 飯塚美穂, 斉藤サビーネ京子, 野村浩一, 岸雄一郎, 高田大輔, 金子朋広, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 慢性腎不全に合併した後天性血友病 A の1症例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 116) 岸雄一郎, 金子朋広, 飯野靖彦, 北村博司<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>病理学第1): 潰瘍性大腸炎に併発した抗リン脂質抗体症候群による腎障害の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 117) 加藤健吾, 島崎久仁子<sup>1)</sup>, 神谷達司, 兩宮志門, 稲葉俊東, 片山泰朗<sup>(1)</sup>自治医科大学生理学): 砂ネズミ海馬における 3- nitropropionic acid 投与による虚血耐性現象の機序. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 118) 大久保誠二, 五十嵐博中, 片山泰朗: MRI を用いた Rat temporary focal ischemia に対する脳保護薬 edaravone の効果の検討. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 119) 塚本和久, 桂研一郎, 熊谷智昭, 永山 寛, 西山 穰, 勝又俊弥, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 頸椎症と診断されていた慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー (CIDP) の症例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 120) 田口志保, 山崎峰雄, 永山 寛, 桂研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: 神経所見に左右差を認め, Kosaka - Shibayama disease と考えられた1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 121) 中村利枝, 宗方祐美子, 五十嵐亜希, 與那嶺弘子, 瀬川純子, 青木 亘, 菅谷寿理, 斉藤公一, 本間 博, 永山 寛, 片山泰朗: 中枢神経磁気刺激による誘発筋電図についての検討. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 122) 江見 充<sup>1)</sup>, 高田大輔, 梶田満子<sup>1)</sup>, 小平美奈<sup>1)</sup>, 江面陽一<sup>1)</sup>, 飯野靖彦, 片山泰朗, Yuanpei X<sup>2)</sup>, Paul H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>老人病研究所 分子生物学部門, <sup>2)</sup>ユタ大学心血管研究所): 家族性高脂血症の表現型におよぼす Apolipoprotein H の修飾効果. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 123) 藤田有子, 高田大輔, 飯野靖彦, 片山泰朗, 佐藤恵子<sup>1)</sup>, 小野秀二<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 江面陽一<sup>1)</sup>, 武城英明<sup>2)</sup>, 斉藤 康<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>老人病研究所 分子生物学部門, <sup>2)</sup>千葉大学大学院医学研究所): 高脂血症患者における中性脂肪値と Retinitis Pigmentosa 1 遺伝子多型との相関解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 124) 平間章郎, 桂研一郎, 西山康裕, 岡村正哉, 山崎峰雄, 駒場祐一, 坂本静樹, 片山泰朗: 眼内炎で発見された多臓器膿瘍の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 125) 三橋 太, 小林紘士, 石野三智男, 中村祐三, 野本剛史, 里村克章, 内海甲一: 腎機能低下を伴わず mulberry cell ・ mulberry body を認めた Fabry 病の症例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 126) 野辺由紀子, 高田大輔, 藤田有子, 梶田満子, 江見 充, 江面陽一, 飯野靖彦, 片山泰朗, Yuanpei X, Paul H: 家族性高脂血症患者の表現型におよぼす成長ホルモン受容体遺伝子 (GHR) のミスセンス単塩基多型 (L5261) の効果について. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 127) 桂研一郎, 高橋久美子, 五十嵐博中, 大久保誠二, 渡辺めぐみ, 水越元気, 森 隆<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>埼玉医科大学総合医療センター動物実験施設, <sup>2)</sup>日本医科大学老人病研究所生化学部門): PTD (TAT) により静脈投与可能となった super anti - apoptotic FNK fusion protein による脳梗塞縮小効果. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.

- 128) 五十嵐博中, 大久保誠二, 中井利仁<sup>1)</sup>, 酒巻雅典, 水越元気, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>バリアンジャパン): Multi Parametric MRI による glycerol の虚血性脳浮腫に対する効果のモニタリング. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.
- 129) 大久保誠二, 五十嵐博中, 酒巻雅典, 山口 博, 片山泰朗: 拡散強調画像からみたRat temporary focal ischemia に対する edaravone の効果. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.
- 130) 西山 穰, 勝又俊弥, 瀬田健博, 水村 直<sup>1)</sup>, 坂本静樹, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>放射線医学): ラクナ梗塞患者における頸動脈超音波所見と脳血流分布との関連の検討. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.
- 131) 駒場祐一, 三品雅洋, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 皮質梗塞患者における ipsilateral thalamic diaschisis: 交絡因子をコントロールした logistic 解析による検討. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.
- 132) 萩原 浩, 中村秀紀, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: Perfusion CT による島皮質 early CT sign の検討. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.
- 133) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 高橋久美子, 水越元気, 片山泰朗: 選択的ミトコンドリアKATP依存性Kチャンネル阻害薬による虚血耐性現象のキャンセレーション. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.
- 134) 大鳥達雄, 片山泰朗: ラット頭部外傷後の虚血性低酸素負荷に対する耐性現象と脳内グリコーゲン量の関係についての検討. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.
- 135) 上田雅之, 神谷達司, 片山泰朗, Nowak TS Jr.<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>テネシー大学神経内科): ラット前脳虚血モデルにおける ERKおよびc-Jun のリン酸化反応の経時変化とその脱分極閾値. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.
- 136) 三品雅洋, 福地孝明, 小林士郎, 北村 伸, 酒寄 修, 濱本 真, 大山雅史, 片山泰朗, 石井賢二, 三谷和子, 石渡喜一: [ C-11 ] SA4305 パーキンソン病におけるシグマ1受容体分布: [ C-11 ] SA4503 PET study. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 137) 石渡喜一, 汪 維芳, 木村裕一, 三品雅洋, 河村和紀, 織田圭一, 佐々木徹, 石井賢二: 脳アデノシン A2A 受容体リガンド [ 11C ] TMSX の前臨床研究. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 138) 大橋信一郎, 外山比南子, 上村幸司, 成相 直, 石井賢二, 内山明彦: 自己組織化マップを用いた複数脳機能相関画像児童抽出法の検討: 脳PET画像への応用. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 139) 小野秀二, 藤田有子, 佐藤恵子, 石上友章, 武城英明, 斎藤 康, 梅村 徹, 江見 充: 高脂血症患者における HDL コレステロール値と G - 基質 (GSBS) 遺伝子のプロモーター領域 SNP - 1323T > C との相関解析. 第48回日本人類遺伝学会, 2003. 10.
- 140) 藤田有子, 江面陽一, 佐藤恵子, 武城英明, 斎藤 康, 飯野靖彦, 片山泰朗, 江見 充: 高脂血症患者における Total Cholesterol 値と Inter - - Trypsin Inhibitor ( ITIH4) 遺伝子多型との相関解析. 第48回日本人類遺伝学会, 2003. 10.
- 141) 佐藤恵子, 藤田有子, 江面陽一, 石上友章, 梅村 敏, 江見 充: EPHX2 遺伝子のミスセンス単塩基多型による家族性高脂血症の表現型への修飾効果. 第48回日本人類遺伝学会, 2003. 10.
- 142) 阿部 新, 上田雅之, 永山 寛, 山崎峰雄, 駒場祐一, 勝又俊弥, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗: 抗 SS - A/B 抗体陽性のミエロパチーの1例. 第512回日本内科学会関東地方会, 2003. 10.
- 143) 坂本静樹, 片山泰朗: 両側海馬に病変を認める非ヘルペス性急性辺縁系脳炎の検討. 第8回日本神経感染症学会, 2003. 10.
- 144) 久松めぐみ, 櫻澤 誠, 野原千洋子<sup>1)</sup>, 平林久吾<sup>1)</sup>, 横地正之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>都立荏原病院神経内科): 鬱状態で発症し, 2年経過しても歩行可能なCJDと思われる1例. 第167回日本神経学会関東地方会, 2003. 11.
- 145) 須田 智, 駒場祐一, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 片山泰朗: MRI ・ SPECT にて経過を追い得た小脳脳幹型副腎白質ジストロフィーの1例. 第167回日本神経学会関東地方会, 2003. 11.
- 146) 長尾毅彦, 水村 直<sup>1)</sup>, 仁藤智香子, 大山雅史, 片山泰朗, 横地正之<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学放射線医学, <sup>2)</sup>東京

- 都立荏原病院神経内科): アルツハイマー型痴呆におけるドネペジル反応性の検討: eZISを用いて. 第1回脳機能核医学画像解析研究会, 2003. 11.
- 147) 野本達也, 岡田尚巳<sup>1)</sup>, 島崎久仁子<sup>2)</sup>, 吉岡 徹<sup>1)</sup>, 竹内公一<sup>3)</sup>, 水上浩明<sup>1)</sup>, 桂研一郎, 久米晃啓<sup>1)</sup>, 大河原重雄<sup>3)</sup>, 片山泰朗, 小澤敬也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>自治医科大学分子病態治療研究センター遺伝子治療研究部, <sup>2)</sup>同生理学, <sup>3)</sup>同解剖学): アデノ随伴ウイルスベクターを用いた脳卒中易発性高血圧自然発症ラットに対する Interleukin-10 遺伝子治療の試み. 第24回日本炎症・再生学会, 2003. 11.
- 148) 平間章郎, 西山康裕, 桂研一郎, 勝又俊弥, 岡村正哉, 山崎峰雄, 駒場祐一, 坂本静樹, 片山泰朗: 頭痛と発熱で発症し, 眼内炎を併発し多臓器膿瘍に至った糖尿病患者の1例. 第31回日本頭痛学会総会, 2003. 11.
- 149) 濱本 真, 片山泰朗: 頭痛を伴わない閃輝暗点例について. 第31回日本頭痛学会総会, 2003. 11.
- 150) 長尾毅彦, 井田正博<sup>1)</sup>, 土居 浩<sup>2)</sup>, 久松めぐみ, 片山泰朗, 横地正之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立荏原病院診療放射線科, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>同神経内科): 脂肪抑制MR画像を用いた特発性低髄圧症候群の診断. 第31回日本頭痛学会総会, 2003. 11.
- 151) 福地孝明, 酒井直之<sup>1)</sup>, 神谷信雄, 三品雅洋, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林土郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 頭痛を伴い著明な髄液圧亢進を示した硬膜動静脈瘻の1例. 第31回日本頭痛学会総会, 2003. 11.
- 152) 石原 力, 金子朋広, 水越元気, 岸雄一郎, 高田大輔, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 飯野靖彦, 片山泰朗: 神経, 精神症状を合併したI型尿細管性アシドーシスの1例. 第513回日本内科学会関東地方会, 2003. 11.
- 153) 橋本和政, 飯塚美穂, 葉山修陽, 北村博司<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院内科): 抗GBM抗体型急速進行性腎炎の1症例. 第91回千葉県腎疾患懇話会, 2003. 12.
- 154) 山本真功<sup>1)</sup>, 野村教宣<sup>1)</sup>, 岸雄一郎, 平出智晴, 橋本和政, 酒寄 修, 濱本 真, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): リウマチ性多発筋痛症状で発症した成人スティル病と考えられる1例. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 155) 桜井祐成, 栗原 怜, 大和田一博, 柏木哲也, 葉山修陽: ビタミンD静注パルス(VD)療法により異所性石灰化が出現したと考えられた維持透析患者の1例. 第15回腎とVitD研究会, 2004. 2.
- 156) 吉田明日香, 西山康裕, 上田雅之, 山崎峰雄, 駒場祐一, 勝又俊弥, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗: 家族性アミロイドポリニューロパチーに出血性脳梗塞を合併した1例. 第515回日本内科学会関東地方会, 2004. 2.
- 157) 橋本和政, 岸雄一郎, 上田佳恵, 葉山修陽, 北村博司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1): 抗GBM抗体型急速進行性腎炎の1症例. 第5回東葛腎カンファレンス, 2004. 2.
- 158) 三品雅洋: 解離性脳動脈瘤による脳梗塞. 第6回脳卒中勉強会, 2004. 2.
- 159) 須田 智, 駒場祐一, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 片山泰朗: 特異な遺伝子多型を認めたクロイツフェルト・ヤコブ病の1例. 第168回日本神経学会関東地方会, 2004. 3.
- 160) 五十嵐博中, 水越元気, 井田正博, 大久保誠二, 長尾毅彦, 片山泰朗: 脳虚血急性期病巣におけるN-acetyl aspartateの減少速度に関する検討. 第16回臨床MR脳機能研究会, 2004. 3.
- 161) 大久保誠二, 五十嵐博中, 中井利仁<sup>1)</sup>, 片山泰朗(<sup>1)</sup>バリアン ジャパン): Multi Parametric MRIによるglycerolの虚血性脳浮腫に対する効果のモニタリング. 第16回臨床MR脳機能研究会, 2004. 3.
- 162) 須田 智, 五十嵐博中, 大久保誠二, 中井利仁<sup>1)</sup>, 酒巻雅典, 水越元気, 片山泰朗(<sup>1)</sup>バリアン ジャパン): グリセオール虚血性脳浮腫に対する効果: Multi parametric MRIを用いた解析. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 163) 桂研一郎, 高橋久美子, 五十嵐博中, 大久保誠二, 渡辺めぐみ, 水越元気, 森 隆<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup>, 片山泰朗(<sup>1)</sup>埼玉医科大学総合医療センター, <sup>2)</sup>日本医科大学老人病研究所生化学部門): 静脈投与が可能となったFNK蛋白および免疫抑制薬との併用による脳梗塞縮小効果. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 164) 中村秀紀, 萩原 浩, 櫻澤 誠, 五十嵐博中, 片山泰朗: 頸動脈高度狭窄・閉塞を有する患者のPerfusion CT.

第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．

- 165) 長尾毅彦，井田正博<sup>1)</sup>，久松めぐみ，平林久吾<sup>2)</sup>，片山泰朗，横地正之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立荏原病院放射線科，<sup>2)</sup>同神経内科): 延髄内側梗塞の臨床的検討: MR所見を中心に．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 166) 駒場祐一，三品雅洋，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 皮質梗塞患者における ipsilateral thalamic diaschisis: 多変量解析による検討．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 167) 上田雅之，神谷達司，片山泰朗，Nowak TS Jr.<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>テネシー大学神経内科): 虚血耐性獲得後のラット海馬における遅発性神経細胞障害の経時的進行．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 168) 福地孝明，小南修史<sup>1)</sup>，三品雅洋，阿部 新，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 脳内出血発症の硬膜動静脈瘻: 当センター過去9年間における5例の報告．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 169) 五十嵐博中，大久保誠二，酒巻雅典，水越元気，須田 智，片山泰朗: Edaravoneの脳虚血後 secondary ADC decline に対する効果．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 170) 加藤健吾，神谷達司，島崎久仁子<sup>1)</sup>，上田雅之，雨宮志門，片山泰朗(<sup>1)</sup>自治医科大学生理学): 3-nitropropionic acid 投与による海馬虚血耐性獲得時の抗アポトーシス蛋白発現の変化．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 171) 山口 博，濱本 真，野村浩一，藤野鉄平，高橋さやか，大久保誠二，五十嵐博中，片山泰朗: 抗リン脂質抗体陽性患者に対する脳梗塞予防法としての抗血栓療法の有用性に関する検討．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 172) 西山 穰，勝又俊弥，大鳥達雄，片山泰朗: 脳梗塞患者におけるbaPWVと危険因子，病型，頸動脈エコー所見と関連の検討．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 173) 三品雅洋，駒場祐一，阿部 新，福地孝明，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>，片山泰朗(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター，<sup>2)</sup>脳神経外科学): アテローム血栓性脳梗塞におけるヘパリン・グリセロール・オザグレールとエダラボン併用．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 174) 阿部 新，三品雅洋，駒場祐一，福地孝明，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター，<sup>2)</sup>脳神経外科学): 高度CRPの脳梗塞急性期における搬送時間の検討．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 175) 大鳥達雄，片山泰朗: ラット頭部外傷後における虚血耐性現象と脳内グリコーゲン量の関係についての検討．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 176) 西山康裕，臼田和弘，神谷達司，五十嵐博中，坂本静樹，山崎峰雄，勝又俊弥，駒場祐一，桂研一郎，片山泰朗: 脳梗塞慢性期患者における梗塞巣の大きさ，数，部位とSDSとの関連の検討．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 177) 渡辺めぐみ，桂研一郎，高橋久美子，水越元気，片山泰朗: 虚血耐性現象の脳保護効果における選択的ミトコンドリアKATPチャンネルの役割．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 178) 高田大輔，金子朋広，飯野靖彦，北村博司<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1): 溶連菌感染を契機に発症し非典型的な病理組織像を呈した急性腎不全の1例．第36回東京腎生検カンファレンス，2004．3．
- 179) 西山康裕，駒場祐一，片山泰朗: 脳梗塞慢性期患者におけるNicer golineのうつ状態に対する効果: SDS (self rating depression scale) を用いた検討．第3回東京Strokeフロンティア，2004．3．
- 180) 有馬留志，山崎峰雄，萩原 浩，駒場祐一，勝又俊弥，五十嵐博中，坂本静樹，片山泰朗: 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(CIDP)の経過中に頭部MRIにて多発性脳病変を認めた1例．第516回日本内科学会関東地方会，2004．3．
- 181) 坂本静樹，瀬田健博，山崎峰雄，大鳥達雄，片山泰朗: アルツハイマー病治療薬有効例の治療前後の脳循環変化に関する検討．第101回日本内科学会総会，2004．4．



182) 勝又俊弥, 西山 穰, 大鳥達雄, 田中紀子, 中村秀紀, 片山泰朗: 頸動脈エコー所見からみた都市部脳梗塞患者について. 第101回日本内科学会総会, 2004. 4.

183) 有馬留志, 山崎峰雄, 萩原 浩, 駒場祐一, 勝又俊弥, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗: 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎 (CIDP) の経過中に頭部 MRI にて多発性脳病変を認めた1例. 第516回日本内科学会関東地方会, 2004. 3.

(5) イブニングセミナー:

1) 北村 伸, 山室 学, 劉 春玲, 宗像一雄, 片山泰朗: 脳血流所見よりみた脳血管性痴呆におけるアルツハイマー型痴呆の関与についての検討. 第44回日本神経学会総会, 2003. 5.

(6) 研究会議:

1) 五十嵐博中, 大久保誠二, 山口 博, 井田正博<sup>1)</sup>, 長尾毅彦, 酒巻雅典, 水越元気, 片山泰朗 (<sup>1)</sup> 都立荏原病院放射線科): i. v. t PA による DWI 体積の変化と, 早期血流再開における ADC 閾値について. 第15年度循環器病研究委託費14公 1 第1回研究会議, 2003. 7.

## [ 付属病院リウマチ科 ]

### 研究概要

リウマチ科の研究課題は, 関節リウマチ (RA) ・全身性変形性関節症 (GOA) などのリウマチ性疾患患者に対し, 薬物治療, 外科治療, リハビリテーション治療, そして精神的指導等のトータルマネージメントと, 滑膜組織および滑膜培養細胞を用いた基礎的研究, 全身性エリテマトーデス, 強皮症, 多発性筋炎等の膠原病を代表とした自己免疫疾患の発症機序の解明とその制御である.

より具体的に述べれば, 現在我々は臨床研究として 1) 耐久性を追及した人工膝関節のシステムの開発, 2) 時に死に至る術後合併症である肺塞栓症の病態解明と予防, 3) リウマチ性疾患患者の全人的ケアの根源である心とからだ, 心と病の関連を客観的に知るため, 精神・神経・内分泌システムに関する研究などを行なっている.

一方, 基礎的研究としては, 1) リウマチ滑膜組織における血管増殖因子の関与, 2) 関節リウマチの骨粗鬆症の成立機序の解明とその制御の基礎的研究, 3) 関節リウマチの遺伝子治療, 4) 全身性エリテマトーデス・関節リウマチの発症におけるリンパ球表面分子の役割とその制御, 5) 自己免疫疾患発症の免疫学的解析, TH1 / TH2 誘導に関する分子群の同定とその機能, 6) GOA 発症における免疫学的機序の解明, などである.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

1) Hasegawa J, Nagashima M, Yamamoto T, Katsumata S, Yoshino S: Bone resorption and inflammatory inhibition efficacy of intermittent cyclical etidronate therapy in rheumatoid arthritis. J. Rheumatol 2003; 30 (3): 474-479.

2) Suzuki A<sup>1)</sup>, Yamada R<sup>1)</sup>, Chang X<sup>1)</sup>, Tokuhiko S<sup>1,2)</sup>, Sawada T<sup>3)</sup>, Suzuki M<sup>2)</sup>, Nagasaki M<sup>2)</sup>, Nakayama-Hamada M<sup>2)</sup>, Kawaida R<sup>2)</sup>, Ono M<sup>2)</sup>, Ohtsuki M<sup>2)</sup>, Furukawa H<sup>2)</sup>, Yoshino S, Yukioka M<sup>4)</sup>, Tohma S<sup>5)</sup>, Matsubara T<sup>6)</sup>, Wakotani S<sup>7)</sup>, Teshima R<sup>8)</sup>, Nishioka Y<sup>9)</sup>, Sekine A<sup>10)</sup>, Iida A<sup>10)</sup>, Takahashi A<sup>11)</sup>, Tsunoda T<sup>11)</sup>, Nakanura Y<sup>10,12)</sup>, Yamamoto K<sup>1,3)</sup> (<sup>1)</sup> Laboratory for Rheumatic diseases, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), <sup>2)</sup> Sankyo, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Department of Allergy and Rheumatology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Japan., <sup>4)</sup> Yukioka Hospital, Osaka, Japan, <sup>5)</sup> National Sagami Hospital, Kanagawa, Japan, <sup>6)</sup> Matsubara Mayflower Hospital, Hyogo, Japan, <sup>7)</sup> Osaka Minami National Hospital, Osaka, Japan, <sup>8)</sup> Department of Orthopedic Surgery, Tot-

tori University, Tottori, Japan , <sup>9)</sup> Yamanashi Prefectural Central Hospital, Yamanashi, Japan , <sup>10)</sup> Laboratory for Genotyping, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN) , Kanagawa, Japan , <sup>11)</sup> Laboratory for Medical Informatics, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN) , Kanagawa, Japan, <sup>12)</sup> Laboratory of Molecular Medicine, Human Genome Center, Institute of Medical Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan ): Functional haplotypes of PAD 14, encoding citrullinating . Nature Genetics 2003 ; 34 ( 4 ): 395-402 .

- 3) Ishii H , Nagashima M , Tanno M , Nakajima A , Yoshino S : Does being easily moved to tears as a response to psychological stress reflect response to treatment and the general prognosis in patients with rheumatoid arthritis? . Clin. Exp. Rheumatol 2003 ; 21 ( 5 ): 611-616 .
  - 4) Tanaka H , Asano G<sup>1)</sup> , Yoshino S ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): The expression and localization of  $\beta$ -endorphin and  $\mu$ ,  $\delta$ -opioid receptors in synovial tissues in patient with rheumatoid arthritis and osteoarthritis . Mod. Rheumatol 2003 ; 13 ( 13 ): 326-332 .
  - 5) Tokuhiko S<sup>1,2)</sup> , Yamada R<sup>1)</sup> , Chang X<sup>1)</sup> , Suzuki A<sup>1)</sup> , Kochi Y<sup>1,3)</sup> , Sawada T<sup>3)</sup> , Suzuki M<sup>2)</sup> , Nagasaki M<sup>2)</sup> , Ohtsuki M<sup>2)</sup> , Ono M<sup>2)</sup> , Furukawa H<sup>2)</sup> , Nagashima M , Yoshino S , Mabuchi A<sup>4)</sup> , Sekine A<sup>5)</sup> , Saito Susumu <sup>5)</sup> , Takahashi Atsushi <sup>6)</sup> , Tsunoda Tastuhiko <sup>6)</sup> , Nakamura Yusuke <sup>7, 8)</sup> , Yamamoto Kazuhiko <sup>1,3)</sup> ( <sup>1)</sup> Laboratory for Rheumatic diseases, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN) , <sup>2)</sup> Sankyo, Tokyo, Japan , <sup>3)</sup> Department of Allergy and Rheumatology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Japan , <sup>4)</sup> Laboratory for Bone and Joint Diseases, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN) , Tokyo, Japan , <sup>5)</sup> Laboratory for Genotyping, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN) , Kanagawa, Japan , <sup>6)</sup> Laboratory for Medical Informatics, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN) , Kanagawa, Japan , <sup>7)</sup> Laboratory of Molecular Medicine, Human Genome Center, Institute of Medical Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan , <sup>8)</sup> Research Group for Personalized Medicine, SNP Research Center, The Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN) , Tokyo, Japan ): An intronic SNP in a RUNX 1 binding site of SLC 22A4, encoding an organic cation transporter, is associated with rheumatoid arthritis . Nature Genetics 2003 ; 35 ( 4 ): 341-348 .
  - 6) Nakamura H<sup>1)</sup> , Tanaka H , Yoshino S ( <sup>1)</sup> St. Marianna University ): Long-term results of multiple synovectomy for patients with refractory rheumatoid arthritis. Effects on disease activity and radiological progression . Clin Exp Rheumatol 2004 ; 22 ( 2 ): 151-157 .
  - 7) 田中秀和, 吉野槇一: 下肢人工関節の術後合併症. リウマチ科 2003 ; 30 ( 4 ): 363-368 .
  - 8) 長谷川潤, 永島正一, 松浦美喜雄, 吉野槇一 ( 1) 東京都立府中病院リウマチ膠原病院 ): フィン付き髓内釘による足関節固定術の長期成績. リウマチ科 2003 ; 30 ( 4 ): 346-349 .
  - 9) 吉野槇一, 周 豪奎, 石神 伸, 高橋 央: 人工膝関節置換術を行ない最低20年経過した関節リウマチ患者の成績. 関東整災誌 2004 ; 35 ( 2 ): 67-70 .
- (2) 綜説:
- 1) Yoshino S , Mukai E : Neuroendocrine - immune system in patients with rheumatoid arthritis . Mod. Rheumatol 2003 ; 13 ( 3 ): 193-198 .
  - 2) 中島敦夫: 自己免疫疾患における分子標的遺伝子治療の展望: costimulatory 分子. 臨床免疫 2003 ; 40 ( 6 ): 642-648 .
  - 3) 吉野槇一: 関節リウマチ ( RA ) と楽しい笑い: 特に脳内リセット理論について. ストレスと臨床 2003 ; 17 : 8-11 .
  - 4) 吉野槇一: 笑いの治癒力: 脳内リセット理論に基づいて. 臨床精神医学 2003 ; 32 ( 8 ): 953-957 .

- 5) 向井英一：外用薬の使い分け．薬局 2003；54(10)：2629-2633．  
 6) 向井英一，吉野槇一：関節リウマチと運動療法．痛みと臨床 2004；4(2)：157-164．

(3) Coference room：

- 1) 津久井拓<sup>1)</sup>，坂根 学，飯野靖彦<sup>2)</sup>，田村浩一<sup>3)</sup>，壇 和夫<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>4)</sup>，青木 宏<sup>2)</sup>，恩田宗彦<sup>3)</sup>，杉崎祐一<sup>3)</sup>，中塚雄久<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>3)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>，金子礼志，清水 章<sup>3)</sup>，清野精彦<sup>5)</sup>，高野照夫<sup>(1)</sup>内科学第3，<sup>2)</sup>内科学第2，<sup>3)</sup>病理学第1，<sup>4)</sup>病理学第2，<sup>5)</sup>内科学第1)：関節リウマチの長期経過中に合併した全身性エリテマトーデスの1例．内科 2003；92(5)：951-959．

著 書

- 1) 永島正一，吉野槇一：〔共著〕関節リウマチー最新治療とガイドラインーetanercept．カレントセラピー（住田孝之），2004；pp34-38，ライフメディコム．

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 向井英一：痛みの神経内分泌について．第3回日本リハビリテーション心理研究会，2003．4．  
 2) 向井英一：かかりつけ医に必要なリハビリの知識；腰痛の予防と治療．日本リハビリテーション医学会認定臨床医生涯教育研修会，2003．7．

(2) シンポジウム：

- 1) 中島敦夫，岩井秀之<sup>1)</sup>，東みゆき<sup>1)</sup>，八木田秀雄<sup>2)</sup>，奥村 康<sup>2)</sup>，ギャリソンファスマン<sup>3)</sup>，吉野槇一<sup>(1)</sup>東京医科歯科大学分子免疫，<sup>2)</sup>順天堂大学医学部免疫，<sup>3)</sup>スタンフォード大学免疫リウマチ科)：抗原特異的T細胞を介した関節リウマチモデルの遺伝子治療．第47回日本リウマチ学会総会，2003．4．  
 2) 向井英一，吉野槇一：関節リウマチ患者の性機能障害．第14回日本性機能学会 東部総会，2004．2．

(3) ワークショップ：

- 1) 山本 要，永島正一，田中秀和，宮本洋介，竹之内研二：関節リウマチに対するエチドロネート間歇投与療法の骨吸収抑制効果：3年投与成績．第47回日本リウマチ学会総会，2003．4．  
 2) 高橋 央，加藤 興，吉野槇一，三宅弘一<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2)：AAV vector を用いた関節炎モデルマウスの血管新生抑制遺伝子治療．第47回日本リウマチ学会総会，2003．4．  
 3) 永島正一，田中秀和，丹野 亮，勝又信一，坂根 学，吉野槇一：関節リウマチにおける各種DMARDs療法の有用性の比較（第一報）：生存曲線を中心に．第47回日本リウマチ学会総会，2003．4．  
 4) 田中秀和，丹野 亮，吉野槇一，太田久彦<sup>1)</sup>，木村哲彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>医療管理学)：関節リウマチに対する抗リウマチ剤の効用調査の試行．第47回日本リウマチ学会総会，2003．4．  
 5) 丹野 亮，中島敦夫，平野大地，永島正一，石渡俊行<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>，吉野槇一<sup>(1)</sup>病理学)：精神的ストレスにおける関節リウマチの神経免疫内分泌クロストーク．第47回日本リウマチ学会総会，2003．5．

(4) 一般講演：

- 1) 山本 要，永島正一，田中秀和，宮本洋介，竹之内研二，森 伸哉，吉野槇一：慢性関節リウマチに対するエチドロネート間歇投与療法の骨吸収抑制効果：3年投与成績．第47回日本リウマチ学会総会，2003．4．  
 2) 田中秀和，竹之内研二，森 伸哉，宮本洋介，丹野 亮，永島正一，吉野槇一：関節リウマチに対する下肢人工関節手術後の合併症の種類と頻度についての経時的検討．第76回日本整形外科学会，2003．5．  
 3) 勝又信一，永島正一，加藤 興，和宇慶晃一，斉藤 進，吉野槇一：人工膝関節置換術時における止血帯使用の有無による術後の血中 TAT, D-dimer 並びに好中球エラスターゼ値の変動の意義について．第76回日本整形外科学会，2003．5．  
 4) 石井博泰<sup>1)</sup>，佐野茂夫<sup>1)</sup>，永井一郎<sup>1)</sup>，松崎 剛，吉野槇一<sup>(1)</sup>三楽病院)：脊椎後方 Instrumentation 固定術

- の最上位隣接椎間に併用した Graf Band 制動術の有用性について．第76回日本整形外科学会，2003．5．
- 5) 宮本洋介，坂根 学，丹野 亮，中島敦夫，永島正一，吉野槇一，松澤一郎<sup>(1)</sup> (泌尿器科学)：BCG膀胱内注入療法後に生じた反応性関節炎 (Reiter 症候群) の1症例．第44回関東リウマチ研究会，2003．6．
  - 6) 高橋 央，吉野槇一，三宅弘一<sup>(1)</sup>，島田 隆<sup>(1)</sup> (生化学第2)：AAV Vector を用いた関節炎モデルマウスの血管新生抑制遺伝子治療．第18回日本整形外科学会基礎学術集会，2003．10．
  - 7) 松崎 剛，永島正一，高橋 央，石神 伸，丹野 亮，勝又信一，周 豪奎，吉野槇一：人工足関節置換術後に両下腿浮腫を呈し，診断・治療に苦慮した関節リウマチの1例．東京リウマチ膠原病研究会，2003．10．
  - 8) 加藤 興<sup>(1)</sup>，出沢 明<sup>(1)</sup>，吉野槇一，日坂 弥<sup>(2)</sup> (帝京大学溝口病院整形外科，<sup>2</sup>) 有限会社共同義肢製作所)：外反母趾手術後の患者に対する足底板の併用について．第17回日本靴医学会，2003．10．
  - 9) 宮本洋介，岩本真徳，高橋俊成，永井一郎，木村雅弘，佐野茂夫 (三楽病院整形外科)：脊椎手術後の持続硬膜外圧モニタリングの試み．第11回日本腰痛学会，2003．11．
  - 10) 坂根 学，中島敦夫，金子礼志，吉野槇一：多発性筋炎/皮膚筋炎 (PM/DM) の治療経過中に関節リウマチ (RA) を合併した3例．日本リウマチ学会関東支部会，2003．12．
  - 11) 周 豪奎，勝又信一，丹野 亮，石神 伸，高橋 央，永島正一，吉野槇一：合成吸収性骨接合材による母指指節間関節固定術の術後成績．日本リウマチ学会関東支部学術集会，2003．12．
  - 12) 齊藤久久，吉野槇一，永島正一，中島敦夫，高橋 央，石神 伸，丹野 亮，松崎 剛，勝又信一，周 豪奎，森下 実，坂根 学：人工膝関節置換術における肺血栓塞栓症の予防対策．第34回日本人工関節学会，2004．1．
- (5) ポスター：
- 1) Takahashi H, Miyake K<sup>(1)</sup>, Yoshino S, Shimada T<sup>(1)</sup> (Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School)：AAV vector mediated anti-angiogenic gene therapy for collagen-induced arthritis in mice . American Society of Gene Therapy 6th Annual Meeting ( Washington, DC ), 2003 . 6 .
  - 2) Ota H<sup>(1)</sup>, Tanno M, Kobayashi M<sup>(2)</sup>, Yoshino S (Department of Health Services Administration, <sup>2</sup>) Crecon Research and Consulting Inc. )：Patient reported outcomes for Rheumatoid Arthritis in Japann . ISPOR First Asia-Pacific Conference ( 神戸 ), 2003 . 9 .
  - 3) Makoto T, Tanaka H, Kobayashi M<sup>(1)</sup>, Yoshino S (Crecon Research and Consulting Inc. )：Caregiver burden for patients with rheumatoid arthritis in Japan . ISPOR First Asia-Pacific Conference ( 神戸 ), 2003 . 9 .
  - 4) Ota H<sup>(1)</sup>, Tanno M, Tanaka H, Kobayashi M<sup>(2)</sup>, Yoshino S (Department of Health Services Administration, <sup>2</sup>) Crecon Research and Consulting Inc)：Correlation between the health assessment questionnaire ( HAQ ) and utility value in rheumatoid arthritis patients . ISPOR First Asia-Pacific Conference ( 神戸 ), 2003 . 9 .
  - 5) Tachihara A, Nakatani C<sup>(1)</sup>, Kawanami O<sup>(1)</sup> (Department of Molecular Pathology, Nippon Medical School)：Angiogenesis and Immunohistochemical Property of Alveolar Wall Capillaries in Patients with Rheumatoid Arthritis, Usual and Nonspecific Interstitial Pneumonias . New Direction in Angiogenesis Research conference ( Chicago ), 2003 . 10 .
  - 6) Tanno M, Nakajima A, Nagashima M, Yoshino S : Chages in Serum Concentration of Cytokine in Response to Mental Stress and General Anesthesia in Patients with Rheumatoid Arthritis . American College of Rheumatology 67th Annual Scientific Meeting ( Orlando ), 2003 . 10 .
  - 7) Enjing J<sup>(1)</sup>, Fujiwara M<sup>(1)</sup>, Takemura T<sup>(2)</sup>, Tachihara A, Nakatani C<sup>(1)</sup>, Kawanami O (Dept. of Molecular Pathology Institute of Gerontology, <sup>2</sup>) Dept. of Sugical Pathology)：Angiogenesis in Primary Lung Adenocarcinoma is Enhanced by Protease - Activated Receptors in Alveolar Capillary Endothelium . New Direction in Angiogenesis Research conference ( Chicago ), 2003 . 10 .
  - 8) Takahashi H, Miyake Miyake<sup>(1)</sup>, Yoshino S, Shimada T<sup>(1)</sup> (Department of Biochemistry and Molecular Biology)：AAV vector mediated anti-angiogenic gene therapy for collagen-induced arthritis in mice . 第9回

日本遺伝子治療学会，2003．7．

- 9) 立原章年，吉野槇一，金 恩京<sup>1)</sup>，潘 欣<sup>1)</sup>，枝川聖子<sup>1)</sup>，中谷千瑞子<sup>1)</sup>，清水 一<sup>1)</sup>，藤原正和<sup>1)</sup>，ガジザデ モハammad<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門)：リウマチ肺の肺胞毛細血管における免疫組織学的リモデリング．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．

(6) 研究会：

- 1) 宮本洋介，坂根 学，丹野 亮，中島敦夫，永島正一，吉野槇一，松澤一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科学)：BCG膀胱内注入療法後に生じた反応性関節炎の1症例 第44回関東リウマチ研究会．第44回関東リウマチ研究会，2003．6．

(7) 研究発表：

- 1) 丹野 亮：精神的ストレスにおける関節リウマチの神経・内分泌・免疫クロストーク．第12回日本医科大学内分泌懇話会，2003．7．

(8) 症例報告：

- 1) 森 伸哉，永島正一，竹之内研二，山本 要，丹野 亮，吉野槇一：関節リウマチに合併した難治性下腿潰瘍に顆粒球除去(G 1)療法が有効であった1例．第47回日本リウマチ学会総会，2003．4．

(9) 平成13年度丸山記念研究助成金受賞講演：

- 1) 中島敦夫：自己反応性T細胞を用いた自己免疫疾患の臓器特異的遺伝子治療．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．

### 3. 内科学第三講座

#### [ 付属病院第 3内科 ( 血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科 ) ]

##### 研究概要

血液病学の基礎的研究ではトランスジェニックマウスを用いた造血器腫瘍の発症機序および病態の解析, 分子標的療法の検討, 造血器腫瘍の発症に関する新規キメラ遺伝子のクローニング, 白血病の病態と予後に関与する補助分子の解析, 造血器腫瘍細胞の細胞生物学的解析, 腫瘍免疫に関する検討, 等を主に行った. 臨床的研究では造血幹細胞移植, とくに臍帯血移植療法の治療成績改善のための検討, 造血器疾患の病態に関する検討, 造血器腫瘍の治療成績に関する検討, などを主に行った.

内分泌代謝病学の基礎的研究では視床下部神経ペプチド Y / Y1 受容体経路とレプチン・グレリンの作用から過食の問題が検討され論文化された. 甲状腺悪性疾患の病態の差異がについて検討されている. また, 糖尿病の新しい発症機序を酸化ストレスの面から研究が進められた. 臨床では住民検診受診者におけるアディポネクチンの解析が継続的に検討された. 厚生労働省科学研究として原発性高脂血症調査研究 ( 厚生労働省科学研究分担 ) ・糖尿病合併症の発症進展に関する研究 ( JDCS ) ( 長寿科学総合研究分担 ) ・高齢者糖尿病を対象とした前向き大規模臨床介入研究 ( 長寿科学総合研究分担 ) が継続的に行われている.

消化器病学は, ( 1 ) 逆流性食道炎, 食道運動機能異常に対する病態生理学的検討, ( 2 ) 上部消化管疾患に対する *Helicobacter pylori* 感染の意義, ( 3 ) 慢性炎症性腸疾患の病態生理に関する検討, ( 4 ) 大腸腺腫, 癌の病態に関する検討, ( 5 ) 大腸癌の診断法に関する研究, ( 6 ) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術およびその全身におよぼす影響に関する検討, ( 7 ) 慢性活動性 C 型肝炎の治療と免疫能, など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め, ( 8 ) 消化管粘膜の分子機構に関する研究, COX-2 の消化管癌に対する役割, など基礎的研究も実施されている.

##### 研究業績

###### 論文

[ 2002 年度追加分 ]

原著:

- 1) Fujimura K, Fujimoto T, Kuramoto A, Ikeda Y, Akatsuka J, Dan K, Omine M, Mizoguchi H: Nationwide study of idiopathic thrombocytopenic purpura in pregnant women and the clinical influence on neonates. *Int J Hematol* 2002; 75 (4): 426-433.
- 2) Toyota S, Nakamura N, Dan K: Pseudo gray platelet syndrome in a patient with acute myocardial infarction. *Int J Hematol* 2002; 76 (4): 376-378.

総説:

- 1) 岡島史宜, 及川眞一: リポ蛋白系球体症. *Medical Practice* 2003; 20 (1): 105-109.
- 2) 江原彰仁, 及川眞一: 糖尿病に伴う高脂血症. *栄養-評価と治療* 2003; 19 (2): 167-171.

( 1 ) 原著:

- 1) Shirahata Y<sup>1)</sup>, Ohkohchi N<sup>1)</sup>, Kawagishi N<sup>1)</sup>, Syouji M<sup>1)</sup>, Tsukamoto S<sup>1)</sup>, Sekiguchi S<sup>1)</sup>, Koyamada N<sup>1)</sup>, Oikawa S, Satomi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Advanced Surgical and Technology, Graduate School of Medicine, Tohoku University School of Medicine ): Living-donor liver transplantation for homozygous familial hypercholesterolemia from a donor with heterozygous hypercholesterolemia. *Transpl Int* 2003; 16 (4): 276-279.

- 2) Matsuzawa Y<sup>1)</sup>, Kita T<sup>1)</sup>, Mabuchi H<sup>1)</sup>, Matsuzaki M<sup>1)</sup>, Nakaya N<sup>1)</sup>, Oikawa S, Saito Y<sup>1)</sup>, Sasaki J<sup>1)</sup>, Shimamoto K<sup>1)</sup>, Itakura H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>J-LIT Study Group): Sustained reduction of serum cholesterol in low-dose 6-year simvastatin treatment with minimum side effects in 51,321 Japanese hypercholesterolemic patients-Implication of the J-LIT study, a large scale nationwide cohort study. *Circ J* 2003; 67(4): 287-294.
- 3) Oak J-H<sup>1)</sup>, Nakagawa K<sup>1)</sup>, Oikawa S, Miyazawa T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Food and Biodynamic Chemistry laboratory, Graduate School of Life Science and Agriculture, Tohoku University): Amadori-glycated phosphatidylethanolamine induces angiogenic differentiations in cultured human umbilical vein endothelial cells. *FEBS Letters* 2003; 555(2): 419-423.
- 4) Hyodo H, Ogata K, Tachibana M, Dan K: Characterization of blasts in clinical samples containing few blasts. *Int J Hematol* 2003; 77(4): 376-382.
- 5) Takeyama H<sup>1)</sup>, Tsukui T, Tatsuguchi A, Wada K, Miyake K, Shinoki K, Shinji Y, Iizumi T, Hiratsuka T, Gudis K, Futagami S, Miura S<sup>1)</sup>, Mizokami Y<sup>1)</sup>, Matsuoka T<sup>1)</sup>, Sakamoto C(<sup>1)</sup>5th Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University): Non-steroidal anti-inflammatory drugs are not involved in ICAM-1 expression of endothelial cells but in that of gastric fibroblasts in vitro. *J Tokyo Med Univ* 2003; 61(2): 166-176.
- 6) Inokuchi K, Dan K, Takatori M, Takafuji H, Uchida N, Inami M, Miyake K, Honda H, Hirai H, Shimada T: Myeloproliferative disease in transgenic mice expressing P230 Bcr/Abl: longer disease latency, thrombocytosis and mild leukocytosis. *Blood* 2003; 102(1): 320-323.
- 7) Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Takatori M<sup>5)</sup>, Takafuji H<sup>5)</sup>, Uchida N<sup>1)</sup>, Inami M<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Honda H<sup>4)</sup>, Hirai H<sup>3)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第3, <sup>2)</sup>同生化学第2, <sup>3)</sup>東京大学血液腫瘍科, <sup>4)</sup>広島大学組織再生制御研究分野, <sup>5)</sup>生命科学センター): Novel transgenic mice expressing P230 Bcr/Abl developed myeloproliferative disorder: longer disease latency, thrombocytosis and mild leukocytosis. *Blood* 2003; 102(1): 320-323.
- 8) Lin H<sup>1)</sup>, Wada K, Yonezawa M, Shinoki K, Akamatsu A, Tsukui T, Sakamoto C(<sup>1)</sup>The first clinical college of China Medical University): Tomoregulin ectodomain shedding by proinflammatory cytokines. *Life Sci* 2003; 73(13): 1617-1627.
- 9) Inami M, Inokuchi K, Nakayama K, Tamura H, Shimada T, Dan K: Simultaneous novel BCR-ABL gene mutation and increased expression of BCR-ABL mRNA caused clinical resistance to STI571 in double-Ph-positive acute biphenotypic leukemia. *Int J Hematol* 2003; 78(2): 173-175.
- 10) Inami M<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Nakayama K<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>生化学第2): Simultaneous novel BCR-ABL gene mutation and increased expression of BCR-ABL mRNA caused clinical resistance to STI571 in double-Ph-positive acute biphenotypic leukemia. *International Journal of Hematology* 2003; 78(2): 173-175.
- 11) Park S<sup>1)</sup>, Kamegai J, Kineman RD<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Medicine, University of Illinois at Chicago): The role of glucocorticoids in the regulation of pituitary somatostatin receptor subtype (sst1-sst5) mRNA levels: evidence for direct and somatostatin-mediated effects. *Neuroendocrinology* 2003; 78: 163-175.
- 12) Futagami S, Hiratsuka T, Tatsuguchi A, Suzuki K, Kusunoki M, Shinji Y, Shinoki K, Iizumi T, Akamatsu T, Nishigaki H, Wada K, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C: Monocyte chemoattractant protein 1 (MCP-1) released from *Helicobacter pylori* stimulated gastric epithelial cells induces cyclooxygenase 2 expression and activation in T cells. *GUT* 2003; 52(9): 1257-1264.
- 13) Iwakiri K, Sugiura T, Hayashi Y, Kotoyori M, Kawakami A, Makino H<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Takubo K<sup>2)</sup>, Sakamoto C(<sup>1)</sup>First Department of Surgery, <sup>2)</sup>Human Tissue Research Group, Tokyo Met-

- ropolitan Institute of Gerontology ): Esophageal motility in Japanese patients with Barrett's esophagus . J Gastroenterol 2003 ; 38 ( 11 ): 1036-1041 .
- 14) Ishii S , Kamegai J , Tamura H , Shimizu T , Sugihara H , Oikawa S : Hypothalamic neuropeptide Y/Y1 receptor pathway activated by a reduction in circulating leptin, but not by an increase in circulating ghrelin, contributes to the hyperphagia associated with triiodothyronine-induced thyrotoxicosis . Neuroendocrinology 2003 ; 78 : 321-330 .
- 15) Ikekawa K<sup>1)</sup>, Mabuchi H<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Oikawa S , Sasaki J<sup>1)</sup>, Takata K<sup>1)</sup>, Saito Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Japan CETP Study Group ): Association of cholesteryl ester transfer protein activity and Taq1B polymorphism with lipoprotein variations in Japanese subjects . Metabolism 2003 ; 52 ( 12 ): 1564-1570 .
- 16) Amano Y<sup>1)</sup>, Tajika K , Uchiyama N<sup>1)</sup>, Takahama K<sup>1)</sup>, Dan K , Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Departments of Radiology ) : Staging of malignant lymphoma with tree-station black-blood fast short-inversion time inversion recovery ( STIR ). Magnetic Resonance in Medical Sciences 2003 ; 2 ( 1 ): 9-15 .
- 17) Watanabe A<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Mizuki T<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3 , <sup>2)</sup>生化学第2 ): Near-triploid and near-tetraploid in hematological malignancies and mutation of the p53 gene . Clinical and Laboratory Hematology 2004 ; 26 ( 1 ): 25-30 .
- 18) Watanabe A , Inokuchi K , Yamaguchi H , Mizuki T , Tanosaki S , Shimada T , Dan K : Near-triploidy and near-tetraploidy in hematological malignancies and mutation of the p53 gene . Clin Lab Haematol 2004 ; 26 ( 1 ): 25-30 .
- 19) Obana N<sup>1)</sup>, Takagi S<sup>1)</sup>, Kinouchi Y<sup>1)</sup>, Tokita Y<sup>2)</sup>, Sekikawa A<sup>2)</sup>, Takahashi S<sup>1)</sup>, Hiwatashi N<sup>1)</sup>, Oikawa S , Shimosegawa T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The Department of Gastroenterology, Tohoku University School of Medicine , <sup>2)</sup>The Department of Mplecular Metabolism and Diabetes, Tohoku University School of Medicine ): Telomere shortening of peripheral blood mononuclear cells in coronary disease patients with metabolic disorders . Int Med 2004 ; 42 ( 2 ): 150-153 .
- 20) 緒方清行 : 芽球精製法の確立 . 日本検査血液学会雑誌 2003 ; 4 ( 2 ): 187-192 .
- 21) 榎原義之, 金沢秀典, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 小泉信人, 名知志子, 坂本長逸 : 肝硬変における難治性腹水臨床像に関する検討 . 日本門脈圧亢進症学会誌 2003 ; 8 ( 4 ): 251-257 .
- 22) 中村純子, 石井新哉, 田村秀樹, 亀谷 純, 岡島史宜, 城所 葉, 杉原 仁, 沖 隆<sup>1)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup>内科学第3 ): 生物活性が低いACTHが疑われた副腎皮質機能低下症 . 日本内分泌学会雑誌 2003 ; 79 ( S9 ): 99-102 .
- 23) 宇月美和<sup>1)</sup>, 岩崎真弓<sup>1)</sup>, 伊藤吉賢<sup>1,3)</sup>, 大内修二<sup>1,2)</sup>, 及川眞一, 澤井高志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>岩手医科大学第一病理, <sup>2)</sup>同整形外科, <sup>3)</sup>東京慈恵会医科大学整形外科 ): 画像解析による肺動脈幹中膜の加齢学的変化 . 脈管学 2003 ; 43 ( 11 ): 659-666 .
- 24) 津久井拓, 坂根 学, 飯野靖彦, 田村浩一, 檀 和夫, 内藤善哉, 青木 宏, 恩田宗彦, 杉崎祐一, 中塚雄久, 福田 悠, 片山泰朗, 金子礼志, 清水 章, 清野精彦, 高野照夫 : 関節リウマチの長期経過中に合併した全身性エリテマトーデスの1例 . 内科 2003 ; 92 ( 5 ): 951-959 .
- 25) 二神生爾, 松谷 毅, 平塚哲郎, 瀬尾継彦, 鈴木健司, 進士陽子, 篠木 啓, 林 良紀, 楠 正典, 三宅一昌, 岩切勝彦, 津久井拓, 坂本長逸 : 遠位胃切除により症状が軽快した胃拡張症の1例 . 東京内科医会会誌 2003 ; 19 ( 2 ): 73-76 .
- 26) 坂本静樹, 三富規之, 田村浩一, 内藤善哉, 勝田梯実, 津久井拓, 福田 悠, 横山宗伯, 森 修, 長田祐二, 勝又俊弥, 杉崎祐一, 山崎峰夫, 吉村明修 : 出血性脳梗塞をきたしたクリプトコッカス髄膜炎合併アルコール性肝硬変の1例 . 内科 2004 ; 93 ( 2 ): 348-357 .



(2) 綜説：

- 1) Takubo K, Arai T, Sawabe M, Miyashita M, Sasajima K, Iwakiri K, Mafune K : Structures of the normal esophagus and Barrett's esophagus . *Esophagus* 2003 ; 1 ( 11 ) : 37-47 .
- 2) Dan K : Thalidomide as a targeted therapy for multiple myeloma . *Internal Med* 2003 ; 42 ( 7 ) : 550-551 .
- 3) Tamura H, Ogata K, Dong H<sup>1)</sup>, Chen L<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Immunology, Mayo Clinic, USA ) : Immunology of B7-H1 and its roles in human diseases . *Int J Hematol* 2003 ; 78 ( 4 ) : 321-328 .
- 4) Yamaguchi H, Fogarty PF\*, Wiestner A, Baerlocher GM, Sloand E, Zeng WS, Read EJ, Lansdorp PM, and Young NS : Late presentation of dyskeratosis congenita as "acquired" aplastic anaemia due to mutations in telomerase RNA . *Lancet* 2003 ; 362 : 1628-1630 .
- 5) Yamaguchi H, Baerlocher GM, Lansdorp PM, Chanock SJ, Nunez O, Sloand E, Young NS : Mutations of the human telomerase RNA gene ( TERC ) in aplastic anemia and myelodysplastic syndrome . *Blood* 2003 ; 102 : 916-918 .
- 6) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 山下和良<sup>2)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 仙台赤十字病院検診センター, <sup>2)</sup> 同内科 ) : 一次予防例における血清脂質の変化と冠動脈イベントの解析 ( 脂質の変化, イベントの頻度, 脂質レベルとイベント ). *The Lipid* 2003 ; 14 ( 3 ) : 247-252 .
- 7) 谷村恭子, 及川眞一 : 糖尿病合併症発症予防と進展の防止 : 大血管症 . *Diabetes Frontier* 2003 ; 14 ( 4 ) : 440-444 .
- 8) 中村弘之, 檀 和夫 : 白血球減少・増多の精査 . *medicina* 2003 ; 40 ( 5 ) : 790-791 .
- 9) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 山下和良<sup>2)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 仙台赤十字病院検診センター, <sup>2)</sup> 同内科 ) : Multiple Risk Factor 症候群における脂質代謝異常の意義 . *Heart View* 2003 ; 7 ( 5 ) : 558-563 .
- 10) 及川眞一, 小竹英俊<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 仙台赤十字病院検診センター ) : 高血圧と高脂血症 . *Modern Physician* 2003 ; 23 ( 5 ) : 730-732 .
- 11) 猪口孝一 : P230BCR/ABLトランスジェニックマウス . *血液・腫瘍科* 2003 ; 46 ( 5 ) : 436-443 .
- 12) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 林 良紀, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸, 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 小林正文 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ) : 食道胃接合部病変 - 今, 何が問題か : 1. 食道アカラシア 2. 診断と内科的治療の成績 . *外科* 2003 ; 65 ( 5 ) : 502-509 .
- 13) 中島 泰, 及川眞一 : 高TG血症の治療 . *Mebio* 2003 ; 20 ( 6 ) : 121-126 .
- 14) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 山下和良<sup>2)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 仙台赤十字病院検診センター, <sup>2)</sup> 同内科 ) : 動脈硬化の薬物療法-スタチン以外 ( 展望 ). *カレントセラピー* 2003 ; 21 ( 6 ) : 578-582 .
- 15) 及川眞一 : わが国の血管病変発症とマルチプルリスクファクター症候群 . *Ther Res* 2003 ; 24 ( 6 ) : 899-904 .
- 16) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 仙台赤十字病院検診センター ) : 内科-この1年の進歩 ; 脂質代謝 . *内科* 2003 ; 92 ( 6 ) : 1115-1122 .
- 17) 林 良紀, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 川上明彦, 坂本長逸 : 健常者, 逆流性食道炎患者の胃食道逆流のメカニズム . *Ther Res* 2003 ; 24 ( 5 ) : 800-804 .
- 18) 三宅一昌, 坂本長逸 : 除菌療法後の萎縮性胃炎の回復はあるか, その判定の問題点 . *Modern Physician* 2003 ; 23 ( 6 ) : 901-904 .
- 19) 檀 和夫 : 造血管腫瘍の薬物療法 . *臨床と研究* 2003 ; 80 ( 7 ) : 1265-2003 .
- 20) 谷村恭子, 及川眞一 : 肥満の半飢餓療法 . *日本医師会雑誌* 2003 ; 130 ( 1 ) : 70 .
- 21) 及川眞一 : 高脂血症治療ガイドライン : 動脈硬化性疾患診療ガイドライン . *都薬雑誌* 2003 ; 25 ( 8 ) : 4-7 .
- 22) 小竹英俊, 及川眞一 : 高脂血症薬物療法の選択基準と副作用 . *最新医学・別冊 新しい診断と治療のABC* 2003 ; 230-238 .
- 23) 津久井拓, 篠木 啓, 進士陽子, 二神生爾, 三宅一昌, 和田 謙, 坂本長逸 : 塩基性線維芽細胞増殖因子によ

- る胃粘膜修復におけるCOX-2の役割：胃線維芽細胞による血管内皮細胞増殖因子産生に及ぼす影響．Prog Med 2003；23(8)：2206-2211．
- 24) 及川眞一：糖尿病診療ガイドライン．Pharma Medica 2003；21(9)：57-61．
- 25) 坂本長逸：外来でのZollinger-Ellison症候群の診断．日本醫事新報(Japan Medical Journal) 2003；(4141)：92-92．
- 26) 岩切勝彦，坂本長逸：食道運動機能からみた胃食道逆流症の病態．日本消化器病学会雑誌 2003；100(9)：1084-1094．
- 27) 谷村恭子，及川眞一：プラスタチンの特徴とその使い方．成人病と生活習慣病 2003；33(11)：1370-1374．
- 28) 猪口孝一：p230bcr-ablトランスジェニックマウスの作成．Vision 2003；1(1)：8-12．
- 29) 岩切勝彦，林 良紀，琴寄 誠，田中由理子，川上明彦，坂本長逸：胃食道逆流症(GERD)と胸痛．診断と治療 2003；91(11)：2090-2093．
- 30) 小竹英俊<sup>1)</sup>，谷村恭子，及川眞一<sup>(1)</sup> 仙台赤十字病院検診センター)：高トリグリセリド血症と低HDL-C血症．今月の治療 2003；11(12)：1320-1323．
- 31) 猪口孝一：高齢者・大球性貧血の1例．東京内科医会会誌 2003；19(2)：69-72．
- 32) 田近賢二：21世紀の造血細胞移植．J Nippon Med Sch 2003；70(1)：62-65．
- 33) 小竹英俊，及川眞一：スタチン系薬物を安全に用いるには．Progress in Medicine 2004；24(1)：92-96．
- 34) 辰口篤志，坂本長逸：胃癌におけるCOX-2の発現．癌治療と宿主 2004；16(1)：29-34．
- 35) 坂本長逸：NSAIDによる上部消化管傷害の診断と治療．クリニカ 2004；31(1)：58-62．
- 36) 田村秀樹，杉原 仁，及川眞一：内分泌性高血圧．成人病と生活習慣病．成人病と生活習慣病 2004；34(2)：245-248．
- 37) 岩切勝彦，林 良紀，琴寄 誠，田中由理子，川上明彦，坂本長逸：健常者，逆流性食道炎患者の胃食道逆流の違い．消化器科 2004；38(2)：154-157．
- 38) 坂本長逸：防御因子製剤の今日的意義．日本臨牀 2004；62(3)：566-570．
- 39) 和田 謙，二神生爾，三宅一昌，津久井拓，坂本長逸：胃上皮細胞におけるヘリコバクターピロリ菌による膜アンカー型TGF- $\alpha$ の発現および放出に関する検討．Prog Med 2004；24(3)：680-683．
- 40) 及川眞一：食事療法を患者とともに評価する．糖尿病診断のコツと落とし穴 2004；48-49．

## 著 書

- 1) Amano Y, Tajika K, Oriuchi N, Dan K, Kumazaki T：〔分担〕Nodal involvement in non-Hodgkin lymphoma．Medical Radiology (Guermazi A)，2004；pp71-83，Springer-Verlag．
- 2) 山田 隆，檀 和夫：〔分担〕好酸球増加．外来診療のすべて(改訂第3版)(高久史磨)，2003；pp258-259，メジカルビュー社．
- 3) 坂本長逸：〔分担〕特殊な十二指腸潰瘍も疑う．消化器診療二頁の秘訣，2003；pp82-83，金原出版．
- 4) 津久井拓，辰口篤志，篠木 啓，三浦崇幣，坂本長逸：〔分担〕胃潰瘍治療過程におけるCOX-2の役割と血管新生．消化器血流の研究19，2003；pp37-45，第一メ ディカル出版．
- 5) 平塚哲郎，坂本長逸：〔分担〕COX-2阻害薬と消化管傷害について教えてください．COX-2阻害薬Q&A，2003；pp92-93，医薬ジャーナル社．
- 6) 三宅一昌，坂本長逸：〔分担〕消化管超音波診断 - 最近の進歩．消化器病セミナー・92，2003；pp33-39，へるす出版．
- 7) 二神生爾，坂本長逸：〔分担〕胃炎と発癌．消化器癌のサーベイランス，2003；pp67-72，新興医学出版社．
- 8) 檀 和夫：〔分担〕白血球増加患者へのアプローチ．内科学 第2版(黒川 清，松澤佑次)，2003；pp1448-1449，文光堂．

- 9) 檀 和夫：〔分担〕遺伝性溶血性貧血．今日の治療指針 2004（山口 徹，北原光夫），2004；pp457-458，医学書院．
- 10) 田近賢二：〔自著〕貧血について．明治，2004；pp64-65，明治大学．
- 11) 二神生爾，坂本長逸：〔分担〕胃粘膜防御機構．Annual review 消化器，2004；pp80-83，中外医学社．
- 12) 緒方清行：〔共著〕疫学．骨髓異形成症候群（吉田弥太郎），2004；pp15-22，最新医学書．
- 13) 檀 和夫：〔分担〕特発性血小板減少性紫斑病とヘリコバクテリ．内科診療Q&A，2004；pp156-157，六法出版．
- 14) 田近賢二：〔自著〕びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の病態と治療．治療学，2004；pp41-46，ライフサイエンス出版．

#### 学会発表

〔2002 年度追加分〕

#### 特別講演：

- 1) 亀谷 純，石井新哉，田村秀樹，杉原 仁，及川眞一：グレリンの病態生理学的意義；過食モデルラットを用いた検討．第一回グレリンシンポジウム，2003．3．

#### 一般講演：

- 1) 市川雅男<sup>1)</sup>，江本直也，朝倉 夫<sup>1)</sup>，小木三郎<sup>1)</sup>，五十嵐健治<sup>1)</sup>，岩月雅美<sup>1)</sup>，鴨井青龍<sup>1)</sup>，三浦剛史<sup>2)</sup>，松沢一郎<sup>2)</sup>，近藤幸尋<sup>2)</sup>，河村 堯<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>産婦人科学，<sup>2)</sup>泌尿器科学）：妊娠中期に診断されたクッシング症候群の1例．第13回臨床内分泌代謝Update，2003．3．

#### (1) 招待講演：

- 1) Ogata K, Yoshida Y<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Takeda Hospital, Kyoto）: Phenotypic features of blasts in myelodysplastic syndromes (MDS Diagnosis and Classification). 7th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes (Paris), 2003．5．

#### (2) シンポジウム：

- 1) Ogata K, Nakamura K, Yokose N, Tamura H, Tachibana M, Taniguchi O<sup>1)</sup>, Iwakiri R<sup>2)</sup>, Hayashi T<sup>3)</sup>, Sakamaki H<sup>4)</sup>, Murai Y<sup>5)</sup>, Tohyama K<sup>6)</sup>, Tomoyasu S<sup>7)</sup>, Nonaka Y<sup>3)</sup>, Mori M<sup>2)</sup>, Dan K, Yoshida Y<sup>8)</sup>（<sup>1)</sup>Otsuka Assay Laboratories, <sup>2)</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>3)</sup>Tokyo Metropolitan Police Hospital, <sup>4)</sup>Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>5)</sup>Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital, <sup>6)</sup>Kawasaki Medical School, Okayama, <sup>7)</sup>Showa University, <sup>8)</sup>Takeda Hospital, Kyoto, ) : CLINICAL SIGNIFICANCE OF PHENOTYPIC FEATURES OF BLASTS IN MYELODYSPLASTIC SYNDROMES . 7th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes ( Paris ), 2003 . 5 .
- 2) Tsukui T, Shinoki K, Shinji Y, Shindou M, Kusunoki M, Iizumi H, Takeyama H, Miura S, Hiratsuka T, Nagata K, Nishigaki H, Futagami S, Miyake K, Wada K, Sakamoto C : Basic fibroblast growth factor (bFGF) is involved in vascular endothelial growth factor (VEGF) production in human gastric fibroblasts through cyclooxygenase-2 dependent and independent pathway . The 10th Taisho International Symposium on Gastroenterology , 2003 . 4 .
- 3) 坂本長逸：COX-2の消化管粘膜における役割．第47回日本リウマチ学会総会，2003．4．
- 4) 岩切勝彦，林 良紀，坂本長逸：健常者，逆流性食道炎患者の胃食道逆流の違い．第45回日本消化器病学会大会，2003．10．
- 5) 三宅一昌，辰口篤志，坂本長逸：胃隆起性病変：観察か摘出か胃腺腫に対する*H. pylori*除菌の位置づけと，NSAIDsによるケモプリベンションの可能性について．第77回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2003．12．

(3) パネルディスカッション：

- 1) 平塚哲郎, 二神生爾, 辰口篤志, 鈴木健司, 進士陽子, 楠 正典, 飯泉 匡, 篠木 啓, 西垣 均, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸：ICAM-1発現調節を介したCOX-2による胃粘膜防御機構の検討。第35回胃分泌研究会, 2003. 5.
- 2) 岩切勝彦, 田中由理子, 林 良紀, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 川上明彦, 坂本長逸：胃粘膜背景, 年齢からみた逆流性食道炎 (RE) の頻度および5年間のREの推移。第57回日本食道学会学術集会, 2003. 6.
- 3) 林 良紀, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 田中由理子, 川上明彦, 坂本長逸：健常者, 逆流性食道炎患者の胃食道逆流のメカニズム。第57回日本食道学会学術集会, 2003. 6.

(4) ワークショップ：

- 1) 金沢秀典, 間宮康貴, 木村 祐, 坂本長逸：難治性腹水に対するTIPS治療成績と術後肝性脳症。第10回日本門脈圧亢進症学会総会, 2003. 9.
- 2) 中塚雄久, 小泉信人, 長田祐二, 坂本長逸：Portal Hypertensive Gastropathy (PHG) の治療方針に関する検討。第10回日本門脈圧亢進症学会総会, 2003. 9.
- 3) 榎原義之, 金沢秀典, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 小泉信人, 名知志子, 坂本長逸：難治性腹水の臨床像とTIPS施行による病態の変化。第10回日本門脈圧亢進症学会総会, 2003. 9.
- 4) 片倉玲樹, 金沢秀典, 厚川正則, 坂本長逸：門脈圧亢進症を呈した特発性肝内APシャントの2例。第10回日本門脈圧亢進症学会総会, 2003. 9.
- 5) 二神生爾, 辰口篤志, 坂本長逸：*H. pylori*感染により誘導される胃粘膜上皮由来MCP-1によるT cellおよび血管内皮細胞由来COX-2発現刺激作用の検討。第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 6) 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>(1)</sup>外科学第1): 食道癌術後残存食道における逆流性食道炎パレット食道への伸展。第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.

(5) 一般講演：

- 1) Shinoki K, Tsukui T, Shinji Y, Tatsuguchi A, Hiratsuka T, Kusunoki M, Nishigaki H, Futagami S, Wada K, Miyake K, Gudis K, Sakamoto C : bFGF stimulates VEGF production through MEK-, PI-3 Kinase- and COX-2-PGE2-dependent pathway in gastric fibroblasts . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Orlando, USA ), 2003 . 5 .
- 2) Nagata K, Wada K, Tatsuguchi A, Futagami S, Miyake K, Tsukui T, Gudis K, Sakamoto C : Heregulin released from gastric fibroblasts via a COX-2-PGE2 pathway stimulates ErbB3 tyrosine phosphorylation in MKN-28 gastric epithelial cells . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Orlando, USA ), 2003 . 5 .
- 3) Miyake K, Tsukui T, Shinji Y, Suzuki K, Shinoki K, Hiratsuka T, Sugiura T, Nishigaki H, Futagami S, Wada K, Iwakiri K, Sakamoto C : Teprenone, but not H2-receptor blocker or sucralfate, suppresses corpus *Helicobacter pylori* colonization and gastritis in humans : teprenone inhibition of *H. pylori*-induced IL-8 in MK-28 gastric epithelial cells . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Orlando, USA ), 2003 . 5 .
- 4) Futagami S, Hiratsuka T, Suzuki K, Tatsuguchi A, Kusunoki M, Shinji Y, Shinoki K, Gudis K, Akamatsu T, Nishigaki H, Wada K, Miyake K, Tsukui C, Sakamoto C : COX-2 and VEGF expression in endothelial cells through their interaction with CD40-CD40 ligand in *Helicobacter pylori* infection . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Orlando, USA ), 2003 . 5 .
- 5) Iwakiri K, Hayashi Y, Kotoyori M, Sugiura T, Kawakami A, Sakamoto C : Acid reflux is common at the proximal margin of lower esophageal sphincter (LES) but gastric acid does not come up at 5 cm above the

- proximal margin of LES in healthy subjects . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Orlando, USA ), 2003 . 5 .
- 6) Hayashi Y , Iwakiri K , Kotoyori M , Sugiura T , Kawakami A , Sakamoto C : Mechanisms of gastroesophageal reflux in Japan : The rate of acid reflux during transient lower esophageal sphincter relaxation ( TLESR ) is very low, compared with that reported from western countries . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Orlando, USA ), 2003 . 5 .
  - 7) Hiratsuka T , Futagami S , Tatsuguchi A , Suzuki K , Kusunoki M , Shinji Y , Shinoki K , Gudis K , Nishigaki H , Wada K , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : COX-2 but not COX-1 protects gastric mucosa against ischemia-reperfusion injuries via down-regulation of ICAM-1 expression in mice . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Orlando, USA ), 2003 . 5 .
  - 8) Wada K , Nagata K , Tatsuguchi A , Futagami S , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : Induction of ectodomain shedding of TGF- $\beta$  by *Helicobacter pylori* in gastric epithelial cells . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Orlando, USA ), 2003 . 5 .
  - 9) Tatsuguchi A , Gudis K , Sakamoto C : Effect of *Helicobacter pylori* infection on ghrelin expression in human gastric mucosa . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Orlando, USA ), 2003 . 5 .
  - 10) Tsukui T : Role of cyclooxygenase ( COX ) -2 on the production of vascular endothelial growth factor ( VEGF ) in gastric cancer cells in vitro . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Orlando, USA ), 2003 . 5 .
  - 11) Iwakiri K , Nind G , Zou DW , Sifrim D , Rigda R , Dent J , Holloway RH : Regional variations in postprandial gastric pH and their relationship to acid reflux in healthy volunteers . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association ( Orlando, USA ), 2003 . 5 .
  - 12) Nind G , Chen WH , Iwakiri K , Zou DW , Fraser RJ , Young R , Sifrim D , Rigda R , Holloway RH : Mechanisms of gastroesophageal reflux in critically ill mechanically-ventilated patients . The 104th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association , 2003 . 5 .
  - 13) Ishii S , Kamegai J , Tamura H , Shimizu T , Sugihara H , Oikawa S : Role of ghrelin and leptin in hyperphagia associated with T3 induced thyrotoxicosis . The 85 th Annual Meeting, The Endocrin Society ( Philadelphia ), 2003 . 6 .
  - 14) Takubo T<sup>1)</sup> , Arai T<sup>2)</sup> , Iwakiri K ( <sup>1)</sup> Human Tissue Research Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center ) : Squamous Islands in Barrett's Esophagus Are of the Orifices of Esophageal Glands Proper . O. E. S. O 2003 ( Paris, France ), 2003 . 8 .
  - 15) Inokuchi K , Miyake K , Miyake N , Inami M , Yamaguchi H , Tanosaki S , Dan K , Shimada T : Adenoviral vector mediated anti-angiogenic molecule, Endostatin, is effective for myeloproliferative disease of p230 bcr/abl expressing transgenic mouse . 45th Annual Meeting of the American Society of Hematology ( San Diego ), 2003 . 12 .
  - 16) Inami M , Tarusawa M , Tanosaki S , Yamaguchi H , Uchida N , Watanabe A , Inokuchi K , Dan K : Growth inhibitory effect of imatinib on megakaryocytosis in p230 bcr/abl transgenic mice . 45th Annual Meeting of the American Society of Hematology ( San Diego ), 2003 . 12 .
  - 17) Tamura H , Ogata K , Yokose N , Nakamura K , Shioi Y , Hyodo H , Tachibana M , Dong H , Wang S , Chen L , Dan K : Expression and role of B7 family molecules, B7-H1 and B7-H2, in patients with acute myeloid leukemia . 45th Annual Meeting of the American Society of Hematology ( San Diego ), 2003 . 12 .

- 18) Uchida N, Tajika K, Nakayama K, Dan K : Cyclosporine ( CSP ) and short term methotrexate ( MTX ) can induce engraftment in cord blood transplantation conditioned with reduced-intensity regimen . 45th Annual Meeting of the American Society of Hematology ( San Diego ), 2003 . 12 .
- 19) Miura S<sup>1)</sup>, Tsukui T, Shinoki K, Takeyama H<sup>1)</sup>, Akamatsu T, Miyake K, Wada K, Mizokami Y<sup>1)</sup>, Kobayashi M, Matsuoka T<sup>1)</sup>, Sakamoto C ( <sup>1)</sup>5th Dept. of Internal Medicine ): Differential effects of cyclooxygenase-2 on vascular endothelial growth factor production in gastric fibroblasts and cancer cells . The 10th Taisho International Symposium on Gastroenterology , 2003 . 4 .
- 20) Yamaguchi H, Baerlocher GM, Chanock SJ, Lansdorp PM, Young NS : Telomerase Reverse Transcriptase Enzyme Gene ( hTERT ) Mutations in Patients with Bone Marrow Failure . The 45th ( 2003 ) Annual Meeting of The American Society of Hematology , 2003 .
- 21) Taylor JG, Yamaguchi H, Young NS, Liu JM, Chanock SJ : Common SNPs, Haplotypes, and Patterns of Linkage Disequilibrium in the FANCA Gene . The 45th Annual Meeting of The American Society of Hematology , 2003 .
- 22) 矢島宏昭<sup>1)</sup>, 三浦 裕<sup>1)</sup>, 沓掛 登志子<sup>1)</sup>, 近藤恵二<sup>1)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup>キリンビール・基盤研 ): ビール苦味成分のヒト摂取試験 . 日本農芸化学会2003年度大会, 2003 . 4 .
- 23) 小泉信人, 金沢秀典, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 名知志子, 中塚雄久, 黒田 肇, 坂本長逸 : *H. pylori*感染を合併したPortal hypertensive gastropathy ( PHG ) 症例の除菌治療による内視鏡像の変化 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 24) 林 良紀, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 川上明彦, 坂本長逸 : 健常者, 逆流性食道炎患者の胃食道逆流のメカニズム . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 25) 三宅一昌, 津久井拓, 鈴木健司, 進士陽子, 楠 正典, 飯泉 匡, 平塚哲郎, 篠木 啓, 永田和弘, 西垣 均, 辰口篤志, 杉浦敏昭, 二神生爾, 和田 謙, 岩切勝彦, 坂本長逸 : *H. pylori*感染によって胃粘膜上皮に誘導されるIL-8と, *H. pylori*関連胃炎に与えるテブレノンの影響 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 26) 篠木 啓, 進士陽子, 津久井拓, 鈴木健司, 楠 正典, 飯泉 匡, 平塚哲郎, 赤松知憲, 西垣 均, 二神生爾, 三宅一昌, 和田 謙, 坂本長逸 : 培養ヒト胃線維芽細胞における血管内皮細胞増殖因子発現の機序に関する検討 . 89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 27) 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 川上明彦, 坂本長逸 : 胃粘膜背景, 年齢からみた逆流性食道炎の頻度 . 第100回日本内科学会総会, 2003 . 4 .
- 28) 亀谷 純, 石井新哉, 田村秀樹, 杉原 仁, 及川眞一 : 下垂体のグレリンに関する検討 ; 甲状腺ホルモンの及ぼす効果 . 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003 . 5 .
- 29) 江本直也, 城所 葉, 芦沢真代, 小野瀬裕之, 及川眞一, 清水一雄<sup>1)</sup>, 豊田亜希子<sup>2)</sup>, 豊田英尚<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学外科学第2, <sup>2)</sup>理化学研究所フロンティア研究システム糖鎖研究チーム, <sup>3)</sup>千葉大学大学院薬学研究院生体分析化学研究室 ): 甲陽線乳頭癌組織内へパラン硫酸におかるFGF-2細胞増殖促進性構造の増加 . 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003 . 5 .
- 30) 中島 泰, 岡島史宜, 谷村恭子, 小野千速, 杉原 仁, 明樂一己<sup>1)</sup>, 橋本隆男<sup>1)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup>東京薬科大薬学部病態生理学 ): 動脈硬化モデルウサギにおける糖化最終産物 ( AGE ) の沈着とベシル酸アムロジピン, フルバスタチンナトリウムに抑制効果 . 第46回日本糖尿病学会, 2003 . 5 .
- 31) 岡島史宜, 中島 泰, 栗原美樹子, 谷村恭子, 小野千速, 杉原 仁, 及川眞一 : 膵 細胞における各種リボタンパク取り込み能について . 第46回日本糖尿病学会, 2003 . 5 .
- 32) 小野千速, 岡島史宜, 栗原美樹子, 谷村恭子, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一 : 膵 細胞のインスリン分泌能に対する各種リボタンパクの影響 . 第46回日本糖尿病学会, 2003 . 5 .
- 33) 谷村恭子, 石垣 泰, 岡島史宜, 中島 泰, 小野千速, 栗原美樹子, 杉原 仁, 及川眞一 : 原発性高カイロミ

- クロン血症とインスリン分泌能．第46回日本糖尿病学会，2003．5．
- 34) 矢島宏昭<sup>1)</sup>，池島恵美子<sup>1)</sup>，白木真穂<sup>1)</sup>，金谷知華<sup>1)</sup>，近藤恵二<sup>1)</sup>，及川眞一<sup>(1)</sup>キリンビール・基盤研): イソフムロンの糖尿病改善作用．第46回日本糖尿病学会，2003．5．
- 35) 矢島宏昭<sup>1)</sup>，池島恵美子<sup>1)</sup>，近藤恵美子<sup>1)</sup>，近藤恵二<sup>1)</sup>，笹岡(坪山) 宜代<sup>2)</sup>，江崎 治<sup>2)</sup>，及川眞一<sup>(1)</sup>キリンビール・基盤研，<sup>2)</sup> 国立健康栄養研・生活習慣病): ビール苦味成分の脂肪蓄積抑制作用．第57回日本栄養食料学会大会，2003．5．
- 36) 杉原 仁，周東祐仁，石井新哉，田村秀樹，亀谷 純，及川眞一: 成人成長ホルモン欠損症(GHD) に対するGH投与による浮腫とVEGFとの関係について．第76回日本内分泌学会学術総会，2003．5．
- 37) 石井新哉，亀谷 純，田村秀樹，杉原 仁，及川眞一: 甲状腺中毒症ラットの過食における2次中枢摂食ペプチドとNPY/Y1受容体系の役割．第76回日本内分泌学会学術総会，2003．5．
- 38) 小林 剛，三井啓吾，進藤智隆，大磯義一郎，関田祥久，瀬尾継彦，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，篠澤功，田中 周，辰口篤志，吉田 豊，坂本長逸，藤森俊二，岸田輝幸: 胆石イレウスの2例．第274回日本消化器病学会関東支部例会，2003．5．
- 39) 藤森俊二，岸田輝幸，大磯義一郎，関田祥久，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，篠澤功，田中 周，辰口篤志，吉田 豊，坂本長逸，横井公良<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1): 女性における大腸腺腫の有無と血清コレステロールとの関係に対する検討．第65回日本消化器内視鏡学会総会，2003．5．
- 40) 玉井勇人，進藤智隆，足澤美樹，中村恭子，檀 和夫: 形態学的診断が困難であった形質細胞白血病の1例．第147回日本臨床血液学会例会，2003．6．
- 41) 三井啓吾，田中 周，大磯義一郎，小林 剛，関田祥久，瀬尾継彦，米澤真興，柴田喜明，永田和弘，篠澤功，辰口篤志，吉田 豊，坂本長逸，藤森俊二，岸田輝幸: 肺結核の治療中に発症した，サイトメガロウイルス腸炎の1例．第76回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2003．6．
- 42) 小林 剛，三宅一昌，吉沢徹哉，厚川正則，平塚哲郎，西垣 均，二神生爾，津久井拓，坂本長逸: アルゴンプラズマ凝固療法(APC) による貧血の改善を見たGAVEの1例．第76回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2003．6．
- 43) 田中由理子，岩切勝彦，滝 保彦，林 良紀，琴寄 誠，杉浦敏昭，川上明彦，坂本長逸: 10年の経過で診断されたアカラシアの1例．第76回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2003．6．
- 44) 二神生爾，松谷 毅，平塚哲郎，瀬尾継彦，鈴木健司，進士陽子，篠木 啓，林 良紀，楠 正典，三宅一昌，岩切勝彦，津久井拓，坂本長逸: 遠位胃切除により症状が軽快した胃拡張症の1例．第142回東京内科医会，2003．6．
- 45) 岩切勝彦，田中由理子，林 良紀，琴寄 誠，杉浦敏昭，川上明彦，坂本長逸，新井富生<sup>1)</sup>，田久保海誉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 東京都老人医療センター臨床病理科，<sup>2)</sup> 東京都老人総合研究所高齢者の臓器と組織の研究グループ(臨床病理部門)): 下部食道円柱上皮内の扁平上皮島の生検はバレット上皮の診断に有用である．第57回日本食道学会学術集会，2003．6．
- 46) 琴寄 誠，岩切勝彦，田中由理子，林 良紀，杉浦敏昭，川上明彦，坂本長逸，牧野浩司<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1): 新しい食道内圧システム(21 channel topography) によるdysphagia症例の検討．第57回日本食道学会学術集会，2003．6．
- 47) 片倉玲樹，金沢秀典，厚川正則，滝 保彦，木村 祐，檜原義之，間宮康貴，長田祐二，小泉信人，中塚雄久，坂本長逸: 特発性肝内AP shuntの2例．第6回Portal Hypertension Forum，2003．6．
- 48) 松谷 毅，平塚哲郎，鈴木健司，進士陽子，楠 正典，瀬尾継彦，林 良紀，飯泉 匡，篠木 啓，篠澤功，二神生爾，三宅一昌，津久井拓，坂本長逸，張 一光<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1): 消化性潰瘍による幽門輪狭窄と嚢状胃を合併し高度の胃拡張をきたしたパーキンソン病の1例．

第275回日本消化器病学会関東支部例会，2003．7．

- 49) 岩切勝彦，林 良紀，田中由理子，琴寄 誠，杉浦敏昭，川上明彦，坂本長逸：健常者，逆流性食道炎患者の一過性LES弛緩の違い．第45回日本平滑筋学会総会，2003．7．
- 50) 林 良紀，岩切勝彦，杉浦敏昭，琴寄 誠，田中由理子，川上明彦，坂本長逸：食道運動機能に及ぼす加齢の影響．第45回日本平滑筋学会総会，2003．7．
- 51) 田村秀人，横瀬紀夫，中村恭子，塩井由美子，橘美紀子，兵働英也，緒方清行，檀 和夫：急性骨髄性白血病細胞における補助刺激分子B7-H2( ICOS ligand )の発現と予後との関連．第45回日本臨床血液学会総会，2003．8．
- 52) 塩井由美子，横瀬紀夫，橘美紀子，兵働英也，中村恭子，田村秀人，緒方清行，檀 和夫：骨髄異形成症候群患者リンパ球のspontaneous apoptosisに関する検討．第45回臨床血液学会総会，2003．8．
- 53) 田近賢二，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫：多発性骨髄腫に対するサリドマイド使用自経験例．第45回日本臨床血液学会，2003．8．
- 54) 水木太郎，田近賢二，内田直也，橋本充弘，中山弘之，中山一隆，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫：妊娠21週で発症し，健康女児を出産したALLの1例．第45回日本臨床血液学会，2003．8．
- 55) 橋本充弘，田近賢二，内田直也，中村弘之，水木太郎，中山一隆，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫：当科で施行した血液悪性疾患に対する臍帯血ミニ移植．第45回日本臨床血液学会，2003．8．
- 56) 中村弘之，田近賢二，内田直也，橋本充弘，中山一隆，山田 隆，緒方清行，猪口孝一，檀 和夫：臍帯血移植が奏功した治療不応性の進行期follicular lymphomaの1例．第45回日本臨床血液学会，2003．8．
- 57) 亀谷 純，田村秀樹，石井新哉，杉原 仁，及川眞一：下垂体のグレリンに関する検討；GHRH作用の増強効果について．第30回日本神経内分泌学会，2003．9．
- 58) 岡島史宜，栗原美樹子，小野千速，中島 泰，谷村恭子，杉原 仁，及川眞一：酸化LDLによるインスリン分泌障害．第35回日本動脈硬化学会，2003．9．
- 59) 中島 泰，岡島史宜，谷村恭子，小野千速，杉原 仁，明樂一己<sup>1)</sup>，橋本隆男<sup>1)</sup>，及川眞一<sup>(1)</sup>東京薬科大学薬学部病態生理学)：動脈硬化モデルウサギにおける糖化最終産物( AGE )の沈着とベシル酸アムロジピン，フルバスタチンナトリウムに抑制効果．第35回日本動脈硬化学会，2003．9．
- 60) 小野千速，岡島史宜，中島 泰，谷村恭子，杉原 仁，小竹英俊<sup>1)</sup>，及川眞一<sup>(1)</sup>仙台赤十字病院検診センター)：各年代におけるアディポネクチンと代謝因子の関係．第35回日本動脈硬化学会，2003．9．
- 61) 谷村恭子，岡島史宜，小野千速，中島 泰，杉原 仁，及川眞一：Fluvastatinの血清過酸化資質に対する影響．第35回日本動脈硬化学会，2003．9．
- 62) 近藤麻加，田村秀人，中村恭子，檀 和夫：再生不良性貧血類似の病態で発症したT-PLLの1例．第148回日本臨床血液学会例会，2003．10．
- 63) 厚川正則，片倉玲樹，木村 祐，滝 保彦，檜原義之，間宮康貴，長田祐二，中塚雄久，小泉信人，金沢秀典，坂本長逸：肝angiomyolipomaとして経過観察中に短期間で増大し，生検診断の上治療し得た中分化型肝細胞癌の1例．第276回日本消化器病学会関東地方会，2003．10．
- 64) 田中 周，津久井拓，辰口篤志，三井啓吾，瀬尾継彦，米澤真興，柴田喜明，永田和弘，篠澤 功，二神生爾，藤森俊二，三宅一昌，和田 謙，岸田輝幸，坂本長逸：大腸腺腫のマクロファージにおけるCOX-2発現に対するMCP-1の役割．第45回日本消化器病学会大会，2003．10．
- 65) 平塚哲郎，二神生爾，辰口篤志，鈴木健司，進士陽子，楠 正典，飯泉 匡，篠木 啓，西垣 均，和田 謙，三宅一昌，津久井拓，坂本長逸：ICAM-1発現調節を介するCOX-2による胃粘膜防御機構の検討：マウス胃虚血再灌流傷害モデルを用いて．第45回日本消化器病学会大会，2003．10．
- 66) 進士陽子，津久井拓，篠木 啓，楠 正典，鈴木健司，平塚哲郎，二神二爾，和田 謙，三宅一昌，坂本長逸：胃潰瘍修復過程におけるmPGESの発現．第45回日本消化器病学会大会，2003．10．



- 67) 三宅一昌, 辰口篤志, 進士陽子, 鈴木健司, 平塚哲郎, 篠木 啓, 西垣 均, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: 胃腺腫に対する *H. pylori* 除菌や NSAIDs によるケモプリベンションの可能性について: 内視鏡学的, 免疫組織学的検討を中心に. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 68) 和田 謙, 永田和弘, 西垣 均, 辰口篤志, 二神生爾, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: 胃上皮細胞におけるヘリコバクターピロリ菌による膜アンカー型 TGF- $\beta$  の shedding 作用に関する検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 69) 篠澤 功, 二神生爾, 柴田喜明, 小林 剛, 大磯義一郎, 関田禎久, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 平塚哲郎, 米澤真興, 永田和弘, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 三宅一昌, 津久井拓, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸: 選択的 COX-2 阻害剤 (cercecoxib) + DSS 腸炎モデルを用いた COX-2, mPGES の局在部位に対する検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 70) 長田祐二, 金沢秀典, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 小泉信人, 名知志子, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝硬変における閉塞肝静脈圧と直接門脈圧の一致性に関する検討: 肝静脈間吻合の影響. 第45回日本消化器病学会総会, 2003. 10.
- 71) 間宮康貴, 金沢秀典, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 長田祐二, 小泉信人, 名知志子, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPS 後脳症とその長期予後に及ぼす影響. 第45回日本消化器病学会総会, 2003. 10.
- 72) 榎原義之, 金沢秀典, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 小泉信人, 名知志子, 坂本長逸: 難治性腹水に対する TIPS の治療成績. 第5回肝不全治療研究会, 2003. 10.
- 73) 滝 保彦, 金沢秀典, 名知志子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 榎原義之, 長田祐二, 間宮康貴, 小泉信人, 中塚雄久, 坂本長逸: ドップラー超音波検査による propranolol non-responder の検出. 第45回日本消化器病学会総会, 2003. 10.
- 74) 城所 葉, 江本直也, 芦沢真代, 小野瀬裕之, 及川眞一, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): ヒトサイログロブリンのヘパリン結合性の解析. 第46回日本甲状腺学会, 2003. 11.
- 75) 小野瀬裕之, 立澤夏紀, 原田太郎, 中島 泰, 吉沢雅史, 岸田輝幸, 江本直也: 強力な免疫抑制療法にもかかわらず甲状腺機能調節に難渋した SLE 合併 Basedow 病の1例. 第46回日本甲状腺学会, 2003. 11.
- 76) 谷村恭子, 岡島史宜, 小野千速, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一: 小児におけるアディポサイトカインと各種代謝関連因子の相関. 第24回日本肥満学会, 2003. 11.
- 77) 関田祥久, 藤森俊二, 岡部雅弘, 大磯義一郎, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 篠澤 功, 田中 周, 辰口篤志, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸: 特異な形態を呈した直腸脂肪腫の1例. 第77回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003. 11.
- 78) 植木信江, 三宅一昌, 篠木 啓, 鈴木健司, 楠 正典, 進士陽子, 平塚哲郎, 西垣 均, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: 胃潰瘍除菌後の再発性 HP 陰性十二指腸潰瘍. 第77回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003. 11.
- 79) 岡部雅弘, 林 良紀, 琴寄 誠, 田中由理子, 間宮康貴, 杉浦敏昭, 三宅一昌, 岩切勝彦, 川上明彦, 坂本長逸: 前胸部痛を呈した好酸球性胃腸症の1例. 第77回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003. 11.
- 80) 田近賢二, 中山一隆, 檀 和夫: 臍帯血移植後の肝静脈閉塞症 (VOD) に対し, TIPS を造設した1例. 第26回日本造血細胞移植学会, 2003. 12.
- 81) 田中由理子, 岩切勝彦, 林 良紀, 川上明彦, 坂本長逸, 琴寄 誠, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): 300mmHg 以上の高波高を有する下部食道同時性収縮波により嘔吐を繰り返したアカラシアの1例. 第277回日本消化器病学会関東支部例会, 2003. 12.
- 82) 荻野まり子, 石井新哉, 岡島史宜, 城所 葉, 谷村恭子, 田村秀樹, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: プラバスタチンによる浮腫の経過中に Vascular Endothelial Growth Factor の変化をきたした糖尿病. 第41回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2004. 1.

- 83) 玉井勇人, 中村恭子, 檀 和夫: 本態性血小板血症から移行した骨髓線維症に病的骨折を伴う骨髓芽球腫を合併し, その後短期間に白血病化した1例. 第515回日本内科学会関東地方会, 2004. 2.
- 84) 渡邊綾子, 水木太郎, 中村恭子, 檀 和夫: 同種臍帯血移植後寛解を維持している化学療法抵抗性Ph陽性急性混合性白血病の1例. 第149回日本臨床血液学会例会, 2004. 2.
- 85) 加納稔子, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 城所 葉, 岡島史宜, 谷村恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 出産後甲状腺機能低下症に視床下部性副腎皮質機能低下症を合併し, その後, 軽快した1例. 第4回日本内分泌学会関東・甲信越支部学術集会, 2004. 2.
- 86) 福田 健, 加納稔子, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 城所 葉, 岡島史宜, 谷村恭子, 杉原 仁, 及川眞一: 視床下部性副腎皮質機能低下症の2例. CRH・ACTH研究会, 2004. 2.
- 87) 三富規行, 長田祐二, 津久井拓, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 小泉信人, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: アルコール性肝硬変に合併したクリプトコッカス髄膜炎の1例. 第278回日本消化器病学会関東支部例会, 2004. 2.
- 88) 城所 葉, 杉原 仁, 谷村恭子, 岡島史宜, 石井新哉, 亀谷 純, 及川眞一: 甲状腺ホルモン測定系に影響を及ぼす薬剤. 第14回臨床内分泌代謝Update, 2004. 3.
- 89) 北村由梨, 城所 葉, 岡島史宜, 谷村恭子, 石井新哉, 田村秀樹, 亀谷 純, 杉原 仁, 寺本 明<sup>1)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup>脳神経外科 ): 診断に苦慮したCushing病. 第14回臨床内分泌代謝Update, 2004. 3.

## 4. 内科学第四講座

### [ 付属病院呼吸器内科 ]

#### 研究概要

呼吸器疾患を対象に、平成15年度は以下の臨床的、基礎的研究を展開した。

炎症グループ：臨床研究は、びまん性肺疾患を中心とした病態研究として特発性間質性肺炎の活動性指標、KL-6、SP-D、SP-A 値の推移、ANCA 値の推移解析、治療研究としてNAC療法、免疫抑制療法、不随する免疫不全状態に伴う感染病態の治療、評価、また慢性気道炎症（DPBならびに類縁疾患を対象）に対するマクロライド療法、作用機序解析、サルコイドーシスの眼病変合併肺病変の解析を行っている。基礎研究は、間質性肺炎・肺線維症の病態に焦点を当て、肺傷害と修復にかかわる因子の解析ならびに細胞・組織再生についての基礎的解明をプレオマイシン肺傷害マウスモデル、放射線肺傷害モデルを用いて解析している。また、大気環境の健康被害影響を解明するためにディーゼル排気粒子曝露の影響を検討している。これらは厚生労働科学研究、公害健康被害補償予防協会の助成を受けて進められている。

腫瘍グループ：（臨床研究）肺癌化学療法の臨床的検討；TXT+CDDP vs TXT+GEM（phase II）、GEM+VNR（phase I）、second line CBDCA+TXL（phase I）、elderly GEM+VNR vs VNR（phase II）、small cell lung cancer alternating therapy、遺伝子解析・発現解析によるオーダーメイド治療、肺癌検診の意味。（基礎的研究）肺癌高転移能に関わる因子の単離、肺線維症の発癌メカニズムの分子生物学的検討、肺癌のオーダーメイド治療の基礎的研究、肺癌抑制遺伝子候補の単離、イレッサ至適投与法の開発、cDNA array-based chemotherapy design法の開発。

呼吸生理グループ：慢性閉塞性肺疾患（COPD）と睡眠時無呼吸症候群（SAS）の専門外来、研究施設として、市ヶ谷に「日本医科大学呼吸ケアクリニック」を開設した。COPD、SASを生活習慣病として位置づけし、薬物療法、栄養・運動療法に関する研究を開始した。特に肥満・痩せの評価・指導を科学的根拠に基づき検討した。また、局地的大気汚染による健康影響に関する疫学的調査設計の検討や離島における大気汚染と呼気中NOとの関係の研究、COPDの疫学調査、びまん性肺疾患の肺音の音響学的解析、咳嗽音の音響学的解析と咳カウンターの開発などの発表を行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Seike M, Kondo T, Mori Y, Gemma A, Kudoh S, Sakamoto M, Yamada T, Hirohashi S : Proteomic analysis of intestinal epithelial cells expressing stabilized beta-catenin . *Cancer Research* 2003 ; 63 ( 15 ) : 4641-4647 .
- 2) Hashimoto Y<sup>1)</sup>, Murata A, Mikami M<sup>1)</sup>, Nakamura S<sup>1)</sup>, Yamanaka E<sup>1)</sup>, Kudoh S ( <sup>1)</sup>Department of Respiratory Medicine, Tokyo Metropolitan Hiro-o General Hospital ): Influence of the rheological properties of airway mucus on cough sound generation . *Respirology* 2003 ; 8 ( 1 ) : 45-51 .
- 3) Yoshimura A, Gemma A, Hosoya Y, Komaki E, Hosomi Y, Okano T, Takenaka K, Matsuda K, Seike M, Uematsu K, Hibino S, Shibuya M, Yamada T<sup>1)</sup>, Hirohashi S<sup>1)</sup>, Kudoh S ( <sup>1)</sup>National Cancer Center Research Institute ): Increased expression of the LGALS3 ( galectin 3 ) gene in human non-small-cell lung cancer . *Genes Chromosomes Cancer* 2003 ; 37 ( 2 ) : 159-164 .
- 4) Enomoto T, Usuki J, Azuma A, Nakagawa T<sup>1)</sup>, Kudoh S ( <sup>1)</sup>Omiya City Clinic, Saitama, Japan ): Diabetes Mellitus May Increase Risk for Idiopathic Pulmonary Fibrosis . *CHEST* 2003 ; 123 : 2007-2011 .

- 5) Azuma A , Miyamoto H , Enomoto T , Usuki J , Kudoh S : Familial Clustering of Dendriiform Pulmonary Ossification . Sarcoidosis Vasculitis and Diffuse Lung Disease 2003 ; 20 : 152-154 .
  - 6) Nakamura S , Hashimoto Y , Mikami M , Yamanaka E , Soma T , Hino M , Azuma A , Kudoh S : Effect of the proteolytic enzyme serrapeptase in patients chronic airway diseases . Respirology 2003 ; 8 : 316-320 .
  - 7) Hosomi Y , Gemma A , Hosoya Y , Nara M , Okano T , Takenaka K , Yoshimura A , Koizumi K<sup>1)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> , Kudoh S ( <sup>1)</sup>Department of Surgery II, Nippon Medical School ): Somatic mutation of the Caspase-5 gene in human lung cancer . Int J Mol Med 2003 ; 12 ( 4 ): 443-446 .
  - 8) Xue Jun H , Gemma A , Hosoya Y , Matsuda K , Nara M , Hosomi Y , Okano T , Kurimoto F , Seike M , Takenaka K , Yoshimura A , Toyota M<sup>1)</sup> , Kudoh S ( <sup>1)</sup>Sapporo Medical University, School of Medicine ): Reduced transcription of the RB2/p130 gene in human lung cancer . Mol Carcinog 2003 ; 38 ( 3 ): 124-129 .
  - 9) Hiramatsu K , Azuma A , Kudoh S , Desaki M<sup>1)</sup> , Takizawa H<sup>1)</sup> , Sugawara I<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine , <sup>2)</sup>Department of Molecular Pathology, The Research Institute of Tuberculosis ): Inhalation of diesel exhaust for three months affects major cytokine expression and induces bronchus-associated lymphoid tissue formation in murine lungs . Experimental Lung Research 2003 ; 29 ( 8 ): 607-622 .
  - 10) Kondo T<sup>1)</sup> , Seike M , Mori Y<sup>1)</sup> , Fujii K<sup>1)</sup> , Yamada T<sup>1)</sup> , Hirohashi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>National Cancer Center Research Institute ): Application of sensitive fluorescent dyes in linkage of laser microdissection and two-dimensional gel electrophoresis as a cancer proteomic study tool . Proteomics 2003 ; 3 ( 9 ): 1758-1766 .
  - 11) 村田 朗 : 在宅酸素療法におけるテレメディスンの利用と問題点 . 呼吸管理学会誌 2003 ; 12 ( 3 ): 293-298 .
  - 12) 伊藤永喜 , 村田 朗 , 山本和男 , 工藤翔二 : 慢性閉塞性肺疾患患者における睡眠呼吸障害の合併と体重減少との関連 . 日本呼吸器学会雑誌 2003 ; 41 ( 4 ): 268-275 .
  - 13) 山本和男 , 伊藤永喜 , 金子泰之 , 村田 朗 , 工藤翔二 : 若年者の中枢型無呼吸症候群に対し夜間NPPVを導入することで臨床症状の改善をみた1症例 . 臨床呼吸生理 2003 ; 35 ( 1 ): 15-18 .
  - 14) 木田厚瑞 : COPD ( 慢性閉塞性肺疾患 ): 高齢者における問題 . 日老医誌 2003 ; 40 ( 5 ): 455-458 .
  - 15) 大原國俊<sup>1)</sup> , 山口恵子<sup>1)</sup> , 中嶋花子<sup>1)</sup> , 東 永子<sup>1)</sup> , 村野奈緒<sup>1)</sup> , 志和利彦<sup>1)</sup> , 工藤翔二 , 吾妻安良太 , 高橋卓夫 ( <sup>1)</sup>眼科学 ): 気管支肺胞洗浄が追加されたサルコイドーシス臨床診断基準改訂と眼サルコイドーシス診断 . 日本サルコイドーシス / 肉芽腫性疾患学会雑誌 2003 ; 23 : 53-56 .
  - 16) 山口恵子<sup>1)</sup> , 中嶋花子<sup>1)</sup> , 東 永子<sup>1)</sup> , 大原國俊<sup>1)</sup> , 高橋卓夫 , 吾妻安良太 , 工藤翔二 ( <sup>1)</sup>眼科学 ): サルコイドーシス診断基準による眼サルコイドーシスの診断 . 日本眼科学会雑誌 2004 ; 108 : 98-102 .
  - 17) 村田 朗 : 呼吸リハビリテーションの臨床展開の追及 : 新たな運動療法マニュアルの作成と将来像 . 日本呼吸管理学会誌 2004 ; 13 ( 3 ): 428-432 .
- (2) Review :
- 1) Azuma A : Idiopathic Pulmonary Fibrosis -Possible new treatments and recent clinical trials . Japan Medical Association Journal ( JMAJ ) 2003 ; 46 : 483-489 .
- (3) 座談会 :
- 1) 工藤翔二 , 吾妻安良太 , 田口善夫 , 上甲 剛 , 貫和敏博 : 特集 : 間質性肺炎をめぐって . MEDICO誌 2003 ; 34 : 21-31 .
  - 2) 菅 守隆<sup>1)</sup> , 吾妻安良太 , 桑野和善<sup>2)</sup> , 海老名雅仁<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>熊本大学医学部 , <sup>2)</sup>九州大学医学部 , <sup>3)</sup>東北大学加齢医学 ): 肺線維症の病態研究の進歩と治療戦略 . 呼吸 2003 ; 23 : 184-193 .
  - 3) 西條長宏 , 黒川達夫 , 工藤翔二 , 池田康夫 : 抗悪性腫瘍薬の効果と副作用 . 日医雑誌 2003 ; 130 ( 7 ): 1001-1013 .
  - 4) 福岡正博 , Rothman D , 崎 俊郎 , 小笹晃太郎 , 加藤治文 , 工藤翔二 : コホート内ケースコントロールスタデ

ィのデザインの妥当性と、この試験に期待すること。Pharma Medica 2004 ; 22 (3): 183-191 .

(4) 綜説 :

- 1) Kudoh S, Keicho N : Diffuse Panbronchiolitis . Seminars in Respiratory and Clitical Care Medicine 2003 ; 24 (5): 607-617 .
- 2) Yoshimura A : Progress in Lung Cancer Screening : CT screening and the diagnosis of small lung cancers . JMAJ 2003 ; 46 (12): 525-531 .
- 3) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦 : イレッサ肺傷害の up to date 1) イレッサ肺傷害の臨床疫学 . 呼吸器科 2003 ; 4 (1): 45-49 .
- 4) 吉村明修, 工藤翔二 : 肺癌診療 最近の話題 : 特発性肺線維症と肺癌 . 癌と化学療法 2003 ; 30 (2): 215-222 .
- 5) 村田 朗 : Home oxygen therapy and noninvasive positive pressure ventilation . Respiratory Medicine 2003 ; 3 (2): 183-190 .
- 6) 村田 朗, 工藤翔二 : 特集 一般検査における異常値の病態 : 検査データの読み方 血液ガス関係 . 医学と薬学 2003 ; 49 (3): 403-411 .
- 7) 中沢 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 吉村明修, 弦間昭彦, 工藤翔二, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 福田 悠<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>病理学 ): 肺癌 : スクリーニングから確定診断, 治療まで CTガイド下経皮的肺生検の実際 適応, 手技, 合併症およびその対策 . 臨床画像 2003 ; 19 (4): 422-428 .
- 8) 工藤翔二 : 慢性閉塞性肺疾患 . ドクターサロン 2003 ; 47 (5): 335-338 .
- 9) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦 : 分子標的治療薬「ゲフィチニブ (イレッサ)」の急性肺障害をめぐって ゲフィチニブによる急性肺障害・間質性肺炎の発生状況 . 日本胸部臨床 2003 ; 62 (6): 489-495 .
- 10) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦 : 癌分子標的治療のリスクとベネフィット : ゲフィチニブを中心として 3. イレッサ (ゲフィチニブ) によりもたらされる間質性肺炎の実態 . 医薬ジャーナル 2003 ; 39 (6): 1739-1744 .
- 11) 吾妻安良太 : <特集> 内科キーワード2003 14. 特発性間質性肺炎の分類 . 内科 2003 ; 91 : 996-998 .
- 12) 吾妻安良太 : <特集> 内科キーワード2003 15. ビルフェニドン . 内科 2003 ; 91 : 999-999 .
- 13) 功刀しのぶ, 吾妻安良太 : <特集> 内科キーワード2003 16. 筋線維芽細胞 . 内科 2003 ; 91 : 1000-1001 .
- 14) 吾妻安良太 : <特集> 内科キーワード2003 17. 間質性肺炎マーカー . 内科 2003 ; 91 : 1002-1002 .
- 15) 吾妻安良太 : 1. 外来診療における使い方 a. 経口マクロライド剤 . 臨床医 2003 ; 29 : 1282-1284 .
- 16) 吾妻安良太 : 2. マクロライド療法とは . 感染と抗菌薬 2003 ; 6 : 201-206 .
- 17) 吾妻安良太 : 抗生剤の効かない肺炎像 COP . 呼吸器疾患二頁の秘訣 2003 ; 134-135 .
- 18) 工藤翔二 : わが国におけるびまん性肺疾患の現状と展望 . 治療 2003 ; 85 (6): 1835-1840 .
- 19) 工藤翔二 : びまん性肺陰影の診断と治療 . 総合臨床 2003 ; 52 (6): 1821-1823 .
- 20) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦 : 呼吸器疾患の新たな展開 : 病態局面から分子標的制御へ III. 新たな分子標的治療と臨床問題 4. 非小細胞肺癌 2) 上皮成長因子受容体阻害薬と重篤有害事象 . 日本内科学会雑誌 2003 ; 92 (7): 1291-1295 .
- 21) 吉村明修 : 間質性肺炎をめぐって 抗癌剤の副作用としての間質性肺炎 . Medico 2003 ; 34 (7): 247-249 .
- 22) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦 : III 新たな分子標的治療と臨床問題 4. 非小細胞肺癌 2) 上皮成長因子受容体阻害薬と重篤有害事象 . 日本内科学会誌 2003 ; 92 (7): 113-117 .
- 23) 臼杵二郎, 吾妻安良太 : 第3章 A-2 慢性気道感染症・気管支拡張症 . Medical Practice 2003 増刊号 2003 ; 20 : 212-215 .
- 24) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦 : 特集 分子標的治療薬の臨床評価 Iressa ( Gefitinib ). 癌と化学療法 2003 ; 30 (8): 1079-1084 .
- 25) 村田 朗 : 睡眠時無呼吸症候群の診断と治療 . 日本医師会雑誌 2003 ; 130 (5): 775-780 .
- 26) 榎本達治, 吾妻安良太 : 「特発性間質性肺炎とその周辺」II 特発性間質性肺炎の臨床, 13. 内科的治療 . 日本胸

- 部臨床 (2003年増刊号) 2003 ; 62 : 101-106 .
- 27) 吾妻安良太, 工藤翔二: 「特発性間質性肺炎とその周辺」II 特発性間質性肺炎の臨床, 2. 診断基準: 第4次改訂を踏まえて. 日本胸部臨床 (2003年増刊号) 2003 ; 62 : 16-23 .
- 28) 吾妻安良太, 工藤翔二: 特発性肺線維症のIFN療法. 総合臨床 2003 ; 52 : 2529-2531 .
- 29) 吾妻安良太, 工藤翔二: 特集: 新しい呼吸器治療薬 新規の抗線維化剤 ビルフェニドン. 呼吸 2003 ; 22 : 889-895 .
- 30) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦: 肺癌: 診断・治療の最前線 IX. 化学療法 ゲフィチニブ (イレッサ) による肺障害と対策. 癌の臨床 2003 ; 49 (10) : 1379-1386 .
- 31) 吾妻安良太, 慶長直人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立国際医療センター, 呼吸器研究部): 慢性副鼻腔炎とびまん性汎細気管支炎: 共存の理由. THE LUNG perspectives 2003 ; 11 : 25-29 .
- 32) 吾妻安良太: 特発性間質性肺炎の薬物治療. 日本医事新報 2003 ; 4161 : 85-85 .
- 33) 榎本達治, 吾妻安良太: 特発性間質性肺炎とその周辺 13 内科的治療. 日本胸部臨床 2003 ; 増刊: S101-S106 .
- 34) 村田 朗: 喘鳴. Journal of Clinical Therapeutics & Medicines 2003 ; 19 (11) : 1255-1263 .
- 35) 村田 朗, 工藤翔二: 気管支喘息. 呼吸器ケア2003 冬季増刊 2003 ; 1 (7) : 101-110 .
- 36) 松本亜紀, 吾妻安良太: びまん性汎細気管支炎. Clinic Magazine 2003 ; 3 : 26-28 .
- 37) 西澤健司, 吾妻安良太: 「抗菌薬総論」マクロライド系薬 1 (新作用). Infection & Microbiology 2003 ; 23 : 53-56 .
- 38) 清家正博, 弦間昭彦, 工藤翔二: COPD合併肺癌の内科的治療. 診断と治療 2003 ; 2251-2254 .
- 39) 木田厚瑞, 山本和男: COPDにおける包括的呼吸リハビリテーションの実際. 診断と治療 2003 ; 91 (12) : 2218-2224 .
- 40) 工藤翔二, 桜井秀也: 呼吸器疾患患者の専門医への紹介. 日本医師会雑誌 生涯教育シリーズ 2003 ; 61 : 145-151 .
- 41) 工藤翔二, 弦間昭彦: 喫煙と肺癌. Lung Cancer Today 2003 .
- 42) 榎本達治, 吾妻安良太: びまん性汎細気管支炎. 成人病と生活習慣病 2004 ; 34 (1) : 52-55 .
- 43) 木田厚瑞: COPD (慢性閉塞性肺疾患) 治療薬 臭化チオトロピウムを中心に. 医薬ジャーナル 2004 ; 40 S-1 : 512-517 .
- 44) 吉村明修: 比較的稀な腫瘍の診断と治療 II 細気管支肺胞上皮癌. 癌と化学療法 2004 ; 76 (2) : 318-321 .
- 45) 村田 朗: 在宅医療における慢性呼吸不全への対応. Journal of Integrated Medicine 2004 ; 14 (2) : 173-177 .
- 46) 村田 朗: COPDの現状: COPD International Congress & Workshop Report. COPD FRONTIER 2004 ; 3 (1) : 78-79 .
- 47) 村田 朗: COPDの薬物療法と抗コリン薬の位置づけ. Modern Physician 2004 ; 24 (3) : 401-407 .
- (5) 対談:
- 1) 堀江孝至, 工藤翔二: 社会の中の睡眠時無呼吸症候群. 日医雑誌 2003 ; 130 (12) : 1677-1681 .
- (6) 鼎談:
- 1) 工藤翔二: なぜ新興・再興感染症が出現するのか: SARS大流行を踏まえて. 日医雑誌 2003 .
- 2) 松本慶蔵, 工藤翔二, 黒野祐一: マクロライド系抗生剤による気道感染・炎症抑制の効果. 医薬ジャーナル社 2003 ; 増刊号 (1) .
- (7) 研究報告書:
- 1) 松本 徹<sup>1)</sup>, 伊東久夫<sup>2)</sup>, 金木健一<sup>3)</sup>, 日下幸則<sup>4)</sup>, 黒田知純<sup>5)</sup>, 鈴木公典<sup>6)</sup>, 中川 徹<sup>7)</sup>, 藤野雄一<sup>8)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup> 放射線医学総合研究所, <sup>2)</sup>千葉大学, <sup>3)</sup>日立メデイコ, <sup>4)</sup>福井医科大学, <sup>5)</sup>大阪府立成人病センター,

- 6) 結核予防会, 7) 日立健康管理センター, 8) NTTサイバーソリューション研究所): らせんCT肺癌検診システムの開発評価に関する研究. 放射能調査研究報告書 2002; pp59-65.
- 2) 村田 朗: 呼吸器疾患に伴って発生する咳嗽音の治療効果判定のための客観的指標となる非侵襲的咳嗽カウンターシステムの開発. 医科学応用研究財団研究報告2001 2003; 20; pp22-26.
- 3) 吉村明修, 矢野 侃<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>荒川区がん予防センター): 都市部での住民対象CT検診の感度分析. 厚生労働科学研究費補助金 効果的医療の確立推進臨床研究事業 がんの罹患高危険群の抽出と予後改善のための早期診断及び早期治療に関する研究 平成14年度総括・分担研究報告書 主任研究者 鈴木隆一郎 2003; pp42-47.

## 著 書

- 1) 村田 朗: [分担] 包括的呼吸リハビリテーション. 3学会合同呼吸療法認定士「認定更新のための講習会(2003)」テキスト(3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局), 2003; pp44-48, 3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局.
- 2) 村田 朗: [分担] 胸水. 臨床検査ガイド 2003-2004(和田 攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内耐義), 2003; pp1053-1056, 文光堂.
- 3) 村田 朗: [分担] COPDに対する薬物療法. 別冊・医学のあゆみ COPD(慢性閉塞性肺疾患)(北村 諭), 2003; pp78-82, 医師薬出版株式会社.
- 4) 村田 朗: [共著] 医学書院 医学大辞典(伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨), 2003; 医学書院.
- 5) 斉藤好信, 吾妻安良太: [分担] 肺の線維化とTh1/Th2サイトカイン. 別冊「医学のあゆみ」呼吸器疾患-state of arts 2003-2005(北村 諭, 福地義之助, 石井芳樹), 2003; pp64-66, 医歯薬出版.
- 6) 榎本達治, 吾妻安良太, 工藤翔二: [分担] 特発性間質性肺炎 第3章. 主要疾患の診療ポイント C. 呼吸器系疾患. 改訂第3版 外来診療のすべて, 2003; pp518-519, メジカルビュー社.
- 7) 工藤翔二, 村田 朗: [共著] 血液ガステキスト第2版, 2003; 文光堂.
- 8) 村田 朗: [分担] 5. 在宅呼吸管理. 最近の人工呼吸法のながれ 人工呼吸法の変遷から Non-invasive Ventilation(坂本篤裕, 竹田晋浩), 2003; pp183-204, 真興交易(株)医書出版部.
- 9) 弦間昭彦: [分担] 肺癌のオーダーメイド治療への展望: 特に, 非小細胞癌に対して. 呼吸器疾患最新の治療, 2003; pp52-56, 南江堂.
- 10) 村田 朗: [分担] II運動療法の実際 7. 緊急時の対応. 呼吸リハビリテーションマニュアル: 運動療法(発行者 福地義之助 日本呼吸器管理学会呼吸リハビリテーションガイドライン), 2003; pp52-53, 照林社.
- 11) 木田厚瑞: [分担] 在宅酸素療法. 医療ガスハンドリングマニュアル(小川 龍), 2003; pp233-247, 診断と治療社.
- 12) 村田 朗: [分担] 肺音聴診のポイント. 呼吸器診療二頁の秘訣(福地義之助), 2003; pp6-7, 金原出版.
- 13) 村田 朗, 工藤翔二: [分担] 呼吸療法に必要な病態の知識7. 気管支喘息. コメディカルのための呼吸療法マニュアル 呼吸器ケア2003年冬季増刊(妙中信之), 2003; pp101-110, MCメディカ.
- 14) 山本和男, 河野あゆみ, 村田 朗, 木田厚瑞: [自著] COPDの特徴と治療法. コミュニティケア, 2003; pp20-25, 日本看護協会出版会.
- 15) 木田厚瑞: [分担] 在宅医療の進歩 在宅酸素療法にみる発展の歴史. 老年医療の歩みと展望 養生訓から現代医療の最先端まで(社団法人 日本老年医学会), 2003; pp150-154, メジカルビュー社.
- 16) 工藤翔二, 忽滑谷直孝: [分担] 1. 生化学検査 G. 血液ガス関係 動脈血O<sub>2</sub>分圧, オキシメーター. 臨床検査ガイド 2003-2004, 2003; pp333-334, 文光堂.
- 17) 倉根修二, 工藤翔二: [分担] 1. 疫学 I. 疫学的にみた肺炎の位置づけ. よくわかる肺炎の全て, 2003; pp1-2, 永井書店.
- 18) 倉根修二, 工藤翔二: [分担] 1. 疫学 II. 微生物学的側面. よくわかる肺炎の全て, 2003; pp2-6, 永井書店.

- 19) 工藤翔二：〔分担〕第2章 呼吸器疾患 7. 肺気腫．内科学第2版 Ⅰ，2003；pp232-236，文光堂．
- 20) 工藤翔二：〔分担〕第2章 呼吸器疾患 8. びまん性汎細気管支炎．内科学第2版 Ⅰ，2003；pp236-239，文光堂．
- 21) 工藤翔二：〔分担〕VIII 胸・背部の異常 9. 呼吸音の異常とラ音．内科鑑別診断学第2版 Ⅰ，2003；pp490-496，朝倉書店．
- 22) 榎本達治，吾妻安良太：〔分担〕特発性肺線維症 VIII 間質性肺疾患．呼吸器疾患最新の治療 2004-2006（工藤翔二，中田紘一郎，貫和敏博），2004；pp280-284，南江堂．
- 23) 村田 朗：〔分担〕包括的呼吸リハビリテーション．3学会合同呼吸療法認定士「認定更新のための講習会」テキスト（3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局），2004；pp44-48，3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局．
- 24) 村田 朗：〔分担〕在宅酸素療法の適応と導入．呼吸器疾患最新の治療 2004-2006（工藤翔二，中田紘一郎，貫和敏博），2004；pp129-134，南江堂．
- 25) 木田厚瑞，若林律子：〔分担〕慢性呼吸不全患者の在宅呼吸ケア：現状と問題点．呼吸器疾患最新の治療 2004-2006（工藤翔二，中田紘一郎，貫和敏博），2004；pp398-405，南江堂．
- 26) 臼杵二郎，吾妻安良太：〔分担〕急性間質性肺炎．SIRSの病態と治療 Ⅰ ALI/ARDS（相川直樹監修，藤島清太郎編集），2004；pp136-143，医薬ジャーナル社．
- 27) 吾妻安良太：〔監修〕まればびまん性肺疾患．講義録 呼吸器学（杉山幸比古，吾妻安良太，滝沢 始，吉澤靖之），2004；メディカルビュー社．

#### 学会発表

〔2002年度追加分〕

#### シンポジウム：

- 1) 村田 朗：チーム医療によりCOPDの急性増悪を回避する：外来治療，入院治療のポイント．第10回東京在宅呼吸ケア研究会，2003．2．
- 2) 吾妻安良太：特発性間質性肺炎の現状：治療のoverview（シンポジウム）．第44回日本呼吸器学会，2003．3．

#### パネルディスカッション：

- 1) 山本和男，村田 朗，伊藤永喜，吉岡央子，工藤翔二：大気環境の生体に及ぼす影響に関する客観的評価法の検討：経年的における呼気中一酸化窒素（NO）濃度測定の有用性及び安定性について．第43回日本呼吸器学会総会，2003．3．
- 2) 吉岡央子，村田 朗，山本和男，伊藤永喜，工藤翔二：呼吸器疾患における呼気中一酸化窒素（NO）濃度の検討．第43回日本呼吸器学会総会，2003．3．

#### セミナー：

- 1) 村田 朗：包括的呼吸リハビリテーション．3学会合同呼吸療法認定士認定更新のための講習会（2003年），2003．2．

#### ワークショップ：

- 1) 村田 朗：慢性呼吸不全の総合的アプローチ：COPDの急性増悪を回避するための戦略 発症原因の多様性とその実態．第43回日本呼吸器学会総会，2003．3．

#### 一般講演：

- 1) Seike M, Gemma A, Yoshimura A, Kudoh S: Increased expression of the LGALS3 (Galectin 3) gene in human non-small cell lung cancer. 95th American association for cancer research annual meeting (Orlando), 2003．3．
- 2) 根井貴仁<sup>1)</sup>，山野義光<sup>1)</sup>，工藤翔二（<sup>1)</sup>海老名総合病院呼吸器科）：画像診断でマイコプラズマ肺炎（MP）は診断できるか．当院42症例の検討．第43回日本呼吸器学会学術講演会，2003．3．



- 3) 平松久弥子, 斉藤好信, 菅原 勇<sup>1)</sup>, 滝澤 始<sup>2)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二 ( <sup>1)</sup> 結核予防会結核研究所分子病理学科, <sup>2)</sup> 東京大学呼吸器科 ): マウス肺に対するディーゼル排気ガス ( DE ) 曝露の影響における系統差について . 第43回日本呼吸器学会総会, 2003 . 3 .

(1) 特別講演 :

- 1) 木田厚瑞<sup>1)</sup>, 桂 秀樹<sup>1)</sup>, 山田浩一<sup>1)</sup>, 茂木 孝<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 後藤里江<sup>1)</sup>, 若林律子<sup>1)</sup>, 太田 隆<sup>1)</sup>, 村田朗, 山本和男, 吉岡央子, 野村浩一郎<sup>2)</sup>, 島田 潔<sup>3)</sup>, 水内知子<sup>4)</sup>, 酒井志野<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都老人医療センター, <sup>2)</sup> 国立東静岡病院, <sup>3)</sup> 板橋区役所前診療所, <sup>4)</sup> 牛尾医院, <sup>5)</sup> 帝人株式会社 ): 高齢者の気管支ぜん息, 慢性気管支炎, 肺気腫の保険指導等に関する研究 . 大気汚染による健康影響に関する総合研究第14回研究懇話会 公害健康被害補償予防協会, 2003 . 5 .
- 2) 工藤翔二 : 我が国における結核の現状と課題 : 薬剤の間接的副作用としての肺結核 . 第6回東京リウマチ膠原病研究会, 2003 . 9 .
- 3) 工藤翔二 : マクロライド新作用の新たな展開 . 第2回南東北マクロライド研究会, 2003 . 10 .
- 4) 工藤翔二 : マクロライド新作用の新たな展開 . 熊本呼吸感染症セミナー, 2003 . 12 .
- 5) 工藤翔二 : SARS, インフルエンザ, そして肺炎球菌肺炎 : ワクチンによる予防法について . 熊本県医師会生涯教育認定講座, 2004 . 2 .
- 6) 工藤翔二 : 免疫抑制下におけるびまん性肺疾患の鑑別診断 . Infliximab Clinical Seminar, 2004 . 3 .

(2) 招待講演 :

- 1) 吾妻安良太 : ランチョンセミナー 特発性間質性肺炎の治療展望 . 第26回日本気管支学会総会, 2003 . 5 .
- 2) 工藤翔二 : イレッサ問題に学ぶこと . 第19回「21世紀フォーラム」, 2003 . 7 .
- 3) 吾妻安良太 : 特発性肺線維症の治療の現状と問題点 . 第3回福岡びまん性肺疾患研究会, 2003 . 11 .
- 4) 工藤翔二 : 特発性間質性肺炎の分類と診断・治療 . 第11回秋田臨床免疫・炎症研究会, 2003 . 11 .
- 5) 工藤翔二 : マクロライド新作用の新たな展開 . 呼吸器疾患化学療法講演会, 2003 . 11 .
- 6) 工藤翔二 : SARS ( 新型肺炎 ) 流行の対処法 . 日本ベンチャー協議会2003年11月度定例会, 2003 . 11 .
- 7) 工藤翔二 : マクロライド新作用の新たな展開 . 第5回福岡マクロライド研究会, 2003 . 11 .
- 8) 工藤翔二 : マクロライド新作用の新たな展開 . 第4回徳島マクロライド研究会, 2003 . 12 .
- 9) 工藤翔二 : 呼吸器感染症の最新の治療 : 炎症・免疫とマクロライドの可能性 . 沼津内科医会学術講演会, 2003 . 12 .
- 10) 村田 朗 : 睡眠時呼吸障害 . 第12回呼吸器フォーラム, 2004 . 2 .

(3) 教育講演 :

- 1) 工藤翔二 : 特発性間質性肺炎 . 第29回北海道支部生涯教育講演会, 2003 . 6 .
- 2) 工藤翔二 : 疾患の理解「呼吸不全」 呼吸不全の病態生理と治療 . 東京都看護協会, 2003 . 6 .
- 3) 村田 朗 : ガイドラインに基づいたトータル呼吸ケア-COPD-慢性期治療と急性増悪の予防 . 第2回呼吸ケアセミナー, 2003 . 8 .
- 4) 村田 朗 : 包括的呼吸リハビリテーション . 呼吸療法認定士認定更新のための講習会 ( 2004年 ), 2004 . 2 .

(4) シンポジウム :

- 1) Azuma A : Clinical application of macrolides and basic mechanisms of macrolide therapy . Abbott Symposium ( Tokyo ), 2003 . 7 .
- 2) 工藤翔二 : マクロライドの使い方と可能性 : 最近の知見を含めて . ファイザー製薬TVシンポジウム, 2003 . 5 .
- 3) 村田 朗 : 呼吸リハビリテーションの臨床展開の追及 : 新たな運動療法マニュアルの作成と将来像 . 今後の活用について . 第13回日本呼吸管理学会, 第25回日本呼吸療法学会合同学術集会, 2003 . 8 .
- 4) 吾妻安良太 : 特発性肺線維症の治療研究の現状と問題点 . 那須肺研究シンポジウム, 2003 . 11 .
- 5) 村田 朗 : はじめてみよう運動療法 : 運動療法マニュアルの活用 . 第11回東京在宅呼吸ケア研究会, 2004 . 2 .

(5) パネルディスカッション :

- 1) Yamamoto K , Murata A , Itoh E , Yoshioka H , Kudoh S : Examination of the Objective Items in the Appraisal of the Air Environmental Effects on a Living Body-About Usefulness and Stability of Measurement of Exhaled Nitric Oxide ( NO ) Concentration for Several Years- . 99th International Conference, American Thoracic Society 2003 ( Seattle, USA ), 2003 . 5 .
- 2) Murata A , Itoh E , Yamamoto K , Yoshioka H , Kudoh S : The Study on Development of Cough Sound Monitoring System and Its Efficacy . 99th American Thoracic Society International Conference ( Seattle, USA ), 2003 . 5 .
- 3) Itoh E , Murata A , Yamamoto K , Yoshioka H , Kudoh S : Relationship between Sleep Disordered Breathing and Body Weight Reduction in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease . 99th American Thoracic Society International Conference ( Seattle, USA ), 2003 . 5 .
- 4) 村田 朗 : 咳嗽音のモニタリングシステムの開発と臨床における有用性の検討 . 第100回日本内科学会総会 , 2003 . 4 .

(6) ワークショップ :

- 1) 吉村明修 : イレッサによる急性肺障害・間質性肺炎 専門家会議最終報告 . 第18回日本肺癌学会ワークショップ , 2003 . 7 .
- 2) 弦間昭彦 , 竹中 圭 , 細谷曜子 , 植松和嗣 , 野呂林太郎 , 岡野哲也 , 清家正博 , 吉村明修 , 工藤翔二 : 特発性肺線維症における発癌メカニズム . 日本癌学会 , 2003 . 9 .

(7) 一般講演 :

- 1) Mikami M<sup>1)</sup> , Nara M<sup>1)</sup> , Yoshimoto N<sup>1)</sup> , Nakamura S<sup>2)</sup> , Kudoh S ( <sup>1)</sup> The 3rd Dept. of Internal Medicine, Saitama Medical Center , <sup>2)</sup> Respiratory Medicine, Tokyo Metropolitan Hiroo General Hospital ): Effect of Theophylline on the Physico-chemical Properties of Sputum from COPD . 99th American Thoracic Society International Conference ( Seattle, USA ), 2003 . 5 .
- 2) Yoshimori K , Ichinose Y , Sakai H , Nakai Y , Sugiura T , Kawahara M , Niitani H : Final results of phase II trial of S-1 plus cisplatin ( CDDP ) in patients with non-small cell lung cancer . 12th European Cancer Conference ( Copenhagen, Denmark ), 2003 . 9 .
- 3) Seike M , Kondo T<sup>1)</sup> , Yamada T<sup>1)</sup> , Hirohashi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> National Cancer Center Research Institute ): Proteomic classification of lung cancer cell lines and tumors corresponding to histological background and clinical staging . Human proteomics organization Second World congress ( Montreal ), 2003 . 10 .
- 4) Motohashi N , Azuma A , Takahashi T , Enomoto T , Usuki J , Murata A , Azuma H , Nakajima H , Yamaguchi K , Ohara T , Kida K , Kudoh S ( <sup>1)</sup> Ophthalmology ): Correlation between ocular manifestations and pulmonary involvements in patients with sarcoidosis . 8th Asian Pacific Society of Respiriology Congress ( Malaysia ), 2003 . 12 .
- 5) Yamamoto K , Murata A , Yoshioka H , Kida K , Kudoh S : Exhaled Nitric Oxide in Asthmatic and Non-Asthmatic Children and the Usefulness of a Combination of ATS-DLD Questionnaires . 8th ASIAN PACIFIC SOCIETY OF RESPIROLOGY CONGRESS ( Malaysia ), 2003 . 12 .
- 6) Azuma A , Li Ying J , Abe S , Usuki J , Matsuda K , Aoyama A , Kudoh S , Sunazuka T<sup>1)</sup> , Omura S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kitasato Institute ): PO PP7-24 : EM703- A New Derivative of Erythromycin Improves Bleomycin-induced Lung Fibrosis in Mice . 8th APSR 2003 ( Kuala Lumpur ), 2003 . 12 .
- 7) 平松久弥子 , 菅原 勇<sup>1)</sup> , 宇田川忠<sup>1)</sup> , 榎原桂太郎 , 斉藤好信 , 吾妻安良太 , 工藤翔二 ( <sup>1)</sup> 結核予防会結核研究所分子病理学科 ): ディーゼル排気ガス ( DE ) 曝露マウスに対する結核菌の影響について . 第78回日本結核病学会総会 , 2003 . 4 .

- 8) 藤本雅美<sup>1)</sup>, 吉森浩三<sup>1)</sup>, 斉藤好信<sup>1)</sup>, 奥村昌夫<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>(1)</sup> (結核予防会複十字病院): 非結核性抗酸菌症の診断における気管支鏡検査の有用性の検討. 第78回日本結核病学会総会, 2003. 4.
- 9) 藤本雅美<sup>1)</sup>, 吉森浩三<sup>1)</sup>, 斉藤好信<sup>1)</sup>, 奥村昌夫<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>(1)</sup> (結核予防会複十字病院): 非結核性抗酸菌症の診断における気管支鏡検査の有用性の検討. 第26回日本気管支鏡学会総会, 2003. 5.
- 10) 篠田欣也<sup>1)</sup>, 渋谷昌彦<sup>2)</sup>, 日比野俊, 武村 明, 小野 靖, 松田久仁子, 鄒 大同, 工藤宏一郎<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>(1)</sup> (国立国際医療センター, <sup>2)</sup> 都立駒込病院呼吸器内科): 新規 MMP 阻害剤 FYK-1388 のヒト腫瘍細胞株に対する影響の検討. 第12回日本がん転移学会学術集会, 2003. 6.
- 11) 森 建, 本橋典久, 林 宏紀, 吉岡央子, 山本和男, 村田 朗, 木田厚瑞, 工藤翔二, 功刀しのぶ<sup>1)</sup>, 福田悠<sup>1)</sup>, 桑子智之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理学第1, <sup>2)</sup> 放射線医学): 検診にて腎血管筋脂肪腫で発見された肺脈管筋腫症の1例. 第156回日本呼吸器学会関東地方会, 2003. 9.
- 12) 平松久弥子, 榊原桂太郎, 斉藤好信, 宇田川忠<sup>1)</sup>, 菅原 勇<sup>1)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二<sup>(1)</sup> (結核予防会結核研究所抗酸菌レファレンスセンター): マウス結核感染に及ぼすディーゼル排気ガス (DE) 曝露の影響について. 第44回大気環境学会年会, 2003. 9.
- 13) 竹中 圭: 特発性肺線維症 (IPF) における発癌に關与する遺伝子変化の検討-Smad4の発現低下について. 第44回日本肺癌学会総会, 2003. 10.
- 14) 吉森浩三<sup>1)</sup>, 斉藤好信<sup>1)</sup>, 奥村昌夫<sup>1)</sup>, 藤本雅美<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>(1)</sup> (結核予防会複十字病院): 非切除原発性非小細胞肺癌の2nd line 化学療法におけるCDDP+CPT-11併用療法の検討. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 15) 本橋典久, 高橋卓夫, 榎本達治, 白杵二郎, 村田 朗, 吾妻安良太, 東 永子, 中嶋花子, 山口恵子, 大原國俊<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>2)</sup>, 木田厚瑞, 工藤翔二<sup>(1)</sup> (眼科学, <sup>2)</sup> 内科学第1): サルコイドーシス外来受診患者256例の検討. 第23回サルコイドーシス学会, 2003. 11.
- 16) 小久保豊, 吉村明修, 弦間昭彦, 細谷曜子, 細見幸生, 岡野哲也, 竹中 圭, 松田久仁子, 清家正博, 栗本大嗣, 小野 靖, 植松和嗣, 日比野俊, 渋谷昌彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>(1)</sup> (都立駒込病院呼吸器内科): Identification of an altered transcription of Galectin-3 in lung cancer using cDNA array. 第44回日本肺癌学会総会, 2003. 11.
- 17) 清家正博<sup>1)</sup>, 近藤 格<sup>1)</sup>, 山田哲司<sup>1)</sup>, 岡野哲也<sup>1)</sup>, 弦間昭彦, 工藤翔二, 廣橋説雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 国立がんセンター研究所腫瘍プロテオミクスプロジェクト): プロテオーム解析を用いた肺がんの診断に有用なタンパク質発現パターンの同定. 第44回日本肺癌学会総会, 2003. 11.
- 18) 平松久弥子, 宇田川忠<sup>1)</sup>, 菅原 勇<sup>1)</sup>, 阿部千代治<sup>1)</sup>, 渡辺邦友<sup>2)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二<sup>(1)</sup> (結核予防会抗酸菌レファレンスセンター, <sup>2)</sup> 岐阜大学医学部付属嫌気性菌実験施設): リンパ節, 皮膚, 糞便由来 Propionibacterium acnes による肉芽腫形成におけるサイトカイン誘導能の検討. 第23回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 2003. 11.
- 19) 弦間昭彦, 野呂林太郎, 岡野哲也, 清家正博, 小久保豊, 吉村明修, 平井恭二, 小泉 潔, 工藤翔二: 肺癌におけるオーダーメイド化学療法のシミュレーションと術後再発例による探索的臨床研究. 第44回日本肺癌学会総会, 2003. 11.
- 20) 吉岡央子, 本橋典久, 山本和男, 村田 朗, 木田厚瑞, 工藤翔二: 一般地域住民におけるCOPD検診に関する研究. 第68回閉塞性肺疾患研究会, 2004. 1.
- 21) 根井貴仁<sup>1)</sup>, 鈴木淳子<sup>1)</sup>, 原口典博<sup>1)</sup>, 松野洋輔<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斉藤武文<sup>1)</sup>, 鹿島祥隆<sup>2)</sup>, 橋詰寿律<sup>2)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科, <sup>2)</sup> 同外科): 血性胸水を示した両側良性石綿胸膜炎の1例. 第153回日本呼吸器学会関東地方会, 2004. 2.
- 22) 村田 朗: 東京都に於ける在宅呼吸ケアの現状. 第11回東京在宅呼吸ケア研究会, 2004. 2.
- 23) 吉岡央子, 本橋典久, 山本和男, 村田 朗, 木田厚瑞, 工藤翔二: 一般地域住民におけるCOPD検診に関する研究. 第44回日本呼吸器学会総会, 2004. 3.
- 24) 榎本達治, 吾妻安良太, 松本亜紀, 根井章仁, 白杵二郎, 工藤翔二: ステロイド療法中の間質性肺炎患者に発

症した肺日和見感染（カリニ肺炎，サイトメガロウイルス肺炎）の臨床的検討．第44回日本呼吸器学会学術講演会，2004．3．

25) 臼杵二郎，松田久仁子，青山昭徳，吾妻安良太，工藤翔二：ブレオマイシン肺線維症における筋線維芽細胞とSmad発現の検討．第44回日本呼吸器学会総会，2004．3．

(8) Advisory Board Meeting：

1) Azuma A：Consensus Meeting of ARAVA Induced Acute Lung Injury．Aventis Co. Advisory Board Meeting ( USA ), 2004．3．

2) Azuma A：Advisory Board Meeting：Azithromycin for Inhibition of Acute Exacerbation of COPD．Pfizer Inc. Advisory Board Meeting ( France ), 2004．2．

(9) 学術講演会：

1) 工藤翔二：慢性気道感染症とマクロライド療法．第2回呼吸器疾患フォーラム山口，2003．8．

2) 工藤翔二：間質性肺炎をめぐって．福井県医師会学術講演会，2004．2．

3) 工藤翔二：今日の肺炎診療．川崎市内科医会学術講演会，2004．3．

(10) 講習会：

1) 工藤翔二：びまん性汎細気管支炎．第43回臨床呼吸機能講習会，2003．8．

(11) 特別報告：

1) 工藤翔二：Gefitinib ( Iressa ) 肺障害の現状と対策．第44回日本肺癌学会総会，2003．10．

## 5. 精神医学講座

### [ 付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科 ]

#### 研究概要

教室の研究領域は、精神・神経生理学的研究を主体とし、コンサルテーション・リエゾン精神医学、セネストパチーをはじめとした様々な臨床研究、精神薬理研究があり、研究対象もうつ病、統合失調症をはじめとして、老年期精神障害、アルコール依存、神経症性障害、セネストパチー、自殺、睡眠障害など多岐に亘る。今年度は以下の研究を行った。

- 1) ポジトロンCTを用いた機能性精神疾患の病態診断研究：ポジトロンCTによる神経伝達機能イメージングの技術を用いて、統合失調症および気分障害患者など機能性精神疾患の神経伝達機能の異常を調べた。
- 2) ポジトロンCTを用いた向精神薬の薬効評価に関する研究：ポジトロンCTを用いて、抗精神病薬・抗うつ薬の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化との関連を調べ、向精神薬の治療効果の客観的評価法の開発を目指した。
- 3) ファンクショナルMRIを用いた精神疾患の高次脳機能障害の研究：ファンクショナルMRIを用いて統合失調症患者と健常人を対象に、視覚刺激による情動反応の評価を行い、統合失調症患者における情動障害の神経基盤について検討した。
- 4) 血管性うつ病の研究：脳卒中後のうつ病を含む血管性うつ病に対し脳画像、治療など様々な検討を行った。
- 5) 救命救急に搬送された自殺未遂者の研究：高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例について、精神医学的検討を行った。
- 6) 口腔内セネストパチーの研究：口腔内での感覚異常を呈する症例の脳画像・脳血流量評価を用いて生物学的背景について検討を行った。
- 7) アルツハイマー型痴呆の概日リズムに関する研究：高照度光療法やビタミンB12投与との併用療法などの概日リズムに対する影響を検討した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kanetani K, Kimura M, Endo S : Therapeutic effects of milnacipran (serotonin noradrenalin reuptake inhibitor) on depression following mild and moderate traumatic brain injury . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 (4) : 313-320 .
- 2) Kimura M, Shimoda K, Mizumura S<sup>1)</sup>, Tateno A, Fujito T, Mori T, Endo S ( <sup>1)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School ): Regional cerebral blood flow in vascular depression assessed by 123I-IMP SPECT . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 (4) : 321-326 .
- 3) Tateno A, Jorge R<sup>1)</sup>, Robinson R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Psychiatry, The University of Iowa ): Clinical correlates of aggressive behavior after traumatic brain injury . J Neuropsychiatry Clin Neurosci 2003 ; 15 (2) : 155-160 .
- 4) Kimura M, Tateno A, Robinson R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Psychiatry, The University of Iowa ): Treatment of poststroke generalized anxiety disorder comorbid with poststroke depression : Merged analysis of nortriptyline trials . Am J Geriatr Psychiatry 2003 ; 11 (3) : 20-27 .
- 5) Halldin C<sup>1)</sup>, Erixon-Lindroth N<sup>1)</sup>, Pauli S<sup>1)</sup>, Chou Uan-H<sup>1)</sup>, Okubo Y, Karlsson P<sup>1)</sup>, Lundkvist C<sup>1)</sup>, Ols-

- son H<sup>1)</sup>, Guilloateau D<sup>2)</sup>, Dmond P<sup>2)</sup>, Farde L<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Karolinska Institutet, Department of Clinical Neuroscience, Psychiatry Section, Karolinska Hospital, <sup>2)</sup>INSERM U316 Universite Francois Rabelais): [(11) C]PE2I: a highly selective radioligand for PET examination of the dopamine transporter in monkey and human brain. Eur J Nucl Med Mol Imaging 2003; 30(9): 1220-1230.
- 6) Suzuki H, Yamadera H, Asayama K, Kudo Y, Ito T, Tamura Y, Endo S: Study of nocturnal sleep and the carry-over effects of triazolam and brotizolam using neurophysiological and subjective methods. Neuropsychobiology 2003; 47: 158-164.
- 7) Asayama K, Yamadera H, Ito T, Suzuki H, Kudo Y, Endo S: Double blind study of melatonin effects on the sleep-wake rhythm, cognitive and non-cognitive functions in Alzheimer type dementia. J Nippon Med Sch 2003; 70(4): 334-341.
- 8) Yasuno F<sup>1,2)</sup>, Suhara T<sup>1,2)</sup>, Ichimiya T<sup>1,2)</sup>, Takano A<sup>1,2)</sup>, Ando T<sup>1,2)</sup>, Okubo Y(<sup>1)</sup>Brain Imaging Project, National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup>CREST Japan Science and Technology Corporation): Decreased 5-HT<sub>1A</sub> receptor binding in amygdala of schizophrenia. Biol Psychiatry 2004; 55(5): 439-444.
- 9) Shirahama Y<sup>1,3)</sup>, Ohta K<sup>2)</sup>, Takashima A<sup>1)</sup>, Matsushima E<sup>2)</sup>, Okubo Y(<sup>1)</sup>Section of Psychiatry and Behavioral Science, Graduate School of Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup>Section of Liaison Psychiatry and Palliative Medicine, Graduate School of Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup>Sangenjaya Hospital): Magnetic brain activity elicited by visually presented symbols and Japanese characters. Neuroreport 2004; 15(5): 771-775.
- 10) 荒川亮介, 木村真人, 森 隆夫, 竹澤健司, 葉田道雄, 遠藤俊吉: 催眠施行中における脳波のフラクタル次元解析: 催眠感受性の異なる2被験者について. 催眠と科学 2003; 18(1): 45-48.
- 11) 伊藤敬雄, 工藤吉尚, 木村真人, 葉田道雄: SNRI (milnacipran) が有効であった慢性疼痛性障害の1症例. 臨床精神医学 2003; 32(5): 563-568.
- 12) 本間房恵, 木村真人, 村田雄一, 下田健吾, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 大津光寛<sup>1)</sup>, 岡田智雄<sup>1)</sup>, 佐藤田鶴子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部): ロールシャッハ・テストによる口腔領域セネストパチーの心理学的特徴. 心身医学 2003; 43(9): 599-607.
- 13) 伊藤敬雄, 伊藤理津子, 葉田道雄, 大久保善朗: アルツハイマー型痴呆患者における高照度光療法とメラトニン. 精神医学 2003; 45(9): 951-958.
- (2) 綜説:
- 1) 木村真人, 下田健吾: 脳器質性うつ病の最近の話題: 血管性うつ病を中心に. 最新精神医学 2003; 8(1): 21-29.
- 2) 大久保善朗, 西條朋行, 伊藤逸生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>浅井病院): 統合失調症の進行性増悪群の画像所見. Psychoses 2003; 9(4): 8-12.
- 3) 下田健吾, 木村真人, 森 隆夫: うつ病と前頭葉: 精神疾患における前頭葉研究の進歩. 臨床精神医学 2003; 32(4): 405-412.
- 4) 高石 昇: パネルディスカッション「解離性障害」をめぐって. 臨床催眠学 2003; 5(1).
- 5) 高石 昇: 公開シンポジウム「近未来の催眠療法 21世紀にむけて」. 臨床催眠学 2003; 5(1).
- 6) 木村真人: PSDに対するミルナシプランの有用性について. Geriatric Medicine 2003; 41(10): 1527-1530.
- 7) 木村真人: Vascular depression (血管性うつ病). 日本医師会雑誌 2003; 129: 1448-1452.
- 8) 鈴木博子: 自殺未遂者の再自殺予防. こころの臨床 a. la. carte 2004; 23(1): 55-59.
- 9) 下田健吾, 木村真人: 脳血管障害と中高年期のうつ: 生活習慣病・慢性疾患と男性更年期(特集 男性更年期). 総合臨床 2004; 53(3): 558-563.
- 10) 木村真人, 下田健吾: 脳血管障害: リエゾン精神医療におけるうつ病(メインテーマ「うつ病: 最前線」).

Clinical Neuroscience 2004 ; 22 ( 2 ): 185-187 .

11) 高石 昇: 展望「臨床催眠の論文は如何に書くべきか」. 臨床催眠学 2004 ; 5 .

(3) 研究報告書:

- 1) 遠藤俊吉, 上村秀樹, 木村真人, 佐藤茂樹, 杉山 一, 鈴木博子, 成重竜一郎, 森 隆夫: 合併症病棟に関する研究. 平成14年度厚生労働科学研究費補助金(障害保健福祉総合研究事業): 精神医療の地域分化や専門的医療等に関する研究 2003 ; pp78-89 .

著 書

- 1) 木村真人, 下田健吾, 館野 周: [分担] PSDの治療 - 2) 薬物療法 [1]精神科の立場から. よくわかる脳卒中後遺症におけるうつ病・うつ状態のマネジメント: 神経内科・精神科の立場から(平井俊策, 樋口輝彦編), 2003 ; pp49-54, 医薬ジャーナル社 .
- 2) 鈴木博子: [分担] 救命救急センターにおける自殺企図者の実態. 自殺企図: その病理と予防・管理(樋口輝彦編), 2003 ; pp146-158, 永井書店 .
- 3) 大久保善朗: [分担] クロウ Timothy John Crow: 「精神分裂病の分子病理: 複数の疾病過程か?」[1980年]. 精神医学文献辞典(松下正明, 中谷陽二, 加藤 敏, 大野 裕, 神庭重信編), 2003 ; pp165-165, 弘文堂 .
- 4) 鈴木英朗, 木村真人: [分担] 尿毒症: 腎不全, 透析に伴う症状精神病を含む. 別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズNo. 40, 精神医学症候群(III): 器質・症状性精神障害など, 2003 ; pp351-354, 日本臨床社 .
- 5) 下田健吾, 木村真人: [分担] 器質性情緒不安定性(無力性)障害. 別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズNo. 40, 精神医学症候群(III): 器質・症状性精神障害など, 2003 ; pp189-192, 日本臨床社 .
- 6) 下田健吾, 木村真人: [分担] 器質性不安障害. 別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズNo. 40, 精神医学症候群(III): 器質・症状性精神障害など, 2003 ; pp184-188, 日本臨床社 .
- 7) 鈴木英朗, 木村真人: [分担] 器質性双極性障害. 別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズNo. 40, 精神医学症候群(III): 器質・症状性精神障害など, 2003 ; pp177-179, 日本臨床社 .
- 8) 鈴木英朗, 木村真人: [分担] 器質性躁病性障害. 別冊 日本臨床 領域別症候群シリーズNo. 40, 精神医学症候群(III): 器質・症状性精神障害など, 2003 ; pp172-175, 日本臨床社 .
- 9) 大久保善朗: [分担] 精神疾患・心身医学(第8章 Common Diseases). 臨床研修医実践マニュアル(奈良信雄), 2003 ; pp536-539, 南江堂 .
- 10) 伊藤敬雄, 山寺博史: [分担] 第17章アルツハイマー患者における高照度光療法とメラトニン.(三池輝久, 山寺博史監修 メラトニン研究会編), 2004 ; 星和書店 .

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 木村真人: Vascular depression の概念と治療. 第6回日本薬物脳波学会, 2003 . 11 .

(2) シンポジウム:

- 1) Okubo Y: Neuroreceptor imaging of schizophrenia and antipsychotic drug action (Symposium on Recent Advances in Functional Neuroimaging in Asia). International Congress of Biological Psychiatry ( Cairns ), 2004 . 2 .
- 2) 大久保善朗: 精神疾患の脳形態画像(精神医療における脳イメージングの可能性). 第99回日本精神神経学会総会, 2003 . 5 .
- 3) 大久保善朗: PETによる受容体およびトランスポーター占有率解析と向精神薬の薬効評価(精神疾患の脳機能画像解析と診断・治療への応用). 第33回日本神経精神薬理学会年会, 2003 . 10 .
- 4) 高石 昇: 近未来の催眠療法 - 21世紀にむけて. 日本臨床催眠学会第5回大会, 2003 . 11 .

(3) パネルディスカッション :

- 1) 高石 昇 : 解離性障害をめぐって . 日本臨床催眠学会第 12 回研修会 , 2003 . 11 .

(4) セミナー :

- 1) 皆川邦直 , 守屋直樹 , 橋本元秀 , 生田憲正 , 遠藤幸彦 , 餅田彰子 ( <sup>1</sup> 法政大学 , <sup>2</sup> 昭和大学藤が丘病院 , <sup>3</sup> 井之頭病院 , <sup>4</sup> 国立成育医療センター , <sup>5</sup> 日吉病院 ) : 診断面接の進め方と精神力動フォーミュレーション . 第 49 回日本精神分析学会 , 2003 . 10 .
- 2) 高石 昇 : 臨床場面における技法の実際 ( 行動療法 ( II ) ) . 関西カウンセリングセンター , 2004 . 3 .

(5) ワークショップ :

- 1) 高石 昇 : 催眠現象とその治療の応用 . 日本臨床催眠学会第 11 回研修会 , 2003 . 5 .

(6) 一般講演 :

- 1) Asayama K , Yamadera H , Ito T , Kudo Y , Suzuki H , Okubo Y : Melatonin effects on the sleep-wake rhythm, core body temperature, and cognitive and non-cognitive functions in Alzheimer type dementia . 1st World Congress of Chronobiology ( Sapporo ) , 2003 . 9 .
- 2) Takano A<sup>1,2</sup> , Sahara T<sup>1,2</sup> , Ikoma Y<sup>1</sup> , Yasuno F<sup>1,2</sup> , Maeda J<sup>1,2</sup> , Ichimiya T<sup>1,2</sup> , Okubo Y ( <sup>1</sup> Brain Imaging Project, National Institute of Radiological Sciences , <sup>2</sup> CREST, Japan Science and Technology Corporation ) : Estimation of time course of dopamine D2 receptor occupancy from plasma pharmacokinetics of antipsychotics . International Symposium for PET and Molecular Imaging ( Sapporo ) , 2003 . 11 .
- 3) Shimoda K , Kimura M , Tateno A , Okubo Y : Clinical usefulness for differential diagnosis of elderly depressed patients using three-dimensional stereotactic surface projections of 123-IMP SPECT . 15th American Neuropsychiatric Association Annual Meeting ( Miami, Florida ) , 2004 . 2 .
- 4) Tateno A , Arakawa R , Mizumura S , Shimoda K , Okubo Y : Regional cerebral blood flow in patients with abnormal oral sensation . 15th American Neuropsychiatric Association annual meeting ( Miami, Florida ) , 2004 . 2 .
- 5) Arakawa R , Tateno A , Mizumura S , Okubo Y : Regional cerebral blood flow in patients with oral pain . 15th American Neuropsychiatric Association annual meeting ( Miami, Florida ) , 2004 . 2 .
- 6) Fujito T , Tateno A , Mizumura S , Shimoda K , Kimura M , Okubo Y : Effects of vascular lesion on regional cerebral blood flow in depressed older adults . 15th American Neuropsychiatric Association annual meeting ( Miami, Florida ) , 2004 . 2 .
- 7) 青木要子 , 木村真人 , 朝山健太郎 , 下田健吾 , 原田章子 , 森 隆夫 , 遠藤俊吉 : 系統的幻覚妄想状態を呈し前頭側頭型痴呆 ( FTD ) が疑われた 1 例 . 第 8 回日本神経精神医学会 , 2003 . 4 .
- 8) 館野 周 , 木村真人 , 下田健吾 , Robinson R , 遠藤俊吉 : 脳卒中後うつ病の現象学的特徴 : アイオワ大学での検討 . 第 8 回日本神経精神医学会 , 2003 . 4 .
- 9) 村田雄一 , 倉辻公美 , 木川暁子 , 木川好章 , 鈴木英朗 , 竹澤健司 , 遠藤俊吉 , 鈴木達也 , 中野博司 , 大庭建三 ( <sup>1</sup> 飯能好寿病院 , <sup>2</sup> 日本医科大学老人科 ) : 痴呆専門病院における予後および死因の検討 . 第 18 回日本老年精神医学会 , 2003 . 6 .
- 10) 中山菜央 , 木村真人 , 森 隆夫 , 橋口英俊 : 糖尿病患者の自己コントロールに関する心理学的研究 . 第 98 回日本心身医学会関東地方会 , 2003 . 9 .
- 11) 横田雅実 , 木村真人 , 橋口英俊 : 伊豆諸島北部群発地震被災者に対する心理検査 . 第 98 回日本心身医学会関東地方会 , 2003 . 9 .
- 12) 笹井妙子<sup>1</sup> , 早川 梓<sup>1</sup> , 山崎まどか<sup>1</sup> , 池田裕美子<sup>1</sup> , 肥田道彦<sup>1</sup> , 高橋英彦<sup>3</sup> , 織田健司<sup>2</sup> , 大久保善朗 ( <sup>1</sup> 東京医科歯科大学生命機能情報解析学分野 , <sup>2</sup> 同精神行動科学分野 , <sup>3</sup> 浅井病院 ) : fMRI による Counting stroop test 時の脳賦活部位の検討 . 第 33 回日本臨床神経生理学学会学術大会 , 2003 . 10 .



- 13) 早川 梓<sup>1)</sup>, 笹井妙子<sup>1)</sup>, 山崎まどか<sup>1)</sup>, 池田裕美子<sup>1)</sup>, 肥田道彦<sup>1)</sup>, 高橋英彦<sup>2)</sup>, 織田健司<sup>3)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学生命機能情報解析学分野, <sup>2)</sup>浅井病院, <sup>3)</sup>東京医科歯科大学精神行動科学分野 ): fMRI を用いた言語聴取時の脳賦活部位の検討 . 第33回日本臨床神経生理学会学術大会, 2003 . 10 .
- 14) 肥田道彦<sup>1)</sup>, 高橋英彦<sup>4)</sup>, 早川 梓<sup>1)</sup>, 笹井妙子<sup>1)</sup>, 山崎まどか<sup>1)</sup>, 池田裕美子<sup>1)</sup>, 室田亜希子<sup>1)</sup>, 織田健司<sup>3)</sup>, 浅井邦彦<sup>4)</sup>, 大久保善朗, 田中 博<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学生命機能情報解析学分野, <sup>2)</sup>同システム情報生物学/生命情報学, <sup>3)</sup>同精神行動科学分野, <sup>4)</sup>浅井病院 ): fMRI 研究 : 受動的聴取課題を用いた言語優位半球の推定 . 第33回日本臨床神経生理学会学術大会, 2003 . 10 .
- 15) 山崎まどか<sup>1)</sup>, 前原健寿<sup>2)</sup>, 鶴園法恵<sup>1)</sup>, 中山絵梨<sup>1)</sup>, 織田健司<sup>3)</sup>, 内田 直<sup>4)</sup>, 太田禎久<sup>2)</sup>, 大野喜久郎<sup>2)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学生命機能情報解析学分野, <sup>2)</sup>同脳神経外科学, <sup>3)</sup>同精神行動科学分野, <sup>4)</sup>早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科スポーツ精神医学 ): 側頭葉内側硬膜下電極におけるてんかん発作時直流電位変動の検討 . 第33回日本臨床神経生理学会学術大会, 2003 . 10 .
- 16) 高野晶寛<sup>1)</sup>, 須原哲也<sup>1)</sup>, 生駒洋子<sup>1)</sup>, 安野史彦<sup>1)</sup>, 前田 純<sup>1)</sup>, 一宮哲哉<sup>1)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究開発推進室 ): 抗精神病薬の血中動態からのドーパミン D2 受容体占有率の経時的変化の推定 . 第33回日本神経精神薬理学会年会, 2003 . 10 .
- 17) 安野史彦<sup>1)</sup>, 須原哲也<sup>1)</sup>, 中山貴至<sup>1)</sup>, 一宮哲哉<sup>1)</sup>, 高野晶寛<sup>1)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究開発推進室 ): 海馬領域に局在する後部シナプス 5-HT1A 受容体の顕在記憶に対する抑制的な影響 . 第33回日本神経精神薬理学会年会, 2003 . 10 .
- 18) 山崎まどか<sup>1)</sup>, 笹井妙子<sup>1)</sup>, 織田健司<sup>2)</sup>, 大久保善朗, 伊藤慈朗<sup>5)</sup>, 一宮哲哉<sup>4)</sup>, 安野史彦<sup>4)</sup>, 高野晶寛<sup>4)</sup>, 須原哲也<sup>4)</sup>, 前原健寿<sup>3)</sup>, 松浦雅人<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学生命機能情報解析学分野, <sup>2)</sup>同精神行動科学分野, <sup>3)</sup>同脳神経外科学教室, <sup>4)</sup>放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究開発推進室, <sup>5)</sup>浅井病院, <sup>6)</sup>日本大学精神科 ): [11C]FLB457 と PET を用いたてんかんのドーパミン D2 受容体の検討 . 第43回日本核医学会総会, 2003 . 10 .
- 19) 笹井妙子<sup>1)</sup>, 山崎まどか<sup>1)</sup>, 織田健司<sup>2)</sup>, 大久保善朗, 伊藤慈朗<sup>4)</sup>, 一宮哲哉<sup>5)</sup>, 安野史彦<sup>5)</sup>, 高野晶寛<sup>5)</sup>, 須原哲也<sup>5)</sup>, 前原健寿<sup>3)</sup>, 松浦雅人<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学生命機能情報解析学分野, <sup>2)</sup>同精神行動科学分野, <sup>3)</sup>同脳神経外科学教室, <sup>4)</sup>浅井病院, <sup>5)</sup>放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究開発推進室, <sup>6)</sup>日本大学精神科 ): [11C]WAY-100635 と PET によるてんかんの 5-HT1A 受容体の検討 . 第43回日本核医学会総会, 2003 . 10 .
- 20) 織田健司<sup>1)</sup>, 松島英介<sup>2)</sup>, 太田克也<sup>3)</sup>, 村田雄二<sup>4)</sup>, 加藤元一郎<sup>6)</sup>, 笹井妙子<sup>5)</sup>, 山崎まどか<sup>5)</sup>, 池田裕美子<sup>5)</sup>, 早川 梓<sup>5)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学精神行動科学分野, <sup>2)</sup>同全人的診断治療学講座, <sup>3)</sup>同神経精神科, <sup>4)</sup>同画像診断・放射線治療科, <sup>5)</sup>同生命機能情報解析学分野, <sup>6)</sup>慶應義塾大学精神・神経科 ): 精神神経症状を示す SLE 患者の脳血流所見 . 第43回日本核医学会総会, 2003 . 10 .
- 21) 関根瑞保, 坂本博子, 竹澤健司, 館野 周, 朝山健太郎, 大久保善朗 : 自殺未遂症例における自殺企図の動機 . 第16回日本総合病院精神医学会総会, 2003 . 11 .
- 22) 高野晶寛<sup>1)</sup>, 須原哲也<sup>1)</sup>, 生駒洋子<sup>1)</sup>, 安野史彦<sup>1)</sup>, 一宮哲哉<sup>1)</sup>, 大久保善朗 ( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究開発推進室 ): 抗精神病薬の血中動態からの脳内動態の経時的変化の予測 . 第36回精神神経系薬物治療研究会報告会, 2003 . 12 .
- 23) 塩川良和, 池森紀夫, 田村良敦, 小泉幸子, 下田健吾, 木村真人 : 舌痛症に対する Milnacipran の効果 . 日本医科大学医学会第112回例会, 2004 . 3 .
- 24) 宮崎文兵, 小西俊一郎, 小泉幸子, 下田健吾, 木村真人 : パロキセチン投与中に著明な低ナトリウム血症を来した1症例 . 日本医科大学医学会第112回例会, 2004 . 3 .

## [ 付属病院東洋医学科 ]

### 研究概要

臨床例や古典より見た東洋医学の有用性の研究，東洋医学病態概念の科学的実証が本科のテーマである．本年度，このテーマに基づき以下のような研究をおこなった．ヒステリー球（梅核気）の東洋医学的病態臓，玉屏風散の蕁麻疹に於ける臨床応用，アレルギー性鼻炎の東洋医学的病態像，これまであまり注目されていない麦芽の東洋医学的効能などである．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 三浦於菟：半夏厚朴湯適応外梅核気の病態：多変量解析による構造的把握．東静漢方研究室 2003；26(5)：50-63．
- 2) 三浦於菟：西洋感冒薬で寒証胃痛を来した1例．東静漢方研究室 2003；26(5)：5-6．
- 3) 三浦於菟：清心蓮子飲と清脾飲で軽快した多汗症の1例追加考察．漢方の臨床 2003；50(6)：151-155．
- 4) 古賀実芳，斉藤輝夫，三浦於菟：苓姜朮甘湯が著効しためまい．漢方の臨床 2003；50(8)：1117-1119．
- 5) 三浦於菟：夜間自我喪失に加味逍遙散合甘麦大枣湯．漢方の臨床 2003；50(12)：1680-1682．

##### (2) 綜説：

- 1) 三浦於菟：漢方ものしり辞典：東洋医学対語術語．MEDICAL KANPO 2003；2(2)：12-12．
- 2) 三浦於菟：消化器疾患に伴う全身症状と漢方処方の実践的解説：エキス剤使用の手引きを読み解く(上)．漢方研究 2003；377(0)：137-142．
- 3) 三浦於菟：消化器疾患に伴う全身症状と漢方処方の実践的解説：エキス剤使用の手引きを読み解く(下)．漢方研究 2003；377(1)：199-210．
- 4) 三浦於菟：実践漢薬学：第18回補虚薬(1)．漢方研究 2003；378(1)：242-249．
- 5) 三浦於菟：実践漢薬学：第19回補虚薬(2)．漢方研究 2003；379(1)：268-275．
- 6) 三浦於菟：実践漢薬学：第20回補虚薬(3)．漢方研究 2003；382(0)：434-437．
- 7) 三浦於菟：漢方ものしり辞典・東洋医学対語術語．MEDICAL KANPO 2003；12(1)：12-12．
- 8) 三浦於菟：実践漢薬学：第21回補虚薬(4)．漢方研究 2003；384(0)：536-540．
- 9) 三浦於菟：実践漢薬学：第22回収斂薬(1)．漢方研究 2004；386(0)：104-107．

#### 著書

- 1) 三浦於菟：〔分担〕梅核気の漢方療法．漢方診療二頁の秘訣(寺沢捷年)，2004；pp206-207，金原出版．
- 2) 三浦於菟：〔自著〕実践漢薬学，2004；pp1-452，医歯薬出版社．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 土屋 喬，三浦於菟，斉藤輝夫：花粉症の鍼灸治療．日本東洋医学会東海支部静岡県部会，2003．2．
- 2) 三浦於菟：半夏厚朴湯を使用せず軽快した梅核気症例の検討．第54回日本東洋医学会学術総会，2003．5．
- 3) 古賀実芳，三浦於菟，斉藤輝夫，春木英一：外環境の変化で増悪をみた2例．第54回日本東洋医学会学術総会，2003．5．
- 4) 副島 厚，三浦於菟，斉藤輝夫，春木英一：温清飲が奏功した慢性再発性アフターの1例．第54回日本東洋医学会学術総会，2003．5．

- 5) 古賀実芳，三浦於菟，春木英一，斉藤輝夫：脾陽虚証のアトピー性皮膚炎の1例．第23回日本小児東洋医学会秋季大会，2003．6．
- 6) 三浦於菟：玉屏風散加減で軽快をみた難知性蕁麻疹3例．第60回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会，2003．10．
- 7) 古賀実芳，三浦於菟：漢方薬に麦芽糖水飴を同服することで口乾・乾性咳嗽が軽快した2例．第21回日本東洋医学会，2003．10．

## 6. 小児科学講座

[ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ]

### 研究概要

小児科学教室は、付属4病院小児科の協力のもとに、臨床的研究そして基礎的研究を行っており、研究業績は一括して報告する。

主たる研究内容は、

1. 再生医療への造血幹細胞を用いた細胞・遺伝子治療の基礎的研究
2. 原発性免疫不全症の遺伝子治療への基礎的研究
3. 白血病治療後の晩期障害の検討ならびに抗癌剤耐性の機序の解明
4. 川崎病の冠動脈瘤および血管リモデリングに対する分子生物学的研究
5. 小児糖尿病児および肥満児の代謝動態の研究
6. 小児期の腎・尿路疾患の臨床および病理学的検討
7. 小児呼吸器疾患の臨床的特徴および肺胞音スペクトル解析とKL-6の臨床応用
8. 新生児・乳児早期の腸内細菌叢とアレルギー疾患発症との検討
9. 小児慢性疲労症候群の病態の解析
10. 小児の痙攣およびてんかんの臨床と電気生理学所見・画像所見の検討などである。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Kawakami Y<sup>1)</sup>, Sakamoto M<sup>2)</sup>, Shimada K<sup>2)</sup>, Noguchi E<sup>2)</sup>, Kuwabara K<sup>1)</sup>, Fukui-Kobayashi T<sup>1)</sup>, Shirota K<sup>1)</sup>, Ogawa K<sup>1)</sup>, Fujita T<sup>1)</sup>, Fujino O<sup>1)</sup>, Kojima S<sup>2)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science ): Correlation between Neopterin, Biopterin and Nitrite/Nitrate in Cerebrospinal Fluid in Child Patients with Neurological Diseases . pteridines 2003 ; 14 ( 1 ): 5-8 .
- 2) Hatori T , Inagaki M , Shirane S , Kaga M : Developmental Changes of Auditory P300 : Difference Between Two Stimuli Conditions, Non-verbal Sound and Verbal Sound . 精神保健研究第16号 2003 ; ( 16 ): 159-167 .
- 3) Shima Y , Ikegami EI , Takechi N , Migita M , Hayashi Z , Araki T , Sugiyama M , Hashizume K : Congenital Fibrosarcoma of the jejunum in a Premature Infant with Meconium Peritonitis . Eur. J. Pediatr. Surg 2003 ; 13 ( 2 ): 134-136 .
- 4) Tsunenori H , Kohji N , Osamu F , Mutsumi M : The Longitudinal Course of Two Cases with Cretinism Diagnosed After Adolescence . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 2 ): 175-178 .
- 5) Shima Y<sup>1)</sup>, Hayashida M<sup>2)</sup>, Hayashi T<sup>3)</sup>, Kuwabara Y<sup>3)</sup>, Araki T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Premature and Neonatal Medicine, Katsushika Red Cross Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Obstetrics of Gynecology, Nippon Medical School ): Characteristic prenatal ultrasonographic findings of patent urachus : case report . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 2 ): 172-174 .
- 6) Hayakawa J , Migita M , Ueda T , Shimada T<sup>1)</sup>, Fukunaga Y ( <sup>1)</sup> 生化学第2 ): Generation of a chimeric mouse reconstituted with GFP ( + ) bone marrow cells : The useful model for studying the behavior of bone

- marrow cells in regeneration in vivo . *International journal of hematology* 2003 ; 77 ( 5 ): 456-462 .
- 7 ) Orimoto M , Maeda M , Cai Ling-zhi , Hayakawa J , Ueda H , Migita M , Asano T : Successful immunosuppressive therapy for a child with myelodysplastic syndrome . *Med Ped Oncol* 2003 ; 40 ( 5 ): 334-335 .
  - 8 ) Asano T , Matsumoto T , Ling Zhi C , Maeda M , Uchida E , Tajiri T , Fukunaga Y : Solid and cystic tumor of the pancreas in a 12-year-old boy . *Pediatrics Int* 2003 ; 45 ( 3 ): 339-341 .
  - 9 ) Ebihara Y<sup>1)</sup> , Manabe A<sup>1)</sup> , Tanaka R<sup>1)</sup> , Yoshimasu Y<sup>1)</sup> , Ishikawa K<sup>1)</sup> , Iseki T<sup>1)</sup> , Hayakawa J , Maeda M , Asano S<sup>1)</sup> , Tsuji K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Tokyo ): Successful treatment of natural killer ( NK ) cell leukemia following a long-standing chronic active Epstein-Barr virus ( CAEBV ) infection with allogeneic bone marrow transplantation . *Bone Marrow Transplantation* 2003 ; 31 ( 6 ): 1169-1171 .
  - 10 ) Kawashima E , Norose Y , Watanabe Y , Enomoto Y , Narazaki H , Watarai E , Tanaka S , Takahashi H , Yano I , Michael BB , Sugita M : Major CD8 T Cell Response to Live Bacillus Calmette-Guerin Is Mediated by CD1 Molecules . *Journal of Immunology* 2003 ; 170 ( 11 ): 5345-5348 .
  - 11 ) Kuramochi Y , Fukazawa R , Migita M , Hayakawa J , Hayashida M , Uchikoba Y , Fukumi D , Shimada T<sup>1)</sup> , Ogawa S ( <sup>1)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology ): Cardiomyocyte Regeneration from Circulating Bone Marrow Cells in Mice . *Pediatr Res* 2003 ; 54 : 319-325 2003 ; 54 ( 3 ): 319-325 .
  - 12 ) Migita M , Shimada T , Harayawa J , Morita T , Fukunaga Y : Home treatment with enzyme replacement therapy for Gaucher disease . *Pediatr Int* 2003 ; 45 ( 3 ): 363-365 .
  - 13 ) Migita M , Hamada H , Fujimura J , Watanabe A , Shimada T , Fukunaga Y : Glucocerebrosidase level in the cerebrospinal fluid during enzyme replacement therapy-unsuccesful treatment to the neurological abnormality of type 2 Gaucher disease- . *Eur J Paed* 2003 ; 162 ( 7 ): 524-526 .
  - 14 ) Kawakami Y<sup>1)</sup> , Hirayama T<sup>1)</sup> , Hashimoto K<sup>1)</sup> , Kuwabara K<sup>1)</sup> , Fujita T<sup>1)</sup> , Fujino O<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School Second Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): A Case of Adversive Seizures Induced by Hyperventilation . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 4 ): 351-354 .
  - 15 ) Kawakami Y , Hirayama T , Hashimoto K , Kuwabara K , Fujita T , Fujino O : A Case of Adversive Seizures Induced by Hyperventilation . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 4 ): 351-354 .
  - 16 ) Asano T , Zhi CL , Hayakawa J , Fukunaga Y : Analysis of resistance-related gene expression in doxorubicin resistant leukemia cell line by DNA microarray . *Jpn J Pediatr Hematol* 2003 ; 17 ( 5 ): 348-353 .
  - 17 ) Kawakami Y<sup>1)</sup> , Sakamoto M<sup>2)</sup> , Kuwabara K<sup>1)</sup> , Fujita T<sup>1)</sup> , Fujino O<sup>1)</sup> , Kojima S<sup>2)</sup> , Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo university of Science ): Oxidized Neopterin Enhances Apoptosis Induced by Hydrogen Peroxide in Mouse Macrophage Cells . *Pteridines* 2003 ; 14 ( 4 ): 126-128 .
  - 18 ) Choi JB<sup>1)</sup> , Uchio H<sup>1)</sup> , Azuma K<sup>1)</sup> , Iwashita N<sup>2)</sup> , Tanaka Y<sup>1)</sup> , Mochizuki H<sup>2)</sup> , Migita M , Shimada T<sup>3)</sup> , Kawamari R<sup>3)</sup> , Watada H ( <sup>1)</sup> 順天堂大学内分泌内科 , <sup>2)</sup> 同神経内科 , <sup>3)</sup> 日本医科大学生生化学第2 ): Little evidence of transdifferentiation of bone marrow-derived cells into pancreatic beta cells . *Diabetologia* 2003 ; 46 ( 10 ): 1366-1374 .
  - 19 ) Fukazawa R , Miller T , Kuramochi Y , Frantz S , Kim Young-D , Marchionni M , Kelly R , Sawyer D ( <sup>1)</sup> Dept. of Medicine, Whitaker Cardiovascular Institute, Boston Medical Center, Boston, USA , <sup>2)</sup> Medizinische Universitaetsklinik Wuerzburg, Wuerzburg, Germany , <sup>3)</sup> Cardiovascular Division, Dong-A University School of Medicine, Pusang Korea , <sup>4)</sup> NRG Biotech, Arlington, MA, USA , <sup>5)</sup> Brigham and Women's Hospital and Harvard University Medical Center, Boston, USA ): Neuregulin-1 protects ventricular myocytes from anthracycline-induced apoptosis via erbB4-dependent activation of PI3-kinase/Akt . *Journal of Molecular and*

- Cellular Cardiology 2003 ; 35 ( 12 ): 1473-1479 .
- 20) Kishi M , Ohki Y , Ohkawa T , Orimo H : A three-year follow-up of glucose tolerance and insulin resistance in growth hormone-deficient ( GHD ) children who underwent growth hormone ( GH ) replacement therapy . Clin Pediatr Endocrinol 2003 ; 12 ( 2 ): 99-104 .
- 21) Akaishi J<sup>1)</sup> , Yamauchi H<sup>1)</sup> , Ochi M<sup>1)</sup> , Ogawa S , Asoh T<sup>2)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery II , <sup>2)</sup> Dept. of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Kitasato Univ ): One and a Half Ventricle Repair for Ebstein's Anomaly . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2003 ; 51 ( 12 ): 665-668 .
- 22) Nishimaki S , Shima Y , Satoh M , An H , Hashimoto M , Nishiyama Y , Iwasaki S , Takeishi I , Seki K , Yokota S : Urinary 62-microglobulin in premature infants with chorioamnionitis and chronic lung disease . J Pediatr 2003 ; 143 : 120-122 .
- 23) Kuwabara Y , Shima Y , Takeuchi M , Shinohara T , Awataguchi K , Araki T , Shin S : Critical pulmonary stenosis with intact ventricular septum and fetal arrhythmias . Arch Gynecol Obstet 2003 ; 67 : 236-238 .
- 24) Ogawa R<sup>1,2)</sup> , Mizuno H<sup>2)</sup> , Watanabe A<sup>1)</sup> , Migita M , Shimada T<sup>1)</sup> , Hyakusoku H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学第2 , <sup>2)</sup> 形成外科 ): Osteogenic and chondrogenic differentiation by adipose-derived stem cells harvested from GFP transgenic mice . Biochem Biophys Res Commun 2004 ; 313 ( 4 ): 871-877 .
- 25) Yanagihara T<sup>1,2)</sup> , Kumagai Y<sup>1)</sup> , Norose Y<sup>1)</sup> , Moro I<sup>3)</sup> , Nanno M<sup>4)</sup> , Murakami M<sup>2)</sup> , Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics , <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nihon University School of Dentistry, Tokyo, Japan , <sup>4)</sup> Yakult Central Institute for Microbiological Research, Tokyo, Japan ): Age-dependent decrease of polymeric Ig receptor expression and IgA elevation in ddY mice : a possible cause of IgA nephropathy . Laboratory Investigation 2004 ; 84 : 63-70 .
- 26) Kato Y<sup>1)</sup> , Yamataka A<sup>1)</sup> , Miyahara K<sup>1)</sup> , Sueyoshi N<sup>1)</sup> , Hayakawa J<sup>2)</sup> , Hayashida M<sup>2)</sup> , Migita M<sup>2)</sup> , Shimada T<sup>3)</sup> , Kobayashi H<sup>1)</sup> , Lane GJ<sup>1)</sup> , Miyano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatric Surgery, Juntendo University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School ): Recipient non-hematopoietic bone marrow cells in the intestinal graft after fetal small intestinal transplantation . Pediatr Surg Int 2004 ; 20 ( 1 ): 1-4 .
- 27) Ogawa S , Ohkubo T , Fukazawa R , Kamisago M , Kuramochi Y , Uchikoba Y , Ikegami E , Watanabe M , Katsube Y : Estimation of Myocardial Hemodynamics Before and After Intervention in Children with Kawasaki Disease . J Am Coll Cardiol 2004 ; 43 ( 4 ): 653-661 .
- 28) Zhi CL , Migita M , Hayakawa J , Fukunaga Y : Establishment of Modified Retroviral Vector Targeting X-Linked Severe Combined Immunodeficiency . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 1 ): 51-56 .
- 29) 稲葉八興 , 福永慶隆 : BCG vaccination may play a role in the primary prevention of atopic diseases among Japanese children aged 3 years . 日本小児アレルギー学会雑誌 2004 ; 18 ( 1 ): 108-115 .
- 30) Kato Y<sup>1)</sup> , Yamataka A<sup>1)</sup> , Miyahara K<sup>1)</sup> , Sueyoshi N<sup>1)</sup> , Hayakawa J , Hayashida M , Migita M , Shimada T<sup>2)</sup> , Kobayashi H<sup>1)</sup> , Miyano M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 順天堂大学小児外科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学生化学第2 ): Recipient non-hematopoietic bone marrow cells in the intestinal graft after fetal small intestinal transplantation . Pediatr Surg Int 2004 ; 20 : 1-4 .
- 31) 早川 潤 , 右田 真 : 最近話題の用語 , 組織幹細胞 . 小児科 2003 ; 44 ( 4 ): 280-281 .
- 32) 右田 真 , 早川 潤 , 早川真理 , 深沢隆治 , 福永慶隆 , 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学第2 ): ここまで来た再生医療 骨髄幹細胞を用いた細胞遺伝子治療 再生医学の臨床応用に向けて . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 5 ): 432-435 .
- 33) 島 義雄 , 西巻 滋 , 藤田敦士 , 馬場千晶 , 白井潤二 , 加納美穂 : Fetal inflammatory response syndrome ( FIRS ) と早産羊水過少との関係 . 日本未熟児新生児学会誌 2003 ; 15 ( 2 ): 217-223 .

- 34) 今井丈英, 高瀬真人, 宗像恵美子, 上砂光裕, 内木場庸子, 安田 正: 深部静脈血栓由来の肺血栓塞栓症により心肺停止状態となった Duchenne 型筋ジストロフィーの1例. 日本小児呼吸器疾患学会雑誌 2003 ; 14 (1): 4-10 .
- 35) 高瀬真人, 城田和彦, 今井丈英: 喘息児における肺胞音スペクトルの特徴と気管支拡張薬吸入に対する変化. 薬理と臨床 2003 ; 13 (4): 339-346 .
- 36) 小泉慎也, 早川 潤, 早川真理, 五十嵐利一<sup>1)</sup>, 前田美穂, 村上睦美, 福永慶隆<sup>(1)</sup>いがらし内科小児科クリニック): 血清型同定に苦慮した腸管出血性大腸菌O165による溶血性尿毒症症候群の1例. 日本小児科学会雑誌 2003 ; 107 (10): 1372-1374 .
- 37) 島 義雄, 西巻 滋, 林田真理, 藤田敦士, 中島みずほ: Fetal inflammatory Response Syndrome ( FIRS ) と胎児母体情報の関係. 日本新生児学会雑誌 2003 ; 39 (4): 820-825 .
- 38) 前田美穂, 武智信幸, 池上 英, 津田晃男, 濱田久光, 五十嵐徹, 右田 真, 浅野 健, 福永慶隆: 重症病原性大腸菌O-113感染症約1か月後に急性リンパ性白血病を発症した乳児例. 埼玉県小児血液同好会20周年記念誌 2003 ; 23-28 .
- 39) 浅野 健, 小泉慎也, 阿部正徳, 中島瑞恵, 桑原健太郎, 上砂光裕, 今井大洋, 藤野 修: アルカリフォスファターゼ低値を契機に診断されたウイルソン病. 日児誌 2004 ; 108 (3): 418-420 .
- 40) 山内仁紫: 川崎病巨大冠動脈瘤に対する外科治療. 日本小児循環器学会雑誌 2004 ; 20 : 94-99 2004 ; 20 (2): 94-99 .

(2) 綜説:

- 1) Tsuchiya M, Hayashida Mari, Yanagihara T, Yoshida J, Takeda S, Tatsuma N, Tsugu H, Hino Y, Munakata E, Murakami M: Ultrasound screening for renal and urinary tract anomalies in healthy infants . Pediatr Int 2003 ; 45 (5): 617-623 .
- 2) Ohki Y: Treatment and prevention of diabetic ketoacidosis in children and adolescents . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 (6): 464-468 .
- 3) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 自己免疫性疲労症候群. 感染・炎症・免疫 2003 ; 33 (1): 88-93 .
- 4) 島 義雄: P-PROMの胎児/新生児への影響. 婦人科治療 2003 ; 86 (3): 357-361 .
- 5) 右田 真, 早川 潤: 再生医療. 小児科 2003 ; 44 (4): 720-721 .
- 6) 早川 潤, 右田 真: 組織幹細胞. 小児科 2003 ; 44 (4): 722-723 .
- 7) 五十嵐徹, 伊藤保彦: セロネガティブ小児自己免疫疾患. 小児科 2003 ; 44 (4): 596-596 .
- 8) 前田美穂: 鉄欠乏性貧血. 小児内科 2003 ; 35 (増刊号): 1110-1114 .
- 9) 高瀬真人: 最近話題の用語: 知っておきたい豆知識 6 呼吸器 COPD (慢性閉塞性肺疾患). 小児科 2003 ; 44 (4): 452-452 .
- 10) 大木由加志: Question: インスリン抵抗性は? 小児肥満におけるインスリン抵抗性について教えてください (小児の肥満と糖尿病). 肥満と糖尿病 2003 ; 2 (3): 34-35 .
- 11) 島 義雄: 新生児の生理. ペリネイタルケア 2003 ; 22 (5): 408-414 .
- 12) 伊藤保彦, 福永慶隆: 慢性疲労症候群の自己免疫学的側面: 自己免疫性疲労症候群との関係. 医学のあゆみ 2003 ; 204 (5): 163-167 .
- 13) 前田美穂: 小児白血病治療後におけるC型肝炎ウイルス感染症. 小児科 2003 ; 44 (5): 846-850 .
- 14) 前田美穂: 症例から学ぶ小児の貧血; 異常ヘモグロビン症. 小児内科 2003 ; 35 (6): 1065-1068 .
- 15) 大木由加志, 折茂裕美: 小児・思春期2型糖尿病の疫学, 診断, 治療 (肥満と2型糖尿病 | 疫学・診断・治療の概略). 小児科診療 2003 ; 66 (6): 941-948 .
- 16) 浅野ありさ<sup>1,2)</sup>, 渡辺 淳<sup>1,3)</sup>, 右田 真<sup>1,2)</sup>, 渡辺裕子<sup>1,5)</sup>, 鈴木由美<sup>1,5)</sup>, 千葉弘子<sup>1,5)</sup>, 堺 則康<sup>1,4)</sup>, 島田隆<sup>1,3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup>小児科, <sup>3)</sup>生化学第2, <sup>4)</sup>皮膚科, <sup>5)</sup>付属病院看護部): 遺伝外来の実際:

- 遺伝カウンセリングでクライアントが抱える問題点．小児科 2003；44（7）：1145-1150．
- 17) 小川俊一：特集川崎病Q & A 川崎病の病院論的事項：血管作動性物質は川崎病の増悪因子ですか．小児内科 2003；35（9）：1494-1496．
- 18) 小川俊一：特集川崎病Q & A 後遺症の治療と予後：巨大冠動脈瘤のトータルケアについて教えてください．小児内科 2003；35（9）：1589-1591．
- 19) 右田 真，早川 潤，早川真理，深澤隆治，福永慶隆，島田 隆：骨髄幹細胞を用いた細胞遺伝子治療：再生医学の臨床応用に向けて．J Nippon Med Sch 2003；70（5）：432-435．
- 20) 伊藤保彦，五十嵐徹，福永慶隆：思春期慢性疾患児への対応：膠原病．小児科 2003；44（10）：1489-1496．
- 21) 福永慶隆：乳幼児期および思春期における鉄欠乏性貧血と予防のための食生活．小児科 2003；44（11）：1667-1676．
- 22) 前田美穂：症状からみた鑑別診断と臨床検査；貧血．小児科診療 2003；66（特大号）：1893-1900．
- 23) 前田美穂：悪性腫瘍で食欲のない子ども．小児科 2003；44（11）：1778-1782．
- 24) 大木由加志，折茂裕美：小児・思春期糖尿病（病気のときの食事と食事療法：正しい指示ができる小児科医）．小児科 2003；44（11）：1689-1694．
- 25) 大木由加志，折茂裕美：小児の肥満と2型糖尿病（小児肥満の最前線 V 肥満判定と肥満症）．小児科臨床 2003；56（12）：2375-2381．
- 26) 高瀬真人：肺の成長と発育：成人の呼吸器疾患との接点：乳幼児期の呼吸器感染症の特徴．Lung Perspect 2004；12（1）：43-46．
- 27) 高瀬真人：呼吸器感染のそこが知りたい：反復性肺炎．小児内科 2004；36（1）：96-99．
- 28) 今井文英：呼吸器感染のそこが知りたい：細菌性肺炎．小児内科 2004；36（1）：135-138．
- 29) 伊藤保彦：小児のシェーグレン症候群．日本医事新報 2004；4163：105-105．
- 30) 島 義雄：Fetal Inflammatory Response Syndrome（FIRS）の胎児新生児への影響．産婦人科の実際 2004；53（3）：459-463．
- 31) 島 義雄：産科医療のフロントライン：産科と小児科の新たな連携と母児管理．周産期医学 2004；34（3）：387-392．
- 32) 内木場庸子，林 宏光<sup>1)</sup>，小川俊一（<sup>1)</sup>付属病院放射線科）：Multi-slice CTを用いた先天性異常血管の評価．小児外科 2004；36（3）：318-322．

## 著 書

- 1) 高瀬真人：〔分担〕乳び胸．今日の小児治療指針（大関武彦・古川 漸・横田俊一郎），2003；pp289-289，医学書院．
- 2) 大木由加志：〔翻訳〕こどもの病気を理解しよう vol. 3．糖尿病，2003；pp1-36，小峰書店．
- 3) 林田真理，池上 英，倉持雪穂，浅野 健，前田美穂，福永慶隆：〔自著〕内視鏡クリッピング術により止血しえた急性十二指腸潰瘍出血の2歳男児例．小児科，2003；pp133-136，金原出版．
- 4) 林田真理，村上睦美：〔自著〕最近話題の用語-知っておきたい豆知識 179 その他 トロンボモジュリン．小児科，2003；pp739-740，金原出版．
- 5) 羽鳥誉之：〔共著〕大脳誘発電位の記録法と読み方 視覚誘発電位．国立精神・神経センター小児神経科診断・治療マニュアル（加我牧子 佐々木征行 須貝研司），2003；pp145-148，診断と治療社．
- 6) 羽鳥誉之：〔共著〕視力検査．国立精神・神経センター小児神経科診断・治療マニュアル（加我牧子 佐々木征行 須貝研司），2003；pp254-257，診断と治療社．
- 7) 羽鳥誉之：〔共著〕正常値の誘発電位の視覚誘発電位．国立精神・神経センター小児神経科診断・治療マニュアル（加我牧子 佐々木征行 須貝研司），2003；pp399-401，診断と治療社．



- 8) 高瀬真人：〔分担〕乳び胸．小児科診療Q & A 追録第36号，2003；pp1416-1417，六法出版社．
- 9) 前田美穂：〔分担〕晩期障害．小児白血病診療ハンドブック（月本一郎編著），2003；pp256-266，中外医学社．
- 10) 島 義雄：〔分担〕第25章：外科疾患．ロバートン新生児集中治療マニュアル（改定2版）（竹内 徹），2003；メディカ出版．
- 11) 島 義雄：〔分担〕各論I産科9新生児仮死．リスクマネジメントの実際 産婦人科領域～医療安全管理のポイント～，2003；医学ジャーナル社．
- 12) 早川真理，柳原 剛，村上睦美：〔分担〕腎炎 ネフローゼ：そこが知りたい 傷害された糸球体の修復に骨髄から動員された細胞が関与しているというのは本当ですか？．小児内科，2004；pp280-281，東京医学社．
- 13) 前田美穂：〔分担〕長期追跡システムと晩期障害についての説明と同意．小児血液悪性疾患（土田昌宏 編），2004；pp36-51，医学ジャーナル社．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 松岡和彦：血清BUN / CRNによる消化管出血部位の推定．第37回川崎市小児科医会総会，2003．6．
- 2) 前田美穂：貧血「日常小児科診療に役立つ話題」．第28回東日本小児科学会，2003．11．
- 3) 藤野 修：小児の初回無熱性発作（unprovoked seizure）．．．治療を開始するべきか．日本医科大学医学会第112回例会，2004．2．

##### (2) シンポジウム：

- 1) Itoh Y：Clinical feature of pediatric Fibromyalgia．1st. International Symposium of Fibromyalgia (Tokyo)，2004．3．
- 2) 小川俊一：後遺症の診療ガイドライン（川崎病のガイドライン）．第23回日本川崎病研究会，2003．9．

##### (3) ワークショップ：

- 1) 杉田憲一<sup>1)</sup>，前田美穂，菊池 陽<sup>1)</sup>，藤沢康司<sup>1)</sup>，野口 靖<sup>1)</sup>，安達尚登<sup>1)</sup>，小森功夫<sup>1)</sup>，福島 敬<sup>1)</sup>，小池健一<sup>1)</sup>，和田恵美子<sup>1)</sup>，真部 淳<sup>1)</sup>，森本 克<sup>1)</sup>，高山 順<sup>1)</sup>，大久保摩利子<sup>1)</sup>，生田孝一郎<sup>1)</sup>，土田昌宏（<sup>1)</sup>東京小児がん研究グループ）：小児急性リンパ性白血病治療後の二次がん：TCCSG L81-10 ミ L99-15 プロトコール，1981-2002．第65回日本血液学会総会・第45回日本臨床血液学会総会，2003．8．
- 2) 浅野 健，濱田久光，早川 潤，右田 真，前田美穂，福永慶隆：ドキシソルピシン耐性白血病細胞に対する cyclooxygenase 阻害剤インドメタシンによる薬剤耐性克服はMRP-1の活性阻害による．第45回日本小児血液学会，2003．10．

##### (4) 一般講演：

- 1) Hayakawa J，Migita M，Hayakawa M，Kato Y<sup>2)</sup>，Shimada T<sup>1)</sup>，Fukunaga Y（<sup>1)</sup>日本医科大学生化学第2，<sup>2)</sup>順天堂大学小児外科）：The behavior of bone marrow cell in regeneration of intestine-Useful model for studying tissue regeneration in vivo-．Keystone Symposia 2003 Stem Cells (E3) (Steamboat Resort, CO, USA)，2003．4．
- 2) Hatori T，Inagaki M，Shirane S，Kaga M：Developmental Change of Auditory P300 to Verbal and Non-verbal sound in Children．2003 Joint AAEM/IFCN Annual Scientific Meeting. (サンフランシスコ)，2003．9．
- 3) Kazuto H，Masakazu T，Kasem U，Surasak B，Chawin L，Boonsong K，Kentaro K，Kazumi I，Siriluk V，Sutaporn P，Somboon S：EPIDEMIOLOGICAL RESEARCH OF THALASSEMIA IN CHIANG MAI CITY AREA, THAILAND．27th Annual Scientific Meeting on Mahid's day (タイ国チェンマイ大学医学部)，2003．9．
- 4) Ogawa S，Fukazawa R，Ohkubo T，Kamisago M，Uchikoba Y，Ikegami E，Watanabe M，Katsube Y：Reduced shear stress leads to coronary aneurysm and thrombus formation in patients with Kawasaki disease．5th International Congress on Coronary Artery Disease (Florence, Italy)，2003．10．

- 5) Matsumoto T , Fukazawa R , Ohkubo T , Kamisago M , Uchikoba Y , Ikegami E , Katsube Y , Ogawa S : Myocardial fractional flow reserve in children with Kawasaki disease . 5th International Congress on Coronary Artery Disease ( Florence, Italy ) , 2003 . 10 .
- 6) Uchikoba Y , Fukazawa R , Ohkubo T , Kamisago M , Ikegami E , Watanabe M , Katsube Y , Ogawa S : Estimation of reserved myocardial function by coronary flow reserve in children with Kawasaki disease . 5th International Congress on Coronary Artery Disease ( Florence, Italy ) , 2003 . 10 .
- 7) Hajikano M , Katsube Y , Watanabe M , Ikegami E , Uchikoba Y , Kamisago M , Fukazawa R , Ogawa S : Diazoxide increases ATP-sensitive K<sup>+</sup> current of neonatal rat ventricular myocytes . International Society for Heart Research ( ISHR ) The 20th Annual Meeting of the Japanese Section ( Tokyo ) , 2003 . 11 .
- 8) Wu Gui-R<sup>1)</sup> , Wu C<sup>1)</sup> , Katsube Y , Ogawa S , Hayama E<sup>1)</sup> , Nakanishi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Heart Institute, Tokyo Women's Med Univ. ): Decreases in Intracellular H<sub>2</sub>O<sub>2</sub> Cause Contraction of the Rabbit Ductus Arteriosus . American Heart Association's Scientific Sessions 2003 ( Orland, USA ) , 2003 . 11 .
- 9) Migita M , Kuramochi Y , Hayakawa J , Fukunaga Y , Shimada T : Bone marrow stromal cells as carriers for targeted gene therapy of damaged tissues . ASH meeting ( USA ) , 2003 . 12 .
- 10) Hayakawa J , Migita M , Adachi K , Hayakawa M , Shimada T , Fukunaga Y : Dextran sulfate and stromal cell derived factor-1 enhance the expression of CXCR4 and improved the homing efficiency of hematopoietic stem cells in bone marrow . ASH meeting ( USA ) , 2003 . 12 .
- 11) Hayakawa J , Migiita M , Fukazawa R , Adachi K<sup>1)</sup> , Hayakawa M , Shimada T<sup>1)</sup> , Fukunaga Y ( <sup>1)</sup>生化学第2 ): Pretreatment of donor mice with dextran sulfate enhances homing of hematopoietic stem cells . 45th American Society of Hematology ( San Diego, USA ) , 2003 . 12 .
- 12) 池上 英 , 深澤隆治 , 上砂光裕 , 初鹿野見春 , 渡邊美紀 , 内木場庸子 , 勝部康弘 , 小川俊一 : Reduced shear stress and large shear stress gradient cause coronary aneurysm and thrombus formation in children with Kawasaki disease . American college of cardiology Annual Scientific Session 2004( アメリカ ニューオリンズ ) , 2004 . 3 .
- 13) Ikegami E , Fukazawa R , Kamisago M , Uchikoba Y , Watanabe M , Hajikano M , Katsube Y , Ogawa S : Reduced shear stress and large shear stress gradient cause coronary aneurysm and thrombus formation in children with Kawasaki disease . 53rd Annual Scientific Session of the American College of Cardiology ( New Orleans, USA ) , 2004 . 3 .
- 14) 桑原健太郎 , 藤野 修 , Surasak B : Monoclonal抗体によるタイ人小児の便中 *H. pylori* 抗原測定 . 第7回日本小児 *Hp* 研究会 , 2003 . 5 .
- 15) Fukazawa R , Uchikoba Y , Ikegami E , Watanabe M , Ohkubo T , Kamisago M , Fukumi D , Katsube Y , Ogawa S : The effect of immunoglobulin therapy on human endothelial cell in Kawasaki disease . 日本循環器学会 , 2003 . 3 .
- 16) 三科 香 , 渡辺美紀 , 前田美穂 , 福永慶隆 : シトリン欠損症の1例 . 第517回日本小児科学会東京都地方会 , 2004 . 1 .
- 17) Fukazawa R , Watanabe M , Ikegami E , Uchikoba Y , Kamisago M , Hajikano M , Katsube Y , Ochi M<sup>1)</sup> , Ogawa S ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery II ): Characteristics Senescence Associated Findings in Coronary Artery Aneurysm in Children with Kawasaki Disease . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 18) 島 義雄 , 林田真理 , 布山裕一 , 新藤史子 , 黒田奈緒 , 藤田敦士 : 早産における羊水過少の病態に関する考察 . 第25回小児体液研究会 ,
- 19) 林田真理 , 島 義雄 , 新藤史子 , 黒田奈緒 , 藤田敦士 : 双胎の一児に妊娠早期に胎児胸水を認め自然消失した

- 1例．第25回小児体液研究会，
- 20) 五十嵐徹：全身性エリテマトーデスにおける anti double stranded DNA ( dsDNA ) antibody の avidity について．第71回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 21) 羽鳥誉之，稲垣真澄，加我牧子：広汎性発達障害児における聴覚性P300の検討．第106回日本小児科学会学術集会，2003．3．
- 22) 伊藤保彦，五十嵐徹，今井大洋，藤野 修，福永慶隆：不定愁訴と自己免疫性疲労症候群，慢性疲労症候群，シェーグレン症候群．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 23) 海津聖彦，前田美穂，劉 効蘭<sup>1)</sup>，安達彰子<sup>1)</sup>，佐藤 茂<sup>1)</sup>，福永慶隆 ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設 )：小児白血病における末梢血の電子顕微鏡観察による検討．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 24) 藤野 修，藤田武久，高石康子，桑原健太郎，岡田一芳，藤松真理子，羽鳥誉之，小林朋子，橋本 清，福永慶隆：初回の無熱性のけいれん性・非けいれん性発作で受診した症例の検討．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 25) 桑原健太郎，桑原奈津子，土屋正己，藤野 修，村上睦美，福永慶隆：タイ国チェンマイ地方公立学校小学校児の高カルシウム尿症の頻度調査：第一尿と随時尿の比較．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 26) 岸 恵，大木由加志，折茂裕美：GH補充療法の血清レプチン値に対する影響：3年間の検討．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 27) 吉田順子，林田真理，柳原 剛，土屋正己，村上睦美：低出生体重児の1ヶ月検診時における超音波診断装置を用いた腎の大きさの検討．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 28) 早川 潤，早川真理，島田 隆<sup>1)</sup>，福永慶隆 ( <sup>1)</sup>生化学第2 )：骨髄生着における Dextran sulfate 及び SDF-1 の役割：臍帯血移植の適応拡大に向けて．第106回日本小児科学会総会，2003．4．
- 29) 竹内穂高<sup>1)</sup>，初鹿野見春<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院小児科 )：腎性低尿酸血症に伴う運動後急性腎不全の1例．第262回日本小児科学会神奈川県地方会，2003．4．
- 30) 初鹿野見春<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院小児科 )：腎性低尿酸血症の1例．第248回川崎市小児科医会症例検討会，2003．4．
- 31) 浅井牧子<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院小児科 )：処女膜閉鎖症の1例．第248回川崎市小児科医会症例検討会，2003．4．
- 32) 松永成太<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院小児科 )：スポーツ貧血の1例．第248回川崎市小児科医会症例検討会，2003．4．
- 33) 前田美穂，福永慶隆，海津聖彦，早川 潤，右田 真，浅野 健：白血病・悪性リンパ腫患児の治療中および治療後における頭部MRI所見の検討．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 34) 海津聖彦，前田美穂，劉 効蘭，安達彰子，佐藤 茂，福永慶隆：小児白血病における末梢血の電子顕微鏡観察による検討．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 35) 神山 潤<sup>1)</sup>，中村明夫<sup>2)</sup>，柳川幸重<sup>2)</sup>，本山 治<sup>3)</sup>，諸岡啓一<sup>3)</sup>，小川俊一，前田美穂，大木由加志 ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学，<sup>2)</sup>帝京大学，<sup>3)</sup>東邦大学 )：小児科学会東京都地方会がこどもの健康週間に行った「生体リズムチェック」について．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 36) 高瀬真人，城田和彦，今井丈英，今井登志子，稲葉八興，千葉 隆，今井大洋：気管支喘息児の肺胞音スペクトル解析：発作間欠期の 2刺激薬吸入に対する反応性．第105回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 37) 岸 恵，大木由加志，折茂裕美：GH補充療法の血清レプチン値に対する影響：3年間の検討．第106回日本小児科学会総会，2003．4．
- 38) 神山 潤<sup>1)</sup>，中村明夫<sup>2)</sup>，柳川幸重<sup>2)</sup>，藁谷 理<sup>3)</sup>，赤木美智雄<sup>3)</sup>，本山 治<sup>4)</sup>，師岡啓一<sup>4)</sup>，小川俊一，前田美穂，大木由加志 ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学小児科，<sup>2)</sup>帝京大学小児科，<sup>3)</sup>杏林大学小児科，<sup>4)</sup>東邦大学小児科 )：小児科学会東京都地方会が子どもの健康習慣に行った「生体リズムチェック」について．第106回日本小

児科学会総会，2003．4．

- 39) 林田真理，早川 潤，右田 真，土屋正己，村上睦美，福永慶隆：糸球体腎炎の治癒過程における骨髄幹細胞の関与．第106回日本小児科学会学術集会，2003．4．
- 40) 稲葉八興，稲垣真一郎，五十嵐徹，伊藤保彦，福永慶隆：喘息発作の治療中，著明な低ナトリウム血症に伴って全身性けいれんをおこした2歳男児の1例．日本小児科学会東京都地方会，2003．5．
- 41) 藤野 修，藤田武久，桑原健太郎，高石康子，岡田一芳，藤松真理子，川上康彦，平山恒憲，橋本 清：初回無熱性発作：単回のみ症例と反復した症例の臨床的検討．第45回日本小児神経学会総会，2003．5．
- 42) 高石康子，藤野 修，桑原健太郎，岡田一芳，藤田武久，藤松真理子，小林朋子，橋本 清：ひきこもりを呈したてんかん症例について．第45回日本小児神経学会総会，2003．5．
- 43) 藤田武久<sup>1)</sup>，藤野 修<sup>2)</sup>，桑原健太郎<sup>2)</sup>，川上康彦<sup>1)</sup>，平山恒憲<sup>3)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，高石康子<sup>2)</sup>，橋本 清<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院小児科，<sup>2)</sup>同千葉北総病院小児科，<sup>3)</sup>国立療養所福島病院小児科）：限局性肥大をともなった結節性硬化症の2例．第45回日本小児神経学会，2003．5．
- 44) 柳原 剛，村上睦美，熊谷善博<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>微生物学・免疫学）：ddYマウスにおけるIgA腎症への多量体免疫グロブリンレセプター（pIgR）の関与．第46回日本腎臓学会，2003．5．
- 45) 堺 則康<sup>1,2)</sup>，渡辺 淳<sup>1,5)</sup>，浅野ありさ<sup>1,3)</sup>，鈴木由美<sup>1,4)</sup>，小川俊一<sup>3)</sup>，島田 隆<sup>1,5)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院遺伝診療科，<sup>2)</sup>皮膚科，<sup>3)</sup>小児科，<sup>4)</sup>付属病院看護部，<sup>5)</sup>生化学第2）：由来不明の染色体異常に対する情報提供のあり方について．日本遺伝カウンセリング学会，2003．5．
- 46) 渡辺 淳<sup>1,5)</sup>，浅野ありさ<sup>2,5)</sup>，平井幸彦<sup>1)</sup>，倉井年幸<sup>1,3)</sup>，木下裕康<sup>1)</sup>，北川 亮<sup>1)</sup>，渡辺 昇<sup>4)</sup>，伊藤高司<sup>4)</sup>，島田 隆<sup>1,5)</sup>（<sup>1)</sup>生化学第2，<sup>2)</sup>小児科，<sup>3)</sup>付属病院眼科，<sup>4)</sup>情報科学センター，<sup>5)</sup>付属病院遺伝診療科）：情報収集ならびにロールプレイを取り入れた臨床遺伝実習の試み．日本遺伝カウンセリング学会，2003．5．
- 47) 鈴木由美<sup>1,2)</sup>，渡辺裕子<sup>1,2)</sup>，千葉弘子<sup>1,2)</sup>，浅野ありさ<sup>1,3)</sup>，右田 真<sup>1,3)</sup>，渡辺 淳<sup>1,4)</sup>，島田 隆<sup>1,4)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院遺伝診療科，<sup>2)</sup>同看護部，<sup>3)</sup>小児科，<sup>4)</sup>分子遺伝医学）：チーム医療としての遺伝診療における看護職の役割．日本遺伝カウンセリング学会，2003．5．
- 48) 小泉慎也，阿部正徳，中島瑞恵，桑原健太郎，上砂光裕，今井大洋，浅野 健，藤野 修：直接ビリルビンと胆道系の酵素上昇を伴って発見され，MRCPにて胆管膵管合流異常の合併が疑われた遺伝性球状赤血球症の一女児例．日本小児科学会千葉県地方会，2003．6．
- 49) 浅井牧子<sup>1)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>第二病院小児科）：処女膜閉鎖（月経モリミナ）の1例．第263回日本小児科学会神奈川県地方会，2003．6．
- 50) 前田美穂，海津聖彦，右田 真，浅野 健，福永慶隆：HLA1座不一致同種末梢血幹細胞移植後自己免疫性肝炎様症状から肝不全を呈した再生不良性貧血の1例．第9回小児再生不良性貧血治療研究会，2003．6．
- 51) 渡辺美紀，池上 英，深澤隆治，小川俊一，宮城康雄<sup>1)</sup>，山内仁紫<sup>1)</sup>，新田 隆<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>外科学第2）：VSD心内修復術時に同時に施行したマップガイド下凍結凝固により改善した胎児期からの心房頻脈．日本循環器学会地方会，2003．6．
- 52) 渡邊美紀，池上 英，小川俊一，新田 隆<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>外科学第2）：VSD心内修復術時に同時に施行したマップガイド下凍結凝固により改善した胎児期からの心房頻拍．第188回日本循環器学会関東甲信越地方会，2003．6．
- 53) 池上 英，深澤隆治，初鹿野見春，渡邊美紀，福見大地，内木場庸子，大久保隆志，上砂光裕，勝部康弘，小川俊一：心筋梗塞後のG-CSF大量投与は，マウスにおいて血管新生を促進し心機能低下を抑制する．第39回日本小児循環器学会総会，2003．7．
- 54) 深澤隆治，渡邊美紀，池上 英，大久保隆志，上砂光裕，福見大地，内木場庸子，初鹿野美春，勝部康弘，小川俊一：川崎病における免疫グロブリン療法の培養ヒト冠動脈内皮細胞を用いた検討．日本小児循環器学会，2003．7．
- 55) 藤田武久<sup>1)</sup>，川上康彦<sup>1)</sup>，羽鳥誉之<sup>1)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，飛田正俊<sup>3)</sup>，山王直子<sup>4)</sup>，高橋 弘<sup>2)</sup>，橋本 清<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>第

- 二病院小児科，<sup>2)</sup>同脳神経外科，<sup>3)</sup>多摩永山病院小児科，<sup>4)</sup>同脳神経外科): 無熱性けいれんを契機に発見された小脳動静脈奇形の1例．第32回神奈川小児神経懇話会，2003．7．
- 56) 西澤善樹<sup>1)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 小児救急が新生児救急へ及ぼす影響：アンケート調査より．第39回日本新生児学会，2003．7．
- 57) 初鹿野見春<sup>1)</sup>，渡辺美紀<sup>2)</sup>，池上 英<sup>2)</sup>，内木場庸子<sup>2)</sup>，福見大地<sup>2)</sup>，大久保隆志<sup>3)</sup>，上砂光裕<sup>2)</sup>，深澤隆治<sup>3)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，小川俊一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科，<sup>2)</sup>付属病院小児科，<sup>3)</sup>多摩永山病院小児科): Congenital complete A - V block における妊娠，出産．第39回小児循環器学会，2003．7．
- 58) 柳原 剛，土屋正己，林田真理，吉田順子，大橋隆治<sup>1)</sup>，守田利真<sup>2)</sup>，村上睦美(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1，<sup>2)</sup>国立東静岡病院小児科): 10年以上経過観察し得た小児期発症，膜性増殖性糸球体腎炎の長期予後．第38回小児腎臓病学会，2003．7．
- 59) 渡辺美紀，深澤隆治，池上 英，内木場庸子，上砂光裕，初鹿野見春，勝部康弘，小川俊一: Heparin and exercise therapy for ischemic myocardium in children with Kawasaki disease．第39回日本小児循環器学会学術集会，2003．7．
- 60) 村上睦美，稲垣真一郎，林田真理，柳原 剛，吉田順子，右田 真，大木由加志，土屋正己，石崎正通，島田隆，小谷政晴，桜庭 均: Fabry病へテロ結合体と思われる1例．第38回日本小児腎臓病学会，2003．7．
- 61) 深澤隆治，渡邊美紀，池上 英，大久保隆志，上砂光裕，福見大地，内木場庸子，初鹿野見春，勝部康弘，小川俊一: 川崎病における免疫グロブリン療法の培養ヒト冠動脈内皮細胞を用いた検討．第39回日本小児循環器学会学術集会，2003．7．
- 62) 渡邊美紀，深澤隆治，池上 英，内木場庸子，福見大地，大久保隆志，上砂光裕，勝部康弘，初鹿野見春，小川俊一: 川崎病後の心筋虚血に対する運動ヘパリン療法．第39回日本小児循環器学会学術集会，2003．7．
- 63) 荻野廣太郎<sup>1)</sup>，浅井利夫<sup>1)</sup>，長嶋正實<sup>1)</sup>，小川俊一，浅井 満<sup>1)</sup>，今田義夫<sup>1)</sup>，原田研介<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本川崎病研究会，川崎病カード小委員会): 日本川崎病研究会監修「川崎病急性期カード」の発行について．第39回日本小児循環器学会学術集会，2003．7．
- 64) 宮城泰雄<sup>1)</sup>，山内仁紫<sup>1)</sup>，新田 隆<sup>1)</sup>，檜山和弘<sup>1)</sup>，佐地嘉章<sup>1)</sup>，佐々木孝<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup>，大森裕也<sup>1)</sup>，渡邊美紀，小川俊一(<sup>1)</sup>外科学第2): 先天性心疾患に合併した小児心房頻拍に対する外科的治療：多極電極 map-guided 下凍結凝固療法の実用．第39回日本小児循環器学会学術集会，2003．7．
- 65) 松岡留美子<sup>1)</sup>，秋元 馨<sup>1)</sup>，市田路子<sup>1)</sup>，太田八千雄<sup>1)</sup>，小川俊一，小野安生<sup>1)</sup>，小山耕太郎<sup>1)</sup>，黒江兼司<sup>1)</sup>，森 克彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本小児循環器学会遺伝子疫学委員会): 家族内発症心血管疾患に関する疫学調査報告：動脈管開存症，心室中隔欠損症，心房中隔欠損症，フォロー四徴症．第39回日本小児循環器学会学術集会，2003．7．
- 66) 中島由貴<sup>1)</sup>，山内仁紫<sup>1)</sup>，宮城泰雄<sup>1)</sup>，佐地嘉章<sup>1)</sup>，檜山和弘<sup>1)</sup>，大森裕也<sup>1)</sup>，深澤隆治，渡邊美紀，小川俊一，田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): Staged TCPCにおけるbidirectional Glenn procedureの心室機能に与える影響．第39回日本小児循環器学会学術集会，2003．7．
- 67) 初鹿野見春，渡邊美紀，池上 英，内木場庸子，福見大地，大久保隆志，上砂光裕，深澤隆治，勝部康弘，小川俊一: Congenital complete A-V blockにおける妊娠，出産．第39回日本小児循環器学会学術集会，2003．7．
- 68) 池上 英，深澤隆治，渡邊美紀，福見大地，内木場庸子，大久保隆志，上砂光裕，勝部康弘，初鹿野見春，小川俊一: 心筋梗塞後のG-CSF大量投与は，マウスにおいて血管新生を促進し，心機能を改善する．第39回日本小児循環器学会学術集会，2003．7．
- 69) 島 義雄，西巻 滋，林田真理，藤田敦士，中島みずほ: 胎児情報とFetal Inflammatory Response Syndrome (FIRS) の関係．第39回日本新生児学会総会，2003．7．
- 70) 中島みずほ，島 義雄，藤田敦士，新井 一: 新生児期に偶然発見された後頭蓋窩巨大くも膜嚢胞の1例．第39回日本新生児学会総会，2003．7．
- 71) 加納美穂，島 義雄，馬場千晶，藤田敦士，山高篤行，宮野 武: 胎児診断された重複腎盂尿管の1例．第39

- 回日本新生児学会総会，2003．7．
- 72) 藤田敦士，島 義雄，林田真理，加納美穂：痙攣を認めた新生児低血糖症における血糖値と血中尿酸値の検討．第39回日本新生児学会総会，2003．7．
- 73) 浅野 健，蔡 靈芝，早川 潤，右田 真，前田美穂，福永慶隆：ドキシソルピシン耐性白血病細胞に対する cyclooxygenase 阻害剤インドメタシンによる薬剤耐性克服の検討．第65回日本血液学会総会，2003．8．
- 74) 早川 潤，右田 真，早川真理，加藤善史<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>2)</sup>，福永慶隆<sup>(1)</sup>順天堂小児外科，<sup>2)</sup>生化学第2)：GFP陽性骨髄細胞のモデルマウスを用いた腸管再生における骨髄細胞の動態．第65回日本血液学会総会，2003．8．
- 75) 長谷川大輔<sup>1)</sup>，真部 淳<sup>1)</sup>，大塚欣敏<sup>1)</sup>，鶴田敏久<sup>1)</sup>，海老原康<sup>1)</sup>，辻浩一郎<sup>1)</sup>，前田美穂<sup>(1)</sup>東京大学医科学研究所)：小児血液悪性疾患におけるp15プロモータ領域メチル化の検討．第65回日本血液学会総会・第45回日本臨床血液学会総会，2003．8．
- 76) 小林朋子，羽鳥誉之，藤松真理子，桑原健太郎，藤田武久，高石康子，藤野 修：無熱性けいれんを主訴に来院した水中毒の2例．第39回日本小児神経学会関東地方会，2003．9．
- 77) 桑原健太郎，桑原奈津子，藤野 修，飯田和美，平井和人，Surasak B：新しく開発された Monoclonal 抗体によるタイ人小児便中H. pylori 抗原測定．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 78) 池上 英，大久保隆志，勝部康弘，深澤隆治，上砂光裕，内木場庸子，渡邊美紀，小川俊一：就学年齢以下の小児における，圧および血流測定ワイヤーを用いた冠動脈の血行動態の評価．第51回日本心臓病学会 学術集会，2003．9．
- 79) 深澤隆治，渡邊美紀，池上 英，内木場庸子，落 雅美<sup>(1)</sup>外科学第2)：川崎病冠動脈瘤組織の特徴的老化・加齢所見の検討．第23回日本川崎病研究会，2003．9．
- 80) 上砂光裕，深澤隆治，池上 英，初鹿野美春，勝部康弘，小川俊一：C-C Chemokine receptor 2 (CCR2) 遺伝子多型 Val64Ile と冠動脈石灰化の関係．第23回日本川崎病研究会，2003．9．
- 81) 松永成太<sup>1)</sup>，上鶴里央子<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>，土井正久<sup>2)</sup><sup>(1)</sup>日本医科大学付属第二病院小児科，<sup>2)</sup>土井小児科医院)：一過性蛋白漏出性胃腸症の1例．第264回日本小児科学会神奈川地方会，2003．9．
- 82) 初鹿野見春<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，内木場庸子<sup>2)</sup>，上砂光裕<sup>2)</sup>，深澤隆治<sup>3)</sup>，小川俊一<sup>2)</sup><sup>(1)</sup>第二病院小児科，<sup>2)</sup>付属病院小児科，<sup>3)</sup>多摩永山病院小児科)：川崎病 -γグロブリン治療前後における血中 ANP, BNP 値の推移．第23回日本川崎病研究会，2003．9．
- 83) 内木場庸子，深澤隆治，池上 英，渡邊美紀，小川俊一，汲田伸一郎<sup>1)</sup><sup>(1)</sup>付属病院放射線科)：<sup>99m</sup>Tc-tetrofosmin による川崎病後の右室心筋灌流の評価．第23回日本川崎病研究会，2003．9．
- 84) 池上 英，大久保隆志，勝部康弘，深澤隆治，上砂光裕，内木場庸子，渡邊美紀，小川俊一：学年齢以下の小児における，圧および血流測定ワイヤーを用いた冠動脈の血行動態の評価．第51回日本心臓病学会学術集会，2003．9．
- 85) 深澤隆治，渡邊隆治，池上 英，内木場庸子，小川俊一，落 雅美<sup>1)</sup><sup>(1)</sup>外科学第2)：川崎病冠動脈組織の特徴的老化・加齢所見の検討．第23回日本川崎病研究会，2003．9．
- 86) 内木場庸子，深澤隆治，池上 英，渡邊美紀，小川俊一，汲田伸一郎<sup>1)</sup><sup>(1)</sup>放射線科)：<sup>99m</sup>Tc-tetrofosmin による川崎病後の右室心筋灌流の評価．第23回日本川崎病研究会，2003．9．
- 87) 池上 英，渡邊美紀，内木場庸子，上砂光裕，深澤隆治，小川俊一：明らかな川崎病の既往はないが，両側巨大冠動脈瘤閉塞により，陳急性心筋梗塞，心不全を合併しCABGが奏功した1例．第23回日本川崎病研究会，2003．9．
- 88) 大久保隆志，深澤隆治，上砂光裕，初鹿野見春，勝部康弘，小川俊一：AT<sub>1</sub> blocker による冠動脈拡張性病変の inward remodeling 抑制効果．第23回日本川崎病研究会，2003．9．
- 89) 上砂光裕，深澤隆治，池上 英，初鹿野見春，勝部康弘，小川俊一：C-C Chemokine receptor 2 (CCR2) 遺伝子多型 Val64Ile と冠動脈石灰化の関係．第23回日本川崎病研究会，2003．9．

- 90) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 小児の線維筋痛症と自己免疫性疲労症候群. 第18回日本臨床リウマチ学会総会, 2003. 10.
- 91) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 桑原奈津子, 福永慶隆: 出産を契機に橋本病を発症した自己免疫性疲労症候群の1例. 第13回日本小児リウマチ学会, 2003. 10.
- 92) 浅井牧子, 山口和子, 海津聖彦, 池上 英, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: Fluconazolに自然耐性を有する *Candida krusei* による多発性真菌性脾膿瘍を合併した T-ALL の1例. 第45回日本小児血液学会総会, 2003. 10.
- 93) 海津聖彦, 前田美穂, 右田 真, 戸田茂樹<sup>1)</sup>, 石井雄道, 寺本 明<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>(1)</sup> (日本医科大学脳神経外科): 寛解導入療法中に原因不明の静脈洞血栓症をきたした ALL の1例. 第45回日本小児血液学会, 2003. 10.
- 94) 小泉慎也, 浅野 健, 阿部正徳, 藤野 修: Evans 症候群と考えられた5ヶ月女児例. 第45回日本小児血液学会, 2003. 10.
- 95) 阿部正徳, 浅野 健, 小泉慎也, 藤野 修: アルカリフォスファターゼ低値を契機に診断されたウィルソン病. 第45回日本小児血液学会, 2003. 10.
- 96) 藤野 修, 藤田武久, 高石康子, 桑原健太郎, 岡田一芳, 藤松真理子, 川上康彦, 平山恒憲, 羽鳥誉之, 橋本清: 初回無熱性発作の臨床的検討: てんかん発作後直ちに治療を必要とするか?. 第37回日本てんかん学会総会, 2003. 10.
- 97) 上砂光裕: Noonan 症候群と心疾患. 第26回日本小児遺伝学会・第3回臨床遺伝研究会合同, 2003. 10.
- 98) 岸 恵, 竹内直英, 稲葉八興, 前田美穂, 大木由加志: 著明な男性化徴候で発見された男性化副腎腫瘍の1例. 第37回日本小児内分泌学会, 2003. 10.
- 99) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆: SLE におけるシクロフォスファミド・パルス療法が抗 DNA 抗体の maturation に与える影響の検討. 第13回日本小児リウマチ学会, 2003. 10.
- 100) 早川 潤, 右田 真, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>(1)</sup> (生化学第2): 骨髄生着における Dextran sulfate 及び SDF-1 の役割: 臍帯血移植の適応拡大に向けて. 日本小児血液学会総会, 2003. 10.
- 101) 浅井牧子, 山口和子, 海津聖彦, 池上 英, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: Fluconazolに自然耐性を有する *Candida krusei* による多発性真菌性脾膿瘍を合併した T-ALL の1例. 第45回日本小児血液学会総会, 2003. 10.
- 102) 小林史子<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup> (第2病院小児科): 肺炎発症と契機に発見された2歳の進行性筋ジストロフィー症の1例. 第253回川崎市小児科医会症例検討会, 2003. 10.
- 103) 山田尚士<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup> (第2病院小児科): 風疹予防接種後血小板減少性紫斑病の1例. 第253回川崎市小児科医会症例検討会, 2003. 10.
- 104) 田北裕子<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup> (第2病院小児科): 劇症型心筋炎の1例. 第253回川崎市小児科医会症例検討会, 2003. 10.
- 105) 小林史子, 稲葉八興, 大木由加志, 福永慶隆: 部分的アジソン病の1例. 第515回東京都地方会, 2003. 10.
- 106) 小原 明<sup>1)</sup>, 生田孝一郎<sup>1)</sup>, 真部 淳<sup>1)</sup>, 豊田恭徳<sup>1)</sup>, 磯山恵一<sup>1)</sup>, 木下明俊<sup>1)</sup>, 佐藤武幸<sup>1)</sup>, 金子 隆<sup>1)</sup>, 菊池陽<sup>1)</sup>, 上條武彦<sup>1)</sup>, 外松 学<sup>1)</sup>, 梶原道子<sup>1)</sup>, 藤田宏夫<sup>1)</sup>, 柳沢隆昭<sup>1)</sup>, 前田美穂, 林 泰秀, 矢部普正, 杉田完爾, 森本 克, 杉田憲一, 花田良二, 土田昌宏<sup>(1)</sup> (東京小児がん研究グループ): Non T-ALL に対するプレドニン反応性治療層別化: 初期リスクと Day8 リスクの症例数変化. 第45回日本小児血液学会, 2003. 10.
- 107) 浅井牧子, 山口和子, 海津聖彦, 池上 英, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: Fluconazolに自然耐性の *Candida Krusei* による真菌性脾膿瘍を合併した T-ALL 例7. 第45回日本小児血液学会総会, 2003. 10.
- 108) 大木由加志, 岸 恵, 折茂裕美, 大川拓也: 小児・思春期2型糖尿病児の薬物療法によるコントロール状況と QOL について. 第37回日本小児内分泌学会, 2003. 10.
- 109) 門脇弘子<sup>1)</sup>, 大木由加志, 望月 弘<sup>2)</sup>, 原 一雄<sup>3)</sup>, 門脇 孝<sup>3)</sup> (朝日生命糖尿病研究所, <sup>2)</sup> 埼玉県立小児医療センター, <sup>3)</sup> 東京大学糖尿病代謝内科): 小児肥満・糖尿病におけるアデイポネクチン受容体の遺伝子解析. 第37回日本小児内分泌学会, 2003. 10.

- 110) 浅野 健, 蔡 靈芝, 前田美穂, 右田 真, 濱田久光, 早川 潤, 海津聖彦, 福永慶隆: エトポシド耐性白血病細胞, 乳癌細胞におけるメチル化によるトポイソメラーゼII 遺伝子発現低下と脱メチル化薬による耐性克服の試み. 第19回日本小児癌学会, 2003. 11.
- 111) 池上 英, 渡邊美紀, 内木場庸子, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: 明らかな川崎病の既往はないが, 両側巨大冠動脈瘤閉塞により, 陳旧性心筋梗塞, 心不全を合併しCABGが奏功した1例. 第23回日本川崎病研究会, 2003. 11.
- 112) 五十嵐徹, 小川耕一, 福見大地, 武藤隆雄, 内田二郎: 茨城県内の小学生・中学生における平成14年度貧血検査の実施成績の検討. 第50回日本学校保健学会, 2003. 11.
- 113) 藤松真理子<sup>1)</sup>, 木田恵子<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): イミダゾリン系点鼻薬により意識障害をきたした1例. 第265回日本小児科学会神奈川地方会, 2003. 11.
- 114) 佐々木伸子, 内木場庸子, 前田美穂, 早川 潤, 海津聖彦, 右田 真, 福永慶隆: 左肩甲部の筋肉内に浸潤した前駆型B細胞性リンパ芽球性リンパ腫の1例. 第19回日本小児がん学会, 2003. 11.
- 115) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 他県より搬送された13・18トリソミーの3例. 第48回日本未熟児新生児学会, 2003. 11.
- 116) 重松淑子<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 黒田奈緒<sup>1)</sup>, 榎崎秀彦<sup>1)</sup>, 守田利貞<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立東静岡病院小児科): 免疫抑制療法中に骨盤内膿瘍を合併した微少変化型ネフローゼ症候群の1例. 第106回日本小児科学会静岡県地方会, 2003. 11.
- 117) 稲垣真一郎<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 村上睦美<sup>1)</sup>, 吉田順子<sup>1)</sup>, 大木由加志<sup>1)</sup>, 土屋正巳<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup>, 小谷正晴<sup>4)</sup>, 桜庭 均<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院小児科, <sup>2)</sup>同病理学第1, <sup>3)</sup>同生化学第2, <sup>4)</sup>東京都臨床医学総合研究所): 女性Fabry病の1例. 第46回日本先天代謝異常学会, 2003. 11.
- 118) 佐々木伸子, 内木場庸子, 早川 潤, 海津聖彦, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: 左肩甲部の筋肉内に浸潤した前駆型B細胞性リンパ芽球性リンパ腫の1例. 第19回日本小児がん学会, 2003. 11.
- 119) 前田美穂, 竹内直秀, 稲葉八興, 岸 恵, 大木由加志, 福永慶隆: 男性化徴候およびクッシング症候群を呈した副腎皮質癌の1例. 第19回日本小児がん学会, 2003. 11.
- 120) 佐々木伸子, 内木場庸子, 前田美穂, 早川 潤, 海津聖彦, 右田 真, 福永慶隆: 左肩甲部の筋肉内に浸潤した前駆型B細胞性リンパ芽球性リンパ腫の1例. 第19回日本小児がん学会, 2003. 11.
- 121) 今井文英, 竹田幸代, 高瀬真人: 血清KL-6値を病初期から3年半追跡しえた肺へモジデロースの1例. 第36回日本小児呼吸器疾患学会, 2003. 11.
- 122) 白井潤二, 深澤隆治, 高瀬真人, 飛田正俊: 単純性肺好酸球增多症(Löffler症候群)の乳児例. 第36回日本小児呼吸器疾患学会, 2003. 11.
- 123) 林田真理<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1,2)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 森 三佳<sup>2)</sup>, 布山裕一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科学, <sup>2)</sup>葛飾赤十字産院小児科): Congenital self-healing reticulohistiocytosisの1例. 第48回日本未熟児新生児学会学術集会, 2003. 11.
- 124) 島 義雄, 林田真理, 新藤史子, 黒田奈緒, 藤田敦士, 森 三佳, 布山裕一: 胎児超音波検査と施設間連携. 第48回日本未熟児新生児学会, 2003. 11.
- 125) 新藤史子, 島 義雄, 林田真理, 黒田奈緒, 森 三佳, 布山裕一: 申請時期に診断を確定したPrader-Willi症候群の3例. 第48回日本未熟児新生児学会, 2003. 11.
- 126) 黒田奈緒, 島 義雄, 林田真理, 新藤史子, 森 三佳, 布山裕一: Riga-Fede潰瘍に伴った頸部正中の感染症嚢腫の1例. 第48回日本未熟児新生児学会, 2003. 11.
- 127) 稲葉八興, 福永慶隆: BCG針痕数とアトピー性疾患有病率との関係. 第14回感染・免疫・アレルギー研究会, 2003. 12.
- 128) 海津聖彦<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 浅野 健<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 中山一隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学, <sup>2)</sup>内科学第3): HLA一座不一致allo-PBSCT後に, 自己免疫性肝炎様肝障害を呈した再生不良性貧血の1例. 第26



回日本造血細胞移植学会，2003．12．

- 129) 桑原健太郎，岡田拓也，羽鳥誉之，濱田久光，今井大洋，浅野 健，藤野 修：当科インフルエンザ入院患者の臨床的検討．第167回日本小児科学会千葉地方会，2004．2．
- 130) 藤田武久<sup>1)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，飛田正俊<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科，<sup>2)</sup>多摩永山病院小児科)：非チフス性サルモネラ脳症の1例．第33回神奈川小児神経懇話会，2004．2．
- 131) 田北裕子<sup>1)</sup>，羽鳥誉之<sup>1)</sup>，初鹿野見春<sup>1)</sup>，松永成太<sup>4)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，西澤善樹<sup>1)</sup>，勝部康弘<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科)：急性心筋炎の2例．第266回日本小児科学会神奈川県地方会，2004．2．
- 132) 榎崎秀彦，松本多絵，重松淑子，黒田奈緒，柳原 剛，清水真澄，高橋秀実<sup>1)</sup>，守田利貞<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学微生物学・免疫学教室，<sup>2)</sup>静岡東静岡病院)：既往に肝膿瘍があり，その一年後に診断し得た低IgA血症・IgA分泌不全型免疫不全症の1例．第104回小児科学会静岡県地方会，2004．3．
- 133) 桑原健太郎，三科 香，羽鳥誉之，高石康子，藤田武久，藤野 修：自然軽快した原因不明の第4脳室水頭症の女兒例．第40回日本小児神経学会関東地方会，2004．3．

## 7. 放射線医学講座

### [ 付属病院放射線科 ]

#### 研究概要

一般撮影部門では、フラットパネルを用いたデジタル撮影による乳房撮影や、下肢静脈造影の診断精度向上の評価が行われ一定の成果を得られた。

CT部門では、16列検出器型CTを使用した非侵襲的3次元血管造影や脳血流検査が行われ、虚血性心疾患の冠動脈狭窄や大動脈疾患の形態評価、急性期脳梗塞の状態評価について検討され、その臨床的有用性が広く認識されるに至っている。

MRI部門では、脂肪抑制を併用したsteady state法の開発により、体幹部や四肢の血管撮像法の画質向上がなされ、高速撮像法を用いた肥大型心筋症治療後の心機能および形態評価も行われている。また肝特異性造影剤を用いた肝腫瘍性病変の診断能の向上についても検討されている。

超音波部門では高精度の超音波診断が浸透し、下肢静脈瘤や深部静脈血栓症の病態について研究されている。

血管造影・IVR部門では、肺塞栓症や深部静脈血栓症に対する血栓破砕吸引療法や、CTガイド下経皮的肺生検が引き続き行われており研究成果をあげている。また骨盤内再発悪性腫瘍に対する閉鎖循環下高濃度抗癌剤治療の臨床応用も進んでいる。

核医学部門では、心電図同期心筋SPECTを用いた心筋viability評価や、虚血性心疾患の病態解析に関する研究が進んでいる。また脳血流の定位定量的解析法としてS. E. E. 法やe-ZIS法が開発され、広く全国に普及し認知されるに至った。この方法を用いて脳変性疾患に対する研究が進んでいる。

放射線治療部門では、頭頸部腫瘍の治療計画や評価について超音波検査の有用性が報告されている。また前立腺癌の小線源治療の安全性についても検討されている。

#### 研究業績

##### 論文

[ 2002 年度追加分 ]

原著：

- 1) Takahama K, Amano Y, Hayashi H, Kumazaki T : T1-weighted Magnetic Resonance Imaging Sequence Appropriate for the Evaluation of the Longitudinal Relaxation Effect of Superparamagnetic Iron Oxide : A Phantom Study . J Nippon Med Sch 2003 ; 69 : 571-576 .

総説：

- 1) 林 宏光, 隈崎達夫, 内木場庸子<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科) : Multidetector-row CT : 基礎とその特徴を活かした臨床応用 . 日本小児放射線学会誌 2002 ; 18 : 4-9 .

(1) 原著：

- 1) Miyashita T, Tateno A, Ablimit I, Nakamizo M<sup>1)</sup>, Kumazaki T, Yagi T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Otolaryngology & Head and Neck Surgery) : Ultrasonographic demonstration of retropharyngeal lymph nodes : preliminary report . Ultrasound Med Biol 2003 ; 29 : 633-636 .
- 2) Abe Y<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept of Radiology, Nippon Medical School, Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : Effect of prostaglandin E1 on Contrast Enhanced CT of the Liver : Statistical Analysis During Arterial Portography . J Nippon Med Sch

2003 ; 70 ( 4 ) : 307-312 .

- 3 ) Kumita S , Tanaka K<sup>1)</sup> , Cho K , Sato N<sup>1)</sup> , Nakajo H<sup>2)</sup> , Toba M<sup>3)</sup> , Fukushima Y , Mizumura S , Takano T<sup>1)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>First Dept. of Internal Medicine , <sup>2)</sup>Dept. of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital , <sup>3)</sup>Dept. of Radiology, Tama-Nagayama Hospital ) : Assessment of left ventricular function using solid-state gamma camera equipped with a highly-sensitive collimator . Ann Nucl Med 2003 ; 17 : 517-520 .
- 4 ) Takahama K , Amano Y , Hayashi H , Ishihara M<sup>1)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital ) : Detection and Characterization of Focal Liver Lesions Using Superparamagnetic Iron Oxide-enhanced Magnetic Resonance Imaging : Comparison Between Ferumoxides-enhanced T1-weighted Imaging and Delayed-phase Gadolinium-enhanced T1-weighted Imaging . Abdominal Imaging 2003 ; 28 : 525-530 .
- 5 ) Amano Y , Hayashi T<sup>1)</sup> , Takahama K , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Department of Obstetrics, Bokuto Hosiptal ) : MR imaging of umbilical cord urachal ( Allantoic ) cyst in utero . AJR Am J Roentgenol 2003 ; 180 ( 4 ) : 1181-1182 .
- 6 ) Amano Y , Tajika K<sup>1)</sup> , Uchiyama N , Takahama K , Dan K<sup>1)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Department of the 3rd Internal Medicine, Nippon Medical School ) : Staging of malignant lymphoma with three-station black-blood fast short-inversion time inversion recovery ( STIR ). Magn Reson Med Sciences 2003 ; 2 ( 1 ) : 9-15 .
- 7 ) Amano Y , Nozaki A<sup>1)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>GEYMS ) : Effects of view ordering and dummy pulse rate on two-dimensional and three-dimensional steady-state free precession imaging . Acad Radiol 2003 ; 10 ( 8 ) : 901-907 .
- 8 ) Amano Y , Takahama K , Matsuda T<sup>1)</sup> , Amano M , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>GEYMS ) : Centrally fat-saturated three-dimensional magnetic resonance angiography of the abdomen using selective central fat-saturation of k-space . J Magn Reson Imaging 2003 ; 18 ( 5 ) : 567-574 .
- 9 ) Murakami R , Tajima H , Kumazaki T , Kobayash Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Tama-Nagayama Hospital ) : CT findings of mesenteric injury after blunt trauma . Comput Med Imaging Graph 2003 ; 27 ( 6 ) : 459-467 .
- 10 ) Mizumura S , Kumita S , Cho K , Ishihara M<sup>1)</sup> , Nakajo H<sup>1)</sup> , Toba M<sup>2)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Radiology, Tama-Nagayama Hospital ) : Development of Quantitative Analysis Method for Stereotactic Brain Image : Assessment of Reduced Accumulation in Extent and Severity Using Anatomical Segmentation . Ann Nucl Med 2003 ; 17 ( 4 ) : 289-295 .
- 11 ) Tajima H<sup>1)</sup> , Murata S<sup>1)</sup> , Ichikawa K<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Yamamoto Y<sup>2)</sup> , Tajiri T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School. Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Dept. of CCM, Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Dept. of Surgery I, Nippon Medical School ) : Successful interventional treatment of acute internal jugular vein thrombosis . American J of Roentgenology 2004 ; 182 ( 2 ) : 467-469 .
- 12 ) Wang J<sup>1)</sup> , Tajima H<sup>1)</sup> , Murata S<sup>1)</sup> , Abe Y<sup>1)</sup> , Hakozaki K<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Kasuga M<sup>2)</sup> , Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School. Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Dept. of the 1st Internal Medicine, Nippon Medical School ) : Renal Artery Stenosis. Patient with Leriche Syndrome : Brachial Artery Access for Stent Placement . Radiation Medicine 2004 ; 22 ( 1 ) : 49-51 .
- 13 ) Amano Y , Takahama K , Nozaki A<sup>1)</sup> , Amano M , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>GEYMS ) : Magnetic resonance portography using contrast-enhanced fat-saturated three-dimensional steady-state free precession imaging . J Magn Reson Imaging 2004 ; 19 ( 2 ) : 238-244 .
- 14 ) Amano Y , Takayama M<sup>1)</sup> , Amano M , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept. of First Internal Medicine, Nippon Medical School ) : MRI of cardiac morphology and function after percutaneous transmural septal myocardial ablation for hypertrophic obstructive cardiomyopathy . AJR Am J Roentgenol 2004 ; 182 ( 2 ) : 523-527 .
- 15 ) Mizumura S , Nakagawara J<sup>1)</sup> , Takahashi M<sup>2)</sup> , Kumita S , Cho K , Nakajo H<sup>3)</sup> , Toba M<sup>4)</sup> , Kumazaki T

(<sup>1</sup>) Dept. of Neurosurgery, Nakamura Memorial Hospital , <sup>2</sup>) Dept. of Radiology, Nakamura Memorial Hospital , <sup>3</sup>) Dept. of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital , <sup>4</sup>) Dept. of Radiology, Tama-Nagayama Hospital ): Three-Dimensional Display in Staging Hemodynamic Brain Ischemia for JET study : Objective Evaluation Using SEE Analysis and 3D-SSP Display . Ann Nucl Med 2004 ; 18 ( 1 ) : 13-21 .

- 16) 宮下次廣, 荒牧琢己<sup>1</sup>), 志村俊郎<sup>1</sup>), 清水一雄<sup>2</sup>), 足立好司<sup>3</sup>) (<sup>1</sup>) 教育推進室, <sup>2</sup>) 外科学第2, <sup>3</sup>) 脳神経外科学 ): 日本医科大学における学生による授業評価の実態と教員の意識 : アンケート調査報告 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ) : 469-474 .
- 17) 依斯坎的尔 阿布力米堤, 宮下次廣, 館野 温, 栗林茂彦, 隈崎達夫 : 食習慣改善による新疆の食道癌発生減少策 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 : 255-262 .
- 18) 館野 温, 宮下次廣, 中溝宗永<sup>1</sup>), 横島一彦<sup>1</sup>), 粉川隆行<sup>1</sup>), 斉藤明彦<sup>1</sup>), 小泉康雄<sup>1</sup>), 八木聡明<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ): 下咽頭癌再建術後の咽頭後リンパ節再発の治療 . 頭頸部腫瘍 2003 ; 29 : 541-545 .
- 19) 保坂純郎<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>), 松田 亮<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 放射線科・ハイテクリサーチセンター ): 下肢静脈血 flow の生理 : 呼吸法の弁挙動と血流におよぼす影響 . 静脈学 2003 ; 14 ( 4 ) : 291-295 .

## (2) 総説 :

- 1) 高木 亮, 林 宏光, 小林尚志<sup>1</sup>), 隈崎達夫 (<sup>1</sup>) 新古賀病院附属医学研究所放射線科 ): 画像診断における三次元画像再構成法 : 臨床応用の現状とその役割 . 日独医報 2003 ; 48 ( 1 ) : 39-50 .
- 2) 田島廣之<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>), 川俣博志<sup>1</sup>), 村田 智<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 放射線科・ハイテクリサーチセンター ): 腹部救急疾患におけるIVR : 重症骨盤骨折に対するIVR . 日本腹部救急医学会雑誌 2003 ; 23 ( 4 ) : 621-627 .
- 3) 中澤 賢<sup>1</sup>), 田島廣之<sup>1</sup>), 村田 智<sup>1</sup>), 福永 毅<sup>1</sup>), 小野澤志郎<sup>1</sup>), 岡島雄史<sup>2</sup>), 渡 潤<sup>3</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>), 吉村明修<sup>4</sup>), 弦間昭彦<sup>4</sup>), 工藤翔二<sup>4</sup>), 小泉 潔<sup>5</sup>), 恩田宗彦<sup>6</sup>), 福田 悠<sup>6</sup>) (<sup>1</sup>) 放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2</sup>) 大宮中央総合病院, <sup>3</sup>) 海老名総合病院放射線科, <sup>4</sup>) 日本医科大学内科学第4, <sup>5</sup>) 同外科学第2, <sup>6</sup>) 同病理学第2 ): 肺癌 : スクリーニングから確定診断, 治療まで . CTガイド下経皮的肺生検の実際 . 適応, 手技, 合併症およびその対策 . 臨床画像 2003 ; 19 ( 4 ) : 422-428 .
- 4) 田島廣之<sup>1</sup>), 村田 智<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 放射線科・ハイテクリサーチセンター ): 急性肺血栓塞栓症 . 経カテーテル療法 . 日本臨床 2003 ; 61 ( 10 ) : 1765-1768 .
- 5) 田島廣之<sup>1</sup>), 村田 智<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 放射線科・ハイテクリサーチセンター ): 末梢動脈疾患を診る : 動脈造影で診る . Heart View 2003 ; 7 ( 10 ) : 1181-1185 .
- 6) 田島廣之<sup>1</sup>), 村田 智<sup>1</sup>), 市川和雄<sup>1</sup>), 阿部 豊<sup>1</sup>), 中澤 賢<sup>1</sup>), 福永 毅<sup>1</sup>), 小野澤志郎<sup>1</sup>), 王 健<sup>1</sup>), 村上隆介<sup>1</sup>), 川俣博志<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 放射線科・ハイテクリサーチセンター ): 骨盤外傷に対する緊急のIVR . IVR学会誌 2003 ; 18 ( 4 ) : 29-35 .
- 7) 汲田伸一郎, 趙 圭一, 中條秀信<sup>1</sup>), 鳥羽正浩<sup>2</sup>), 福嶋善光, 吉原尚志, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>3</sup>), 酒井俊太<sup>3</sup>), 櫻井 薫<sup>3</sup>), 佐藤直樹<sup>3</sup>), 田中啓治<sup>3</sup>), 高野照夫<sup>3</sup>) (<sup>1</sup>) 千葉北総病院放射線科, <sup>2</sup>) 多摩永山病院放射線科, <sup>3</sup>) 内科学第1 ): Tc-99m-sestamibiを用いた核医学検査手法 : Gated SPECT から Washout まで . 核医学画像診断 2003 ; 28 : 8-10 .
- 8) 林 宏光<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>), 高野照夫<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>) 放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2</sup>) 内科学第1 ): マルチスライスCTによる3次元CT血管造影法 : Coronary CT Angiographyの確立を目指して . 循環器情報処理 2003 ; 18 : 93-99 .
- 9) 林宏光 : ここまでみえる冠動脈疾患の診断 : 3次元CT . 診療と新薬 2003 ; 40 : 1085-1093 .
- 10) 林宏光 : 血管疾患の低侵襲的診断 update : マルチスライスCTによるCT angiographyを中心に . Radiology Frontier 2003 ; 6 : 310-312 .
- 11) 林 宏光<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 放射線科・ハイテクリサーチセンター ): 新しい画像診断による血流障害の評価 : マルチスライスCTを用いたCT angiographyによる閉塞性動脈硬化症の低侵襲的診断 ( Part I ) . Angiology

- Frontier 2003 ; 2 ( 2 ): 98-101 .
- 12) 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 新しい画像診断による血流障害の評価: マルチスライスCTを用いたCT angiographyによる閉塞性動脈硬化症の低侵襲的診断 ( PartII ). Angiology Frontier 2003 ; 2 ( 3 ): 174-177 .
- 13) 林 宏光: ここまで見える冠動脈疾患の診断: 3次元CT . 冠不全研究会誌 2003 ; 24 : 22-27 .
- 14) 天野康雄, 林 宏光, 高浜克也, 土橋俊男<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, Herfkens RJ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科技師, <sup>2)</sup>Stanford大学放射線科): 大動脈疾患における造影MRAの長所と留意すべき改善点 . INNERVISION 2003 ; 18 : 64-68 .
- 15) 林 宏光: 一口にマルチスライスCTといっても . Vascular diseases and therapies 2003 ; 10 : 8-8 .
- 16) 林 宏光: マルチディテクターCTの臨床評価: 大血管・末梢血管 . CLINICIAN 2003 ; 51 : 177-184 .
- 17) 林 宏光, 隈崎達夫: 総腸骨動脈のステント内狭窄を評価する: MDCTとMRA, デジタル血管造影による狭窄ファントムの比較検討 . Vascular diseases and therapies 2003 ; 9 : 5-5 .
- 18) 林 宏光: Multidetector-row CTによる血管疾患のCT Angiography: 臨床応用とその適応の拡大 . 千葉撮影技術研究会誌 2003 ; 3 : 16-17 .
- 19) 坂本純郎, 隈崎達夫: 静脈疾患と末梢循環 - 静脈疾患最近の展開: 下肢静脈疾患診断法 . Angiology Frontier 2003 ; 2 ( 3 ): 183-188 .
- 20) 高木 亮, 佐藤英尊, 隈崎達夫: 脳梗塞: CT perfusion ( CTP ) における診断のポイント . INNERVISION 2003 ; 18 ( 10 ): 5-8 .
- 21) 内山菜智子: デジタルマンモグラフィの現状と未来 . 映像情報 Medical 2003 ; 35 ( 8 ): 542-547 .
- 22) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 肺塞栓症. IVRによる治療の実際 . 臨床医 2004 ; 30 : 344-346 .
- 23) 林 宏光, 高木 亮, 町田 稔, 高浜克也, 天野真紀, 貝津俊英, 松田 亮, 日高史貴, 栗林茂彦, 吉原尚志, 小野澤志郎, 桑子智之, 桐山智成, 箱崎謙太, 隈崎達夫: 大動脈の正常解剖と大動脈疾患の診断 . 臨床画像 2004 ; 20 ( 3 ): 322-336 .
- 24) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 王健<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 深部静脈血栓症のIVR治療 . IVR学会誌 2004 ; 19 ( 1 ): 10-14 .
- 25) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>内科学第1・集中治療室): 肺血栓塞栓症のIVR治療 . IVR学会誌 2004 ; 19 ( 1 ): 27-31 .
- 26) 田島廣之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 静脈血栓症のIVR: 最新情報 . 臨床画像 2004 ; 20 ( 1 ): 99-99 .
- 27) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 王健<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 肺血栓塞栓症に対するIVR. その適応と実際 . 臨床画像 2004 ; 20 ( 1 ): 109-115 .
- 28) 林 宏光, 田島廣之, 隈崎達夫: 末梢血管: 3D-CT . CLINICIAN 2004 ; 528 : 121-128 .

## 著 書

- 1) Amano Y, Tajika K<sup>1)</sup>, Oriuchi N<sup>2)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept. of 3rd Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Dept of Nuclear Medicine and Diagnostic Radiology, Gumma University ): [ 分担 ] Radiological imaging in hematological malignancies : nodal involvement in non-Hodgkin lymphoma( Guermazi A eds. ). Springer-Verlag, 2003 ; pp71-83, Berlin, Heidelberg .

- 2) 汲田伸一郎：〔分担〕Gated SPECT ドブタミン負荷による心筋 viability 診断．Q&A 心臓核医学診断（山崎純一，廣江道昭 監修），2003；メジカルセンス社．
- 3) 市川和雄，林 宏光，隈崎達夫：〔分担〕I. 総論，H. 回転デジタル血管撮影システムとコーンビームCTによる脳・脊髄疾患の診断．脳・脊髄のMRIとCT診断（榎林 勇，埜本勝司 共編），2003；pp41-49，金芳堂．
- 4) 林 宏光，隈崎達夫：〔分担〕第11章，2. マルチスライスCTを用いた3次元画像診断と画像解析．泌尿器疾患の最新医療（吉田 修，東間 紘，村井 勝 編集），2003；pp399-405，先端医療技術研究所．
- 5) 趙 圭一：〔分担〕エコノミークラス症候群．Q&A 心臓核医学診断（山崎純一，廣江道昭 監修），2003；pp82-85，メジカルセンス社．
- 6) 高木 亮，隈崎達夫：〔分担〕CT灌流画像．脳血管障害の画像診断（高橋昭喜 編著），2003；pp70-77，中外医学社．
- 7) 田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター）：〔分担〕浅大腿動脈狭窄・閉塞，石灰化・非石灰化病変に対するPTA・Stenting．ペリフェラルインターヴェンション（横井良明，松尾汎編），2003；pp127-131，南江堂．
- 8) 村上隆介，田島廣之：〔分担〕鼻出血（顔面外傷）．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp10-11，メジカルビュー社．
- 9) 田島廣之，川俣博志<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科）：〔分担〕頭部外傷．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp12-13，メジカルビュー社．
- 10) 駒田康成，田島廣之：〔分担〕胸部動脈損傷．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp16-17，メジカルビュー社．
- 11) 田島廣之，隈崎達夫：〔分担〕肺血栓塞栓症 - 血栓溶解療法．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp18-19，メジカルビュー社．
- 12) 田島廣之，川俣博志<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科）：〔分担〕肺血栓塞栓症 - 血栓吸引療法．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp20-21，メジカルビュー社．
- 13) 田島廣之，福永 毅：〔分担〕肺血栓塞栓症 - 血栓破砕療法．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp22-23，メジカルビュー社．
- 14) 田島廣之，町田 幹<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第2）：〔分担〕喀血．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp24-25，メジカルビュー社．
- 15) 田島廣之，川俣博志<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科）：〔分担〕上大静脈症候群．改訂版．救急疾患のIVR - 手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp28-29，メジカルビュー社．
- 16) 村上隆介，田島廣之：〔分担〕肝損傷．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp54-55，メジカルビュー社．
- 17) 田島廣之，古川一博：〔分担〕食道胃静脈瘤（PTO）．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp68-69，メジカルビュー社．
- 18) 田島廣之，市川和雄：〔分担〕食道胃静脈瘤（SAE）．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp72-73，メジカルビュー社．
- 19) 田島廣之，片山信仁<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>帝京大学医学部付属溝口病院放射線科）：〔分担〕ヘモビリニア．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp74-75，メジカルビュー社．
- 20) 村上隆介，田島廣之：〔分担〕十二指腸静脈瘤．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp76-77，メジカルビュー社．
- 21) 田島廣之，石王道人<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>中島クリニック消化器科放射線科）：〔分担〕大腸憩室症．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，中島康雄 編集），2003；pp82-83，メジカルビュー社．
- 22) 田島廣之，保坂純郎：〔分担〕胃動脈瘤破裂．改訂版．救急疾患のIVR：手技の実際とポイント（隈崎達夫，

- 中島康雄 編集), 2003 ; pp88-89, メジカルビュー社 .
- 23) 村田 智, 阿部 豊 : [ 分担 ] 脾動脈瘤破裂 . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp90-91, メジカルビュー社 .
- 24) 村田 智, 阿部 豊 : [ 分担 ] 術後出血 . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp96-97, メジカルビュー社 .
- 25) 田島廣之, 高浜克也 : [ 分担 ] 上腸間膜動脈閉塞症 . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp100-101, メジカルビュー社 .
- 26) 田島廣之, 貝津俊英 : [ 分担 ] 骨盤骨折 . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp108-109, メジカルビュー社 .
- 27) 市川和雄, 田島廣之 : [ 分担 ] 持続性陰茎勃起症 . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp114-115, メジカルビュー社 .
- 28) 田島廣之, 田島なつき<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 伊利医院): [ 分担 ] 上肢動脈損傷 . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp118-119, メジカルビュー社 .
- 29) 田島廣之, 館野展之 : [ 分担 ] 深部静脈血栓症 . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp122-123, メジカルビュー社 .
- 30) 田島廣之, 駒田康成 : [ 分担 ] 血管内異物除去 ( 門脈系) . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp132-133, メジカルビュー社 .
- 31) 中澤 賢, 田島廣之 : [ 分担 ] 気胸 . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp138-139, メジカルビュー社 .
- 32) 駒田康成, 田島廣之 : [ 分担 ] 降下性壊死性縦隔炎 . 改訂版. 救急疾患のIVR : 手技の実際とポイント ( 隈崎達夫, 中島康雄 編集), 2003 ; pp144-145, メジカルビュー社 .

#### 学会発表

[ 2002 年度追加分 ]

#### 特別講演 :

- 1) 林 宏光 : 血管疾患を診る : MDCT の役割とその可能性 . Tokyo MDCT Forum 2003 , 2003 . 2 .

#### (1) 特別講演 :

- 1) 隈崎達夫 : 画像診断とIVRの進歩 : 患者さんのための最先端医療における役割 . 藤岡多野医師会学術講演会 , 2003 . 5 .
- 2) 汲田伸一郎 : 心臓核医学のエビデンス . 第37回山陽核医学カンファレンス , 2003 . 5 .
- 3) 隈崎達夫 : IVRの将来展望 . 京都府立医科大学放射線医学教室75周年記念式典 , 2003 . 6 .
- 4) 林 宏光 : 循環器疾患の低侵襲的診断 : マルチスライスCTの役割とその可能性 . 第11回埼玉循環器セミナー , 2003 . 7 .
- 5) 林 宏光 : マルチスライスCTによる3次元画像診断 : 基礎から最新の画像解析まで . 第3回3次元画像解析・レーザー・衝撃波フォーラム , 2003 . 10 .
- 6) 林 宏光 : ASOの画像診断 : Minimally Invasive Vascular Imagingの進歩 . 第3回東京ASOフォーラム , 2003 . 10 .
- 7) 隈崎達夫 : 心大血管画像診断の最前線とは? : MDCTの役割を含めて . 第38回北里循環器セミナー , 2003 . 11 .
- 8) 林 宏光 : 血管疾患の低侵襲的診断 : マルチスライスCTの役割とその可能性 . 第1回マルチスライスCT研究会 , 2004 . 1 .
- 9) 林 宏光 , 神保勝一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 神保消化器内科医院): マルチディテクターCTの臨床的評価と問題点 . 第16765回

日本医師会特別医学講座，2004．2．

- 10) 林 宏光，隈崎達夫：下肢閉塞性動脈硬化症に対する画像診断の進歩：マルチスライスCTを用いたCT Angiographyを中心に．第11回坑血栓療法シンポジウム，2004．3．
- 11) 林宏光：血管疾患の低侵襲的診断 Update：マルチスライスCTによるCT angiographyを中心に．第2回関西 Radiology Update，2004．3．
- 12) 高木 亮：MD-CTを用いた頭部のCT PERFUSION：原理から臨床応用の実際．第16回耳学問の会，2004．3．

(2) 招待講演：

- 1) 林 宏光：マルチスライスCTを用いた動脈硬化性血管疾患の低侵襲的診断．第3回 Vascular Science Meeting，2003．6．
- 2) 趙 圭一：99mTc-MIBIにおけるWashoutの臨床的意義：障害心筋（心不全）における99mTc-MIBI洗い出しの亢進．第43回日本核医学会総会イブニングセミナー，2003．10．

(3) 教育講演：

- 1) 水村 直：3D - SSPに対する定量的アプローチ．第4回3S-SSPセミナー，2003．4．
- 2) 水村 直：3D - SSPに対する定量的アプローチ：Stereotactic Extraction Estimationプログラムの開発．第4回3S-SSP検討会，2003．5．
- 3) 林 宏光：ここまで見える冠動脈疾患の診断：3次元CT．第24回冠不全研究会，2003．7．
- 4) 汲田伸一郎：Tc-99m-sestamibiを用いた核医学検査手法：Gated SPECTからWashoutまで．第56回北陸核医学カンファレンス，2003．8．
- 5) 水村 直：Stereotactic Extraction Estimation (S. E. E.)・Zスコアの定位定量解析と血行力学的脳虚血のステージ評価への応用．第5回3D-SSPセミナー，2003．9．
- 6) 水村 直：eZISによる画像変換を用いたSPM統計画像処理：多施設臨床検討への応用．北海道PET・SPECT研究会，2003．9．
- 7) 林 宏光：MDCTによる循環器疾患の低侵襲的診断update．2003仙台MDCTセミナー，2003．10．
- 8) 汲田伸一郎：心臓核医学の実際と今後の展開．第39回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2003．10．
- 9) 水村 直：Stereotactic Extraction Estimation (S. E. E.)：脳機能性疾患と脳動脈閉塞性疾患における3D-SSP脳表データの定位定量的解析法．脳核医学学術講演会，2003．10．
- 10) 水村 直：SPM解析：How to SPM for WINDOWS．第1回脳核医学画像解析研究会，2003．11．
- 11) 林 宏光：Multidetector-row CTによる血管疾患のCT Angiography：臨床応用とその適応の拡大．第42回千葉撮影技術研究会，2004．1．
- 12) 林 宏光：心疾患の診断におけるマルチスライスCTの有用性．日本心臓財団 虚血性心疾患セミナー，2004．1．
- 13) 林 宏光：マルチスライスCT angiographyによる血流障害の低侵襲的診断．第17回筑後地区血管疾患勉強会，2004．2．
- 14) 林 宏光：心大血管救急疾患のCT．日本医学放射線学会関東地方会セミナー，2004．2．
- 15) 汲田伸一郎：Tc-99m-tetrofosminを用いた心臓核医学の実際と今後の展望．第21回北海道心臓核医学研究会，2004．2．
- 16) 水村 直：eZISを用いた脳機能画像解析：変性疾患診断に対する有効性．第2回脳SPECT解析講演会，2004．2．
- 17) 林 宏光，隈崎達夫：マルチスライスCTによる循環器疾患の画像診断．日立メディコ30周年記念講演会，2004．2．
- 18) 宮下次廣：整形外科領域におけるMRI．第37回日本整形外科医会関東ブロック研修会，2004．2．
- 19) 水村 直：SEEの実践的使用方法とSEE JET．第5回3D-SSP検討会，2004．3．

(4) シンポジウム：

- 1) Takagi R：CT in the assessment of brain tumors perfusion．International Neuro imaging Symposium，2003．6．



- 2) 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 3次元CTと仮想CT内視法: 治療支援画像としての可能性を探る. 第91回日本泌尿器科学会総会, 2003. 4.
- 3) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 高山正守<sup>2)</sup>, 田中啓司<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>第1内科・CCU): 重症急性肺血栓塞栓症に対する血管内治療. 第9回日本血管内治療学会総会, 2003. 4.
- 4) 高木 亮: 脳神経領域のMD-CT: 臨床に貢献する画像を目指して. 第1回九州MD-CTシンポジウム, 2003. 6.
- 5) 隈崎達夫: 医療の精度と信頼性を高める医学物理. 第86回医学物理学学会学術大会, 2003. 9.
- 6) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 肺血栓塞栓症の診断とIVR. JSAWI2003, 2003. 9.
- 7) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 肺血栓塞栓症のIVR. 第23回関東甲信越MMC研究会, 2003. 10.
- 8) 高木 亮: 脳のPerfusion CT. 第14回医用デジタル動画研究会, 2003. 10.
- 9) 保坂純郎: 静脈画像診断について. 日本放射線技術学会第4回技術シンポジウム, 2003. 10.
- (5) セミナー:
- 1) 水村 直: eZISを用いたアルツハイマー型痴呆の診断と治療. 第62回日本医学放射線学会総会, 2003. 4.
- 2) 水村 直: eZIS: データベース共有と多施設間研究. 第23回日本核技術学会総会, 2003. 7.
- 3) 水村 直: Stereotactic Extraction Estimation (SEE) を用いた血行力学的虚血評価: 重症度と広がり の定位定量的評価. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 4) 田島廣之: 急性肺血栓塞栓症の診断と治療: 術後症例を中心に. 第44回関東整形災害外科学会, 2004. 3.
- (6) ワークショップ:
- 1) 宮下次廣, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>教育推進室, <sup>3)</sup>外科学第2): OSCEにおける胸部レントゲン読影. 第35回日本医学教育学会大会, 2003. 7.
- (7) 指名講演:
- 1) 汲田伸一郎, 田中啓治<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 福嶋善光, 高野照夫<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 心電図同期 Tc-99m-MAA SPECT を用いた心筋微小循環, 左室機能の同時評価. 第5回心電図同期SPECT研究会, 2003. 6.
- 2) 水村 直: Stereotactic Extraction Estimation 定位定量的解析のアプローチ. 第4回アルツハイマー研究会サブコミッティ, 2004. 1.
- 3) 高木 亮: CT Perfusionの新しい臨床応用の可能性について. 第1回CTP研究会, 2004. 1.
- (8) 一般講演:
- 1) Cho K, Kumita S, Nakajo H<sup>1)</sup>, Toba M<sup>2)</sup>, Fukushima Y, Mizumura S, Ishihara M<sup>1)</sup>, Kijima T<sup>1)</sup>, Kumazaki T(<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>Tama Nagayama Hospital): Enhanced detection of myocardial fatty acid hypometabolism associated with unstable angina by ECG-gated imaging with I-BMIPP. The 6th International Conference of Nuclear Cardiology (Florence, Italy), 2003. 4.
- 2) Uchiyama N, Nawano S<sup>1)</sup>, Kuroki Y<sup>1)</sup>, Iinuma G<sup>2)</sup>, Moriyama N<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター東病院, <sup>2)</sup>国立がんセンター中央病院放射線診断部): Evaluation of computed Radiography for the diagnosis of Breast Cancers during Mammography: comparison of Ultra High-resolution Liquid-Crystal-Display Monitor Images and conventional Hard-Copy Images. RSNA (Chicago, USA), 2003. 11.
- 3) Amano Y, Nozaki A<sup>1)</sup>, Takahama K, Amano M, Kumazaki T(<sup>1)</sup>GEYMS): Contrast-enhanced three-dimensional steady-state free precession imaging for magnetic resonance portography. 89th annual meeting of RSNA (Chicago, USA), 2003. 12.
- 4) Machida M<sup>1)</sup>, Kameyama K<sup>2)</sup>, Tezuka K<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Machida T<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>,

- Kumazaki T<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School , <sup>2</sup>Department of Pathology ): Basic examination of an atherosclerotic protein-lipid composition model for the stabilization of atheroma by way of a photosensitivity agent or hematoporphyrin . European Congress of Radiology 2004 ( Vienna Austria ), 2004 . 3 .
- 5) Wang J<sup>1</sup>), Tajima H<sup>1</sup>), Murata S<sup>1</sup>), Abe Y<sup>1</sup>), Hakozaki K<sup>1</sup>), Kumazaki T<sup>1</sup>), Takayama M<sup>2</sup>), Takano T<sup>2</sup>), Ochi M<sup>3</sup>) ( <sup>1</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School. Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School , <sup>2</sup>Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>3</sup>Dept. of SurgeryII, Nippon Medical School ): Leriche syndrome with renal artery stenosis. Brachial artery access for stent placement . 第71回日本医科大学医学学会総会 , 2003 . 9 .
- 6) 駒田康成 , 村田 智 , 田島廣之 , 阿部 豊 , 中澤 賢 , 福永 毅 , 小野澤志郎 , 隈崎達夫 , 金沢秀典<sup>1</sup>) , 田尻孝<sup>2</sup>) ( <sup>1</sup>内科学第3 , <sup>2</sup>外科学第1 ): 一時的門脈区域枝閉塞による肝血行動態の変化 : single level dynamic angio-CT による評価 . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 7) 栗林茂彦 , 宮下次廣 , 館野 温 , 隈崎達夫 : 早期 ( T1, T2 ) 声門癌の超音波による描出 . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 8) 高木 亮 , 栗林茂彦 , 桑子智之 , 内山菜智子 , 林 宏光 , 隈崎達夫 : 脳神経膠腫の評価におけるCT perfusionの臨床応用 . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 9) 趙 圭一 , 汲田伸一郎 , 水村 直 , 中條秀信<sup>1</sup>) , 鳥羽正浩<sup>2</sup>) , 福嶋善光 , 秋山一義 , 石原真木子<sup>1</sup>) , 木島鉄仁<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup>千葉北総病院放射線科 , <sup>2</sup>多摩永山病院放射線科 ): I-123 BMIPP 心拍同期心筋SPECT を用いた不安定狭心症における収縮低下領域の検出 . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 10) 水村 直 , 汲田伸一郎 , 石原真木子<sup>1</sup>) , 趙 圭一 , 中條秀信<sup>1</sup>) , 鳥羽正浩<sup>2</sup>) , 隈崎達夫 , 長尾毅彦<sup>3</sup>) , 大山雅史<sup>4</sup>) , 仁藤智香子<sup>4</sup>) ( <sup>1</sup>日本医科大学千葉北総病院放射線科 , <sup>2</sup>同多摩永山病院放射線科 , <sup>3</sup>都立荏原病院 , <sup>4</sup>日本医科大学内科学第2 ): easy Z-score Image System ( eZIS ) を用いたアルツハイマー型痴呆SPECT データの施設間共有 . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 11) 高浜克也 , 天野康雄 , 天野真紀 , 古川一博 , 野崎 敦<sup>1</sup>) , 隈崎達夫 ( <sup>1</sup>GE 横川メディカル ): Phased-array coil と ASSET を併用した骨盤下肢領域2D gated TOF MRA . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 12) 保坂純郎<sup>1</sup>) , 松田 亮<sup>1</sup>) , 隈崎達夫<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター ): 下肢静脈瘤患者における下腿部穿通枝の血行動態解析 . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 13) 林 宏光<sup>1</sup>) , 日高史貴<sup>1</sup>) , 高木 亮<sup>1</sup>) , 高浜克也<sup>1</sup>) , 内山菜智子<sup>1</sup>) , 桑子智之<sup>1</sup>) , 隈崎達夫<sup>1</sup>) , 木村 剛<sup>2</sup>) , 木全亮二<sup>2</sup>) , 西村泰司<sup>2</sup>) ( <sup>1</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター , <sup>2</sup>泌尿器科学 ): MDCT による腎腫瘍の画像診断 : CT Perfusion 法により腫瘍組織型の推測は可能か . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 14) 内山菜智子<sup>1</sup>) , 田島廣之<sup>1</sup>) , 町田 稔<sup>1</sup>) , 高浜克也<sup>1</sup>) , 隈崎達夫<sup>1</sup>) , 森山紀之<sup>2</sup>) ( <sup>1</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター , <sup>2</sup>国立がんセンター放射線診断部 ): Digital Mammography の臨床評価 : 第2報 . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 15) 天野康雄 , 高浜克也 , 松田 豪<sup>1</sup>) , 古川一博 , 天野真紀 , 隈崎達夫 ( <sup>1</sup>GE 横河メディカルシステム ): Elliptical centric view order と k-space 中心選択の脂肪抑制法を併用した腹部造影3次元MRA . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 16) 阿部 豊<sup>1</sup>) , 村田 智<sup>1</sup>) , 田島廣之<sup>1</sup>) , 駒田康成<sup>1</sup>) , 中澤 賢<sup>1</sup>) , 福永 毅<sup>1</sup>) , 隈崎達夫<sup>1</sup>) , 川野陽一<sup>2</sup>) , 田尻孝<sup>2</sup>) ( <sup>1</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター , <sup>2</sup>外科学第1 ): リザーバ留置後の肝動脈閉塞に対する経カテーテル的再治療の可能性の検討 . 第62回日本医学放射線学会総会 , 2003 . 4 .
- 17) 村田 智<sup>1</sup>) , 田島廣之<sup>1</sup>) , 隈崎達夫<sup>1</sup>) , 阿部 豊<sup>1</sup>) , 中澤 賢<sup>1</sup>) , 小野澤志郎<sup>1</sup>) , 宮下次廣<sup>1</sup>) , 近藤幸尋<sup>2</sup>) , 木全亮二<sup>2</sup>) , 大井良之<sup>3</sup>) ( <sup>1</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター , <sup>2</sup>泌尿器科 , <sup>3</sup>麻酔科 ): Negative in -out flow rate 骨盤内閉鎖循環下抗癌剤灌流療法の臨床的有用性の評価とその後の展望 . 第62回日本医学放射線学会

総会，2003．4．

- 18) 小野澤志郎<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，駒田康成<sup>1)</sup>，福永 毅<sup>1)</sup>，近藤幸尋<sup>2)</sup>，木全亮二<sup>2)</sup>，大井良之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター，<sup>2)</sup>泌尿器科，<sup>3)</sup>麻酔科): 末期進行癌に対する骨盤内閉鎖循環下抗癌剤灌流療法: いかなる進行癌にも治療可能か．第62回日本医学放射線学会総会，2003．4．
- 19) 福嶋善光，汲田伸一郎，趙 圭一，中條秀信<sup>1)</sup>，鳥羽正浩<sup>2)</sup>，水村 直，秋山一義，清水康弘，遠藤正文，隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 急性心筋梗塞における<sup>201</sup>Tl/<sup>123</sup>I-BMIPP dual心筋SPECTの有用性: 心筋逸脱酵素との比較検討．第62回日本医学放射線学会総会，2003．4．
- 20) 汲田伸一郎，趙 圭一，高橋宗尊<sup>1)</sup>，中條秀信<sup>2)</sup>，鳥羽正浩<sup>3)</sup>，水村 直，福嶋善光，秋山一義，清水康弘，隈崎達夫(<sup>1)</sup>島津医用，<sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>3)</sup>多摩永山病院放射線科): 心電図同期心筋SPECTと冠動脈造影とのイメージフュージョンシステムの開発．第62回日本医学放射線学会総会，2003．4．
- 21) 町田 稔<sup>1)</sup>，亀山孝二<sup>2)</sup>，恩田宗彦<sup>2)</sup>，林 宏光<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター，<sup>2)</sup>病理学第2): 動脈硬化モデルにおけるヘマトポルフィリンを用いたフォトシグナル解析．第62回日本医学放射線学会総会，2003．4．
- 22) 中澤 賢<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，市川和雄<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>2)</sup>，高山守正<sup>2)</sup>，田中啓治<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター，<sup>2)</sup>内科学第1): 急性肺血栓塞栓症に対する血栓溶解破砕吸引療法: 手技中における血行動態．第62回日本医学放射線学会総会，2003．4．
- 23) 福永 毅<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，貝津俊英<sup>1)</sup>，古川一博<sup>1)</sup>，清水康弘<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，吉原尚志<sup>1)</sup>，遠藤正文<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): テンポラリー下大静脈フィルターの有用性について．第62回日本医学放射線学会総会，2003．4．
- 24) 田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，駒田康成<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，福永 毅<sup>1)</sup>，小野澤志郎<sup>1)</sup>，保坂純郎<sup>1)</sup>，町田 稔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 深部静脈血栓症に対するIVR: 大腿静脈アプローチ．第62回日本医学放射線学会総会，2003．4．
- 25) 小野澤志郎，村田 智，田島廣之，駒田康成，阿部 豊，中澤 賢，福永 毅，隈崎達夫: Klippel Trenau-nay Weber syndromeに伴う動静脈奇形および動静脈瘻に対し，IVRが有効であった1例．第9回日本血管内治療学会総会，2003．4．
- 26) 福永 毅<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，駒田康成<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，清水康弘<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，吉原尚志<sup>1)</sup>，小野澤志郎<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): リザーバー留置後の肝動脈閉塞: 経カテーテルのアプローチについて．第9回日本血管内治療学会総会，2003．4．
- 27) 福永 毅<sup>1)</sup>，大石卓爾<sup>2)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，古川一博<sup>1)</sup>，堀内淳一<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学放射線科・ハイテクリサーチセンター，<sup>2)</sup>博慈会記念総合病院): 膵十二指腸多発動脈瘤破裂にIVRが奏効した1例．第32回日本血管造影・IVR学会総会，2003．5．
- 28) 天野康雄，高浜克也，野崎 敦<sup>1)</sup>，天野真紀，隈崎達夫(<sup>1)</sup>GEYMS): 脂肪抑制3D SSFP (FIESTA)を用いた造影MR門脈撮影．第11回日本MRA研究会，2003．5．
- 29) 古川一博<sup>1)</sup>，天野康雄<sup>1)</sup>，林 宏光<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，町田 稔<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，小野澤志郎<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): MRAでASOとの鑑別が困難であった左膝窩動脈外膜囊腫の1例．第11回日本MRA研究会，2003．5．
- 30) 日高史貴<sup>1)</sup>，高浜克也<sup>1)</sup>，町田 稔<sup>1)</sup>，林 宏光<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 興味深い画像所見を呈した肝Neuroendocrine Tumorの2例．第423回日本医学放射線学会関東地方会，2003．6．
- 31) 桑子智之<sup>1)</sup>，松田 亮<sup>1)</sup>，古川一博<sup>1)</sup>，天野康雄<sup>1)</sup>，町田 稔<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 混合型肝癌の1例．第423回日本医学放射線学会関東地方会，2003．6．
- 32) 福永 毅<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，古川一博<sup>1)</sup>，貝津俊英<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，王 健<sup>1)</sup>，隈崎達

- 夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): Segmental Arterial Medianolysis (SAM) と考えられた多発動脈瘤の1例. 第15回関東IVR研究会, 2003. 7.
- 33) 松田 亮, 隈崎達夫: 下肢静脈弁不全における静脈血流動態の超音波装置による解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 7.
- 34) 天野康雄, 野崎 敦<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1</sup>GEYMS): データ収集法とdummy pulse数がsteady-state free precession法の画質に与える影響の検討. 第31回日本磁気共鳴医学会総会, 2003. 9.
- 35) 天野康雄, 高浜克也, 天野真紀, 内山菜智子, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1): 肥大型心筋症における遅延造影と局所壁機能の関係. 第31回日本磁気共鳴医学会総会, 2003. 9.
- 36) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 空気塞栓症: CTガイド下肺生検の合併症. 第13回救急放射線研究会, 2003. 10.
- 37) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 箱崎謙太<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>内科学第1): IVRにより一時的に肺動脈圧の上昇を認めた肺血栓塞栓症の1例. 第23回関東甲信越MMC研究会, 2003. 10.
- 38) 水村 直, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 秋山一義, 福嶋善光, 隈崎達夫(<sup>1</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 3D-SSP定量評価法の開発: 脳座標データによる定位情報と統計値の同時評価. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 39) 水村 直, 大山雅史<sup>1)</sup>, 仁藤智香子<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 秋山一義, 隈崎達夫(<sup>1</sup>日本医科大学内科学第2, <sup>2)</sup>同多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>都立荏原病院内科): eZISを用いたアルツハイマー型痴呆におけるSPECTデータの多施設間共有の検討. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 40) 水村 直, 大山雅史<sup>1)</sup>, 仁藤智香子<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 福嶋善光, 隈崎達夫(<sup>1</sup>日本医科大学内科学第2, <sup>2)</sup>同多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>都立荏原病院内科): 施設間データ共有による99mTc-ECD脳血流と痴呆スケールとの相関. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 41) 水村 直, 長尾毅彦<sup>1)</sup>, 大山雅史<sup>2)</sup>, 仁藤智香子<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 秋山一義, 隈崎達夫(<sup>1</sup>都立荏原病院内科, <sup>2)</sup>日本医科大学内科第2): eZISを用いた塩酸ドネベジル投与前99mTc-ECD SPECT画像と薬剤反応性についての検討. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 42) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 水村 直, 秋山一義, 隈崎達夫(<sup>1</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 心筋SPECTを用いた急性心筋梗塞発症に関する検討. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 43) 趙 圭一, 汲田伸一郎, 桑原洋一<sup>1)</sup>, 西村重敬<sup>2)</sup>, 山科 章<sup>3)</sup>, 山崎純一<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>千葉大学循環器内科, <sup>2)</sup>埼玉医科大学第二内科, <sup>3)</sup>東京医科大学第二内科, <sup>4)</sup>東邦大学第一内科): IDW法によるMIBG H/M比の補正 - 心肝ファントムを用いた多施設共同研究 -. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 44) 水村 直, 中川原讓二<sup>1)</sup>, 高橋正昭<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 中條秀信<sup>3)</sup>, 鳥羽正浩<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>中村記念病院脳外科, <sup>2)</sup>同放射線科, <sup>3)</sup>日本医科大学千葉北総病院放射線科, <sup>4)</sup>同多摩永山病院放射線科): Stereotactic Extraction Estimation (SEE) を用いた脳動脈閉塞性疾患の血行動態性脳虚血評価. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 45) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>病理学第2): 動脈硬化粥腫タンパク脂質モデルに対する光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いた粥腫安定化への基礎検討. 第44回日本脈管学会総会, 2003. 11.
- 46) Mohamad R, 村田 智, 隈崎達夫: 生体顕微鏡を用いた肝動脈: 門脈吻合の規則性の評価. 第14回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会, 2003. 11.

- 47) 栗林茂彦, 宮下次廣, 館野 温, 隈崎達夫: T1, T2声門癌放射線治療における超音波断層検査の有用性. 日本放射線腫瘍学会第16回学術大会, 2003. 11.
- 48) 館野 温, 宮下次廣, 栗林茂彦, 隈崎達夫: ケロイド術後照射の線量分布の検討. 放射線腫瘍学会第16回学術大会, 2003. 11.
- 49) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 貝津俊英<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 血管内レーザー照射による静脈閉塞術: in vivoでの評価. 第424回日本医学放射線学会関東地方会, 2003. 12.
- 50) 小野澤志郎, 古川一博, 林 宏光, 田島廣之, 町田 稔, 中澤 賢, 隈崎達夫, 田中茂夫(1)外科学第2): 膝窩動脈外膜嚢腫の1例. 第56回心臓血管放射線研究会, 2004. 1.
- 51) 高木 亮<sup>1)</sup>, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 内頸動脈閉塞・高度狭窄症例に対するCTPを併用した頭頸部CTAの有用性. 第9回三次元CT・MRI研究会, 2004. 1.
- 52) 日高史貴<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): MDCTを用いた3D-CTが診断に有用であった左室心筋内脂肪腫の1例. 第9回三次元CT・MRI研究会, 2004. 1.
- 53) 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 戸田茂樹<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>脳神経外科): CTPとCTAを用いた脳腫瘍の術前診断: 傍矢状洞髄膜腫の1例. 第9回三次元CT・MRI研究会, 2004. 1.
- 54) 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 抗癌剤環流療法の基礎研究と臨床応用. 第12回クリニカルビデオフォーラム, 2004. 2.
- 55) 福永 毅<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 花田有里子<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 慢性膵炎に伴う仮性膵嚢胞内に出血を来たした脾動脈瘤の1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- (9) サテライトシンポ:
- 1) 林 宏光: マルチスライスCTを用いた腎の画像診断: CT angiography, CT urographyとCT perfusion. 第91回日本泌尿器科学会総会, 2003. 4.

## [ 第二病院放射線科 ]

### 研究概要

#### 放射線診断学:

- 1) 呼吸器疾患に対し, 気管支鏡を用いたBAL, 肺生検を施行し, 画像診断の向上に力を注いでいる. 肺切除病理標本とCT画像の比較検討から, 詳細な画像所見の分析を試みている.
- 2) 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし, 結核, 癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている. 肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している.
- 3) 上部消化管の消化性潰瘍のX線診断学において潰瘍形成の背景となる攻撃因子(胃分泌機能)および粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する. いわゆるFunctional Radiologyに目標をおき, また*H. Pylori*の胃粘膜変化についても研究中である.
- 4) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し, より効率の良い, より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である.
- 5) MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用, 乳腺の浸潤判定における高分解能MRIの撮像最

適化に取り組んでいる。また、高分解能MRIによる膵の微小病変の描出，2次膵管描出の研究，dynamic MRIによる結節性肺病変の質的診断について研究中である。

Interventional Radiology：

1) 悪性胆道閉塞患者に対し，減黄およびQOL向上を目的とし，ステント挿入および放射線治療を施行している。さらにこの分野での研究に取り組んでいる。

2) 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術，経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる。

放射線治療学：

1) 肺癌に対して，放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。

核医学：

1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。

2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

## 研究業績

### 論文

(1) 綜説：

1) 吉川真由美<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>(1)</sup> 永山病院内科)：経過中に陰影の縮小を認め同時多発癌と考えられた細気管支肺胞上皮癌の1例。J Nippon Med Sch 2003；70(2)：186-190。

2) 林 敏彦，高橋 徹：MRCPにおけるマルチスライス法の変遷。DIGITAL MEDICINE 2003；4(1)：42-43。

### 著書

1) 佐藤雅史：〔自著〕胸部写真の読み方と楽しみ方，2003；秀潤社。

2) 佐藤雅史，山本 彰：〔分担〕胸部。画像診断ガイドライン・2003(日本放射線科専門医会・医会(社)日本医学放射線学会)，2003；日本放射線科専門医会・医会。

### 学会発表

(1) 特別講演：

1) 佐藤雅史：他人の過ちから学ぶ胸部画像診断。第9回呼吸器核医学研究会，2003。10。

(2) 教育講演：

1) 佐藤雅史：肺感染症のCT。日本医学放射線学会関東地方会セミナー，2004。2。

(3) 一般講演：

1) 山本 彰，山本博人，椎葉真人，阿部和也，奥山孝男，金城忠志，梶原景子，菊池真理，林 敏彦，佐藤雅史：心電図同期心筋SPECTにおけるZスコアを用いた左室壁運動評価。第62回日本医学放射線学会総会，2003。4。

2) 黒瀬厚成，宮田周司，高橋 徹，佐野一明，林 敏彦，大石妙枝<sup>1)</sup>，石川亮宏<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>島津メディカルシステムズ東日本(株)・技術推進部，<sup>2)</sup>(株)島津製作所・医用技術部)：新しいT2強調像と水抑制T2強調像の同時収集法(FASCINATE法)の頭部領域への臨床応用。日本放射線技術学会第59回総会，2003。4。

3) 石渡京子，佐藤雅史，山本 彰，山本博人，菊池真理，梶原景子，山田丈士，金城忠志，阿部和也，椎葉真人，奥山孝男：脊椎カリエスを伴った粟粒結核の1例。第29回胸部放射線研究会東京部会，2003。6。

4) 阿部和也，佐藤雅史，石渡京子，金城忠志，山田丈士，梶原景子，菊池真理，山本博人，山本 彰，花輪峰夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>秩父病院外科)：当初急性虫垂炎が疑われた急性腹症の2例。第423回日本医学放射線学会関東地方会，2003。6。

5) 梶原景子，佐藤雅史，隈崎達夫<sup>1)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>，太田吉男<sup>2)</sup>，大庭孝男<sup>2)</sup>，斉藤良明<sup>2)</sup>，金 恩京<sup>3)</sup>，枝川聖子<sup>3)</sup>，

- 清水 一<sup>3)</sup>, ガジザデ モハマッド<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 第二病院病理部, <sup>3)</sup> 老人病研究所病理部門): 小型肺腺癌におけるCT画像と組織診断学的対比について. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 6) 菊池真理, 佐藤雅史, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>2)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, ガジザデ モハマッド<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 老人病研究所病理部門): 肺扁平上皮癌における肺胞毛細血管内皮細胞の増生能と免疫組織学的リモデリング. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 7) 金城忠志, 佐藤雅史, 山本 彰, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 最近経験した胸椎カリエスの2例. 第17回胸部放射線研究会, 2003. 10.
- 8) 黒瀬厚成, 宮田周司, 高橋 徹, 佐野一明, 林 敏彦<sup>1)</sup>, 大石妙枝<sup>2)</sup>, 石川亮宏<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 横須賀市立うわまち病院, <sup>2)</sup> 島津メディカルシステムズ東日本(株)・技術推進部, <sup>3)</sup> (株) 島津製作所・医用機器事業部): 新しいT2強調画像と水抑制T2強調画像の同時収集法(FASCINATE法)の頭部領域への臨床応用 第2報. 日本放射線技術学会第31回秋季学術大会, 2003. 10.
- 9) 石渡京子, 佐藤雅史, 椎葉真人, 奥山孝男, 阿部和也, 金城忠志, 山田丈士, 高橋政之, 鶴田晴子, 梶原景子, 山本 彰: 中葉に多発集簇して発生した硬化性血管腫の1例. 第30回胸部放射線研究会東京部会, 2003. 12.
- 10) 椎葉真人, 佐藤雅史, 石渡京子, 奥山孝男, 阿部和也, 金城忠志, 山田丈士, 高橋政之, 鶴田晴子, 梶原景子, 山本 彰: 同一検診で発見された胸腺原発ホジキン病の2例. 第424回日本医学放射線学会関東地方会, 2003. 12.

## [ 多摩永山病院放射線科 ]

### 研究概要

1. 非イオン性造影剤の腎機能におよぼす影響について検討を続けている。
2. コンピュータを活用した医療画像処理の研究を続けている。
3. 悪性腫瘍に対するIVRによる集学的治療, 救急患者のカテーテル治療について研究を行っている。
4. 婦人科, 整形外科領域におけるMRI診断について研究, 検討が行われている。
5. CT, MRIを用いた腹部画像診断の適応について研究を行っている。
6. CTにおける経静脈造影の至適タイミング, 方法について研究を行っている。
7. CTによる心疾患の診断について研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 小林由子, 鳥羽正浩, 中原 圓, 玉井 仁, 市川太郎, 谷内良成<sup>1)</sup>, 山田浩子<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 村上隆介<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科): 腹膜悪性中皮腫の1例. 腹部画像診断アトラス〔VIII〕 2003; 144-145.
- 2) 佐賀恒夫<sup>1)</sup>, 玉木長良<sup>3)</sup>, 井樋慶一<sup>4)</sup>, 山崎哲郎<sup>5)</sup>, 遠藤啓吾<sup>6)</sup>, 渡邊五朗<sup>7)</sup>, 丸野廣大<sup>8)</sup>, 町並陸生<sup>9)</sup>, 小泉 潔<sup>10)</sup>, 市川太郎, 高見 博<sup>11)</sup>, 石橋みゆき<sup>12)</sup>, 久保敦司<sup>13)</sup>, 日下部きよ子<sup>14)</sup>, 平田結喜緒<sup>15)</sup>, 村田雄二<sup>16)</sup>, 宮地幸隆<sup>17)</sup>, 津布久雅彦<sup>18)</sup>, 阪原晴海<sup>19)</sup>, 片田和廣<sup>20)</sup>, 利波紀久<sup>21)</sup>, 山本和高<sup>22)</sup>, 小西淳二<sup>1)</sup>, 今村正之<sup>2)</sup>, 土井隆一郎<sup>2)</sup>, 島津 章<sup>23)</sup>, 野口眞三郎<sup>24)</sup>, 長谷川義尚<sup>25)</sup>, 石川 治<sup>26)</sup>, 渡邊祐司<sup>27)</sup>, 中條政敬<sup>28)</sup>(<sup>1)</sup> 京都大学医学部付属病院核医学科, <sup>2)</sup> 同第一外科, <sup>3)</sup> 北海道大学医学部付属病院核医学診療科, <sup>4)</sup> 東北大学医学部大学院情報科学研究科, <sup>5)</sup> 同医学部付属病院放射線診断科, <sup>6)</sup> 群馬大学医学部付属病院核医学科, <sup>7)</sup> 虎の門病院消化器外科, <sup>8)</sup> 同放射線科, <sup>9)</sup> 河北総合病院病理部, <sup>10)</sup> 東京医科大学八王子医療センター放射線科, <sup>11)</sup> 帝京大学医学部付属病院外科, <sup>12)</sup> 同溝口病院第四内科, <sup>13)</sup> 慶應義塾大学病院放射線科, <sup>14)</sup> 東京女子医科大学付属病院放射線科, <sup>15)</sup> 東京医科歯科大学付属病院内分泌・代謝内科, <sup>16)</sup> 同放射線科, <sup>17)</sup> 東邦大学医学部付

属大森病院第一内科, 18) 同放射線科, 19) 浜松医科大学附属病院放射線科, 20) 藤田保健衛生大学病院放射線科, 21) 金沢大学医学部附属病院核医学科, 22) 若狭湾エネルギー研究センター粒子線医療研究室, 23) 国立京都病院臨床研究部, 24) 大阪大学医学部附属病院腫瘍外科, 25) 大阪府立成人病センターアイソトープ診療科, 26) 同第一外科, 27) 倉敷中央病院放射線科, 28) 鹿児島大学医学部附属病院放射線科):  $^{111}\text{In}$ -ペントレオチド (MP-1727) 第III相追加臨床試験: ソマトスタチン受容体の存在を指標とする消化管ホルモン産性腫瘍の画像診断. 核医学 2003; 40(2): 185-203.

(2) 綜説:

- 1) 市川太郎: 膵癌. 臨床医 2003; 29(増刊号): 1048-1049.

著書

- 1) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): [共著] 心電図同期SPECT. 心臓核医学の基礎と臨床, 2003; pp34-37, メジカルセンス社.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 鳥羽正浩: 心電図同期心筋SPECTを用いた運動負荷後心機能の経時的变化: 負荷後早期におけるイメージングの有用性. 第10回心臓核医学会学術大会, 2003. 10.

(2) 一般講演:

- 1) Toba M, Kumita S<sup>1)</sup>, Cho K<sup>1)</sup>, Nakajo H<sup>1)</sup>, Mizumura S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School): Temporal changes of cardiac function after exercise stress assessed by gated myocardial perfusion SPECT. The 6th International conference of nuclear cardiology (Firenze), 2003. 4.
- 2) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙圭一<sup>1)</sup>, 水村直<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 運動負荷後における心機能の経時的变化: 心電図同期心筋SPECTによるPost-stress stunningの検出. 第62回日本医学放射線学会総会, 2003. 4.
- 3) 玉井仁, 市川太郎, 小林由子, 中原圓, 鳥羽正浩, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 腹部三次元CTデータのサブトラクション. 第62回日本医学放射線学会総会, 2003. 4.
- 4) 中原圓, 市川太郎, 高木亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 内因性精神障害における脳のADCの比較. 第62回日本医学放射線学会総会, 2003. 4.
- 5) 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙圭一<sup>1)</sup>, 高橋宗尊<sup>2)</sup>, 中條秀信<sup>3)</sup>, 鳥羽正浩, 水村直<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>島津医用, <sup>3)</sup>千葉北総病院放射線科): 心電図同期心筋SPECTと冠動脈造影とのイメージフュージョンシステムの開発. 第62回日本医学放射線学会総会, 2003. 4.
- 6) 趙圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村直<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>2)</sup>, 鳥羽正浩, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 石原眞木子<sup>2)</sup>, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): I-123BMIPP心拍同期心筋SPECTを用いた不安定狭心症における収縮低下領域の検出. 第62回日本医学放射線学会総会, 2003. 4.
- 7) 水村直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 石原眞木子<sup>4)</sup>, 趙圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>4)</sup>, 鳥羽正浩, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>2)</sup>, 大山雅史<sup>3)</sup>, 仁藤智香子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科, <sup>2)</sup>同内科学第2, <sup>3)</sup>都立荏原病院内科, <sup>4)</sup>千葉北総病院放射線科): easy Z-score Image System (eZIS)を用いたアルツハイマ-型痴呆SPECTデータの施設間共有. 第62回日本医学放射線学会総会, 2003. 4.
- 8) 福嶋善光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>2)</sup>, 鳥羽正浩, 水村直<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 遠藤正文<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): 急性心筋梗塞における $^{201}\text{Tl}/^{123}\text{I}$ -BMIPP dual心筋SPECTの有用性: 心筋逸脱酵素との比較検討. 第62回日本医学放射線学会総会, 2003. 4.
- 9) 小林由子, 鳥羽正浩, 中原圓, 玉井仁, 市川太郎, 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 國重浩二<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 細



根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科,<sup>2)</sup>同病理部,<sup>3)</sup>付属病院放射線科): 帝王切開創部癒痕妊娠の2例: 緊急 MRI の有用性. 第17回腹部放射線研究会, 2003. 5.

- 10) 水村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>2)</sup>, 中條秀信<sup>2)</sup>, 鳥羽正浩, 秋山一義<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科,<sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): 3D-SSP 定量評価法の開発: 脳座標データによる定位情報と統計値の同時評価. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 11) 水村 直<sup>1)</sup>, 大山雅史<sup>2)</sup>, 仁藤智香子<sup>2)</sup>, 長尾毅彦<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 秋山一義<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科,<sup>2)</sup>同内科学第2,<sup>3)</sup>都立荏原病院内科): eZISを用いたアルツハイマー型痴呆における SPECT データの多施設間共有の検討. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 12) 水村 直<sup>1)</sup>, 大山雅史<sup>2)</sup>, 仁藤智香子<sup>2)</sup>, 長尾毅彦<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科,<sup>2)</sup>同内科学第2,<sup>3)</sup>都立荏原病院内科): 施設間データ共有による 99mTc-ECD 脳血流と痴呆スケールとの相関. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 13) 福嶋善光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>2)</sup>, 鳥羽正浩, 水村 直<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科,<sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): 心筋 SPECT を用いた急性心筋梗塞発症に関する検討. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 14) 水村 直<sup>1)</sup>, 中川原譲二<sup>3)</sup>, 高橋正昭<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>4)</sup>, 鳥羽正浩, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科,<sup>2)</sup>同放射線科,<sup>3)</sup>中村記念病院脳外科,<sup>4)</sup>千葉北総病院放射線科): Stereotactic Extraction Estimation (SEE) を用いた脳動脈閉塞性疾患の血行動態性脳虚血評価. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.

## [ 千葉北総病院放射線科 ]

### 研究概要

研究分野として下記の治療・診断・技術に関するものがある.

1. IVR 分野の研究: 腫瘍関係, 外傷関係, 動脈閉塞性疾患, 静脈血栓, 腎透析シャント狭窄など広い領域において良い臨床成績を上げており, IVR 手技に関する著書を発表している. 深部静脈血栓症については IVR による治療を早期に行い, 特に静脈ステントを使用して奏効を得た症例を多く経験し, 報告した.
2. MR 画像と核医学画像のフュージョンに関する研究: 脳腫瘍患者の術後残存腫瘍に対する放射線治療計画を支援するためのシステムを開発した. Tc-99m ECD と Tl-201 Cl の2核種同時収集の SPECT 像と MRI 像を組み合わせる自動のシステムを構築した. このシステムにより術後の残存腫瘍の同定精度が向上し, 放射線治療計画に有用であった.
3. 核医学分野の研究: 運動負荷下肢シンチグラフィーを用いた虚血下肢血流評価を行った. 従来下肢血流シンチグラフィーでは, 血流が低下している虚血肢で高集積を示す例が存在し, 虚血肢の検出に混乱を生じてきた. 今回新たに初循環法による血流動態像を検討に加え, 下肢軟部集積とを結びつけた下肢血流の評価を行った. 今回の方法は, 良好な虚血肢検出能を示すとともに, 複雑な調節下にある虚血肢末梢循環の把握に有用な検査手法と考えられた.
4. CT: 下肢静脈瘤患者での下肢深部静脈の CT 静脈撮影につき検討した.
5. 婦人科腫瘍の画像診断: 皮様嚢胞腫および内膜症性嚢胞において, 腫瘍マーカー値と画像診断所見の解釈に注意が必要であることを報告した. また, 粘液性嚢胞腺腫と皮様嚢胞腫の合併例の画像診断についての新知見を報告した. その他, 病理画像と画像診断所見との比較検討を色々な腫瘍において行っている.
6. 画像診断技術に関する検討: 技術部門と協力して, MRA における撮像条件についての検討および CR 画像処理に関する検討を行い, 報告した.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Okada S, Seto<sup>1)</sup>, Matsushita N<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 付属病院女性診療科・産科): A case of ovarian endometrioid adenocarcinoma with yolk sac tumor component in a post menopausal woman. *Acta Pathologica Microbiologica et Immunologica Scandinavica* 2002; 21 (2): 217-223.
- 2) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Amano Y<sup>3)</sup>, Mori O<sup>2)</sup>, Matsushita N<sup>1)</sup>, Doi D<sup>1)</sup>, Okada S, Sugisaki Y<sup>4)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科, <sup>4)</sup> 同病理, <sup>5)</sup> 同女性診療科・産科): Pre-treatment mitotic index versus computer-quantitated Ki-67 nuclear antigen labeling index as predictors of response to neoadjuvant chemotherapy in uterine cervical carcinoma. *J Nippon Med Sch* 2003; 70 (3): 219-226.
- 3) Okada S, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Ogura J, Ishihara M, Kawamura T<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 同女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科): Computed tomography and magnetic resonance imaging findings in cases of dermoid cyst coexisting with surface epithelial tumors in the same ovary. *J Comp Assist Tomogr* 2004; 28 (2): 169-173.
- 4) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 富里謙一<sup>1)</sup>, 中村亜矢<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田 進(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室): 造影MRI angiographyにおけるspectrally selective inversion pulseのflip angleの検討. *日磁気共鳴学会誌* 2003; 23 (2): 65-71.
- 5) 江本直也<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 川俣博志(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): アルドステロン産生腺腫と診断された副腎皮質過形成の1例. *東京女子医科大学雑誌* 2003; 73 (11): 484-486.

### 著書

- 1) 川俣博志, 田島廣之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): [分担] 3 - 心・大血管 下大静脈フィルター (パーマネントタイプ). 救急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎達夫, 中島康雄), 2003; pp50-51, メジカルビュー社.
- 2) 川俣博志, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): [分担] 4 - 腹部/消化管出血 食道胃静脈瘤 (TIPS). 救急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎達夫, 中島康雄), 2003; pp66-67, メジカルビュー社.
- 3) 川俣博志, 館野 温<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): [分担] 4 - 腹部/消化管出血 小腸粘膜下腫瘍. 緊急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎達夫, 中島康雄), 2003; pp78-79, メジカルビュー社.
- 4) 川俣博志, 清水康弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): [分担] 4 - 腹部/腹腔内・後腹膜出血 術後血尿. 救急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎達夫, 中島康雄), 2003; pp98-99, メジカルビュー社.
- 5) 川俣博志, 田島廣之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): [分担] 4 - 腹部/血栓症 腹腔動脈・上腸間膜動脈閉塞症. 救急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎達夫, 中島康雄), 2003; pp102-103, メジカルビュー社.
- 6) 川俣博志, 高橋修司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 杏林大学放射線科): [分担] 4 - 腹部/血栓症 門脈血栓症. 救急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎達夫, 中島康雄), 2003; pp104-105, メジカルビュー社.
- 7) 川俣博志, 田島廣之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): [分担] 5 - 骨盤・四肢 急性下肢動脈閉塞症. 救急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎達夫, 中島康雄), 2003; pp116-117, メジカルビュー社.
- 8) 川俣博志, 井上幸平, 中條秀信: [分担] 5 - 骨盤・四肢 下肢動脈損傷. 救急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎達夫, 中島康雄), 2003; pp120-121, メジカルビュー社.
- 9) 川俣博志, 木島鉄仁, 岡田 進: [分担] 5 - 骨盤・四肢 深部静脈血栓症. 救急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎達夫, 中島康雄), 2003; pp124-125, メジカルビュー社.

## 学会発表

### (1) ワークショップ:

- 1) Inoue K: Multislice CT venography for deep venous thrombosis. 4th International Workshop on Multislice CT 3D Imaging Virtual Endoscopy (Rome), 2003. 11.

### (2) 一般講演:

- 1) 丸山智之<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>(1)</sup> 千葉北総病院中央画像検査室): マルチ周波数処理を応用した信号における周波数帯域の想定. 日本放射線技術学会第59回総会学術大会, 2003. 4.
- 2) 川俣博志, 井上幸平, 木島鉄仁, 中條秀信, 岡田 進, 河村 堯<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>放射線医学): 急性下肢深部静脈血栓症に対する血管内治療: 腸骨静脈ステント留置術の検討. 第9回日本血管内治療学会総会, 2003. 4.
- 3) 川俣博志, 木島鉄仁, 井上幸平, 岡田 進, 小倉順子, 石原眞木子, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科): 急性下肢深部静脈血栓症における腸骨静脈閉塞性病変に対するステント留置術の有用性. 第62回日本医学放射線学会学術発表会, 2003. 4.
- 4) 川俣博志, 井上幸平, 木島鉄仁, 中條秀信, 小倉順子, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 松下径広<sup>2)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 市川雅雄<sup>2)</sup>, 小木三郎<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科): 妊娠に合併した急性下肢深部静脈血栓症に対して積極的なIVRが奏効した2例. 第21回日本Metallic Stents & Grafts研究会, 2003. 5.
- 5) 木島鉄仁, 汲田 伸一郎<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): <sup>99m</sup>Tc-tetrofosmin運動負荷下肢シンチグラフィを用いた虚血下肢血流評価. 第2回東京ASOフォーラム, 2003. 6.
- 6) 岡田 進, 大秋美治<sup>1)</sup>, 井上幸平, 小倉順子, 木島鉄仁, 中條秀信, 石原眞木子, 川俣博志, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): AFPの著明な高値を示した卵巣腫瘍の検討. 第31回日本磁気共鳴学会大会, 2003. 9.
- 7) 丸山智之<sup>1)</sup>, 田村 京<sup>1)</sup>, 高岡慎市<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>(1)</sup> 千葉北総病院中央画像検査室): CRにおけるS/N改善処理の基礎的検討. 日本放射線技術学会第31回終期学術大会, 2003. 10.
- 8) 石原眞木子, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 木島鉄仁, 中條秀信, 福島善光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 相馬努<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院放射線科, <sup>2)</sup>第1ラジオアイソトープ臨床応用技術): 脳腫瘍SPECTとMRIのフュージョンシステムによる術後残存脳腫瘍に対する放射線治療計画支援. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 9) 小倉順子, 岡田 進, 井上幸平, 中條秀信, 木島鉄仁, 石原眞木子, 大秋美治<sup>1)</sup>, 川俣博志, 河村 堯<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): 悪性腫瘍を伴った類皮嚢胞の検討. 第29回千葉MR研究会, 2004. 2.

## 8. 皮膚科学講座

### [ 付属病院皮膚科 ]

#### 研究概要

- 1) 皮膚の神経内分泌免疫学
  - ・免疫担当細胞に及ぼすCRHの作用メカニズム
  - ・CRHが及ぼす毛周期への影響
  - ・サブスタンスP, NGF, GDNFの皮膚における作用
- 2) 自己免疫水疱症の発症機序  
免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析
- 3) 脂質抗原の認識機構の解析
- 4) 蕁麻疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
- 5) ウィルス性疣贅におけるテロメラーゼ活性の解析
- 6) 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
- 7) 美容皮膚科学  
ケミカルピーリング, 活性型ビタミンC, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamic therapyの基礎的研究
- 8) レーザー光を応用した治療・診断の開発  
skin optics, selective photothermolysisの理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする
- 9) アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
- 10) 難治性皮膚疾患(脱毛症, 痒疹など)に対する治療戦略  
脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法
- 11) 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究  
幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表皮遺伝子治療の開発

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Aoki M, Pawankar R<sup>1)</sup>, Niimi Y, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Otolaryngology and Neck and Head Surgery, Nippon Medical School ): Mast Cells in Basal Cell Carcinoma Express VEGF, IL-8 and RANTES . Int Arch Allergy Immunol 2003 ; 130 : 216-223 .
- 2) Niimi Y, Kawana S, Hashimoto T<sup>1)</sup>, Kusunoki T ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Kurume University School of Medicine ): Paraneoplastic pemphigus associated with uterine carcinoma . J Am Acad Dermatol 2003 ; 48 ( 5 ): 60-72 .
- 3) Takeuchi J<sup>1)</sup>, Watari E<sup>1)</sup>, Norose Y<sup>1)</sup>, Seya T<sup>2)</sup>, Sugita M<sup>1)</sup>, Kawana S, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Immunology, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease ): Down-regulation of Toll-like receptor expression in monocyte-derived Langerhans cell-like cells : implications of low-responsiveness to bacterial components in epidermal Langerhans cells . Biochemical and Biophysical Research Communications 2003 ; 306 ( 3 ): 674-679 .
- 4) Mitsuishi T, Kawana S, Kato T<sup>1)</sup>, Kawashima M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, St. Luke's International Hospital , <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical University ): Human papillomavirus in-

- fection in actinic keratosis and bowen ' disease : comparative study with expression of cellcycle regulatory proteins p21 ( Waf1/Cip1 ) , p53, PCNA, Ki-67, and Bcl-2 in positive and negative lesions . Hum Pathol 2003 ; 34 ( 9 ): 886-892 .
- 5) Mitsuishi T , Iida K<sup>1)</sup> , Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Vaccine Research, Nippon Medical School ): Cimetidine treatment for viral warts enhances IL-2 and IFN-gamma expression in lesional skin . Eur J Dermatol 2003 ; 13 ( 5 ): 445-448 .
- 6) 細根 勝 , 堺 則康 , 前田昭太郎 , 内藤善哉 : Seborrhic Keratosis ( 脂漏性角化症 ) . Visual Dermatology 2004 ; 3 ( 増刊号 ): 264-266 .
- 7) 加藤篤衛 , 山西貴仁 , 藤本和久 , 川名誠司 : リン酸コデインによる即時アレルギー型薬疹 . 日本皮膚アレルギー学会雑誌 2002 ; 10 ( 4 ): 139-142 .
- 8) 安本美奈子 , 三浦祐理子 , 川名誠司 : ケラトアcantoma様の臨床を示したlichen planus - like keratosisの1例 . 臨皮 2003 ; 57 ( 4 ): 393-395 .
- 9) 藤本和久<sup>1)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院皮膚科 ): 小児の皮膚疾患 : 水痘 , 帯状疱疹 , 単純性疱疹 , 手足口病 . 小児科診療 2003 ; 66 ( 増刊号 ): 180-185 .
- 10) 尾見徳弥 , 奥山ます美<sup>1)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 横浜市 ): ミリスチン酸 , ステアリン酸含有石鹸 ( ラビレ・マイルド・クリア・ソープ<sup>R</sup> ) と - リノレン酸含有保湿オイル ( ラビレ・マイルド・トリートメント・オイル<sup>R</sup> ) 使用によるアトピー性皮膚炎患者と健常人における皮膚測定値の変動およびアンケート調査による効果の検討 . 皮膚と美容 2003 ; 35 ( 4 ): 222-227 .
- 11) 川名誠司 : にきびの最新治療 . 日本小児皮膚科学会雑誌 2003 ; 22 ( 1 ): 2-8 .
- 12) 川名誠司 : 慢性蕁麻疹における炎症細胞浸潤 . アレルギー・免疫 2003 ; 10 ( 5 ): 17-22 .
- 13) 尾見徳弥 , 木下優子<sup>1)</sup> , 矢久保修嗣<sup>1)</sup> , 荒川泰行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学医学部東洋医学講座 ): セルライト治療における環縫方剤選択のための自覚症状 . 日大医学誌 2003 ; 62 ( 5 ): 243-249 .
- 14) 片山美玲 , 大橋綱子 , 青木見佳子 , 義澤雄介 , 川名誠司 : 下腿に生じた基底細胞癌の1例 . 皮膚科の臨床 2003 ; 45 ( 5 ): 609-611 .
- 15) 安本美奈子 , 二神綾子 , 青木見佳子 , 川名誠司 : 成人に発症した多発性のSpindle Cell Xanthogranulomaの1例 . 皮膚科の臨床 2003 ; 45 ( 6 ): 659-662 .
- 16) 川名誠司 : 好中球と皮膚疾患 . MB Derma 2003 ; 75 : 62-68 .
- 17) 浅野ありさ , 渡辺 淳 , 右田 真 , 渡辺裕子 , 鈴木由美 , 千葉弘子 , 堺 則康 , 島田 隆 : 小児保健 遺伝外来の実際-遺伝カウンセリングでクライアントが抱える問題点- . 小児科 2003 ; 44 ( 7 ): 1145-1150 .
- 18) 堺 則康 , 國本健太 , 安藤 順 , 川名誠司 : 非イオン性ヨード造影剤イオメプロールによる薬疹の1例 . 臨皮 2003 ; 57 ( 11 ): 826-828 .
- 19) 東 直行 , 新見やよい , 青木見佳子 , 藤本和久 , 鈴木かやの , 沼野香世子 , 川名誠司 : アトピー性皮膚炎におけるトシル酸スプラスタの作用 : 臨床症状 ( 重症度別 , 部位別 ) の改善と免疫パラメーターの変化との関連について . アレルギー 2003 ; 52 ( 11 ): 1065-1073 .
- 20) 藤本和久 : 多形滲出性紅斑に対するエバスチンの効果と安全性の検討 . 臨床と研究 2003 ; 80 ( 9 ): 1760-1763 .
- 21) 菊地伊豆実 , 青木見佳子 , 藤本和久 , 楠 俊雄 , 川名誠司 : 痂皮型疥癬による院内感染 . 皮膚科の臨床 2003 ; 45 ( 12 ): 1527-1529 .
- 22) 片山美玲 , 東 直行 , 青木見佳子 , 義澤雄介 , 川名誠司 : サイトメガロウイルス単核症の1例 . 臨皮 2003 ; 57 ( 12 ): 1093-1095 .
- 23) 安本美奈子 , 新見やよい , 川名誠司 : バザン硬結性紅斑の2例 . 皮膚科の臨床 2003 ; 45 ( 13 ): 1705-1708 .
- 24) 安本美奈子 , 新見やよい , 川名誠司 : Bazin硬結性紅斑 . 皮膚病診療 2003 ; 25 ( 12 ): 1359-1362 .

- 25) 奥山ます美<sup>1)</sup>, 尾見徳弥, 細貝幸子<sup>1)</sup>, 保田有紀<sup>1)</sup>, 川名誠司, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): カイネチン, マトリキシル含有クリームとブラシ - ボククリームとの使用比較における皮膚測定値とシワ改善効果の検討. 日本美容皮膚科学会雑誌 2003 ; 13 : 161-165 .
- 26) 藤本和久: クローン病. Visual Dermatology 2003 ; 2 ( 12 ): 1308-1310 .
- 27) 加藤篤衛, 木村陽一, 鈴木かやの, 川名誠司: 手指に生じた血管平滑筋腫の1例. 皮膚科の臨床 2004 ; 46 : 162-163 .
- 28) 新見やよい, 青木見佳子, 北川泰之<sup>1)</sup>, 川名誠司 (<sup>1)</sup> 付属病院整形外科): 潰瘍形成を伴った類上皮肉腫の1例. Skin Cancer 2004 ; 18 ( 3 ): 325-328 .
- 29) Futagami A, kawana S : Granuloma annulare ( 環状肉芽腫 ). Visual Dermatology 2004 ; 3 ( 3 ): 260-261 .
- 30) 秋田政彦, 五十嵐司, 川名誠司: 1期疹と2期疹が混在した顕症梅毒の1例. 皮膚科の臨床 2004 ; 46 ( 3 ): 510-511 .
- 31) 二神綾子, 東 直行, 青木見佳子, 川名誠司: Eccrine porocarcinoma の1例. 日本皮膚病理組織学会会誌 2004 ; 19 ( 2 ): 6-9 .
- (2) 綜説:
- 1) Suzuki K, Kanamori S, Takada K, Kawana S : Divergence of contact hypersensitivity in vivo compared with hapten-specific lymphocyte proliferation and interferon- production in vitro following ultraviolet B irradiation : the possibility that UVB does not affect the sensitizing phase of contact hypersensitivity . Immunology 2003 ; 108 ( 4 ): 570-578 .
  - 2) Suzuki K, Aoki M, Kawana S : Localized Darier's disease of the Scalp : Successful Treatment with Oral Etretinate . Dermatology 2004 ; 208 ( 1 ): 83-84 .
  - 3) 尾見徳弥, 奥山ます美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): レーザー治療の現状. 皮膚と美容 2003 ; 35 ( 1 ): 16-20 .
  - 4) 東 直行, 川名誠司: 臨床検査 Yearbook 2003. 免疫血清検査の最新情報と輸血過誤防止および輸血の最新情報, 第4章自己免疫疾患検査の最新情報, 皮膚科疾患に必要な免疫血清検査. 臨床病理レビュー 2003 ; ( 124 ): 86-92 .
  - 5) 鈴木かやの, 川名誠司: 尋常性座瘡 ( ニキビ ) の新しい治療-Chemical Peeling について. 皮膚と美容 2003 ; 35 ( 3 ): 15-21 .
  - 6) 鈴木かやの, 青木見佳子, 竹崎伸一郎, 青木 律<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 宮澤七郎<sup>2)</sup>, 川名誠司 (<sup>1)</sup> 付属病院形成外科): 多彩な膠原病類似症状を呈したヒトアジュバント病. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 3 ): 283-287 .
  - 7) 山岡淳一, 川名誠司, 宮地良樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都大学皮膚科): 紫外線と活性酸素: 最近のレビュー. 太陽紫外線防御研究委員会学術報告 2003 ; 13 : 1-9 .
  - 8) 鈴木かやの, 川名誠司: 皮膚からのサイン: この疾患を疑え! 下肢に好発する網状皮斑, 皮膚潰瘍, 紫斑: 結節性多発動脈炎. 医学のあゆみ 2003 ; 205 ( 12 ): 944-955 .
  - 9) 堺 則康, 川名誠司: 「 推薦処方とその解説」紫斑病. 今月の治療 2003 ; 11 ( 8 ): 853-853 .
  - 10) 青木見佳子: Ki-1リンパ腫 ( CD30 positive T-cell lymphoproliferative disorders ): 今日的な概念. 血液・免疫・腫瘍 2003 ; 8 ( 3 ): 222-225 .
  - 11) 尾見徳弥: レーザー脱毛の概説. 日本美容科学学会雑誌 2003 ; 13 ( 1 ~ 7 ): 1-7 .
  - 12) 川名誠司: Propionibacterium acnes と皮膚. 皮膚病診療 2003 ; 25 ( 9 ): 963-968 .
- (3) 研究報告書:
- 1) 義澤雄介, 川名誠司: 抗菌剤感受性パターンによる MRSA の分類の試みと, 分類別における Fosfomycin ( 注射薬 ) 相乗効果の検討. 日本皮膚科学会雑誌 2003 ; 113 ( 11 ): pp1661-1669 .
- (4) グラビア:
- 1) 新見やよい, 川名誠司: Creeping disease . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 3 ): 206-207 .

(5) 症例報告：

- 1) 木下順平, 義澤雄介, 新見やよい, 山西貴仁, 加藤陽子, 五十嵐司, 東 直行, 川名誠司: 両側性の側頭部潰瘍を伴った巨細胞性血管炎の1例. 臨皮 2003 ; 57 (7): 606-608 .
- 2) 青木見佳子, 川名誠司, 坂本篤裕, 青木孝文: 皮膚科領域における反射性交感神経性ジストロフィー (RSD) (complex regional pain syndrome type I). 日本皮膚科学会雑誌 2003 ; 113 (11): 1689-1693 .

著 書

- 1) 鈴木かやの, 川名誠司: [分担] 難治性皮膚潰瘍の治療: 結節性多発動脈炎. 皮膚科治療プラクティス, 2003 ; pp214-217, 南山堂 .
- 2) 三石 剛: [分担] 皮膚科領域の感染症: 診断と治療. 皮膚科感染症夏期セミナーテキストブック, 2003 ; pp71-84, マックヤン・ヘルスケア .
- 3) 鈴木かやの, 川名誠司: [分担] 7. 血管・リンパ管系疾患. 図解皮膚科学テキスト, 2003 ; pp87-94, 中外医学社 .
- 4) 堺 則康, 川名誠司: [分担] ファーマナビゲーター アレルギーシリーズアレルギー性皮膚疾患. 皮膚血管炎 (足立 満, 宮地良樹監修), 2003 ; pp166-175, メディカルレビュー社 .
- 5) 三石 剛: [分担] Medical Briefs in Virus Infection. HPVとBowen病, 2003 ; pp8-9, マックヤン・ヘルスケア .
- 6) 二神綾子, 川名誠司: [分担] 特集II COX-2阻害薬と将来展望 (次にくるもの) COX-2阻害薬と創傷治癒. 炎症と免疫, 2003 ; pp730-735, 先端医学社 .
- 7) 堺 則康, 川名誠司: [分担] 紫斑病. 今日の治療指針2004年版 (山口 徹, 北原光夫), 2004 ; pp811-812, 医学書院 .
- 8) 竹崎伸一郎: [分担] 高齢者におけるサプリメントの意義と問題点. GERONTOLOGY, 2004 ; pp37-42, メディカルレビュー社 .
- 9) 竹崎伸一郎, 小坂好男<sup>1)</sup>, 若城由美子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院薬剤部): [分担] 界面活性剤による薬疹. 最新皮膚科学大系 第五巻「薬疹・中毒疹」, 2004 ; pp94-96, 中山書店 .
- 10) 二神綾子, 川名誠司: [分担] Granuloma annulare. Visual dermatology, 2004 ; pp260-261, 秀潤社 .

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Kawana S : Skin Stress Response System Mediated Neuroendocrine System . 中国医科大学国際交流学術集会 (瀋陽, 中国), 2003 . 10 .

(2) シンポジウム：

- 1) 尾見徳弥: Abrative及びnon-abrative photo sourceによるcollagen remodeling . 第21回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2003 . 8 .

(3) セミナー：

- 1) 山岡淳一: 一酸化窒素 (NO) を含む酸化ストレスによる細胞障害・細胞保護作用に対するロキシスロマイシンの修飾効果. 第1回マクロライド研究会, 2003 . 4 .
- 2) 立原利江子: フラッシュランプ MediLux<sup>TM</sup>の特徴と日本人における臨床経験. 第102回日皮会総会, 2003 . 5 .

(4) ワークショップ：

- 1) Takeuchi J, Watari E<sup>1)</sup>, Shinya E<sup>1)</sup>, Norose Y<sup>1)</sup>, Matsumoto M<sup>2)</sup>, Seya T<sup>2)</sup>, Sugita M<sup>1)</sup>, Kawana S, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Immunology, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases ): Down-regulation of Toll-like

receptor expression in monocyte-derived Langerhans cell-like cells : implications of low-responsiveness to bacterial Components in epidermal Langerhans cells .8th International Workshop on Langerhans cells( 東京 ), 2003 . 9 .

- 2) 尾見徳弥 : Photorejuvenationの今後の展開 - LEDを用いた新たなアプローチ . UPDATE アンチエイジングワークショップ - 最新フォトセラピー・レーザーピーリング - , 2003 . 11 .

(5) 一般講演 :

- 1) Yoshizawa Y , Kawana S : The efficacy of ebastine, a second generation antihistamine, in the treatment of alopecia areata . European Hair Research Society 10th Meeting ( Spain ), 2003 . 3 .
- 2) Tachihara R , Nakano K<sup>1)</sup> , Yamada T<sup>2)</sup> , Kawana S , Miyoshi N<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Osaka Medical School , <sup>2)</sup> Department of Dentistry and Oral Surgery, Fukui Medical University , <sup>3)</sup> Department of Pathology, Fukui Medical University ) : Kinetics of protoporphyrin-IX in the acne model, rhino mouse following topical and oral administration of 5-aminolevulinic acid . 9th World Congress of The International Photodynamic Association , 2003 . 4 .
- 3) Omi T , Kawana S , Honda M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Yokohama-shi ) : Semi-Narrow Band UV Therapy for Atopic Dermatitis . American Academy of Dermatology 62ed Annual Meeting ( Washington DC, USA ), 2004 . 2 .
- 4) 義澤雄介 , 川名誠司 : The efficacy of ebastine, a second generation antihistamine, in the treatment of alopecia areata . 第102回日皮会総会 , 2003 . 5 .
- 5) 安本美奈子 , 藤本和久 , 川名誠司 , 鈴木成治<sup>1)</sup> , 江上 格<sup>1)</sup> , 大野則彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 , <sup>2)</sup> 同内科 ) : B-cell lymphomaに合併した皮膚筋炎の1例 . 第66回日皮会東京支部学術大会 , 2003 . 2 .
- 6) 三石 剛 , 飯田和美<sup>1)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup> ワクチン療法研究施設 ) : シメチジン内服療法によるウイルス性ゆうぜいの治療 . 第102回日皮会総会 , 2003 . 5 .
- 7) 三石 剛 , 川名誠司 : 壊疽性丘疹性結核疹の1例 . 第102回日皮会総会 , 2003 . 5 .
- 8) 安本美奈子 , 藤本和久 , 川名誠司 , 廣井 信<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ) : Crohn病に合併した壊疽性膿皮症の1例 . 第102回日皮会総会 , 2003 . 5 .
- 9) 安本美奈子 , 藤本和久<sup>1)</sup> , 廣井 信<sup>2)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院皮膚科 , <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科 ) : 肛門周囲病変をの初発としたクローン病の1例 . 第102回日皮会総会 , 2003 . 5 .
- 10) 安本美奈子 , 藤本和久<sup>1)</sup> , 廣井 信<sup>2)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院皮膚科 , <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科 ) : 肛門周囲病変をの初発としたクローン病の1例 . 第71回日本医科大学医学会総会 , 2003 . 9 .
- 11) 義澤雄介 , 川名誠司 : アトピー性皮膚炎の治療 : broad band UVB , 運動 , DPCPについて . 第102回日皮会総会 , 2003 . 5 .
- 12) 山岡淳一 , 川名誠司 , 宮地良樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都大学皮膚科 ) : 中波長紫外線による表皮角化細胞アポトーシスに対する一酸化窒素の抑制作用 . 第102回日皮会総会 , 2003 . 5 .
- 13) 森本健介 , 川名誠司 : Mycobacterium marinumによる皮膚非定型抗酸菌症の1例 . 日皮会第781回東京地方会 , 2003 . 5 .
- 14) 又吉武光 : Fbrillar IgA typeのDuhring 疱疹状皮膚炎の1例 . 日皮会第781回東京地方会 , 2003 . 5 .
- 15) 落合廣武 , 東 直行 , 川名誠司 : 環状扁平苔癬の4例 . 日皮会第781回東京地方会 , 2003 . 5 .
- 16) 梁 再賦 , 下田貴子 , 永野昌敏<sup>1)</sup> , 鈴木秀典<sup>1)</sup> , 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 薬理学 ) : ストレスによる皮膚肥満細胞の活性化機序の解析 . 第102回日皮会総会 , 2003 . 5 .
- 17) 安本美奈子 , 川名誠司 , 佐々木りか子<sup>1)</sup> , 濱崎せり<sup>1)</sup> , 山本一哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立成育医療センター , <sup>2)</sup> 愛育病院 ) : 乳児好酸球性膿疱性毛包炎の1例 . 第27回日本小児皮膚科学会 , 2003 . 6 .
- 18) 久木野竜一 , 立原利江子 , 新見やよい , 川名誠司 : 水疱を形成した肥満細胞腫の1例 . 日皮会第782回東京地方会 , 2003 . 6 .



- 19) 堺 則康<sup>1,2)</sup>, 渡辺 淳<sup>1,5)</sup>, 浅野ありさ<sup>1,3)</sup>, 鈴木由美<sup>1,4)</sup>, 小川俊一<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1,5)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 同皮膚科, <sup>3)</sup> 同小児科, <sup>4)</sup> 同看護部, <sup>5)</sup> 分子遺伝医学): 由来不明の染色体異常症に対する情報提供のあり方について. 第27回日本遺伝カウンセリング学会, 2003. 6.
- 20) 松寄安理, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup> 付属千葉北総病院皮膚科): ワインとブドウによるアナフィラキシーの1例. 日皮会第782回東京地方会, 2003. 6.
- 21) 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司, 北川 亘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院整形外科): 潰瘍形成を伴った類上皮肉腫の1例. 第19回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2003. 6.
- 22) 東 直行, 吉野公二, 木村陽一, 青木見佳子, 川名誠司, 北川泰之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院整形外科): 前腕部に巨大腫瘤を呈した軟部悪性腫瘍の1例. 第19回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2003. 6.
- 23) 二神綾子, 青木見佳子, 川名誠司: 皮膚T細胞性リンパ腫の1例: Subcutaneous panniculitic T-cell lymphomaか?. 第19回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2003. 6.
- 24) 木村陽一, 青木見佳子, 菊地伊豆実, 又吉武光, 川名誠司: 蕁麻疹様紅斑を呈した組織球性壊死性リンパ節炎の1例. 日皮会第782回東京地方会, 2003. 6.
- 25) 野呂佐知子, 二神綾子, 川名誠司: 頭部に発生したplatelike osteoma cutis. 日皮会第786回東京地方会, 2003. 6.
- 26) 矢部朋子, 二神綾子, 川名誠司: Proliferating trichilemmal cystic squamous cell carcinomaの2例. 第19回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2003. 6.
- 27) 下田貴子, 梁 再賦, 川名誠司, 永野昌敏<sup>1)</sup>, 鈴木秀典<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 薬理学): 5-HT1A 作動薬, CRF レセプター拮抗薬, 抗精神病薬のストレスによる皮膚マスト細胞活性化に対する抑制作用. 第33回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会, 2003. 7.
- 28) 天野彰人, 堺 則康, 東 直行, 菊地伊豆実, 又吉武光, 吉野公二, 義澤雄介, 川名誠司: 好酸球増多症候群(HES)の1例. 日皮会第783回東京地方会(合同臨床地方会), 2003. 7.
- 29) 二神綾子, 東 直行, 青木見佳子, 川名誠司: Eccrine porocarcinoma の1例. 第19回日本皮膚病理組織学会, 2003. 7.
- 30) 落合廣武, 木村陽一, 川名誠司: livedo racemosaの1例. 第1回皮膚脈管懇話会, 2003. 7.
- 31) 梁 再賦, 下田貴子, 片山美玲, 永野昌敏<sup>1)</sup>, 鈴木秀典<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup> 薬理学): ストレス負荷による皮膚肥満細胞活性化に関するSubstans Pの役割. 第33回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会, 2003. 7.
- 32) 尾見徳弥, 奥山ます美<sup>1)</sup>, 細見幸子<sup>1)</sup>, 保田有紀<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup> 横浜市): カイネチン・マトリキシル含有クリームとブラシーボクリーム使用による皮膚改善効果とシワ改善効果の比較. 第21回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2003. 8.
- 33) 矢部朋子, 二神綾子, 青木見佳子, 川名誠司: Proliferating trichilemmal cystic squamous cell carcinomaの2例. 第18回日本皮膚外科学会総会, 2003. 8.
- 34) 落合廣武, 立原利江子, 川名誠司: 血管性病変におけるフラッシュランプMediLuxの使用経験. 第21回日本美容皮膚科学会総会, 2003. 8.
- 35) 岩切加奈, 安岡 劭<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup> 徳島大医療短大, <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所病理部門): 新プロテアーゼhuman airway trypsin-like protease(HAT)の乾癬における発現と役割. 第18回日本乾癬学会, 2003. 9.
- 36) 荻田あづさ, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: キシロカインRとケフレックスRのDrug combinationによる蕁麻疹型薬疹の1例. 日皮会第784回東京地方会, 2003. 9.
- 37) 加藤篤衛, 下田貴子, 川名誠司: 神経ペーチェット病の1例. 日皮会第784回東京地方会, 2003. 9.
- 38) 落合廣武, 東 直行, 荒牧 純, 川名誠司: 爪乾癬の1例. 第18回日本乾癬学会, 2003. 9.
- 39) 落合廣武, 東 直行, 川名誠司: 4) シクロスポリンが有効であった爪の乾癬の1例. 第18回日本乾癬学会総会, 2003. 9.

- 40) 久保田智樹, 堺 則康, 川崎 了<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>多摩市 ): 塩酸メキシレチンによる Stevens : Johnson 症候群型薬疹の1例. 日皮会第785回東京地方会, 2003. 10 .
- 41) 東 直行, 下田貴子, 堺 則康, 荒牧 純, 青木見佳子, 川名誠司, 斉藤京子<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 附属病院内科学第2 ): 経過中に全身性エリテマトーデスを発症したアトピー性皮膚炎の2例. 第53回日本アレルギー学会, 2003. 10 .
- 42) 二神綾子, 青木見佳子, 川名誠司: 治療抵抗性のリンパ球腫?. 第55回日皮会西部支部学術大会, 2003. 10 .
- 43) 落合廣武, 東 直行, 川名誠司: 環状扁平苔癬の4例. 日皮会第784回東京地方会, 2003. 10 .
- 44) 鈴木かやの, 金森幸男, 高田香織, 飯田和美<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup>ワクチン療法研究施設 ): 紫外線照射による接触過敏反応の抑制機序の検討. 第53回日本アレルギー学会総会, 2003. 10 .
- 45) 小宮暢子, 鈴木かやの, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 有馬留志<sup>2)</sup>, 山崎峰雄<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 附属病院内科学第4, <sup>2)</sup> 同内科学第2 ): Churg-Strauss症候群の2例. 日皮会第786回東京地方会, 2003. 11 .
- 46) 小坂素子, 新見やよい, 川名誠司: 先天性毛細血管拡張性大理石様皮膚の1例. 日皮会第786回東京地方会, 2003. 11 .
- 47) 矢部朋子, 吉野公二, 青木見佳子, 川名誠司: 糖尿病コントロールと臨床症状が相関したガス壊疽の1例. 日皮会第786回東京地方会, 2003. 11 .
- 48) 加藤篤衛, 森本健介, 東 直行, 三石 剛, 川名誠司, 田中 周<sup>1)</sup>, 西成田真<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 日本医科大学附属病院内科学第3, <sup>2)</sup> 多賀総合病院内科 ): 腸管ベーチェット病の1例. 日皮会第788回東京地方会, 2004. 1 .
- 49) 堺 則康, 川名誠司: アナフィラクトイド紫斑患者における血液凝固第XIII因子について. 第27回皮膚脈管懇話会・膠原病研究会, 2004. 1 .
- 50) 小宮暢子, 鈴木かやの, 高久多希朗<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 有馬留志<sup>2)</sup>, 山崎峰雄<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 内科学第4, <sup>2)</sup> 内科学第2 ): Churg-Strauss症候群の2例. 第27回皮膚脈管膠原病研究会, 2004. 1 .
- 51) 川久保恵, 富山 幹, 山形健治, 青木見佳子, 川名誠司, 廣瀬始之<sup>1)</sup>, 海野俊雄<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> ヒロセクリニク, <sup>2)</sup> 新城ヒフ科 ): 特異な小疱様外観を呈した石灰化上皮腫の2例. 日皮会第788回東京地方会, 2004. 1 .
- 52) 富山 幹<sup>1)</sup>, 川久保恵<sup>1)</sup>, 山形健治<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 第二病院皮膚科 ): 汎発性光沢苔癬の1例. 日皮会第788回東京地方会, 2004. 1 .
- 53) 義澤雄介, 川名誠司: 抗菌剤感受性パターンによるMRSA分類の試みと, 分類別抗菌剤治療法の検討. 第67回日皮会東京支部学術大会, 2004. 2 .
- 54) 堺 則康, 川名誠司: アナフィラクトイド紫斑患者における血液凝固第XIII因子について. 第67回日皮会東京支部学術大会, 2004. 2 .
- 55) 木村陽一, 川名誠司: Livedo症例15例の検討. 第2回関東皮膚脈管懇話会, 2004. 2 .

(6) ポスター :

- 1) Katayama M, Aoki E, Suzuki H<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>2)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Pharmacology, <sup>2)</sup> Department of Physiology ): INTERMITTENT FOOT SHOCK STRESS PROLONGS TELOGEN STAGE IN THE THIRD POSTNATAL HAIR CYCLE OF MICE . 10th Meeting European Hair Research Society ( Barcelona, Spain ), 2003. 6 .
- 2) 片山美玲, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院皮膚科 ): 魚油によるアナフィラキシーの1例. 第28回日本接触皮膚炎学術大会・総会, 2003. 12 .

(7) 展示 :

- 1) Kato T, Omi T, Naito Z<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): Histological Study of Hair Removal by Lasers : A Comparative Study on the Effects of Wavelength and Fluence . Lasers in Surgery and Medicine American Society-Third Annual Meeting ( Anaheim, USA ), 2003. 4 .
- 2) Omi T, Kawana S, Honda M<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Yokohama-Shi ): New Phototherapy of Acne Blue Light Therapy and Dye Laser Therapy . Lasers in Surgery and Medicine American Society for Laser Medicine and Surgery

- Twenty-Third Annual Meeting ( Anaheim, USA ), 2003 . 4 .
- 3) Kato T , Omi T , Naito Z<sup>1)</sup> , Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): Histological study of hair removal by lasers ; a comparative study on the effects and fluence . 23rd annual meeting of the American society for laser medicine and surgery ( Anaheim, California. USA ), 2003 . 4 .
- 4) Higashi N , Kawana S : Antinuclear antibodies in patients with atopic dermatitis . International Symposium on Atopic Dermatitis 2003 ( Rome , Italy ), 2003 . 9 .
- 5) Higashi N , Kawana S : Atopic dermatitis complicated with systemic lupus erythematosus . International Symposium on Atopic Dermatitis 2003 ( Rome, Italy ), 2003 . 9 .
- 6) Niimi Y<sup>1)</sup> , Pawankar R<sup>2)</sup> , Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Dept. of Otolaryngology ): The role of matrix metalloproteinase ( MMP ) -2, MMP-9, MMP-13 in bullous pemphigoid . 60th Annual Meeting American Academy of Allergy, Asthma and Immunology ( San Francisco, USA ), 2004 . 3 .
- 7) 久保田智樹, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: 葛根湯中の麻黄による薬疹の1例 . 第33回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会, 2003 . 7 .
- 8) 菊地伊豆実, 森本健介, 川名誠司, 田沼弘之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 川口市 ): 難治性足白癬に対するテルピナフィンの有用性及び病巣部角層への移行性の検討 . 第55回日皮会西部支部学術大会, 2003 . 10 .
- 9) 東 直行, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院皮膚科 ): メフェナム酸による舌炎の1例 . 第28回日本接触皮膚炎学会, 2003 . 12 .

## [ 第二病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断・研究
2. センチネルリンパ節生検法の確立と応用
3. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー - : 皮膚テストによる原因物質の確認と交叉感作, 抗原の検索
4. 皮膚創傷治癒機転における神経ペプチドの関与 : gastrin releasing peptide receptor ノックアウトマウスにおける創傷治癒
5. ケミカルピーリング, 炭酸ガスレーザーによる美容的治療

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Aoki M , Pawankar R<sup>1)</sup> , Niimi Y<sup>2)</sup> , Kawana S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Otolaryngology and Neck and Head Surgery , <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School Hospital ): Mast Cells in Basal Cell Carcinoma Express VEGF, IL-8 and RANTES . Int Arch Allergy Immunol 2003 ; 130 ( 3 ): 216-223 .
- 2) Suzuki K<sup>1)</sup> , Kanamori S<sup>1)</sup> , Takada K , Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School Hospital ): Divergence of contact hypersensitivity in vivo compared . Immunology 2003 ; 108 : 570-578 .
- 3) 菊地伊豆実<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 藤本和久<sup>1)</sup>, 楠 俊雄<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): 痂皮型疥癬による院内感染 . 皮膚科の臨床 2003 ; 45 ( 12 ): 1527-1529 .
- 4) 東 直行<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 藤本和久<sup>1)</sup>, 鈴木かやの<sup>1)</sup>, 沼野香世子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): アトピー性皮膚炎におけるトシル酸プラタストの作用 : 臨床症状 ( 重症度別 , 部位別 ) の改善と免疫パラメーターの変化との関連について . アレルギー 2003 ; 52 : 1065-1073 .

(2) 綜説：

- 1) 鈴木かやの<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 宮澤七郎<sup>3)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>同形成外科, <sup>3)</sup>北里大学電子顕微鏡センター): 多彩な膠原病類似症状を呈したヒトアジュバント病. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 (3): 283-287 .
- 2) 青木見佳子: Ki-リンパ腫 (CD30 positive T-cell lymphoproliferative disorders): 今日の概念. 血液・免疫・腫瘍 2003 ; 8 (3): 222-225 .

(3) 症例：

- 1) Suzuki K<sup>1)</sup>, Aoki M, Kawana S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Dermatology): Localized Darier's disease of the Scalp : Successful. Dermatology 2004 ; 208 : 83-84 .
- 2) 二神綾子<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): Eccrine Porocarcinomaの1例. 日本皮膚病理組織学会 2003 ; 19 (2): 6-9 .
- 3) 安本美奈子<sup>1)</sup>, 二神綾子<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 成人に発症した多発性の spindle cell xanthogranulomaの1例. 皮膚科の臨床 2003 ; 45 (6): 659-662 .
- 4) 新見やよい<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 北川泰之<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>同整形外科): 潰瘍形成を伴った類上皮肉腫の1例. Skin Cancer 2004 ; 18 (3): 325-328 .

(4) 症例報告：

- 1) 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup>, 青木孝文<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>同麻酔科, <sup>3)</sup>同整形外科): 皮膚科領域における反射性交感神経性ジストロフィー (RSD)(complex regional pain syndrome type1). 日本皮膚科学会雑誌 2003 ; 113 (11): 1689-1693 .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 新見やよい<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 北川 恒<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 潰瘍形成を伴った類上皮肉腫の1例. 第19回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2003 . 6 .
- 2) 東 直行<sup>1)</sup>, 吉野公二<sup>1)</sup>, 木村陽一<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 前腕部に巨大腫瘤を呈した軟部悪性腫瘍の1例. 第19回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2003 . 6 .
- 3) 二神綾子<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 皮膚T細胞性リンパ腫の1例-Subcutaneous panniculitic T-cell lymphoma. 第19回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2003 . 6 .
- 4) 木村陽一<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 菊地伊豆実<sup>1)</sup>, 又吉武光<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 蕁麻疹様紅斑を呈した組織球性壊死性リンパ節炎の1例. 日皮会第782回東京地方会, 2003 . 6 .
- 5) 吉野公二<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 隅崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>同放射線科): 移動式シンチカメラを用いたSentinel Lymph node biopsyの試み. 第19回日本悪性腫瘍学会学術大会, 2003 . 6 .
- 6) 吉野公二<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): Low-dose FP 療法および放射線療法併用により切断を免れた手背有棘細胞癌. 第19回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2003 . 6 .
- 7) 二神綾子<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 青木見佳子(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): Eccrine porocarcinomaの1例. 第19回日本皮膚病理組織学会, 2003 . 7 .
- 8) 矢部朋子<sup>1)</sup>, 二神綾子<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): Proliferating trichilemmal cystic squamous cell carcinomaの2例. 臨床皮膚外科学会, 2003 . 8 .
- 9) 東 直行<sup>1)</sup>, 下田貴子<sup>1)</sup>, 堺 則康<sup>1)</sup>, 荒牧 純<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 斉藤京子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 経過中に全身性エリテマトーデスを発症したアトピー性皮膚炎の2例. 第53回日本アレルギー学会, 2003 . 10 .
- 10) 二神綾子<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 治療困難なリンパ球腫? . 第55回日皮会西部支部

学術大会，2003．10．

- 11) 矢部朋子<sup>1)</sup>，吉野公二<sup>1)</sup>，青木見佳子，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 糖尿病コントロールと臨床症状が相関したガス壊疽の1例．日皮会第786回東京地方会，2003．11．
- 12) 川久保恵，富山 幹，山形健治，青木見佳子，川名誠司<sup>1)</sup>，廣瀬始之<sup>2)</sup>，海野俊雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院皮膚科，<sup>2)</sup>ひろせクリニック，<sup>3)</sup>新城皮膚科): 特異な水泡様外観を呈した石灰化上皮腫の2例．日皮会第788回東京地方会，2004．1．
- 13) 富山 幹，川久保恵，山形健治，青木見佳子，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 汎発性光沢苔癬の1例．日皮会第788回東京地方会，2004．1．

(2) 症例：

- 1) 吉野公二<sup>1)</sup>，青木見佳子，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 乳房外パジェット癌におけるタキソール(TXT)の有用性について．日本皮膚科学会第784回東京地方会，2003．9．
- 2) 吉野公二<sup>1)</sup>，青木見佳子，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 血中5-S-CD値の上昇がアガリスク摂取によるものと考えられた悪性黒色腫の1例．日本皮膚科学会第786回東京地方会，2003．11．

## [ 多摩永山病院皮膚科 ]

### 研究概要

本年度は、アレルギー性皮膚疾患、薬疹、血管炎、皮膚腫瘍などの学会報告、臨床研究が展開された。現在の構成人員の専門領域は様々であるが、多摩地区の皮膚科領域疾患の中核病院として機能するべく、学会・研究活動にも力を入れ、鋭意努力している。臨床研究が主体となるが、基礎実験による研究にも積極的に参画するようにしている。

1. 薬疹，接触性皮膚炎：原因物質の検索，アレルギーカードの発行．
2. 美容皮膚科領域の治療に関する研究：グリコール酸，ビタミンCローションを用いたケミカルピーリング，イオントフォレーシスによる美容，瘡の総合的治療．
3. 血管炎の発症機序，予後因子に関する臨床的研究．
4. 遺伝性皮膚疾患に関する臨床的研究：カウンセリング，診断技術など．
5. 骨髄系幹細胞の有する表皮細胞への分化能とその皮膚に対する寄与度に関する基礎的研究．
6. 褥瘡に関する総合的・集学的治療の臨床研究．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 細根 勝<sup>1)</sup>，堺 則康，前田昭太郎<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第2): Seborrheic Keratosis (脂漏性角化症)．Visual Dermatology 2003；3：264-266．
- 2) 天野彰人，山西貴仁，藤本和久，川名誠司：松茸アナフィラキシーの1例．アレルギー 2003；52(4)：444-446．
- 3) 浅野ありさ<sup>1,3)</sup>，渡辺 淳<sup>1,5)</sup>，右田 真<sup>1,3)</sup>，渡辺裕子<sup>1,4)</sup>，鈴木由美<sup>1,4)</sup>，千葉弘子<sup>1,4)</sup>，堺 則康<sup>1,2)</sup>，島田 隆<sup>1,5)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院遺伝診療科，<sup>2)</sup>同皮膚科，<sup>3)</sup>同小児科，<sup>4)</sup>同看護部，<sup>5)</sup>分子遺伝医学): 小児保健 遺伝外来の実際：遺伝カウンセリングでクライアントが抱える問題点．小児科 2003；44(7)：1145-1150．
- 4) 堺 則康<sup>1,4)</sup>，國本健太<sup>3)</sup>，安藤 順<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院皮膚科，<sup>2)</sup>同放射線科，<sup>3)</sup>同脳神経外科，<sup>4)</sup>日本医科大学付属病院皮膚科): 非イオン性ヨード造影剤イオメブロールによる薬疹の1例．臨皮 2003；57(11)：826-828．
- 5) 秋田政彦，五十嵐司，川名誠司：1期疹と2期疹が混在した顕症梅毒の1例．皮膚科の臨床 2004；46(3)：510-511．

(2) 綜説：

- 1) 堺 則康, 川名誠司：「推薦処方とその解説」紫斑病．今月の治療 2003；11(8)：853-855．

著 書

- 1) 堺 則康, 川名誠司：〔分担〕皮膚血管炎．ファーマナビゲーター アレルギーシリーズ〔アレルギー性皮膚疾患編〕(足立 満 監修, 宮地良樹 編), 2003；pp166-175, メディカルレビュー社．
- 2) 堺 則康：〔分担〕紫斑病．今日の治療指針2004年版(山口 徹, 北原光夫 総編集), 2004；pp811-812, 医学書院．

学会発表

- 1) 堺 則康<sup>1,2)</sup>, 渡辺 淳<sup>1,5)</sup>, 浅野ありさ<sup>1,3)</sup>, 鈴木由美<sup>1,4)</sup>, 小川俊一<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1,5)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院遺伝子診療科, <sup>2)</sup> 同皮膚科, <sup>3)</sup> 同小児科, <sup>4)</sup> 同看護部, <sup>5)</sup> 分子遺伝医学): 由来不明の染色体異常症に対する情報提供のあり方について．第27回日本遺伝カウンセリング学会, 2003．6．
- 2) 天野彰人, 堺 則康, 東 直行, 菊地伊豆実, 又吉武光, 吉野公二, 義澤雄介, 川名誠司: 好酸球増多症候群(HES)の1例．第783回日本皮膚科学会東京地方会(合同臨床地方会), 2003．7．
- 3) 久保田智樹, 堺 則康, 川名誠司: 塩酸メキシチレン(メキシチール)によるStevens-Johnson症候群型薬疹．第785回日本皮膚科学会東京地方会, 2003．10．
- 4) 堺 則康, 川名誠司: アナフィラクトイド紫斑患者における血液凝固第XIII因子について．第27回皮膚脈管懇話会・膠原病研究会, 2004．1．
- 5) 堺 則康, 川名誠司: アナフィラクトイド紫斑患者における血液凝固第XIII因子の臨床的意義について．第67回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2004．2．

## [ 千葉北総病院皮膚科 ]

### 研究概要

- 1) 薬疹, 接触皮膚炎: パッチテスト, ブリックテスト, チャレンジテストなどによる原因物質の確認と交差感作, 抗原決定基の検索, アレルギーカードの発行
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断と病理学的研究: とくに電顕, 酵素抗体法を用いた研究
- 3) 円形脱毛症における免疫療法の研究
- 4) 難治性潰瘍, 褥創: 新しい素材, 薬剤を用いた保存的治療や外科的治療の研究

### 研究業績

#### 論 文

(1) 原著：

- 1) 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 小児の皮膚疾患: 水痘, 帯状疱疹, 単純性疱疹, 手足口病．小児科診療 2003；66(増刊): 180-185．
- 2) 天野彰人<sup>1)</sup>, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 松茸アナフィラキシーの1例．アレルギー 2003；52(4): 444-446．
- 3) 藤本和久: 多形滲出性紅斑に対するエバスタチンの効果と安全性の検討．臨床と研究 2003；80(9): 1760-1763．
- 4) 菊池伊豆実<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 第二病院皮膚科): 痲皮型疥癬による院内感染．皮膚臨床 2003；45(12): 1527-1529．

5) 藤本和久: クローン病. *Visual Dermatology* 2003; 2(12): 1308-1310.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 安本美奈子<sup>1)</sup>, 藤本和久, 廣井 信<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>付属病院皮膚科): 肛門周囲病変を初発としたクローン病の1例. 第102回日本皮膚科学会総会, 2003. 5.
- 2) 松寄安里<sup>1)</sup>, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): ワインとブドウによるアナフィラキシーの1例. 日本皮膚科学会第782回東京地方会, 2003. 6.
- 3) 久保田智樹<sup>1)</sup>, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科): 葛根湯中のマオウによる蕁疹の1例. 第33回日本皮膚アレルギー学会, 2003. 7.
- 4) 栗原和久, 服部怜美, 大秋美治<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同泌尿器科): 頭部腫瘍より Bellini 管癌が見つかった1例. 第19回日本皮膚病理組織学会, 2003. 7.
- 5) 安本美奈子<sup>1)</sup>, 藤本和久, 廣井 信<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>付属病院皮膚科): 肛門周囲病変を初発としたクローン病の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 6) 久保田智樹<sup>1)</sup>, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科): 葛根湯中のマオウによる蕁疹の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 7) 荻田あづさ<sup>1)</sup>, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): キシロカインとケフレックスの drug combination による蕁麻疹型蕁疹の1例. 日本皮膚科学会第784回東京地方会, 2003. 9.
- 8) 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 梅干によるアナフィラキシーの1例. 第28回日本接触皮膚炎学会, 2003. 12.
- 9) 片山美玲<sup>1)</sup>, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 魚油によるアナフィラキシーの1例. 第28回日本接触皮膚炎学会, 2003. 12.

## 9. 外科学第一講座

### [ 付属病院第 1外科 ( 消化器外科 , 乳腺外科 , 移植外科 , 一般外科 ) ]

#### 研究概要

教室では以下のテーマについて臨床的, 基礎的研究を進めており, その成果を積極的に学会等に発表し, 着実な評価を得ている.

1. 急性腹症の病態の解析, イレウスの新しい診断法と治療法の開発を積極的におこなっている.
2. 創傷治癒, 外科侵襲, 外科感染症の基礎的研究を基に, 現在積極的に臨床応用を行っている.
3. 腹腔鏡下手術は, その適応範囲を拡げ, 胆嚢胆道はもとより, 穿孔性腹膜炎, 早期胃癌, 早期大腸癌, 癒着性イレウス, さらに肝切除, 脾摘, 早期食道癌や膵腫瘍の一部にも応用され, 良好な成績を得ており, 侵襲の少ない手術として評価を得ている.
4. 進行食道癌, 胃癌, 大腸癌および肝胆膵癌に対する手術と化学療法の組み合わせによる集学的治療, また個別化治療により, 患者の延命とQOLの向上を図っている.
5. 肝硬変症, 門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療により, 病態に応じた治療法の選択が可能となり, 良好な成績をあげている.
6. 内視鏡下手術の進歩により, 早期胃癌, 早期大腸癌に対するEMR, また総胆管結石, 膵石に対する内視鏡的摘出術, 閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄術等, 種々の内視鏡下手術に取り組んでいる.
7. ヘリコバクター・ピロリの胃炎, 胃潰瘍, 胃癌との関係の基礎的な研究が進められ, 一部は除菌治療とともに臨床応用されている.
8. 食道癌, 肝癌, 膵癌に対する基礎的およびIVRを応用した臨床的研究が進められ, 手術法の進歩とあいまって成績の向上が得られつつある.
9. 生体部分肝移植は小児と成人に行っているが, 成人レシピエントにおける過小グラフト対策の基礎的研究をおこなっている.
10. 大血管合併切除後の腹膜による再建法の基礎的研究の臨床応用を始めている.
11. 乳癌に対して積極的に縮小手術を取り入れ良好な成績をあげており, さらに進行乳癌に対する動注化学療法, 化学内分泌療法を組み合わせた治療法など, 患者のQOLの向上に努め良好な成績を得ている.

#### 研究業績

##### 論文

[ 2002 年度追加分 ]

原著:

- 1) Yokoyama Y<sup>1)</sup>, Kuebler JF<sup>1)</sup>, Matsutani T, Schwacha MG<sup>1)</sup>, Bland KI<sup>1)</sup>, Chaudry IH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Univ. of Alabama at Birmingham ): Mechanism of the salutary effects of 17beta-estradiol following trauma-hemorrhage: direct downregulation of Kupffer cell proinflammatory cytokine production. *Cytokine* 2003; 21: 91-97.
- 2) Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Kato S, Matsukura N ( <sup>1)</sup> Dept. of Gastroenterol. Endosc., Tama-Nagayama Hosp., <sup>2)</sup> 2nd Dept. of Pathol. ): *Helicobacter pylori* infection, mucosal atrophy and intestinal metaplasia in Asian populations: a comparative study in age-, gender- and endoscopic diagnosis-matched subjects. *Helicobacter* 2003; 8 ( 1 ): 29-35.
- 3) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Tani N, Mineta S, Hirakata A, Futami R, Arima Y, Inoue



M , Hatta S<sup>1)</sup> , Kishimoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Matsue Hospital ): Infected Hepatic Cyst . Hepato-Gastroenterology 2003 ; 50 : 507-509 .

4) Miyashita M , Tajiri T , Yanagi K , Shimizu T , Futami R , Sasajima K , Tokunaga A : Serum Levels of Vascular Endothelial Growth Factor, Basic Fibroblast Growth Factor and Endostatin in Human Metastatic Liver Tumors . Hepato-Gastroenterology 2003 ; 50 : 308-309 .

5) Samy TS<sup>1)</sup> , Zheng R<sup>1)</sup> , Matsutani T , Rue LW<sup>1)</sup> , Bland KI<sup>1)</sup> , Chaudry IH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Univ. of Alabama at Birmingham ): Mechanism for the maintenance of splenic T lymphocyte functions in proestrus females following trauma-hemorrhage : Enhanced local synthesis of 17beta-estradiol . Am J Physiol Cell Physiol 2003 ; 285 : 139-149 .

( 1 ) 原著 :

1) Yoshida H , Tajiri T , Mamada Y , Taniai N , Kawano Y , Mizuguchi Y , Yokomuro S , Uchida E , Arima Y , Akimaru K , Watanabe M<sup>1)</sup> , Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Uchida Hospital ): One-step Insertion of an Expandable Metallic Stent for Unresectable Common Bile Duct Carcinoma . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 2 ): 179-182 .

2) Koyama K<sup>1)</sup> , Yamashita N , Sakurazawa N , Wachi E<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Tsuboi Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology, Tsuboi Hospital ): Endoscopic removal of primary -cell mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma of the cecum . Dig Endosc 2003 ; 15 ( 2 ): 131-133 .

3) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Arima Y , Mamada Y , Taniai N , Akimaru K : Long-term results of multiple minocycline hydrochloride injections for the treatment of symptomatic solitary hepatic cyst . J of Gastroenterology and Hepatology 2003 ; 18 : 595-598 .

4) Matsukura N , Tajiri T , Kato S , Togashi A , Masuda G , Fujita I , Tokunaga A , Yamada N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Second Dept. of Pathology ): *Helicobacter pylori* eradication therapy for the remnant stomach after gastrectomy . Gastric Cancer 2003 ; 6 ( 2 ): 100-107 .

5) Asano T<sup>1)</sup> , Matsumoto T<sup>1)</sup> , Zhi CL<sup>1)</sup> , Maeda M<sup>1)</sup> , Uchida E , Tajiri T , Fukunaga Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pediatrics ): Solid and cystic tumor of the pancreas in a 12-year-old boy . Pediatrics International 2003 ; 45 : 339-341 .

6) Miyashita M , Tajiri T , Sasajima K , Makino H , Maruyama H , Nomura T , Futami R , Hagiwara N , Tsuchiya Y , Yamashita K : Response to preoperative chemotherapy affects prognosis in esophageal cancer . Diseases of the Esophagus 2003 ; 16 : 99-101 .

7) Matsukura N , Yamada S<sup>1)</sup> , Kato S , Tomtitchong P<sup>2)</sup> , Tajiri T , Miki M , Matsuhisa T<sup>3)</sup> , Yamada N<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Faculty of Medicine, Chiang Mai Univ. Thailand , <sup>2)</sup> Division of Surgery, Faculty of Medicine, Thammasat Univ. Thailand , <sup>3)</sup> Dept. of Gastrointestinal Endoscopy, Tama-Nagayama Hospital , <sup>4)</sup> Dept. of Pathology ): Genetic Differences in Interleukin-1 Polymorphisms among Four Asian Populations : An Analysis of the Asian Paradox between *H. pylori* Infection and Gastric Cancer Incidence . J Exp Clin Cancer Res 2003 ; 22 ( 1 ): 47-55 .

8) Miyashita M , Tajiri T , Maruyama H , Makino H , Nomura T , Sasajima K , Yamashita K : Endoscopic Mucosal Resection Scissors for the Treatment of Early Gastric Cancer . Endoscopy 2003 ; 35 ( 7 ): 611-612 .

9) Futami R , Tajiri T , Miyashita M , Nomura T , Makino H , Maruyama H , Sasajima K , Yamashita K : Changes of serum levels of vascular endothelial growth factor following major surgical injury : The Biological Responses to Planned and Unplanned Injuries : Cellular, Molecular and Genetic Aspects . International Congress Series 1255 ELSEVIER 2003 ; 131-133 .

10) Kato S , Tajiri T , Matsukura N , Matsuda N , Taniai N , Mamada Y , Yoshida H , Kiyama T , Naito Z<sup>1)</sup>

- (<sup>1</sup>Second Dept. of Pathology): Genetic Polymorphisms of Aldehyde Dehydrogenase 2, Cytochrome p450 2E1 for Liver Cancer Risk in HCV Antibody-Positive Japanese Patients and the Variations of CYP2E1 mRNA Expression Levels in the Liver due to its Polymorphism: Alcohol Metabolism and Liver Cancer. *Scand J Gastroenterol* 2003; 8: 886-893.
- 11) Tanaka-Nozaki M, Tajiri T, Tanaka N, Furukawa K, Takasaki H, Yoshimura K, Suzuki H, Naito Z<sup>1)</sup>, Sugizaki Y<sup>1)</sup>, Merk HF<sup>2)</sup>, Bloemeke B<sup>2)</sup>, Kato S (<sup>1</sup>2nd Dept. of Pathology, <sup>2</sup>Dept. of Dermatology, Univ. Hospital RWTH Aachen, Germany): Intratumoral induction of thymidylate synthase mRNA by 5-FU in colorectal cancer patients: association with survival. *Oncology Reports* 2003; 10: 1425-1429.
- 12) Makino H, Tajiri T, Onda M, Sasajima K, Miyashita M, Nomura T, Maruyama H, Nagasawa S, Tsuchiya Y, Hagiwara N, Yamashita K, Yamaguchi T<sup>1)</sup>, Noyama T<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>BML General Laboratory): Detection of Lymph Node Micrometastasis in Esophageal Carcinoma. *Hepato-Gastroenterology* 2003; 53 (50): 1407-1410.
- 13) Yokoyama T<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Okawa K<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Takashima Y<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Tajiri T, Onda M (<sup>1</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hospital): Percutaneous and laparoscopic approaches of radiofrequency ablation treatment for liver cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2003; 10 (6): 425-427.
- 14) Shimizu T, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniai N, Kawano Y, Mizuguchi Y, Takahashi T, Arima Y, Aramaki T<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>First Dept. of Internal Medicine, <sup>2</sup>Dept. of Radiology): Hand-assisted laparoscopic hepatectomy after partial splenic embolization. *Surgical Endoscopy* 2003; 17 (10): 1676-1676.
- 15) Hagiwara N, Tajiri T, Miyashita M, Sasajima K, Makino H, Matsutani T, Tsuchiya Y, Takubo K<sup>1)</sup>, Yamashita K (<sup>1</sup>Dept. of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology): Biological Behavior of Mucoepidermoid Carcinoma of the Esophagus. *J Nippon Med Sch* 2003; 70 (5): 401-407.
- 16) Yoshida H, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T, Uchida E, Watanabe M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Uchida Hospital): Infected Solitary Hepatic Cyst. *J Nippon Med Sch* 2003; 70 (6): 515-518.
- 17) Yoshida H, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Akimaru K, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T, Naito Z<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Second Dept. of Pathology): Rapidly Enlarging Hepatobiliary Cystadenoma. *J Med Ultrasonics* 2003; 30 (Winter): 257-262.
- 18) Mamada Y, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Taniai N: Long-term Prognosis after Arterio-portal Embolization for Hepatocellular Carcinoma. *Hepato-Gastroenterology* 2004; 51: 234-236.
- 19) Onodera H, Tokunaga A, Yoshiyuki T, Kiyama T, Kato S, Matsukura N, Masuda G, Tajiri T: Surgical outcome of 483 patients with early gastric cancer prognosis, postoperative morbidity and mortality, and gastric remnant cancer. *Hepato-Gastroenterology* 2004; 51 (55): 82-85.
- 20) Tajima H<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Ichikawa K<sup>1)</sup>, Tajiri T, Yamamoto Y<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>Dept. of Radiology, <sup>2</sup>Dept. of Advanced Emergency Critical Care Medicine): Successful Interventional Treatment of Acute Internal Jugular Vein Thrombosis. *American Journal of Roentgenology* 2004; 182 (2): 467-469.
- 21) Taniai N, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Kawano Y, Mizuguchi Y, Makuuchi M<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Liver Transplantation Team, University of Tokyo): Middle Hepatic Vein Reconstruction of Graft for a Patient with Intrahepatic Portosystemic Shunt. *Hepato-Gastroenterology* 2004; 56 (51): 589-591.
- 22) 野口裕幸<sup>1)</sup>, 谷合信彦, 新井正徳<sup>1)</sup>, 小井戸雄一<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 田尻 孝, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>高度救命救急センター, <sup>2</sup>集中治療室): 劇症肝不全 (FHF) に対する当大学の取り組み: 臨床工学技士の立場よ

- り(臨床工学技士・看護師の役割2). ICUとCCU 2003; 27(別冊): S106-S107.
- 23) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永昭: 胃切除クリニカルパスの費用分析. 日消誌 2003; 100(5): 555-561.
- 24) 野村 務, 田尻 孝, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 勝田美和子, 柏原 元, 笹島耕二, 山下精彦: APC施行後再発を認めた食道表在癌の2例. Progress of Digestive Endoscopy 2003; 62(2): 60-62.
- 25) 二見良平, 田尻 孝, 野村 務, 牧野浩司, 笹島耕二, 山下精彦, 宮下正夫: 食道癌術後残存食道のBarrett粘膜化を認めた1例. Progress of Digestive Endoscopy 2003; 62(2): 66-67.
- 26) 永嶋裕司<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 平本義浩<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>3)</sup>, 田尻 孝( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>同外科): 大腸内視鏡検査(粘膜切除)にて直腸癌と鑑別に苦慮した孤立性直腸潰瘍症候群の1例. Progress of Digestive Endoscopy 2003; 62(2): 128-129.
- 27) 進士誠一, 田尻 孝, 宮下正夫, 古川清憲, 高崎秀明, 源河敦史, 佐々木順平, 田中宣威, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 腹壁瘻痕ヘルニア破裂の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2003; 23(5): 815-819.
- 28) 二見良平, 恩田昌彦, 宮下正夫, 丸山 弘, 牧野浩司, 野村 務, 館野 温<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 田尻孝( <sup>1)</sup>放射線医学): Nedaplatin/5-FU/LV/放射線療法が奏効し, 血清の血管内皮細胞増殖因子が低下した切除不能食道癌の1例. 癌と化学療法 2003; 30(5): 681-684.
- 29) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二: 自己免疫性膵炎の診断と治療. J Nippon Med Sch 2003; 70(3): 292-292.
- 30) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 三橋恭子<sup>1)</sup>, 伊勢雄也<sup>2)</sup>, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永 昭, 長谷川幸子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>看護部, <sup>2)</sup>薬剤部): 胃切除患者におけるクリニカルパスの臨床的意義. J Nippon Med Sch 2003; 70(3): 263-269.
- 31) 中村慶春, 田尻 孝, 江上 格, 柏原 元, 高崎秀明, 内田英二, 笠井源吾<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>波崎済生病院内科): 術前診断し得た閉鎖孔ヘルニアの3例. 日本腹部救急医学会雑誌 2003; 23(6): 991-994.
- 32) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 臍頭十二指腸切除術後の腹腔内出血に対し2度の開腹止血術を行い救命し得た1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2003; 23(6): 905-909.
- 33) 福原宗久, 田尻 孝, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 有馬保生, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 大腿骨原発骨肉腫からの臍転移の1切除例. 臍臓 2003; 18(4): 524-527.
- 34) 田尻 孝, 加藤俊二: 最近の話題: 消化器外科領域における集学的医療の実際: IVRから個別化治療まで. W'Waves 2003; 9(1): 32-34.
- 35) 高崎秀明, 田尻 孝, 鶴田宏之, 菅 隼人: イレウスの新しい診断法と治療法: 特集: Abdominal critical care. 救急医学 2003; 27(11): 1649-1654.
- 36) 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭: 門脈本幹および下大静脈・右心房への腫瘍栓を伴う肝細胞癌の手術: 消化器外科手術アトラス. 消化器外科 2003; 26(11): 1571-1577.
- 37) 高橋 翼, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 硬化型と肉腫様変化を伴う肝細胞癌の1切除例. 臍臓 2003; 44(10): 533-537.
- 38) 湖山信篤<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 山下直行, 小嶋隆行, 中山浩一<sup>1)</sup>, 渡邊睦弥<sup>1)</sup>, 櫻澤信行, 佐藤尚紀<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>福島県立医科大学外科学第2): 胃癌術後イレウスと合成吸収性癒着防止材. 外科治療 2003; 89(4): 481-484.
- 39) 清水哲也, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 高橋 翼, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏: 肝移植後に起こった胆管合併症の2例. 今日の移植 2003; 16(6): 669-670.
- 40) 谷合信彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): 血管系IVR: 消化管・腹腔内動脈性出血に対する動脈塞栓術. 消化器外科 2003; 26(13): 1881-1887.

- 41) 吉村成子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦, 田尻 孝, 徳永 昭, 高崎秀明, 松田範子 ( <sup>1)</sup>吉村せいこクリニック ): 当施設で急増しているメニエル型減圧症について . 日本高気圧環境医学会雑誌 2003 ; 38 ( 4 ): 263-267 .
- 42) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 大腸癌肝転移症例の検討 . Tama Symposium Journal of Gastroenterology 2004 ; 18 ( 1 ): 36-40 .
- 43) 柏原 元<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 中村慶春<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 内田英二, 笠井源吾<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>波崎済生病院外科, <sup>2)</sup>同内科 ): エイ刺傷により腸管脱出をきたした1例 . 日消外会誌 2004 ; 37 ( 2 ): 198-201 .
- 44) 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 小井戸雄一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>高度救命救急センター ): 特集肝胆膵の救急画像 : 肝外傷 . 消化器画像 2004 ; 6 ( 2 ): 167-171 .
- 45) 谷合信彦, 秋丸琥甫, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 吉田 寛, 真々田裕宏, 田尻 孝, 山本保博<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>集中治療室 ): 劇症肝不全に対する肝移植までの治療戦略 . 日本腹部救急医学会雑誌 2004 ; 24 ( 3 ): 169-175 .
- 46) 山村 進<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 下大静脈に接した再発肝癌に対してマイクロ波凝固療法, エタノール注入併用療法が著効した1例 . 臨床外科 2004 ; 59 ( 3 ): 347-350 .

(2) 綜説 :

- 1) Shinji S, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Tajiri T, Tanaka N, Seya T, Kawahara K<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology II ): External Whole-body Image of EGFP Gene Expression . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ): 462-463 .
- 2) 菅 隼人, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明 : イレウス管による腸管内減圧 . 消化器外科 2003 ; 26 ( 6 ): 841-850 .
- 3) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 杉浦敏昭<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 林 良紀<sup>1)</sup>, 田中由里子<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 野村 務, 宮下正夫, 田尻 孝, 小林正文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第3 ): 食道アカラシア, 診断と内科的治療の成績 . 外科 2003 ; 65 ( 5 ): 501-509 .
- 4) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 有馬保生, 内田英二 : 胆道癌の効率的診断体系 . 臨床 消化器内科 2003 ; 18 ( 8 ): 1105-1110 .
- 5) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 鈴木英之 : チーム医療とセイフティー・マネージメント . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 4 ): 379 .
- 6) 松倉則夫 : *Helicobacter* 属と胆道癌 . BIO Clinica 2003 ; 18 ( 4 ): 331-333 .
- 7) 松倉則夫 : *Helicobacter pylori* 感染と肝・胆・膵疾患 . Helicobacter Res 2003 ; 7 ( 4 ): 316-320 .
- 8) 真々田裕宏, 田尻 孝, 吉田 寛, 谷合信彦 : I. 食道 : 3. 食道胃静脈瘤に対する interventional radiology . 外科 2003 ; 65 ( 10 ): 1131-1135 .
- 9) 木山輝郎, 田尻 孝, 谷合信彦, 吉行俊郎, 内田英二, 徳永 昭 : 話題 : ステロイド長期投与患者の腹部救急疾患の治療戦略 : 第39回日本腹部救急医学会総会から . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ): 533-533 .
- 10) 清水哲也, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 高橋翼, 水田耕一<sup>1)</sup>, 河原崎秀雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>自治医科大学小児外科・移植外科 ): 臨床医のために : 生体肝移植の術後管理と合併症 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ): 522-527 .
- 11) 松倉則夫 : 胃癌のリスクファクター, 残胃・総論 . 臨床消化器内科 2004 ; 19 ( 3 ): 305-307 .

著 書

- 1) Matsukura N, Ohgaki H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Molecular Pathology, IARC ): [ 共著 ] Human cancer by organ site ; Stomach cancer . World Cancer Report ( Ed B W Stewart and P Kleihues, WHO/IARC ), 2003 ; pp194-197, IARC

Press, Lion .

- 2) Akimaru K, Onda M, Tajiri T, Matsuda N, Tokunaga A, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniai N, Moriyama Y, Yamashita K : [分担] Effectiveness of Hyperbaric Oxygen on Liver Regeneration after Carbon Tetra : Chloride Administration and Hepatectomy . Hyperbaric Medicine ( Takahashi H ), 2004 ; pp39-43, Best Publishing Company .
- 3) 吉行俊郎, 恩田昌彦 : [共著] 胃癌治療における漢方薬 . 癌医療への漢方の寄与 ( 丸山孝士 ), 2003 ; pp21-32, 篠原出版新社 .
- 4) 秋丸琥甫 : [分担] 門脈領域 ( 門注療法 ). リザーバー療法 ( リザーバー研究会 ), 2003 ; pp152-157, 南江堂 .
- 5) 真々田裕宏, 田尻 孝, 吉田 寛, 谷合信彦, 秋丸琥甫 : [共著] 脾機能亢進症 : 部分脾動脈塞栓術 : V 脾機能亢進症 . 肝疾患のインターベンション治療 ( 藤田直孝 ), 2004 ; pp116-121, メジカルビュー社 .

#### 学会発表

[ 2002 年度追加分 ]

一般講演 :

- 1) Miyashita M, Tajiri T, Kashiwabara M, Futami R, Katsuta M, Yamashita K, Nishi K<sup>1)</sup>, Adachi K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Nishi Clinic , <sup>2)</sup> Adachi Chuo Clinic ): Serum p53 antibody and screening of population with cancer risks . Molecular and genetic epidemiology Meeting, AACR International Conference ( Hawaii, USA ), 2003 . 1 .
- 2) 進士誠一, 水口義昭, 清水哲也, 山崎貴明, 金 徹<sup>1)</sup>, 竹田晋治<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 集中治療室 ): ICU患者に対する内視鏡下バルーン付経鼻栄養チューブ留置の試み . 第30回日本集中治療学会総会, 2003 . 2 .

(1) 特別講演 :

- 1) 田尻 孝 : 門亢症患者に対する内視鏡治療とエンポリゼーション, 外科手術の比較 . 第12回近畿食道・胃静脈瘤研究会, 2003 . 7 .
- 2) 田尻 孝 : 侵襲を考慮した静脈瘤治療の選択 . 第7回富山県侵襲研究会, 2003 . 8 .

(2) シンポジウム :

- 1) Nomura T, Tajiri T, Miyashita M, Makino H, Maruyama H, Matsutani T, Futami R, Katsuta M, Kashiwabara M, Sasajima K, Yamashita K : Mediastinoscope Assisted Transhiatal Esophagectomy for Esophageal Cancer . 6th Asia Pacific Congress ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2003 . 9 .
- 2) Hagiwara N, Mechanic LE<sup>1)</sup>, Hussain P<sup>1)</sup>, Trivers GE<sup>1)</sup>, Miyashita M, Tajiri T, Sasajima K, Bowman E<sup>1)</sup>, Harris CC<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> National Cancer Institute, USA, Laboratory of Human Carcinogenesis ): Detection of p53 mutations in circulating DNA in plasma/serum . AACR 95th Annual Meeting ( Florida, USA ), 2004 . 3 .
- 3) 水田耕一<sup>1)</sup>, 河原崎秀雄<sup>1)</sup>, 菱川修司<sup>1)</sup>, 宇野武治<sup>1)</sup>, 北 嘉昭<sup>1)</sup>, 高橋 翼 ( <sup>1)</sup> 自治医科大学小児外科・移植外科 ): 当科における小児肝移植後EBV感染症のstrategy . 第21回日本肝移植研究会, 2003 . 4 .
- 4) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏 : 門脈血行動態からみた当科における胃静脈瘤の治療戦略 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 5) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦 : 門脈圧亢進症治療におけるシャント手術 ( 門亢症治療に対するIVRの役割 : 外科, 消化器内科との協調 ). 第32回日本血管造影・IVR学会総会, 2003 . 5 .
- 6) 宮下正夫 : 外科医からみた麻酔の評価 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 7) 古川清憲, 田尻 孝, 山下精彦 : 手術時手洗いとEBM ( 外科感染症の将来展望 ). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003 . 7 .
- 8) 田尻 孝 : 血行動態に即した治療法としての塞栓術 ( シャントは閉じるべきか開くべきか ). 第10回日本門脈

圧亢進症学会総会，2003．9．

- 9) 野村 務，田尻 孝，宮下正夫：食道表在癌に対する Argon plasma coagulation ( APC ) 治療のエビデンス：治療成績および組織障害深度の検討．第66回日本消化器内視鏡学会総会，2003．10．
  - 10) 吉村成子<sup>1)</sup>，田尻 孝，恩田昌彦，松田範子，木山輝郎，高崎秀明，秋丸琥甫，徳永 昭<sup>2)</sup>，森山雄吉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>吉村せいこクリニック，<sup>2)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター)：ダイバー，特に減圧症に罹患し再圧治療を施行した症例における活性水素水の効果．第38回日本高気圧環境医学会総会，2003．11．
  - 11) 古川清憲，田尻 孝，鈴木英之，松田明久，進士誠一，高崎秀明，菅 隼人，山下精彦：BRMの術前短期投与で大腸癌手術の免疫能の低下は予防できるか．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
  - 12) 有馬保生，田尻 孝，横室茂樹，野村 務，水谷 崇，中村慶春，山下精彦，内田英二：腹腔鏡下胆嚢摘出術 ( LC ) における胆管損傷の対処法と予防対策．第16回日本内視鏡外科学会総会，2003．12．
  - 13) 的場康徳<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，森山雄吉<sup>1)</sup>，飯田信也，松倉則夫，田尻 孝，片山博徳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部)：ラット穿孔性胃潰瘍に対する松林式大網充填術 ( omental implantation ) vs 大網被覆術 ( omental patch ) による創傷治癒過程の相違．第33回日本創傷治癒学会，2003．12．
  - 14) 山下直行<sup>1)</sup>，湖山信篤<sup>1)</sup>，小嶋隆行<sup>1)</sup>，渡邊睦弥<sup>1)</sup>，中山浩一<sup>1)</sup>，齋藤行世<sup>2)</sup>，安藤真弘<sup>2)</sup>，栗本太嗣<sup>2)</sup>，和知栄子<sup>3)</sup>，田尻 孝 (<sup>1)</sup>坪井病院外科，<sup>2)</sup>同内科，<sup>3)</sup>同病理)：TS-1+CDDP，切除による進行，再発胃癌の予後改善．第176回日本消化器病学会東北支部例会，2004．2．
  - 15) 秋丸琥甫，森山雄吉<sup>1)</sup>，松田範子，田尻 孝 (<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)：障害肝切除後残肝再生に対する高圧酸素治療の意義：臨床と動物実験．第3回日本高気圧環境医学会関東地方会総会・学術集会，2004．3．
  - 16) 古川清憲，田尻 孝，鈴木英之，松田明久，丸山 弘，松谷 毅，秋谷行宏，前澤勝美，山下精彦：重症腹膜炎周術期の病態：免疫能の変化とその制御．第40回日本腹部救急医学会総会，2004．3．
  - 17) 谷合信彦，田尻 孝，吉田 寛，真々田裕宏，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，内田英二，相本隆幸，村田 智<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学)：消化器外科領域における消化管・腹腔内動脈性出血に対するIVR．第40回日本腹部救急医学会総会，2004．3．
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 木山輝郎，田尻 孝，吉行俊郎，水谷 崇，奥田武志，藤田逸郎，野村 務，鶴田宏之，加藤俊二，松倉則夫：ステロイド長期投与患者の腹部救急疾患の治療．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
  - 2) 谷合信彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，平方敦史，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，河原崎秀雄<sup>1)</sup>，幕内雅敏<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>自治医科大学小児外科移植外科，<sup>2)</sup>東京大学肝胆膵移植外科)：劇症肝不全症例に対する肝移植への bridge use 治療．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
  - 3) 徳永 昭，田尻 孝，増田剛太郎，松倉則夫，加藤俊二，吉行俊郎，木山輝郎，水谷 崇，奥田武志，藤田逸郎，松田明久：糖尿病と消化器疾患：とくに幽門側胃切除後の胃排出障害とその対策．第89回日本消化器病学会総会，2003．4．
  - 4) 吉行俊郎，田尻 孝，徳永 昭，木山輝郎，松倉則夫，山下精彦：大学病院における胃切除クリニカルパスと研修医教育 ( 消化器外科の臨床現場における倫理的問題 ) ．第58回日本消化器外科学会総会，2003．7．
  - 5) 木山輝郎，田尻 孝，吉行俊郎，水谷 崇，奥田武志，藤田逸郎，増田剛太郎，加藤俊二，松倉則夫，徳永昭：胃切除後自由摂食パスによる栄養管理 ( 周術期栄養管理の進歩と新たな展開 ) ．第58回日本消化器外科学会総会，2003．7．
  - 6) 真々田裕宏，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，谷合信彦，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼：難治性腹水に対する腹腔：静脈シャントの臨床成績 ( 難治性腹水と肝性脳症をめぐって：基礎から臨床まで ) ．第10回日本門脈圧亢進症学会総会，2003．9．
  - 7) 山下直行，大島和彦<sup>1)</sup>，江角浩安<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター東病院・研究所支所)：aberrant crypt foci ( ACF ) の大腸発癌過程における位置付け．第45回日本消化器病学会大会，2003．10．

- 8) 鈴木英之, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 会田邦晴, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松田明久, 進士誠一, 佐々木順平, 山下精彦: 早期大腸癌の臨床病理学的検討と治療方針. 第58回日本大腸肛門病学会総会, 2003. 11.
- 9) 高崎秀明, 田尻 孝, 古川清憲, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之: 癒着生イレウスの治療戦略. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 10) 谷合信彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼: 孤立性胃静脈瘤の治療成績. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 11) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 飯田信也, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): 閉塞性左側大腸癌に対する術前減圧術の検討. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 12) 加藤俊二, 野崎-田中元子, 松倉則夫, 松田範子, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永昭, 山下精彦, 宮下正夫, 田尻 孝: 5FU系抗癌剤の感受性試験の試み: 投与前後 Thymidylate Synthase (TS) mRNA 発現の経時的変化と抗腫瘍効果との関連. 第2回日本臨床腫瘍学会総会, 2004. 3.
- (4) ワークショップ:
- 1) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 内田英二 (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 糖尿病の降糖リスクファクターとしての意義について: 過去10年間の自験症例における検討から. 第34回日本膵臓学会大会, 2003. 7.
- 2) 横室茂樹, 田尻 孝, 有馬保生: 胆肝癌治療に対するサイトカイン応用の可能性 (胆道癌の免疫・化学療法と放射線療法). 第39回日本胆道学会学術集会, 2003. 9.
- 3) 内田英二, 田尻 孝, 古川清憲, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光: 重症急性膵炎における腸管および腸内細菌の意義 (消化管手術と腸内細菌). 第6回日本臨床腸内微生物学会総会, 2003. 9.
- 4) 宮下正夫, 田尻 孝, 岩切勝彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第3): 食道癌術後残存食道における逆流性食道炎とバレット食道への進展. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 2003. 10.
- 5) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 内田英二, 高崎秀明, 鈴木英之, 木山輝郎, 谷合信彦, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 山下精彦: 術前IMPACT投与が大腸癌患者周術期免疫に及ぼす影響についての検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 6) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 山下精彦: 大腸癌手術患者における術前 immunonutrition の Th1/Th2 バランスに及ぼす影響. 第16回日本外科感染症学会学術集会, 2003. 11.
- 7) 野村 務, 田尻 孝, 宮下正夫, 有馬保生, 内田英二, 吉行俊郎, 鈴木英之, 横室茂樹, 木山輝郎, 水谷 崇, 牧野浩司, 丸山 弘, 中村慶春, 山下精彦, 笹島耕二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 術前診断 T1bN0 症例に対する縦隔鏡補助下食道切除術の成績. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.
- 8) 吉行俊郎, 田尻 孝, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦, 徳永 昭<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃癌患者への緩和医療: 閉塞症状にたいする処置 (胃癌患者の緩和医療). 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- (5) 一般講演:
- 1) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永昭: 胃切除術後自由摂食パスによる目標摂取栄養量の検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 2) 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山正<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): ヒトスキルス胃癌の発生・進展における塩基性繊維芽細胞増殖因子 (bFGF) の位置付け. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.

- 3) 真々田裕宏, 田尻 孝, 有馬保生, 吉田 寛, 横室茂樹, 谷合信彦, 水口義昭, 川野陽一, 高橋 翼, 清水哲也, 秋丸琥甫: 術中迅速病理診断を必要とした胆嚢癌および類似病変における術前診断の検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 4) Futami R, Tajiri T, Matsutani T, Maruyama H, Sasajima K, Yamashita K, Miyashita M: Serum levels of vascular endothelial growth factor ( VEGF ) are elevated in pulmonaray diseases following major surgical trauma. 26th Annual Conference on Shock ( Arizona, USA ), 2003. 6.
- 5) Matsutani T, Kang SC<sup>1)</sup>, Hyde S<sup>1)</sup>, Bland KI<sup>1)</sup>, Chaudry IH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Univ. of Alabama at Birmingham ): Genetic differences differentially influence immune responses following hemorrhage. Shock Society 27th Annual Conference on Shock ( Arizona, USA ), 2003. 6.
- 6) Kang SC<sup>1)</sup>, Matsutani T, Choudhry M<sup>1)</sup>, Bland KI<sup>1)</sup>, Chaudry IH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Univ. of Alabama at Birmingham ): Splenocyte immune responses are more compromised in middle-aged than young mice after bone fracture, tissue trauma and hemorrhage. Shock Society 27th Annual Conference on Shock ( Arizona, USA ), 2003. 6.
- 7) Futami R, Tajiri T, Matsutani T, Maruyama H, Sasajima K, Yamashita K, Miyashita M: Serum levels of vascular endothelial growth factor ( VEGF ) are elevated in pulmonary diseases following major surgical trauma. Shock Society 27th Annual Conference on Shock ( Arizona, USA ), 2003. 6.
- 8) Miyashita M, Tajiri T, Hagiwara N, Futami R, Makino H, Sasajima K, Nishi K<sup>1)</sup>, Adachi K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Nishi Clinic, <sup>2)</sup>Adachi Chuo Clinic ): Screening of the population with cancer risks by serum p53 antibody. 94nd Annual Meeting, American Association of Cancer Research ( Washington, USA ), 2003. 7.
- 9) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Tsuchiya Y<sup>1)</sup>, Hiroi M<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hosp. ): Laparoscopic Radiofrequency Ablation ( RFA ) with Percutaneous or Trasdiaphragmatic Approach. 6th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2003. 9.
- 10) Egami K<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Tsuchiya Y<sup>1)</sup>, Hiroi M<sup>1)</sup>, Fukuhara M<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Tajiri T ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Tama-Nagayama Hosp. ): Clinical Analysis of Laparoscopically Assisted Colorectal Surgery in Comparison with Open Surgery. 6th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2003. 9.
- 11) Shinji S, Tajiri T, Tanaka N, Furukawa K, Takasaki H, Suzuki H, Aida K, Seya T, Kan H, Matsuda A, Ishiwata T, Yokoyama M, Naito Z, Sugisaki Y: TS, DPD, TP, OPRT Gene expression in colorectal carcinoma using RT-PCR after Laser Capture Microdissection ( LCM ) from paraffin embedded samples. 11th United European Gastroenterology Week 2003 ( Madrid, Spain ), 2003. 11.
- 12) Shinji S, Tajiri T, Tanaka N, Seya T, Ishiwata T, Naito Z, Sugisaki Y: Lumican expression in human carcinoid tumor. 11th United European Gastroenterology Week 2003 ( Madrid, Spain ), 2003. 11.
- 13) Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T, Naito Z<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hosp., <sup>2)</sup>Dept. of Pathol., <sup>3)</sup>Dept. of Pathol., Chiba-Hokuso Hosp. ): Correlation between lumican expression and intestinal metaplasia in human gastric cancer. 11th United European Gastroenterology Week ( Madrid, Spain ), 2003. 11.
- 14) Tanaka N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tajiri T, Naito Z<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surg., Chiba-Hokuso Hosp., <sup>2)</sup>Dept.



- of Pathol. , <sup>3)</sup>Dept. of Pathol. , Chiba-Hokuso Hosp. ): Expression of type IV collagen and matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) in gastric cancer . 11th United European Gastroenterology Week ( Madrid, Spain ), 2003 . 11 .
- 15 ) Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Kyono S<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Teranishi N<sup>1)</sup>, Tajiri T , Yamashita K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Surg. , Chiba-Hokuso Hosp. ): Autonomic nerve preservation combined to extended lateral lymphadenectomy for advanced colorectal cancer . 13th World Congress of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists ( Lisbon, Portugal ), 2003 . 12 .
- 16 ) Kato S , Matsukura N , Kanda T , Fujita I , Matsuda N , Yamada N<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Tajiri T (<sup>1)</sup>2nd Dept. of Pathology ): Predicion for the risk of gastric carcinogenesis in the atrophic or remnant stomach mucosa using molecular biomarkers for IL-8, COX-2 mRNA expression in stomach mucosa . AACR 95th Annual Meeting ( Florida, USA ), 2004 . 3 .
- 17 ) Makino H , Miyashita M , Sasajima K , Yamashita K , Nagasawa S , Futami R , Takahashi K , Nomura T , Tajiri T , Gabrielson EE<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Johns Hopkins University, Dept. of Pathology ): cDNA array analysis of the gene expression profile regarding the sensitivity of esophageal carcinomas to chemotherapy . AACR 95th Annual Meeting ( Florida, USA ), 2004 . 3 .
- 18 ) Kashiwabara M , Miyashita M , Nomura T , Makino H , Maruyama H , Matsutani T , Katsuta M , Takahashi K , Sasajima K , Yamashita K , Tajiri T : Surgical Trauma-induced Inflammatory Response and Relative Adrenal Insufficiency . 6th World Congress on Trauma, Shock, Inflammation and Sepsis - Pathophysiology, Immune Consequences and Therapy ( Munich, Germany ), 2004 . 3 .
- 19 ) Matsuda A , Furukawa K , Suzuki H , Maruyama H , Matsutani T , Tajiri T : Decreased Expression of Toll-like Receptors Correlate with The Severity of Sepsis in Mice . 6th World Congress on Trauma, Shock, Inflammation and Sepsis - Pathophysiology, Immune Consequences and Therapy ( Munich, Germany ), 2004 . 3 .
- 20 ) Matsutani T , Miyashita M , Sasajima K , Maruyama H , Nomura T , Makino K , Tsuchiya Y , Hagiwara N , Futami R , Kashiwabara M , Katsuta M , Matsuda A , Takahashi K , Egami K , Tajiri T : Cyfra 21-1 Levels in Bronchoalveolar Lavage Fluid Indicate The Broncho-Epithelial Damage . 6th World Congress on Trauma, Shock, Inflammation and Sepsis - Pathophysiology, Immune Consequences and Therapy ( Munich, Germany ), 2004 . 3 .
- 21 ) Yamada S<sup>1)</sup>, Matsukura N , Kato S , Tomtitchong P<sup>2)</sup>, Matsuhisa T<sup>3)</sup>, Yamada N<sup>4)</sup>, Matsuda N , Onda M , Tajiri T (<sup>1)</sup>Dept. of Surgery, Chiang Mai University, Thailand , <sup>2)</sup>Div. of Surgery, Faculty of Medicine, Thammasat University, Thailand , <sup>3)</sup>Tama-Nagayama Hospital , <sup>4)</sup>Dept. of Pathology ): Genetic differences in interleukin-1 polymorphisms among Asian populations and gastric cancer risk . 第103回日本外科学会定期学術集会 , 2003 . 6 .
- 22 ) Xing C , Tajiri T , Kato S , Matsuda N , Zhang C<sup>1)</sup>, Matsukura N (<sup>1)</sup>Second Dept. of Pathology ): Analysis of IL-8, COX2, TFF1 and HGF mRNA expression in the remnant stomach . 第14回日本消化器癌発生学会総会 , 2003 . 9 .
- 23 ) 内田英二 , 田尻 孝 , 鶴田宏之 , 水口義昭 , 勝野 暁 , 佐々木順平 , 張 一光 , 吉田 寛 , 谷合信彦 , 高橋 健 , 相本隆幸 : 臍頭十二指腸切除長期経過後に吻合部潰瘍穿孔をきたした2例 . 第39回日本腹部救急医学会総会 , 2003 . 4 .
- 24 ) 宮下正夫 , 田尻 孝 , 二見良平 , 柏原 元 , 勝田美和子 , 水谷 崇 , 野村 務 , 牧野浩司 , 丸山 弘 , 笹島耕二 , 山下精彦 : 教室における腐食性食道炎の3例 . 第39回日本腹部救急医学会総会 , 2003 . 4 .
- 25 ) 野村 務 , 田尻 孝 , 古川清憲 , 松倉則夫 , 高崎秀明 , 藤田逸郎 , 宮下正夫 : 粘膜筋層間の完全解離を認めた

S字状結腸穿孔の1例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．

- 26) 谷合信彦，田尻 孝，内田英二，有馬保生，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼：画像診断にて経過を追えた胆石イレウスの1切除例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 27) 菅 隼人，田尻 孝，古川清憲，高崎秀明，鈴木英之，会田邦春，進士誠一，松田明久，勝野 暁，山下精彦：小腸穿孔をきたした Crohn 病の1例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 28) 中村慶春<sup>1)</sup>，田尻 孝，江上 格<sup>3)</sup>，柏原 元<sup>1)</sup>，内田英二，笠井源吾<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>波崎済生病院外科，<sup>2)</sup>同内科，<sup>3)</sup>多摩永山病院外科)：術前診断しえた閉鎖孔ヘルニアの3例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 29) 柏原 元<sup>1)</sup>，田尻 孝，中村慶春<sup>1)</sup>，丸山 弘，宮下正夫，内田英二，笠井源吾<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>波崎済生病院外科，<sup>2)</sup>同内科)：エイ刺傷により腸管脱出をきたした1例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 30) 勝田美和子，田尻 孝，宮下正夫，二見良平，柏原 元，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，笹島耕二，高崎秀明，山下精彦：保存的治療で治癒しえた特発性食道破裂の3例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 31) 進士誠一，田尻 孝，古川清憲，高崎秀明，宮下正夫，源河敦史，佐々木順平，赤城一郎，田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：腹壁破裂をきたした腹壁癒痕ヘルニアの1例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 32) 寺西宣央<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，京野昭二<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，白川毅<sup>1)</sup>，瀧田雅仁<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，高橋由至<sup>1)</sup>，工藤秀徳<sup>1)</sup>，寺田淑恵<sup>1)</sup>，重原健吾<sup>1)</sup>，田尻 孝，山下精彦，大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>同病理部)：大腸癌イレウス症例に対する術前処置の検討．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 33) 林謙太郎，田尻 孝，古川清憲，高崎秀明，鈴木英之，会田邦晴，菅 隼人，進士誠一，松田明久：Spigel ヘルニアの1例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 34) 瀬谷知子<sup>1)</sup>，寺田淑恵<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，京野昭二<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，高橋由至<sup>1)</sup>，寺西宣央<sup>1)</sup>，山下精彦，田尻 孝(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科)：盲腸癌外腸骨動脈腫による下血にて出血性ショックとなった1例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 35) 大川敬一<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，土屋喜一<sup>1)</sup>，廣井 信<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科)：胆道出血によるショック症状を呈した胆嚢癌の1例．第39回日本腹部救急医学会総会，2003．4．
- 36) 秋丸琥甫，谷合信彦，平方敦史，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，横室茂樹，真々田裕宏，吉田 寛，田尻 孝，河原崎秀雄<sup>1)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>自治医科大学小児外科・移植外科，<sup>2)</sup>日本医科大学第二病院病理部)：劇症肝不全に対する生体肝移植後に肝機能障害が遷延し治療に難渋した1例．第21回日本肝移植研究会，2003．4．
- 37) 川野陽一，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，田尻 孝，河原崎秀雄<sup>1)</sup>，水田耕一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>自治医科大学小児外科・移植外科)：生体肝移植後に低蛋白血症を呈した肝静脈吻合部狭窄に対し経内頸静脈のballoon 拡張術が奏効した症例．第21回日本肝移植研究会，2003．4．
- 38) 宮下正夫，田尻 孝，二見良平，勝田美和子，柏原 元，牧野浩司，野村 務，丸山 弘，足立憲治<sup>1)</sup>，宮哲正<sup>2)</sup>，山下精彦(<sup>1)</sup>足立中央クリニック，<sup>2)</sup>保健科学研究所(株))：p53血清抗体検査による癌検診の報告．第89回日本消化器病学会総会，2003．4．
- 39) 加藤俊二，田尻 孝，松倉則夫，増田剛太郎，富樫晃祥，藤田逸郎，奥田武志，木山輝郎，吉行俊郎，徳永昭，内藤善哉<sup>1)</sup>，松久威史<sup>2)</sup>，山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2，<sup>2)</sup>多摩永山病院消化器科)：胃癌発生高危険粘膜の特徴と加齢における変化および男女差：胃粘膜の inflammation ( INF )，activity ( ACT )，atrophy ( ATR )，intestinal metaplasia ( IM ) と *Helicobacter pylori* ( *H. P.* ) 感染との関係．第89回日本消化器病学会総会，2003．4．
- 40) 谷合信彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼：急性肝不全に対する生体部分肝移植．第89回日本消化器病学会総会，2003．4．
- 41) 増田剛太郎，田尻 孝，徳永 昭，吉行俊郎，富樫晃祥，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，加藤俊二，松倉則夫：若年者胃癌の特徴：*Helicobacter Pylori*感染および癌家族歴からみた背景．第89回日本消化器病

学会総会, 2003 . 4 .

- 42) 松田 健<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup> 同外科): 2型直腸癌との鑑別を要した直腸粘膜脱症候群の1例. 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 43) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同消化器科, <sup>3)</sup> 老人病研究所分子病理): Microsatellite marker を用いた定量的 real time PCR 法における胃癌組織のDNAコピー数の検出と genetic instability に関する検討. 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 44) 永井尚生<sup>1)</sup>, 寺田淑恵, 駒崎敏昭<sup>1)</sup>, 藤元治朗<sup>2)</sup>, 平方敦史, 田尻 孝, 江見 充<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup> 兵庫医科大学外科学第1): 肝発癌の段階的遺伝子発現様式の検討. 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 45) 松谷 毅, 田尻 孝, 宮下正夫, 笹島耕二, 山下精彦, Chaudry IH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> University of Alabama at Birmingham Center for Surgical Research): Trauma-hemorrhage 後の脾リンパ球免疫応答の性差と heat shock protein の関連. 第18回 Shock学会総会, 2003 . 5 .
- 46) 真々田裕宏, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 水口義昭, 川野陽一, 清水哲也, 高橋 翼: 肝硬変併存難治性腹水に対する腹腔: 静脈シャント術の評価. 第39回日本肝臓学会総会, 2003 . 5 .
- 47) 谷合信彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼: 教室における肝細胞癌に対する手術治療成績. 第39回日本肝臓学会総会, 2003 . 5 .
- 48) 佐々木順平, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 会田邦晴, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 牧野浩司, 相本隆幸, 沼野藤雅, 川東 豊, 山下精彦: 上腸間膜動脈狭窄による腸管虚血と診断され, 保存的治療が奏効した1例. 第274回日本消化器病学会関東支部例会, 2003 . 5 .
- 49) 内田英二, 田尻 孝, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理学第2, <sup>2)</sup> 放射線医学): 自己免疫性膵炎の診断と治療. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 50) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理学第2, <sup>2)</sup> 放射線医学): 同時に下部胆管癌を合併した膵管内乳頭腺腫の1例. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 51) 勝野 暁, 田尻 孝, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 張 一光, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理学第2, <sup>2)</sup> 放射線医学): 膵腺扁平上皮癌6例の臨床病理学的検討. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 52) 張 一光, 田尻 孝, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理学第2, <sup>2)</sup> 放射線医学): 早期胃癌を合併した膵体尾部漿液性嚢胞腺腫の1例. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 53) 福原宗久<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 腎細胞癌の膵転移に対し膵全摘術を施行した1例. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 54) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 内田英二, 秋丸琥甫: 肝嚢胞に対するミノマイシン注入療法の長期成績の検討. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 55) 真々田裕宏, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 柿沼大輔, 会田邦晴: 肝腫瘍性病変との鑑別に難渋した focal fatty change の1例. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 56) 谷合信彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 古川清憲, 鈴木英之, 高崎秀明: 画像上動注化学療法にて奏効した転移性肝癌の1切除例. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 57) 谷合信彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼: 教室における肝細胞癌の手術成績の検討. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 58) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科): 肝細胞癌治療における, 腫瘍塞栓療法 (TAE) および凝固療法 (RFA) を基軸としたいわゆる combined thera-

- py の意義 . 第 15 回日本肝胆膵外科学会 , 2003 . 5 .
- 59) 中村慶春, 江上 格<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 高橋 健, 李 栄浩, 相本隆幸, 内田英二, 笠井源吾<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>波崎済生病院内科): 膵・胆管合流異常に合併した胆嚢adenomyomatosisの1例 . 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 60) 石川義典, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 柏原 元, 清水哲也, 高橋翼, 秋丸琥甫: 胆嚢扁平上皮癌の1例 . 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 61) 大川敬一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 胆道出血によるショック症状を呈した胆嚢癌の1例 . 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 62) 佐藤尚紀<sup>1)</sup>, 山下直行, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 中村 泉<sup>2)</sup>, 佐久間浩<sup>2)</sup>, 畠山優一<sup>2)</sup>, 小山善久<sup>2)</sup>, 井上典夫<sup>2)</sup>, 関川浩司<sup>2)</sup>, 竹之下誠一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>福島県立医科大学外科学第2): 胆嚢癌における脂肪酸合成酵素の発現とMIB-1, p53, ER発現の検討 . 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003 . 5 .
- 63) 松倉則夫, 加藤俊二, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 残胃 *H. pylori* 除菌治療による内視鏡および組織学的胃粘膜変化 . 第65回日本消化器内視鏡学会総会, 2003 . 5 .
- 64) 菅 隼人, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 水谷 崇, 鶴田宏之, 藤田逸郎, 川東 豊, 林謙太郎, 山下精彦: 有茎性ポリープ様の形態を呈した盲腸原発GISTの1例 . 第65回日本消化器内視鏡学会総会, 2003 . 5 .
- 65) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* 陽性アジア人における背景胃粘膜の比較観察 . 第65回日本消化器内視鏡学会総会, 2003 . 5 .
- 66) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 大磯義一郎<sup>1)</sup>, 関田祥久<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 篠沢 功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 女性における大腸腺腫の有無と血清総コレステロールとの関係に対する検討 . 第65回日本消化器内視鏡学会総会, 2003 . 5 .
- 67) 川野陽一, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 古川清憲, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼: 当科における生体肝移植術後感染症の検討 . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 68) 松倉則夫, 田尻 孝, 加藤俊二, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 残胃の *Helicobacter pylori* 除菌の意義: 非除菌残胃および除菌非切除胃との比較 . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 69) 内田英二, 田尻 孝, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 松下 晃: 臨床の現場で求められる急性膵炎治療指針とは . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 70) 宮下正夫, 田尻 孝, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 笹島耕二, 山下精彦: 長期予後からみた食道表在癌に対する縦隔鏡補助下 Transhiatal Esophagectomy . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 71) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 野崎元子, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永昭, 鈴木英之, 高崎秀明, 古川清憲: 5FU系抗癌剤投与前後の Thymidylate Synthetase ( TS ), Dihydropyrimidine Dehydrogenase ( DPD ) mRNA 発現の経時的変化と抗癌剤感受性試験としての応用 . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 72) 横室茂樹, 田尻 孝, 有馬保生, 水口義昭, 清水哲也, 秋丸琥甫: 閉塞性黄疸におけるサイトカイン IL 6, TGF 1 の役割 . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 73) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 秋丸琥甫, 内田英二: 肝細胞癌破裂例と非破裂例に対する手術成績の比較検討 . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 74) 水谷 崇, 徳永 昭, 吉行俊郎, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: 消化器病手術患者の血液検査による術前心機能スクリーニング . 第103回日本外科学会定期

学術集会, 2003 . 6 .

- 75) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 会田邦晴, 有馬保生, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>病理学第2): いかなる soft pancreas が膵頭十二指腸切除後の膵液瘻を合併するか? : soft pancreas 症例に  
おける膵液瘻合併・非合併例に臨床病理学検討から. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 76) 奥田武志, 田尻 孝, 徳永 昭, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則  
夫, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央検査室病理部): 消化管間葉系腫瘍(GIMT)の分類と治療方針. 第103回日本外科学  
会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 77) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 丸山 弘, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二, 山下精  
彦, Johnston J<sup>1)</sup>, Anbazhagan R<sup>1)</sup>, Gabrielson E<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Pathology, Johns Hopkins University): Mi-  
croarrayによる食道癌の発がんに関連する遺伝子の検索. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 78) 藤田逸郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 李 栄浩, 吉行俊郎, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 増田剛太郎, 加藤俊  
二, 松倉則夫: 幽門側胃切除後残胃および胃全摘後Roux-Y再建食道におけるビリリピン逆流に意義. 第103回  
日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 79) 松谷 毅, 田尻 孝, 宮下正夫, 笹島耕二, Chaudry IH<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Alabama at Birmingham): pro-  
lactin knockout mice を用いた Trauma Hemorrhage 後の脾リンパ球免疫応答. 第103回日本外科学会定期学術  
集会, 2003 . 6 .
- 80) 二見良平, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二, 山下精  
彦: 手術侵襲下における血清VEGF値変動の検討. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 81) 水口義昭, 田尻 孝, 有馬保生, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高橋  
翼, 秋丸琥甫: 細胞外マトリックスによる閉塞性黄疸患者における残肝機能評価. 第103回日本外科学会定期  
学術集会, 2003 . 6 .
- 82) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一: Stage III  
結腸癌における予後規定因子に関する検討. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 83) 柏原 元, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 勝田美和子, 笹島耕二, 山下精  
彦: 下部食道癌の術後再発形式の検討. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 84) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川  
敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永  
山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 胃癌術後真菌症の検討: ハイリスク症例を術前, 術中因子で予測できるか?. 第  
103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 85) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>,  
横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>4)</sup>, 沖浜裕司<sup>4)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,  
<sup>2)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>同消化器科): 定量的 real time マイクロサテライト分析  
法を用いた胃癌組織のDNAコピー数と臨床予後に関する検討. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 86) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠  
一, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 田尻 孝, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病  
理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 胃癌におけるMMP-9とIV型コラーゲンの発現. 第103回日本外科学会定期学術集会,  
2003 . 6 .
- 87) 高橋由至<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳  
史<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝  
(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 胃癌におけるルミカン発現の意義. 第103回日本外科学  
会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 88) 真々田裕宏, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 高橋 翼, 清水哲也: 肝細胞

- 癌治療切除例に対する TAE の位置付け．第 39 回日本肝癌研究会，2003．6．
- 89) 古川清憲，田尻 孝，源河敦史，奥平かおり，有馬保生，古川恵子，樋口勝美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京白十字病院外科): 教室における炎症性乳癌治療について．第 11 回日本乳癌学会総会，2003．6．
- 90) 古川恵子，伊藤良則<sup>1)</sup>，徳留なほみ<sup>1)</sup>，堀越 昇<sup>1)</sup>，水沼信之<sup>1)</sup>，高橋俊二<sup>1)</sup>，畠 清彦<sup>1)</sup>，霞富士雄<sup>2)</sup>，秋山 太<sup>3)</sup>，坂元吾偉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>癌研究会附属病院化学療法科，<sup>2)</sup>同乳腺外科，<sup>3)</sup>同研究所乳腺病理): Herceptin と Paclitaxel の併用療法における有用性の検討．第 11 回日本乳癌学会総会，2003．6．
- 91) 徳留なほみ<sup>1)</sup>，伊藤良則<sup>1)</sup>，古川恵子，入江哲也<sup>1)</sup>，水沼信之<sup>1)</sup>，高橋俊二<sup>1)</sup>，堀越 昇<sup>1)</sup>，畠 清彦<sup>1)</sup>，霞富士雄<sup>2)</sup>，秋山 太<sup>3)</sup>，坂元吾偉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>癌研究会附属病院化学療法科，<sup>2)</sup>同乳腺外科，<sup>3)</sup>癌研究会研究所乳腺病理部): 乳癌鎖骨上リンパ節転移症例に対する集学的治療の検討．第 11 回日本乳癌学会総会，2003．6．
- 92) 堀越 昇<sup>1)</sup>，伊藤良則<sup>1)</sup>，高橋俊二<sup>1)</sup>，水沼信之<sup>1)</sup>，永崎栄次郎<sup>1)</sup>，古川恵子，徳留なほみ<sup>1)</sup>，三嶋裕子<sup>1)</sup>，畠清彦<sup>1)</sup>，山下 孝<sup>2)</sup>，霞富士雄<sup>3)</sup>，坂元吾偉<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>癌研究会附属病院化学療法科，<sup>2)</sup>同放射線科，<sup>3)</sup>同乳腺外科，<sup>4)</sup>癌研究会研究所乳腺病理部): 乳癌の中樞神経系転移 207 例の検討．第 11 回日本乳癌学会総会，2003．6．
- 93) 的場康徳<sup>1)</sup>，飯田信也，松倉則夫，片山博徳<sup>2)</sup>，森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 大網の創傷治療促進作用の検討：bFGF mRNA 発現における Omental Implantation と Omental Patch の比較．第 103 回日本外科学会定期学術集会，2003．6．
- 94) 菅 隼人，田尻 孝，古川清憲，高崎秀明，鈴木英之，会田邦晴，源河敦史，水谷 崇，鶴田宏之，進士誠一，松田明久，山下精彦：直腸 Dieulafoy 潰瘍からの大量出血に対し内視鏡的結紮法 (EVL) が有用であった 1 例．第 76 回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2003．6．
- 95) 張 一光，田尻 孝，高崎秀明，有馬保生，鈴木英之，横室茂樹，藤田逸郎，古川清憲：内視鏡的に胆嚢十二指腸瘻孔が確認された胆石イレウスの 1 例．第 76 回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2003．6．
- 96) 山田岳史<sup>1)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>1)</sup>，京野昭二<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，瀧田雅仁<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，田尻 孝(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 胃過形成性ポリープより発生したと考えられる早期胃癌の 1 例．第 76 回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2003．6．
- 97) 重原健吾，田尻 孝，宮下正夫，高崎秀明，吉行俊郎，牧野浩司，松谷 毅，山下精彦：右巨大肺嚢胞と十二指腸潰瘍穿孔による汎発性腹膜炎を同時に手術し救命しえた 1 例．第 789 回外科集談会，2003．6．
- 98) 加藤俊二，田尻 孝，奥田武志，藤田逸郎，水谷 崇，木山輝郎，会田邦晴，吉行俊郎，松倉則夫，徳永 昭，山下精彦：癌性腹膜炎の緩和としての Percutaneous Trans-Esophageal Gastro-tubing (PTEG) の有用性．第 28 回日本外科系連合学会学術集会，2003．6．
- 99) 谷合信彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏：治療不能な肝細胞癌に対して術中補助療法は有効か？．第 28 回日本外科系連合学会学術集会，2003．6．
- 100) 宮下正夫，田尻 孝，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，石川紀行<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>2)</sup>，田中宣威<sup>1)</sup>，山下精彦(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科，<sup>2)</sup>多摩永山病院外科): 食道表在癌のリンパ節転移範囲からみた標準術式の検討．第 57 回日本食道学会学術集会，2003．6．
- 101) 牧野浩司，田尻 孝，宮下正夫，山下精彦，笹島耕二<sup>1)</sup>，野村 務，丸山 弘，松谷 毅，二見良平，柏原元，勝田美和子，ジョンストンジェームス<sup>2)</sup>，アンバツァガンラマスワミー<sup>2)</sup>，ガブリエルソンエドワード<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>ジョーンズホプキンス大学): Microarray による食道癌のリンパ節転移に関連する遺伝子の検索．第 57 回日本食道学会学術集会，2003．6．
- 102) 丸山 弘，田尻 孝，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，松谷 毅，二見良平，勝田美和子，柏原 元，笹島耕二<sup>1)</sup>，山下精彦(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 教室における内視鏡的食道ステントの成績．第 57 回日本食道学会学術集会，2003．6．
- 103) 柏原 元，田尻 孝，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，徳永 昭，笹島耕二<sup>1)</sup>，山下精彦(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 部位別術後再発形式からみた食道胃接合部癌の治療方針．第 57 回日本食道学会学術集会，

2003 . 6 .

- 104) 勝田美和子, 田尻 孝, 宮下正夫, 二見良平, 柏原 元, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 保存的治療にて治癒しえた特発性食道破裂の4例. 第57回日本食道学会学術集会, 2003 . 6 .
- 105) 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 林 良紀<sup>1)</sup>, 杉浦敏昭<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村務, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>内科学第3): 新しい食道内圧システム (21 channel topography) による dysphagia 症例の検討. 第57回日本食道学会学術集会, 2003 . 6 .
- 106) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 鈴木健司<sup>1)</sup>, 進士陽子<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 林 良紀<sup>1)</sup>, 飯泉 匡<sup>1)</sup>, 篠木啓<sup>1)</sup>, 篠沢 功<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 張 一光, 水谷 崇, 徳永 昭, 奥田武志, 田尻 孝<sup>(1)</sup>内科学第3): 消化性潰瘍による幽門輪狭窄と嚢状胃を合併し高度の胃拡張をきたしたパーキンソン病の1例. 第275回日本消化器病学会関東支部例会, 2003 . 7 .
- 107) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 野崎元子, 松田範子, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山下精彦: 5FU系抗癌剤の感受性試験: 投与前後の Thymidylate Synthase (TS), Dihydropyrimidine Dehydrogenase (DPD) mRNA 発現の経時的変化と抗腫瘍効果との関連. 第12回日本癌病態治療研究会, 2003 . 7 .
- 108) 野崎元子, 田尻 孝, 徳永 昭, 松倉則夫, 加藤俊二: 5' DFUR術前投与による大腸癌 TSmRNA レベルの変化: 予後との関係. 第12回日本癌病態治療研究会, 2003 . 7 .
- 109) 鈴木英之, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 会田邦晴, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 松田明久, 佐々木順平: 単発大腸癌の臨床病理学的検討と治療方針. 第59回大腸癌研究会, 2003 . 7 .
- 110) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 源河敦史, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 山下精彦, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>放射線医学): 術前放射化学療法のものち根治手術を施行しえた進行肛門扁平上皮癌の1例. 第59回大腸癌研究会, 2003 . 7 .
- 111) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永昭: 胃切除術後自由摂食パスにおける目標摂取栄養量とその効果. 第40回日本外科代謝栄養学会, 2003 . 7 .
- 112) 内田英二, 田尻 孝, 相本隆幸, 中村慶春, 有馬保生, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 膵腺扁平上皮癌症例の臨床病理学的検討. 第34回日本膵臓学会大会, 2003 . 7 .
- 113) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二, 中村慶春, 有馬保生, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 自己免疫性膵炎3例の臨床病理学的検討. 第34回日本膵臓学会大会, 2003 . 7 .
- 114) 徳永 昭, 田尻 孝, 増田剛太郎, 松田明久, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫: 糖尿病合併早期胃癌手術における術前胃運動機能チェックと術後胃排出障害. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003 . 7 .
- 115) 有馬保生, 田尻 孝, 内田英二, 相本隆幸, 横室茂樹, 吉田 寛, 野村 務, 真々田裕宏, 谷合信彦, 山下精彦: 腹腔鏡下胆嚢摘出術後 (LC) の重篤合併症の予防対策と対処法: 胆管狭窄例の検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003 . 7 .
- 116) 宮下正夫, 田尻 孝, 松谷 毅, 野村 務, 牧野浩司, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 外科的侵襲下のサイトカイン, 下垂体副腎ホルモンによる生体反応の個体差. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003 . 7 .
- 117) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永昭: 胃切除後の再建法の評価: 残胃粘膜における IL-8, COX2 および TFF1 (PS2) の mRNA 発現からみて. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003 . 7 .
- 118) 鈴木英之, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 会田邦晴, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松田明久, 進士誠一, 山下精彦: 大腸癌手術における周術期免疫能に及ぼす術前BRM投与の効果. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003 . 7 .

- 119) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 内田英二, 秋丸琥甫: 血管内腫瘍栓合併高度進行肝細胞癌に対する肝左3区域切除, 門脈下大静脈右房腫瘍栓摘出術. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 120) 野村 務, 田尻 孝, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 山下精彦, 笹島耕二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 術前診断T1bN0食道癌に対する縦隔鏡補助下食道切除術の意義. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 121) 真々田裕宏, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 高橋 翼, 清水哲也: 難治性腹水に対する腹腔: 静脈シャント術の有用性と問題点. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 122) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二, 中村慶春, 有馬保生, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 慢性膵炎における外科的治療の検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 123) 菅 隼人, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 鶴田宏之, 進士誠一, 松田明久, 山下精彦: 大腸癌に対する外来における5-FU/IV/CPT-11療法の経験. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 124) 藤田逸郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 増田剛太郎, 李 栄浩, 木山輝郎, 吉行俊郎, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦: 幽門側胃切除, 胃全摘(Roux-Y法)後の食道内ビリルビン逆流および24hr pH モニタリング. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 125) 松谷 毅, 田尻 孝, 宮下正夫, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 野村 務, 牧野浩司(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): マウス Trauma-hemorrhage 後の炎症性サイトカインとCYFRA21-1の変動. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 126) 二見良平, 田尻 孝, 宮下正夫, 松谷 毅, 野村 務, 牧野浩司, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 術後合併症と血清VEGFの変化. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 127) 沼野藤雅, 田尻 孝, 古川清憲: ETI法に基づく緑膿菌に対する抗菌薬療法. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 128) 増田剛太郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 加藤俊二, 吉行俊郎, 富樫晃祥, 藤田逸郎, 木山輝郎, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌発生危険因子の研究: 若年者胃癌におけるHP感染, 癌家族歴, CYP2E1遺伝子多型の意義. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 129) 柏原 元, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 血中CEA異常高値を呈した進行食道扁平上皮癌の1例. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 130) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 会田邦晴, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 山下精彦: Th1/Th2バランスからみた腹腔鏡下大腸切除術の低侵襲性と免疫応答. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 131) 高橋 健, 田尻 孝, 中村慶春, 李 栄浩, 柏原 元, 内田英二, 笠井源吾<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>波崎済生病院内科): 脊髄損傷に胃癌を合併した1例. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 132) 笹島耕二<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 宮下正夫, 松谷 毅, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): インターロイキン6による生体反応の評価と制御. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 133) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 胃癌手術後の真菌・MRSA混合感染症例の検討: ハイリスク症例を周術期因子で予測できるか. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 134) 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 沖濱裕司<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): 大腸癌イレウスに対する治療: 術前経肛門的イレウス管減圧術の有用性の検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 135) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 沖濱裕司<sup>2)</sup>, 細根勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): 消化管及び消化管外原発GIST症例の診



- 断治療に関する検討．第58回日本消化器外科学会総会，2003．7．
- 136) 山下直行<sup>1)</sup>，吉田初雄<sup>1)</sup>，湖山信篤<sup>1)</sup>，佐藤尚紀<sup>1)</sup>，小嶋隆行<sup>1)</sup>，櫻澤信行<sup>1)</sup>，安藤真弘<sup>2)</sup>，齋藤行世<sup>2)</sup>，竹之下誠<sup>3)</sup>，田尻 孝<sup>(1) 坪井病院外科，(2) 同内科，(3) 福島県立医科大学外科学第2)</sup>：進行，再発胃癌における TS 1 + CDDP 療法および付加手術の意義．第58回日本消化器外科学会総会，2003．7．
- 137) 湖山信篤<sup>1)</sup>，山下直行<sup>1)</sup>，小嶋隆行<sup>1)</sup>，佐藤尚紀<sup>2)</sup>，竹之下誠<sup>1)</sup>，櫻澤信行，田尻 孝<sup>(1) 坪井病院外科，(2) 福島県立医科大学外科学第2)</sup>：左側大腸癌イレウス症例における経肛門的イレウス管の功罪とその対策．第58回日本消化器外科学会総会，2003．7．
- 138) 坂東功一<sup>1)</sup>，古谷政一<sup>1)</sup>，清水康仁<sup>1)</sup>，長澤重直<sup>1)</sup>，櫻澤信行<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>(1) 下館市民病院外科，(2) 日本医科大学付属病院病理部)</sup>：大腸イレウスを契機に診断された巨大上行結腸脂肪腫腸重積症の1例．第203回日本臨床外科学会茨城県支部，2003．7．
- 139) 山下直行<sup>1)</sup>，湖山信篤<sup>1)</sup>，小嶋隆行<sup>1)</sup>，佐藤尚紀<sup>2)</sup>，保坂 淳<sup>1)</sup>，日吉晴久<sup>1)</sup>，岩波 洋<sup>1)</sup>，竹之下誠<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1) 坪井病院外科，(2) 福島県立医科大学外科学第2)</sup>：術前TS-1+CDDP療法が奏功し2群，3群，のみにリンパ節転移を認めた胃癌の1例．第145回東北外科集談会，2003．7．
- 140) 湖山信篤<sup>1)</sup>，山下直行<sup>1)</sup>，小嶋隆行<sup>1)</sup>，佐藤尚紀<sup>2)</sup>，竹之下誠<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>(1) 坪井病院外科，(2) 福島県立医科大学外科学第2)</sup>：上部に局限する胃癌(U)の特徴とその対応．第145回東北外科集談会，2003．7．
- 141) 加藤俊二，田尻 孝，松倉則夫，富樫晃祥，増田剛太郎，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，宮下正夫，徳永 昭，山下精彦，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2)：胃切除後の再建法による残胃粘膜組織内IL-8, COX2 mRNA 発現の違いと胆汁逆流および残胃のヘリコバクター感染，逆流性食道炎との関連．潰瘍病態研究会第12回フォーラム，2003．8．
- 142) 的場康徳<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，森山雄吉<sup>1)</sup>，飯田信也，松倉則夫，田尻 孝，片山博徳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部)：穿孔性胃潰瘍における松林式大網充填術Omental Implantation と大網被覆術Omental Patch の実験的検討．潰瘍病態研究会第12回フォーラム，2003．8．
- 143) 加藤俊二，田尻 孝，松倉則夫，松田範子，増田剛太郎，富樫晃祥，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，宮下正夫，徳永 昭，山下精彦，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2)： *Helicobacter pylori* 感染や胃癌の有無と胃粘膜組織内COX2 mRNA 発現との関連および除菌によるその効果．第14回日本消化器癌発生学会総会，2003．9．
- 144) 勝田美和子，田尻 孝，宮下正夫，牧野浩司，野村 務，松谷 毅，二見良平，柏原 元，進士誠一，笹島耕二，山下精彦，石渡俊行<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup>，田村浩一<sup>2)</sup>，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2，<sup>2)</sup>付属病院病理部)：下部食道扁平上皮癌における p53 および VEGF の発現に関する免疫組織化学的検討．第14回日本消化器癌発生学会総会，2003．9．
- 145) 松田範子，田尻 孝，加藤俊二，谷合信彦，真々田裕宏，吉田 寛，内田英二，松倉則夫，秋丸琥甫，山下精彦，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2)：肝組織における IL8, COX2, HGF 発現と肝疾患：正常肝，硬変肝，肝細胞癌および周辺肝の繊維化と肝癌予後との関連．第14回日本消化器癌発生学会総会，2003．9．
- 146) 増田剛太郎<sup>1)</sup>，田尻 孝，徳永 昭<sup>2)</sup>，加藤俊二，富樫晃祥<sup>1)</sup>，藤田逸郎，谷合信彦，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，内田英二，松倉則夫，江上 格<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>(1) 多摩永山病院消化器科，(2) 第二病院消化器病センター)</sup>：若年者における胃癌発生危険因子の研究：HP感染，癌家族歴，CYP2E1遺伝子多型の関連．第14回日本消化器癌発生学会総会，2003．9．
- 147) 勝野 暁，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋翼，佐々木順平：保存的治療にて治癒した大腸憩室炎による肝膿瘍の1例．第276回日本消化器病学会関東支部例会，2003．9．
- 148) 横室茂樹，有馬保生，秋丸琥甫，内田英二，木山輝郎，谷合信彦，水口義昭，清水哲也，田尻 孝：悪性胆道狭窄に対する Expandable Metallic Stent の留置方法と問題点．第39回日本胆道学会学術集会，2003．9．

- 149) 水口義昭, 田尻 孝, 有馬保生, 加藤俊二, 横室茂樹, 清水哲也, 秋丸琥甫: 胆管細胞癌組織中 HGF mRNA 発現レベルの検討. 第39回日本胆道学会学術集会, 2003. 9.
- 150) 清水哲也, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 横室茂樹, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 高橋 翼, 進士誠一, 山下精彦, 内田英二, 木山輝郎, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 骨髄異形形成性症候群の経過中, 異型未熟骨髄系細胞浸潤に伴う急性胆嚢炎症状を呈した1例. 第39回日本胆道学会学術集会, 2003. 9.
- 151) 内田英二, 田尻 孝, 福原宗久, 松下 晃, 柳 健, 廣井 信, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 江上 格, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 実験腫瘍肝転移モデルにおける VEGF 発現. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 152) 宮下正夫, 田尻 孝, 二見良平, 勝田美和子, 柏原 元, 牧野浩司, 西 恵吾, 山下精彦: p53血清抗体検査によるがん検診. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 153) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 松田範子, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 谷合信彦, 木山輝郎, 吉行俊郎, 内田英二, 徳永 昭, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 残胃粘膜における IL-8, COX2, TFF1 (PS2) の mRNA 発現と Sydney System による胃粘膜スコアからみた胃切除後の再建法の評価. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 154) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 二見良平, 勝田美和子, 柏原 元, 笹島耕二, 山下精彦, ジョーンズ ジェームス<sup>1)</sup>, アンバザガン ラマスアミー<sup>1)</sup>, ガブリエルソン エドワード<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ジョーンズ・ホプキンス大学病理部): p53 遺伝子の発現増加と食道発癌との関係の検討. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 155) 勝田美和子, 田尻 孝, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 笹島耕二, 二見良平, 柏原 元, 進士誠一, 山下精彦, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 腹部食道癌における組織型による p53 および VEGF の発現の相違に関する検討. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 156) 進士誠一, 田尻 孝, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 瀬谷知子, 菅 隼人, 松田明久, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部): Laser Capture Microdissection を用いた RT-PCR 法による大腸癌切除パラフィン包埋標本における核酸代謝酵素の mRNA 発現量の検討. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 157) 二見良平, 田尻 孝, 宮下正夫, 笹島耕二, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 勝田美和子, 柏原 元, 山下精彦: 食道扁平上皮癌における血清 VEGF 値の臨床的意義. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 158) 増田剛太郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 加藤俊二, 吉行俊郎, 富樫晃祥, 藤田逸郎, 木山輝郎, 松倉則夫, 山下精彦: 若年胃癌患者の背景: HP感染, 癌家族歴, CYP2E1 遺伝子多型. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 159) 松田範子, 田尻 孝, 加藤俊二, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 木山輝郎, 内田英二, 松倉則夫, 秋丸琥甫, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 肝細胞癌および周辺肝組織中の COX2, HGF 発現の強弱と, 肝癌周囲肝細胞の線維化と予後との関係. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 160) 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至, 進士誠一, 田尻 孝, 山下精彦, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 大腸癌肝転移症例における MMP - 9 と Lumican の発現. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 161) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一, 寺西宣央, 田尻 孝, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>病理学第2): 早期大腸癌における Lumican の発現. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 162) 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科): 胃癌, 癌性胸水貯留例における Paclitaxel (TXL) の使用経験-胸水中濃度の検討. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 163) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, Mohammad G<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>,

- 松久威史<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>老人病研究所病理部門,<sup>3)</sup>多摩永山病院消化器科): 定量的 real time マイクロサテライト分析法 (QuMA) による胃癌組織の DNA コピー数異常の検出と予後因子に関する検討. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 164) 峯田 章<sup>1)</sup>, 島貫公義<sup>1)</sup>, 金子昌裕<sup>1)</sup>, 前澤勝美<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>会津中央病院外科): 左肋間動脈瘤形成により血胸を発症した慢性膵炎の1例. 第146回東北外科集談会, 2003. 9.
- 165) 金子昌裕<sup>1)</sup>, 島貫公義<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 前澤勝美<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 野崎大司<sup>2)</sup>, 鈴木万理<sup>3)</sup>, 秋丸琥甫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>会津中央病院外科,<sup>2)</sup>同泌尿器科,<sup>3)</sup>東京女子医大泌尿器科): 水腎症を初発症状として発症した虫垂癌の1例. 第146回東北外科集談会, 2003. 9.
- 166) 金子昌裕<sup>1)</sup>, 島貫公義<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 前澤勝美<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>会津中央病院外科): 下大静脈GISTの1例. 第146回東北外科集談会, 2003. 9.
- 167) 谷合信彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋翼, 河原崎秀雄<sup>1)</sup>, 幕内雅敏<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>自治医大小児外科・移植外科,<sup>2)</sup>東京大学人工臓器・移植外科): 急性肝不全症例に対する肝移植を考慮した集中治療. 第7回日本肝臓学会大会, 2003. 10.
- 168) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山下精彦: 内視鏡的胃粘膜切除術におけるクリニカルパスと包括医療からみた標準治療との関係. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 2003. 10.
- 169) 水谷 崇, 田尻 孝, 神田知洋, 新井政男, 松田明久, 進士誠一, 菅 隼人, 鶴田宏之, 鈴木英之, 高崎秀明, 古川清憲: 大腸原発ラブドイド腫瘍の1例. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 2003. 10.
- 170) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二, 中村慶春, 水口義昭, 清水哲也, 勝野 暁, 張 一光, 横室茂樹, 有馬保生, 秋丸琥甫, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 膵・胆道癌に対するERCP下ブラシ細胞診の有用性. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 2003. 10.
- 171) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 内視鏡的食道ステントの治療成績と問題点. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 2003. 10.
- 172) 勝田美和子, 田尻 孝, 宮下正夫, 松本光司<sup>1)</sup>, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 柏原元, 山下精彦<sup>(1)</sup>第二病院病理部): 食道・胃切除標本を用いたアルゴンプラズマ凝固法の組織学的検討. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 2003. 10.
- 173) 湖山信篤<sup>1)</sup>, 山下直行, 小嶋隆行<sup>(1)</sup>坪井病院外科): 内視鏡による噴門側胃切除術の評価: 神経温存群と非温存群の比較. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 2003. 10.
- 174) 徳永 昭, 田尻 孝, 増田剛太郎, 松田明久, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 山下精彦, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3,<sup>2)</sup>第二病院消化器病センター): 糖尿病患者の早期胃癌手術における術前胃運動機能チェック. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 175) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 沼野藤雅, 徳永 昭, 山下精彦, 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科,<sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* (H. P.) 感染による胃粘膜変化: 粘膜組織におけるIL-8, COX およびTrefol Factor Family 1 (TFF1: PS2) の遺伝子発現の部位による違いや性差と胃癌発生高危険粘膜の特徴. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 176) 菅 隼人, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 鶴田宏之, 進士誠一, 松田明久, 佐々木順平, 山下精彦: イレウスを来した小腸腸管膜原発の巨大なGISTの1症例. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 177) 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>(1)</sup>千葉北総病院外科,<sup>2)</sup>同病理部): GIST22例の臨床病理学的検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 178) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 廣井

- 信<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部 ): 消化管外原発GIST ( EGIST ) 症例の臨床病理学的検討 . 第45回日本消化器病学会大会, 2003 . 10 .
- 179) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 徳永 昭, 山下精彦, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): 胃粘膜生検組織におけるIL-8, COX2遺伝子発現の特徴と胃癌発生予測のためのバイオマーカーとしての役割 . 第41回日本癌治療学会総会, 2003 . 10 .
- 180) 山田岳史<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): 胃癌症例におけるPaclitaxel の胸水内濃度の測定 . 第41回日本癌治療学会総会, 2003 . 10 .
- 181) 谷合信彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼 : 劇症肝不全に対する生体肝移植後血球貪食症候群を合併した1症例 . 第39回日本移植学会総会, 2003 . 10 .
- 182) 高橋 翼, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 水田耕一<sup>1)</sup>, 宇野武治<sup>1)</sup>, 河原崎秀雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>自治医科大学小児外科・移植外科 ): 胆道閉鎖症におけるPrimary liver transplantationの検討 . 第39回日本移植学会総会, 2003 . 10 .
- 183) 山本一仁<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 古谷政一<sup>1)</sup>, 清水康仁<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>下館市民病院外科 ): 傍十二指腸ヘルニアの1例 . 第204回日本臨床外科学会茨城県支部, 2003 . 10 .
- 184) 江上 聡, 河原崎秀雄<sup>1)</sup>, 水田耕一<sup>1)</sup>, 菱川修司<sup>1)</sup>, 宇野武治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>自治医科大学小児外科・移植外科 ): 一卵性双生児に認められた回腸閉鎖症と胎便栓症候群 . 第38回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 2003 . 10 .
- 185) 松田範子, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 木山輝郎, 高崎秀明, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 吉村成子<sup>2)</sup>, 恩田昌彦, 田久保海誉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>吉村せいこクリニック, <sup>3)</sup>東京都老人総合研究所 ): 障害肝切除後早期の残肝再生への高圧酸素療法の影響 . 第38回日本高気圧環境医学会総会, 2003 . 11 .
- 186) 菅 隼人, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 鶴田宏之, 進士誠一, 松田明久, 山下精彦 : 大腸型Crohn 病難治例に対し infliximab 点滴とステロイド注腸投与の併用が著効を示した1経験 . 第58回日本大腸肛門病学会総会, 2003 . 11 .
- 187) 進士誠一, 田尻 孝, 田中宣威<sup>1)</sup>, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 松田明久, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2 ): 下行結腸癌卵管転移の1例 . 第58回日本大腸肛門病学会総会, 2003 . 11 .
- 188) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一, 佐々木順平, 山下精彦 : StageIV 大腸癌における臨床病理学のおよび長期生存例の検討 . 第58回日本大腸肛門病学会総会, 2003 . 11 .
- 189) 古川清憲, 田尻 孝, 鈴木英之, 松田明久, 山下精彦 : 短時間の手術時手洗い . 第25回日本手術医学会総会, 2003 . 11 .
- 190) 徳永 昭, 田尻 孝, 増田剛太郎, 松田明久, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 内田英二, 松倉則夫, 山下精彦, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 谷合信彦 ( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター ): 臓器障害を有する患者の胃癌手術 ( 5 ): 糖尿病 . 第65回日本臨床外科学会総会, 2003 . 11 .
- 191) 内田英二, 田尻 孝, 中村慶春, 相本隆幸, 谷合信彦, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 木山輝郎, 吉田 寛, 柳 健, 程 紹強 : 急性膵炎の早期診断治療指針 . 第65回日本臨床外科学会総会, 2003 . 11 .
- 192) 宮下正夫, 田尻 孝, 二見良平, 勝田美和子, 柏原 元, 野村 務, 牧野浩司, 山下精彦 : P53血清抗体検査を用いた早期発見のための癌検診システム . 第65回日本臨床外科学会総会, 2003 . 11 .
- 193) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 奥田武志, 谷合信彦, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 内田英二, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): 残胃粘膜組織内IL-8, COX2, HGF, TFF1 ( PS2 ) mRNA 発現と残胃の発癌および胃切除後の再建法による違い . 第65回日本臨床外科学会総会, 2003 . 11 .
- 194) 吉行俊郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則

- 夫：臓器障害を有する患者の胃癌手術（1）心疾患の合併．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 195) 木山輝郎，田尻 孝，徳永 昭，吉行俊郎，水谷 崇，奥田武志，藤田逸郎，増田剛太郎，加藤俊二，松倉則夫，谷合信彦，内田英二：臓器障害を有する患者の胃癌手術（5）：膠原病および関連疾患．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 196) 木山輝郎，田尻 孝，徳永 昭，吉行俊郎，水谷 崇，奥田武志，増田剛太郎，加藤俊二，松倉則夫，谷合信彦，内田英二：合併症のある胃切除患者の費用分析．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 197) 水谷 崇，田尻 孝，徳永 昭，増田剛太郎，藤田逸郎，奥田武志，谷合信彦，木山輝郎，吉行俊郎，加藤俊二，宮下正夫，内田英二，松倉則夫，山下精彦：臓器障害を有する患者の胃癌手術：COPDおよび間質性肺炎．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 198) 相本隆幸，田尻 孝，内田英二，中村慶春，勝野 暁，張 一光，谷合信彦，木山輝郎，吉田 寛，真々田裕宏，有馬保生，秋丸琥甫，内藤善哉<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>病理学第2）：膵頭部領域癌の局所再発により拳上空腸脚に限局性狭窄をきたした2手術例．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 199) 奥田武志，田尻 孝，徳永 昭，増田剛太郎，藤田逸郎，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，加藤俊二，松倉則夫，谷合信彦，真々田裕宏，吉田 寛，山下精彦：臓器障害を有する患者の胃癌手術（4）：肝硬変．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 200) 谷合信彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，川野陽一，水口義昭，高橋 翼，清水哲也，内田英二，木山輝郎：肝細胞癌切除後再発例に対する再切除術の治療成績．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 201) 牧野浩司，田尻 孝，宮下正夫，野村 務，丸山 弘，松谷 毅，二見良平，柏原 元，勝田美和子，山下精彦，笹島耕二<sup>1)</sup>，内田英二，木山輝郎，谷合信彦（<sup>1</sup>多摩永山病院外科）：食道癌骨転移に関わる因子の臨床病理学的検討．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 202) 菅 隼人，田尻 孝，古川清憲，内田英二，高崎秀明，鈴木英之，木山輝郎，谷合信彦，鶴田宏之，進士誠一，松田明久，山下精彦：当科における若年性大腸癌手術症例の検討．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 203) 鶴田宏之，田尻 孝，古川清憲，内田英二，高崎秀明，鈴木英之，木山輝郎，谷合信彦，菅 隼人，松田明久，進士誠一，内藤善哉<sup>1)</sup>，山下精彦（<sup>1</sup>病理学第2）：脾サルコイドーシスの合併と考えられた横行結腸癌の1例．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 204) 藤田逸郎，田尻 孝，徳永 昭，川本聖郎，増田剛太郎，奥田武志，谷合信彦，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，加藤俊二，内田英二，松倉則夫，山下精彦，落 雅美<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>外科学第2）：臓器障害を有する患者の胃癌手術（2）：胃大網動脈によるCABG後．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 205) 中村慶春，田尻 孝，内田英二，張 一光，勝野 暁，相本隆幸，有馬保生，古谷政一<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>下館市民病院外科）：膵管非癒合に合併した十二指腸副乳頭腺腫の1切除例．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 206) 松谷 毅，田尻 孝，古川清憲，高崎秀明，鈴木英之，菅 隼人，松田明久，宮下正夫，秋丸琥甫，内田英二，吉田 寛，木山輝郎，谷合信彦，真々田裕宏，山下精彦：肝硬変合併原発性肝細胞癌と直腸癌の同時性重複癌の1例．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 207) 櫻澤行行，吉田初雄<sup>1)</sup>，湖山信篤<sup>1)</sup>，山下直行<sup>1)</sup>，岩波 洋<sup>1)</sup>，日吉晴久<sup>1)</sup>，田尻 孝（<sup>1</sup>坪井病院外科）：食道癌と胃癌の重複癌に対する放射線科学療法と手術の組み合わせ治療の2症例．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 208) 二見良平，田尻 孝，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，松谷 毅，勝田美和子，柏原 元，木山輝郎，谷合信彦，内田英二，笹島耕二<sup>1)</sup>，山下精彦（<sup>1</sup>多摩永山病院外科）：術後肺障害と血清 VEGF．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 209) 古川恵子，古川清憲，岩崎玲子，野口智子，田尻 孝：乳癌の頸髄転移の1例．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- 210) 増田剛太郎，田尻 孝，徳永 昭，加藤俊二，吉行俊郎，富樫晃祥，藤田逸郎，奥田武志，谷合信彦，水谷

- 崇, 木山輝郎, 内田英二, 松倉則夫, 山下精彦: 治療成績からみた若年者胃癌の臨床病理学的特徴とリスクファクターの検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 211) 柏原 元, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 勝田美和子, 木山輝郎, 谷合信彦, 内田英二, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 手術侵襲に対する生体反応と副腎機能の術前評価. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 212) 勝田美和子, 田尻 孝, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 谷合信彦, 木山輝郎, 内田英二, 進士誠一, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>病理部): 下部食道癌におけるp53およびVEGFの発現に関する免疫組織化学的検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 213) 高橋 翼, 田尻 孝, 有馬保生, 横室茂樹, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 内田英二, 木山輝郎: 小児例における腹腔鏡下脾臓摘出術前の脾動脈塞栓術の検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 214) 清水哲也, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 高橋 翼, 進士誠一, 山下精彦, 内田英二, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 胆嚢の腺内分泌細胞癌の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 215) 高橋 健, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 腹腔鏡補助下生検にて診断し得た Malignant mesenchymal tumor の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 216) 山初和也, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋翼, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 木山輝郎, 内田英二: 大腸癌肝転移症例に対する動注リザーバーによる化学療法治療効果の検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 217) 岩崎玲子, 田尻 孝, 古川清憲, 源河敦史, 奥平かおり, 古川恵子, 樋口勝美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京白十字病院外科): Adenoma of the nipple (乳頭部腺種) の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 218) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 胃癌手術後真菌症の検討: ハイリスク症例を周術期因子より予測できるか. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 219) 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 局所進行乳癌に対する Epirubicin/Docetaxel 同時併用 biweekly 術前化学療法の検討 (続報). 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 220) 宮本昌之<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 当科における転移性肝癌に対する Radio Frequency Ablation (RFA) 治療成績の検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 221) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 胆管細胞癌との鑑別を要したものの治癒切除が成し得た肝門部胆管浸潤型肝細胞癌の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 222) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): 胃原発 B cell lymphoma 手術症例の臨床病理学的検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.

- 223) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): リンパ節郭清で再発転移は防げるか?: 胃癌での検証. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 224) 廣井 信<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 腹腔鏡にて診断した大網裂孔ヘルニアの1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 225) 堀場光二<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 山下精彦, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 早期胃癌および食道癌の異時性重複癌に対し鏡視下手術にて治癒切除し得た高齢者の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 226) 李 栄浩<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>波崎済生病院外科): 右上腰ヘルニアの1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 227) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 佐藤尚紀<sup>2)</sup>, 櫻澤信行, 中山浩一<sup>1)</sup>, 渡邊睦弥<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>福島県立医科大学外科学第2): 術前TS-1+CDDP療法が奏効したが, 2群, 3群のみにリンパ節転移の遺残を認めた胃癌の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 228) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 鈴木英之, 松谷 毅, 丸山 弘, 秋谷行宏: マウス腹膜炎モデルにおけるToll-like receptor 発現およびサイトカイン産生能に関する検討. 第9回日本エンドトキシン研究会, 2003. 11.
- 229) 吉行俊郎, 田尻 孝, 水谷 崇, 柏原 元, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦, 徳永 昭<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 部位別再発形式からみた噴門部癌の手術到達法の検討. 第33回胃外科・術後障害研究会, 2003. 11.
- 230) 野口智子, 田尻 孝, 宮下正夫, 木山輝郎, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 勝田美和子, 柏原 元, 高橋 健, 山下精彦: 食道癌が疑われた食道熱傷の1例. 第77回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003. 11.
- 231) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 山田宣孝<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>病理学第2): ベトナムの二地域における上部消化管疾患, *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の比較観察. 第77回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003. 11.
- 232) 江上 聡, 河原崎秀雄<sup>1)</sup>, 水田耕一<sup>1)</sup>, 菱川修司<sup>1)</sup>, 宇野武治<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>自治医科大学小児外科・移植外科): 小児鼠径ヘルニアにおける術後疼痛対策: 局所麻酔併用法の検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 233) 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): イレウスを来した大腸癌症例の検討: 術前減圧法の有用性について. 第16回多摩大腸疾患懇話会, 2003. 11.
- 234) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 野村 務, 谷合信彦, 内田英二, 徳永 昭: 長期ステロイド投与患者に対する腹腔鏡補助下胃切除術の1例. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.
- 235) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 野村 務, 谷合信彦, 内田英二, 徳永 昭: 診療報酬明細からみた腹腔鏡補助下胃切除とクリニカルパス. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.
- 236) 横室茂樹, 田尻 孝, 有馬保生, 内田英二, 木山輝郎, 野村 務, 谷合信彦, 中村慶春, 山下精彦: 小児遺伝性球状赤血球症に対する脾動脈塞栓術併用腹腔鏡下脾臓摘出術. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.
- 237) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 有馬保生, 内田英二, 吉行俊郎, 鈴木英之, 横室茂樹, 木山輝郎, 野村 務, 水谷 崇, 丸山 弘, 中村慶春, 山下精彦, 笹島耕二<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 当施設での縦隔鏡補助下食道切除術の手術手技および問題点. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.
- 238) 中村慶春, 田尻 孝, 野村 務, 菅 隼人, 鶴田宏之, 真々田裕宏, 水谷 崇, 木山輝郎, 横室茂樹, 相本隆幸, 内田英二, 有馬保生, 江上 格<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 術中胆道造影検査にて膵・胆管合流異常の合併

- を診断しえた胆嚢adenomyomatosisの2例．第16回日本内視鏡外科学会総会，2003．12．
- 239) 柏原 元，田尻 孝，宮下正夫，有馬保生，鈴木英之，木山輝郎，横室茂樹，野村 務，牧野浩司，鶴田宏之，中村慶春，山下精彦，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 腸瘻が誘引となった腸閉塞症の1例．第16回日本内視鏡外科学会総会，2003．12．
- 240) 宮本昌之<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，丸山弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，土屋喜一<sup>1)</sup>，廣井 信<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，二見良平<sup>1)</sup>，田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 腹腔鏡下総胆管切石術(Lap CBDE)における手技上の進歩とその意義．第16回日本内視鏡外科学会総会，2003．12．
- 241) 谷 杏彌，田尻 孝，古川清憲，高崎秀明，木山輝郎，野村 務，鶴田宏之，勝田美和子，川本聖郎，山下精彦: 2回再発した左閉鎖孔ヘルニアの1例．第791回外科集談会，2003．12．
- 242) 黄 哲守，水谷 崇，田尻 孝，高崎秀明，野口智子，重原健吾，吉行俊郎，古川清憲: 水腎症で発見され血清CA19-9が高値を示した原発性回腸粘液癌の1例．第277回日本消化器病学会関東支部例会，2003．12．
- 243) 富樫晃祥<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，松田 健<sup>1)</sup>，松久威史<sup>1)</sup>，沖浜裕司<sup>1)</sup>，増田剛太郎<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>2)</sup>，横山 正<sup>2)</sup>，土屋喜一<sup>2)</sup>，笹島耕二<sup>2)</sup>，田尻 孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科，<sup>2)</sup>同外科): C型慢性肝炎の経過中に発症した悪性リンパ腫の2例．第277回日本消化器病学会関東支部例会，2003．12．
- 244) 田中由理子<sup>1)</sup>，岩切勝彦<sup>1)</sup>，林 良紀<sup>1)</sup>，川上明彦<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>，琴寄 誠<sup>2)</sup>，牧野浩司，野村 務，宮下正夫，田尻 孝(<sup>1)</sup>内科学第3，<sup>2)</sup>千葉北総病院内科): 300mmHg以上の高血圧を有する下部食道同時性収縮波により嘔吐を繰り返したアカラシアの1例．第277回日本消化器病学会関東支部例会，2003．12．
- 245) 松谷 毅，田尻 孝，宮下正夫，笹島耕二，Chaudry IH<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Center for Surgical Research, University of Alabama at Birmingham): Prolactin knockout mice を用いた Trauma Hemorrhage 後の脾リンパ球サイトカインと非下垂体性 prolactin-like protein 産生能．第10回外科侵襲とサイトカイン研究会，2003．12．
- 246) 柏原 元，田尻 孝，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，勝田美和子，高橋 健，笹島耕二<sup>1)</sup>，山下精彦(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 外科侵襲に対する生体反応と副腎機能の評価．第10回外科侵襲とサイトカイン研究会，2003．12．
- 247) 山初和也，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋翼，古川清憲，高崎秀明，鈴木英之，木山輝郎，内田英二: 大腸癌肝転移症例に対する動注化学療法の治療効果についての検討．第26回リザーバー研究会，2003．12．
- 248) 鈴木英之，古川清憲，高崎秀明，菅 隼人，鶴田宏之，進士誠一，松田明久，田尻 孝: 当科における大腸癌に対する腹腔鏡下手術の成績と適応．第60回大腸癌研究会，2004．1．
- 249) 上田純志，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，水口義昭，川野陽一，清水哲也，高橋 翼，秋丸琥甫，宮下正夫，加藤俊二，奥田武志，寺西宣央，神田知洋，田尻 孝: AFP産生胃癌術後早期に急速増大した肝転移の1切除例．第278回日本消化器病学会関東支部例会，2004．2．
- 250) 加藤俊二，松倉則夫，藤田逸郎，神田知洋，栗田二郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，宮下正夫，田尻 孝，山田宣孝<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 残胃における *helicobacter pylori* (HP) 除菌治療の問題点．第4回東京UGI研究会，2004．2．
- 251) 坂東功一<sup>1)</sup>，古谷政一<sup>1)</sup>，清水康仁<sup>1)</sup>，山本一仁<sup>1)</sup>，柳 健<sup>1)</sup>，田尻 孝(<sup>1)</sup>下館市民病院外科): 診断に難渋したファータ乳頭内総胆管結石症の1例．第205回日本臨床外科学会茨城県支部，2004．2．
- 252) 高橋由至<sup>1)</sup>，木内博之<sup>1)</sup>，小川芳雄<sup>1)</sup>，山本一仁<sup>1)</sup>，山村 進<sup>1)</sup>，杉浦 篤<sup>1)</sup>，平方敦史<sup>1)</sup>，寺田淑恵<sup>1)</sup>，福岡猛<sup>2)</sup>，沖野哲也<sup>2)</sup>，山下精彦，田尻 孝(<sup>1)</sup>北村山公立病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科): 下血で発症したヘルペス食道炎の1例．第132回日本消化器内視鏡東北地方会，2004．2．
- 253) 岩崎玲子，古川恵子，野口智子，奥平かおり，藤田逸郎，源河敦史，飯田信也，古川清憲，田尻 孝: 乳腺 hamartoma (過誤腫) の1例．第792回外科集談会，2004．3．
- 254) 加藤俊二，田尻 孝，松倉則夫，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，宮下正夫，徳永 昭，



- 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2): 胃粘膜 IL-8, COX2, HGF, TFF1 遺伝子発現と胃癌発生高危険粘膜の特徴とピロリ除菌による癌発生予防. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 255) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 徳永 昭: 胃空腸吻合術後36年で発症したスキルス胃癌の1例. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 256) 水谷 崇, 田尻 孝, 吉行俊郎, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 野村 務, 宮下正夫, 徳永 昭: 診療報酬からみた腹腔鏡補助下胃切除術. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 257) 奥田武志, 田尻 孝, 徳永 昭, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院病理部): 胃GISTの診断と治療. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 258) 藤田逸郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 徳永 昭, 山下精彦: 胃癌に合併したGIST7症例. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 259) 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 李 栄浩, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫(<sup>1</sup>第二病院消化器病センター): 幽門側胃切除後の残胃炎と胆汁逆流, HP感染. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 260) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1</sup>多摩永山病院外科, <sup>2</sup>同病理部): 胃癌手術後の真菌・MRSA混合感染発生要因の検討. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 261) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1</sup>多摩永山病院外科, <sup>2</sup>同消化器科): 定量的 real time PCR 法を用いた胃癌組織の染色体8q・16qのDNAコピー数と臨床予後に関する検討. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 262) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1</sup>多摩永山病院外科): 局在より見た胃癌(リンパ節転移, 予後からの検討). 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 263) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 小嶋隆行<sup>1)</sup>, 渡邊睦弥<sup>1)</sup>, 中山浩一<sup>1)</sup>, 和知栄子<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1</sup>坪井病院外科, <sup>2</sup>同病理): 胃癌手術における腹腔洗浄細胞診の有用性. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 264) 吉村成子<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 恩田昌彦, 森山雄吉<sup>2)</sup>, 高崎秀明, 松田範子(<sup>1</sup>吉村せいこクリニック, <sup>2</sup>第二病院消化器病センター): 昨年の潜水事故の分析. 第3回日本高気圧環境医学会関東地方会総会・学術集会, 2004. 3.
- 265) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 沖野哲也, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永 昭<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院消化器病センター): 十二指腸潰瘍穿孔の治療法の選択. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 266) 神田知洋, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 横室茂樹, 有馬保生, 秋丸琥甫, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線医学): 掌上空腸脚に穿破した胆嚢癌術後仮性肝動脈瘤の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 267) 松田 健<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2</sup>同外科): 保存的治療にて完治した外傷性後腹膜乳糜嚢胞の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 268) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 田尻 孝(<sup>1</sup>多摩永山病院消化器科): 緊急再開腹術を要する術後合併症やリンパ節転移の出現にもかかわらず良好に経過している進行胆嚢癌の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 269) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1</sup>多摩永山病院外科, <sup>2</sup>同病理部): 胃前庭部に瘻孔を形成した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 270) 二見良平<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 田尻 孝

- (<sup>1</sup>多摩永山病院外科,<sup>2</sup>同病理部,<sup>3</sup>同消化器科): 胃癌穿孔手術症例の検討. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 271) 瀬谷知子<sup>1</sup>), 工藤秀徳<sup>1</sup>), 田中宣威<sup>1</sup>), 京野昭二<sup>1</sup>), 横井公良<sup>1</sup>), 石川紀行<sup>1</sup>), 堀場光二<sup>1</sup>), 金沢義一<sup>1</sup>), 山田岳史<sup>1</sup>), 白川 毅<sup>1</sup>), 吉岡正人<sup>1</sup>), 小野寺浩之<sup>1</sup>), 山下精彦<sup>1</sup>), 田尻 孝, 大秋美治<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>千葉北総病院外科,<sup>2</sup>同病理部): 肺癌小腸転移穿孔による汎発性腹膜炎の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 272) 進士誠一<sup>1</sup>), 田中宣威<sup>1</sup>), 瀬谷知子<sup>1</sup>), 山下精彦<sup>1</sup>), 京野昭二<sup>1</sup>), 横井公良<sup>1</sup>), 石川紀行<sup>1</sup>), 堀場光二<sup>1</sup>), 瀧田雅仁<sup>1</sup>), 高橋由至<sup>1</sup>), 小泉岐博<sup>1</sup>), 大秋美治<sup>2</sup>), 田尻 孝 (<sup>1</sup>千葉北総病院外科,<sup>2</sup>同病理部): ダグラス窩膿瘍を形成したS状結腸癌の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 273) 奥田武志, 徳永 昭, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 鈴木英之, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝: 再燃・再発GISTに対するイマチニブの使用経験. 第2回日本臨床腫瘍学会総会, 2004. 3.
- (6) Interactive board :
- 1) 松倉則夫: 腹腔鏡下手術: 外科的治療(十二指腸潰瘍穿孔の治療). 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- (7) ビデオクリニック:
- 1) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 木山輝郎, 内田英二, 秋丸琥甫, 山下精彦: 生体肝移植ドナー手術における肝静脈グラフト採取の工夫. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 2) 野村 務, 田尻 孝, 宮下正夫, 内田英二, 木山輝郎, 牧野浩司, 谷合信彦, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 笹島耕二, 山下精彦: 術前診断T1 bN 0 食道癌に対する縦隔鏡補助下食道切除術の検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 3) 野村 務, 田尻 孝, 古川清憲, 内田英二, 鈴木英之, 木山輝郎, 真々田裕宏, 谷合信彦, 重原健吾: 大腿ヘルニア嵌頓に対する pre peritoneal approach 法の工夫. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 4) 真々田裕宏, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼: 難治性腹水に対する腹腔: 静脈シャントの実際. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 5) 谷合信彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 木山輝郎, 内田英二: 肝静脈クランプ下におけるCUSA Excel による肝離断術. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 6) 山下直行<sup>1</sup>), 吉田初雄<sup>1</sup>), 湖山信篤<sup>1</sup>), 中山浩一<sup>1</sup>), 渡邊睦弥<sup>1</sup>), 佐藤尚紀<sup>2</sup>), 櫻澤信行, 日吉晴久<sup>1</sup>), 岩波洋<sup>1</sup>), 左近司光明<sup>1</sup>), 田尻 孝 (<sup>1</sup>坪井病院外科,<sup>2</sup>福島県立医科大学外科学第2): 噴門側胃切除術における迷走神経温存と残胃前壁漿膜筋層切開噴門形成の手技と評価. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- (8) ビデオセッション:
- 1) 山下直行<sup>1</sup>), 吉田初雄<sup>1</sup>), 湖山信篤<sup>1</sup>), 櫻澤信行<sup>1</sup>), 佐藤尚紀<sup>1</sup>), 日吉晴久<sup>1</sup>), 保坂 淳<sup>1</sup>), 岩波 洋<sup>1</sup>), 竹之下誠一<sup>2</sup>), 田尻 孝 (<sup>1</sup>坪井病院外科,<sup>2</sup>福島県立医科大学第二外科): 噴門側胃切除術における残胃前壁漿膜筋層切開噴門形成術. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003. 6.
- 2) 野村 務, 田尻 孝, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 二見良平, 勝田美和子, 柏原 元, 山下精彦, 笹島耕二<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>多摩永山病院外科): 当施設における縦隔鏡補助下食道切除術の工夫と問題点および治療成績(鏡視下手術). 第57回日本食道学会学術集会, 2003. 6.
- 3) 秋丸琥甫, 内山喜一郎<sup>1</sup>), 田尻 孝 (<sup>1</sup>海老名総合病院外科): 失血性ショックを伴った肝巨大血管腫に対し分割手術で救命し7年後の再発に前区域切除を施行した1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- (9) 診療と研究のビューポイント:
- 1) 二見良平, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 笹島耕二, 山下精彦: 術後合併症と血清VEGF 変動の検討. 第39回日本腹部救急医学会総会, 2003. 4.
- (10) 要望演題:
- 1) 古川清憲, 田尻 孝, 鈴木英之, 木山輝郎, 真々田裕宏, 野村 務: 教室の鼠径ヘルニア手術の工夫: Ten-

sion-free手術．第1回日本ヘルニア研究会，2003．4．

- 2) 野村 務，田尻 孝，古川清憲，鈴木英之，木山輝郎，真々田裕宏：成人鼠径部ヘルニア再発例の検討．第1回日本ヘルニア研究会，2003．4．
- 3) 木山輝郎，田尻 孝，吉行俊郎，水谷 崇，奥田武志，藤田逸郎，増田剛太郎，加藤俊二，松倉則夫，徳永昭：胃切除術クリニカルパスにおけるセーフティマネージメント（外科系医療におけるリスクマネージメント）．第28回日本外科系連合学会学術集会，2003．6．
- 4) 内田英二，田尻 孝，相本隆幸，中村慶春，松下 晃，鶴田宏之，勝野 暁，張 一光，竹田晋浩<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>集中治療室）：急性膵炎に対する動注療法：動注単独と動注 + CHDF + SDD の比較（急性膵炎に対する動注療法）．第58回日本消化器外科学会総会，2003．7．
- 5) 奥田武志，田尻 孝，徳永 昭，増田剛太郎，藤田逸郎，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，加藤俊二，松倉則夫：当科における消化管間葉系腫瘍（GIMT）切除例の臨床病理（最近の治療展望（1）診断）．第58回日本消化器外科学会総会，2003．7．

## [ 多摩永山病院消化器科 ]

### 研究概要

当科は消化器全般の内科的・外科的疾患をその診療の対象とし，それらに関する研究と，幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指している．現在，消化器疾患に対する以下のような診療ならびに研究活動を続けている．

- 1) 日常診療では，地域中核病院でもある当院の性格を活かし，消化管出血や閉塞性黄疸など多くの救急患者を受け入れるとともに，上部および下部消化管の内視鏡検査など検査診断技術の向上に努めている．
- 2) 各種消化器疾患の内視鏡的治療および内視鏡下手術について臨床研究を行っている．早期癌の内視鏡的治療，総胆管結石・肝内結石・胆道狭窄の内視鏡的処置などにつき研究および治療成績の向上に努力している．
- 3) C型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン療法，肝細胞癌に対する治療についても，症例を蓄積中である．
- 4) 炎症性腸疾患の診断と治療について，とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法（5-ASA 注腸療法など）を中心とした臨床研究を続けている．また，潰瘍性大腸炎に対する白血球（顆粒球）吸着療法やステロイド動注療法の症例を蓄積している．
- 5) 2003年4月に，当院内視鏡科と当科（消化器科）との合流により，研究のフィールド（*Helicobacter pylori*に関する諸研究など）が拡がりつつある．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Matsukura N<sup>1)</sup>，Tajiri T<sup>1)</sup>，Kato S<sup>1)</sup>，Togashi A，Masuda G，Fujuta I<sup>1)</sup>，Tokunaga A<sup>1)</sup>，Yamada N<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>Surgery for Organ Function and Biological Regulation，<sup>2)</sup>Second Department of Pathology）：*Helicobacter pylori* eradication therapy for the remnant stomach after gastrectomy．*Gastric Cancer* 2003；6：100-107．
- 2) 木山輝郎<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，三橋恭子<sup>2)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，増田剛太郎，加藤俊二<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，長谷川幸子<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>付属病院看護部）：胃がん治療ガイドラインの解説にそった胃手術後の食事療法の現況．*J Nippon Med Sch* 2003；70（2）：183-185．
- 3) 松久威史，山田宣孝<sup>1)</sup>，鈴木美貴<sup>2)</sup>，藺田まり子<sup>2)</sup>，安達敏行<sup>2)</sup>，藤島 悟<sup>2)</sup>，岡本富美子<sup>2)</sup>，岡本明彦<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第2，<sup>2)</sup>医療法人吉祥会岡本医院）：血液透析患者における上部消化管疾患，*Helicobacter pylori*感染の観察．*Prog. Dig. Endosc.* 2003；62（2）：31-35．
- 4) 松久威史，宮本安盛，高須 勝，芳村昇治：出血性潰瘍，色素内視鏡検査例におけるピロリテック® テストキッ

トの使用経験．医学と薬学 2003；49(6)：985-990．

- 5) 永嶋裕司，沖濱裕司，松田 健，平本義浩，前田昭太郎<sup>1)</sup>，江上 格<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>同外科，<sup>3)</sup>外科学第1)：大腸内視鏡検査(粘膜切除)にて直腸癌と鑑別に苦慮した孤立性直腸潰瘍症候群の1例．Prog. Dig. Endosc. 2003；62(2)：128-129．
- 6) 松久威史，山田宣孝<sup>1)</sup>，鈴木美貴<sup>2)</sup>，渡邊雅俊<sup>2)</sup>，安達敏行<sup>2)</sup>，岡本富美子<sup>2)</sup>，岡本明彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第2，<sup>2)</sup>医療法人吉祥会岡本医院)：高齢透析患者における上部消化管疾患，*Helicobacter pylori*感染の観察．日本高齢消化器医学会誌 2003；5(2)：38-43．
- 7) 松久威史，磯 長光，宮本安盛，高須 勝，芳村昇治：*Helicobacter pylori*の薬剤耐性に関する生検部位別検討．Prog. Dig. Endosc. 2003；63(2)：36-40．
- 8) 平本義浩，松田 健，沖浜裕司，永嶋裕司，江上 格，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：潰瘍性大腸炎に対する5アミノサリチル酸注腸療法．多摩消化器シンポジウム誌 2003；17(1)：14-17．
- 9) 松久威史：<sup>13</sup>C-酢酸呼気試験による胃排出能検査成績の検討．<sup>13</sup>C医学 2004；14：30-31．

## (2) ワンポイントアドバイス：

- 1) 松久威史：透析患者の*Helicobacter pylori*感染．Medical Practice 2003；20(12)：2127-2127，文光堂
- 2) 松久威史：*Helicobacter pylori*の胃内部位別薬剤耐性について．Medical Practice 2004；21(2)：328-328，文光堂

## 著 書

- 1) Egami K, Tajiri T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>2)</sup>, Yokoyama T<sup>2)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Iida Shin-ya<sup>2)</sup>, Hasegawa H<sup>2)</sup>, Okihara Y, Matsuda T (<sup>1)</sup>Dept. Surgery 1, <sup>2)</sup>Dept. Surgery, Tama-Nagayama Hospital)：〔共著〕Pancreaticobiliary maljunction：Its etiological role in biliary disease．Pancreaticobiliary Maljunction (Y. Koyanagi, T. Aoki), 2002；pp197-197，Igaku Tosho．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 松久威史：NSAIDs胃病変の内視鏡的観察．第3回薬物消化管病変研究会，2003．11．

### (2) 基調講演：

- 1) 松久威史：消化管機能検査法の現状．第1回多摩消化管運動研究会，2003．7．

### (3) シンポジウム：

- 1) 松久威史：<sup>13</sup>C-酢酸呼気試験による胃排出能検査の有用性(消化管運動の制御と病態)．第45回日本平滑筋学会総会，2003．7．
- 2) 松久威史：<sup>13</sup>C-酢酸呼気試験による胃排出能検査の検討(ポストヘリコ<sup>13</sup>C化合物の臨床応用)．第19回<sup>13</sup>C医学応用研究会，2003．11．

### (4) ワークショップ：

- 1) 鈴木秀和<sup>1)</sup>，三輪洋人<sup>2)</sup>，松久威史<sup>3)</sup>，伊藤慎芳<sup>4)</sup>，鈴木雅之<sup>5)</sup>，正岡建洋<sup>1)</sup>，河合 隆<sup>6)</sup>，川村 洋<sup>7)</sup>，高橋信一<sup>8)</sup>，榊 信廣<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>東京*Helicobacter pylori*研究会・慶應義塾大学消化器内科，<sup>2)</sup>東京*Helicobacter pylori*研究会・順天堂大学消化器内科，<sup>3)</sup>東京*Helicobacter pylori*研究会，<sup>4)</sup>東京*Helicobacter pylori*研究会・NTT東日本伊豆病院内科，<sup>5)</sup>東京*Helicobacter pylori*研究会・国立病院東京医療センター消化器科，<sup>6)</sup>東京*Helicobacter pylori*研究会・東京医科大学内視鏡センター，<sup>7)</sup>東京*Helicobacter pylori*研究会・日本大学消化器・肝臓内科，<sup>8)</sup>東京*Helicobacter pylori*研究会・杏林大学第三内科，<sup>9)</sup>東京*Helicobacter pylori*研究会・東京都立広尾病院内科)：尿素呼気試験での除菌判定におけるカットオフ値近傍の陽性例の経過観察：東京都内9施設における共同調査結果から．第9回日本ヘリコバクター学会，2003．6．

(5) 一般講演 :

- 1) Matsuhisa T, Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Surgery, <sup>2)</sup> Department of Pathology): Ratio of corpus gastritis to antrum gastritis (C/A ratio) in *Helicobacter pylori* positive Asian populations compare with Japan : A comparative study in age, gender and endoscopic diagnosis matched subjects . DDW in USA 2003 5 ( USA ), 2003 . 5 .
- 2) Matsuhisa T, Miyamoto Y, Takasu M, Yoshimura J : Usefulness of PyloriTek test Kit in the diagnosis of *Helicobacter pylori* infection in case of peptic ulcer disease with bleeding and dye used patients with endoscopy . The 3rd annual conference of Japan-Korea joint meeting on Helicobacter infection ( Korea ), 2004 . 2 .
- 3) Matsuhisa T, Yamada N<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>2)</sup>, Okamoto F<sup>2)</sup>, Okamoto A<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Second Department of Pathology, <sup>2)</sup> Okamoto lin, <sup>3)</sup> Department of Surgery I ): Study of gastroduodenal disease and *Helicobacter pylori* infection in patients with hemodialysis . The 3rd annual conference of Japan-Korea joint meeting on Helicobacter infection ( Korea ), 2004 . 2 .
- 4) Matsuhisa T, Miyamoto Y, Takasu M, Yoshimura S : Study on the drug resistance for *Helicobacter pylori* by the gastric different sites . The 3rd Annual Conference of Japan-Korea Joint Meeting on Helicobacter Infection ( Korea ), 2004 . 2 .
- 5) 松田 健, 坂東功一, 秋谷 行宏, 沖浜裕司, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1): 2型直腸癌との鑑別を要した直腸粘膜脱症候群の1例 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 6) 松久威史, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 病理学第2): *H pylori*感染と胃癌の Asian paradox . 第2回胃癌のリスクファクター研究会, 2003 . 4 .
- 7) 松久威史, 芳村昇治, 宮本安盛, 高須 勝, 田原一郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第2): 耐性菌を考慮した *Helicobacter pylori*除菌療法の検討 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 8) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 松田 健, 沖濱祐司, 細根 勝<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 老人病研究所病理部門, <sup>4)</sup> 外科学第1): Microsatellite marker を用いた定量的 real time PCR 法による胃癌組織のDNA コピー数の検出と genetic instability に関する検討 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 9) 松久威史, 宮本安盛, 高須 勝, 田原一郎, 芳村昇治: 出血性潰瘍, 色素内視鏡検査例の *Helicobacter pylori*感染診断におけるピロリテック® テストの有用性 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 10) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 増田剛太郎, 富樫晃祥, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 松久威史, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 病理学第2): 胃癌発生の高危険群の特徴と加齢における変化および男女差: 胃粘膜の inflammation ( INF ), activity ( ACT ), atrophy ( ATP ), intestinal metaplasia ( IM ) と *Helicobacter pylori* ( HP ) 感染との関係 . 第89回日本消化器病学会総会, 2003 . 4 .
- 11) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 病理学第2): *Helicobacter pylori*陽性アジア人における背景胃粘膜の比較観察 . 第65回日本消化器内視鏡学会総会, 2003 . 5 .
- 12) 松久威史, 高須 勝, 宮本安盛, 芳村昇治: *Helicobacter pylori*の薬剤耐性に関する生検部位別検討 . 第76回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003 . 6 .
- 13) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, Mohamad G<sup>3)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 松田 健, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 老人病研究所病理部門, <sup>4)</sup> 外科学第1): 定量的 real time マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織のDNA コピー数と臨床予後に関する検討 . 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003 . 6 .
- 14) 松久威史: *Helicobacter pylori*陽性アジア人高齢者における組織学的胃炎の観察: 日本人高齢者との比較を含めて . 第45回日本老年医学会総会, 2003 . 6 .
- 15) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 鈴木美貴<sup>2)</sup>, 渡邊雅俊<sup>2)</sup>, 安達敏行<sup>2)</sup>, 藤島 悟<sup>2)</sup>, 岡本富美子<sup>2)</sup>, 岡本明彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日

- 本医科大学病理学第2,<sup>2)</sup>医療法人吉祥会岡本医院): 透析患者における上部消化管疾患, *Helicobacter pylori* 感染の観察. 第9回日本ヘリコバクター学会, 2003. 6.
- 16) 松久威史, 宮本安盛, 高須 勝, 芳村昇治: *Helicobacter pylori* 染診断におけるピロリテック® テストの有用性: 出血性潰瘍, 色素内視鏡検査例を対象に. 第9回日本ヘリコバクター学会, 2003. 6.
- 17) 松久威史, 高須 勝, 宮本安盛, 芳村昇治: 生検部位別にみた *Helicobacter pylori* の薬剤耐性に関する検討. 第9回日本ヘリコバクター学会, 2003. 6.
- 18) 松久威史, 宮本安盛, 高須 勝: *Helicobacter pylori* の除菌治療中に出血性大腸炎を来した1例. 第9回日本ヘリコバクター学会, 2003. 6.
- 19) 河合 隆<sup>1)</sup>, 鈴木秀和<sup>2)</sup>, 正岡建洋<sup>2)</sup>, 伊藤慎芳<sup>3)</sup>, 三輪洋人<sup>4)</sup>, 川村 洋<sup>5)</sup>, 松久威史<sup>6)</sup>, 鈴木雅之<sup>7)</sup>, 高橋信一<sup>8)</sup>, 榎 信廣<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>東京 *Helicobacter pylori* 研究会・東京医科大学内視鏡センター, <sup>2)</sup>東京 *Helicobacter pylori* 研究会・慶應義塾大学消化器内科, <sup>3)</sup>東京 *Helicobacter pylori* 研究会・NTT 東日本伊豆病院内科, <sup>4)</sup>東京 *Helicobacter pylori* 研究会・順天堂大学消化器内科, <sup>5)</sup>東京 *Helicobacter pylori* 研究会・日本大学消化器・肝臓内科, <sup>6)</sup>東京 *Helicobacter pylori* 研究会, <sup>7)</sup>東京 *Helicobacter pylori* 研究会・国立病院東京医療センター消化器科, <sup>8)</sup>東京 *Helicobacter pylori* 研究会・杏林大学第三内科, <sup>9)</sup>東京 *Helicobacter pylori* 研究会・東京都立広尾病院内科): 3剤療法による *Helicobacter pylori* 除菌率の経年の推移: 東京都内多施設における共同調査結果から. 第9回日本ヘリコバクター学会, 2003. 6.
- 20) 増田剛太郎, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 富樫晃祥, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌発生危険因子の研究: 若年者胃癌におけるHP感染, 癌家族歴, CYP2E1 遺伝子多型の意義. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 21) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 沖濱裕司, 細根勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 消化管及び消化管外原発GIST症例の診断治療に関する検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 22) 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 沖濱裕司, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 大腸癌イレウスに対する治療: 術前経肛門的イレウス管減圧術の有効性の検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 23) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 鈴木美貴<sup>2)</sup>, 園田まり子<sup>2)</sup>, 安達敏行<sup>2)</sup>, 藤島 悟<sup>2)</sup>, 岡本富美子<sup>2)</sup>, 岡本明彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>医療法人吉祥会岡本医院): 透析患者における *Helicobacter pylori* 感染の観察. 第48回日本透析医学会学術集会・総会, 2003. 7.
- 24) 増田剛太郎, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 富樫晃祥, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 水谷崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌発生危険因子の研究: 若年者胃癌におけるHP感染, 癌家族歴, CYP2E1 遺伝子多型の意義. 第14回日本消化器癌発生学会総会, 2003. 9.
- 25) 松久威史, 金川左世<sup>1)</sup>, 竹野忠直<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>RAJA日本リフレクソロジー協会, <sup>2)</sup>Aサヒバイオメッド): 足裏マッサージの胃電図に及ぼす影響. 第11回胃電図研究会, 2003. 10.
- 26) 松久威史, 高須 勝, 宮本安盛, 芳村昇治: <sup>13</sup>C-酢酸呼吸試験による胃排出能検査の有用性. 第45回日本消化器病学会総会, 2003. 10.
- 27) 松久威史, 高須 勝, 宮本安盛: *Helicobacter pylori* 陽性例における薬剤耐性: 胃内の部位別検討. 第45回日本消化器病学会総会, 2003. 10.
- 28) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 鈴木美貴<sup>2)</sup>, 渡邊雅俊<sup>2)</sup>, 安達敏行<sup>2)</sup>, 藤島 悟<sup>2)</sup>, 岡本富美子<sup>2)</sup>, 岡本明彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>医療法人吉祥会岡本医院): 透析患者の上部消化管疾患, *Helicobacter pylori* 感染: 外来患者との相違. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 2003. 10.
- 29) 松久威史: <sup>13</sup>C-呼吸試験からみた胃排出能. 消化管機能セミナー「<sup>13</sup>C & 胃排出能を考える」, 2003. 10.

- 30) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松田 健, 松久威史, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃原発 B cell lymphoma 手術症例の臨床病理学的検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 31) 増田剛太郎, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 富樫晃祥, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 治療成績からみた若年者胃癌の臨床病理学的特徴とリスクファクターの検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 32) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): ベトナムの二地域における上部消化管疾患, *Helicobacter pylori*感染, 背景胃粘膜の比較観察. 第77回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003. 11.
- 33) 富樫晃祥, 江上 格, 松田 健, 松久威史, 増田剛太郎, 沖浜裕司, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>: C型慢性肝炎の経過中に発症した悪性リンパ腫の2例. 第277回日本消化器病学会関東支部会, 2003. 11.
- 34) 松久威史: *Helicobacter pylori*二次除菌成績の検討: 第1報. 第26回東京 *Helicobacter pylori*研究会, 2004. 1.
- 35) 松久威史, 江上 格: 内視鏡検査を施行した小児における *Helicobacter pylori*感染の観察. 第8回日本小児 *Helicobacter pylori*研究会, 2004. 3.
- 36) 松田 健, 江上 格, 松久威史, 沖浜裕司, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 保存的治療にて完治した外傷性後腹膜乳糜嚢胞の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- (6) ブラックファーストセミナー:
- 1) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): *H. pylori*感染と胃癌の Asian paradox 「悪性度の高いピロリ菌と低いピロリ菌」. 第45回日本消化器病学会総会, 2003. 10.

## [ 多摩永山病院外科 ( 消化器外科・乳腺外科・一般外科, 呼吸器外科・血管外科 ) ]

### 研究概要

#### 「研究体制とその現状」

研究目的: 臨床上の疑問点をテーマとし, 臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ治療成績の向上を目指すこと.  
 研究体制: 消化器系臓器別に上部消化器官, 下部消化器官, 肝・胆・膵の3領域における病態生理, 臨床病理的研究を行う体制をとっている. 研究課題は癌に関連するものが多い. 手術手技, 腹腔鏡下手術など外科特有のものもある.  
 研究者は, 自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている.

研究材料, 方法: 診療業務から得た臨床データ, 血液, 組織, 臓器等を材料としている. 病理組織学的方法を用いる場合には, 当院病理部との共同研究となる. 分子生物学的方法を用いる場合は第二病院・老人病研究所の協力, 指導を得ている.

文部科学省, 厚生労働省の科学研究補助金による研究, 他施設共同研究, 日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している.

研究結果の公表: 多摩地域の研究会, 各医学会地方会, 総会等で発表する, あるいは医学雑誌, 著書等に論文として公表すること.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Yokoyama T, Egami K, Miyamoto M, Watanabe H, Hasegawa H, Iida S, Suzuki S, Nakamura Y,

- Okawa K , Hagiwara N , Takashima Y , Yoshioka M , Tajiri T<sup>1)</sup> , Onda M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery ): Percutaneous and laparoscopic approaches of radiofrequency - ablation treatment for liver cancer . Journal of Hepatobiliary Pancreatic Surgery 2003 ; 10 ( 6 ): 425-427 .
- 2) 清水 一<sup>1)</sup> , 原 博<sup>2)</sup> , 鈴木成治 , ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup> , 永島幹夫<sup>1)</sup> , 横崎 宏<sup>3)</sup> , 川並汪一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所病理部門 , <sup>2)</sup> 原産婦人科医院 , <sup>3)</sup> 神戸大学生体情報医学講座外科病理学 ): 細胞診に有用な分子生物学的解析の実際 . 日本臨床細胞学会神奈川県支部会誌 2003 ; 8 ( 1 ): 6-14 .
- 3) 横山 正 , 江上 格 , 笹島耕二 , 宮本昌之 , 中村慶春 , 山村 進 , 廣井 信 , 福原宗久 , 内田英二<sup>1)</sup> , 田尻孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 臍頭十二指腸切除術後の腹腔内出血に対し2度の開腹止血術を行い救命し得た1例 . 日本腹部救急医学会雑誌 2003 ; 23 ( 6 ): 905-909 .
- 4) 渡辺秀裕 , 鈴木成治 , 江上 格 : 高齢者における重複癌 ( 胃癌を中心に ) . 日本高齢消化器医学会議誌 2003 ; 5 ( 2 ): 44-49 .
- 5) 宮本昌之 , 江上 格 , 笹島耕二 , 渡辺秀裕 , 長谷川博一 , 飯田信也 , 横山 正 , 鈴木成治 , 大川敬一 , 土屋喜一 , 廣井 信 , 福原宗久 , 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 大腸癌肝転移症例の検討 . Tama Symposium Journal of Gastroenterology 2004 ; 18 ( 1 ): 36-40 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演 :

- 1) Miyamoto M , Egami K , Sasajima K , Watanabe H , Hasegawa H , Iida S , Suzuki S , Yokoyama T , Maruyama H , Matsutani T , Tsuchiya Y , Hiroi S , Fukuhara M , Futami R , Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 1st Dept. Surg. ) : Laparoscopic Radiofrequency Ablation ( RFA ) with Percutaneous or Transdiaphragmatic Approach . 6th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2003 . 9 .
- 2) Egami K , Sasajima K , Watanabe H , Hasagawa H , Miyamoto M , Iida S , Yokoyama T , Suzuki S , Maruyama H , Matsutani T , Tsuchiya Y , Hiroi M , Fukuhara M , Futami R , Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 1st. Dept. of Surg. ) : Clinical Analysis of Laparoscopically Assisted Colorectal Surgery in Comparison with Open Surgery . 6th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2003 . 9 .
- 3) Matsutani T , Miyashita M<sup>1)</sup> , Sasajima K , Maruyama H , Nomura T<sup>1)</sup> , Makino K<sup>1)</sup> , Tsuchiya Y , Hagiwara N<sup>1)</sup> , Futami R , Kashiwabara G<sup>1)</sup> , Katsuta M<sup>1)</sup> , Matsuda A , Takahashi K<sup>1)</sup> , Egami K , Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 1st Dept. Surg. ) : CYFRA 21-1 LEVELS IN BRONCHOALVEOLAR LAVAGE FLUID INDICATE THE BRONCHO-EPITHELIAL DAMAGE . 6th World Congress on TRAUMA, SHOCK, INFLAMMATION AND SEPSISpathophysiology, Immune Consequences and Therapy ( ドイツ ミューヘン ), 2004 . 3 .
- 4) 大川敬一 , 江上 格 , 宮本昌之 , 横山 正 , 土屋喜一 , 廣井 信 , 福原宗久 , 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 胆道出血によるショック症状を呈した胆嚢癌の1例 . 第39回日本腹部救急医学会総会 , 2003 . 4 .
- 5) 鈴木成治 , 江上 格 , 笹島耕二 , 渡辺秀裕 , 長谷川博一 , 宮本昌之 , 飯田信也 , 横山 正 , 大川敬一 , 松田健<sup>1)</sup> , 沖浜裕司<sup>1)</sup> , 川並汪一<sup>2)</sup> , 田尻 孝<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院消化器科 , <sup>2)</sup> 老人病研究所病理部門 , <sup>3)</sup> 外科学第1 ): Microsatellite marker を用いた定量的 real time PCR 法における胃癌組織の DNA コピー数の検出と genetic instability に関する検討 . 第89回日本消化器病学会総会 , 2003 . 4 .
- 6) 渡邊秀裕 , 江上 格 , 笹島耕二 , 長谷川博一 , 宮本昌之 , 飯田信也 , 鈴木成治 , 横山 正 , 大川敬一 : 早期胃癌のリンパ節転移および再発死亡例の検討 . 第89回日本消化器病学会総会 , 2003 . 4 .
- 7) 宮本昌之 , 江上 格 , 笹島耕二 , 長谷川博一 , 渡邊秀裕 , 飯田信也 , 横山 正 , 鈴木成治 , 大川敬一 , 土屋喜一 , 廣井 信 , 高島良樹 , 小泉岐博 , 福原宗久 , 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 肝細胞癌治療における , 腫瘍塞栓療法 ( TAE ) および凝固療法 ( RFA ) を基軸としたいわゆる combined therapy の意義 . 第15回日本肝胆膵外科学会 , 2003 . 5 .



- 8) 大川敬一, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 土屋喜一, 福原宗久, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 胆道出血によるショック症状を呈した胆嚢癌の1例. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003. 5.
- 9) 福原宗久, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 土屋喜一, 高島良樹, 廣井 信, 小泉岐博, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 腎細胞癌の膵転移に対し膵全摘術を施行した1例. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003. 5.
- 10) 長谷川博一, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 土屋喜一, 廣井 信, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 胃癌術後真菌症の検討: ハイリスク症例を術前, 術中因子で予測できるか. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003. 6.
- 11) 鈴木成治, 江上 格, Mohammad G<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 大川敬一, 細根 勝<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 沖濱裕司<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子病理, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>同消化器科, <sup>4)</sup>外科学第1): 定量的 real time マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織の DNA コピー数と臨床予後に関する検討. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003. 6.
- 12) 笹島耕二, 江上 格, 大川敬一, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 松谷 毅, 二見良平, 柏原 元<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): インターロイキン6による生体反応の評価と制御. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 13) 長谷川博一, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌手術後の真菌・MRSA 混合感染症例の検討: ハイリスク症例を周術期因子で予測できるか. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 14) 飯田信也, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 大腸癌イレウスに対する治療: 術前経肛門のイレウス管減圧術の有用性の検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 15) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 消化管及び消化管外原発GIST 症例の診断治療に関する検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 16) 松谷 毅, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): マウスTrauma-hemorrhage後の炎症性サイトカインとCYFRA21-1の変動. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 17) 二見良平, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 松谷 毅, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 術後合併症と血清VEGFの変化. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 18) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 廣井 信, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 糖尿病の膵癌リスクファクターとしての意義について: 過去10年間の自験症例における検討から. 第34回日本膵臓学会大会, 2003. 7.
- 19) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 丸山 弘, 吉岡正智, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 当院における乳腺穿刺吸引細胞診の迅速診断の有用性. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 20) 安本美奈子<sup>1)</sup>, 廣井 信, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>皮膚科学): 肛門周囲病変を初発としたクローン病の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 21) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, Mohammad G<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 松久威史<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖濱裕司<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>3)</sup>外科学第1): 定量的 real time マイクロサテライト分析法 (QuMA) による胃癌組織の DNA コピー数異常の検出と予後因子に関する検討. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 22) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 長谷川博一, 飯田信也, 鈴木成治, 宮本昌之, 横山 正, 大川敬一: リンパ

- 節転移の予後に及ぼす影響（胃癌治癒切除例での検討）. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 23) 土屋喜一, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 丸山弘, 松谷 毅, 廣井 信, 福原宗久, 二見良平: 腹腔内腫瘍像を呈した嵌頓膀胱上ヘルニアの1例. 第67回城西外科研究会, 2003. 9.
- 24) 二見良平, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘, 松谷 毅, 柏原 元<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 食道扁平上皮癌における血清VEGF値の臨床的意義. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 25) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 松田 健<sup>1)</sup>, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 消化管外原発GIST (EGIST) 症例の臨床病理学的検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 26) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 土屋喜一, 廣井 信: リンパ節転移の有無から見たT1, T2胃癌の治癒切除後再発死亡例の検討. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 27) 宮本昌之: 肝癌におけるラジオ波凝固療法 (RFA) の検討: アプローチを中心に. 第6回多摩外科がんフォーラム, 2003. 10.
- 28) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 土屋喜一, 廣井 信, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): リンパ節郭清で再発転移は防げるか? : 胃癌での検証. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 29) 長谷川博一, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 土屋喜一, 廣井 信, 小泉岐博, 福原宗久, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 胃癌手術後真菌症の検討: ハイリスク症例を周術期因子より予測できるか. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 30) 山本英希, 松島申治, 渡邊秀裕, 小泉岐博, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 江上 格, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第2): 短期間に横隔膜上から後腹膜腔に進展し巨大腫瘤を形成した再発胸腺腫の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 31) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 長谷川博一, 渡邊秀裕, 飯田信也, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 土屋喜一, 廣井 信, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 当科における転移性肝癌に対するRadio Frequency Ablation (RFA) 治療成績の検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 32) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 大川敬一, 土屋喜一, 廣井 信, 小泉岐博, 高島良樹, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胆管細胞癌との鑑別を要したものの治癒切除が成し得た肝門部胆管浸潤型肝細胞癌の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 33) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 横山 正, 松田 健<sup>1)</sup>, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃原発B cell lymphoma手術症例の臨床病理学的検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 34) 廣井 信, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 土屋喜一, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 腹腔鏡にて診断した大網裂孔ヘルニアの1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 35) 飯田信也, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山本英希, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 廣井 信, 高島良樹, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 局所進行乳癌に対するEpirubicin/Docetaxel同時併用biweekly術前化学療法の検討 (続報). 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 36) 二見良平, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘, 松谷 毅, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 術後肺障害と血清VEGF. 第65

回日本臨床外科学会総会, 2003 . 11 .

- 37) 松谷 毅, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝硬変合併原発性肝細胞癌と直腸癌の同時性重複癌の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003 . 11 .
- 38) 渡邊秀裕, 江上 格, 飯田信也, 笹島耕二, 長谷川博一, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷毅, 廣井 信, 土屋喜一, 福原宗久, 二見良平, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): イレウスを来した大腸癌症例の検討: 術前減圧法の有用性について. 第16回多摩大腸疾患懇話会, 2003 . 11 .
- 39) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷毅, 土屋喜一, 廣井 信, 福原宗久, 二見良平, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 腹腔鏡下総胆管切石術(Lap. CBDE)における手技上の進歩とその意義. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003 . 12 .
- 40) 渡邊秀裕, 江上 格, 鈴木成治: 予後におけるリンパ節転移の影響(高齢者胃癌治療切除例での検討). 第6回日本高齢消化器医学会議, 2004 . 1 .
- 41) 宮本昌之, 松島申治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 土屋喜一, 二見良平, 福原宗久, 江上 格: 中・右肝静脈起始部に接した再発肝癌の1切除例. 第4回多摩消化器手術手技研究会, 2004 . 2 .
- 42) 増田剛太郎, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷毅, 土屋喜一, 福原宗久, 二見良平, 神戸 将, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): von Recklinghausen病の合併した十二指腸GISTの1例. 第68回城西外科研究会プログラム, 2004 . 2 .
- 43) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 長谷川博一, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 田尻孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 局在より見た胃癌(リンパ節転移, 予後からの検討). 第76回日本胃癌学会総会, 2004 . 3 .
- 44) 長谷川博一, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 胃癌手術後の真菌・MRSA混合感染発生要因の検討. 第76回日本胃癌学会総会, 2004 . 3 .
- 45) 鈴木成治, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 定量的real time PCR法を用いた胃癌組織の染色体8q. 16qのDNAコピー数と臨床予後に関する検討. 第76回日本胃癌学会総会, 2004 . 3 .
- 46) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 緊急再開腹術を要する術後合併症やリンパ節転移の出現にもかかわらず良好に経過している進行胆嚢癌の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004 . 3 .
- 47) 二見良平, 江上 格, 長谷川博一, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷毅, 土屋喜一, 廣井 信, 福原宗久, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃癌穿孔手術症例の検討. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004 . 3 .
- 48) 丸山 弘, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 廣井 信, 福原宗久, 二見良平, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 飯田信也, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 閉塞性左側大腸癌に対する術前減圧術の検討. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004 . 3 .
- 49) 松谷 毅, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 増田剛太郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): 胃前庭部に瘻孔を形成した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004 . 3 .

## [ 千葉北総病院外科 ]

### 研究概要

消化器外科ならびに一般外科疾患を対象として臨床的研究を行い、治療成績を中心としてその成果を学会および学会誌で報告している。開院後10年であるが、外来・入院患者とも徐々に増加し、それに伴い本年度年間手術件数は約750例であった。来年度はさらに増える見通しで地域における基幹病院として、また千葉北部地区の学会・研究会にも積極的に参加し、その重責を担っていると自負している。

1) 胃癌、大腸癌さらに肝胆膵の癌を中心とした消化器癌に乳癌、甲状腺癌を加えた悪性疾患が主たる対象疾患で、特に食道、胃、大腸癌が多く、これらに対し手術、化学療法を組み合わせた集学的治療を行っている。また胃、大腸の早期癌に対しては従来よりEMRを行っているが、腹腔鏡下胆摘手術をさらに発展させ他臓器にも腹腔鏡下外科的切除を積極的に取り入れている。

2) 良性疾患には従来の手技、手法を基本に、新しい手技を取り入れている。

3) 院内において内科、放射線科、病理部、看護部と合同 conference を定期的に行っており、個々の症例について臨床的検討をより深めている。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Seya T, Tanaka N, Yokoi K, Ishikawa N, Horiba K, Kanazawa Y, Yamada T, Koizumi M, Shinji S, Yamashita K, Tajiri T<sup>1)</sup>, Naitou Z<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surg. , <sup>2)</sup>Dept. of Pathol. , <sup>3)</sup>Dept. of Pathol. Chiba Hokusoh Hp. ): Correlation between lumican expression and intestinal metaplasia in human Gastric cancer . 11th United European Gastroenterology Week ( Madrid ( Spain ) ), 2003 . 11 .
- 2) Tanaka N, Seya T, Yokoi K, Horiba K, Kanazawa Y, Yamada T, Takahashi Y, Koizumi M, Shinji S, Yamashita K, Tajiri T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>1st Dept. of Surg. , <sup>2)</sup>Dept. of Pathol. , <sup>3)</sup>Dept. of Pathol. Chiba Hokusoh Hp. ): Expression of type IV collagen and matrix metalloproteinase-9 ( MMP-9 ) in gastric cancer . 11th United European Gastroenterology Week ( Madrid ( Spain ) ), 2003 . 11 .
- 3) Shinji S, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka N, Seya T, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surg. , <sup>2)</sup>Dept. of Pathol. ): Lumican Expression In Human Carcinoid Tumor . 11th United European Gastroenterology Week ( Madrid ( Spain ) ), 2003 . 11 .
- 4) Shinji S, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka N, Furukawa K<sup>1)</sup>, Takasaki H<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Aida K<sup>1)</sup>, Seya T, Kan H<sup>1)</sup>, Matuda A<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Surg. , <sup>2)</sup>Dept. of Pathol. ) : Ts, Dpd, Tp, Oprt Gene Expression In Colorectal Carcinoma Using Rt-PCR After Laser Capture Microdissection ( LCM ) From Paraffin Embedded Samples . 11th United European Gastroenterology Week ( Madrid ( Spain ) ), 2003 . 11 .
- 5) Seya T, Tanaka N, Kyono S, Yokoi K, Ishikawa N, Kanazawa Y, Yamada T, Takahashi Y, Koizumi M, Shinji S, Teranishi N, Tajiri T<sup>1)</sup>, Yamashita Kiyohiko ( <sup>1)</sup>1st Dept. of Surg. ): Autonomic Nerve preservation combined to extended lateral lymphadenectomy for advanced colorectal cancer . 13th World Congress of the international association of surgeons and gastroenterologists ( Lisbon ( Portugul ) ), 2003 . 12 .
- 6) 山田岳史, 田中宣威, 山下精彦, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 瀧田雅仁, 白川 毅, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第1 ): 胃過形成性ポリープより発生したと考えられる早期胃癌の1例 . 第76回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003 . 6 .

- 7) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 京野昭二, 山下精彦, 大秋美治<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 胃癌における MMP-9IV 型コラーゲンの発現. 第103回日本外科学会総会, 2003. 6.
- 8) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 山下精彦, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌, 癌性胸水貯留例における Paclitaxel (TXL) の使用経験-胸水中濃度の検討. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 9) 田中宣威, 瀬谷知子, 横井公良, 金沢義一, 山田岳史, 高橋由至, 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山下精彦, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 小泉岐博(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 大腸癌肝転移症例における MMP-9 と Lumican の発現. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 10) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 田中宣威, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 瀬谷知子, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): Laser Capture Microdissection を用いた RT-PCR 法による大腸癌切除パラフィン包埋標本における核酸代謝酵素の mRNA 発現量の検討. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 11) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 金沢義一, 山田岳史, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 早期大腸癌における Lumican の発現. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 12) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 山下精彦, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌症例における Paclitaxel の胸水内濃度の測定. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 13) 横井公良, 田中宣威, 京野昭二, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 大秋美治<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): GIST22例の臨床病理学的検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 14) 堀場光二, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 工藤秀徳, 吉岡正人, 小野寺浩之, 瀧田雅仁, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 早期胃癌および食道癌の異時性重複癌に対し鏡視下手術にて治癒切除し得た高齢者の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 15) 川東 豊, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 瀧田雅仁, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 小野寺浩之, 滝沼大輔, 山下精彦: 胃全摘後9年目に吻合部より突然大量出血を来した1例. 第77回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003. 11.
- 16) 張 一光, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 小泉岐博, 工藤秀徳, 吉岡正人, 小野寺浩之, 佐々木順平, 山下精彦: 多発胃癌が発生した多重複癌(子宮, 膀胱, 乳癌, 脳腫瘍)の1例. 第792回外科集談会, 2004. 3.
- 17) 瀬谷知子, 工藤秀徳, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 吉岡正人, 小野寺浩之, 山下精彦, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部): 肺癌小腸転移穿孔による汎発性腹膜炎の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- 18) 進士誠一, 田中宣威, 瀬谷知子, 山下精彦, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 堀場光二, 瀧田雅仁, 高橋由至, 小泉岐博, 大秋美治<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): ダグラス窩膿瘍を形成したS状結腸癌の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.

## 10．外科学第二講座

### [ 付属病院第 2 外科 ( 内分泌外科・心臓血管外科・呼吸器外科 )・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ]

#### 研究概要

外科学第二講座は付属病院第二外科，第二病院外科，第二病院消化器病センター，千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科，多摩永山病院呼吸器外科の各施設において教育，研究，診療を担っている．付属病院第二外科では，以下の項目を重点的に研究している．

1) 心臓血管外科部門では，冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間600例以上の手術を行っている．虚血性心疾患外科治療，心房細動を中心とした不整脈外科，心筋保護法，小児開心術術式等に関する研究を主体としている．胸部大動脈瘤手術成績や末梢血行再建術式に関する研究にも積極的に取り組んでいる．

2) 呼吸器外科領域では，肺癌外科治療を中心に年間200例の手術を施行している．肺癌では1994年より低侵襲性手術である胸腔鏡補助下手術を他に先駆けて導入し高齢者，低身体機能を有する予備力低下症例に応用し良好な結果をあげ，国内外で高い評価を受けている．併せて分子生物学，遺伝子解析による肺癌に対するオーダーメイド治療の研究を国内外で積極的に行っている．さらに肺縦隔良性疾患，多汗症などの機能的疾患には胸腔鏡下手術による短期入院での治療を実践し，社会的に貢献している．

3) 内分泌外科領域では，甲状腺，副甲状腺，副腎および乳腺疾患を対象に年間約200例の手術を行っている．1998年からは内視鏡下手術として，副腎はもとより甲状腺，副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式のVideo-assisted neck surgery (VANS法)を国内外で最も早く取り組み高度先進医療として国から認められている．全国各地からの紹介患者も多く，また，海外からの評価も高く，国際学会での発表，ライブ手術も頻回に行っている．さらには，遺伝子学を中心に基礎研究も積極的におこなっている．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yoshino N<sup>1)</sup>, Hisayoshi T<sup>1)</sup>, Sasaki T<sup>1)</sup>, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Oaki Y<sup>2)</sup>, Hino M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Thoracic Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital ): Human Pulmonary Dirofilariasis In A Patient Whose Clinical Condition Altered During Follow-Up . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2003 ; 51 ( 5 ): 211-213 .
- 2) Hirata T, Koizumi K, Tanaka S : Change In Hemodynamics In Patients Who Underwent Extended Mediastinal Lymphadenectomy Through Median Sternotomy For Primary Lung Cancer . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2003 ; 51 ( 5 ): 178-185 .
- 3) Kitagawa W, Shimizu K, Akasu H, Tanaka S : Endoscopic neck surgery with lymph node dissection for papillary carcinoma of the thyroid using a totally gasless anterior neck skin lifting method . J Am Coll Surg 2003 ; 196 ( 6 ): 990-994 .
- 4) Kawashima T, Wanabe Y, Enomoto Y, Narazaki H, Watari E, Tanaka S, Takahashi H, Yano I, Michael BBrenner, Norose Y : Major CD8 T cell Response to live Bacillus Calmette-Guerin Is Mediated by CD1 Molecules . J Immunology 2003 ; 170 ( 11 ): 5345-5348 .
- 5) Ishii Y, Nitta T, Sakamoto Shun-ichiro, Tanaka S, Asano G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): Incisional

atrial reentrant tachycardia : Experimental study on the conduction property through the isthmus . The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2003 ; 126 ( 1 ) : 254-262 .

- 6 ) Sakamoto S , Ochi M , Bessho R , Ishii Y , Tanaka S : Perioperative myocardial infarction in patients undergoing off-pump coronary artery bypass grafting . The Japanese journal of thoracic and cardiovascular surgery 2003 ; 51 ( 8 ) : 393-396 .
- 7 ) Shimizu K , Nakajima Y , Kitagawa W , Akasu H , Takatsu K , Ishii R , Tanaka S : Surgical Therapy in Hashimoto's Thyroiditis . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ) : 34-39 .
- 8 ) Akaishi J , Yamauchi H , Ochi M , Ogawa S<sup>1)</sup> , Asou T<sup>2)</sup> , Tanaka S ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Kitasato University ) : One and a Half Ventricle Repair for Ebstein's Anomaly . The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2003 ; 51 ( 12 ) : 665-668 .
- 9 ) Takahashi Y<sup>1)</sup> , Takayama M<sup>1)</sup> , Sato N<sup>2)</sup> , Nitta T , Tanaka S , Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Coronary Care Unit ) : Restoration of endothelial function after repaired coarctation of the aorta - a case report . Angiology 2003 ; 54 : 609-611 .
- 10 ) Ochi M , Hatori N , Yamada K , Saji Y , Tanaka S : A simple less invasive method of radial artery harvesting in coronary artery surgery . J Cardiovasc Surg 2003 ; 44 ( I. F. 0. 573 ) : 223-225 .
- 11 ) Ochi M , Hatori N , Kanno S , Yamada K , Saji Y , Tanaka S : Coronary artery bypass grafting without cardiopulmonary bypass : A five-year experience . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 : 157-164 .
- 12 ) Koizumi K , Haraguchi S<sup>1)</sup> , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Fukushima M , Okada D , Yamagishi S , Enomoto Y , Nakayama K , Akiyama H<sup>2)</sup> , Tanaka S ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Second Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Saitama Cancer Center ) : Lobectomy by Video-Assisted Thoracic Surgery for Lung Cancer Patients aged 80 years or more . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2003 ; 9 ( 1 ) : 14-21 .
- 13 ) Koizumi K , Haraguchi S<sup>1)</sup> , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Fukushima M , Okada D , Yamagishi S , Nakajima Y , Tanaka S ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Second Hospital ) : Video-assisted lobectomy for a lung cancer patient with chronic obstructive pulmonary disease . Jpn J Thoracic Cardiovasc Surg 2003 ; 51 ( 11 ) : 569-576 .
- 14 ) Kanno S , Kovacs A<sup>1)</sup> , Kathryn Yamada A<sup>1)</sup> , Saffitz Jeffrey E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Washington University ) : Connexin43 as a determinant of myocardial infarct size following coronary occlusion in mice . J Am Coll Cardiol 2003 ; 41 : 681-686 .
- 15 ) Veeramachaneni NK<sup>1)</sup> , Kubokura H , Lin L<sup>1)</sup> , Pippin JA<sup>1)</sup> , Patterson GA<sup>1)</sup> , Drebin JA<sup>1)</sup> , Battafarano RJ ( <sup>1)</sup> Washington University School of Medicine, Dept. of Surgery ) : Down-regulation of beta catenin inhibits the growth of esophageal carcinoma cells . J Thorac Cardiovasc Surg 2004 ; 127 : 92-98 .
- 16 ) Cristian C<sup>1)</sup> , Nancy G<sup>2)</sup> , Roger K<sup>3)</sup> , Ramaprasad S<sup>1)</sup> , Othon M<sup>1)</sup> , Igarashi T , Linda M G<sup>5)</sup> , WMarston L<sup>1)</sup> , Richard W C<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Urologic Oncology Branch , <sup>2)</sup> National Cancer Institute ( NCI ) , Office of Biostatistics Research , <sup>3)</sup> National Heart, Lung, and Blood Institute ( NHLBI ) : Department of Laboratory Medicine , <sup>4)</sup> Department of Transfusion Medicine , <sup>5)</sup> Warren Magnuson Clinical Center ; and the Hematology Branch, NHLBI, all at the National Institutes of Health, Bethesda, MD > ) : Prior chemotherapy and allograft CD34 dose impact donor engraftment following nonmyeloablative allogeneic stem cell transplantation in patients with solid tumors . Blood 2004 ; 103 ( 4 ) : 1560-1563 .
- 17 ) Takahashi Y<sup>1)</sup> , JPhilip McC<sup>2)</sup> , JrCristian C<sup>3)</sup> , Candido R<sup>4)</sup> , Igarashi T<sup>1)</sup> , Ramaprasad S<sup>3)</sup> , Ncal S Y<sup>1)</sup> , Richard W C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Hematology Branch , <sup>2)</sup> Flow Cytometry Core Facility , <sup>3)</sup> National Heart, Lung, and Blood Institute, Bethesda, MD ; Urologic Oncology Branch , <sup>4)</sup> National Cancer Institute, Bethesda, MD ; and Department of Laboratory Medicine , <sup>5)</sup> Warren Magnuson Clinical Center, National Institutes of Health, Both-

- esda, MD. ): In vitro and in vivo evidence of PNH cell sensitivity to immune attack after nonmyeloablative allogeneic hematopoietic cell transplantation . *Blood* 2004 ; 103 ( 4 ) : 1383-1390 .
- 18 ) Francesca R<sup>1)</sup>, Ramaprasad S<sup>2)</sup>, Igarashi T<sup>2)</sup>, Franco M<sup>3)</sup>, Richard C<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> H. S. Raffaele Scientific Institute, Milan, Italy , <sup>2)</sup> Hematology Branch, National Heart, Lung, and Blood Institute, Bethesda, MD, USA , <sup>3)</sup> Immunogenetics Section, Department of Transfusion Medicine, Clinical Center, National Institutes of Health, Bethesda, MD, USA ): Green fluorescent protein expression in dendritic cells enhances their immunogenicity and elicits specific cytotoxic T-cell responses in humans . *Experimental Hematology* 2004 ; 32 ( 2 ) : 210-217 .
- 19 ) Shimura T<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>1)</sup>, Shimizu K , Miyashita T<sup>2)</sup>, Adachi K<sup>3)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Academic Quality and Development office , <sup>2)</sup> Department of Radiology , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery ): Implementation of Integrated Medical Curriculum in Japanese Medical Schools . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 1 ) : 11-16 .
- 20 ) Srinivasan R<sup>1)</sup>, Chakrabarti S<sup>1)</sup>, Walsh T<sup>1)</sup>, Igarashi T , Takahashi Y<sup>1)</sup>, Kleiner D<sup>1)</sup>, Donohue T<sup>1)</sup>, Shalabi R<sup>1)</sup>, Carvallo C<sup>1)</sup>, Barrett AJ<sup>1)</sup>, Geller N<sup>1)</sup>, Childs R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Hematology Branch, National Heart, Lung and Blood Institute, National Institutes of Health, Bethesda, MD 20892-1652, USA ): Improved survival in steroid-refractory acute graft versus host disease after nonmyeloablative allogeneic transplantation using a daclizumab-based strategy with comprehensive infection prophylaxis . *Br J Haematol* 2004 ; 24 ( 6 ) : 777-786 .
- 21 ) Nitta T , Ishii Y , Miyagi Y , Ohmori H , Sakamoto S , Tanaka S : Concurrent multiple left atrial focal activations with fibrillatory conduction and right atrial focal or reentrant activation as the mechanism in atrial fibrillation . *J Thorac Cardiovasc Surg* 2004 ; 127 : 770-778 .
- 22 ) 赤石純子 , 小泉 潔 , 平井恭二 , 原口秀司 , 田中茂夫 , 川本雅司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第1 ) : 肺原発 MALT Lymphoma の1例 . *肺癌* 2003 ; 43 ( 1 ) : 41-45 .
- 23 ) 別所竜蔵 , 田中茂夫 : 心室細動とICD . ICUとCCU 2003 ; 27 ( 5 ) : 393-402 .
- 24 ) 北川 亘 , 清水一雄 , 赤須東樹 , 田中茂夫 : 原発性上皮小体機能亢進症に対する術中シンチグラフィ併用のラジオガイド下手術 . *臨床外科* 2003 ; 58 ( 6 ) : 827-830 .
- 25 ) 北川 亘 , 清水一雄 , 赤須東樹 : 改良型ラッププロテクターを用いた頸部内分泌外科手術 . *外科* 2003 ; 65 ( 6 ) : 702-705 .
- 26 ) 北川 亘 , 清水一雄 , 赤須東樹 : 内分泌外科シリーズ第10報 : 腎性上皮小体 ( 副甲状腺 ) 機能亢進症の診断と外科治療 . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 3 ) : 278-282 .
- 27 ) 福島光浩 , 小泉 潔 , 中島由貴 , 宮本哲也 , 榎本 豊 , 山岸茂樹 , 岡田大輔 , 川島徹生 , 平井恭二 , 原口秀司<sup>1)</sup> , 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 第二病院外科 ) : 右胸腔内に穿孔した縦隔発生成熟奇形腫の1例 . *日本呼吸器外科学会雑誌* 2003 ; 17 ( 6 ) : 666-671 .
- 28 ) 北川 亘 , 赤須東樹 , 清水一雄 : 術前・術後のサーベイランスプログラム 副甲状腺 原発性副甲状腺機能亢進症 . *外科* 2003 ; 65 ( 12 ) : 1615-1619 .
- 29 ) 渡邊秀裕<sup>1)</sup> , 鈴木成治<sup>1)</sup> , 江上 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ) : 高齢者における重複癌 ( 胃癌を中心に ) . *日本高齢消化器医学会誌* 2003 ; 5 ( 2 ) : 44-49 .
- 30 ) 小泉 潔 : 呼吸器外科における胸腔鏡手術 . *呼吸器科* 2003 ; 4 ( 3 ) : 257-266 .
- 31 ) 小泉 潔 , 平田知己 , 平井恭二 , 三上 徹 , 福島光浩 , 窪倉浩俊 , 山岸茂樹 , 原口秀司<sup>1)</sup> , 秋山博彦<sup>3)</sup> , 吉野直之<sup>2)</sup> , 岡田大輔 , 清水一雄 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院外科 , <sup>2)</sup> 同千葉北総病院胸部外科 , <sup>3)</sup> 埼玉県立がんセンター胸部外科 ) : 胸腔鏡下呼吸器手術800例における合併症の検討 . *胸部外科* 2003 ; 56 ( 11 ) : 932-937 .
- 32 ) 山内仁紫 , 落 雅美 , 赤石純子 , 大森裕也 , 檜山和弘 , 佐地嘉章 , 藤井正大 , 内木場庸子<sup>1)</sup> , 小川俊一<sup>1)</sup> , 清水一雄 ( <sup>1)</sup> 小児科学 ) : 川崎病巨大冠動脈瘤に対する外科治療 . *日本小児循環器学会雑誌* 2004 ; 20 ( 2 ) : 28-33 .



(2) 綜説：

- 1) 浅野 健<sup>1)</sup>, 内木場庸子<sup>1)</sup>, 蔡 靈芝<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 清水一雄, 福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学,<sup>2)</sup>外科学第1): 左下咽頭梨状窩瘻からの感染による急性化膿性甲状腺炎の1女児例. J Nippon Med Sch 2002; 69(6): 593-596.
- 2) 川島徹生, 杉田昌彦: CD1を介した脂質抗原提示. 医学のあゆみ 2003; 205(1): 41-45.
- 3) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹: 吊り上げ法を用いた内視鏡補助下甲状腺手術: 200例の経験から得られた標準術式(VANS法). 日本内視鏡外科学会 2003; 8(3): 217-222.
- 4) 小泉 潔, 原口秀司<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院外科,<sup>2)</sup>埼玉県立がんセンター胸部外科): 肺癌手術における胸腔鏡の役割. 医学のあゆみ 2003; 206(13): 961-964.
- 5) 新田 隆: 心房細動手術の適応と方法. Heart View 2003; 7: 510-516.
- 6) 新田 隆: 左室形成術における不整脈治療戦略. Cardiovascular Med-Surg 2003; 5: 187-194.
- 7) 落 雅美: 冠動脈の臨床: 21世紀の診断・治療体系: 不安定狭心症の手術適応. 日本臨床 2003; 61(5): 216-221.
- 8) 落 雅美: 川崎病による冠動脈狭窄病変に対する外科的治療の適応と方法. 小児内科 2003; 35(9): 1595-1597.
- 9) 榎本 豊, 杉田昌彦(<sup>1)</sup>微生物学・免疫学): CD1分子を介した結核菌脂質抗原の提示. 臨床免疫 2004; 41(1): 83-87.
- 10) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹: 甲状腺病変に対する内視鏡補助手術. 臨床外科 2004; 59(2): 119-125.
- 11) 川島徹生, 渡理英二, 杉田昌彦: 結核菌に対するCD8<sup>+</sup>T細胞応答性はCD1分子が関与する. 臨床免疫 2004; 41(3): 304-308.

(3) 研究報告書：

- 1) 三井利夫<sup>1)</sup>, 山口 巖<sup>1)</sup>, 相澤義房<sup>1)</sup>, 池口 滋<sup>1)</sup>, 岡部富士子<sup>1)</sup>, 小川 聡<sup>1,2)</sup>, 笠貫 宏<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 岸良示<sup>1)</sup>, 久賀圭祐<sup>1)</sup>, 栗田隆志<sup>1)</sup>, 小坂井嘉夫<sup>1)</sup>, 相良耕一<sup>1)</sup>, 里美和浩<sup>1)</sup>, 下村克朗<sup>1)</sup>, 杉 薫<sup>1)</sup>, 高柳 寛<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1,2)</sup>, 堀 原一<sup>1)</sup>, 松本直樹<sup>1)</sup>, 三崎拓郎<sup>1)</sup>, 三田村秀雄<sup>1)</sup>, 坂本 徹<sup>2)</sup>, 山口 徹<sup>3)</sup>, 渡辺重行<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本心臓ペースメーキング・電気生理学学会,<sup>2)</sup>日本胸部外科学会,<sup>3)</sup>日本循環器学会): 不整脈に起因する失神例の運転免許取得に関する診断書作成と適性検査施行の合同検討委員会ステートメント. 不整脈 2004; 19: pp502-512.

(4) ディスカッション：

- 1) Nitta T: Physiological consequences of bipolar radiofrequency energy on the atria and pulmonary veins: a chronic animal study. Ann Thorac Surg 2003; 76: 836-842.

著 書

- 1) 福島光浩, 小池輝明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新潟県立がんセンター呼吸器外科): [分担] XVIII 高齢者肺癌に対する外科療法. 日本臨床 60巻 増刊号 肺癌の診断と治療: 最新の研究動向, 2002; pp587-590, 日本臨床.
- 2) 小泉 潔: [分担] 低肺機能合併肺癌に対する治療, 戦略, 機能温存と治癒度に関して. 重症胸部外科疾患の治療指針(日本胸部外科学会卒後教育委員会), 2003; pp220-231, 大村印刷.
- 3) 清水一雄: [分担] IV 手術手技: 7 内視鏡(補助)下手術: 前胸部アプローチ. 標準手術アトラス(改訂版)(日本内分泌外科学会), 2003; pp90-96, (株)インターメルク.
- 4) 田中茂夫: [分担] 第17章ペースメーカー 1 ペースメーカーの分類と適応. 新不整脈学(杉本恒明・井上博), 2003; pp582-587, 南江堂.
- 5) 田中茂夫, 羽鳥信郎: [分担] 第17章ペースメーカー 6 植込み型除細動器のメガトライアルの総括. 新不整脈学(杉本恒明・井上博), 2003; pp604-607, 南江堂.

- 6) 田中茂夫：〔編集〕心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），2003；pp1-85，医薬ジャーナル社。
- 7) 別所竜蔵：〔分担〕ICDの原理と構造．インフォームドコンセントのための図説シリーズ 心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），2003；pp58-61，医薬ジャーナル。
- 8) 別所竜蔵：〔分担〕ICDの種類．インフォームドコンセントのための図説シリーズ 心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），2003；pp68-71，医薬ジャーナル。
- 9) 別所竜蔵：〔分担〕ICD植込み術式．インフォームドコンセントのための図説シリーズ 心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），2003；pp72-75，医薬ジャーナル。
- 10) 新田 隆：〔分担〕心房細動の外科治療．新不整脈学（井上 博・杉本恒明），2003；pp313-316，南江堂。
- 11) 新田 隆：〔分担〕心房細動手術の適応と実際．最新医学 別冊・新しい診断と治療のABC：心房細動（笠貫宏），2003；pp186-195，最新医学。
- 12) 新田 隆：〔分担〕植込み型除細動器：どのような患者が対象となるか．インフォームドコンセントのための図解シリーズ：心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），2003；pp62-67，医薬ジャーナル社。
- 13) 別所竜蔵，田中茂夫：〔分担〕心臓ペースメーカーの選択と植込み患者の管理．循環器疾患最新の治療 2004-2005（山口 徹・堀 正二（編集）），2004；pp319-324，南江堂。
- 14) 新田 隆：〔分担〕不整脈の外科治療．循環器疾患最新の治療 2004-2005（山口 徹・堀 正二），2004；pp335-341，南江堂。
- 15) 新田 隆：〔分担〕III - 治療 1 心房細動患者の治療：リズムを管理する C. 外科治療．心房細動（山下武志），2004；pp192-198，メジカルビュー社。

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Takatsu K, Ishii R, Akaishi J, Asayama I<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>金地病院)：Minimally Invasive Video-Assisted Endoscopic Endocrine Neck Surgery Using Totally Gasless Skin Lifting Method-Establishment of Procedure Based on 220 Cases of Experience．6th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ( Malaysia ), 2003．9．
- 2) 清水一雄：1．甲状腺・副甲状腺疾患に対する内視鏡手術：200例の経験2．橋本病の手術適応．第5回ゆりかもめ内分泌・代謝懇話会，2003．2．
- 3) 清水一雄：甲状腺，上皮小体に対する内視鏡手術200例の経験から得た手術手技と成績．第20回信州内分泌談話会プログラム，2003．3．
- 4) 田中茂夫：心臓ペースメーカーとICD（植込み型除細動器），最近の進歩（田原 淳顕彰公開シンポジウム 心臓の刺激伝導系の発見から100年）．日本心臓ペースング・電気生理学会，2003．9．
- 5) 清水一雄：吊り上げ法を応用した内視鏡補助下甲状腺・副甲状腺手術（VANS法）230例の経験：工夫と改善．第7回栃木県内視鏡外科研究会，2003．9．
- 6) 落 雅美：虚血性心疾患の外科治療の最前線．日本医科大学同窓会関西支部総会，2003．10．
- 7) 落 雅美：多枝再建off-pump CABGの“THE KEY TO SUCCESS”：NMS experience．第56回日本胸部外科学会総会ランチョンセミナー，2003．11．
- 8) 清水一雄：1．吊り上げ法を応用した内視鏡補助下甲状腺・副甲状腺手術250例の検討：改善と工夫 2．外科的治療が必要となる橋本病はあるか？．第32回中国四国甲状腺外科研究会，2004．1．

##### (2) 招待講演：

- 1) Nitta T：Live-narrated Surgery Demonstration：The Radial Procedure and Beyond：Map-guided AF Surgery．3rd Annual Conference on the Surgical Treatment of Atrial Fibrillation ( San Francisco, CA ), 2003．6．

- 2) Nitta T : Hands-on Laboratory : The Radial Procedure . 3rd Annual Conference on the Surgical Treatment of 2003 Atrial Fibrillation ( San Francisco, CA ), 2003 . 6 .
  - 3) Nitta T : Radial Approach ; Rationale and clinical results . 5th Annual Symposium : 2003 Update in Coronary Artery Surgery ( Seoul, Korea ), 2003 . 11 .
  - 4) Nitta T : Electrophysiological Mechanism of AF : Intraoperative Mapping Study . 14th Asian Pacific Congress of Cardiology ( Singapore ), 2004 . 1 .
  - 5) Nitta T : Radial Procedure for AF : Why is this my Choice? . 14th Asian Pacific congress of Cardiology ( Singapore ), 2004 . 1 .
  - 6) Nitta T : Setting Up an Optimal Program for AF Treatment in Your Hospital . 14th Asian Pacific Congress of Cardiology ( Singapore ), 2004 . 1 .
  - 7) Nitta T : Map-guided AF Surgery . 4th Annual Conference on the Surgical Treatment of 2004 Atrial Fibrillation ( San Antonio, TX ), 2004 . 1 .
  - 8) Nitta T : Hands-on Laboratory : The Radial Procedure . 4th Annual Conference on the Surgical Treatment of 2004 Atrial Fibrillation ( San Antonio, TX ), 2004 . 1 .
  - 9) 小泉 潔, 原口秀司<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>3)</sup>, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 山岸茂樹, 岡田大輔, 榎本 豊, 川島徹生, 木下裕康, 宮本哲也, 岡本淳一, 中山景介, 中島由貴, 久吉隆郎<sup>2)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院外科, <sup>2)</sup>同千葉北総病院胸部外科, <sup>3)</sup>埼玉県立がんセンター胸部外科 ): 肺癌に対する胸腔鏡下手術 . 第43回日本呼吸器学会総会, 2003 . 3 .
  - 10) 新田 隆 : 心房細動手術の新しい展開 . 第4回寒風山ハートクラブ研究集会, 2003 . 5 .
  - 11) 小泉 潔, 清水一雄, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 山岸茂樹, 岡田大輔, 榎本 豊, 川島徹生, 木下裕康, 宮本哲也, 岡本淳一, 中山景介, 中島由貴, 原口秀司<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>2)</sup>, 山本英希<sup>2)</sup>, 吉野直之<sup>3)</sup>, 秋山博彦<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院外科, <sup>2)</sup>同永山病院外科・呼吸器外科, <sup>3)</sup>同千葉北総病院胸部外科, <sup>4)</sup>埼玉県立がんセンター胸部外科 ): 外科系手術トレーニングの現状・胸腔鏡手術トレーニング ( 外科系手術トレーニングの現状 ). 第28回日本外科系連合学会, 2003 . 6 .
  - 12) 新田 隆 : 心房細動の手術: 最近の新しい展開 . 第5回瀬戸内循環器ディベートセミナー, 2003 . 8 .
  - 13) 新田 隆 : 心房細動の発生機序と内科的, 外科的治療の現況 . 第296回東京保険医協会循環器研究会, 2003 . 10 .
  - 14) 新田 隆 : 外科マッピング最近の所見 . 第10回長久手不整脈勉強会, 2003 . 11 .
  - 15) 小泉 潔, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 山岸茂樹, 吉野直之<sup>2)</sup>, 岡田大輔, 木下裕康, 榎本豊, 宮本哲也, 岡本淳一, 中島由貴, 中山景介, 清水一雄 ( <sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院胸部外科 ): これではトラブルは防げる : VATSで失敗しないための手技テクニック . 第56回日本胸部外科学会総会, 2003 . 11 .
  - 16) 新田 隆 : 心房細動に対する外科治療 . 第20回千葉循環器談話会, 2004 . 2 .
  - 17) 新田 隆 : 心房細動の治療: 最近の動向 . 会津医学会学術講演会, 2004 . 3 .
- (3) 教育講演 :
- 1) 新田 隆 : 合併症とその対策 . 第9回植込み型除細動器 ( ICD ) 研修セミナー, 2003 . 5 .
  - 2) 新田 隆 : ミニコースII : 「他人に教えたくないコツ」 : ペースメーカー・ICDの手術 . 第4回EPサマーセミナー, 2003 . 7 .
  - 3) 新田 隆 : 第6回JCC-ACCジョイントシンポジウム・突然死の予防 : 植込み型除細動器の効用 . 第51回日本心臓病学会, 2003 . 9 .
  - 4) 新田 隆 : 補助人工心臓の最近の動向 . 千駄木脈管カンファランス, 2003 . 9 .
  - 5) 新田 隆 : 心房細動発生機序, 内科的・外科的治療の現況 . 第189回練馬内科医会, 2003 . 12 .
  - 6) 落 雅美 : 心拍動下冠動脈バイパス術 : In situ 動脈グラフトによる多枝血行再建 . 第2回心拍動下冠動脈バイパス術セミナー, 2004 . 1 .

7) 新田 隆：モーニングセミナー：心房細動手術におけるデバイス治療の現況と将来．第34回日本心臓血管外科学会総会，2004．2．

8) 落 雅美：川崎病冠動脈病変に対する外科治療．川崎市医師会合同研究会，2004．2．

(4) シンポジウム：

1) Shimizu K：Endoscopic Thyroid and Parathyroid Laparoscopic Surgery．International Symposium on Laparoscopic Surgery (Riyadh, Saudi Arabia)，2003．10．

2) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H：Endoscopic Total Thyroidectomy for a Familial Medullary Thyroid Carcinoma．The 9th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (Taiwan)，2004．3．

3) 新田 隆, 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 大森裕也, 佐地嘉章, 宮城泰雄, 石井庸介, 大久保直子, 山田研一, 菅野重人, 矢島俊巳, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科 ): マップガイド下心房細動手術．第18回日本心臓ペースング電気生理学学会学術大会，2003．5．

4) 新田 隆, 大森裕也, 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 宮城泰雄, 石井庸介, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ): 慢性心房細動におけるエンリーの関与と手術による停止．第18回日本心臓ペースング電気生理学学会学術大会，2003．5．

5) 新田 隆, 佐々木孝, 大森裕也, 宮城泰雄, 佐地嘉章, 檜山和弘, 大久保直子, 山田研一, 菅野重人, 矢島俊巳, 田中茂夫：ICDの作動状況からみた自動車運転の可否．第18回日本心臓ペースング電気生理学学会学術大会，2003．5．

6) 清水一雄：甲状腺乳頭癌に対する内視鏡補助下甲状腺片葉切除とリンパ節隔清．第41回日本癌治療学会総会，2003．10．

7) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 田中久美, 赤石純子, 中島由貴, 軸園智雄：吊り上げ法による内視鏡補助下パセドウ病甲状腺亜全摘術，家族性甲状腺髄様癌全摘術の経験．第16回日本内視鏡外科学会総会，2003．12．

8) 田中啓治<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 新田 隆, 落 雅美 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 虚血性心不全の病型分類と病態に基づいた最新の治療．第17回日本冠疾患学会，2003．12．

(5) パネルディスカッション：

1) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫：内視鏡補助下頸部内分泌手術 (VANS法) の問題点と工夫．第103回日本外科学会定期学術集会，2003．6．

(6) ワークショップ：

1) 新田 隆：ランチョンワークショップ：Map-guided AF．第34回日本心臓血管外科学会総会，2004．2．

(7) プレナリーセッション：

1) 新田 隆, 坂本俊一郎, 大森裕也, 檜山和弘, 佐地嘉章, 宮城泰雄, 菅野重人, 清水一雄：Map-guided Surgery for Atrial Fibrillation．第68回日本循環器学会学術集会，2004．3．

(8) 一般講演：

1) 川島徹生, 西村仁志, 秋山博彦, 山本光伸：若年者肺癌 (40歳未満) 手術症例の検討．日本肺癌学会総会，2003．11．

2) Fukushima M, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Koizumi K, Hirai K, Yamagishi S, Okada D, Kawashima T, Enomoto Y, Miyamoto T, Okamoto J, Tanaka S ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology ): Elastosis of lung carcinoma．8th Central European Lung Cancer Conference (Wien, Austria)，2002．9．

3) Koizumi K, Hirata T, Hirai K, Fukushima M, Okada D, Yamagishi S, Miyamoto T, Nakayama K, Tanaka S：Video-Assisted Lobectomy for Lung Cancer Patients Combined with Chronic Obstructive Disease．2003 Surgical Association of Gastrointestinal Endoscopic Surgery (Los Angeles, US)，2003．3．

4) Veeramachaneni NK<sup>1)</sup>, Kubokura H, Lin L<sup>1)</sup>, Pippin JA<sup>1)</sup>, Patterson GA<sup>1)</sup>, Drebin JA<sup>1)</sup>, Battafarano RJ<sup>1)</sup>

- (<sup>1</sup>) Washington University School of Medicine, Dept. of Surgery ): Down-regulation of beta-catenin inhibits the growth of esophageal carcinoma cells . The American Association for Thoracic Surgery ( Boston USA ), 2003 . 5 .
- 5 ) Ishii Y , Marye J G<sup>1</sup> ) , M Carolyn G<sup>1</sup> ) , Richard B S<sup>1</sup> ) , John P B<sup>1</sup> ) , Marci S B<sup>1</sup> ) , Ralph J D, J<sup>1</sup> ) (<sup>1</sup>) Cardiothoracic Surgery, Washington University School of Medicine ): Perioperative atrial tachyarrhythmias after the Cox-MAZE procedure : Incidence and Prognosis . North American Society of Pacing and Electrophysiology ( NASPE ) , 2003 ( Washington D. C. , USA ) , 2003 . 5 .
- 6 ) Kubokura H<sup>1</sup> ) , Tanaka Y<sup>1</sup> ) , Nguyen K<sup>1</sup> ) , Nguyen V<sup>1</sup> ) , Goedegebuure P<sup>1</sup> ) , Battafarano RJ<sup>1</sup> ) (<sup>1</sup>) Washington University School of Medicine, Dept. of Surgery ): Inhibition of Lung and Esophageal Carcinoma Growth by CD40-CD40Ligand Interaction . American Association for Cancer Research ( Washington DC USA ) , 2003 . 7 .
- 7 ) Hirata T<sup>1</sup> ) , Nagai Hisaki<sup>1</sup> ) , Okino keiko<sup>1</sup> ) , komazaki T<sup>1</sup> ) , Tanaka S , Koizumi K , Emi M<sup>1</sup> ) (<sup>1</sup>) Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Comparison of Gene Profiles between N0 and N2 NSCLC using cDNA Microarray . American Association for Cancer Research 94th 2003 Annual Meeting ( Washington DC ) , 2003 . 7 .
- 8 ) Koizumi K , Haraguchi S<sup>1</sup> ) , Akiyama H<sup>2</sup> ) , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Fukushima M , Kubokura H , Yamagishi S , Okada D , Yoshino N<sup>3</sup> ) , Enomoto Y , Kinoshita H , Kawashima T , Miyamoto T , Okamoto J , Nakayama K , Nakajima Y , Shimizu K (<sup>1</sup>) Dept. of Surgery. Second Hospital, Nippon Medical School , <sup>2</sup>) Saitama Cancer Center , <sup>3</sup>) Respiratory Center, Thoracic Surgery. Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): What is advantage on Video-Assisted Lobectomy for Primary Lung Cancer . 10th World Conference On Lung Cancer ( Vancouver, CANADA ) , 2003 . 8 .
- 9 ) Tanaka K , Fukunari N<sup>1</sup> ) , Nagahama M<sup>1</sup> ) , Sugino K<sup>1</sup> ) , Ito K<sup>1</sup> ) , Shimizu K (<sup>1</sup>) Ito Hospital ): Long-term Effect of TSH Suppression Therapy on Papillary Carcinoma with Distant Metastasis . American Thyroid Association Annual 75th Meeting ( フロリダ, USA ) , 2003 . 9 .
- 10 ) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Sugino K<sup>1</sup> ) , Ito K<sup>1</sup> ) (<sup>1</sup>) 伊藤病院 ): Video-Assisted Endoscopic Total Thyroidectomy for a Familial Medullary Thyroid Carcinoma Patient ( Men2a ) Using Totally Gasless Anterior New Neck Skin Lifting Method . 6th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery ( Malaysia ) , 2003 . 9 .
- 11 ) Tanaka K , Fukunari N<sup>1</sup> ) , Nagahama M<sup>1</sup> ) , Sugino K<sup>1</sup> ) , Ito K<sup>1</sup> ) , Shimizu K (<sup>1</sup>) Ito Hospital ): Efficacy of TSH suppression therapy on papillary carcinoma with distant metastasis of iodine-131 ( whole-body ) scan negative . European Thyroid Association 29th Annual Meeting ( Edinburgh, UK ) , 2003 . 10 .
- 12 ) Ishii Y , Sydney L G<sup>1</sup> ) , Richard B S<sup>1</sup> ) , John P B<sup>1</sup> ) , Ralph J D, J<sup>1</sup> ) (<sup>1</sup>) Cardiothoracic Surgery, Washington University School of Medicine ): Inflammation of the atrium following cardiac surgery is associated with inhomogeneity of atrial conduction . American Heart Association Scientific Sessions 2003 ( Orlando, USA ) , 2003 . 11 .
- 13 ) Kutsukata N , Ochi M , Tanaka S , Erich-Dieter S<sup>1</sup> ) (<sup>1</sup>) Klinik fuer Gefaesschirurgie. Staetische Kliniken Esslingen. Germany ): Profundaplasty . The Third Meeting of Japanese German Society for Vascular Surgery ( Okinawa, Japan ) , 2004 . 3 .
- 14 ) Fujii M , Chambers D<sup>1</sup> ) (<sup>1</sup>) St Thomas' Hospital, Cardiac Surgical Research ): Esmolol and myocardial protection : a comparison of hyperkalemic cardioplegia to blood-based esmolol cardioplegia in blood-perfused rat hearts . Heart Failure/ISHR-ES Meeting 2003 ( Strasbourg, France ) , 2003 . 6 .
- 15 ) 天神敏博 , 吉野直之 , 三上 徹 , 田中茂夫 : 培養細胞に使用する Dimethyl Sulfoxide における細胞毒性の観察 . 第13回日本サイトメトリー学会 , 2003 . 6 .
- 16 ) 檜山和弘 , 落 雅美 , 羽鳥信郎 , 菅野重人 , 山田研一 , 佐地嘉章 , 宮城泰雄 , 大森裕也 , 佐々木孝 , 清水一

- 雄：超高齢者（80歳以上）に対するoff-pump CABG（OPCAB）手術成績の検討．第8回日本冠動脈外科学会学術大会，2003．7．
- 17) 檜山和弘，落 雅美，羽鳥信郎，矢島俊巳，菅野重人，山田研一，佐地嘉章，宮城泰雄，藤井正大，大森裕也，佐々木孝，清水一雄：「超高齢者（80歳以上）にoff-pump CABG（OPCAB）は妥当か？」：術前術後の諸因子からの検討．第56回日本胸部外科学会総会，2003．11．
- 18) 平田知己，永井尚久<sup>1)</sup>，小泉 潔，山岸茂樹，平井恭二，秋山博彦<sup>2)</sup>，西村仁志<sup>2)</sup>，角田達彦<sup>3)</sup>，江見 充，清水一雄（<sup>1)</sup>日本医大老人病研究所・分子生物学部門，<sup>2)</sup>埼玉癌センター胸部外科，<sup>3)</sup>理研遺伝子多型研究センター）：N0肺癌とN2肺癌の体系的遺伝子解析によるリンパ節転移関連遺伝子の研究．第44回日本肺癌学会総会，2003．11．
- 19) 檜山和弘，落 雅美，菅野重人，山田研一，佐地嘉章，宮城泰雄，藤井正大，大森裕也，佐々木孝，川瀬康裕，清水一雄：橈骨動脈グラフトの弛緩反応：塩酸オルプリンと塩酸パペレリンの比較検討．第34回日本心臓血管外科学会学術総会，2004．2．
- 20) Ohmori H，Nitta T，Miyagi Y，Sakamoto S，Ishii Y，Kanno S，Shimizu K：Electrophysiological Consequences of a Left Atrial Volume Load Plus Rapid Atrial Pacing：A Clinically Relevant Experimental Model for Permanent Atrial Fibrillation．第68回日本循環器学会総会，2004．3．
- 21) Kanno S，Betsuyaku T<sup>1)</sup>，Nitta T，Sasaki T，Ohmori H，Ochi M，Shimizu K（<sup>1)</sup>Hokkaido University）：Gap junction remodeling and ventricular arrhythmias in Cx43-deficient mice with myocardial infarction．第68回日本循環器学会学術集会，2004．3．
- 22) 森田典成<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，藤井正大，塚 宏一<sup>1)</sup>，藤田進彦<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，小野卓哉<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，岩崎裕樹<sup>2)</sup>，林 明聡<sup>2)</sup>，宮内 靖<sup>2)</sup>，平山悦之<sup>2)</sup>，小林義典<sup>2)</sup>，高山守正<sup>2)</sup>，加藤貴雄<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>，新田 隆，落 雅美，清水一雄（<sup>1)</sup>集中治療室，<sup>2)</sup>内科学第1）：Efficacy of biventricular pacing using epicardial lead system in patients with chronic heart failure．第68回日本循環器学会学術集会，2004．3．
- 23) 平田知己，江見 充<sup>1)</sup>，小泉 潔，原口秀司<sup>2)</sup>，西村仁志<sup>3)</sup>，秋山博彦<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所，<sup>2)</sup>同第二病院外科，<sup>3)</sup>埼玉がんセンター胸部外科）：C3G遺伝子の原発性肺癌における遺伝子異常の検討．第20回呼吸器外科学会総会，2004．5．
- 24) 中野純子，新田 隆，石井庸介，矢島俊巳，田中茂夫，林 明聡<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>内科学第1）：ICD植え込み患者の生存率に影響する要因．日本心臓ペースング・電気生理学学会，2002．5．
- 25) 福島光浩，小泉 潔，岡本淳一，宮本哲也，榎本 豊，山岸茂樹，岡田大輔，川島徹生，平井恭二，天神敏博，田中茂夫：超高齢者肺癌に対する外科治療．第19回日本呼吸器外科学会総会，2002．5．
- 26) 福島光浩，小泉 潔，平井恭二，山岸茂樹，宮本哲也，田中茂夫：超高齢者肺癌外科治療における胸腔鏡補助下手術の意義．第15回日本内視鏡外科学会総会，2002．9．
- 27) 福島光浩，小泉 潔，原口秀司<sup>1)</sup>，平田知己，平井恭二，三上 巖，山岸茂樹，榎本 豊，宮本哲也，田中茂夫（<sup>1)</sup>第二病院外科）：非小細胞肺癌手術症例におけるHER2/neuとp53発現の意義．第43回日本肺癌学会総会，2002．10．
- 28) 清水一雄：1．外科的甲状腺疾患に対する診断と治療 2．橋本病の治療．三重内分泌外科セミナー，2003．2．
- 29) 福島光浩，小泉 潔，平井恭二，山岸茂樹，川島徹生，木下裕康，榎本 豊，宮本哲也，田中茂夫：超高齢者肺癌症例に対する外科治療の意義．第43回日本呼吸器学会総会，2003．3．
- 30) 北川 亘，清水一雄，赤須東樹，高津圭介，石井律子：VANS法による甲状腺乳頭癌に対する手術．第15回日本内分泌外科学会総会，2003．4．
- 31) 福島光浩，泉山七生貴<sup>1)</sup>，仲村賢一<sup>1)</sup>，小泉 潔，田中茂夫，田久保海誉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>東京都老人総合研究所・高齢者の臓器と組織の研究グループ）：in situ hybridization法を用いた肺癌細胞におけるhTERT mRNA発現の検討．第92回日本病理学会総会，2003．4．

- 32) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 早期胃癌のリンパ節転移および再発死亡例の検討. 第89回日本消化器病学会総会, 2003. 4.
- 33) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>4)</sup>外科学第1): Microsatellite marker を用いた定量的 real time PCR 法における胃癌組織の DNA コピー数の検出と genetic instability に関する検討. 第89回日本消化器病学会総会, 2003. 4.
- 34) 吉野直之<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 免疫組織化学染色による検討を行った後縦隔傍神経節細胞腫の1例. 日本呼吸器外科学会, 2003. 5.
- 35) 大森裕也, 新田 隆, 矢島俊巳, 菅野重人, 石井庸介, 宮城泰雄, 檜山和弘, 佐地嘉章, 田中茂夫: 小開胸下心外膜電極縫着による両心室ペーシング. 日本心臓ペーシング電気生理学学会総会, 2003. 5.
- 36) 大森裕也, 新田 隆, 矢島俊巳, 菅野重人, 石井庸介, 宮城泰雄, 檜山和弘, 佐地嘉章, 田中茂夫: 小開胸下心外膜電極縫着による両心室ペーシング. 第33回日本心臓血管外科学会総会, 2003. 5.
- 37) 菅野重人, 別役徹生<sup>1)</sup>, 新田 隆, 宮城泰雄, 田中茂夫, Jeffrey E S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北海道大学循環器内科, <sup>2)</sup>Washington University): 虚血心筋における不整脈: Gap Junction 蛋白との関連. 第33回日本心臓血管外科学会総会, 2003. 5.
- 38) 藤井正大, Chambers D<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>St Thomas' Hospital, Cardiac Surgical Research): Does intermittent cross-clamp with fibrillation induce ischemic preconditioning?. 第33回日本心臓血管外科学会総会, 2003. 5.
- 39) 佐地嘉章, 落 雅美, 羽鳥信郎, 山田研一, 檜山和弘, 宮城泰雄, 大森裕也, 田中茂夫: 多枝(3枝以上) CABG における off pump と on pump の比較. 第33回日本心臓血管外科学会総会, 2003. 5.
- 40) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 福島光浩, 宮本哲也, 原口秀司, 三上 巖, 岡田大輔, 田中茂夫: 間質性肺炎(IP)合併肺癌に対する胸腔鏡下手術症例の検討: 開胸下手術群との比較. 第20回日本呼吸器外科学会総会, 2003. 5.
- 41) 江本直也<sup>1)</sup>, 城所 葉<sup>1)</sup>, 芹澤真代<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup>, 清水一雄, 豊田亜希子<sup>2)</sup>, 豊田英尚<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第3, <sup>2)</sup>理化学研究所フロンティア研究システム糖鎖機能研究チーム, <sup>3)</sup>千葉大学大学院薬学研究院生体分析化学研究室): 甲状腺乳頭癌組織内へパラン硫酸における FGF-2 細胞増殖促進性構造の増加. 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 42) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 赤石純子, 新井政男, 林謙太郎, 軸菌智雄, 飯島慶仁: 甲状腺乳頭癌に対する内視鏡補助下甲状腺手術(VANS法)の手術成績. 第13回吊り上げ法手術研究会, 2003. 6.
- 43) 中島由貴, 山内仁紫, 菅野重人, 宮城泰雄, 落 雅美, 清水一雄: 右室型単心室の人工弁置換術後3ヶ月に起きた血栓弁の1例. 第126回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2003. 6.
- 44) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, Mohammad G<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup>, 田尻 孝<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>同消化器科, <sup>4)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>5)</sup>外科学第1): 定量的 real time マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織の DNA コピー数と臨床予後に関する検討. 第103回日本外科学会総会, 2003. 6.
- 45) 藤井正大, Chambers D<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>St Thomas' Hospital, Cardiac Surgical Research): Myocardial protection-Intermittent cross-clamp with ventricular fibrillation and sodium-hydrogen exchange inhibition. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003. 6.
- 46) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 宮本哲也, 岡本淳一, 中島由貴, 原口秀司, 清水一雄: 診断に難渋したリンパ管嚢胞の1例. 第126回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2003. 6.

- 47) 平田知己, 永井尚久<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 高津圭介<sup>1)</sup>, 宮本哲也, 山岸茂樹, 福島光浩, 三上 徹, 平井恭二, 原口秀司<sup>2)</sup>, 日置正文, 秋山博彦, 西村仁志, 田中茂夫, 江見 充<sup>1)</sup>, 角田達彦<sup>(1)</sup> (日本医科大学老人病研究所・分子生物癌, <sup>2)</sup> 同第二病院外科, <sup>3)</sup> 埼玉癌センター胸部外科, 理研遺伝子多型研究センター): 非小細胞肺癌の遺伝子解析: cDNA microarray. 第103回日本外科学会総会, 2003. 6.
- 48) 丸山雄二<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 浮遊状右房内血栓を伴う著明な肺高血圧症を呈した亜急性広範性塞栓症の1手術例 (肺動脈血栓塞栓症の治療). 第31回日本血管外科学会総会, 2003. 7.
- 49) 丸山雄二<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 仁科 大<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 浮遊状右房内血栓を伴う高度肺高血圧症を呈した亜急性広範性肺血栓塞栓症の1手術例. 第20回東葛心臓血管外科研究会, 2003. 7.
- 50) 中島由貴, 山内仁紫, 宮城泰雄, 佐地嘉章, 檜山和弘, 大森裕也, 深澤隆治<sup>1)</sup>, 渡辺美紀<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>(1)</sup> (小児科学): Staged TCPC におけるBidirectional Glenn Procedure の心室機能に与える影響. 第39回日本小児循環器学会総会, 2003. 7.
- 51) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 細根勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同消化器科, <sup>3)</sup> 同病理部, <sup>4)</sup> 外科学第1): 消化管及び消化管外原発GIST症例の診断治療に関する検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003. 7.
- 52) 宮城泰雄, 山内仁紫, 新田 隆, 檜山和弘, 佐地嘉章, 佐々木孝, 大森裕也, 田中茂夫, 渡辺美紀<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>(1)</sup> (小児科学): 先天性心疾患に合併した小児心房頻拍に対する外科治療: 多極電極 map-guid 下凍結凝固法の応用. 第39回日本小児循環器学会総会, 2003. 7.
- 53) 佐地嘉章, 落 雅美, 羽鳥信郎, 山内仁紫, 山田研一, 檜山和弘, 宮城泰雄, 大森裕也, 佐々木孝, 清水一雄: 川崎病における巨大冠動脈瘤縫縮術の検討. 第8回日本冠動脈外科学会学術大会, 2003. 7.
- 54) 朽方規喜, 落 雅美, 山内仁紫, 矢島俊巳, 田中茂夫: 閉塞性動脈硬化症に対する深大腿動脈形成術. 第31回日本血管外科学会総会, 2003. 7.
- 55) 朽方規喜, 落 雅美, 山内仁紫, 矢島俊巳, 宮本哲也, 田畑美弥子, 田中茂夫: 上腕で作成するU字ループ型腋窩動静脈内シヤント術. 第31回日本血管外科学会総会, 2003. 7.
- 56) 岡田大輔, 島貫公義<sup>1)</sup>, 金子昌裕<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄<sup>(1)</sup> (会津中央病院外科): 若年者の胸壁膿瘍から急性膿胸に移行した1治験例. 第72回日本胸部外科学会東北地方会, 2003. 9.
- 57) 天神敏博, 吉野直之, 赤須東樹, 北川 亘, 清水一雄: 乳癌培養細胞を用いた小核出現率の評価. 第62回日本癌学会, 2003. 9.
- 58) 栗田隆志<sup>1)</sup>, 三田村秀雄<sup>1)</sup>, 青沼和隆<sup>1)</sup>, 伊藤昭男<sup>1)</sup>, 庄田守男<sup>1)</sup>, 池主雅臣<sup>1)</sup>, 新田 隆, 小川 聡<sup>2)</sup>, 児玉逸雄<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> NATIVE 試験中央委員会, <sup>2)</sup> 慶應義塾大学, <sup>3)</sup> 名古屋大学): NATIVE (Nippon Amiodarone Therapy with ICD Viability Evaluation) 試験: その目的と概要. 第20回日本心電学会学術集会, 2003. 9.
- 59) 佐々木孝, 新田 隆, 檜山和弘, 藤井正大, 大森裕也, 落 雅美, 清水一雄: 下肢骨折後慢性期に心内血栓, 奇異性脳塞栓を発症し外科的治療を要した1例. 第127回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2003. 9.
- 60) 赤石純子<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 藤本崇司<sup>1)</sup>, 津曲幸二<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 角田達彦<sup>2)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup> 理化学研究所遺伝子多型研究センター): 腋窩リンパ節転移乳癌における遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 61) 大森裕也, 新田 隆, 菅野重人, 宮城泰雄, 坂本俊一郎, 清水一雄: 左心房容量負荷モデルにおける心房細動の電気生理学的機序. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 62) 大森裕也, 新田 隆, 矢島俊巳, 菅野重人, 宮城泰雄, 清水一雄: 小開胸下心外膜電極縫着による両心室ペーシング. 日本心電学会総会, 2003. 9.
- 63) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川



- 敬一<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院外科): リンパ節転移の予後に及ぼす影響(胃癌治癒切除例での検討). 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 64) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, Mohammad G<sup>3)</sup>, 清水 一<sup>3)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院外科, <sup>2</sup>同消化器科, <sup>3</sup>老人病研究所病理部門, <sup>4</sup>外科学第1): 定量的 real time マイクロサテライト分析法(QUMA)による胃癌組織のDNAコピー数異常の検出と予後因子に関する検討. 第62回日本癌学会, 2003. 9.
- 65) 軸園智雄, 落 雅美, 菅野重人, 宮城泰雄, 仁科 大, 山本 剛<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 花田有里子<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>集中治療室, <sup>2</sup>高度救命救急センター): 心原性ショックをきたし経皮的心肺補助法にて救命し得た嵌頓性左房粘液腫の1症例. 第189回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 9.
- 66) 佐々木量矢, 山内仁紫, 檜山和弘, 佐地嘉章, 大森裕也, 渡辺美紀<sup>1)</sup>, 深澤隆治<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup>, 落 雅美, 清水一雄(<sup>1</sup>小児科学): 小児における房室弁形成術の検討. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 67) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 赤石純子, 軸園智雄: 甲状腺癌に対するVANS法の現状と問題点. 第36回甲状腺外科研究会, 2003. 10.
- 68) 赤石純子<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 高津圭介<sup>1)</sup>, 浅香晋一<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 長浜充二<sup>2)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 清水一雄, 角田達彦<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, <sup>2</sup>伊藤病院, <sup>3</sup>理化学研究所遺伝子多型研究センター): 甲状腺未分化転化に関連する遺伝子の発現解析. 甲状腺外科研究会, 2003. 10.
- 69) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院外科): リンパ節転移の有無からみたT1, T2胃癌の治癒切除後再発死亡例の検討. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 70) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院外科, <sup>2</sup>同消化器科, <sup>3</sup>同病理部, <sup>4</sup>外科学第1): 消化管外原発GIST(EGIST)症例の臨床病理学的検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 71) 軸園智雄, 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 赤石純子: 原発性上皮小体機能亢進症による高カルシウム血症クリーゼと緊急手術後の症状改善の臨床経験. 第36回甲状腺外科研究会, 2003. 10.
- 72) 佐地嘉章, 落 雅美, 羽鳥信郎, 山田研一, 檜山和弘, 宮城泰雄, 大森裕也, 佐々木孝, 清水一雄: 完全血行再建を目指した多枝 off pump CABG の検討. 第56回日本胸部外科学会総会, 2003. 10.
- 73) 田中久美, 佐々木栄史<sup>1)</sup>, 福成信博<sup>1)</sup>, 長浜充二<sup>1)</sup>, 杉野公則<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>1)</sup>, 清水一雄(<sup>1</sup>伊藤病院): ドブラ法にて診断困難であった甲状腺濾胞癌4例の再検討. 第11回乳腺甲状腺超音波診断会議, 2003. 10.
- 74) 山岸茂樹, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 木下裕康, 宮本哲也, 岡本淳一, 中島由貴, 清水一雄: 連続心拍出量モニターを用いた肺葉切除における周術期右心血行動態の評価: 胸腔鏡下手術群と胸筋温存開胸手術群の比較. 第44回日本肺癌学会総会, 2003. 10.
- 75) 朝山 功<sup>1)</sup>, 石川隆志<sup>1)</sup>, 山田 哲<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 山田恵美子<sup>1)</sup>, 北川 亘, 清水一雄(<sup>1</sup>金地病院): 甲状腺腫瘍との鑑別が難しかった頸部結核性肉芽腫の1例. 第8回北区医師会学術集談会, 2003. 10.
- 76) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 赤石純子: 甲状腺癌に対する内視鏡補助下頸部手術(VANS法). 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 77) 佐々木孝, 落 雅美, 山田研一, 佐地嘉昭, 宮城泰雄, 清水一雄, 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線医学): AAA術後Penetrating atherosclerotic ulcerの進展からTAAの切迫破裂を来し, 緊急ステントグラフト内挿を施行した1例. 第11回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2003. 11.
- 78) 大森裕也, 新田 隆, 菅野重人, 宮城泰雄, 坂本俊一郎, 清水一雄: 左心房容量負荷モデルにおける心房細動の電気生理学的機序. 日本胸部外科学会総会, 2003. 11.
- 79) 山本英希<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 清水一雄(<sup>1</sup>多

- 摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同 病理部): 短期間に横隔膜上から後腹膜腔に進展し巨大腫瘤を形成した再発胸腺腫の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 80) 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 新田 隆, 大森裕也, 宮城泰雄, 石井庸介, 菅野重人, 清水一雄<sup>(1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 心房間伝導路: 各心房興奮部位における優先伝導路と伝導特性についての検討. 日本胸部外科学会, 2003. 11.
- 81) 丸山雄二<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院・胸部心臓血管・呼吸器外科): 左房内血栓, 心房細動, 冠動脈狭窄病変を有するハイリスク症例に対して心拍動下冠動脈バイパス術, 左心耳切除術, 血栓除去術を施行した1手術例(このような症例をどうするか). 第21回東葛心臓血管外科研究会, 2003. 11.
- 82) 中島由貴, 小泉 潔, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平田知己, 平井恭二, 三上 徹, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 木下裕康, 榎本 豊, 岡本淳一, 宮本哲也, 中山景介, 清水一雄<sup>(1)</sup>第二病院外科): 術前1秒量が1L未満の肺癌症例での術後3ヶ月以内死亡例の解析. 第55回日本胸部外科学会総会, 2003. 11.
- 83) 小泉 潔, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平田知己, 平井恭二, 三上 徹, 山岸茂樹, 吉野直之<sup>2)</sup>, 岡田大輔, 木下裕康, 榎本 豊, 宮本哲也, 岡本淳一, 中島由貴, 中山景介, 清水一雄<sup>(1)</sup>第二病院外科,<sup>2)</sup>千葉北総病院胸部外科): 間質性肺炎合併肺癌に対する胸腔鏡下手術の評価. 第56回日本胸部外科学会総会, 2003. 11.
- 84) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>外科学第1): リンパ節郭清で再発転移は防げるか?: 胃癌での検証. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 85) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>外科学第1): イレウスを来した大腸癌症例の検討: 術前減圧法の有用性について. 第16回多摩大腸疾患懇話会, 2003. 11.
- 86) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同消化器科,<sup>3)</sup>同病理部,<sup>4)</sup>外科学第1): 胃原発B cell lymphoma手術症例の臨床病理学的検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 87) 菅野重人, 新田 隆, 佐々木孝, 宮城泰雄, 落 雅美, 清水一雄: 術後不整脈を誘発するGap Junctionの構造変化. 第56回日本胸部外科学会総会, 2003. 11.
- 88) 井村 肇<sup>1)</sup>, John A H<sup>2)</sup>, Gianni O A<sup>2)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 平井恭二, 佐藤 茂<sup>3)</sup>, 落 雅美, 清水一雄<sup>(1)</sup>日本医科大学千葉北総病院胸部外科,<sup>2)</sup>Bristol University,<sup>3)</sup>日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設): 体外循環中低頻度人工呼吸は体外循環後肺障害を軽減する: 組織代謝及び病理組織学的検討. 日本胸部外科学会総会, 2003. 11.
- 89) 平井恭二, 小泉 潔, 平田知己, 三上 徹, 福島光浩, 山岸茂樹, 岡田大輔, 川島徹生, 岡本淳一, 木下裕康, 榎本 豊, 中島由貴, 清水一雄: 非小細胞肺癌におけるEphA2レセプター発現の意義. 第56回日本胸部外科学会総会, 2003. 11.
- 90) 平井恭二, 小泉 潔, 山岸茂樹, 平田知己, 清水一雄: 非小細胞肺癌におけるEphA2レセプター発現の意義について. 第44回日本肺癌学会総会, 2003. 11.
- 91) 田中久美, 林 博樹<sup>1)</sup>, 益戸巧彦<sup>1)</sup>, 福成信博<sup>1)</sup>, 長浜充二<sup>1)</sup>, 杉野公則<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>1)</sup>, 伊藤國彦<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>(1)</sup>伊藤病院): 甲状腺乳頭癌遠隔転移例に対するTSH抑制療法の長期効果. 第65回日本臨床外科学会, 2003. 11.
- 92) 山岸茂樹, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 徹, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 木下裕康, 宮本哲也, 岡本淳一, 中島由貴, 清水一雄: 連続心拍出量モニターを用いた肺葉切除における周術期右心行動態の評価: 胸腔鏡下手術群と胸筋温存開胸手術群の比較. 第56回日本胸部外科学会総会, 2003. 11.

- 93) 佐々木孝, 落 雅美, 山田研一, 佐地嘉昭, 檜山和弘, 清水一雄, 春日美和<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1,<sup>2)</sup>放射線医学): Leriche症候群合併の虚血性心筋症に対し, CABG + 心筋血管新生療法 + 上行大動脈: 両側大腿動脈バイパスを施行した1例. 第128回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 94) 山本英希<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 清水一雄(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同 病理部): 広義のprimary effusion lymphoma と考えられた1例. 第128回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 95) 川島徹生, 西村仁志, 秋山博彦, 出雲俊之: アミロイドーシスを伴った肺原発悪性リンパ腫の1症例. 日本肺癌学会関東部会, 2003. 12.
- 96) 丸山雄二<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 浮遊状右房内血栓を伴う高度肺高血圧症を呈した亜急性広範性肺血栓塞栓症の1手術例. 第15回第二外科研究会, 2003. 12.
- 97) 田畑美弥子, 新浪 博<sup>1)</sup>, 須田優司<sup>1)</sup>, 河野康治<sup>1)</sup>, 佐々木章史<sup>1)</sup>, 山本真人<sup>1)</sup>, 浅野竜太<sup>1)</sup>, 池田昌弘<sup>1)</sup>, 竹内靖夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学附属第二病院心臓血管外科): OPCABで6枝以上のバイパスを行った症例の検討. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.
- 98) 中島由貴, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 山岸茂樹, 川島徹生, 木下裕康, 榎本 豊, 岡本淳一, 中山景介, 佐々木量矢, 清水一雄: 間質性肺炎合併肺癌に対する胸腔鏡下手術の評価. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.
- 99) 軸園智雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 杉野公則<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>1)</sup>, 伊藤國彦<sup>1)</sup>, 清水一雄(<sup>1)</sup>伊藤病院): 内視鏡補助下頸部手術(VANS法)による甲状腺全摘術の経験. 第791回外科集談会, 2003. 12.
- 100) 平井恭二, 小泉 潔, 山岸茂樹, 平田知己, 原口秀司, 清水一雄: 間質性肺炎合併肺癌に対する胸腔鏡下手術症例の検討. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.
- 101) 山岸茂樹, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 木下裕康, 宮本哲也, 岡本淳一, 中島由貴, 清水一雄: 連続心拍出量モニターを用いた肺葉切除における周術期右心血行動態の評価: 胸腔鏡下手術群と胸筋温存開胸手術群の比較. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.
- 102) 平田知己, 小泉 潔, 平井恭二, 山岸茂樹, 三上 巖, 清水一雄, 原口秀司<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>2)</sup>, 岡田大輔<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院外科,<sup>2)</sup>同千葉北総病院胸部外科,<sup>3)</sup>総合会津中央病院呼吸器外科): VATS肺葉切除術の手術時間と出血量増加予測症例における低侵襲性の検討. 第16回日本内視鏡外科学会, 2003. 12.
- 103) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 予後におけるリンパ節転移の影響(高齢者胃癌治癒切除例での検討). 第6回日本高齢消化器医学会議, 2004. 1.
- 104) 川瀬康裕, 新田 隆, 菅野重人, 山田研一, 佐地嘉章, 檜山和弘, 宮城泰雄, 大森裕也, 佐々木孝, 落 雅美, 清水一雄: 持続性心室頻拍を合併した心臓脂肪腫の1手術例. 第129回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2004. 2.
- 105) 佐々木孝, 落 雅美, 山田研一, 宮城泰雄, 佐地嘉昭, 檜山和弘, 藤井正大, 大森裕也, 川瀬康裕, 清水一雄, 安武正弘<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1,<sup>2)</sup>放射線医学): 重症冠動脈疾患に対する冠動脈バイパス術ならびに自己骨髄単核細胞移植によるハイブリッド血行再建術. 第34回日本心臓血管外科学会総会, 2004. 2.
- 106) 大森裕也, 新田 隆, 宮城泰雄, 落 雅美, 清水一雄: superior trans-septal approachによる僧帽弁手術後に生じたincisional reentry tachycardiaの3例. 不整脈外科研究会, 2004. 2.
- 107) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 佐久間一郎<sup>1)</sup>, 小林英津子<sup>1)</sup>, 清水一秀<sup>1)</sup>, 伊関 洋<sup>2,3)</sup>, 村垣善浩<sup>2,3)</sup>, 丸山隆志<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学大学院新領域創成科学研究科,<sup>2)</sup>東京女子医科大学大学院先端生命医科学研究科,<sup>3)</sup>先端工学

- 外科分野,<sup>3)</sup>同脳神経センター脳神経外科): 上皮小体の術中同定における5-Aminolevulinic acid (5-ALA) の臨床応用. 第12回クリニカル・ビデオ・フォーラム, 2004. 2.
- 108) 藤井正大, 落 雅美, 川瀬康裕, 佐々木孝, 宮城泰雄, 檜山和弘, 佐地嘉章, 山田研一, 山内仁紫, 清水一雄, 小川俊一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学): 川崎病冠動脈病変に対するLITA-LAD吻合と右巨大冠動脈瘤縫縮術. 第34回日本心臓血管外科学会総会, 2004. 2.
- 109) 藤井正大, Chambers D<sup>1)</sup>, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄, 田中啓治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>St Thomas' Hospital, Cardiac Surgical Research, <sup>2)</sup>日本医科大学付属集中治療室): Does intermittent cross-clamp fibrillation involve a preconditioning mechanism?. 第34回日本心臓血管外科学会総会, 2004. 2.
- 110) 佐地嘉章, 落 雅美, 山内仁紫, 山田研一, 檜山和弘, 宮城泰雄, 藤井正大, 大森裕也, 佐々木孝, 清水一雄: 川崎病巨大冠動脈瘤に対する外科治療21例の経験. 第34回日本心臓血管外科学会学術総会, 2004. 2.
- 111) 竹内真吾, 平田知己, 小泉 潔, 飯島慶仁, 中島由貴, 山岸茂樹, 平井恭二, 清水一雄, 川本雅司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1): 孤立性転移性肺腫瘍として再発した直腸悪性黒色腫の1例. 第129回日本胸部外科学会 関東甲信越地方会, 2004. 2.
- 112) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷毅<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 局在より見た胃癌(リンパ節転移, 予後からの検討). 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 113) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>外科学第1): 定量的 real time PCR法を用いた胃癌組織の染色体8q・16qのDNAコピー数と臨床予後に関する検討. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 114) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 岡田大輔, 川島徹生, 宮本哲也, 岡本淳一, 清水一雄: 連続心拍出量モニターを用いた肺葉切除における周術期右心行動態の評価: 胸腔鏡下手術群と胸筋温存開胸手術群の比較. 第44回日本呼吸器学会総会, 2004. 3.
- (9) TV会議:
- 1) 川島徹生, 秋山博彦, 西村仁志, 山本光伸: 若年者肺癌(40歳未満)手術症例の検討. がん情報ネットワーク多施設合同カンファレンス, 2004. 3.
- (10) ビデオセッション:
- 1) 清水一雄: 皮膚吊り上げ法を応用した甲状腺, 上皮小体疾患に対する内視鏡補助下手術. 第28回日本外科系連合学会学術集会, 2003. 6.
- (11) ライブ手術:
- 1) Shimizu K: Endoscopic Thyroid Surgery. 6th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery (Malaysia), 2003. 9.
- 2) Shimizu K: Endoscopic Thyroid Surgery. International Symposium on Laparoscopic Surgery (Riyadh, Saudi Arabia), 2003. 10.
- (12) 一般(ビデオ):
- 1) 新田 隆, 佐々木孝, 大森裕也, 檜山和弘, 宮城泰雄, 佐地嘉章, 清水一雄: ビデオ: 双極高周波クランプ(AtriCure)を用いた心房細動手術. 第56回日本胸部外科学会総会, 2003. 11.
- 2) 新田 隆, 飯島慶仁, 川瀬康裕, 佐々木孝, 大森裕也, 佐地嘉章, 宮城泰雄, 檜山和弘, 山田研一, 菅野重人, 落 雅美, 清水一雄: 双極高周波焼灼クランプ(AtriCure)を用いたマップガイド下心房細動手術. 第34回日本心臓血管外科学会総会, 2004. 2.

## [ 第二病院外科 ( 外科 , 心臓血管外科 ) ]

### 研究概要

心臓血管外科領域, 呼吸器外科領域, 乳腺・甲状腺内分泌外科領域の研究を中心としている。

1) 心臓血管外科領域: 回診術周術期における各種薬剤の薬理効果, および有効な心筋保護の確率について研究中である。OPCABを中心とした低侵襲心臓手術法などの手術手技や大動脈外科手術時における補助循環法の研究を行っている。また, 高齢者の心大血管症例の術前・術後合併症の評価・管理・治療法について検討し, 成績の向上を計っている。末梢動脈・静脈疾患に対する低侵襲診断・治療についても研究中である。

2) 呼吸器外科領域: 肺腺種を除く縦隔腫瘍, 転移性肺腫瘍, 自然気胸に対してほぼ全例に胸腔鏡下に摘出を試み, 肺癌に対しても症例を選んで行っている。特に肺癌症例での胸腔鏡のメリット, デメリットを評価している。また, 再発肺癌や二次肺癌の外科治療にも積極的に取り組んでいる。集学的治療にも積極的に取り組んでいる。基礎的研究は肺ブラ・ブレブの病理学的検討を継続的に行っている。

3) 乳腺・甲状腺内分泌外科領域: 診断では, MRIを中心とした微細画像診断により, 癌の進展形態を評価し, 手術方針の決定に役立てている。手術では, 乳腺内視鏡手術を中心に, 鏡視下乳房温存手術, 乳頭・皮膚保存乳腺全摘術, 胸筋温存乳房切除術を行い, センチネルリンパ節生検を行って検証を進めている。化学療法は, 外来通院投与を中心に積極的に行い, QOLを高めるよう努力している。また, タキサン系薬剤の化学療法やハーセプチンの抗体療法についての有効性をアボトーシス・サイトカインのレベルで検討する。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 研究報告書:

- 1) Haraguchi S, Koizumi K<sup>1)</sup>, Hatori N, Hioki M<sup>1)</sup>, Yamashita K, Hirata T<sup>1)</sup>, Akiyama H<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Kubota H<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery (II): Postoperative respiratory complications of video-assisted thoracic surgery for lung cancer. J Nippon Med Sch 2004; 71: pp30-34.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 川村 純, 遠藤直哉, 宅島美奈, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第2): 開心術後 nonthyroidal illness に対し甲状腺ホルモン剤が有効であった1例. 日本医科大学医学会第110回例会, 2003. 5.
- 2) 山下康夫, 原口秀司, 山下浩二, 増田 栄, 織井恒安, 川村 純, 遠藤直哉, 日置正文, 松本光司<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 第二病院病理部, <sup>2)</sup> 外科学第2): 甲状腺乳頭癌術後9年後に生じた胸骨転移に対する1手術例. 日本医科大学医学会第110回例会, 2003. 5.
- 3) 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 清水一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第2): 乳腺内視鏡手術 (VABS) 43例の検討. 第13回吊り上げ法手術研究会, 2003. 6.
- 4) 山下浩二, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 原口秀司, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第2): 乳腺内視鏡手術30例の検討. 第11回日本乳癌学会総会, 2003. 6.
- 5) 山下浩二, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科学第2): 当院における鏡視下乳腺切除術の整容性についての検討. 第13回乳腺内視鏡手術研究会, 2003. 6.
- 6) 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄 (<sup>1)</sup> 外科学第2): 乳腺内視鏡手術の検討. 第103回日本外科定期学術集会, 2003. 6.

- 7) 織井恒安, 山下康夫, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 増田 栄, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 梅毒性大動脈中膜炎が原因と考えられた遠位弓部大動脈瘤肺内穿破に対する1手術例. 第31回日本血管外科学会総会, 2003. 7.
- 8) 川村 純, 遠藤直哉, 宅島美奈, 織井恒安, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 固有掌側指動脈に発生した動脈瘤の1治療例. 第31回日本血管外科学会総会, 2003. 7.
- 9) 宅島美奈, 織井恒安, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 上腸間膜動脈限局性解離に対する1治療例. 第31回日本血管外科学会総会, 2003. 7.
- 10) 山下康夫, 原口秀司, 山下浩二, 織井恒安, 川村 純, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 巨大異常動脈を伴うPryceI型肺分画症の1手術例. 第127回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2003. 9.
- 11) 織井恒安, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): Starr Edwards Ball弁置換術32年後に再弁置換術を行った1例. 第127回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2003. 9.
- 12) 山下康夫, 原口秀司, 山下浩二, 織井恒安, 川村 純, 遠藤直哉, 日置正文, 松本光司<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第2): 甲状腺乳頭癌胸骨転移に対し胸壁切除再建を施行した1例. 第790回外科集談会, 2003. 9.
- 13) 原口秀司, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 山下浩二, 日置正文, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 異時性多発肺癌切除例の臨床的検討. 第44回日本肺癌学会総会, 2003. 10.
- 14) 山下浩二, 原口秀司, 織井恒安, 山下康夫, 川村 純, 宅島美奈, 遠藤直哉, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 鏡視下乳腺切除術50例の侵襲度・整容性についての検討. 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003. 12.
- 15) 山下康夫, 宅島美奈, 川村 純, 小笠原英継, 織井恒安, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): 塞栓症で発症した心筋緻密層形成不全の1例. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.

## 11. 脳神経外科学講座

### [ 付属病院脳神経外科 ]

#### 研究概要

平成15年度当教室における論文業績は英文29編、和文60編の計89編であった。英文論文の分野別内訳は、下垂体腫瘍10編、他の脳腫瘍10編、脳血管障害3編、神経外傷3編、その他3編であり、基礎的研究19編、臨床的研究9編および社会医学的研究1編であった。一方、和文論文の分野別内訳は、下垂体腫瘍21編、他の脳腫瘍9編、脳血管障害7編、先天奇形5編、術前後管理6編、その他12編であり、基礎的研究6編、臨床的研究54編であった。これに、分担著書として和文28編が加わる。学会発表は、267回あり、内国際学会は19回であった。

当教室の基礎的な研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、神経外傷の4つに分かれている。また、治療を主体とした横断的なグループとしては、血管内治療、神経内視鏡、バイパス手術や脊髄・脊椎等のグループが活動している。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者数も多く基礎の教室や老人病研究所、さらには他の大学との関連が深く、従って業績も最も多い。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告がいくつかみられた。一方、脳血管障害や神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが、業績、特に英文論文業績が不十分であるといわざるを得ない。さらに、少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教員もおり、症例報告を含めて臨床的研究についても進めていく予定である。

脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助手以上には科研費応募を義務としている。勿論個人間の偏りはあるが、現教室員数からみるとこれらの条件は十分に満たしているものと思われる。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hoshino S<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Furukawa T<sup>3)</sup>, Asakura T, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Heiwadai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Heiseitateishi Hospital ): Multiple immunostaining methods to detect traumatic axonal injury in the rat fluid-percussion brain injury model. *Neurol Med Chir* 2003; 43 (4): 165-173.
- 2) Yamaguchi F, Morrison RS<sup>1)</sup>, Gonatas NK<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Sugisaki Y<sup>4)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurological Surgery, University of Washington, <sup>2)</sup> Department of Pathology, University of Pennsylvania School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Pathology ): Identification of MG-160, a FGF binding medial Golgi sialoglycoprotein, in brain tumors: an index of malignancy in astrocytomas. *Int J Oncol* 2003; 22 (5): 1045-1049.
- 3) Yamada SM, Nakane M<sup>1)</sup>, Aoki M<sup>1)</sup>, Nakayama H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University School of Medicine, Mizonokuchi Hospital ): Dissecting aneurysm of the anterior cerebral artery with severe subarachnoid hemorrhage during treatment for cerebral infarction. *Intern Med* 2003; 42 (5): 433-435.
- 4) Mishina M<sup>1)</sup>, Senda M<sup>2)</sup>, Kiyosawa M<sup>3)</sup>, Ishikawa K<sup>3)</sup>, De Volder AG<sup>4)</sup>, Nakano H<sup>5)</sup>, Toyama H<sup>3)</sup>, Oda K<sup>3)</sup>, Kimura Y<sup>3)</sup>, Ishii K<sup>3)</sup>, Sasaki T<sup>3)</sup>, Ohyama M<sup>3)</sup>, Komaba Y<sup>3)</sup>, Kobayashi S<sup>6)</sup>, Kitamura S<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3)</sup> The Second Department

- of Internal Medicine , <sup>4)</sup> Positron Tomography Laboratory, University of Louvain , <sup>5)</sup> Department of Ophthalmology, Tsukuba University , <sup>6)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital ): Increased regional cerebral blood flow but normal distribution of GABA receptor in the visual cortex of subjects with early-onset blindness . *NeuroImage* 2003 ; 19 ( 1 ): 125-131 .
- 5 ) Shimura T<sup>1)</sup> , Mori O<sup>2)</sup> , Kitamura T , Kobayashi S<sup>3)</sup> , Sanno N<sup>4)</sup> , Teramoto A , Ohaki Y<sup>5)</sup> , Sugisaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Academic Quality and Development Office , <sup>2)</sup> Department of Pathology , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Central neurocytoma expressing characteristics of ependymal differentiation : electron microscopic findings of two cases . *Med Electron Microsc* 2003 ; 36 ( 2 ): 98-105 .
- 6 ) Yoshida D<sup>1)</sup> , Watanabe K , Takahashi H<sup>1)</sup> , Sugisaki Y<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Apoptotic induction by BE16627B on human malignant cell lines by anti-matrix metalloproteinase agent . *Brain Tumor Pathol* 2003 ; 20 ( 1 ): 13-19 .
- 7 ) Hara Y<sup>1)</sup> , Tagawa M<sup>1)</sup> , Masuda H<sup>1)</sup> , Sako T<sup>2)</sup> , Koyama H<sup>2)</sup> , Orima H<sup>3)</sup> , Nakamura S<sup>4)</sup> , Takahashi K<sup>4)</sup> , Sanno N<sup>5)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Division of Veterinary Surgery, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University , <sup>2)</sup> Division of Veterinary Internal Medicine, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University , <sup>3)</sup> Division of Veterinary Radiology, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University , <sup>4)</sup> Division of Veterinary Pathology, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University , <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Transsphenoidal hypophysectomy for four dogs with pituitary ACTH-producing adenoma . *J Vet Med Sci* 2003 ; 65 ( 7 ): 801-804 .
- 8 ) Sanno N<sup>1)</sup> , Oyama K , Tahara S , Teramoto A , Kato Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Shimane Medical University ): A survey of pituitary incidentaloma in Japan . *Eur J Endocrinol* 2003 ; 149 ( 2 ): 123-127 .
- 9 ) Niibe Y<sup>1)</sup> , Karasawa K<sup>1)</sup> , Nakamura O<sup>2)</sup> , Shinoura N<sup>2)</sup> , Okamoto K<sup>2)</sup> , Yamada R<sup>2)</sup> , Fukino K , Tanaka Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology and Radiation Oncology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Survival benefit of stereotactic radiosurgery for metastatic brain tumors in patients with controlled primary lesions and no other distant metastases . *Anticancer Res* 2003 ; 23 ( 5b ): 4157-4159 .
- 10 ) Yokota T<sup>1)</sup> , Tachizawa T<sup>2)</sup> , Fukino K , Teramoto A , Kouno J , Matsumoto K<sup>3)</sup> , Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Tokyorosai Hospital , <sup>3)</sup> Department of Pathology ): A family with spinal anaplastic ependymoma : evidence of loss of chromosome 22q in tumor . *J Hum Genet* 2003 ; 48 ( 11 ): 598-602 .
- 11 ) Kim K<sup>1)</sup> , Sanno N<sup>2)</sup> , Arai K<sup>3)</sup> , Takano K<sup>4)</sup> , Yasufuku-Takano J<sup>4)</sup> , Teramoto A , Shibasaki T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>3)</sup> Department of Physiology , <sup>4)</sup> Department of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo ): Ghrelin mRNA and GH secretagogue receptor mRNA in human GH-producing pituitary adenomas is affected by mutations in the alpha subunit of G protein . *Clin Endocrinol* 2003 ; 59 ( 5 ): 630-636 .
- 12 ) Wang M<sup>1)</sup> , Wang T<sup>1)</sup> , Liu S<sup>1)</sup> , Yoshida D<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, the First Hospital, Xi'an Jiaotong University , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital ): The expression of matrix metalloproteinase-2 and -9 in human gliomas of different pathological grades . *Brain*



Tumor Pathol 2003 ; 20 ( 2 ) : 65-72 .

- 13 ) Murai Y , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hoku-so Hospital ) : A new tumour forceps for use during removal of pineal region tumours . Brit J Neurosurgery 2003 ; 17 ( 6 ) : 551-552 .
- 14 ) Tanaka S<sup>1)</sup> , Tatsumi KI<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> , Murakami Y<sup>2)</sup> , Takao T<sup>3)</sup> , Yamakita N<sup>4)</sup> , Tahara S , Teramoto A , Hashimoto K<sup>3)</sup> , Kato Y<sup>2)</sup> , Amino N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Laboratory Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> First Division, Department of Medicine, Shimane Medical University , <sup>3)</sup> The Second Department of Internal Medicine, Kochi Medical School , <sup>4)</sup> Department of Internal Medicine, Matsunami General Hospital ) : Anti-alpha-enolase antibodies in pituitary disease . Endocr J 2003 ; 50 ( 6 ) : 697-702 .
- 15 ) Tatsumi KI<sup>1)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> , Tahara S , Murakami Y<sup>2)</sup> , Takao T<sup>3)</sup> , Hashimoto K<sup>3)</sup> , Kato Y<sup>2)</sup> , Teramoto A , Amino N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Laboratory Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Endocrinology, Metabolism and Hematology, Shimane University of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Endocrinology, Metabolism and Nephrology, Kochi Medical School ) : Frequent appearance of autoantibodies against prohormone convertase 1/3 and neuroendocrine protein 7B2 in patients with nonfunctioning pituitary macroadenoma . Endocrine 2003 ; 22 ( 3 ) : 335-340 .
- 16 ) Barbosa M<sup>1)</sup> , Mahadevan J<sup>1)</sup> , Weon YC<sup>1)</sup> , Yoshida Y , Ozanne A<sup>1)</sup> , Rodesch G<sup>1)</sup> , Alvarez H<sup>1)</sup> , Lasjaunias P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Service de Neuroradiologie Diagnostique et Therapeutique, CHU de Bicêtre, Le Kremlin Bicêtre ) : Dural sinus malformation ( DSM ) with giant lakes, in neonates and infants : Review of 30 consecutive cases . Interventional Neuroradiology 2003 ; 9 ( 4 ) : 407-424 .
- 17 ) Osamura RY<sup>1)</sup> , Miyai S<sup>1)</sup> , Egashira N<sup>1)</sup> , Takekoshi S<sup>1)</sup> , Yamazaki M , Sanno N<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ) : Application of genetic engineering technologies for the study of pituitary development and neoplasms . Acta Histochem Cytochem 2003 ; 36 ( 4 ) : 249-254 .
- 18 ) Matsuno A<sup>1)</sup> , Nagashima T<sup>1)</sup> , Katakami H<sup>2)</sup> , Sanno N<sup>3)</sup> , Teramoto A , Takekoshi S<sup>4)</sup> , Osamura RY<sup>4)</sup> , Kirino T<sup>5)</sup> , Lloyd RV<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital , <sup>2)</sup> Third Department of Internal Medicine, Miyazaki Medical College , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>4)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, University of Tokyo Hospital , <sup>6)</sup> Department of Laboratory Medicine and Pathology, Mayo Clinic and Mayo Foundation ) : Production of pituitary hormone by human pituitary adenoma is under autocrine and paracrine regulation of hypothalamic hormones secreted from adenoma cells . Acta Histochem Cytochem 2003 ; 36 ( 5 ) : 415-420 .
- 19 ) Osamura RY<sup>1)</sup> , Egashira N<sup>1)</sup> , Yamazaki M , Miyai S<sup>1)</sup> , Takekoshi S<sup>1)</sup> , Kajiwara H<sup>1)</sup> , Kumaki N<sup>1)</sup> , Umemura S<sup>1)</sup> , Yasuda M<sup>1)</sup> , Sanno N<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ) : Mechanisms for production and secretion of hormones in physiologic and pathologic conditions . Acta Histochem Cytochem 2003 ; 36 ( 9 ) : 99-103 .
- 20 ) Atsumi T<sup>1)</sup> , Hoshino S<sup>2)</sup> , Furukawa T<sup>3)</sup> , Kobayashi S<sup>4)</sup> , Asakura T , Takahashi M<sup>5)</sup> , Yamamoto Y<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Heiwadai Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Heiseiteiteishi Hospital , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hoku-so Hospital , <sup>5)</sup> Neuroscience Research, Pharmacology Laboratories, Institute for Drug Discovery Research, Yamanouchi Pharmaceutical Co. Ltd ) : The glutamate AMPA receptor antagonist, YM872, attenuates regional cerebral edema and IgG immunoreactivity following experimental brain

- injury in rats . *Acta Neurochir* 2003 ; Suppl ( 86 ) : 305-307 .
- 21 ) Hoshino S<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>2)</sup>, Yokoyama T<sup>3)</sup>, Kobayashi S<sup>4)</sup>, Asakura T , Teramoto A , Itohara S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Heiwadai Hospital , <sup>2)</sup> Laboratory for Behavioural Genetics, Brain Research Institute, RIKEN , <sup>3)</sup> National Institute of Animal Health , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital ) : Prions prevent brain damage after experimental brain injury : a preliminary report . *Acta Neurochir* 2003 ; Suppl ( 86 ) : 297-299 .
- 22 ) Kitamura T , Manaka S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Manaka Hospital ) : Research on headache treatment and patient satisfaction level in Japan . *Cephalalgia* 2003 ; 23 ( Suppl ) : 712-713 .
- 23 ) Hara Y<sup>1)</sup>, Ogasawara S<sup>2)</sup>, Sako T<sup>3)</sup>, Koyama H<sup>3)</sup>, Takahashi K<sup>4)</sup>, Orima H<sup>5)</sup>, Masuda H<sup>1)</sup>, Tagawa M<sup>1)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Division of Veterinary Surgery, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University , <sup>2)</sup> Division of Veterinary Medical Teaching Hospital, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University , <sup>3)</sup> Division of Veterinary Internal Medicine, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University , <sup>4)</sup> Division of Veterinary Pathology, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University , <sup>5)</sup> Division of Veterinary Radiology, School of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University ) : Successful treatment of pituitary macroadenoma with transsphenoidal hypophysectomy in a dog . *Jpn J Vet Anesth Surg* 2003 ; 34 ( 2 ) : 29-36 .
- 24 ) Matsuno A<sup>1)</sup>, Katakami H<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Nagashima T<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>3)</sup>, Teramoto A , Osamura RY<sup>4)</sup>, Kirino T<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital , <sup>2)</sup> Third Department of Internal Medicine, Miyazaki Medical College , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamagayama Hospital , <sup>4)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ) : Autocrine or paracrine regulation of pituitary hormone secretion by hypothalamic hormone in human pituitary adenomas . *Recent Res Devel Human Pathol* 2003 ; 1 : 53-62 .
- 25 ) Shimura T<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>1,2)</sup>, Shimizu K<sup>3)</sup>, Miyashita T<sup>4)</sup>, Adachi K , Teramoto A (<sup>1)</sup> Academic Quality and Development Office , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine , <sup>3)</sup> Second Department of Surgery , <sup>4)</sup> Department of Radiology ) : Implementation of Integrated Medical Curriculum in Japanese Medical School . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 1 ) : 11-16 .
- 26 ) Kanazawa R , Yoshida D<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Suzuki S<sup>3)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pathology , <sup>3)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ) : Drug-induced apoptosis by a matrix metalloproteinase inhibitor, SI-27 on human malignant glioma cell lines ; in vitro study . *Neuro-Oncol* 2004 ; 66 ( 1 ) : 91-99 .
- 27 ) Sanno N<sup>1)</sup>, Hayashi S<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Maeda S<sup>3)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamagayama Hospital , <sup>2)</sup> Academic Quality and Development Office , <sup>3)</sup> Department of Pathology ) : Intracranial osteosarcoma after radiosurgery : case report . *Neurol Med Chir* 2004 ; 44 ( 1 ) : 29-32 .
- 28 ) Tamaki T<sup>1)</sup>, Eguchi T<sup>2)</sup>, Sakamoto M<sup>2)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Kameda General Hospital ) : Use of diffusion-weighted magnetic resonance imaging in empyema after cranioplasty . *Brit J Neurosurg* 2004 ; 18 ( 1 ) : 40-44 .
- 29 ) Kojima T , Kumita S<sup>1)</sup>, Yamaguchi F , Mizumura S<sup>1)</sup>, Kitamura T<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Radiology ) : Radio-guided brain tumorectomy using a gamma detecting probe and a mobile solid-state gamma camera . *Surg Neurol* 2004 ; 61 ( 3 ) : 229-238 .

- 30) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>教育推進室): 画像による誌上カンファランス・ブレインレスキュー 2003; 4: 29-30.
- 31) 玉置智規<sup>1)</sup>, 石原正明<sup>3)</sup>, 小松原清光, 林 靖人<sup>1)</sup>, 植松正樹<sup>4)</sup>, 大山健一, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 寺本明(<sup>1</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科,<sup>2</sup>同千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科,<sup>3</sup>東戸塚記念病院,<sup>4</sup>大宮共立病院神経内科): 粥状動脈硬化性頸動脈病変と脳室周囲高信号域(PVH)の関連性. 脳神経外科 2003; 31(4): 393-398.
- 32) 田原重志, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科): 加齢に伴う内分泌環境 補充療法の是非を考える 加齢に伴う下垂体腺腫. ホルモンと臨床 2003; 51(5): 469-475.
- 33) 勝野 亮, 村井保夫, 寺本 明: くも膜下出血を伴わない急性硬膜下血腫で発症した破裂脳動脈瘤の1例. 脳と神経 2003; 55(5): 435-438.
- 34) 前川正義<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 福田清輔<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>目白病院脳神経外科): 血管内アプローチにて治療した, 前下小脳動脈分枝脈絡叢動脈部破裂動脈瘤の1例. 脳神経外科 2003; 31(5): 523-527.
- 35) 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: (特集)神経内視鏡手術の進歩 3 下垂体腫瘍. 脳と神経 2003; 55(6): 487-496.
- 36) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 野手洋治, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>高度救命救急センター): 法的脳死下臓器提供3例の経験: 特に臓器提供施設からみた問題点. 日救急医学会誌 2003; 14(7): 355-360.
- 37) 寺本 明: 経蝶形骨下垂体手術. 脳神経外科速報 2003; 13(7): 703-707.
- 38) 山田 明, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における SNAP25 の発現. ホルモンと臨床 内分泌病理学 最近の進歩 2003 2003; 51(臨時増刊号): 53-56.
- 39) 山崎道生, 江頭 登<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 寺本 明, 長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東海大学医学部病態診断系病理学,<sup>2</sup>多摩永山病院脳神経外科): 下垂体腺腫と転写因子. 内分泌 糖尿病科 2003; 17(2): 163-169.
- 40) 金 景成, 山田正三<sup>1)</sup>, 臼井雅昭<sup>1)</sup>, 峯山智佳<sup>2)</sup>, 小田原雅人<sup>2)</sup>, 佐野壽昭<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>虎の門病院脳神経外科,<sup>2</sup>同内分泌代謝科,<sup>3</sup>徳島大学第一病理): 特異な超微細組織形態を示した ACTH 産生巨大下垂体腺腫の1例. 日本内分泌学会雑誌 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会 Proceeding 2003; 79(Suppl): 149-151.
- 41) 寺本 明: 下垂体インシデンタローマの病態と自然史. 日本内分泌学会雑誌 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会 Proceeding 2003; 79(Suppl): 20-21.
- 42) 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): プロラクチン産生腺腫および成長ホルモン産生腺腫の Cabergoline による治療経験. 日本内分泌学会雑誌 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会 Proceeding 2003; 79(Suppl): 53-54.
- 43) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 田原重志, 山田 明<sup>1)</sup>, 大山健一, 石井雄道, 山崎道生, 寺本 明(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2</sup>多摩永山病院脳神経外科): ラトケ嚢胞の自然経過に対する検討. 日本内分泌学会雑誌 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会 Proceeding 2003; 79(Suppl): 78-79.
- 44) 喜多村孝幸, 間中信也<sup>1)</sup>, 坂井文彦<sup>2)</sup>, 岩田 誠<sup>3)</sup>, 平田幸一<sup>4)</sup>, 竹島多賀夫<sup>5)</sup>(<sup>1</sup>間中病院脳神経外科,<sup>2</sup>北里大学医学部神経内科,<sup>3</sup>東京女子医科大学脳神経センター神経内科,<sup>4</sup>獨協医科大学神経内科,<sup>5</sup>鳥取大学医学部脳神経内科): 片頭痛治療の現状と患者満足度調査. 日本頭痛学会誌 2003; 30(1): 53-55.
- 45) 村井保夫, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 土屋雅人, 酒井直之, 立山幸次郎, 寺尾 健, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科): 術後代替髄液としてのラクトリンゲルの効果について. 脳神経外科速報 2003; 13(10): 1093-1097.
- 46) 山田 明, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): Cushing 病における下垂体 double adenoma の1例. ホルモンと臨床 2003 内分泌 興味ある症例第43集 2003; 51(秋季増刊号): 60-64.
- 47) 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>高度救命救急センター): リン酸カルシウムペースト(バイオペックス)による頭蓋形成. 日救急医学会関東誌 2003; 24: 138-139.

- 48) 勝野 亮<sup>1)</sup>, 山崎道生, 田原重志, 村井保夫, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科 ): 髄膜炎様症状後に腫瘍が縮小した先端巨大症の1例. 脳と神経 2003 ; 55 ( 11 ): 967-971 .
- 49) 荒牧琢己<sup>1,2)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 宮下次廣<sup>4)</sup>, 足立好司 ( <sup>1)</sup>教育推進室, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>外科学第2, <sup>4)</sup>放射線医学 ): 日本医科大学における学生による授業評価の実態と教員の意識: アンケート調査報告. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ): 469-474 .
- 50) 勝野 亮, 原島克之, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): CT にて広範囲脳浮腫を呈した脳動静脈奇形の1例. 日本神経救急学会雑誌 2003 ; 16 : 98-100 .
- 51) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>病理学第2 ): 脳原発小細胞骨肉腫の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 ( 3 ): 224-229 .

(2) 綜説:

- 1) 戸田茂樹, 寺本 明: 各種病態時の神経診断プロセス 対麻痺. Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 4 ): 406-408 .
- 2) 戸田茂樹, 寺本 明: 根拠からわかる術後の輸液管理 第1回水分電解質管理の基礎: 体液量と組成, 輸液の目的と適用. 季刊脳外科看護2003 2003 ; 2 ( 1 ): 65-71 .
- 3) 高橋 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院脳神経外科 ): Book and Journal Review : Comparative genomic hybridization analysis of craniopharyngioma . 小児の脳神経 2003 ; 28 ( 2 ): 128-129 .
- 4) 喜多村孝幸: 臭化水素酸エレクトリプタン ( eletriptan hydrobromide ). 臨床と薬物治療 2003 ; 22 ( 4 ): 296-298 .
- 5) 山田昌興: 抗腫瘍性サイトカイン. Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 5 ): 516-516 .
- 6) 吉田大蔵: 脳腫瘍のキーワード matrix metalloproteinase . Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 5 ): 512-512 .
- 7) 高橋 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院脳神経外科 ): 脳腫瘍のキーワード TIL療法. Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 5 ): 557-557 .
- 8) 足立好司: 脳腫瘍のキーワード granular cell tumor . Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 5 ): 510-511 .
- 9) 小島豊之, 寺本 明: 特発性低髄圧症候群における頭痛. Medical Practice 2003 ; 20 ( 6 ): 997-1001 .
- 10) 山王直子<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 寺本 明, 長村義之<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学 ): 下垂体機能発現と転写因子. 神経研究の進歩 2003 ; 47 ( 3 ): 451-456 .
- 11) 小島豊之, 寺本 明: 特発性低髄圧症候群に対する自己血パッチ. Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 7 ): 840-841 .
- 12) 戸田茂樹, 寺本 明: 根拠からわかる術後の輸液管理 第2回水分・電解質バランスの数値基準と正常・異常の判断. 季刊脳外科看護2003 2003 ; 2 ( 2 ): 61-66 .
- 13) 寺本 明: ホルモン産生下垂体腺腫の治療. ホルモンと臨床 内分泌病理学 最近の進歩 2003 2003 ; 51 ( 臨時増刊号 ): 25-30 .
- 14) 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科 ): 神経精神疾患の EBM -エビデンスに基づく神経精神疾患の治療戦略- プロラクチノーマ. 脳の科学 2003 ; 25 ( 9 ): 919-923 .
- 15) 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科 ): 専門医に求められる最新の知識 脳腫瘍 脳下垂体腫瘍とホルモン. 脳神経外科速報 2003 ; 13 ( 9 ): 951-958 .
- 16) 山王直子<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科 ): 14 脳腫瘍. ターミナルケア 緩和ケアのための臨床腫瘍学 2003 ; 13 ( suppl ): 188-193 .
- 17) 足立好司, 寺本 明: 新人ナースのための脳神経疾患術前・術中・術後の管理: 術前・術後の輸液管理. プレインナーシング 2003 ; 19 ( 10 ): 996-1000 .
- 18) 戸田茂樹, 寺本 明: 根拠からわかる術後の輸液管理 第3回脳外科患者の水分・電解質管理の観察と注意点. 季刊脳外科看護2003 2003 ; 2 ( 3 ): 70-74 .
- 19) 高橋 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院脳神経外科 ): Book and Journal Review : Prediction of central nervous system embryonal tumour outcome based on gene expression . 小児の脳神経 2003 ; 28 ( 5 ): 372-373 .

- 20) 野手洋治：くも膜下出血のキーワード tPA 洗滌 . Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 11 ) : 1320-1321 .
- 21) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : Radial artery graft . Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 11 ) : 1303-1305 .
- 22) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科) : At a glance diagnosis : 頭蓋骨の変形 ( 1 ) . Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 11 ) : 1328-1329 .
- 23) 大山健一, 山田正三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科) : 水・電解質異常をきたす特殊な病態の解説 尿崩症 . Medicina 2003 ; 40 ( 11 ) : 1920-1923 .
- 24) 田原重志 : 数字に見る先端巨大症「22」. アクロン4 2003 ; ( 3 ) : 10-10 .
- 25) 寺本 明 : 経蝶形骨下垂体手術の合併症 . 脳神経外科 2003 ; 31 ( 11 ) : 1165-1176 .
- 26) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科) : At a glance diagnosis : 頭蓋骨の変形 ( 2 ) . Clin Neurosci 2003 ; 21 ( 12 ) : 1464-1465 .
- 27) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科) : At a glance diagnosis : 頭蓋骨の変形 ( 3 ) . Clin Neurosci 2004 ; 22 ( 1 ) : 106-107 .
- 28) 戸田茂樹, 寺本 明 : 根拠からわかる術後の輸液管理 第4回輸液ポンプ使用や, 輸液投与時の手技上の観察と注意点 . 季刊脳外科看護2003 2004 ; 2 ( 4 ) : 64-68 .
- 29) 寺本 明, 嘉山孝正<sup>1)</sup>, 倉津純一<sup>2)</sup>, 有田憲生<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>山形大学脳神経外科, <sup>2)</sup>鹿児島大学脳神経外科, <sup>3)</sup>兵庫医科大学脳神経外科) : 脳ドックの新しい診療ガイドライン 4 無症候性脳腫瘍 . 脳と神経 2004 ; 56 ( 1 ) : 29-32 .
- 30) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科) : At a glance diagnosis ; 頭蓋骨の変形 ( 4 ) . Clin Neurosci 2004 ; 22 ( 2 ) : 218-219 .
- 31) 足立好司 : 標準治療と最新治療 : メリット・デメリット 脳腫瘍 . Clin Neurosci 2004 ; 22 ( 2 ) : 226-227 .
- 32) 田原重志, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科) : 下垂体腺腫に対する PPAR agonist 治療 . 内分泌・糖尿病科 2004 ; 18 ( 2 ) : 177-181 .
- 33) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科) : At a glance diagnosis : 頭蓋骨の変形 ( 5 ) . Clin Neurosci 2004 ; 22 ( 3 ) : 338-339 .
- 34) 喜多村孝幸 : 低髄液圧症候群 ( 脳脊髄液減少症 ) . Current insights in neurological science 2004 ; 12 : 6-6 .
- ( 3 ) ビデオ :
- 1) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科) : 血管吻合手術手技のトレーニングと実際 . 脳神経外科ビデオジャーナル 2003 ; 11 ( 3 ) .
- ( 4 ) 雑文 :
- 1) 寺本 明 : 高プロラクチン血症 . 暮らしと健康 2003 ; 84-84 .
- 2) 寺本 明 : 特集 神経内分泌学の最近の展開 序文 . 神経研究の進歩 2003 ; 47 ( 3 ) : 334-334 .
- 3) 寺本 明 : 脳ドック3 : 脳下垂体腫瘍 . Brain 2003 ; ( 70 ) : 6-9 .

## 著 書

- 1) 野手洋治 : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 中脳梗塞による両側性動眼神経麻痺 ( basilar top syndrome ) . Clin Neurosci , 2003 ; pp463-464 , 中外医学社 .
- 2) 足立好司, 寺本 明 : [ 分担 ] 正常圧水頭症 . 改訂第3版 外来診療のすべて ( 高久 史磨 監 ) , 2003 ; pp592-593 , メジカルビュー社 .
- 3) 足立好司, 寺本 明 : [ 分担 ] 脳腫瘍 . 改訂第3版 外来診療のすべて ( 高久 史磨 監 ) , 2003 ; pp594-595 , メジカルビュー社 .
- 4) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>教育推進室) : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 中枢性神経細胞腫 . Clin Neurosci , 2003 ; pp591-592 , 中外医学社 .

- 5) 吉田陽一, 田島廣之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): [ 分担 ] 1: 頭部・頸部 脳血管攣縮. 改訂版 救急疾患のIVR 手技の実際とポイント (隈崎 達夫・中島 康雄 編), 2003 ; pp6-7, メジカルビュー社 .
- 6) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 野手洋治, 横田裕行<sup>4)</sup>, 喜多村孝幸, 水成隆之<sup>3)</sup>, 吉田大蔵<sup>2)</sup>, 足立好司, 小南修史<sup>3)</sup>, 星野 茂<sup>5)</sup>, 山王直子<sup>6)</sup>, 草薨博昭<sup>7)</sup>, 山口文雄, 戸田茂樹 (<sup>1)</sup>教育推進室, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>3)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>4)</sup>高度救命救急センター, <sup>5)</sup>平和台病院脳神経外科, <sup>6)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>7)</sup>みさと駅前クリニック): [ 分担 ] 脳神経外科診療ノート (寺本 明 編), 2003 ; 中外医学社 .
- 7) 寺本 明: [ 編集 ] 脳神経外科診療ノート, 2003 ; 中外医学社 .
- 8) 山口文雄: [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 頸静脈孔神経鞘腫 . Clin Neurosci, 2003 ; pp707-708, 中外医学社 .
- 9) 寺本 明: [ 編集 ] 特集 神経内分泌学の最近の展開 . Advances in Neurological Science 神経研究の進歩, 2003 ; 医学書院 .
- 10) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 中頭蓋窩くも膜下嚢胞に合併する慢性硬膜下血腫 . Clin Neurosci, 2003 ; pp831-832, 中外医学社 .
- 11) 足立好司: [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : トルコ鞍内発生胚細胞腫 germinoma . Clin Neurosci, 2003 ; pp951-952, 中外医学社 .
- 12) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 静脈洞血栓症による出血性梗塞 . Clin Neurosci, 2003 ; pp1071-1072, 中外医学社 .
- 13) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 嚢胞内に腫瘍性出血をおこした多形性黄色星細胞腫 . Clin Neurosci, 2003 ; pp1201-1202, 中外医学社 .
- 14) 野手洋治: [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : “ いわゆる ” Fahr's syndrome, または線条体淡蒼球石灰化 . Clin Neurosci, 2003 ; pp1325-1326, 中外医学社 .
- 15) 寺本 明: [ 分担 ] 経蝶形骨手術 . 脳神経外科疾患の手術と適応-I 第二版 (阿部 弘・菊池晴彦・田中隆一・坪川 孝志・平川 公義・松本 悟 編), 2003 ; pp149-166, 朝倉書店 .
- 16) 寺本 明: [ 分担 ] 間脳・下垂体腫瘍 . 改定第2版 脳神経外科周術期管理のすべて (松谷 雅生・田村 晃 編), 2003 ; pp131-146, メジカルビュー社 .
- 17) 戸田茂樹: [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : spinal epidural hematoma . Clin Neurosci, 2003 ; pp1461-1462, 中外医学社 .
- 18) 寺本 明: [ 分担 ] 脳腫瘍 . 今日の治療指針 2004 (山口 徹・北原 光夫 編), 2004 ; pp619-619, 医学書院 .
- 19) 山口文雄: [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 下垂体腫瘍・腫瘍内出血 . Clin Neurosci, 2004 ; pp103-104, 中外医学社 .
- 20) 喜多村孝幸: [ 分担 ] 片頭痛と緊張型頭痛との治療戦略の差異とその根拠 . 片頭痛へのアプローチ よりよい日常生活を配慮した診療を目指して (坂井 文彦 編), 2004 ; pp168-174, 先端医学社 .
- 21) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): [ 分担 ] VII. 脳腫瘍 ; 1 脳幹部腫瘍の手術療法 . Annual Review 神経 2004 (柳澤信夫・篠原幸人・岩田 誠・清水輝夫・寺本 明 編集), 2004 ; pp161-167, 中外医学社 .
- 22) 柳澤信夫<sup>1)</sup>, 篠原幸人<sup>2)</sup>, 岩田 誠<sup>3)</sup>, 清水輝夫<sup>4)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>関東労災病院神経内科, <sup>2)</sup>東海大学神経内科, <sup>3)</sup>東京女子医科大学脳神経センター神経内科, <sup>4)</sup>帝京大学神経内科): [ 編集 ] Annual Review 神経 2004, 2004 ; 中外医学社 .
- 23) 喜多村孝幸, 間中信也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>間中病院脳神経外科): [ 編集 ] トリプタンの使い方 新しい片頭痛治療薬のさじ加減, 2004 ; pp1-183, フジメディカル出版 .
- 24) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>教育推進室): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : Gliomatosis cerebri . Clin Neurosci, 2004 ; pp223-224, 中外医学社 .
- 25) 寺本 明, 田原重志, 大山健一, 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): [ 研究報告書 ] 本邦における先端

- 巨大症の heel pad thickness の再評価．厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究 平成15年度 総括・分担研究報告書，2004；pp55-58，1．
- 26) 長村義之<sup>1)</sup>，江頭 登<sup>1)</sup>，宮井俊輔<sup>1)</sup>，山崎道生，山王直子<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学，<sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院脳神経外科): [研究報告書] 下垂体腺腫における サブユニット (SU) の発現について．厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究 平成15年度 総括・分担研究報告書，2004；pp81-83，1．
- 27) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz : 腫瘍との鑑別に苦慮した脳梗塞の1例．Clin Neurosci，2004；pp335-336，中外医学社．
- 28) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): [研究報告書] GFP 遺伝子導入細胞を用いた脳腫瘍侵潤モデルにおける抗微小管剤による侵潤の抑制効果の研究：抗微小管剤による侵潤の抑制効果の研究．Japan Brain Foundation 2001 2002年度研究報告 (財団法人 日本神経財団 編)，2004；pp20-23，1．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 寺本 明：経蝶形骨手術の合併症とその対策：1400例の経験から．第20回山梨脳神経外科懇話会，2003．5．
- 2) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科)：悪性脳腫瘍に対する有効治療法を求めて．日本医科大学医学会第110回例会，2003．5．
- 3) 志村俊郎<sup>1)</sup>，荒牧琢己<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>教育推進室，<sup>2)</sup>内科学第1)：本学における有機的統合を備えた統合カリキュラムについて．日本医科大学医師会生涯教育講座平成15年度第1回医学講座プログラム，2003．5．
- 4) 喜多村孝幸：片頭痛の診断と治療のコツ．香川県木田郡医師会講演会，2003．6．
- 5) 喜多村孝幸：低髄液圧症候群．第27回南大阪脳神経外科研究会，2003．6．
- 6) 喜多村孝幸：頭痛治療のトピックス．第4回湘南頭痛研究会，2003．6．
- 7) 喜多村孝幸：頭痛治療のトピックス．第5回新都心頭痛セミナー，2003．6．
- 8) 寺本 明：先端巨大症の診断と治療．山形アクロメガリー講演会，2003．7．
- 9) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術の合併症とその対策：1,400例の経験より．第65回大阪脳神経外科研究会，2003．7．
- 10) 寺本 明：先端巨大症の診断と治療．東北下垂体腫瘍フォーラム，2003．7．
- 11) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科)：下垂体 incidentaloma：自然史と治療方針．福島内分泌懇話会，2003．8．
- 12) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科)：小児頭部外傷について．第223回川崎市小児科医会例会，2003．9．
- 13) 寺本 明：先端巨大症の診断と治療．第1回北関東間脳下垂体疾患研究会，2003．10．
- 14) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術の合併症とその対策 (1,400例の経験から)．第5回TNN研究会，2003．10．
- 15) 喜多村孝幸：片頭痛の診断・治療．SCU03 in Karuizawa，2003．11．
- 16) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術の合併症とその対策：1,452例の経験から．第100回山口県脳神経外科談話会，2003．11．
- 17) 寺本 明：先端巨大症の診断と治療．第1回千葉アクロメガリーワークショップ，2003．11．
- 18) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科)：悪性脳腫瘍克服に向けた治療法の模索．第20回湾岸脳神経外科コングレス，2003．11．
- 19) 喜多村孝幸：頭痛治療のトピックス．第4回鹿児島頭痛研究会，2003．11．
- 20) 喜多村孝幸：頭痛治療のトピックス．第8回佐賀頭痛研究会，2003．11．
- 21) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術の合併症とその対策：1,452例の経験より．第36回山形脳神経外科懇話会，2003．12．
- 22) 喜多村孝幸：頭痛に対する脳神経外科医の対応．第22回松山脳神経外科会，2004．3．

(2) 教育講演：

- 1) 寺本 明：日本の脳神経外科医の卒後教育．第32回日本脳卒中の外科学会，2003．3．
- 2) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術1,378例の成績と合併症．第76回日本内分泌学会学術総会，2003．5．
- 3) 寺本 明：鼻腔からできる脳下垂体腫瘍手術．ラジオたんぱ「医学講座」，2003．10．
- 4) 寺本 明：脳のホルモンとその病気．第28回日本脳神経財団講演会 市民公開講座，2003．10．
- 5) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術の合併症とその対策．第8回日本脳腫瘍の外科学会，2003．11．
- 6) 喜多村孝幸，田原重志，寺本 明：脳室内腫瘍への神経内視鏡の応用．第10回日本神経内視鏡学会，2003．12．
- 7) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術の成績と合併症：1,452例の経験から．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．

(3) シンポジウム：

- 1) 寺本 明：非機能性腺腫の診断と治療．第26回日本医学会総会，2003．4．
- 2) 山王直子<sup>1)</sup>，大山健一，田原重志，長村義之<sup>2)</sup>，寺本 明，加藤 謙<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学，<sup>3)</sup>島根医科大学第一内科)：下垂体 incidentaloma の自然史と治療方針．第76回日本内分泌学会総会，2003．5．
- 3) 井須豊彦<sup>1)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>，磯部正則<sup>1)</sup>，松本亮司<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：頸椎変性疾患に対する頸椎椎間板環納術．第18回日本脊髄外科学会，2003．6．
- 4) 木暮一成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科)：経椎体法による前方除圧術：C3/4を中心に．第10回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会，2003．9．
- 5) 横田裕行<sup>1)</sup>，桑本健太郎<sup>1)</sup>，志賀尚子<sup>1)</sup>，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>1)</sup>，猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，野手洋治，小林士郎<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>高度救命救急センター，<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：分子マーカーからみた頭部外傷の病態と管理：脳血管内皮障害と凝固線溶系の見地から．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 6) 佐藤秀貴<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，志賀尚子<sup>1)</sup>，桑本健太郎<sup>1)</sup>，高山泰広<sup>1)</sup>，野手洋治，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター)：重症頭部外傷におけるガイドラインと当施設での診療の実際．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 7) 井須豊彦<sup>1)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>，磯部正則<sup>1)</sup>，松本亮司<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：脊椎外科での high speed drill と ultrasonic osteotome の比較検討．第38回日本脊髄障害医学会，2003．11．
- 8) 饒波正博<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，小菊 実<sup>1)</sup>，林 靖人<sup>1)</sup>，吉田大蔵<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科)：当施設における髄膜腫治療の報告：それはどう決められて，どう評価されたか？．第8回日本脳腫瘍の外科学会，2003．11．
- 9) 田原重志，喜多村孝幸，大山健一，山王直子<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科)：当教室における内視鏡下経鼻経蝶形骨手術（特に再手術例における有用性について）．第10回日本神経内視鏡学会，2003．12．
- 10) 田原重志，喜多村孝幸，山王直子<sup>1)</sup>，大山健一，寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科)：当教室における内視鏡下経鼻経蝶形骨手術の適応と限界：特に再手術例における術式の選択について．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 11) 山田正三<sup>1)</sup>，阿部 肇<sup>1)</sup>，高井敬介<sup>1)</sup>，大山健一，高田浩次<sup>1)</sup>，臼井雅昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科)：トルコ鞍近傍疾患に対する経蝶形骨洞手術：適応と限界．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 12) 喜多村孝幸，小島豊之，寺本 明：脳脊髄液減少症の診療ガイドラインの提言．第1回脳脊髄液減少症研究会，2004．2．
- 13) 中村俊孝<sup>1)</sup>，上山博康<sup>1)</sup>，瀧澤克己<sup>1)</sup>，数又 研<sup>1)</sup>，古明地孝宏<sup>1)</sup>，窪田貴倫<sup>1)</sup>，小林 徹<sup>1)</sup>，村井保夫(<sup>1)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科)：PICA involved dissection aneurysm 出血例の治療．第33回日本脳卒中の外科学会，2004．3．



(4) パネルディスカッション：

- 1) 太組一朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 私の海外留学体験．第23回日本脳神経外科コンgres, 2003．5．
- 2) 寺本 明: 無症候性脳腫瘍の発見とその意義．第44回日本人間ドック学会, 2003．8．

(5) セミナー：

- 1) 喜多村孝幸: 脳神経外科におけるカルシウム拮抗剤の意義．三共学術集談会, 2003．5．
- 2) 寺本 明: 成長ホルモン産生下垂体腺腫の診断と治療．第21回日本脳腫瘍病理学会, 2003．5．
- 3) 喜多村孝幸: 脳室内腫瘍への神経内視鏡の応用．第23回日本脳神経外科コンgres, 2003．5．
- 4) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): Rendu-Osler-Weber 病と思われる後頭蓋窩 AVF の1例．第4回脳神経血管内治療琉球セミナー, 2003．6．
- 5) 太組一朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): PTTG (pituitary tumor-transforming gene)．第14回東京成長ホルモン・成長因子セミナー, 2003．7．
- 6) 喜多村孝幸: 神経内視鏡手術の実際．第62回日本脳神経外科学会総会, 2003．10．
- 7) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 脳神経血管内治療のための血管解剖2．第9回西関東Neuro IVRセミナー, 2003．12．
- 8) 喜多村孝幸, 小島豊之, 寺本 明: 低髄液圧症候群の病態と治療．第9回日本脳神経外科救急学会, 2004．1．

(6) ワークショップ：

- 1) 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): AICA-PICA 共通幹を有した椎骨動脈解離性動脈瘤の治療について: case report．第22回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2003．8．
- 2) 村井保夫, 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 瀧澤克己<sup>2)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 前大脳動脈の血行再建術を併用した未破裂前交通動脈瘤．第22回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2003．8．
- 3) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): STA-proximal MCA anastomosis の適応と有用性．第22回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2003．8．
- 4) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): RA-M2 吻合を併用した suction decompression 法にてクリッピングし得た内頸動脈瘤の1例．第22回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2003．8．
- 5) 金 景成<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>生理学第2, <sup>3)</sup>多摩永山病院脳神経外科): GH 産生腺腫における各種視床下部ホルモン受容体の発現に関する検討．第1回千葉県アクロメガリーワークショップ, 2003．11．
- 6) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 辻井厚子<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 野手洋治, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): 臓器提供施設からみた法的脳死下臓器提供における問題点: 大学病院における3例の経験から．第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003．11．
- 7) 大山健一, 山田正三<sup>1)</sup>, 加藤真子<sup>2)</sup>, 田口 学<sup>2)</sup>, 竹下 章<sup>2)</sup>, 小澤安則<sup>2)</sup>, 成井浩司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同内分泌代謝科, <sup>3)</sup>同呼吸器センター内科): 無呼吸症候群で発見された先端巨大症例．第2回東京アクロメガリーフォーラム, 2004．2．

(7) 一般講演：

- 1) 太組一朗<sup>1)</sup>, 諫山和男<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>多摩脳神経外科): 硬膜内 C1 後根神経鞘腫の1症例．第62回日本脳神経外科学会総会, 2003．10．
- 2) Adachi K, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital): Synergistic anti-glioma activity of IL-12 and IL-18．15th International Conference on Brain Tumor Research and Therapy (Sorrento, Italy), 2003．5．
- 3) Mishina M<sup>1)</sup>, Ohyama M<sup>2)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Mitani K<sup>2)</sup>, Oda K<sup>2)</sup>, Kimura Y<sup>2)</sup>, Sasaki T<sup>2)</sup>, Ishikawa K<sup>2)</sup>,

- Fukuchi T<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Kitamura S<sup>4)</sup>, Katayama Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>4)</sup> Second Department of Internal Medicine ): Midbrain hypometabolism : an early diagnostic sign for progressive supranuclear palsy . 50th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( New Orleans, U. S. A. ), 2003 . 6 .
- 4) Yamazaki M , Egashira N<sup>1)</sup>, Ishii Y , Sanno N<sup>2)</sup>, Teramoto A , Osamura RY<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology , Tokai University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ) : Interaction of transcription factors and co-factors in human nonfunctioning pituitary adenomas toward the differentiation of gonadotropin subunits . ENDO 2003 ( Philadelphia, U. S. A. ), 2003 . 6 .
- 5) Node Y , Teramoto A : External ventricle drainage was less effective in patients with poor grade subarachnoid hemorrhage . 12th European Congress of Neurosurgery ( Lisbon, Portugal ), 2003 . 9 .
- 6) Node Y , Teramoto A : Clinical experience of hydroxyapatite ceramics in the reconstruction of the surgical skull defects following a frontotemporal craniotomy . 12th European Congress of Neurosurgery ( Lisbon, Portugal ), 2003 . 9 .
- 7) Node Y , Teramoto A : Surgical strategy of ruptured cerebral aneurysm in elderly patients . 12th European Congress of Neurosurgery ( Lisbon, Portugal ), 2003 . 9 .
- 8) Node Y , Teramoto A : “ Platform accident ” in Tokyo . 12th European Congress of Neurosurgery ( Lisbon, Portugal ), 2003 . 9 .
- 9) Node Y , Teramoto A : Surgical strategies for the patients with severe subarachnoid hemorrhage ( WFNS Grade V ). 12th European Congress of Neurosurgery ( Lisbon, Portugal ), 2003 . 9 .
- 10) Adachi K , Takei M , Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital ): MR imaging characteristics of neurohypophyseal germinoma . 1st International Symposium on CNS Germ Cell Tumors ( Kyoto, Japan ), 2003 . 9 .
- 11) Yamaguchi F , Morrison RS<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurological Surgery, University of Washington , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Second Hospital ): Hypermethylation of FGFR2 promoter induces its suppressed expression in malignant glioma . Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting ( Denver, U. S. A. ), 2003 . 10 .
- 12) Kanazawa R , Yoshida D<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Suzuki S<sup>3)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pathology , <sup>3)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): Drug-induced apoptosis by a matrix metalloproteinase inhibitor, SI-27 on human malignant glioma cell lines ; in vitro study . Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting ( Denver, U. S. A. ), 2003 . 10 .
- 13) Yoshida Y , Weon YC<sup>1)</sup>, Sachet M<sup>1)</sup>, Mahadevan J<sup>1)</sup>, Alvarez H<sup>1)</sup>, Rodesch G<sup>1)</sup>, Lasjaunias P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Service de Neuroradiologie Diagnostique et Therapeutique, CHU de Bicêtre, Le Kremlin Bicetre ): Posterior fossa single hole arteriovenous fistulas ( AVFs ) in children : review of 14 consecutive cases with 23 AVFs . 7th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology ( Recife, Brazil ), 2003 . 11 .
- 14) Weon YC<sup>1)</sup>, Yoshida Y , Sachet M<sup>1)</sup>, Mahadevan J<sup>1)</sup>, Alvarez H<sup>1)</sup>, Rodesch G<sup>1)</sup>, Lasjaunias P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Service de Neuroradiologie Diagnostique et Therapeutique, CHU de Bicêtre, Le Kremlin Bicetre ): Supratentorial cerebral arteriovenous fistulas ( AVFs ) in children : review of 41 cases with 63 non choroidal single hole AVFs . 7th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology ( Recife,

Brazil ), 2003 . 11 .

- 15) Mahadevan J<sup>1)</sup>, Yoshida Y, Weon YC<sup>1)</sup>, Alvarez H<sup>1)</sup>, Rodesch G<sup>1)</sup>, Lasjaunias P<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Service de Neuroradiologie Diagnostique et Therapeutique, CHU de Bicêtre Le Kremlin Bicêtre): Hereditary haemorrhagic telangiectasia cerebrospinal localisation in adult and children : review of 39 cases . 7th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology ( Recife, Brazil ), 2003 . 11 .
- 16) Kominami S<sup>1)</sup>, Fuse A<sup>2)</sup>, Ishihara S<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , <sup>2)</sup> Department of Critical Care Medicine , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Japan Defence Medical School ): Presurgical embolization of meningiomas with NBCA . 7th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology ( Recife, Brazil ), 2003 . 11 .
- 17) Komaba Y<sup>1)</sup>, Mishina M<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> The Second Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital ): Crossed cerebellar diaschisis in patients with cortical infarction using logistic regression analysis . 29th International Stroke Conference ( San Diego, U. S. A. ), 2004 . 2 .
- 18) Yoshida Y, Weon YC<sup>1)</sup>, Sachet M<sup>1)</sup>, Mahadevan J<sup>1)</sup>, Alvarez H<sup>1)</sup>, Rodesch G<sup>1)</sup>, Lasjaunias P<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Service de Neuroradiologie Diagnostique et Therapeutique, CHU de Bicêtre, Le Kremlin Bicêtre): Posterior fossa single hole arteriovenous fistulas ( AVFs ) in children : review of 14 consecutive cases with 23 AVFs . 6th meeting of the Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology ( Bangkok, Thailand ), 2004 . 3 .
- 19) Kominami S<sup>1)</sup>, Fuse A<sup>2)</sup>, Ishihara S<sup>3)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , <sup>2)</sup> Department of Critical Care Medicine , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, National Defense Medical College ): Presurgical embolization for intracranial meningiomas with NBCA . 6th meeting of the Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology ( Bangkok, Thailand ), 2004 . 3 .
- 20) Yamazaki M , Miyai S<sup>1)</sup>, Egashira N<sup>1)</sup>, Takekoshi S<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Teramoto A , Osamura RY<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Specific expression of estrogen receptor ( ER ) mRNA in prolactin ( PRL ) positive cells in human GH producing pituitary adenomas : molecular analysis with laser capture dissection ( LCD ) . USCAP2004 ( Canada, Vancouver ), 2004 . 3 .
- 21) 小島豊之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 山口文雄, 水村 直<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>放射線医学): ガンマプローブおよび半導体検出器搭載モバイルガンマカメラを用いた脳腫瘍摘出術 . 第12回脳神経外科手術と機器学会, 2003 . 4 .
- 22) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 脳血管吻合手技の実際在即したトレーニング . 第12回脳神経外科手術と機器学会, 2003 . 4 .
- 23) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 脳動脈瘤手術における pterional approach の修飾 . 第12回脳神経外科手術と機器学会, 2003 . 4 .
- 24) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): PAL I EMF System を用いた後方除圧術 . 第12回脳神経外科手術と機器学会, 2003 . 4 .
- 25) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 渡邊国博<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 前頭洞開放時の補填にリン酸カルシウムペースト ( バイオベックス ) の使用経験 . 第12回脳神経外科手術と機器学会, 2003 . 4 .

- 26) 喜多村孝幸, 田原重志, 寺本 明: 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡の有用性. 第12回脳神経外科手術と機器学会, 2003. 4.
- 27) 喜多村孝幸, 田原重志, 寺本 明: 神経内視鏡手術に関する全国アンケート調査報告. 第12回脳神経外科手術と機器学会, 2003. 4.
- 28) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科,<sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 術中 navigation, monitoring をもちいた脊髄腫瘍手術. 第19回東北北海道脊髄疾患研究会, 2003. 4.
- 29) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 虚血性脳血管障害に対する手術治療. 第6回房総 EVENING FORUM, 2003. 4.
- 30) 山崎道生, 江頭 登<sup>1)</sup>, 石井雄道, 山王直子<sup>2)</sup>, 寺本 明, 長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学,<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 非機能性下垂体腺腫における転写因子の発現. 第92回日本病理学会総会, 2003. 4.
- 31) 山田 明<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科,<sup>2)</sup>同神経内科): 下垂体腺腫との識別が困難であった鞍上部腫瘍の1例. 第34回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 5.
- 32) 金 景成<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科,<sup>2)</sup>同神経内科): 画像診断上非特異的所見を呈した pineal region tumor の1例. 第34回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 5.
- 33) 金 景成<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 高野幸路<sup>3)</sup>, 高野順子<sup>3)</sup>, 寺本 明, 芝崎 保<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科,<sup>2)</sup>同多摩永山病院脳神経外科,<sup>3)</sup>東京大学腎臓内分泌内科,<sup>4)</sup>日本医科大学生理学第2): GH 産生腺腫における GHRHR mRNA 発現調節に関する検討. 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 34) 金 景成<sup>1)</sup>, 山田正三<sup>2)</sup>, 臼井雅昭<sup>2)</sup>, 峯山智佳<sup>3)</sup>, 小田原雅人<sup>3)</sup>, 佐野壽昭<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科,<sup>2)</sup>虎の門病院脳神経外科,<sup>3)</sup>同内分泌代謝科,<sup>4)</sup>徳島大学第1病理): 特異な超微細組織形態を示した巨大 ACTH 産生下垂体腺腫の1例. 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 35) 大山健一, 小島豊之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): SPECT を用いた末端肥大症患者の術前後における心機能改善度の評価. 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 36) 山崎道生, 江頭 登<sup>1)</sup>, 石井雄道, 山王直子<sup>2)</sup>, 竹腰 進<sup>1)</sup>, 寺本 明, 長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学,<sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院脳神経外科): 非機能性腺腫における Egr-1 の発現. 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 37) 田原重志, 山王直子<sup>1)</sup>, 石井雄道, 大山健一, 梅岡克哉, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): いわゆる low GH acromegaly の臨床病理学的特徴. 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 38) 小菊 実<sup>1)</sup>, 林 靖人<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 腫瘍内出血にて脳ヘルニアを起こし緊急手術を要した多形黄色星状細胞腫の1例. 日本医科大学医学会第110回例会, 2003. 5.
- 39) 足立好司: グリオーマ悪性化にかかわる遺伝子群の検討 -cDNA マイクロアレイ法による-. 千駄木ニューロカンファレンス, 2003. 6.
- 40) 小菊 実<sup>1)</sup>, 林 靖人<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 両側椎骨動脈解離を認めた若年者脳梗塞の1例. 川崎脳神経外科懇話会, 2003. 6.
- 41) 大山健一, 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 当科における pituitary incidentaloma の治療方針. 第12回日本脳ドック学会総会, 2003. 6.

- 42) 勝野 亮, 木暮一成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 長期間 post-polio syndrome と診断されていた重症頸椎症の1例. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 43) 戸田茂樹, 木暮一成<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 脊髄手術時, 電気刺激装置を用いた錐体路のモニタリングの有用性について. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 44) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断: 上位腰椎と下位腰椎の相違. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 45) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 特異な MRI 所見を呈した C3/4 disc hernia の1治験例. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 46) 鈴木雅規, 木暮一成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): NBCA にて embolization を施行した脊髄硬膜動静脈瘻の1例. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 47) 福地孝明<sup>1)</sup>, 瀬田健博<sup>3)</sup>, 桂研一郎<sup>3)</sup>, 五十嵐博中<sup>3)</sup>, 神谷達司<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター・脳神経外科, <sup>3)</sup> 内科学第2): 脳梗塞(ラクナ梗塞)患者発症急性期と慢性期でのシロスタゾールの局所脳血流量, 血小板機能への影響. 第21回日本神経治療学会総会, 2003. 6.
- 48) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>3)</sup>, 田中伸幸<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>1)</sup>, 櫻澤 誠<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>2)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 山田 明<sup>2)</sup>, 水谷暢秀<sup>2)</sup>, 木暮一成<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 酒寄 修<sup>1)</sup>, 濱本 真<sup>1)</sup>, 片山 泰朗<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター・脳神経外科, <sup>3)</sup> 内科学第2): エダラボン併用と心原性脳塞栓出血性変化に関するロジスティック回帰分析を用いた検討. 第53回東葛地区脳神経外科研究会, 2003. 6.
- 49) 小菊 実<sup>1)</sup>, 林 靖人<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 第二病院脳神経外科): 腫瘍内出血にてヘルニアをおこした多形黄色星状細胞腫の1例. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 50) 山田昌興, 中根 一<sup>1)</sup>, 青木 誠<sup>1)</sup>, 中山比登志<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 帝京大学溝口病院脳神経外科): 化学療法, 放射線療法が著効した large cell neuroendocrine carcinoma 転移性脳腫瘍例. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 51) 田原重志, 竹井麻生, 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 第二病院脳神経外科): 1年の経過で著明な嚢胞形成を呈した神経下垂体部 germinoma with STGC の1例. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 52) 山田良治<sup>1)</sup>, 吹野晃一, 岡本幸一郎<sup>1)</sup>, 篠浦伸禎<sup>1)</sup>, 中村 治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 都立駒込病院脳神経外科): 全摘出が困難であった頭蓋原発骨肉腫に対して放射線・大量化学療法が有効であった1例. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 53) 勝野 亮<sup>1)</sup>, 村井保夫, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 末端肥大症に Lymphocytic hypophysitis を合併した1例. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 54) 高橋雅道<sup>1)</sup>, 金 太一<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎, 原 貴行<sup>1)</sup>, 江口恒良<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 亀田総合病院脳神経外科): 自然寛解を呈した急性頸椎脊髄硬膜外血腫の1例. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 55) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 内頸動脈, 大型, 巨大脳動脈瘤のクリッピング術の工夫. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 56) 木暮一成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 頸椎黄色靭帯骨化症の1治療例. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 57) 朝倉宏美<sup>1)</sup>, 岡沢有希子<sup>1)</sup>, 小林紀美<sup>1)</sup>, 芹澤 彩<sup>1)</sup>, 田村寿子<sup>1)</sup>, 沼倉宏子<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科): 意識障害患者の睡眠覚醒リズムの確立の試み:

- 映像, アロマオイルマッサージを用いて. 第12回意識障害治療学会, 2003. 7.
- 58) 田中伸幸<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>4)</sup>, 小南修史<sup>3)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 酒寄 修<sup>2)</sup>, 濱本真<sup>2)</sup>, 寺本 明, 片山泰朗<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同脳神経センター脳神経外科, <sup>4)</sup>内科学第2): エガラボン・ヘパリン併用と心原性脳塞栓出血性変化: ロジスティック回帰分析を用いた検討. 第1回“フリーラジカルと脳疾患”東日本研究会学術集会, 2003. 7.
- 59) 足立好司, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 大泉門部に発生した類上皮腫の1例. 第31回日本小児神経外科学会, 2003. 7.
- 60) 戸田茂樹, 石井雄道, 立山幸次郎, 前田美穂<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 竹内直英<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>小児科学, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 白血病治療中静脈洞血栓症に陥った1小児例. 第31回日本小児神経外科学会, 2003. 7.
- 61) 金 景成<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 神谷信雄<sup>2)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>同神経内科): 脳底動脈小枝分岐部に発生したと思われる微小脳動脈瘤の1例. 第35回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 7.
- 62) 木暮一成<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 神谷信雄<sup>2)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>同神経内科): 四肢麻痺にて発症した頸髄グリオーマの1例. 第35回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 7.
- 63) 酒井直之<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 神谷信雄<sup>2)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>同神経内科): 頭蓋内圧亢進で発症した上矢状静脈洞硬膜動静脈瘻の1例. 第35回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 7.
- 64) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>教育推進室): 本学の臨床系臓器別の統合カリキュラムに関する教員と学生に対するアンケート集計結果の考察. 第35回日本医学教育学会大会, 2003. 7.
- 65) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>2,3)</sup>, 志村俊郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>教育推進室): OSCEにおける胸部レントゲン読影. 第35回日本医学教育学会大会, 2003. 7.
- 66) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 特異な MRI 所見, 臨床経過を呈した C3/4 disc hernia の1例. 第4回東北北海道脳神経外科研究会, 2003. 7.
- 67) 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 急性期血行再建を要した解離性脳動脈瘤の1例. 第17回千葉県重症患者管理研究会, 2003. 9.
- 68) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症: 骨性形態と黄色靭帯の画像的検討. 第20回北海道脊髄疾患研究会, 2003. 9.
- 69) 山崎道生, 石井雄道, 大山健一, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>同多摩永山病院脳神経外科, <sup>3)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): ナイフ照射後に腫瘍摘出し ACTH 及び GH 発現を見た GH 産生腫瘍の1例. 第30回日本神経内分泌学会, 2003. 9.
- 70) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Biological significance of hypoxic condition in tumor angiogenesis. 第4回日本分子脳神経外科学会, 2003. 9.
- 71) 山口文雄, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 悪性グリオーマにおける FGFR2 シャットダウンメカニズム. 第4回日本分子脳神経外科学会, 2003. 9.
- 72) 酒井直之<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 上矢状洞硬膜動静脈瘻の1手術症例. 第54回東葛地区脳神経外科研究会, 2003. 9.
- 73) 河野 潤, 永井尚生<sup>1)</sup>, 横田 隆<sup>1)</sup>, 足立好司, 山口文雄, 寺本 明, 江見 充<sup>1)</sup>, 角田達彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大

- 学老人病研究所分子生物学部門,<sup>2)</sup> 理化学研究所遺伝子多型解析センター): cDNA マイクロアレイを用いて神経膠腫の grade 間を比較した遺伝子発現解析. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 74) 小菊 実<sup>1)</sup>, 林 靖人<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 診断困難であった lymphocytic infundibulo-neurohypophysitis の1例. 第6回神奈川脳腫瘍フォーラム学術集会, 2003. 9.
- 75) 川野記代子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 原 博<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 武内俊次<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>2)</sup>同神経外科,<sup>3)</sup>同整形外科,<sup>4)</sup>病理学第2): 脳腫瘍, 軟部腫瘍の術中迅速診断における迅速免疫染色の有用性. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 76) 太組一朗<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup>同病理部): 術中迅速診断に穿刺吸引細胞診が有用であった神経膠腫の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 77) 横田 隆<sup>1)</sup>, 河野 潤, 江見 充<sup>1)</sup>, 足立好司, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明, 角田達彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門,<sup>2)</sup>同第二病院脳神経外科,<sup>3)</sup>理化学研究所遺伝子多型解析センター): cDNA マイクロアレイを用いた glioblastoma の遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 78) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 小黑辰夫<sup>1)</sup>, 赤坂久美<sup>1)</sup>, 三枝順子<sup>1)</sup>, 京本典興<sup>1)</sup>, 黒川実愛<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>2)</sup>同脳神経センター・脳神経外科,<sup>3)</sup>多摩永山病院病理部): 神経膠腫系腫瘍の細胞診圧挫標本における網状物質の存在意義: 細胞診において神経膠腫系腫瘍の脳実質への浸潤性発育を考える. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 79) 河野 潤, 足立好司, 山口文雄, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明, 横田 隆<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>2)</sup>, 永井尚生<sup>2)</sup>, 角田達彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科,<sup>2)</sup>同老人病研究所分子生物学部門,<sup>3)</sup>理化学研究所遺伝子多型解析センター): cDNA マイクロアレイを用いて神経膠腫の grade 間を比較した遺伝子の発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 80) 野村竜太郎, 田原重志, 原島克之, 山口文雄, 喜多村孝幸, 寺本 明: 眼球運動障害で発症した下垂体卒中の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 81) 岩本直高, 戸田茂樹, 渡邊 玲, 石井雄道, 寺本 明: 繰り返された硬膜外麻酔により髄膜炎および低髄圧症候群を呈した1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 82) 荒牧琢己<sup>1,2)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 宮下次廣<sup>4)</sup>, 足立好司(<sup>1)</sup>内科学第1,<sup>2)</sup>教育推進室,<sup>3)</sup>外科学第2,<sup>4)</sup>放射線医学): 学生による授業評価に関する教員のアンケート調査報告. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 83) 大山健一, 山田正三<sup>1)</sup>, 金 景成, 山下亜佐美<sup>1)</sup>, 高井敬介<sup>1)</sup>, 阿部 肇<sup>1)</sup>, 白井雅昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科): 診断が困難であったトルコ鞍部に生じた稀な neuroblastoma の1例. 第91回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 9.
- 84) 寺田てる美, 田原重志, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明: 下垂体部から特異な発育形態を示した原発性神経芽腫の1例. 第91回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 9.
- 85) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 手術が困難であった内頸動脈後交通動脈瘤分岐部動脈瘤の再手術例. 第91回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 9.
- 86) 山下安佐美<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎, 原 貴行<sup>1)</sup>, 坂田義則<sup>1)</sup>, 高橋雅道<sup>1)</sup>, 金 太一<sup>1)</sup>, 江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>亀田総合病院脳神経外科): 血栓化動脈瘤と鑑別を要した, 被膜形成を伴った陳旧性脳内血腫の1例. 第91回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 9.
- 87) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): PWV にて動脈硬化症を認めた脳梗塞患者に対するプロスタントンの効用. 関東MMC研究会, 2003. 10.
- 88) 駒場祐一<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2,<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター・神経内科,

- 3) 同脳神経外科): 皮質梗塞患者における ipsilateral thalamic diaschisis : 交絡因子をコントロールした logistic 解析による検討 . 第 15 回日本脳循環代謝学会総会 , 2003 . 10 .
- 89) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): Large IC aneurysm に対する suction & decompression method . 第 1 回千駄木 Neuro Science Meeting , 2003 . 10 .
- 90) 海津聖彦<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 戸田茂樹, 石井雄道, 寺本 明, 福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>小児科学): 寛解導入療法中に原因不明の静脈洞血栓症をきたした ALL の 1 例 . 第 45 回日本小児血液学会総会 , 2003 . 10 .
- 91) 小南修史<sup>1)</sup>, 吉田陽一, 布施 明<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎, 小林土郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2</sup>高度救命救急センター): 脳腫瘍に対する術前塞栓 固体塞栓と液体塞栓の比較検討 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 92) 齋藤寛浩, 玉置智規<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>3)</sup>, 小林土郎<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2</sup>第二病院脳神経外科, <sup>3</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 当院における頸動脈血栓内膜剥離術 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 93) 野手洋治, 横田裕行<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>高度救命救急センター): 破裂脳動脈瘤による最重症くも膜下出血に対する直達手術の検討 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 94) 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 大山健一, 石井雄道, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): プロラクチン産生下垂体腺腫に対する cabergoline 治療経験 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 95) 饒波正博<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 悪性神経膠芽腫における Notch signal の役割について . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 96) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科): 抗 MMP 剤によるラットグリオーマモデルでの細胞浸潤と血管新生抑制効果に関する研究 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 97) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科): グリオーマ動物モデルを用いた IL-12 と IL-18 の抗腫瘍活性の検討 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 98) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治, 水成隆之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 小脳出血に対する後頭下小開頭による血腫除去術の有用性 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 99) 田原重志, 喜多村孝幸, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科): 下垂体部腫瘍 (特に再手術例) に対する内視鏡下経鼻蝶形骨手術の有用性 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 100) 金 景成<sup>1)</sup>, 山田正三<sup>2)</sup>, 臼井雅昭<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2</sup>虎の門病院脳神経外科): 多発性下垂体腺腫の検討 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 101) 小島豊之, 喜多村孝幸, 寺本 明: 低髄圧症候群の治療前後における間脳下垂体の形態のおよび機能的変化について . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 102) 山口文雄, 田原重志, 森本大二郎, 原島克之, 野崎麻生, 饒波正博<sup>1)</sup>, 足立好司, 寺本 明(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科): ステレオタクティックガイドシステムによるフレームレス定位脳手術 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 103) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 内頸動脈, 大型, 巨大脳動脈瘤のクリッピング術の工夫 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 104) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 戸田茂樹, 渡邊 玲, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1</sup>日本医科大学高度救命救急センター, <sup>2</sup>東京医科大学八王子医療センター脳神経外科): ラット前脳虚血再灌流における free radical の動態 . 第 62 回日本脳神経外科学会総会 , 2003 . 10 .
- 105) 大山健一, 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 寺本 明(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科): 当科における pituitary inciden-



- taloma の治療方針．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 106) 金澤隆三郎，金 太一<sup>1)</sup>，高橋雅道<sup>1)</sup>，山下安佐美<sup>1)</sup>，坂田義則<sup>1)</sup>，原 貴行<sup>1)</sup>，江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 亀田総合病院脳神経外科): 脳神経外科における肺塞栓症 その診断と治療：自験14例の検討．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 107) 渡邊国博，寺本 明，山王直子<sup>1)</sup>，林 伸吉<sup>1)</sup>，小島豊之(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 中等度高血圧性被殻出血に対する stereotactic aspiration の機能予後．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 108) 戸田茂樹，渥美生弘<sup>1)</sup>，渡邊 玲，池田幸穂<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 高度救命救急センター，<sup>2)</sup> 東京医科大学八王子医療センター脳神経外科): Celiprolol hydrochloride の脳保護作用：ラット前脳虚血：再灌流モデルを用いた検討．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 109) 山田 明，長村義之<sup>1)</sup>，山王直子<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 東海大学医学部病態診断系病理学，<sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 下垂体腺腫における SNAP25 の発現：免疫組織学的検討．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 110) 酒井直之<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，山王直子<sup>2)</sup>，芝崎 保<sup>3)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科，<sup>3)</sup> 生理学第2): GH 産生腺腫における GHRHR mRNA 発現及び調節に関する検討．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 111) 高橋 弘<sup>1)</sup>，足立好司，山口文雄，林 靖人<sup>1)</sup>，饒波正博<sup>1)</sup>，吉田大蔵<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): 小児悪性グリオーマに対する治療戦略：天幕上および天幕下グリオーマについて．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 112) 渡邊 玲，池田幸穂<sup>1)</sup>，戸田茂樹，渥美生弘<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 東京医科大学八王子医療センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 高度救命救急センター): 脳虚血再灌流障害におけるグルタミン酸の二峰性上昇．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 113) 林 伸吉<sup>1)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 頭部外傷後の脳血流の検討．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 114) 志村俊郎<sup>1)</sup>，寺本 明，荒牧琢己<sup>1,2)</sup>，片山泰朗<sup>3)</sup>，檀 和夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 教育推進室，<sup>2)</sup> 内科学第1，<sup>3)</sup> 内科学第2，<sup>4)</sup> 内科学第3): 本学における脳神経の統合カリキュラムの検討：私立医科大学のシラバスと対比して．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 115) 水谷暢秀<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): クモ膜下出血発症第7病日における脳血管攣縮の評価と血管内治療．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 116) 木暮一成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，藤原昌治<sup>2)</sup>，松本亮司<sup>2)</sup>，磯部正則<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断：上位腰椎と下位腰椎の相違．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 117) 佐藤秀貴<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，桑本健太郎<sup>1)</sup>，志賀尚子<sup>1)</sup>，高山泰広<sup>1)</sup>，野手洋治，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 高度救命救急センター): くも膜下出血における脳脊髄液中 S-100 蛋白の測定．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 118) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>1)</sup>，中林基明<sup>2)</sup>，佐藤秀貴<sup>2)</sup>，布施 明<sup>2)</sup>，本間正人<sup>2)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，黒川 顕<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup> 高度救命救急センター): 重症脳障害に対する脳低温療法後の異常高体温について．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 119) 梅岡克哉<sup>1)</sup>，山王直子<sup>2)</sup>，田原重志，寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科，<sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): ラトケ嚢胞の自然経過に関する検討．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 120) 原島克之，山口文雄，寺本 明: 破裂 P1 動脈瘤に対するクリッピング術の1症例．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 121) 長谷川鐘大<sup>1)</sup>，野手洋治(<sup>1)</sup> 秀島病院脳神経外科): 脳梗塞急性期の 3D CT angiography の有用性と pitfall．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．

- 122) 江口恒良<sup>1)</sup>, 原 貴行<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎, 坂田義則<sup>1)</sup>, 山下安佐美<sup>1)</sup>, 高橋雅道<sup>1)</sup>, 金 太一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 亀田総合病院脳神経外科): 顔面神経の種々の再建法とその成績. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 123) 原 貴行<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎, 坂田義則<sup>1)</sup>, 山下安佐美<sup>1)</sup>, 高橋雅道<sup>1)</sup>, 金 太一<sup>1)</sup>, 江口 恒<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 亀田総合病院脳神経外科): クモ膜下出血後の患者における循環血液量測定: 他のパラメータとの比較. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 124) 大山健一, 山田正三<sup>1)</sup>, 山下安佐美<sup>1)</sup>, 金 景成, 臼井雅昭<sup>1)</sup>, 小澤安則<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 虎の門病院脳神経外科): 診断が困難であったトルコ鞍部に生じた稀な neuroblastoma の1例. 第7回日本内分泌病理学会, 2003. 10.
- 125) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 当科における虚血性脳血管障害に対する手術. 印旛市郡医師会・八千代市医師会学術講演会, 2003. 11.
- 126) 小島豊之: 脳卒中に気をつけましょう. 江戸川区医師会, 2003. 11.
- 127) 王 茂徳, 刘 守助, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): ヒトグリオーマ組織におけるマトリックスメタロプロテイナーゼ-2, -9発現に関する研究. 第14回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会, 2003. 11.
- 128) 布施 明<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 齋籐寛浩, 水成隆之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 主干流入動脈閉塞を伴った脳動静脈奇形の3症例の検討. 第19回日本脳神経血管内治療学会総会, 2003. 11.
- 129) 小南修史<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター): 脳動静脈奇形の血管内治療: NBCA を用いた targeted partial embolization. 第19回日本脳神経血管内治療学会総会, 2003. 11.
- 130) 山口文雄, 王 力群<sup>1)</sup>, 青木 亘<sup>2)</sup>, 中村利枝<sup>2)</sup>, 五十嵐亜希<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 東京電機大学超電導応用研究所, <sup>2)</sup> 生理機能センター): 術前すでに失語症を呈している症例での language mapping. 第1回日本 awake surgery 研究会, 2003. 11.
- 131) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): 抗腫瘍性サイトカインによるグリオーマモデルの治療効果解析. 第21回日本脳腫瘍学会, 2003. 11.
- 132) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 饒波正博, 寺本 明(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): グリオーマの血管新生における低酸素状態の意義. 第21回日本脳腫瘍学会, 2003. 11.
- 133) 山口文雄, Morrison RS<sup>1)</sup>, 山田昌興, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> ワシントン大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学第二病院脳神経外科): FGFR2-IIIc 欠損とグリオーマの予後. 第21回日本脳腫瘍学会, 2003. 11.
- 134) 野手洋治, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 高度救命救急センター): 急性期も膜下出血重症例 (grade 5) に対する治療方針. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
- 135) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 戸田茂樹, 渡邊 玲, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京医科大学八王子医療センター脳神経外科): 虚血再灌流におけるフリーラジカルの役割. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
- 136) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 高血圧性脳内出血に対する急性期手術治療. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
- 137) 小島豊之, 喜多村孝幸, 寺本 明: 低髄圧症候群の治療前後における間脳下垂体の形態的および機能的変化について. 第31回日本頭痛学会総会, 2003. 11.
- 138) 福地孝明<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>2)</sup>, 神谷信雄<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経外科, <sup>3)</sup> 内科学第2): 頭痛を伴い著明な髄液圧亢進を示した硬膜動静脈瘤の1例. 第31回日本頭痛学会総会, 2003. 11.
- 139) 太組一朗<sup>1)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>2)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 同神経内科): 70歳女性 左片麻痺の症例. 第37回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 11.

- 140) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): C3/4 disc level に対する経椎体法の有用性. 第38回日本脊髄障害医学会, 2003. 11.
- 141) 磯部正則<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 腰椎部脊髄硬膜内脂肪腫の手術治療例. 第38回日本脊髄障害医学会, 2003. 11.
- 142) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科,<sup>2)</sup> 同形成外科): 遊離広背筋皮弁を用いた頭蓋底形成術が奏効した遅発性気脳症の1例. 第55回東葛地区脳神経外科研究会, 2003. 11.
- 143) 山口文雄, 寺本 明: ステレオタクティックガイドによるフレームレス定位脳腫瘍手術. 第8回日本脳腫瘍の外科学会, 2003. 11.
- 144) 小島豊之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 山口文雄, 水村 直<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明<sup>(1)</sup> (放射線医学): ガンマプローブおよびモバイルガンマカメラを用いた脳腫瘍摘出術 第2報: 問題点と展望. 第8回日本脳腫瘍の外科学会, 2003. 11.
- 145) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (多摩永山病院脳神経外科): 前頭蓋底部髄膜腫の摘出術に対する嗅神経温存の検討. 第8回日本脳腫瘍の外科学会, 2003. 11.
- 146) 勝野 亮<sup>1)</sup>, 田原重志, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (多摩永山病院脳神経外科): 急激な視力低下を来したラトケ嚢胞の1例. 第92回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 11.
- 147) 山口文雄, 田原重志, 足立好司, 野村竜太郎, 原島克之, 森本大二郎, 寺本 明: 蛍光色素を用い, 確実性を向上させた frameless stereotactic biopsy. 第92回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 11.
- 148) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup> (1) 東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 水頭症患者における脳室心房 (VA) シェント手術40例, 手術方法と合併症の検討. 第92回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 11.
- 149) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 内頸動脈瘤に対する suction decompression 法の検討. 第92回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 11.
- 150) 齋藤寛浩: 脳血管障害について. 流山東葛病院講演会, 2003. 11.
- 151) 長村義之<sup>1)</sup>, 江頭 登<sup>1)</sup>, 宮井俊輔<sup>1)</sup>, 山崎道生, 山王直子<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (東海大学医学部病態診断系病理学,<sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科): 下垂体腺腫における サブユニット (SU) の発現について. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害調査研究班 平成15年度班会議, 2004. 1.
- 152) 田原重志, 大山健一, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (多摩永山病院脳神経外科): 本邦における先端巨大症の heel pad thickness の再評価. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害調査研究班 平成15年度班会議, 2004. 1.
- 153) 金 景成<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, 2) 同神経内科): Fibrous dysplasia に合併した顔面けいれんの1例. 第38回千葉北総神経放射線研究会, 2004. 1.
- 154) 岩本直高<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>2)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, 2) 同神経内科): incidental に発見された glioma の1例. 第38回千葉北総神経放射線研究会, 2004. 1.
- 155) 小南修史<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Borden III dural AVF に対する TVE. 第7回房総脳神経血管内治療カンファレンス, 2004. 1.
- 156) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治, 喜多村孝幸, 寺本 明<sup>(1)</sup> (多摩永山病院脳神経外科): 小脳出血に対する小開頭血腫術. 第9回日本脳神経外科救急学会, 2004. 1.
- 157) 梅岡克哉<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳内出血を伴った外傷性硬膜動静脈瘻の1例. 第9

- 回日本脳神経外科救急学会，2004．1．
- 158) 寺尾 健：脳低温療法中の復温のタイミングを IMP-super early ARG 法 (SPECT) を用いて決定し得た1症例．第9回日本脳神経外科救急学会，2004．1．
- 159) 梅岡克哉<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，太組一朗<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：脳内出血を伴った外傷性硬膜動静脈瘤の1例．第9回日本脳神経外科救急学会，2004．1．
- 160) 木暮一成<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：神経移植における免疫応答．北海道脳神経外科懇話会，2004．1．
- 161) 大山健一，山田正三<sup>1)</sup>，山下安佐美<sup>1)</sup>，金 景成<sup>3)</sup>，臼井雅昭<sup>1)</sup>，小澤安則<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科，<sup>2)</sup>同内分泌代謝科，<sup>3)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：診断が困難であったトルコ鞍部に生じた稀な neuroblastoma の1例．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 162) 早川幹人<sup>1)</sup>，大山健一，山田正三<sup>1)</sup>，臼井雅昭<sup>1)</sup>，関 邦彦<sup>2)</sup>，佐野壽昭<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科，<sup>2)</sup>同病理部，<sup>3)</sup>徳島大学第1病理)：Xanthogranuloma of the sellar region と考えられた3症例．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 163) 寺田てる美，田原重志，足立好司，山王直子<sup>1)</sup>，喜多村孝幸，寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科)：下垂体部から特異な発育形態を示した原発性神経芽腫の1例．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 164) 大山健一，田原重志，山王直子<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科)：当科における下垂体 incidentaloma の治療方針．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 165) 林 周兵<sup>1)</sup>，高野幸路<sup>1)</sup>，野口貴史<sup>1)</sup>，盛田幸司<sup>1)</sup>，藤田敏郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>東京大学医学部腎臓・内分泌内科)：Octreotide による GH 産生下垂体腺腫細胞の縮小機構．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 166) 梅岡克哉<sup>1)</sup>，山王直子<sup>2)</sup>，田原重志，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科)：下垂体腺腫における経蝶形骨手術後の腫瘍内出血に対する検討．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 167) 石井雄道，山崎道生，田原重志，山王直子<sup>1)</sup>，長村義之<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学)：下垂体 folliculo-stellate (FS) cell tumor と考えられた1例．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 168) 山崎道生，石井雄道，江頭 登<sup>1)</sup>，山王直子<sup>2)</sup>，長村義之<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学，<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科)：機能性下垂体腺腫における Egr-1 の発現．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 169) 山王直子<sup>1)</sup>，山崎道生，大山健一，田原重志，長村義之<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学)：TSH 産生下垂体腺腫の組織学的所見と薬剤反応性．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 170) 木暮一成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科)：上位頸椎髄外腫瘍の手術手技．第15回北海道脊椎髄外科研究会，2004．2．
- 171) 三品雅洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科)：解離性脳動脈瘤による脳梗塞．第6回脳卒中勉強会，2004．2．
- 172) 太組一朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：解離性脳動脈瘤の外科手術例．第6回脳卒中勉強会，2004．2．
- 173) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：本学における AVM に対する血管内治療．第8回千駄木ニューロカンファレンス，2004．2．
- 174) 木暮一成<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：超音波骨メスを使った脊椎髄手術．日本医科大学医学会第112回例会，2004．2．

- 175) 村井保夫, 上山博康<sup>1)</sup>, 数又 研<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 瀧澤克己<sup>1)</sup>, 古明地孝宏<sup>1)</sup>, 窪田貴倫<sup>1)</sup>, 小林 徹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科): 血行再建術のドナー採取における種々の工夫. 第13回脳神経外科手術と機器学会, 2004. 3.
- 176) 数又 研<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>1)</sup>, 小林 徹<sup>1)</sup>, 窪田貴倫<sup>1)</sup>, 村井保夫, 瀧澤克己<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科): 動脈硬化により1本の clip で血流遮断できないときの工夫: 特に綿巻き法について. 第13回脳神経外科手術と機器学会, 2004. 3.
- 177) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 前頭洞開放時の補填にリン酸カルシウムペースト(バイオベックス)の使用経験. 第13回脳神経外科手術と機器学会, 2004. 3.
- 178) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 私の手術機器の工夫(2)内視鏡・脊椎. 第13回脳神経外科手術と機器学会, 2004. 3.
- 179) 大山健一, 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 寺本 明(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 当科における pituitary incidentaloma の治療方針. 第14回臨床内分泌代謝 Update, 2004. 3.
- 180) 北村由梨<sup>1)</sup>, 城所 葉<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 亀谷 純<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 寺本明(<sup>1)</sup> 内科学第3): 診断に苦慮した Cushing 病. 第14回臨床内分泌代謝 Update, 2004. 3.
- 181) 山崎道生, 田原重之, 山王直子<sup>1)</sup>, 沖 隆<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 浜松医科大学第2内科, <sup>3)</sup> 東海大学医学部病態診断系病理学): 腫瘍摘出, ナイフ施行後に低コルチゾール血症をきたした ACTH 産生腫瘍の1例. 第15回 CRH・ACTH 研究会, 2004. 3.
- 182) 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科): High flow bypass を用いて加療した外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻の1例. 第27回日本神経外傷学会, 2004. 3.
- 183) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 戸田茂樹, 渡邊 玲, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京医科大学八王子医療センター脳神経外科): 脳虚血再灌流における細胞外アスコルビン酸ラジカルの動態. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 184) 駒場祐一<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第2, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 皮質梗塞患者における ipsilateral thalamic diaschisis: 多変量解析における検討. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 185) 戸田茂樹, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 渡邊 玲, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京医科大学八王子医療センター脳神経外科): ラット脳虚血再灌流における , ブロッカーの抗脳浮腫作用・活性酸素消去能について. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 186) 玉置智規<sup>1)</sup>, 澤田恵子<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 頸動脈狭窄と動脈脈波速度. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 187) 玉置智規<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 渡邊 玲, 寺尾 健, 酒井直之, 水成隆之<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): CEA 時のリンパ節腫脹. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 188) 渡邊国博, 玉置智規<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 中等度被殻出血の機能的予後における stereotactic aspiration の有用性. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 189) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 手術が困難であった内頸動脈後交通動脈瘤分岐部動脈瘤の再手術例. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 190) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>3)</sup>, 阿部 新<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明, 片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター・神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター・脳神経外科, <sup>3)</sup> 内科学第2): アテローム血栓性脳梗塞におけるヘパリン・グリセロール・オザグレルとエダラボン併用. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.

- 191) 福地孝明<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明, 片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>内科学第2): 脳内出血発症の硬膜動静脈瘻: 当センター過去9年間における5例の報告. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 192) 阿部 新<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>3)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>内科学第2): 高感度 CRP の脳梗塞急性期における搬送時間の検討. 第29回日本脳卒中学会総会, 2004. 3.
- 193) 数又 研<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>1)</sup>, 小林 徹<sup>1)</sup>, 窪田貴倫<sup>1)</sup>, 村井保夫, 瀧澤克己<sup>1)</sup>, 古明地孝宏<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 高齢者くも膜下出血の開頭手術による治療成績. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 194) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): クモ膜下出血発症の椎骨動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略: 重症度および血行動態による治療法の選択. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 195) 瀧澤克己<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 数又 研<sup>1)</sup>, 古明地孝宏<sup>1)</sup>, 窪田貴倫<sup>1)</sup>, 小林 徹<sup>1)</sup>, 村井保夫(<sup>1)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 内頸動脈狭窄に対する外科治療: 内膜剥離術(CEA)は第一選択となり得るか?. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 196) 齋藤寛浩, 玉置智規<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 渡邊 玲, 寺尾 健, 酒井直之, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 内頸動脈血栓内膜剥離術における術中造影の有用性について: 外頸動脈系病変合併3例. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 197) 古明地孝宏<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 瀧澤克己<sup>1)</sup>, 数又 研<sup>1)</sup>, 窪田貴倫<sup>1)</sup>, 村井保夫, 小林 徹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): Paraclinoid aneurysm は破裂しない?: 破裂 paraclinoid aneurysm に対する直達手術と治療成績. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 198) 勝野 亮<sup>1)</sup>, 村井保夫, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): くも膜下出血を伴わない急性硬膜下血腫で発症した破裂脳動脈瘤の1例. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 199) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 酒井直之, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 著明な頭蓋内圧亢進を呈した硬膜動静脈瘻の1手術例. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 200) 寺尾 健, 足立好司, 高木 亮<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>放射線医学): 16列 MD CT を用いた CTP と頭-頸部CTA: 高度内頸動脈狭窄症の1例. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 201) 上山憲司<sup>1)</sup>, 寺尾 健, 山崎貴明<sup>1)</sup>, 黒川 徹<sup>1)</sup>, 中川原譲二<sup>1)</sup>, 中村博彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中村記念病院脳神経外科): 頸動脈血栓内膜剥離術のアテローム遠位端処置の手術手技. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 202) 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 渡邊国博<sup>3)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 齋藤寛浩, 石原正一郎<sup>4)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>同多摩永山病院脳神経外科, <sup>4)</sup>防衛医科大学校脳神経外科): スtent留置およびコイリングにより治療しえた医原性頸部頸動脈解離の1例. 第33回日本脳卒中の外科学会, 2004. 3.
- 203) 岩本直高<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 非特異的な画像所見を呈した悪性リンパ腫の1例. 第39回千葉北総神経放射線研究会, 2004. 3.
- 204) 木暮一成<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): 当科における変形性脊椎症の手術. 第56回東葛地区脳神経外科研究会, 2004. 3.
- 205) 渡邊 玲, 水村 直<sup>1)</sup>, 酒井直之, 寺尾 健, 齋藤寛浩, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 玉置智規<sup>3)</sup>, 水成隆之<sup>4)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>3)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>4)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): CEA 術前後の血行力学的虚血評価 S. E. E-JET の使用経験. 第5回3D-SSP検討会, 2004. 3.

206) 小島豊之: Radioisotope を用いた脳腫瘍摘出術. 木曜会 特別講演会, 2004. 3.

(8) ビデオセッション:

- 1) 水成 隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター・脳神経外科): バイパス手術を用いた脳動脈瘤の治療. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.

(9) 施設代表講演:

- 1) 寺本 明: 下垂体腫瘍の診断と治療. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.

## [ 第二病院脳神経外科 ]

### 研究概要

第二病院脳神経外科は, 附属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら, 脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的疾患(顔面痙攣, 三叉神経痛など)とあらゆる脳神経系疾患の外科的治療を対象としているが, 臨床的, 基礎的研究も盛んで, 毎年確実に国内外に論文を発表している. 特に, 悪性腫瘍に関しては, 多くの基礎的研究に基づいて特異的免疫療法と非特異的免疫療法を組み合わせる臨床的に応用する臨床的研究が盛んである. また, 分子生物学的研究も盛んで, 一部文部科学省研究補助金の援助を受けながら, 脳腫瘍の悪性度に従って発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究, 腫瘍血管新生抑制に関する基礎的研究, 癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の基礎研究, さらに遺伝子銃を用いた新しい遺伝子導入の研究などが将来の遺伝子治療を目指して行われている.

一方, 臨床的には従来摘出困難と思われていた脳幹部などの腫瘍に関しても, 積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し, 悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい化学療法を行い, 良好な結果を収めてきている. 脳血管障害や頭部外傷に関しては超音波ドップラーや脳血流測定法を用いて脳循環を詳細に測定することにより, 非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである. 小児疾患に関しても, 腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが, 中枢神経系奇形に関しても, 形成外科と協力しながら積極的に治療に取り組んでいる.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Yoshida D, Watanabe K<sup>1)</sup>, Takahashi H, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopy): Apoptotic induction by BE16627B on human malignant glioma cell lines by an anti-matrix metalloproteinase agent. Brain Tumor Pathol 2003; 20(1): 13-19.
- 2) Wang M<sup>1)</sup>, Wang T<sup>1)</sup>, Liu S<sup>1)</sup>, Yoshida D, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Xi'an Jiaotong University, <sup>2)</sup>Nippon Medical School Hospital): The expression of matrix metalloproteinase-2 and 9 in human glioma of different pathological grade. Brain Tumor Pathol 2003; 20(2): 65-72.
- 3) Kanazawa R, Yoshida D, Takahashi H, Matsumoto K, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Osteosarcoma arising from the skull; Case report. Neurol Med Chir 2003; 43(2): 88-91.
- 4) Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Morrison RS<sup>2)</sup>, Gontas NK<sup>3)</sup>, Takahashi H, Sugisaki Y<sup>4)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Washington University, <sup>3)</sup>Pennsylvania university, <sup>4)</sup>Central Institute for Electron Microscopy): Identification of MG-160, a FGF binding medial Golgi Sialoglycoprotein, in brain tumors; an index of malignancy in astrocytomas. Int. J. Oncol 2003; 22(5): 1045-1049.
- 5) Kanazawa R, Yoshida D, Takahashi H, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopy, <sup>2)</sup>Nippon Medical School Hospital): Drug-induced apoptosis by a matrix metalloproteinase inhibitor, SI-27 on human malignant glioma cell lines; in vitro study. J. Neuro-Oncol 2004; 66

(1): 91-99 .

- 6) 玉置智規<sup>1)</sup>, 石原正明, 小松原清光<sup>1)</sup>, 林 靖人, 植松正樹, 大山健一<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 水成隆之<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 付属病院): 粥状動脈硬化性頸動脈病変と脳室周囲の高信号域 (PVH) の関連性. 脳外 2003 ; 31 (4): 393-398 .
  - 7) 吉田大蔵: Neuroimaging Quiz 頭蓋 osteosarcoma . Clinical Neuroscience 2003 ; 21 (1): 103-104 .
  - 8) 吉田大蔵: 脳腫瘍のキーワード Matrix metalloproteinase . Clinical Neuroscience 2003 ; 21 (5): 512-512 .
  - 9) 吉田大蔵: Neuroimaging Quiz 嚢胞内に腫瘍せい出血を起こした多形性黄色星細胞腫 . Clinical Neuroscience 2003 ; 21 (101): 1201-1202 .
  - 10) 高橋 弘: Neuroimaging Quiz ; 腫瘍との鑑別に苦慮した脳梗塞の1例 . Clinical Neuroscience 2004 ; 22 (3): 335-336 .
- (2) 綜説:
- 1) 高橋 弘: Journal and book review ; Comparative genomic hybridization analysis of craniopharyngioma . 小児の脳神経 2003 ; 28 (2): 478-479 .
  - 2) 高橋 弘: TIL療法 . Clinical Neurosci 2003 ; 21 (5): 557-557 .
  - 3) 高橋 弘: Journal and book review ; Prediction of central nervous system embryonal tumor outcome based on gene expression . 小児の脳神経 2003 ; 28 (5): 372-373 .
  - 4) 山王直子<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科): 脳腫瘍 . ターミナルケア 2003 ; 13 (Suppl. ).
  - 5) 高橋 弘: At a glance diagnosis ; 頭蓋骨の変形 (1). Clinical Neuroscience 2003 ; 21 (11): 1328-1329 .
  - 6) 高橋 弘: At a glance diagnosis ; 頭蓋骨の変形 (2). Clinical Neuroscience 2003 ; 21 (12): 1464-1465 .
  - 7) 高橋 弘: At a glance diagnosis ; 頭蓋骨の変形 (3). Clinical Neuroscience 2004 ; 22 (1): 106-107 .
  - 8) 高橋 弘: At a glance diagnosis ; 頭蓋骨の変形 (4). Clinical Neuroscience 2004 ; 22 (2): 218-219 .
  - 9) 高橋 弘: At a glance diagnosis ; 頭蓋骨の変形 (5). Clinical Neuroscience 2004 ; 22 (33): 338-339 .

## 著 書

- 1) 高橋 弘: [分担] 生物学的免疫応答 . 脳腫瘍の最新医療 (高倉公朋), 2003 ; pp136-139, 先端医療研究所 .
- 2) 吉田大蔵: [自著] GFP遺伝子導入細胞を用いた脳腫瘍浸潤モデルにおける抗微小管剤による浸潤の抑制効果の研究 . Japan Brain Foundation 2001 2002年度研究報告 (日本脳神経財団), 2004 ; pp20-23, 日本脳神経財団 .
- 3) 高橋 弘: [分担] VII . 脳腫瘍 ; 1. 脳幹部腫瘍の手術療法 . Annual Review 神経 (柳澤信夫, 篠原幸人, 岩田誠, 清水輝夫, 寺本 明), 2004 ; pp161-167, 中外医学社 .

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 小菊 実, 林 靖人, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科): 頭蓋内出血にて脳ヘルニアをおこした多形黄色星状細胞腫の1例 . 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003 . 6 .

### (2) 一般講演:

- 1) 山口文雄<sup>1)</sup>, Morrisom RS<sup>2)</sup>, 山田昌興<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> ワシントン大学): FGFR2-IIIc欠損とグリオーマの予後 . 第21回日本脳腫瘍学会, 2003 . 11 .
- 2) Adachi K<sup>1)</sup>, Takei M<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital): MR imaging characteristics of neurohypophyseal germinoma . The 1st International Symposium on CNS Germ Cell Tumors, 2003 . 9 .



- 3) Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Morrison RS<sup>2)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Washington University): hypermethylation of FGFR2 promotor induces its suppressed expression in malignant glioma. The 53st Annual Meeting of American Congress of Neurological Surgeons (Denver), 2003. 10.
- 4) 吉田大蔵, 金 景成<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): Biological significance of hypoxic condition in tumor angiogenesis. 第4回日本分子脳神経外科学会, 2003. 5.
- 5) 足立好司<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 大泉門部に発生した類上皮腫の1例. 第31回日本小児神経外科学会, 2003. 7.
- 6) 戸田茂樹<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 立山幸二郎<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 海津聖彦<sup>2)</sup>, 竹内直美<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同小児科): 白血病治療中静脈洞血栓症に陥った1小児例. 第31回日本小児神経外科学会, 2003. 7.
- 7) 山口文雄<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 悪性グリオーマにおけるFGFR2シャットダウンメカニズム. 第4回日本分子脳神経外科学会, 2003. 9.
- 8) 小菊 実, 林 靖人, 饒波正博, 吉田大蔵, 高橋 弘: 脳腫瘍との鑑別が困難であったlynphocytic infundibulo-neurohypophysitisの1例. 第6回神奈川脳腫瘍フォーラム学術集会, 2003. 9.
- 9) 横田 隆<sup>1)</sup>, 河野 潤, 江見 充<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup>, 角田達彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): cDNA マイクロアレイを用いた glioblastoma の遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 10) 河野 潤, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>, 横田 隆<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>2)</sup>, 永井尚生<sup>2)</sup>, 角田達彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>老人病研究所): cDNA マイクロアレイを用いた glioblastoma の遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 11) 高橋 弘, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 林 靖人, 饒波正博, 吉田大蔵, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 小児悪性グリオーマに対する治療戦略; 天幕上および天幕下グリオーマについて. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 12) 吉田大蔵, 渡辺国博<sup>1)</sup>, 饒波正博, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 抗MMP剤によるラットグリオーマモデルでの細胞浸潤と血管新生抑制効果. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 13) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): グリオーマ動物モデルを用いたIL-12とIL-18の抗腫瘍活性の検討. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 14) 饒波正博, 吉田大蔵, 金 景成<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 悪性神経膠腫におけるNotch signalの役割について. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 15) 饒波正博, 高橋 弘, 小菊 実, 林 靖人, 吉田大蔵, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 当施設における髄膜腫治療の報告; それはどう決められて, どう評価されたか. 第8回日本脳腫瘍の外科学会, 2003. 11.
- 16) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 抗腫瘍性サイトカインによるグリオーマモデルの治療効果解析. 第21回日本脳腫瘍学会, 2003. 11.
- 17) 吉田大蔵, 金 景成<sup>1)</sup>, 饒波正博, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): グリオーマ血管新生における低酸素状態の意義. 第21回日本脳腫瘍学会, 2003. 11.

## [ 多摩永山病院脳神経外科 ]

### 研究概要

日本医科大学多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科学会専門医訓練施設として, 診療・教育・研究を付属病院脳神経外科学教室の指導の下に行っている. 以下の研究を, 神経生理学・分子神経病理学などの幅広いニューロサイエンスの手法を用いて行っている.

1. 急性期血管障害患者・外傷性びまん性脳損傷の症例において，CT・MRI・MRA・3D-CTによる画像診断，SPECTによる脳血流の評価を行っている．持続頭蓋内圧測定（光センサー硬膜下法），脳血流測定（超音波ドップラー法），電気生理学的検査（聴性脳幹反応，体性感覚誘発電位）等の諸検査により脳血管攣縮・脳虚血の病態解明を行っている．
2. 悪性脳腫瘍に対して，手術・放射線療法に加えて独自の化学療法・免疫療法・遺伝子治療等，集学的治療を行っている．SPECTによる核医学的研究および臨床神経病理学的研究を行っている．
3. 脳梗塞急性期患者において，フリーラジカルスカベンジャー，抗トロンピン薬など薬剤投与下，SPECT, 経頭蓋的ドップラーによる脳血流測定を行うことによりその臨床薬理学的効果を検討している．
4. 頭痛に対して各種薬剤投与による経時的な経頭蓋骨ドップラーによる脳血流測定を行うことによりその臨床薬理学的効果を検討している．三叉神経痛・顔面痙攣に対しても外来にての内服治療および手術治療にて，良好な成績を収めている．
5. 脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている．
6. 頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い，高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Sanno N, Teramoto A, Osamura RY<sup>1)</sup>, Horvath E<sup>2)</sup>, Kovacs K<sup>2)</sup>, Lloyd RV<sup>3)</sup>, Scheithauer WB<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Pathology, St. Michael's Hospital, University of Toronto, <sup>3)</sup> Department of Laboratory Medicine and Pathology, Mayo Clinic, <sup>4)</sup> Department of Pathology, Mayo Clinic): Pathology of Pituitary tumors. *Neurosurg Clin N Am* 2003; 14: 25-39.
- 2) Sanno N, Oyama K, Tahara S, Teramoto A, Kato Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Shimane Medical University): A survey of pituitary incidentaloma in Japan. *European Journal of Endocrinology* 2003; 149: 123-127.
- 3) Matsuno A<sup>1)</sup>, Nagashima T<sup>1)</sup>, Katakami H<sup>2)</sup>, Sanno N, Teramoto A, Takekoshi S<sup>3)</sup>, Osamura RY<sup>3)</sup>, Kirino T<sup>4)</sup>, Lloyd RV<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital, <sup>2)</sup> Third Department of Internal Medicine, Miyazaki Medical College, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, University of Tokyo Hospital, <sup>5)</sup> Department of Laboratory, Medicine and Pathology, Mayo Clinic and Mayo Foundation): Production of Pituitary Hormone by Human Pituitary Adenoma is under Autocrine and Paracrine Regulation of Hypothalamic Hormones Secreted from Adenoma Cells. *Acta Histochem. Cytochem* 2003; 36 (5): 415-420.
- 4) Kim K, Sanno N, Arai K<sup>1)</sup>, Takano K<sup>2)</sup>, Yasufuku-Takano J<sup>2)</sup>, Teramoto A, Shibasaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo): Ghrelin mRNA and GH secretagogue receptor mRNA in human GH-producing pituitary adenomas is affected by mutations in the subunit of G protein. *Clinical Endocrinology* 2003; 59: 630-636.
- 5) Tamaki T, Eguchi T, Sakamoto M, Teramoto A: Use of diffusion-weighted magnetic resonance imaging in empyema after cranioplasty. *British Journal of Neurosurgery* 2003; 18 (1): 40-44.
- 6) Sanno N, Hayashi S, Shimura T, Maeda S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School): Intracranial Osteosarcoma After Radiosurgery: Case Report. *Neurologia medico-chirurgica* 2004; 44 (1): 29-32.

- 7) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 山王直子, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>電子顕微鏡施設, <sup>3)</sup>病理学第2): 脳原発小細胞骨肉腫の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 2003; 42(3): 224-229.
- 8) 山王直子, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉, 寺本 明: プロラクチン産生腺腫および成長ホルモン産生腺腫のCabergolineによる治療経験. 日本内分泌学会雑誌 2003; 79(Suppl): 53-54.
- 9) 玉置智規, 石原正明, 小松原清光, 林 靖人, 植松正樹, 大山健一, 高橋 弘, 水成隆之, 寺本 明: 粥状動脈硬化性頸動脈病変と脳室周囲高信号域(PVH)の関連性. 脳神経外科 2003; 31(4): 393-398.

(2) 綜説:

- 1) 山王直子, 石井雄道, 田原重志, 梅岡克哉, 寺本 明, 長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理学部門): 下垂体機能発現と転写因子. 神経研究の進歩 2003; 47(3): 451-456.
- 2) 山王直子, 田原重志, 寺本 明: 神経精神疾患のEBM エビデンスに基づく神経精神疾患の治療戦略 プロラクチノーマ. 脳の科学 2003; 25(9): 919-923.
- 3) 山王直子, 寺本 明: 専門医に求められる最新の知識 脳腫瘍 脳下垂体腫瘍とホルモン. 脳神経外科速報 2003; 13(9): 951-958.
- 4) 山王直子, 高橋 弘, 寺本 明: 14 脳腫瘍. ターミナルケア 2003; 13(Suppl): 188-193.

著 書

- 1) 山王直子: [分担] Neuroimaging Quiz: 静脈洞血栓症による出血性梗塞. Clin Neurosci, 2003; pp1071-1072, 中外医学社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 山王直子: 下垂体 incidentaloma: 自然史と治療方針. 福島内分泌懇話会, 2003. 8.

(2) シンポジウム:

- 1) 山王直子, 大山健一, 田原重志, 長村義之<sup>1)</sup>, 寺本 明, 加藤 譲<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>2)</sup>島根医科大学第一内科): 下垂体 incidentaloma の自然史と治療方針. 第76回日本内分泌学会総会, 2003. 5.

(3) 一般講演:

- 1) 林 伸吉, 山王直子, 渡邊国博, 寺本 明: 前頭洞開放時の補填にリン酸カルシウムペースト(バイオベックス)の使用経験. 第12回脳神経外科手術と機器学会, 2003. 4.
- 2) 勝野 亮, 村井保夫, 寺本 明, 林 伸吉, 山王直子: 末端肥大症にlymphocytic hypophysitisを合併した1例. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 3) 玉置智規, 野手洋治, 喜多村孝幸, 寺本 明: 小脳出血に対する小開頭血腫術. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 4) 山王直子, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉, 石井雄道, 寺本 明: プロラクチン産生腺腫に対するCabergolineによる治療経験. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 5) 林 伸吉, 山王直子, 寺本 明: 頭部外傷後の脳血流の検討. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 6) 林 伸吉, 山王直子, 寺本 明: PWVにて動脈硬化症を認めた脳梗塞患者に対するプロスタントの效用. 関東MMC研究会, 2003. 10.
- 7) 林 伸吉, 山王直子, 寺本 明: 前頭頭蓋底部髄膜腫の摘出術に対する嗅神経温存の検討. 第8回日本脳腫瘍の外科学会, 2003. 11.
- 8) 玉置智規, 野手洋治, 喜多村孝幸, 寺本 明: 小脳出血に対する小開頭血腫除去術. 第9回脳神経外科救急学会, 2004. 1.

- 9) 玉置智規, 鈴木紀成, 渡辺 玲, 斉藤寛浩, 寺尾 健, 酒井直之, 水成隆之, 寺本 明: CEA時の頸部リンパ節腫脹. 第29回脳卒中学会, 2004. 3.
- 10) 玉置智規, 澤田恵子, 林 伸吉, 寺本 明: 頸動脈硬化と動脈脈波速度. 第29回脳卒中学会, 2004. 3.
- 11) 林 伸吉, 山王直子, 玉置智規, 寺本 明: 前頭洞開放時の補填にリン酸カルシウムペースト(バイオベックス)の使用経験. 第13回脳神経外科手術と機器学会, 2004. 3.

## [ 千葉北総病院脳神経外科 ]

### 研究概要

開設10年が経過した千葉北総病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら, 脳血管障害, 頭部外傷, 脳腫瘍, 脳代謝, 脳血管内手術, 脊髄脊椎外科を中心とした臨床のおよび基礎的研究を行った. 平成12年開設のStroke care unit (SCU) および, 脳卒中ホットラインも順調に稼働しており, 病診連携も確固たるものとなり千葉県北部における基幹施設の責務を果たした.

- 1) 脳血管障害: エタラボン・ヘパリン併用と心原性脳塞栓後の出血性変化の検討を行った. 脳梗塞患者発症急性期と慢性期でのシロスタゾールの局所脳血流量, 血小板機能への影響を報告した. 高感度CRP値と脳梗塞急性期における搬送時間との検討を加えた. 皮質梗塞患者における ipsilateral thalamic diaschisis に注目した. クモ膜下出血発症の椎骨動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略を論じた.
- 2) 頭部外傷: 実験頭部外傷における glutamate AMPA receptor antagonist の有用性を報告した. また, axonal injury を検出する multiple immunostaining method を開発した.
- 3) 脳腫瘍: central neurocytoma に対しての病理学的検討を加えた.
- 4) 脳代謝: 進行性核上麻痺の初期診断において中脳の hypometabolism の重要性を報告した.
- 5) 脳血管内手術: 髄膜腫に対するNBCAを用いての術前塞栓術の有用性を発表した.
- 6) 脊髄脊椎外科: 腰部脊柱管狭窄症の画像診断において, 上位腰椎と下位腰椎の相違を報告した. C3/4 disc level に対する経椎体法を開発した.

### 研究業績

#### 論文

[ 2002 年度追加 ]

#### 研究報告書:

- 1) Shimura T<sup>1)</sup>, Mori O<sup>2)</sup>, Kitamura T, Kobayashi S, Sanno N, Teramoto A<sup>1)</sup>, Osaki Y<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Central neurocytoma expressing characteristics of ependymal differentiation: electron microscopic findings of two cases. Med Electron Microsc 2003; 36: pp98-105.

#### (1) 原著:

- 1) Furukawa T, Hoshino S<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Asakura T<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>2)</sup>, Takahashi M<sup>3)</sup>, Atumi T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> : Neuroscience Research, Pharmacology Laboratories, Institute for Drug Discovery Research, Yamanouchi Pharmaceutical Co. Ltd. ): The Glutamate AMPA Receptor Antagonist, YM872, Attenuates Cortical Tissue Loss, Regional Cerebral Edema, and Neurological Motor Deficits after Experimental Brain Injury in Rats. J of Neurotrauma 2003; 20: 269-278.
- 2) Hoshino S<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Furukawa T<sup>1)</sup>, Asakura T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of

Neurosurgery ): Multiple immunostaining methods to detect traumatic axonal injury in the rat fluid-percussion brain injury model . *Neurol Med Chir (Tokyo)* 2003 ; 43 : 163-174 .

- 3) Murai Y, Kobayashi S, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery ): A new tumour forceps for use during removal of pineal region tumour . *British J Neurosurgery* 2003 ; 17 : 551-552 .
- 4) Hoshino S<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Asakura T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery ): Prions prevent brain damage after experimental brain injury : a preliminary report . *Acta Neurochir* 2003 ; 86 : 297-299 .
- 5) Atsumi T<sup>1)</sup>, Hoshino S<sup>1)</sup>, Furukawa T<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Asakura T<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>2)</sup>, Yamamoto Y, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, <sup>2)</sup>Department of Critical Care Medicine, <sup>3)</sup>Neuroscience Research, Pharmacology Laboratories, Institute for Drug Discovery Research, Yamanouchi Pharmaceutical Co. Ltd. ): The glutamate AMPA receptor antagonist YM872 attenuates regional cerebral edema and IgG immunoreactivity following experimental brain injury in rats . *Acta Neurochir* 2003 ; 86 : 305-307 .
- 6) Mishina M , Senda M<sup>1)</sup>, Kiyosawa M<sup>5)</sup>, Ishikawa K<sup>1)</sup>, De Volder Anne G<sup>5)</sup>, Nakano H<sup>6)</sup>, Toyama H<sup>7)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Sasaki T<sup>1)</sup>, Ohyama M<sup>2)</sup>, Komaba Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Kitamura S<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup>The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Institute of Biomedical Research and Innovation , <sup>4)</sup>Department of Ophthalmology and Visual Science, Tokyo Medical and Dental University, Graduate School , <sup>5)</sup>Positron Tomography Laboratory, University of Louvain, Louvain-la-N , <sup>6)</sup>Department of Ophthalmology, Tsukuba University , <sup>7)</sup>Medical Information Processing Office, Research Center of Charged Particle Therapy, National Institute of Radiological Sciences ): Increased regional cerebral blood flow but normal distribution of GABA receptor in the visual cortex of subjects with early-onset blindness . *NeuroImage* 19 (2003) 2003 ; 19 : 125-131 .

## (2) 研究報告書 :

- 1) 勝野 亮, 原島克之, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学 ): CTにて広範囲脳浮腫を呈した脳動脈奇形の1例 . *Journal of Japanese Congress on Neurological Emergencies* 2003 ; 16 : pp98-100 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 水成隆之 : 「Large IC aneurysmに対する suction & decompression method」. 第1回千駄木 Neuro Science Meeting, 2003 . 10 .
- 2) 木暮一成, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学 ): 神経移植における免疫応答 . 北海道脳神経外科懇話会, 2004 . 1 .
- 3) 三品雅洋 : 解離性脳動脈瘤による脳梗塞 . 第6回脳卒中勉強会, 2004 . 2 .
- 4) 太組一郎 : 解離性脳動脈瘤の外科手術例 . 第6回脳卒中勉強会, 2004 . 2 .
- 5) 小林士郎 : 日常診療に役立つ脳卒中の知識 : 脳卒中治療室の経験より . 野田市医師会学術講演会, 2004 . 3 .

### (2) 招待講演 :

- 1) 水成隆之 : 虚血性脳血管障害に対する手術治療 . 第6回房総 EVENING FORUM, 2003 . 4 .
- 2) 水成隆之 : 当科における虚血性脳血管障害に対する手術 . 印旛市郡医師会・八千代市医師会 学術講演会, 2003 . 11 .
- 3) 小南修史 : 脳神経血管内治療のための血管解剖2 . 第9回西関東 Neuro IVR セミナー, 2003 . 12 .
- 4) 小南修史 : 本学におけるAVMに対する血管内治療 . 第8回千駄木ニューロカンファレンス, 2004 . 2 .

### (3) シンポジウム :

- 1) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 木暮一成 (<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科 ): 頸椎変性疾患に

対する頸椎椎間板環術．第18回日本脊髄外科学会，2003．6．

- 2) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学)：経椎体法による前方除圧術 C3/4を中心に．第10回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会，2003．9．
- 3) 井須豊彦<sup>1)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>，磯部正則<sup>1)</sup>，松本亮司<sup>1)</sup>，木暮一成(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科)：脊椎外科での high speed drill と ultrasonic osteome の比較検討．第38回日本脊髄障害医学会，2003．11．
- 4) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学)：上位頸椎随外腫瘍の手術手技．第15回北海道脊椎脊髄外科研究会，2004．2．

(4) 一般講演：

- 1) Mishina M，Ohyama M<sup>1)</sup>，Ishii K<sup>1)</sup>，Mitani K<sup>1)</sup>，Oda K<sup>1)</sup>，Kimura Y<sup>1)</sup>，Sasaki T<sup>1)</sup>，Ishikawa K<sup>1)</sup>，Fukuchi T，Kobayashi S，Kitamura S<sup>2)</sup>，Katayama Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology，<sup>2)</sup>The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School)：Midbrain hypometabolism：an early diagnostil sign for progressive supranuclear palsy．50th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting, June (New Orleans, Louisiana, U. S. A.)，2003．6．
- 2) Kominami S，Fuse A<sup>1)</sup>，Ishihara S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Critical Care Medicine, Nippon Medical School，<sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Japan Defence Medical School)：Presurgical embolization of meningiomas with NBCA．7th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology，2003．11．
- 3) Komaba Y<sup>1)</sup>，Mishina M，Kobayashi S，Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The Second Department of Internal Medicine)：Crossed cerebellar diaschisis in patients with cortical infarction using logistic regression analysis．29th International Stroke Conference (San Diego)，2004．2．
- 4) Kominami S，Fuse A<sup>1)</sup>，Ishihara S<sup>2)</sup>，Kobayashi S，Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School，<sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, National Defense Medical College)：Presurgical embolization for intracranial meningiomas with NBCA．The 6th Meeting of the Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (AAFITN)(Bangkok Thailand)，2004．3．
- 5) 水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>，上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学，<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科)：脳動脈瘤手術における pterional approach の修飾．第12回脳神経外科手術と機器学会，2003．4．
- 6) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科学，<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学)：PAL I EMF System を用いた後方除圧術．第12回脳神経外科手術と機器学会，2003．4．
- 7) 村井保夫<sup>1)</sup>，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学)：脳血管吻合手技の実際に即したトレーニング．第12回脳神経外科手術と機器学会，2003．4．
- 8) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，小林士郎(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科)：術中 navigation, monitoring をもちいた脊髄腫瘍手術．第19回東北海道脊髄疾患研究会，2003．4．
- 9) 山田 明，金 景成，酒井直之，木暮一成，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎：下垂体腺腫との識別が困難であった鞍上部腫瘍の1例．第34回千葉北総神経放射線研究会，2003．5．
- 10) 金 景成，山田 明，酒井直之，木暮一成，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎：画像診断上非特異的所見を呈した pineal region tumor の1例．第34回千葉北総神経放射線研究会，2003．5．
- 11) 三品雅洋，駒場祐一<sup>1)</sup>，田中伸幸<sup>1)</sup>，阿部 新<sup>1)</sup>，櫻澤 誠<sup>1)</sup>，酒井直之，金 景成，山田 明，水谷暢秀，木暮一成，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>，酒寄 修<sup>1)</sup>，濱本 真<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2，<sup>2)</sup>脳神経外科学)：エダラボン併用と心原性脳塞栓出血性変化に関するロジスティック回帰分析を用いた検討．第53回東葛地区脳神経外科研究会，2003．6．
- 12) 福地孝明，瀬田健博<sup>1)</sup>，桂研一郎<sup>1)</sup>，五十嵐博中<sup>1)</sup>，神谷達司<sup>1)</sup>，小林士郎，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：脳梗塞(ラクナ梗塞)患者発症急性期と慢性期でのシロスタゾールの局所脳血流量，血小板機能への影響．第21回日本神経治療学会総会，2003．6．

- 13) 木暮一成, 小林士郎, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 頸椎黄色靱帯骨化症の1治験例. 第90回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 6.
- 14) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 腰部脊柱間狭窄症の画像診断～上位腰椎と下位腰椎の相違. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 15) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科): 特異なMRI所見を呈したC3/4 disc herniaの1治験例. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 16) 勝野 亮, 木暮一成, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 長期間post-polio syndromeと診断された重症頸椎症の1例. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 17) 戸田茂樹<sup>1)</sup>, 木暮一成, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 脊髄手術時, 電気刺激装置を用いた錐体路のモニタリングの有用性について. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 18) 鈴木雅規, 木暮一成, 小南修史, 小林士郎, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): NBCAにてembolizationを施行した脊髄硬膜動静脈瘻の1例. 第18回日本脊髄外科学会, 2003. 6.
- 19) 小南修史: Rendu-Osler-Waber病と思われる後頭蓋窩AVFの1例. 第4回脳神経血管内治療琉球セミナー, 2003. 6.
- 20) 朝倉宏美<sup>1)</sup>, 岡沢有希子<sup>1)</sup>, 小林紀美<sup>1)</sup>, 芹澤 彩<sup>1)</sup>, 田村寿子<sup>1)</sup>, 沼倉宏子<sup>1)</sup>, 水成隆之(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 意識障害患者の睡眠覚醒リズムの確立の試み: 映像, アロマオイルマッサージを用いて. 第12回意識障害治療学会, 2003. 7.
- 21) 金 景成, 山田 明, 酒井直之, 神谷信雄, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 脳底動脈小枝分岐部に発生したと思われる微小脳動脈瘤の1例. 第35回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 7.
- 22) 木暮一成, 金 景成, 山田 明, 酒井直之, 神谷信雄, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 四肢麻痺にて発症した頸髄グリオーマの1例. 第35回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 7.
- 23) 酒井直之, 金 景成, 神谷信雄, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 頭蓋内圧亢進で発症した上矢状静脈洞硬膜動静脈瘻の1例. 第35回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 7.
- 24) 田中伸幸, 三品雅洋, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 酒寄 修<sup>2)</sup>, 濱本 真<sup>2)</sup>, 寺本明<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>千葉北総病院内科, <sup>3)</sup>脳神経外科学): エダラボン・ヘパリン併用と心原性脳塞栓出血性変化: ロジスティック回帰分析を用いた検討. 第1回“フリーラジカルと脳疾患”東日本研究会学術集会, 2003. 7.
- 25) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 特異なMRI所見, 臨床経過を呈したC 3/4 disc herniaの1例. 第4回東北北海道脳神経外科研究会, 2003. 7.
- 26) 水成隆之, 小林士郎: STA-proximal MCA anastomosisの適用と有用性. 第22回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2003. 8.
- 27) 水谷暢秀, 小林士郎: RA-M2吻合を併用したsuction decompression法にてクリッピングし得た内頸動脈瘤の1例. 第22回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2003. 8.
- 28) 金 景成, 小林士郎: AICA-PICA 共通幹を有した椎骨動脈解離性動脈瘤の治療について: case report. 第22回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2003. 8.
- 29) 酒井直之, 水谷暢秀, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 上矢状洞硬膜動静脈瘻の1手術症例. 第54回東葛地区脳神経外科研究会, 2003. 9.
- 30) 金 景成, 水成隆之, 木暮一成, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 急性期血行再建術を要した解離性動脈瘤の1例. 第17回千葉県重症患者管理研究会, 2003. 9.
- 31) 梅岡克哉, 水成隆之, 山田 明, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 手術が困難であった内頸動脈後交通動脈瘤分岐部動脈瘤の再手術例. 第91回日本脳神経外科学会関東地方会, 2003. 9.

- 32) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>(1)</sup> (釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症: 骨性形態と黄色靭帯の画像的検討. 第20回北海道脊髄疾患研究会, 2003. 9.
- 33) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科): バイパス手術を用いた脳動脈瘤の治療. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 34) 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学,<sup>2)</sup>川口市立医療センター救命救急センター): 脳腫瘍に対する術前塞栓 固体塞栓と液体塞栓の比較検討. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 35) 水谷暢秀, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): くも膜下出血発症第7病日における脳血管攣縮の評価と血管内治療. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 36) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院 脳神経外科,<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断・上位腰椎と下位腰椎の相違. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 37) 横田裕行<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター,<sup>2)</sup>脳神経外科学): 分子マーカーからみた頭部外傷の病態と管理? 脳血管内皮障害と凝固線溶系の見地から. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 38) 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 当院における頸動脈血栓内膜剥離術. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 39) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>2)</sup>, 水成隆之, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup>脳神経外科学): 小脳出血に対する後頭下小開頭による血腫除去術の有用性. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 40) 太組一朗<sup>1)</sup>, 諫山和男<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 硬膜内C1後根神経鞘腫の1症例. 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003. 10.
- 41) 駒場祐一<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 皮質梗塞患者における ipsilateral thalamic diaschisis: 交絡因子をコントロールした logistic 解析による検討. 第15回日本脳循環代謝学会総会, 2003. 10.
- 42) 福地孝明, 酒井直之, 神谷信雄, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 頭痛を伴い著明な髄液圧亢進を示した硬膜動静脈瘤の1例. 第31回日本頭痛学会総会, 2003. 11.
- 43) 布施 明<sup>1)</sup>, 小南修史, 小林士郎, 齋藤寛浩<sup>2)</sup>, 水成隆之, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>川口市立医療センター救命救急センター,<sup>2)</sup>流山中央病院脳神経外科,<sup>3)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 主幹流入動脈閉塞を伴った脳動静脈奇形の3症例の検討. 第19回日本脳神経血管内治療学会総会, 2003. 11.
- 44) 小南修史, 布施 明<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター,<sup>2)</sup>脳神経外科学): 脳動静脈奇形の血管内治療: NBCAを用いた Targeted Partial Embolization. 第19回日本脳神経血管内治療学会総会, 2003. 11.
- 45) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科,<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): C3/4 disc level に対する経椎体法の有用性. 第38回日本脊髄障害医学会, 2003. 11.
- 46) 磯部正則<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>(1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊髄硬膜内脂肪腫の手術治療例. 第38回日本脊髄障害医学会, 2003. 11.
- 47) 水谷暢秀, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 高血圧性脳内出血に対する急性期手術治療. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
- 48) 立山幸次郎, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科,<sup>2)</sup>脳神経外科学): 遊離広背筋皮弁を用いた頭蓋底形成術が効果した遅発性気脳症に1例. 第55回東葛地区脳神経外科研究会, 2003. 11.
- 49) 水谷暢秀, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 内頸動脈瘤に対する suction decompression



法の検討．第92回日本脳神経外科学会関東地方会，2003．11．

- 50) 金 景成，芝崎 保<sup>1)</sup>，水成隆之，小林士郎，山王直子<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>生理機能センター，<sup>2)</sup>脳神経外科学): GH産生腺腫における各種視床下部ホルモン受容体の発現に関する検討．第1回千葉アクロメガリーワークショップ，2003．11．
- 51) 太組一朗，立山幸次郎，阿部 新，金 景成，梅岡克哉，木暮一成，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎: 70歳女性 左片麻痺の症例．第37回千葉北総神経放射線研究会，2003．11．
- 52) 小南修史: Borden III dural AVFに対するTVE．第7回房総脳神経血管内治療カンファレンス，2004．1．
- 53) 梅岡克哉，小南修史，太組一朗，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 脳内出血を伴った外傷性硬膜動静脈瘻の1例．第9回日本脳神経外科救急学会，2004．1．
- 54) 金 景成，岩本直高，阿部 新，梅岡克哉，水谷暢秀，太組一朗，木暮一成，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎: Fibrous dysplasia に合併した顔面けいれんの1例．第38回千葉北総神経放射線研究会，2004．1．
- 55) 岩本直高，水谷暢秀，阿部 新，金 景成，梅岡克哉，太組一朗，木暮一成，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎: incidental に発見されたgliomaの1例．第38回千葉北総神経放射線研究会，2004．1．
- 56) 梅岡克哉，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 下垂体腺腫における経蝶形骨手術後の腫瘍内出血に対する検討．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，2004．2．
- 57) 木暮一成，金 景成，水成隆之，小林士郎: 超音波骨メスを使った脊椎脊髄手術．日本医科大学医学会第112回例会，2004．2．
- 58) 木暮一成，金 景成，小林士郎: 当科における変形性脊椎症の手術．第56回東葛地区脳神経外科研究会，2004．2．
- 59) 水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): クモ膜下出血発症の椎骨動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略: 重症度および血行動態による治療法の選択．第33回日本脳卒中の外科学会，2004．3．
- 60) 水谷暢秀，酒井直之<sup>1)</sup>，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>，上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学，<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 著名な頭蓋内圧亢進を呈した硬膜動静脈瘻の1手術例．第33回日本脳卒中の外科学会，2004．3．
- 61) 鈴木紀成<sup>1)</sup>，梅岡克哉<sup>1)</sup>，渡辺国博<sup>1)</sup>，小南修史，水成隆之，齋籙寛浩<sup>2)</sup>，石原正一郎<sup>3)</sup>，寺本 明<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院脳神経外科，<sup>2)</sup>流山中央病院脳神経外科，<sup>3)</sup>防衛医科大学校脳神経外科，<sup>4)</sup>日本医科大学脳神経外科学): ステント留置およびコイリングにより治癒しえた医原性頸部頸動脈解離の1例．第33回日本脳卒中の外科学会，2004．3．
- 62) 三品雅洋，駒場祐一<sup>1)</sup>，阿部 新，福地孝明，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学，<sup>2)</sup>内科学第2): アテローム血栓性脳梗塞におけるヘパリン・グリセロール・オゼグレールとエダラボン併用．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 63) 福地孝明，小南修史，三品雅洋，阿部 新，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学，<sup>2)</sup>内科学第2): 脳内出血発症の硬膜動静脈瘻: 当センター過去9年間における5例の報告．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 64) 駒場祐一<sup>1)</sup>，三品雅洋，小林士郎，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): 皮質梗塞患者におけるipsilateral thalamic diaschisis: 多変量解析による検討．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 65) 阿部 新，三品雅洋，駒場祐一<sup>1)</sup>，福地孝明，水成隆之，小林士郎，片山泰朗<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2，<sup>2)</sup>脳神経外科学): 高感度CRPの脳梗塞急性期における搬送時間の検討．第29回日本脳卒中学会総会，2004．3．
- 66) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 私の手術機器の工夫(2)内視鏡・脊椎．第13回脳神経外科手術と機器学会，2004．3．
- 67) 金 景成，水成隆之，小林士郎，小南修史，上山博康<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): High flow bypassを用いて加療した外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻の1例．第27回日本神経外傷学会，2004．3．
- 68) 岩本直高，水谷暢秀，梅岡克哉，金 景成，太組一朗，木暮一成，小南修史，水成隆之，小林士郎: 非特異的な画像所見を呈した悪性リンパ腫の1例．第39回千葉北総神経放射線研究会，2004．3．

## 12．整形外科学講座

### [ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科 ]

#### 研究概要

整形外科学教室の平成15年度の研究は、臨床的研究と分子生物学的な基礎的研究に大別することができる。臨床的研究としては、EBMに基づいた腰痛診療のガイドラインの研究成果を集約し、継続的研究テーマである厚生科学研究費による坐位職業による腰痛調査研究結果を報告した。また、脊椎部、肩・肘・股・膝関節部、手の外科、足の外科、骨・軟部腫瘍などを対象とした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別に見ると脊椎では頸・腰椎部疾患の診断・治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経・腱の障害に対する治療法および手術法の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。骨軟部腫瘍に対する診断、検査法における新知見を報告している。

基礎的研究では、基礎医学教室ならびに老人病研究所との共同研究である骨粗鬆症における薬剤の免疫応答の研究および分子生物学的研究、関節軟骨細胞死に関する研究成果を報告した。ヒト骨髄ES細胞を2次培養後アルミナセラミック上での骨形成に関する研究成果を報告し、誌上発表した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ozaki D, Sudo K, Asoh S, Yamagata K, Ito H, Ohta S : Transduction of anti-apoptotic proteins into chondrocytes in cartilage slice culture . *Biochem Biophys Res Commun* 2003 ; 313 ( 3 ) : 522-527 .
- 2) Onodera T, Shirai Y, Miyamoto M, Genbun Y : Effects of anterior lumbar spinal fusion on the distribution of nerve endings and mechanoreceptors in rabbit facet joint : Quantitative histological analysis . *J Orthop Sci* 2003 ; 567-576 .
- 3) Ishida R, Emi M<sup>1)</sup>, Ezura Y<sup>1)</sup>, Kajita M<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Inoue S<sup>3)</sup>, Shiraki M<sup>4)</sup>, Ito H, Orimo H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Geriatrics Hospital , <sup>3)</sup> Department of Geriatric Medicine, Faculty of Medicine, University of Tokyo , <sup>4)</sup> Research Institute and Practice for Involutional Diseases ) : Association of a promoter haplotype ( -1542G/-525C ) in the tumor necrosis factor receptor associated factor-interacting protein gene with low bone mineral density in Japanese women . *Bone* 2003 ; 33 ( 2 ) : 237-241 .
- 4) Sawaizumi T, Takayama A, Ito H : Surgical technique for supracondylar fracture of the humerus with percutaneous leverage pinning . *Journal of Shoulder and Elbow Surgery* 2003 ; 12 : 603-606 .
- 5) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H : Supernumerary extensor pollicis longus tendon . *Journal of Hand Surgery* 2003 ; 28A : 1014-1017 .
- 6) Sugiyama O, Orimo H, Suzuki S, Yamashita K, Ito H, Shimada T : Bone formation following transplantation of genetically modified primary bone marrow stroma cells . *J Orthop Res* 2003 ; 21 ( 4 ) : 630-637 .
- 7) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H : Vascularized second metacarpal bone graft in scaphoid . *Journal of Reconstructive Microsurgery* 2003 ; 18 : 99-106 .
- 8) Sawaizumi T, Ito H : Lengthening of the amputation stumps of the distal phalanges using modified Ilizarov method . *Journal of Hand Surgery* 2003 ; 28A : 316-322 .

- 9) Hashiguchi H , Ito H , Sawaizumi T : Stabilized subcutaneous transposition of the ulnar nerve . Int Orthop 2003 ; 27 : 232-234 .
- 10) Hashiguti H , Ito H : Clinical outcome of the treatment of floating shoulder by osteosynthesis for clavicular fracture alone . J Shoulder Elbow Surg 2003 ; 12 : 589-591 .
- 11) Yoshihara K , Nakayama Y , Fujii N , Aoki T , Ito H : Atrophy of the Multifidus Muscle in Patients With Lumbar Disk Herniation ; Histochemical and Electromyographic Study . Orthopedics 2003 ; 26 ( 5 ) : 493-495 .
- 12) Kitagawa Y , Ito H , Sawaizumi T , Matsubara M<sup>1)</sup> , Yokoyama M<sup>2)</sup> , Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology , <sup>2)</sup> 2nd Dept. of Pathology ) : Fine needle aspiration cytology for soft tissue tumours of the hand . J Hand Surgery 2003 ; 28B ( 6 ) : 582-585 .
- 13) Kitagawa Y , Ito H , Amano Y<sup>1)</sup> , Sawaizumi T , Takeuti T ( <sup>1)</sup> Dept. Radiology ) : MR imaging for preoperative diagnosis and assessment of local tumor extent on localized giant cell tumor of tendon sheath . Skeletal Radiology 2003 ; 32 ( 11 ) : 633-638 .
- 14) Ishida R , Emi M<sup>1)</sup> , Ezura Y<sup>1)</sup> , Iwasaki H<sup>1)</sup> , Yoshida H<sup>2)</sup> , Suzuki T<sup>2)</sup> , Hosoi T<sup>2)</sup> , Inoue S<sup>3)</sup> , Shiraki M<sup>4)</sup> , Ito H , Orimo H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Geriatrics hospital , <sup>3)</sup> Department of Geriatric Medicine, Faculty of Medicine, University of Tokyo , <sup>4)</sup> Research Institute and Practice for Involuntional Diseases ) : Association of a haplotype ( 196Phe/532Ser ) in the interleukin-1-receptor-associated kinase ( IRAK1 ) gene with low radial bone mineral density in two independent populations . J Bone Miner Res 2003 ; 18 : 419-423 .
- 15) Sawaizumi T , Sakamoto A , Ito H : Injury of superficial radial nerve on the wrist joint . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 : 355-359 .
- 16) Kitamura S , Ohgushi H<sup>1)</sup> , Hirose M<sup>1)</sup> , Fukuda H<sup>1)</sup> , Takakura Y<sup>2)</sup> , Ito H ( <sup>1)</sup> Tissue Engineering Research Center ( TERC ) : National Institute of Advanced Industrial Science and Technology ( AIST ) , <sup>2)</sup> Department of Orthopedic Surgery ; Nara Medical University ) : Osteogenic differentiation of human bone marrow-derived mesenchymal cells cultured on alumina ceramics . Artificial Organs 2004 ; 28 ( 1 ) : 72-82 .
- 17) Narita T , Mori A , Hashiguti H , Iizawa N , Takeda T , Hattori M , Ito H : Anterior cruciate ligament injuries among wakeboarders : A Case Report . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 : 57-62 .
- 18) Saito T , Tada K<sup>1)</sup> , Shimizu M<sup>1)</sup> , Nakamura T<sup>2)</sup> , Ito H , Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology Tokyo, Japan. , <sup>2)</sup> Institute of Medical Science for Aging, Tokyo, Japan ) : Orally administered risedronate can commit Vg2Vd2 T cells to IFN-g secreting effectors in patients with osteoporosis . Biomedical Research 2004 ; 25 ( 1 ) : 1-8 .
- 19) Hirose M<sup>1)</sup> , Kotobuki N<sup>1)</sup> , Matchi H<sup>1)</sup> , Kitamura S , Takakura Y<sup>2)</sup> , Ohgushi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tissue Engineering Research Center ( TERC ) : National Institute of Advanced Industrial Science and Technology ( AIST ) , <sup>2)</sup> Department of Orthopedic Surgery ; Nara Medical University ) : Osteogenic potential of cryopreserved/thawed human bone marrow-derived mesenchymal stem cells . Key Engineering Materials 2004 ; 254-256 : 1051-1054 .
- 20) 家田俊也 , 伊藤博元 , 澤泉卓哉 , 白井康正 , 南 和文 , 中嶋隆夫 : 手指足趾骨折症例に対する Ilizarov Minifixator 創外固定器の使用経験 . 骨折 2002 ; 24 : 413-416 .
- 21) 玉井健介 , 河路秀巳 , 伊藤博元 : 股関節痛に対する関節内局麻剤注入の鎮痛効果について . Hip Joint , 2003 ; 29 : 89-91 .
- 22) 澤泉卓哉 , 南野光彦 , 太田信孝 , 服部幹彦 , 伊藤博元 : Ilizarov minifixator による手指延長の治療成績 . 日本創外固定・骨延長学会雑誌 2003 ; 14 : 31-35 .
- 23) 澤泉卓哉 , 南野光彦 , 八百板仁志 , 栗山直之 , 中山義人 , 村田修二 , 山田哲士 , 江川慶長 , 伊藤博元 : 小児上

腕骨外顆骨折新鮮例の手術成績の検討．骨折 2003；25：722-725．

- 24) 澤泉卓哉, 南野光彦, 中山義人, 南部光彦, 六郷知行, 小寺訓江, 伊藤博元: 小児上腕骨顆上骨折後の anterior spike の残存と内旋変形．日本肘関節研究会雑誌 2003；10：143-144．
- 25) 澤泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 六郷知行, 伊藤博元: 末節骨の骨延長法．日本手の外科学会誌 2003；20：357-361．
- 26) 澤泉卓哉, 南野光彦, 青木孝文, 中山義人, 伊藤博元: Ilizarov Minifizator による手指延長の治療成績．日本創外固定・骨延長学会誌 2003；14：37-41．
- 27) 橋口 宏, 中山義人, 山田哲士, 伊藤博元, 萬歳祐子: 上腕骨骨幹部骨折に対する逆行性髓内釘固定法の治療成績．骨折 2003；25：685-688．
- 28) 橋口 宏, 山田哲士, 伊藤博元, 萬歳祐子: McLaughlin 法を行った肩胛板広範囲断裂における術後 MRI の検討．東日本整災会誌 2003；15：242-244．
- 29) 橋口 宏, 伊藤博元, 萬歳祐子: スポーツによる上腕骨近位骨端線離開の治療成績．肩関節 2003；27：395-398．
- 30) 南野光彦, 澤泉卓哉, 六郷知行, 小寺訓江, 伊藤博元: 基節骨・中手骨骨折に対する low-profile plate system の使用経験．日本手の外科学会誌 2003；20：46-49．
- 31) 南野光彦, 藤井信人, 水野伸一, 高松 眞, 武内俊次, 伊藤博元, 澤泉卓哉: 末節骨裂離骨片を伴った深指屈筋腱停止部皮下断裂の1例．関東整形災害外科学会誌 2003；34：314-318．
- 32) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 青木孝文, 六郷知行, 小寺訓江: 鉤状突起骨折の治療経験．日本肘関節研究会誌 2003；10：161-162．
- 33) 南野光彦, 武内俊次, 藤井信人, 水野伸一, 高松 眞, 伊藤博元: 鎖骨近位端骨折の治療経験．東日本整形災害外科学会誌 2003；15：66-70．
- 34) 南野光彦, 澤泉卓哉, 橋口 宏, 中原義人, 六郷知行, 伊藤博元: 肘関節脱臼を伴った橈骨頭および橈骨頸部骨折の治療経験．骨折 2003；25：733-736．
- 35) 中山義人, 伊藤博元, 成田哲也, 橋口 宏, 飯沢典茂, 山田哲士: 脛骨近位骨端線損傷の2例．骨折 2003；25：329-332．
- 36) 潘 宣超, 高山景範, 柴田靖章, 伊藤博元: CT 解析による本邦成人仙腸関節の形態．J Nippon Med Sch 2003；70：416-421．
- 37) 高松 眞: ラット最長筋の筋紡鐘における感覚神経終末の組織化学的観察．J Nippon Med Sch 2003；70(4): 342-350．
- 38) 小林俊之, 南 和文, 中嶋隆夫, 伊藤博元, 玉井健介, 宮本雅史: 脊椎手術後の深部静脈血栓症 (DVT) の検討．臨床整形外科 2003；38：557-562．
- 39) 寿 典子<sup>1)</sup>, 舟岡宏幸<sup>1)</sup>, 北村繁行, 廣瀬志弘<sup>1)</sup>, 大串 始<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>独立行政法人産業技術総合研究所ティッシュエンジニアリング研究センター): 骨と再生医療 骨髄由来間葉系幹細胞を利用した再生培養骨の臨床応用研究．再生医療 2003；2(2(通巻5号)): 11-17．
- 40) 北川泰之, 伊藤博元, 天野康雄<sup>1)</sup>, 澤泉卓哉, 武内俊次, 角田 隆, 丸山晴久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 手の腱鞘巨細胞腫の MRI 像．骨・関節・靭帯 2004；17(2): 161-165．

## (2) 綜説:

- 1) 白井康正, 宮本雅史, 伊藤博元: EBM に基づいた腰痛診療ガイドライン．運動・物理療法 2003；14(2): 102-111．
- 2) 宮本雅史, 伊藤博元: 頰椎症性疾患に対するリハビリテーション．関節外科 2003；22(増刊号4): 59-64．
- 3) 宮本雅史, 元文芳和, 伊藤博元: 仙腸関節節痛の診断．骨・関節・靭帯 2003；16(8): 880-888．
- 4) 高山景範, 伊藤博元: 外傷性肩関節前方不安定症における posterolateral notch (PLN) 検索の意義．MB Orthop 2003；16(5): 48-54．

5) 宮本雅史, 伊藤博元: 頸椎症性疾患に対するリハビリテーション. 関節外科 2003; 22(4月増刊): 59-64.

## 著書

- 1) 伊藤博元: [分担] 骨盤骨折の分類. 骨盤骨折の最新手技, 新世代の整形外科手術 19巻, 2003; pp120-125, メヂカルビュー.
- 2) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: [分担] 橈骨頭骨折 その最新手技. 関節内骨折の手術? その最新手技. 新OS NOW 新世代の整形外科手術 Vol. 18, 2003; pp54-59, 東京, メヂカルビュー.
- 3) 南野光彦, 伊藤博元, 服部光彦: [分担] 頸椎間歇的牽引療法. 頸髄症神経根症の保存療法のコツとpitfall. Monthly Book Orthopaedics 196, 2003; pp23-30, 全日本病院出版会.
- 4) 橋口 宏, 伊藤博元: [分担] <鎖骨骨折> 遠位端骨折, 肩鎖関節プレート固定法. アトラス四肢骨折治療基本手技マニュアル, 2003; pppp27-33, 全日本病院出版会.
- 5) 青木孝文: [分担] 先天性内反足. 新OS NOW 17 装具療法: モデルと適応のすべて, 2003; pp136-141, メジカルビュー社.
- 6) 伊藤博元: [分担] 脱臼整復手技. 今日の治療方針, 2004; pp708-709, 医学書院.
- 7) 伊藤博元: [分担] 肩の診療法. 今日の整形外科治療方針 第5版, 2004; pp369-371, 医学書院.
- 8) 伊藤博元: [分担] 肩の痛みコントロール. 今日の整形外科治療方針 第5版, 2004; pp371-372, 医学書院.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 安藤岳史<sup>1)</sup>, 川本雅史<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 清水 亨<sup>1)</sup>, 本澤龍生<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 大泉 旭<sup>1)</sup>, 森 淳, 高山守正<sup>1)</sup>, 五十嶋一成<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学山岳医学研究会): 志賀高原ジャイアント診療所における最近の応急診療患者の動向. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.

### (2) 教育講演:

- 1) 伊藤博元: 肩関節疾患およびスポーツ障害における画像診断. 第8回山形大学整形外科研究会, 2003. 6.
- 2) 伊藤博元: 肩関節外傷・スポーツ障害の画像診断的アプローチ. 第14回慈恵大整形外科研修会, 2003. 6.
- 3) 成田哲也: 運動のためのメディカルチェック: 整形外科系. 第30回日本整形外科学会スポーツ医学研修会, 2003. 8.
- 4) 成田哲也: 運動のためのメディカルチェック: 整形外科系. 平成15年度日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会, 2003. 11.

### (3) シンポジウム:

- 1) 伊藤博元, 白井康正, 宮本雅史: 腰痛診療ガイドラインの策定に関する研究. 第15回日本理学診療学会, 2003. 7.
- 2) 伊藤博元, 橋口 宏, 飯沢典茂: 肩関節人工骨頭置換術の中・長期的成績. 第52回東日本整形災害外科学会, 2003. 9.
- 3) 伊藤博元: 肩関節外傷の治療: 反復性肩関節脱臼について. 第39回日本医学放射線学会秋期臨床大会, 2003. 10.
- 4) 澤泉卓哉, 南野光彦, 中山義人, 南部昭彦, 六郷知行, 伊藤博元: 難治性舟状骨偽関節に対する血管柄付き中手骨基部骨移植術. 第30回日本マイクロサージャリー学会, 2003. 11.

### (4) パネルディスカッション:

- 1) 森 淳, 成田哲也, 飯沢典茂, 武田知道, 伊藤博元: スポーツ競技早期復帰をめざした膝前十字靭帯再建術とリハビリテーション. 第29回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会, 2003. 7.
- 2) 橋口 宏, 伊藤博元: 上腕骨骨幹部骨折に対する観血的治療法(髄内固定法とプレート固定法). 第52回東日本整形災害外科学会学術集会, 2003. 9.
- 3) 宮本雅史, 伊藤博元: 急性腰痛の診療ガイドライン: 海外の現状と課題. 第11回日本腰痛学会, 2003. 11.

(5) 一般講演：

- 1) Yoshihara K, Minami K, Nakajima T, Ito H : Denervation of the Multifidus Muscle in Patients With Lumbar Disc Herniation . Spine across the sea ( Maui ), 2003 . 7 .
- 2) Sawaizumi T, Nanno M, Rokugo T, Aoki K, Ito H : Vascularized second metacarpal base bone graft for scaphoid nonunion by the volar and dorsal approach . The 58th Annual Meeting of the American Society for Surgery of the Hand ( Chicago ), 2003 . 9 .
- 3) Aoki T, Nanno M, Konno S, Nanbu A, Sawaizumi T, Ito H : Othodromic Sensory Inching Conduction Study for Ulnar Entrapment Neuropathy . XVIIth International Congress of Clinical Neurophysiology ( San Francisco ), 2003 . 9 .
- 4) Aoki T, Ito H : Diagnosis and treatment for insufficiency of the tibiofibular syndesmosis at the ankle . Kanto Orthopaedic Surgery Conference , 2003 . 6 .
- 5) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 青木孝文, 六郷知行, 小寺訓江: 鉤状突起骨折の治療経験 . 第15回日本肘関節研究会, 2003 . 2 .
- 6) 北川泰之, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2,<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 腱鞘巨細胞腫の再発と局所浸潤性における細胞増殖能の影響 . 第1回関東骨軟部腫瘍の基礎を語る会, 2003 . 4 .
- 7) 澤泉卓哉, 南野光彦, 六郷知行, 小寺訓江, 伊藤博元: 手指末節骨の骨延長法 . 第46回日本手の外科学会, 2003 . 4 .
- 8) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 白井康正, 伊藤博元: 介護職員と看護職員との腰痛の実態に関する調査研究 . 第32回日本脊椎脊髄病学会, 2003 . 4 .
- 9) 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 骨性マレット指に対する小切開ピンニング法の実際 . 第46回日本手の外科学会, 2003 . 4 .
- 10) 澤泉卓哉, 南野光彦, 八百板仁志, 飯沢典茂, 南部昭彦, 中嶋祐作, 小寺訓江, 堀口 元, 伊藤博元: 創外固定を用いた橈骨遠位端骨折の治療法の検討 . non-bridging法とbridging法の比較 . 第16回日本創外固定・骨延長学会, 2003 . 4 .
- 11) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 金田和容, 山田哲士, 伊藤博元: 割式脊柱管拡大術による頸椎椎間板ヘルニアの治療成績について . 第76回日本整形外科学会, 2003 . 5 .
- 12) 玉井健介, 河路秀巳, 飯沢典茂, 牧野 晃, 田中陽子, 伊藤博元: 股関節痛に対する局所麻酔剤関節内注入の鎮痛作用について . 第76回日本整形外科学会学術集会, 2003 . 5 .
- 13) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 金田和容, 山田哲士, 伊藤博元: 腰椎椎間板ヘルニアの保存療法の限界 . 第76回日本整形外科学会学術集会, 2003 . 5 .
- 14) 澤泉卓哉, 南野光彦, 中山義人, 南部昭彦, 六郷知行, 北川泰之, 伊藤博元: 成人ばね指に対するステロイド腱鞘内注入法: トリアムシロロンとベタメサゾンの比較 . 第76回日本整形外科学会総会, 2003 . 5 .
- 15) 青木孝文, 伊藤博元, 河路秀巳, 太田信孝, 小寺訓江: 陳旧性アキレス腱断裂に対するBosworth変法の治療成績 . 第76回日本整形外科学会学術集会, 2003 . 5 .
- 16) 橋口 宏, 成田哲也, 中山義人, 山田哲士, 伊藤博元, 萬歳祐子: スポーツ動作により生じた上腕骨近位骨端線離開の治療成績 . 第11回よこはまスポーツ整形外科フォーラム, 2003 . 6 .
- 17) 高松 眞, 青木孝文, 河路秀巳, 鈴木康之, 中嶋祐作, 伊藤博元: 小骨用T型プレートを用いた足関節固定術の経験 . 第28回日本足の外科学会, 2003 . 6 .
- 18) 中嶋隆夫, 南 和文, 深井靖雄, 小林俊之, 村田修二, 江川慶長, 吉澤隆明: 硬膜外膿瘍を伴った腰仙部化膿性脊椎炎に対するイリザロフ創外固定器の使用経験 . 第1回ちば脊椎カンファレンス, 2003 . 6 .
- 19) 青木孝文, 河路秀巳, 高松 眞, 鈴木康之, 中嶋祐作, 伊藤博元: 高齢者の脛骨天蓋骨折に対するダブルプレ

- ートを用いた整復固定法の2例．第28回日本足の外科学会，2003．6．
- 20) 土田美月，宮本雅史，元文芳和，北川泰之，今野俊介，小寺訓江，伊藤博元：胸椎硬膜外腫瘍を形成した多発性骨髄腫の1例．第619回整形外科集談会東京地方会，2003．6．
- 21) 橋口 宏，成田哲也，伊藤博元，萬歳祐子，大場俊二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大場整形外科クリニック)：Little league shoulderの治療成績．第29回日本整形外科スポーツ医学会学術集会，2003．7．
- 22) 橋口 宏，伊藤博元，澤泉卓哉，成田哲也：柔道により発症した両側橈骨茎状突起疲労骨折の1例．第29回日本整形外科スポーツ医学会学術集会，2003．7．
- 23) 北川泰之，伊藤博元，澤泉卓哉，武内俊次，角田 隆，丸山晴久，天野康雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学)：腱鞘巨細胞腫のMRI像．第36回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会，2003．7．
- 24) 鈴木康之，伊藤博元，青木孝文，北川泰之，横山宗伯：骨化性脂肪腫の1例．第36回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学会，2003．7．
- 25) 南野光彦，澤泉卓哉，鈴木康之，小寺訓江，伊藤博元：80歳以上高齢者の橈骨遠位端骨折に対する保存的治療の成績．第29回日本骨折治療学会，2003．8．
- 26) 鈴木康之，澤泉卓哉，南野光彦，小寺訓江，林 央介，伊藤博元：当院における手舟状骨骨折保存治療例の治療成績の検討．第29回日本骨折治療学会，2003．8．
- 27) 河路秀巳，玉井健介，青木孝文，高松 眞，林 央介，伊藤博元：THA施行時の側臥位固定ポジショナーによるmeralgia paraesthetica．第52回東日本整形災害外科学会，2003．9．
- 28) 宮本雅史，元文芳和，今野俊介，土田美月，牧野 晃，伊藤博元：頸椎化膿性脊椎炎の治療成績．第52回東日本整形災害外科学会，2003．9．
- 29) 橋口 宏，山田哲士，成田哲也，伊藤博元，萬歳祐子：肩関節夜間痛に対する芍薬甘草湯の有効性．第52回東日本整形災害外科学会学術集会，2003．9．
- 30) 橋口 宏，伊藤博元，萬歳祐子：Impingement 徴候陽性患者におけるX線学的因子の検討．第30回日本肩関節学会，2003．9．
- 31) 中嶋祐作，花岡央泰，南部昭彦，澤泉卓哉，伊藤卓哉：Compass Universal Hingeを用いた肘関節形成術の1例．第9回日本イリザロフ法研究会，2003．9．
- 32) 南野光彦，澤泉卓哉，青木孝文，南部昭彦，小寺訓江，伊藤博元：手根管症候群に対する手関節掌側装具の治療成績と適応．第52回東日本整形災害外科学会，2003．9．
- 33) 南部昭彦，澤泉卓哉，南野光彦，小寺訓江，八木板仁志，伊藤博元：Non-bridge type 創外固定器を単独使用した橈骨遠位端骨折の治療成績と問題点について．第52回東日本整形災害外科学会，2003．9．
- 34) 林 央介，青木孝文，今野俊介，伊藤博元：前脛骨筋機能不全に対する腓骨筋腱移行術の経験．第620回関東整形災害外科学会・月例会，2003．9．
- 35) 小林俊之，南 和文，中嶋隆夫，深井靖雄，村田修二，伊藤博元：術後早期に発症する肺塞栓症に対する，スクリーニング検査としての血液ガス分析の有用性．第52回東日本整形災害外科学会，2003．9．
- 36) 中嶋隆夫，南 和文，深井靖雄，伊藤博元，澤泉卓哉，家田俊也：硬膜外腫瘍を伴った腰部化膿性脊椎炎に対するイリザロフ創外固定器の使用経験．第9回日本イリザロフ法研究会，2003．9．
- 37) 河路秀巳，玉井健介，鈴木康之，高松 眞，北村繁行，林 央介，伊藤博元：Cementless socket固定用のtransacetabular screwによって生じたと考えられる坐骨神経麻痺の1例．第30回日本股関節学会，2003．10．
- 38) 橋口 宏，中山義人，山田哲士，伊藤博元，澤泉卓哉：スポーツにより発症した肘頭骨端線閉鎖不全の治療成績．第9回神奈川手・肘の外科研究会，2003．10．
- 39) 玉井健介，河路秀巳，高松 眞，北村繁行，林 央介，伊藤博元：両側変股症における片側THAの反対側に及ぼす影響．第30回日本股関節学会，2003．10．
- 40) 齋藤 善，高橋秀実<sup>1)</sup>，多田欣司<sup>1)</sup>，中村哲郎<sup>2)</sup>，伊藤博元(<sup>1)</sup>微生物学・免疫学，<sup>2)</sup>加齢医科学研究所)：ピ

- スフォスフォネート内服投与による骨粗鬆症患者における gdT 細胞の動態．第 18 回日本整形外科学会基礎学術会，2003．10．
- 41) 石田良太，江面陽一<sup>1)</sup>，大益史弘<sup>1)</sup>，梶田満子<sup>1)</sup>，白木正孝<sup>2)</sup>，井上 聡<sup>3)</sup>，細井孝之<sup>4)</sup>，鈴木隆雄<sup>5)</sup>，江見充<sup>1)</sup>，伊藤博元 ( <sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>成人病診療研究所，<sup>3)</sup>東京大学医学部老年病科，<sup>4)</sup>東京都老人医療センター内分泌科，<sup>5)</sup>東京都老人総合研究所疫学部 ): Tumor Necrosis Factor Receptor Associated Factor-Interacting protein ( I-TRAF ) 遺伝子多型と成人女性の骨密度の相関．第 18 回日本整形外科学会基礎学術集會，2003．10．
- 42) 尾崎大也，須藤賢太郎，麻生定光，太田成男，伊藤博元：改良型細胞死抑制因子 FNK は抗 Fas 抗体及び NO による軟骨細胞死を抑制する．第 18 回日本整形外科学会基礎学術集會，2003．10．
- 43) 北村繁行，廣瀬志弘<sup>1)</sup>，大串 始<sup>1)</sup>，高倉義典<sup>2)</sup>，伊藤博元 ( <sup>1)</sup>独立行政法人産業技術総合研究所 ティッシュエンジニアリング研究センター，<sup>2)</sup>奈良県立医科大学整形外科 ): アルミナセラミックス上での骨髄間葉系細胞の骨芽細胞への分化．日整会基礎学術集會，2003．10．
- 44) 家田俊也，中嶋隆夫，小野寺剛：腰椎固定術における KAPSS の使用経験．第 96 回茨城県整形外科集談会，2003．10．
- 45) 今野俊介，宮本雅史，元文芳和，白井康正，伊藤博元：介護従事者と看護従事者の腰痛の実態に関する調査研究．第 76 回日本整形外科学会学術集會，2003．10．
- 46) 今野俊介，青木孝文，小寺訓江，伊藤博元：頸部脊髄症における運動単位数確定の試み．第 33 回日本臨床神経生理学会学術大会，2003．10．
- 47) 青木孝文，今野俊介，南野光彦，南部昭彦，小寺訓江，伊藤博元：手根管症候群に対する感覚性インテグレーションの刺激指の違いによる波形の差について．第 33 回日本臨床神経生理学会学術集會，2003．10．
- 48) 青木孝文，澤泉卓哉，伊藤博元：骨性マレット指に対する小切開ピンニング法の実際．第 9 回神奈川手・肘の外科研究会，2003．10．
- 49) 元文芳和，宮本雅史，今野俊介，山田哲士，田中陽子，伊藤博元：腰椎変性すべり症の治療成績．第 11 回日本腰痛学会，2003．11．
- 50) 花岡央泰，森 淳，飯沢典茂，伊藤博元：膝関節の屈曲障害を呈した限局性色素性絨毛結節性滑膜炎の 1 例．第 621 回関東整形災害外科学会 月例会，2003．11．
- 51) 今野俊介，宮本雅史，元文芳和，山田哲士，田中陽子，伊藤博元：タクシー運転手の腰痛の実態に関する調査研究．第 11 回日本腰痛学会，2003．11．
- 52) 吉原 潔，金田和容，六郷知行：簡便な自家骨移植を併施した脛骨顆部骨折の低侵襲手術の 2 例．第 9 回日本最小侵襲整形外科学会，2003．12．
- 53) 橋口 宏，伊藤博元，成田哲也，萬歳祐子，堀口 元：肩腱板不全断裂に対する鏡視下肩峰下除圧術単独施行例の治療成績．第 29 回日本関節鏡学会，2003．12．
- 54) 齋藤 善，多田欣司<sup>1)</sup>，清水真澄<sup>1)</sup>，中村哲郎<sup>2)</sup>，高橋秀実<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>微生物学・免疫学，<sup>2)</sup>加齢医学研究所 ): 骨粗鬆症患者におけるリセドロネート内服投与による T 細胞への影響．第 33 回日本免疫学会総会・学術集會，2003．12．
- 55) 須藤賢太郎，尾崎大也，山縣久美，麻生定光<sup>1)</sup>，成田哲也，伊藤博元，太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門 ): アポトーシス抑制活性強化因子 FNK 蛋白導入によるヒト軟骨組織の凍結再融解によって生じる細胞死の抑制．第 26 回日本分子生物学会年会，2003．12．
- 56) 田中陽子，宮本雅史，元文芳和，今野俊介，林 央介，伊藤博元：馬尾神経腫瘍摘出術において術中モニタリングが有効であった 1 例．第 622 回関東整形災害外科学会 月例会，2003．12．
- 57) 石田良太，伊藤博元，橋口 宏，中山義人：傍骨性脂肪腫により生じた後骨間神経麻痺の 1 例．第 18 回東日本手の外科学会，2004．1．



- 58) 中山義人, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 橋口 宏, 南野光彦: Rolando骨折に対する治療成績の検討. 第18回東日本手の外科研究会, 2004. 1.
- 59) 南野光彦, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 小寺訓江, 伊藤博元: 第2, 3手根中手関節脱臼骨折の1例. 第18回東日本手の外科研究会, 2004. 1.
- 60) 小林俊之, 南 和文, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 村田修二, 江川慶長, 吉澤隆明: 股関節術後に発症する深部静脈血栓症(DVT), 肺塞栓(PE), の現状と対策. 第4回千葉股関節研究会, 2004. 1.
- 61) 澤泉卓哉, 南野光彦, 中山義人, 南部昭彦, 六郷知行, 伊藤博元: de Quervain病に対するトリアルシノロン腱鞘内注入の治療成績. 第18回東日本手の外科研究会, 2004. 1.
- 62) 橋口 宏, 中山義人, 伊藤博元, 大場俊二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大場整形外科クリニック): 投球動作により発症した肘頭骨端線閉鎖不全の治療成績. 第16回日本肘関節学会学術集会, 2004. 2.
- 63) 小寺訓江, 北川泰之, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 池谷正之<sup>3)</sup>, 肥留川道雄<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第2, <sup>2)</sup>同多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>池谷整形外科医院, <sup>4)</sup>肥留川整形外科医院): 10年の術後経過を観察し得た指骨発生の類上皮型血管内皮腫の1例. 第623回関東整形災害外科学会 月例会, 2004. 2.
- 64) 南野光彦, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 小寺訓江, 伊藤博元: 橈骨頭粉砕骨折に対するlow-profile plate systemの治療経験. 第16回日本肘関節学会, 2004. 2.
- 65) 北川泰之, 玉井健介, 伊藤博元: 経口アレンドロネートが有効であった多発性線維性骨異形成症の1例. 第623回関東整形災害外科学会 月例会, 2004. 2.
- 66) 南部昭彦, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 牧野 晃, 伊藤博元: 橈骨遠位端関節内骨折に対するnon-bridge創外固定器による治療: オリーブワイヤーによる小骨片固定法. 第17回東日本手の外科研究会, 2004. 2.
- 67) 牧野 晃, 澤泉卓哉, 南部昭彦, 伊藤博元: 母指MP関節橈尺骨両側側副靭帯断裂の1例. 第17回東日本手の外科研究会, 2004. 2.
- 68) 中嶋隆夫, 南 和文, 深井靖雄, 小林俊之, 村田修二, 江川慶長, 吉澤隆明: 頸椎脊柱管拡大術後に肺塞栓症を生じた1症例. 第2回ちば脊椎カンファレンス, 2004. 2.
- 69) 今野俊介, 青木孝文, 宮本雅史, 元文芳和, 伊藤博元: 頸部脊髄症に対し運動単位数推定法を施行した1例. 第26回脊髄機能診断研究会, 2004. 2.
- 70) 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元, 赤石文洋: バネ指手術後のPIP関節部痛についての1考案. 第17回東日本手の外科研究会, 2004. 2.
- 71) 深井靖雄, 南 和文, 中嶋隆夫, 小林俊之, 村田修二, 江川慶長, 吉澤隆明: 硬膜外膿瘍を伴った化膿性脊椎炎に対しイリザロフ創外固定器を用いた治療経験. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 72) 澤泉卓哉, 南野光彦, 南部昭彦, 六郷知行, 伊藤博元: 小児上腕骨顆上骨折治療後のanterior spikeの残存と内旋・内転変形. 第16回日本肘関節学会, 2004. 2.
- (6) ポスター:
- 1) 六郷知行, 澤泉卓哉, 南野光彦, 伊藤博元: 当院におけるDupuytren拘縮手術例の検討. 第46回日本手の外科学会学術集会, 2003. 4.
- 2) 橋口 宏, 中山義人, 山田哲士, 伊藤博元, 萬歳祐子: McLaughlin法による肩腱板修復術後MRI所見と治療成績の検討. 第76回日本整形外科学会学術集会, 2003. 5.
- 3) 堀口 元, 高山景範, 橋口 宏, 飯沢典茂, 伊藤博元: 両側に発症した肩関節後方脱臼骨折の1例. 第30回日本肩関節学会, 2003. 9.
- 4) 須藤賢太郎, 尾崎大也, 山縣久美<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 成田哲也, 伊藤博元, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門): 改良型細胞死抑制因子FNK蛋白導入による採取ヒト軟骨組織の凍結再融解による細胞死の抑制. 第18回日本整形外科基礎学術集会, 2003. 10.

## 13．産婦人科学講座

### [ 付属病院女性診療科・産科 ]

#### 研究概要

周産期医学，婦人科腫瘍学，生殖医学，手術学の各部門でそれぞれ活発に行われた．

周産期医学領域では，アデノシンの正常および妊娠中毒症妊婦における生理的，病理的意義の解明に関する研究が引き続き行われた．また動物実験モデルを用い，胎仔の体温調節機構の解明，ストレスに対する防御機構におけるCRF, NOSの役割についての検討がなされた．

婦人科腫瘍学では，子宮癌や子宮筋腫の発生のメカニズムに対する遺伝子レベルの解析，卵巣癌患者におけるHGF測定の意味などが検討された．

生殖医学部門では，卵子の加齢による変化のミトコンドリア動態からみた解析，不育症治療におけるNK細胞活性の意味などが検討された．

手術学部門では，音声制御内視鏡手術ロボット（AESOP）の婦人科手術における有用性，Laparoscopically Assisted Surgeryの適応拡大とその有用性などが検討された．

#### 研究業績

##### 論文

[ 2002 年度追加分 ]

原著：

- 1) 山口昌子，山田 隆，三浦 敦，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠中に発症した急性リンパ性白血病の取り扱いについて：妊娠22週発症例の経験より．日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2003；52（1）：46-49．
- 2) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Otsubo Y, Miura A, Kuwabara Y, Ishino H, Kiyokawa Y, Doi D, Yoneyama K, Araki T：Changes in the proportion of T helper 1 and T helper 2 cells in cord blood after premature rupture of membranes．Arch Gynecol Obstet 2003；267（4）：217-220．

(1) 原著：

- 1) Yamada T, Yoneyama Y, Sawa R, Araki T：Effects of maternal oxygen supplementation on fetal oxygenation and lipid peroxidation following a single cord occlusion in fetal goats．J Nippon Med Sch 2003；70（2）：165-171．
- 2) Doi D, Ota Y, Konishi H, Yoneyama K, Araki T：Evaluation of the neurotoxicity of paclitaxel and carboplatin by current perception threshold in ovarian cancer patients．J Nippon Med Sch 2003；70（2）：129-134．
- 3) Miura A, Yoneyama Y, Sawa R, Araki T：Fetal plasma prostaglandin F<sub>2</sub> and cortisol responses to high dose of endotoxin administration in fetal goats．J Nippon Med Sch 2003；70（2）：151-156．
- 4) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Otsubo Y, Miura A, Kuwabara Y, Ishino H, Kiyokawa Y, Doi D, Yoneyama K, Araki T：Serum adenosine deaminase activity and its isoenzyme pattern in normal pregnancies．Arch Gynecol Obstet 2003；267：205-207．
- 5) Kuwabara Y, Nishino T<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Matsumura T<sup>1)</sup>, Bryan T E<sup>2)</sup>, Emil F P<sup>2)</sup>, Nishino T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, <sup>2)</sup> Univ. of Toronto): Unique amino acids cluster for switching from the dehydrogenase to oxidase form of xanthine oxidoreductase．PNAS 2003；100（14）：8170-8175．
- 6) Chihara H, Yoneyama Y, Otsubo Y, Suzuki S, Sawa R, Araki T：Basal metabolic rate in hyperemesis

- gravidarum : Comparison to normal pregnancy and response to treatment . Am J Obstet Gynecol 2003 ; 188 : 434-438 .
- 7) Okino K , Nagai H , Hatta M , Nagahata T , Yoneyama K , Ohta Y , Jin E , Kawanami O<sup>1)</sup> , Araki T , Emi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 老研病理部門 , <sup>2)</sup> 同分子生物部門 ) : Up-regulation and overproduction of DVL-1, the human counterpart of the Drosophila dishevelled gene, in cervical squamous cell carcinoma . Oncol Rep 2003 ; 10 ( 5 ) : 1219-1223 .
- 8) Chihara H , AB B , CJ H , GG P : Effect of mild hypothermia and hypoxia on blood flow and oxygen consumption of the fetal sheep brain . Pediatr Res 2003 ; 54 ( 5 ) : 665-671 .
- 9) Suzuki S , Araki T : Feto-maternal interface in T helper 1-type and T helper 2-type immunity in labor . Arch Gynecol Obstet 2003 ; 269 : 51-52 .
- 10) Suzuki S , Kuwajima T , Yoneyama Y , Sawa R : Maternal peripheral T-helper 1-type and T-helper 2-type immunity in nonpreeclamptic twin pregnancies . Gynecol Obstet Invest 2003 ; 53 : 140-143 .
- 11) Ichikawa M , Sugita M<sup>1)</sup> , Takahashi M<sup>1)</sup> , Satomi M , Takeshita T , Araki T ( <sup>1)</sup> Dept. of Microbiology and Immunology ) : Breast milk macrophages spontaneously produce granulocyte-macrophage colony-stimulating factor and differentiate into dendritic cells in the presence of exogenous interleukin-4 alone . Immunology 2003 ; 108 : 189-195 .
- 12) Hatta M , Nagai H , Okino K , Onda M , Yoneyama K , Ohta Y , Nakayama H , Araki T , Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 老研分子生物部門 ) : Down-regulation of members of glycolipid-enriched membrane raft gene family, MAL and BENE, in cervical squamous cell cancers . J. Obstet. Gynaecol. Res 2003 ; 30 ( 1 ) : 53-58 .
- 13) Suzuki S , Kuwajima T , Murata T , Araki T : A case of maternal reaction due to fetomaternal transfusion . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 5 ) : 447-448 .
- 14) Okudaira S , Kuwajima T , Mine N , Takeuchi T , Suzuki S : Uterine perforation following manual removal of placenta . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 5 ) : 449-451 .
- 15) Suzuki S , Yoneyama Y : Role of adenosine in regulation of uterine blood flow during nonpreeclamptic twin gestation . Tohoku J Exp Med 2003 ; 201 : 127-130 .
- 16) Suzuki S : Comparison between spontaneous ovarian hyperstimulation syndrome and hyperreactio luteinalis . Arch Gynecol Obstet 2004 ; 269 : 227-229 .
- 17) Kuwabara Y , Sawa R , Otsubo Y , Yoneyama Y , Asakura H , Araki T , Takeshita T : Intrauterine Therapy for the Acutely Enlarging Fetal Cystic Hygroma . Fetal Diagn Ther 2004 ; 19 : 191-194 .
- 18) Suzuki S , Okudaira S : Influence of the duration of the second stage of labor on fetal pH levels and oxidative status in uncomplicated pregnancies . J Matern Fetal Neonate Med 2004 ; 15 : 100-103 .
- 19) 沖野恵子 , 米山剛一 , 武内 務 , 平泉良枝 , 三浦 敦 , 土居大祐 , 太田雄治郎 , 明楽重夫 , 荒木 勤 : 子宮筋腫術後に顕症化した結核性腹膜炎 . 日産婦関東連合地方部会誌 2003 ; 39 ( 1 ) : 25-29 .
- 20) 荻原弘光 , 大坪保雄 , 米山芳雄 , 澤倫太郎 : 妊娠悪阻および重症妊娠悪阻の栄養管理 . 臨床栄養 2003 ; 102 ( 3 ) : 300-304 .
- 21) 荻原弘光 , 米山芳雄 , 澤倫太郎 , 朝倉啓文 , 荒木 勤 , Gordon G P : 子宮腔内冷却法による羊胎仔脳の Adaptive hypometabolism の解明 . 産婦人科治療 2003 ; 86 ( 5 ) : 1006-1006 .
- 22) 米山剛一 , 沖野恵子 , 土居大祐 , 荒木 勤 : 婦人科悪性腫瘍術後の血栓症発症因子に関する臨床的検討 . 産婦人科の実際 2003 ; 52 ( 6 ) : 789-793 .
- 23) 山口昌子 , 荻原弘光 , 明楽重夫 , 土居大祐 , 米山剛一 , 荒木 勤 , 兵働英也 , 壇 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第3 ) : 急性前骨髄球性白血病に合併した出血性黄体嚢胞の1例 . 日本産科婦人科学会東京地方部会会誌 2003 ; 52 ( 2 ) : 199-203 .

- 24) 荻原弘光, 澤倫太郎, 米山芳雄, 竹下俊行, 大坪保雄, 鈴木俊治: 我が国における帝王切開率の変遷と適応の変化. 周産期医学 2003; 33(8): 921-926.
- 25) 荻原弘光, 澤倫太郎, 米山芳雄, 竹下俊行, 大坪保雄, 鈴木俊治: 帝王切開とその周辺 我が国における帝王切開率の変遷と適応の変化. 周産期医学 2003; 33(8): 921-926.
- 26) 石野博嗣, 八田充子, 村田知昭, 河合尚基<sup>1)</sup>, 東部地域病院: 診断に苦慮した Mullerian mixed tumor の1例. 日産婦東京地方部会誌 2003; 152(3): 400-403.
- 27) 武井麟太郎, 柴田浩之, 土居大祐, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 手術後に発症した急性褥瘡に関する1考察. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2003; 52(3): 367-369.
- 28) 石野博嗣, 村田知昭, 河合尚基: 診断に苦慮した Mullerian mixed tumor の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2003; 52(3): 400-403.
- 29) 松橋智彦, 土居大祐, 馬場直美, 西 弥生, 里見操緒, 米山剛一, 中山智子<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理部): 高テストステロン血症を示した卵巣硬化性間質性腫瘍の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2003; 52(4): 485-488.
- 30) 奥平さやか, 武内 務, 峯 伸也, 桑島豊彦, 鈴木俊治: 発熱をとまなう頭痛で発症した心因性疼痛の1例. 江東・千葉西ブロック産婦人科医合同卒後研修会論文集 2003; 19: 43-45.
- 31) 山田真理子, 竹内正人, 進 純郎: 周産期の治療薬マニュアル 各論 III. 合併妊娠の薬物療法 貧血に対する薬物療法の基本的考え方. 周産期医学 2003; 33(増刊): 450-452.
- 32) 武内 務, 奥平さやか, 峯 伸也, 桑島豊彦, 鈴木俊治, 桑鶴良平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京臨海病院): 当院で経験した卵巣チョコレート嚢胞破裂9例の臨床的検討. 日産婦東京会誌 2003; 52: 519-521.
- 33) 鈴木俊治, 木島一洋, 澤倫太郎, 澤 昇平: 寝たきり高齢女性に発症した原発性膀胱石症の1例. 臨婦産 2003; 57: 988-989.
- 34) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 清水基弘<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>1)</sup>, 佐治晴哉<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>2)</sup>, 八田充子, 土居大祐(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター婦人科, <sup>2)</sup>勝楽堂病院産婦人科): 閉経後体癌の予後推定に CA125は有用である Serum CA 125 is useful for a prediction of prognosis on endometrial cancer after menopause. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2004; 22(1): 7-12.
- 35) 渡辺昇一, 太田雄治郎, 米山剛一: TAXAN系薬剤が不応であった卵巣癌の1例. 日産婦東京会誌 2004; 52(3): 436-439.
- 36) Suzuki S: Comparison between spontaneous ovarian hyperstimulation syndrome and hyperreaction luteinalis. Arch Gynecol Obstet 2004; 269: 227-229.
- 37) 奥平さやか, 鈴木俊治: 高齢者に発症した陰唇癒着症の1例. 臨婦産 2004; 58: 97-99.
- (2) 綜説:
- 1) 竹内正人, 島 義雄<sup>1)</sup>, 進 純郎(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院): FHR モニタリングは信用できるか. 産婦人科の実際 2003; 52(4): 423-430.
- 2) 明楽重夫: 内視鏡支援ロボットは人間を超えられるか?. J Nippon Med Sch 2003; 70(5): 456-457.
- 3) 米山芳雄, 荒木 勤: 慢性疾患患者の妊娠条件と妊婦管理の実際. Medical Practice 2003; 20: 1440-1447.
- 4) 米山芳雄, 荒木 勤: 胎児仮死. 産婦人科治療 2003; 86(増刊): 555-559.
- 5) 荻原弘光, 澤倫太郎, 米山芳雄, 竹下俊行, 大坪保雄, 鈴木俊治: わが国における帝王切開率の変遷と適応の変化. 周産期医学 2003; 33: 921-926.
- 6) 竹内正人, 進 純郎: 予定日を過ぎると児が大きくなって難産?. 周産期医学 2003; 33(6): 759-762.
- 7) 竹内正人: 妊娠, 出産を良い体験とするために個々の気づきを尊重した医療へ. 助産雑誌 2003; 57(6): 67-72.
- 8) 荻原弘光, 米山芳雄, 澤倫太郎, 朝倉啓文, 荒木 勤: 子宮腔内冷却法による羊胎仔脳の Adaptive hypome-

tabolismの解明．産婦人科治療 2003；86：1006-1007．

- 9) 竹内正人, 進 純郎: 米国産婦人科学会 (ACOG) の勧告．助産雑誌 2003；57 (7): 31-37．
- 10) 澤倫太郎: 医療と特許．日本医師会雑誌 2003；130 (9): 1237-1242．
- 11) 金 栄淳, 竹内正人, 進 純郎: 産婦人科診療 症候から診断・治療へ〔産科領域〕II 妊娠中期・後期 3 腹満感・腹部緊張感．産科と婦人科 2003；70 (11): 1645-1649．
- 12) 明楽重夫, 可世木久幸, 竹下俊行: 不妊症の治療, 卵管・子宮因子: 粘膜下筋腫・子宮内膜ポリープの取扱い．産婦人科の実際 2003；52 (12)．
- 13) 澤倫太郎: 有事関連三法案と特区．国民医療年鑑 21世紀の日本の医療 (その3) 2003；119-119．
- 14) 竹内正人, 進 純郎: 産婦人科手術マニュアル 骨盤位牽出術．産科と婦人科 2003；70：35-44．
- 15) 鈴木俊治, 朝倉啓文, 竹下俊行: 切迫早産の診断．産科と婦人科 2003；70：1786-1799．
- 16) 澤倫太郎: 日本型医療を支えるもの．社会保障 2003；2203 (56): 28-29．
- 17) 澤倫太郎: 本当に財務省の選択を選びますか? 迫られる国民の選択．社会保障 2003；2267 (58): 36-37．
- 18) 山田真理子, 竹内正人, 進 純郎: 周産期の治療薬マニュアル 産科編: 各論 III 合併妊娠の薬物療法 12 血液疾患 a 貧血．周産期医学 2003；33 (増刊): 453-462．
- 19) 澤倫太郎: 生殖医療と倫理: わが国の生殖医療の現状把握とその問題点．日本医師会雑誌 2003；130 (5): 787-789．
- 20) 竹内正人: 誕生死 産科の立場から．周産期医学 2004；34 (1): 84-88．
- 21) 竹下俊行, 里見操緒, 金 栄淳, 市川雅男: 習慣流産に対する免疫療法の現状と問題点, 今日の話題．産婦人科の実際 2004；53 (3): 427-431．
- 22) 竹内正人, 進 純郎: 骨盤位経膈分娩はどこまで可能か．周産期医学 2004；34 (3): 84-88．
- 23) 竹下俊行: 血液型・不規則抗体, 検査値をどう読むか: 産婦人科診療へのアプローチ．産科と婦人科 2004；71：39-42．
- 24) 澤倫太郎: 卵子提供・受精卵提供．産婦人科の世界増刊号, 生殖補助医療マニュアル 2004；250-252．

## 著 書

- 1) 竹下俊行: [共著] 流産 (習慣流産を含む)．今日の治療指針, 2004；pp871-872, 医学書院．

## 学会発表

[2002 年度追加分]

### 一般講演:

- 1) 山口昌子, 山田 隆, 三浦 敦, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 妊娠中に発症した急性リンパ性白血病の取り扱いについて: 妊娠22週発症例の経験より．第324回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2002．12．

### (1) 特別講演:

- 1) 澤倫太郎: 先端医療の光と影．日本産婦人科医会関東ブロック協議会, 2003．9．
- 2) 竹下俊行: 免疫異常に起因する妊娠異常と細胞間接着分子．第71回日本医科大学医学部総会, 2003．9．
- 3) 竹下俊行: 不育症 Up date: 生殖内分泌委員会 中間報告をかねて．東京産婦人科医会多摩支部連合会, 2003．10．
- 4) 澤倫太郎: 産婦人科医療の展望．第250回臨床研究会記念講演, 2003．11．
- 5) 竹下俊行: 不育症 Up date: 今, 何が問題か?．第327回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2004．1．

### (2) 招待講演:

- 1) Takeuchi M: Client Friendly Service．JICA RHワークショップ (ベトナム), 2003．7．
- 2) 澤倫太郎: 難病対策の現状と課題．第2回全国難病センター研究会, 2004．3．

(3) シンポジウム :

- 1) Yoneyama Y : The role of adenosine in fetal immune system . The 50th Annual Meeting of Society of for Gynecologic Investigation ( Washington DC, USA ), 2004 . 3 .
- 2) 竹内正人 : ミレニアム開発目標実現に向けて何をすべきか , 途上国の妊産婦の健康に関するシンポジウム . JICA , 2003 . 6 .
- 3) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 清水基弘<sup>1)</sup>, 山田 隆, 佐治晴哉<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔, 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 太田雄治郎, 八田充子, 土居大祐 ( <sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター ): 閉経後体癌の予後推定にCA125は有用である . 第34回日本婦人科腫瘍学会 , 2003 . 7 .
- 4) 澤倫太郎 : オーダーメイド医療を考える . 日本医科大学シンポジウム , 2003 . 11 .
- 5) 明楽重夫 : 日本産科婦人科内視鏡学会における教育と技術認定 . 第16回日本内視鏡外科学会 , 2003 . 12 .

(4) ワークショップ :

- 1) 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 清水基弘<sup>1)</sup>, 佐治晴哉<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 中山裕樹<sup>1)</sup>, 小野瀬亮<sup>2)</sup>, 太田雄治郎, 土居大祐 ( <sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター , <sup>2)</sup>横浜市立大学産婦人科 ): 子宮内膜細胞診の評価基準の提案 . 日本臨床細胞学会総会 , 2003 . 10 .

(5) 一般講演 :

- 1) Chihara H , Otsubo Y , Yamaguchi M , Yoneyama Y , Sawa R , Araki T , Suzuki S : Basal metabolic rate in pregnancy with preeclampsia : enhanced early detection of the disease . The 50th Annual Scientific Meeting of the Japan Society for Obstetrics and Gynecology ( Japan ), 2003 . 4 .
- 2) Nishi Y , Hatori M<sup>1)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Igarashi K , Akira S , Sato K<sup>1)</sup>, Takeshita T ( <sup>1)</sup>Nihon University, Applied Biological Science ): The membrane potential of mitochondria in young and aged mice . 19th Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology ( Madrid ), 2003 . 6 .
- 3) Ishikawa A , Akira S , Nishi Y , Takeshita T : Gasless laparoscopically assisted surgery in the gynecologic field . The international college of surgeons The 49th annual congress of the japan section ( Japan ), 2003 . 6 .
- 4) Tomiyama R , Nishi Y , Komatsu N<sup>1)</sup>, Sasano R<sup>1)</sup>, Seike A<sup>1)</sup>, Inde Y , Akira S , Sato K<sup>1)</sup>, Takeshita T ( <sup>1)</sup>Dept. of Applied Life Science, Nihon University Graduate School of Bioresource Science ): No Inhibitory Effect of Glucose for Development of Hamster Parthenotes . The 4th conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility ( Okinawa ), 2004 . 3 .
- 5) Nishi Y , Tomiyama R , Inde Y , Igarashi K , Akira S , Takeshita T : The effect of HECM-9 supplement during in vitro maturation on mouse oocytes . the 4th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility ( Okinawa ), 2004 . 3 .
- 6) Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Miura A , Negishi Y , Kawase R , Chihara H , Araki T : Plasma adenosine levels and expression of soluble E- and P- selectin in postmenopausal women . The 50th Annual Scientific Meeting of the Society for Gynecologic Investigation ( Washington DC, USA ), 2004 . 3 .
- 7) Hirotsue T , Chihara H , Matsumura Y , Yamaguchi M , Yoneyama Y , Sawa R , Araki T , Otsubo Y<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Omiya General Central Hospital , <sup>2)</sup>Tokyo Rinkai Hospital ): Basal Metabolic Rate Pregnant Women Complicated with Preeclampsia : Enhanced Early Detection of The Disease . 第55回日本産科婦人科学会総会 , 2003 . 4 .
- 8) Hirotsue T , Chihara H , Yamaguchi M , Matsumura Y , Yoneyama Y , Sawa R , Otsubo Y , Suzuki S , Araki T : Basal Metabolic Rate in Pregnant Women Complicated with Preeclampsia : Enhanced Early Detection of the Disease . 第55回日本産科婦人科学会 , 2003 . 4 .
- 9) 荻原弘光 , 村田知昭 , 西田直子 , 根岸靖幸 , 米山芳雄 , 澤倫太郎 , 荒木 勤 , 鈴木俊治 , GG P : 急速胎仔低体温導入方による胎仔脳代謝の検討 : 胎仔血糖値の相違による変化 . 第55回日本産科婦人科学会 , 2003 . 4 .

- 10) 川瀬里衣子, 米山芳雄, 澤倫太郎, 三浦 敦, 荻原弘光, 山田 隆, 鈴木俊治, 根岸靖幸, 山口昌子, 荒木 勤: 妊娠中毒症における血漿アデノシン調節機構の解明. 第55回日本産科婦人科学会, 2003. 4.
- 11) 市川雅男, 里見操緒, 竹下俊行, 荒木 勤, 高橋秀実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>微生物学・免疫学): 母乳中マクロファージにおけるIL-4単独の添加による樹状細胞分化に仕組み. 第55回日本産科婦人科学会, 2003. 4.
- 12) 加藤久盛<sup>1)</sup>, 清水基弘<sup>1)</sup>, 佐治晴哉<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔, 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 中山裕樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 頸部上皮内腫瘍に対する光線力学的治療(Photodynamic therapy: PDT)の治療による成績およびHPVの消息と細胞診像について. 第55回日本産科婦人科学会, 2003. 4.
- 13) 沖野恵子, 永井尚生<sup>1)</sup>, 八田充子, 米山剛一, 太田雄治郎, 土居大祐, 小西英喜, 江見 充<sup>1)</sup>, 荒木 勤(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 子宮頸部癌の体系的遺伝子発現解析. 第55回日本産科婦人科学会, 2003. 4.
- 14) 西 弥生, 五十嵐健治, 瀬戸真理子, 明楽重夫, 竹下俊行, 荒木 勤, 佐藤嘉兵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日大生物資源動物細胞): 若齢マウス及び高齢マウス卵子における細胞骨格系およびミトコンドリア動態と発生能との比較. 第55回日本産科婦人科学会, 2003. 4.
- 15) 金 栄淳, 竹下俊行, 里見操緒, 市川雅男, 西 弥生, 瀬戸真理子, 明楽重夫, 荒木 勤: 不育症患者に対する夫リンパ球免疫療法の効果判定における抹消血NK細胞活性と遅延型過敏反応の抑制について. 第55回日本産科婦人科学会, 2003. 4.
- 16) 明楽重夫, 五十嵐健治, 西 弥生, 渡辺美千明, 竹下俊行, 荒木 勤: 音声制御内視鏡手術ロボット(AESOP)の腹腔鏡手術における有用性の検討: AESOP第2助手になりうるか?. 第55回日本産科婦人科学会, 2003. 4.
- 17) 山田 隆, 朝倉啓文, 三浦 敦, 川瀬里衣子, 根岸靖幸, 米山芳雄, 澤倫太郎, 荒木 勤: 妊娠悪阻におけるlypoholysisと熱産生の関連性. 第55回日本産科婦人科学会, 2003. 4.
- 18) 荻原弘光, 村田知昭, 西田直子, 根岸靖幸, 米山芳雄, 澤倫太郎, 荒木 勤, 鈴木俊治<sup>1)</sup>, PowerG<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京臨海病院, <sup>2)</sup>Loma Linda University Center for Perinatal Biology): 急速胎仔低温導入法による胎仔脳代謝の検討: 胎仔血糖値の相違による変化. 第55回日本産科婦人科学会, 2003. 4.
- 19) 石野博嗣, 村田知昭, 河合尚基: 診断に苦慮したMullerian mixed tumorの1例. 第326回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2003. 5.
- 20) 武井麟太郎, 柴田浩之, 土居大祐, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 手術後に発症した急性褥瘡に関する1考察. 第326回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2003. 5.
- 21) 弘末卓也, 奥田直貴, 永野玲子, 林 隆, 林 瑞成, 大村 浩, 若麻績佳樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立墨東病院): 当院で取り扱った胎胎19例. 第326回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2003. 5.
- 22) 石野博嗣, 八田充子, 村田知昭, 河合尚基<sup>1)</sup>, 東部地域病院: 診断に苦慮したMullerian mixed tumorの1例. 第326回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2003. 5.
- 23) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 清水基弘<sup>1)</sup>, 佐治晴哉<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔, 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 八田充子, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>2)</sup>, 仲沢経夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター婦人科, <sup>2)</sup>横浜市立大学産婦人科): 当科外来における子宮頸部病変の細胞診[2001年288例の総括]. 第44回日本臨床細胞学会, 2003. 5.
- 24) 渡辺美千明, 山田 隆, 里見操緒, 米山剛一, 土居大祐, 八田充子, 山口昌子, 稲川智子, 明楽重夫, 竹下俊行, 朝倉啓文, 荒木 勤: 卵管癌術後に深部静脈血栓症(DVT)を発症し, ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)と診断された1例. 第105回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2003. 6.
- 25) 根岸靖幸, 渡辺美千明, 山田 隆, 米山剛一, 土居大祐, 八田充子, 柴田浩之, 明楽重夫, 竹下俊行, 朝倉啓文, 荒木 勤: 水腎症を来した骨盤深部子宮内膜症の1例. 第105回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2003. 6.
- 26) 武井麟太郎, 明楽重夫, 西 弥生, 渡辺美千明, 竹下俊行, 荒木 勤: 当科における腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術(LAM)の検討. 第105回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2003. 6.
- 27) 山口昌子, 三浦 敦, 川瀬里衣子, 里見操緒, 米山芳雄, 朝倉啓文, 竹下俊行, 荒木 勤: 一時ペーシング下

- に分娩管理を行った完全房室ブロック合併妊娠の1例．第105回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2003．6．
- 28) 西 弥生，三浦 敦，馬場直美，明楽重夫，米山芳雄，竹下俊行，荒木 勤：hCG値が高値を示し無症状であった1側性卵管双胎自然妊娠の1例．第105回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2003．6．
- 29) 佐治晴哉<sup>1)</sup>，清水弘基<sup>1)</sup>，山田 隆，黒瀬圭輔，杉浦 賢<sup>1)</sup>，加藤盛久<sup>1)</sup>，中山裕樹<sup>1)</sup>，八田充子，土居大祐，宮城悦子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター婦人科，<sup>2)</sup>横浜市立大学産婦人科)：当院における腔原発悪性黒色腫症例の臨床的検討．第34回日本婦人科腫瘍学会，2003．7．
- 30) 明楽重夫：日本内視鏡外科学会，内視鏡手術に関するアンケート調査：第6回集計結果報告．第43回日本産科婦人科内視鏡学会，2003．7．
- 31) 渡辺美千明，明楽重夫，西 弥生，石川温子，竹下俊行：音声制御内視鏡手術ロボット(AESOP)の腹腔鏡手術における有用性の検討．第43回日本産科婦人科内視鏡学会，2003．7．
- 32) 西 弥生，明楽重夫，五十嵐美和，村田知昭，石川温子，渡辺美千明，竹下俊行：妊婦に対する腹腔鏡下卵巣嚢腫核出術：妊娠16週以降の症例における工夫．第43回日本産科婦人科内視鏡学会，2003．7．
- 33) 荻原弘光，平泉良枝，大坪保雄，川瀬里衣子，澤倫太郎，米山芳雄，竹下俊行：重症妊娠悪阻患者の栄養管理：甲状腺機能亢進症合併妊婦の1例．第27回日本産科婦人科栄養・代謝研究会，2003．8．
- 34) 阿部 崇，明楽重夫，西 弥生，石川温子，渡辺美千明，土居大祐，竹下俊行：当科における標準術式としての子宮筋腫核出術(LAM)の手術成績．第13回吊り上げ法手術研究会，2003．9．
- 35) 西 弥生，明楽重夫，村田知昭，石川温子，竹下俊行：妊婦に対する腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術：妊娠16週以降の症例における工夫．第13回吊り上げ法手術研究会，2003．9．
- 36) 石川温子，明楽重夫，西 弥生，渡辺美千明，土居大祐，竹下俊行：音声制御内視鏡手術ロボット(AESOP)の吊り上げ法腹腔鏡における有用性の検討．第13回吊り上げ法手術研究会，2003．9．
- 37) 松橋智彦，土居大祐，馬場直美，西 弥生，里見操緒，米山剛一，竹下俊行，中山智子<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部)：高テストステロン血症を示した卵巣硬化性間質性腫瘍の1例．第327回日本産科婦人科学会東京地方部会，2003．9．
- 38) 渡辺昇一，太田雄治郎，米山剛一：TAXAN系薬剤が不応であった卵巣癌の1例．第327回日本産科婦人科学会東京地方部会，2003．9．
- 39) 武内 務，奥平さやか，峯 伸也，桑島豊彦，鈴木俊治：当院で経験した卵巣チョコレート嚢胞破裂9例の臨床的検討．第327回日本産科婦人科学会東京地方部会，2003．9．
- 40) 永野玲子，奥田直貴，弘末卓也，林 瑞成，大村 浩，若麻績佳樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立墨東病院)：家族性血小板減少性紫斑病合併妊娠の姉妹例．第327回日本産科婦人科学会東京地方部会，2003．9．
- 41) 米山剛一，沖野恵子，黒瀬圭輔，土居大祐，竹下俊行：卵巣腫瘍症例における血中HGF(hepatocyte growth factor)抗体価の検討．第62回日本癌学会，2003．9．
- 42) 沖野恵子，永井尚生<sup>1)</sup>，中山裕樹<sup>2)</sup>，八田充子，米山剛一，土居大祐，小西英喜，太田雄治郎，竹下俊行，角田達彦<sup>3)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>神奈川県立がんセンター，<sup>3)</sup>理研遺伝子多型研究センター)：子宮頸部扁平上皮癌の放射線療法感受性における遺伝子発現解析．第62回日本癌学会，2003．9．
- 43) 中川道子，根岸靖幸，渡辺美千明，山本晃人，阿部 崇，石川温子，土居大祐，明楽重夫，竹下俊行：右付属器腫瘍との鑑別に困難をきたした盲腸癌の1例．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 44) 松橋智彦，土居大祐，馬場直美，西 弥生，里見操緒，米山剛一，竹下俊行，中山智子<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1，<sup>2)</sup>付属病院病理部)：血中テストステロン高値を呈した卵巣硬化性間質性腫瘍の1例．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 45) 沖野恵子，八田充子，土居大祐，米山剛一，竹下俊行，江見 充<sup>1)</sup>，永井尚生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門)：子宮頸部扁平上皮癌の放射線療法感受性における遺伝子発現解析．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．



- 46) 山本晃人, 阿部 崇, 石川温子, 土居大祐, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 著明な炎症を伴った卵巣チョコレート嚢胞の1症例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 47) 倉品隆平, 武井麟太郎, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 特異な経過をたどり腸管切除を要した子宮外妊娠の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 48) 印出佑介, 西 弥生, 三浦 敦, 川瀬里衣子, 山口昌子, 村田知昭, 米山芳雄, 澤倫太郎, 竹下俊行: 妊娠初期に深部静脈血栓症を発症し診断に至った先天性ATIII欠損症の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 49) 吉田有里, 馬場直美, 西 弥生, 阿部 崇, 三浦 敦, 村田知昭, 澤倫太郎, 米山芳雄, 竹下俊行: 急激な下腹部痛を呈し診断に困難を来したストーマ造設後クローン病合併妊娠の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 50) 根岸靖幸, 渡辺美千明, 朝倉啓文, 竹下俊行: 水腎症を来した骨盤深部子宮内膜症の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 51) 山本晃人, 阿部 崇, 石川温子, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 著明な炎症症状により発症した卵巣チョコレート嚢胞の1症例. 第106回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2003. 10.
- 52) 倉品隆平, 武井麟太郎, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 特異な経過をたどった子宮外妊娠の1例. 第106回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2003. 10.
- 53) 米山剛一, 沖野恵子, 黒瀬圭輔, 中川道子, 倉品隆平, 山本晃人, 松橋智彦, 吉田有里, 印出佑介, 土居大祐, 竹下俊行: 卵巣腫瘍症例における血中HGF (hepatocyte growth factor) 値の検討. 第106回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2003. 10.
- 54) 印出佑介, 西 弥生, 三浦 敦, 川瀬里衣子, 山口昌子, 村田知昭, 澤倫太郎, 米山芳雄, 竹下俊行: 妊娠初期に発症した深部静脈血栓症により診断に至った先天性ATIII欠損症の1例. 第106回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2003. 10.
- 55) 吉田有里, 馬場直美, 西 弥生, 阿部 崇, 三浦 敦, 村田知昭, 澤倫太郎, 米山芳雄, 竹下俊行: 急性腹症を呈したストーマ造設後クローン病合併妊娠の1例. 第106回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2003. 10.
- 56) 根岸靖幸, 里見操緒, Wei J, 松村好克, 三浦 敦, 西 弥生, 米山芳雄, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠中毒症妊婦血清のNK細胞: 血管内皮細胞接着能に及ぼす影響. 第24回日本妊娠中毒症学会, 2003. 10.
- 57) 荻原弘光, 平泉良枝, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 竹下俊行: 甲状腺機能亢進症合併重症妊娠悪阻患者の栄養管理. 第25回日本臨床栄養学会, 2003. 10.
- 58) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 清水基弘, 山田 隆, 佐治晴哉<sup>2)</sup>, 黒瀬圭輔, 八田充子, 太田雄治郎, 宮城悦子<sup>2)</sup>, 小野瀬亮<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立がんセンター, <sup>2)</sup> 横浜市立大学産婦人科 ): 子宮体癌における後腹膜リンパ節廓清の評価. 第40回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 59) 米山剛一, 村田 智<sup>1)</sup>, 八田充子, 黒瀬圭輔, 沖野恵子, 土居大祐, 米山芳雄, 小西英喜, 鴨井青龍, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 放射線医学 ): 進行子宮頸癌に対する新しい治療戦略, NIPP ( negative balanced isolated pelvic perfusion ) 療法. 第41回日本癌治療学会, 2003. 10.
- 60) 猪狩優子<sup>1)</sup>, 白田忠男<sup>1)</sup>, 長尾 緑<sup>1)</sup>, 藤田千歳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 相羽元彦<sup>4)</sup>, 米山剛一, 杉崎祐一<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 荒川区がん予防センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup> 同付属病院病理部, <sup>4)</sup> 東京女子医大第二病院病理部 ): 子宮頸がん検診における細胞採取法の比較検討. 第42回日本臨床細胞学会, 2003. 10.
- 61) 浅川一恵<sup>1)</sup>, 米山剛一, 土居大祐, 田村浩一<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 類内膜腺癌を否定し得なかった子宮留膿腫の1例. 第42回日本臨床細胞学会, 2003. 10.
- 62) 西 弥生, 羽鳥真功<sup>1)</sup>, 小林 護<sup>1)</sup>, 印出佑介, 明楽重夫, 富山僚子<sup>1)</sup>, 佐藤嘉兵<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 日本大学生物資源科学部動物細胞学教室 ): 卵子“質”診断の試み: 若齢マウス及び高齢マウスを用いたミトコンドリア膜電位の検討から. 第48回日本不妊学会, 2003. 10.
- 63) 阿部 崇, 明楽重夫, 西 弥生, 石川温子, 渡辺美千明, 竹下俊行: 線状切開術後に発生したPersistent Ec-

topic Pregnancyに関する検討．第48回日本不妊学会，2003．10．

- 64) 太田雄治郎，渡邊昇一，木村聖美<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>勝楽堂病院外科，<sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院病理部)：左鎖骨上リンパ節腫大にて発見された両側卵巢未熟奇形種の1例．日本臨床細胞学会総会，2003．10．
- 65) 山田 隆，清水基弘<sup>1)</sup>，佐治晴哉<sup>1)</sup>，杉浦 賢<sup>1)</sup>，加藤久盛<sup>1)</sup>，中山裕樹<sup>1)</sup>，八田充子，太田雄治郎，仲沢経夫<sup>2)</sup>，小野瀬亮<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター，<sup>2)</sup>横浜市立大学産婦人科)：子宮頸部明細胞腺癌の6例．日本臨床細胞学会総会，2003．10．
- 66) 佐治晴哉<sup>1)</sup>，清水基弘<sup>1)</sup>，山田 隆，杉浦 賢<sup>1)</sup>，加藤久盛<sup>1)</sup>，中山裕樹<sup>1)</sup>，八田充子，太田雄治郎，宮城悦子<sup>2)</sup>，仲沢経夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター，<sup>2)</sup>横浜市立大学産婦人科)：子宮体癌における腹腔細胞診の示唆するもの．日本臨床細胞学会総会，2003．10．
- 67) 清水基弘<sup>1)</sup>，山田 隆，佐治晴哉<sup>1)</sup>，杉浦 賢<sup>1)</sup>，加藤久盛<sup>1)</sup>，中山裕樹<sup>1)</sup>，八田充子，太田雄治郎，宮城悦子<sup>2)</sup>，仲沢経夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター，<sup>2)</sup>横浜市立大学産婦人科)：子宮体部漿液性腺癌17例の検討．日本臨床細胞学会総会，2003．10．
- 68) 里見操緒，清水真澄，市川雅男，新谷英滋，竹下俊行，高橋秀実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>微生物学・免疫学)：ヒト母乳中マクロファージを介したHIV感染伝播メカニズムの解明へ向けて．第17回日本エイズ学会学術集会，2003．11．
- 69) 阿部 崇，明楽重夫，西 弥生，石川温子，渡辺美千明，土居大祐，米山剛一，米山芳雄，竹下俊行：当科における腹腔鏡下子宮外妊娠手術の現況と成績．第16回日本内視鏡外科学会，2003．12．
- 70) 山本晃人，村田知昭，根岸靖幸，桑原慶充，米山芳雄，竹下俊行：血糖管理が困難であった，糖尿病合併妊娠の1例．第329回日本産科婦人科学会東京地方部会，2004．2．

## [ 第二病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

1. 超音波診断学 妊娠初期胎児および周産期における，胎児超音波診断に加え，  
1) 常位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究，2) 超音波画像から見た前置胎盤の出血量の予測，3) 子宮頸管無力症における超音波画像の変化，4) 妊娠初期胎嚢像の三次元超音波断面層像等の研究を行っている。
2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や，内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連の研究等が行われている。
3. 婦人科腫瘍 抗がん剤タキソールの臨床研究施設であり，副作用の解析，研究発表を行っている．子宮頸癌におけるHPV typingによる追跡調査を継続してゐる。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nemoto Y, Ishihara K, Sekiya T, Konishi H, Araki T : Ultrasonographic and Clinical Appearance of Hemorrhagic Ovarian Cyst Diagnosed by Transvaginal Scan . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 3 ) : 243-249 .
- 2) Asakura H, Nakai A , Takeshita T : Changes in Plasma endothelin-1 after elective cesarean section in women with preeclampsia and the relationship to thrombocytopenia J Nippon Med Sch 2003 ; 70 : 480-489 .
- 3) Kaseki H, Maruyama S<sup>1)</sup>, Ishihara K, Araki T ( <sup>1)</sup> Graduate School of Nutrition Showa Women's University ) : Serum Leptin Concentration in Young Adult Women with Ovarian Dysfunction . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 3 ) : 309-315 .
- 4) Asakura H, Mathushima T , Tsunoda Y , Oda T , Kaseki H , Takeshita T : A Case Report ; Changes in fatal heart rate pattern on spontaneous uterine rupture at 35 week of gestation after laparoscopically assisted

myomec . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 : 69-72 .

5) 朝倉啓文：保険診療について．日産婦人科学会雑誌（なし），2003．

(2) 綜説：

1) 朝倉啓文，荒木 勤：胎児心拍数の制御，調節機能．産婦の実際 2003；52（4）：403-409．

2) 松島 隆，深見武彦，可世木久幸：特集・難治性不妊をどう扱うか 子宮腔癒着症．産科と婦人科 2003；70（6）：727-735．

3) 朝倉啓文：骨盤位．産と婦 2003；7（15）：913-920．

4) 朝倉啓文：早産のリスクファクター．産婦の実際 2003；52（8）：1065-1074．

5) 可世木久幸：婦人科内視鏡の過去・現在・近未来（前編）．Clinical Ob-Gyne 2003；7（2）：8-11．

6) 朝倉啓文：保険診療について．日本産婦人科学会誌 2003；55（9）：332-336．

7) 朝倉啓文，斎藤糧三，深見武彦，松島 隆：高年妊娠と早産．産婦の実際 2003；52（10）：1417-1430．

8) 深見武彦，朝倉啓文：切迫早産の管理，頸管長計測に夜切迫早産の予知．産婦人科の実際 2003；52（10）：1813-1821．

9) 朝倉啓文：妊産婦死亡の推移と現在の問題点．産婦の実際 2003；52（11）：1519-1527．

10) 可世木久幸：婦人科内視鏡の過去・現在・近未来（後編）．Clinical Ob-Gyne 2003；7（3）：8-11．

11) 松島 隆，朝倉啓文：特集／症候から診断・治療へ[産科領域]，妊娠中期・後期 12，肝機能異常．産科と婦人科 2003；70（特大号）：1693-1699．

12) 深見武彦，石原楷輔：予防と対策・母体搬送のタイミング 前置胎盤．産婦人科の実際 2003；52（11）：1559-1563．

13) 可世木久幸：機能的出血（過多月経）に対する新しい治療法．臨床婦人科産科 2004；58（3）：309-315．

著 書

1) 朝倉啓文：〔分担〕子宮内胎児発育遅延．今日の治療指針（山口 徹・北原光夫総編集），2003；pp880-881，医学書院．

2) 朝倉啓文：〔分担〕骨盤位妊娠．リスクマネジメントの実際：産婦人科領域（杉本充弘），2003；pp100-107，医薬ジャーナル社．

3) 藤江裕美，洪井庸子，菊谷真理子，松島 隆，小西英喜，可世木久幸，朝倉啓文，石原楷輔：〔原著〕間質部妊娠後の癒着胎盤．神奈川地方部会誌，2004；pp18-20，なし．

学会発表

(1) 特別講演：

1) Kaseki H：Recent Steps in Japan Society of Gynecologic and Obstetrics Endoscopy (JSGOE). 2003 Annual Meeting of TAOGE & the 5th Asia-Pacific Congress on Advanced Gynecologic ( Taipei Taiwan ), 2003 . 9 .

2) 朝倉啓文：保険診療について．第55回日本産科婦人科学会総会，2003．4．

3) 朝倉啓文：子宮内発生のCPについて．綾瀬産婦人科医会，2003．4．

4) 朝倉啓文：CPの発生機序について．小田原産婦人科医会，2003．4．

5) 可世木久幸：産婦人科内視鏡，過去・現在・近未来．第12回神奈川産婦人科内視鏡研究会，2003．4．

6) 朝倉啓文：胎児脳障害発生過程について．平成15年度岩手県産婦人科医会総会ならびに講演会，2003．6．

7) 朝倉啓文：シンポジウム「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保」，センター病院産科医の立場から．第44回日本母性衛生学会総会，2003．10．

8) 朝倉啓文：CPの発生機序と胎児脳障害について．川崎産婦人科医会講演会，2003．12．

(2) 招待講演 :

- 1) Kaseki H, Inagawa T, Saitoh M, Fukami T, Matsushima T, Asakura H : Hybrid Myomectomy ; Minimally Invasive Advanced Laparoscopic Assisted Myomectomy . Asian American Multi Specialty Congress of Laparoscopy and Minimally Invasive Surgery ( Honolulu, Hawaii, USA ), 2004 . 2 .
- 2) 朝倉啓文 : 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保 . 神奈川県新生児・産科合同連絡会 , 2004 . 3 .

(3) シンポジウム :

- 1) 朝倉啓文 : シンポジウム「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保」, センター病院産科医の立場から . 第44回日本母性衛生学会総会 , 2003 . 10 .
- 2) 朝倉啓文 : シンポジウム「見つめ直そう21世紀のお産 : 安全性? 快適性? それとも」, 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保 ; 背景と大学付属病院の進む方向性 . 第17回神奈川県母性衛生学会総会 , 2004 . 2 .

(4) 一般講演 :

- 1) Mathushima T, Kaseki H, Fujie Y, Shibui Y, Fukami T, Asakura H, Iida S : Laser Hysteroscopic Metroplasty Guided by Laparoscopically Assisted Intraabdominal Sonohysterography ( LHME-GLAIS ) for submucosal myoma uterine malformation and Asherman Syndrome . World Meeting on Minimally Invasive Surgery in Gynecology ( Roma ), 2003 . 6 .
- 2) Kaseki H, Fukami T, Shibui Y, Matsushima T, Asakura H : Establishment of a Novel Operative Technique : Hybrid Myomectomy . Global Congress of Gynecologic Endoscopy, AAGL 32nd Annual Meeting ( Las Vegas, Nevada, USA ), 2003 . 11 .
- 3) Matsushima T, Kaseki H, Fujie Y, Fukami T, Asakura H : Laser hysteroscopic Metroplasty Guided by Laparoscopically Assisted Intraabdominal Sonohysterography ( LHME-GLAIS ). Global COngress of Gynecologic Endoscopy, AAGL 32nd Annual Meeting ( Las Vegas, Nevada, USA ), 2003 . 11 .
- 4) Fukami T, Ishihara K, Yoshimatsu K, Sekiya T, Asakura H, Takeshita T : Cervical length and cervical gland area at mid-trimester in predicting early spontaneous preterm birth . 6th world congress of perinatal medicine , 2003 . 9 .
- 5) Asakura H, Fujie Y, Shibui Y, Matsushima T, Konishi H, Kaseki H : Correlation between lypolysis and thermogenesis in hyperemesis gravidarum . 6th world congress of perinatal medicine , 2003 . 9 .
- 6) 深見武彦, 吉松和彦, 久木野竜一, 渋井庸子, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤 : 経膈超音波による早期早産の前方視的検討 : 頸管腺領域像の有用性について . 第55回日本産科婦人科学会総会 , 2003 . 4 .
- 7) 藤江裕美, 渋井庸子, 菊谷真理子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 朝倉啓文 : 間質部妊娠後の癒着胎盤の1例 . 日本医科大学医学学会第110回例会 , 2003 . 5 .
- 8) 深見武彦, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 妊娠中期の経膈超音波による早期早産の前方視的検討 : 頸管長と頸管腺領域像の比較 . 第2回東京早産研究会第3回学術集会 , 2003 . 5 .
- 9) 深見武彦, 松島 隆, 斎藤 恵, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 我が教室における内視鏡手術 . 第28回日本不妊学会関東地方部会 , 2003 . 6 .
- 10) 深見武彦, 可世木久幸, 松島 隆, 竹下俊行, 波田野久昭<sup>1)</sup>, 山崎輝幸<sup>1)</sup>, 可世木博<sup>2)</sup>, 可世木成明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 飯田市立病院産婦人科, <sup>2)</sup> 格医会可世木病院 ): 新しい術式 Hybrid Myomectomy 開発に向けての第1歩 . 第43回日本産科婦人科内視鏡学会 , 2003 . 7 .
- 11) 斎藤 恵, 可世木久幸, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文 : ハイブリッドミオメクトミーその概念と方法 . 第365回日本産科婦人科学会神奈川県地方部会 , 2003 . 9 .
- 12) 三並伸二 : 妊娠と感染症 ( TORCH 症候群 ) . 第365回日本産科婦人科学会神奈川県地方部会 , 2003 . 9 .
- 13) 斎藤 恵, 可世木久幸, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文 : 各種子宮筋腫核手術の術式共通化と改良 . 第365回日本産科婦人科学会神奈川県地方部会 , 2003 . 9 .

- 14) 藤江裕美, 渋井庸子, 三並伸二, 齋藤 恵, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 帝王切開後, 脳梗塞を発症した双胎妊娠, 妊娠中毒症の1例. 第106回日本産婦人科関東連合地方部会, 2003. 9.
- 15) 稲川智子, 三並伸二, 齋藤 恵, 深見武彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: 外陰静脈瘤合併妊娠1例. 日本医科大学医学会第112回例会, 2003. 9.
- 16) 齋藤 恵, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 子宮腔内病変に対する腹腔鏡および腹腔内超音波補助下子宮鏡レーザー手術の臨床検討. 第106回日本産婦人科関東連合地方部会, 2003. 9.
- 17) 藤江裕美, 渋井庸子, 齋藤 恵, 三並伸二, 齋藤 恵, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 双胎妊娠の帝王切開後, 脳梗塞を発症した産褥DICの1例. 第24回日本妊娠中毒症学会, 2003. 9.
- 18) 齋藤 恵, 可世木久幸, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行, 品川寿弥<sup>1)</sup>, 田中 彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科): 子宮内癒着症治療後の妊孕性. 第48回日本不妊学会学術講演会, 2003. 9.
- 19) 渋井庸子: Nomal sized ovary carcinoma syndrome の3例. 第107回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2003. 10.
- 20) 松尾友加里, 横尾香代子, 小河原美代子, 朝倉啓文, 関根史子: 切迫早産妊婦のストレスコーピング. 第44回日本母性衛生学会総会, 2003. 10.
- 21) 堀あすか, 広瀬亜純, 吉賀尚子, 小河原美代子, 朝倉啓文: 分娩室における産婦の刺激認識. 第44回日本母性衛生学会総会, 2003. 10.
- 22) 小西英喜, 齋藤 恵, 松島 隆, 朝倉啓文: QOL 評価からみた再発卵巣癌に対する T-J Biweekly vs T-J Standard. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 23) 関根史子, 岩城祐子, 横尾香代子, 小河原美代子, 小西英喜, 朝倉啓文: 再発卵巣癌化学療法患者の nursing における QOL 評価の有用性の検討. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 24) 齋藤 恵, 小西英喜, 松島 隆, 朝倉啓文: 術前に卵管癌を強く疑わせた1例. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 25) 渋井庸子: 胎便吸引症候群 (MAS) をきたしたウェゲナー肉芽腫合併妊娠の1例. 第22回分娩管視研究会, 2003. 11.
- 26) 近藤和子, 堀あすか, 相馬照美, 小河原美代子, 朝倉啓文: 帝王切開分娩時におけるタッチケアの効果. 第17回神奈川母性衛生学会, 2004. 2.

## [ 多摩永山病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである.

#### (1) 妊婦とスポーツ

妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的および精神的側面から幅広く研究を行っている. 身体面では, 活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能変化の評価をはじめ, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響予後を広範囲に調査している. また, 産褥期の子宮復古, 母乳栄養の確立に関しても, 興味深い成績をあげつつある.

#### (2) 出生前診断

従来より行っている羊水・絨毛染色体検査に加え, 非侵襲的な母胎尿中hCG -core fragmentによる出生前診断の可能性を検討している.

#### (3) 周産期領域

臨床面では, 妊娠中毒症, 子宮内胎児発育遅延に対し, 超音波断層装置, 生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている. 超音波断層装置による母体腎, 肝臓の観察では, 新たな視点から, 妊娠中毒症に関する有益なデー

タが集積しつつある。また、胎児、新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い、脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

## 研究業績

### 論文

〔2002年度追加分〕

#### 原著：

- 1) 永野玲子<sup>1)</sup>, 奥田直貴<sup>1)</sup>, 弘末卓也<sup>1)</sup>, 大村 浩<sup>1)</sup>, 若麻績佳樹<sup>1)</sup>, 立山尚子<sup>2)</sup>, 川端伊久乃, 西邑信男<sup>3)</sup>  
(<sup>1)</sup>都立母子保健院産婦人科, <sup>2)</sup>多摩南部地域病院産婦人科, <sup>3)</sup>博慈会記念病院産婦人科): 帝王切開術における脊髄麻酔: 高比重プロピカインの使用. 日産婦東京会誌 2003; 52(1): 93-96.

#### (1) 原著：

- 1) Asakura H, Nakai A, Araki T: Correlations between interscapular deep temperature and plasma free fatty acid levels in pregnant women with hyperemesis gravidarum. Arch Gynecol Obstet 2003; 268: 35-40.
- 2) Taniuchi Y, Nakai A, Koshino T, Araki T: Maternal treatment with  $\alpha$ -Phenyl-N-tert-Butylnitron attenuates secondary mitochondrial dysfunction after transient intrauterine asphyxia in the fetal rat brain. Gynecol Obstet Invest 2003; 55: 145-150.
- 3) Asakura H, Nakai A, Takeshita T: Changes in plasma Endothelin-1 after elective cesarean section in women with preeclampsia and the relationship to thrombocytopenia. J Nippon Med Sch 2003; 70(6): 480-489.
- 4) Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Yokota A, Nakai A, Liu A<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Research, <sup>3)</sup>Department of Pathology 2, Nippon Medical School): Deciduoid mesothelioma in the pelvic cavity. Pathology International 2004; 54: 67-72.
- 5) 川端伊久乃, 大屋敦子, 三宅秀彦, 三田俊二, 高橋 肇, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人, 町田利正<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>町田産婦人科): 妊婦スポーツが産褥期の骨密度に与える影響に関する preliminary study. 日産婦東京会誌 2003; 52(2): 209-212.
- 6) 國重浩二, 三宅秀彦, 大屋敦子, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人, 細根 勝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 非典型的な浸潤を呈し, 診断に苦慮した子宮頸癌の1例. 日産婦東京会誌 2003; 52(3): 404-408.
- 7) 川端伊久乃, 高橋 肇, 三田俊二, 山田浩子, 大屋敦子, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人: 当科で経験した分娩後肺塞栓症6例の検討. 日産婦東京会誌 2003; 52(4): 591-594.
- 8) 三宅秀彦, 大屋敦子, 奥田直貴, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人: Dandy-Walker 症候群との鑑別が困難であった胎児後頭蓋窩クモ膜嚢胞の1例. 日産婦東京会誌 2004; 53(1): 54-58.

#### (2) 綜説：

- 1) 越野立夫: 妊婦スポーツの安全管理指針. J Nippon Med Sch 2003; 70(2): 124-128.
- 2) 佐々木茂, 加来隆一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>加来産婦人科医院): 特集: 出生体重: 出生体重に関する母体側要因: 年齢, 経産回数, 出産間隔. 周産期医学 2003; 33(6): 702-708.
- 3) 佐々木茂, 三田俊二, 三宅秀彦: 特集: 帝王切開とその周辺: Cesarean hysterectomyの適応と手術のコツ. 周産期医学 2003; 33(8): 979-984.
- 4) 中井章人: 周産期の難題を解く: 最新のエビデンスを考慮した解説: 妊娠管理6: 頸管短縮例に縫縮術は有効か?. 臨婦産 2003; 57(10): 1274-1277.
- 5) 中井章人, 川端伊久乃: 特集: 産科医療のフロンタライン: 第4度会陰裂傷の予防と発生時の対応. 周産期医

著 書

- 1) Sasaki S : [ 分担 ] Clinical presentation and management of molar pregnancy . Best Practice & Research Clinical Obstetrics & Gynaecology ( Ngan H ), 2003 ; pp885-892 , Elsevier .
- 2) Sasaki S : [ 分担 ] Clinical management of trophoblastic diseases in Japan . Gestational Trophoblastic Disease 2nd Edition ( Hancock B. W. , Newlands E. S. , Berkowitz R. S. and Cole L. A. ), 2004 ; pp319-328 , International Society for the study of Trophoblastic Disease .

学会発表

( 1 ) 特別講演 :

- 1) 横田明重 : 双胎妊娠の管理と注意点 . 南多摩産婦人科医会講演会 , 2003 . 12 .
- 2) 中井章人 : 早産管理の現状と今後の展望 . 第24回多摩産婦人科医会病診連携懇話会 , 2004 . 2 .

( 2 ) 招待講演 :

- 1) Sasaki S : The Japanese trophoblastic disease classification . XIIth World Congress on Gestational Trophoblastic Disease ( Boston U. S. A. ), 2003 . 10 .

( 3 ) 一般講演 :

- 1) 大屋敦子 , 中井章人 , 三宅秀彦 , 横田明重 , 越野立夫 , 荒木 勤 : ラット母獣への glucocorticoid 投与が胎仔脳ミトコンドリア機能の発達過程に及ぼす影響について . 第55回日本産科婦人科学会学術講演会 , 2003 . 4 .
- 2) 國重浩二 , 三宅秀彦 , 大屋敦子 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 , 中井章人 , 細根 勝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部) : 非典型的な浸潤を呈し , 診断に苦慮した子宮頸癌の1例 . 第326回日本産科婦人科学会東京地方部会例会 , 2003 . 5 .
- 3) 三宅秀彦 , 中井章人 , 朝倉啓文 , 竹下俊行 : 頸管長測定による周産期管理が早産発生率に及ぼす影響について . 東京早産予防研究会第3回学術集会 , 2003 . 5 .
- 4) 三宅秀彦 , 國重浩二 , 山田浩子 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 , 中井章人 , 竹下俊行 , 荒木 勤 : 帝王切開癒痕部妊娠の取り扱い . 第105回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会 , 2003 . 6 .
- 5) 黒田 敏<sup>1)</sup> , 七戸秀夫<sup>1)</sup> , 小林 徹<sup>1)</sup> , 吉本哲之<sup>1)</sup> , 鏗谷武雄<sup>1)</sup> , 石川達哉<sup>1)</sup> , 岩崎喜信<sup>1)</sup> , 中井章人 (<sup>1)</sup>北海道大学医学研究科脳神経外科) : 脳ミトコンドリアは虚血においてどのような挙動を示すのか? . 第1回フリーラジカルと脳疾患東日本研究会 , 2003 . 8 .
- 6) 中井晶子 , 三宅秀彦 , 國重浩二 , 関口敦子 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 , 中井章人 , 細根 勝<sup>1)</sup> , 前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部) : 子宮筋層内をびまん性に浸潤し , 診断に苦慮した子宮頸癌の1例 . 第71回日本医科大学医学会総会 , 2003 . 9 .
- 7) 三宅秀彦 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 , 中井章人 : 頸管長測定による周産期管理は早産発生を予防しうるか? . 第71回日本医科大学医学会総会 , 2003 . 9 .
- 8) 高橋 肇 , 三宅秀彦 , 國重浩二 , 山田浩子 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 , 中井章人 : 異なる経過をたどった帝王切開癒痕部妊娠の2症例 . 第71回日本医科大学医学会総会 , 2003 . 9 .
- 9) 川端伊久乃 , 高橋 肇 , 三田俊二 , 山田浩子 , 大屋敦子 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 , 中井章人 : 当科で経験した分娩後肺塞栓症6症例の検討 . 第327回日本産科婦人科学会東京地方部会例会 , 2003 . 9 .
- 10) 三宅秀彦 , 國重浩二 , 谷内良成 , 横田明重 , 佐々木茂 , 越野立夫 , 中井章人 , 竹下俊行 : Asherman症候群保存療法後に2回の妊娠が成立した1例 . 第106回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会 , 2003 . 10 .
- 11) 木村和実<sup>1)</sup> , 上運天知佐<sup>1)</sup> , 樋口千春<sup>1)</sup> , 廣田裕佳<sup>1)</sup> , 酒井和子<sup>1)</sup> , 三宅秀彦 , 佐々木茂 , 越野立夫 , 中井章人 (<sup>1)</sup>多摩永山病院周産期棟) : 経産婦における周産期予後の反復性に関する検討 . 第44回日本母性衛生学会総会 ,

2003 . 10 .

- 12) 倉品隆平, 横田明重, 奥田直貴, 川端伊久乃, 三宅秀彦, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人: 当科におけるITP合併妊娠例の検討. 日本医科大学医学会第111回例会, 2003 . 11 .
- 13) 三宅秀彦, 大屋敦子, 奥田直貴, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人: Dandy-Walker症候群との鑑別が困難であった胎児後頭蓋窩くも膜嚢胞の1例. 第328回日本産婦人科学会東京地方部会例会, 2003 . 12 .
- 14) 大屋敦子, 中井章人, 神戸 仁, 越野立夫: 産褥期のトレーニング効果発現と妊婦運動の条件. 第17回女性スポーツ医学研究会学術集会, 2003 . 12 .
- 15) 中井晶子, 川端伊久乃, 國重浩二, 高橋 肇, 大屋敦子, 横田明重, 越野立夫, 中井章人: 急性腹症をきたした若年性卵巣癌の1例. 第17回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第329回日産婦東京地方部会例会, 2004 . 2 .

## [ 千葉北総病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

現在のところ, 臨床研究を主体としている. 即ち, 周産期の分野では超音波など画像診断を中心に臨床研究を, また生殖内分泌の分野では, 不妊症の臨床研究やアンケートによる統計学的研究を, さらに腫瘍学の分野では, 悪性腫瘍における抗癌剤やホルモン剤の効果を病理組織学的手法をもって解析を進めている. また, 最近では, 深部静脈血栓症の患者が, 産科, 婦人科を問わず増加し, その治療法についても検討を行なっている. 千葉北総病院産婦人科は, 臨床的には癌患者の終末医療にも力を入れており, 精神的側面を含めて合併症の解析を行ないつつある.

### 研究業績

#### 論 文

##### (1) 原著:

- 1) Kamoi S, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Mori O, Matsushita N, Doi D, Okada S<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Kawamura T, Araki T ( <sup>1)</sup>Department of Pathology, <sup>2)</sup>Department of Radiology ): Pre-treatment mitotic index versus computer-quantitated Ki-67 nuclear antigen labeling index as predictors of response to neoadjuvant chemotherapy in uterine cervical carcinoma . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 3 ): 219-226 .
- 2) Kamoi S, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Mori O<sup>1)</sup>, Satomi M, Takahashi H, Kawamura T, Araki T ( <sup>1)</sup>Department of Pathology ): Placental villotrophoblastic pulmonary emboli after elective abortion : immunohistochemical diagnosis and comparison with ten control cases . Int J Gynecol Pathol. 2003 Jul ; 22 ( 3 ): 303-9 2003 ; 22 ( 3 ): 303-309 .

##### (2) 綜説:

- 1) 鴨井青龍: 婦人科癌におけるSentinel Lymphnode Mappingの応用. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 2 ): 203-203 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 川瀬里衣子, 米山芳雄, 澤倫太郎, 三浦 敦, 荻原弘光, 山田 隆, 山口昌子, 荒木 勤, 鈴木俊治 (1) 東京臨海病院産婦人科): 妊娠中毒症における血しょうアデノシン調節機構の解明. 第55回日本産科婦人科学会学術講演会, 2003 . 4 .
- 2) 市川雅男, 里見操緒, 竹下俊行, 荒木 勤, 高橋秀実<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>微生物学・免疫学 ): 母乳中マクロファージにおけるIL-4単独の添加による樹状細胞分化に仕組み. 第55回日本産科婦人科学会学術講演会, 2003 . 4 .



- 3) 市川雅男, 朝倉禎史, 五十嵐健治, 若月雅美, 河村 堯, 江本直也<sup>2)</sup>, 三浦剛史<sup>3)</sup>, 松沢一郎<sup>3)</sup>, 近藤幸尋<sup>3)</sup>  
(<sup>1)</sup>千葉北総病院 内科, <sup>2)</sup>泌尿器科学): 妊娠中期に診断されたクッシング症候群の1症例. 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 4) 朝倉禎史, 川瀬里衣子, 小木三郎, 五十嵐俊夫, 市川雅男, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 小黑辰夫<sup>1)</sup>, 清水秀樹<sup>1)</sup>, 赤坂久美<sup>1)</sup>, 三枝順子<sup>1)</sup>, 京本晃典<sup>1)</sup>, 黒川実愛<sup>1)</sup>, 荒井 悟<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): 外陰部に発生したBreast-like carcinoma の1例. 日本医科大学医学会第110回例会, 2003. 5.
- 5) 中川道子, 根岸靖幸, 渡辺美千明, 山本晃人, 阿部 崇, 石川温子, 土居大祐, 明楽重夫, 竹下俊行: 右付属器腫瘍との鑑別に困難をきたした盲腸癌の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 6) 岡田 進<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 井上幸平<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 鴨井青龍, 河村 堯, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部): AFPの著明な高値を示した卵巣腫瘍の検討. 第31回日本磁気共鳴医学会大会, 2003. 9.
- 7) 朝倉禎史, 川瀬里衣子, 小木三郎, 五十嵐健治, 市川雅男, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行: 外陰部「Mammary-like gland carcinoma」の1例. 第106回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 学術集会, 2003. 10.
- 8) 小木三郎, 朝倉禎史, 川瀬里衣子, 市川雅男, 五十嵐健治, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯: 高用量MPA療法で生児を得た子宮内膜癌の1例. 第106回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 学術集会, 2003. 10.
- 9) 朝倉禎史, 鴨井青龍, 河村 堯, 赤坂久美<sup>1)</sup>, 小黑辰夫<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): 外陰部「Mammary-like gland carcinoma」の1例. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 10) 根岸靖幸, 里見操緒, 松村好克, 三浦 敦, 西 弥生, 米山芳雄, 朝倉啓文, 竹下俊行: NK細胞-血管内皮細胞接着能の変化からみた妊娠中毒症の病態について. 第24回日本中毒症学会, 2003. 10.
- 11) 小木三郎: 卵巣腫瘍と鑑別が困難であった巨大小腸間膜腫瘍の1例. 第5回千葉県婦人科臨床腫瘍研究会, 2003. 11.
- 12) 河村 堯: 「末期癌患者のターミナルケア: 現状と問題点」. 第5回千葉県婦人科臨床腫瘍研究会, 2003. 11.
- 13) 里見操緒, 清水真澄<sup>1)</sup>, 市川雅男, 新谷英滋<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 高橋秀実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>微生物学・免疫学): ヒト母乳中マクロファージを介したHIV感染伝播メカニズムの解明へ向けて. 第17回日本エイズ学会学術集会, 2003. 11.
- 14) 朝倉禎史, 中川道子, 馬場直美, 川瀬里衣子, 小木三郎, 五十嵐健治, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 大秋美治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): 外陰部「Mammary-like gland carcinoma」. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成15年度冬期学術講演会, 2004. 2.
- 15) 五十嵐健治, 中川道子, 朝倉禎史, 馬場直美, 川瀬里衣子, 小木三郎, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 川俣博志<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): 当科で経験した術後深部静脈血栓症に対する治療の現況についての検討. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成15年度冬期学術講演会, 2004. 2.
- 16) 小木三郎, 中川道子, 朝倉禎史, 馬場直美, 川瀬里衣子, 五十嵐健治, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 秋元正宇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 広汎子宮全摘術後の下肢リンパ浮腫に対するリンパ管吻合術の著効例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成15年度冬期学術講演会, 2004. 2.
- 17) 川瀬里衣子, 印出佑介, 小木三郎, 五十嵐健治, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 新井 悟<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): 診断が困難であった卵管癌の1例について. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.

## 14 . 耳鼻咽喉科学講座

[ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科 ]

### 研究概要

教室の主たる研究領域は、耳科学、めまい平衡医学、聴覚学、免疫・アレルギー学、頭頸部外科学、音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。また、その研究手法としては、生理学的、形態学的、分子生物学的方法等が駆使されている。

めまい平衡医学に関しては、臨床的にも基礎的にも研究が進展した。眼球運動の三次元解析については、高速度撮影等の研究が、新技術開発計画（私立大学等経常費補助金特別補助）や科研費を得て、大きな進展を見せている。また、内耳の構成蛋白とその遺伝子解析研究が軌道に乗り、結果が英文誌等で発表され高い評価を受けた。その発展による外リンパ瘻の診断方法に関する事項を、本学TLOを通し特許申請をしている。また、抗ガン剤や感染等による内耳障害の解明につながる活性酸素の発現に関する基礎的研究も積極的に行われた。

免疫・アレルギー学でも、呼吸上皮に関する検討、内耳の免疫応答、アレルギー性鼻炎の基礎的・臨床的研究などが細胞レベルから臓器に至るまで、広い範囲で研究が進められており、世界的にその成果が認められている。一方、頸部悪性腫瘍の手術（再建手術も含め）後の、QOLに関する臨床研究も進められている。また、発声機能或いは嚥下機能やその障害への対応に関する研究も進み、臨床研究として患者へのフィードバックが行われている。

教室全体の研究に対する姿勢がより明確になり、それが外部からも評価されている。その結果は、競争的研究費（科研費や厚生科学研究費等）の獲得として現れており、平成15年度は14課題に対して文科省科学研究費が採択された。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nonaka M, Fukumoto A, Ozu C, Mokuno E, Baba S, Pawankar R, Yagi T ( <sup>1</sup> 博慈会記念病院耳鼻咽喉科 ) : IL-5 and eotaxin levels in middle ear effusion and blood from asthmatics with otitis media with effusion . *Acta Otolaryngol* 2003 ; 123 ( 3 ) : 383-387 .
- 2) 三枝英人, 粉川隆行, 愛野威一郎, 小泉康雄, 岩崎智治, 中村 毅 : 大学病院における嚥下障害治療の取り組み . *耳鼻咽喉科展望* 2003 ; 46 ( 3 ) : 227-233 .
- 3) Hasegawa J, Watanabe Ken-ichi, Kunitomo M, Yamauchi Y, Kurosaki S, Higa I, Aoki H, Yagi T : Foreign body in the maxillary sinus : A case report . *Auris Nasus Larynx* 2003 ; 30 ( 3 ) : 299-301 .
- 4) Watanabe K, Inai S, Jinnouchi K, Baba S, Yagi T : Expression of caspase-activated deoxyribonuclease ( CAD ) and caspase 3 ( CPP32 ) in the cochlea of cisplatin ( CDDP ) -treated guineapigs . *Auris Nasus Larynx* 2003 ; 30 ( 3 ) : 291-225 .
- 5) Hasegawa J, Watanabe KI, Kunitomo M, Yamauchi Y, Kurosaki S, Higa I, Aoki H, Yagi T : Foreign body in the maxillary sinus - possible plastic tube : A case report . *Auris Nasus Larynx* 2003 ; 30 ( 3 ) : 299-301 .
- 6) Ohkubo K, Gotoh M : Effect of ramatroban, a thromboxane A2 antagonist, in the treatment of perennial allergic rhinitis . *Allergology Interenational* 2003 ; 52 ( 3 ) : 131-138 .
- 7) Saigusa H, Kokawa T, Aino I, Iwasaki C, Nakamura T, Yagi T : Arytenoid cartilage dislocation . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 5 ) : 382-383 .

- 8) Watanabe KI , Jinnouchi K , Inai S , Yagi T : Induction of apoptosis in the vestibule of guinea pigs after middle ear inoculation with lipopolysaccharide ( LPS ) . *Auris Nasus Larynx* 2003 ; 30 ( 4 ) : 355-361 .
- 9) Aoyagi M , Kimura M , Yagi T : The effect of gravity on the stability of human eye orientation . *Auris Nasus Larynx* 2003 ; 30 ( 4 ) : 363-367 .
- 10) Pawankar R : Intermittant Persistent and Rhinitis in Asia : A questionnaire based retrospective study . *European Allergy Asthma and Clinical Immunology Newsletter* 2003 ; 4 : 10-11 .
- 11) 三枝英人 , 田沼久美子<sup>1)</sup> , 中村 毅 , 愛野威一郎 , 粉川隆行 , 岩崎智治 , 新美成二<sup>2)</sup> , 八木聰明 ( <sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第2 , <sup>2)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学学科 ) : 如何に披裂軟骨脱臼症の診断を正しく行うか ? その形態学および臨床的研究 . *日本気管食道科学会会報* 2003 ; 54 ( 6 ) : 401-415 .
- 12) Watanabe Ken-chi , Kunitomo M , Kimura M , Yamauchi Y , Kurosaki S , Aoki H , Yagi T : Traumatic perilymph fistula in infants : A Case Report . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 6 ) : 519-521 .
- 13) Watanabe Ken-ichi , Jinnouchi K , Inai S , Yagi T : Induction of apoptosis in the lipopolysaccharide treated vestibule of guinea pigs . *Auris Nasus Larynx* 2003 ; 30 ( 4 ) : 355-361 .
- 14) Gotoh M , Okubo K , Okuda M : Repeated antigen challenge in patients with perennial allergic rhinitis to house dust mites . *Allergology International* 2003 ; 52 ( 4 ) : 207-212 .
- 15) Pawankar R : Exploring the role of leukotrienes receptor antagonists in the management of allergic rhinitis and comorbid asthma . *Clin Exp All Rev* 2003 ; 3 ( 2 ) : 74-80 .
- 16) Baba S , Yagi T , Fujikura T : Subjective evaluation and overall satisfaction after tympanoplasty for chronic otitis media . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 1 ) : 17-24 .
- 17) Ikezono T , Shindo S , Li L , Omori A , Ichinose S , Watanabe A , Kobayashi T , Pawankar R , Yagi T : Identification of a novel Cochlin isoform in the perilymph : insights to Cochlin function and the pathogenesis of DFNA9 . *Biochem Biophys Res Commun* 2004 ; 1 ( 314 ) : 440-446 .
- 18) Pawankar R , Nonaka M , Ozu C , Yagi T : Definition and Classification of rhinosinusitis . *Ind J Rhinol* 2004 ; 5 ( 1 ) : 5-16 .
- 19) Pawankar R : Indications and safety of intranasal steroids . *Ind J Rhinol* 2004 ; 5 ( 1 ) : 22-28 .
- 20) Pawankar R , Aida M , Ozu C , Yagi T : Role of Gamma-delta T cells in allergic airway disease . *Chest Research Journal* 2004 ; 2 ( 1 ) : 28-36 .
- 21) Baba S , Fukumoto A , Aoyagi M , Koizumi Y , Ikezono T , Yagi T : A Comparative Study on the Observation of Spontaneous Nystagmus with Frenzel Glasses and an Infrared CCD Camera . *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 ( 1 ) : 25-29 .
- 22) Saigusa H , Yamashita K<sup>1)</sup> , Tanuma K<sup>2)</sup> , Niimi S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第1 , <sup>2)</sup>同解剖学第2 , <sup>3)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚学教室 ) : Morphological studies for retrusive movement of the human adult tongue . *Clin Anatomy* 2004 ; 17 : 93-98 .
- 23) Pawankar R , Nonaka M , Yamagishi S , Yagi T : Pathophysiologic Mechanisms of chronic rhinosinusitis . *Immunol Allergy Clin North America* 2004 ; 24 : 75-85 .
- 24) Pawankar R : Allergic rhinitis and asthma : the link, the new ARIA classification and global approaches to treatment . *Current Opinion in Allergy and Clinical Immunology* 2004 ; 4 ( 1 ) : 1-4 .
- 25) 池園哲郎 : メニエール病と遺伝子治療 . *Equilibrium Res* 2003 ; 62 ( 1 ) : 112-116 .
- 26) 渡邊健一 , 國友万由美 , 富山俊一 , 八木聰明 : 鼻閉を主訴とした Thornwald 病の1症例 . *耳喉頭頸* 2003 ; 75 ( 4 ) : 293-295 .
- 27) 長谷川純 , 三枝英人 , 横島一彦 , 八木聰明 , 宮本雅史 , 元文芳和 : 急性に嚥下障害を発症した Forestier 病の1例 : Forestier 病による嚥下障害の1考察 . *耳喉頭頸* 2003 ; 75 ( 4 ) : 313-317 .

- 28) 野中 学, Pawankar R, 福元 晃, 八木聰明: 鼻線維芽細胞の特殊性と好酸球浸潤. 日本鼻科学会誌 2003; 42(1): 42-44.
- 29) 野中 学, Pawankar R, 福元 晃, 八木聰明: 線維芽細胞の特殊性と好酸球浸潤. 日本鼻科学会誌 2003; 42(1): 42-44.
- 30) 八木聰明: めまい検査の進め方. 耳喉頭頸 2003; 75(5): 95-102.
- 31) 山岸茂夫, Pawankar R, 滝沢竜太, 野中 学, 八木聰明: 鼻粘膜上皮細胞におけるFc RIの発現とその機能. 耳鼻免疫アレルギー 2003; 21(2): 114-115.
- 32) 富山俊一: 実験的自己免疫性迷路炎モデル: 内耳抗体標的組織の免疫組織化学的検討. Otol Jpn 2003; 13(3): 180-184.
- 33) 青木秀治, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院病理部): 外耳道真珠腫より発生した扁平上皮癌症例. J Nippon Med Sch 2003; 70(4): 363-366.
- 34) 今野昭義<sup>1)</sup>, 大久保公裕(<sup>1</sup>南東北病院): 患者満足度からみた花粉症治療: 花粉症患者アンケート調査結果から. Progress in Medicine 2003; 23: 2705-2709.
- 35) Pawankar R, 相田瑞恵: 気管支喘息とアレルギー性鼻炎との関係: 上気道と下気道: その関連性. アレルギー・免疫 2003; 10: 1258-1267.
- 36) 三枝英人, 青柳美生, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聰明(<sup>1</sup>国際医療福祉大学言語聴覚学科): 嚥下訓練が有用であった運動障害性構音障害の1例. 音声言語医学 2003; 44(4): 253-257.
- 37) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 矢嶋裕徳, 中嶋博史, 青柳美生: 頭頸部癌手術後のせん妄発症率と発症要因. 頭頸部外科 2003; 12(3): 107-111.
- 38) 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 斉藤明彦, 小泉康雄, 八木聰明, 館野 温<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線医学): 下咽頭癌再建術後の咽頭後リンパ節再発の治療. 頭頸部腫瘍 2003; 29(4): 541-545.
- 39) 三枝英人, 田沼久美子<sup>1)</sup>, 粉川隆行, 愛野威一郎, 岩崎智治, 中村 毅, 新美成二<sup>2)</sup>, 八木聰明(<sup>1</sup>日本医科大学解剖学第2, <sup>2</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): 後方型披裂軟骨脱臼症に対する徒手整復術. 喉頭 2003; 15(2): 103-108.
- 40) 渡邊健一, 波多野吟哉, 深田信久<sup>1)</sup>, 川崎 剛<sup>1)</sup>, 青木秀治, 八木聰明(<sup>1</sup>新松戸中央総合病院脳神経外科): 両側難聴を主訴として神経線維腫2型の1症例. 耳喉頭頸 2003; 75(13): 978-980.
- 41) 野中 学, Ruby P, 福元 晃, 八木聰明: 鼻線維芽細胞の特殊性と好酸球浸潤. 日鼻誌 2003; 42(1): 42-44.
- 42) 奥田 稔<sup>1)</sup>, 大久保公裕<sup>2)</sup>, 後藤 穰<sup>2)</sup>, 岡本美考<sup>3)</sup>, 今野昭義<sup>4)</sup>, 馬場廣太郎<sup>5)</sup>, 荻野 敏<sup>6)</sup>, 石川 哮<sup>7)</sup>, 竹中 洋<sup>8)</sup>, 宗 信夫<sup>9)</sup>, 今井 透<sup>10)</sup>, 榎本雅夫<sup>11)</sup>, 萬代 隆<sup>12)</sup>, Bruce C<sup>13)</sup>(<sup>1</sup>日本臨床アレルギー研究所, <sup>2</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科, <sup>3</sup>千葉大学耳鼻科, <sup>4</sup>総合南東北病院アレルギー頸部センター, <sup>5</sup>獨協医科大学耳鼻科, <sup>6</sup>大阪大学保健学, <sup>7</sup>熊本大学, <sup>8</sup>大阪医科大学耳鼻科, <sup>9</sup>宗耳鼻科医院, <sup>10</sup>聖路加国際病院耳鼻咽喉科, <sup>11</sup>日赤和歌山医療センター耳鼻咽喉科, <sup>12</sup>国立循環器センター, <sup>13</sup>Mapi Values): 日本アレルギー性鼻炎QOL標準調査票(2002年度版). アレルギー 2003; 52(補冊): 21-56.
- 43) 池園哲郎: 頸性めまい. 耳鼻咽喉科Q & A 六法出版 東京 2004; (37): 408-409.
- 44) 三枝英人, 愛野威一郎, 粉川隆行, 中村 毅, 岩崎智春, 八木聰明: 喉頭挙上に左右差があることに起因する嚥下障害への手術による対応. 耳鼻と臨床 2004; 50(1): 81-87.
- 45) 木村まき, 渡邊健一, 増野 聡, 山内陽子, 青木秀治: 鼻口蓋管嚢胞の1症例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2004; 76(1): 25-27.
- 46) 富山俊一: 実験的自己免疫性迷路炎: 内耳粗抗原感作による内耳抗体の臓器特異性. Otol Jpn 2004; 14(1): 61-65.
- 47) 渡辺健介, Pawankar R: 鼻副鼻腔領域の好酸球性炎症について. 日本鼻科学会誌 2004; 43(1): 83-85.
- 48) 野中 学, Pawankar R, 福元 晃, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明: 鼻茸における好酸球浸潤の機序について

て．日本鼻科学会誌 2004；43(1): 86-88．

49) 大久保公裕，奥田 稔：インターネットを用いたアレルギー性鼻炎患者に対するアンケート調査結果．アレルギー・免疫 2004；11：100-115．

50) 野中 学：好酸球性中耳炎の病態．耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2004；76(3): 179-183．

(2) 綜説：

1) Yagi T：Vertigo caused by semicircular canal and otolith．JMAJ 2003；46(7): 291-295．

2) 八木聰明：耳鼻咽喉科・頭頸部外科教育の課題 3 専門医教育．日耳鼻 2003；106(8): 793-796．

3) Pawankar R：Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma Allergy From the Nose to the Lung．Excerpta Medica 2003；1(1): 3-16．

4) Pawankar R，Yamagishi S，Takizawa R，Yagi T：Mast Cell-IgE and Mast Cell-Structural Cell Interactions in Allergic Airway Disease．Curr Drug Targets-Inflammation & Allergy 2003；(2): 303-312．

5) Pawankar R：Allergic rhinitis and asthma：from the link to emerging therapies．Indian J Chest Dis Allied Sci 2003；45(3): 179-189．

6) Pawankar R，Takizawa R，Yamagishi S，Nonaka M，Yagi T：Epithelial cells：Mucosal barrier to Immunomodulation．Allergy & Immunology Update 2004；3(1): 4-10．

7) 後藤 穰<sup>1)</sup>，大久保公裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>耳鼻咽喉科学)：スギ花粉症症例における花粉防御具の効果の客観的評価．アレルギー科 2003；15(2): 120-123．

8) 三枝英人：嚥下機能検査．耳喉頭頸 2003；75(4): 201-210．

9) 馬場俊吉：聴覚障害．CLINICAL NEUROSCIENCE 2003；21(4): 438-439．

10) 馬場俊吉：純音聴力検査．耳喉頭頸 2003；75(5): 13-19．

11) 大久保公裕：季節性アレルギー性鼻炎(花粉症)の診断と治療．日医雑誌 2003；129：221-225．

12) 富山俊一：メニエール病の免疫傷害病因．J Nippon Med Sch 2003；70(3): 212-216．

13) 後藤 穰：局所ステロイドによる鼻アレルギーの治療：塩酸レボカバスチン点鼻薬(リボスチン<sup>R</sup>点鼻薬)を中心に．アレルギーの臨床 2003；23(6): 69-72．

14) 八木聰明：メニエール病の重症度分類．専門医通信 2003；77：16-17．

15) 青木秀治：めまいの診断：耳鼻科の立場から．神経内科 2003；59(5): 466-471．

16) 後藤 穰：スギ花粉症患者を対象とした塩酸フェキソフェナジンの臨床試験：RQLQおよびWPAIを用いたQOL評価．PTM 2003；3．

17) 後藤 穰<sup>1)</sup>，大久保公裕<sup>2)</sup>，奥田 稔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>耳鼻咽喉科)：アレルギー性鼻炎のQOLの評価．Prog Med 2003；23：3259-3263．

18) 後藤 穰<sup>1)</sup>，大久保公裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>耳鼻咽喉科)：花粉症とQOL．Topics in Atopy 2003；2(4): 16-21．

19) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎患者のQOL．日医雑誌 2003；130：903-907．

20) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎，花粉症に対する局所抗原特異的免疫療法．アレルギー科 2003；16：128-132．

21) 大久保公裕：鼻アレルギーとQOL．アレルギーの臨床 2003；23：448-454．

22) 大久保公裕，奥田 稔：アレルギー性鼻炎患者のQOL．鼻アレルギーフロンティア 2003；3：18-23．

23) 大久保公裕：JRQLQの開発．鼻アレルギーフロンティア 2003；3：67-72．

24) 後藤 穰：アレルギー相談室．アレルギーの臨床 2003；23(12): 83-83．

25) 後藤 穰<sup>1)</sup>，大久保公裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>耳鼻咽喉科)：花粉症のQOL調査．MEDICO 2004；35(1): 3-4．

26) 後藤 穰<sup>1)</sup>，大久保公裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>耳鼻咽喉科)：スギ花粉症の初期治療．臨床と薬物

治療 2004 ; 23 ( 1 ) : 13-16 .

- 27) 馬場俊吉 : プライマリケア医のための耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・頸部の症状のみかた 耳鳴 . 治療 2004 ; 2 ( 86 ) : 216-220 .
- 28) 三枝英人 : 下咽頭・上部食道内視鏡検査 . JOHNS 2004 ; 20 ( 3 ) : 384-388 .
- 29) 青木秀治 : 各科領域の救急 : 眼科・耳鼻咽喉科・産婦人科・小児科・精神科・口腔外科耳鼻咽喉科 . Emergency Nursing 2004 ; 17 ( 3 ) : 208-213 .
- 30) 後藤 穰 : 花粉を吸い込まない工夫 . からだの科学 2004 ; 235 : 77-79 .
- 31) 後藤 穰<sup>1)</sup>, 大久保公裕<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>耳鼻咽喉科 ): アレルゲンの予防と対策 : スギ花粉 . Medicina 2004 ; 41 ( 3 ) : 466-468 .

### (3) 研究報告書 :

- 1) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 小泉康雄, Hanprasertpong C, 齋藤明彦, 小林俊光<sup>1)</sup>, 大塚喜彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東北大学耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>三菱化学ビーシーエル研究開発部 ): 外リンパ瘻の新たな生化学的確定診断法 . 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 2003 ; pp59-62 .
- 2) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 八木聡明, 大森 彬<sup>1)</sup>, 柿木章伸<sup>2)</sup>, 澤田正一<sup>2)</sup>, 渡邊 淳<sup>3)</sup>, 小林俊光<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>三菱化生生命科学研究所, <sup>2)</sup>高知大学医学部耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup>日本医科大学大学生化学第2, <sup>4)</sup>東北大学耳鼻咽喉科 ): Cochlin 発現の分子生物学的解析 : ヒト内耳組織および外リンパを用いて . 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 2003 ; pp50-55 .
- 3) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 小泉康雄, Hanprasertpong C, 齋藤明彦, 八木聡明 : 外リンパ瘻とメニエール病の臨床像について . 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 2003 ; pp56-58 .
- 4) 大久保公裕 : 花粉症のQOLによる治療法の評価と新しい治療法の基礎的研究 総括報告書 . 平成14年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業研究報告書 2003 ; 第4分冊 : pp1-4 .
- 5) 大久保公裕, 藤枝重治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>福井大学 ): 花粉症のQOLに関する研究 : 花粉症のQOLによる治療法の評価と新しい治療法の基礎的研究 . 平成14年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業研究報告書 2003 ; 第4分冊 : pp5-6 .
- 6) 後藤 穰, 大久保公裕 : スギ花粉症に対する舌下免疫療法に関する研究 : 花粉症のQOLによる治療法の評価と新しい治療法の基礎的研究 . 平成14年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業研究報告書 2003 ; 第4分冊 : pp7-9 .

### (4) 話題 :

- 1) 福元 晃 : ペニシリン耐性肺炎球菌 ( PRSP ) による難治性中耳炎 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ) : 532-532 .

### 著 書

- 1) Pawankar R, Nonaka M, Yagi T : [ 共著 ] Medical Management of Rhinosinusitis . Rhinology Update , 2003 ; pp74-84 , Mrittika International .
- 2) Pawankar R : [ 自著 ] Cause, Care and Control of Allergic Rhinitis . Patient education manual on Allergic rhinitis ( P. Niphadkar and A. Shah ), 2003 ; pp1-28 , Creative International .
- 3) Pawankar R, Takizawa R, Yamagishi S, Nonaka M, Yagi T : [ 共著 ] Mast cell function modulating allergic airway disease . Proceedings of the 2nd International Symposium on Molecular Medicine and Immunology ( C. Ramachandran & VP Kurup ), 2003 ; pp24-33 , Creative International .
- 4) 中溝宗永 : [ 分担 ] 医学大辞典 ( CD-ROM ) ( 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨 ), 2003 ; 医学書院 .
- 5) A S, Pawankar R : [ 共著 ] Quality of life assessment in patients with rhinitis and asthma . Allergy & Asth-

- ma Update ( VK Vijayan & A. Shah ), 2003 ; pp9972-9984 , Int Medical Publishers .
- 6) Pawankar R : [ 分担 ] Rhinosinusitis Consensus Workshop Report . Medical Tribune , 2003 ; Medical Tribune .
  - 7) 大久保公裕 : [ 共著 ] 免疫・アレルギー疾患用語解説集 . 免疫・アレルギー疾患用語解説集 ( 足立 満 , 大久保公裕ほか ) , 2003 ; エクセル出版 .
  - 8) Pawankar R : [ 分担 ] Evidence-based treatment of allergic rhinitis . New trends in Allergy & immunology ( A. Shah & Lata Kumar ) , 2004 ; pp76-88 , Mrittika International .
  - 9) Pawankar R : [ 分担 ] Combined Allergy Respiratory Syndrome . Update in Allergy & Aerobiology ( A. Shah & A B Singh ) , 2004 ; pp22-30 , Mrittika International .
  - 10) Pawankar R : [ 分担 ] Anti-IgE treatment in allergic disease . Update in Allergy & Aerobiology ( A. Shah & A B Singh ) , 2004 ; pp55-63 , Mrittika International .
  - 11) Pawankar R , Akimoto R , Ikezono T , Baba S , Yagi T : [ 共著 ] Immunopathogenesis of cholesteatoma . Otolaryngology Update ( A. Agarwal & VP Sood ) , 2004 ; pp22-29 , International Medical Publishers .
  - 12) Pawankar R : [ 自著 ] Cause, diagnosis to management of Allergic Rhinitis . Allergic Rhinitis : A Handbook for Doctors ( Asif Mujtaba and M R Khan ) , 2004 ; pp1-24 , Creative International .
  - 13) 池園哲郎 : 自律神経系に基づくめまい . 耳鼻咽喉科 Q & A 六法出版 , 2003 ; pp410-413 .
  - 14) Pawankar R , 相田瑞恵 : [ 共著 ] 抗 IgE 抗体 : アレルギー性鼻炎 . アレルギー診療 Update , 2003 ; pp473-479 , 医学書院 .
  - 15) 八木聰明 : [ 分担 ] めまい . 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 ( 森山 寛 , 岸本誠司 , 小林俊光 , 川内秀之 ) , 2003 ; pp4-6 , 医学書院 .
  - 16) 八木聰明 : [ 分担 ] 内耳奇形 . 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 ( 森山 寛 , 岸本誠司 , 小林俊光 , 川内秀之 ) , 2003 ; p199 , 医学書院 .
  - 17) 大久保公裕 : [ 分担 ] アレルギー疾患 花粉症 . - 今日の診療のために - ガイドライン外来診療 2003 , 2003 ; pp90-96 , 日経メディカル開発 .
  - 18) 富山俊一 : [ 共著 ] 内耳自己免疫病 ( AIED ) . 今日の耳鼻咽喉科頭頸外科治療指針 . 第 2 版 ( 森山 寛 , 岸本誠司 , 小林俊光 , 川内秀之 ) , 2003 ; pp501-502 , 医学書院 .
  - 19) 馬場俊吉 : [ 分担 ] III 耳鼻咽喉科疾患に対する私の薬物療法 8 耳鳴 . 耳鼻咽喉科薬物療法マニュアル ( 神崎 仁 , 小川 郁 ) , 2003 ; pp223-228 , 金原出版 .
  - 20) 後藤 穰 : [ 分担 ] スクリーニングの方法 . アレルギー疾患 専門医に聞く最新の臨床 ( 中川武正 , 片山一郎 , 岡本美孝 ) , 2003 ; pp47-49 , 中外医学社 .
  - 21) 後藤 穰 : [ 分担 ] 喘息との関連 . アレルギー疾患 専門医に聞く最新の臨床 ( 中川武正 , 片山一郎 , 岡本美孝 ) , 2003 ; pp198-199 , 中外医学社 .
  - 22) 大久保公裕 : [ 分担 ] 免疫療法 . ファーマナビゲーターアレルギーシリーズ「アレルギー性鼻炎」編 ( 足立満 ) , 2003 ; pp78-89 , メディカルレビュー社 .
  - 23) 大久保公裕 : [ 分担 ] 抗アレルギー薬治療において投与終了時期はどのように判断すればよいのですか . ファーマナビゲーターアレルギーシリーズ「アレルギー性鼻炎」編 ( 足立 満 ) , 2003 ; pp246-249 , メディカルレビュー社 .
  - 24) 大久保公裕 : [ 分担 ] 4 ARIA とその意義 . アレルギー・リウマチ膠原病の最新医療 ( 狩野庄吾 , 中川武正 ) , 2003 ; pp71-75 , 先端医療技術研究所 .
  - 25) 大久保公裕 : [ 分担 ] 免疫療法とその留意点 : 耳鼻科の立場から . アレルギー疾患 ( 専門医に聞く最新の臨床 ) ( 中川武正 , 片山一郎 , 岡本美孝 ) , 2003 ; pp106-108 , 中外医学社 .
  - 26) 大久保公裕 : [ 分担 ] One Airway One Disease-ARIA-ひとつの気道としてのアレルギー性鼻炎治療 : ロイコ

- トリエン受容体拮抗薬の使い方．Asthma Frontier 2003（足立 満ほか），2003；pp76-81，医薬ジャーナル社．
- 27) 八木聡明：〔分担〕めまいの発症機序．頭痛・めまい・しびれのすべて（東儀英夫），2003；pp183-197，永井書店．
- 28) Pawankar R，相田瑞恵：〔共著〕気管支喘息とアレルギー性鼻炎との関係．総論．アレルギー・免疫，2003；pp1258-1267，医学ジャーナル社．
- 29) Pawankar R，相田瑞恵，小津千佳：〔分担〕鼻汁中の肥満細胞，好塩基球，好酸球および好中球．小児科シリーズIII：小児のアレルギー性鼻炎（西間三誓・森川昭廣），2003；pp93-106，Gendaiiryosha Co．
- 30) 八木聡明：〔分担〕イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 耳・鼻編．イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 耳・鼻編（村上 泰），2003；pp37-38，東京医学社．
- 31) 馬場俊吉：〔分担〕 tympanic sinusの真珠腫上皮除去法．イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 耳・鼻編（村上 泰），2003；pp54-55，東京医学社．
- 32) 大久保公裕，大西正樹：〔分担〕ステロイド薬．喘息・アレルギー・リウマチ疾患治療薬ハンドブック（足立満），2003；pp245-253，メディカルレビュー．
- 33) 大久保公裕：〔分担〕新しい治療法：（3）舌下抗原特異的免疫療法．アレルギー性鼻炎，2003；pp252-259，最新医学社．
- 34) 大久保公裕：〔分担〕アレルギー性鼻炎患者のQOL．アレルギー性鼻炎，2003；pp252-259，最新医学社．
- 35) 野中 学：〔分担〕アレルギー性副鼻腔炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp20-20，エクセル企画．
- 36) 野中 学：〔分担〕萎縮性鼻炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp25-25，エクセル企画．
- 37) 野中 学：〔分担〕イネ科植物．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp28-28，エクセル企画．
- 38) 野中 学：〔分担〕感染性慢性副鼻腔炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp64-64，エクセル企画．
- 39) 野中 学：〔分担〕感染性鼻炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp64-64，エクセル企画．
- 40) 野中 学：〔分担〕乾燥性前鼻炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp64-64，エクセル企画．
- 41) 野中 学：〔分担〕急性鼻炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp76-76，エクセル企画．
- 42) 野中 学：〔分担〕好酸球増多性鼻炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp105-105，エクセル企画．
- 43) 野中 学：〔分担〕喉頭アレルギー．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp108-108，エクセル企画．
- 44) 野中 学：〔分担〕枯草熱．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp112-112，エクセル企画．
- 45) 野中 学：〔分担〕嗅覚障害．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp75-75，エクセル企画．
- 46) 野中 学：〔分担〕臭鼻症．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp131-131，エクセル企画．
- 47) 野中 学：〔分担〕滲出性中耳炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp145-145，エクセル企画．
- 48) 野中 学：〔分担〕特異性鼻炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp184-184，エクセル企画．
- 49) 野中 学：〔分担〕鼻カニューレ．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp205-205，エクセル企画．
- 50) 野中 学：〔分担〕鼻ポリープ．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp205-205，エクセル企画．
- 51) 野中 学：〔分担〕鼻翼呼吸．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp218-218，エクセル企画．
- 52) 野中 学：〔分担〕副鼻腔炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp220-220，エクセル企画．
- 53) 野中 学：〔分担〕慢性鼻炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp241-241，エクセル企画．
- 54) 野中 学：〔分担〕慢性副鼻腔炎．免疫アレルギー疾患用語解説集，2003；pp241-241，エクセル企画．
- 55) 後藤 穰：〔分担〕オオアワガエリ花粉．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp51-51，エクセル企画．
- 56) 後藤 穰：〔分担〕鼻局所温熱療法．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp205-205，エクセル企画．
- 57) 後藤 穰：〔分担〕下甲介切除術．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp56-56，エクセル企画．



- 58) 後藤 穰：〔分担〕カナムグラ花粉．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp58-58，エクセル企画．
- 59) 後藤 穰：〔分担〕花粉症．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp58-59，エクセル企画．
- 60) 後藤 穰：〔分担〕花粉症原因植物．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp59-59，エクセル企画．
- 61) 後藤 穰：〔分担〕カモガヤ花粉．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp59-59，エクセル企画．
- 62) 後藤 穰：〔分担〕キク科植物．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp68-68，エクセル企画．
- 63) 後藤 穰：〔分担〕季節性アレルギー性鼻炎．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp70-70，エクセル企画．
- 64) 後藤 穰：〔分担〕季節前投与．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp70-70，エクセル企画．
- 65) 後藤 穰：〔分担〕くしゃみ中枢．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp86-86，エクセル企画．
- 66) 後藤 穰：〔分担〕くしゃみ反射．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp86-86，エクセル企画．
- 67) 後藤 穰：〔分担〕血管運動性鼻炎．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp94-94，エクセル企画．
- 68) 後藤 穰：〔分担〕交感神経刺激約．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp102-102，エクセル企画．
- 69) 後藤 穰：〔分担〕口腔アレルギー．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp102-102，エクセル企画．
- 70) 後藤 穰：〔分担〕トリクロル酢酸塗布．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp187-187，エクセル企画．
- 71) 後藤 穰：〔分担〕鼻鏡検査．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp210-210，エクセル企画．
- 72) 後藤 穰：〔分担〕ビディアン神経．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp214-214，エクセル企画．
- 73) 後藤 穰：〔分担〕鼻汁中好酸球．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp211-212，エクセル企画．
- 74) 後藤 穰：〔分担〕ヒノキ花粉．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp215-216，エクセル企画．
- 75) 後藤 穰：〔分担〕ブタクサ．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp221-221，エクセル企画．
- 76) 後藤 穰：〔分担〕味覚性鼻炎．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp242-242，エクセル企画．
- 77) 後藤 穰：〔分担〕薬物性鼻炎．免疫・アレルギー疾患 用語解説集（足立 満・大久保公裕），2003；pp254-254，エクセル企画．
- 78) Pawankar R, 足立 満<sup>1)</sup>, 斉藤博久<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 昭和大学医学部第一内科学, <sup>2)</sup> 国立成育医療センター研究所アレルギー研究部): 〔共著〕ぜん息とアレルギー性鼻炎の患者さんのための読本：ぜん息とアレルギー性鼻炎の関係．

- さわやか・いきいきライフのための患者さん教室(ルビー・パワンカール), 2004 ; 万有製薬 .
- 79) 三枝英人 : [ 分担 ] 摂食・嚥下障害患者のリハビリテーション . 今日の治療指針 ( 山口 徹 , 北原光夫 ), 2004 ; pp1040-1041 , 医学書院 .
- 80) 間島雄一<sup>1)</sup>, 春名真一<sup>2)</sup>, 野中 学 ( <sup>1)</sup>三重大学耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>慈恵会医科大学耳鼻咽喉科 ): [ 共著 ] 鼻茸の病態と治療 . 鼻アレルギーフロンティア, 2004 ; pp10-20 , メディカルレビュー社 .
- 81) 池園哲郎 : 外リンパ腫 . 今日の治療指針, 2004 ; pp1016-1017 .

#### 学会発表

##### ( 1 ) 特別講演 :

- 1) Pawankar R : Immunomodulation in allergic rhinitis . 10th All India Rhinology Society Congress( New Delhi ), 2003 . 5 .
- 2) Pawankar R : Chronic Rhinosinusitis : Pathomechanisms to medical management . 25th Otolaryngology Seminar ( Sienna, Italy ), 2003 . 6 .
- 3) Pawankar R : Role of antihistamines : Beyond H1 receptor blockade . Allergy Symposium ( Mumbai, India ), 2003 . 7 .
- 4) Pawankar R : Recurrent Nasal polyps : Factors that may predict . AOI Bombay branch ENT Symposium ( Mumbai ), 2003 . 7 .
- 5) Pawankar R : Antihistamines and their role in Combined allergy respiratory syndrome . Bombay ENT Society Allergy Seminar ( Mumbai ), 2003 . 7 .
- 6) Pawankar R : Allergy : Fundamentals to diagnosis . IAA Allergy Training Workshop ( Goa, India ), 2003 . 7 .
- 7) Pawankar R : Indications, use and safety of topical steroids in allergic rhinitis . IAA Allergy Training Workshop ( Goa, India ), 2003 . 7 .
- 8) Pawankar R : Early treatment of the atopic child . Pediatric Allergy Symposium ( IAP Seminar Series ) ( Bangalore, India ), 2003 . 7 .
- 9) Pawankar R : One Airway One Disease . Seoul Allergy Symposium ( Seoul ), 2003 . 9 .
- 10) Pawankar R : Allergic rhinitis and its Impact on asthma : LTRAs as emerging therapies . Pusan Allergy Symposium ( Korea ), 2003 . 9 .
- 11) Pawankar R : The link between rhinitis and asthma : Pathogenesis to treatment . Deagu Allergy Symposium ( Korea ), 2003 . 9 .
- 12) Pawankar R : Allergic rhinitis and its Impact on asthma : LTRAs as emerging therapies . Gyongju Allergy Symposium ( Korea ), 2003 . 9 .
- 13) Pawankar R : One-Airway One Disease . Kyongju Allergy Symposium ( Korea ), 2003 . 9 .
- 14) Pawankar R : Clinical Trials of Anti-IgE in Allergic Rhinitis . 13th National Congress of the Indonesian ORL-HNS Society ( Bali, Indonesia ), 2003 . 10 .
- 15) Pawankar R : Mast Cell-IgE-epithelial cell interactions : Pathomechanisms to anti-IgE treatment . 10th Congress of International Rhinologic Society and 22nd International Symposium on Infection and Allergy of the Nose ( Seoul, Korea ), 2003 . 10 .
- 16) Pawankar R : Novel Concepts on Nasal Polyps . 54th American College of Allergy, Asthma & Immunology Annual Meeting ( New Orleans, USA ), 2003 . 11 .
- 17) Pawankar R : Allergic Rhinitis and Its Co-morbidities : Link to Emerging Therapies . Chinese Otolaryngology Society ( Taipei, Taiwan ), 2003 . 11 .
- 18) Pawankar R : Co-morbidities of Allergic rhinitis ; Asthma, sinusitis to OME . Annual Congress of the Tai-

- wan Society of Otolaryngologists ( Tainan, Taiwan ), 2003 . 11 .
- 19) Pawankar R : Role of LTRAs in allergic rhinitis and co-morbid asthma .Allergy Symposium( Taipei, Taiwan ), 2003 . 11 .
  - 20) Pawankar R : Emerging therapies for AR and asthma . Allergy Symposium ( Taichung, Taiwan ), 2003 . 11 .
  - 21) Pawankar R , Ozu C , Aida M , Takizawa R , Yamagishi S , Nonaka M : RANTES a critical factor in regulating mast cell migration and on-going allergic inflammation . Respiratory Research Symposium ( London, UK ), 2003 . 11 .
  - 22) Pawankar R : Epidemiology of Allergic rhinitis in Asia . WHO Asthma-Rhinitis Birth cohort study group meeting ( Pune, India ), 2003 . 11 .
  - 23) Pawankar R : Objective assessment of Allergic Rhinitis : Nasal cytology and cytokine measurement . WHO Asthma-Rhinitis Birth cohort study group meeting ( Pune, India ), 2003 . 11 .
  - 24) Pawankar R : Methodology and standardization of Allergen challenge testing in AR . Pune Chest Research Foundation Symposium ( Pune, India ), 2003 . 11 .
  - 25) Pawankar R : Allergy a multiorgan disease. Highlights on upper airway allergy . 7th International Symposium on Basic Approach to Allergic Rhinitis ( Ghent, Belgium ), 2003 . 11 .
  - 26) Pawankar R : Nasal allergen testing : Is it an essential tool in the diagnosis of allergic rhinitis . Pune Chest Society Allergy Seminar. ( Pune. India ), 2003 . 11 .
  - 27) Pawankar R : Allergic rhinitis and its link to asthma : ARIA-WHO Initiative . Vadodara Allergy Symposium ( Vadodara, India ), 2003 . 12 .
  - 28) Pawankar R : Topical versus Oral therapy for Allergic rhinitis. Indications and safety . AOI Seminar ( Chennai Chapter )( Chennai ), 2003 . 12 .
  - 29) Pawankar R : Medical Management of Rhinosinusitis . Rhinosinusitis and FESS Update ( Mumbai, India ), 2003 . 12 .
  - 30) Pawankar R : Role of Allergy in Chronic Rhinosinusitis . Rhinosinusitis and FESS Update ( Mumbai, India ), 2003 . 12 .
  - 31) Pawankar R : Possible therapies for combined rhinitis and asthma syndrome . Cipla Respiratory Symposium. ( Mysore. India ), 2003 . 12 .
  - 32) Pawankar R : Definition and Classification of Rhinosinusitis . 4th Respiratory Symposium, Pune Medical Association ( Pune, India ), 2003 . 12 .
  - 33) Pawankar R : Primary Prevention of Allergy . VP Chest Allergy Seminar ( New Delhi ), 2004 . 1 .
  - 34) Pawankar R : Anti-IgE treatment in allergic airway disease . 10th ENT Update of AOI ( Kolkatta ), 2004 . 1 .
  - 35) Pawankar R : Immunotherapy in Allergic rhinitis and Asthma : indications, types and methodology . 4th Bronchoesophageal Research Symposium ( Mumbai, India ), 2004 . 1 .
  - 36) Pawankar R : Efficacy of macrolides in chronic sinusitis : Antibiotic or anti-inflammatory . ENT Seminar ( AOI Ahmedabad branch )( Ahmedabad, India ), 2004 . 1 .
  - 37) Pawankar R : Potential future therapies for allergic rhinitis and asthma . RANBAXY R&D Seminar Series ( New Delhi, India ), 2004 . 1 .
  - 38) Pawankar R : Airway Disease : Expanding Role of LTRAs . Academy of Family Medicine of Malaysia ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2004 . 2 .
  - 39) Pawankar R : LTRAs in Allergic rhinitis . Allergy Symposium of the Royal Thai Society of Otolaryngologists. ( Bangkok, Thailand ), 2004 . 2 .
  - 40) Pawankar R : The link between rhinitis and asthma : epidemiology to emerging therapies . Hong Kong AI-

- ergy Symposium ( Hong Kong ), 2004 . 2 .
- 41) Pawankar R : Role of antileukotrienes in allergic rhinitis and sinusitis . Prince of Wales Hospital Allergy Seminar ( Hong Kong ), 2004 . 2 .
  - 42) Pawankar R : One-Airway One disease. What do we understand and how do we treat . Singapore Allergy Symposium of Pediatric Society of Singapore ( Singapore ), 2004 . 2 .
  - 43) Pawankar R : Role of antileukotrienes in allergic rhinitis . Brunei Allergy Symposium ( Brunei ), 2004 . 2 .
  - 44) Pawankar R : The link between Rhinitis and Asthma : Role of leukotrienes in the combined airways syndrome . Asia-Pacific Respiratory Forum ( Shanghai, China ), 2004 . 3 .
  - 45) Pawankar R : Mucosal defense and allergy of the upper airway : gamma-delta T cells in allergic airway disease . 4th International Conference on Tonsils and Mucosal Immunity , 2004 . 4 .
  - 46) Pawankar R : One-Airway One Disease : ARIA guidelines . 神奈川県地方部会日本耳鼻咽喉科 シンポジウム , 2003 . 4 .
  - 47) 三枝英人 : 胃食道逆流症 ( GERD ) と耳鼻咽喉症状の関連について . 第7回中央ブロック ENT カンファランス 東京 , 2003 . 4 .
  - 48) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のQOL . 42回新潟アレルギー研究会 , 2003 . 5 .
  - 49) 三枝英人 : 音声・言語 , 嚥下障害の診断 . 第65回日本医科大学付属4病院耳鼻咽喉科集談会 , 2003 . 9 .
  - 50) Pawankar R : Combined Respiratory Allergy Syndrome . Allergy and Infection Study Group Symposium , 2003 . 11 .
  - 51) 富山俊一 : メニエール病における免疫傷害病因 . 日本医科大学医学会第111回例会 , 2003 . 11 .
  - 52) 八木聰明 : 日常診療におけるめまいの取り扱い . 平成15年度日本耳鼻咽喉科学会茨城県地方部会研修会 , 2003 . 12 .
  - 53) 八木聰明 : めまいを理解するために . 第1回信州めまい・難聴講演会 , 2003 . 12 .
  - 54) Pawankar R : アレルギー性鼻炎と喘息の関連性 : ARIA guideline . 鹿児島アレルギーシンポジウム , 2004 . 1 .
  - 55) 青木秀治 : 小児の中耳手術について . 第3回中原近隣地区耳鼻咽喉科懇話会 , 2004 . 2 .
  - 56) 馬場俊吉 : 耳鳴の検査と治療 . 日本医科大学医学会第112回例会 , 2004 . 2 .
  - 57) 馬場俊吉 : 鼓室形成術後の聴覚 . 第18回岩手難聴セミナー , 2004 . 2 .
  - 58) 池園哲郎 : COCH 遺伝子をめぐって . 7th Auditory Neuroscience Meeting , 2004 . 3 .
- (2) 招待講演 :
- 1) 三枝英人 : 嚥下障害の成り立ちとその診療 . 第6回東京耳鼻咽喉科臨床懇話会 , 2003 . 4 .
  - 2) 大久保公裕 : 花粉症治療QOL改善をめざして . 佐野足利耳鼻咽喉科集談会 , 2004 . 1 .
  - 3) 横島一彦 : 頭頸部腫瘍の臨床 : 根治性とQOLのバランス . 千代田区耳鼻咽喉科医会 , 2004 . 2 .
  - 4) 大久保公裕 : 花粉症患者の治療とQOL . 稲城市医師会合同学術講演会 , 2004 . 2 .
  - 5) 大久保公裕 : スギ花粉症の新しい治療戦略 . 石川県耳鼻咽喉科医会学術集会 , 2004 . 2 .
  - 6) Pawankar R , Yamagishi S , Takizawa R , Ozu C , Nonaka M , Aida M , Mori S , Yagi T : Role of Mast Cells in Airway Allergy and Infection . 耳鼻免疫アレルギー , 2004 . 3 .
- (3) 教育講演 :
- 1) Pawankar R : Mast cell-T cell interactions in allergic airway disease . 54th AFMC Post Graduate Symposium ( Pune, India ), 2003 . 12 .
  - 2) Pawankar R : Epithelial cells and their immunomodulatory functions in respiratory allergies . 54th AFMC Post Graduate Symposium ( Pune, India ), 2003 . 12 .
  - 3) 大久保公裕 : 小児の気道アレルギー ( 鼻アレルギーを中心として ) . 第42回日本鼻科学会 , 2003 . 10 .
  - 4) Pawankar R : 「肥満細胞」 : Versatile Role of Mast cells in Airway Allergy and Infection . 第22回耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 , 2004 . 3 .

(4) シンポジウム :

- 1) Pawankar R : Classification and Histopathogenesis of nasal polyps : Role of mast cells in eosinophilic inflammation . Rhinosinusitis Consensus Meeting ( Bethesda, USA ), 2003 . 5 .
- 2) Pawankar R : Nasal allergen testing : Is it an essential tool in the diagnosis of allergic rhinitis . 10th All India Rhinology Society Congress. ( New Delhi ), 2003 . 5 .
- 3) Pawankar R : Mechanisms of mast cell migration and mast cell T cell interaction in allergic rhinitis . 3rd Allergy Update Symposium ( New York, USA ), 2003 . 6 .
- 4) Pawankar R : The new classification of ARIA is supported by evidence. The example of Asian countries . 22nd Congress of the European Academy of Allergology and Clinical Immunology ( Paris, France ), 2003 . 6 .
- 5) Pawankar R : The links between rhinitis and asthma : potential therapeutic strategies . 2nd Italian Symposium of Respiratory Allergy ( Italy ), 2003 . 6 .
- 6) Pawankar R : Immunomodulation in allergic airway disease . 2nd Italian Symposium of Respiratory Allergy ( Italy ), 2003 . 6 .
- 7) Pawankar R : Novel Roles of Antihistamines in AR . 2nd Italian Symposium of Respiratory Allergy ( Italy ), 2003 . 6 .
- 8) Pawankar R , Yamagishi S , Nonaka M , Takizawa R , Yagi T : Novel concepts on Nasal polyps : Pathogenesis to medical treatment . Progress in Rhinology : Polish Rhinology Society Update ( Warsaw, Poland ), 2003 . 6 .
- 9) Pawankar R , Aida M , Ozu C , Yagi T : Link on Rhinitis to asthma and sinusitis : Epidemiology, pathogenesis to treatment . Progress in Rhinology : Polish Rhinology Society Update ( Warsaw, Poland ), 2003 . 6 .
- 10) Pawankar R , Cho Joong S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Otolaryngology, Kyung Hee University School of Medicine): Low dose macrolide therapy in Chronic Rhinosinusitis with nasal polyps . Progress in Rhinology : Polish Rhinology Society Update ( Warsaw, Poland ), 2003 . 6 .
- 11) Pawankar R : Allergic Rhinitis and its link to asthma . Breakfast Symposium. WAO Congress- 23rd ICACI ( Vancouver, Canada ), 2003 . 9 .
- 12) Pawankar R : Pharmacotherapy of Allergic Rhinitis . Luncheon Symposium. WAO Congress- 23rd ICACI ( Vancouver, Canada ), 2003 . 9 .
- 13) Pawankar R : Otitis Media with Effusion and Allergy . Breakfast Symposium. WAO Congress- 23rd ICACI ( Vancouver, Canada ), 2003 . 9 .
- 14) Pawankar R : Understanding the link between rhinitis and asthma : Epidemiology to treatment strategies . 7th Japan- Taiwan Congress. Luncheon Symposium ( Tokyo ), 2003 . 10 .
- 15) Gotoh M , Okubo K : Sublingual immunotherapy and nasal immunotherapy ( Symposium09 : Allergic rhinitis : New therapeutic trial in nasal allergy ). 22nd International Symposium of Infection and Allergy of Nose ( Seoul, Korea ), 2003 . 10 .
- 16) Okubo K : Anti- IgE therapy ( Symposium09 : Allergic rhinitis : New therapeutic trial in nasal allergy ). 22nd International Symposium of Infection and Allergy of Nose ( Seoul, Korea ), 2003 . 10 .
- 17) Pawankar R : An Update on the Pathogenesis and Management of Rhinosinusitis . 11th Asian Congress of Pediatrics ( Bangkok, Thailand ), 2003 . 11 .
- 18) Pawankar R : Co-morbidities of allergic rhinitis : From asthma to sinusitis . 12th NAPCON ( Coimbatore, India ), 2003 . 11 .
- 19) Pawankar R : Indications and safety of Intranasal corticosteroids in allergic rhinitis . 12th NAPCON Satellite Symposium ( Ooty, India ), 2003 . 11 .

- 20) Pawankar R : Indications and safety of topical corticosteroids in allergic rhinitis and rhinosinusitis . 55th Annual Congress of the Indian College of Allergy and Applied Immunology ( Bangalore, India ), 2003 . 12 .
- 21) Pawankar R : Anti-IgE treatment in allergic airway disease . 55th Annual Congress of the Indian College of Allergy and Applied Immunology ( Bangalore, India ), 2003 . 12 .
- 22) Pawankar R : Indications and safety of immunotherapy in allergic rhinitis . 56th Annual Congress of Association of Otolaryngologists of India ( Kolkatta, India ), 2004 . 1 .
- 23) Pawankar R : Co-morbidities of AR in children : Pathogenesis to treatment . 56th Annual Congress of Association of Otolaryngologists of India ( Kolkatta, India ), 2004 . 1 .
- 24) Pawankar R : AR : Pathogenesis to treatment, . 56th Annual Congress of Association of Otolaryngologists of India ( Kolkatta, India ), 2004 . 1 .
- 25) Pawankar R : Understanding the link between allergic rhinitis and asthma . 10th Asia Oceania Congress of Otolaryngologists ( Kuala Lumpur, Malaysia. ), 2004 . 2 .
- 26) Pawankar R , Ozu C , Yamagishi S , Takizawa R , Nonaka M , Yagi T : Recurrent nasal polyps : Factors that may predict to medical management . 10th Asia Oceania Congress of Otolaryngologists ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2004 . 2 .
- 27) Pawankar R : Co-morbidities of allergic rhinitis, sinusitis and otitis media . 10th Asia Oceania Congress of Otolaryngologists ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2004 . 2 .
- 28) Pawankar R : ARIA . 4th World Asthma Meeting ( Bangkok, Thailand ), 2004 . 2 .
- 29) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎に対する減感作療法のエビデンス ( シンポジウム17アレルギー性鼻炎のエビデンスに基づいた治療) . 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2003 . 5 .
- 30) Pawankar R : Allergic rhinitis and its impact on asthma to evidence-based guidelines . 第53回日本アレルギー学会総会, 2003 . 10 .
- 31) 大久保公裕, 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎のかゆみ ( イブニングシンポジウム3アレルギー疾患のかゆみ: その成因と治療) . 第53回日本アレルギー学会, 2003 . 10 .
- 32) 野中 学, Pawankar R, 福元 晃, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明 : 鼻茸における好酸球浸潤の機序について . 第42回日本鼻科学会, 2003 . 10 .
- 33) 後藤 穰<sup>1)</sup>, 大久保公裕<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 耳鼻咽喉科学 ): アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法 ( アレルギー疾患の免疫療法の展望) . 第53回日本アレルギー学会総会, 2003 . 10 .
- (5) パネルディスカッション :
- 1) Pawankar R : Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma .Round Table Discussion. Allergy Forum. ( Tokyo ), 2003 . 4 .
- 2) Pawankar R : Epidemiology of Allergic Rhinitis and Asthma .Chest Research Foundation, Pune( Pune, India ), 2003 . 11 .
- 3) Pawankar R : Pharmacoeconomics of Allergic Rhinitis and Asthma . 4th Allergy Seminar Series ( New Delhi India ), 2004 . 1 .
- 4) 八木聰明 : 専門医教育 ( 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教育の課題) . 第104回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2003 . 5 .
- 5) 野中 学 : 好酸球性中耳炎の病態 . 第13回日本耳科学会, 2003 . 10 .
- 6) 三枝英人 : 嚥下障害における耳鼻咽喉科医の役割 . 第4回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会医療研究会, 2004 . 2 .
- (6) セミナー :
- 1) 大久保公裕 : 花粉症の診断と治療 . 日本アレルギー協会アレルギー研修会2003大阪, 2003 . 4 .
- 2) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の低年齢化とその治療 . 第13回日本外来小児科学会, 2003 . 8 .

- 3) 大久保公裕：小児科医のための鼻アレルギー one airway one disease . 第40回小児アレルギー学会，2003 . 10 .
- 4) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎のQOLについて . 第2回愛知県耳鼻咽喉科医学会学術セミナー，2003 . 11 .
- 5) 大久保公裕：花粉症患者の治療とQOL . 第5回城東ブロックアレルギー懇話会，2004 . 1 .
- 6) 大久保公裕：花粉症患者の治療とQOL . アレルギー性鼻炎セミナー in Tsukuba，2004 . 1 .
- 7) 大久保公裕：内科医のための花粉症治療 . 第3回大阪南呼吸器懇話会，2004 . 2 .
- 8) 大久保公裕：花粉症患者の治療とQOL：下気道との関連 . 神奈川ロイコトリエンフォーラム2004，2004 . 2 .

(7) ワークショップ：

- 1) Pawankar R：Case Studies on Allergic rhinitis and co-morbid Asthma . Asia-Pacific Respiratory Forum ( Shanghai, China ), 2004 . 3 .
- 2) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）患者におけるQOLの検討 . アレルギー性鼻炎フォーラム2004，2004 . 1 .

(8) 一般講演：

- 1) Ikezono T, Shindo S, Lishu L, Omori A<sup>1)</sup>, Ichinose S<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>2)</sup>, Kobayashi T, Pawankar R, Yago T ( <sup>1)</sup>Mitsubishi Kagaku Institute of Life Science ( MITILS ), <sup>2)</sup>Dept. of Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, <sup>3)</sup>Dept. of Otorhinolaryngology, Tohoku Univ., Sendai ): A Proteomic Approach Identifies the Human COCHLIN Isoforms . 55th Annual Meeting of The American Academy of Neurology ( Honolulu HI ), 2003 . 3 .
- 2) Okubo K, Okuda M, Gotoh M, Leahy MJ<sup>1)</sup>, Crawford B<sup>2)</sup>, Fujita M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Aventis Co, <sup>2)</sup>MAPPI value ): Effect of fexofenadine HCl on quality of life and work productivity in Japanese patients with cedar pollinosis . World Allergy Organization Congress- XVIII ICACI ( Vancouver, Canada ), 2003 . 9 .
- 3) Watanabe Ken-ichi, Inai S, Hess A<sup>1)</sup>, Michel O<sup>1)</sup>, Yagi T ( <sup>1)</sup>Dept. of ENT, University of Cologne, Germany ): NOS inhibitor reduces the cochlear damage after the acoustic stimulation in the guinea pigs . 40th Work shop on Inner Ear Biology ( Granada, Spain ), 2003 . 9 .
- 4) Tomiyama S：Experimental autoimmune labyrinthitis-identification of organ specific autoantibody . 39th Workshop on Inner Ear Biology ( Granada ), 2003 . 9 .
- 5) Ozu C, Pawankar R, Takizawa R, Yamagishi S, Yagi T：Regulation of mast cell migration into the allergic nasal epithelium by RANTES and not SCF . 60th Annual Meeting of the American Academy of Allergy Asthma & Immunology ( AAAAI )( San Francisco, CA ), 2004 . 3 .
- 6) Pawankar R：Differential Expression of Matrix Metalloproteinase 2 and 9 in the Allergic Nasal Mucosa and Nasal Polyps . 60th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma & Immunology ( California, USA ), 2004 . 3 .
- 7) Niimi Y, Pawankar R, Kawana S：The role of matrix metalloproteinase ( MMP ) -2, MMP-9, MMP-13 in bullous pemphigoid . 60th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma and Immunology ( San Francisco, USA ), 2004 . 3 .
- 8) Pawankar R, Mori S, Nonaka M, Ozu C, Aida M, Yagi T：Differential Expression of Matrix Metalloproteinase 2 and 9 in the Allergic Nasal Mucosa and Nasal Polyps . ( 60th Annual meeting ) American Academy of Allergy Asthma & Immunology ( San Francisco, CA ), 2004 . 3 .
- 9) 三枝英人, 田沼久美子<sup>1)</sup>, 山下和雄<sup>2)</sup>, 田沼 裕<sup>3)</sup>, 新美成二<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第2, <sup>2)</sup>同解剖学第1, <sup>3)</sup>帝京大学解剖学, <sup>4)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科 ): 舌神経の神経線維解析的研究 . 第108回日本解剖学会総会，2003 . 4 .
- 10) 三枝英人, 愛野威一郎, 粉川隆行, 八木聡明：一側反回神経麻痺を伴う末期肺癌患者に対する音声機能改善術の意義 . 第12回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会，2003 . 4 .

- 11) 山口 智, 三枝英人, 角田美千穂<sup>1)</sup>, 角田晃一<sup>2)</sup>, 愛野威一郎, 八木聰明, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 杉崎裕一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>角田耳鼻咽喉科医院, <sup>2)</sup>日産厚生会玉川病院耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院病理部): 喉頭に生じた異所性唾液腺症の1例. 第15回日本喉頭科学会総会, 2003. 4.
- 12) 愛野威一郎, 三枝英人, 中村 毅, 八木聰明: 陳旧性喉頭外傷に対する音声機能改善手術の経験. 第15回日本喉頭科学会総会, 2003. 4.
- 13) 三枝英人, 粉川隆行, 愛野威一郎, 岩崎智治, 八木聰明, 新美成二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): 後方型披裂軟骨脱臼症に対する徒手整復術. 第15回日本喉頭科学会総会, 2003. 4.
- 14) 池園哲郎, 大森 彬<sup>1)</sup>, 新藤 晋, 李 麗淑, 八木聰明(<sup>1)</sup>三菱化学生命科学研究所): 遺伝性難聴の研究とプロテオーム解析. 第104回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2003. 5.
- 15) 新藤 晋, 池園哲郎, 李 麗淑, 齋藤明彦: COCHLIN 関連蛋白を用いた外リンパ瘻診断の試み. 第104回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2003. 5.
- 16) 三枝英人, 愛野威一郎, 岩崎智治: 胃食道逆流症による異常感を来した小児3例. 第6回胃食道逆流症(GERD)と咽喉頭疾患研究会, 2003. 5.
- 17) 小嶋章弘<sup>1)</sup>, 山本英之<sup>1)</sup>, 木村有一<sup>1)</sup>, 大久保公裕, 藤枝重治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>福井大学): スギ花粉症にピーク時におけるQuality of Lifeの評価. 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2003. 5.
- 18) 福元 晃, 野中 学, Pawankar R, 荻原 望, 酒主敦子: 鼻茸線維芽細胞からのTARC産生. 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2003. 5.
- 19) 齋藤明彦, 野中 学, 酒主敦子, 八木聰明: ナビゲーションシステムにおけるFAZER(レーザーによるレジストレーション)の有用性. 第104回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2003. 5.
- 20) 後藤 穰<sup>1)</sup>, 大久保公裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>耳鼻咽喉科): 通年性アレルギー性鼻炎患者に対する塩酸オロパタジンのプラセボ対照クロスオーバー単盲検比較試験. 第15回日本アレルギー学会春期臨床学会, 2003. 5.
- 21) 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 齋藤明彦, 小泉康雄, 八木聰明, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 館野 温<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 下咽頭癌再建術後の咽頭後リンパ節再発の治療. 第27回日本頭頸部腫瘍学会, 2003. 6.
- 22) 横島一彦, 小津千佳, 福元 晃, 渡邊幸子, 稲井俊太, 横山有希子, 馬場俊吉, 中溝宗永, 八木聰明: 耳下腺腫瘍手術における大耳介神経後枝温存の意義. 第27回日本頭頸部腫瘍学会, 2003. 6.
- 23) 増野 聡, 渡邊健一, 木村まき, 山内陽子, 山岸茂夫, 青木秀治: 透析後発症した急性感音難聴の1症例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第125回学術講演会, 2003. 9.
- 24) 中溝宗永, 粉川隆行, 齋藤明彦, 島田健一, 小泉康雄, 小津千佳, 小川千鶴子, 新藤 晋, 八木聰明: 頭頸部癌における腫瘍組織内TS, DPD活性と5FU濃度. 第41回日本癌治療学会, 2003. 10.
- 25) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 齋藤明彦, 小泉康雄, 島田健一, 小津千佳, 稲井俊太, 八木聰明: 終末期に明確な余命告知が可能であった頭頸部癌19症例の検討. 第41回日本癌治療学会, 2003. 10.
- 26) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 齋藤明彦, 島田健一, 小泉康雄, 小津千佳, 福元 晃, 池園哲郎, 馬場俊吉, 八木聰明: 外耳道癌診療の問題点. 第13回日本耳科学会, 2003. 10.
- 27) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 小泉康雄, 馬場俊吉, 齋藤明彦, 小林俊光<sup>1)</sup>, 八木聰明(<sup>1)</sup>東北大学耳鼻咽喉科): Cochlin-tomoprotein(CTP)を用いた外リンパ瘻診断. 第13回日本耳科学会, 2003. 10.
- 28) 横山有希子, 三枝英人, 渡邊健一, 中溝宗永, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聰明(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): 上咽頭癌に対する放射線照射後晩期合併症による進行性難聴と嚥下障害を来した1例. 第13回日本耳科学会総会, 2003. 10.
- 29) 稲井俊太, 渡邊健一, 中村 毅, 八木聰明: 音響刺激による内耳障害と誘導型: 酸化窒素合成酵素の発現(第二報). 第13回日本耳科学会, 2003. 10.
- 30) 島田健一, 中溝宗永, 粉川隆行, 齋藤明彦, 小泉康雄, 横島一彦, 小津千佳, 稲井俊太, 八木聰明: 鼻腔多形



- 腺腫から生じた扁平上皮癌症例．第41回日本癌治療学会，2003．10．
- 31) 奥田 稔，後藤 穰，大久保公裕：スギ花粉の皮膚，衣服，洗濯物への付着．第53回日本アレルギー学会，2003．10．
- 32) 奥田 稔，後藤 穰，大久保公裕：各種環境下の空中浮遊スギ花粉数．第53回日本アレルギー学会，2003．10．
- 33) 渡邊健一，稲井俊太，八木聰明：加齢による内耳障害と蝸牛側壁におけるDNAの断片化：マウスモデルでの検討．第13回日本耳科学会総会，2003．10．
- 34) 富山俊一：実験的自己免疫性迷路炎：臓器特異的内耳自己抗体の同定．第12回日本耳科学会，2003．10．
- 35) 横山有希子<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>1)</sup>，渡邊健一<sup>1)</sup>，中溝宗永<sup>1)</sup>，馬場俊吉<sup>1)</sup>，八木聰明<sup>1)</sup>，新美成二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚学科)：上咽頭癌に対する放射線治療後，晩期に進行性の両側感音難聴および嚥下障害を発症した1例．第13回日本耳科学会，2003．10．
- 36) 奥田 稔<sup>1)</sup>，後藤 穰<sup>2)</sup>，大久保公裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本臨床アレルギー研究所，<sup>2)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科学)：住居内花粉数とその処置．第53回日本アレルギー学会総会，2003．10．
- 37) 後藤 穰<sup>1)</sup>，大久保公裕<sup>2)</sup>，島田健一<sup>2)</sup>，立 雅代<sup>3)</sup>，奥田 稔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>耳鼻咽喉科，<sup>3)</sup>多摩永山病院耳鼻咽喉科)：スギ花粉症患者のQOLの変化に対する塩酸フェキソフェナジンの効果：二重盲検比較試験による検討．第53回日本アレルギー学会総会，2003．10．
- 38) 池園哲郎，新藤 晋，李 麗淑，大森 彬<sup>1)</sup>，小林俊光<sup>1)</sup>，八木聰明(<sup>1)</sup>三菱化学生命科学研究所，<sup>2)</sup>東北大学耳鼻咽喉科)：Cochlin-tomoprotein (CTP)の2次元電気泳動解析．第62回日本めまい平行医学会，2003．11．
- 39) 李 麗淑，池園哲郎，新藤 晋，八木聰明，渡辺 淳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院遺伝診療科)：COCH遺伝子の発現特異性．第62回日本めまい平行医学会，2003．11．
- 40) 小町太郎，三枝英人，波多野吟哉<sup>1)</sup>，八木聰明(<sup>1)</sup>新松戸中央総合病院耳鼻咽喉科)：診断に苦慮した高齢発症の重症筋無力症による嚥下障害の1例．第26回日本嚥下研究会，2003．11．
- 41) 三枝英人，田沼久美子<sup>1)</sup>，愛野威一郎，中村 毅，岩崎智治，新美成二<sup>2)</sup>，八木聰明(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第2，<sup>2)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科)：如何に披裂軟骨脱臼症を正しく診断するか？．第55回日本気管食道科学会総会，2003．11．
- 42) 三枝英人，田沼久美子<sup>1)</sup>，山下和雄<sup>2)</sup>，新美成二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第2，<sup>2)</sup>同解剖学第1，<sup>3)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科)：ヒト垂直舌筋の舌内分布について．第48回日本音声言語医学会総会，2003．11．
- 43) 岩崎智治，三枝英人，新美成二<sup>1)</sup>，八木聰明(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科)：声帯の過内転を伴う“音声振戦症”様の音声障害の1例．第48回日本音声言語医学会総会，2003．11．
- 44) Saigusa H，Tanuma K<sup>1)</sup>，Yamashita K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>解剖学第2，<sup>2)</sup>解剖学第1)：Morphological study for the vertical intrinsic muscle of the human tongue．日本解剖学会関東支部第91回学術講演会，2003．11．
- 45) 大久保公裕，後藤 穰，島田健一，杉崎一樹，奥田 稔：スギ花粉症のQOL．第52回臨床アレルギー研究会，2003．11．
- 46) 富山 俊一，立 雅容，豊田雅基，野中 学，荻原 望：自己免疫障害を疑う感音性難聴症例の治療経験．日本医科大学医学会第111回例会，2003．11．
- 47) 富山俊一，立 雅容，豊田雅基，野中 学，荻原 望：自己免疫性感音難聴を疑う症例について．第30回多摩耳鼻咽喉科臨床研究会，2003．11．
- 48) 青木秀治，増野 聡，木村まき，山内陽子，山岸茂夫，渡邊健一：聴器癌の1治療経験．日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第126回耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会，2003．12．
- 49) 池園哲郎：COCH遺伝子研究とトランスレーション．第2回信州ミーティング，2004．1．
- 50) 長谷川恭子，横島一彦，中溝宗永，島田健一，相田瑞恵，八木聰明：両側咽頭後リンパ節転移を伴った甲状腺癌の1例．第14回日本頭頸部外科学会，2004．1．
- 51) 森 幸子，横山有希子，福元 晃，愛野威一郎，後藤 穰，馬場俊吉，小松崎篤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臨床神経耳科学研究

- 所): 内耳道内腫瘍の多様性について. 第64回日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会, 2004. 1.
- 52) 酒主敦子, 野中 学, 福元 晃, 荻原 望, Pawankar R, 八木聰明: Montelukastが有効であった慢性副鼻腔炎の1症例. 第22回耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2004. 3.
- 53) 福元 晃, 野中 学, 荻原 望, Pawankar R, 酒主敦子, 八木聰明: 鼻茸線維芽細胞からのTARC産生. 第22回耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2004. 3.
- 54) 小泉康雄, 三枝英人, 福元 晃, 八木聰明: 両側反回神経麻痺の筋病理. 3症例の経験から. 第16回日本喉頭科学会総会, 2004. 3.
- 55) 山内陽子, 渡邊健一, 増野 聡, 木村まき, 山岸茂夫, 青木秀治: 1才男児の外傷性外リンパろうの1症例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第127回学術講演会, 2004. 3.
- 56) 富山俊一: 実験的自己免疫性迷路炎: 内耳特異的自己抗原蛋白のプロテオーム解析. 第22回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2004. 3.
- 57) 酒主敦子, 野中 学, 福元 晃, 荻原 望, Pawankar R, 八木聰明: Montelukastが有効であった慢性副鼻腔炎の1症例. 第22回耳鼻免疫アレルギー学会, 2004. 3.
- 58) 福元 晃, 野中 学, 荻原 望, Pawankar R, 酒主敦子, 八木聰明: 鼻茸線維芽細胞からのTARC産生. 第22回耳鼻免疫アレルギー学会, 2004. 3.
- (9) 推薦演題:
- 1) 野中 学, 福元 晃, Pawankar R, 荻原 望, 八木聰明: 上気道と下気道の線維芽細胞のTGF- 刺激に対する反応性の違い: SMAD分子について. 第22回耳鼻免疫アレルギー学会, 2004. 3.

## 15．泌尿器科学講座

### [ 付属病院泌尿器科 ]

#### 研究概要

##### 臨床研究

1. 従来開腹で行っていた手術の全てを腹腔鏡下手術で行っているが、特に、前立腺癌全摘の腹腔鏡下手術は本邦で先端をいっており、開腹術と比較した検討を行っている。
2. 前立腺癌の手術にあたっては、その診断技術が重要であるが、前立腺特異抗原（PSA）およびその関連パラメーターによる早期前立腺癌と良性疾患との血清学的鑑別診断に関する研究のみならず、超音波パワードブラ法、超音波 Fusion 3D 法等の先端画像解析技術を用いた研究を行っている。
3. 局所進行性前立腺癌に対しては、術前ホルモン化学療法を行い、根治の可能性を模索している。
4. 膀胱癌、上部尿路腫瘍、腎癌の治療においては、特に、quality of life (QOL) を重視し、最先端技術を駆使し臓器温存を行っている。

浸潤性膀胱癌に対しては、抗癌剤の動注化学療法や、さらに、放射線医学講座隅崎教授との共同研究として行っている「閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システム」により膀胱温存を試みている。

小径腎細胞癌に対しては、腹腔鏡下腎部分切除術により、低侵襲に腎温存を行っている。

5. perfusion CT を世界に先駆け腎癌組織型の術前鑑別診断に対し応用している。
6. 男性学にも力を入れており、勃起機能検査、薬物療法、男性更年期に関する研究を行っている。

##### 基礎研究

1. 癌の「低酸素応答」について、泌尿生殖器腫瘍領域での先駆者的研究。
2. 生体内微量金属メタロチオネインと制癌剤耐性および腎機能保護の研究。
3. 老人病研究所分子生物学部門江見教授のご指導のもと、「膀胱癌、前立腺癌における染色体・遺伝子異常の解明」に関する研究。
4. 前立腺炎に対する免疫組織学的研究。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Oguri T<sup>1)</sup>, Singh SV<sup>1)</sup>, Nemoto K<sup>1)</sup>, Lazo J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pharmacology, University of Pittsburgh ): The carcinogen ( 7R, 8S ) -dihydroxy- ( 9S, 10R ) -epoxy-7, 8, 9, 10-tetrahydrobenzo [ a ] pyrene induces Cdc25B expression in human bronchial and lung cancer cells . Cancer Research 2003 ; 63 : 771-775 .
- 2) Maynard MA , Qi H , Chung J , Lee EHL , Kondo Y , Hara S , Conaway RC , Conaway JW , Ohh M : Multiple splice variants of the human HIF-3a locus are targets of the VHL E3 Ubiquitin ligase complex . J Biol Chem 2003 ; 278 ( 13 ): 11032-11040 .
- 3) Abe H , Nishimura T , Asoh S<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Science, Graduate School of Medicine ): Expression of Bcl-2 on leukocytes in prostatic fluid from patients with acute and chronic prostatitis . J Infect Chemother 2003 ; 9 ( 2 ): 156-159 .
- 4) Kamura K<sup>1)</sup>, Nishimura T , Okamoto T<sup>2)</sup>, Noguchi M<sup>3)</sup>, Hamaguchi K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology, Sakura National Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology, Sakura National Hospital , <sup>3)</sup> Dept. of Obstetrics and Gynecology, Aichi

Medical Univ ): Bullous lesion in the prostatic urethra : Morphological change caused by putative Chlamydia infection . J Urol 2003 ; 169 ( 6 ): 2203-2205 .

- 5) Kondo Y , Matsuzawa I , Kimura G , Tsuboi N , Horiuchi K , Yoshida K , Nishimura Taiji : Laparoscopic radical prostatectomy is possible to be standard therapy for early prostatic cancer . Int J Clin Oncol 2003 ; 8 ( 5 ): 312-316 .
- 6) Abe H , Nishimura T , Norose Y<sup>1)</sup> , Aoto T<sup>2)</sup> , Ohzuka H<sup>3)</sup> , Ohkuni H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Central Laboratory, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Clinical Laboratory, Medica Japan Co. Ltd. ) : Frequency of alterations in the GyrA subunit of DNA gyrase and the ParC subunit of topoisomerase IV in 19 clinical isolates of Neisseria gonorrhoeae in Tokyo in 2002 . J Infect Chemother 2003 ; 9 ( 4 ): 310-313 .
- 7) Kondo Y , Himeno S<sup>1)</sup> , Yamagata K , Naganuma A , Satoh M , Imura N<sup>1)</sup> , Nishimura Taiji ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health, Kitasato University ) : Optimal Administration Schedule Of Cisplatin For Bladder Tumor ; In Relation To Tissue Metallothionein Levels . J Urol 2003 ; 170 : 2467-2470 .
- 8) Kondo Y , Himeno S<sup>1)</sup> , Satoh Masahiko <sup>1)</sup> , Naganuma Akira <sup>1)</sup> , Nishimura T , Imura Nobumasa <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health, Kitasato University ) : Citrate enhances protective effect of orally administered bis-muth subnitrate against nephrotoxicity of cis-diamminedichloroplatinum . Cancer Chem Pharmacol 2004 ; 53 ( 1 ): 33-38 .
- 9) Nemoto K , Vogt A<sup>1)</sup> , Oguri T<sup>1)</sup> , Lazo JS<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of pharmacology, University of pittsburgh ) : Activation of the Raf-1/MEK/Erk kinase pathway by a novel Cdc25 inhibitor in human prostate cancer cells . The Prostate 2004 ; 58 : 95-102 .
- 10) 近藤幸尋 , 西村泰司 : 前立腺電気蒸散 : 手術のコツと早期・晩期合併症 . Urological View 2003 ; 1 ( 4 ): 63-67 .
- 11) 近藤幸尋 , 西村泰司 : Neobladder 作製にあたって . 泌尿器外科 2003 ; 16 : 363-365 .

## (2) トピックス :

- 1) 西村泰司 , 本田 了 : 化学療法と腹腔鏡下前立腺全摘出術について ; 官とマスメディアにももの申す . 日本外科学系連合学会誌 2003 ; 28 ( 6 ): 1080-1080 .

## 著 書

- 1) 木村 剛 : [ 分担 ] 前立腺超音波検査 , II 前立腺肥大症 , 5 検査法のテクニックとコツ . 前立腺疾患のすべて , 臨泌 57 ( 4 ) ( 郡健二郎 ), 2003 ; pp50-56 , 医学書院 .
- 2) 木村 剛 , 木全亮二 , 斉藤友香 , 西村泰司 : [ 分担 ] T1c前立腺癌はどこまで見えるか ? 超音波診断の最前線 . 触知不能 ( T1c ) 前立腺癌 : 新しいとらえ方 Urology View , vol. 1 ( 2 ) ( 荒井陽一 ), 2003 ; pp52-59 , メジカルビュー社 .

## 学会発表

### (1) 教育講演 :

- 1) 木村 剛 : 前立腺癌を見逃さないために . 浦和市医師会学術講演会 , 2003 . 6 .
- 2) 木村 剛 : 前立腺癌の診断 . 八千代市医師会学術講演会 , 2003 . 7 .
- 3) 木村 剛 : 前立腺癌の診断・治療 : PSA の役割 . 日本医科大学泌尿器科学教室同門会学術講演会 , 2004 . 1 .

### (2) シンポジウム :

- 1) 近藤幸尋 , 松沢一郎 , 濱崎 務 , 木村剛 , , 三浦剛史 , 西村泰司 : 腹腔鏡下前立腺全摘除術における直腸認識と損傷回避の工夫 ( 内視鏡外科手術の合併症と対処法 ) . 内視鏡外科学会 , 2003 . 11 .

(3) パネルディスカッション：

- 1) 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 松沢一郎, 鈴木康友, 三浦剛史, 浜崎 務, 佐藤三洋, 近藤幸尋, 吉田和弘, 西村泰司：T3N0M0癌は根治可能か？「術前MAB+動注化学療法+手術」．第10回東京前立腺癌フォーラム, 2003．10．
- 2) 松沢一郎, 近藤幸尋, 濱崎 務, 木村 剛, 西村泰司：腹腔鏡下前立腺全摘除術：その合併症とキーポイント．第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003．12．

(4) 海外留学者講演：

- 1) 根本 勺：新たな抗腫瘍剤のSmall molecular target としてのCdc25の可能性．第71回日本医科大学医学会総会, 2003．9．

(5) 一般講演：

- 1) Kimura G, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kimata R, Matsuzawa I, Miura T, Kumasaki Tatsuo<sup>1)</sup>, Nishimura Taiji ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): ASSESSMENT OF HEMODYNAMICS OF RENAL CELL CARCINOMAS ( RCCS ) OF DIFFERENT HISTOLOGICAL TYPES USING PERFUSION CT TECHNIQUE : A PRELIMINARY STUDY . 98th American Urological Association annual meeting ( Chicago ), 2003 . 4 .
- 2) Kondo Y, Hara Shuntaro <sup>1)</sup>, Matsuzawa I, Suzuki Y, Kimura G, Nishimura Taiji ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health, Kitasato University ): Role of HIF-1a on angiogenesis and tumor progression in renal cell carcinoma . American Association of Cancer Research ( Toronto ), 2003 . 4 .
- 3) Hara S<sup>1)</sup>, Kondo Y, Hosomi T<sup>1)</sup>, Hamada J<sup>1)</sup>, Nishimura T, Kunimoto M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Public Health, Kitasato University ): Expression of hypoxia-inducible factors in human kidney . World Congress of Nephrology ( Berlin, Germany ), 2003 . 6 .
- 4) Kondo Y, Hosomi T, Hamada J, Kunimoto M, Nishimura T, Hara S : Expression of hypoxia-inducible factors in human kidney . Keystone Symposium -Biology of Hypoxia : The Role of Oxygen Sensing in Development, Normal Function and Disease ( Steamboat Springs, USA ), 2004 . 3 .
- 5) Hara S, Takahashi R, Kobayashi C, Kondo Y, Kunimoto M, Imura N : Subcellular localization and regulation of hypoxia-inducible factor-2<sub>α</sub> ( HIF-2<sub>α</sub> ) in vascular endothelial cells . Keystone Symposium - Biology of Hypoxia : The Role of Oxygen Sensing in Development, Normal Function and Disease ( Steamboat Springs, USA ), 2004 . 3 .
- 6) 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 松沢一郎, 鈴木康友, 浜崎 務, 近藤幸尋, 吉田和弘, 西村泰司：前立腺癌の栄養血管：超音波 Fusion 3D 法による解析並びにCleggのschemeとの比較．第91回日本泌尿器科学会総会, 2003．4．
- 7) 近藤幸尋, 松沢一郎, 原俊太郎<sup>1)</sup>, 鈴木康友, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司 ( <sup>1)</sup> 北里大学公衆衛生学 ): 低酸素応答性転写因子 HIF-3a splicing variant のヒト組織における発現．第91回日本泌尿器科学会総会, 2003．4．
- 8) 清水宏之, 根本 勺, 近藤幸尋, 松沢一郎, 西村泰司 ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 同泌尿器科 ): 当院における腹腔鏡下前立腺全摘術の経験．第228回日本泌尿器科学会東北地方会, 2003．5．
- 9) 根本 勺<sup>1)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 近藤幸尋, 西村泰司 ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院泌尿器科 ): 前立腺癌細胞株に対するCdc25抑制剤の抗腫瘍効果．第228回日本泌尿器科学会東北地方会, 2003．5．
- 10) 佐藤三洋, 三浦剛史, 齋藤友香, 西村泰司：CNSループスに認められた排尿障害の1例．第79回千葉泌尿器科集談会, 2003．6．
- 11) 原俊太郎, 近藤幸尋, 国本 学：血管内皮細胞における低酸素応答性転写因子HIFの発現と活性制御．第4回Pharmac-Hematologyシンポジウム, 2003．6．
- 12) 塩路 豪, 永井尚生<sup>1)</sup>, 藤原博通, 江面陽一<sup>1)</sup>, 西村泰司, 江見 充<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門 ): 前立腺癌患者の体系的SNPS解析．第71回日本医科大学医学会総会, 2003．9．

- 13) 木村 剛, 浜崎 務, 鈴木康友, 近藤幸尋, 松沢一郎, 木全亮二, 吉田和弘, 西村泰司: Power Doppler Ultrasound (PDU) invisible 前立腺癌の生物学的特性. 第68回日本泌尿器科学会東部総会, 2003. 10.
- 14) 木村 剛, 浜崎 務, 鈴木康友, 近藤幸尋, 松沢一郎, 木全亮二, 吉田和弘, 西村泰司: Impalpable, Power Doppler Ultrasound (PDU) invisible 前立腺癌の生物学的特性. 第41回日本癌治療学会, 2003. 10.
- 15) 塩路 豪, 永井尚生<sup>1)</sup>, 江面陽一<sup>1)</sup>, 藤原博通, 西村泰司, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 前立腺癌患者の体系的SNPS解析. 第48回日本人類遺伝学会, 2003. 10.
- 16) 近藤幸尋, 木村 剛, 松沢一郎, 濱崎 務, 鈴木康友, 木全亮二, 吉田和弘, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術は, gold standard operationとなりうるか?. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- 17) 原俊太郎, 細見朋子, 畑中美咲, 近藤幸尋, 国本 学: Hypoxia-inducible factor HIF-3 4, one of HIF-3 splice variants, expressed in human cerebellum. 第76回日本生化学会大会, 2003. 10.
- 18) 木村 剛, 松沢一郎, 近藤幸尋, 浜崎 務, 三浦剛史, 木全亮二, 吉田和弘, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術: 第1世代と第2世代. 第17回日本Endourology and ESWL学会, 2003. 11.
- 19) 富田祐司, 松澤一郎, 高橋 亮, 木全亮二, 三浦剛史, 濱崎 務, 近藤幸尋, 木村 剛, 吉田和弘, 本田 了<sup>1)</sup>, 沖 守<sup>2)</sup>, 長谷川潤<sup>2)</sup>, 西村泰司(<sup>1)</sup>本田泌尿器科内科医院, <sup>2)</sup>長谷川病院): 腎癌自然破裂の1例. 第564回日本泌尿器科学会東京地方会, 2003. 11.
- 20) 近藤幸尋, 松沢一郎, 濱崎 務, 鈴木康友, 三浦剛史, 木全亮二, 齊藤友香, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術におけるdorsal vein complexの結紮は必須か?. 第17回Endourology and ESWL学会総会, 2003. 11.
- 21) 佐藤三洋, 鈴木康友, 齋藤友香, 本田 了, 西村泰司: 前立腺操作によるPSA変動の検討. 第80回千葉泌尿器科集談会, 2003. 12.
- 22) 三浦剛史, 本田 了, 佐藤三洋<sup>1)</sup>, 松沢一郎, 濱崎 務, 西村泰司(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科): 診断が困難であった腹腔鏡下腎部分切除後腎嚢胞の1例. 第80回千葉泌尿器科集談会, 2003. 12.
- (6) ケーススタディ:
- 1) 松澤一郎: 腎結石・後腹膜腫瘍・膀胱腫瘍. 日本泌尿器学会総会, 2003. 4.
- (7) ビデオシンポジウム:
- 1) 松沢一郎, 近藤幸尋, 木村 剛, 濱崎 務, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 吉田和弘(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科): 腹腔鏡下前立腺全摘術: その適応と難所の克服. 第41回日本癌治療学会総会, 2003. 10.
- (8) ポスター:
- 1) 桐山 功, 富田祐司, 木全亮二, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司: 前立腺癌に対するLH-RHアゴニスト単独療法における予後因子の検討: 主にPSA failureを指標として. 第91回日本泌尿器科学会総会, 2003. 4.
- 2) 根本 勺<sup>1)</sup>, 近藤幸尋, 清水宏之<sup>1)</sup>, 西村泰司, 小栗鉄也<sup>2)</sup>, John S Iazo<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院, <sup>2)</sup>名古屋市立大学臨床分子内科学教室, <sup>3)</sup>University of Pittsburgh, Department of Pharmacology): 前立腺癌細胞におけるCdc25抑制剤投与によるErk Kinase活性化及びその意義. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 3) 小栗鉄也<sup>1)</sup>, 根本 勺<sup>2)</sup>, John S Iazo<sup>3)</sup>, 佐藤滋樹<sup>1)</sup>, 上田龍三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>名古屋市立大学臨床分子内科学, <sup>2)</sup>北村山公立病院, <sup>3)</sup>ピッツバーグ大学薬理学): 肺癌細胞株におけるanti-BPDEによるCdc25Bの発現誘導. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- (9) 口演:
- 1) 松沢一郎, 近藤幸尋, 三浦剛史, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 西村泰司(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科, <sup>2)</sup>第二病院泌尿器科): 腹腔鏡下副腎切除術の妊婦クッシング症候群に対する有用性. 第17回Endourology and ESWL学会総会, 2003. 11.

## [ 第二病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科では、尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石、排尿障害を中心に診療・研究を行っているが、特筆すべきものを以下に示す。

1) 浸潤性膀胱癌に対し臨床的には根治的経尿道的腫瘍切除術と骨盤内動脈化学療法を行い、膀胱温存の可能性について検討している。基礎的には表在性膀胱癌の治療・再発予防に用いられる、塩酸ピラルピシンの癌細胞内への取り込みの検討より癌と正常組織の内視鏡下鑑別診断に臨床応用している。さらにブタを用いた基礎実験を行い、細径プローブ超音波による膀胱の正常構造を同定し、今までの画像診断では困難であった正確な膀胱癌の深達度診断に応用すると共に、細径プローブ超音波と内視鏡が一体となった超音波膀胱鏡を開発し、臨床応用している。

2) 前立腺癌の正診率を高めるために超音波パワードブラ法を採用している。限局性前立腺癌に対しては、本邦で先端をいっている腹腔鏡下前立腺全摘除術を行い開腹術との比較検討を行っている。局所進行性前立腺癌に対しては、ネオアジュバント療法としてホルモンと化学療法を併用し根治性の向上を図っている。基礎的には前立腺操作におけるPSA molecular formの変動を解析し悪性と良性の鑑別が可能か否か検討を加えている。

3) 腎細胞癌に対して腹腔鏡下腎摘除術ならびに腎温存手術を積極的に行い、進行性のものに対しては、免疫療法を行い治療成績について検討している。

4) 腎結石ならびに尿管結石に対して、体外衝撃波結石破砕術および内視鏡手術による臨床的検討を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 堀内和孝：ここが聞きたい産婦人科外来における対処と処方 IV 感染症 膀胱炎 77 間質性膀胱炎の鑑別方法と処方を教えてください。臨床産婦人科 2003；57(4)：572-573。
- 2) 堀内和孝：ここが聞きたい産婦人科外来における対処と処方 IV 感染症 78 難治性で再発を繰り返す膀胱炎の鑑別診断と処方について教えてください。臨床産婦人科 2003；57(4)：575-578。
- 3) 堀内和孝：前立腺肥大症に対する 1プロロッカーの上手な使いかた。Medical Practice 2003；20(4)：691-691。

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 佐藤三洋，三浦剛史<sup>1)</sup>，斉藤友香<sup>2)</sup>，西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科学，<sup>2)</sup>千葉北総病院泌尿器科)：CNSループスに認められた排尿障害の1例。第79回千葉泌尿器科集談会，2003。6。
- 2) 鈴木憲康<sup>1)</sup>，板倉剛志<sup>1)</sup>，野本恵子<sup>1)</sup>，新宅孝征<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>，坪井成美(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室)：当院におけるニューキノロン耐性淋菌の検出状況について(第1報)。第71回日本医科大学医学会総会，2003。9。
- 3) 内木場拓史，堀内和孝，坪井成美，大秋美治<sup>1)</sup>，西村泰司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部，<sup>2)</sup>泌尿器科学)：pirarubicin hydrochloride (THP)を用いた膀胱上皮内癌の局所診断法。17th Congress of the Japanese Society of Endourology and ESWL，2003。11。
- 4) 佐藤三洋，鈴木康友<sup>1)</sup>，斉藤友香<sup>1)</sup>，本田了<sup>2)</sup>，西村泰司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科，<sup>2)</sup>泌尿器科)：前立腺操作によるPSA変動の検討。第80回千葉泌尿器科集談会，2003。12。
- 5) 三浦剛史<sup>1)</sup>，本田了<sup>1)</sup>，佐藤三洋，松沢一郎<sup>1)</sup>，濱崎務<sup>1)</sup>，西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科)：診断が困難であった腹腔鏡下腎部分切除後腎嚢胞の1例。第80回千葉泌尿器科集談会，2003。12。
- 6) 田中裕子<sup>1)</sup>，石井策史<sup>1)</sup>，沼澤和夫，中本安<sup>1)</sup>，西山敬介<sup>2)</sup>，青柳昭彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>吉祥寺あさひ病院，<sup>2)</sup>日本赤十字医療センター腎臓内科，<sup>3)</sup>同循環器内科)：薬剤性の完全房室ブロックを来した長期維持透析患者の1例。第

## [ 多摩永山病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科は開設して15年になるが研究業績の主なものは次のようなものである．

前立腺肥大症：前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は1984年に開始して以来2000例を超えている．本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である．

最近，切除を行わないで生食水を灌流液として使用し，経尿道的に腺腫を剥離し膀胱に脱落させ，これを吸引摘出す経尿道的剥離摘出術を世界に先がけて開始した．この術式を用いたPSAの研究を続けている．

前立腺癌：平岡式経尿道的前立腺剥離切除術（剥離TURP）は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある．この特徴を生かして，内腺を完全切除したあと，外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した．これにより，前立腺癌偶発癌の見落としが一番少ない方法であり，外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている．最近では早期前立腺癌に対して，輸血を必要としない会陰式根治的前立腺全摘除術と最近では腹腔鏡下前立腺全摘除術や鏡視下小切開（2～3横指）前立腺全摘除術を施行している．断端陽性例に対しては放射線療法を行っている．

膀胱癌：進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては 組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている．最近，治療としては，組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCDDPと放射線照射との併用治療を行っている．

腎細胞癌：腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し，インターフェロンを動注し，腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている．3～6ヶ月後に腫瘍核出術，腎部分切除術か腎摘出術を行っている．今までの研究では，9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている．

副腎・腎腫瘍：副腎，腎腫瘍に対して腹腔鏡下摘出手術を行っている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著：

- 1) Abe H, Nishimura T<sup>1)</sup>, Asoh S<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Urology, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine ): Expression of Bcl-2 on leukocytes in prostatic fluid from patients with acute and chronic prostatitis . J Infect Chemother 2003 ; 9 ( 2 ): 156-159 .
- 2) Zuo W, Hiraoka Y : Prostate-Specific Antigen Levels and Density in the Internal and External Glands of the Prostate in Benign Prostatic Hyperplasia Patients with Normal or Gray-Zone PSA levels . Urol Int 2003 ; 71 ( 2 ): 154-159 .
- 3) Abe H, Nishimura T<sup>1)</sup>, Norose Y<sup>2)</sup>, Aoto T<sup>3)</sup>, Ohzuka H<sup>4)</sup>, Ohkuni H<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Urology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Central Laboratory, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Clinical Laboratory, Medica Japan Co. Ltd. ): Frequency of alternation in the GyrA subunit of DNA gyrase and the ParC subunit of topoisomerase IV in 19 clinical isolates of *Neisseria gonorrhoeae* in Tokyo in 2002 . J Infect Chemother 2003 ; 9 ( 4 ): 310-313 .



## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 阿部裕行, 清水有二, 平岡保紀: DVC 処理を行った根治的会陰式前立腺摘除術. 第68回日本泌尿器科学会東部総会, 2003. 10.

### (2) 一般講演:

- 1) 阿部裕行, 平岡保紀, 清水有二: 把持鉗子とスネアーを用いた膀胱腫瘍切除術と膀胱生検の検討. 第91回日本泌尿器科学会総会, 2003. 4.
- 2) 平岡保紀, 左 維, 阿部裕行, 高橋洋文, 清水有二, 岩本和矢, 沼沢和夫, 藤田和明, 伊藤 博, 服部智任: PSA 正常BPH群と gray zone BPH 群における内腺および外腺の PSA 分泌量と density 計測の試み. 第91回日本泌尿器科学会総会, 2003. 4.
- 3) 平岡保紀, 阿部裕行, 清水有二: gray zone 値前立腺肥大症における内腺および外腺の PSA 分泌量と density 測定の意味. 第66回多摩泌尿器科医会, 2003. 6.
- 4) 平岡保紀, 阿部裕行, 清水有二, 高橋洋文, 岩本和矢, 沼沢和夫, 伊藤 博, 服部智任: 前立腺肥大症に対する TURP 法での切除残存量の検討. 第68回日本泌尿器科学会東部総会, 2003. 10.
- 5) 阿部裕行, 清水有二, 平岡保紀: DVC 処理を行った会陰式前立腺摘除術. 第69回多摩泌尿器科医会, 2003. 11.

## [ 千葉北総病院泌尿器科 ]

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Kondo Y<sup>1)</sup>, Matsuzawa I<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Tsuboi N, Horiuchi K<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Nishimura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ): laparoscopic radical prostatectomy: initial 30-case experience. international journal of Oncology 2003; 312-316.

## 学会発表

### [ 2002 年度追加分 ]

#### 一般講演:

- 1) 齋藤友香, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 鈴木康友, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 富田祐二<sup>1)</sup>, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 長谷川潤<sup>2)</sup>, 沖 守<sup>2)</sup>, 本田 了<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> はせがわ病院, <sup>3)</sup> 勝楽堂病院 ): 排尿障害を主訴とした長大な尿管ポリープの1例. 第560回日本泌尿器科学会東京地方会, 2003. 3.

#### (1) 一般講演:

- 1) 佐藤三洋, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 齋藤友香, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科 ): CNS ループスに認められた排尿障害の1例. 第79回千葉泌尿器科集談会, 2003. 6.
- 2) 鈴木憲康<sup>1)</sup>, 板倉剛史<sup>1)</sup>, 野本恵子<sup>1)</sup>, 新宅孝征<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 坪井成美 ( <sup>1)</sup> 第二病院中央検査室 ): 当院におけるニューキノロン耐性淋菌の検出状況について ( 第1報 ). 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 3) 内木場拓史<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 坪井成美, 大秋美治<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup> 付属病院泌尿器科 ): pirarubicin hydrochloride ( THP ) を用いた膀胱上皮内癌の局所診断法. 17th Congress of the Japanese Society of Endourology and ESWL, 2003. 11.
- 4) 佐藤三洋, 鈴木康友, 齋藤友香, 本田 了<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科 ): 前立腺操作による PSA 変動の検討. 第80回千葉泌尿器科集談会, 2003. 12.
- 5) 三浦剛史<sup>1)</sup>, 本田 了<sup>1)</sup>, 佐藤三洋, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科 ): 診断が困難であった腹腔鏡下腎部分切除後腎嚢胞の1例. 第80回千葉泌尿器科集談会, 2003. 12.

## 16. 眼科学講座

### [ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ]

#### 研究概要

ぶどう膜炎関係の臨床研究(大原)は、眼サルコイドーシスの診断に関する疫学的な研究を中心に継続して行われた。全身的なサルコイドーシスの診断基準とは違う視点での診断方針の必要性を提唱するもので、原著として現時点での集大成を発表した。

角膜関係では、角膜移植における免疫特権に関する研究(堀)が精力的に継続された。また、それから発展して神経幹細胞移植に関する免疫学的研究(堀)も行われている。また、白内障手術の合併症である感染性眼内炎予防としてのオゾン水使用につき、角膜内皮障害の観点から検討した(高橋)。同様の観点から超音波白内障手術における障害因子であるフリーラジカルの発生と内皮障害の関係につき継続的に検討を重ねた(高橋)。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Matsui H, Lin LR<sup>1)</sup>, Ho YS<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> University of Michigan): The effect of up - and downregulation of MnSOD enzyme on oxidative stress in human lens epithelial cells. Invest Ophthalmol Vis Sci 2003; 44 (8): 3467-3475.
- 2) 大原國俊, 山口恵子, 中嶋花子, 東 永子, 村野奈緒, 志和利彦, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 高橋卓夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第4): 気管支肺胞洗浄が追加されたサルコイドーシス臨床診断基準改定と眼サルコイドーシス診断. 日サ会誌 2003; 23 (1): 56-56.
- 3) 矢口智恵美, 岩波美陽, 若山かおり, 堀口さおり, 清水暢夫: アテローム様所見を呈した眼瞼扁平上皮癌の1例. 眼臨 2003; 98 (2): 132-134.
- 4) 山口恵子, 中嶋花子, 東 永子, 高橋卓夫<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 大原國俊 (<sup>1)</sup>内科学第4): サルコイドーシス診断基準による眼サルコイドーシスの診断. 日眼 2003; 108 (2): 98-102.
- 5) 中元兼二, 安田典子<sup>1)</sup>, 南野麻美<sup>1)</sup>, 紀平弥生<sup>1)</sup>, 村井恵子<sup>1)</sup>, 福田 匠<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京警察病院): 正常眼圧緑内障におけるラタノプロストの眼圧日内変動に及ぼす効果. 日眼会誌 2003; 107 (9): 530-534.

##### (2) 綜説:

- 1) 吉野健一: オルソケラトロジー, 屈折矯正メカニズムと処方原理. 日本コンタクトレンズ学会誌 2003; 45 (5): 227-232.
- 2) 大原國俊: ぶどう膜炎. 東京都医師会雑誌 2003; 56 (6): 34-39.
- 3) 吉野健一: 屈折矯正法の正しい選択「Orthokeratology」. 眼科診療プラクティス 2003; 6 (6): 130-134.
- 4) 志和利彦, 大原國俊: 眼サルコイドーシスの治療. 日本胸部臨床 2003; 62 (7): 598-607.
- 5) 大原國俊: サルコイドーシスの眼病変. Visual Dermatology 2003; 2 (10): 1072-1078.
- 6) 吉野健一: オルソケラトロジーにおけるトラブルについて教えて下さい. あたらしい眼科 2003; 20 (13): 173-178.

##### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 五十嵐勉: 眼疾患への遺伝子治療. 第8回 Tokyo Ocular Surface Forum, 2003. 5.

- 2) 堀 純子：神経幹細胞移植に拒絶反応はあるのか？．東京大学茶話会，2003．9．
- 3) 高橋 浩：超音波発振中のラジカル発生，粘弾性物質のもう1つの効果．第18回Cornea and Ocular Surface Seminar in Tokyo，2003．11．
- 4) 堀 純子：眼類天水疱瘡と眼表面ヘルペスの合併例：臨床病態の主役はどちらか？．第12回眼感染症セミナー，2003．11．
- 5) 小出良平<sup>1)</sup>，杉田 達，戸塚伸吉<sup>2)</sup>，木村亮二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大，<sup>2)</sup>とつか眼科，<sup>3)</sup>福岡大)：いかにして白内障術後眼内炎を予防するか，また眼内炎の治療はどのようにすれば良いか．第27回日本眼科手術学会，2004．2．
- 6) 高橋 浩：角膜上皮疾患治療の進歩．第5回城東地区眼科疾患研究会，2004．2．

(2) シンポジウム：

- 1) 吉野健一：オルソセラトロジー概論．北海道角膜セミナー，2003．4．
- 2) 志和利彦：日本医大における診療体制と教育システム．第20回関東眼科学会，2003．5．
- 3) 杉田 達：白内障，屈折矯正手術における消毒滅菌方法の工夫．第18回日本眼内レンズ屈折手術学会，2003．6．
- 4) 高橋 浩：オゾン水による前房内洗浄の検討．第18回日本眼内レンズ屈折手術学会，2003．6．
- 5) 吉野健一：オルソセラトロジー概論（治験に先だって）．第1回東京医科大学大学院特別セミナー，2003．7．
- 6) 高橋 浩：超音波発振中の前房内ラジカル発生．第7回眼科手術シンポジウム in 福岡，2003．7．
- 7) 高橋 浩：医療開示時代の手術教育，情報開示時代の白内障手術教育．第27回日本眼科手術学会，2004．2．

(3) セミナー：

- 1) 高橋 浩：見えない角膜内皮障害を見る．第57回日本臨床眼科学会，2003．11．
- 2) 高橋 浩，堀 純子，小原澤英彰，福山 誠<sup>1)</sup>，藤嶋研二，原 優二(<sup>1)</sup>ふくやま眼科)：スキルトランスファー 白内障(2)．第27回日本眼科手術学会，2004．1．

(4) 一般講演：

- 1) Matsuda A：Management of posterior polar cataract operation．ASCRS (San Francisco)，2003．4．
- 2) Wang MC, Ohara K, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Hori J(<sup>1)</sup>病理学第1)：Fate and immunogenicity of allogeneic amniotic epithelium heterotopically transplanted on the ocular surface．ARVO (Florida)，2003．5．
- 3) Yoshida A, Kawashima H, Kaburaki T, Hori J, Numaga J, Fujino Y：Direct confirmation of inoculated antigen associated with APC in the spleen during ACAID induction．ARVO (Florida)，2003．5．
- 4) 堀 純子, Ng Tat F<sup>1)</sup>, Shatos M<sup>1)</sup>, Klassen H<sup>1)</sup>, Streilein J W<sup>1)</sup>, Young Michael J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Schepens Eye Research Institute)：神経幹細胞アログラフトの免疫特権．日本免疫学会総会，2003．12．
- 5) 王 明聡, 堀 純子, 大原國俊, 石崎正通<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1)：眼表面における羊膜上皮細胞の生存能力と免疫原性．第107回日本眼科学会総会，2003．4．
- 6) 五十嵐勉, 倉井年幸, 早川 潤<sup>1)</sup>, 川畑 健<sup>2)</sup>, 三宅弘一<sup>2)</sup>, 石橋正通<sup>3)</sup>, 高橋 浩, 大原國俊, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学,<sup>2)</sup>生化学第2,<sup>3)</sup>病理学第1)：新生児血管内移植細胞の網膜への遊走と分化．第107回日本眼科学会総会，2003．4．
- 7) 堀 純子, 大原國俊, 藤森英樹, 竹森利忠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症研究所免疫)：角膜アログラフトの長期生着と拒絶に關する抗原．第107回日本眼科学会総会，2003．4．
- 8) 吉田 淳, 川島秀俊, 蕪城俊克, 堀 純子, 沼賀二郎, 藤野雄次郎：前房関連免疫偏位誘導における脾臓とリンパ節での抗原の証明と半定量的解析．第107回日本眼科学会総会，2003．4．
- 9) 高橋 浩, 藤本千明, 松井洋法, 五十嵐勉, 大原國俊：オゾン水による角膜内皮細胞障害性の検討．第107回日本眼科学会総会，2003．4．
- 10) 北原由紀, 中山滋幸：両眼同時に視力低下した蝶型骨洞嚢腫の1例．第20回関東眼科学会，2003．5．
- 11) 矢口智恵美, 岩波美陽, 堀口さおり, 若山かおり, 清水暢夫：アテローム様所見を呈した上眼瞼扁平上皮癌の1例．第20回関東眼科学会，2003．5．

- 12) 片桐有葉, 小原澤英彰, 堀 純子, 廣瀬敦視, 大原國俊: 植物のトゲによる穿孔性角膜外傷後, 遅発性真菌性眼内炎を発症した1例. 第111回日本医大眼科症例検討会, 2003. 6.
- 13) 川村邦彦, 堀 純子, 高橋 浩, 大原國俊: 鈍的外傷後の角膜多局所における内皮細胞変化. 第111回日本医大眼科症例検討会, 2003. 6.
- 14) 丹吳英介, 高橋 浩, 加藤美穂, 志和利彦, 大原國俊: PKP+ECCE, IOL二次挿入後にARNを疑った1例. 第111回日本医大眼科症例検討会, 2003. 6.
- 15) 松田章男<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 明生堂アイクリニック新潟市): 後極部白内障の手術経験. 第42回日本白内障学会・第18回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2003. 6.
- 16) 村上順子<sup>1)</sup>, 杉田 達(<sup>1</sup> 達洋会杉田眼科): 同一MKブレード両眼使用時のフラップ厚と使用後のブレード表面の検討. 第42回日本白内障学会・第18回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2003. 6.
- 17) 廣瀬敦視, 志和利彦, 松井洋法, 小原澤英彰, 大原國俊, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>2)</sup>, 高島良子<sup>3)</sup>(<sup>1</sup> 電子顕微鏡, <sup>2</sup> 病理学第1, <sup>3</sup> 日本電子): 含水性アクリル眼内レンズ挿入術後に混濁を来たした1症例. 第42回日本白内障学会・第18回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2003. 6.
- 18) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩, 大原國俊, 高橋圭三<sup>1)</sup>, 大木孝太郎<sup>2)</sup>(<sup>1</sup> 浮之城眼科, <sup>2</sup> 大木眼科): 角膜内皮細胞障害の新評価法stress indexの使用経験. 第42回日本白内障学会・第18回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2003. 6.
- 19) 堀 純子: 眼のImmune Privilege: 移植免疫におけるFas Ligandの役割. 第13回日本医科大学感染免疫アレルギー研究会, 2003. 6.
- 20) 堀 純子, Tat Fong N<sup>1)</sup>, Marie S<sup>1)</sup>, Henry K<sup>1)</sup>, J Wayne S<sup>1)</sup>, Michael J Y<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> ハーバード大眼科スケペンズ眼研究所): 神経幹細胞の免疫原性と免疫特権. 第37回日本眼炎症学会, 2003. 7.
- 21) 吉野健一: - 4.0D以下の近視眼に対するLASIK後とオルソケラトロジー後の視機能の比較. 第46回日本コンタクトレンズ学会, 2003. 7.
- 22) 中元兼二, 安田典子<sup>1)</sup>, 南野麻美<sup>1)</sup>, 福田 匠<sup>1)</sup>, 深澤あゆみ<sup>1)</sup>, 金 明淑<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 東京警察病院): 正常眼圧緑内障の眼圧日内変動におけるラタノプロストとプリンゾラミドの併用効果. 第14回日本緑内障学会, 2003. 9.
- 23) 廣瀬敦視, 志和利彦, 松井洋法, 小原澤英彰, 大原國俊, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>2)</sup>, 高島良子<sup>3)</sup>(<sup>1</sup> 日本医科大学中央電子顕微鏡施設, <sup>2</sup> 同病理学第1, <sup>3</sup> 日本電子株式会社応用研究センター): 含水性アクリル眼内レンズ挿入術後に混濁を来たした1症例. 第112回日本医大眼科症例検討会, 2003. 9.
- 24) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩, 大原國俊, 高橋圭三<sup>1)</sup>, 大橋孝太郎<sup>2)</sup>(<sup>1</sup> 浮之城眼科, <sup>2</sup> 大木眼科): 角膜内皮障害の新評価法stress indexの使用経験. 第112回日本医大眼科症例検討会, 2003. 9.
- 25) 若山かおり, 岩波美陽, 矢口智恵美, 清水暢夫: 網膜血管腫に合併した網膜剥離の1例. 第112回日本医大眼科症例検討会, 2003. 9.
- 26) 高橋 浩, 坂本篤弘<sup>1)</sup>, 棒村重人<sup>2)</sup>(<sup>1</sup> 麻酔科学, <sup>2</sup> 東京歯科大学): 超音波乳化吸引術に伴う前房内フリーラジカルと粘弾性物質の効果. 第69回日本中部眼科学会・第100回中国四国眼科学会合同学会・第14回眼科酸化ストレス研究会, 2003. 10.
- 27) 松井洋法, 小原澤英彰, 廣瀬敦視, 志和利彦, 大原國俊, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐々木義広<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>2)</sup>, 高島良子<sup>3)</sup>(<sup>1</sup> 日本医科大学中央電子顕微鏡施設, <sup>2</sup> 同病理学第1, <sup>3</sup> 日本電子株式会社応用研究センター): 白内障手術後に混濁をきたした含水性アクリル眼内レンズの電子顕微鏡観察. 第35回日本電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 28) 加藤美穂, 高橋 浩, 丹吳英介, 志和利彦, 大原國俊: 全層角膜移植後に桐沢型ぶどう膜炎が疑われた1例. 第57回日本臨床眼科学会, 2003. 10.
- 29) 川村有葉, 小原澤英彰, 堀 純子, 廣瀬敦視, 川村邦彦, 志和利彦, 大原國俊: 植物による角膜穿孔後の遅発性真菌性眼内炎の1症例. 第57回日本臨床眼科学会, 2003. 10.

- 30) 加藤宗彦, 志和利彦, 植村研一: 外来診療における電子カルテを用いた POMR. 第 57 回日本臨床眼科学会, 2003. 11.
- 31) 松井洋法, 堀 純子, 中嶋花子, 大原國俊: ステロイドパルス療法が奏功した Hayreh2 型乳頭血管炎の 1 症例. 第 57 回日本臨床眼科学会, 2003. 11.
- 32) 郡司桂子, 堀 純子, 小原澤英彰, 志和利彦, 大原國俊: MEWDS 様の眼底所見を示したサルコイドーシス疑いの 1 症例. 第 57 回日本臨床眼科学会, 2003. 11.
- 33) 杉田 達, 三村 治<sup>1)</sup>, 井出 醇<sup>2)</sup>, 小林 真<sup>3)</sup>, 江木東昇<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>兵庫医大, <sup>2)</sup>井出眼科病院, <sup>3)</sup>小林眼科医院, <sup>4)</sup>江木眼科): 炭酸ガスレーザーを用いた出欠の少ない眼瞼手術. 第 57 回日本臨床眼科学会, 2003. 11.
- 34) 厚見由紀子, 高橋 浩, 鈴木久晴, 堀 純子, 大原千佳, 大原國俊: 内頸動脈狭窄に伴う眼虚血性症候群の 1 例. 第 113 回日本医大眼科症例検討会, 2003. 12.
- 35) 藤井博明, 丹吳英介, 秋庭幹生, 新井江里子, 加藤美穂, 中山滋章: 視力, 視野障害で発症した松果体腫瘍の 1 例. 第 113 回日本医大眼科症例検討会, 2003. 12.
- 36) 堀 純子, 鈴木久晴, 王 明聡, 大原國俊, 新見やよい<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): 眼類天疱瘡とヘルペス角膜炎の合併例. 第 113 回日本医大眼科症例検討会, 2003. 12.
- 37) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩, 大原國俊, 高橋圭三<sup>1)</sup>, 大木孝太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>浮之城眼科, <sup>2)</sup>大木眼科): 角膜内皮障害の新評価法 stress index を用いた術者間と粘弾性物質間の比較. 第 27 回日本眼科手術学会, 2004. 2.
- 38) 村野奈緒, 堀 純子, 王 明聡, 大原國俊, 竹森利忠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症研究所・免疫部): 角膜への骨髄細胞の遊走. 第 28 回角膜カンファランス, 2004. 2.
- 39) 堀 純子, 王 明聡, 村野奈緒, 竹森利忠<sup>1)</sup>, 東みゆき<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症研究所・免疫部, <sup>2)</sup>東京医歯大学分子免疫): 角膜アログラフト着生における Programmed Death Ligand 1 (B7-H1) の役割. 第 28 回角膜カンファランス, 2004. 2.
- 40) 藤田美穂, 高橋 浩, 五十嵐勉, 倉井年幸, 大原國俊, 坂根 学, 吉野槇一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>リウマチ科): ドライアイの重症度と慢性関節リウマチの活動性の相関関係. 第 28 回角膜カンファランス, 2004. 2.
- 41) 鈴木久晴, 堀 純子, 王 明聡, 大原國俊, 新見やよい<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): 水疱性類天疱瘡に眼類天疱瘡とヘルペス角膜炎を合併した 1 例. 第 28 回角膜カンファランス, 2004. 2.
- 42) 王 明聡, 堀 純子, 大原國俊: アロ抗原感作宿主における羊膜アログラフトの拒絶反応. 鳥取, 平成 16 年 2 月 20 日 (抄録集 P. 106). 第 28 回角膜カンファランス, 2004. 2.
- 43) 田嶋友子, 小原澤英彰, 志和利彦, 高橋 浩: 保存的治療で治癒した眼内炎の 1 例. 第 114 回日本医大眼科症例検討会, 2004. 3.
- 44) 藤田美穂, 高橋 浩, 五十嵐勉, 倉井年幸, 大原國俊, 坂根 学<sup>1)</sup>, 吉野槇一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第 2, <sup>2)</sup>リウマチ科): ドライアイの重症度と慢性関節リウマチの活動性の相関関係. 第 114 回日本医大眼科症例検討会, 2004. 3.
- 45) 丹吳英介, 清水暢夫, 若山かおり, 矢口智恵美, 岩波美陽: 小口病の 1 例. 第 114 回日本医大眼科症例検討会, 2004. 3.

## [ 千葉北総病院眼科 ]

### 研究概要

教室員全員で, 白内障手術適応の基準に関する臨床研究を行った. また, 裂孔原生網膜剥離の手術成績に関する臨床研究を行った. また, 斜視・弱視外来で斜視患者の臨床研究を行った.

基礎研究では, 茨木教授, 後藤医局長を中心に, 水晶体上皮細胞の培養実験で, 白内障, 後発白内障の成因, 予防, 治療法開発の研究を行った. 種元助手を中心に, 水晶体上皮細胞の細胞周期に関する基礎研究を行った.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Aota S<sup>1)</sup>, Nakajima N<sup>1)</sup>, Sakamoto R<sup>1)</sup>, Watanabe S<sup>1)</sup>, Ibaraki N, Okazaki K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Biomolecular Engineering Research Institute (BERI)): Pax6 autoregulation mediated by direct interaction of Pax6 protein with the head surface ectoderm-specific enhancer of the mouse Pax6 gene. *Developmental Biology* 2003; 257(1): 1-13.
- 2) Goto Y, Ibaraki N, Miyake K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Miyake Eye Hospital): Human lens epithelial cell damage and stimulation of their secretion of chemical mediators by benzalkonium chloride rather than latanoprost and timolol. *Arch Ophthalmol* 2003; 121(6): 835-839.
- 3) Miyake K<sup>1)</sup>, Ibaraki N, Goto Y, Oogiya S<sup>1)</sup>, Ishizaki J<sup>1)</sup>, Ota I<sup>1)</sup>, Miyake S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Miyake Eye Hospital): ESCRS Binkhorst Lecture 2002: Pseudophakic preservative maculopathy. *J Cataract Refract Surg* 2003; 29(9): 1800-1810.
- 4) 横山恭典, 後藤陽子, 種元桂子, 薄木玲子<sup>1)</sup>, 佐治 守<sup>1)</sup>, 茨木信博(<sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科): 防腐剤非添加緑内障点眼薬の点眼瓶の汚染. *臨眼* 2003; 57(4): 487-490.
- 5) 佐治 守<sup>1)</sup>, 薄木玲子<sup>1)</sup>, 茨木信博, 葉山修陽<sup>2)</sup>, 大園英一<sup>2)</sup>, 大國寿士<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>同内科学第2, <sup>3)</sup>春日部秀和第二病院腎臓内科, <sup>4)</sup>メディカジャパン総研): 点眼薬の防腐剤としての塩化ベンザルコニウムの抗菌力についての検討. *医療薬学* 2003; 29(3): 341-345.
- 6) 茨木信博: 白内障薬物治療法のエビデンス. *医学のあゆみ* 2003; 207(2): 139-141.

#### (2) 総説:

- 1) 茨木信博: 白内障の疫学. *眼科* 2003; 45(5): 725-731.
- 2) 茨木信博: 白内障治療をめぐる問題点. *日本白内障学会誌* 2003; 15(1): 25-28.
- 3) 茨木信博: 白内障: 予防と治療のエビデンス. *日本医事新報* 2003; (4148): 9-12.

### 学会発表

#### (1) 特別講演:

- 1) 茨木信博: 外来における白内障のマネージメント. 茨城県眼科医会学術講演会, 2003. 3.
- 2) 茨木信博: 白内障のマネージメント. 山梨眼科医会学術講演会, 2004. 2.

#### (2) 教育講演:

- 1) 茨木信博: 白内障の治療. 第43回日本白内障学会, 2004. 3.

#### (3) シンポジウム:

- 1) 茨木信博: 水晶体上皮細胞培養のコツ「水晶体研究の実際」. 第42回日本白内障学会, 2003. 6.
- 2) 茨木信博: 薬物療法「白内障診療ガイドライン」. 第42回日本白内障学会, 2003. 6.
- 3) 茨木信博: 水晶体上皮細胞の細胞周期「水晶体上皮細胞の増殖と抑制: 後発白内障征服をめざして」. 第57回日本臨床眼科学会, 2003. 10.

#### (4) 一般講演:

- 1) 種元桂子, 後藤陽子, 横山恭典, 上玉麻子, 鈴村幸史, 茨木信博: 光凝固術により視力の改善が得られた脈絡膜骨腫の1例. 第111回日本医大眼科症例検討会, 2003. 6.
- 2) 種元桂子, 後藤陽子, 茨木信博, 佐藤健士<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京理科大学理工学部応用生物科学科): ヒト水晶体上皮細胞におけるグルコシルコイドレセプターの分子生物学的検索. 第42回日本白内障学会, 2003. 6.
- 3) 石井貴士<sup>1)</sup>, 小佐野博史<sup>1)</sup>, 西郡秀夫<sup>1)</sup>, 茨木信博(<sup>1)</sup>帝京大学薬学部薬物治療学教室): 水晶体上皮細胞が分泌するマトリクスメタプロテイナーゼについて. 第23回日本眼薬理学会・第14回国際眼研究会議日本部会合同

会議，2003．9．

- 4) 種元桂子，後藤陽子，茨木信博：ATP拮抗型阻害化合物（Olomoucine）による水晶体上皮細胞の増殖抑制効果の検討．第57回日本臨床眼科学会，2003．10．
- 5) 後藤陽子，種元桂子，横山恭典，上玉麻子，鈴村幸史，茨木信博，増淵美恵子，前田容子：日帰り白内障手術クリニカルパスの使用経験．第57回日本臨床眼科学会，2003．10．
- 6) 鈴村幸史，種元桂子，上玉麻子，横山恭典，後藤陽子，茨木信博：千葉北総病院における裂孔原生網膜剥離手術の現状．第113回日本医大眼科症例検討会，2003．12．
- 7) 後藤陽子，種元桂子，茨木信博：COX2阻害剤によるヒト水晶体上皮細胞のPGE2産生抑制．第43回日本白内障学会・第30回水晶体研究会合同学会，2004．3．
- 8) 上玉麻子，種元桂子，後藤陽子，横山恭典，鈴村幸史，茨木信博：白内障手術基準に関する検討．第43回日本白内障学会・第30回水晶体研究会合同学会，2004．3．
- 9) 石井貴士<sup>1)</sup>，小佐野博史<sup>1)</sup>，西郡秀夫<sup>1)</sup>，茨木信博，綾木雅彦<sup>2)</sup>，谷口重雄<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>帝京大学薬学部薬物治療学，<sup>2)</sup>昭和大学藤が丘病院眼科）：水晶体上皮細胞におけるマトリクスメタプロテイナーゼ（MMPs）について．第43回日本白内障学会・第30回水晶体研究会合同学会，2004．3．

## 17. 麻酔科学講座

### [ 付属病院麻酔科 ]

#### 研究概要

本年度の研究テーマは、麻酔科学全般のみならず、医療安全管理、手術部管理、医療ガス管理と多岐に及んだ。本教室のメインテーマであるショックの病態と治療、手術侵襲機序の解明と対策、心臓麻酔、体液代謝管理、疼痛管理とペインクリニック、外科系集中治療と呼吸管理については継続的に研究が行われている。本年度の主な研究内容を以下に示す。

基礎的研究：(1) 組織環流モデルにおけるサイトカイン、麻酔薬の検討、(2) ショックモデルにおける抗ショック薬、ガス状メチエンの検討、(3) 細胞培養による麻酔薬、フリーラジカルの検討、(4) パッチクランプによる呼吸中枢、麻酔機序の検討、(5) ニューロパーシックペインモデルによる内因性鎮痛物質の検討、(6) PCR, microarrayによるショック、麻酔薬の検討など。

臨床的検討：(1) ショック患者における病態生理と麻酔管理、(2) 外科的侵襲防御管理、(3) 周術期循環動態解析、(4) 心疾患患者の周術期管理と心臓麻酔、(5) 周術期の体液代謝管理、(6) 外科系集中治療と非侵襲的呼吸管理、(7) ペインクリニックにおける新たな鎮痛対策、(8) 日帰り麻酔の安全管理、(9) 手術部安全管理、(10) 医療ガス安全管理など。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Sato R, Kitamura A : Alterations in ATP-sensitive potassium channel sensitivity to ATP in failing human hearts . Jpn J Electrocardiology ( 心電図 ) 2003 ; 23 ( 2 ): S-3-40-S-3-52 .
- 2) Oshima M<sup>1)</sup>, Inagi T<sup>1)</sup>, Yokoyama K<sup>1)</sup>, Kikutani T<sup>1)</sup>, Shimada Y<sup>1)</sup>, Ogawa R, Daniel LM<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院麻酔科, <sup>2)</sup> Department of Neurology, University of Tennessee, Memphis, USA ): Pregnancy-related increases in sensory perception thresholds are not correlated with serum progesterone . Pain Practice 2003 ; 3 ( 2 ): 120-124 .
- 3) Oshima M<sup>1)</sup>, Shimada Y<sup>1)</sup>, Sakamoto A, Ogawa R ( <sup>1)</sup> 第二病院麻酔科 ): Anesthetic Management for a Patient with Wolff-Parkinson-White Syndrome undergoing Tonsillectomy . Circulation Control 2003 ; 24 ( 2 ): 155-156 .
- 4) Sakamoto A, Nishikawa K, Ogawa R : Different effects of inhalation anesthetics on calcium homeostasis in the cardiac muscle of isolated working rat hearts . Biomedical Research 2003 ; 24 ( 3 ): 141-146 .
- 5) Wajima Z<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>2)</sup>, Yoshikawa T<sup>3)</sup>, Ogura A<sup>1)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Center for Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundation, Ohio, USA, <sup>3)</sup> Department of Anesthesia, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School ): Effect of prophylactic bronchodilator treatment with intravenous colforsin daropate, a water-soluble forskolin derivative, on airway resistance after tracheal intubation . Anesthesiology 2003 ; 99 ( 1 ): 18-26 .
- 6) Takeda S, Matsumura J, Ikezaki H, Kim C, Sato N, Nakanishi K, Sakamoto A, Ogawa R, Tanaka K : Milrinone improves lung compliance in patients receiving mechanical ventilation for cardiogenic pulmonary edema . Acta Anaesthesiol Scand 2003 ; 47 ( 6 ): 714-719 .



- 7) Shiga T<sup>1)</sup>, Wajima Z<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital ): Nitrous oxide produces minimal hemodynamic changes in propofol-based anesthetic : Anesophageal Doppler study . Canadian Journal of Anesthesia 2003 ; 50 ( 7 ) : 649-652 .
- 8) Sawaizumi T<sup>1)</sup>, Sakamoto A , Ito H<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 整形外科学 ): Injury of superficial radial nerve on the wrist joint induced by intravenous injection . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 4 ) : 355-359 .
- 9) Wajima Z<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>2)</sup>, Yoshikawa T<sup>3)</sup>, Ogura A<sup>1)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Center for Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundation, Cleveland, Ohio, USA , <sup>3)</sup> Department of Anesthesia, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School ): Intravenous Alprostadil, an Analog of Prostaglandin E<sub>1</sub>, Prevents Thiomylyl-fentanyl-induced Bronchoconstriction in Humans . Anesthesia and Analgesia 2003 ; 97 ( 2 ) : 456-460 .
- 10) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>2)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Yale University, USA ): Propofol alone, sevoflurane alone, and combined propofol-sevoflurane anesthesia in electroconvulsive therapy . Anesthesia and Intensive Care 2003 ; 31 ( 4 ) : 396-400 .
- 11) Kato N , Nakanishi K , Takeda S , Wajima Z , Inoue T , Yoshino S , Ogawa R : Significance of a tourniquet to prevent thromboembolism during total knee arthroplasty as assessed by transesophageal echocardiography . Anesthesiology 2003 ; 99 ( 2 ) : 512-513 .
- 12) Shiga T<sup>1)</sup>, Wajima Z<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital ): Survey of observer variation in transesophageal echocardiography : comparison of anesthesiology and cardiology literature . J Cardiothorac Vasc Anesth 2003 ; 17 ( 4 ) : 430-442 .
- 13) Matsumura J , Sakamoto A , Ogawa R : Transcriptional downregulation of tumor necrosis factor- $\alpha$  gene by early given pentoxifylline : A quantitative demonstration in rats with peritoneal sepsis . Biomedical Research 2003 ; 24 ( 4 ) : 187-194 .
- 14) Masuda R<sup>1)</sup>, Yokoyama K<sup>2)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical school , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Mitsui Memorial Hospital ): Clinical Evaluation of Cervical Pyogenic Spondylitis/Spondylodiscitis Complicated with Stellate Ganglion Block . The Pain Clinic 2004 ; 16 ( 1 ) : 89-96 .
- 15) Maruyama K , Takeda S , Hongo T , Kobayashi N , Kim C , Ogawa R : Oral clonidine premedication exacerbates hypotension following tourniquet deflation by inhibition noradrenaline release . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 1 ) : 44-50 .
- 16) Sakamoto A , Matsumura J , Shimizu J , Ogawa R : Relationship between nitric oxide and carbon monoxide during inflammatory cytokine-induced cardiac depression . Biomedical Research 2004 ; 25 ( 1 ) : 53-60 .
- 17) Akabane H<sup>1)</sup>, Shimada Y<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> 第二病院麻酔科 ): Usefulness of Posturography after Epidural Block . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 1 ) : 35-43 .
- 18) 北村 晶 , 小林克也 , 本郷 卓 , 小川 龍 : 糖尿病性自律神経障害における全身麻酔中の head-up tilt の影響 . 蘇生 2003 ; 22 ( 2 ) : 8-12 .
- 19) 杉本季久造<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 , 増子ハルミ<sup>2)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 第二病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 同中央手術室 ): 医育機関と一般病院での手術症例と麻酔法の変遷 . 日本手術医学会誌 2003 ; 24 ( 3 ) : 244-246 .
- 20) 四維東州 , 北村 晶 , 小川 龍 : 帯状疱疹神経痛治療中に耳鳴 , 立ちくらみ , めまいが改善した 1 症例 . ペインクリニック 2003 ; 24 ( 10 ) : 1175-1176 .
- 21) 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 , 青木孝文<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 皮膚科学 , <sup>2)</sup> 整形外科学 ): 皮膚科領域における反射性交感神経性ジストロフィー ( RSD ) . 日本皮膚科学会雑誌 2003 ; 113 ( 11 ) : 1689-1690 .

22) 金 徹, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>集中治療室): 循環器系合併症の術前評価と術前準備. 臨床麻酔 2003 ; 27 ( 12 ): 1879-1889 .

23) 篁 武郎: 肝脾不和によると考えられる痛み, 不快感を呈した1例. 日本東洋心身医学研究 2004 ; 18 ( 1/2 ): 1-2 .

## (2) 綜説:

1) 坂本篤裕, 竹田晋浩: 麻酔科領域における最近の医療機器. 学会新報 2003 ; 24 ( 10 ): 5-10 .

2) 坂本篤裕: 短時間作用型 遮断薬による循環管理. 現代医療 2003 ; 35 ( 2 ): 1115-1120 .

3) 小川 龍: 医療失敗学の提唱. 麻酔 2003 ; 52 ( 別冊 ): S1-S7 .

4) 宮本正章<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>4)</sup>, 坂本篤裕, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1, <sup>2</sup>形成外科学, <sup>3</sup>放射線医学, <sup>4</sup>外科学第2): 重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞移植血管再生治療の現状. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 5 ): 436-441 .

5) 竹田晋浩: 非侵襲的心拍出量測定モニター NICO ( Non-invasive cardiac output ) の有用性. 循環器情報処理 2003 ; 18 ( 5 ): 109-116 .

6) 宮本正章<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>4)</sup>, 坂本篤裕, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学第1, <sup>2</sup>形成外科学, <sup>3</sup>放射線医学, <sup>4</sup>外科学第2): 難治性疾患への再生医療: 重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞を利用した新しい血管再生治療. 麻酔 2003 ; 52 ( 12 ): 67-75 .

7) 小川 龍: 集中治療医学の過去, 現在, 未来. 日本集中治療医学会雑誌 2004 ; 11 ( 1 ): 1-3 .

8) 小川 龍: ARDSの輸液療法. 医学のあゆみ 2004 ; 152 ( 別冊 ): 334-337 .

9) 坂本篤裕: 医療ガスの現状と展望: 一酸化炭素. 医科器械学 2004 ; 74 ( 3 ): 111-119 .

## (3) 研究報告書:

1) 安藤岳史, 川本雅司<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>2)</sup>, 清水 亨<sup>3)</sup>, 本澤龍生<sup>4)</sup>, 山本 剛<sup>5)</sup>, 大泉 旭<sup>6)</sup>, 森 淳<sup>7)</sup>, 高山守正<sup>8)</sup>, 五十嶋一成<sup>9)</sup>(<sup>1</sup>日本医科大学病理学第1, <sup>2</sup>埼玉医科大学川越医療センター, <sup>3</sup>東部地域病院麻酔科, <sup>4</sup>本澤医院, <sup>5</sup>日本医科大学集中治療室, <sup>6</sup>同 救命救急センター, <sup>7</sup>同 整形外科, <sup>8</sup>同 内科学第1, <sup>9</sup>自衛隊東北方面総監部): 志賀高原ジャイアント診療所における最近の応急診療患者の動向 (日本医科大学山岳医学研究会). J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ): pp618-618 .

2) 滝澤憲一<sup>1)</sup>, 宮田 朗<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 桃井貴裕<sup>3)</sup>, 安藤岳史<sup>1)</sup>, 中村 隆<sup>4)</sup>, 五十嶋一成<sup>5)</sup>(<sup>1</sup>日本医大第4学年, <sup>2</sup>同内科学第1, <sup>3</sup>同第5学年, <sup>4</sup>中村病院, <sup>5</sup>自衛隊東北方面総監部): 中高年登山者における日常トレーニングの実態: 北アルプス山岳診療所の調査報告. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ): pp617-618 .

## 著 書

1) 坂本篤裕: [ 分担 ] 冠動脈疾患患者における心血管作用薬の基礎と投与法: 遮断薬. 麻酔科診療プラクティス10巻「麻酔科医に必要な冠動脈疾患の知識」( 稲田英一編集 ), 2003 ; pp1-262, 文光堂 .

2) 竹田晋浩: [ 分担 ] 経静脈治療オーダーマニュアル. “集中治療CCU” 第2版 ( 和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦 ), 2003 ; pp417-420, メディカルレビュー .

3) 小川 龍: [ 分担 ] 手術部の感度とは? . 手術部看護の新たな展開 ( 日本医科大学付属病院中央手術部編集 ), 2003 ; pp1-13, 真興交易 医書出版部 .

4) 坂本篤裕: [ 分担 ] 序人工呼吸の新たな動向. 最近の人工呼吸法のながれ ( 小川 龍監修, 坂本篤裕, 竹田晋浩編集 ), 2003 ; pp11-13, 真興交易 医書出版部 .

5) 坂本篤裕: [ 分担 ] 第1章人工呼吸の問題点と人工呼吸法の変遷. 最近の人工呼吸法のながれ ( 小川 龍監修, 坂本篤裕, 竹田晋浩編集 ), 2003 ; pp14-51, 真興交易 医書出版部 .

6) 竹田晋浩: [ 分担 ] 最近の人工呼吸管理法の理論と実際 非侵襲的人工呼吸. 最近の人工呼吸法のながれ ( 小川 龍監修, 坂本篤裕, 竹田晋浩編集 ), 2003 ; pp52-72, 真興交易 医書出版部 .

- 7) 竹田晋浩：〔分担〕最近の人工呼吸管理法の理論と実際 高頻度換気．最近の人工呼吸法のながれ（小川 龍監修，坂本篤裕，竹田晋浩編集），2003；pp73-87，真興交易 医書出版部．
- 8) 金 徹：〔分担〕最近の人工呼吸管理法の理論と実際 体位変換人工呼吸．最近の人工呼吸法のながれ（小川 龍監修，坂本篤裕，竹田晋浩編集），2003；pp88-102，真興交易 医書出版部．
- 9) 坂本篤裕：〔分担〕第2章最近の呼吸管理法の理論と実際5節気管ガス送気法（Tracheal Gas Insufflation：TGI）．最近の人工呼吸法のながれ（小川 龍監修，坂本篤裕，竹田晋浩編集），2003；pp116-129，真興交易 医書出版部．
- 10) 金 徹，竹田晋浩：〔分担〕最近の呼吸管理の動向 ALI/ARDS患者に対する人工呼吸．最近の人工呼吸法のながれ（小川 龍監修，坂本篤裕，竹田晋浩編集），2003；pp130-140，真興交易 医書出版部．
- 11) 竹田晋浩：〔分担〕最近の人工呼吸管理の動向 心疾患患者に対する人工呼吸．最近の人工呼吸法のながれ（小川 龍監修，坂本篤裕，竹田晋浩編集），2003；pp141-155，真興交易 医書出版部．
- 12) 坂本篤裕：〔分担〕第4章看護と協同診断：患者管理の基礎知識．手術部看護の新たな展開（日本医科大学付属病院中央手術部編集），2003；pp149-232，真興交易 医書出版部．
- 13) 坂本篤裕：〔分担〕第3章最近の呼吸管理の動向3節周術期人工呼吸．最近の人工呼吸法のながれ（小川 龍監修，坂本篤裕，竹田晋浩編集），2003；pp156-165，真興交易 医書出版部．
- 14) 坂本篤裕：〔分担〕第3章最近の呼吸管理の動向6節心肺蘇生における人工呼吸．最近の人工呼吸法のながれ（小川 龍監修，坂本篤裕，竹田晋浩編集），2003；pp204-212，真興交易 医書出版部．
- 15) 金 徹：〔分担〕症例検討．最近の人工呼吸法のながれ（小川 龍監修，坂本篤裕，竹田晋浩編集），2003；pp213-225，真興交易 医書出版部．
- 16) 池崎弘之：〔分担〕症例検討．最近の人工呼吸法のながれ（小川 龍監修，坂本篤裕，竹田晋浩編集），2003；pp226-235，真興交易 医書出版部．
- 17) 坂本篤裕，竹田晋浩：〔編集〕最近の人工呼吸法のながれ：人工呼吸法の変遷から Non-Invasive Ventilationまで．（小川 龍監修），2003；pp1-238，真興交易 医書出版部．
- 18) 坂本篤裕：〔分担〕医療ガス各論，一酸化炭素（CO）．医療ガスハンドリングマニュアル（小川 龍監修），2003；pp1-326，診断と治療社．
- 19) 北村 晶：〔分担〕医療ガスと診療報酬．医療ガスハンドブックマニュアル（小川 龍編集），2003；pp155-168，診療と治療社．
- 20) 小川 龍：〔編集〕医療ガスハンドブックマニュアル，2003；診断と治療社．
- 21) 小川 龍：〔自著〕麻酔とリスクマネジメント．外科病棟・手術室のリスクマネジメント（松野正紀，押田重実，根岸七雄編集），2004；pp238-245，中外医学社．

#### 学会発表

〔2002年度追加分〕

##### 一般講演：

- 1) Shiga T, Murray P, Derek D：Propofol increases contractility during endothelin-1 and angiotensin II receptor activation in rat cardiomyocytes．2003 Annual Meeting of International Anesthesia Research Society．（New Orleans, LA），2003．3．

##### (1) 会長講演：

- 1) 小川 龍：医療失敗学の提唱．日本麻酔科学会第50回学術集会，2003．5．

##### (2) 招待講演：

- 1) 加藤信也：人工股関節および膝関節全置換術時に発生する骨内異物の血管内迷入と肺塞栓症：TEEによる追求．

第23回日本臨床麻酔学会，2003．10．

(3) シンポジウム：

- 1) 中西一浩，竹田晋浩，松村純也，高柳和江<sup>1)</sup>，小川 龍<sup>(1)</sup> 医療管理学)：麻酔の質の向上と global standard (麻酔におけるクリニカルパス)．日本麻酔科学会第50回学術集会，2003．5．
- 2) 竹田晋浩：術後肺合併症対策とEBM：麻酔法と関連して．日本麻酔科学会第50回学術集会，2003．5．
- 3) 竹田晋浩：シンポジウム非侵襲的人工呼吸の適応と有用性，急性～慢性，在宅まで：急性肺水腫に対するNPPVの適応と限界．第25回日本呼吸療法医学会，2003．8．
- 4) 竹田晋浩，金 徹，池崎弘之，中西一浩，坂本篤裕，小川 龍，田中啓治：ICUでのモニター 最近の進歩：パルスオキシメトリー法の展開，forehead sensorの特徴と限界．第12回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2003．8．
- 5) 内木亮介<sup>1)</sup>，赤羽日出男<sup>1)</sup>，大島正行<sup>1)</sup>，杉本季久造<sup>1)</sup>，島田洋一<sup>1)</sup>，小川 龍<sup>(1)</sup> 第二病院麻酔科)：JOA スコアから見た有効性の検討．第4回エピソードスコーピー研究会，2003．10．
- 6) 坂本篤裕：ストレス反応制御よりみた全身麻酔(手術侵襲に対するストレス反応制御よりみた局所麻酔と全身麻酔)．第16回日本局所麻酔学会，2003．12．

(4) パネルディスカッション：

- 1) 坂本篤裕：Off-Pump CABGにおける ブロッカーの適応 (Off Pump CABG術中血行動態の管理)．第8回日本冠動脈外科学会学術大会，2003．7．
- 2) 竹田晋浩：ARDSへのNPPV Pro & Con．第3回急性期NPPV研究会，2003．12．
- 3) 林 明聡，田中啓治，加藤貴雄，森田典成，小野卓也，佐藤直樹，竹田晋浩，安武正弘，小林義典，高野照夫：血行動態の破綻をきたし電気的除細動不応の心房細動に対する塩酸ニフェカランを用いた新戦略．(ICU・CCUにおける不整脈の新治療戦略)．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．
- 4) 坂本篤裕：超短時間作用型 1遮断薬の頻脈性不整脈治療への臨床応用 (ICU・CCUにおける不整脈の新治療戦略)．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．

(5) セミナー：

- 1) 竹田晋浩：急性肺水腫に対するNPPVの限界．第10回非侵襲的換気療法研究会，2003．6．
- 2) 竹田晋浩：NPPV in ICU (新しい呼吸管理としてのNPVV)．NPO呼吸療法講座，2003．6．
- 3) 竹田晋浩：NPPV療法・原理と実際．NPO呼吸療法講座，2003．11．
- 4) 竹田晋浩：NPPVのメリット・適応と限界．多摩臨床工学会 NPPVセミナー，2003．11．
- 5) 竹田晋浩：NPPVのメリット，適応や限界に関して．東京都臨床工学会，NPPVセミナー，2004．3．

(6) ワークショップ：

- 1) 竹田晋浩：周術期の環境管理：ACC/AHAガイドラインとその実際．日本麻酔科学会第50回学術集会，2003．5．

(7) 指名講演：

- 1) 竹田晋浩：オピオイドによる呼吸中枢抑制の働き．日本麻酔科学会第50回学術集会，2003．5．

(8) 一般講演：

- 1) Wajima Z, Shiga T, Imanaga K, Ogura A, Yoshikawa T, Inoue T, Ogawa R: Intravenous Landiolol, a Novel Beta-adrenergic Blocker, Blunts Hyperdynamic Responses During Electroconvulsive therapy Without Altering Seizure Activity. American Society of Anesthesiologists 2003 Annual Meeting. (San Francisco, California, USA), 2003．10．
- 2) Wajima Z, Shiga T, Imanaga K, Ogura A, Yoshikawa T, Inoue T, Ogawa R: Effect of Prophylactic Bronchodilator Treatment Using Intravenous Carperitide on Airway Resistance and Lung Compliance after Tracheal Intubation. American Society of Anesthesiologists 2003 Annual Meeting (San Francisco, California, USA), 2003．10．

- 3) Imanaga K, Wajima Z, Inoue T : The Analgesic Effect of Oral Tizanidine, an 2-Adrenoceptor Agonist, on Infiltration pain of Local Anesthetic during Epidural Catheterization . American society of Anesthesiologists 2003 Annual Meeting ( San Francisco, California, USA ), 2003 . 10 .
- 4) Shiga T, Murray P, Derek D : Effects of droperidol on intracellular Ca<sup>2+</sup>transients, contraction, and sarcoplasmic reticulum Ca<sup>2+</sup>content in rat myocytes . 2003 ASA annual meeting, ( San Francisco, CA ), 2003 . 10 .
- 5) Shiga T, Murray P, Derek D : Propofol enhances post-rest potentiation but impairs Ca<sup>2+</sup>removal in diabetic cardiomyocytes . 2003 ASA annual meeting ( San Francisco, CA ), 2003 . 10 .
- 6) Derek S, Shiga T, Murray P : Propofol decreases cardiomyocyte contraction, intracellular Free Ca<sup>2+</sup>and myofilament Ca<sup>2+</sup>sensitivity in diabetic cardiomyocytes . 2003 ASA annual meeting ( San Francisco, CA ), 2003 . 10 .
- 7) Kitamura A, Sato R, Narahashi T, Ogawa R : Halothane and propofol modulation of GABA reception mediated inhibitory postsynaptic currents in rat cortical neurons . IARS 78th Clinical and Scientific Congress ( Tampa ), 2004 . 3 .
- 8) 竹田晋浩 : Opioid-induced respiratory depression and cannabinoid . 第1回呼吸中枢研究会, 2003 . 5 .
- 9) 三井誠司 : 乳児の一酸化窒素吸入療法に携わる看護師の健康障害と室内環境汚染 第2報 血中メトヘモグロビン濃度からの検討 . 第76回日本産業衛生学会, 2003 . 4 .
- 10) 今永和幸<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎<sup>2)</sup>, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>三井記念病院麻酔科, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院麻酔科 ): チザニジンの硬膜外麻酔穿刺時局所麻酔浸潤痛に及ぼす鎮痛効果 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 11) 山口真人<sup>1)</sup>, 益田律子<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科 ): リドカイン軟膏による特発性三叉神経痛の治療 : 第2報 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 12) 杖下隆哉, 池崎弘之, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): Neuropeptide ( PACAP ) の vasomotor tone に及ぼす影響について . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 13) 大島正行<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科 ): ロピバカイン持続硬膜外投与における麻酔域からみた有用性 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 14) 岩崎かな子<sup>1)</sup>, 石渡美和子<sup>1)</sup>, 横田哲也<sup>1)</sup>, 野本幸子<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>関東労災病院麻酔科 ): 左右星状神経節ブロックが心拍変動に与える影響 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 15) 角田 健<sup>1)</sup>, 大越麻里子<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>多摩南部地域病院麻酔科 ): 婦人科手術後の悪心嘔吐 ( 麻酔方法による影響 ). 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 16) 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科 ): 帝王切開術中におけるオキシトシン投与速度の相違が胸部硬膜外圧の及ぼす影響 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 17) 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 菊谷真理子<sup>2)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科 ): 帝王切開術中におけるエルゴメトリンおよびオキシトシンが胸部硬膜外圧および下肢末梢静脈圧に及ぼす影響 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 18) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>多摩永山病院麻酔科 ): ランジオロールが電気痙攣療法 ( ECT ) 時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 19) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>多摩永山病院麻酔科 ): 気管内挿管前のコルホルシンドロパート投与は気道抵抗を減少させる : 特に喫煙者と非喫煙者の比較 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 20) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>多摩永山病院麻酔科 ): 気管内挿管前のカルペリチド投与は気道抵抗を減少させる . 日本麻酔科学会第50回学術集会,

2003 . 5 .

- 21) 小林克也<sup>1)</sup>, 曾禰原大<sup>1)</sup>, 結城禎一<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>三井記念病院麻酔科): 術中左室穿孔, 血腫で右冠動脈狭窄となった大動脈弁置換術症例. 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 22) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明<sup>3)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>日本医科大学千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>国立栃木病院麻酔科, <sup>3)</sup>柏市立柏市民病院麻酔科): 局所麻酔薬とオピオイド混注による斜角筋間ブロックの術後疼痛に及ぼす影響. 日本ペインクリニック学会第37回大会, 2003 . 7 .
- 23) 坂根 学, 竹田晋浩, 金 徹, 高木啓倫, 小野卓哉, 田中啓治: ARDSに対するステロイド少量持続投与が有効であった1症例. 第25回日本呼吸療法医学会, 2003 . 8 .
- 24) 幸田修典, 福田令雄, 軸菌智雄, 杖下隆哉, 高木啓倫, 仁科 大, 大森裕也, 林 明聡, 藤井正大, 坪 宏一, 藤田進彦, 小野寺英貴, 山本 剛, 小野卓哉, 金 徹: 劇症型心筋症を合併したと考えられる大動脈人工弁機能不全の1症例. 第12回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2003 . 8 .
- 25) 佐野由香, 大井良之, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍: 晶質液および膠質液輸液患者の血漿浸透圧特性の変動. 第1回周術期体液・代謝・侵襲研究会, 2003 . 8 .
- 26) 太田 亮, 中西一浩, 竹田晋浩, 藤谷 仁, 小川 龍: 腹部大動脈置換術における虚血再灌流後の心機能. 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第43回合同学術集会, 2003 . 9 .
- 27) 金 博子, 佐藤千代, 池崎弘之, 坂本篤裕, 小川 龍, 幸田修典, 小野寺英貴, 金 徹, 竹田晋浩, 田中啓治: 人工膝関節置換術後に一過性にうっ血性心不全を来し速やかに軽快した1症例. 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第43回合同学術集会, 2003 . 9 .
- 28) 守 真輝, 池崎弘之, 中西一浩, 坂本篤裕, 小川 龍, 幸田修典, 小野寺英貴, 金 徹, 竹田晋浩, 田中啓治: 当院での外科手術集中治療管理症例の検討. 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第43回合同学術集会, 2003 . 9 .
- 29) 大島正行<sup>1)</sup>, 村瀬熱紀<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍, 西村欣也<sup>2)</sup>, 釘宮豊城<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院麻酔科, <sup>2)</sup>順天堂大学医学部麻酔科学講座): 腹腔鏡下子宮筋腫核出術における出血量の算定. 第43回日本麻酔科学会東京・関東甲信越地方会, 2003 . 9 .
- 30) 中里佳子, 佐藤千代, 坂本篤裕, 小川 龍: 覚醒下脳腫瘍摘出術の麻酔経験. 日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部第43回合同学術集会, 2003 . 9 .
- 31) 吉田結富子, 本郷 卓, 坂本篤裕, 小川 龍: 敗血症による頻脈性心房細動に対し低濃度のランジオロールが著効した症例. 日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部第43回合同学術集会, 2003 . 9 .
- 32) 安藤岳史, 本郷 卓, 坂本篤裕, 小川 龍: 0.2%ロピバカイン硬膜外持続投与で運動神経ブロックを生じた症例. 日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部第43回合同学術集会, 2003 . 9 .
- 33) 佐藤千代, 坂本篤裕, 小川 龍: 当院におけるICD植え込み術の麻酔管理. 第8回日本心臓血管麻酔学会学術大会, 2003 . 9 .
- 34) 大島正行<sup>1)</sup>, 村瀬熱紀<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>第二病院麻酔科): 気胸手術中の術野洗浄中にST変化を認めた1症例. 日本臨床麻酔学会第23回大会, 2003 . 10 .
- 35) 三井誠司, 坂本篤裕, 小川 龍: 虚血性心疾患患者の覚醒時の循環動態変動の検討. 日本臨床麻酔学会第23回大会, 2003 . 10 .
- 36) 杉本季久造<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍, 増子ハルミ<sup>2)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科, <sup>2)</sup>同中央手術室): 体腔内異物遺残防止対策と麻酔法. 第25回日本手術医学会, 2003 . 11 .
- 37) 小野寺英貴, 幸田修典, 金 博子, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 宮下正夫, 田尻 孝, 小川 龍, 田中啓治: 術後顆粒球減少症をきたした食道癌の1症例. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004 . 3 .
- 38) 森田典成, 藤田進彦, 田中啓治, 山本 剛, 小野卓哉, 金 徹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 小林義典, 高野照夫: 繰り返しアダムスストークス発作を生じる特発性心室細動に対してアブレーションを行い救命した1例.

第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．

- 39) 坂本篤裕，後藤吉次，池崎弘之，中西一浩，竹田晋浩，小川 龍：炎症性サイトカインによる心機能抑制におけるガス状メドエータの相互作用．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．
- 40) 小野卓哉，斉藤寛和，森田典成，佐藤直樹，竹田晋浩，小林義典，マリックマレック，田中啓治，高野照夫：QT dispersionは心疾患のRisk stratificationに有用か？ T-wave morphology analysisと比較して．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．
- 41) 勝野 暁，上田純志，幸田修典，坏 宏一，相本隆幸，佐藤直樹，竹田晋浩，内田英二，田尻 孝，田中啓治：腹臥位により著明に改善した呼吸障害の1例．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．
- 42) 金 徹，幸田修典，杖下隆哉，藤井正大，青砥泰二，佐藤直樹，竹田晋浩，野呂瀬嘉彦，小川 龍，田中啓治：当院集中治療室における抗生剤使用基準設定の効果：特に簡易抗生剤感受性判定キットの有用性について．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．
- 43) 篁 武郎：頸髄損傷患者に生じた下肢の熱感を伴う痛みに対して漢方薬による清熱，瀉火，疏肝治療が有効であった1症例．第8回日本東洋医学会山形県部会，2004．3．

## [ 第二病院麻酔科 ]

### 研究概要

当施設では，産科麻酔，術後鎮痛，循環動態，ペインクリニック領域を主に研究している．

#### 1. 産科麻酔

- (1) 帝王切開術中に用いる子宮収縮薬であるエルゴメトリンとオキシトシンが胸部硬膜外圧に与える影響．
- (2) 仰臥位低血圧症候群と硬膜外圧，下肢静脈圧の変動．
- (3) 子宮収縮薬による出血量の差異．
- (4) 妊婦の感覚閾値の上昇とプロゲステロン値との関連．
- (5) 母子のきずなが希薄になりがちな帝王切開でカンガルーケアを導入したが，その問題点．
- (6) 帝王切開術後硬膜外鎮痛の安静時起立への影響．

以上について検討した．

#### 2. 術後鎮痛

- (1) ケタミンは，硬膜外モルヒネ/ブピバカインによる鎮痛を増強するが，その血中濃度について検討した．
- (2) ロピバカイン硬膜外持続投与における有用性を検討した．

#### 3. 循環動態

ランジオロールの系時的血行動態の変化について検討した．

#### 4. ペインクリニック

- (1) 当施設では積極的にエピドラスコピーを導入している．癒着性硬膜外炎症例におけるエピドラスコピーの診断・治療での有用性，また日本整形外科学会の腰痛スコアからみたエピドラスコピーの有効性を多施設で検討した．
- (2) 外来での腰部硬膜外ブロック後の重心動揺を検討し，安全に帰宅できるように必要な観察時間を検討した．

腹腔鏡下子宮筋腫核出術では，生理食塩液を使用するため出血量の算定が困難であるが，ヘモキューを用いた出血量の算定について検討した．また，医育機関と一般病院での手術症例と麻酔法の変遷，体腔内異物遺残防止対策と麻酔法について検討した．さらに当院での赤血球製剤の使用状況を検討した．

症例報告では，WPW症候群合併症例，気胸手術中のST変化症例の麻酔管理について報告した．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Oshima M, Inagi T, Yokoyama K, Kikutani T, Shimada Y, Ogawa R<sup>1)</sup>, Daniel LM<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, <sup>2)</sup> Department of Neurology, University of Tennessee, Memphis, USA ): Pregnancy-related increases in sensory perception thresholds are not correlated with serum progesterone levels . Pain Practice 2003 ; 3 ( 2 ): 120-124 .
- 2) Oshima M, Shimada Y, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology ): Anesthetic Management for a Patient with Wolff-Parkinson-White Syndrome undergoing Tonsillectomy . Circulation Control 2003 ; 24 ( 2 ): 155-156 .
- 3) Kikutani T, Shimada Y : Effects of methylergometrine and oxytocin on thoracic epidural pressure during cesarean section . Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2003 ; 29 ( 3 ): 180-185 .
- 4) Kikutani T, Oshima M, Sugimoto K, Shimada Y : Effects of intravenous infusion rate of oxytocin on thoracic epidural pressure in parturients undergoing elective cesarean section . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ): 475-479 .
- 5) Akabane H, Shimada Y, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology ): Usefulness of Posturography after Epidural Block . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 1 ): 35-43 .
- 6) 内木亮介, 横山健至, 赤羽日出男, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻酔科学 ): エピドラスコピーが効果的であった症例 . 日本ペインクリニック学会誌 2003 ; 10 ( 1 ): 33-37 .
- 7) 菊谷健彦, 杉本季久造, 島田洋一: 仰臥位低血圧症候群と胸部硬膜外圧および下肢静脈圧の変動 . 麻酔 2003 ; 52 ( 5 ): 494-499 .
- 8) 杉本季久造, 大島正行, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>, 増子ハルミ<sup>2)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻酔科学, <sup>2)</sup> 第二病院中央手術室 ): 医育機関と一般病院での手術症例と麻酔法の変遷 . 日本手術医学会誌 2003 ; 24 ( 3 ): 244-246 .
- 9) 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>, 増子ハルミ<sup>2)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻酔科学, <sup>2)</sup> 第二病院中央手術室 ): 体内異物遺残防止対策と麻酔法 . 日本手術医学会誌 2004 ; 25 ( 1 ): 23-24 .

### 学会発表

#### (1) シンポジウム:

- 1) 内木亮介, 赤羽日出男, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻酔科学 ): JOA スコアから見た有効性の検討 . 第4回エピドラスコピー研究会, 2003 . 10 .

#### (2) 一般講演:

- 1) Suzuki M, Sugimoto K, Shimada Y : Blood concentration of ketamine potentiating Epidural morphine bupivacaine analgesia . ASA annual meeting ( SAN FRANCISCO ), 2003 . 10 .
- 2) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 菊谷健彦, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻酔科学 ): ロピバカイン持続硬膜外投与における麻酔域からみた有用性 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 3) 菊谷健彦, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻酔科学 ): 帝王切開術中におけるオキシトシン投与と速度の相違が胸部硬膜外圧に及ぼす影響 . 第50回日本麻酔科学会総会, 2003 . 5 .
- 4) 菊谷健彦, 菊谷真理子<sup>1)</sup>, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院産婦人科, <sup>2)</sup> 麻酔科学 ) 帝王切開術中におけるエルゴメトリンおよびオキシトシンが胸部硬膜外圧および下肢静脈圧に及ぼす影響 . 第50回日本麻酔科学会総会, 2003 . 5 .
- 5) 大島正行, 島田洋一, 菊 盤<sup>1)</sup>, 北出真理<sup>1)</sup>, 武内裕之<sup>1)</sup>, 木下勝之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 順天堂大学産婦人科 ): ヘモキュ- TM を用いた腹腔鏡下子宮筋腫核出術における出血量算定の有用性 . 第105回日本産科婦人科学会関東連合



地方部会学術集会，2003．6．

- 6) 山本英明：塩酸ランジオロール持続投与における系時的血行動態変動．第5回神奈川臨床麻酔セミナー，2003．6．
- 7) 白石義人<sup>1)</sup>，及川文雄<sup>1)</sup>，横山順一郎<sup>1)</sup>，須賀昭彦<sup>1)</sup>，渥美和之<sup>1)</sup>，航 尚子<sup>1)</sup>，板垣大雅<sup>1)</sup>，鈴木かつみ<sup>1)</sup>，内木亮介，水谷彰仁<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>静岡県立総合病院麻酔科，<sup>2)</sup>水谷痛みのクリニック)：硬膜外内視鏡により診断と治療が奏効した癒着性硬膜外炎の1例．第37回日本ペインクリニック学会，2003．7．
- 8) 花出 豊<sup>1)</sup>，井上雅則<sup>1)</sup>，井梅和美<sup>1)</sup>，新宅孝征<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>，島田洋一<sup>(1)</sup>第二病院中央検査室)：当院における赤血球MAP製剤の使用状況について．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 9) 大島正行，村瀬熱紀，稲木敏一郎，横山健至，島田洋一，小川 龍<sup>1)</sup>，西村欣也<sup>2)</sup>，釘宮豊城<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院麻酔科，<sup>2)</sup>順天堂大学医学部麻酔科学講座)：腹腔鏡下子宮筋腫核出術における出血量の算定．第43回日本麻酔科学会東京・関東甲信越地方会，2003．9．
- 10) 大島正行，村瀬熱紀，稲木敏一郎，横山健至，島田洋一，小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学)：気胸手術中の術野洗浄中にST変化を認めた1症例．日本臨床麻酔学会第23回大会，2003．10．
- 11) 杉本季久造，大島正行，島田洋一，小川 龍<sup>1)</sup>，増子ハルミ<sup>2)</sup>，小河原美代子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学，<sup>2)</sup>第二病院中央手術室)：体内異物遺残防止対策と麻酔法．第25回日本手術医学会，2003．11．
- 12) 福岡真奈美<sup>1)</sup>，金子利枝<sup>1)</sup>，増子ハルミ<sup>1)</sup>，小河原美代子<sup>1)</sup>，島田洋一<sup>(1)</sup>第二病院中央手術室)：カプサイシン成分を術中保温に生かした臨床結果．第25回日本手術医学会総会，2003．11．
- 13) 大島正行，島田洋一，渋井庸子<sup>1)</sup>，藤江裕美<sup>1)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科)：予定帝王切開術中のカンガルーケア 導入と問題点．第106回分娩と麻酔研究会，2003．12．
- 14) 大島正行，島田洋一，藤江裕美<sup>1)</sup>，渋井庸子<sup>1)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，小西英喜<sup>1)</sup>，可世木久幸<sup>1)</sup>，朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科)：予定帝王切開後におけるロピバカイン/フェンタニル持続硬膜外投与の安静時起立への影響．第106回分娩と麻酔研究会，2003．12．
- 15) 菊谷健彦，菊谷真理子<sup>1)</sup>，大島正行，島田洋一<sup>(1)</sup>東部地域病院婦人科)：帝王切開術中における子宮収縮薬と出血量の関係；ボラス静脈内投与におけるメチルエルゴメトリンおよびオキシトシンの比較．第106回分娩と麻酔研究会，2003．12．

## [ 多摩永山病院麻酔科 ]

### 研究概要

ペインクリニック領域において，治療困難な痛みに対する新しい神経ブロックについて検討中である．特に筋膜痛症候群と顎関節症を対象にしたブロックに重点をおき，基礎的研究を行っている．

また全身麻酔における吸入麻酔ガスの新しい使用方法 (VIMA, inhalation bolus technique) のデータを集積中である．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Matsumura J, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology)：Transcriptional Down-regulation of Tumor Necrosis Factor- Gene by Early Given Pentoxifylline：A Quantitative Demonstration in Rats with Peritoneal Sepsis．BIOMEDICAL RESEARCH 2003；24(4)：187-194．

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 平形 賢：穿頭手技中にメイフィールドヘッドレストが破損した1症例．日本麻酔科学会第50回学術集会，2003．5．

## [ 千葉北総病院麻酔科 ]

### 研究概要

外科的侵襲に対する生体防御反応の調節と抑止，硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔下の生体への影響および管理法・手技に関するテーマについての臨床研究が継続されている．

本年度も，手術室，病棟，疼痛外来など日常的な臨床現場におけるより安全で有効な実践主義に関した研究が行われた．侵害刺激除去，QOL改善を目的として新しい薬剤による臨床麻酔への応用法の検討・薬理学的検討がなされた．鎮痛法（術後鎮痛，難治性疼痛治療）および合併症対策に関する研究は今後とも引き続き継続する予定である．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Wajima Z, Siga T, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogura A, Imanaga K, Inoue T, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology ): Effect of prophylactic bronchodilator treatment with intravenous colforsin daropate, a water-soluble forskolin derivative, on airway resistance after tracheal intubation. *Anesthesiology* 2003 ; 99 ( 1 ): 18-26 .
- 2) Wajima Z, Shiga T<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A, Imanaga K, Inoue T, Ogawa R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundation, <sup>2)</sup> Department of Anesthesia, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Intravenous Al-prostadil, an Analog of Prostaglandin E1, Prevents Thiамylal-fentanyl-induced Bronchoconstriction in Humans. *Anesthesia and Analgesia* 2003 ; 97 ( 2 ): 456-460 .
- 3) Wajima Z, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>2)</sup>, Shiga T, Inoue T, Ogawa R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Haku-jikai Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Yale University, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Propofol alone, sevoflurane alone, and combined propofol-sevoflurane anesthesia in electroconvulsive therapy. *Anaesthesia and Intensive Care* 2003 ; 31 ( 4 ): 396-400 .
- 4) Shiga T, Wajima Z, Inoue T, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology ): Nitrous oxide produces minimal hemodynamic changes in patients receiving a propofol-based anesthetic : an esophageal Doppler ultrasound study. *Can J Anaesth* 2003 ; 50 ( 7 ): 649-652 .
- 5) Shiga T, Wajima Z, Inoue T, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology ): Survey of observer variation in transesophageal echocardiography : comparison of anesthesiology and cardiology literature. *J Cardiothorac Vasc Anesth* 2003 ; 17 ( 4 ): 430-442 .
- 6) Masuda RI, Yokoyama K<sup>1)</sup>, Inoue T, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Mitsui Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Department of Anesthesia, Nippon Medical School ): Clinical Evaluation of Cervical Pyogenic Spondylitis/Spondylodiscitis Complicated with Stellate Ganglion Block. *The Pain Clinic* 2004 ; 16 ( 1 ): 89-96 .

##### (2) 綜説：

- 1) 井上哲夫：新医師臨床研修制度における麻酔科研修のあり方．*麻酔* 2003 ; 53 ( 6 ): 1-1 .
- 2) 益田律子：脊髄くも膜下麻酔時の体位管理に関して．*ペインクリニック* 2003 ; 24 ( 9 ): 1171-1173 .

- 3) 益田律子：薬物治療による痛みの緩和と予防：4 ブロック療法による痛みの除去．薬局 2003；54(10)：2635-2645．
- 4) 益田律子：脊髄くも膜下麻酔針：脊麻針．臨床麻酔 2003；27(11)：1777-1786．
- 5) 益田律子：脊髄くも膜下麻酔の最近の知見（臨床麻酔誌上セミナー'04）．臨床麻酔誌臨時増刊 2004；28（臨時増巻号）：447-464．

## 著 書

- 1) 井上哲夫：〔翻訳〕緊急気道管理マニュアル（井上哲夫，近江明文，須崎振一郎，本田 完 共訳），2003；pp1-66，メディカル・サイエンス・インターナショナル．

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 竹田晋浩<sup>1)</sup>，金 徹<sup>2)</sup>，小野寺英貴<sup>2)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，井上哲夫，小川 龍<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室，<sup>2)</sup>麻酔科学)：急性性肺水腫に対するNPPVの適応と限界（非侵襲的換気療法の適応と有用性：急性～慢性，在宅まで）．第25回日本呼吸療法医学会・第13回日本呼吸管理学会合同学術集会，2003．8．

### (2) 一般講演：

- 1) Masuda R, Inoue T, Yokoyama K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Mitsui Memorial Hospital): Spinal anesthesia with isobaric bupivacaine for cesarean section . 28th ASRA ( The American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine ) Annual Spring Meeting & Workshops ( San Diego ), 2003 . 4 .
- 2) Masuda R, Yokoyama K<sup>1)</sup>, Tanuma K<sup>2)</sup>, Inoue T (<sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Mitsui Memorial Hospital , <sup>2)</sup>The Second Department of Anatomy, Nippon Medical School ): Anatomical study to determine optimal needle placement for preventing ischemic injury to the spinal cord during celiac plexus and splanchnic nerve blocks in retrocrural approach . XXII Annual ESRA ( The European Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine ) Congress ( Malta ), 2003 . 9 .
- 3) Wajima Z, Shiga T, Imanaga K<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>2)</sup>, Yoshikawa T<sup>3)</sup>, Inoue T, Ogawa R<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Ebina General Hospital , <sup>2)</sup>Department of Anesthesiology, Kashiwa Hospital , <sup>3)</sup>Department of Anesthesiology, National Tochigi Hospital , <sup>4)</sup>Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Intravenous Landiolol, a Novel Beta-adrenergic Blocker, Blunts Hyperdynamic Responses During Electroconvulsive Therapy Without Altering Sizable Activity . American Society of Anesthesiologists 2003 Annual Meeting ( San Francisco ), 2003 . 10 .
- 4) Shiga T, Murray P<sup>1)</sup>, Damron D<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Center of Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundation ): Effects of droperidol on intracellular Ca<sup>2+</sup> transients, contraction, and sarcoplasmic reticulum Ca<sup>2+</sup> content in rat myocytes . ASA annual meeting ( San Francisco ), 2003 . 10 .
- 5) Wajima Z, Shiga T, Imanaga K<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>2)</sup>, Yoshikawa T<sup>3)</sup>, Inoue T, Ogawa R<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology, Ebina General Hospital , <sup>2)</sup>Dept. of Anesthesiology, Kashiwa Hospital , <sup>3)</sup>Dept. of Anesthesiology, National Tochigi Hospital , <sup>4)</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Effect of Prophylactic Bronchodilator Treatment Using Intravenous Carperitide on Airway Resistance and Lung Compliance after Tracheal Intubation . American Society of Anesthesiologists 2003 Annual Meeting ( San Francisco ), 2003 . 10 .
- 6) Imanaga K<sup>1)</sup>, Wajima Z, Inoue T (<sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Ebina General Hospital ): The Analgesic Effect of Oral Tizanidine, an 2-Adrenoceptor Aginist, on Infiltration Pain of Local Anesthetic during Epidural Catheterization . American Society of Anesthesiologists 2003 Annual Meeting ( San Francisco ), 2003 . 10 .

- 7) Shiga T , Murry P<sup>1)</sup> , Damron D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Center of Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundation ): Propofol enhances post-rest potentiation but impairs Ca<sup>2+</sup> removal in diabetic cardiomyocytes . ASA annual meetings ( San Francisco ), 2003 . 10 .
- 8) Saito T , Ogura A<sup>1)</sup> , Wajima Z , Inoue T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Kashiwa Hospital ): Incidence of Complications Related to Epidural Catheterization in the Lower Thoracic Region . IRAS ( Tampa ), 2004 . 1 .
- 9) 輪嶋善一郎, 志賀俊哉, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立栃木病院麻酔科, <sup>2)</sup> 市立柏病院麻酔科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科 ): ランジオロールが電気痙攣療法 ( ECT ) 時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 10) 輪嶋善一郎, 志賀俊哉, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立栃木病院麻酔科, <sup>2)</sup> 柏市立病院柏市民病院麻酔科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科 ): 気管内挿管前のコルホルシングドロパート投与は気道抵抗を減少させる: 特に喫煙者と非喫煙者の比較 . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 11) 輪嶋善一郎, 志賀俊哉, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立栃木病院麻酔科, <sup>2)</sup> 柏市立柏市民病院麻酔科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科 ): 気管内挿管前のカルベリプチド投与は気道抵抗を減少させる . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 12) 輪嶋善一郎, 志賀俊哉, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立栃木病院麻酔科, <sup>2)</sup> 柏市立柏市民病院麻酔科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科 ): 局所麻酔薬とオピオイド混注による斜角筋間ブロックの術後疼痛に及ぼす影響 . 日本ペインクリニック学会第37回大会, 2003 . 7 .
- 13) 益田律子, 井上哲夫, 輪嶋善一郎, 加藤信也: 産婦人科術後仙骨部皮膚損傷の3症例 . 日本ペインクリニック学会第37回大会, 2003 . 7 .
- 14) 益田律子, 井上哲夫, 加藤信也, 近藤陽一<sup>1)</sup>, 田村高子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立生育医療センター疼痛管理科 ): 小児慢性周期性関節痛の一家系 . 日本ペインクリニック学会第37回大会, 2003 . 7 .
- 15) 益田律子, 井上哲夫, 後藤眞弓: 婦人科開腹術後の硬膜外モルヒネ鎮痛法におけるプピバカイン併用が腸管運動に及ぼす効果について . 第16回日本局所麻酔学会, 2003 . 12 .
- 16) 益田律子, 井上哲夫, 加藤信也: 扁桃病巣感染症に起因する胸骨痛の3症例 . 第18回日本ペインクリニック学会東京地方会, 2004 . 2 .

## 18．救急医学講座

### [ 付属病院高度救命救急センター・第二病院救命救急部・多摩永山病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック ]

#### 研究概要

平成15年度の研究概要を各班別に記した。

##### 1．外傷班

多発外傷の治療成績の評価，多発外傷における経皮的人工心肺装置の適応について過去の症例を検討し報告した。また外傷の評価・治療に関してはJATEC，PTECへの参加・協力，研修医師への指導を行なった。

##### 2．感染症班

救命救急センターにおけるMRSA，多剤耐性緑膿菌等の検出状況調査と感染予防として手洗い，ガウンテクニック等の指導，徹底率の評価を行った。また，救命救急領域におけるMRSA感染症へのハベカシン投与法の検討を施行し報告した。

##### 3．整形班

臨床では，多発外傷に伴う整形外科外傷の治療戦略について，early total care (ETC) またはdamage control orthopedics (DCO) の適応について検討を行った。基礎では脂肪塞栓のメカニズムの解明に向けて，リサーチ班と共同で実験モデルの作成に着手した。

##### 4．熱傷班

基礎研究では，重症熱傷に対する超早期手術ならびに早期手術の生体に対する影響を研究した。また症例研究では，特殊熱傷の症例報告および医療経済について発表した。昨年に引き続き国際協力を精力的に行なった。

##### 5．災害班

国際・災害班においては，国内において厚労省の班研究として希少感染症対応，災害時医療支援チーム研修について研究した。また，成田空港や川崎市においてNBC災害にかかわる組織間連携のあり方についての研究を開始した。国外の災害対応としては，国際緊急援助隊としてアルジェリア地震に班員を派遣し，成果を学会で発表した。

##### 6．病態生理班

頭部外傷急性期における凝固線溶異常，とくにフィブリノゲン分解の病態への関与に関する報告を口演および論文において行った。また敗血症などの重度侵襲下における脳性ナトリウム利尿ペプチドの変動と病態への関与，プロカルシトニン測定による敗血症診断とその重症度判定における有用性を報告した。

##### 7．基礎研究班

出血性ショック後の多臓器障害の発現には腸間膜リンパ液が重要な役割を演じている。酸素運搬能を有した蘇生輸液である代用血液が腸間膜リンパ液のcytotoxicityを軽減することを明らかにした。外傷後の多臓器障害に対して代用血液は有効な治療戦略になる可能性がある。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Kushimoto S, Shibata Y, Yamamoto Y : Implications of fibrinogenolysis in patients with closed head injury . Journal of Neurotrauma 2003 ; 20 ( 4 ) : 357-363 .
- 2) Yokota H<sup>1)</sup>, Ogawa S, Kurokawa A, Yamamoto Y ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School ) : Regional cerebral blood flow in delirium patients ( ? ) . Psy-

chiatry and clinical neuroscience 2003 ; 57 : 337-339 .

- 3) Sasayama S<sup>1)</sup>, Ishii N<sup>2)</sup>, Ishikura F<sup>3)</sup>, Kamijima G<sup>4)</sup>, Ogawa S<sup>5)</sup>, Kanmatuse K<sup>6)</sup>, Kimoto Y<sup>7)</sup>, Sakuma I<sup>8)</sup>, Nonogi H<sup>9)</sup>, Matsumori A<sup>10)</sup>, Yamamoto Y ( <sup>1)</sup>Hamamatsu Rosai Hospital, Shizuoka , <sup>2)</sup>First Dept. of Urology, Toho University School of Medicine, Tokyo , <sup>3)</sup>School of Allied Health Sciences, Osaka University Faculty of Medicine, Osaka , <sup>4)</sup>Second Dept. of Internal Medicine, Toho University School of Medicine, Tokyo , <sup>5)</sup>Dept. of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo , <sup>6)</sup>Second Dept. of Internal Medicine, Nihon University School of Medicine, Tokyo , <sup>7)</sup>Dept. of Urology, Spinal Injuries Center, Fukuoka , <sup>8)</sup>Dept. of Cardiovascular Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Hokkaido , <sup>9)</sup>National Cardiovascular Center, Osaka , <sup>10)</sup>Dept. of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto ): Men's Health Study-Epidemiology of Erectile Dysfunction and Cardiovascular Disease . Circulation Journal 2003 ; 68 ( 8 ) : 656-659 .
  - 4) Atsumi T , Hoshino S , Furukawa T , Kobayashi S , Asakura T , Takahashi M , Yamamoto Y , Taramoto A : The Glutamate AMPA Receptor Antagonist , YM872 , Attenuates Regional Cerebral Edema and IgG Immunoreactivity Following Experimental Brain Injury in Rats. Acta Neurochir 2003 ; Suppl 86 : 305-307 .
  - 5) 横田裕行 , 久野将宗<sup>1)</sup> , 上笹 宙<sup>1)</sup> , 中野渡雄一<sup>1)</sup> , 直江康孝<sup>1)</sup> , 弥富俊太郎<sup>1)</sup> , 加地正人<sup>1)</sup> , 畝本恭子<sup>1)</sup> , 黒川 顕<sup>2)</sup> , 久保田稔<sup>1)</sup> , 山本保博 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター , <sup>2)</sup>第二病院救命救急部 ): 脳死判定における短潜時体性感覚誘発電位 ( SSEP ) の意義 . 日本臨床救急医学会雑誌 2003 ; 6 ( 1 ) : 8-14 .
  - 6) 伊藤敬雄 , 山寺博史 , 工藤吉尚 , 黒澤 尚 , 横田裕行 , 黒川 顕 , 遠藤俊吉 : 南多摩地域の大学病院救命救急センターからみた精神科救急医療 . 日本病院・地域精神医学 2003 ; 45 : 95-103 .
  - 7) 畝本恭子<sup>1)</sup> , 直江康孝<sup>1)</sup> , 横田裕行<sup>1)</sup> , 黒川 顕<sup>1)</sup> , 山本保博 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター ): 救命救急センターにおける20世紀末のクモ膜下出血治療の変遷と治療成績 . 日本救急医学会雑誌 2003 ; 14 ( 4 ) : 187-198 .
  - 8) 久志本成樹 , 山本保博 , 野手洋治 , 小井土雄一 , 横田裕行 , 松園幸雅 , 新井正徳 , 磯部将人 : 法的脳死下臓器提供3例の経験 : とくに臓器提供施設からみた問題点 . 日救急医学会誌 2003 ; 14 ( 7 ) : 355-360 .
  - 9) 佐藤秀貴 , 横田裕行 , 山本保博 : 重傷頭部外傷の治療戦略 . 脳神経外科速報 2003 ; 13 ( 7 ) : 748-754 .
  - 10) 佐藤秀貴 , 横田裕行 , 山本保博 : 脳梗塞 : 救急医学からみた脳梗塞急性期における診断と治療 . 救急医学 2003 ; 27 ( 27 ) : 1747-1752 .
  - 11) 久志本成樹 , 小川太志 , 原田尚重 , 相星淳一 , 小井土雄一 , 吉田竜介 , 山本保博 : 鈍的肝損傷治療における開腹術とIVRをどのように選択するか . 日救急医学会関東誌 2003 ; 24 : 28-33 .
  - 12) 山本保博 , 二宮宣文 , 原田尚重 , 根本香代<sup>1)</sup> , 岡村忠夫<sup>1)</sup> , 鈴木秀典<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>薬理学 ): アナンドアミドおよび2-アラキドノイルグリセロール投与によるモルモットのエンドトキシン様作用発見 . エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2003 ; 7 ( 1 ) : 29-29 .
  - 13) 森村尚登 , 勝見 敦 , 小井土雄一 , 杉本勝彦 , 布施 明 , 浅井康文 , 石井 昇 , 石原 哲 , 杉山 貢 , 吉岡敏治 , 藤井千穂 , 辺見 弘 , 山本保博 ( 1 ) 厚生労働省厚生科学研究「 Mass gathering における集団災害ガイドライン作成とその評価」研究班 ): インターネットメーリングリストによる2002FIFAワールドカップ日本大会関連傷病者データモニタリング . 日本集団災害医学会雑誌 2004 ; 8 ( 3 ) : 249-257 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) Tajima H<sup>1)</sup> , Murata S<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Ichikawa K<sup>1)</sup> , Tajiri T<sup>2)</sup> , Yamamoto Y ( <sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Dept. of Surgery 1, Nippon Medical School ): Successful Interventional Treatment of Acute Internal Jugular Vein Thrombosis . American Journal of Roentgenology 2004 ; 182 ( 2 ) : 467-469 .
  - 2) 横田裕行 : 救急医学からみた脳梗塞急性期における診断と治療 : 脳保護療法導入の臨床的意義とその実際 .

Medical news 2003 ; 1752 : 10-11 .

- 3) 志賀尚子, 横田裕行: 救急薬品の使い方. 頭蓋内圧亢進 2003 ; 27 : 393-396 .
  - 4) 横田裕行: 意識レベルの判定法. Clinical Neuroscience 2003 ; 21 : 258-260 .
  - 5) 吉田竜介: AHA ガイドライン2000はどう変わったか. プレホスピタル・ケア 2003 ; 16 (3): 15-22 .
  - 6) 山本保博: JATECガイドラインについて. 日本外傷学会誌 2003 ; 17 (2): 73-74 .
  - 7) 吉田竜介, 山本保博: 救急救命士教育者からみた看護師教育に生かすバイタルサイン. Emergency nursing 2003 ; 16 (5): 403-409 .
  - 8) 吉田竜介, 小井土雄一, 山本保博, 寺田泰蔵: 災害救急情報センターにおけるメディカルコントロール: 日米間における比較. 救急医療ジャーナル 2003 ; 61 (11): 29-33 .
  - 9) 横田裕行, 山本保博: 意思表示カードを有する脳死症例に対する管理. ICUとCCU 2003 ; 27 (6): 471-475 .
  - 10) 玉井英世<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 輪状甲状靭帯切開法/穿刺法: 適応・手技・合併症. 救急・集中治療 2003 ; 15 : 579-584 .
  - 11) 小井土雄一, 山本保博: 大動脈損傷. 臨床医 2003 ; 29 : 889-891 .
  - 12) 横田裕行: 救急医療における倫理的問題: 高度救命救急センター医師の立場から. メディカルエシックス 2003 ; 29 : 62-101 .
  - 13) 大泉 旭, 川井 真, 山本保博: 多発性外傷における四肢外傷の治療戦略. 臨床整形外科 2003 ; 38 (8): 1007-1012 .
  - 14) 小井土雄一: 上腹部痛. 救急医学 2003 ; 27 (10): 1382-1387 .
  - 15) 山本保博: 論説「日本の国際人道支援をより強力に」. 救急医療ジャーナル 2003 ; 11 (5): 3-3 .
  - 16) 久志本成樹, 山本保博: ショックに伴う腎障害. 腎と透析 2003 ; 55 : 424-428 .
  - 17) 久志本成樹, 山本保博: 緊急輸血とその問題点. モダンフィジシャン 2003 ; 23 (10): 1458-1460 .
  - 18) 原田尚重, 横田裕行, 山本保博: 救急医療と最新の医療機器: medical control 支援システム. 学会新報 2003 ; 24 : 5-7 .
  - 19) 吉田竜介, 山本保博, 寺田泰蔵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>公立昭和病院救命救急センター): オフライン・メディカルコントロール: 事後検証を中心に. 救急医学 2003 ; 27 (12): 1707-1714 .
  - 20) 横田裕行: 頭部外傷の治療に必要な手技. 救急・集中治療 2004 ; 16 : 347-356 .
  - 21) 小井土雄一: 上部消化管穿孔. 救急医学 2004 ; 28 (1): 61-74 .
  - 22) 横堀将司, 横田裕行: 救急間者への対応: 脳血管障害. エキスパートナースMook 2004 ; 7 : 173-177 .
  - 23) 志賀尚子, 山本保博: 海外旅行時のレジャーと外傷1「高所対策」. 治療学 2004 ; 38 (3): 64-67 .
  - 24) 久志本成樹: 胸部X線読影. 救急・集中治療 2004 ; 16 (3): 315-327 .
- (3) 研究報告書:
- 1) 吉田竜介, 山本保博, 佐藤憲明, 水安達也: American Heart Association (AHA) における心肺蘇生法の指導戦略に関する調査研究及び本邦での応用. 救急救命 2003 ; 6 (2): pp22-25 .
- (4) エディトリアル:
- 1) 山本保博: 編集にあたって. 救急医学 2003 ; 27 (12): 1687-1687 .
- (5) 主任研究報告書:
- 1) 横田裕行: 厚生労働省ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」. 厚生労働省ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」 2004 .
  - 2) 山本保博<sup>1)</sup>, 蟻田 功<sup>2)</sup>, 桑原紀之<sup>3)</sup>, 志方俊之<sup>4)</sup>, 原口義座<sup>5)</sup>, 大久保一郎<sup>6)</sup>, 岡部信彦<sup>7)</sup>, 島崎修次<sup>8)</sup>, 角田隆文<sup>9)</sup>, 佐多徹太郎<sup>10)</sup>, 中村 修<sup>11)</sup>, 徳永章二<sup>12)</sup>, 川井 真<sup>13)</sup>(<sup>1)</sup>主任研究者(日本医科大学救急医学), <sup>2)</sup>分担研究者(国際保健医療交流センター), <sup>3)</sup>分担研究者(自衛隊中央病院保健管理センター), <sup>4)</sup>分担研究者(帝京大学法学部), <sup>5)</sup>分担研究者(国立病院東京災害医療センター救命救急センター), <sup>6)</sup>分担研究者(筑波大

学社会医学系),<sup>7)</sup> 分担研究者(国立感染症研究所感染症情報センター),<sup>8)</sup> 分担研究者(杏林大学医学部救急医学),<sup>9)</sup> 分担研究者(東京都立荏原病院感染症科),<sup>10)</sup> 分担研究者(国立感染症研究所感染病理部),<sup>11)</sup> 分担研究者(慶應大学環境情報学),<sup>12)</sup> 分担研究者(九州大学医学研究院予防医学疫学・医学統計学),<sup>13)</sup> 分担研究者(日本医科大学救急医学):平成15年度厚生労働科学研究(新興・再興感染症研究事業)「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」.平成15年度厚生労働科学研究(新興・再興感染症研究事業)「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」総括・分担研究報告書 2004.

(6) 主任研究報告書(別冊):

- 1) 山本保博<sup>1)</sup>, 蟻田 功<sup>2)</sup>, 桑原紀之<sup>3)</sup>, 志方俊之<sup>4)</sup>, 原口義座<sup>5)</sup>, 大久保一郎<sup>6)</sup>, 岡部信彦<sup>7)</sup>, 島崎修次<sup>8)</sup>, 角田隆文<sup>9)</sup>, 佐多徹太郎<sup>10)</sup>, 中村 修<sup>11)</sup>, 徳永章二<sup>12)</sup>, 川井 真<sup>13)</sup>(<sup>1)</sup>主任研究者(平成15年度厚生労働科学研究(新興・再興感染症研究事業)「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」班),<sup>2)</sup>分担研究者(国際保健医療交流センター),<sup>3)</sup>分担研究者(自衛隊中央病院保健管理センター),<sup>4)</sup>分担研究者(帝京大学法学部),<sup>5)</sup>分担研究者(国立病院東京災害医療センター救命救急センター),<sup>6)</sup>分担研究者(筑波大学社会医学系),<sup>7)</sup>分担研究者(国立感染症研究所感染症情報センター),<sup>8)</sup>分担研究者(杏林大学医学部救急医学),<sup>9)</sup>分担研究者(東京都立荏原病院感染症科),<sup>10)</sup>分担研究者(国立感染症研究所感染病理部),<sup>11)</sup>分担研究者(慶應大学環境情報学),<sup>12)</sup>分担研究者(九州大学医学研究院予防医学疫学・医学統計学),<sup>13)</sup>分担研究者(日本医科大学救急医学)):感染症の患者の移送の手引き.感染症の患者の移送の手引き 2004.

(7) 症例報告:

- 1) 直江康孝, 横田裕行, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕:視床下部損傷による外傷性尿崩症を呈した1例.日本神経救急学会雑誌 2003; 16: 72-74.
- 2) 原 俊輔, 久野将宗, 直江康孝, 弥富俊太郎, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: Warfarin服用中, 咽頭後血腫による気道閉塞を来した症例.日本救急医学会関東地方会誌 2003; 24: 126-127.

(8) 分担研究報告書:

- 1) 横田裕行:厚生労働省ヒトゲノム・再生医療等研究事業「臓器提供施設内における臓器提供施設に関する研究」.厚生労働省ヒトゲノム・再生医療等研究事業「臓器提供施設内における臓器提供施設に関する研究」 2004.

著 書

- 1) 横田裕行:〔分担〕突然の頭痛:応急処置と緊急検査.今日の治療指針,2003; pp4-5,医学書院.
- 2) 横田裕行:〔分担〕突然の頭痛:応急処置と緊急検査.今日の治療指針ポケット版,2003; pp4-5,医学書院.
- 3) 山本保博:〔監修〕救急ケアで使う薬剤ノート.救急ケアで使う薬剤ノート(監修),2003; MCメディカ出版.
- 4) 小井土雄一:〔分担〕救急薬剤の使用法.救命救急医療への Multiple Approach:理論と実践(山本保博),2003; pp27-34,メディカルジャーナル.
- 5) 山本保博:〔監修〕第23回救急救命士国家試験問題解答・解説集.第23回救急救命士国家試験問題解答・解説集(監修),2003;へるす出版.
- 6) 横田裕行:〔分担〕脳神経外科救急,初期対応.脳神経外科診療ノート,2003; pp52-53,中外医学社.
- 7) 横田裕行:〔分担〕一般術前準備.脳神経外科診療ノート,2003; pp54-62,中外医学社.
- 8) 川井 真:〔監修〕外傷に伴う呼吸器合併症の予防と治療.臨床整形外科(緒言),2003; pp590-592,医学書院.
- 9) 川井 真:〔分担〕外傷性溢血斑.救急医学,2003; pp580-581,へるす出版.
- 10) 横田 裕行:〔分担〕出血性ショック.経静脈治療オーダーマニュアル,2003; pp40-43,メディカルレビュー社.
- 11) 川井 真,山本保博:〔分担〕広範囲熱傷の治療戦略.熱傷の治療,最近の進歩,2003; pp178-196,克誠堂.



- 12) 山本保博：〔監修〕アルブミン臨床マニュアル．アルブミン臨床マニュアル，2003；メディカルレビュー社．
- 13) 横田裕行：〔分担〕脳死と臓器移植．救急医療指針，2003；pp557-560，へるす出版．
- 14) 大泉 旭，川井 真：〔分担〕前方進入法による寛骨臼骨折手術．新OS NOW 新世代の整形外科手術19 骨盤手術の最新手技 - 腫瘍，外傷，股関節症など（岩本幸英），2003；pp138-144，メジカルビュー社．
- 15) 横田裕行：〔分担〕けいれん：臨床研修医のための救急診療マニュアル．救急医学，2003；pp1351-1355，へるす出版．
- 16) 川井 真，山本保博：〔分担〕日本医科大学の卒後臨床研修プログラム．救急・集中治療，2003；pp1033-1042，総合医学社．
- 17) 吉田竜介，山本保博：〔分担〕CPRインストラクターズガイド．CPRインストラクターズガイド第2版（監修：小濱啓次，編集：山本保博，編集協力：吉田竜介），2003；医学書院．
- 18) 山本保博，牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>新東京国際空港クリニック)：〔共著〕ドクターコール：その時！手をあげてください．ドクターコール：その時！手をあげてください，2003；南山堂．
- 19) 山本保博，牧野俊郎<sup>1)</sup>，平田清貴<sup>2)</sup>，田口吉子<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>新東京国際空港クリニック，<sup>2)</sup>薬剤部，<sup>3)</sup>第二病院看護部)：〔編著，共著〕輸液・輸血・救急薬 TODAY 2004-05．輸液・輸血・救急薬 TODAY 2004-05，2003；MCメディカ出版．
- 20) 山本保博：〔編集〕CPRインストラクターズガイド．CPRインストラクターズガイド第2版（編集），2003；医学書院．
- 21) 山本保博：〔監修〕第24回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第24回救急救命士国家試験問題解答・解説集，2003；へるす出版．
- 22) 横田裕行：〔分担〕脳死判定法．実地医家，研修医，医学生のための新・図解日常診療手技ガイド，2003；pp234-240，文光堂．
- 23) 横田裕行：〔分担〕広範性脳損傷．脳神経外科疾患の手術と適応II，2003；pp421-429，朝倉書店．
- 24) 山本保博：〔分担〕第一章除細動/C. 包括的指示下での除細動とメディカルコントロール，D. 包括的指示下での除細動プロトコール．除細動・気管挿管（救急救命士標準テキスト追補版）（救急救命士教育研究会），2003；pp13-20，へるす出版．
- 25) 吉田竜介，山本保博：〔分担〕ACLS策定の目的と経緯．必携ACLS 技術から教育まで（編：太田宗夫），2004；pp8-16，メディカ出版．
- 26) 山本保博，中谷壽男<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>関西医科大学救急医学科)：〔分担〕急性中毒．今日の治療指針2004（分担），2004；pp1129-1154，医学書院．
- 27) 横田裕行：〔分担〕頭部外傷．プレホスピタル外傷学，2004；pp211-223，永井書店．
- 28) 横田裕行：〔分担〕低体温療法の現状．Annual Review 神経，2004；pp104-109，中外医学社．
- 29) 久志本成樹：〔分担〕消化管損傷（十二指腸を含む）．今日の治療指針2004年版（山口 徹，北原光夫），2004；p46，医学書院．
- 30) 吉田竜介：〔分担〕気管挿管と輪状甲状間膜穿刺・切開．呼吸器疾患最新の治療2004-2006（編集：工藤翔二ら），2004；pp99-102，南江堂．
- 31) 川井 真，大泉 旭，花田有里子：〔分担〕脊椎・脊髄外傷．総合臨床，救急マニュアル，2004；総合臨床．
- 32) 山本保博：〔監修，分担〕民間病院における集団災害対策．民間病院における集団災害対策，2004；全日本病院出版会．

#### 学会発表

##### (1) 会長講演：

- 1) 山本保博：複雑化する災害に対する医療対応を経験して．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．

(2) 特別講演：

- 1) 横田裕行：高度救命救急センターにおける救急医療の現状と問題点．第12回地域医療支援病院セミナー，2003．1．
- 2) 山本保博：包括的指示下の除細動とAED．第12回青森救急医学会総会，2003．7．
- 3) 山本保博：複雑化災害の医療対応を考える．第21回岩手県救急医療研究会，2003．9．
- 4) 山本保博：「災害医療」(その時何ができるか)．文京区医師会学術研究会，2003．9．
- 5) 山本保博：中核都市における救急医療体制のありかた．沼津医師会講演会，2003．9．
- 6) 川井 真：重症熱傷に対する救命治療．最新医療研究会，2003．9．
- 7) 山本保博：スポーツにおける突然死の現状とその対策：新しい心肺蘇生法とAEDを含めて．第16回城南地区荏原医師会，スポーツ医会・内科医会共催講演会，2003．12．
- 8) 山本保博：プレホスピタル・ケアの沿革と今後の展望．第12回全国救急隊員シンポジウム，2004．1．
- 9) 横田裕行：救命救急センターにおける脳神経外科疾患の診断と治療．2004年1月医療研究会，2004．1．

(3) 招待講演：

- 1) 横田裕行：頭部外傷のモニタリングをその活用について．ナースのための頭部外傷セミナー，2003．11．

(4) 教育講演：

- 1) 横田裕行：脳死のメカニズムと脳死判定．第2回JATCO総合研修会，2003．9．
- 2) 川井 真：外傷初期診療ガイドラインJA TECの実際．日本医師会生涯教育講座 平成15年度第2回医学講座プログラム，2003．9．
- 3) 横田裕行：頭部外傷患者の治療．第6回日本病院脳神経外科学会，2003．10．
- 4) 青木 律<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，村上正洋<sup>1)</sup>，山本保博，川井 真<sup>(1)</sup>形成外科・美容外科)：広範囲熱傷患者の社会復帰に対する総合的治療：今までの我々の取り組みと21世紀の医療環境を見据えた戦略について．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．

(5) 基調講演：

- 1) 山本保博：わが国の心肺蘇生法の標準化と普及の歩みと展望．第1回兵庫県救急医療フォーラム，2004．1．
- 2) 山本保博：NBC災害医療対策と最近の災害医療(厚生労働科学研究「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症のための技術的基盤整備に関する研究」報告)．第8回地域防災民間緊急医療ネットワーク・フォーラム，2004．3．

(6) シンポジウム：

- 1) 横堀将司：重症頭部外傷における頭蓋内圧，脳灌流圧，脳循環および代謝と予後．日本神経外傷学会，2003．3．
- 2) 加地正人，久野将宗<sup>1)</sup>，小柳正雄<sup>1)</sup>，原 俊輔<sup>1)</sup>，中野渡雄一<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>1)</sup>，弥富俊太郎<sup>1)</sup>，玉井英世<sup>1)</sup>，畝本恭子<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，小川理郎，山本保博<sup>(1)</sup>多摩永山病院救命救急センター)：外傷専門医の必要性．第17回日本外傷学会，2003．5．
- 3) 横田裕行，山本保博，久保田稔<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>1)</sup>，畝本恭子<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>(1)</sup>多摩永山病院救命救急センター)：臨床神経及び電気生理学的視点からみた脳蘇生限界点．第16回脳死・脳蘇生学会，2003．6．
- 4) 横田裕行，桑本健太郎，志賀尚子，佐藤秀貴，山本保博，猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科)：分子マーカーから見た頭部外傷の病態と管理：脳血管内皮損傷と凝固線溶系の見地から．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．
- 5) 吉田竜介，山本保博：救急救命東京研修所における解剖学実習に関する研修生への意識調査．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 6) 佐藤秀貴，横田裕行，志賀尚子，桑本健太郎，高山泰広，辻井厚子，野手洋治，山本保博：重症頭部外傷におけるガイドラインと当施設での診療の実際．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 7) 黒川 顕<sup>1)</sup>，畝本恭子<sup>2)</sup>，辻井厚子，二宮宣文<sup>2)</sup>，横田裕行，山本保博<sup>(1)</sup>第二病院救命救急部，<sup>2)</sup>多摩永山病院救命救急センター)：臨床研修必修化における救命救急センターでの研修の意義と問題点と対策．第31回

日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.

- 8) 畝本恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 原 俊輔<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 玉井英世<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 弥富俊太郎<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博( <sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 心原性脳塞栓の急性期治療: urokinaseによる局所血栓溶解療法の成績について. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
  - 9) 荒木 尚<sup>1)</sup>, Dirks Peter B<sup>1)</sup>, Rutka James T<sup>1)</sup>, Drake James M<sup>1)</sup>, Humphreys Robin P<sup>1)</sup>, 山本保博( <sup>1)</sup>トロント小児病院脳神経外科): 小児重症頭部外傷の治療ガイドライン: トロント小児病院における脳神経外科治療. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
  - 10) 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 上川雄士<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 森田良平<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>1)</sup>, 上野幸広<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 山本保博( <sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 'Load and Go'から Damage Control Surgeryまで. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
  - 11) 佐藤秀貴, 横田裕行, 桑本健太郎, 志賀尚子, 山本保博: 重傷頭部外傷の治療の実際とガイドライン. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
  - 12) 横田裕行, 横堀将司, 桑本健太郎, 佐藤秀貴, 山本保博, 直江康孝, 志賀尚子, 畝本恭子, 黒川 顕: くも膜下出血術後の急性期輸液, 栄養管理. 第19回体液・代謝管理研究会, 2004. 1.
  - 13) 佐々木勝<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 山口芳裕<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 古賀信憲<sup>1)</sup>, 濱辺祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>[東京DMAT] 設立運営委員会): 東京DMAT設立に関して: 主に行政的側面から ( Making process of Tokyo Disaster Medical Assistance Team. 第9回日本集団災害医学会総会, 2004. 2.
  - 14) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 上川雄士<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 森田良平<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>1)</sup>, 上野幸広<sup>1)</sup>, 富田祥輝<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博( <sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 腹部臓器損傷における Damage control surgery について. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.
- (7) パネルディスカッション:
- 1) 吉田竜介, 山本保博, 小井土雄一, 寺田泰蔵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>公立昭和病院救命救急センター): '事後検証体制における quality assuranceの現状と問題点. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
  - 2) 小野寺謙吾, 相星淳一, 久志本成樹, 柿沼敏行, 野口裕幸, 山本保博: 持続濾過透析併用長時間エンドトキシン吸着療法が有効であった敗血症症例の検討. 第8回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2004. 1.
- (8) セミナー:
- 1) 久志本成樹: 外傷初期診療ガイドラインJATECの実際. 日本医師会生涯教育講座 平成15年度第2回医学講座プログラム, 2003. 9.
  - 2) 久志本成樹: 3例の法的脳死判定に基づく臓器提供施設としての経験から. 第1回北海道院内コーディネーター講習会, 2003. 11.
- (9) ワークショップ:
- 1) 横田裕行, 志賀尚子, 佐藤秀貴, 久志本成樹, 野手洋治, 山本保博, 直江康孝<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 脳死下臓器提供時における脳循環検査の意義. 第17回日本神経救急学会学術集会, 2003. 6.
  - 2) 横田裕行: 救急医療における倫理的問題: 高度救命救急センター医師の立場から. 第29回医学系大学倫理委員会連絡会議, 2003. 7.
  - 3) 布施 明<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 勝見 敦<sup>2)</sup>, 小井土雄一, 山本保博( <sup>1)</sup>川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup>武蔵野赤十字病院): Mass gathering 災害医療としてのワールドカップ埼玉会場の検証と課題. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
  - 4) 近藤久禎, 小井土雄一, 山本保博: Mass gatheringにおけるNBC対応体制. 第31回日本救急医学会・総会, 2003. 11.

- 5) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>2)</sup>, 小井土雄一, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック, <sup>2)</sup>千葉北総病院救命救急センター ): 成田空港と空港災害 . 第31回日本救急医学会・総会, 2003 . 11 .
- 6) 久志本成樹, 辻井厚子, 横田裕行, 小井土雄一, 野手洋治, 山本保博: 提供施設よりみた法的脳死下臓器提供における問題点: 大学病院における3例の経験から . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 7) 小池 薫<sup>1)</sup>, 真弓俊彦<sup>1)</sup>, 山畑佳篤<sup>1)</sup>, 谷川攻一<sup>1)</sup>, 池上敬一<sup>1)</sup>, 丸藤 哲<sup>1)</sup>, 瀧野昌也<sup>1)</sup>, 田中行夫<sup>1)</sup>, 野田英一郎<sup>1)</sup>, 金子高太郎<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 北原 浩<sup>1)</sup>, 小林正直<sup>1)</sup>, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 境田康二<sup>1)</sup>, 柴田康之<sup>1)</sup>, 前川和彦<sup>1)</sup>, 杉本 壽<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 明石勝也<sup>1)</sup>, 平出 敦<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>日本救急医学会 ACLS コース企画運営特別委員会 ): 全国大学医学部・医科大学附属病院における ACLS 普及状況に関するアンケート調査結果報告 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 8) 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 西澤健司<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 近藤久禎, 小井土雄一, 山本保博 ( <sup>1)</sup>薬剤部 ): 国際緊急援助隊 ( JDR ) 医療チームにおける薬剤師の役割: アルジェリア国における地震災害救援活動の事例検討から . 第9回日本集団災害医学会, 2004 . 2 .
- 9) 中田敬司<sup>1)</sup>, 近藤久禎, 小井土雄一, 山本保博 ( <sup>1)</sup>岡山大学医学部保健学科 ): 国際緊急援助隊医療チーム活動上のリスクアセスメントについて . 第9回日本集団災害医学会, 2004 . 2 .
- (10) 一般講演:
- 1) Koido Y, Yamamoto Y, Katsumi A, Morimura N, Asai Y, Ishii N, Ishihara T, Sugimoto K, Sugiyama M, Yoshioka T, Henmi H ( <sup>1)</sup> The Japan Health Reseach Team for "Establishment and Evaluation of The Guideline for Mass Casualty in Mass Gathering" ): The emergency medical system for mass gathering and the official data of the emergency patients related to the 2002FIFA World Cup Games in Japan . 13th Congress of World Association for Disaster and Emergency Medicine ( Melbourne ), 2003 . 5 .
- 2) Syoji Y : Neuropsychological Recovery in Pediatric Patients with Acute Subdural Hematoma Treated with Hypothermia Therapy : Report of Two Cases . International Brain Hypothermia Symposium 2004 ( Tokyo ), 2004 . 2 .
- 3) 原 俊輔<sup>1)</sup>, 玉井英世<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 弥富俊太郎<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 小川理郎<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>第二病院救命救急部 ): 敗血症性ショックの原因診断ならびに治療に難渋した1例 . 第31回過大侵襲研究会, 2003 . 4 .
- 4) 佐藤秀貴, 横田裕行, 高山泰広, 志賀尚子, 山本修三, 山本保博: リン酸カルシウムによる頭蓋形成術 . 第12回 脳神経外科技術と機器学会, 2003 . 4 .
- 5) 中村 敏, 百束比古<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>形成外科学 ): 当院における犬猫咬傷の検討 . 日本形成外科学会総会, 2003 . 4 .
- 6) 横田裕行, 久野将宗<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 原 俊輔<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 弥富俊太郎<sup>1)</sup>, 玉井英世<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター ): 頸椎, 頸髄損傷における前方固定用ケージの適応と問題点 . 第17回日本外傷学会, 2003 . 5 .
- 7) 小野寺謙吾, 相星淳一, 小池 薫<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 柿沼敏行, 山本保博 ( <sup>1)</sup>東北大学医学部救急医学 ): 出血性ショック後の急性肺損傷に対する liposome-encapsuled hemoglobin の効果 . 第17回日本外傷学会, 2003 . 5 .
- 8) 久志本成樹, 山本保博, 相川直樹<sup>1)</sup>, 藤島清太郎<sup>1)</sup>, 遠藤重厚<sup>2)</sup>, 行岡秀和<sup>3)</sup>, 池田寿昭<sup>4)</sup>, 池田一美<sup>4)</sup>, 戸塚恭一<sup>5)</sup>, 関根 賢<sup>5)</sup>, 関根勇夫<sup>6)</sup>, 子川和広<sup>7)</sup>, 里村慎二<sup>8)</sup>( <sup>1)</sup>慶應義塾大学救急医学, <sup>2)</sup>岩手医科大学救急医学, <sup>3)</sup>大阪市立大学救急部, <sup>4)</sup>東京医科大学八王子医療センター救急部, <sup>5)</sup>東京女子医科大学感染症科, <sup>6)</sup>防衛医科大学校小児科, <sup>7)</sup>防衛医科大学校小児科, <sup>8)</sup>和光純薬工業臨薬研究開発本部 ): 細菌感染症の重症度判定における血中プロカルシトニン測定の意義 . 第18回日本 Shock 学会総会, 2003 . 5 .
- 9) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 上田康晴<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>中央検査部, <sup>2)</sup>救急医学 ): 心筋障害マーカーと腎機能の関連性について . 第52回日本医学検査学会, 2003 . 5 .
- 10) 久志本成樹, 柴田泰史, 山本保博: 重症頭部外傷急性期におけるフィブリノゲン分解の関与 . 第103回日本外

科学会定期学術集会, 2003 . 6 .

- 11) 横堀将司: 軽度脳低温療法を施行した重傷急性硬膜下血腫の小児例における高次機能の回復 . 第6回日本脳低温療法研究会, 2003 . 7 .
- 12) 久志本成樹, 横田裕行, 川井 真, 小井土雄一, 山本保博: 提供施設よりみ法的脳死下臓器提供における組織提供 . 第2回日本組織移植学会・学術集会, 2003 . 8 .
- 13) 大泉 旭, 川井 真, 加藤 宏, 原 義明, 山崎亮一, 長谷川栄寿, 山本保博: 当センターおよび関連救命救急センターにおける救急医による骨折治療の現状 . 日本骨折治療学会, 2003 . 8 .
- 14) 久志本成樹, 山本保博, 柴田泰史, 相星淳一: 重症敗血症症例における血漿BNPレベルの変動は全身性炎症反応が関与する . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 15) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央検査部, <sup>2)</sup>救急医学): 心筋マーカー上昇に対する腎機能の影響について . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 16) 佐藤秀貴, 横田裕行, 志賀尚子, 桑本健太郎, 横堀将司, 山本保博: くも膜下出血症例における随液中S100蛋白の測定 . 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003 . 10 .
- 17) 渥美生弘, 戸田茂樹, 渡邊 玲, 池田幸穂, 寺本 明: ラット前脳虚血再灌流における free radical の動態 . 第62回日本脳神経外科学会総会, 2003 . 10 .
- 18) 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴, 志賀尚子, 高山泰広, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 急性期くも膜下出血重症例 ( grade V ) に対する治療方針 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 19) 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 平田清貴<sup>2)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕<sup>3)</sup>, 山本保博, 大野香那恵<sup>4)</sup>, 松本宣明<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>同付属病院薬剤部, <sup>3)</sup>同第二病院救命救急部, <sup>4)</sup>昭和薬科大学薬物動態学): 重症患者の鎮静時におけるミダゾラムの至適投与量の検討: 肝腎障害を主とした活性代謝産物の経時的測定より . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 20) 弥富俊太郎<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 原 俊輔<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 玉井英世<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行, 山本保博 (<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 出血性ショックにより救命救急センター搬送となった上部消化管出血症例に対する治療戦略 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 21) 花田有里子, 大泉 旭, 辻井厚子, 川井 真, 山本保博: 頸髄損傷における呼吸機能の検討 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 22) 大泉 旭, 川井 真, 辻井厚子, 原 義明<sup>1)</sup>, 花田有里子, 山本保博 (<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 腰椎椎体骨折に対する手術成績の検討 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 23) 中埜信太郎<sup>1)</sup>, Justo R<sup>1)</sup>, 小井土雄一, 山本保博 (<sup>1)</sup>The Prince Charles Hospital Paediatric Cardiology): 先天性心疾患児の新生児搬送における搬送前診断の意義 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 24) 相星淳一, 上田康晴, 小池 薫<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博 (<sup>1)</sup>東北大学付属病院救急部): 熱傷急性期における好中球 priming と重症度の検討 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 25) 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 武井健吉<sup>1)</sup>, 上野幸広<sup>1)</sup>, 富田祥輝<sup>1)</sup>, 武田典子<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 森田良平<sup>1)</sup>, 上川雄士<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博 (<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 将来への先行投資としてのガイドライン2000にもとづく救急隊員教育プログラム . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 26) 武井健吉<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 上川雄士<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 森田良平<sup>1)</sup>, 上野幸広<sup>1)</sup>, 山本保博 (<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 小児救急医療システムと問題点～外傷診療に関して . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 27) 上田康晴, 辻井厚子, 山本保博: HOT患者をめぐる救急医療のありかた . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 28) 野口裕幸, 上田康晴, 相星淳一, 辻井厚子, 小井土雄一, 山本保博: 人工呼吸器機種別による測定部位別によ

- る一回換気量の違いについて．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 29) 望月 徹<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，上川雄士<sup>1)</sup>，阪本雄一郎<sup>1)</sup>，森田良平<sup>1)</sup>，武井健吉<sup>1)</sup>，上野幸広<sup>1)</sup>，山本保博<sup>(1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 化学テロ災害訓練で得た消防と基幹災害医療センターである当院との連携と検討すべき課題．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 30) 浅井康文<sup>1)</sup>，山本保博<sup>(1)</sup>札幌医科大学医学部高度救命救急センター): シリア・アラブ共和国に対する救急医療体制支援．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 31) 中村 敏，上西藏人，佐藤秀貴，辻井厚子，山本保博: 重症患者における眼底所見の検討．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 32) 森田良平<sup>1)</sup>，上野幸広<sup>1)</sup>，富田祥輝<sup>1)</sup>，阪本雄一郎<sup>1)</sup>，上川雄士<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，望月 徹<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>(1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 救命救急センターにおける長期入院(6ヵ月以上)の原因と社会的背景．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 33) 二宮宣文<sup>1)</sup>，根本香代<sup>2)</sup>，原田尚重，鈴木秀典<sup>2)</sup>，山本保博<sup>(1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>薬理学): エンドトキシン誘発モルモット腸管麻痺に対するカンナビノイドについて．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 34) 上田康晴，田上正茂，辻井厚子，山本保博: propofolは本当に有用か？(第2報)．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 35) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，望月 徹<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，上川雄士<sup>1)</sup>，森田良平<sup>1)</sup>，武井健吉<sup>1)</sup>，上野幸広<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>(1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): IIIb 肝損傷手術症例および肝損傷死亡例の検討．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 36) 原 義明<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，川井 真，望月 徹<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，上川雄士<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，阪本雄一郎<sup>1)</sup>，武井健吉<sup>1)</sup>，森田良平<sup>1)</sup>，上野幸広<sup>1)</sup>，大泉 旭，山本保博<sup>(1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): Orthopaedic Damage Control Surgeryの適応基準．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 37) 柿沼敏行，相星淳一，小池 薫<sup>1)</sup>，小野寺謙吾，久志本成樹，山本保博<sup>(1)</sup>東北大学付属病院救急部): 出血性ショックに対するLiposome-encapsulated hemoglobinの有効性: 腸管膜リンパ液のラット好中球に対するcytotoxicityの検討．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 38) 小川太志，山本保博，川井 真，横田裕行，吉田竜介，小井土雄一，久志本成樹，辻井厚子，相星淳一，青木寛明: 救命救急医療におけるMRSA感染症へのハベカシン投与方法の検討．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 39) 益子邦洋<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，望月 徹<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，上川雄士<sup>1)</sup>，森田良平<sup>1)</sup>，阪本雄一郎<sup>1)</sup>，山本保博，岡田芳明<sup>2)</sup>，辺見 弘<sup>2)</sup>，加来信雄<sup>2)</sup>，葛西 猛<sup>2)</sup>，金子正光<sup>2)</sup>，滝口雅博<sup>2)</sup>，吉岡敏治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院救命救急センター，<sup>2)</sup>NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」): 全国を網羅する航空救急医療体制の構築には，MC体制下での救急救命士による心停止前輸液が必要．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 40) 直江康孝<sup>1)</sup>，横田裕行，畝本恭子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 重症頭部外傷に対する軽度低体温療法法の合併症としてのVAPの検討．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 41) 小井土雄一，花田有里子，上田康晴，山本保博: 出血性ショック症例における初期輸液としての1%ブドウ糖加酢酸リンゲル液の血糖値と電解質に対する影響．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 42) 横堀将司: 重症頭部外傷急性期管理における脳灌流圧(CPP)と脳循環および予後．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 43) 大泉 旭，川井 真，辻井厚子，原 義明，花田有里子，山本保博: 腰椎破裂骨折に対する手術成績の検討．第31回日本救急医学会総会・学術集会，2003．11．
- 44) 柴田泰史<sup>1)</sup>，野本剛史<sup>1)</sup>，里村克章<sup>1)</sup>，上田康晴<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央検査部，<sup>2)</sup>救急医学): ヒト心臓由来脂

- 脂肪酸結合タンパクと骨格筋障害の関連性について．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 45) 渥美生弘，戸田茂樹，渡邊 玲，池田幸穂，寺本 明，山本保博：虚血再灌流におけるフリーラジカルの役割．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 46) 小川太志，久志本成樹，中村 敏，相星淳一，川井 真，横田裕行：熱傷患者に対する抗生剤初期投与の検討．第12回日本熱傷学会関東地方会，2004．1．
- 47) 中村 敏，原田尚重，小川太志，久志本茂樹，川井 真，山本保博：中国酒熱傷の1例．日本熱傷学会関東地方会，2004．1．
- 48) 高田洋介<sup>1)</sup>，京極多歌子<sup>1)</sup>，相良冬木<sup>1)</sup>，永井周子<sup>1)</sup>，島田 靖<sup>1)</sup>，近藤久禎<sup>1)</sup>，松尾信昭<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国際緊急援助隊医療チーム)：国際緊急援助隊医療チームの診療録の改訂と今後の課題．第9回日本集団災害医学会，2004．2．
- 49) 島田 靖<sup>1)</sup>，鷓飼 卓<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，浅井康文<sup>1)</sup>，甲斐達朗<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，松阪正訓<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>特定非営利活動法人災害人道医療支援会)：2003年イラク危機に対する災害人道医療支援会(HuMA)の活動．第9回日本集団災害医学会，2004．2．
- 50) 桑本健太郎，横堀将司，藤本将史，佐藤秀貴，川井 真，横田裕行，山本保博：IC ophthalmic giant aneurysmに対するIC trap & long vein graftを行った1例．第54回日本救急医学会関東地方会，2004．3．
- 51) 横堀将司，富田博樹<sup>1)</sup>，戸根 修<sup>1)</sup>，玉置正史<sup>1)</sup>，中林基明<sup>2)</sup>，勝見 敦<sup>2)</sup>，須崎紳一郎<sup>2)</sup>，山崎友子<sup>3)</sup>，横田裕行，山本保博(<sup>1)</sup>武蔵野赤十字病院脳神経外科，<sup>2)</sup>同救急医学科，<sup>3)</sup>同精神科)：軽度脳低温療法を施行した重症急性硬膜下血腫の小児例における高次機能の回復．第27回日本神経外傷学会，2004．3．
- 52) 青木寛明，小川太志，久志本成樹，小井土雄一，横田裕行，山本保博：早期閉腹に腹直筋前鞘翻転法が有用であった高齢者汎発性腹膜炎の1例．第27回日本神経外傷学会，2004．3．
- 53) 福永 毅<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，花田有里子，山本保博(<sup>1)</sup>放射線医学・ハイテクリサーチセンター)：慢性膵炎に伴う仮性膵嚢胞内に出血を来した脾動脈瘤の1例．第40回日本腹部救急医学会総会，2004．3．
- 54) 富田祥輝<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，森田良平<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，上川雄士<sup>1)</sup>，阪本雄一郎<sup>1)</sup>，武井健吉<sup>1)</sup>，上野幸廣<sup>1)</sup>，川井 真，山本保博(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター)：脛骨開放骨折に対し長期間創外固定を使用し骨癒合が遷延した1例．第54回日本救急医学会関東地方会，2004．3．
- 55) 武井健吉<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，上川雄士<sup>1)</sup>，阪本雄一郎<sup>1)</sup>，森田良平<sup>1)</sup>，富田祥輝<sup>1)</sup>，上野幸廣<sup>1)</sup>，山本保博(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター)：骨盤開放骨折にて失った1女児例．第54回日本救急医学会関東地方会，2004．3．
- 56) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，上川雄士<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，森田良平<sup>1)</sup>，武井健吉<sup>1)</sup>，上野幸廣<sup>1)</sup>，富田祥輝<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター)：pilot studyからみたtrauma registryのpre-hospitalに関する評価指標についての検討．第54回日本救急医学会関東地方会，2004．3．
- 57) 青木寛明，小川太志，中村 敏，柴田泰史，小野寺謙吾，久志本成樹，山本保博：腹膜炎症例におけるプロカールシトニン測定の有用性．第54回日本救急医学会関東地方会，2004．3．
- 58) 上西蔵人，花田有里子，中野公介，上笹 宙，柿沼敏行，吉田竜介，山本保博：胃壁内血腫を形成した仮性嚢胞の1例．第54回日本救急医学会関東地方会，2004．3．
- 59) 小井土雄一，上田康晴，高山泰広，柴田泰史，久志本成樹，山本保博：出血性ショックに対する1%ブドウ糖加酢酸リングル液の大量・急速投与の安全性について．第31回日本集中治療医学会学術集会，2004．3．
- 60) 横堀将司：軽度脳低温療法を施行した重症急性硬膜下血腫の小児例における高次機能の回復．第27回日本神経外傷学会，2004．3．
- 61) 柴田泰史<sup>1)</sup>，野本剛史<sup>1)</sup>，里村克章<sup>1)</sup>，上田康晴<sup>2)</sup>，小井土雄一<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院中央検査部，<sup>2)</sup>救急医学)：ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白の上昇には骨格筋障害が関与する．第31回日本集中治療医学会学術総

会, 2004 . 3 .

(11) ビデオシンポジウム :

- 1) 横田裕行, 佐藤秀貴, 布施 明, 桑本健太郎, 横堀将司, 高山泰広, 山本保博, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 杉浦和朗<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup> 東京労災病院 ): 頭部軟部組織, 頭蓋骨損傷の治療 . 第27回日本神経外傷学会, 2004 . 3 .

(12) ビューポイント :

- 1) 柿沼敏行, 相星淳一, 小池 薫<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾, 久志本成樹, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 東北大学医学部救急部 ): 出血性ショックに対する Liposomeencapsulated hemoglobin ( LEH ) の有用性 . 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004 . 3 .

(13) ポスター :

- 1) Kakinuma T , Aiboshi J , Koike K<sup>1)</sup> , Onodera K , Kushimoto S , Yamamoto S ( <sup>1)</sup> Tohoku Univerisity, Department of Critical Care Medicine ): Blood Substitute Attenuates Mesenteric Lymph Induced Neutrophil Cytotoxicity Following Hemorrhagic Shock in Rats . Sixty Second Meeting American Association For the Surgery of Trauma ( Mineapolis ), 2003 . 9 .
- 2) Yokobori S , Tomita H , Tone O , Tamaki M , Sato Y , Nakabayashi M , Inaba S , Katsumi A , Suzaki S , Yamazaki T , Yokota H , Yamamoto Y : Neuropsychological recovery in pediatric patients with acute subdural hematoma treated with mild hypothermia therapy ; Report of two cases . International brain hypothermia symposium 2004 , 2004 . 1 .
- 3) Ikakura K , Naoe Y , Kitahasi A , Onodera K , Nakabayashi M , Fuse A , Sato H , Yokota H , Kurokawa A , Yamamoto Y : The evaluation of results of transcranial Doppler sonography in the postoperative brain hypothermia therapy for severe cases of subarachnoid hemorrhage . International brain hypothermia symposium 2004 , 2004 . 1 .
- 4) Kuwamoto K , Yokobori S , Takayama Y , Shiga N , Sato H , Yokota H , Yamamoto Y : A survival case of subarachnoid hemorrhage using brain hypothermia after recovery of spontaneous circulation from cardiopulmonary arrest ; Case report . Internationalbrain hypothermia symposium 2004 , 2004 . 1 .
- 5) 柿沼敏行, 相星淳一, 小池 薫<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾, 久志本成樹, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 東北大学医学部救急部 ): 出血性ショックに対する Liposome-encapsulated hemoglobin の有効性 . 第71回日本医科大学医学会総会 . 2003 . 9 .
- 4) 横田裕行, 桑本健太郎, 志賀尚子, 佐藤秀貴, 辻井厚子, 山本保博, 直江康孝<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>3)</sup>, 久保田稔<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 同中央検査室, <sup>3)</sup> 第二病院救命救急部 ): 脳死判定における短潜時体性感覚誘発電位の意義 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 5) 小川理郎<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 玉井英世<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 平間久雄<sup>3)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 同第二病院救命救急部, <sup>3)</sup> 総合会津中央病院救命救急センター ): 横隔動脈損傷による遅発性大量血胸をきたした1例 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 6) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 小井土雄一, 横田裕行, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 新東京国際空港クリニック ): 空の旅と救急医療 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 7) 島田 靖<sup>1)</sup>, 鶴飼 卓<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 金田正樹<sup>1)</sup>, 甲斐達朗<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 松坂正訓<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 特定非営利活動法人災害人道支援会 ): 災害人道医療支援会 ( HuMA ) におけるイラク危機対応 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 8) 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 平田清貴<sup>1)</sup>, 岸 大輔<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 大野香那恵<sup>2)</sup>, 松本宣明<sup>2)</sup>, 花田有里子, 原田尚重, 小川太志, 志賀尚子, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>2)</sup> 昭和薬科大学薬物動態学 ): 初回負荷をおこなった Fluconazole ( FLCZ ) の投与方法の検討 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .
- 9) 高橋 聡<sup>1)</sup>, 横山隆捷<sup>1)</sup>, 中村順哉<sup>2)</sup>, 松清 大<sup>2)</sup>, 大友康裕<sup>3)</sup>, 松尾邦功<sup>3)</sup>, 山本保博, 横田裕行, 竹田広毅<sup>1)</sup>



- (<sup>1</sup>)清智会記念病院救急部,<sup>2</sup>)同外科,<sup>3</sup>)国立病院東京災害医療センター救命救急センター): 両側同時に発症した緊張性自然気胸の1例. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
- 10) 辻井厚子<sup>1</sup>), 二宮宣文<sup>1</sup>), 畝本恭子<sup>1</sup>), 加地正人<sup>1</sup>), 弥富俊太郎<sup>1</sup>), 玉井英世<sup>1</sup>), 原 俊輔<sup>1</sup>), 目原久美<sup>1</sup>), 山本保博(<sup>1</sup>)多摩永山病院救命救急センター): 興味のある臨床経過と画像所見を呈したcentral pontine myelinolysisの1例. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
- 11) 上野幸広<sup>1</sup>), 武田典子<sup>1</sup>), 富田祥輝<sup>1</sup>), 武井健吉<sup>1</sup>), 森田良平<sup>1</sup>), 阪本雄一郎<sup>1</sup>), 上川雄士<sup>1</sup>), 原 義明<sup>1</sup>), 工廣紀斗司<sup>1</sup>), 松本 尚<sup>1</sup>), 望月 徹<sup>1</sup>), 山本保博(<sup>1</sup>)千葉北総病院救命救急センター): 気道閉塞をきたした下甲狀腺動脈損傷に対してのTAEで救命しえた1例. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
- 12) 松尾信昭<sup>1</sup>), 島田 靖<sup>1</sup>), 松坂正訓<sup>1</sup>), 渡瀬淳一郎<sup>1</sup>), 金田正樹<sup>1</sup>), 二宮宣文<sup>1</sup>), 甲斐達朗<sup>1</sup>), 山本保博<sup>1</sup>), 鶴飼卓<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>)特定非営利活動法人災害人道支援会): イラク危機対応チームの活動. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
- 13) 玉井英世<sup>1</sup>), 原 俊輔<sup>1</sup>), 中野渡雄一<sup>1</sup>), 加地正人<sup>1</sup>), 畝本恭子<sup>2</sup>), 横田裕行, 二宮宣文<sup>1</sup>), 黒川 顕<sup>2</sup>)(<sup>1</sup>)多摩永山病院救命救急センター,<sup>2</sup>)第二病院救命救急部): 薬剤性肝障害から血球貧食症候群に陥り, 診断・治療に難渋した症例. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
- 14) 直江康孝<sup>1</sup>), 菊池宏子<sup>1</sup>), 久野将宗<sup>1</sup>), 小柳正雄<sup>1</sup>), 玉井英世<sup>1</sup>), 中野渡雄一<sup>1</sup>), 直江康孝<sup>1</sup>), 弥富俊太郎<sup>1</sup>), 加地正人<sup>1</sup>), 畝本恭子<sup>2</sup>), 二宮宣文<sup>1</sup>), 横田裕行, 黒川 顕<sup>2</sup>)(<sup>1</sup>)多摩永山病院救命救急センター,<sup>2</sup>)第二病院救命救急部): 感染性心内膜炎から多発性菌塞栓症が多臓器不全の原因となった1例. 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003. 11.
- 15) 布施 明<sup>1</sup>), 横田裕行, 小南修史, 高山泰広, 小関一英<sup>1</sup>), 小林士郎<sup>2</sup>)(<sup>1</sup>)川口医療センター救命救急センター,<sup>2</sup>)日本医科大学脳神経外科学): 対側内頸動脈偽動脈瘤を伴った外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻の1例. 第27回日本神経外傷学会, 2004. 3.

## [ 第二病院救命救急部 ]

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Kurokawa A, Yokota H<sup>1</sup>), Ogawa S<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>)Department of Emergency and Critical Care Medicine): Regional cerebral blood flow in delirium patients. Psychiatry and Clinical Neurosciences 2003; 57: 337-339.
- 2) 畝本恭子, 直江康孝<sup>1</sup>), 横田裕行<sup>2</sup>), 黒川 顕, 山本保博<sup>2</sup>)(<sup>1</sup>)多摩永山病院救命救急センター,<sup>2</sup>)高度救命救急センター): 救命救急センターにおける20世紀末のクモ膜下出血治療の変遷と治療成績. 日本救急医学会雑誌 2003; 187-198.

##### (2) 総説:

- 1) 黒川 顕: 救急医療に必要な基礎知識 緊急心電図のポイント. 救急医療 診断と治療 増刊号 2003; 53-65.
- 2) 黒川 顕: 中毒 メタノール エタノール エチレングリコール 小児疾患診療のための病態生理2. 小児内科学 2003; 35: 1350-1353.
- 3) 黒川 顕: 新医師臨床研修: 「地域保健・医療」研修の使命 臨床研修病院からみた「地域保健・医療」研修. 公衆衛生 2003; 67: 756-759.
- 4) 黒川 顕: 臨床研修医のための救急診療マニュアル 脳梗塞. 救急医学 2003; 27: 1504-1507.
- 5) 黒川 顕: 高齢の傷病者への対応 その1 総論. プレホスピタル・ケア 2003; 57: 24-27.

- 6) 黒川 顕：高齢の傷病者への対応 その2 主要徴候の問診と観察のポイント・救急処置と搬送法．プレホスピタル・ケア 2003；58：38-43．
- 7) 黒川 顕：高齢の傷病者への対応 その3 高齢者によくみられる救急疾患．プレホスピタル・ケア 2003；59：44-50．

## 著 書

- 1) 黒川 顕：〔分担〕救急医療の関連法規．救命救急医療への Multiple Approach 理論と実践（山本保博），2003；pp45-50，メディカル・ジャーナル社．
- 2) 黒川 顕：〔分担〕動悸．救命救急医療への Multiple Approach 理論と実践（山本保博），2003；pp88-92，メディカル・ジャーナル社．
- 3) 黒川 顕：〔分担〕第23回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第23回救急救命士国家試験問題解答・解説集（山本保博），2003；pp3-13，へるす出版．
- 4) 上田康晴：〔分担〕救急処置と看護 ペインコントロール．Emergency Nursing，2003；pp96-103，メディカ出版．
- 5) 上田康晴，柴田泰史<sup>1)</sup>，小川太志<sup>1)</sup>，原田尚重<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>高度救命救急センター）：〔共著〕救急領域におけるMRSA感染症に対するteicoplanimの臨床的検討．日本化学療法学会雑誌，2003；pp490-496，日本化学療法学会．
- 6) 黒川 顕：〔分担〕めまい．救急診療指針（日本救急医学会），2003；pp111-114，へるす出版．
- 7) 黒川 顕：〔分担〕各科の心身医療の現状と将来 救命救急センター．現代心療内科学（久保千春，中井吉英，野添新一），2003；pp90-97，永井書店．
- 8) 黒川 顕：〔分担〕第24回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第24回救急救命士国家試験問題解答・解説集（山本保博），2003；pp3-15，へるす出版．
- 9) 上田康晴，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>高度救命救急センター）：〔分担〕脂肪塞栓症候群．医学の歩み 別冊，2004；pp159-164，医師薬出版．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 上田康晴：当センターにおける呼吸管理戦略の変遷．長岡市医師会学術講演会，2004．2．

### (2) シンポジウム：

- 1) 黒川 顕，畝本恭子<sup>1)</sup>，辻井厚子<sup>2)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>高度救命救急センター）：臨床研修必修化における救命救急センターでの研修の意義と問題点と対策．第31回日本救急医学会総会，2003．10．
- 2) 畝本恭子，直江康孝<sup>1)</sup>，久野将宗<sup>1)</sup>，原 俊輔<sup>1)</sup>，小柳正雄<sup>1)</sup>，中野渡雄一<sup>1)</sup>，弥富俊太郎<sup>1)</sup>，加地正人<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>高度救命救急センター）：心原性脳塞栓症の急性期治療-urokinaseによる局所血栓溶解療法の治療成績．日本救急医学会総会，2003．11．
- 3) 上田康晴，田上正茂<sup>1)</sup>，中野 公介<sup>1)</sup>，相星淳一<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>高度救命救急センター）：HOT患者（重症COPD）の呼吸管理．第31回日本集中治療医学会総会，2004．3．

### (3) パネルディスカッション：

- 1) 黒川 顕：外科系救急医の専門性からみた各専門外科との連携の実態と問題点：熱傷・救命救急センターの立場から．第28回日本外科系連合学会学術集会，2003．6．

### (4) セミナー：

- 1) 上田康晴：救急医療におけるhANP持続投与について：持続投与量・投与時期・有効性の限界等．第31回日本救急医学会総会，2003．11．

(5) 一般講演：

- 1) 上田康晴：救急領域におけるhANP持続投与の可能性．第6回日本臨床救急医学会，2003．4．
- 2) 望月 徹，益子邦洋<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，上川雄士<sup>1)</sup>，阪本雄一郎<sup>1)</sup>，森田良平<sup>1)</sup>，武井健吉<sup>1)</sup>，上野幸広<sup>1)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター，<sup>2)</sup>高度救命救急センター)：臨床微生物データ解析用ソフトウェア WHONET 導入による抗菌薬使用のRegulationを行なう為のdata集積．第77回日本感染症学会総会，2003．4．
- 3) 上田康晴，川井 真<sup>1)</sup>，柿沼俊行<sup>1)</sup>，相星淳一<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター)：熱傷患者におけるfluid resuscitationの新しい試み．第29回日本熱傷学会総会，2003．6．
- 4) 猪鹿倉恭子，直江康孝<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>高度救命救急センター)：重症くも膜下出血に対する脳低温療法中の脳血管萎縮の管理．日本脳低温療法研究会，2003．7．
- 5) 猪鹿倉恭子，直江康孝<sup>1)</sup>，中林基明<sup>2)</sup>，布施 明<sup>3)</sup>，佐藤秀貴<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，野手洋治<sup>2)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>高度救命救急センター，<sup>3)</sup>川口医療センター)：重症脳障害に対する脳低温療法後の異常高体温について．日本脳神経外科学会，2003．10．
- 6) 望月 徹，岡本直人<sup>1)</sup>，柳下照子<sup>1)</sup>，工廣紀斗司<sup>2)</sup>，益子邦洋<sup>2)</sup>，山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院臨床中央検査部，<sup>2)</sup>同救命救急センター，<sup>3)</sup>高度救命救急センター)：化学テロ災害訓練で得た消防と基幹災害医療センターである当院との連携と検討すべき問題点．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 7) Ikakura K, Naoe Y<sup>2)</sup>, Kitahashi A<sup>2)</sup>, Onodera K<sup>1)</sup>, Nakabayashi M<sup>1)</sup>, Fuse A<sup>1)</sup>, Satoh H<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup>, Kurokawa A, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School, Department of Emergency and Critical Care Medicine, <sup>2)</sup>Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, Department of Emergency and Critical Care Medicine)：The evaluation of result of transcranial doppler ultrasonography in the postoperative brain hypothermia therapy for severe cases of subarachnoid hemorrhage．International Brain Hypothermia Symposium, 2004．2．

(6) ポスター：

- 1) 上田康晴，横田裕行<sup>1)</sup>，相星淳一<sup>1)</sup>，大泉 旭<sup>1)</sup>，小川太志<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター)：高度救命救急センターにおける診療報酬包括化の問題点．第31回日本集中治療医学会総会，2003．3．
- 2) 上田康晴：Propofol鎮静は本当に有用か：アンケート調査結果から考察する 第2報告．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 3) 上田康晴，辻井厚子<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター)：HOT患者を巡る救急医療のありかた．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 4) 上田康晴，小井土雄一<sup>1)</sup>，高山泰宏<sup>1)</sup>，柴田泰史<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救命救急センター)：出血性ショックに対する1%糖加酢酸リンゲル液の大量・急速投与の安全性について．第31回日本集中治療医学会総会，2004．3．
- 5) 上田康晴，柴田泰史<sup>1)</sup>，田上正茂<sup>1)</sup>，小川太志<sup>1)</sup>，原田尚重<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター)：teicoplaninの投与方法に関する提言．第31回日本集中治療医学会総会，2004．3．
- 6) 上田康晴，相星淳一<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター)：ARDSに対するエラストーゼ阻害薬の有用性について．第31回日本集中治療医学会総会，2004．3．

## [ 多摩永山病院救命救急センター ]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) 石井達男<sup>1)</sup>, 二宮宣文, 藤本政男<sup>2)</sup>, 三井俊男<sup>2)</sup>, 福富英行<sup>2)</sup>, 曾山明美<sup>3)</sup>, 榊原牧子<sup>3)</sup>, 山本一彦<sup>3)</sup>, 青木政行<sup>3)</sup>, 山本保博<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>白髭橋病院, <sup>2)</sup>中日本航空株式会社, <sup>3)</sup>日本エマージェンシーアシスタンス株式会社, <sup>4)</sup>日本医科大学救急医学): 航空無線は心臓ペースメーカーに影響を与えるか. 日本航空医療学会雑誌 2003 ; 4 (1): 26-30 .

#### 著書

- 1) 加地正人 : [ 自著 ] 目で見る救急疾患 : 体表面の所見による迅速な診断「破裂性腹部大動脈瘤の腹部膨隆と末梢循環不全」. 救急医学, 2003 ; pp520-521, へるす出版 .
- 2) 加地正人 : [ 自著 ] 私はこう治療している . 今日の治療指針, 2004 ; 医学書院 .
- 3) 二宮宣文 : [ 自著 ] 海外旅行に出かける前に携帯医薬品 . 治療学, 2004 ; pp13-14, ライフ・サイエンス出版 .
- 4) 二宮宣文 : [ 自著 ] 特殊災害 . 民間病院における集団災害対策, 2004 ; pp79-94 .

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム :

- 1) 加地正人, 久野将宗, 小柳正雄, 原 俊輔, 中野渡雄一, 直江康孝, 弥富俊太郎, 玉井英世, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 外傷専門医の必要性. 第17回外傷学会, 2003 . 5 .
- 2) 加地正人, 久野将宗, 原 俊輔, 小柳正雄, 玉井英世, 弥富俊太郎, 直江康孝, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 二宮宣文, 黒川 顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 体幹外傷に長けた外傷外科医の育成に向けて. 第31回日本救急医学会総会, 2003 . 11 .

##### (2) 一般講演 :

- 1) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 青木政幸<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>エマージェンシーアシスタンスジャパン): リビア砂漠石油プロジェクトにおける救急医療システム構築. 第31回日本救急医学会総会, 2003 . 11 .
- 2) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>2)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 原田尚重<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>薬理学): エレドトキシン誘発モルモット腸管麻痺に対するカンピノイドについて. 第31回日本救急医学会総会, 2003 . 11 .
- 3) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>2)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 原田尚典<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>薬理学): エンドトキシン血症における内因性カンピノイドの関与について. 第9回日本エンドトキシン研究会, 2003 . 11 .
- 4) 久野将宗, 加地正人, 目原久美, 原 俊輔, 小柳正雄, 玉井英世, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 直江康孝, 二宮宣文, 黒川 顕: 内因性CPAOAの蘇生における心エコーの意義. 第31回日本救急医学会総会, 2003 . 11 .
- 5) 中野渡雄一, 平田清貴<sup>1)</sup>, 直江康孝, 二宮宣文, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 大野香那恵<sup>3)</sup>, 松本宣明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>2)</sup>同救急医学, <sup>3)</sup>昭和薬科大学薬物動態学): 重症患者の鎮静時におけるミダゾラムの至適投与量の検討: 肝腎障害の主とした活性代謝産物の経時的変化の測りより(続報). 第31回日本救急医学会総会, 2003 . 11 .
- 6) 玉井英世, 原 俊輔, 中野渡雄一, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行<sup>1)</sup>, 二宮宣文, 黒川 顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 薬剤性肝障害から血球貧食症候群(HPS)に陥り, 診断, 治療に難渋した1症例. 第31回日本救急医学会総会, 2003 . 11 .
- 7) 直江康孝, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 重症頭部外傷患者に対する軽度低体温療法合併

症としてのVAPの検討．第31回日本救急医学会総会，2003．11．

8) 弥富俊太郎，加地正人，久野将宗，原 俊輔，小柳正雄，玉井英世，中野渡雄一，畝本恭子<sup>1)</sup>，二宮宣文，横田博行<sup>1)</sup>，黒川 颯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：出血性ショックにより救命センター搬送となった上部消化管出血症例に対する治療戦略．第31回日本救急医学会総会，2003．11．

9) 直江康孝，志賀尚子，小柳正雄，北橋章子，佐野圭太，玉井英世，弥富俊太郎，加地正人，二宮宣文：皮質盲を呈した縊頸の1例．多摩神経外傷カンファランス，2004．2．

#### (3) ポスター：

1) 原 俊輔，菊池広子，小柳正雄，玉井英世，中野渡雄一，直江康孝，弥富俊太郎，加地正人，畝本恭子，二宮宣文，横田裕行<sup>1)</sup>，黒川 颯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：感染性心内膜炎から多発性菌塞栓症が多臓器不全の原因となった1例．第31回日本救急医学会総会，2003．11．

2) 小柳正雄，加地正人，小川理郎<sup>1)</sup>，久野将宗，原 俊輔，玉井英世，中野渡雄一，畝本恭子<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，黒川 颯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：創外固定除去後に脂肪塞栓症候群を合併した1例．第31回日本救急医学会総会，2003．11．

#### (4) 研究会：

1) 玉井英世，加地正人，弥富俊太郎，原 俊輔，北橋章子，小柳正雄，久野将宗，中野渡雄一，直江康孝，二宮宣文：スティーブンス・ジョンソン症候群から長期経過をたどり診療に苦慮した血球貧食症候群の1例．過大侵襲研究会，2003．10．

#### (5) 症例報告：

1) 原 俊輔，石丸直樹，北橋章子，久野将宗，小柳正雄，玉井英世，中野渡雄一，志賀尚子，弥富俊太郎，直江康孝，加地正人，二宮宣文：鈍の外傷により奇静脈損傷を来した1例．第31回日本救急医学会総会，2003．11．

## [ 千葉北総病院救命救急センター ]

### 研究概要

当施設は，千葉県北総地域の救急医療機関として平成6年1月に開設された．その後，平成8年11月に千葉県の基幹災害拠点病院に，また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された．近年は救急患者のヘリ搬送に関する中心的医療機関として，NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net)」を立ち上げ，平成11年4月には救命救急センターに認定され，各種学会において活発な活動を行っている．平成13年10月より千葉県ドクターヘリ事業を開始し，各種の重症救急疾患や重傷外傷の治療に目覚ましい効果を挙げている．研究テーマとしては，救急医療ならびに災害医療システムの研究・開発，新しい心肺脳蘇生法の開発，多発外傷の病態生理，特に臓器相関の解明，重症熱傷や気道熱傷の病態解明，急性中毒の病態生理の解明ならびに敗血症，SIRS，多臓器不全の病態解明，感染制御，救急医学教育学の研究等がある．またプレホスピタルケアの充実を目指し，北総救命会における救急隊員に対する講習会，北総救命会フォーラムの開催を通じてのメディカルコントロールの確立にも力を入れている．さらに，平成14年度からはpatient safetyの考えにのっとり，シミュレーション医学教育のハードならびにソフトの産学協同研究にも取り組んでおり，新たな価値の創造と情報の発信を目指している．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

1) 原 義明，川井 真<sup>1)</sup>，森田良平，長谷川栄寿<sup>2)</sup>，野崎正太郎<sup>1)</sup>，加藤 宏<sup>2)</sup>，大泉 旭<sup>1)</sup>，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学，<sup>2)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター)：重症外傷に伴う呼吸器合併症の予防と治療．臨床整形外科 2003；38(5)：627-633．

- 2) 益子邦洋：胸郭，肺，気管・気管支，横隔膜損傷分類のコンセプトと問題点．日本外傷学会雑誌 2004；18 (1)：66-75．
- (2) 綜説：
- 1) 益子邦洋：依然として高い，防ぎ得た外傷死亡率．アスカ21 2003；13 (1)：10-11．
  - 2) 松本 尚：病院前外傷研修プログラムの効果と問題点．プレホスピタルケア 2003；16 (1)：12-16．
  - 3) 鈴木 普<sup>1)</sup>，佐藤成志<sup>2)</sup>，松本 尚，益子邦洋 ( <sup>1)</sup> 印西地区消防組合消防本部，<sup>2)</sup> 市原市消防局 )：北総救命会における救急業務高度化の研究．プレホスピタルケア 2003；16 (1)：46-49．
  - 4) 松本 尚，益子邦洋：ドクターヘリコプターの運用メディカルコントロール．救急医療ジャーナル 2003；11 (1)：12-15．
  - 5) 益子邦洋：航空機内で突然心臓が止まったら：除細動器をどう使うか．宇宙航空環境医学 2003；40 (1)：47．
  - 6) 阪本雄一郎，益子邦洋：内視鏡で胃内に停滞したPTPを素早く把持摘出したからといって得意げになってはいけない！．治療 2003；85 (3月増刊)：354-357．
  - 7) 工廣紀斗司，益子邦洋：蘇生法の世界標準：ガイドライン2000．カレントセラピー 2003；21 (4)：60-64．
  - 8) 益子邦洋，松本 尚：千葉県ドクターヘリ活用の実績と展望．病院 2003；62 (4)：321-325．
  - 9) 益子邦洋，松本 尚：本邦における外傷診療システムの現状と課題．救急医療ジャーナル 2003；11 (2)：8-13．
  - 10) 益子邦洋，松本 尚：メディカルコントロール．診と療 2003；91 (増刊号)：11-20．
  - 11) 益子邦洋：救急隊員に対する外傷教育・研修コース開発による交通事故死者削減の取り組み：PTEC本格立ち上げ．アスカ21 2003；12 (2)：10-11．
  - 12) 阪本雄一郎，原 義明，益子邦洋：脂肪塞栓時の点状出血．救急医学 2003；27 (5)：594-595．
  - 13) 上川雄士，益子邦洋：気管挿管の代替法：Airway, EGTA, DLT, MLなど．救急・集中治療 2003；15 (6)：563-572．
  - 14) 上川雄士，益子邦洋：救急医療と気管支内視鏡．Clinical Engineering 2003；14 (7)：767-773．
  - 15) 益子邦洋，滝口雅博：航空機内におけるAEDの必要性，使われ方，問題点．救急・集中治療 2003；15 (7)：735-741．
  - 16) 益子邦洋：千葉県ドクターヘリの実績と今後のヘリコプター救急体制．アスカ21 2003；12 (3)：10-11．
  - 17) 上川雄士，益子邦洋：気管挿管．救急医学 2003；27 (10)：1144-1151．
  - 18) 阪本雄一郎，益子邦洋：携帯型超音波診断装置．救急医学 2003；27 (9)：1035-1040．
  - 19) 益子邦洋：東名高速道路多重玉突き事故の検証．アスカ21 2003；12 (4)：10-11．
  - 20) 原 義明，益子邦洋：人工呼吸．medicina 2003；40 (12)：363-367．
  - 21) 上野幸廣，益子邦洋：救急外来における呼吸困難へのアプローチ；外因性疾患．救急医学 2003；27 (13)：1845-1851．
  - 22) 益子邦洋：JPTECと心肺蘇生：防ぎ得る外傷死亡の撲滅を目指して．エマージェンシー・ナーシング 2004；17 (新春増刊号)：219-230．
  - 23) 武井健吉，益子邦洋：胸部外傷の超音波診断．エマージェンシー・ナーシング 2004；17 (2)：22-27．
  - 24) 上川雄士，益子邦洋：Swan-Ganzカテーテル．救急医学 2004；28 (2)：215-221．
  - 25) 中澤厚元<sup>1)</sup>，平山芳照<sup>2)</sup>，松本 尚 ( <sup>1)</sup> 印西地区消防組合消防本部，<sup>2)</sup> 千葉県消防学校 )：消防学校 ( 標準課程 ) でのJPTEC導入と効果の検証．プレホスピタルケア 2004；17 (1)：19-24．
  - 26) 益子邦洋：わが国の救急医療システムとメディカルコントロール体制．救急医学 2004；28 (3)：251-261．
- (3) 研究報告書：
- 1) 小浜啓次<sup>1)</sup>，石原 晋<sup>2)</sup>，甲斐達朗<sup>3)</sup>，加藤正哉<sup>4)</sup>，金 弘<sup>5)</sup>，杉山 貢<sup>6)</sup>，鈴川正之<sup>4)</sup>，瀧 健治<sup>7)</sup>，林 靖之<sup>3)</sup>，福田充宏<sup>1)</sup>，藤井千穂<sup>3)</sup>，益子邦洋，森脇義弘<sup>6)</sup>，山本五十年<sup>8)</sup>，横田順一朗<sup>9)</sup> ( <sup>1)</sup> 川崎医科大学救急医学，<sup>2)</sup> 県立広島病院救命救急センター，<sup>3)</sup> 大阪府立千里救命救急センター，<sup>4)</sup> 自治医科大学救急医学，<sup>5)</sup> 船橋

市立医療センター救命救急センター，<sup>6)</sup>横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター，<sup>7)</sup>佐賀医科大学附属病院救急部，<sup>8)</sup>東海大学医学部救命救急医学，<sup>9)</sup>大阪府立泉州救命救急センター): Medical Control体制における救急専従医の役割とあり方。平成14年度厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)病院前救護体制の構築に関する研究(主任研究者 山村秀夫)分担研究報告書 2003; pp1-23.

- 2) 有賀 徹<sup>1)</sup>，伊藤弘人<sup>2)</sup>，井上徹英<sup>3)</sup>，梅里良正<sup>4)</sup>，坂本哲也<sup>5)</sup>，鈴木荘太郎<sup>6)</sup>，前田幸宏<sup>4)</sup>，益子邦洋，山本修三<sup>7)</sup>，他24名(<sup>1)</sup>昭和大学救急医学，<sup>2)</sup>国立保険医療科学院経営科学部サービス評価室，<sup>3)</sup>浦添総合病院救急部，<sup>4)</sup>日本大学医学部社会医学講座医療管理部門，<sup>5)</sup>帝京大学医学部救命救急センター，<sup>6)</sup>東邦大学医学部病院管理学，<sup>7)</sup>済生会神奈川県病院): 院内の疾病登録を利用した心筋梗塞及び脳卒中の治療方針等の向上に関する研究。平成14年度厚生科学研究費補助金(効果的医療技術の確立推進臨床研究事業)研究報告書 2003; pp1-92.
- 3) 島崎修次<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>2)</sup>，益子邦洋，小関一英<sup>3)</sup>，横田順一郎<sup>4)</sup>，大友康裕<sup>5)</sup>，村田厚夫<sup>1)</sup>，山口芳裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>杏林大学医学部救急医学，<sup>2)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター，<sup>3)</sup>川口市立医療センター救命救急センター，<sup>4)</sup>大阪府立泉州救命救急センター，<sup>5)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター): 救命救急センターにおける重症外傷患者対応の充実のための診療実態調査(トラウマレジストリ)の研究。平成14年度厚生労働科学研究費補助金(厚生科学特別研究事業)研究報告書 2003; pp1-211.
- 4) 朝日信夫<sup>1)</sup>，島崎修次<sup>1)</sup>，鈴川正之<sup>1)</sup>，鈴木正弘<sup>1)</sup>，野口 宏<sup>1)</sup>，羽生田俊<sup>1)</sup>，益子邦洋，森 正志<sup>1)</sup>，森口清太郎<sup>1)</sup>，山越芳男<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，行岡秀和<sup>1)</sup>，水崎安男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急業務高度化推進検討会委員): 救急業務高度化推進検討会報告書。救急業務高度化推進検討会報告書 2003; pp23-24.
- 5) 益子邦洋，荻野隆光<sup>1)</sup>，猪口貞樹<sup>2)</sup>，岡田真人<sup>3)</sup>，野口 宏<sup>4)</sup>，坂本照夫<sup>5)</sup>，篠崎正博<sup>6)</sup>，松本 尚，大友康裕<sup>7)</sup>，石原 晋<sup>8)</sup>，大重賢治<sup>9)</sup>，前川武男<sup>10)</sup>，上川雄士(<sup>1)</sup>川崎医科大学救急医学，<sup>2)</sup>東海大学救急医学，<sup>3)</sup>聖隷三方原病院救命救急センター，<sup>4)</sup>愛知医科大学高度救命救急センター，<sup>5)</sup>久留米大学高度救命救急センター，<sup>6)</sup>和歌山県立医科大学救急医学，<sup>7)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター，<sup>8)</sup>県立広島病院救命救急センター，<sup>9)</sup>横浜市立大学医学部公衆衛生学講座，<sup>10)</sup>順天堂大学医学部附属順天堂伊豆長岡病院): ドクターヘリの実態と評価に関する研究。平成15年度厚生労働科学研究補助金(医療技術評価総合研究事業)新たな救急医療施設のあり方と病院前救護体制の評価に関する研究(主任研究者 小浜啓次)分担研究 ドクターヘリの実態と評価に関する研究 2004; pp1-58.
- 6) 横田順一郎<sup>1)</sup>，坂本哲也<sup>2)</sup>，益子邦洋，伊藤 靖<sup>3)</sup>，岡田芳明<sup>4)</sup>，木下順弘<sup>5)</sup>，中野 実<sup>6)</sup>，西山謹吾<sup>7)</sup>，松田潔<sup>8)</sup>，森野一真<sup>9)</sup>，山村 仁<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大阪府立泉州救命救急センター，<sup>2)</sup>帝京大学医学部救急医学，<sup>3)</sup>札幌医科大学，<sup>4)</sup>防衛医科大学校救急部，<sup>5)</sup>熊本大学医学部救急医学，<sup>6)</sup>前橋赤十字病院救命救急センター，<sup>7)</sup>高知赤十字病院救命救急センター，<sup>8)</sup>山梨県立中央病院救命救急センター，<sup>9)</sup>山形県立中央病院救命救急センター): メディカルコントロールの実態と評価に関する研究。平成15年度厚生労働科学研究補助金(医療技術評価総合研究事業)新たな救急医療施設のあり方と病院前救護体制の評価に関する研究(主任研究者 小浜啓次)分担研究 メディカルコントロールの実態と評価に関する研究 2004; pp1-116.
- 7) 益子邦洋，石原 晋<sup>1)</sup>，松原 泉<sup>2)</sup>，山本五十年<sup>3)</sup>，青山忠幸<sup>4)</sup>，赤羽基臣<sup>5)</sup>，沼倉勝則<sup>6)</sup>，岡田イサム<sup>7)</sup>，佐々木昌一<sup>8)</sup>，郡山一明<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>県立広島病院救命救急センター，<sup>2)</sup>市立札幌病院救命救急センター，<sup>3)</sup>東海大学医学部附属病院高度救命救急センター，<sup>4)</sup>総務省消防庁救急救助課，<sup>5)</sup>東京消防庁救急部救急指導課，<sup>6)</sup>仙台市消防局警防部救急課，<sup>7)</sup>神戸市消防局救急救助課): 救急搬送における重症度・緊急度判断基準製作委員会。平成15年度 財団法人 全国市町村振興協会助成事業 救急搬送における重症度・緊急度判断基準作成委員会報告書 2004; pp1-64.

#### (4) 症例報告:

- 1) 原 義明，松本 尚，工廣紀斗司，大泉 旭<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 感染経路の不明の敗血症で発症した腰部硬膜外膿症の1例。日救急医学会誌 2003; 14(8): 406-412.

(5) 分担：

- 1) 工廣紀斗司：ショック．救命救急医療への Multiple Approach (山本保博) 2003 ; 21 (4) : 53-58 .
- 2) 原 義明：骨盤・四肢外傷．救命救急医療への Multiple Approach (山本保博) 2003 ; 21 (4) : 183-192 .
- 3) 望月 徹：気道および消化管異物．救命救急医療への Multiple Approach (山本保博) 2003 ; 21 (4) : 207-211 .
- 4) 松本 尚：減圧症．救命救急医療への Multiple Approach (山本保博) 2003 ; 21 (4) : 222-227 .
- 5) 松本 尚：病院前救護体制 (プレホスピタルケア) とメディカルコントロール．救命救急医療への Multiple Approach (山本保博) 2003 ; 21 (4) : 8-11 .
- 6) 望月 徹：嘔吐．救命救急医療への Multiple Approach (山本保博) 2003 ; 21 (4) : 97-100 .

(6) 臨床症例報告：

- 1) 阪本雄一郎，松本 尚，工廣紀斗司，望月 徹，原 義明，森田良平，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：腸間膜損傷における腸管切除の適否についての1考察．日救急医学会誌 2003 ; 24 (1) : 76-77 .
- 2) 齋藤伸行，工廣紀斗司，松本 尚，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>，他4名 (<sup>1)</sup>救急医学)：サウナにて熱中症に陥った多臓器不全症例の集学的治療経験．日救急医学関東誌 2003 ; 24 (1) : 242-243 .
- 3) 齋藤伸行，森田良平，阪本雄一郎，上川雄士，工廣紀斗司，原 義明，松本 尚，望月 徹，益子邦洋：重症不安定骨盤骨折の早期治療戦略に検討を要した1症例．セラピューティック・リサーチ 2004 ; 25 (3) : 661-668 .

著 書

- 1) 益子邦洋：〔分担〕呼吸困難．救命救急医療への Multiple Approach , 2003 ; pp83-87 , メディカルジャーナル社 .
- 2) 益子邦洋：〔分担〕胸痛．救命救急医療への Multiple Approach , 2003 ; pp78-82 , メディカルジャーナル社 .
- 3) 工廣紀斗司，益子邦洋：〔分担〕新しい心肺蘇生法：AHA Guideline 2000．救命救急医療への Multiple Approach , 2003 ; pp21-26 , メディカルジャーナル社 .
- 4) 奥寺 敬，金子高太郎，北原 浩，源河朝広，益子邦洋，他10名：〔翻訳〕ACLSプロバイダーマニュアル日本語版，2003 ; BIOMEDIS .
- 5) 松本 尚：〔分担〕開胸心マッサージ．救急診療指針 (日本救急医学会監修) , 2003 ; pp421-424 , へるす出版 .
- 6) 上川雄士：〔分担〕胸腔ドレーン挿入．救急診療指針 (日本救急医学会監修) , 2003 ; pp372-375 , へるす出版 .
- 7) 益子邦洋：〔分担〕胸部外傷．救急診療指針 (日本救急医学会監修) , 2003 ; pp268-279 , へるす出版 .
- 8) 益子邦洋：〔分担〕救急医療システム．救急診療指針 (日本救急医学会監修) , 2003 ; pp9-17 , へるす出版 .
- 9) 小関一英，齋藤大蔵，坂本哲也，東平日出夫，益子邦洋，他3名：〔翻訳〕AIS90 Update 98日本語対訳版，2003 ; へるす出版 .
- 10) 上川雄士，益子邦洋：〔分担〕主要血管損傷に対するダメージコントロールサージェリー．ダメージコントロール (監修 島崎修次，編集 村田厚夫) , 2003 ; pp120-130 , メディカルビュー社 .
- 11) 石原 晋，清住哲郎，田中秀治，松本 尚，益子邦洋，他11名：〔共著〕JPTECプロバイダーマニュアル，2003 ; プラネット .
- 12) 益子邦洋：〔分担〕気管挿管における記録．救急救命士標準テキスト追補版：除細動・気管挿管，2003 ; pp61-64 , へるす出版 .
- 13) 益子邦洋：〔分担〕疫学，外傷システム．改定第2版 プレホスピタル外傷学 (石原晋編著) , 2004 ; pp3-11 , 永井書店 .
- 14) 齋藤伸行，益子邦洋：〔分担〕溺水．呼吸器疾患最新の治療2004-2004 (工藤翔二，中田紘一郎，貫和敏博編集) , 2004 ; pp177-179 , 南江堂 .
- 15) 益子邦洋：〔分担〕緊急検査の理解．系統看護学講座別巻4 救急看護学 (加来信雄，藤井千穂，葛西猛，千代孝夫，高橋章子編集) , 2004 ; pp128-138 , 医学書院 .
- 16) 廣瀬敦視，益子邦洋：〔分担〕胸部外傷．エキスパートナースMOOK7 救急ケアマニュアル [決定版] (小林



国男責任編集), 2004 ; pp241-248, 照林社 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 益子邦洋 : メディカルコントロールを取り巻く課題と展望 : 現場救急救命士が目指すべきもの . 第10回兵庫県下救急救命士会総会, 2003 . 8 .
- 2) 益子邦洋 : 千葉県ドクターヘリ事業の成果とヘリ救急の将来 . 第10回兵庫県下救急救命士会総会, 2003 . 8 .
- 3) 益子邦洋 : 外傷初療の標準化はなぜ必要か? : JPTECを中心に . 第27回北海道救急医学総会・学術総会, 2003 . 9 .
- 4) 益子邦洋 : ドクターヘリとメディカルコントロール . 第4回和歌山救急災害医療研究会, 2003 . 9 .
- 5) 益子邦洋 : 交通事故死者数を大幅に削減する外傷システム : 事故発生から1時間の対応が生死を分ける . 東京モーターショーシンポジウム : 事故死半減をめざして, 2003 . 10 .
- 6) 益子邦洋 : 腹部救急疾患における診断と治療のPitfall . 第1回東海救命救急研究会, 2004 . 1 .

### (2) 教育講演 :

- 1) 益子邦洋 : 救急業務の高度化に向けて : 千葉県北総地区における取り組み . 第7回日本救急医学会九州地方会, 2003 . 6 .
- 2) 益子邦洋 : 胸部外傷の診断と治療 . 第95回 ACCP 日本部会定期教育講演会, 2003 . 9 .
- 3) 益子邦洋 : メディカルコントロール . 第31回日本救急医学会総会専門医移行セミナー, 2003 . 11 .
- 4) 益子邦洋 : MC (メディカルコントロール) 体制の現状と今後の課題 . 第54回日本救急医学会関東地方会救急隊員学術研究会, 2004 . 3 .
- 5) 益子邦洋 : MCにおけるJPTEC . 第9回日本救急医学会専門医・認定医セミナー, 2004 . 3 .
- 6) 松本 尚 : MCの原状と問題点 . 第9回日本救急医学会専門医・認定医セミナー, 2004 . 3 .

### (3) シンポジウム :

- 1) 工廣紀斗司, 大森章代, 松本多加子, 石川正太, 後藤誠子, 松本 尚, 益子邦洋 : SOS - KANTO委員会による院外心肺停止患者7138例の中間解析 ; 外傷院外CPAの分析 . 第54回日本救急医学会関東地方会, 2003 . 3 .
- 2) 本間正人, 大友康裕, 小関一英, 益子邦洋, 横田順一郎, 他3名 : 外傷医療の専門家育成には十分な重症外傷症例を有する外傷センターが必要である . 第17回日本外傷学会, 2003 . 5 .
- 3) 益子邦洋 : 特別発言 (救急業務の高度化とメディカルコントロール) . 第7回日本救急医学会九州地方会, 2003 . 6 .
- 4) 有賀 徹<sup>1)</sup>, 関根和弘<sup>2)</sup>, 大橋秀幸<sup>3)</sup>, 三宅康史<sup>1)</sup>, 松本 尚 ( <sup>1)</sup> 昭和大学病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 野田市消防本部, <sup>3)</sup> (財) 交通事故総合分析センター) : 交通事故と救命救急医療 . 東京モーターショー特別企画シンポジウム, 2003 . 10 .
- 5) 益子邦洋, 岡田芳明, 辺見 弘, 西川 渉, 篠田伸夫 : 東名高速多重衝突事故検討会で明らかになった航空機医療の問題点 . 第10回日本航空医療学会総会, 2003 . 11 .
- 6) 松本 尚, 益子邦洋, 上川雄士, 原 義明, 工廣紀斗司, 阪本雄一郎, 森田良平, 富田祥輝, 上野幸廣, 武井健吉, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学 ) : ‘ Load and Go ’ から ‘ Damage Control Surgery ’ まで . 第31回日本救急医学会総会, 2003 . 11 .
- 7) 大友康裕, 島崎修次, 辺見 弘, 益子邦洋, 横田順一郎, 他3名 : わが国におけるPreventable Trauma Deathの現状とその根絶のための今後の展望 . 第31回日本救急医学総会, 2003 . 11 .
- 8) 益子邦洋 : 救急救命士の処置拡大の最優先課題は心停止前の輸液である . 第12回全国救急隊員シンポジウム, 2004 . 1 .
- 9) 阪本雄一郎, 松本 尚, 上川雄士, 工廣紀斗司, 原 義明, 森田良平, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学 ) : 腹部臓器損傷におけるDamage control surgery についての検討 . 第40回日

本腹部救急医学会総会，2004．2．

- 10) 松本 尚，豊田 泉，中川 隆<sup>(1)</sup> 聖隷三方原病院救命救急センター，<sup>(2)</sup> 愛知医科大学高度救命救急センター)：ドクターヘリシステムの実際．第20回日本救急医学会東海甲信地方会学術講演会サテライトシンポジウム，2004．2．

(4) パネルディスカッション：

- 1) 益子邦洋：消防・防災ヘリの活用とメディカルコントロール体制（ヘリコプター救急システムの構築をめざして）．HEM-Netシンポジウム，2003．10．
- 2) 松本 尚，益子邦洋，原 義明，工廣紀斗司，上川雄士，阪本雄一郎，上野幸廣，森田良平，武井健吉，富田祥輝，山本保博<sup>(1)</sup>(<sup>(1)</sup>救急医学)：千葉県ドクターヘリ運行の現状と課題．第10回日本航空医療学会総会，2003．11．

(5) ワークショップ：

- 1) 益子邦洋：胸郭・肺・横隔膜損傷分類のコンセプトと問題点．第17回日本外傷学会，2003．5．
- 2) 益子邦洋：心・大血管損傷分類のコンセプトと問題点．第17回日本外傷学会，2003．5．
- 3) 二俣美鶴<sup>(1)</sup>，橋本美奈子<sup>(1)</sup>，後藤誠子，松本 尚，益子邦洋<sup>(1)</sup> 千葉北総病院看護部)：ドクターヘリフライトナースの業務と教育の問題点．第10回日本航空医療学会総会，2003．11．

(6) 一般講演：

- 1) Takuhiro K, Matsumoto H, Mochizuki T, Kamikawa Y, Sakamoto Y, Hara Y, Mashiko K, Yamamoto Y<sup>(1)</sup> (Department of Emergency and Critical Care Medicine)：Development of a mobile “Simulation Stretcher” for on-site, hands-on simulation training to improve patient safety．4th Annual International Meeting on Medical Simulation (Albuquerque USA)，2003．1．
- 2) Takuhiro K, Matsumoto H, Mochizuki T, Kamikawa Y, Sakamoto Y, Hara Y, Mashiko K, Yamamoto Y<sup>(1)</sup> (Department of Emergency and Critical Care Medicine)：Stand-by intra-aortic balloon occlusion in the prevention of cardiac arrest prior to definitive treatment of traumatic hemorrhage．International Trauma Anesthesia & Critical Care Society (Dallas USA)，2003．5．
- 3) Takuhiro K, Matsumoto H, Mochizuki T, Kamikawa Y, Sakamoto Y, Hara Y, Mashiko K, Yamamoto Y<sup>(1)</sup> (Department of Emergency and Critical Care Medicine)：On-site, hands-on simulation training program using a mid-fidelity simulator for crisis resource management and teamwork training．Association for Medical Education in Europe (AMEE) (Bern Switzerland)，2003．9．
- 4) 干場ひふみ，大森章代，松本多加子，石川正太，後藤誠子，松本 尚，益子邦洋：ドクターヘリに同乗する患者家族へのフライトナースの関わり：アンケート調査結果から家族援助を考える．第54回日本救急医学会関東地方会，2003．3．
- 5) 阪本雄一郎，松本 尚，上川雄士，工廣紀斗司，原 義明，森田良平，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，益子邦洋，山本保博<sup>(1)</sup>(<sup>(1)</sup>救急医学)：pilot study から見た Trauma registry の pre-hospital に関する評価指標についての検討．第54回日本救急医学会関東地方会，2003．3．
- 6) 橋本美奈子<sup>(1)</sup>，大森章代<sup>(1)</sup>，伊藤多加子<sup>(1)</sup>，宮古つき子<sup>(1)</sup>，益子邦洋<sup>(1)</sup> 千葉北総病院看護部)：ドクターヘリにおける効率的な情報収集伝達について；ドクターヘリ患者搬送表の導入．第6回日本臨床救急医学会総会，2003．4．
- 7) 小林宣明<sup>(1)</sup>，望月 徹，工廣紀斗司，益子邦洋，他6名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室)：急性冠症候群 (ACS) 早期再灌流に対するドクターヘリの有用性．第6回千葉県救急医療研究会，2003．4．
- 8) 鈴木 普<sup>(1)</sup>，松本 尚，益子邦洋<sup>(1)</sup> 千葉県印西市消防署)：北総救命会の試み：救急業務高度化戦略．第6回千葉県救急医療研究会，2003．4．
- 9) 上野幸廣，望月 徹，工廣紀斗司，原 義明，上川雄士，富田祥輝，武井健吉，森田良平，阪本雄一郎，松本尚，益子邦洋：重症溶連菌感染症の3例．第17回千葉県重症患者管理研究会，2003．9．

- 10) 三木隆久<sup>1)</sup>, 上川雄士, 原 義明, 松本 尚, 他5名 ( <sup>1)</sup>会津中央病院 ): 鋭的頸動脈損傷に対して temporary shunt を施行した1例. 第30回外傷症例検討会, 2003. 10.
  - 11) 益子邦洋, 松本 尚, 望月 徹, 工廣紀斗司, 原 義明, 森田良平, 上川雄士, 阪本雄一郎, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 山本保博<sup>1)</sup>, 他4名 ( <sup>1)</sup>救急医学 ): 全国を網羅する航空救急医療体制の構築には, MC体制下での救急救命士による心停止前輸液が必要. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
  - 12) 益子邦洋, 伊藤文夫, 鈴木春男, 安井一彦, 菊池厚弼: 警察と協働した交通事故調査による外傷システム評価の試み. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
  - 13) 原 義明, 益子邦洋, 川井 真, 望月 通, 松本 尚, 上川雄士, 工廣紀斗司, 阪本雄一郎, 武井健吉, 森田良平, 上野幸廣, 大泉 旭<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>救急医学 ): Orthopedic Damage Control Surgery の適用基準. 第31回救急医学会総会, 2003. 11.
  - 14) 工廣紀斗司, 原 義明, 望月 徹, 松本 尚, 森田良平, 上川雄士, 阪本雄一郎, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>, 他3名 ( <sup>1)</sup>救急医学 ): 将来への先行投資としてのガイドライン2000にもとづく救急隊員教育プログラム. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
  - 15) 阪本雄一郎, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋, 原 義明, 上川雄士, 上野幸廣, 森田良平, 武井健吉, 富田祥輝, 山本保博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>救急医学 ): IIIb型肝損傷手術症例および肝損傷死亡例の検討. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
  - 16) 上川雄士, 益子邦洋, 望月 徹, 松本 尚, 原 義明, 工廣紀斗司, 森田良平, 阪本雄一郎, 武井健吉, 上野幸廣: 外傷性心破裂例の検討. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
  - 17) 森田良平, 上野幸廣, 富田祥輝, 阪本雄一郎, 上川雄士, 原 義明, 工廣紀斗司, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>救急医学 ): 救命救急センターにおける長期入院(6ヶ月以上)の原因と社会的背景. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
  - 18) 武井健吉, 益子邦洋, 松本 尚, 望月 徹, 工廣紀斗司, 原 義明, 上川雄士, 阪本雄一郎, 森田良平, 富田祥輝, 上野幸廣, 山本保博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>救急医学 ): 小児救急医療システムと問題点: 外傷診療に関して. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
  - 19) 峰岸祥人, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 森田良平, 上川雄士, 阪本雄一郎, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 高橋明子, 益子邦洋: PCPSの早期導入により救命し得た重度胸部外傷の1例. 第15回千葉Critical Care Medicine研究会, 2003. 11.
  - 20) 望月 徹, 益子邦洋, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 阪本雄一郎, 森田良平, 武井健吉, 上野幸廣, 山本保博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>救急医学 ): 化学テロ災害訓練で得た消防と基幹災害医療センターである当院との連携と検討すべき問題点. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.
  - 21) 富田祥輝, 原 義明, 森田良平, 益子邦洋, 松本 尚, 工廣紀斗司, 上川雄士, 阪本雄一郎, 武井健吉, 上野幸廣, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>救急医学 ): 脛骨骨折に対し長期間創外固定を使用し骨癒合が遅延した1例. 第54回日本救急医学会関東地方会, 2004. 3.
  - 22) 武井健吉, 益子邦洋, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 上川雄士, 阪本雄一郎, 森田良平, 富田祥輝, 上野幸廣, 山本保博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>救急医学 ): 骨盤開放骨折にて失った1女児例. 第54回日本救急医学会関東地方会, 2004. 3.
- (7) ポスターセッション:
- 1) 上川雄士, 松本 尚, 原 義明, 益子邦洋: 殺人目的の人為的心・肝刺創の1治験例. 第17回日本外傷学会, 2003. 5.
  - 2) 上野幸廣, 武田典子, 富田祥輝, 武井健吉, 森田良平, 阪本雄一郎, 上川雄士, 原 義明, 工廣紀斗司, 松本尚, 望月 徹, 益子邦洋: 気道閉塞をきたした下甲状腺動脈損傷に対してTAEで救命しえた1例. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.

## [ 新東京国際空港クリニック ]

### 研究業績

#### 著 書

- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック): [ 分担 ] 第23回救急救命士国家試験問題解答解説集, 2003 ; へるす出版 .
- 2) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック): [ 分担 ] 第24回救急救命士国家試験問題解答解説集, 2003 ; へるす出版 .
- 3) 山本保博<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>2)</sup>, 平田清貴<sup>3)</sup>, 田口吉子<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>成田国際空港クリニック, <sup>3)</sup>附属病院薬剤部, <sup>4)</sup>第二病院看護部): [ 共著 ] 輸液輸血救急薬 TODAY (2004 - 05年度), 2003 ; メディカ出版 .
- 4) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック, <sup>2)</sup>救急医学): [ 共著 ] ドクターコール, 2003 ; 南山堂 .

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム :

- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック): 海外の医療事情 . 日本旅行医学会第3回大会, 2004 . 3 .

##### (2) ワークショップ :

- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>2)</sup>, 小井土雄一<sup>3)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック, <sup>2)</sup>千葉北総病院救命救急センター, <sup>3)</sup>附属病院高度救命救急センター): 成田空港と空港災害 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .

##### (3) 一般演題 :

- 1) 村越秀光<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック): 空港クリニックにおける放射線技師の役割 . 第10回日本航空医療学会総会, 2003 . 11 .
- 2) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック, <sup>2)</sup>救急医学): 航空機に起因する救急医療 . 第10回日本航空医療学会総会, 2003 . 11 .
- 3) 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック): 空の旅と医療費 . 第10回日本航空医療学会総会, 2003 . 11 .
- 4) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック): 成田空港と救急医療 . 第49回日本宇宙航空環境医学会総会, 2003 . 11 .
- 5) 村越秀光<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 岩瀬龍之<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック): 空港クリニックと放射線科の役割 . 第49回日本宇宙航空環境医学会総会, 2003 . 11 .
- 6) 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 岩瀬龍之<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック): 国際空港クリニックにおける医療費 . 第49回日本宇宙航空環境医学会総会, 2003 . 11 .

##### (4) 一般演題 (ポスター):

- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 小井土雄一<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>成田国際空港クリニック, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 空の旅と救急疾患 . 第31回日本救急医学会総会・学術集会, 2003 . 11 .

## 19．形成外科学講座

### [ 付属病院形成外科・美容外科 ]

#### 研究概要

本年度は、教室の主題である超薄皮弁 super-thin flap に穿通枝を付加したきわめて大きく薄い皮弁の成功例を、また、脂肪組織由来幹細胞の骨・軟骨細胞への分化や、本法の臨床応用への展望についての報告をした。いずれも世界的にわれわれの教室がリードしている分野であり、その成果は極めて注目されている。未発表の成果も目白押しであり今後の発展は特に期待されている。また、乳房再建に多用されている横型腹直筋皮弁の動物モデルによる血流の研究は、いくつもの成果をもたらし、臨床に多大なヒントを与えた。あわせて、ケロイドの治療に関する新知見の発表と分子遺伝学的研究も引き続き行われている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Sano K , Hallock GG<sup>1)</sup> , Rice DC<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Division of Plastic Surgery, Lehigh Valley Hospital ): Venous interruption is unnecessary to achieve an adequate delay in the rat TRAM flap model . *Plast Reconstr Surg* 2003 ; 111 ( 1 ): 300-305 .
- 2) Ogawa R , Hyakusoku H , Murakami M , Koike S : Reconstruction of axillary scar contractures-retrospective study of 124 cases over 25 years . *British Journal of Plastic Surgery* 2003 ; 56 ( 2 ): 100-105 .
- 3) Murakami M , Hyakusoku H , Ishimaru S : External wire frame fixation of eyelid graft . *British Journal of Plastic Surgery* 2003 ; 56 ( 3 ): 312-313 .
- 4) Ogawa R , Hyakusoku H , Aoki R , Ishimaru S , Kawahara S , Koike S : Neck scar contracture reconstruction with bipediced free " super-thin flap " . *Monduzzi eeditor, Bolonga* 2003 ; 245-248 .
- 5) Mizuno H , Hyakusoku H : Mesengenic potential and future clinical perspective of human processed lipoaspirate cells . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 4 ): 300-306 .
- 6) Ogawa R , Hyakusoku H , Murakami M : Color doppler ultrasonography in the planning of microvascular augmented " super-thin " flaps . *Plast Reconstr Surg* 2003 ; 112 ( 3 ): 822-828 .
- 7) Sano K , Hallock GG<sup>1)</sup> , Rice DC<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Division of Plastic Surgery, Lehigh Valley Hospital ): Venous " supercharging " augments survival of the delayed rat TRAM flap . *Ann Plast Surg* 2003 ; 51 ( 4 ): 398-402 .
- 8) Sano K , Hallock GG<sup>1)</sup> , Rice DC<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Division of Plastic Surgery, Lehigh Valley Hospital ): A vertical midline scar is a 'high-risk' factor for maximum survival of the rat TRAM flap . *Ann Plast Surg* 2003 ; 51 ( 4 ): 403-408 .
- 9) Chin T , Hyakusoku H : A new device : A portable and effective irrigation system for pressure ulcers . *Plastic and Reconstructive Surgery* 2003 ; 112 ( 7 ): 1973-1974 .
- 10) Ogawa R , Mizuno H , Watanabe A<sup>1)</sup> , Migita M<sup>1)</sup> , Shimada T<sup>1)</sup> , Hyakusoku H ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): Osteogenic and chondrogenic differentiation by adipose-derived stem cells harvested from GFP mice . *Biochem Biophys. Res Commun* 2004 ; 313 ( 4 ): 871-877 .
- 11) Hallock GG<sup>1)</sup> , Sano K ( <sup>1)</sup> The Division of Plastic Surgery, Lehigh Valley Hospital ): The medial sural medial gastrocnemius perforator free flap : an ' ideal ' prone position skin flap . *Ann Plast Surg* 2004 ; 52 ( 2 ): 184-187 .

- 12) Ogawa R, Hyakusoku H, Iwakiri I, Akaishi S : A severe neck scar contracture reconstructed with a ninth dorsal intercostal perforator ( DICP ) augmented super-thin ( SVN : subdermal vascular network ) flap . Ann Plast Surg 2004 ; 52 ( 2 ) : 216-219 .
- 13) 西藤由美<sup>1)</sup>, 陳 貴史, 竹中秀也<sup>1)</sup>, 岸本三郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都府立医科大学皮膚科学): 好酸球性膿ほう性毛包炎の1例 ムチン沈着症との組織学的異同. 臨床皮膚科 2003 ; 57 ( 1 ) : 61-63 .
- 14) 東 和明<sup>1)</sup>, 新井正徳<sup>1)</sup>, 赤石諭史, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 山内 聡<sup>1)</sup>, 金 史英<sup>1)</sup>, 斉藤行世<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>いわき市総合磐城共立病院救命救急センター): 急性膀胱炎を併発した有機リン中毒の1例. 日本救急医学会雑誌 2003 ; 14 ( 4 ) : 215-219 .
- 15) 宮本正章<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 小鹿野道雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>2)</sup>, 藤田進彦<sup>2)</sup>, 水野博司, 百束比古(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室): 重症難治性糖尿病性壊疽に対する自己骨髄幹細胞浸透人工真皮を用いた血管再生細胞治療. Complication 2003 ; 8 ( 1 ) : 31-37 .
- 16) 小川 令, 百束比古: SVN ( Super-thin ) flap の実際と今後の展望: 穿通枝皮弁との関係を含めて. 日形会誌 2003 ; 23 ( 5 ) : 300-306 .
- 17) 鈴木かやの<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 青木 律, 百束比古, 宮沢七郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学皮膚科学, <sup>2)</sup>北里大学電子顕微鏡センター): 多彩な膠原病類似症状を呈したヒトアジュバント病. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 3 ) : 283-287 .
- 18) 百束比古, 村上正洋, 石丸さやか: 褥瘡の治療に関する update II 仙骨部・坐骨部・大転子部以外の褥瘡と外科的治療. 形成外科 2003 ; 46 ( 6 ) : 587-594 .
- 19) 村上正洋, 百束比古, 高 建華<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中国第1軍医大学南方病院整形外科): 遠隔皮弁における茎部閉鎖法の1工夫. 日形会誌 2003 ; 23 : 385-386 .
- 20) 佐藤和夫, 百束比古, ニッ川章二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本アイソトープ協会滝沢研究所): PIXE 分析による Hydrogel ( 注入用製剤, 豊胸用材料 ) の検討. 日本美容外科学会会報 2003 ; 25 ( 2 ) : 63-70 .
- 21) Ogawa R, Aoki R, Hyakuoku H : A rare case of intracranial metastatic amelanotic melanoma with cyst . Journal of Clinical Pathology 2003 ; 56 ( 7 ) : 548-551 .
- 22) 糸井由里恵<sup>1)</sup>, 土佐真美子<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科): 表皮嚢胞より発生した有棘細胞癌の1例. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 4 ) : 378-378 .
- 23) 陳 貴史, 百束比古, 河原理子: 新しいベッドサイド褥瘡洗浄システムの開発. 形成外科 2003 ; 46 ( 9 ) : 936-938 .
- 24) 百束比古: 一般・消化器外科医のための形成外科手術手技のコツ乳輪・乳頭再建. 手術 2003 ; 57 ( 10 ) : 1145-1152 .
- 25) 村上正洋, 百束比古, 陳 貴史: Cervico-pectoral ( CP ) Flap の生着範囲および微小血管束付加の可否についての検討. 日本マイクロサージャリー学会会誌 2003 ; 16 ( 3 ) : 271-278 .
- 26) 石丸さやか, 村上正洋, 水野博司, 百束比古: Visual Analogue scale Method を用いた腋臭症の術後評価の試み. 日本美容外科学会会報 2003 ; 25 ( 3 ) : 87-91 .
- 27) 小池幸子, 小川 令, 百束比古, 青木 律, 村上正洋: われわれの腋窩部瘢痕拘縮再建術に対する考え: 当科における26年の経験から. 熱傷 2003 ; 29 ( 3 ) : 131-136 .
- 28) 奥田富士子<sup>1)</sup>, 陳 貴史, 筏さやか<sup>1)</sup>, 益田浩司<sup>1)</sup>, 加藤則人<sup>1)</sup>, 岸本三郎<sup>1)</sup>, 伊地智俊春<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>京都府立医科大学皮膚科, <sup>2)</sup>同神経内科): クレアチニンキナーゼ上昇をみなかった皮膚筋炎の1例. 臨床皮膚科 2003 ; 57 ( 10 ) : 886-888 .
- 29) 水野博司: 幹細胞供給源としての脂肪組織の有用性. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 5 ) : 428-431 .
- 30) 宮本正章<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 水野博司, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学, <sup>3)</sup>外科学第2, <sup>4)</sup>麻酔科学): こここまで来た再生医療 重症難治性心

管疾患に対する自己骨髄細胞移植血管再生治療の現状．J Nippon Med Sch 2003；70(5): 436-441．

- 31) 岡 敏行<sup>1)</sup>, 佐伯和則<sup>2)</sup>, 村上正洋, 青木 律, 百束比古, 黒田周一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>日本医科大学千葉北総病院形成外科): 剖検にて判明したアポクリン腺癌と腸間膜悪性リンパ腫の重複癌の1例．Skin Cancer 2003；18(2): 198-202．
- 32) 陳 貴史<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院形成外科): 広頸筋皮弁により再建した顔面熊咬傷の1例．形成外科 2003；46(11): 1203-1208．
- 33) 小川 令, 百束比古, 平井 隆, 秋元正宇, 藤本将史: 人工骨露出を伴う頭部難治療生皮膚潰瘍に対する治療経験．形成外科 2003；46(12): 1313-1320．
- 34) 陳 貴史: シリコンジェルシートを利用して腸管皮膚瘻管理を行った1例．日本ストーマリハビリテーション学会誌 2003；19(2): 85-88．
- 35) 奥田貴久, 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古: 脳神経外科術後, 前頭側頭部に皮膚壊死を生じた3例の治療経験．日本頭蓋顎顔面外科学会誌 2003；19(3): 261-266．
- 36) Vinh VQ<sup>1)</sup>, 小川 令, 百束比古, 青木 律, 水野博司, 村上正洋, 河原理子, 片岡幸子, 平本剛士, 川井真<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, Trung Le T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ベトナム国立熱傷研究所, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): ベトナムにおける真皮下血管網皮弁を用いた熱傷治療の経験: 日本医科大学との交流を含めて．熱傷 2003；29(5): 288-293．
- 37) 陳 貴史, 青木 律, 河原理子, 百束比古: Flap in flap techniqueを使用した鼻唇溝部基底細胞上皮腫の1例．Skin Cancer 2004；18(3): 290-297．

## (2) 綜説:

- 1) 大浦武彦<sup>1)</sup>, 百束比古, 大慈弥裕之<sup>2)</sup>, 小川 令(<sup>1)</sup>北海道大学形成外科, <sup>2)</sup>福岡大学形成外科): 肥厚性瘢痕・ケロイドに対するシリコン・ジェルシートの新たなる展開．臨床医薬 2003；19(8): 867-879．
- 2) 村上正洋, 百束比古: 顔面熱傷．形成外科 2003；46(増刊号): 142-143．
- 3) 河原理子, 百束比古: 乳房異物．形成外科 2003；46(増刊号): 166-167．
- 4) 秋元正宇, 百束比古: 手の熱傷．形成外科 2003；46(増刊号): 209-210．
- 5) 村上正洋: 広範囲熱傷患者の社会復帰に向けて．Emergency Nursing 2003；16(12): 30-35．
- 6) 三橋 清: ケロイドの保存的療法に一工夫．デルマ倶楽部 2004；2(4): 5-6．

## 著 書

- 1) 百束比古: [編著] 熱傷の治療 最近の進歩．形成外科 ADVANCE シリーズII - 10, 2003; 克誠堂．
- 2) 村上正洋, 百束比古: [分担] 局所皮弁法による熱傷後瘢痕拘縮の再建: 正方弁方と複葉プロペラ皮弁法を中心に．形成外科 ADVANCE シリーズII - 10 熱傷の治療 最近の進歩, 2003; pp191-198, 克誠堂．
- 3) 平井 隆, 百束比古: [分担] 顔面熱傷再建における prefabricated flap の臨床応用．形成外科 ADVANCE シリーズII - 10 熱傷の治療 最近の進歩 2003; pp229-236, 克誠堂．
- 4) 百束比古: [分担] 真皮下血管網皮弁 (super-thin flap) による熱傷瘢痕拘縮再建．形成外科 ADVANCE シリーズII - 10 熱傷の治療 最近の進歩, 2003; pp249-257, 克誠堂．
- 5) 青木 律: [分担] 広範囲熱傷救命患者の社会復帰．形成外科 ADVANCE シリーズII - 10 熱傷の治療 最近の進歩, 2003; pp289-296, 克誠堂．
- 6) 百束比古: [監修] 医療スタッフのためのリハビリメイク．医療スタッフのためのリハビリメイク, 2003; 克誠堂．
- 7) 百束比古: [分担] 総論: メイクアップセラピーの意義．医療スタッフのためのリハビリメイク, 2003; pp3-7, 克誠堂．
- 8) 青木 律: [分担] 形成外科・美容外科とメイクアップセラピー．医療スタッフのためのリハビリメイク, 2003; pp8-14, 克誠堂．

- 9) 青木 律：〔分担〕形成外科とは何か．医療スタッフのためのリハビリメイク，2003；pp59-66，克誠堂．
- 10) 青木 律：〔分担〕用語解説．医療スタッフのためのリハビリメイク，2003；pp67-70，克誠堂．
- 11) かづきれいこ<sup>1)</sup>，青木 律<sup>(1)</sup>スタジオKAZKI)：〔分担〕事例．医療スタッフのためのリハビリメイク，2003；pp97-136，克誠堂．
- 12) 青木 律，かづきれいこ<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>スタジオKAZKI)：〔編著〕医療スタッフのためのリハビリメイク．医療スタッフのためのリハビリメイク，2003；克誠堂．
- 13) 百束比古：〔分担〕形成外科．医学生のための進路ナビ 第2集 私はなぜ現在の科目を選んだか，2003；pp156-161．
- 14) 百束比古：〔分担〕瘢痕とケロイド．TEXT 形成外科学 第2版，2004；pp39-45，南山堂．

#### 学会発表

##### (1) 招待講演：

- 1) 村上正洋：真皮下血管網皮弁の理論と新しい展開について．第21回大阪形成外科集談会，2003．6．
- 2) 水野博司：脂肪組織幹細胞の基礎と臨床展望．第4回千葉東葛地区形成外科懇話会，2003．6．

##### (2) シンポジウム：

- 1) Hyakusoku H, Aoki R：History and recent development of SVN (super-thin) flap and its microvascular augmentation．13th Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (Sydney), 2003．8．
- 2) 水野博司：幹細胞供給源としての脂肪組織の有用性．日本医科大学医学会第13回公開「シンポジウム」，2003．6．
- 3) 村上正洋，百束比古，平井 隆：眼瞼部の遊離植皮術におけるワイヤーフレーム外固定法の有用性．第29回日本熱傷学会総会・学術集会，2003．6．

##### (3) パネルディスカッション：

- 1) 水野博司：脂肪組織幹細胞に対する研究の現状と臨床展望．第43回日本先天異常学会，2003．7．
- 2) 村上正洋，百束比古，石丸さやか，小川 令：最も細長い超薄皮弁：肋間穿通枝付加OCP真皮下血管網皮弁．第30回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2003．11．
- 3) 小川 令，百束比古，村上正洋：OCD真皮下血管網皮弁による頸部熱傷後瘢痕拘縮再建の2症例(男性と女性例)．第30回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2003．11．
- 4) 百束比古，村上正洋，青木 律，小川 令：微小血管束付加真皮下血管網皮弁による露出部の再建．第30回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2003．11．
- 5) 村上正洋，小川 令，百束比古：Supercharging vesselとしての肋間穿通枝の有用性．第30回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2003．11．
- 6) 水野博司，百束比古：遊離血管束移植によるsecondary vascularized hairy flap．第30回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2003．11．
- 7) 佐野和史，濱崎雅弘<sup>1)</sup>，馬渡玲子<sup>1)</sup>，Geoffrey GH<sup>3)</sup>，多田英行<sup>2)</sup>，大長省博<sup>1)</sup>，野呂純敬<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>建和会大手町病院整形外科，<sup>2)</sup>同形成外科，<sup>3)</sup>Division of Plastic Surgery, Lehigh Valley Hospitals)：Free medial sural artery perforator (MSAP) flapによる皮膚軟部組織欠損再建の3例．第30回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2003．11．
- 8) 佐野和史，吉野啓四郎<sup>1)</sup>，大関 覚<sup>3)</sup>，馬渡玲子<sup>1)</sup>，濱崎雅弘<sup>1)</sup>，吉野興一郎<sup>1)</sup>，鈴木裕彦<sup>1)</sup>，多田英行<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>建和会大手町病院整形外科，<sup>2)</sup>同形成外科，<sup>3)</sup>獨協医科大学越谷病院整形外科)：肩甲下動静脈を共通茎とするquadrifoliate flap(4島連合皮弁)により加療し得た骨折後感染性膝関節組織欠損の1例．第30回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2003．11．



(4) セミナー :

- 1) 百束比古 : 癬痕拘縮の手術 . 第46回日本形成外科学会総会・学術集会 , 2003 . 4 .

(5) 一般講演 :

- 1) Ogawa R , Hyakusoku H , Aoki R , Ishimaru S , Kawahara S , Koike S : Neck scar contracture reconstruction with bipedicaled free “ super-thin flap ” . 2nd Congress of the world society for reconstructive microsurgery ( Heidelberg ) , 2003 . 6 .
- 2) Hyakusoku H , Ogawa R , Kawahara S , Murakami M , Aoki R : New burn reconstructive surgery using microvascular augmented subdermal vascular network ( super - thin ) flaps . 2nd Congress of the world society for reconstructive microsurgery ( Heidelberg ) , 2003 . 6 .
- 3) Fujimoto M , Hyakusoku H , Aoki R , Ishimaru S , Ogawa R , Kawahara S : Extensive skin and soft tissue defect reconstruction with free thin flaps in lower leg . 2nd Congress of the world society for reconstructive microsurgery ( Heiderberg ) , 2003 . 6 .
- 4) Kawahara S , Hyakusoku H , Aoki R , Hirakawa K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Legal Medicine, Nippon Medical School ) : Long-term results of the salvage operation of silicone or hydrocarbon implanted breasts using bilaterally divided free reduced-TRAM flaps . 2nd Congress of the world society for reconstructive microsurgery ( Heiderberg ) , 2003 . 6 .
- 5) Mizuno H , Hyakusoku H , Aoki R , Fujimoto M , Kawahara S : Simultaneous bilateral breast re-augmentation with autologous tissue transfer after the removal of injectable materials . 13th Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( Sydney ) , 2003 . 8 .
- 6) Ogawa R , Hyakusoku H , Aoki R , Murakami M , Pennington DG<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Hand Surgery, Royal Prince Alfred Hospital ) : The occipito-cervico-dorsal ( ODC ) flap-retrospective study on 32 cases . 13th International Conference for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery ( Sydney ) , 2003 . 8 .
- 7) Hu ZQ<sup>1)</sup> , Aoki R , Gao JH<sup>1)</sup> , Hyakusoku H ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nangfang Hospital ) : Free anterolateral thigh flaps in plastic surgery including burn reconstruction . 第12回日本熱傷学会関東地方会 , 2004 . 1 .
- 8) Vinh VQ<sup>1)</sup> , 百束比古 , 村上正洋 , 青木 律 , 水野博司 , 河原理子 , 小川 令 , 片岡幸子 , 平本剛士 , 川井真<sup>2)</sup> , 山本保博<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Le The Trung ( National Institution of Burn, Hanoi Vietnam ) , <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター ) : ベトナム国立熱傷研究所の現状と日本医科大学との交流についての報告 . 第11回日本熱傷学会関東地方会 , 2003 . 1 .
- 9) 大木琴美<sup>1)</sup> , 陳 貴史 , 大木更一郎<sup>1)</sup> , 平井 隆<sup>2)</sup> , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学第二病院形成外科 ) : 上眼瞼黄色肉芽腫の1例 . 第233回日本形成外科学会東京地方会 , 2003 . 3 .
- 10) 水野博司 , 百束比古 , 河原理子 , 平川慶子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 法医学 ) : 脂肪注入により乳房増大術を施行された2症例の検討 . 第46回日本形成外科学会学術集会 , 2003 . 4 .
- 11) 利根川均<sup>1)</sup> , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 博慈会記念総合病院形成外科 ) : ダイオードレーザー ( BuffLight ) の尋常性ざ瘡治療への応用ならびに臨床効果の検討 . 第46回日本形成外科学会総会・学術集会 , 2003 . 4 .
- 12) 利根川均<sup>1)</sup> , 百束比古 ( <sup>1)</sup> 博慈会記念総合病院 ) : 次世代型 IPL 装置による脱毛ならびに skin rejuvenation の経験 . 第46回日本形成外科学会総会・学術集会 , 2003 . 4 .
- 13) 河原理子 , 百束比古 , 陳 貴史 , 平川慶子<sup>1)</sup> , 片山泰朗<sup>2)</sup> , 大久保誠二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 法医学 , <sup>2)</sup> 内科学第2 ) : 実験用磁気共鳴イメージング装置を使用した生体内埋入物質のMRI画像診断の有用性 . 第46回日本形成外科学会総会・学術集会 , 2003 . 4 .
- 14) 藤本将史 , 河原理子 , 百束比古 : 生体内埋入異物患者の自己抗体値からの検討 . 第46回日本形成外科学会総

- 会・学術集会, 2003. 4.
- 15) 小川 令, 百束比古, 村上正洋, 小池幸子: 腋窩癭痕拘縮症例の治療戦略. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 16) 島本 実<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 先天性涙嚢腫の経験. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 17) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 糸井由里恵<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>第二病院形成外科): Nasal gliomaの1例. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 18) 山本 達<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>東戸塚記念病院形成外科): 被膜を有する脂肪腫に対する腫瘍辺縁部切開法の有用性について. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 19) 小池幸子, 小川 令, 百束比古: 当科における過去10年間のリストカット患者の検討. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 20) 小川 令, 青木 律, 百束比古: 陥入爪の原因に関する検討: 特に足型との因果関係について. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 21) 岩切 致<sup>1)</sup>, 大泉 旭<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 青木 律, 藤本将史, 百束比古 ( <sup>1)</sup>高度救命救急センター): 切断を免れた右前腕高度軟部組織欠損の1症例. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 22) 村上正洋, 石丸さやか, 陳 貴史, 百束比古, 糸井由里恵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>下館市民病院形成外科): 陰核肥大2例の治療経験. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 23) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 島本 実<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古: Nuss法における小工夫: 等身大CT像におけるベクタスパー挿入前加工. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 24) 中村 敏, 百束比古: 当院に於ける犬・猫咬傷の検討. 第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003. 4.
  - 25) 小池幸子, 小川 令, 百束比古: 自傷および虐待による熱傷症例の検討. 第29回日本熱傷学会総会・学術集会, 2003. 6.
  - 26) 小川 令, 百束比古, 村上正洋: 熱傷後の頸部および顔面癭痕拘縮再建におけるOCD真皮下血管網皮弁血管の生着域の検討. 第29回日本熱傷学会総会・学術集会, 2003. 6.
  - 27) 陳 貴史, 百束比古: 口唇・頤部熱傷の検討 (過去3年間の統計から). 第29回日本熱傷学会総会・学術集会, 2003. 6.
  - 28) Vinh VQ, 小川 令, 百束比古, 村上正洋, 青木 律, 水野博司, 河原理子, 片岡幸子, 平本 剛, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, Trung Le T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学救急医学, <sup>2)</sup>ベトナム国立熱傷研究所): ベトナムにおける熱傷治療の現況: ベトナム国立熱傷研究所と日本医科大学形成外科との交流を含めて. 第29回日本熱傷学会総会・学術集会, 2003. 6.
  - 29) 陳 貴史, 青木 律, 村上正洋, 百束比古: 効果的な褥瘡洗浄システムの開発. 第5回日本褥瘡学会学術集会, 2003. 8.
  - 30) 村上正洋, 百束比古, 小川 令, 稲田浩美<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>看護部): 仙骨部・坐骨部・大転子部以外の褥瘡についての検討. 第5回日本褥瘡学会学術集会, 2003. 8.
  - 31) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 百束比古, 村上正洋, 水野博司, 小池幸子<sup>2)</sup>, 荒井考司<sup>3)</sup>, 平本 力<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup>下館市民病院形成外科, <sup>3)</sup>同脳神経外科, <sup>4)</sup>石岡・平本皮膚科医院自治医科大学皮膚科): 中規模地方病院における褥瘡対策の1例. 第5回日本褥瘡学会学術集会, 2003. 8.
  - 32) 平本剛士, 村上正洋, 百束比古: 下口唇に生じた脂肪腫の1例. 第235回日本形成外科学会東京地方会, 2003. 9.
  - 33) 小川 令, 水野博司, 百束比古: GFPトランスジェニックマウス由来脂肪組織幹細胞を用いた脂肪・骨・軟骨細胞新生. 第12回日本形成外科学会基礎学術集会, 2003. 10.
  - 34) 小川 令, 百束比古, 村上正洋: OCD皮弁の生着域の解剖学的検討. 第12回日本形成外科学会基礎学術集会, 2003. 10.

- 35) Vinh VQ, 小川 令, 百束比古, 村上正洋, 陳 貴史: 広頸筋皮膚穿通枝の解剖学的検討. 第12回日本形成外科学会基礎学術集会, 2003. 10.
- 36) 内谷栄一, 野本俊一, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>(1)</sup>内科学第1): 下肢血管再生療法に併用した自家骨髄幹細胞含浸人工真皮による難治性皮膚潰瘍の治療. 第12回日本形成外科学会基礎学術集会, 2003. 10.
- 37) 水野博司, 百束比古, Zuk PA<sup>1)</sup>, Zhu M M<sup>1)</sup>, Hedrick MH<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>UCLA形成外科): クローニングされたPLA細胞の分化能の検討. 第12回日本形成外科学会基礎学術集会, 2003. 10.
- 38) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, ガジザデモハメッド<sup>2)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup>第二病院形成外科,<sup>2)</sup>老人病研究所病理部門): ケロイドにおけるWntシグナル分子機構の解明: -cateninの発現解析. 第12回日本形成外科学会基礎学術集会, 2003. 10.
- 39) 利根川均<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科・美容外科): IPLによる表在性色素斑の治療. 第26回日本美容外科学会総会(第88回学術集会), 2003. 10.
- 40) 利根川均<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科・美容外科): Dual mode filtering system IPL (Elipulse Flex™)によるPhoto Skin Rejuvenationの経験. 第26回日本美容外科学会総会(第88回学術集会), 2003. 10.
- 41) 青木 律, 河原理子, 百束比古, 杉野宏子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>青山エルクリニック): A型ボツリヌス菌毒素による咬筋肥大の治療. 第26回日本美容外科学会総会(第88回学術集会), 2003. 10.
- 42) 杉野宏子<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>(1)</sup>青山エルクリニック): ボツリヌス菌毒素Aの下眼瞼注入による瞼裂高増大効果の検討. 第26回日本美容外科学会総会(第88回学術集会), 2003. 10.
- 43) 利根川均<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科・美容外科): BuffLight™を中心としたコンビネーション両方によるにきび治療の経験. 第26回日本美容外科学会総会(第88回学術集会), 2003. 10.
- 44) 河原理子, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): 生体内埋入物のNMR成分分析法: 特にHRMAS (High Resolution Magic Angle Spinning)法を用いた分析について. 第26回日本美容外科学会総会(第88回学術集会), 2003. 10.
- 45) 藤本将史, 田上正茂<sup>1)</sup>, 中村 敏<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): 両下腿靭断に対し再接着後敗血症を呈した症例. 第30回外傷症例検討会, 2003. 10.
- 46) 奥田貴久<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup>総合会津中央病院形成外科): 脳神経外科術後前頭側頭部に瘻孔を生じた3例. 第21回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2003. 11.
- 47) 村上正洋, 百束比古, 小川 令, 陳 貴史<sup>1)</sup>, 奥田貴久<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東戸塚記念病院外科,<sup>2)</sup>総合会津中央病院形成外科): 真皮下血管網皮弁による下顎部肥厚性瘢痕の治療. 第21回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2003. 11.
- 48) 河原理子, 百束比古, 青木 律, 陳 貴史: 深下腹壁動脈のinterpositionによる上肢の救済. 第30回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2003. 11.
- 49) 南部正樹<sup>1)</sup>, 石原雅之<sup>2)</sup>, 水野博司, 増岡一典<sup>3)</sup>, 服部秀美<sup>2)</sup>, 山本直人<sup>1)</sup>, 中村真一郎<sup>1)</sup>, 清澤智晴<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>防衛医科大学形成外科学,<sup>2)</sup>同研究センター): コラーゲンスポンジと脂肪組織由来多能性幹細胞併用によるハイブリッド型人工真皮の開発. 第25回日本バイオマテリアル学会, 2003. 12.
- 50) 小川 令, 水野博司, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 百束比古, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>遺伝診療科): 脂肪組織幹細胞における骨・軟骨細胞新生: GFPトランスジェニックマウスを用いて. 第33回日本創傷治療学会, 2003. 12.
- 51) 橋田絵理香<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 小木三郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科,<sup>2)</sup>同女性診療科・産科): マイクロサージャリーによる下肢リンパ浮腫の治療経験. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 52) 小川 令, 百束比古, 秋元正宇: 再発を最小限とするためのケロイドおよび肥厚性瘢痕に対する切除および縫合法の工夫. 第9回形成外科内視鏡・手術手技研究会, 2004. 2.

- 53) 村上正洋, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> (千葉北総病院形成外科): 巾着縫合法を応用した皮膚腫瘍の治療と有限要素法による術後形態の解析. 第9回形成外科内視鏡・手術手技研究会, 2004. 2.
- 54) 水野博司, 島本 実, 小川 令, 内谷栄一, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 久保健太郎<sup>2)</sup>, 黒柳能光<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学第1, <sup>2)</sup> 北里大学人工皮膚研究開発センター): 虚血性難治療生潰瘍に対する自家骨髄細胞移植と同種培養真皮の併用による治療効果. 第3回日本再生医療学会総会, 2004. 3.
- 55) 小川 令, 水野博司, 百束比古, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学第2): GFPトランスジェニックマウス由来脂肪組織幹細胞を用いた骨・軟骨・脂肪細胞への分化誘導. 第3回日本再生医療学会総会, 2004. 3.
- 56) 赤石諭史, 青木 律, 百束比古: 巨大になるまで放置された顔面有棘細胞癌の2例. 第237回日本形成外科学会東京地方会, 2004. 7.
- (6) ビデオ・コンピュータセッション:
- 1) 陳 貴史, 青木 律, 河原理子, 利根川均<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 博慈会記念病院形成外科): 外鼻翼部の基底細胞腫に対して flap in flap にて被覆した1症例. 第19回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2003. 6.
- (7) 展示:
- 1) Aoki R: Versatility of V-Y advancement flap. 13th Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (Sydney), 2003. 8.
- 2) Ogawa R, Hyakusoku H: A new protocol of multimodal therapy for keloid. 13th International Conference for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery (Sydney), 2003. 8.
- 3) Murakami M, Hyakusoku H, Akimoto M, Aoki R, Ogawa R: The multi-lobed propeller flap method. 13th International Conference for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery (Sydney), 2003. 8.
- 4) Akimoto M, Kuroda S, Hyakusoku H: Stress test of skin adhesive and new method of skin bonding. 13th International Conference for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery (Sydney), 2003. 8.
- 5) Mizuno H, Hyakusoku H, Fujimoto M, Kawahara S: Bilateral breast reconstruction with autologous tissue after the removal of injectable materials. 72nd Annual Scientific Meeting of American Society of Plastic Surgery (San Diego), 2003. 10.
- 6) Kawahara S, Hyakusoku H, Mizuno H, Fujimoto M: Imaging diagnosis of implant materials for breast augmentation. 72nd Annual Scientific Meeting of American Society of Plastic Surgery (San Diego), 2003. 10.
- 7) 水野博司, 小川 令, 河原理子, 百束比古: クローニングされた脂肪組織由来細胞の動態. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 8) 青木 律, 小川 令, 河原理子, 百束比古: A型ボツリヌス菌毒素製剤による美容医療 第2報. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 9) 内谷栄一, 野本俊一, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 水野博司 (<sup>1)</sup> 内科学第1): 自家骨髄幹細胞含浸人工真皮を併用した難治性皮膚潰瘍の治療. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 10) 小川 令, 水野博司, 百束比古, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>, 早川 潤<sup>2)</sup>, 右田 真<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 生化学第2, <sup>2)</sup> 小児科学): GFPトランスジェニックマウス由来脂肪組織幹細胞を用いた骨, 軟骨細胞新生. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 11) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> (千葉北総病院形成外科): 漏斗胸手術時 (Nuss法) における実物大CT画像の利用. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 12) 岡 敏行<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> (伊勢崎市市民病院形成外科): 洗浄, 創傷被覆材による創傷治癒の試み. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 13) 村上正洋, 百束比古, 稲田浩美<sup>1)</sup>, 三原恵理<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 看護部): 好発部以外の褥瘡についての検討. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.

- 14) 小池幸子, 小川 令, 百束比古: 当科における過去10年間のリストカット患者の検討. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 15) 赤石諭史, 青木 律, 百束比古: 莓状血管腫に対する色素レーザー治療. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 16) 野本俊一<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科)</sup>: 側頭部開頭術後陥没変形に対するリン酸カルシウム骨ペーストによる Augmentation. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 17) 小倉 舞, 河原理子, 青木 律, 百束比古: 新しい局所皮弁による顔面皮膚悪性腫瘍摘出後広範囲組織欠損の再建. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 18) 島本 実, 百束比古: リン酸カルシウム骨ペーストによる顔面変形の改善. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 19) 岩切 致, 橘田絵理香, 青木 律, 百束比古: われわれの行っているマイクロサージャリーを用いた手指再建法. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 20) 河原理子, 百束比古, 陳 貴史, 村上正洋: われわれの乳頭再建法. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 21) 大久保暁司, 島本 実, 青木 律, 百束比古, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 小泉康雄<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 矢部朋子<sup>2)</sup>, 吉野公二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>耳鼻咽喉科・頭頸部外科, <sup>2)</sup>皮膚科学): 原発巣不明の耳下腺内転移性悪性黒色腫の治療経験. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 22) 橘田絵理香, 岩切 致, 村上正洋, 百束比古, 利根川均<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科): 右腋窩部に生じた悪性線維性組織球腫症の長期生存例. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- (8) 特別企画講演:
- 1) 平井 隆, 秋元正宇, 百束比古: 多数回の手術を要した広範囲熱傷治療の経験. 第12回日本熱傷学会関東地方会, 2004. 1.

## [ 第二病院形成外科 ]

### 研究概要

臨床面においては、低侵襲手術をテーマとして、漏斗胸手術における胸腔鏡下胸骨挙上術（Nuss法）の症例を重ね良好な結果を得ている。また、Photo Dynamic Therapyの臨床応用の一環として、皮膚悪性腫瘍に対し、拡大根治術に先立つ術前光線力学療法を行い、縮小手術の実現を目指している。また、皮膚悪性黒色腫の治療に際しては、Sentinel Node Navigation Surgeryの環境整備中である。基礎研究面では、前年に引き続き正常皮膚ならびにケロイド由来の培養線維芽細胞に電子線照射を行い、照射前後の細胞周期制御因子の動態の解析を行うことでケロイド発生機序の解明をすすめている。これにより、電子線照射後のCdc25A 遺伝子過剰発現とケロイドとの関連性が示唆された。また、ケロイド由来培養線維芽細胞に対して、電子線照射前後の発現遺伝子の変化をcDNA マイクロアレイ法を用いて検討し、種々の知見を得た。これらを元に、さらにケロイドの発生機序を解析中である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平井 隆, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 藤本将史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院形成外科): 人工骨露出を伴う頭部難治性皮膚潰瘍に対する治療経験. 形成外科 2003; 46 (12): 1313-1320.

#### 著書

- 1) 平井 隆, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): [ 分担 ] 顔面熱傷再建における prefabricated flap の臨床応用.

熱傷の治療：最近の進歩（波利井清紀），2003；pp229-236，克誠堂出版．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>(1)</sup>形成外科・美容外科)：眼瞼部の遊離植皮術におけるワイヤーフレーム外固定法の有用性．第29回日本熱傷学会総会，2003．6．

##### (2) 一般講演：

- 1) 土佐真美子，平井 隆，糸井由里恵：Nasal Gliomaの1例．第46回日本形成外科学会総会，2003．4．
- 2) 村上正洋<sup>1)</sup>，石丸さやか<sup>1)</sup>，陳 貴史<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，糸井由里恵<sup>(1)</sup>形成外科・美容外科)：陰核肥大2例の治療経験．第46回日本形成外科学会総会，2003．4．
- 3) 内谷栄一，野本俊一<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，宮本正章<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>，水野博司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科，<sup>2)</sup>内科学第1)：自家骨髄幹細胞含浸人工真皮を併用した難治性皮膚潰瘍の治療．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 4) 内谷栄一，野本俊一<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，宮本正章<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科，<sup>2)</sup>内科学第1)：下肢血管再生療法に併用した自家骨髄幹細胞含浸人工真皮による難治性皮膚潰瘍の治療．第12回日本形成外科学会基礎学術集会，2003．10．
- 5) 平井 隆，秋元正宇<sup>1)</sup>，百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科，<sup>2)</sup>形成外科・美容外科)：多数回の手術を要した広範囲熱傷治療の経験．第12回日本熱傷学会関東地方会，2004．1．
- 6) 糸井由里恵，平井 隆，土佐真美子：各科における興味ある症例：表皮嚢胞より発生した有棘細胞癌の1例．日本医科大学医学会第110回例会，2003．5．

## [ 千葉北総病院形成外科 ]

### 研究概要

リン酸カルシウム骨ペーストによる顔面変形の治療に関する研究，皮膚用接着剤の力学的強度の研究，皮膚手術のコンピュータシミュレーションの研究等を行っている．

特に，皮膚の手術シミュレーションの研究では，非線形・大変形対応有限要素法プログラムの導入により，局所皮弁の挙動の解析に新しい知見を得ることができた．今後，臨床，教育分野へも応用が期待される方法である．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 奥田貴久，秋元正宇，黒田周一，百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科)：脳神経外科術後，前頭側頭部に皮膚壊死を生じた3例の治療経験．日本頭蓋顎顔面外科学会誌 2003；19(3)：261-266．
- 2) 陳 貴史<sup>1)</sup>，大木更一郎<sup>1)</sup>，百束比古<sup>2)</sup>，秋元正宇，大木琴美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>会津中央病院形成外科，<sup>2)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：広頸筋皮弁により再建した顔面熊咬傷の1例．形成外科 2003；46(11)：1203-1320．
- 3) 小川 令<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>2)</sup>，秋元正宇，藤本将史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科，<sup>2)</sup>第二病院形成外科・美容外科)：人工骨露出を伴う頭部難治療生皮膚潰瘍に対する治療経験．形成外科 2003；46(12)：1313-1320．

##### (2) 綜説：

- 1) 秋元正宇，百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科)：手の熱傷．形成外科 2003；46(増刊号)：209-210．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 平井 隆<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科・美容外科,<sup>2)</sup>形成外科・美容外科): 多数回の手術を要した広範囲熱傷治療の経験．第12回日本熱傷学会関東地方会, 2004．1．
- 2) 秋元正宇: コンピュータシミュレーション外科: 仮想現実空間の皮膚手術．日本医科大学医学会第112回例会, 2004．2．

### (2) 一般講演：

- 1) Murakami M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Akimoto M, Aoki R<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): The multi-lobed propeller flap method．13th International Conference for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery (Sydney), 2003．8．
- 2) Akimoto M, Kuroda S, Hyakusoku H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): Stress test of skin adhesive and new method of skin bonding．13th International Conference for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery (Sydney), 2003．8．
- 3) 島本 実, 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): 先天性涙嚢瘻の経験．第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003．4．
- 4) 秋元正宇, 島本 実, 黒田周一, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): Nuss法における小工夫: 等身大CT像におけるペクタス挿入前加工．第46回日本形成外科学会総会・学術集会, 2003．4．
- 5) 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): 漏斗胸手術時(Nuss法)における実物大CT画像の利用．第71回日本医科大学医学会総会, 2003．9．
- 6) 野本俊一, 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): 側頭部開頭術後陥没変形に対するリン酸カルシウム骨ペーストによる Augmentation．第71回日本医科大学医学会総会, 2003．9．
- 7) 秋元正宇: 有限要素法による局所皮弁の解析: 汎用非線形パッケージソフトウェアによる皮膚解析の試み．第12回日本形成外科学会基礎学術集会, 2003．10．
- 8) 秋元正宇: 汎用非線形パッケージソフトウェアによる皮膚単純縫縮・Z形成術シミュレーションの試み．第13回日本シミュレーション外科学会, 2003．11．
- 9) 奥田貴久<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>総合会津中央病院形成外科,<sup>2)</sup>日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 脳神経外科術後前頭側頭部に瘻孔を生じた3例．第21回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2003．11．
- 10) 橋田絵里香, 黒田周一, 秋元正宇, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 小木三郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科): マイクロサージャリーによる下肢リンパ浮腫の治療経験．日本医科大学医学会第112回例会, 2004．2．
- 11) 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正宇(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): 再発を最小限とするためのケロイドおよび肥厚性瘢痕に対する切除および縫合法の工夫．第9回形成外科内視鏡・手術手技研究会, 2004．2．
- 12) 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): 巾着縫合法を応用した皮膚腫瘍の治療と有限要素法による術後形態の解析．第9回形成外科内視鏡・手術手技研究会, 2004．2．

## 20. 付属病院付置施設等

### [ 付属病院遺伝診療科 ]

#### 研究概要

日本医科大学付属病院では新しい時代の遺伝子医学に対応するため、平成10年に生化学第2、小児科、産婦人科、看護部門が協力して小児科遺伝外来において遺伝診療を開始した。平成15年5月からは独立した遺伝診療科として外来診療を行っており、平成16年1月には私立大学として初めて日本人類遺伝学会・遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医研修施設として認定された。

遺伝診療科外来では、対象疾患に関する遺伝子研究も含めた最先端の医学的進歩について情報提供を行うとともに、患者さん本人の医学的、社会的、心理的状況に最大限配慮した個人のためのカウンセリングを行っている。個別の遺伝診療について科学的、倫理的に検討するカンファレンスでは学内外の基礎医学研究者、各診療科医師（小児科、産婦人科、内科、外科、皮膚科など）、看護師が参加し、毎回熱心な議論が行われている。

これまでに、68件の症例について131回の外来診療を行っているが、単一遺伝病が35件、染色体異常が22件、奇形症候群が7件、その他となっている。遺伝子検査については生化学第2教室と共同で低ホスファターゼ症、血管型 Ehlers-Danlos 症候群、Gaucher 病、Werdnig-Hoffmann 病などについての診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。

基礎医学研究者、臨床医師、看護師がチームとなって進めている遺伝診療は本学独自のものであり、わが国の遺伝医療の一角を担うと共に、本学を代表する診療科として発展させていきたいと考えている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 鈴木由美<sup>1)</sup>、渡辺裕子<sup>1)</sup>、千葉弘子<sup>1)</sup>、渡辺 淳<sup>2)</sup>、島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部、<sup>2)</sup>生化学第2)：日本医科大学付属病院遺伝外来における遺伝カウンセリングの実践と看護職の役割。日本遺伝看護研究会誌 2003；1(1)：28-34。
- 2) 浅野ありさ<sup>1)</sup>、渡邊 淳<sup>2)</sup>、右田 真<sup>1)</sup>、渡辺裕子<sup>4)</sup>、鈴木由美<sup>4)</sup>、千葉弘子<sup>4)</sup>、堺 則康<sup>3)</sup>、島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>小児科、<sup>2)</sup>生化学第2、<sup>3)</sup>皮膚科、<sup>4)</sup>看護部)：遺伝外来の実際：遺伝カウンセリングでクライアントが抱える問題点。小児科 2003；44(7)：1145-1150。
- 3) 千葉弘子、渡辺裕子、鈴木由美、渡邊 淳、島田 隆：FAP患者家族の遺伝子診断に関する意思決定への支援。月刊ナーシング 2004；24(1)：44-46。

##### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 渡邊 淳：遺伝医療チームに参画する看護職：1 遺伝専門医の立場から。第2回日本遺伝看護研究会，2003.9。

##### (2) 一般講演：

- 1) Watanabe A<sup>1)</sup>、Sakai N、Wada T<sup>2)</sup>、Fujimoto M<sup>3)</sup>、Fukushima Y<sup>2)</sup>、Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学生化学第2、<sup>2)</sup>信州大学付属病院遺伝子診療部、<sup>3)</sup>自治医大皮膚科)：COL3A1 mutations in Japanese patients with Ehlers-Danlos syndrome type IV (EDSIV). 53rd annual meeting of the American Society of Human Genetics (Los Angeles), 2003. 11。
- 2) 堺 則康、渡邊 淳<sup>1)</sup>、浅野ありさ<sup>2)</sup>、鈴木由美<sup>3)</sup>、小川俊一<sup>1)</sup>、島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2、<sup>2)</sup>小児科学、



- <sup>3)</sup>看護部): 由来不明の染色体異常症に対する情報提供のあり方について. 第27回日本遺伝カウンセリング学会, 2003. 6.
- 3) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 平井幸彦<sup>1)</sup>, 倉井年幸<sup>1,3)</sup>, 木下裕康<sup>1)</sup>, 北川 亮<sup>1)</sup>, 渡部 昇<sup>4)</sup>, 伊藤高司<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2, <sup>2)</sup>小児科学, <sup>3)</sup>眼科学, <sup>4)</sup>情報科学センター): 情報収集並びにロールプレーを取り入れた臨床遺伝実習の試み. 第27回日本遺伝カウンセリング学会, 2003. 6.
- 4) 鈴木由美<sup>1)</sup>, 渡辺裕子<sup>1)</sup>, 千葉弘子<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 右田 真<sup>2)</sup>, 渡邊 淳<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>看護部, <sup>2)</sup>小児科学, <sup>3)</sup>生化学第2): チーム医療としての遺伝診療における看護職の役割. 第27回日本遺伝カウンセリング学会, 2003. 6.
- 5) 千葉弘子, 渡辺裕子, 鈴木由美, 渡邊 淳, 浅野ありさ, 島田 隆: FAP患者家族の遺伝子診断に対する意志決定への支援. 第2回日本遺伝看護研究会, 2003. 9.
- 6) 鈴木由美, 渡辺裕子, 千葉弘子, 浅野ありさ, 堺 則康, 渡邊 淳, 島田 隆: 由来不明の染色体異常症児の両親に対する遺伝カウンセリングと社会資源活用への支援. 第2回日本遺伝看護研究会, 2003. 9.
- 7) 渡辺裕子, 千葉弘子, 鈴木由美, 渡邊 淳, 浅野ありさ, 島田 隆: 筋緊張性ジストロフィー2例の経験から: 社会的状況が自己決定にもたらす影響についての検討. 第2回日本遺伝看護研究会, 2003. 9.
- 8) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 平井幸彦<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 木下裕康<sup>1)</sup>, 倉井年幸<sup>1,3)</sup>, 北川 亮<sup>1)</sup>, 渡部 昇<sup>4)</sup>, 伊藤高司<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2, <sup>2)</sup>小児科学, <sup>3)</sup>眼科学, <sup>4)</sup>情報科学センター): インターネットを用いた情報収集に対応する医学教育の試み. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 9) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 堺 則康<sup>2)</sup>, 和田敬仁<sup>3)</sup>, 藤本美津夫<sup>4)</sup>, 福嶋義光<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学生化学第2, <sup>2)</sup>同皮膚科学, <sup>3)</sup>信州大学付属病院遺伝子診療部, <sup>4)</sup>自治医大皮膚科): Ehlers-Danlos syndrome typeIV (EDSIV) の遺伝診療. 第48回日本人類遺伝学会, 2003. 10.
- 10) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 平井幸彦<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2, <sup>2)</sup>小児科学): 「色覚特性」に対応する遺伝医学教育の必要性. 第48回日本人類遺伝学会, 2003. 10.

## [ 付属病院集中治療室 ]

### 研究概要

集中治療の対象となる種々の疾患は, 以前より複雑化し, 単一臓器障害というよりは複合臓器障害として我々の前に立ちはだかる. したがって, 治療はより複雑化し, 多くの他部門の専門知識が要求される.

我々が取り組んでいる難治性心不全の治療のテーマは, 液性因子を用いた迅速診断と重症度判定の普及, 新しい液性因子を用いた治療, 遺伝子再生医療を用いた治療, 強力かつ簡便な循環補助法などがあげられる. 本年はすでに第一内科の遺伝子再生グループを中心に冠動脈疾患と末梢動脈疾患における血管再生療法が行われ, 集中治療室にて術後管理が行われた. この治療法についての積極的な適応を第17回冠疾患学会などで述べた. またBNPの迅速診断を導入, 新しい新薬であるバゾプレッシン拮抗薬の臨床治験も始まった. さらに日本医科大学医学会特別講演として, クリーブランド・クリニックの人工臓器部門で活躍されている原崎宏明先生をお招きして, 当施設でも数例経験したアビオメドなどの補助人工心臓の適応とそのノウハウについてのご講演をお願いした.

我が国における肺血栓塞栓症と深部静脈血栓症の予防ガイドライン作りに参加し, ダイジェスト版が完成した. それと同時に院内のPTE予防のためのワーキンググループを立ち上げ, 危機管理委員会のなかで院内予防ガイドライン作成, 予防の啓蒙運動を積極的に行い, それに関連する成績や論文が多く発表された.

厚生労働科学研究として行われた心臓, 脳卒中に急性期における診療向上およびその研修のあり方に関する研究班に参加し, 循環器救急のChain of Survivalの重要性について教育講演などで説いた.

その他, 院内感染対策活動にも積極的に参加し, 耐緑膿菌の出現経路を明らかにしたり, 感染症の迅速診断に努めた. また, エラスターゼ阻害薬の有効性についてシンポジウムに参加, 血小板パーティクルや大動脈解離の指標に有

用でないかと思われる血清中エラスチン分解産物の測定が行われ、その結果が集計されつつあり、クルピドグレルの治験もまもなく開始される。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Takeda S, Matsumura J<sup>1)</sup>, Ikezaki H<sup>1)</sup>, Kim C<sup>1)</sup>, Sato N, Nakanishi K<sup>1)</sup>, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Tanaka K ( <sup>1)</sup>麻酔科学 ): Milrinone improves lung compliance in patients receiving mechanical ventilation for cardiogenic pulmonary edema. *Acta Anaesthesiol Scand* 2003 ; 47 : 714-719 .
- 2) Terajima K, Aneman A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anaesthesiology and Intensive Care, Sahlgrenska University Hospital, Goteborg, Sweden ): Citation classics in anaesthesia and pain journals : a literature review in the era of the internet. *Acta Anaesthesiol Scand* 2003 ; 47 ( 6 ) : 655-663 .
- 3) Kato N<sup>1)</sup>, Nakanishi K<sup>1)</sup>, Takeda S, Wajima Z<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Yoshino S<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>麻酔科学 ): Significance of a tourniquet to prevent thromboembolism during total knee arthroplasty as assessed by transesophageal echocardiography. *Anesthesiology* 2003 ; 99 ( 2 ) : 512-513 .
- 4) Terajima K, Onodera H, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Yamanaka H<sup>2)</sup>, Ohno T<sup>2)</sup>, Konuma S<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Oyama Municipal Hospital, Tochigi, Japan, <sup>2)</sup> Department of Gynecology, Oyama Municipal Hospital, Tochigi, Japan, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Efficacy of intrathecal morphine for analgesia following elective cesarean section : comparison with previous delivery. *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 4 ) : 327-333 .
- 5) Kumita S<sup>1)</sup>, Tanaka K, Cho K<sup>1)</sup>, Sato N, Nakajo H<sup>1)</sup>, Toba M<sup>1)</sup>, Fukushima Y<sup>1)</sup>, Mizumura S<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>内科学第1 ): Assessment of left ventricular function using solid-state gamma camera equipped with a highly-sensitive collimator. *Ann Nucl Med* 2003 ; 17 : 517-520 .
- 6) Maruyama K<sup>1)</sup>, Takeda S, Hongo T<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Kim R<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>麻酔科学 ): Oral clonidine premedication exacerbates hypotension following tourniquet deflation by inhibiting noradrenaline release. *J Nippon Med Sch* 2004 ; 71 : 44-50 .
- 7) Terajima K, Aneman A<sup>1)</sup>, Haljamae H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anaesthesiology and Intensive Care, Sahlgrenska University Hospital, Goteborg, Sweden ): Haemodynamic effects of volume resuscitation by hypertonic saline-dextran ( HSD ) in porcine acute cardiac tamponade. *Acta Anaesthesiol Scand* 2004 ; 48 ( 1 ) : 46-54 .
- 8) 山本 剛, 高木啓倫, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坪 宏一, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学 ): 重症急性肺塞栓症に対する積極的カテーテル治療の効果. *脈管学* 2004 ; 44 ( 1 ) : 1-5 .
- 9) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 秋丸琉甫<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋翼<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 田中啓治, 竹田晋浩 ( <sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>救急医学 ): 劇症肝不全に対する肝移植までの治療戦略 : 生体肝移植症例の検討を中心に. *日本腹部救急医学会雑誌* 2004 ; 24 ( 3 ) : 581-587 .

#### (2) 綜説：

- 1) 佐藤直樹 : 難治性心不全の治療 : 種々の新治療を試みた1症例. *東京内科医会誌* 2003 ; 19 ( 1 ) : 33-36 .
- 2) 佐藤直樹 : ICUにおける心不全治療の進歩 難治性心不全. *ICUとCCU* 2003 ; 27 ( 9 ) : 807-811 .
- 3) 山本 剛, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第1 ): 抗凝固療法・線溶療法 ( 用量, 投与期間など ) ( 特集 : 急性肺血栓塞栓症 : 予防ガイドライン制定の意義 ). *日本臨床* 2003 ; 61 ( 10 ) : 1757-1763 .
- 4) 竹田晋浩 : 非侵襲的心拍出量測定モニター NICO ( Non-invasive cardiac output ) の有効性. *循環器情報処理* 2003 ; 18 : 109-116 .

- 5) 林 明聡, 田中啓治: 新しい静注III群薬塩酸nifekalantの作用機序と臨床効果: 急性期致死性不整脈治療の切り札となりえるか. 集中治療医学会雑誌 2003; 10: 327-330.
- 6) 中込明裕, 高野照夫, 田中啓治: 心筋梗塞の臨床 梗塞後狭心症 早期梗塞後狭心症の病態と治療法の変遷 (急性期経皮的冠動脈形成術導入前後での比較). 日本臨床 2003; 61(5): 645-649.
- 7) 金 徹, 田中啓治: 麻酔科医の循環管理 循環器合併症の術前評価と術前準備. 臨床麻酔 2003; 27(12): 1879-1889.
- 8) 山本 剛, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 急性発症の治療はどう行うか (特集: 急性肺塞栓症診療の最前線). 臨床医 2004; 30(3): 340-343.
- 9) 安武正弘<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 高木啓倫, 田中啓治, 落 雅美<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>放射線医学): 重症冠動脈疾患に対する自家骨髄単核細胞移植治療. 日本内科学会雑誌 2004; 93(臨時増刊号): 213-216.
- 10) 中沢 賢<sup>1)</sup>, 田島広之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>内科学第1): 急性肺血栓塞栓症に対するIVR: 特に治療効果と血行動態の変化について. 日本医学放射線学会雑誌 2004; 64(2): S113-S114.
- 11) 田島広之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛, 田中啓治, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>内科学第1): カテーテル血管内治療の効用と限界. ICUとCCU 2004; 28(3): 181-184.
- 12) 田中啓治, 小野卓哉, 森田典成: 必須手技を始めるとき, 止めるとき PCPS. 救急・集中治療 2004; 16(2): 187-191.
- 13) 田中啓治, 山本 剛, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): ハート・アタック a state of the art ハート・アタックへの対応: 都会型と地方型 東京都CCUネットワーク. 集中治療 2004; 16(1): 42-46.

## 著 書

- 1) 小野寺英貴, 田中啓治: [分担] VI 冠動脈疾患患者の非心臓手術の周術期管理: 9 周術期心筋虚血あるいは梗塞が疑われる場合. 麻酔科診療プラクティス10 麻酔科医に必要な冠動脈疾患の知識 (稲田英一), 2003; pp180-183, 文光堂.
- 2) 竹田晋浩: [共著] 集中治療CCU. 経静脈治療オーダーマニュアル (和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦), 2003; pp417-420, 第2版 メディカルレビュー.
- 3) 竹田晋浩: [編集] 最近の人工呼吸法のながれ. 最近の人工呼吸法のながれ (坂本篤裕), 2003; pp1-238, 真興交易.
- 4) 竹田晋浩: [分担] 最近の人工呼吸管理法の理論と実際 非侵襲的人工呼吸. 最近の人工呼吸法のながれ (竹田晋浩, 坂本篤裕), 2003; pp52-72, 真興交易.
- 5) 竹田晋浩: [分担] 最近の人工呼吸管理法の理論と実際 高頻度換気. 最近の人工呼吸法のながれ (竹田晋浩, 坂本篤裕), 2003; pp73-87, 真興交易.
- 6) 竹田晋浩: [分担] 最近の呼吸管理の動向 心疾患患者に対する人口呼吸. 最近の人口呼吸法の流れ (竹田晋浩, 坂本篤裕), 2003; pp141-155, 真興交易.
- 7) 竹田晋浩, 金 徹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): [分担] 最近の呼吸管理の動向 ALI/ARDS患者に対する人工呼吸. 最近の人工呼吸法のながれ (竹田晋浩, 坂本篤裕), 2003; pp130-140, 真興交易.
- 8) 田中啓治: [分担] 静脈注射・穿刺時の針の切り口の向き. 生物学的製剤『質疑応答』(武田製薬工業株式会社), 2003; pp39.
- 9) 田中啓治: [分担] I 虚血性心疾患 A 急性心筋梗塞 2 急性期のリスク層別化. EBM 循環器疾患の治療 (三田村秀雄, 山科 章, 川名正敏, 桑島 巖), 2003; pp11-20, 中外医学社.
- 10) 田中啓治: [分担] II 心不全 C 急性心不全 5 補助循環はどのタイミングで開始するのか: 内科の立場

から．EBM 循環器疾患の治療（三田村秀雄，山科 章，川名正敏，桑島 巖），2003；pp428-435，中外医学社．  
11) 池田正孝<sup>1)</sup>，木下勝之<sup>2)</sup>，木下順弘<sup>3)</sup>，国枝武義<sup>4)</sup>，小林隆夫<sup>5)</sup>，栗山喬之<sup>6)</sup>，佐久間聖仁<sup>7)</sup>，左近賢人<sup>8)</sup>，佐藤徹<sup>9)</sup>，鳥居 徹<sup>10)</sup>，白土邦夫<sup>11)</sup>，杉村 基<sup>12)</sup>，瀬尾憲正<sup>13)</sup>，田中啓治，田邊信宏<sup>14)</sup>，中西宣文<sup>15)</sup>，中野 起<sup>16)</sup>，丹羽明博<sup>17)</sup>，宮原嘉之<sup>18)</sup>，宮 史卓<sup>19)</sup>，山田典一<sup>16)</sup>（<sup>1)</sup>大阪大学病態制御外科学，<sup>2)</sup>順天堂大学産婦人科，<sup>3)</sup>熊本大学侵襲制御医学，<sup>4)</sup>隅田秋光園内科，<sup>5)</sup>信州大学医学部保健学科，<sup>6)</sup>千葉大学呼吸病態制御学，<sup>7)</sup>東北大学循環器病態学，<sup>8)</sup>大阪大学病態制御外科学，<sup>9)</sup>慶応大学呼吸循環器内科学，<sup>10)</sup>筑波大学腎泌尿器外科学，<sup>11)</sup>東北大学循環器病態学，<sup>12)</sup>浜松医大産婦人科学，<sup>13)</sup>自治医科大学麻酔科・集中治療医学，<sup>14)</sup>千葉大学呼吸器病態制御学，<sup>15)</sup>国立循環器病センター内科心臓部門，<sup>16)</sup>三重大学第一内科，<sup>17)</sup>武蔵野日赤病院循環器科，<sup>18)</sup>長崎大学第二内科，<sup>19)</sup>三重大学脳神経外科学）：〔分担〕肺血栓栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓栓症）予防ガイドライン～ダイジェスト版．（予防ガイドライン作成委員会編），2004；pp3-19，メディカル フロント インターナショナルリミテッド．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

1) 田中啓治：循環器救急におけるChain of Survival．第22回日本蘇生学会，2003．11．

### (2) 招待講演：

1) 田中啓治：循環器救急におけるChain of Survival．白河循環器懇話会，2003．12．

2) 竹田晋浩：NPPVのメリット・適応や限界に関して．東京臨床工学士会，2004．3．

### (3) 教育講演：

1) 田中啓治：急性心筋梗塞を見逃さないために（厚生労働科学研究：心臓，脳卒中の急性期における診療向上およびその研修のあり方に関する研究班報告）．第31回日本集中治療医学会総会，2004．3．

2) 竹田晋浩：オピオイドによる呼吸中枢抑制の働き．日本麻酔科学会第50回学術集会，2003．5．

### (4) シンポジウム：

1) 藤井正大：心臓術後管理と白血球エラスターゼ．第2回東京エラスターゼフォーラム，2004．2．

2) 田中啓治：日本医大CCUの30年の変遷と，これから目指すべき未来像．第31回日本集中治療医学会総会，2004．3．

3) 田中啓治，佐藤直樹，山本 剛，坏 宏一，新田 隆<sup>1)</sup>，落 雅美<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>外科学第2）：難治性虚血性心不全の最新の治療～虚血性心不全の病型分類と病態に基づいた最新の治療．第17回日本冠疾患学会，2004．12．

4) 山本 剛，坏 宏一，藤田進彦，佐藤直樹，田中啓治，高山守正<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，葉山修葉<sup>2)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>内科学第2）：透析症例に対するPCIの問題点とその対策：凝固系異常について．第9回日本血管内治療学会総会，2003．4．

5) 竹田晋浩：術後肺合併症対策とEBM：麻酔法と関連して（麻酔科診療とEBM）．日本麻酔科学会第50回学術集会，2003．5．

6) 竹田晋浩：非侵襲的人工呼吸の適応と有用性，急性～慢性，在宅まで（急性肺水腫に対するNPPVの適応と限界）．第25回日本呼吸法医学会，2003．8．

7) 竹田晋浩，金 徹，池崎弘之<sup>1)</sup>，中西一浩<sup>1)</sup>，坂本篤裕<sup>1)</sup>，小川 龍<sup>1)</sup>，田中啓治（<sup>1)</sup>麻酔科学）：パルスオキシメトリー法の展開，forehead sensorの特徴と限界．第12回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2003．8．

8) 佐藤直樹，高木啓倫，山本 剛，藤田進彦，坏 宏一，森田典成，小野卓哉，高野照夫<sup>1)</sup>，田中啓治（<sup>1)</sup>内科学第1）：急性心不全におけるサイトカイン測定意義：重傷度および治療効果判定の指標として（重症心不全の治療法は進歩したか？）．第31回集中治療医学会学術集会，2004．3．

### (5) パネルディスカッション：

1) 竹田晋浩：ARDSへのNPPV Pro & Con．第3回急性期NPPV研究会，2003．12．

- 2) 林 明聡<sup>1)</sup>, 田中啓治, 加藤貴雄<sup>2)</sup>, 森田典成, 小野卓也, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 安武正弘<sup>2)</sup>, 小林義典<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻酔科学, <sup>2)</sup> 内科学第1 ): 血行動態の破綻をきたし電気的除細動不応の心房細動に対する塩酸ニフェカラントを用いた新戦略 「ICU・CCUにおける不整脈の新治療戦略」. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004. 3.
- 3) 坏 宏一, 汲田紳一郎<sup>2)</sup>, 佐藤直樹, 高木啓倫, 藤田進彦, 山本卓哉, 隅崎達夫<sup>2)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1, <sup>2)</sup> 放射線医学 ): 微小循環評価における<sup>99m</sup>Tc - MAA 心筋GATED - SPECTの有用性の検討 (再灌流障害). 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004. 3.
- (6) セミナー :
- 1) 竹田晋浩 : NPPV in ICU 新しい呼吸管理としてのNPPV. NPO呼吸療法講座, 2003. 6.
- 2) 田中啓治 : 内科医からみたIABPの適応とその応用. 第4回IABPに関するセミナー, 2003. 6.
- 3) 竹田晋浩 : NPPV療法・原理と実際. NPO呼吸療法講座, 2003. 11.
- 4) 竹田晋浩 : NPPVのメリット・適応と限界. 多摩臨床工学会 NPPVセミナー, 2003. 11.
- (7) ワークショップ :
- 1) 竹田晋浩 : 周術期の環境管理 : ACC/AHAガイドラインとその実際. 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003. 5.
- (8) 一般講演 :
- 1) Takagi H, Yasutake M, Morita N, Hayashi M, Akutsu K, Yamamoto T, Ono T, Satoh N, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ): Plasma Urotensin II in Patient with Acute Heart Failure. The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2004.
- 2) Morita N, Takagi H, Fujii M, Akutsu K, Fujita N, Yamamoto T, Ono T, Satoh N, Tanaka K, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Nitta T<sup>2)</sup>, Ochi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1, <sup>2)</sup> 外科学第2 ): Efficacy of biventricular pacing using epicardial lead system in patients with chronic heart failure. The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2004.
- 3) Kamiya M, Satoh N, Tokuyama K, Asai K<sup>1)</sup>, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ): Is the combination therapy with colforsin daropate and landiolol useful in acute myocardial damage?. The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2004.
- 4) 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 田中啓治 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ): 急性膵炎に対する動注療法 : 動注単独と動注 + CHDF + SDDの比較. 第89回日本消化器外科学会総会, 2003. 4.
- 5) 田中啓治, 山本 剛, 坏 宏一, 高木啓倫, 小野卓哉, 林 明聡, 藤田進彦, 佐藤直樹 : 急性心筋梗塞を発症したタクシー運転手の危険因子について. 第100回日本内科学会総会, 2003. 4.
- 6) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 安部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 小野沢志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本剛, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線医学, <sup>2)</sup> 内科学第1 ): 急性肺血栓塞栓症に対するendovascular intervention : 特に血栓溶解・破砕・吸引療法について. 第23回日本静脈学会, 2003. 4.
- 7) 小野卓哉, 斉藤寛和<sup>1)</sup>, 林 明聡, 大村和子<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 田中啓治, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ): 植え込み型除細動器植え込み群におけるT-wave morphology analysisの特徴. 第20回日本心電学会学術集会, 2003. 9.
- 8) 藤井正大<sup>1)</sup>, チャンバース・ディヴィッド<sup>2)</sup>, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 田中啓治 ( <sup>1)</sup> 外科学第2, <sup>2)</sup> セント・トーマス病院 ): Does intermittent cross-clamp fibrillation involve a preconditioning mechanism. 第34回日本心臓血管外科学会学術総会, 2004. 2.
- 9) Terajima K, Seeman-Lodding H, Rydenhag B, Nellgard B, Aneman A : BAROREFLEX SENSITIVITY CHANGES AND ADVERSE EVENTS AFTER SPONTANEOUS SUBARACHNOID ANEURYSMAL

BLEEDING . 16th European Society of Intensive Care Medicine ( Amsterdam, Netherlands ), 2003 . 10 .

- 10) Yamamoto T, Takagi H, Morita N, Akutsu K, Fujita N, Ono T, Sato N, Tanaka K, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): Aggressive Catheter Treatment Interrupts Development of Persistent Pulmonary Hypertension even in “ Subacute ” Massive Pulmonary Embolism Patients ( Poster ). The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2004 . 3 .
- 11) 山本 剛, 高木啓倫, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坏 宏一, 藤田進彦, 小野卓哉, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): トロポニンを用いた心筋梗塞再定義の問題点 . 第100回日本内科学会総会・講演会, 2003 . 4 .
- 12) 竹田晋浩, 中西一浩<sup>1)</sup>, 松村純也<sup>1)</sup>, 高柳和江<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>医療管理学): 麻酔におけるクルニカルパス ( 麻酔の質の向上と global standard ). 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 13) 杖下隆哉<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 北村 晶<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): Neuropeptide ( PACAP ) の vasomotortone に及ぼす影響について . 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003 . 5 .
- 14) 竹田晋浩: Opioid-induced respiratory depression and cannabinoid . 第1回呼吸中枢研究会, 2003 . 5 .
- 15) 藤田進彦, 森田典成, 高木啓倫, 坏 宏一, 山本 剛, 小野卓哉, 佐藤直樹, 田中啓治, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>遺伝診療科): 発症から14年後に診断に至った心筋症を合併した MELAS の1例 . 第188回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003 . 6 .
- 16) 小川晃生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 山下照代<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 佐藤直樹, 田中啓治 (<sup>1)</sup>内科学第1): 各種心筋マーカーによる非ST上昇型急性冠症候群における微小心筋傷害の分析: 特に N terminal pro-BNP について . 第23回心筋梗塞研究会, 2003 . 7 .
- 17) 坏 宏一, 高木啓倫, 藤田進彦, 山本 剛, 佐藤直樹, 汲田紳一郎<sup>1)</sup>, 隅崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 微小循環評価における <sup>99m</sup>Tc-MAA 心筋 SPECT の有用性の検討 . 第23回心筋梗塞研究会, 2003 . 7 .
- 18) 坂根 学<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 金 徹<sup>2)</sup>, 高木啓倫, 小野卓也, 田中啓治 (<sup>1)</sup>リウマチ科, <sup>2)</sup>麻酔科学): ARDS に対するステロイド少量持続投与が有効であった1症例 . 第25回日本呼吸療法医学会, 2003 . 8 .
- 19) 幸田修典<sup>1)</sup>, 福田令雄<sup>2)</sup>, 軸菌智雄<sup>3)</sup>, 杖下隆哉<sup>1)</sup>, 高木啓倫, 仁科 大<sup>3)</sup>, 大森裕也<sup>3)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 藤井正大, 坏 宏一, 藤田進彦, 小野寺英貴, 山本 剛, 小野卓哉, 金 徹<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 新田 隆<sup>1)</sup>, 田中啓治 (<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>高度救命救急センター, <sup>3)</sup>外科学第2): 劇症型心筋症を合併したと考えられる大動脈人工弁機能不全の1症例 . 第12回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2003 . 8 .
- 20) 竹田晋浩, 金 徹, 小野寺英貴, 田中啓治, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>麻酔科学): 急性肺水腫に対する NPPV の適応と限界 . 第25回日本呼吸療法医学会 第13回日本呼吸管理学会 合同学術集会, 2003 . 8 .
- 21) 坂根 学, 竹田晋浩, 金 徹, 高木啓倫, 小野卓哉, 田中啓治: ARDS に対するステロイド少量持続投与が有効であった1症例 . 第25回日本呼吸療法医学会 第13回日本呼吸管理学会 合同学術集会, 2003 . 8 .
- 22) 幸田修典, 福田令雄, 軸菌智雄, 杖下隆哉, 高木啓倫, 仁科 大, 大森裕也<sup>1)</sup>, 林 明聡, 藤井正大, 坏 宏一, 藤田進彦, 小野寺英貴, 山本 剛, 小野卓哉, 金 徹, 池崎弘之<sup>2)</sup>, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 新田 隆<sup>1)</sup>, 田中啓治 (<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>麻酔科学): 劇症型心筋症を合併したと考えられる大動脈人工弁機能不全の1症例 . 第12回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2003 . 8 .
- 23) 大田 亮<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 藤谷 仁<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): 腹部大動脈置換術における虚血再灌流後の心機能 . 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第43回合同学術集会, 2003 . 9 .
- 24) 金 博子<sup>1)</sup>, 佐藤千代<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 幸田修典<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 田中啓治 (<sup>1)</sup>麻酔科学): 人工膝関節置換術後にうっ血性心不全をきたし速やかに軽快した1症例 . 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第43回合同学術集会, 2003 . 9 .
- 25) 守 真輝, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 幸田修典<sup>1)</sup>, 小野寺英貴, 金 徹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 田中啓治 (<sup>1)</sup>麻酔科学): 当院での外科手術集中治療管理症例の検討 . 日本麻酔科学会東京関東甲信越支

部第43回合同学会集會, 2003. 9.

- 26) 安武正弘<sup>1)</sup>, 宮元正章<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 高木啓倫, 田中啓治, 落 雅美<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>外科学第2): 冠動脈バイパス術と骨髄単核細胞移植による血管新生治療により著明な心機能改善をみた虚血性心筋症の1例. 第189回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 9.
- 27) 軸園智雄, 仁科 大, 山本 剛, 坏 宏一, 林 明聡, 藤田進彦, 森田典成, 小野卓哉, 高木啓倫, 小野寺英貴, 金 徹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 落 雅美<sup>1)</sup>, 菅野重人<sup>1)</sup>, 花田有里子<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 心原性ショックをきたし経皮の心肺補助法にて救命し得た嵌頓性左房粘液腫の1症例. 第189回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 9.
- 28) 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 中沢 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): 急性肺塞栓症において“subacute”および“acute on chronic”と呼ばれる病態は存在するか?. 第10回肺塞栓症研究会・学術集會, 2003. 11.
- 29) 山本 剛, 高木啓倫, 坏 宏一, 藤田進彦, 佐藤直樹, 中込明裕<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 高齢者非ST上昇型急性冠症候群に対する早期侵襲的治療は有効か?. 第17回日本冠疾患学会学術集會, 2003. 12.
- 30) 山下直子<sup>1)</sup>, 山本 剛, 牧野 晃<sup>1)</sup>, 森田典成, 高木啓倫, 坏 宏一, 藤井正大, 藤田進彦, 小野卓哉, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 田中邦夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>外科学第2): 頻脈性心房細胞を契機に早期に診断された外傷性三尖弁閉鎖不全症の1例. 第191回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2004. 2.
- 31) 坏 宏一, 佐藤直樹, 山本 剛, 森田典成, 高木啓倫, 藤井正大, 藤田進彦, 小野卓哉, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 急性大動脈解離におけるD-dimer迅速測定量キット(Cardiac D-dimer)の意義. 第31回日本集中治療医学会学術集會, 2004. 3.
- 32) 山本 剛, 高木啓倫, 森田典成, 坏 宏一, 藤田進彦, 小野卓哉, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>放射線医学): 高度の肺高血圧を伴った急性塞栓症例の検討. 第31回日本集中治療医学会学術集會, 2004. 3.
- 33) 小野卓哉, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 森田典成, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 小林義典<sup>1)</sup>, マリックマレック<sup>2)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>ロンドン大学): QT dispersionは心疾患のRisk stratificationに有用か?: T-wave morphology analysisと比較して. 第31回日本集中治療医学会学術集會, 2004. 3.
- 34) 森田典成, 藤田進彦, 田中啓治, 山本 剛, 小野卓哉, 金 徹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 小林義典, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 繰り返しアダムスストークス発作を生じる特発性心室細動に対してアブレーションを行い救命した1例. 第31回日本集中治療医学会学術集會, 2004. 3.
- 35) 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 後藤吉次<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): 炎症性サイトカインによる心機能抑制におけるガス状メディエータの相互作用. 第31回日本集中治療医学会学術集會, 2004. 3.
- 36) 勝野 暁<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 幸田修典<sup>2)</sup>, 坏 宏一, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>麻酔科学): 腹臥位により著明に改善した呼吸障害の1例. 第31回日本集中治療医学会学術集會, 2004. 3.
- 37) 金 徹, 幸田修典, 杖下隆哉, 藤井正大, 青砥泰二<sup>2)</sup>, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 野呂瀬嘉彦<sup>3)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>中央検査部, <sup>3)</sup>微生物学・免疫学): 当院集中治療室における抗生剤使用基準設定の効果: 特に簡易抗生剤感受性判定キットの有用性について. 第31回日本集中治療医学会学術集會, 2004. 3.
- 38) 山本 剛, 高木啓倫, 森田典成, 坏 宏一, 藤田進彦, 小野卓哉, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 高度の肺高血圧を伴った急性肺塞栓症例の検討. 第31回日本集中治療医学会学術集會, 2004. 3.
- 39) 小野寺英貴, 幸田修典, 金 博子, 金 徹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup>, 田

中啓治 ( <sup>1</sup> ) 外科学第 1 , ( <sup>2</sup> ) 麻醉科学 ): 術後顆粒球減少症をきたした食道癌の 1 症例 . 第 31 回日本集中治療医学会学術集会 , 2004 . 3 .

40) 田中啓治 , 上嶋健治 , 川名正敏 , 公文啓二 , 茅野眞男 , 長尾 建 , 林田憲明 , 平澤邦彦 , 本田 喬 , 宮崎俊一 : わが国における急性心筋梗塞の地域別発症状況 : 全国アンケート調査の集計結果 . 第 31 回日本集中治療医学会学術集会 , 2004 . 3 .

( 9 ) 依頼演題 :

1) 竹田晋浩 : 急性肺水腫に対する NPPV の限界 . 第 10 回非侵襲的換気療法研究会 , 2003 . 6 .

## [ 付属病院病理部 ]

### 研究概要

今年度も病理学第二講座の研究業績の一部が加わっており , 通常の病理部の研究業績と異質な面も若干あるが , 今年度から土屋眞一教授が診療教授として病理部に加わったことで , 乳腺関連の研究に新たな展望が開けつつある .

講座の枠内で自己完結的に研究を展開・完結出来る講座 ( 臨床・基礎を問わず ) とは異なった立場の中央診療部門としては , 他部門との共同研究を活用しての研究の展開 , 患者から与える貴重な資料 ( 症例 ) から発信出来るものを見出し普遍的なデータとして再構成するといったアプローチを模索している .

多くはないが今年度も臨床各科ならびに中央電子顕微鏡施設 病理学教室との共同研究でそれなりの成果を出した . 領域的には , 基礎配属を選択した学生の心・血管系に関しての継続した研究が田村助教授の指導の下に着実に進行しており , 論文の形で成果が纏められた . 学会発表でも , 国内外の学会特に American college cardiology では注目領域として取り上げられるなど活躍が目立った . 来期には論文として纏められる予定であり , 今後もこの流れが継続することが期待される . 技師を中心とする細胞診の分野でも学会発表・論文と着実に成果を出した . リンパ腫に関しても病理主導の成果が生まれ少しずつ軌道に乗り始めた . 腎臓関連では , 症例報告以外の研究成果が学会発表に限られ , 若干 activity が低かったように見えるが , 来期に向けての活動が進んでいる .

### 研究業績

#### 論 文

( 1 ) 原著 :

- 1) Yoshida D<sup>1</sup> , Noha M<sup>1</sup> , Watanabe K<sup>1</sup> , Sugisaki Y , Teramoto A<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> ) Department of Neurosurgery ): SI-27, A Novel Inhibitor of Matrix Metalloproteinases with Antiangiogenic Activity : Detection with a Variable-pressure Scanning Electron Microscope . Neurosurgery 2002 ; 50 ( 3 ) : 578-587 .
- 2) Satoh E<sup>1</sup> , Kawamoto M<sup>2</sup> , Nakayama T<sup>2</sup> , Kunugi S<sup>2</sup> , Yoshimura A<sup>3</sup> , Haraguchi S<sup>4</sup> , Okada D<sup>4</sup> , Tanaka S<sup>4</sup> , Sugisaki Y , Fukuda Y<sup>2</sup> , Koizumi K<sup>4</sup> ( <sup>1</sup> ) Medical Student, NMS , <sup>2</sup> ) Department of Pathology, NMS , <sup>3</sup> ) Department of Internal Medicine ( IV ) , NMS , <sup>4</sup> ) Department of Surgery ( II ) , NMS ): Prognostic Suggestion in the Evaluation of Solid Component in Poorly Differentiated Adenocarcinoma of the Lung . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ) : 27-33 .
- 3) Liu A<sup>1</sup> , Sugisaki Y , <sup>1</sup> ) , Hosone M<sup>2</sup> , Namimatsu S ( <sup>1</sup> ) Central Institute for Electron Microscopic Researches, NMS , <sup>2</sup> ) Division of Surgical Pathology, NMS Tama-Nagayama Hospital ): CD30+ TIA-1+ ALK+ Anaplastic Large Cell Lymphoma : Studies of Three Cases by Flow Cytometry Analysis, Immunohistochemistry and Electron Microscopy . ACTA HISTOCHEMICA ET CYTOCHEMICA 2003 ; 37 ( 1 ) : 21-30 .
- 4) Tamura K<sup>1</sup> , Sugisaki Y<sup>1</sup> , Ogawa S<sup>2</sup> , Yamauchi H<sup>3</sup> , Okada R<sup>4</sup> ( <sup>1</sup> ) Division of Surgical Pathology, NMS Hospital , <sup>2</sup> ) Department of Pediatrics , <sup>3</sup> ) Second Department of Surgery, NMS , <sup>4</sup> ) Gunma Puz Junior College of Nursery ): Tumorous deformity of mitral valve leaflet after chordal rupture in a child . Pathology In-



- ternational 2003 ; 53 ( 1 ) : 51-57 .
- 5) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Amano Y<sup>3)</sup>, Mori O<sup>2)</sup>, Matsushita N<sup>1)</sup>, Doi D<sup>1)</sup>, Okada S<sup>3)</sup>, Sugisaki Y, Kawamura T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School ): Pre-treatment Mitotic Index Versus Computer-quantitated Ki-67 Nuclear Antigen Labeling Index as Predictors of Response to Neoadjuvant Chemotherapy in Uterine Cervical Carcinoma . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 3 ) : 219-226 .
  - 6) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Sawaizumi M<sup>1)</sup>, Matsubara M, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery , <sup>2)</sup> Second Department of Pathology ): Fine needle aspiration cytology for soft tissue tumours of the hand . The Journal of Hand surgery 2003 ; 28B ( 6 ) : 582-585 .
  - 7) Sato S<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Kitamura H<sup>1)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Dai W<sup>1)</sup>, Wakamatsu K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches, NMS ): Identification of an electron densification of the glomerular membrane in renal biopsy specimen . Med Electron Micro 2003 ; 2 ( 36 ) : 106-111 .
  - 8) Naito Z<sup>1)</sup>, Takashi E<sup>1)</sup>, Xu G<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Teduka K<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Asano G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): Different influences of hyperglycemic duration on phosphorylated extracellular signal-regulated kinase 1/2 in rat heart . Exp Mol Pathol 2003 ; 74 ( 1 ) : 23-32 .
  - 9) Asano G<sup>1)</sup>, Takashi E<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Ashraf M, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup> Department of Pathology II ): Pathogenesis and protection of ischemia and reperfusion injury in myocardium . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 5 ) : 384-392 .
  - 10) Tanaka-Nozaki M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Yoshimura K<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Naitoh Z<sup>2)</sup>, Sugisaki Y, Merk H F<sup>3)</sup>, Kato Shunji, ( <sup>1)</sup> <sup>1)</sup> Departments of Surgery I , <sup>2)</sup> Departments of Pathology II, NMS , <sup>3)</sup> Department of Dermatology, University Hospital RWTH Anchen ): Intratumoral induction of thymidylate synthase mRNA by 5-FU in colorectal cancer patients : association with survival . ONCOLOGY REPORTS 2003 ; 10 : 1425-1429 .
  - 11) Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Morrison R<sup>2)</sup>, Gonatas N K<sup>3)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery , <sup>2)</sup> Department of Neurological Surgery, University of Washington , <sup>3)</sup> Department of Pathology and Laboratory Medicine, University of Pennsylvania School of Medicine ): Identification of MG-160, a FGF binding medial Golgi sialoglycoprotein, in brain tumors : An index of malignancy in astrocytomas . INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY 2003 ; 22 : 1045-1049 .
  - 12) Kurban G<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, NAITO Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology II, NMS ): Expression of keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR2 IIIb ) in human uterine cervical cancer . ONCOLOGY REPORTS 2004 ; 11 : 987-991 .
  - 13) Kanazawa R<sup>1)</sup>, Yoshida D<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Suzuki S<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery , <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, NMS ): Drug-induced apoptosis by a matrix metalloproteinase inhibitor, SI-27 on human malignant glioma cell lines ; in vitro study . Journal of Neuro-Oncology 2004 ; 66 : 91-99 .
  - 14) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 山崎峰雄<sup>3)</sup>, 高木 亮<sup>4)</sup>, 青山純夫<sup>5)</sup>, 橋詰良夫<sup>6)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 杉崎祐一, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup> 同病理, <sup>3)</sup> 同内科学第2, <sup>4)</sup> 同放射線医学科, <sup>5)</sup> 博慈会記念総合病院内科, <sup>6)</sup> 愛知医科大学加齢医科学研究所老化形態部門 ): 亜急性に進行する対麻痺で発症し, 約1ヶ月の経過で呼吸麻痺にて死亡した1例 . BRAIN and NERVE 2002 ; 54 ( 6 ) : 543-549 .
  - 15) 坂本 徹<sup>1)</sup>, 田村浩一, 青木亜佐子<sup>1)</sup>, 寺田てる美<sup>1)</sup>, 山川裕之<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学学生 ): Coro-

nary Intervention (PTCA/Stent) 後の剖検例に対する臨床病理学的検討 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 (2): 172-179 .

- 16) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>2)</sup>, 松原美幸, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 竹内俊次<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>日本医科大学病理部, <sup>2)</sup>同整形外科, <sup>3)</sup>同多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>同整形外科 ): 軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の有用性, 日本医大7年間の経験 . Proceeding of the 36th Annual Musculoskeletal Tumour Meeting of the Japanese Orthopaedic Association 2003 ; 77 (6): S751-S751 .
- 17) 北村博司<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 清水朋一<sup>2)</sup>, 高橋公太<sup>3)</sup>, 東間 紘<sup>4)</sup>, 山口 裕<sup>5)</sup>, 酒井 謙<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1, <sup>2)</sup>いわき泌尿器科, <sup>3)</sup>新潟大学医学部泌尿器科, <sup>4)</sup>東京女子医科大学腎臓病総合医療センター泌尿器科, <sup>5)</sup>東京慈恵会医科大学柏病院病理部, <sup>6)</sup>東邦大学医学部腎臓科 ): 生体腎移植後に壊死性糸球体腎炎を呈した Alport 症候群の1例 . 腎と透析 2003 ; 55 (3): 185-195 .
- 18) 北村博司<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 松尾七重<sup>2)</sup>, 川口良人<sup>2)</sup>, 川村哲也<sup>3)</sup>, 御手洗哲也<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学病理学第1, <sup>2)</sup>神奈川県衛生看護専門学校付属病院内科, <sup>3)</sup>東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科, <sup>4)</sup>埼玉医科大学総合医療センター第4内科 ): メサンギウム・管内増殖と巣状糸球体硬化病変を認めたネフローゼ症候群の1例 . 腎と透析 2003 ; 55 (3): 409-415 .
- 19) 松橋智彦<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 馬場直美<sup>1)</sup>, 西 弥生<sup>1)</sup>, 里美操緒<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 中山智子<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>病理学第1 ): 高テストステロン血症を示した卵巣硬化性間質性腫瘍の1例 . 日本産婦人科学会東京地方部会誌 2003 ; 52 (4): 485-488 .
- 20) 富樫真由子<sup>1)</sup>, 田村浩一, 萬里小路直樹<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>2)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>昭和女子大学大学院, <sup>2)</sup>日本医科大学病理学第1 ): 心臓弁膜と大動脈・冠動脈硬化性病変の関連性と相違点: 剖検例による病理学的比較検討 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 (6): 496-508 .
- 21) 松原美幸, 川本雅司<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>日本医科大学病理学 ): 間質性肺炎に出現する異型腺系細胞 . J. Jpn. Soc. Clin. Cytol. 2003 ; 42 (4): 271-274 .
- 22) 大森寛子<sup>1)</sup>, 田村浩一, 小野真平<sup>1)</sup>, 揖斐孝之<sup>1)</sup>, 橋本 聡<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>日本医科大学 学生 ): 心筋梗塞巣内の凝固壊死心筋の残存について . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 (6): 509-514 .
- 23) 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂根 学<sup>2)</sup>, 飯野靖彦<sup>3)</sup>, 田村浩一, 壇 和夫<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>, 青木 宏<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>4)</sup>, 杉崎祐一, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>5)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 金子礼志<sup>2)</sup>, 清水 章<sup>5)</sup>, 精野精彦<sup>6)</sup>, 高野照夫<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院第3内科, <sup>2)</sup>同リウマチ科, <sup>3)</sup>同第2内科, <sup>4)</sup>病理学第2, <sup>5)</sup>病理学第1, <sup>6)</sup>付属病院第1内科 ): 関節リウマチの長期経過中に合併した全身性エリテマトーデスの1例 . 内科 2004 ; 92 (5): 951-959 .
- 24) 実原正明<sup>1)</sup>, 伊藤信夫<sup>2)</sup>, 北村隆司<sup>3)</sup>, 千賀 脩<sup>4)</sup>, 光谷俊幸<sup>3)</sup>, 土屋眞一 ( <sup>1)</sup>飯田市立病院臨床検査科病理, <sup>2)</sup>同臨床病理科, <sup>3)</sup>昭和大学藤が丘病院病院病理科, <sup>4)</sup>飯田市立病院外科 ): 乳腺 Invasive micropapillary carcinoma の細胞学的特徴 . J. Jpn. Soc. Cytol. 2004 ; 43 (2): 104-110 2004 ; 43 (2): 104-110 .

## (2) 研究報告書 :

- 1) 田村浩一, 堤 寛, 井内康輝 ( <sup>1)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一, <sup>2)</sup>島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学講座病理学 ): 新臨床研修医制度におけるCPC症例呈示とレポート作成の必修化にあたって: 病理側の対策: 連載にあたって . 病理と臨床 2003 ; 21 (11): 1283-1283 .
- 2) 津久井拓, 坂根 学, 飯野靖彦, 田村浩一, 壇 和夫, 内藤善哉, 青木 恵, 恩田宗彦, 杉崎祐一, 中津雄久, 福田 悠, 片山泰朗, 金子礼志, 清水 章, 清野精彦, 高野照夫: 関節リウマチの長期経過中に合併した全身性エリテマトーデスの1例 . 内科 2003 ; 92 (5): 951 .
- 3) 田村浩一, 堤 寛<sup>1)</sup>, 井内康輝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一病理, <sup>2)</sup>広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学講座病理学 ): 新医師臨床研修制度におけるCPC症例呈示とレポート作成の必修化にあたって: 病理側の対策: 1. 従来のCPCとの違い . 病理と臨床 2003 ; 21 (11): 1284-1290 .
- 4) 田村浩一, 堤 寛<sup>2)</sup>, 井内康輝<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一, <sup>2)</sup>広島大学大学院医歯薬学総合研究科

病態情報医科学講座病理学): 新医師臨床研修制度におけるCPC症例呈示とレポート作成の必修化にあたって: 病理側の対策 2. CPC研修のために必要な準備. 病理と臨床 2003; 21(12): 1383-1390.

- 5) 田村浩一, 松原美幸, 川本雅司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1): スライドカンファレンス 3. 呼吸器. 日本臨床細胞学会東京都支部会報 2003; 21: pp18-19.
- 6) 田村浩一, 堤 寛<sup>1)</sup>, 井内康輝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一, <sup>2)</sup>島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学講座病理学): 新医師臨床研修制度におけるCPC症例呈示とレポート作成の必修化にあたって: 病理側の対策 3. 病理側の対策. 病理と臨床 2004; 22(1): 63-70.
- 7) 田村浩一, 堤 寛<sup>1)</sup>, 井内康輝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一, <sup>2)</sup>島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学講座病理学): 新医師臨床研修制度におけるCPC症例呈示とレポート作成の必修化にあたって: 病理側の対策 4. CPCレポートへの関わり方. 病理と臨床 2004; 22(2): 181-187.
- 8) 田村浩一, 堤 寛<sup>1)</sup>, 井内康輝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一, <sup>2)</sup>島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学講座病理学): 新医師臨床研修制度におけるCPC症例呈示とレポート作成の必修化にあたって: 病理側の対策: 5. 今後の課題. 病理と臨床 2004; 22(3): 291-298.
- 9) 坂本静樹, 三富規行, 田村浩一, 内藤善哉, 勝田梯実, 津久井拓, 福田 悠, 横山宗伯, 森 修, 長田祐二, 勝又俊弥, 杉崎祐一, 山崎峰夫, 吉村明修: 出血性脳梗塞をきたしたクリプトコッカス髄膜炎合併アルコール性肝硬変の1例. 内科 2004; 93(2): 348-357.

(3) 症例:

- 1) 岡本 猛<sup>1)</sup>, 渡辺達男<sup>2)</sup>, 町田知恵<sup>3)</sup>, 唐木芳昭<sup>4)</sup>, 土屋眞一(<sup>1)</sup>長野県立木曽病院臨床検査科, <sup>2)</sup>(財)長野県健康づくり事業団女性検診課, <sup>3)</sup>相澤病院検査科, <sup>4)</sup>更級中央病院外科): 乳腺 Marix-producing carcinoma の1例. J. Jpn. Soc. Clin. Cytol. 2003; 42(5): 358-361.

(4) 総説:

- 1) 土屋眞一, 秋山 太<sup>1)</sup>, 井内康輝<sup>2)</sup>, 石原明德<sup>3)</sup>, 方山揚誠<sup>4)</sup>, 梅村しのぶ<sup>5)</sup>, 津田 均<sup>6)</sup>, 森谷卓也<sup>7)</sup>, 都竹正文<sup>8)</sup>, 北村隆司<sup>9)</sup>, 伊藤 仁<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>癌研究会研究所病理部, <sup>2)</sup>広島大学大学院医歯薬学総合研究科病理学, <sup>3)</sup>松坂中央総合病院臨床病理科, <sup>4)</sup>八戸市立市民病院臨床検査科, <sup>5)</sup>東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, <sup>6)</sup>防衛医科大学校病理学第二講座, <sup>7)</sup>東北大学医学部付属病院病理部, <sup>8)</sup>癌研究会付属病院細胞診断部, <sup>9)</sup>昭和大学藤が丘病院中央検査部, <sup>10)</sup>東海大学医学部付属病院病理診断科): 乳腺細胞診の新しい報告様式. J. Jpn. Soc. Clin. Cytol. 2003; 42(3): 248-253.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 田村浩一: 大動脈解離の謎. 第10回法医病理夏期セミナー, 2003. 8.

(2) シンポジウム:

- 1) 田村浩一: Basaloid cell carcinoma of the lung. 第22回日本臨床細胞学会東京都支部会総会, 2003. 6.
- 2) 土屋眞一: 乳癌取り扱い規約における細胞診: 新報告様式の概略. 第42回日本臨床細胞学会秋季大会, 2003. 10.

(3) 一般講演:

- 1) Saito T, Uchida D, Saito T, Tamura K, Yamashita K, Sugisaki Y: Can Histopathological evaluation of resected left atrial appendage during surgical treatment for atrial fibrillation prospect the recurrence of fibrillation?. The 3rd World Congress on Heart Disease (Washington DC, USA), 2003. 7.
- 2) Mase H, Hotta M, Hiromoto A, Hotomi S, Tamura K, Yajima T, Nitta T, Tanaka S, Sugisaki Y: Tissue reaction to the endocardial pacing electrode. The 3rd World Congress on Heart Disease (Washington DC, USA), 2003. 7.

- 3) Tamura K, Ono S, Takayama M, Yoshida H, Sugisaki Y : Pathological characteristics of scar formation after percutaneous transluminal septal myocardial ablation . The 3rd World Congress on Heart Disease ( Washington DC, USA ), 2003 . 7 .
- 4) Saito T, Uchida D, Saito T, Tamura K, Yamashita K, Sugisaki Y : Histopathological study of left atrial appendage obtained at the operation for atrial fibrillation . American College of Cardiology 53rd Annual Scientific session ( New Orleans, USA ), 2004 . 3 .
- 5) 北村博司<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>(1)</sup>病理学第1): 糖尿病性 ( DM ) 腎症における間質病変と傍尿細管毛細血管 ( PTC ) の傷害 . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 6) 横山宗伯, 北川泰之, 松原美幸, 恩田宗彦, 王 若皎, 劉 愛民, 田村浩一, 内藤善哉, 伊藤博元, 杉崎祐一 : 紡錘形細胞肉腫の垂型診断, 3例の診断困難例 . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 7) 富樫真由子, 田村浩一, 杉崎祐一, 萬里小路直樹, 福田 悠 : 心臓弁膜硬化症と大動脈・冠動脈硬化症の関連性について . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 8) 斎藤恒徳, 内田大介, 斎藤智成, 田村浩一, 福田 悠, 杉崎祐一 : 心房細動根治術時に切除された左心耳の病理所見に対する臨床病理学的検討 . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 9) 松橋智彦<sup>1)</sup>, 土井大祐<sup>1)</sup>, 馬場直美<sup>1)</sup>, 西 弥生<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 中山智子<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>(1)</sup>付属病院女性診療科・産科, <sup>(2)</sup>病理学第1): 血中テストステロン高値を呈した卵巣硬化性間質性腫瘍の1例 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 10) 藤田千歳<sup>1)</sup>, 猪狩優子<sup>1)</sup>, 矢野 侃<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>(1)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>(2)</sup>多摩永山病院病理部): 子宮がん検診における30代の受診率および細胞診陽性患者増加の推移 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 11) 猪狩優子<sup>1)</sup>, 藤田千歳<sup>1)</sup>, 矢野 侃<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 杉崎祐一, 米山剛一<sup>3)</sup>(<sup>(1)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>(2)</sup>日本医科大学多摩永山病院病理部, <sup>(3)</sup>付属病院女性診療科・産科): 荒川区がん予防センターの子宮頸がん検診における細胞採取法の比較検討 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 12) 尾崎正行, 釜口晴美, 松原美幸, 渡會泰彦, 田村浩一, 土屋眞一, 杉崎祐一 : Thin layer 標本における婦人科細胞診の検討 ( 第1報 ) . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 13) 永井祥子, 土屋眞一, 村瀬幸宏, 佐竹あかね, 浅川一枝, 佐藤春明, 渡會泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一 : 穿刺吸引細胞診の新しい報告様式 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 14) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 東 敬子<sup>2)</sup>, 秋山裕美<sup>2)</sup>, 武内俊次<sup>3)</sup>, 杉崎祐一, 北川泰之<sup>4)</sup>, 横山宗伯<sup>5)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup>(<sup>(1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>(2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>(3)</sup>同整形外科, <sup>(4)</sup>付属病院整形外科, <sup>(5)</sup>病理学第2): 四肢の顆粒細胞腫の2例 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 15) 浅川一枝, 米山剛一<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 田村浩一, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 土屋眞一, 杉崎祐一<sup>(1)</sup>付属病院女性診療科・産科, <sup>(2)</sup>病理学第2): 類内膜腺癌を否定し得なかった子宮留膿腫の1例 . 第42回日本臨床細胞学会秋季大会, 2003 . 9 .
- 16) 北村博司, 益田幸成, 石崎正通, 杉崎祐一 : ネフローゼ症候群を呈し腎生検にて診断された intravascular large B cell lymphoma ( LBCL ) の1例 . 第33回日本腎臓病学会東部学術集会, 2003 . 9 .
- 17) 尾崎正行, 釜口晴美, 松原美幸, 渡會泰彦, 田村浩一, 土屋眞一, 杉崎祐一 : Thin layer 標本における婦人科細胞診の検討 ( 第1報 ) . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 18) 永井祥子, 土屋眞一, 村瀬幸宏, 佐竹あかね, 浅川一枝, 佐藤春明, 渡會泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一 : 穿刺吸引細胞診の新しい報告様式 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 19) 渡會泰彦, 田村浩一, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 杉崎祐一<sup>(1)</sup>病理学第2): 口腔の穿刺細胞診に出現した悪性エナメル上皮腫の1例 . 第42回日本臨床細胞学会秋季大会, 2003 . 10 .
- 20) 浅川一枝, 米山剛一<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 田村浩一, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 土屋眞一, 杉崎祐一<sup>(1)</sup>付属病院女性診療科・産

- 科,<sup>2)</sup>病理学第2): 類内膜腺癌を否定し得なかった子宮留膿腫の1例. 第42回日本臨床細胞学会秋季大会, 2003. 10.
- 21) 大澤里美<sup>1)</sup>, 丑山 茂<sup>1)</sup>, 朝倉 勝<sup>1)</sup>, 金田 睦<sup>1)</sup>, 春日好雄<sup>2)</sup>, 上原 剛<sup>3)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>(長野松代総合病院臨床検査科,<sup>2)</sup>同外科,<sup>3)</sup>信州大学医学部中央検査部): 乳腺内分泌細胞癌の1例. 第42回日本臨床細胞学会秋季大会, 2003. 10.
- 22) 上原 剛<sup>1)</sup>, 堀川美栄子<sup>1)</sup>, 小林幸弘<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>(信州大学医学部付属病院臨床検査部): 乳腺に転移した鼻腔原発のrhabdomyo sarcomaの1例. 第42回日本臨床細胞学会秋季大会, 2003. 10.
- 23) 猪狩優子<sup>1)</sup>, 白田忠男<sup>1)</sup>, 長尾 緑<sup>1)</sup>, 藤田千歳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 相羽元彦<sup>3)</sup>, 米山剛一<sup>4)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(荒川区がん予防センター,<sup>2)</sup>日本医科大学付属多摩永山病院病理部,<sup>3)</sup>東京女子医科大学付属第二病院病理部,<sup>4)</sup>日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 子宮頸がん検診における細胞採取法の比較検討. 第42回日本臨床細胞学会秋季大会, 2003. 10.
- 24) 戴 威<sup>1)</sup>, 並松茂樹<sup>2)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(中央電顕施設,<sup>2)</sup>付属病院病理部): 2.5%グルタルアルデヒド固定した組織は免疫電顕が可能か 2. II型肺胞上皮細胞内の好オスミウム小体. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 25) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 戴 威<sup>1)</sup>, 北村博司, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(中央電顕施設): 近位尿管上皮細胞内に出現するautophagic cytosomeについて: 腎生検. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 26) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 細根 勝<sup>2)</sup>, 並松茂樹<sup>3)</sup>): Microvillous Lymphoma with CD30+ALCL-B featuresの1例. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 27) 安達彰子<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 戴 威<sup>1)</sup>, 梅津聖彦<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(中央電顕施設,<sup>2)</sup>付属病院小児科): 小児白血病患者末梢血の電子顕微鏡観察 2. 走化性を示す好中球. 第35回日本臨床電子顕微鏡学会, 2003. 10.
- 28) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 北川泰之<sup>3)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup>, 川本雅司, 田村浩一<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二,<sup>2)</sup>付属病院病理部,<sup>3)</sup>整形外科,<sup>4)</sup>千葉北総病院病理部): 多型細胞肉腫の細胞像を示した肺癌大腿部転移と思われる1例. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 29) 浅川一枝, 米山剛一<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 田村浩一, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 土屋眞一, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(付属病院女性診療科・産科,<sup>2)</sup>病理学第2): 類内膜癌を否定し得なかった子宮留膿腫の1例. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 30) 渡会泰彦, 田村浩一, 横山宗伯, 土屋眞一, 杉崎祐一: 口腔の穿刺細胞診に出現した悪性エナメル上皮腫の1例. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 31) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松原美幸, 北川泰之<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 川本雅司<sup>4)</sup>, 田村浩一, 土屋眞一, 杉崎祐一, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2,<sup>2)</sup>付属病院整形外科,<sup>3)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>4)</sup>病理学第1): 多型細胞肉腫の細胞像を示した肺癌大腿部転移と思われる1例. 第42回日本臨床細胞学会秋季総会, 2003. 10.
- 32) 北村隆司<sup>1)</sup>, 金子千之<sup>2)</sup>, 本間千恵<sup>3)</sup>, 根神仁志<sup>3)</sup>, 増永敦子<sup>1)</sup>, 楯 玄秀<sup>1)</sup>, 塩川 章<sup>4)</sup>, 光谷俊幸<sup>1)</sup>, 太田秀一<sup>5)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>(昭和大学藤が丘病院病院病理科,<sup>2)</sup>藤田保健衛生大学衛生学部,<sup>3)</sup>川崎協同病院病院病理科,<sup>4)</sup>昭和大学横浜北部病院病理科,<sup>5)</sup>同医学部第2病理学): 上皮性悪性中皮細胞におけるサイトケラチン, およびHBME-1の発現性と細胞形態について. 第42回日本臨床細胞学会秋季大会, 2003.
- 33) 池田勝秀<sup>1)</sup>, 北村隆司<sup>1)</sup>, 鈴木孝夫<sup>2)</sup>, 増永敦子<sup>2)</sup>, 楯 玄秀<sup>2)</sup>, 光谷俊幸<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>(昭和大学藤が丘病院中央臨床検査部病理,<sup>2)</sup>同病理科): 女性付属器発生 癌肉腫8例の体腔液細胞像. 第42回日本臨床細胞学会秋季大会, 2003.
- 34) 田村浩一, 内山吉喜<sup>1)</sup>, 長峯かおり<sup>1)</sup>, 松原美幸, 渡会泰彦, 荒井考司<sup>1)</sup>, 町田隆一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(下館市民病院検査科病理,<sup>2)</sup>同脳神経外科): 第3脳室脊索腫様膠腫の術中捺印細胞所見. 第42回日本臨床細胞学会秋

季大会，2003．

- 35) 秋山裕美<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，竹内俊次<sup>2)</sup>，横山宗伯<sup>3)</sup>，松原美幸，杉崎佑一，北川泰之<sup>4)</sup>，劉 愛民<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>同整形外科，<sup>3)</sup>病理学第2，<sup>4)</sup>付属病院整形外科，<sup>5)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 四肢皮下発生の顆粒細胞腫の2例．第42回日本臨床細胞学会秋季大会，2003．
- 36) 高田大輔<sup>1)</sup>，金子朋広<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>，北村博司，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2，<sup>2)</sup>付属病院病理部): 溶連菌感染を契機に発祥し非定型的な病理組織像を呈した急性腎不全の1例．第36回東京腎生検カンファレンス，2004．3．

## [ 付属病院中央検査部 ]

### 研究概要

当中央検査部は，私立医科大学の中でも膨大な検査項目と処理件数を行い，学術と研究面でも日常の臨床検査を通じた課題に積極的に取り組み充実した成果を上げている．この地道な取り組みが日常業務に広く反映され，高精度でかつ信頼度の高い検査を行う上での基礎となっている．

今年度における各分野の活動概況は下記の通りである．輸血用血液製剤における(1-3)  $\beta$ -D-glucanへの影響，各種の手術に伴う輸血用血液製剤の準備血の状況と考察，尿試験紙による尿中アルブミン・尿中クレチニン測定の基礎的検討，製造元別による尿中微量アルブミン・尿中クレアチニンの比較検討など，自動分析装置の血清情報を利用した赤血球抵抗試験への応用検討，MassCK-MB測定の評価など，合成リン脂質とウサギ脳由来リン脂質を用いたAPTT測定試薬の乖離例についての解析，尿検査よりmulberry cell・mulberry bodyを認めたFabry病の症例報告，心筋マーカーの上昇に対する腎機能への影響および関連性についての検討など，管理分野では，変貌する医療情勢における私大検査部の在り方と問題点の提起，オーダリングシステムを利用した経時的な検査結果照会システムの運用と利便性についてなど，極めて多岐にわたり積極的な活動が行われた．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kushimoto S<sup>1)</sup>，Shibata Y，Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): Implications of Fibrinogenolysis in Patients With Closed Head．J Neurotrauma 2003；20(4): 357-363．
- 2) 上田康晴<sup>1)</sup>，柴田泰史，小川太志<sup>1)</sup>，原田尚重<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 救急領域でのMRSA感染症患者に対するteicoplaninの臨床効果．日化療会誌 2003；51(8): 490-496．

##### (2) 綜説：

- 1) 橋本政子，青山澄子<sup>1)</sup>，小長谷勝利<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会高等看護学院，<sup>2)</sup>日本医学技術専門学校): 未病検査と服薬指導 第3回 看護師が知っておくべき生活の場における臨床検査(POCT)．かんごきろく 2003 2003；13(7): 88-91．
- 2) 橋本政子: 1級試験の実施試験委員をやってみて．日本臨床検査同学院通信 日本臨床検査同学院 2004；29(1-3): 25-25．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 柴田泰史: 変貌する医療情勢における私大検査部の在り方(当院における緊急検査体制と問題点)．第21回私立医科大学臨床検査技師会学術研修会，2003．10．

##### (2) パネルディスカッション：

- 1) 中村祐三，高木 豊，野本剛史，里村克章: FMSシステムと検査結果照会システム『Tango』の使用について．

第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．

- 2) 三橋 太，小林紘士，石野三智男，中村祐三，野本剛史，里村克章：腎機能低下を伴わず mulberry cell・mulberry body を認めた Fabry 病の症例．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 3) 村本和子，玉手ひさ子，中村祐三，野本剛史，里村克章：尿検査試験紙，マイクロアルブ・クレチニンテストとマルチスティックス PRO10LS による尿中微量アルブミン・尿中クレチニン測定の基礎的検討と有用性．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 4) 高木 豊，影山憲貴，萩原直久，野本剛史，里村克章：日立7070形自動分析器の血清情報を用いた赤血球抵抗試験について．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 5) 影山憲貴，高木 豊，萩原直久，野本剛史，里村克章：合成リン脂質とウサギ脳由来リン脂質を用いた APTT 測定試薬の乖離例について．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 6) 小早川恵子，亀山澄子，植田貴子，福田高久，野本剛史，里村克章，檀 和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>輸血部)：当院における手術用準備血の現状について．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 7) 橋本政子，青砥泰二，野本剛史，里村克章：当院における抗酸菌検出状況．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 8) 村本和子，玉手ひさ子，中村祐三，野本剛史，里村克章：尿検査試験紙による尿中微量アルブミン・尿中クレアチニン測定の基礎的検討と有用性．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 9) 日ノ澤進一郎，野本剛史，里村克章：MassCK-MB 測定の有用性．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 10) 鳴海武長，野本剛史，里村克章，本城和義<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬剤部)：血液製剤における(1 3) -D-glucan への影響．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- (3) 一般講演：
- 1) 三橋 太，石野三智男，中村祐三，野本剛史：mulberry cell・mulberry body を認めた Fabry 病の1症例．第52回日本医学検査学会，2003．5．
  - 2) 高木 豊，影山憲貴，萩原直久，野本剛史：日立7070形自動分析器の血清情報を用いた赤血球抵抗試験について．第52回日本医学検査学会，2003．5．
  - 3) 影山憲貴，高木 豊，萩原直久，野本剛史：合成リン脂質とウサギ脳由来リン脂質を用いた APTT 測定試薬の乖離検体について．第52回日本医学検査学会，2003．5．
  - 4) 柴田泰史，野本剛史，山本保博<sup>1)</sup>，上田康晴<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：心筋障害マーカーと腎機能の関連性について．第52回日本医学検査学会，2003．5．
  - 5) 久志本成樹<sup>1)</sup>，柴田泰史，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：重症頭部外傷急性期におけるフィブリノゲン分解の関与．第103回日本外科学会定期学術集会，2003．6．
  - 6) 柴田泰史，野本剛史，里村克章，上田康晴<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：心筋マーカー上昇に対する腎機能の影響について．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 7) 久志本成樹<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，柴田泰史，相星淳一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：重症敗血症における血漿BNP レベルの変動には全身性炎症反応が関与する．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
  - 8) 鳴海武長，野本剛史：血液製剤の(1 3) -D-glucan への影響．第40回関東甲信地区医学検査学会，2003．11．
  - 9) 柴田泰史，野本剛史，里村克章，上田康晴<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：ヒト心臓由来脂肪酸結合タンパクと骨格筋障害の関連性について．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
  - 10) 青木寛明<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，柴田泰史，里村慎二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学，<sup>2)</sup>和光純薬工業株式会社臨薬研究開発本部)：ステロイド投与症例における細菌感染症鑑別の指標としてのプルカシトニン測定の有用性．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
  - 11) 柴田泰史，野本剛史，里村克章，上田康晴<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白の上昇には骨格筋障害が関与する．第31回日本集中治療医学会学術総会，2004．3．

- 12) 小井土雄一<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>1)</sup>, 高山泰広<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 出血性ショックに対する1%ブドウ糖加酢酸リンゲル液の大量・急速投与の安全性について. 第31回日本集中治療医学会学術総会, 2004. 3.
- 13) 青木寛明<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 中村 敏<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 腹膜炎症例におけるプロカルシトニン測定の有用性. 第54回日本救急医学会関東地方会, 2004. 3.

## [ 付属病院薬剤部 ]

### 研究概要

平成15年度の研究業績は、学会発表27題、論文7報、著書3冊であった。

研究の概要としては、本年も薬剤師の最重要業務である医薬品の適正使用、特に有効性、安全性に関する研究を主に行った。薬物の投与方法に関しては、抗真菌剤の血中薬物濃度を早期に上昇させる必要性があることから「初回負荷とFLCZの投与方法」について、CHDF施行時の薬物の吸着が問題となることから「CHDF施行患者におけるミカファンギンの体内動態」について、薬物の容器への吸着の問題に関しては「フルカリック中のインスリンの吸着」についてまとめ、発表した。

その他、病棟に供給している院内製剤の評価として「癌化学療法に伴う口内炎に対する、P-AG液とNEX含嗽液の効果比較」について、また最近使用され始めた、プレフィルドシリンジ製剤の有用性に関し「高カロリー輸液調整用プレフィルドシリンジに関する実態調査」を行いその結果をまとめ発表した。薬剤経済の面からは、多くの病棟で導入されてきたクリニカルパスの薬剤経済に関しては「クリニカルパス適用胃切除患者における、CEZとSBT/ABPCの術後感染発症阻止効果に対する費用対効果分析」について、また当院で取り入れられた医療機関別包括評価制度については「高度救命救急センターにおける急性薬物中毒加算と包括評価制度の影響」についてまとめ発表した。

今後も求められる薬剤師業務に対応した業務展開を行う中で、医薬品の有効性、安全性、経済性についての研究を通し、付属病院および患者の利益に貢献できるよう努力したいと考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Hirata K, Matsumoto Y<sup>1)</sup>, Kurokawa A<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Shimizu M<sup>2)</sup>, Hirano M, Yamamoto Y<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Showa Pharmaceutical University, <sup>2)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine): Possibility of influence of Midazolam Sedation on the Diagnosis of Brain Death: Concentrations of Active Metabolites after Cessation of Midazolam. YAKUGAKUZASSHI 2003; 123(9): 811-815.
- 2) Yamamura S<sup>1)</sup>, Takehira R<sup>1)</sup>, Kawada K<sup>1)</sup>, Nishizawa K, Katayama S, Hirano M, Momose Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>School of Pharmaceutical Sciences, Toho University): Application of artificial neural network modelling to identify severely ill patients whose aminoglycoside concentrations are likely to fall below therapeutic concentrations. Journal of Clinical Pharmacy and therapeutics 2003; 28: 425-432.
- 3) Narita M<sup>1)</sup>, Ozaki S<sup>1)</sup>, Ise Y, Narita M<sup>1)</sup>, Yajima Y<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Hoshi University School of Pharmacy and Pharmaceutical): Change in the expression of c-fos in the rat brain following sciatic nerve ligation. Neurosci lett 2003; 352: 164-166.
- 4) 伊勢雄也, 室田陽右<sup>1)</sup>, 高山幸三<sup>1)</sup>, 成田 年<sup>1)</sup>, 鈴木 勉<sup>1)</sup>, 宋 静香, 片山志郎, 平野公晟(<sup>1)</sup>星薬科大学薬学部): NSAIDsの術後疼痛に対する処方状況並びに副作用発現における因子の解析. YAKUGAKUZASSHI 2003; 123(7): 613-618.
- 5) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 三橋恭子<sup>2)</sup>, 伊勢雄也, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 増田健



- 太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 長谷川幸子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1,<sup>2)</sup>看護部): 胃切除患者におけるクリニカルパスの臨床的意義. J Nippon Med Sch 2003; 70(3): 263-269.
- 6) 伊勢雄也, 瀬尾 誠, 本城和義, 宋 静香, 片山志郎, 平野公晟: 結腸切除術クリニカルパスへの薬剤管理指導業務の導入. 東京都病薬誌 2003; 52(3): 249-252.
- 7) 濃沼政美: 院内製剤開発から捉えた新規剤形の検証. PHARM STAGE 2004; 12(3): 34-43.

## 著 書

- 1) 平田清貴: [自著] 救急ケアで使う薬剤ノート. 救急ケアで使う薬剤ノート(山本保博), 2003; pp1-329, メディカ出版.
- 2) 片山志郎: [分担] 薬剤師への緩和医療の教育1. 緩和医療学, 2003; pp26-32, 先端医学社.
- 3) 山本保博<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>2)</sup>, 平田清貴, 田口吉子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター,<sup>2)</sup>新東京国際空港クリニック,<sup>3)</sup>第二病院看護部): [共著] 輸液・輸血・救急薬. 輸液・輸血・救急薬 TODAY(2004-05年度)(山本保博), 2003; pp1-285, メディカ出版.

## 学会発表

### (1) 教育講演:

- 1) 平田清貴: 救急・集中治療領域における抗真菌薬の適正使用と新たな展望. 第31回日本救急医学会総会, 2003. 11.

### (2) シンポジウム:

- 1) 菅谷量俊: 当院における薬事委員会の現状と医薬品採用システム. 第87回関東私立医大薬剤部研究会, 2003. 6.

### (3) 一般講演:

- 1) 片山志郎, 宮田広樹, 渡邊暁洋, 平野公晟, 山村重雄<sup>1)</sup>, 百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>, 西澤健司(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部): がん疼痛治療に用いられる薬剤の副作用への対応. 第8回日本緩和医療学会総会, 2003. 6.
- 2) 川田桂子<sup>1)</sup>, 山村重雄<sup>1)</sup>, 百瀬弥寿雄<sup>1)</sup>, 西澤健司, 平野公晟(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部): ニューラルネットワーク(ANN)による重症熱傷患者におけるアルベカシン(ABK)の体内動態予測. 医療薬学フォーラム2003, 2003. 7.
- 3) 折戸謙介<sup>1)</sup>, 白井明志<sup>1)</sup>, 平田清貴, 黒川 颯<sup>2)</sup>, 赤堀文昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻布大学獣医学部薬理学研究室,<sup>2)</sup>日本医科大学第二病院救命救急部): クロルヘキシジンの気管内投与によるラット肺組織への影響. 第25回日本中毒学会総会, 2003. 7.
- 4) 宋 静香: 透析患者における癌性疼痛管理および副作用対策. 日本病院薬剤師会関東ブロック第33回学術大会, 2003. 8.
- 5) 渡邊暁洋: モルヒネ製剤からフェンタニール貼付剤への切り替えを検討した癌疼痛管理症例. 日本病院薬剤師会関東ブロック第33回学術大会, 2003. 8.
- 6) 松原 肇<sup>1)</sup>, 平野公晟, 仲川義人<sup>2)</sup>, 矢後和夫<sup>3)</sup>, 東海林徹<sup>2)</sup>, 小川幸雄<sup>3)</sup>, 豊口義夫<sup>2)</sup>, 島田慈彦<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学病院薬剤部,<sup>2)</sup>山形大学医学部附属病院薬剤部,<sup>3)</sup>北里大学東病院薬剤部,<sup>4)</sup>元北里大学病院薬剤部): 高カロリー輸液調製用プレフィルドシリンジに関する実態調査. 第13回日本医療薬学会年会, 2003. 9.
- 7) 伊勢雄也, 室田陽右<sup>1)</sup>, 宋 静香, 片山志郎, 平野公晟(<sup>1)</sup>星薬科大学薬学部): NSAIDsの術後疼痛に対する処方状況ならびに副作用発現における因子の解析: 整形外科領域における検討. 第52回東日本整形災害外科学会, 2003. 9.
- 8) 鳴海武長<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 本城和義(<sup>1)</sup>中央検査部): 血液製剤における(1-3)-D-glucanへの影響. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 9) 中嶋基広, 西澤健司, 片山志郎, 菅谷量俊, 平野公晟: 当院における薬剤管理指導業務について(第3報). 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 10) 岩上正明, 片山志郎, 平野正明, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央検査部): 付属病院における抗

菌剤の使用動向．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．

- 11) 多田けい子，内田 亨，菅谷量俊，西澤健司，平野公晟：当院におけるDI業務の検討（第6報）．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 12) 渡邊暁洋，宮田広樹，片山志郎，平野公晟：がん疼痛管理におけるモルヒネ製剤からフェンタニール貼付剤への切り替えに関する考察．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 13) 渡邊暁洋，平田清貴，岸 大輔，平野公晟，大野香那恵<sup>1)</sup>，松本宜明<sup>1)</sup>，花田有里子<sup>2)</sup>，原田尚重<sup>2)</sup>，小川太志<sup>2)</sup>，志賀尚子<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学薬物動態学，<sup>2)</sup>日本医科大学高度救命救急センター)：初回負荷をおこなったFluconazole (FLCZ)の投与法の検討．第31回日本救急医学会総会，2003．11．
- 14) 平田清貴，松本宜明<sup>1)</sup>，篠崎 聡<sup>1)</sup>，清水万紀子<sup>1)</sup>，花田有里子<sup>2)</sup>，原田尚重<sup>2)</sup>，小川太志<sup>2)</sup>，志賀尚子<sup>2)</sup>，野口裕幸<sup>2)</sup>，平野公晟，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学薬物動態学研究室，<sup>2)</sup>日本医科大学高度救命救急センター)：CHDF施行患者におけるミカファンギン体内動態に関する検討．第24回日本臨床薬理学会年会，2003．12．
- 15) 渡辺和美<sup>1)</sup>，井上忠夫<sup>2)</sup>，塩川 満<sup>2)</sup>，木津純子<sup>3)</sup>，清水久範<sup>4)</sup>，山崎真澄<sup>5)</sup>，片山志郎，平野公晟(<sup>1)</sup>東邦大学大森病院薬剤部，<sup>2)</sup>聖路加国際病院薬剤部，<sup>3)</sup>共立薬科大学薬学部，<sup>4)</sup>昭和大学病院薬剤部，<sup>5)</sup>東京医科大学病院薬剤部)：東京都病院薬剤師会における癌領域薬剤師養成の取り組み．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 16) 瀬尾 誠，片山志郎，平野公晟：ビタミン剤含有高カロリー輸液製剤「フルカリック」中のインスリンの吸着に関する考察．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 17) 萩原紘子<sup>1)</sup>，平田清貴，吉田久博<sup>1)</sup>，平野公晟，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>明治薬科大学薬学部，<sup>2)</sup>日本医科大学高度救命救急センター)：救命救急センターにおける抗真菌薬の適正使用．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 18) 三好梨恵<sup>1)</sup>，多田けい子，菅谷量俊，矢崎知子<sup>1)</sup>，片山志郎，平野公晟，菅家甫子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>共立薬科大学薬学部)：癌化学療法に伴う口内炎に対するP - AG液とNEX含嗽液の効果比較．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 19) 平田清貴，萩原紘子<sup>1)</sup>，上笹 宙<sup>2)</sup>，吉田久博<sup>1)</sup>，平野公晟，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>明治薬科大学薬学部，<sup>2)</sup>日本医科大学高度救命救急センター)：当院高度救命救急センターにおける急性薬物中毒加算と包括評価制度の影響．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 20) 山村重雄<sup>1)</sup>，竹平理恵子<sup>1)</sup>，片山志郎，西澤健司，平野公晟，百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部)：患者QOLと薬剤師の介入意義の構造化方程式モデリング(その1)．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 21) 竹平理恵子<sup>1)</sup>，片山志郎，西澤健司，平野公晟，百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>，山村重雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部)：患者QOLと薬剤師の介入意義の構造化方程式モデリング(その2)．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 22) 西澤健司，川田桂子<sup>1)</sup>，山村重雄<sup>1)</sup>，百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>，平野公晟(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部)：ニューラルネットワークとベイジアン法による体内動態パラメータ推定値の予測精度．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 23) 篠崎 聡<sup>1)</sup>，清水万紀子<sup>1)</sup>，松本宜明<sup>1)</sup>，平田清貴，平野公晟，小川太志<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学薬学部，<sup>2)</sup>日本医科大学高度救命救急センター)：高度救命救急センター入院患者におけるミカファンギン投与後の薬物動態．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 24) 萩原 研<sup>1)</sup>，斎藤節生<sup>1)</sup>，小柳順一<sup>1)</sup>，伊勢雄也，本城和義，宋 静香，加藤あゆみ，片山志郎，西澤健司，三橋恭子<sup>2)</sup>，吉行俊郎<sup>3)</sup>，木山輝郎<sup>3)</sup>，亀井美和子<sup>4)</sup>，白神 誠<sup>4)</sup>，平野公晟(<sup>1)</sup>城西大学薬学部，<sup>2)</sup>日本医科大学看護部，<sup>3)</sup>同外科学第1，<sup>4)</sup>日本大学薬事管理学研究室)：クリニカルパス適用胃切除患者におけるCefazolin (CEZ)とAmpicillin/Sulbactam (SBT/ABPC)の術後感染発症阻止効果に対する費用対効果分析．日本薬学会第124回年会，2004．3．
- 25) 川田桂子<sup>1)</sup>，西澤健司，片山志郎，平野公晟，百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>，山村重雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部)：重症熱傷患者におけるアルベカシンの有効度判定：ニューラルネットワークによるアプローチ．日本薬学会第124回年会，2004．3．

## [ 付属病院生理機能センター ]

### 研究概要

15年度より国公立大学病院および一部の国立病院において、入院患者に対する診療報酬の包括評価制度が導入された。ついで、新医師臨床研修制度が新たに加わり、大学病院でさえ医局員を確保するのが例年以上に困難になり、ややもすると医局自体の存続も危ぶまれる時代になってきている。生理機能検査は医師との協力により検査を行う機会が多い。このため医師不足による日常業務への影響も危惧される。

患者の医療に対する質的要求も年々厳しく、より良い医療を求めて患者が集まる傾向に拍車がかかり、医療界全体を巻き込む『勝ち組み』、『負け組み』の二極分化がさらに進むと思われる。このような視点に鑑み、我々は今後ますます専門性の研鑽に励み、その独自性を学会発表などを通して、院外に発信していかなければならないと考える。

今年度の研究業績は、継続的な研究を中心に行われ、心臓リハビリテーション、特にエルゴメーターに関する研究発表が多くなされた。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Ohno T, Honma H, Munakata R, Yoshikawa M, Matsuzaki T, Takayama M, Takano T : The new Index of Regional Left Ventricular Function Using Strain Rate Imaging in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy . 14<sup>th</sup> Annual Scientific Sessions American Society of Echocardiography ( Canada ), 2003 . 6 .
- 2) Sugaya J, Yamamoto Y, Igarashi A, Nakamura T, Saitoh K, Fukuma N<sup>1)</sup>, Ushijima A<sup>1)</sup>, Miura K<sup>1)</sup>, Kato Yu-ko<sup>1)</sup>, Tsuchida T<sup>1)</sup>, Aisu N<sup>1)</sup>, Mabuchi K<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 1st Department of Internal Medicine ) : Mental Stress Affects the Production of Nitric Oxide and Cytokine in Patients with Acute Myocardial Infarction . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 3) Ohno T, Honma H, Munakata R, Yoshikawa M, Yokosima T, Fukuma Y, Yasutake H, Itoh K, Takayama M, Takano T : Effects of Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation on Myocardial Deformation in Patients With Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy Using Ultrasonic Strain Measurements . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society ( Tokyo ), 2004 . 3 .
- 4) 大野忠明, 本間 博, 時田祐吉, 宗像 亮, 吉川雅智, 横島友子, 安武ひろ子, 福間裕美子, 伊藤恵子, 菅原博子, 高山守正, 高野照夫, 松崎つや子 : Strain rate imagingによる閉塞性肥大型心筋症の治療効果の新しい評価法 . 第14回日本心エコー図学会学術集会, 2003 . 4 .
- 5) 五十嵐亜希, 菅谷寿理, 山本雪貴美, 吉田由紀子, 加藤政利, 竹田裕子, 平野美子, 中村利枝, 齋藤公一, 福間長知<sup>1)</sup>, 美浦和代<sup>1)</sup>, 木村祐子<sup>1)</sup>, 牛島明子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 心筋梗塞例における運動療法が血中ビタミンC濃度に及ぼす影響 . 第9回日本心臓リハビリテーション学会, 2003 . 7 .
- 6) 野原秀明, 加藤政利, 緒方たつ子, 齋藤公一, 本間 博, 池園哲郎<sup>1)</sup>, 八木聡明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 他覚的聴力検査の有用性と問題点について . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 7) 山本雪貴美, 菅谷寿理, 五十嵐亜希, 中村利枝, 齋藤公一, 本間 博, 吉岡央子<sup>1)</sup>, 山本和男<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4): 呼気1酸化窒素 (NO) 濃度測定の有用性 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 8) 加藤政利, 中村利枝, 山本雪貴美, 吉田由紀子, 竹田裕子, 五十嵐亜希, 平野美子, 菅谷寿理, 齋藤公一, 本間 博, 福間長知<sup>1)</sup>, 牛島明子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>

- (<sup>1</sup>)内科学第1): 下肢エルゴメーター運動負荷試験におけるペダル回転速度の差異が換気応答に与える影響．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 9) 五十嵐亜希，菅谷寿里，山本雪貴美，吉田由紀子，加藤政利，竹田裕子，平野美子，中村利枝，齋藤公一，本間 博，福間長知<sup>1)</sup>，加藤和代<sup>1)</sup>，加藤祐子<sup>1)</sup>，牛島明子<sup>1)</sup>，土田貴也<sup>1)</sup>，愛須紀子<sup>1)</sup>，馬淵浩輔<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>  
(<sup>1</sup>)内科学第1): 酸化ストレスの定量化における血中ビタミンC濃度測定の有用性．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 10) 松崎つや子，本間 博，佐藤淳子，水瀬 学，石井玲子，齋藤公一，横島友子<sup>1)</sup>，大野忠明<sup>1)</sup>，福間祐美子<sup>1)</sup>，安武ひろ子<sup>1)</sup>，菅原博子<sup>1)</sup>，伊藤恵子<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)内科学第1): Strain rate imaging法による肥大心筋収縮スタイルの検討．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 11) 中村利枝，宗方祐美子，五十嵐亜希，与那嶺弘子，瀬川純子，青木 亘，菅谷寿里，齋藤公一，本間 博，永山 寛<sup>1)</sup>，片山泰明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)内科学第2): 中枢神経磁気刺激による誘発筋電図についての検討．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 12) 福間長知<sup>1)</sup>，美浦和代<sup>1)</sup>，牛島明子<sup>1)</sup>，加藤祐子<sup>1)</sup>，愛須紀子<sup>1)</sup>，土田貴也<sup>1)</sup>，馬淵浩輔<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，五十嵐亜希，菅谷寿理，中村利枝，齋藤公一(<sup>1</sup>)内科学第1): 心筋梗塞患者に対する運動療法が酸化ストレスマーカーに及ぼす影響．第51回日本心臓病学会，2003．9．
- 13) 中村利枝，福間長知<sup>1)</sup>，加藤政利，五十嵐亜希，菅谷寿理，齋藤公一，加藤祐子<sup>1)</sup>，牛島明子<sup>1)</sup>，愛須紀子<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)内科学第1): エルゴメーターのペダル回転速度が運動負荷時の換気応答におよぼす影響．第51回日本心臓病学会，2003．9．
- 14) 五十嵐亜希，福間長知<sup>1)</sup>，菅谷寿理，山本雪貴美，吉田由紀子，中村利枝，齋藤公一，美浦和代<sup>1)</sup>，土田貴也<sup>1)</sup>，馬淵浩輔<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)内科学第1): 心筋梗塞患者における酸化ストレスの指標としてのビタミンC濃度・摂取量と過酸化脂質の関係．第51回日本心臓病学会，2003．9．
- 15) 木村祐子<sup>1)</sup>，福間長知<sup>1)</sup>，牛島明子<sup>1)</sup>，美浦和代<sup>1)</sup>，愛須紀子<sup>1)</sup>，土田貴也<sup>1)</sup>，馬淵浩輔<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，中村利枝，加藤政利，菅谷寿理(<sup>1</sup>)内科学第1): 健常人における高回転数エルゴメーター負荷は換気血流不均等を伴わずにVE/VCO<sub>2</sub> slopeを増大させる．第51回日本心臓病学会，2003．9．
- 16) 山本雪貴美，菅谷寿理，齋藤公一，吉岡央子<sup>1)</sup>，山本和男<sup>1)</sup>，村田 朗<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)内科学第4): 呼吸器疾患における呼気1酸化窒素濃度．第40回臨床生理学会，2003．10．
- 17) 菅谷寿理，山本雪貴美，五十嵐亜希，中村利枝，齋藤公一，福間長知<sup>1)</sup>，美浦和代<sup>1)</sup>，木村祐子<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)内科学第1): 心臓リハビリテーションおよび関連する研究において臨床検査技師のはたす役割．第9回日本心臓リハビリテーション学会，2003．10．
- 18) 加藤政利，中村利枝，山本雪貴美，吉田由紀子，竹田裕子，五十嵐亜希，平野美子，菅谷寿理，齋藤公一，福間長知<sup>1)</sup>，牛島明子<sup>1)</sup>，美浦和代<sup>1)</sup>，加藤祐子<sup>1)</sup>，土田貴也<sup>1)</sup>，愛須紀子<sup>1)</sup>，馬淵浩輔<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)内科学第1): 自転車エルゴメーターのペダル回転速度が換気応答に与える影響．第9回日本心臓リハビリテーション学会，2003．10．
- 19) 中村利枝，福間長知，加藤政利，菅谷寿理，齋藤公一，加藤祐子<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)内科学第1): エルゴメーター回転速度がVE/VCO<sub>2</sub> slopeにおよぼす影響．第40回臨床生理学会，2003．10．
- 20) 横島友子，本間 博，大野忠明，福間祐美子，安武ひろ子，菅原博子，伊藤恵子，高野照夫，松崎つや子，佐藤淳子，水瀬 学，石井玲子，齋藤公一: Strain rate imagingによる肥大心筋収縮様式の検討．日本超音波医学会 第15回関東甲信越地方会，2003．10．
- 21) 牛島明子，本間 博，大野忠明，古明地弘和，橋本英洋，高野照夫，天野康雄，隈崎達夫，松崎つや子，佐藤淳子，水瀬 学，石井玲子，齋藤公一: 間室性肺炎，胸部大動脈瘤とともに偶然発見された心房内隔の脂肪性肥大の1例．日本超音波医学会 第15回関東甲信越地方会，2003．10．

(2) Fireside Seminar :

- 1) 本間 博, 大野忠明, 松崎つや子, 斉藤公一: 心筋組織ドブラ法で心機能をみる 負荷エコーと心筋ドブラー虚血と viability 評価への応用. The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Tokyo), 2004. 3.

## [ 付属病院看護部 ]

### 研究概要

付属病院看護部では, 臨床における看護の質の向上と研究能力の育成を目的として積極的に看護研究に取り組んでいる.

- 1) 救急看護領域では, 脳死患者家族の看護介入のあり方の検討や熱傷処置におけるクリティカルパスの開発, 口腔内環境の検討について報告した.
- 2) 集中看護領域では, 冠インターベーション後の看護ケア, 生体肝移植後の術後管理と課題, 生命の危機に直面した患者の家族が望む医療への参加について報告した.
- 3) 遺伝看護領域では, 遺伝医療チームにおける看護職の役割や由来不明の染色体異常症児をもつ両親への遺伝カウンセリング, 患者家族の遺伝子診断に対する意思決定への支援, 筋緊張性ジストロフィーの事例から社会的状況が自己決定に及ぼす影響など事例を検討し, 報告した.
- 4) 手術期看護領域では, 揉み手洗い法による手術時手洗いの検討について報告した.
- 5) 脳神経外科看護領域では, 植物状態にある患者に対する看護師のケア意欲について報告した.
- 6) 糖尿病看護領域では, 1型糖尿病患者の対処行動について報告した.
- 7) 緩和ケア領域では, 認定看護師が緩和ケア相談を行うことの看護師への効果について報告した.
- 8) 小児看護領域では, イラストを活用し幼児の採血時の苦痛を軽減する試みについて報告した.
- 9) 母性看護領域では, 妊産褥婦の排尿トラブルと関連要因についてについて報告した.
- 10) 看護教育・管理領域では, 新人看護師と中堅看護師の入院患者の申し送り内容の比較分析, 病棟看護師がナースコールの対応に躊躇する関連要因について報告した.

### 研究業績

#### 論文

[ 2002 年度追加分 ]

実践報告:

- 1) 鈴木由美, 渡辺裕子, 千葉弘子, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科・分子遺伝医学): 日本医科大学付属病院遺伝外来における遺伝カウンセリングの実践と看護職の役割. 日本遺伝看護研究会誌 2003 ; 1 ( 1 ): 28-34 .

(1) 綜説:

- 1) 伊藤睦美, 佐藤憲明: 意識障害で開口障害のある患者のオーラルケア. Emergency Nursing 2003 ; 16 ( 2 ): 80-86 .
- 2) 佐藤憲明, 野口裕幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 臨床工学士): 知らないといけない人工呼吸器5つの基本. ナース専科 2003 ; 23 ( 3 ): 53-62 .
- 3) 藤田昌久: 電子ジャーナルを利用して. 医学図書館 2003 ; 50 ( 3 ): 230-231 .
- 4) 藤田昌久: 感染対策 ICT 教育・活動ガイド. INFECTION CONTROL 2003 ; ( 年増刊 ): 176-183 .
- 5) 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 渡辺裕子, 鈴木由美, 千葉弘子, 堺 則康<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科・小児科, <sup>2)</sup> 遺伝診療科・分子遺伝医学, <sup>3)</sup> 遺伝診療科・皮膚科): 遺伝外来の実際: 遺伝カウンセリング

- グでクライアントが抱える問題点．小児科 2003；44(7): 1145-1150．
- 6) 佐藤憲明：下痢．Emergency nursing 2003；(193): 196-206．
  - 7) 藤田昌久：救急医療の感染予防対策（救急医療における感染教育について）．Emergency nursing 2003；16(9): 837-843．
  - 8) 佐藤憲明：治療時の急変への対応 輸液．看護技術 2003；49(12): 96-102．
  - 9) 竹原典子：治療時の急変への対応4酸素吸入（院内エマージェンシー：急変に対応できるナースになる）．看護技術 2003；49(12): 1113-1119．
  - 10) 藤田昌久：実働を目指すリンクナースの組織化（感染管理・業務改善SUCCESS FILE）．看護管理 2003；13(11): 930-933．
  - 11) 藤田昌久：整形外科病棟の感染対策．整形外科看護 2003；8(12): 1089-1117．
  - 12) 竹原典子：精神疾患患者のトリアージ（トリアージ；その考え方と実際）．臨書看護 2003；29(14): 2206-2209．
  - 13) 千葉弘子，渡辺裕子，鈴木由美，渡辺 淳<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科・分子遺伝医学)：遺伝看護の役割 FAP患者家族の遺伝子診断に関する意思決定への支援．月刊ナーシング 2004；24(1): 44-46．
  - 14) 木野毅彦：ショック離脱期のケアポイント．小児看護 2004；27(1): 72-77．
  - 15) 根本陽子，佐藤憲明：熱傷ショック期の看護．小児看護 2004；27(1): 67-71．
  - 16) 背戸陽子，佐藤憲明：搬入時の観察のポイントとケア．小児看護 2004；27(1): 53-57．
  - 17) 佐藤憲明：「ガイドライン2000」に基づく心肺蘇生法実践のためのポイント．Expert Nurse 2004；20(2): 38-43．
  - 18) 佐藤憲明：無尿・血尿．消化器外科NURSING 2004；9(2): 26-30．

## 著 書

- 1) 金子栄子：〔分担〕看護の展開．手術看護の新たな展開（付属病院中央手術部），2003；pp16-48，真興交易．
- 2) 田辺真理子：〔分担〕看護技術のhow-to．手術部看護の新たな展開（付属病院中央手術部），2003；pp51-64，真興交易．
- 3) 倉藤晶子：〔分担〕手術部看護と安全管理．手術部看護の新たな展開（付属病院中央手術部），2003；pp70-116，真興交易．
- 4) 田辺真理子：〔分担〕クリニカルパス：看護師の立場から．手術部看護の新たな展開（付属病院中央手術部），2003；pp120-138，真興交易．
- 5) 佐藤憲明：〔分担〕化学損傷．Nursing Selection10 救急ケア（中村恵子），2003；pp388-390，学研．
- 6) 佐藤憲明：〔分担〕高カリウム血症．Nursing Selection10 救急看護（中村恵子），2003；pp266-268，学研．
- 7) 伊藤博希，佐藤憲明：〔分担〕精神症状．Nursing Selection10 救急看護（中村恵子），2003；pp367-371，学研．

## 学会発表

〔2002 年度追加分〕

### ワークショップ：

- 1) 藤田昌久：感染防止対策の改善とサーベイランス．第18回日本環境感染学会総会，2003．2．

### (1) シンポジウム：

- 1) 藤田昌久：血管カテーテル感染防止（感染防止の決め手・スピリッツ）．第78回日本医科機械学会大会，2003．6．
- 2) 藤田昌久：気管内吸引と感染防止：現場での対策をCDCガイドラインをもとに検証する（安全な気管内吸引）．第31回日本集中治療医学会学術学会，2004．3．

(2) 一般講演：

- 1) 鈴木由美, 渡辺裕子, 千葉弘子, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科・小児科, <sup>2)</sup> 遺伝診療科・分子遺伝医学): チーム医療としての遺伝診療における看護職の役割. 第27回日本遺伝カウンセリング学会, 2003. 5.
- 2) 堺 則康<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 浅野ありさ<sup>3)</sup>, 鈴木由美, 小川俊一<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科・皮膚科, <sup>2)</sup> 遺伝診療科・分子遺伝医学, <sup>3)</sup> 遺伝診療科・小児科): 由来不明の染色体異常症に対する情報提供のあり方について. 第27回日本遺伝カウンセリング学会, 2003. 5.
- 3) 瀧川真朱美, 田中ようこ, 市川裕子, 小杉佳代, 佐藤憲明, 早坂百合子: 熱傷処置におけるクリニカルパスの開発. 第28回日本熱傷学会, 2003. 6.
- 4) 古山景子, 瀬戸奈津子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本看護協会看護研修学校): 長期間ブリットル型を呈している1型糖尿病患者への看護介入: ストレスへの対処行動についての1考察. 第8回日本糖尿病教育・看護学会, 2003. 9.
- 5) 千葉弘子, 渡辺裕子, 鈴木由美, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科・分子遺伝医学, <sup>2)</sup> 遺伝診療科・小児科): 患者家族の遺伝子診断に対する意思決定への支援. 日本遺伝看護研究会第2回大会, 2003. 9.
- 6) 鈴木由美, 渡辺裕子, 千葉弘子, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 堺 則康<sup>2)</sup>, 渡邊 淳<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科・小児科, <sup>2)</sup> 遺伝診療科・皮膚科, <sup>3)</sup> 遺伝診療科・分子遺伝医学): 由来不明の染色体異常症児をもつ両親に対する遺伝カウンセリングと社会資源活用への支援. 日本遺伝看護研究会第2回大会, 2003. 9.
- 7) 渡辺裕子, 千葉弘子, 鈴木由美, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 遺伝診療科・分子遺伝医学, <sup>2)</sup> 遺伝診療科・小児科): 筋緊張性ジストロフィー2例の経験から: 社会的状況が自己決定にもたらす影響についての検討. 日本遺伝看護研究会第2回大会, 2003. 9.
- 8) 山 千絵, 永田朝子: 植物状態にある患者に対する看護師のケア意欲. 第6回日本病院脳神経外科学会, 2003. 10.
- 9) 上村明子, 倉藤晶子, 佐々木恵, 山内沙織: 揉み洗い法による手術時手洗い. 第17回日本手術看護学会, 2003. 10.
- 10) 前原茂子: 冠インターベーション後のCCUにおける看護ケア. 第23回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2003. 10.
- 11) 秋山加奈子, 富樫奈津子: ナースコールの対応に躊躇する関連要因. 平成15年度東京都看護協会看護研究学会, 2003. 11.
- 12) 福田恵実, 蔵田佳奈: 幼児における採血時の苦痛を軽減する試み: 母子に対するイラスト活用の効果. 平成15年度東京都看護協会看護研究学会, 2003. 11.
- 13) 山倉里恵子, 佐藤裕美子: 新人看護師が行う入院患者申し送り内容の分析: 中堅看護師との比較から. 第34回日本看護学会看護管理, 2003. 11.
- 14) 八木沙友里, 村上美乃枝, 横田亜希子, 小杉佳代, 佐藤憲明, 早坂百合子: 脳死患者家族のニード&コーピングに基づいた看護介入の在り方の検討: CNS-FACEに基づく分析. 第5回日本救急看護学会, 2003. 11.
- 15) 伊与恭子: 生体肝移植の術後管理と今後の課題: 標準看護計画の作成を試みて. 第3回私立医科大学肝移植ミーティング, 2003. 11.
- 16) 千田英理子: 院内緩和ケア相談における看護師への効果. 第18回日本がん看護学会, 2004. 2.
- 17) 菅 由紀, 伊藤睦美, 中川仁美, 大橋さくら, 小島一郎, 佐藤憲明, 早坂百合子: クリティカルケア領域における口腔内環境の検討: 人工唾液を用いた口腔内乾燥度の評価. 第31回日本集中治療医学会, 2004. 3.
- 18) 佐藤雅恵, 西向ゆきみ: ICUで生命の危機に直面した患者の家族が望む医療への参加. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004. 3.

(3) セッション：

- 1) 藤田昌久: 感染対策における看護部の役割. 国際モダンホスピタルショウ2003, 2003. 7.

(4) トークセッション：

- 1) 藤田昌久: 当院における認定看護師の活動状況と展望(急性期看護における認定看護師の活用). 第34回日本

看護学会・成人看護Ⅰ, 2003. 10.

(5) 誌上发表:

- 1) 木下咲子, 真喜志紘子, 相森時子: 妊娠・出産後の排尿トラブルとその関連要因. 平成15年度東京都看護協会看護研究学会, 2003. 11.

## [ 付属病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

放射線科技術部門は, 診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である. 一般撮影, CT, RI, MRI, 血管撮影および放射線治療に関する研究を日常的に行っている.

一般撮影部門では, フラットパネルシステム (FPD) に関する研究を中心的に行い, 従来からあるCRシステムとの比較などを行い, FPDシステムの最適撮像条件を撮像部位ごとに求める研究を進めている.

RI部門は, 心筋SPECT 短軸像における偽欠損の検討を, 多施設の装置を用いた解析を進めた. また, 123 ヨード製剤を用いたシンチにおける心臓・縦隔比の変動要因の検討, 心電図同期SPECT による局所収縮能の経時的変化解析法の開発などを進めている.

MRI部門は, 造影剤を使用せずに血管を描出する非造影MR Angiographyの検討を進め, 検査時間の短縮や画質改善方法についてまとめた. また, 同様に非造影で下肢の静脈を良好に描出する撮像技術について研究を進めている.

放射線技術部門は, 診療用画像検査全般を扱う部門であり, それぞれの部門ごとに毎年の研究テーマを決め, 「正確な画像診断」を行うことが可能となる「よりよい画像データ」を各診療科に提供できるように, 研究に取り組んでいる.

### 研究業績

#### 論文

(1) 総説:

- 1) 土橋俊男: 造影3D-MRAにおけるk-space充填方法を中心に. 日本放射線技術学会 放射線撮影分科会誌 2003; (40): 54-58.
- 2) 天野康雄<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 土橋俊男, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 大動脈疾患における造影MRAの長所と留意すべき改善点. インナービジョン 2003; 18(7): 64-68.
- 3) 土橋俊男: 基礎講座MRシリーズ: MR Angiography (MRA). 日本放射線技術学会誌 2003; 59(9): 1112-1122.
- 4) 土橋俊男: 基礎講座MRシリーズ: MRIのArtifact. 日本放射線技術学会誌 2003; 59(11): 1370-1377.

#### 著書

- 1) 土橋俊男: [分担]6 MRI検査. 看護師画像検査フルコース(宗近宏次・長尾真澄・中澤靖夫), 2003; pp91-113, メジカルビュー.

#### 学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 土橋俊男: 検査現場の現状と問題(安全なMR検査を行うために). 日本放射線技術学会東京部会, 2003. 5.

(2) セミナー:

- 1) 土橋俊男: 腹部・骨盤部のMRI検査: 臨床検査の実際と応用(MRI検査中・上級編). 日本放射線技師会, 2003. 10.



- 2) 土橋俊男：MR アンジオの基礎（レクチャーコース MRI）. 日本放射線技師会，2003．11．
- 3) 土橋俊男：MRI 概論（MR 装置の安全管理と画質評価のためのセミナー）. 日本放射線技術学会，2003．11．
- (3) ワークショップ：
- 1) 土橋俊男：k-空間の応用技術：臨床応用のポイントと問題点2（k-空間を利用した高速化技術）. 日本放射線技術学会，2003．4．
- (4) 一般講演：
- 1) 土橋俊男，松村善雄，三代繁幸，根津伸弘：Parallel Imaging 法と Half Fourier 法を併用した心電図同期 2D-TOF MRA．日韓放射線技師学術大会（韓国），2004．2．
- 2) 藤田 功<sup>1)</sup>，三橋則行<sup>1)</sup>，打田隆夫<sup>1)</sup>，細野英雄<sup>1)</sup>，松村善雄，土橋俊男，宮田知子<sup>2)</sup>，工藤 健<sup>2)</sup>，喜種慎一<sup>3)</sup>，町田好男<sup>3)</sup>，児島富美敏<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>さいたま市立病院，<sup>2)</sup>東芝メディカル（株），<sup>3)</sup>（株）東芝医用システム社）：2D-TOF における Parallel Imaging の検討．日本放射線技術学会，2003．4．
- 3) 櫻井 実，小菅 豊，鈴木 健，齋藤晴美：123 ヨード製剤を用いたシンチにおける心臓・縦隔比の変動要因の検討．日本放射線技術学会，2003．4．
- 4) 藤田 功<sup>1)</sup>，三橋則行<sup>1)</sup>，打田隆夫<sup>1)</sup>，片桐科子<sup>1)</sup>，富永紳一<sup>1)</sup>，朝見淳規<sup>1)</sup>，土橋俊男，宮田知子<sup>2)</sup>，工藤 健<sup>2)</sup>，喜種慎一<sup>3)</sup>，町田好男<sup>3)</sup>，児島富美敏<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>さいたま市立病院，<sup>2)</sup>東芝メディカル（株），<sup>3)</sup>（株）東芝医用システム社）：パラレルイメージング併用 2D-TOF-MRA を用いた静脈描出：特に呼吸同期併用の有用性について．日本磁気共鳴医学会，2003．9．
- 5) 藤田 功<sup>1)</sup>，三橋則行<sup>1)</sup>，打田隆夫<sup>1)</sup>，片桐科子<sup>1)</sup>，富永紳一<sup>1)</sup>，朝見淳規<sup>1)</sup>，土橋俊男，宮田知子<sup>2)</sup>，工藤 健<sup>2)</sup>，喜種慎一<sup>3)</sup>，宮崎美津子<sup>3)</sup>，町田好男<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>さいたま市立病院，<sup>2)</sup>東芝メディカル（株），<sup>3)</sup>（株）東芝医用システム社）：下肢動脈における非造影 MR Angiography の比較：Flow Spoiled FBI vs. 2D-TOF．日本磁気共鳴学会，2003．9．
- 6) 櫻井 実，小菅 豊，三代繁幸，根津伸弘：心電図同期 SPECT による局所収縮能の経時的変化解析法．日本放射線技術学会，2003．10．
- 7) 櫻井 実，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，趙 圭一<sup>1)</sup>，小菅 豊，福嶋善光<sup>1)</sup>，齋藤晴美，隈崎達夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>放射線医学）：収集角度の違いによる心筋 SPECT 画像上の点広がり関数．日本核医学会，2003．10．
- 8) 増山桂一，小林宏之，小川匡史，根津伸弘：FPD システムにおける画像処理と検出能について．日本放射線技術学会，2003．10．
- 9) 小川匡史，増山桂一，小林宏之，根津伸弘：両面集光 CR システムと FPD システムの画質比較．日本放射線技術学会，2003．10．
- 10) 櫻井 実，大場泰幸<sup>1)</sup>，森 一晃<sup>2)</sup>，菊川紀子<sup>3)</sup>，高野正明<sup>4)</sup>，木川隆司<sup>5)</sup>，金谷信一<sup>6)</sup>，清水正三<sup>7)</sup>（<sup>1)</sup>東京都済生会中央病院，<sup>2)</sup>虎の門病院，<sup>3)</sup>榊原記念病院，<sup>4)</sup>東邦大学医学部付属大森病院，<sup>5)</sup>千葉大学付属病院，<sup>6)</sup>東京女子医科大学付属病院，<sup>7)</sup>慶應義塾大学付属病院）：180 度心筋 SPECT 短軸像における偽欠損の検討：他施設・多装置による検討．日本放射線技術学会関東・東京部会，2004．2．
- (5) 技術フォーラム：
- 1) 土橋俊男：2D-TOF を用いた MRA（躯幹部・四肢領域の非造影 MR Angiography について）. 日本放射線技術学会東京部会，2003．9．

## [ 付属病院医療安全管理部 ]

### 研究概要

エラー発生後，損害予防のためのクリティカルパスの開発

近年インシデントを報告し，それを集めて分析することにより，医療事故を減らす方法，「安全管理」（セーフテ

ィ・マネジメント)が、新たに国際的にも提唱されている。しかし転倒・転落や誤薬などのインシデントは、発生時の内容を報告すれば終わりではなく、その出来事による損傷を防ぐか最小限にする「危機管理」(リスク・マネジメント)を実施することが重要である。そのためには、様々な職種の医療従事者が患者、家族と情報を共有し、専門的知識・技術を持ち、治療・ケアに取り組む「チーム医療」必要である。しかもその対処の仕方は、教育がなされていなければ的確に実施できず、個人の能力から影響を受けるため、出来事に対する「組織的対応」としてリスクを孕んでいた。

このような中、事故防止対策として医療の標準化が言われ、様々な施設でクリティカルパスの開発が進んでいるが、クリティカルパスは多数の専門化が情報を共有し、標準的で、段階に沿って治療・ケアに取り組むため、事故防止対策のツールとして最適である。またクリティカルパスを実施することは、個人の対処ではなく各職種が患者・家族と「チーム医療」を行うことを「組織として表明」することであるため、安全文化の醸成につながるうえからも、クリティカルパスの開発が必須である。

さらに事故防止対策の視点として「人間は間違いを起こさない」から「人間は間違いを起こす」ということを前提として考えていくことが大切であるが、いままでのクリティカルパスは間違いを起こさないようにするためのパスという視点からしか考えて来なかった。そのため「人間は間違える」のだということの基本にし、エラー発生後、患者の損傷を最小限に抑えるためのクリティカルパスの開発を行ったのでその報告をする。

## 研究業績

### 論文

- 1) 長谷川幸子：倫理観に基づく自立性を生かしたリスクマネジメント．主任&中堅 2003；12(15): 58-69．
- 2) 長谷川幸子：セクハラ対策は院内リスクマネジメントの一環で．ナースデータ 2003；24(10): 13-18．

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 長谷川幸子，長谷川敏彦：エラー発生後損傷予防のためのクリティカルパスの開発．第5回医療マネジメント学会学術総会，2003．6．

## [ ワクチン療法研究施設 ]

### 研究概要

当研究施設は、1972年の開設以来、丸山千里先生が開発されたSSM(人型結核菌体抽出物質)による癌の免疫療法を研究の中心課題としている。SSMは、現在、有償治験薬として使用されているが、治験登録患者数は2004年3月31日現在、364,924例に達している。丸山先生のご逝去後も、依然として多数の新規患者の紹介を受けており、初診・再診・郵送を含めて多い日には400名以上の患者を迎えていることから、SSMは有償治験薬という形で供給されているが、実際には治療薬として使用されているといえる。この点を考慮し、SSMの使用法を画一的方法に限定せず主治医からの経過報告を基に各患者個別に検討している。この研究の結果、投与法を基本法であるSSM-A・SSM-Bの交互隔日法から、A単独隔日・B単独隔日・AB交互連日・A単独連日等に変更することで、化学療法・放射線療法等の副作用軽減や一般状態改善がみられる症例のあること等が判明しつつある。SSM使用患者は、多くがSSM開始時点で既に進行期癌であったにも拘わらず、良好な一般状態(Performance Status)を維持しつつ長期延命の報告がみられることは、SSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果と考えられる。現在は、SSMの使用状況や成績についての検討・報告に加え、SSMの本来の使用目的ともいえるBiological Response Modifiers(BRM)としての作用ならびに癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌患者におけるQuality of Life(QOL)向上と延命効果の立場から、当施設ならではの膨大な症例数を基にした臨床生命表による検討と、SSMの作用が期

待できる背景要因の検討を行っている。また、SSMの経口投与の可能性、前癌病変に対する応用および癌予防への応用についても基礎実験・検討を重ねている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Mitsuishi T<sup>1)</sup>, Iida K, Kawana S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): Cimetidine treatment for viral warts enhances IL-2 and IFN- expression but not IL-18 expression in lesional skin. Eur J Dermatol 2003 ; 13 ( 5 ): 445-448 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 鈴木かやの<sup>1)</sup>, 金森幸男<sup>1)</sup>, 高田香織<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 飯田和美(<sup>1)</sup>皮膚科学): 紫外線照射による接触過敏反応の抑制機序の検討。第53回日本アレルギー学会総会, 2003. 10.

## 21 . 第二病院付置施設等

### [ 第二病院消化器病センター ]

#### 研究概要

消化器病センターは消化器外科医・内科医により構成され、消化器疾患全般の診断から治療まで幅広く診療および研究を行っている。研究概要としては、消化器疾患関連領域に関する以下のテーマについて臨床的、基礎的研究を進めている。

1. 消化器癌の集学的治療，抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌，大腸癌化学療法 の確立
2. イレウスの保存的・外科的治療，病態解析，新しい診断と治療の開発
3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的，基礎的研究
4. 低侵襲性手術（腹腔鏡手術，胸腔鏡下食道切除術）の技術改良と標準化
5. IVRを応用した消化管，胆道，血管内ステント治療
6. 内視鏡治療，早期癌に対するEMR，内視鏡的胆道結石治療（EMS-lithotripsyの開発，EST+EPLD）および閉塞性黄疸の減黄術
7. 胃癌，大腸癌における増殖因子に関する臨床病理学的研究，分子標的治療の基礎的研究
8. 肝細胞癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究（老人病研究施設との共同研究）
9. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究（老人病研究施設との共同研究）
10. 創傷治癒，外科侵襲に関する基礎的研究

#### 研究業績

##### 論 文

##### (1) 原著：

- 1) Akimaru K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Umehara M<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Uchiyama K, Shimizu K<sup>2)</sup>, Ochi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>1st Department of Surgery, <sup>2)</sup>2nd Department of Surgery ): Resections of the liver, inferior vena cava, and right kidney for recurrences over 10 years after right adrenalectomy for carcinoma . Eur J Surg 2002 ; 168 : 130-133 .
- 2) Matsukura N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Togashi A<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Tokunaga A, Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Surgery I, <sup>2)</sup>Department of Pathology ): *Helicobacter pylori* eradication therapy for the remnant stomach after gastrectomy . Gastric Cancer 2003 ; 6 ( 2 ): 100-107 .
- 3) Minami A, Fujita R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Cancer Institute Hospital ): A new technique for removal of bile duct stones with an expandable metallic stent . GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY 2003 ; 57 ( 7 ): 945-948 .
- 4) Miyashita M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Yanagi K<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Tokunaga A ( <sup>1)</sup>Department of Surgery I ): Serum levels of vascular endothelial growth factor, basic fibroblast growth factor and endostatin in human metastatic liver tumors . Hepatogastroenterology 2003 ; 50 : 308-309 .
- 5) Onodera H<sup>1)</sup>, Tokunaga A, Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Surgery I ): Surgical outcome of 483 patients with early gastric cancer : prognosis<post-operative mortality and morbidity, and gastric remnant cancer . Hepatogastroenterology 2004 ; 51 ( 55 ): 82-85 .
- 6) Shibuya T, Shioya T, Kokuma M, Watanabe Y, Moriyama Y, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Uchiyama K<sup>2)</sup>, Mori H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Nippon Medical School 2nd Hospital, Pathology, <sup>2)</sup>Ebina General Hospital, Surgery, <sup>3)</sup>Kusakabe Hospi-

tal): Cure of intractable pancreatic fistula by subcutaneous fistulojejunostomy . J Gastroenterol 2004 ; 39 (2): 162-167 .

7) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup>外科学第1): 胃切除クリニカルパスの費用分析 . 日本消化器病会誌 2003 ; 100 (5): 555-561 .

8) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 三橋恭子<sup>2)</sup>, 伊勢雄也<sup>3)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 長谷川幸子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>看護部, <sup>3)</sup>薬剤部): 胃切除患者におけるクリニカルパスの臨床的意義 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 (3): 263-269 .

9) 水谷 聡, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 松本光司<sup>1)</sup>, 藤井博昭<sup>2)</sup>, 森山雄吉 ( <sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>順天堂大学病理): 肛門管への壁内転移が腔直接浸潤を呈した上部直腸癌の1例 . 日本消化器外科学会雑誌 2003 ; 36 (9): 1336-1341 .

10) 二村浩史<sup>1)</sup>, 塚越 茂<sup>2)</sup>, 中嶋正暢<sup>3)</sup>, 跡見 裕<sup>3)</sup>, 鈴木恵史<sup>4)</sup>, 草野満夫<sup>4)</sup>, 吉行俊郎<sup>5)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学外科, <sup>2)</sup>東京がん化学療法研究会, <sup>3)</sup>杏林大学1外, <sup>4)</sup>昭和大学2外, <sup>5)</sup>日本医科大学外科学第1): 切除不能・再発胃癌に対するTS - 1とLentinanの併用療法: Pilot study . 癌と化学療法 2003 ; 30 (9): 1289-1296 .

11) 三並 敦: EBDの基本: Plastic Stent and Metallic Stent . 消化器内視鏡 2004 ; 16 (3): 441-443 .

## (2) 綜説:

1) 徳永 昭, 森山雄吉, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第1): 創傷治療と高気圧酸素療法 . 外科治療 2004 ; 90 (3): 343-344 .

## (3) 研究報告書:

1) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 三橋恭子<sup>2)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 長谷川幸子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>看護部): 胃がん治療ガイドラインの解説にそった胃手術後の食事療法の現況 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 (2): pp183-185 .

2) 吉村成子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第1): 当施設で急増しているメニエル型減圧症について . 日本高気圧環境医学会雑誌 2003 ; 38 (4): pp263-267 .

3) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup>外科学第1): 穿孔性胃潰瘍による腹膜炎術後に発症した孤立性脾膿瘍の1例 . 日本臨床外科学会雑誌 2003 ; 64 (12): pp3148-3151 .

4) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup>外科学第1): ステロイド長期投与患者野腹部救急疾患の治療 . 日本腹部救急医学会雑誌 2004 ; 24 (3): pp189-194 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

1) 三並 敦, 桜井 彰<sup>1)</sup>, 杉山 靖<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>川崎協同病院): EMSを利用した総胆管結石治療 . 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 2003 . 10 .

2) 水谷 聡, 設楽雄次郎<sup>1)</sup>, 山縣久美<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>加齢科学細胞生物学): 癌細胞の抗癌剤耐性の1因はミトコンドリアDNAの体細胞変異にある . 第26回日本分子生物学会, 2003 . 12 .

### (2) パネルディスカッション:

1) 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第1): 大学病院における胃切除クリニカルパスと研修医教育 . 第58回日本消化器外科学会, 2003 . 7 .

2) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup>外科学第1): 胃切除後自由摂食パスによる栄養管理 . 第58回日本消化器外科学会, 2003 . 7 .

(3) ワークショップ:

- 1) 三並 敦, 杉山 靖<sup>1)</sup>, 桜井 彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>川崎協同病院内科): 慢性膵炎治療における副乳頭からのアプローチ . 第65回日本消化器内視鏡学会総会, 2003 . 5 .
- 2) 渡辺昌則, 松信哲朗, 小峯 修, 吉野雅則, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉: 食道癌鏡下手術の現状での適応と成績 . 第16回日本内視鏡外科学会総会, 2003 . 12 .
- 3) 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 徳永 昭 (<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌患者への緩和医療: 閉塞症状にたいする処置 . 第76回日本胃癌学会, 2004 . 3 .

(4) サージカルフォーラム:

- 1) 塩谷 猛, 杠葉 良, 小原邦彦, 栗原雄司, 岩村太郎, 尾形昌男, 渡辺昌則, 小熊將之, 渋谷哲男, 森山雄吉, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 胃癌におけるアポトーシス制御因子 ( p53, Bcl-2, Bax ) 発現の臨床病理学的検討 . 第103回日本外科学会定期学術集会 ( 北海道 ( 札幌 ) ), 2003 . 6 .

(5) 一般講演:

- 1) Matsukura N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Togashi A<sup>1)</sup>, Nasuda G<sup>1)</sup>, Tokunaga A, Morino K<sup>1)</sup>, Yamahatsu J<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Surgery I): *Helicobacter pylori* eradication therapy of the remnant stomach after gastrectomy : Histological comparison with untreated remnant stomach and treated unoperated stomach . 5th International Gastric Cancer Congress ( Roma ), 2003 . 5 .
- 2) Minami A, Yasushi S<sup>1)</sup>, Akira S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Kawasaki Kyodo Hospital): Expandable Metallic Stent-Assisted Biliary Lithotripsy in Patients with Biliary Stricture after Gastrectomy and the Papilla on the Inner Rim or Deep Within a Diverticulum . 2003 ASGE Meeting ( Orlando, Florida ), 2003 . 5 .
- 3) Tokunaga A, Tajiri T<sup>1)</sup>, Lee Y<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Okuda T<sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I, <sup>2)</sup>Department of Pathology): Bile reflux causes mucosal redness and helicobacter pylori infection causes inflammatory cell infiltration of gastric remnant after gastrectomy . 5th International Gastric Cancer Congress ( Roma ), 2003 . 5 .
- 4) Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Okuda T<sup>1)</sup>, Tokunaga A, Masuda G<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Mizutani T<sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I): Intraoperative lymphatic mapping by dye ( s ) and immunostaining of cytokeratin in patients with early gastric cancer . 5th International Gastric Cancer Congress ( Roma ), 2003 . 5 .
- 5) Hirata T, Nagai H<sup>1)</sup>, Okino K<sup>1)</sup>, Komazaki T, Koizumi K<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Molecularbiology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>Department of Surgery 2): Comparison of gene profiles between N0 and N2 NSCLC using cDNA microarray . American Association for Cancer Research, 94th Annual Meeting ( Washington, D. C. ), 2003 . 7 .
- 6) Komazaki T, Nagai H<sup>1)</sup>, Terada Y<sup>1)</sup>, Yabe A<sup>1)</sup>, Konishi N<sup>2)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>, Moriyama Y (<sup>1)</sup>Department of Molecularbiology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Nara Medical University): Gene expression analysis of the liver as a background of hepatocarcinogenesis . American Association for Cancer Research, 94th Annual Meeting ( Washington, D. C. ), 2003 . 7 .
- 7) Nagai H<sup>1)</sup>, Yabe A<sup>1)</sup>, Komazaki T, Nagahata T<sup>1)</sup>, Iwasaaki H<sup>1)</sup>, Baba M<sup>2)</sup>, Nakamura M<sup>2)</sup>, Konishi N<sup>3)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Molecularbiology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>The 3rd Department of Internal Medicine, Mie University, School of Medicine, <sup>3)</sup>Department of Pathology, Nara Medical University): Field cancerization for the liver . American Association for Cancer Research, 94th Annual Meeting ( Washington, D. C. ), 2003 . 7 .
- 8) Okino K<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>2)</sup>, Komazaki T, Araki T<sup>1)</sup>, Emi M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology,

- <sup>2)</sup> Department of Molecularbiology, Institute of Gerontology ): Down regulation of C3G ( Crk SH3 domain-binding guanine nucleotide-releasing factor ) in cervical squamous cell carcinoma . American Assosiation for Cancer Research, 94th Annual Meeting ( Washington, D. C. ), 2003 . 7 .
- 9 ) Minami A , Yasushi S<sup>1)</sup> , Akira K<sup>1)</sup> , Akira S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kawasaki Kyodo Hospital ): Expandable Metallic Stent-Assisted Biliary Lithotripsy in Patients with Billyoth II Gastrectomy and the Papilla on the Inner Rim or Deep Within a Diverticulum . 7th Biennial Congress ( Chennai, India ), 2003 . 8 .
- 10 ) Ishihara H<sup>1)</sup> , Shioya T , Matsumoto K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Shin-Yokohama Hospital , <sup>2)</sup> Nippon Medical School 2nd Hospital, Pathology ): Superficial Adenocarcinoma In Short Segment Barrett's Esophagus : A Case Report and Review of Japanease Literature . 7th World Organization for Specialized Studies on Diseases of the Esophagus ( OESO ) ( Paris ), 2003 . 9 .
- 11 ) Watanabe M , Ishiwata T<sup>1)</sup> , Yoshino M , Komine O , Shioya T , Naito Z<sup>1)</sup> , Shibuya T , Tokunaga A , Moriyama Y ( <sup>1)</sup> Department of Pathology II ): Inhibitory Effect of Antisense Oligonucleotide for Keratinocyte Growth Factor Family on Colon Cancer Cells . THE 20th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter ( Guam, USA ), 2003 . 10 .
- 12 ) Yoshino M , Ishiwata T<sup>1)</sup> , Watanabe M , Matsumoto K<sup>2)</sup> , Komine O , Moriyama Y , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology II , <sup>2)</sup> Division of Pathology, Second Hospital Nippon Medical School ): Expression of keratinocyte growth factor receptor ( KGFR/FGFR-2IIIb ) in human colorectal cancer cell lines and colorectal cancer tissues . The 20th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter ( Guam, USA ), 2003 . 10 .
- 13 ) Minami A , Yasushi S<sup>1)</sup> , Akira K<sup>1)</sup> , Akira S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Kawasaki Kyoudo Hospital ): Expandable Metallic Stent-Assisted Biliary Lithotripsy in Patients with Billyoth II Gastrectomy and the Papilla on the Inner Rim or Deep Within a Diverticulum . 18th International Workshop on Therapeutic Endoscopy ( Hong Kong ), 2003 . 12 .
- 14 ) 二宮理貴 , 塩谷 猛 , 山田雄介 , 渡邊善正 , 渋谷哲男 , 徳永 昭 , 森山雄吉 , 松本光司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部 ): 同時性単発性肝転移を伴った早期胃癌の1例 . 第76回日本胃癌学会総会 ( 鳥取県米子市 ), 2003 . 3 .
- 15 ) 尾崎卓司 , 渋谷哲男 , 内藤英二 , 小峯 修 , 小熊将之 , 渡辺昌則 , 森山雄吉 : 日本住血吸虫症を伴った大腸癌の1例 . 第788回外科集談会 ( 東京 ), 2003 . 3 .
- 16 ) 永井尚生<sup>1)</sup> , 寺田淑恵<sup>2)</sup> , 駒崎敏昭 , 藤元治朗<sup>2)</sup> , 平方敦史<sup>3)</sup> , 田尻 孝<sup>2)</sup> , 江見 充<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門 , <sup>2)</sup> 外科学第1 , <sup>3)</sup> 兵庫医科大学第一外科 ): 肝発癌の段階的遺伝子発現様式の検討 . 第89回日本消化器病学会総会 , 2003 . 4 .
- 17 ) 塩谷 猛 , 杠葉 良 , 小原邦彦 , 三浦克洋 , 南部弘太郎 , 渋谷哲男 , 森山雄吉 , 松本光司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部 ): 空腸 : 横行結腸間膜間皺壁が原因となったイレウスの1例 . 第39回日本腹部救急医学会総会 ( 青森 ), 2003 . 4 .
- 18 ) 塩谷 猛 , 小原邦彦 , 渡邊善正 , 小峯 修 , 岩村太郎 , 渋谷哲男 , 森山雄吉 : Kugel patch を用いた成人鼠径ヘルニア修復術の経験 . 第1回日本ヘルニア研究会 ( 東京 ), 2003 . 4 .
- 19 ) 加藤俊二<sup>1)</sup> , 田尻 孝<sup>1)</sup> , 松倉則夫<sup>1)</sup> , 増田剛太郎<sup>1)</sup> , 富樫晃祥<sup>1)</sup> , 藤田逸郎<sup>1)</sup> , 奥田武志<sup>1)</sup> , 木山輝郎<sup>1)</sup> , 吉行俊郎<sup>1)</sup> , 徳永 昭 , 内藤善哉<sup>2)</sup> , 松久威史<sup>3)</sup> , 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1 , <sup>2)</sup> 病理学第2 , <sup>3)</sup> 多摩永山病院消化器科 ): 胃癌発生高危険粘膜の特徴と加齢における変化および男女差 : 胃粘膜の inflammation ( INF ) , activity ( ACT ) , atrophy ( ATR ) , intestinal metaplasia ( IM ) と Helicobacter pylori ( HP ) 感染との関係 . 第89回日本消化器病学会総会 , 2003 . 4 .
- 20 ) 駒崎敏昭 , 永井尚生<sup>1)</sup> , 沖野恵子<sup>1)</sup> , 江見 充<sup>1)</sup> , 森山雄吉 ( <sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門 ): cDNA マイクロアレイによる慢性C型肝炎に対するインターフェロン/リパビリン感受性および抵抗性規定因子の検索 . 第89回日本消化器病学会総会 , 2003 . 4 .
- 21 ) 増田剛太郎<sup>1)</sup> , 田尻 孝<sup>1)</sup> , 徳永 昭 , 吉行俊郎<sup>1)</sup> , 富樫晃祥<sup>1)</sup> , 藤田逸郎<sup>1)</sup> , 奥田武志<sup>1)</sup> , 水谷 崇<sup>1)</sup> , 木山

- 輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 若年者胃癌の特徴: *Helicobacter pylori*感染および癌家族歴からみた背景. 第89回日本消化器病学会総会, 2003. 4.
- 22) 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 糖尿病と消化器疾患: とくに幽門側胃切除後の胃排出障害とその対策. 第89回日本消化器病学会総会, 2003. 4.
- 23) 杠葉 良, 塩谷 猛, 小原邦彦, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 森山雄吉, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>外科学第2): 食道癌による食道気管瘻, 気管狭窄に対する double stents の経験. 第39回日本腹部救急医学会総会(青森), 2003. 4.
- 24) 駒崎敏昭, 永井尚生<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 肝細胞癌における C3G 遺伝子発現の検討. 第39回日本肝臓学会総会, 2003. 5.
- 25) 千原直人, 渡辺昌則, 栗原雄司, 三浦克洋, 小峯 修, 内藤英二, 渋谷哲男, 森山雄吉: 腫瘍との鑑別を要した回盲部クローン病の1切除例. 日本医科大学医学会第110回例会, 2003. 5.
- 26) 奥田武志<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 消化管間葉系腫瘍手術例の臨床病理学的検討. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 27) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 野崎元子<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 5FU系抗癌剤投与前後の Thymidilate Synthetase (TS), Dihydropyrimidine Dehydrogenase (DPD) mRNA 発現の経時的変化と抗癌剤感受性試験としての応用. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 28) 駒崎敏昭, 永井尚生<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 体系的遺伝子発現解析による肝癌の病態像. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003. 6.
- 29) 渋谷哲男, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 小原邦彦, 岩村太郎, 内藤英二, 渡辺昌則, 小熊將之, 森山雄吉, 松本光司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院外科, <sup>2)</sup>日本医科大学第二病院病理部): 大腸癌における nm23, p53-LOH, DCC-LOH, RER および簇の検討. 第103回日本外科学会定期学術集会(北海道(札幌)), 2003. 6.
- 30) 小原邦彦, 森山雄吉, 渋谷哲男, 小熊將之, 渡辺昌則, 塩谷 猛, 栗原雄司: Comparative Genomic Hybridization Study in Esophageal Cancer Cell Associated with Chemoresistance. 第103回日本外科学会定期学術集会(北海道(札幌)), 2003. 6.
- 31) 松倉則夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 徳永昭, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 残胃の *Helicobacter pylori* 除菌治療の意義: 非除菌残胃および除菌非切除胃との比較. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 32) の場康德, 飯田信也<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 大網の創傷治癒促進作用の検討: bFGF mRNA 発現における Omental Implantation と Omental Patch の比較. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003. 6.
- 33) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 李 栄浩<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 幽門側胃切除後残胃および胃全摘後 ROUX-Y 再建食道におけるビリルビン逆流の意義. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 34) 奥田武志<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 当科における消化管間質系腫瘍(GIMT)切除例の臨床病理. 第58回日本消化器外科学会, 2003. 7.
- 35) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃切除後の再建法の評価: 残胃粘膜における IL-8, COX2 および TFF1 (ps2) の mRNA 発現からみて. 第58回日本消化器外科学会, 2003. 7.



- 36) 栗原雄司, 三浦克洋, 千原直人, 渡辺昌則, 徳永 昭, 渋谷哲男, 森山雄吉: 治療抵抗性胃 MALT リンパ腫の 1 例. 第 24 回神奈川胃癌治療研究会, 2003. 7.
- 37) 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第 1): 胃癌発生危険因子の研究: 若年者胃癌における HP 感染, 癌家族歴, CYP2E1 遺伝子多型. 第 58 回日本消化器外科学会, 2003. 7.
- 38) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 李 栄浩<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第 1): 幽門側胃切除, 胃全摘 (Roux-Y 法) 後の食道内ピリルピン逆流および 24hrPH モニター. 第 58 回日本消化器外科学会, 2003. 7.
- 39) 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第 1): 糖尿病合併早期胃癌手術における術前胃運動機能チェック. 第 58 回日本消化器外科学会, 2003. 7.
- 40) 永井信也, 小林靖宏<sup>1)</sup>, 鈴木 操<sup>2)</sup>, 森 隆<sup>3)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学・加齢科学・細胞生物, <sup>2)</sup>熊本大・動物資源開発研究センター, <sup>3)</sup>埼玉医科大学・総合医療センター): スーパーアポトーシス抑制因子 FNK 蛋白投与による肝虚血再灌流における細胞死の抑制. 第 12 回日本アポトーシス研究会年会, 2003. 8.
- 41) の場康徳, 飯田信也<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 森山雄吉(<sup>1)</sup>外科学第 1, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部) 穿孔性胃潰瘍における松林式大網充填術 Omental Implantation と大網被覆術 Omental Patch の実験的検討. 潰瘍病態研究会第 12 回フォーラム, 2003. 8.
- 42) 永井尚生<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭, 矢部 彩<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 峰岸正治<sup>1)</sup>, 長幡武光<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 角田達彦<sup>2)</sup>, 江見充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>理化学研究所遺伝子多型研究センター): 背景肝別にみた肝発がん因子の解析. 第 62 回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 43) 永井尚生<sup>1)</sup>, 矢部 彩<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 肝幹細胞分化の分子機構の解析. 第 71 回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 44) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第 1, <sup>2)</sup>病理学第 2): 残胃粘膜における IL-8, COX2, TFF1 (PS2) の mRNA 発現と Sydney System による胃粘膜スコアからみた胃切除後の再建法の評価. 第 62 回日本癌学会, 2003. 9.
- 45) 吉野雅則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 渡辺昌則, 松本光司<sup>2)</sup>, 小峯 修, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第 2, <sup>2)</sup>第二病院病理部): 培養大腸癌細胞およびヒト大腸癌組織における keratinocyte growth factor receptor (KGFR/FGFR 2IIIb) の発現. 第 71 回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 46) 駒崎敏昭, 永井尚生<sup>1)</sup>, 渡辺昌則, 矢部 彩<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉, 角田達彦<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>理化学研究所遺伝子多型研究センター): HCV - RNA レベルの違いによる宿主側遺伝子発現に対する影響. 第 62 回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 47) 松田範子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々間裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第 1, <sup>2)</sup>病理学第 2): 肝細胞癌および周辺肝組織中の COX2, HGF 発現の強弱と, 肝癌周囲肝細胞の線維化と予後との関係. 第 62 回日本癌学会, 2003. 9.
- 48) 星野有哉, Jensen R<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 渋谷哲男, 塩谷 猛, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>ヴァンダービルト大学病理学, <sup>2)</sup>日本医科大学生化学第 2): MMTV-BRCA1 (がん抑制遺伝子) トランスジェニックマウスを用いた化学発ガンによる発ガン機構の解析. 第 62 回日本癌学会総会 (名古屋), 2003. 9.
- 49) 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第 1): 若年者胃癌患者野背景: HP 感染, 癌家族歴, CYP2E1 遺伝子多型. 第 62 回日本癌学会, 2003. 9.

- 50) 峰岸正治<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 矢部 彩<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門,<sup>2)</sup>同病理学部門): ヒト肝芽細胞腫におけるJAK/STAT系の抑制因子異常. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 51) 矢部 彩<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭, 長幡武光<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門,<sup>2)</sup>外科学第1): 肝発ガン関連遺伝子の段階的発現. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 52) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 沼野藤雅<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 山下精彦<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 山田宣孝<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1,<sup>2)</sup>多摩永山病院消化器科,<sup>3)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* (HP) 感染による胃粘膜変化: 粘膜組織におけるIL-8, COXおよびTrefol Factor Family1 (TFF1: PS2) の遺伝子発現部位による番や性差と胃がん発生高危険粘膜の特徴. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 53) 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>3)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup>外科学第1,<sup>2)</sup>内科学第3): 糖尿病患者の早期胃癌手術における術前胃運動機能チェック. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 54) 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 核<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山正<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同病理部,<sup>3)</sup>外科学第1): ヒトスキルス胃癌の発生・進展における塩基性線維芽細胞増殖因子(bFGF)の位置づけ. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 55) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃切除後自由摂食パスによる目標摂取栄養量の検討. 第45回日本消化器病学会大会, 2003. 10.
- 56) 永井尚生<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭, 森山雄吉, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 肝細胞癌における早期肝内再発に対する腫瘍マーカーの検索. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 57) 塩谷 猛, 尾崎卓司, 渡邊善正, 小原邦彦, 小峯 修, 岩村太郎, 渋谷哲男, 森山雄吉: Kugel patchを用いた成人鼠径ヘルニア修復術. 第65回日本臨床外科学会総会(福岡), 2003. 11.
- 58) 奥田武志<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々間裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 臓器障害を有する患者の胃癌手術. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 59) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 水谷崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1,<sup>2)</sup>病理学第2): 残胃粘膜組織内IL - 8, COX2, HGF, TFF1 (PS2) mRNA 発現登山胃の発癌および胃切除後の再建法による違い. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 60) 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 臓器障害を有する患者の胃癌手術(1). 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 61) 駒崎敏昭, 永井尚生<sup>1)</sup>, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 徳永 昭, 江見 充<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 肝細胞前段階である慢性C型肝炎に対する治療効果規定因子の検索. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 62) 小泉正樹, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 神戸 将<sup>2)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 森 康昭<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院外科,<sup>2)</sup>外科第2): 6年来の間歇的腹痛発作を有した小腸カルチノイドの1症例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 63) 水谷 聡, 名取穰治<sup>1)</sup>, 森 康昭<sup>1)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 大村在幸<sup>1)</sup>, 小泉正樹, 松信哲朗, 神戸 将<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup>海老名総合病院外科): 多発性骨髄腫の乳房浸潤の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 64) 水谷 崇<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤

- 俊二<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 臓器障害を有する胃癌患者の手術: COPDおよび間質性肺炎. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 65) 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 治療成績から見た若年者胃癌の臨床病理学的特徴とリスクファクターの検討. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 66) 渡辺昌則, 千原直人, 吉野雅則, 小峯 修, 坊 英樹, 駒崎敏昭, 栗原雄司, 岩村太郎, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉: 胸腔鏡下手術における鏡視下セツシの工夫. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 67) 渡邊善正, 塩谷 猛, 尾崎卓司, 二宮理貴, 渋谷哲男, 森山雄吉, 菊谷真理子<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同病理部): 転移性膈ヘルニア嚢内癌の1例. 第65回日本臨床外科学会総会(福岡), 2003. 11.
- 68) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 川本聖郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>外科学第2): 臓器障害を有する患者の胃癌手術(2): 胃大網動脈によるCABG後. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 69) 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 谷合信彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 臓器障害を有する患者の胃癌手術(5): 糖尿病. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 70) 南部弘太郎, 黒住昌史<sup>2)</sup>, 伊藤嘉智<sup>1)</sup>, 渡部裕志<sup>1)</sup>, 山田達也<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 竹下勇太郎<sup>1)</sup>, 小林照忠<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンタ - 消化器外科, <sup>2)</sup>同病理科): 同一領域に類基底細胞癌と腺扁平上皮癌を認めた食道癌の1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 71) 坊 英樹, 渡辺昌則, 岩村太郎, 松信哲朗, 栗原雄司, 内藤英二, 渋谷哲男, 森山雄吉: 早期胃癌術後14年目に腹膜再発を生じた1例. 第65回日本臨床外科学会総会, 2003. 11.
- 72) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 臓器障害を有する患者の胃癌手術(6): 膠原病および関連疾患. 第65回日本臨床外科学会, 2003. 11.
- 73) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 合併症のある胃切除患者の費用分析. 第65回日本臨床外科学会, 2003. 11.
- 74) 永井信也, 小林靖宏<sup>1)</sup>, 鈴木 操<sup>2)</sup>, 森 隆<sup>3)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学・加齢科学・細胞生物, <sup>2)</sup>熊本大・動物資源開発研究センター, <sup>3)</sup>埼玉医科大学・総合医療センター): 細胞内導入型アポトーシス抑制活性強化因子PTD-FNK蛋白質投与による肝虚血再灌流における細胞死の抑制. 第26回日本分子生物学会年会, 2003. 12.
- 75) の場康徳, 飯田信也<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>多摩摩山病院病理部): ラット穿孔性胃潰瘍に対する松林式大網充填術(Omental Implantation) vs 大網被覆術(Omental Patch)による創傷治癒過程の相違. 第33回日本創傷治癒学会総会, 2003. 12.
- 76) 二宮理貴, 塩谷 猛, 山田雄介, 渡邊善正, 渋谷哲男, 徳永 昭, 森山雄吉, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 早期胃癌手術同時期に肝転移を来した症例. 第24回神奈川胃癌治療研究会, 2003. 12.
- 77) 奥田武志<sup>1)</sup>, 田尻 崇<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 徳永昭, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胃癌に合併したGIST7症例. 第76回日本胃癌学会, 2004. 3.
- 78) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): I胃粘膜IL - 8, COX2, HGF, TFF1遺伝子発現

と胃がん発生高危険粘膜の特徴とピロリ除菌による癌発生予防．第76回日本胃癌学会，2004．3．

- 79) 佐藤精一，塩谷 猛，二宮理貴，山田雄介，渡邊善正，渋谷哲男，徳永 昭，森山雄吉，松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部)：イレウスを契機に発見された小腸腸間膜脂肪織炎の1例．第40回日本腹部救急医学会総会(東京)，2004．3．
- 80) 小峯 修，渡辺昌則，尾形昌男，岩村太郎，塩谷 猛，坊 英樹，吉野雅則，小泉正樹，渋谷哲男，徳永 昭，森山雄吉：当科におけるS状結腸軸捻転症に対する治療方針．第40回日本腹部救急医学会，2004．3．
- 81) 松信哲朗，高柳博行<sup>1)</sup>，木村祐也<sup>1)</sup>，神戸 将<sup>1)</sup>，大村在幸<sup>1)</sup>，廣田 淳<sup>1)</sup>，森 康昭<sup>1)</sup>，名取穰治<sup>1)</sup>，内山喜一郎<sup>1)</sup>，木村純人<sup>1)</sup>，内藤剛彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院外科)：異所性腓を先進部とした5筒性回腸重積症の1例．第40回日本腹部救急医学会総会，2004．3．
- 82) 水谷 崇<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，野村 努<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，徳永 昭(<sup>1)</sup>外科学第1)：診療報酬からみた腹腔鏡補助下胃切除術．第76回日本胃癌学会，2004．3．
- 83) 渡辺昌則，小峯 修，坊 英樹，栗原雄司，塩谷 猛，渋谷哲男，徳永 昭，森山雄吉：腹部救急領域の急性肺障害に対する好中球エラストラーゼ阻害剤の治療成績．第40回日本腹部救急医学会，2004．3．
- 84) 徳永 昭，森山雄吉，田尻 孝<sup>1)</sup>，李 榮浩<sup>1)</sup>，増田剛太郎<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，加藤俊二<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：幽門側胃切除後の残胃炎と胆汁逆流，HP感染．第76回日本胃癌学会，2004．3．
- 85) 坊 英樹，岩村太郎，徳永 昭，森山雄吉，松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部)：石灰化胃癌の1例．第76回日本胃癌学会，2004．3．
- 86) 木山輝郎<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，沖野哲也<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，加藤俊二<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，徳永 昭(<sup>1)</sup>外科学第1)：十二試聴潰瘍穿孔の治療法の選択．第40回日本腹部救急医学会，2004．3．
- (6) ビデオセッション：
- 1) 塩谷 猛，小原邦彦，吉野雅則，渡邊善正，杠葉 良，三浦克洋，渡辺昌則，渋谷哲男，森山雄吉：重症急性膵炎に対する動注療法．第58回日本消化器外科学会総会(東京)，2003．7．
- (7) ポスター：
- 1) 千原直人，渡辺昌則，栗原雄司，三浦克洋，小峯 修，内藤英二，渋谷哲男，森山雄吉：診断に難渋した回盲部クローン病の1切除例．第65回日本臨床外科学会総会，2003．11．
- (8) 一般講演(ビデオ)：
- 1) 渡辺昌則，吉野雅則，小峯 修，栗原雄司，岩村太郎，塩谷 猛，尾形昌男，森山雄吉：食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術の工夫．第57回日本食道学会学術集会，2003．6．
- (9) 要望演題：
- 1) 三並 敦，早川彰一郎<sup>1)</sup>，栗谷川彰<sup>1)</sup>，杉山 靖<sup>1)</sup>，桜井 彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>川崎協同病院)：EMSを利用した採石困難症例における総胆管結石治療．第39回日本胆道学会学術集会，2003．9．

## [ 第二病院リハビリテーションセンター ]

### 研究概要

リハビリテーション科では，脳外科，神経内科，整形外科，小児科など臨床の各科の患者の治療にあたり，患者層は多彩であるとともに，スタッフも医師をはじめ理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，ソーシャルワーカー，看護師といわゆるメディカルとのチーム医療が実践されている．研究面にもこのことが反映され，各スタッフがそれぞれ関心ある領域の研究が行われている．

リハ医学の基礎的な分野では，主として随意運動の電気生理学的研究が引き続き行われ，またリハビリテーションの科学的・理論的整理を行っている．

理学療法・作業療法分野では、高次脳機能障害の臨床的研究および退院後の自立性維持のための家屋環境につき追跡調査を続けながらその問題点等の検討を行っている。言語療法関係では、言語の「意味」をめぐる様々な障害について引き続き臨床的な研究を行っている。ソーシャルワーカー分野では、障害者の職場復帰等社会的援助について検討を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) 竹内孝仁：高齢者の寝たきりを防ぐリハビリテーション。シリーズ骨粗鬆症と転倒・骨折予防 2003；6：4-5。
- 2) 竹内孝仁：「パワーリハビリテーション」って何？。シリーズ骨粗鬆症と転倒・骨折予防 2003；44-45。
- 3) 竹内孝仁：自立支援と新しい治療法としてのパワーリハビリテーション。専門リハビリテーション 2003；2：2-6。
- 4) 竹内孝仁：待機者問題の解決に必要な地域生活支援重視の考え方。Home Care Medicine 2003；(5)：6-8。
- 5) 竹内孝仁：安定した介護保険制度のために：次期改定に向けた三つの提言。ウェルフェア特別号 2003；3-12。
- 6) 竹内孝仁：よりよい介護サービスを受けるために。ハナさん 2003；15：6-7。
- 7) 竹内孝仁：マシントレーニングで眠っている筋肉を呼び覚ませ！：パワーリハビリテーションという新しい試み。ポスター 2003；21：48-51。
- 8) 望月秀樹：作業療法におけるパワーリハビリテーションの試み。総合ケア 2003；14(14)：68-71。
- 9) 新貝尚子：小児失語症例における失読パターン：単語属性効果の検討による失語機序の分析。高次脳機能研究 2003；23：138-148。
- 10) 竹内孝仁：寝たきりにはならないぞ！。月刊寿 2003；(8)：30-35。
- 11) 竹内孝仁：介護予防に歯科はどうかかわるか。歯界展望 2003；102(2)：385-400。
- 12) 竹内孝仁：寝たきりにもつながる“閉じこもり”。はつらつ 臨時増刊号 夏 2003；1-2。
- 13) 竹内孝仁：パワーリハビリテーションの目的。日本醫事新報 2003；(4140)：106-107。
- 14) 竹内孝仁：豊かな生活とは何か：「おむつはずし」の原点。おはよう21 2003；(10)：48-51。
- 15) 竹内孝仁：要介護高齢者を減らす新しい運動プログラム：「パワーリハビリテーション」で自立を目指せ。栄養と料理 2003；(10)：84-91。
- 16) 竹内孝仁：高齢社会に切り込むパワーリハビリテーション。臨床スポーツ医学 2003；20(11)：1346-1348。
- 17) 竹内孝仁：慢性期のリハビリテーション。Brain Nursing 2003；(1)：37-41。
- 18) 木村義徳：パワーリハビリテーション。別冊総合ケア 2003；58-68。
- 19) 竹内孝仁：地域リハビリテーション論。リハビリテーションネットワーク研究 2004；1(1)：15-21。
- 20) 竹内孝仁：パワーリハビリ。老年精神医学雑誌 2004；15(1)：21-25。

### 著書

- 1) 竹内孝仁：〔共著〕高齢者看護学。高齢者看護学，2003；中央法規。
- 2) 竹内孝仁：〔自著〕「閉じこもり」への地域リハビリサービスの検討に関する研究。「閉じこもり」高齢者のスクリーニング尺度の作成と介入プログラムの開発，2003；pp34-39，年友企画。
- 3) 竹内孝仁：〔編集〕改訂介護支援専門員基本テキスト全4巻。改訂介護支援専門員基本テキスト，2003；長寿社会開発センター。
- 4) 竹内孝仁：〔分担〕ホームヘルパー養成研修テキスト2級課程第3巻。ホームヘルパー養成研修テキスト2級課程第3巻，2003；pp201-237，長寿社会開発センター。
- 5) 竹内孝仁：〔共著〕ダイナミックメディスン1，2。ダイナミックメディスン1，2，2003；西村書店。

- 6) 新貝尚子：〔分担〕失読の治療，よくわかる失語症と高次脳機能障害．失読の治療，よくわかる失語症と高次脳機能障害，2003；pp211-217，永井書店．
- 7) 竹内孝仁：〔共著〕第2章 質の高いケアをめざして：痴呆性高齢者のリハビリテーション．介護老人保健施設職員ハンドブック，2003；pp44-49，厚生科学研究所．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 木村義徳，榎本雪絵，宮田光明，丸山玲子，竹内孝仁：後期高齢者，神経疾患，中等度要介護者に対するパワーリハビリテーションの試み．第38回日本理学療法学会大会，2003．5．
- 2) 丸山玲子，木村義徳，榎本雪絵，宮田光明，井上直子，竹内孝仁：パーキンソン病に対するパワーリハの効果．第38回日本理学療法学会大会，2003．5．
- 3) 榎本雪絵，丸山玲子，木村義徳，宮田光明，井上直子，竹内孝仁：パワーリハビリテーションにおけるQOLに関する効果．第38回日本理学療法学会大会，2003．5．
- 4) 井上直子，丸山玲子，木村義徳，榎本雪絵，宮田光明，竹内孝仁：酸素摂取量，心負荷からみたパワーリハビリテーションの安全性の検証．第38回日本理学療法学会大会，2003．5．
- 5) 木村義徳：パワーリハビリテーションの効果．第38回日本理学療法学会大会，2003．5．
- 6) 望月秀樹，堀切頼子，西田有紀子，竹内孝仁：当院におけるパワーリハビリテーションの試み．第37回日本作業療法学会集會，2003．6．
- 7) 堀切頼子，望月秀樹，西田有紀子，竹内孝仁：パワーリハビリテーションにおける行動変容の効果．第37回日本作業療法学会集會，2003．6．
- 8) 西田有紀子，望月秀樹，堀切頼子，竹内孝仁：パワーリハビリテーションにより動作性および自発性が向上した介護度4の症例についての報告．第37回日本作業療法学会集會，2003．6．
- 9) 望月秀樹：パワーリハビリテーション．第37回日本作業療法学会集會，2003．6．
- 10) 新貝尚子：小児失語症例における失読パターン：単語属性効果の検討による失読機序の分析．第6回認知神経心理学研究会，2003．8．
- 11) 新貝尚子：失語の捉え方とその訓練方法．第27回日本高次脳機能障害学会総会サテライトプログラム，2003．12．
- 12) 榎本雪絵，宮田光明，木村義徳，井上直子，丸山玲子，竹内孝仁：パワーリハビリテーションにおける筋量測定の結果と考察．第3回パワーリハビリテーション学会大会，2004．1．
- 13) 丸山玲子，木村義徳，宮田光明，井上直子，榎本雪絵，竹内孝仁：パーキンソン病に対するパワーリハビリテーションの効果．第3回パワーリハビリテーション学会大会，2004．1．
- 14) 西田有紀子，望月秀樹，堀切頼子，竹内孝仁：パワーリハビリテーションにおける高次脳機能評価について．第3回パワーリハビリテーション学会大会，2004．1．

## [ 第二病院病理部 ]

### 研究概要

これまでと同様に外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断難解例の免疫組織学的および電子顕微鏡的な検索と言った病院病理学業務に沿った研究が主体であり，症例報告あるいは症例解析などの学会発表および論文報告を毎年コンスタントに行っている．平成8年より導入したパソコンによる診断のデータベース化により細胞診および組織診の診断精度の向上を図っているが，リアルタイムに患者の既往歴を検索できると同時に，各臓器別あるいは疾患別のデータ抽出が容易であることから，臨床科の依頼に沿った疾患の統計学的な解析も行っている．スタッフ（医師1名，技師5名）の少ない当病理部としては，各分野への細分化された研究を充分に行うことはできないが，各

スタッフの得意分野（肝臓病理および臓器移植の病理，細胞診断）から徐々に研究を発展させて行きたいと考えている．

また，これまでの年報でも述べたが，平成5年より続けている群馬大学との共同研究（1）臓器移植の際の保存再灌流障害（肺，肝臓，小腸，心臓）に関する研究，（2）NHBD（non-heart beating donor）からの臓器移植に関する研究は，引き続き国内外で高い評価を得ている．

昨年度は「臓器の虚血再灌流障害：基礎と臨床」として一つの区切りをつけ，現在これらの研究に対し，さらに課題を進展させ実験を継続中である．このほか，平成7年より慶応大学医学部で，平成9年より日本大学医学部で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的な検討に関する共同研究は，平成12年より本学，平成13年より自治医科大学も加わり継続して行っているが，多施設からの貴重な症例を解析することにより，肝臓移植病理のマニュアルを完成させることが出来た．これからも他施設および付属病院病理部と共同し，移植病理学のみならず多くの臨床病理学的な検討を行ってゆきたいと考えている．

## 研究業績

### 論文

#### （1）原著：

- 1) Sunose Y<sup>1)</sup>, Taketoshi I<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawata K<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Ohwada S<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学第二外科学教室): The Effect of FR167653 in aCanine Total Hepatic Vascular Exclusion Model . Hepato-Gastroenterol 2003 ; 50 ( 4 ): 161-164 .
- 2) Yokota T<sup>1)</sup>, Tachizawa T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Kouno J<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>老人病研究所): A family with spinal anaplastic ependymoma : evidence of loss of chromosome 22q in tmor . J Hum Genet 2003 ; 48 ( 4 ): 598-602 .
- 3) Koike N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohki S<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学第二外科学教室): The Effect of short-term Coronary Perfusion Using a Perfusion Apparatus on Canine Heart Transplantation From Non-herat-beating Donors . J Heart Lung Transplant 2003 ; 22 ( 7 ): 810-817 .
- 4) Shibuya T<sup>1)</sup>, Shioya T<sup>1)</sup>, Kokuma M<sup>1)</sup>, Watanabe Y<sup>1)</sup>, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Uchiyama K<sup>2)</sup>, Mori H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>海老名総合病院，<sup>3)</sup>日下部病院): Cure of intractable pancreatic fistula by subcutaneous fistulojejunostomy . J Gastroenterol 2003 ; 39 ( 8 ): 162-167 .
- 5) Kawata K<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Iwanami K<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学第二外科学教室): The Effects of a Selective Cyclooxygenase-2 Inhibitor on Small Bowel Ischemia-Reperfusion Injury . Hepato-Gastroenterol 2003 ; 10 ( 50 ): 1970-1974 .
- 6) Yamada S<sup>1)</sup>, Yamada S<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup>, Matsumoto K ( <sup>1)</sup>高知大学医学部脳神経外科学，<sup>2)</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科，<sup>3)</sup>同脳神経外科学): Extracranially extended meningotheial meningiomas with a high MIB-1 index : A report of two cases . Neuropathology 2004 ; 24 ( 1 ): 66-71 .
- 7) Park YJ<sup>1)</sup>, Fujisalki S<sup>1)</sup>, Kimizuka K<sup>1)</sup>, Sugito K<sup>1)</sup>, Tomita R<sup>1)</sup>, Fukuzawa M<sup>1)</sup>, Matsumoto K ( <sup>1)</sup>日本大学医学部外科学講座外科一部門): Apoptosis of crypt cells and lymphocytes in gut-associated lymphoid tissues during small intestinal graft rejection in rats . Transplant Proc 2004 ; 36 ( 2 ): 353-355 .
- 8) 青木秀治<sup>1)</sup>, 松本光司 ( <sup>1)</sup>第二病院耳鼻咽喉科): 外耳道真珠腫より発生した扁平上皮癌症例 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 4 ): 363-366 .
- 9) 朴 英智<sup>1)</sup>, 藤崎 滋<sup>1)</sup>, 君塚 圭<sup>1)</sup>, 富田涼一<sup>1)</sup>, 福澤正洋<sup>1)</sup>, 松本光司 ( <sup>1)</sup>日本大学医学部外科学講座外科一部門): ラット同所性全小腸移植拒絶反応における陰窩細胞とパイエル板構成細胞のアポトーシスの関与に関する検討 . 移植 2003 ; 38 ( 5 ): 340-348 .
- 10) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 松本光司, 藤井博昭<sup>2)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>順天堂大学病理): 肛門管への壁内転移が腔直接浸潤を呈した上部直腸癌の1例 . 日消外会誌

2003 ; 36 ( 9 ) : 1336-1341 .

( 2 ) 綜説 :

- 1) 松本光司 : 肝臓移植の病理 : 拒絶反応と非拒絶反応の鑑別点 . 診断病理 2004 ; 21 ( 1 ) : 1-9 .
- 2) 志賀淳治<sup>1)</sup>, 福島純一<sup>1)</sup>, 三宅和彦<sup>2)</sup>, 永山亮造<sup>2)</sup>, 打越敏之<sup>3)</sup>, 前山史郎<sup>3)</sup>, 石川 隆<sup>4)</sup>, 安井英明<sup>5)</sup>, 大部誠<sup>6)</sup>, 松本俊治<sup>7)</sup>, 中野雅行<sup>8)</sup>, 松本光司, 加賀田豊<sup>9)</sup>, 大竹寛雄<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学医学部病理学教室, <sup>2)</sup>同内科学教室, <sup>3)</sup>聖マリアンナ医科大学病理学教室, <sup>4)</sup>東京大学医学部内科学教室, <sup>5)</sup>杏林大学医学部病理学教室, <sup>6)</sup>北里大学医学部病理学教室, <sup>7)</sup>順天堂大学医学部第1病理学教室, <sup>8)</sup>国立千葉病院研究検査科, <sup>9)</sup>防衛医科大学学校病理学教室, <sup>10)</sup>都立駒込病院消化器内科学教室) : 慢性肝炎と肝硬変の病理診断上の問題点 . 診療と新薬 2004 ; 41 ( 2 ) : 99-102 .

学会発表

( 1 ) 一般講演 :

- 1) Koike N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohki S<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学) : Effects of p38 mitogen-activated protein kinase inhibitor as an additive to Celsior solution on canine Heart Transplantation from non-heart-beating donors . International Society for Heart Lung Transplantation 23rd Annual meeting and Scientific Sessions , 2003 . 4 .
- 2) Kurabayashi M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>, Maruyama M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学) : Endocannabinoids in Ischemia-Reperfusion Injury of the Rat Liver . 8th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Kuala Lumpur ), 2003 . 9 .
- 3) Totsuka O<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Hashimoto N<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学) : The effects of Bradykinin B2 receptor antagonist on liver ischemia-reperfusion injury with hepatectomy in dogs . 8th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Kuala Lumpur ), 2003 . 9 .
- 4) Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Arakawa K<sup>1)</sup>, Akao T<sup>1)</sup>, Totsuka O<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Ohwada S<sup>1)</sup>, Negishi M<sup>1)</sup>, Inoue Y<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学) : The effects of bradykinin B2 receptor antagonist, FR173657, on small bowel ischemia-reperfusion injury in dogs . 8th Congress of the Asian Society of Transplantation ( Kuala Lumpur ), 2003 . 9 .
- 5) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 小原邦彦<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター) : 空腸 : 横行結腸間膜間皺壁が原因となったイレウスの1例 . 第39回日本腹部救急医学会総会, 2003 . 4 .
- 6) 山下康夫<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 識井恒安<sup>1)</sup>, 川村 純<sup>1)</sup>, 遠藤直哉<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 松本光司, 清水一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>外科学第2) : 甲状腺乳頭癌術後9年後に生じた胸骨転移に対する1手術例 . 日本医科大学医学会第110回例会, 2003 . 5 .
- 7) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学) : 心停止ドナーからの心臓移植の実験的研究 : p38MAPK 阻害剤添加保存液の心筋保護効果 . 第33回日本心臓血管外科学会, 2003 . 5 .
- 8) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学) : 心停止ドナーからの摘出心臓の保存・移植に対する当教室における工夫 . 第10回日本臓器保存生物医学学会, 2003 . 5 .
- 9) 大木 茂<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 小池則匡<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学) : ポリミキシンB 固定化カラムは常温体外循環開心術のデメリットを克服できるか? . 第33回日本心臓血管外科学会, 2003 . 5 .
- 10) 秋丸虎甫<sup>1)</sup>, 谷信合彦<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 河原崎秀雄<sup>2)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>日本医科大学外科学第1, <sup>2)</sup>自治医科大学移植



- 外科): 劇症肝不全に対する生体肝移植後に肝機能障害が遷延し治療に難渋した1例. 第21回日本肝移植研究会, 2003. 5.
- 11) 小林光伸<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 倉林 誠<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 浜田邦弘<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 肝虚血再灌流傷害におけるMAP kinase抑制の効果. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 12) 橋本直樹<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 犬の肺温阻血再灌流傷害および同所性肺移植モデルにおけるbradykinin B2 受容体拮抗剤の効果. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 13) 戸塚 統<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 荒川和久<sup>1)</sup>, 赤尾敏彦<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるフリーラジカルスカベンジャー(MCI-186)の効果. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 14) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 心停止ドナーからの心臓移植におけるp38MAPK阻害剤添加保存液の心筋保護効果. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 15) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 心停止ドナーからの心臓移植におけるp38MAPK阻害剤添加保存液の心筋保護効果. 心筋保護研究会, 2003. 6.
- 16) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 杠葉 良<sup>1)</sup>, 小原邦彦<sup>1)</sup>, 栗原雄次<sup>1)</sup>, 岩村太郎<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小熊将之<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃癌におけるアポトーシス制御因子(p53, Bcl-2, Bax)発現の臨床病理学的検討. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 17) 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>2)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 小原邦彦<sup>1)</sup>, 岩村太郎<sup>1)</sup>, 内藤英二<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小熊将之<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 大腸癌におけるnm23, p53-LOH, DCC-LOH, RERおよび簇の検討. 第103回日本外科学会, 2003. 6.
- 18) 倉林 誠<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 矢端義弘<sup>1)</sup>, 大木 孝<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 丸山征郎<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): ラット肝温阻血再灌流傷害におけるendocannabinoidの関与. 第58回日本消化器外科学会, 2003. 7.
- 19) 戸塚 統<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 荒川和久<sup>1)</sup>, 赤尾敏彦<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるフリーラジカルスカベンジャー(MCI-186)の効果. 第58回日本消化器外科学会, 2003. 7.
- 20) 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 荒川和久<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 松本光司, 川手 進<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 浜田邦宏<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 血小板凝集能測定は小腸虚血再灌流障害の評価に有用である. 第58回日本消化器外科学会, 2003. 7.
- 21) 山下康夫<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 識井恒安<sup>1)</sup>, 川村 純<sup>1)</sup>, 遠藤直哉<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院外科): 甲状腺乳頭癌胸骨転移に対し胸壁切除再建を施行した1例. 第790回外科集談会, 2003. 9.
- 22) 梶原景子<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 隅崎達夫<sup>1)</sup>, 松本光司, 太田吉男, 斎藤良明, 金 恩京<sup>2)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科, <sup>2)</sup>老人病研究所病理部門): 小型肺腺癌におけるCT画像と組織診断学対比について. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 23) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>病理学第2): 培養大腸癌細胞およびヒト大腸癌組織におけるKeratinocytogrowth factor receptor(KGFR/FGFR2IIIb)の発現. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 24) 倉林 誠<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 矢端義弘<sup>1)</sup>, 大木 孝<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 丸山征郎<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): ラット肝虚血再灌流傷害におけるendocannabinoidの関与. 第39回日本移植学会総会, 2003. 10.

- 25) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 心停止ドナーモデルを用いた右房および左室組織におけるp38MAPKの検討. 第39回日本移植学会総会, 2003. 10.
- 26) 荒川和久<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 松本光司, 川手 進<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 浜田邦宏<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 血小板凝集能測定は小腸虚血再灌流障害の評価に有用である. 第39回日本移植学会, 2003. 10.
- 27) 大木 茂<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 小池則匡<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 常温体外循環開心術における虚血再灌流障害: ポリミキシンB固定化カラムを用いた直接血液灌流法. 第56回日本胸部外科学会総会, 2003. 11.
- 28) 大木 茂<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 小池則匡<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 常温体外循環開心術におけるエンドトキシン吸着の有用性. 第65回日本臨床外科学会, 2003. 11.
- 29) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 松本光司, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 相原 元<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 食道胃切除標本を用いたアルゴンプラズマ凝固法の組織学的検討. 第66回日本内視鏡学会総会. 第66回日本内視鏡学会総会, 2003. 11.
- 30) 渡辺善正<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 尾崎卓司<sup>1)</sup>, 二宮理貴<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 菊谷真梨子<sup>2)</sup>, 松島 隆<sup>2)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科): 転移性膈ヘルニア嚢内癌の1例. 第65回日本臨床外科学会, 2003. 11.
- 31) 二宮理貴<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 山田雄介<sup>1)</sup>, 渡辺善正<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 早期胃癌手術同時期に肝転移を来した症例. 第24回神奈川胃癌治療研究会, 2003. 12.
- 32) 村岡正人<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 橋本直樹<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 犬の同所性肺移植モデルにおけるbradykinin B2受容体拮抗剤の効果. 第19回日本肺および心肺移植研究会, 2004. 1.
- 33) 佐藤精一<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 二宮理貴<sup>1)</sup>, 山田雄介<sup>1)</sup>, 渡辺善正<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): イレウスを契機に発見された小腸腸間膜脂肪織炎の1例. 第40回日本腹部救急医学会, 2004. 3.
- 34) 二宮理貴<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 山田雄介<sup>1)</sup>, 渡辺善正<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 同時性単発性肝転移を伴った早期胃癌の1例. 第76回日本胃癌学会総会, 2004. 3.
- 35) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 岩村太郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 石灰化胃癌の1例. 第76回日本胃癌学会, 2004. 3.

## [ 第二病院中央検査室 ]

### 研究概要

近年の医療費抑制政策の煽りを受け、診療報酬改定の度に検査実施料の引き下げが当然のように実施される厳しい状況の下、中央検査室を取り巻く環境も様々な変化をみせている。収益性や有用性の更なる要求に対しては各種検査法の再考、新規検査の導入の検討を通年の課題としている。また、診療支援ネットワークや電子カルテ等院内システムの構築を視野に入れた新規システムの導入を診療部門との連携のもとに進めており、さらには輸血の際の製剤照合を目的とした輸血確認システムの導入も今後の重要な課題とされるものである。生理機能検査においては、乳腺・甲状腺領域の超音波検査を日常業務に取り入れることにより、診療部門の要求に応えつつ業務拡大を図ることが可能となった。

臨床検査情報の付加価値提供は病院における検査業務の主たるものであるが、他院に先駆けて実施している病棟出向採血も検査室外業務拡大の意味での進展を期待したい。

今後も日々の業務を通し、専門職領域の知識・技能・行動特性の実践就業能力を高め、根拠に基づいた有効かつ有

用な検査情報が提供できる検査室の資質担保を目指すことに努めたい。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション：

- 1) 中島由美子，因泥弘之，井出尚子，小伊藤保雄，森本 進，野本恵子，菅原 通，新宅孝征，松岡和彦：中央検査室の技師による病棟採血施行の経過報告と考察．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 2) 花出 豊，井上雅則，井梅和美，新宅孝征，松岡和彦，島田洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科)：当院における赤血球MAP製剤の使用状況について．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 3) 因泥弘之，小伊藤保雄，吉田美和，新宅孝征，松岡和彦：Polymerase Chain Reaction (PCR法)を用いたChlamydia trachomatisの検討．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 4) 浅井逸子，津金香代子，森本 進，新宅孝征，松岡和彦：マイコプラズマ感染症におけるIgM抗体測定の有用性：第1報．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 5) 山賀節子，西島美輝子，越谷美由紀，隠岐和美，荒木久美，荒井誠一，渡部紀子，高久貴子，新宅孝征，松岡和彦，渋谷哲男<sup>1)</sup>，内田拓実<sup>2)</sup>，宗像一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院超音波検査室，<sup>2)</sup>同内科)：経胸壁心臓超音波検査におけるTVI法の有用性の検討．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．
- 6) 鈴木憲康，坂倉剛志，野本恵子，新宅孝征，松岡和彦，坪井成美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院泌尿器科)：当院におけるニューキノロン耐性淋菌の検出状況について(第1報)．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．

#### (2) 一般講演：

- 1) 菅原 通：未病と臨床検査：糖尿病関連検査．NPO先端医療福祉開発研究会 第50回公開定例会，2003．7．
- 2) 菅原 通：検査の話．平成15年度日本医科大学公開講座，2003．11．

## [ 第二病院薬剤科 ]

### 研究概要

神奈川県は，院外処方せん発行率全国第3位で，当院も平成15年1月より院外処方せんの全面発行に踏み切った．今年度は，手書き処方せんを発行する医療機関側とそれを受け取る保険調剤薬局側の諸問題について取り組んだ．それぞれについて薬剤科がどう取り組み，その結果院外処方せん発行にどう反映され得たかを全面発行前と後を比較検討し，学会に発表した．また，腎移植における拒絶反応回避のための治療費に関して，プロトコルごとの薬剤費について調査研究を行った．このように今年度は，クローズアップされている「リスクマネジメントならびに医療費抑制にどう取り組むべきか」の2点をメインテーマに掲げて研究を行った．さらに，医療現場に直接的に薬剤師が関与できるTDMに関しては，病院薬剤師が習得しやすいよう，また取得できるよう積極的に取り組んでいる．医薬品情報関連については，院内にとどまらず神奈川県病院薬剤師会レベルならびに医師への調査協力など，院外への発信をも継続して行っている．

### 研究業績

#### 著 書

- 1) 渋谷正則：〔分担〕第3章 薬物動態シミュレーション・プログラムQflexの概念と基本操作 第4章 Qflexによる処方評価と処方計画．だれでもできるTDMの実践QflexとOptipWinを利用した薬物投与設計(監修篠崎公一)，2003；pp64-145，テクノミック．

- 2) 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 小坂好男, 若城由美子 ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): [ 分担 ] 薬疹・中毒疹 見逃させやすい薬疹 界面活性剤による薬疹. 最新皮膚科学大系 第5巻 ( 総編集 玉置邦彦 ), 2004 ; pp94-96, 中山書店 .

#### 学会発表

##### (1) セミナー :

- 1) 渋谷正則 : テオフィリンのTDMについて . 東京都病院薬剤師会第1回はじめてみようTDM, 2003 . 7 .
- 2) 小坂好男 : 薬剤師によるTDM . 第88回関東私立医大病院薬剤部研究会, 2003 . 11 .
- 3) 小坂好男 : 医薬品情報管理の意義と実際 . 神奈川県病院薬剤師会 平成15年度病院診療所薬局実務者講習会, 2004 . 1 .

##### (2) 一般講演 :

- 1) 島田慰彦, 小坂好男, 若城由美子, 佐藤数馬, 野口周作, 菊池有道 : 手書き処方せんの院外発行に伴う諸問題 ( その1 ) 院外処方せんにおける取り組み . 第33回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会, 2003 . 8 .
- 2) 小坂好男, 島田慰彦, 若城由美子, 佐藤数馬, 野口周作, 菊池有道 : 手書き処方せんの院外発行に伴う諸問題 ( その2 ) 保険調剤薬局からの要望 . 第33回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会, 2003 . 8 .
- 3) 若城由美子, 小坂好男, 菊池有道, 酒井行直<sup>1)</sup>, 織井恒安<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科, <sup>2)</sup> 外科 ): 患者QOLへの薬剤師の関わり 第10報 : 適正使用と経済効果 . 第13回医療薬学会年会, 2003 . 9 .
- 4) 若城由美子 : 薬の知識 Part4 . 平成15年度日本医科大学公開講座, 2003 . 11 .
- 5) 小坂好男, 古割公二<sup>1)</sup>, 柳川忠二<sup>1)</sup>, 佐川賢一<sup>2)</sup>, 池田 勉<sup>3)</sup>, 依田啓司<sup>4)</sup>, 安部 博<sup>5)</sup>, 佐藤 透<sup>6)</sup>, 河野博充<sup>7)</sup>, 柴田徹一<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> 聖マリアンナ医科大学東横病院薬剤部, <sup>2)</sup> 北里大学病院薬剤部, <sup>3)</sup> 済生会若草病院薬剤科, <sup>4)</sup> 国際親善病院薬剤部, <sup>5)</sup> 海老名総合病院薬剤部, <sup>6)</sup> 川崎幸病院薬剤科, <sup>7)</sup> 帝京大学医学部附属溝口病院薬剤部, <sup>8)</sup> 東海大学病院治験管理室 ): 医療従事者の薬物相互作用に対する意識調査 グレープフルーツと薬物の相互作用について . 日本薬学会第124年会, 2004 . 3 .

## [ 第二病院看護部 ]

### 研究概要

1. 切迫流産の妊婦が, 入院以前から退院までにどのような精神状態であるか追跡・調査し, 看護の視点での留意すべき点を明らかにしていく .
2. 分娩室において, 産婦が視・聴・嗅・触覚の刺激認識の間に一定の傾向が見られるか調査し, 分娩室環境の改善に役立てる .
3. 帝王切開による出産に対するの負の印象を持つ母親に, 児娩出直後, 児との接触を図ることによる分娩・出産に対する満足度および母性認識, 胎児感情に与える影響について調査・検討した .
4. T・J療法を受けた婦人科癌患者の在宅時の不安内容の実態を調査し, 今後の退院時生活指導を再検討する .
5. 再発卵巣癌化学療法患者の看護におけるQOL評価を, EORTC・QLQ-C30を使用し看護介入を検討する .
6. カプサイシン使用にて, 末梢温保温に有効であるかどうか検討する .

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演 :

- 1) 松尾友加里, 横尾香代子, 関根史子, 小河原美代子, 朝倉啓文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院女性診療科・産科 ): 切迫流産妊婦のストレスコーピング . 第44回日本母性衛生学会, 2003 . 10 .

- 2) 堀あすか, 広瀬亜純, 吉賀尚子, 小河原美代子, 朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): 分娩室における産婦の刺激認識. 第44回日本母性衛生学会, 2003. 10.
  - 3) 福岡眞奈美, 金子利枝, 増子ハルミ, 小河原美代子, 島田洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科): カプサイシン成分を術中保温に生かした臨床結果. 第25回日本手術医学会総会, 2003. 11.
  - 4) 相馬照美, 近藤和代, 堀あすか, 小河原美代子, 朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): 帝王切開分娩時におけるタッチケアの効果. 第17回神奈川母性衛生学会, 2004. 2.
  - 5) 三田村美和, 松尾友加里, 横尾香代子, 小河原美代子, 朝倉啓文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): T-J療法を受けた婦人科癌患者の在宅時における副作用とその対処法: QOL実態調査. 第17回神奈川母性衛生学会, 2004. 2.
- (2) パネル:
- 1) 関根史子, 岩城祐子, 横尾香代子, 小西英喜<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科): 再発卵巣癌化学療法患者のnursingにおけるQOL評価の有用性の検討. 第41回日本癌治療学会, 2003. 10.

## 22. 多摩永山病院付置施設等

### [ 多摩永山病院病理部 ]

#### 研究概要

組織培養，免疫組織化学，電子顕微鏡部門が充実し，臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり，研究部門もさらに充実してきた．現在の主な研究テーマは以下の通りである．

- (1) 乳腺腫瘍；1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立，2) 乳癌における，ホルモンレセプターと細胞骨格および接着因子の関係について，3) 転移性乳癌の臨床病理学的研究（HER2 タンパク質と基底膜分解酵素について）
- (2) 骨軟部腫瘍；1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用），2) Solitary fibrous tumor および GIST (gastro intestinal stromal tumor) について．
- (3) 子宮癌；1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：とくにセルブロック法．
- (4) リンパ節病変；1) リンパ節病変の迅速診断法の検索，免疫細胞学的アプローチ，2) リンパ節病変の分子生物学的検索，3) 悪性リンパ腫の細胞診断学．
- (5) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断（外来・病棟・術中・剖検時）の確立．
- (6) 免疫細胞・組織化学（Napsin A, Villin, サイトケラチン7, サイトケラチン20など）を用いた客観的原発巣診断法の確立．
- (7) 免疫細胞組織化学的手法による脈管侵襲（血管・リンパ管）の検討．

#### 研究業績

##### 論文

[ 2002 年度追加分 ]

##### 原著：

- 1) 三田俊二<sup>1)</sup>，奥田直貴<sup>1)</sup>，横田明重<sup>1)</sup>，佐々木茂<sup>1)</sup>，越野立夫<sup>1)</sup>，中井章人<sup>1)</sup>，細根 勝，前田昭太郎（<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科）：母体死亡に至った激症型 A 群レンサ球菌感染症の 1 例．日産婦東京会誌 2002；51(4)：454-459．
- 2) 北川泰之<sup>1)</sup>，伊藤博元<sup>1)</sup>，澤泉卓哉<sup>1)</sup>，横山宗伯<sup>2)</sup>，前田昭太郎，杉崎祐一<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>整形外科学，<sup>2)</sup>病理学第2）：MIB-1 抗体を用いた腱鞘巨細胞腫の細胞増殖能の検討．東日本震災会雑誌 2002；14：174-178．

##### (1) 原著：

- 1) Sun Yuliang<sup>1)</sup>，Naito Z<sup>1)</sup>，Ishiwata T<sup>1)</sup>，Maeda S，Sugisaki Y<sup>2)</sup>，Asano G<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Pathology，<sup>2)</sup>Department of Surgical Pathology）：Basic FGF and Ki-67 proteins useful for immunohistological diagnostic evaluations in malignant solitary fibrous tumor．Pathology International 2003；53(5)：284-290．
- 2) Maeda S，Hosone M，Katayama H，Azuma K，Yokota A<sup>1)</sup>，Nakai A<sup>1)</sup>，Liu A<sup>2)</sup>，Naito Z<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology，<sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Research，<sup>3)</sup>Department of Pathology 2）：Deciduioid mesothelioma in the pelvic cavity．Pathology International 2004；54(1)：67-72．
- 3) Sanno N<sup>1)</sup>，Hayashi S<sup>1)</sup>，Shimura T<sup>1)</sup>，Maeda S（<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery）：Intracranial Osteosarcoma After Radiosurgery．Neurol Med Chir 2004；44(1)：29-32．
- 4) Liu A<sup>1)</sup>，Sugisaki Y<sup>12)</sup>，Hosone M，Namimatsu S<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches，<sup>2)</sup>Division of Surgical Pathology）：CD30+TIA-1+ALK+Anaplastic Large Cell Lymphoma：Studies of Three

Case by Flow Cytometry Analysis, Immunohistochemistry and Electron Microscopy . Acta Histochem Cytochem 2004 ; 37 ( 1 ): 21-30 .

- 5) 小林由子<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 中原 圓<sup>1)</sup>, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 谷内良成<sup>2)</sup>, 山田浩子<sup>2)</sup>, 横田明重<sup>2)</sup>, 越野立夫<sup>2)</sup>, 前田昭太郎, 村上隆介<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科, <sup>3)</sup>放射線医学): 腹膜悪性中皮腫の1例 . 腹部画像診断アトラスVIII 2003 ; 8 : 144-145 .
- 6) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 山王直子<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup>病理学第2): 脳原発小細胞肉腫の1例 . 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 ( 3 ): 224-229 .

## 著 書

- 1) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 武内俊次<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院整形外科, <sup>2)</sup>病理学第2): [ 分担 ] 超音波と穿刺吸引細胞診 : 軟部腫瘍 : 細胞形態学的特徴と画像診断 . Medical Technology , 2003 ; pp1289-1296 , 医歯薬出版株式会社 .
- 2) 細根 勝 : [ 分担 ] Seborrhic keratosis . Visual Dermatology ( 木村鉄宣 ), 2004 ; pp264-266 , 秀潤社 .

## 学会発表

[ 2002 年度追加分 ]

一般講演 :

- 1) Iida S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Maeda S ( <sup>1)</sup>Dept. Surgery, Tama-nagayama Hospital, NMS ): A Study of Preoperative Chemotherapy Combined with Docetaxel and Epirubicin under Biweekly Administration in Our Department . Thai-Japanese Breast Cancer Conference ( Chiang Mai, Thailand ), 2002 . 8 .
- 2) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 細根 勝, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): MALT lymphoma成分の含有度と各種蛋白発現から見た胃原発Diffuse large B cell lymphomaの検討 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 3) 小林由子<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 中原 圓<sup>1)</sup>, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 谷内良成<sup>2)</sup>, 山田浩子<sup>2)</sup>, 横田明重<sup>2)</sup>, 越野立夫<sup>2)</sup>, 前田昭太郎, 村上隆介<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科, <sup>3)</sup>放射線医学): 腹膜悪性中皮腫の1例 . 第16回腹部放射線研究会, 2002 . 5 .
- 4) 北川泰之<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 澤泉卓哉<sup>1)</sup>, 武内俊次<sup>1)</sup>, 角田 隆<sup>1)</sup>, 丸山晴久<sup>1)</sup>, 金 竜<sup>1)</sup>, 高松 眞<sup>1)</sup>, 南部昭彦<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup>整形外科学, <sup>2)</sup>病理学第2): 腱鞘巨細胞腫の治療成績と問題点 . 第35回日本整形外科学会 骨軟部腫瘍学術集会, 2002 . 7 .
- 5) 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一, 山本英希<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 当科におけるDocetaxel/Epirubicin併用bi-weekly術前化学療法 の 検討 . 第10回日本乳癌学会総会, 2002 . 7 .
- 6) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 呼吸不全および全身衰弱を来した巨大葉状腫瘍の1切除例 . 第10回日本乳癌学会総会, 2002 . 7 .
- 7) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 前田昭太郎, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): KIT, PDGFR発現から見た胃GIST症例の検討 . 第57回日本消化器外科学会総会, 2002 . 7 .
- 8) 長谷川博一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 多摩永山病

院における胃癌術後成績の検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．

- 9) 鈴木成治<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，渡邊秀之<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，廣井信<sup>1)</sup>，土屋喜一<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，前田昭太郎，細根 勝<sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科)</sup>：悪性度からみた胃原発GISTの診断・治療に関する検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 10) 鈴木成治<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，下村隆保<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，廣井 信<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，細根 勝，江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科)：各種蛋白発現及びMIB-1 indexからみた大腸原発悪性リンパ腫の診断・治療に関する検討．第44回日本消化器病学会大会，2002．10．
- 11) 鈴木成治<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，廣井信<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，細根 勝，江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科)：消化管原発Diffuse large B cell lymphoma 手術症例の臨床病理学的検討．第40回日本癌治療学会総会，2002．10．
- 12) 飯田信也<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，廣井 信<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，前田昭太郎，細根 勝<sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科)</sup>：当科におけるDocetaxel/Epirubicin 併用biweekly術前化学療法の検討．第64回日本臨床外科学会総会，2002．11．
- 13) 山本英希<sup>1)</sup>，松島申治<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，片山博徳，前田昭太郎，田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第2)：肺・縦隔疾患における術中免疫染色併用迅速診断の試み．第43回日本肺癌学会総会，2002．11．

ポスター：

- 1) Kitagawa Y<sup>1)</sup>，Yokoyama M<sup>2)</sup>，Maeda S，Sugisaki Y<sup>2)</sup>，Sawaizumi T<sup>1)</sup>，Ito H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科学，<sup>2)</sup>病理学第2)：Tumor proliferation activity of giant cell tumor of tendon sheath．第22回SICOT world congress ( San Diego, USA )，2002．8．

(1) 特別講演：

- 1) Maeda S：Cooperation in the Field of Cytology in Asian Countries．The 10th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand )，2004．1．
- 2) Handou kiyomi：Activities of Japan Overseas Cooperation Volunteers in Lao PDR．The 10th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand )，2004．1．

(2) 教育講演：

- 1) 前田昭太郎：軟部腫瘍細胞診の新たな展開．第44回日本臨床細胞学会総会，2003．5．
- 2) 前田昭太郎：乳腺細胞診：いかに誤判定を防ぐか．第46回細胞検査士ワークショップ(日本臨床細胞学会)，2003．7．

(3) シンポジウム：

- 1) Maeda Shotaro：Cooperation in the Field of Cytology in Asian Countries．第42回日本臨床細胞学会秋期大会，2003．10．

(4) ワークショップ：

- 1) 片山博徳，前田昭太郎，細根 勝，磯部宏昭，柳田裕美，川野記代子，秋山裕美，阿部久美子，日吾美栄子，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2)：迅速細胞診の新たな展開：1術中迅速細胞診における免疫染色併用の有用性．第44回日本臨床細胞学会総会，2003．5．
- 2) 前田昭太郎，伊藤 仁<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>(<sup>1)</sup>東海大学付属病院)</sup>：乳腺．第46回細胞検査士ワークショップ(日本臨床細胞学会)，2003．7．
- 3) 細根 勝：病理診断とインフォームドコンセント．第1回がん医療研修講習会，2003．7．



(5) 一般講演:

- 1) Nagao M<sup>1)</sup>, Fujita C<sup>1)</sup>, Igari Y<sup>1)</sup>, Maeda S ( <sup>1)</sup> Arakawa City Center ): Four Cases of Carcinoma in Situ of the Lung Revealed in Sputum Cytology in Mass Surveys . The 10th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang-Mai, Thailand ), 2004 . 1 .
- 2) Fujita C<sup>1)</sup>, Hakuda T<sup>1)</sup>, Nagao M<sup>1)</sup>, Igari Y<sup>1)</sup>, Maeda S ( <sup>1)</sup> Division of Cytology, Arakawa City Cancer Prevention Center ): The increase of females in their 30's judged as positive in cervical smear screening in mass surveys . The 10th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang-Mai, Thailand ), 2004 . 1 .
- 3) Katayama H, Maeda S, Hosone M, Yanagida Y, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): A case of glioblastoma ( gemistocytic type ): The utility of immunostaining in intraoperative diagnosis . The 10th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang-Mai, Thailand ), 2004 . 1 .
- 4) Yanagida Y, Maeda S, Hosone M, Katayama H, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): A comparative study on the method of smear preparation in FNA cytology for breast tumor . The 10th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang-Mai, Thailand ), 2004 . 1 .
- 5) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 金澤宏美<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 多摩永山病院内科 ): 冠状動脈に浸潤し, 心筋梗塞をきたした心臓線維肉腫の1例 . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 6) 細根 勝, 前田昭太郎, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 老人病研究所, <sup>3)</sup> 第二病院病理部, <sup>4)</sup> 付属病院病理部 ): 約18年の長期経過を経て急性転化した肺原発・低悪性度B細胞性辺縁帯リンパ腫 ( LG-MZBL ) の一剖検例 . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 7) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 山本英希<sup>1)</sup>, 松島伸治<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設 ): 肺・縦隔腫瘍の術中迅速診断に対する細胞診および免疫染色の応用 . 第92回日本病理学会総会, 2003 . 4 .
- 8) 細根 勝, 前田昭太郎, 原 博, 片山博徳, 磯部宏昭, 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部 ): 穿刺吸引細胞診と flow cytometry 併用の有用性: 節性リンパ腫40例の比較検討 . 第44回日本臨床細胞学会総会, 2003 . 5 .
- 9) 椋 清美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立感染症研究所ウイルス第2部, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 剖検時迅速細胞診の有用性 . 第17回日本臨床細胞学会関東連合学術集会, 2003 . 9 .
- 10) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ): 当院における乳腺穿刺吸引細胞診の迅速診断の有用性 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 11) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 東 敬子, 秋山裕美, 武内俊次<sup>2)</sup>, 北川泰之<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>, 杉崎祐一<sup>1,5)</sup> ( <sup>1)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 多摩永山病院整形外科, <sup>3)</sup> 整形外科, <sup>4)</sup> 病理学第2, <sup>5)</sup> 付属病院病理部 ): 四肢の顆粒細胞腫の2例 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 12) 川野記代子, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 原 博, 山王直子<sup>1)</sup>, 武内俊次<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 整形外科, <sup>3)</sup> 病理学第2 ): 脳腫瘍, 軟部腫瘍の術中迅速診断における迅速免疫染色の有用性 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 13) 東 敬子, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 秋山裕美, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): 剖検時迅速診断 ( 細胞診, 組織診 ) の有用性 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 14) 柳田裕美, 前田昭太郎, 原 博, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 秋山裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 椋 清美: 乳腺腫瘍の穿刺吸引細胞診における標本作製方法の比較検討 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 15) 太組一朗<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 寺本 明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科 ): 術中迅速診断に穿刺吸引細胞診が有用であった神経膠腫の1例 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .

- 16) 藤田千歳<sup>1)</sup>, 猪狩優子<sup>1)</sup>, 矢野 侃<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 荒川区がん予防センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部 ): 子宮がん検診における30代の受診率および細胞診陽性者増加の推移. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 17) 猪狩優子<sup>1)</sup>, 藤田千歳<sup>1)</sup>, 矢野 侃<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 荒川区がん予防センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部 ): 荒川区がん予防センターの子宮頸がん検診における細胞採取法の比較検討. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 18) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 赤坂久美<sup>1)</sup>, 三枝順子<sup>1)</sup>, 京本晃典<sup>1)</sup>, 黒川実愛<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 同脳神経外科 ): 神経膠腫系腫瘍の細胞診圧挫標本における網状物質の存在意義: 細胞診において神経膠腫系腫瘍の脳実質への浸潤性発育を考える. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 19) 中井晶子<sup>1)</sup>, 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 國重浩二<sup>1)</sup>, 大屋敦子<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 細根勝, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院女性診療科・産科 ): 子宮筋層内をびまん性に浸潤し, 診断に苦慮した子宮癌の1例. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 20) 秋山裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 武内俊次<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 松原美幸<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 北川泰之<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院整形外科, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 付属病院病理部, <sup>4)</sup> 整形外科, <sup>5)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設 ): 四肢皮下に発生した顆粒細胞腫の2例. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 21) 清水秀樹<sup>1)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 赤坂久美<sup>1)</sup>, 三枝順子<sup>1)</sup>, 京本晃典<sup>1)</sup>, 黒川実愛<sup>1)</sup>, 浅香吉伸<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部 ): 脳腫瘍圧挫標本における脳実質の細胞像とその存在意義. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 22) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1, 2)</sup>, 細根 勝, 並松茂樹<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 付属病院病理部 ): Microvillous Lymphoma with CD30+ ALCL-B features の1例. 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 2003. 10.
- 23) 玉井英世<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 弥富俊太郎<sup>1)</sup>, 原 俊輔<sup>1)</sup>, 北橋章子<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 畝本忝子<sup>1)</sup>, 黒川 顯<sup>1)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター ): スティーブンス・ジョンソン症候群から長期経過をたどり, 診療に苦慮した血球貪食症候群の1例. 第32回過大侵襲研究会, 2003. 10.
- 24) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎, 田尻 孝<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院消化器・乳腺・一般外科, <sup>2)</sup> 同消化器科, <sup>3)</sup> 外科学第1 ): 消化管外原発のGIST (EGIST) 症例の臨床病理学的検討. 第45回消化器病学会総会, 2003. 10.
- 25) 猪狩優子<sup>1)</sup>, 白田忠男<sup>1)</sup>, 長尾 緑<sup>1)</sup>, 藤田千歳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 相羽元彦<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 荒川区がん予防センター, <sup>2)</sup> 東京女子医科大学付属第2病院病理部, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>4)</sup> 同病理部 ): 子宮頸がん検診における細胞採取料法の比較検討. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 26) 山本英希<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎, 清水一雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第2 ): 広義のprimary effusion lymphoma と考えられた1例. 第128回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 27) 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 神戸 将<sup>1)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ): von Recklinghausen 病の合併した十二指腸GISTの1例. 第68回城西外科研究会, 2004. 2.
- 28) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 田尻 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ): 胃前庭部に瘻孔を形成した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 第40回日本腹部救急医学会総会, 2004. 3.

## [ 多摩永山病院中央検査室 ]

### 研究概要

当検査室における主な研究目的は、臨床検査学の進歩のなかで、新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し、新検査法の実現を追っている。また、日常の臨床検査全体の精度管理、検査方法および迅速測定を実施し、各種の検査における臨床との関連を見つつ、質の向上と検査測定法の確立を目指している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 綜説：

- 1) 中澤 宏：未来科学？擬似科学2．検査と技術 2003；31（5）：471-471．
- 2) 井上 淳：医事紛争と臨床検査技師．都臨技会誌 2004；32（2）：108-111．

#### 著書

- 1) 池野廣幸：〔分担〕21世紀型医療（検査）とは：便の検査で何がわかる．未来医療への道標，2003；pp181-182，NPO法人 先端医療福祉開発研究会．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 井上 淳：医療訴訟「日常検査に潜む落とし穴」．第5回都臨技医学検査学会，2004．1．

##### (2) パネルディスカッション：

- 1) 杉原秀人，鈴木純子，藤木直美，成定朋美，池野廣幸，鈴木 健，加地正人<sup>1)</sup>，久野将宗<sup>1)</sup>，原 俊輔<sup>1)</sup>，小柳正雄<sup>1)</sup>，中野渡雄一<sup>1)</sup>，玉井英世<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>1)</sup>，弥富俊太郎<sup>1)</sup>，畝本恭子<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター）：当院救命救急センターにおける過去3年間の多剤耐性緑膿菌（MDRP）：症例における検出状況と今後の課題．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．

##### (3) 一般講演：

- 1) 久保田稔，横田裕行<sup>1)</sup>，畝本恭子<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター）：短潜時体性感覚誘発電位（SSEP）の脳死診断における有用性．第16回日本脳死・脳蘇生学会，2003．6．

## [ 多摩永山病院薬剤科 ]

### 研究概要

平成15年度も、引き続き薬物の適正使用、患者QOL向上をテーマに研究を行った。

その中で、内科、薬科大学との共同で喘息、心疾患、糖尿病などでチーム医療の一員として薬剤師が関わることによる患者QOLの評価について、女性診療科とは、がん化学療法施行時の薬剤師の関わりで患者QOLがどのように変化したかを研究した。薬科大学と高血圧自然発生ラットにおけるホルモンの影響について共同で動物実験行っており、その研究結果についても発表した。

また、院外処方発行に伴い、地域保険薬局、薬剤師会と「院外処方のあり方」をテーマにシンポジウムを何回か開催しその成果について発表した。

今後、院外処方の増加に伴い薬剤科の業務は大きく変わることが予測されるが、薬物の適正使用、患者QOLの向上をテーマとして、またチーム医療の一員として薬剤師がどのような役割をはたせば良いか研究、努力していきたいと考えている。

## 研究業績

### 著書

- 1) 亀山明美, 村田和也: 医薬品棚への表示で注意を喚起: 薬剤部における医療安全への取込み. 月刊薬事 Vol 45, 670-671, No 4 (2003), 2003; pp670-671, じほう.
- 2) 下平秀夫, 茂木 徹, 戸塚淳逸, 村田和也, 明石貴雄: 多摩薬業連携協議会の紹介: 第1回シンポジウム報告を兼ねて. 薬局 Vol 54, 27-35, No 12' (2003), 2003; pp27-35, 南山堂.

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) 亀山明美, 藤中祐美子, 伊藤淳雄, 村田和也: 当院喘息外来患者におけるQOLに関する考察. 第11回クリニカル・ファーマシー・シンポジウム, 2003. 7.
- 2) 伊藤淳雄, 加藤浩子, 村田和也: 2型糖尿病患者におけるGlibenflamideからGlimepirideへの処方変更症例に関する治療指標の検討. 第11回クリニカル・ファーマシー・シンポジウム, 2003. 7.
- 3) 平瀬美弥子, 亀山明美, 畝本賜男, 村田和也: 調剤過誤防止対策: 薬袋および散薬分包紙への薬品名等の表示. 日本病院薬剤師会第33回関東ブロック学術大会, 2003. 8.
- 4) 堀川佳津美, 村田和也, 横田明重<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科): 女性診療科病棟における癌化学療法時の薬剤師の関わり. 日本医療薬学会, 2003. 9.
- 5) 阿部宏子<sup>1)</sup>, 上村直樹<sup>2)</sup>, 斉藤伸介<sup>3)</sup>, 坂本康典<sup>4)</sup>, 下平秀夫<sup>5)</sup>, 根岸 務<sup>5)</sup>, 等淳一郎<sup>3)</sup>, 堀 博昭<sup>5)</sup>, 前田良廣<sup>6)</sup>, 村田和也, 茂木 徹<sup>5)</sup>, 山田徹道<sup>3)</sup>, 山田政人<sup>3)</sup>, 吉尾 隆<sup>7)</sup>, 明石貴雄<sup>8)</sup>, 戸塚淳逸 (<sup>1)</sup>恩方病院薬剤部, <sup>2)</sup>東京都薬剤師会北多摩支部, <sup>3)</sup>同南多摩支部, <sup>4)</sup>国家公務員共済組合連立川病院薬剤部, <sup>5)</sup>東京都薬剤師会八王子市部, <sup>6)</sup>青梅市立総合病院薬剤部, <sup>7)</sup>桜ヶ丘記念病院薬剤部, <sup>8)</sup>東京医科大学八王子医療センター薬剤部): 多摩(東京都)薬々連携協議会における活動報告. 日本医療薬学会, 2003. 9.
- 6) 下平秀夫, 阿部宏子, 上村直樹, 斉藤伸介, 坂本康典, 根岸 務, 等淳一郎, 堀 博昭, 前田良廣, 村田和也, 茂木 徹, 山田哲道, 山田政人, 吉尾 隆, 明石貴雄, 戸塚淳逸: 東京都多摩地区における薬々連携の活動報告. 36回日薬学術大会, 2003. 10.
- 7) 畝本賜男, 本多秀雄<sup>1)</sup>, 向後博司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京薬科大学): Wistar Kyotoラット(WKY)と高血圧自然発症ラット(SHR)摘出大動脈標本における卵巣ホルモンを用いた弛緩反応のメカニズムの差異について. 第52回西東京内分代謝研究会, 2003. 11.
- 8) 藤中祐美子, 村田和也, 新 博次<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 薬剤性QT延長に関する実態調査. 第24回日本臨床薬理学会年会, 2003. 12.
- 9) 畝本賜男, 村田和也, 松下真由美<sup>1)</sup>, 本多秀雄<sup>1)</sup>, 田村和弘<sup>1)</sup>, 向後博司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京薬科大学): 高血圧自然発症ラット(SHR)の摘出大動脈標本におけるprogesterone(P4)の弛緩作用. 第124回日本薬学会, 2004. 3.
- 10) 田原亮子<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 新 博次<sup>2)</sup>, 村田和也 (<sup>1)</sup>東京薬大薬, <sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院内科): 虚血性心疾患患者のQOL評価: 不安スケールの重要性. 第124回日本薬学会, 2004. 3.
- 11) 鯉沼卓真<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 新 博次<sup>2)</sup>, 村田和也 (<sup>1)</sup>東京薬大薬, <sup>2)</sup>日本医大多摩永山病院内科): 外来通院糖尿病患者のQOLに影響を及ぼす因子の検討. 第124回日本薬学会, 2004. 3.

## [ 多摩永山病院看護部 ]

### 研究業績

- 1) 尾山裕美, 藤井真由美, 古川礼子, 佐々木綾, 永瀬亜希子, 酒井和子: 強酸性水と市販の消毒不織布による肛門周囲皮膚炎の発生の違いに関する調査. 第21回東京母性衛生学会, 2003. 5.
- 2) 配島さとみ, 上田絵美: 生活習慣病患者の生活習慣改善と病気受容及び生きがいの関連. 第34回日本看護学会 ~成人看護II~, 2003. 8.
- 3) 木村和実, 廣田裕佳, 樋口千春, 上運天知佐, 酒井和子: 経産婦における周産期予後の反腹性に関する検討. 第44回日本母性衛生学会, 2003. 10.
- 4) 竹下千穂, 山田美由紀, 高原綾子, 佐藤英子: 外来看護師の受け持ち制に対する行動と意識の変化: 外来の受け持ち制の運用基準を活用して. 東京都看護協会看護研究学会, 2003. 11.
- 5) 佐々木亜希, 小山多貴子, 緋田雅美: 救命救急センターにおけるアディクション患者の現状と今後の課題について: 対応困難であった2症例を通しての検討. 日本アディクション看護学会 第2回学術大会, 2003. 11.
- 6) 村山静香, 佐々木理恵子, 朝倉さやか: 看護師の死産褥婦への関わり方に対する意識調査: 「誕生死」を参考に私達の看護を振り返る. 東京都看護協会 多摩南地区看護研究発表会, 2004. 2.
- 7) 星野千尋, 永井佐江子, 塩津正己, 小山多貴子, 観音堂智子, 阿式正敏: 災害医療の情報発信源としての役割: 避難誘導訓練のスタンダードを確立. 第9回日本集団災害医学会総会, 2004. 2.
- 8) 塩津正己, 永井佐江子, 星野千尋, 小山多貴子, 観音堂智子, 阿式正敏: 防災および災害訓練の意識改革への看護部からのアプローチ. 第9回日本集団災害医学会総会, 2004. 2.
- 9) 田島知美, 村中政美, 高橋和恵, 本多広子: 人工鼻 (DARハイクロバックS) 長期使用の検討. 第31回日本集中治療医学会, 2004. 3.
- 10) 村中政美, 田島知美, 高橋和美, 本多広子, 石川秀一, 塩津正己, 緋田雅美: 人工呼吸器の加温加湿装置として人工鼻の適応の検討. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004. 3.
- 11) 三村由岐子, 羽場和美, 樽栄あゆみ, 広田奈穂子, 石川秀一, 緋田雅美: 救命救急センターにおけるせん妄症状緩和への援助: 就寝前にアロマセラピー足浴を実施して. 第54回日本救急医学会関東地方会, 2004. 3.
- 12) 村中政美, 高橋和美, 本多広子, 石川秀一, 塩津正己, 緋田雅美: Tピースにおける酸素療法中の加温加湿管理としての人工鼻の検討. 第54回日本救急医学会関東地方会, 2004. 3.

## [ 多摩永山病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

#### 1. 放射線管理士の現状, 役割, 将来展望

日本は, 医療先進国と言われる国の中でも, 特に放射線診療が盛んに行われている. しかし, 国民の多くは, 過去の原爆被爆という不幸な経験, 最近の原子力関連被ばく死亡事故等により, 放射線に対して過剰な不安を抱いているケースが多く, 医療現場での様々な混乱と支障が生じている. 特に妊娠初期の放射線検査による, 胎児の放射線障害を懸念して人工妊娠中絶が行われている現状は深刻であり, 放射線管理士の積極的な対応が望まれる.

#### 2. 放射線被ばくに対する意識調査 (病院看護師と放射線技師学校学生アンケート調査より)

看護師は, その教育課程において十分な放射線防護教育を受けていないケースが多く, 放射線被ばくに対して誤った知識や過大な不安を持っている. 看護師に対する放射線防護講習は, 放射線に対する正しい知識の普及と円滑な放射線診療を行うために必要不可欠である. 現在, 医療従事者を養成する教育機関において, 放射線防護教育を組織的

かつ体系的に行っているのは放射線技師教育課程である。しかし、放射線技師学校学生へのアンケート結果には、他の医療従事者に対する放射線防護講習を実施するには、放射線防護に対する知識が十分であるとは言い難い結果であった。医療領域の放射線防護に果たす診療放射線技師の役割は重要であり、放射線を冠にする職業である診療放射線技師は、放射線被ばくについて責任を持って説明できる知識を持つ社会的責任がある。

### 3. 医療従事者の放射線防護（1）

多くの看護師は、放射線に対し何らかの不安や恐怖、誤解を抱いている事が多く放射線診療に支障をきたす原因の一つになっている。このような現状を踏まえ、看護師卒後教育の一環として医療従事者の放射線防護講習を行い、放射線についての知識、正しい放射線防護を教える事は、放射線診療に携わる看護師の不安や誤解を解消し、円滑な放射線診療を実践する上で非常に重要である。

### 4. 医療従事者の放射線防護（2）

当院では、入職時オリエンテーションにおいて『医療従事者の放射線防護』講習を行い、新人看護師が放射線と放射線防護の知識を持って職務に従事できる体制を取るにより円滑なチーム医療に勤めている。しかし、入職時の看護師の放射線に対する知識は低く、講習だけでは自然放射線の内容を理解してもらえないケースもあった。そこで今回、医療従事者の放射線防護講習にサーベイメータを用いた身近な放射線測定実習を取り入れ、温泉の湯の花、時計の蛍光塗料など身近にある放射線を実際に測定してもらうことにより、身近な放射線の実体験による理解を深めてもらう試みを行ない良好な結果を得た。

### 5. 放射線科の危機管理（造影剤の副作用に対する緊急蘇生シミュレーション）

ヨードショックシミュレーション等の初期救命シミュレーションを毎年実施することは、危機管理に関する医療従事者の認識を新たにすると共に周知徹底、問題点の洗い出しなどに有効である。また、医師以外の医療従事者には、心肺蘇生等救命医療に対する体験がなく、緊迫する緊急時に最善の医療を行うには、医療従事者が心肺蘇生等の知識と実施体験を持つことはスムーズなチーム医療を行う上で重要である。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

1) 笹沼和智：放射線管理士の現状、役割、将来展望。関東放射線技師学術大会，2003．6．

#### (2) 一般講演：

1) 笹沼和智，森 克彦：放射線被ばくに対する意識調査 病院看護師と放射線技師学校学生アンケート調査より。全国放射線技師学術大会，2003．11．

2) 笹沼和智，高橋克幸，織田 宏，池田隆志，濱口雄慈，森 克彦：医療従事者の放射線防護講習（1）。日本放射線技術学会関東・東京部会合同研究発表会，2004．2．

3) 高橋克幸，笹沼和智，織田 宏，池田隆志，濱口雄慈，森 克彦：医療従事者の放射線防護講習（2）。日本放射線技術学会関東・東京部会合同研究発表会，2004．2．

4) 池田隆志，笹沼和智，織田 宏，高橋克幸，濱口雄慈，森 克彦：放射線科の危機管理 造影剤の副作用に対する緊急蘇生シミュレーション。日本放射線技術学会関東・東京部会合同研究発表会，2004．2．

## 23. 千葉北総病院付置施設等

### [ 千葉北総病院内科 ]

#### 研究概要

内科各領域を網羅する臨床的研究を積極的に行っている。そのため、研究も心臓、肝臓、神経、腎臓、消化器、内分泌および呼吸器疾患と新たに血液内科が加わりほぼ内科領域全般を網羅している。

心臓では、虚血性心疾患が中心、心臓カテーテル検査による冠動脈形成術やNew Deviceを研究。冠動脈血管内視鏡、血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価、再狭窄の機序を研究中である。

肝臓では、肝機能障害の患者に対し各肝炎ウイルスマーカーの測定、画像診断および肝生検を実施。組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている。

神経では、CT、MRI検査による各種筋疾患の経時変化、治療効果の検討および電気生理検査による中枢、抹消神経疾患の定量的評価検討を行っている。

腎臓では、蛋白尿から、急性、慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断、医療を行っている。特に慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

消化器では、大腸癌と血液疾患の関連、食道蠕動異常と胸部症状との関連、ヘリコバクターピロリ除菌による胃、十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

内分泌では、甲状腺を中心にFGSとの関連を研究している。

呼吸器では、肺癌に対する併用療法および各種間質性肺炎での気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析、検討を行っている。

血液では各種貧血、血小板減少症、造血器腫瘍（急性白血病を除く）などの研究を行っています。造血器腫瘍では成田赤十字病院血液腫瘍科と連携しております。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Fujita M<sup>1)</sup>, Mizuno K, Ho M<sup>2)</sup>, Tsukahara R<sup>2)</sup>, Miyamoto A<sup>3)</sup>, Miki O<sup>4)</sup>, Ishii A<sup>5)</sup>, Miwa K<sup>5)</sup>  
(<sup>1)</sup> The College of Medical Technology, Kyoto University, <sup>2)</sup> Division of Cardiology, Kawasaki Social Insurance Hospital, <sup>3)</sup> Division of Cardiology, Kawasaki Saiwai Hospital, <sup>4)</sup> Division of Cardiology, Nishi Saitama Chuo National Hospital, <sup>5)</sup> Second Dept. of Internal Medicine, Kansai Electric Power Hospital): Sarpogrelate treatment reduces restenosis after coronary stenting. American Heart Journal H1-H4 2003; 145 (3): H1-H4.
- 2) Takano M, Seimiya K, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Okamatsu K, Ishibashi F, Uemura R<sup>2)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K  
(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 国立東静病院内科): Unique Single Coronary Artery with Acute Myocardial Infarction Observation of the Culprit Lesion by Intravascular Ultrasound and Coronary Angioscopy. Japanese Heart Journal 2003; 44 (2): 271-276.
- 3) Mishina M, Senda M<sup>1)</sup>, Kiyosawa M<sup>1)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup>, G. De Volder Anne<sup>1)</sup>, Nakano H<sup>1)</sup>, Toyama H<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Sasaki T<sup>1)</sup>, Ohyama M<sup>1)</sup>, Komaba Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Kitamura S<sup>1)</sup>, Kitayama Y<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院): Increased Regional Cerebral Blood Flow but Normal Distribution of GABAA Receptor in Visual Cortex of Early Onset Blindness. Neurolmage 2003; 19 (1): 125-131.
- 4) Mishina M, Ohyama M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Mitani K<sup>1)</sup>, Oda K, Kimura Y<sup>1)</sup>, Sasaki T, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Fukuchi Y, Kobayashi S, Kitamura S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院): Midbrain Hypometabolism: An

- Early Diagnostic Sign for Progressive Supranuclear Palsy . Journal of Nuclear Medicine 2003 ; 44 ( suppl 5 ) : 233-233 .
- 5) Mishina M, Ishii K<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Sakai T<sup>1)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Fukuchi T, Komaba Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Kitamura S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): [18F]fluorodeoxyglucose uptake and clinical deterioration in progressive supranuclear palsy . Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism 2003 ; 23 ( suppl 1 ) : 589-589 .
  - 6) Komaba Y<sup>1)</sup>, Mishina M, Kobayashi S, Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): Crossed cerebellar diaschisis in patients with cortical infarction : Logistic regression analysis . Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism 2003 ; 23 ( suppl 1 ) : 556-556 .
  - 7) Takano M, Mizuno K, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Seimiya K, Ishibashi F, Okamatsu K, Uemura R<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>国立東静病院内科): Changes in Coronary Plaque Color and Morphology by Lipid -Lowering Therapy With Atorvastatin : Serial Evaluation by Coronary Angioscopy . Journal of American College of Cardiology 2003 ; 42 ( 4 ) : 680-686 .
  - 8) MacNeill D B<sup>1)</sup>, Lowe C H<sup>1)</sup>, Takano M, Fuster V<sup>1)</sup>, Jang IK-K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Division of Cardiology, Massachusetts General Hospital): Intravascular Modalities for Detection of Vulnerable Plaque ( Current Status ) . Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology 2003 ; 23 ( 8 ) : 1333-1341 .
  - 9) Sakai S, Mizuno K, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>2)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Seimiya K, Takano M, Ohba T, Tomimura T, Uemura R<sup>3)</sup>, Imaizumi T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>同 内科学第1, <sup>3)</sup>国立東静病院): Morphologic Changes in Infarct-Related Plaque After Coronary Stent Placement . Journal of American Collage Cardiology 2003 ; 42 ( 9 ) : 1551-1565 .
  - 10) Yoshino N<sup>2)</sup>, Hisayoshi T, Sasaki T, Yamauchi S<sup>2)</sup>, Ooaki Y<sup>1)</sup>, Hino M (<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>同胸部・心臓血管呼吸器外科): Human pulmonary dirofilariasis in a patient whose clinical condition altered during follow-up . The Japanese journal of thoracic and cardiovascular surgey 2003 ; 51 ( 5 ) : 211-213 .
  - 11) Nakamura S, Hashimoto Y, Mikami M, Yamanaka E, Soma T<sup>1)</sup>, Hino M<sup>1)</sup>, Azuma A, Kudoh S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>内科学第4): Effect of the proteolytic enzyme serrapeptase in the patients with chronic airway disease . Respirology 2003 ; 8 : 316-320 .
  - 12) Takano M, Seimiya K : Crater and cavity-like coronary plaque followed on the rupture . European Heart Journal Cover Image 2004 ; 25 ( 1 ) .
  - 13) Okamatsu K, Takano M, Sakai S, Ishibashi F, Uemura R<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup>国立東静病院内科, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第1): Elevated Troponin T Levels and Lesion Characteristics in Non-ST-Elevation Acute Coronary Syndromes . Circulation 2004 ; 109 ( 4 ) : 465-470 .
  - 14) 江本直也, 小野瀬裕之, 川俣博志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): アルドステロン産生腺腫と診断された副腎皮質過形成の1例 . 東京女子医科大学雑誌 2003 ; 73 ( 11 ) : 484-486 .
  - 15) 日野光紀, 小野 靖, 小久保豊<sup>1)</sup>, 杣 知行, 田中庸介, 上原隆志, 樫戸律子, 吉岡央子<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4): 慢性炎症性呼吸器疾患に対する14員環マクロライド長期投与療法による胃 *Helicobacter pylori*感染に対する影響 . The japanese journal of antibiotics 2003 ; 56 ( supplA ) : 47-50 .
- (2) 綜説 :
- 1) 山本英世<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 岡松健太郎, 稲見茂信, 高野雅充, 掃部弘行, 清宮康嗣, 石橋史行, 酒井俊太, 水野杏一 (<sup>1)</sup>国立東静病院内科): SLEに合併したBraid like lesion . 日本冠疾患学会誌 2003 ; 9 ( 1 ) : 34-35 .
  - 2) 張 静<sup>1)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup>留学生): 血管内視鏡を用いる冠動脈血栓性状の鑑別 397-401 2003 4 . 冠動脈の臨床 ( 上 ) 2003 ; 61 ( 4 ) : 397-401 .
  - 3) 高木 元, 水野杏一: 狭心症の冠動脈造影診断 . 冠動脈の臨床 ( 下 ) 2003 ; 61 ( 5 ) : 32-38 .



- 4) 水野杏一：急性心筋梗塞の冠血管内視鏡所見．救急・集中治療 2003；15(8)：799-804．
- 5) 水野杏一：急性心筋梗塞の血管内視鏡所見．循環器科 2003；54(1)：38-42．
- 6) 小林宣明，稲見茂信，石橋史行，清宮康嗣，大場崇芳，高木 元，横山真也<sup>1)</sup>，酒井俊太，野村敦宣，佐野純子，畑 典武<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室)：肺血栓塞栓を合併した急性大動脈瘤解離症例．日本冠疾患学会誌 2003；9(3)：171-172．
- 7) 水野杏一，酒井俊太，高野雅充，石橋史行，清宮康嗣，大場崇芳：不安定プラークのstabilization．進歩する心臓研究 2003；XXIII(2)：15-17．
- 8) 水野杏一：血管内視鏡で診る．Heart View 2003；11：17-21．
- 9) 日野光紀：肺癌に伴う腫瘍随伴症候群．呼吸器科 2003；3(6)：539-545．
- 10) 水野杏一：急性冠症候群：診断と治療の進歩．日本内科学会雑誌 2004；93(2)：209-214．
- 11) 水野杏一，酒井俊太：冠疾患研究の進歩．循環器専門医 2004；12(1)：118-123．
- 12) 日野光紀：肺癌に伴う呼吸器感染症の病態と治療．呼吸器科 2004；4(3)：191-199．

## 著 書

- 1) 高野雅充，水野杏一：〔共著〕血栓溶解療法．Beyond Angiography(山口 徹・齋藤 穎)，2003；pp152-155，南江堂．
- 2) 三品雅洋：〔自著〕～脳保護薬エダラボン～．脳梗塞急性期治療症例集，2003；pp49-51，医薬ジャーナル社．
- 3) 水野杏一：〔自著〕急性冠症候群の診療に関するガイドライン．今日の治療指針2004(山口 徹，北原光夫・相澤好治，飯田三雄)，2004；pp1540-1544，医学書院．
- 4) 日野光紀<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>，中田紘一郎，貴和敬博<sup>(1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター，<sup>2)</sup>内科学第4)：〔共著〕肺分画症．呼吸器疾患，最新の治療2004-2006，2004；pp385-387，南江堂．
- 5) 水野杏一：〔自著〕生活習慣病が重複した場合の薬物療法．生活習慣病(関原久彦)，2004；pp124-125，中外医学社．
- 6) 酒寄 修，葉山修陽：〔共著〕透析患者の一過性脳虚血発作．腎と透析，2004；pp215-219，東京医学社．

## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 水野杏一：OCTのValidation．第17回日本心臓血管内視鏡学会，2003．10．

### (2) シンポジウム：

- 1) Takeshita M<sup>1)</sup>，Ohsuzu F<sup>2)</sup>，Higashi K<sup>2)</sup>，Yonemura A<sup>2)</sup>，Sawada S<sup>2)</sup>，Tabata S<sup>2)</sup>，Obata T<sup>2)</sup>，Mizuno K，Sano J，Onodera Y<sup>3)</sup>，Yamashita T<sup>4)</sup>，Miyajima E<sup>4)</sup>，Mori K<sup>1)</sup>，Tomonobu K<sup>1)</sup>，Katsuragi Y<sup>1)</sup>，Yasukawa T<sup>1)</sup>，Nakamura H<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Health Care Products Research Laboratories No. 1 Kao Corp，<sup>2)</sup>1st Dept. of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama，<sup>3)</sup>Nikko Medical Hospital Muroran，<sup>4)</sup>Mitsukoshi Health and Welfare Foundation)：Effect of diacylglycerol oil containing plant sterols on serum lipid parameters in patients taking pravastatin (10mg/day)．第13回国際動脈硬化学会(京都)，2003．9．
- 2) 琴寄 誠，岩切勝彦<sup>1)</sup>，田中由理子<sup>1)</sup>，林 良紀<sup>1)</sup>，杉浦敏昭<sup>1)</sup>，川上明彦<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，野村努<sup>2)</sup>，田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3，<sup>2)</sup>外科学第1)：新しい食道内圧システム(21channel topography)によるdysphagia症例の検討．第57回日本食道学会，2003．6．
- 3) 岩切勝彦<sup>1)</sup>，田中由理子<sup>1)</sup>，林 良紀<sup>1)</sup>，琴寄 誠，杉浦敏昭<sup>1)</sup>，川上明彦<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>，新井富生<sup>2)</sup>，田久保海誉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第3，<sup>2)</sup>東京都老人医療センター臨床病理科，<sup>3)</sup>東京都老人総合研究所・高齢者の臓器と組織の研究グループ)：下部食道円柱上皮内の扁平上皮島の生検はパレット上皮の診断に有用である．第57回日本食道学会，2003．6．

- 4) 大場崇芳, 酒井俊太, 三船俊英<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>1)</sup>, 田近研一郎, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 清宮康嗣, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室 ): 冠動脈プラーク破綻 ( 無症候性 ) の危険因子 : 血管内視鏡 . 第35回日本動脈硬化学会総会, 2003 . 9 .
- 5) 酒井俊太, 高野雅充, 三船俊英, 稲見茂信, 田近研一郎, 清宮康嗣, 大場崇芳, 水野杏一 : Angioscopic Plaque Stabilization の提唱 . 第14回日本心血管画像動態学会, 2004 . 2 .
- (3) パネルディスカッション :
- 1) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 林 良紀<sup>1)</sup>, 琴寄 誠, 杉浦敏昭<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第3 ): 胃背景粘膜, 年齢からみた逆流性食道炎 ( RE ) の頻度および5年間のREの推移 . 第57回日本食道学会, 2003 . 6 .
- 2) 林 良紀<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 琴寄 誠, 杉浦敏昭<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第3 ): 健康者, 逆流性食道炎患者の胃食道逆流メカニズム . 第57回日本食道学会, 2003 . 6 .
- (4) セミナー :
- 1) Mizuno Kyoichi : ACS ( Acute Coronary Syndrome ) plaque stabilization by statin implication of the JUST and HPS study . Complex Catheter Therapeutics 2003 ( Calgary ), 2003 . 10 .
- (5) ランチョンセミナー :
- 1) 水野杏一 : 急性冠症候群の病因・病態・治療2003 . 第3回日本心血管カテーテル学会, 2003 . 7 .
- (6) ワークショップ :
- 1) 水野杏一 : 冠動脈病変の血管内視鏡分類 . 第17回日本心臓血管内視鏡学会, 2003 . 10 .
- 2) 酒井俊太 : 冠動脈内視鏡の合併症, 適応, 禁忌 . 第17回日本心臓血管内視鏡学会, 2003 . 10 .
- (7) 一般講演 :
- 1) 石橋史行, 水野杏一, 畑 典武<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 横山真也<sup>1)</sup>, 高木 元, 清宮康嗣, 稲見茂信 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室 ): 急性冠症候群における冠血栓とSlow-flow現象との関連 : 血管内視鏡による検討 . 第12回日本心血管インターベンション学会, 2003 . 6 .
- 2) 小林宣明<sup>1)</sup>, 三船俊英, 小川友裕, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 酒井俊太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室 ): 加齢と急性冠症候群 : 冠動脈内視鏡による黄色プラークの検討 . 第17回日本心臓血管内視鏡学会, 2003 . 10 .
- 3) Komada Y<sup>1)</sup>, Mishina M, Kobayashi S, Katayama Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第2 ): Crossed Cerebellar Diaschisis in Patients with Cortical Infarction Using Logistic Regression Analysis . 29th International Stroke Conference ( San Diego ), 2003 . 2 .
- 4) Omata M, Kida K : Relationship between Reversibility of Airway Obstruction and Quality of Life in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease . Congress of ATS , 2003 . 4 .
- 5) Mishina M, Ohyama T<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Mitani K<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Sakaki T<sup>1)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Fukuchi T, Komaba Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Kitamura S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第2 ): [18-F]fluorodeoxyglucose uptake and clinical deterioration in progressive supranuclear palsy . XX1st International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function ( Calgary ), 2003 . 6 .
- 6) Mishina M, Ohyama M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Mitani K<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Sakaki T<sup>1)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Fukuchi Y, Kobayashi S, Kitamura S, Katayama Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第2 ): Hypometabolism : An Early Diagnostic Sign for Progressive Supranuclear Palsy . The 50th Society of Nuclear Medicine New Orleans Annual Meeting , 2003 . 6 .
- 7) Komaba Y<sup>1)</sup>, Mishina M, Kobayashi S, Katayama Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第2 ): Crossed cerebellar diaschisis in patients with cortical infarction : Logistic regression analysis . XX1st International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function ( Calgary ), 2003 . 6 .
- 8) 三品雅洋 : Midbrain hypometabolism : An early diagnostic sign for progressive supranuclear palsy . SCU '03 Meeting , 2003 . 11 .

- 9) Takano M, Kobayashi N, Mifune T, Ogawa T, Tajika K, Inami S, Seimiya K, Ohba T, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Sakai S, Nomura A, Sano J, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Changes in Coronary Plaque Color and Morphology by Lipid Lowering Therapy with Atorvastatin : Serial Evaluation by Coronary Angioscopy . 第68回日本循環器学会, 2004 . 3 .
- 10) Seimiya K, Kobayashi N, Mifune T, Tajika K, Ogawa T, Inami S, Takano M, Ohba T, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Sakai S, Nomura A, Sano J, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup>集中治療室): Significance of Plaque disruption site in Acute Coronary Syndrome . 第68回日本循環器学会, 2004 . 3 .
- 11) Okamatsu K, Mizuno K, Inami S, Takano M, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T, Sakai S, Nomura A, Sano J, Hata N<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): The Effectiveness of Distal protect Devices in Acute Coronary Syndromes-The Relationship between Coronary Thrombus and TIMI Frame Counts . 第68回日本循環器学会, 2004 . 3 .
- 12) Inami S, Kobayashi N, Mifune T, Tajika K, Ogawa T, Ishibashi F, Okamatsu K, Seimiya K, Takano M, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T, Sakai S, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Statin prevent coronary plaque disruption . 第68回日本循環器学会, 2004 . 3 .
- 13) 市川雅男<sup>1)</sup>, 江本直也, 朝倉禎史<sup>1)</sup>, 小木三郎<sup>1)</sup>, 五十嵐健治<sup>1)</sup>, 若月雅美<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 松沢一郎<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科学, <sup>2)</sup>泌尿器科学): 妊娠中期に診断されたクッシング症候群の1例 . 第13回臨床内分泌代謝update ,
- 14) 江本直也, 城所 葉, 芦澤真代, 小野瀬裕之, 及川真一, 清水一雄<sup>1)</sup>, 豊田亜希子<sup>2)</sup>, 豊田英尚<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院外科学第2, <sup>2)</sup>理化学研究所フロンティア研究システム糖鎖研究チーム, <sup>3)</sup>千葉大学大学院薬学研究院生体分析化学研究室): 甲状腺乳頭癌組織内へパラン硫酸におけるFGF-2細胞増殖促進性構造の増加 . 第76回日本内分泌学会学術総会 ,
- 15) 城所 葉, 江本直也, 芦澤真代, 小野瀬裕之, 及川真一, 清水一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): ヒトサイログロブリンのへパリン結合性の解析 . 第46回日本甲状腺学会 ,
- 16) 小野瀬裕之, 立澤夏紀<sup>1)</sup>, 原田太郎<sup>1)</sup>, 中島 泰, 吉沢雅史, 岸田輝幸, 江本直也 ( <sup>1)</sup>付属病院): 強力な免疫抑制療法にもかかわらず甲状腺機能調節に難渋したSLE合併Basedow症の1例 . 第46回日本甲状腺学会 ,
- 17) 塩井由美子<sup>1)</sup>, 横瀬紀夫, 兵働英也<sup>1)</sup>, 橘美紀子<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 田村秀人<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 骨髄異形成症候群 (MDS) 患者リンパ球のapoptosisに関する検討 . 第65回日本血液学会総会・第45回日本臨床血液学会総会 ,
- 18) 田村秀人<sup>1)</sup>, 横瀬紀夫, 中村恭子<sup>1)</sup>, 塩井由美子<sup>1)</sup>, 橘美紀子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院): 急性骨髄性白血病 (AML) 細胞における補助刺激分子87-H2 ( ICOS ligand ) の発現と予後との関連 . 第65回日本血液学会総会 第45回日本臨床血液学会総会 ,
- 19) 酒井俊太, 岡松健太郎, 小川友裕, 稲見茂信, 掃部弘行, 清宮康嗣, 石橋史行, 高木 元, 水野杏一, 畑 典武<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): ACSによる冠血栓とPCI後のNo-Reflow現象との関連 : 血管内視鏡による検討 . 第9回日本血管内治療学会, 2003 . 4 .
- 20) 小川友裕, 岡松健太郎, 稲見茂信, 石橋史行, 清宮康嗣, 掃部弘行, 高木 元, 酒井俊太, 畑 典武, 水野杏一 : 血管内視鏡によるNon-ST-Segment Elevation Acute Coronary Syndrome ( NSTEMI-ACS ) のトロポニンによるリスク層別化の立証 . 第9回日本血管内治療学会, 2003 . 4 .
- 21) 山本 剛<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 酒井俊太, 葉山修陽, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科学第1): 透析症例に対するPCIの問題点とその対策: 凝固系異常について . 第9回日本血管内治療学会, 2003 . 4 .
- 22) 上原隆志, 日野光紀, 小野 靖, 柚 知行, 田中庸介, 橋戸律子, 北村和広, 大秋美治<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>内科学第4): 顕微鏡的多発性血管炎とChurg-Strauss症候群の呼吸器症状・合併症 . 第

43回呼吸器学会総会，2003．4．

- 23) 田中庸介<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>1)</sup>，北村和広<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，柚 知行<sup>1)</sup>，小野 靖<sup>1)</sup>，森川哲行<sup>3)</sup>，武内浩一郎<sup>3)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター，<sup>2)</sup>同内科学第4，<sup>3)</sup>横浜労災病院呼吸器科):慢性閉塞性肺疾患患者の病態，特に運動耐容能評価の新たな指標としてのドップラー心臓超音波検査の検討．第43回呼吸器学会総会，2003．4．
- 24) 田中庸介<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>1)</sup>，北村和広<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，柚 知行<sup>1)</sup>，小野 靖<sup>1)</sup>，森川哲行<sup>3)</sup>，武内浩一郎<sup>3)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院呼吸器センター，<sup>2)</sup>内科学第4，<sup>3)</sup>横浜労災病院呼吸器科):慢性閉塞性肺疾患患者の運動耐容能評価の指標としての血漿乳酸値の検討．第43回呼吸器学会総会，2003．4．
- 25) 北村和広<sup>1)</sup>，小野 靖<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，田中庸介<sup>1)</sup>，柚 知行<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター，<sup>2)</sup>内科学第4):進行非小細胞癌未治療例に対するCBDCA+PTX+UFT併用のPhase1, 2 study．第43回呼吸器学会総会，2003．4．
- 26) 日野光紀<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，北村和広<sup>1)</sup>，田中庸介<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，柚 知行<sup>1)</sup>，小野 靖<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター，<sup>2)</sup>内科学第4):院内肺炎ガイドライン・エンピリック治療の抗菌薬選択の検証．第43回呼吸器学会総会，2003．4．
- 27) 小野 靖<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>1)</sup>，北村和広<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，田中庸介<sup>1)</sup>，柚 知行<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター，<sup>2)</sup>内科学第4):当院におけるGefitinib (IRESSA)の治療経験．第43回呼吸器学会総会，2003．4．
- 28) 日野光紀<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，北村和広<sup>1)</sup>，田中庸介<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，柚 知行<sup>1)</sup>，小野 靖<sup>1)</sup>，古川栄省<sup>2)</sup>，工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター，<sup>2)</sup>国立がんセンター研究所支所精神腫瘍学研究室，<sup>3)</sup>付属病院内科学第4):慢性呼吸器疾患外来患者におけるうつ病の合併とその関連因子及び内科外来への影響．第43回呼吸器学会総会，2003．4．
- 29) 藤森俊二<sup>1)</sup>，岸田輝幸<sup>1)</sup>，大磯義一郎<sup>1)</sup>，関田祥久<sup>1)</sup>，瀬尾継彦<sup>1)</sup>，三井啓吾<sup>1)</sup>，米澤真興<sup>1)</sup>，永田和弘<sup>1)</sup>，柴田喜明<sup>1)</sup>，篠澤 功<sup>1)</sup>，田中 周<sup>1)</sup>，辰口篤志<sup>1)</sup>，吉田 豊<sup>1)</sup>，坂本長逸<sup>1)</sup>，横井公良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3):女性における大腸腺腫の有無と血清総コレステロールとの関係に対する検討．第65回日本消化器内視鏡学会総会，2003．5．
- 30) 三品雅洋<sup>1)</sup>，石井賢二<sup>1)</sup>，石渡喜一<sup>1)</sup>，三谷和子<sup>1)</sup>，北村 伸<sup>1)</sup>，大山雅史<sup>1)</sup>，酒寄 修<sup>1)</sup>，濱本 真<sup>1)</sup>，福地孝明<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2):[11C]SA4305 PETを用いたパーキンソン病におけるシグマ1受容体分布の研究．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 31) 大山雅史<sup>1)</sup>，石井賢二<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，三谷和子<sup>1)</sup>，北村 伸<sup>1)</sup>，織田圭一<sup>1)</sup>，木村祐一<sup>1)</sup>，河村和紀<sup>1)</sup>，佐々木徹<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>，石渡喜一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2):アルツハイマー病におけるシグマ受容体リガンド11C-SA4305と糖代謝の検討．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 32) 駒場祐一<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2):皮質梗塞患者におけるcrossed cerebral diaschisis: logistic解析による検討．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 33) 三谷和子<sup>1)</sup>，山之内博<sup>1)</sup>，石井賢二<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2):Lewy小体型痴呆における黒質線条体ドパミン系機能．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 34) 鈴木正彦<sup>1)</sup>，石井賢二<sup>1)</sup>，三谷和子<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，井上聖啓<sup>1)</sup>，山之内博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2):Parkinson病の線条体における節前・節後ドパミン機能の相関的解析．第44回日本神経学会総会，2003．5．
- 35) 小林宣明<sup>1)</sup>，高木 元<sup>1)</sup>，本郷公英<sup>1)</sup>，田近研一郎<sup>1)</sup>，小川友祐<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，野村敦宣<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，三船俊英<sup>1)</sup>，徳山権一<sup>1)</sup>，品田卓郎<sup>1)</sup>，三浦洋司<sup>1)</sup>，吉田博史<sup>1)</sup>，横山真也<sup>1)</sup>，今泉孝敬<sup>1)</sup>，畑 典武<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室):肺血栓塞栓症を合併した急性大動脈解離症例．第188回日本医科大学付属千葉北総病院循環器学会関東甲信越地方会，2003．6．
- 36) 大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，小川友祐<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，横山真

- 也<sup>1)</sup>, 高木 元, 野村敦宣, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 当院における冠動脈内血管内視鏡施行時の合併症の頻度: 1015 手技での検討. 第 12 回日本心血管インターベンション学会, 2003. 6.
- 37) 三井啓吾<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 大磯義一郎<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 関田祥久<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 篠澤 功, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>(1)</sup>内科学第3): 肺結核の治療中に発症したサイトメガロウイルス腸炎の 1 例. 第 76 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2003. 6.
- 38) 三品雅洋, 駒場祐一<sup>(1)</sup>, 田中伸幸<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>1)</sup>, 櫻澤 誠<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 酒寄 修, 濱本 真, 片山泰朗, 寺本 明<sup>(1)</sup>付属病院): エダラボン併用と心原性脳塞栓出血性変化に関するロジスティック回帰分析を用いた検討. 第 53 回東葛地区脳神経外科研究会, 2003. 6.
- 39) 田中伸幸<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 駒場祐一<sup>(1)</sup>, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 酒寄 修, 濱本 真, 寺本明<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup>付属病院): エダラボン・ヘパリン併用と心原性脳塞栓出血性変化: ロジスティック回帰分析を用いた検討. 第 1 回 “フリーラジカルと脳疾患” 東日本研究会, 2003. 8.
- 40) 小林宣明<sup>1)</sup>, 三船俊英<sup>1)</sup>, 田近研一郎, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 清宮康嗣, 大場崇芳, 酒井俊太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一, 徳山権一<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 吉田博史<sup>1)</sup>, 三浦洋司<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 5FU 治療中にたこつぼ心筋症を発症した 1 例. 第 189 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 9.
- 41) 稲見茂信, 石橋史行, 小川友裕, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 高木 元, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一: 冠動脈プラーク崩壊に対するスタチンの影響: 血管内視鏡での検討. 第 35 回日本動脈硬化学会総会, 2003. 9.
- 42) 岡松健太郎, 水野杏一, 酒井俊太, 稲見茂信, 清宮康嗣, 石橋史行, 高木 元, 佐野純子, 横山真也, 大場崇芳, 畑 典武<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Non-ST elevation ACS における Troponin T と病変形態. 第 51 回日本心臓病学会総会, 2003. 9.
- 43) 石橋史行, 水野杏一, 酒井俊太, 清宮康嗣, 小川友裕, 佐野純子, 野村敦宣, 大場崇芳, 稲見茂信: 急性冠症候群の病因・病態・治療 2003 発症予測: 黄色プラークと炎症の重要性. 第 51 回日本心臓病学会総会, 2003. 9.
- 44) 石橋史行, 水野杏一, 佐野純子, 野村敦宣, 酒井俊太, 大場崇芳, 清宮康嗣, 稲見茂信, 小川友裕: 加齢と急性冠症候群: 冠動脈内視鏡による黄色プラークの検討. 第 51 回日本心臓病学会総会, 2003. 9.
- 45) 野村敦宣, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 清宮康嗣, 大場崇芳, 酒井俊太, 佐野純子, 水野杏一, 小林義典<sup>1)</sup>, 斉藤寛和<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科, <sup>2)</sup>内科学第 1): Brugada 型心電図波形の日内変動. 第 20 回日本心電学会学術集会, 2003. 9.
- 46) 小林宣明<sup>1)</sup>, 三船俊英, 小川友裕, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 酒井俊太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 急性冠症候群の血管内視鏡による発症予測: 黄色プラークの重要性. 第 17 回日本心臓血管内視鏡学会, 2003. 10.
- 47) 稲見茂信, 小林宣明<sup>1)</sup>, 三船俊英, 田近研一郎, 小川友裕, 石橋史行, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 冠動脈プラーク崩壊に対するスタチンの効果. 第 17 回日本心臓血管内視鏡学会, 2003. 10.
- 48) 岡松健太郎, 小林宣明<sup>1)</sup>, 三船俊英, 田近研一郎, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 血管内視鏡による非 ST 上昇型急性冠症候群の病変形態の観察. 第 17 回日本心臓血管内視鏡学会, 2003. 10.
- 49) 稲見茂信, 小林宣明<sup>1)</sup>, 三船俊英, 田近研一郎, 小川友裕, 石橋史行, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 無症候性プラーク破綻と高感度 CRP の関連. 第 17 回日本心臓血管内視鏡学会, 2003. 10.
- 50) 篠澤 功, 二神生爾<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 大磯義一郎<sup>1)</sup>, 関田祥久<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 平塚

- 哲郎<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 選択的COX - 2阻害剤 (Celecoxib) +DSS腸炎モデルを用いたCOX-2, mPGESの局在部位に対する検討. 第45回日本消化器学会大会, 2003. 10.
- 51) 米澤真興<sup>1)</sup>, 和田 讓<sup>1)</sup>, 赤松知憲<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 大磯義一郎<sup>1)</sup>, 関田祥久<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 篠澤 功, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 佐藤 順<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 大腸癌におけるHeregulinによるVEGF分泌調整に関する検討. 第45回日本消化器学会, 2003. 10.
- 52) 田中 周<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 篠澤 功, 二神生爾<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 和田 讓<sup>1)</sup>, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 大腸腺腫のマクロファージにおけるCOX-2発現に対するMCP-1の役割. 第66回日本消化器内科学会, 2003. 10.
- 53) 林 良紀<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 琴寄 誠, 杉浦敏昭<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 健常者, 逆流性食道患者の胃食道逆流メカニズム. 第89回日本消化器学会, 2003. 10.
- 54) 三品雅洋, 福地孝明, 小林士郎, 北村 伸<sup>1)</sup>, 酒寄 修, 濱本 真, 大山雅史<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 三谷和子<sup>1)</sup>, 石渡喜一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院): パーキンソン病におけるシグマ1受容体分布: [C-11]SA4503 PET study. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 55) 石渡喜一<sup>1)</sup>, 汪 維芳, 木村祐一<sup>1)</sup>, 三品雅洋, 河村和紀, 織田圭一<sup>1)</sup>, 佐々木徹<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院): 脳アデノシンA2A受容体リガンド[11C]TMSXの前臨床研究. 第43回日本核医学会総会, 2003. 10.
- 56) 上原隆志, 葉山修陽, 大秋美治<sup>1)</sup>, 斉藤浩一, 上鶴里央子, 北村和広, 榎戸律子, 田中庸介, 小野 靖, 日野光紀<sup>1)</sup> (千葉北総病院病理部): 開胸肺生検を待機中に急速進行性糸球体腎炎を呈したPR3-ANCA陰性のWegener肉芽腫症の1例. 第13回千葉膠原病セミナー, 2003. 10.
- 57) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>3)</sup>, 武内浩一郎<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>同内科学第4, <sup>3)</sup>横浜労災病院): 慢性閉塞性肺疾患患者の運動耐容能と血漿乳酸値の検討. 臨床呼吸整理研究集会, 2003. 11.
- 58) 佐野純子, 小林宣明<sup>1)</sup>, 三船俊英, 小川友裕, 稲見茂信, 高野雅充, 清宮康嗣, 大場崇芳, 野村敦宣, 酒井俊太, 水野杏一<sup>1)</sup> (千葉北総病院集中治療室): 99mTc-HMDP骨シンチグラムの心筋集積により診断された無症候性心筋虚血の1例. 第190回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 59) 横山真也<sup>1)</sup>, 清宮康嗣, 稲見茂信, 徳山権一<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 三浦洋司<sup>1)</sup>, 吉田博史<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 気管支ファイバー施行中に発症し, 冠血栓吸引により救命し得た重症心筋梗塞の1例. 第190回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2003. 12.
- 60) 小川友裕, 小林宣明, 三船俊英, 田近研一郎, 稲見茂信, 石橋史行, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一: 血管内視鏡所見でのステント時代のPCI後合併症出現予測因子の検討. 第17回日本冠疾患学会, 2003. 12.
- 61) 田近研一郎, 小林宣明, 三船俊英, 稲見茂信, 小川友裕, 石橋史行, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (千葉北総病院集中治療室): プラーク崩壊と高感度CRPの関連. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.
- 62) 岡松健太郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 佐野純子, 野村敦宣, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (千葉北総病院集中治療室): 非ST上昇型急性冠症候群におけるTroponinTと病変携帯. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.
- 63) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>集中治療室): 高齢者非ST上昇型急性冠症候群に対する早期侵襲的治療は有効か?. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.
- 64) 清宮康嗣, 小川友裕, 田近研一郎, 稲見茂信, 高野雅充, 大場崇芳, 野村敦宣, 酒井俊太, 佐野純子, 今泉孝

- 敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 急性冠症候群におけるプラーク破綻部位の検討. 第17回日本冠疾患学会学術集会, 2003. 12.
- 65) 上原隆志, 日野光紀, 水野杏一, 小野 靖, 田中庸介, 榎戸律子, 上鶴里央子, 北村和広: *Nocardia farcinica* および *Mycobacterium fortuitum* による慢性の感染症プラを伴う肺炎の1例. 第16回千葉感染症治療研究会, 2003. 12.
- 66) 三船俊英, 酒井俊太, 小林宣明, 小川友裕, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一: 心筋梗塞回復期に施行された冠動脈造影および血管内超音波では診断できなかった多量冠動脈内残存血栓の1例. 第14回日本心血管画像動態学会, 2004. 1.
- 67) 榎戸律子<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>同病理部): 一時的に自然縮小を認めた肺扁平上皮癌疑いの1例. 第16回東葛肺癌研究会, 2004. 1.
- 68) 川見典之, 城所秀子, 田村秀樹, 江本直也, 岸田輝幸, 水野杏一: 便秘, 全身倦怠感と意識障害を契機に発見された汎下垂体機能低下症の1例. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 69) 田近研一郎, 小林宣明, 三船俊英, 小川友裕, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 酒井俊太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一: 前立腺癌による<sup>99mTc</sup>-HMDP骨シンチグラムの心筋集積を認めた1例. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 70) 山本真功, 野村敦宣, 岸雄一郎, 平出智晴, 酒寄 修, 水野杏一, 濱本 真: リウマチ性多発筋痛症で発病した成人型スティル病の1例. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 71) 佐々木朝子<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 椎葉邦人<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>2)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 清宮康嗣, 酒井俊太, 日野光紀, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>内科学第1): 気管支ファイバー施行中に発病し, 冠動脈血栓吸引により救命し得た重症心筋梗塞の1例. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 72) 三品雅洋: 解離性脳動脈瘤による脳梗塞. 第6回脳卒中勉強会, 2004. 2.
- 73) 山本真功, 野村敦宣, 岸雄一郎, 平出智晴, 橋本和政, 酒寄 修, 濱本 真, 水野杏一: リウマチ多発筋痛症状態で発症した成人スティル病と考えられる1例. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 74) 渥美健一郎<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>同病理部): 多発結節影を呈し胸腔鏡下生検にて診断した肺 MALT Lymphoma の1例. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 75) 日野光紀<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 片岡ひろみ<sup>1)</sup>, 後藤誠子<sup>1)</sup>, 松丸雪江<sup>1)</sup>, 渡辺郷美<sup>1)</sup>, 柳下照子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学附属千葉北総病院院内感染対策委員会): 院内感染対策としての看護職員を対象としたウィルス抗体価検査. 環境感染学会総会, 2004. 2.
- 76) 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>同病理部): 異なった経過をたどった肺癌消化管転移の2症例. 第139回肺癌学会関東地方会, 2004. 3.
- 77) 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>3)</sup>, 武内浩一郎<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学附属千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>同内科学第4, <sup>3)</sup>横浜労災病院): 栄養障害からみた慢性閉塞性肺疾患の physical status の検討. 第44回日本呼吸器学会総会, 2004. 3.
- (8) コントラバーシー:
- 1) 酒井俊太, 小林宣明<sup>1)</sup>, 田近研一郎, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 岡松健太郎, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 急性冠症候群に対するステント療法: 血管内視鏡の観察から見た知見. 第35回日本動脈硬化学会総会, 2003. 9.

(9) ポスター：

- 1) 稲見茂信, 酒井俊太, 小川友裕, 石橋史行, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高木 元, 大場崇芳, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): SVGdisease (TIMIO) に対する distal protection device を用いた PCI 後にショックに陥った狭心症の1例. 第22回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会 (関東甲信越JSIC), 2003. 4.
- 2) 松本ゆうき<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院中央検査室): 閉塞性動脈硬化症の術後評価におけるABIの有用性. 第71回日本医科大学医学総会, 2003. 9.
- 3) 山口由香<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院中央検査室): 103補充現象におけるSISI検査と自記オージオメトリーの結果の検討. 第71回日本医科大学医学総会, 2003. 9.
- 4) 野口由紀<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院中央検査室): ウイルス性脳炎. 第71回日本医科大学医学総会, 2003. 9.
- 5) 三船俊英: ステント留置術6年後に発症し, カテーテル検査中に急激に増悪して完全閉塞に至った遅発性血栓症の1例. 第23回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2003. 10.

(10) ラウンドテーブルディスカッション：

- 1) 水野杏一: Vulnerable Plaque の診断と治療. 第3回日本心血管カテーテル学会, 2003. 7.

(11) ランチョンパネル：

- 1) 水野杏一: 虚血性心疾患治療に長時間作用型硝酸薬の使用は今後どうする?. 第68回日本循環器学会, 2004. 3.

## [ 千葉北総病院集中治療室 ]

### 研究概要

急性冠症候群 (急性心筋梗塞, 不安定狭心症), 重症うっ血性心不全, 肺血栓塞栓症, 解離性大動脈瘤ならびにDIC, SIRS, ARDSなどの重症疾患の集中管理を行い, 最新かつ安定した治療法の確立を目指し研究を重ねた.

(1) 人工補助装置

呼吸器, 血液浄化法, IABP, PCPSなどの補助装置をフルに駆使している. 必要に応じ他診療科との連携もスムーズに行える環境にあり, 千葉県における循環器ならびに多臓器不全患者, 血液浄化法に関する研究の拠点として活動している.

(2) 急性冠症候群

冠動脈内視鏡, 血管内エコーを活用し, 新しい治療戦略の確立と治療法の選択基準の確立に努めている. また, 本疾患に関わるサイトカインについての研究にも着手し発表を積み重ねている. 循環器関連の学会において急性冠症候群の治療戦略ならびに病態についての報告を数多くおこなった.

(3) 肺血栓塞栓症

画像診断部門, 臨床検査部門の協力を得て, 本症の急性期病態把握と最新かつ有効な治療法の確立を提唱できる全国でも筆頭の施設である. 現在, 本疾患に対する一時的ならびに永久下大静脈フィルター装着を含むカテーテル治療の有用性を検討し, 日本集中治療学会などで提言を続けている.

(4) 急性大動脈解離

豊富な症例数をもとに発表を重ねている. 特に合併症としての胸水貯留のメカニズムについて研究を続けている. 動脈解離症例の長期予後についての検討を行っている.

(5) 重症循環器疾患のドクターヘリ搬送

急性冠症候群, 急性大動脈解離, うっ血性心不全などの搬送にドクターヘリを導入. 早期の初期治療開始と患者情報の手の有用性を検討している.



## 研究業績

### 論文

[ 2002 年度追加分 ]

#### 研究報告書 :

- 1) Takano M<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Uemura R<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital ): Unique single coronary artery with acute myocardial infarction : observation of the culprit lesion by intravascular ultrasound and coronary angiography . Jpn Heart J 2003 ; 44 ( 2 ): pp271-276 .

#### ( 1 ) 原著 :

- 1) Hata N, Imaizumi T, Shinada T, Yokoyama S, Ohba T, Yoshida H, Tokuyama K : Blood Purification and Cardiorespiratory Support in the Intensive Care Unit . International J Intensive Care 2003 ; 10 ( 2 ): 51-56 .
- 2) Takano M<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Seimiya K<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Uemura R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital ): Changes in Coronary Plaque Color and Morphology by Lipid-Lowering Therapy With Atorvastatin : Serial Evaluation by Coronary Angioscopy . JACC 2003 ; 42 ( 4 ): 680-686 .
- 3) Sakai S<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Tanabe J<sup>1)</sup>, Shinada T, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Tomimura M<sup>1)</sup>, Uemura R<sup>1)</sup>, Imaizumi T ( <sup>1)</sup>Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital ): Morphologic Changes in Infarct-Related Plaque After Coronary Stent Placement . JACC 2003 ; 42 ( 9 ): 1558-1565 .

#### ( 2 ) 綜説 :

- 1) 畑 典武 : 危険な不整脈 ( 徐脈性不整脈 ) . Emergency Nursing 2003 ; 16 ( 6 ): 500-506 .

#### ( 3 ) 研究報告書 :

- 1) Ohba T, Hata N, Ohaki Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Pathology, Chiba Hokusoh Hospital ): The Coronary Angioscopic Appearance and Hystopathology of Coronary Artery Thrombi in Acute Coronary Syndrome . Asian Cardiovascular & Thoracic Annals 2003 ; 11 ( 3 ): pp255-257 .
- 2) 小林宣明<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター ): 肺血栓塞栓症を合併した急性大動脈解離症例 . 冠疾患誌 2003 ; 9 : pp171-172 .

### 学会発表

[ 2002 年度追加分 ]

#### 一般講演 :

- 1) Miura Y<sup>1)</sup>, Morio H<sup>1)</sup>, Hata N, Makino T<sup>1)</sup>, Kuwano T<sup>1)</sup>, Touhira H<sup>1)</sup>, Fukunaga M<sup>1)</sup>, Katada S<sup>1)</sup>, Yasue K<sup>1)</sup>, Suenaga K<sup>1)</sup>, Tsukui I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Japan Aeromedical Research Center ): The nationwide survey of venous thromboembolism after air travel in Japan . 4th Asia Pacific Congress of Aerospace Medicine ( Tsukuba ), 2002 . 10 .

#### ( 1 ) 特別講演 :

- 1) 畑 典武 : リウマチ性疾患における心血管病変診療の実際 . 第 26 回湘南免疫疾患カンファレンス , 2003 . 6 .
- 2) 畑 典武 : 急性心筋梗塞 病態とその予防 . 平成 15 年度千葉県薬事講習会 , 2003 . 11 .

(2) 一般講演 :

- 1) Hata N, Yokoyama S, Imaizumi T, Ohba T, Shinada T, Yoshida H, Tokuyama K, Mizuno K, Matsumori A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cardiovascular Medicine, Kyoto University): Hepatocyte Growth Factor and Cardiovascular Thrombosis in Patients Admitted to the Intensive Care Unit. 2nd Asian Pacific Scientific Forum/ AHA (Honolulu), 2003. 6.
- 2) Takano M<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Mifune T<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Sakai S<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Sano J<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital): Changes in Coronary Plaque Color and Morphology by Lipid-Lowering Therapy with Atrvastatin : Serial Evaluation by Coronary Angioscopy . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 3) Okamatsu K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Sano J<sup>1)</sup>, Hata N (<sup>1)</sup>Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital): The Effectiveness of Distal-protect Devices in Acute Coronary Syndromes - The Relationship between Coronary Thrombosis and TIMI Frame Counts . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 4) Inami S<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Mifune T<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital): Statins prevent coronary plaque disruption . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 5) Seimiya K<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Mifune T<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Sakai S<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Sano J<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital): Significance of Plaque Disruption Site in Acute Coronary Syndrome . The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2004 . 3 .
- 6) 今泉孝敬, 品田卓郎, 徳山権一, 吉田博史, 横山真也, 大場崇芳, 畑 典武, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 千葉県におけるドクターヘリによる循環器救急疾患搬送とCCU受け入れの成果 . 第100回日本内科学会講演会, 2003 . 4 .
- 7) 小林宣明<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 上川雄士<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 森田良平<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武 (<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 急性冠症候群 (ACS) 早期再灌流に対するドクターヘリの有用性 . 第6回千葉県救急医療研究会, 2003 . 4 .
- 8) 酒井俊太<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 小川友裕<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 畑 典武 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): ACSによる冠血栓とPCI後の No-reflow 現象との関連 . 血管内視鏡による検討 . 第9回日本血管内治療学会, 2003 . 4 .
- 9) 小川友裕<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 血管内視鏡による non-ST-segment elevation acute coronary syndrome (NSTEMI-ACS) のトロポニンによるリスク層別化の立証 . 第9回日本血管内治療学会, 2003 . 4 .
- 10) 稲見茂信<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 小川友裕<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): SVG disease (TIMIO) に対する distal protection device を用いたPCI後にショックに陥った狭心症の1例 . 第22回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2003 . 4 .
- 11) 横山真也, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 中村純子, 松下洋子, 神谷仁孝, 畑 典武, 田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): PMX-DHPおよびCHDFが有効であったARDS, DICを併発した重症急性性肺炎の1例 . 第4回千葉急性血液浄化研究会, 2003 . 5 .
- 12) 藤本啓志, 吉田博史, 青木亜佐子, 松下洋子, 中村純子, 神谷仁孝, 三船俊英, 徳山権一, 品田卓郎, 三浦洋司, 横山真也, 今泉孝敬, 畑 典武: カテコラミン産生グロムス腫瘍にStanford A型急性大動脈解離を合併し

た1例．第188回日本循環器学会関東甲信越地方会，2003．6．

- 13) 石橋史行<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，畑 典武，酒井俊太<sup>1)</sup>，今泉孝敬，大場崇芳<sup>1)</sup>，横山真也，高木 元<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター)：急性冠症候群における冠血栓と No-flow / Slow flow 現象との関連 (血管内視鏡による検討)．第12回日本心血管インターベンション学会学術集会，2003．6．
- 14) 大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，小川友裕<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，横山真也，高木 元<sup>1)</sup>，野村敦宣<sup>1)</sup>，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター)：当院における冠動脈内血管内視鏡施行時の合併症の頻度 (1015手技での検討)．第12回日本心血管インターベンション学会学術集会，2003．6．
- 15) 小林宣明<sup>1)</sup>，本郷公英<sup>1)</sup>，田近研一郎<sup>1)</sup>，小川友裕<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，野村敦宣<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，三船俊英，徳山権一，品田卓郎，三浦洋司，吉田博史，横山真也，今泉孝敬，畑 典武(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：肺血栓塞栓症を合併した急性大動脈解離症例．第188回日本循環器学会関東甲信越地方会，2003．6．
- 16) 品田卓郎，阿部 新，村井綱児，岡崎怜子，吉田博史，大場崇芳，横山真也，星野公彦，今泉孝敬，畑 典武：重症成人発症Still病に対し血液浄化を含めた集中治療を行い救命し得た1例．第12回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2003．8．
- 17) 佐々木朝子，横山真也，品田卓郎，徳山権一，三浦洋司，吉田博史，川口直美，今泉孝敬，畑 典武：気管支ファイバー施行中に発症し，冠血栓吸引により救命し得た重症心筋梗塞の1例．第17回千葉県重症患者管理研究会，2003．9．
- 18) 小林宣明<sup>1)</sup>，三船俊英<sup>1)</sup>，田近研一郎<sup>1)</sup>，小川友裕<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，野村敦宣<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，徳山権一，品田卓郎，吉田博史，三浦洋司，横山真也，今泉孝敬，畑 典武(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：5FU治療中にたこつば心筋症を発症した1例．第189回日本循環器学会関東甲信越地方会，2003．9．
- 19) 岡松健太郎<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，高木 元<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，横山真也，大場崇芳<sup>1)</sup>，畑 典武(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター)：Non-ST elevation ACSにおけるTroponin Tと病変形態．第51回日本心臓病学会学術集会，2003．9．
- 20) 岡松健太郎<sup>1)</sup>，小林宣明<sup>1)</sup>，三船俊英<sup>1)</sup>，田近研一郎<sup>1)</sup>，小川友裕<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，横山真也，大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター)：血管内視鏡による非ST上昇型急性冠症候群の病変形態の観察．第17回日本心臓血管内視鏡学会総会，2003．10．
- 21) 稲見茂信，小林宣明，三船俊英，田近研一郎，小川友裕，石橋史行，岡松健太郎，清宮康嗣，高野雅充，横山真也，大場崇芳，酒井俊太，水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター)：冠動脈プラーク崩壊に対するスタチンの効果．第17回日本心臓血管内視鏡学会総会，2003．10．
- 22) 稲見茂信<sup>1)</sup>，小林宣明<sup>1)</sup>，三船俊英<sup>1)</sup>，田近研一郎<sup>1)</sup>，小川友裕<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，横山真也，大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター)：無症候性プラーク破綻と高感度CRPの関連．第17回日本心臓血管内視鏡学会総会，2003．10．
- 23) 小林宣明<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，三船俊英<sup>1)</sup>，田近研一郎<sup>1)</sup>，小川友裕<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，野村敦宣<sup>1)</sup>，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター)：5FU投与後の冠動脈攣縮を証明し得たたこつば心筋症の1例．第23回循環器合同カンファレンス，2003．11．
- 24) 佐々木朝子，横山真也，清宮康嗣<sup>1)</sup>，稲見 徹，徳山権一，品田卓郎，三浦洋司，吉田博史，石川昌弘，川口直美，酒井俊太<sup>1)</sup>，今泉孝敬，畑 典武(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：気管支ファイバー施行中に発症し，冠血栓吸引により救命し得た重症心筋梗塞の1例．第190回日本循環器学会関東甲信越地方会，2003．12．
- 25) 稲見茂信<sup>1)</sup>，小林宣明<sup>1)</sup>，三船俊英<sup>1)</sup>，田近研一郎<sup>1)</sup>，小川友裕<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，横山真也，酒井俊太<sup>1)</sup>，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器セン

- ター): 冠動脈プラーク崩壊に対するスタチンの効果. 第17回日本冠疾患学会総会, 2003. 12.
- 26) 田近研一郎<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>1)</sup>, 三船俊英<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 小川友裕<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター): プラーク崩壊と高感度CRPの関連. 第17回日本冠疾患学会総会, 2003. 12.
- 27) 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター): 非ST上昇型急性冠症候群におけるTroponin Tと病変形態. 第17回日本冠疾患学会総会, 2003. 12.
- 28) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 小川友裕<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター): 急性冠症候群におけるプラーク破綻部位の検討. 第17回日本冠疾患学会総会, 2003. 12.
- 29) 横山真也, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 中村純子, 松下洋子, 神谷仁孝, 畑 典武, 田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): PMX-DHPが有効と考えられたARDS, DICを併発した重症急性肺炎の1例. 第8回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2004. 1.
- 30) 佐々木朝子, 横山真也, 徳山権一, 品田卓郎, 椎葉邦人, 石川昌弘, 森本耕三<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 気管支ファイバー施行中に発症し, 冠血栓吸引により救命し得た重症心筋梗塞の1例. 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 31) 横山真也, 近藤麻加, 加納稔子, 今泉孝敬, 川口直美, 吉田博史, 石川昌弘, 品田卓郎, 徳山権一, 畑 典武: 長期中心静脈栄養患者に発症する胆嚢病変について. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 2004. 3.

## [ 千葉北総病院リハビリテーション科 ]

### 研究概要

痙性片麻痺患者の手関節・手指関節屈筋群の筋緊張を減弱させるために, 持続伸張装具を利用し, 筋電図のH波を利用して, 痙縮減弱に効果的な装具装着時間の検討を行った.

中枢神経障害による排便障害患者に対し, 肛門括約筋筋電図と直腸内圧検査をおこない, 排便機能を評価した上で, 肛門括約筋筋電図バイオフィードバックを施行し, 便失禁対策を行っている.

筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し, 麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって, さらに筋収縮を促す. 脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において, 手関節伸展, 手指伸展促進と物品把持移動からなる訓練を施行し, 訓練前後での手関節, 手指関節の可動域, 被験筋のroot mean square (RMS), 巧緻性の変化を計測した. 手指関節可動域に改善を認め, 特に手根伸筋のRMSに著しい増加が認められ, 巧緻動作の改善が認められた. 筋電比例式電気刺激は, きめ細かな筋収縮を促進し巧緻動作訓練も可能な利点があり, 筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される.

アルツハイマー病患者において感覚入力刺激に対応する運動誘発電位にてcortico-cortical inhibitionを検討する. 健常人では, 電気刺激・磁気刺激感覚が23~24msで60%程度のcortico-cortical inhibitionが認められるが, アルツハイマー病患者では抑制は20%程度にとどまり, 重度であると抑制は殆ど認められなくなる. コリン作動薬の投与によって, このcortico-cortical inhibitionの低下に改善が認められるか検討を行なう.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Liu M<sup>1)</sup>, Tsuji T<sup>1)</sup>, Hara Y, Hase K<sup>1)</sup>, Fujiwara T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Keio University, Dept. of Rehabilitation

Medicine): Physical fitness in persons with hemiparetic stroke : A review . Keio J Med 2003 ; 52 (4): 211-219 .

2) Hara Y , Masakado Y<sup>1)</sup> , Chino N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Keio University, Dept of Rehabilitation Medicine ): The physiological functional loss of single thenar motor units in the stroke patients : When does it occur? Does it progress? . Clinical neurophysiology 2004 ; 115 (1): 97-103 .

3) Tsuji T<sup>1)</sup> , Liu M<sup>1)</sup> , Masakado Y<sup>1)</sup> , Hara Y , Chino N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Keio University, Dept. of Rehabilitation Medicine ): Physical fitness in persons with hemiparetic stroke : its structure and longitudinal changes during an inpatient rehabilitation programme . Clinical Rehabilitation 2004 ; 18 (1): 49-58 .

4) 原 行弘 : 中枢麻痺と運動単位 : 脳卒中片麻痺側の生理的運動単位数減少 . 臨床脳波 2003 ; 45 (7): 423-428 .

## (2) 綜説 :

1) 原 行弘 : 皮膚と排泄について : 排便障害のアプローチ . 日本在宅医学会誌 2003 ; 5 (1): 57-60 .

## 著 書

1) 原 行弘 : [ 分担 ] 関節リウマチ , 膠原病 . 現代リハビリテーション医学 ( 千野直一 ) , 2004 ; pp403-418 , 金原出版 .

2) 原 行弘 : [ 分担 ] 姿勢保持 . リハビリテーション MOOK N0. 8 小児のリハビリテーション ( 千野直一 , 安藤徳彦 ) , 2004 ; pp170-177 , 金原出版 .

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

1) 三村聡男 , 原 行弘 , 辻内和人 : H 反射を用いた上肢装具による痙縮抑制効果の評価 . 第22回千葉県リハビリテーション学会 , 2003 . 3 .

2) 原 行弘 , 三村聡男 , 辻内和人 , 村岡慶裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 慶応義塾大学理工学部 ): 脳卒中片麻痺上肢における筋電比例式治療的電気刺激 . 第40回日本リハビリテーション医学会学術大会 , 2003 . 6 .

3) 小林由紀子 , 原 行弘 , 辻内和人 , 千野直一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 慶応義塾大学医学部リハビリテーション科 ): 脳卒中片麻痺患者の歩行におけるシリコン製足底装具の効果 . 第40回日本リハビリテーション医学会学術大会 , 2003 . 6 .

4) 原 行弘 , 三村聡男 , 辻内和人 , 村岡慶裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 慶応義塾大学理工学部 ): 脳卒中片麻痺上肢における筋電比例式治療的電気刺激 . 第32回日本臨床神経生理学会学術大会 , 2003 . 9 .

5) 岡村陽子 , 原 行弘 : 発症後10年以上経過した慢性期患者への認知リハビリテーションの効果 . 第27回日本高次脳機能障害学会 , 2003 . 12 .

## [ 千葉北総病院病理部 ]

### 研究概要

臨床各科との協力のもと、症例の集積および解析を進めている。特に、乳癌を中心とする乳腺疾患や脳腫瘍ではこれらの臨床検体を用い、以下の点を中心に検討を進めている。

#### 1) 乳腺腫瘍

外科の協力を得て導入された乳癌治療薬 Herceptin の適応症例の選択に用いる検査法 Hercep Test 法の検索症例が検査導入以来100例を超えた。対象例が蓄積されていく中で、その染色性や染色様式の特徴を細胞診断学的、免疫組織学的、電子顕微鏡的に検討中であるが、特に、Hercep Test において特異な染色様式を示すことが判明した内分泌成分を含む乳癌の症例を中心に解析を進めている。また、同時に染色を実施しているホルモンレセプターと Her2 の

発現の関連性についても検討中である。

## 2) 泌尿生殖器腫瘍

女性診療科，放射線科とともに，子宮，卵巣などの女性生殖器および腎尿路系に発生する腫瘍性病変の形態学的，細胞生物学的特性につき，臨床的，画像診断学的所見を合わせ検索を進めている。

## 3) 消化管腫瘍

大腸癌，GISTなどの消化管腫瘍に関する臨床病理学的検討を従来から進行中である。特に，GISTに関しては症例も蓄積されてきた。

## 4) 脳腫瘍圧挫細胞診検体の検討

迅速診断に供される脳腫瘍症例に対し，ほぼ全例作成される圧挫細胞診標本を用いて，従来あまり注目されていない背景病変などを中心にして glioma の再評価を実施中である。

## 5) 神経変性疾患

アルツハイマー病を中心とする中枢神経変性疾患の病態および発症機構の解析を内科学第2，病理学第2などとの共同研究として進めている。

## 研究業績

### 論文

[ 2002 年度追加分 ]

原著：

1) 清水秀樹：病理組織の大切片を少しでも楽に作製する工夫。Medical Technology 2002；30(10): 1127-1127。

(1) 原著：

1) Shimura T<sup>1)</sup>, Mori O, Kitamura T<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Sugisaki Y<sup>4)</sup>  
(<sup>1)</sup> Dept. of Neurosurgery, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Neurosurgery, <sup>3)</sup> Dept. of Neurosurgery, Chiba-Hokusou Hospital, <sup>4)</sup> Division of Surgical Pathology): Central neurocytoma expressing characteristics of ependymal differentiation: electron microscopic findings of two cases. Med Electron Microsc 2003；36(2): 98-105。

2) Fujimori S<sup>1)</sup>, Kishida T<sup>1)</sup>, Mitsui K<sup>1)</sup>, Seo T, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Shibata Y<sup>1)</sup>, Shinozawa I<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Sato J<sup>1)</sup>, Yoshida Y<sup>3)</sup>, Yokoi K<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Sakamoto C<sup>3)</sup>, Kobayashi M<sup>3)</sup>,  
(<sup>1)</sup> Dept. of Internal Medicine, Chiba-Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokusou Hospital, <sup>3)</sup> Dept. of Internal Medicine): Mean corpuscular volume (MCV) and the risk of colorectal adenoma in menopausal women. Hepatogastroenterology 2003；50(50): 392-395。

3) Yoshino N<sup>1)</sup>, Hisayoshi T<sup>1)</sup>, Sasaki T, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Hino M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Thoracic Surgery, Chiba-Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> Cardiovascular center, Chiba-Hokusou Hospital): Human pulmonary dirofilariasis in a patient whose clinical condition altered during follow-up. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2003；51(5): 211-213。

4) Ohba T<sup>1)</sup>, Hata N<sup>2)</sup>, Ohaki Y(<sup>1)</sup> Division of Pathology, Chiba Hokusou Hospital): Angioscopic appearance and histopathology of coronary artery thrombi. Asian Cardiovasc Thorac Ann 2003；11(3): 255-257。

5) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Amano Y<sup>2)</sup>, Mori O, Matsushita N<sup>1)</sup>, Doi D<sup>1)</sup>, Okada S<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>3)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Obstetrics and Gynecology, <sup>2)</sup> Dept. of Radiology, Chiba-Hokusou Hospital, <sup>3)</sup> Division of Surgical Pathology): Pre-treatment mitotic index versus computer-quantified Ki-67 nuclear antigen labeling index as predictors of response to neoadjuvant chemotherapy in uterine cervical carcinoma. J Nippon Med Sch 2003；70(3): 219-226。

- 6) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Mori O, Satomi M<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Obstetrics and Gynecology ): Placental villotrophoblastic pulmonary emboli after elective abortion : immunohistochemical diagnosis and comparison with ten control cases . Int J Gynecol Pathol 2003 ; 22 ( 3 ): 303-309 .
- 7) Komaba Y<sup>1)</sup>, Mishina M<sup>2)</sup>, Utsumi K<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Mori O ( <sup>1)</sup> 2nd Dept. of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Dept. of Neurosurgery , Chiba Hokusou Hospital, Nippon Medical School ): Crossed cerebellar diaschisis in patients with cortical infarction : Logistic regression analysis to control for confounding effects . Stroke 2004 ; 35 ( 2 ): 472-476 .
- 8) Okada S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Ogura J<sup>1)</sup>, Ishihara M<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Chiba-Hokusou Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Obstetrics and Gynecology ): Computed Tomography and Magnetic Resonance Imaging Findings in Cases of Dermoid Cyst Coexisting with Surface Epithelial Tumors in the Same Ovary . J Comput Assist Tomogr 2004 ; 28 ( 2 ): 169-173 .

(2) 症例報告 :

- 1) 坂本静樹<sup>1)</sup>, 三富規行, 田村浩一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 他6名 ( <sup>1)</sup> 内科学第2, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 出血性脳梗塞をきたしたクリプトコッカス髄膜炎合併アルコール性肝硬変の1例 . 内科 2004 ; 93 ( 2 ): 348-357 .

著 書

- 1) 清水秀樹, 小黑辰夫 : [ 分担 ] 1 検体採取から固定・薄切まで . 改定第2版 診断・研究のための病理技術詳解 ・ CD-ROM ( 浅野伍朗 ), 2003 ; pp1-327, メディカグローブ .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Yamazaki M<sup>1)</sup>, Hasegawa M, Mori O, Murayama S<sup>2)</sup>, Tsuchiya K<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Division of Clinical Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neurosciences ): Novel tau-positive fine granules in the cerebral white matter of tauopathies . The 15th Congress of the International Society of Neuropathology ( Torino ), 2003 .
- 2) 朝倉禎史<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 小木三郎<sup>1)</sup>, 五十嵐健二<sup>1)</sup>, 市川雅男<sup>1)</sup>, 若月雅美<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 小黑辰夫, 清水秀樹, 赤坂久美, 三枝順子, 京本晃典, 黒川実愛, 浅香吉伸, 新井 悟, 森 修, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院女性診療科・産科 ): 外陰部に発生した Breast-like carcinoma の1例 . 日本医科大学医学会第110回例会, 2003 . 5 .
- 3) 三枝順子, 大秋美治, 小黑辰夫, 清水秀樹, 赤坂久美, 京本晃典, 黒川実愛, 浅香吉伸, 新井 悟, 森 修, 京野昭二<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院外科 ): 乳癌症例に対する Hercep Test を契機に見出された神経内分泌成分を含む乳癌の1例 . 日本医科大学医学会第110回例会, 2003 . 5 .
- 4) 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 森 修, 山崎昌子<sup>2)</sup>, 大秋美治, 片山泰朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院内科学第2, <sup>2)</sup> 初石病院神経内科 ): 緩徐進行性の左上肢の巧緻運動障害・歩行障害で発症し, 画像上大脳萎縮の左右差を認めた進行性核上性麻痺の1剖検例 . 第44回日本神経病理学会学術集会, 2003 . 5 .
- 5) 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 岩坪 威<sup>2)</sup>, 森 修, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 小柳清光<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院内科学第2, <sup>2)</sup> 東京大学大学院薬学系研究科臨床薬学, <sup>3)</sup> 都神経研神経病理 ): ゲラム島パーキンソンニズム痴呆症 ( PDC ) 脳におけるリン酸化 -シヌクレインの発現 : アルツハイマー病・レビー小体痴呆症との比較 . 第44回日本神経病理学会学術集会, 2003 . 5 .
- 6) 森 修, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 山崎昌子<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>3)</sup>, 大秋美治, 杉崎祐一<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院内科学第2, <sup>2)</sup> 初石病院神経内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 付属病院病理部 ): 海馬錐体細胞に特異な空胞化を示した, 辺縁系脳炎の1例 . 第44回日本神経病理学会学術集会, 2003 . 5 .

- 7) 清水秀樹, 小黑辰夫, 赤坂久美, 三枝順子, 松澤こず恵, 浅香吉伸, 新井 悟, 森 修, 大秋美治, 前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院病理部): 脳腫瘍圧挫標本における神経網及び髄質成分の存在意義. 第44回日本臨床細胞学会, 2003. 6.
- 8) 栗原和久<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 大秋美治, 三浦剛史<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2</sup>同泌尿器科): 頭部腫瘍より Bellini管癌が見つかった1例. 第19回日本皮膚病理解剖学会, 2003. 7.
- 9) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 北川泰之<sup>3)</sup>, 大秋美治, 川本雅司<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2, <sup>2</sup>病理部, <sup>3</sup>整形外科, <sup>4</sup>病理学第1, 他4名): 多型細胞肉腫の細胞像を示した肺癌大腿部転移と思われる1例. 第42回日本臨床細胞学会, 2003. 9.
- 10) 清水秀樹, 小黑辰夫, 赤坂久美, 三枝順子, 京本晃典, 黒川実愛, 浅香吉伸, 大秋美治, 前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院病理部): 脳腫瘍圧挫標本における脳実質の細胞像とその存在意義. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003. 10.
- 11) 小黑辰夫, 大秋美治, 赤坂久美, 森 修, 渡邊乾二<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東京農業大学大学院研究科): 卵白オボムチンフラグメントの分子特性と抗腫瘍効果に関する生化学的および形態学的研究. 第44回日本組織細胞化学会 第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 2003. 10.
- 12) 朝倉禎史<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 赤坂久美, 小黑辰夫, 森 修, 大秋美治(<sup>1</sup>千葉北総病院女性診療科・産科): 電顕像が診断に有用であった外陰部「mammary-like gland carcinoma」の1例. 第44回日本組織細胞化学会 第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会, 2003. 10.
- 13) 清水秀樹, 森 修: 圧挫標本における正常脳細胞像と星細胞系腫瘍の浸潤像. 第2回東葛地区北部細胞診断研究会, 2003. 11.
- 14) 新井 悟, 森 修, 大秋美治, 金 恩京<sup>1)</sup>, 藤原正和<sup>1)</sup>, 潘 欣<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, ガジザデモハammad<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>老人病研究所病理部門): 肺腺癌における癌細胞の免疫組織学的表現型と committed precursor cell との関係. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 12.
- 15) 黒川実愛, 清水秀樹, 小黑辰夫, 赤坂久美, 三枝順子, 京本晃典, 新井 悟, 湯元典夫, 森 修, 大秋美治: 病理標本大切片作製の一工夫: 包埋について. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 12.
- 16) 清水秀樹, 小黑辰夫, 赤坂久美, 三枝順子, 京本晃典, 黒川実愛, 新井 悟, 森 修, 大秋美治, 小林士郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経外科, <sup>2</sup>多摩永山病院病理部): 神経膠腫系腫瘍の細胞診圧挫標本における網状物質の存在意義: 細胞診において神経膠腫系腫瘍の脳実質への浸潤性発育を考える. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 12.
- 17) 三枝順子, 清水秀樹, 赤坂久美, 京本晃典, 黒川実愛, 小黑辰夫, 新井 悟, 森 修, 大秋美治, 京野昭二<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院外科): 乳癌に対する Hercep Test (第二報): (HER2, ホルモンレセプターともに陰性例の検討を中心に). 日本医科大学医学会第112回例会, 2004. 2.
- 18) 上鶴里央子<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院呼吸器病センター): 異なった経過をたどった肺癌消化管転移の2症例. 第139回日本肺癌学会関東支部会, 2004. 3.
- (2) Angiography & Interventional Cardiology :
- 1) Uemura R<sup>1)</sup>, Yamamoto E<sup>1)</sup>, Tokita Y<sup>1)</sup>, Kanazawa H<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Mizuno K<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>Tohsei National Hospital, <sup>2</sup>Dept. of Internal Medicine, Chiba-Hokusou Hospital): Impact of Plaque Composition on Arterial Remodeling : Comparison Between Atherectomy Tissue and Intravascular Untrasound. Hiromi Kanazawa (Chicago), 2003. 3.



## [ 千葉北総病院中央検査室 ]

### 研究概要

当中央検査室は、今年度も学術研究面と臨床支援体制の充実を基本的テーマとして積極的に取り組み、極めて広角的な領域において業績を築いている。今年度の主な概要は次の通りである。

血液学分野では自動分析装置情報を利用した赤血球抵抗試験成績の検索、継続課題である APTT 測定試薬の検討、臨床化学分野では、筋疾患における Mass・CK-MB 等の酵素活性、脂肪酸結合蛋白の検出による骨格筋障害や心筋マーカーとして利用の試み、微生物学分野では抗酸菌の検出状況、インフルエンザにおける薬剤耐性状況や種々の抗菌薬のデータ解析、施設環境整備の一環として清浄度管理への協力、輸血・免疫学の分野では自己抗体保有者による輸血時の対応や手術時の準備血に関する検討、血液製剤の(1-3)glucan への影響について、生理学分野では糖尿病症例による腹部超音波の有用性、ウイルス性脳炎や閉塞性動脈硬化症の治療における経時的観察、聴覚機能に関する SIS1 検査と自己オージオメトリーの検討、その他、試験紙法による尿中化学成分の解析や Fabry 病の症例検討、管理分野では、診療報酬改正に伴う包括医療制度への臨床支援体制の構築、医業経営に関する収支効果の充実を目的とした FMS 方式の応用による総合的システム改革の実践、医療関係者を対象としたウイルス抗体価の検索、組織運営の規範となるバランス・スコアカードの検討、都内における公共機関より依頼の精度管理事業への調査指導協力などの継続課題を含め本年度も幅広い領域において活発な活動が行われた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 研究報告書：

- 1) 町田幸雄：「バランス・スコア - カ - ド」構築に関する研究。Kameraden (私立医科大学臨床検査技師会誌) 2003 ; ( 37 ) : pp33-38 .

#### 著書

- 1) 野本剛史：〔分担〕精度管理調査結果報告。平成 15 年度版 第 22 回東京都衛生検査所精度管理事業報告書 (東京都立衛生研究所), 2004 ; 東京都健康局医療政策部。

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 望月 徹<sup>1)</sup>, 岡本直人, 柳下照子, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 臨床微生物データ解析用ソフトウェア WHONET 導入による抗菌薬使用の Regulation を行うための data 集積。第 77 回日本感染症学会総会, 2003 . 4 .
- 2) 三橋 太, 石野三智男, 小林紘士, 中村祐三, 野本剛史: mulberry cell・mulberry body を認めた Fabry 病の 1 例。第 52 回日本医学検査学会, 2003 . 5 .
- 3) 高木 豊, 影山憲貴, 萩原直久, 野本剛史: 日立 7070 型自動分析器の血清情報を用いた赤血球抵抗試験について。第 52 回日本医学検査学会, 2003 . 5 .
- 4) 柴田泰史, 野本剛史, 山本保博<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 心筋障害マーカーと腎機能の関連性について。第 52 回日本医学検査学会, 2003 . 5 .
- 5) 影山憲貴, 高木 豊, 萩原直久, 野本剛史: 合成リン脂質とウサギ脳由来リン脂質を用いた APTT 測定試薬の乖離検体について。第 52 回日本医学検査学会, 2003 . 5 .
- 6) 石渡統夫, 稲川美実, 飯野幸永: 抗 JMH 抗体保有患者に行った輸血の 1 症例。第 52 回日本医学検査学会, 2003 . 5 .
- 7) 日ノ澤進一郎, 野本剛史, 里村克章: Mass CK・MB 測定の有用性。第 71 回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .

- 8) 三橋 太, 小林紘士, 石野三智男, 中村祐三, 野本剛史, 里村克章: 腎機能低下を伴わず mulberry cell・mulberry body を認めた Fabry 病の症例. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 9) 村本和子, 玉手ひさ子, 中村祐三, 野本剛史, 里村克章: 尿検査試験紙, ミクロアルブ・クレアチニンテストとマルティスティックス PROIOLS による尿中微量アルブミン・尿中クレアチニンの測定の基礎的検討と有用性. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 10) 高木 豊, 影山憲貴, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: 日立 7070 型自動分析器の血清情報を用いた赤血球抵抗試験について. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 11) 影山憲貴, 高木 豊, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: 合成リン脂質とウサギ脳由来リン脂質を用いた APTT 測定試薬の乖離検体について. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 12) 橋本政子, 青砥泰二, 野本剛史, 里村克章: 当院における抗酸菌検出状況. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 13) 小川早恵子, 亀山澄子, 植田貴子, 福田高久, 野本剛史, 里村克章, 檀 和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院輸血部): 当院における手術用準備血の現状について. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 14) 鳴海武長, 野本剛史, 里村克章, 本城和義<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院薬剤部): 血液製剤における (1-3)  $\beta$ -D-glucan への影響. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 15) 高木 豊, 野本剛史, 里村克章: FMS システムと検査結果照会システム『Tango』の使用について. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 16) 柴田泰史, 野本剛史, 里村克章, 上田康晴<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 心筋マーカー上昇に対する腎機能の影響について. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 17) 大崎恵理子, 柳下照子, 原口友子, 岡本直人, 飯野幸永: 当院における H influenzae のアンピシリン耐性菌の検出状況について. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 18) 石橋里子, 水野杏一, 飯野幸永: 糖尿病早期の腹部超音波検査の有用性. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 19) 野口由紀, 水野杏一, 飯野幸永: ウィルス性脳炎の 1 症例: 経時的脳波変化. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 20) 松本ゆうき, 水野杏一, 飯野幸永: 閉塞性動脈硬化症の術後評価における ABI の有用性. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 21) 山口由香, 水野杏一, 飯野幸永: 補充現象における SISI 検査と自己オ - ジオメトリ - の結果の検討. 第 71 回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 22) 柴田泰史, 野本剛史, 里村克章, 上田康晴<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): ヒト心臓由来脂肪酸結合タンパクと骨格筋障害の関連性について. 第 31 回日本救急医学会総会, 2003. 11.
- 23) 鳴海武長, 野本剛史: 血液製剤の (1-3)  $\beta$ -D-glucan への影響. 第 40 回関東甲信地区医学検査学会, 2003. 11.
- 24) 日野光紀<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup>, 片岡ひろみ<sup>3)</sup>, 後藤誠子<sup>3)</sup>, 松丸雪江<sup>3)</sup>, 渡辺郷美<sup>3)</sup>, 柳下照子 (<sup>1)</sup>内科学第 4, <sup>2)</sup>内科学第 2, <sup>3)</sup>看護部): 院内感染対策としての医療関係者を対象としたウィルス抗体価検査. 第 19 回日本環境感染学会総会, 2004. 2.
- 25) 柴田泰史, 野本剛史, 里村克章, 上田康晴<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白の上昇には骨格筋障害が関与する. 第 31 回日本集中治療医学会総会, 2004. 3.

## [ 千葉北総病院薬剤科 ]

### 研究概要

MRSA における細菌学的検討を行った.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 佐治 守<sup>1)</sup>, 薄木玲子<sup>1)</sup>, 茨木信博<sup>2)</sup>, 葉山修陽<sup>3)</sup>, 大園英一<sup>4)</sup>, 大国寿士<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>同眼科, <sup>3)</sup>同内科, <sup>4)</sup>春日部秀和第2病院腎臓内科, <sup>5)</sup>メディカジャパン総合研究所): 点眼薬の防腐剤としての塩化ベンザルコニウムの抗菌力についての検討. 医療薬学 2003 ; 29 (3): 341-345 .
- 2) 横山恭典<sup>1)</sup>, 後藤陽子<sup>1)</sup>, 種元桂子<sup>1)</sup>, 薄木玲子<sup>2)</sup>, 佐治 守<sup>2)</sup>, 茨木信博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院眼科, <sup>2)</sup>同薬剤科): 防腐剤非添加緑内障点眼薬の点眼瓶の汚染. 臨床眼科 2003 ; 57 (4): 487-490 .
- 3) 薄木玲子<sup>1)</sup>, 佐治 守<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup>, 秋山眞喜雄<sup>3)</sup>, 大国寿士<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>関東学院大学工学総合研究所, <sup>4)</sup>メディカジャパン総合研究所): 最近の臨床分離菌に対する Acrinol の抗菌力と光の影響. 医療薬学 2004 ; 30 (2): 72-77 .

#### (2) 綜説：

- 1) 浜田康次：デザイナースフーズ (Designers Foods). 日病薬誌 2003 ; 39 (5): 586-586 .
- 2) 浜田康次：TLO (技術移転機関). 日病薬誌 2003 ; 39 (6): 712-712 .
- 3) 浜田康次：Ca拮抗剤 (失敗は成功の母). レシピ 2003 ; 2 (3): 70-71 .
- 4) 浜田康次：がん性疼痛治療剤 (ゼルテュルナーのみた夢). レシピ 2003 ; 2 (4): 62-63 .
- 5) 浜田康次：トレーサビリティ. 日病薬誌 2003 ; 39 (10): 1354-1354 .
- 6) 浜田康次：HMG-CoA 還元酵素阻害剤 (熾烈なる日米特許戦争). レシピ 2004 ; 3 (1): 54-55 .

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 大野雅美：注射薬調剤. 千葉県病院薬剤師会基礎実務研修会, 2003 . 9 .
- 2) 伊藤義樹：薬剤師の仕事と薬の服薬方法, サプリメントについて. 日本医科大学千葉北総病院市民公開講座, 2004 . 3 .

#### (2) 一般講演：

- 1) Takehira R<sup>1)</sup>, Hamada K<sup>2)</sup>, Kawada K<sup>1)</sup>, Yamanura S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Toho University, <sup>2)</sup>Nippon Medical School Hospitals): Patient Education Tool Using Voice : Recording Bar Codes . FIP (SYDNEY), 2003 . 9 .
- 2) 竹原理恵子<sup>1)</sup>, 百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>, 山村重雄<sup>1)</sup>, 浜田康次<sup>2)</sup>, 片山志郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部, <sup>2)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院, <sup>3)</sup>同付属病院): スキャントークを用いた音声に服薬指導ツール. 第11回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2003 . 7 .
- 3) 大野雅美, 稲本正之, 中山 健, 片岡博邦: 当院における注射オーダーリング新システムの概要とその評価. 第11回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2003 . 7 .
- 4) 中山 健, 伊藤義樹, 相良由里子, 実川東洋, 中村 健<sup>1)</sup>, 櫻井正太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東葛病院, <sup>2)</sup>柏市立柏病院): 医薬品の客観的評価の取り組みIII. 第33回関東ブロック学術大会, 2003 . 8 .
- 5) 伊藤義樹, 片岡博邦, 吉澤雅史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科): 型IFNと 型IFNの効果の比較と薬剤管理指導への取り組み. 第33回関東ブロック学術大会, 2003 . 8 .
- 6) 中山 健, 伊藤義樹, 相良由里子, 実川東洋, 中村 健<sup>1)</sup>, 櫻井正太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東葛病院, <sup>2)</sup>柏市立柏病院): 医薬品の客観的評価の試みIII. 千葉県病院薬剤師会会員発表会, 2004 . 3 .
- 7) 伊藤義樹, 片岡博邦: ランサップの追跡調査. 第124回日本薬学会, 2004 . 3 .
- 8) 譜久里優子<sup>1)</sup>, 井上尚彦<sup>1)</sup>, 木村光利<sup>1)</sup>, 萩原政彦<sup>1)</sup>, 吉澤一巳<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>2)</sup>, 片岡博邦<sup>2)</sup>, 夏目秀視<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>城西大学薬学部, <sup>2)</sup>千葉北総病院薬剤科): 内服用ルゴール液の服用改善法. 第124回日本薬学会, 2004 . 3 .

## [ 千葉北総病院中央画像検査室 ]

### 研究概要

中央画像検査室では、診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから、それぞれの画像検査についての研究を進めている。

一般撮影部門では、CRの画像処理におけるノイズ抑制およびS/Nの改善など、画質向上に関する研究や患者様に優しい撮影法の研究・開発を行っている。

MRI検査部門では、造影3DMRAにおける基礎的検討や血管描出能の向上に関する研究が進められている。

CT部門では、MDCT導入に伴い装置の基礎的検討および臨床への応用など、最適な条件設定の検討が進められている。

RI検査部門では、SPECTにおける心筋に関する定量性の向上など、循環器系の研究が進められている。

放射線治療部門では、精度向上を目的に画像診断を総合的に取り扱った研究を進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 加藤文司，富里謙一，中村亜矢，阿部雅志，渡辺典男，川村義彦，岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科)：造影MR angiographyにおけるspectrally selective inversion pulseのflip angleの検討．日本磁気共鳴医学会雑誌 2003；23(2)：65-72．

##### (2) その他：

- 1) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える．東京都放射線技師会誌 2003；50(588)：19-23．
- 2) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える：股関節単純撮影の実際．東京都放射線技師会誌 2003；50(589)：23-26．
- 3) 渡辺典男：臨床技術講座(股関節と肩関節単純撮影の実際)．日本放射線技術学会雑誌 2003；59(7)：804-810．
- 4) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える：患者さんの状態別肩関節単純撮影．東京都放射線技師会誌 2003；50(590)：28-31．
- 5) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える：患者さんの状態脊椎単純撮影．東京都放射線技師会誌 2003；50(592)：20-23．
- 6) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える：工夫を必要とする頸部単純撮影．東京都放射線技師会誌 2003；50(593)：14-16．
- 7) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える：視点を変えた上肢の撮影．東京都放射線技師会誌 2003；50(594)：13-16．
- 8) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える：工夫により向上する下肢の撮影．東京都放射線技師会誌 2003；50(595)：24-27．
- 9) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える：単純X線撮影に於ける画像処理による支援．東京都放射線技師会誌 2004；51(596)：30-32．
- 10) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える：FCRに於ける画像処理条件の最適化．東京都放射線技師会誌 2004；51(597)：32-34．
- 11) 渡辺典男：単純X線撮影の技術革新を考える：頭部単純撮影に於ける技術革新．東京都放射線技師会誌 2004；51(598)：13-15．

## 学会発表

[ 2002 年度追加分 ]

### 一般講演：

- 1) 阿部雅志, 加藤文司, 富里謙一, 渡辺典男, 川村義彦: 頭部 MRI-Transit Time と Flip Angle が血管像に及ぼす影響. 日本放射線技術学会 第 57 回東京部会春期学術大会, 2002. 5.

### (1) 教育講演：

- 1) 渡辺典男: Digital 画像のお話. 秋田県放射線技師会 デジタル画像勉強会, 2004. 2.

### (2) シンポジウム：

- 1) 丸山智之: 静脈の画像診断(マルチ周波数処理による濃度分布の補正: 下肢静脈を中心とした造影像について). 第 4 回シンポジウム, 2003. 10.

### (3) セミナー：

- 1) 渡辺典男: 診療放射線技師技師に必要な救急知識. 日本放射線技師会 生涯教育セミナー, 2003. 9.

### (4) ワークショップ：

- 1) 渡辺典男: 股関節疾患における単純 X 線撮影の役割 (より良い撮影技術を求めて (その 64)). 日本放射線技術学会 第 59 回総会学術大会 第 40 回放射線撮影分科会, 2003. 4.
- 2) 渡辺典男: 成人・老年期の股関節撮影 (より良い撮影技術を求めて (その 64)). 日本放射線技術学会 第 59 回総会学術大会 第 40 回放射線撮影分科会, 2003. 4.

### (5) 一般講演：

- 1) 加藤文司, 富里謙一, 中村垂矢, 阿部雅志, 渡辺典男, 川村義彦: Spectral selective inversion pulse を併用した造影 MRA の脂肪信号の抑制効果について. 日本放射線技術学会 第 59 回総会学術大会, 2003. 4.
- 2) 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): マルチ周波数処理を応用した信号における周波数帯域の想定. 日本放射線技術学会 第 59 回総会学術大会, 2003. 4.
- 3) 齋藤晴美, 牧野仁美, 有馬光一, 尾科隆司, 川村義彦, 櫻井 実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科技師室): 数値ファントムを用いた肝集積による心筋 SPECT 下壁欠損の検討. 日本放射線技術学会 第 59 回総会学術大会, 2003. 4.
- 4) 松丸和弘, 中野 徹, 菊池一郎, 理崎貴博, 三輪宗史, 川村義彦: 日立社製 4DAS マルチスライス CT (Robusto) の基礎的検討. 日本放射線技術学会 第 59 回総会学術大会, 2003. 4.
- 5) 中野 徹, 松丸和弘, 理崎貴博, 三輪宗史, 菊池一郎, 川村義彦: 日立社製 4DAS マルチスライス CT の螺旋ピッチと臨床適用への考察. 日本放射線技術学会 第 59 回総会学術大会, 2003. 4.
- 6) 加藤文司, 富里謙一, 中村垂矢, 阿部雅志, 渡辺典男, 川村義彦: Magnetization Transfer Contrast 併用 3D TOF MRA: 血液通過時間と最適 Flip Angle について. 日本放射線技術学会 第 31 回秋期学術大会, 2003. 10.
- 7) 田村 京, 菅沼一男, 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦: S/N 改善処理を用いた CR-Mammography の検討. 日本放射線技術学会 第 31 回秋期学術大会, 2003. 10.
- 8) 高岡慎市, 渡辺典男, 丸山智之, 河原崎昇, 菅沼一男, 田村 京, 川村義彦, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): Linac Graphy における S/N 改善処理の効果. 日本放射線技術学会 第 31 回秋期学術大会, 2003. 10.
- 9) 菅沼一男: 楔フィルタ使用時における全散乱 (照射野出力) 係数の測定. 日本放射線腫瘍学会 第 16 回学術大会, 2003. 10.
- 10) 丸山智之, 渡辺典男, 田村 京, 高岡慎市, 川村義彦, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): CR における S/N 改善処理の基礎的検討. 日本放射線技術学会 第 31 回秋期学術大会, 2003. 10.
- 11) 高岡慎市, 渡辺典男, 丸山智之, 川村義彦: 胸腹部ポータブル撮影におけるノイズ抑制処理 FNC の効果. 日本放射線技術学会 第 50 回関東・東京部会合同研究発表大会, 2004. 2.

(6) フォーラム :

- 1) 菊池一郎 : 頭頸部領域の腫瘍について : CT 検査が果たす役割の提示 . フォーシーズンズフォーラム , 2003 . 8 .
- 2) 丸山智之 : 脊椎撮影の最新技術 : 撮影技術の精度と再現性の向上 . 日本放射線技術学会 東京部会 第 97 回技術フォーラム , 2003 . 11 .

## [ 千葉北総病院歯科 ]

### 研究概要

当歯科では、歯科治療における歯周治療への応用として、炭酸ガスレーザー、Nd-YGA レーザー、半導体レーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究や臨床の効果についての研究 .

歯周組織再生療法の応用では、各種移植材を用いての検討およびヒト初期胎盤由来因子やヒト骨髄由来因子の成長因子を用いた再生療法についての研究 .

歯周病原菌に対する各種抗菌剤の効果についての研究 .

交通外傷におけるインプラント治療への長期応用についての研究 .

有病者や身体障害者における口腔衛生管理に対する研究などを行っている .

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Sato S<sup>1)</sup>, Kamoi H, Wazaki Y<sup>1)</sup>, Kamoi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Periodontology, The Nippon Dental University School of Dentistry at Tokyo ): Application of a Carbon Dioxide Laser for Early Closure of Gingival Flaps . Lasers in Dentistry 2003 ; 333-337 .
- 2) Ogura K<sup>1)</sup>, Kamoi H, Tanaka T<sup>2)</sup>, Sato T<sup>2)</sup>, Kamoi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Periodontology, The Nippon Dental University School of Dentistry at Tokyo , <sup>2)</sup> Department of Preventive and Community, The Nippon Dental University School of Dentistry at Tokyo ): Analysis of Femoral, Mandibular and Alveolar Bone Density in Zinc-deficient Rats Using Micro Computed Tomography . The Journal of Dental Health 2003 ; 53 ( 3 ) : 227-231 .
- 3) 茂田圭弘<sup>1)</sup>, 佐藤悦子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 石川 博<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学歯学部歯周病学講座 , <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学解剖学講座第二 ): ヒト歯周組織の培養細胞に対する同種血液由来因子の影響について . 日本歯周病学会会誌 2004 ; 46 ( 1 ) : 39-50 .

#### 著書

- 1) 鴨井久博 : [ 分担 ] メンテナンス . バイオインデグレートッドインプラント : 実技編 ( 道 健一 , 鴨井久一 ), 2003 ; pp5-39 , 永末書店 .
- 2) 鴨井久博 : [ 分担 ] 第 5 章 その他環境因子測定検査 口臭検査 . 歯科衛生士のための歯周治療検査読本 ( 鴨井久一 ), 2003 ; pp119-121 , クインテッセンス出版 .
- 3) 鴨井久博 : [ 分担 ] レーザー治療 Nd-YAG レーザー . ペリオこの疾患にこの治療方法の新展開 ( 鴨井久一 , 河田克之 , 岩田哲也 , 武内博朗 ), 2003 ; pp156-159 , デンタルダイヤモンド社 .
- 4) 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久博 : [ 分担 ] 歯科用 Nd : YAG レーザーの歯周治療への臨床応用 . Nd : YAG 歯科用 Nd : YAG レーザーの臨床応用 ( 鴨井久一 ), 2003 ; pp12-17 , クインテッセンス出版 .
- 5) 鴨井久博 : [ 分担 ] PRP ( Platelet Rich Plasma ) の臨床応用-歯周組織に関する応用 . 日本歯科評論 , 2003 ; pp171-173 , ヒョーロン・パブリッシャーズ .

- 6) 鴨井久博：〔分担〕非外科的治療法の考えた治療法の実際 歯周基本治療プラークコントロール・スケーリング・ルートプレーニング・デンタルダイヤモンド，2003；pp54-58，クインテッセンス出版．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Sato S<sup>1)</sup>, Kamoi H, Enomoto K<sup>1)</sup>, Kamoi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Periodontology, The Nippon Dental University School of Dentistry at Tokyo ): Application of hematopoietic bone marrow for periodontal tissue regeneration . American Academy of Periodontology ( USA ・ San Francisco ), 2003 . 9 .
- 2) 鴨井久博, 榎本慶子<sup>1)</sup>, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 和崎佳子<sup>1)</sup>, 小川智久<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 久保田裕子<sup>1)</sup>, 玉沢 修<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学歯学部歯周病学講座 ): Nd-YAG レーザー応用による歯周ポケット内の臨床的評価 . 第46回春季日本歯周病学会学術大会, 2003 . 4 .
- 3) 小川智久<sup>1)</sup>, 飯野賀子<sup>1)</sup>, 佐藤 勉<sup>2)</sup>, 鴨井久博, 佐々木博己<sup>3)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup> 同歯学部衛生学講座, <sup>3)</sup> 国立がんセンター研究所分子腫瘍学部 ): 口腔細菌と食道癌との関係 . 第46回春季日本歯周病学会学術大会, 2003 . 4 .
- 4) 榎本慶子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 和崎佳子<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 石川 博<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学解剖学講座第二 ): ヒト初期胎盤由来embryotrophic factor による歯周組織再生治療 . 第46回春季日本歯周病学会学術大会, 2003 . 5 .
- 5) 久野彰子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 新井貴子<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学歯学部歯周病学講座 ): 縦振動式ノズル型電動歯ブラシTP-102の清掃効果：歯列模型による評価 . 日本歯科保存学会2003年度春季学会 ( 第118回 ), 2003 . 6 .
- 6) 榎本慶子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 石川 博<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学解剖学講座第二 ): ヒト骨髄由来成長因子を用いた歯周組織再生療法 . 第46回秋季日本歯周病学会学術大会, 2003 . 10 .
- 7) 小川智久<sup>1)</sup>, 飯野賀子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 石塚誠治<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup> 佐藤製薬株式会社 ): PCR法による歯周病原性細菌の検出と解析 . 第46回秋季日本歯周病学会学術大会, 2003 . 10 .
- 8) 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 榎本慶子<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学歯学部歯周病学講座 ): 架橋の異なるアルギン酸移植材の歯周組織再生への影響 . 日本歯科保存学会2003年度秋季学会 ( 第119回 ), 2003 . 11 .
- 9) 小川智久<sup>1)</sup>, 新井貴子<sup>1)</sup>, 飯野賀子<sup>1)</sup>, 榎本慶子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 二村和広<sup>2)</sup>, 石塚誠治<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup> 佐藤製薬株式会社 ): 歯周病原性細菌に対する各種抗菌剤の効果について . 第23回日本歯科薬物療法学会, 2004 . 2 .

## [ 千葉北総病院看護部 ]

### 研究概要

本年院内研究発表会は，14演題の発表が行われた．

それぞれの発表は，各専門領域における臨床での疑問を解決するための取組であった．

<テーマ>

1. ギブス装着患者の掻痒感と悪臭予防にあけるラビネット液の有効性
2. 患者が訴える術後疼痛の自己管理と看護師が捉える術後疼痛の違い
3. 慢性腎不全患者の自己管理に及ぼす影響
4. 意識障害患者の睡眠覚醒リズム確立の試み
5. 整形外科疾患におけるDダイマー値と血栓形成の関係

6. ドレーン固定の為のテープ貼用2方法の比較
7. 在宅酸素療法中の安全な酸素管理の検討
8. 当院における立会分娩の実態
9. 緊急入院により床上排泄を強いられた患者の心理状態
10. 意識化手術における不安の緩和
11. 急性期の小児における遊びの意義
12. 呼吸理学療法が急性期心疾患患者の循環動態に及ぼす影響
13. 患者管理における誤薬の要因と対策の検討
14. 精神・神経科患者の転倒転落防止における新人看護師への指導方法についての - 第1報 -

院外発表は6演題が行われ、年々増加傾向にある。(詳細は、学会発表を参照)

1. ドクターヘリ事業に伴う看護ケアおよび業務報告 (3題)
2. 専門領域のケアおよび基礎看護技術の研究 (2題)
3. 安全に関する研究 (1題)

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) ワークショップ:

- 1) 二俣美鶴: ドクターヘリフライトナースの業務と教育の問題点. 日本航空医療学会, 2003. 11.

#### (2) 一般講演:

- 1) 橋本美奈子, 大森章代, 伊藤多香子, 宮古つき子, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救命救急センター): ドクターヘリにおける効率的な情報収集伝達について: ドクターヘリ患者搬送表の導入. 日本臨床救急医学会, 2003. 4.
- 2) 朝倉宏美<sup>1)</sup>, 岡沢有希子<sup>1)</sup>, 小林紀美<sup>1)</sup>, 芹沢 彩<sup>1)</sup>, 田村寿子<sup>1)</sup>, 沼倉宏子<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部7階東病棟, <sup>2)</sup>脳神経外科): 意識障害患者の睡眠覚醒リズム確立の試み: 映像, アロマオイルマッサージを用いて. 第12回意識障害治療学会, 2003. 7.
- 3) 葛西愛子<sup>1)</sup>, 上野亜裕美<sup>1)</sup>, 藤田恵子<sup>1)</sup>, 村田純香<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>看護部7階西病棟): 精神科患者の転倒防止アセスメントシートの精選. 第22回千葉県看護研究学会, 2004. 2.
- 4) 矢野綾子<sup>1)</sup>, 佐藤友美<sup>1)</sup>, 鴛崎友紀<sup>1)</sup>, 村上理佳子<sup>1)</sup>, 和田記美子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>看護部五階東病棟): テープ貼用の方法の違いによるドレーン固定の強度差. 第22回千葉県看護研究学会, 2004. 2.
- 5) 干場ひふみ<sup>1)</sup>, 大森章代<sup>1)</sup>, 松本多加子<sup>1)</sup>, 石川正太<sup>1)</sup>, 後藤誠子<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部救急外来, <sup>2)</sup>救命救急センター): ドクターヘリに同乗する患者家族へのフライトナースの関わり: アンケート調査結果から家族援助を考える. 日本救急医学界関東地方会, 2004. 3.



## 〔 4 〕 付 置 研 究 施 設

# 1. 老人病研究所

## [ 病理学部門 ]

### 研究概要

癌細胞と血管新生機序を免疫組織学的に解析し、また食道癌細胞株の放射線照射による発現遺伝子群を検索し癌細胞への影響を明らかにした。

1: Von Willebrand factor (vWF)(凝固因子)と抗凝固因子thrombomodulin(TM)を用いて肺微小循環系の内皮が細胞セグメント単位で特異的表現型を示す事実をはじめて明らかにした。その結果、肺泡毛細血管の内皮はTM発現がその恒常性をなす指標となること、TMの消退はprotease-activated receptor(PAR)などを誘導し内皮の活性を意味することを明らかにした。この成果を10月にシカゴで開催されたtumor angiogenesis conference(Folkman J.主催)と、ニューヨークのコネル大学とNIH(米国国立衛生研究所)-AFIP(米国陸軍病理研究所)にて講演した。

2: 癌細胞に対する放射線照射効果(cDNAマイクロアレイによる遺伝子解析)

ヒト食道扁平上皮癌細胞株を用いて放射線照射後に細胞の発現するmRNAをジーンフィルターにて分析した結果、発現上昇を遺伝子群はSCYA5 SMARCD2 COX6Cなどで、低下をCAPZA1 SMARCA2 Met AP2 DAP3などに認めアポトーシスや成長に深く関連し癌細胞は自身の成長を制御すると考えられた。

3: 現在、高凝固能を示すcollagen-induced arthritis model マウスに好中球エラストラーゼを投与し肺血栓塞栓症ができるか否か模索中である。肺血栓症と肺線維症の発生には内皮細胞に対する共通の傷害因子に基づくらしい事実を把握できた。現在その時間的推移を検討中である。

### 研究業績

#### 論文

(1)原著:

- 1) Nagahata T<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1,3)</sup>, Harada A<sup>1)</sup>, Nagai I<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>2)</sup>, Shiba T<sup>3)</sup>, Jin E, Kawanami O, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nagano Red Cross Hospital, <sup>3)</sup> Department of Molecular Biology and Kitasato University): Amplification, up-regulation and over-expression of DVL-1, the human counterpart of the Drosophila disheveled gene, in primary breast cancers. *Cancer Sci* 2003; 94(6): 515-518.
- 2) Niyaz M, Ghazizadeh M, Konishi M, Kawanami O, Sugisaki Y, Araki T: Expression of p73 and c-Abl proteins in human ovarian carcinomas. *J Nippon Med Sch* 2003; 70(3): 234-242.
- 3) Ghazizadeh M: Cisplatin may induce frataxin expression. *J Nippon Med Sch* 2003; 70(4): 367-371.
- 4) Nagai H<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>, Terada Y<sup>1)</sup>, Baba M<sup>2)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Konishi N<sup>3)</sup>, Kaneko S<sup>4)</sup>, Kobayashi K<sup>4)</sup>, Yumoto Y<sup>5)</sup>, Mohammed G, Kawanami O, Matsubara K<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup> Department Molecular Biology of Gerontology Nippon Medical School, <sup>2)</sup> The 3rd Department of internal Medicine Mie University, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nara Medical University, <sup>4)</sup> The 1st Department of Internal Medicine, Kanazawa University School of Medicine, <sup>5)</sup> The 1st Department of Internal Medicine, Okayama University, <sup>6)</sup> Department of Bio Science, Nara Institute of Science and Technology): DNA alterations during multi-step development of human hepatocellular carcinomas revealed by laser capture microdissection. *Hepatology Research* 2003; 26: 199-208.
- 5) Okino K<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Hatta M<sup>2)</sup>, Nagahata T<sup>1)</sup>, Yoneyama K<sup>2)</sup>, Ohta Y<sup>2)</sup>, Jin E, Kawanami O, Araki

- T<sup>2</sup>), Emi M<sup>1</sup>)(<sup>1</sup>) Department of Molecular Biology Institute of Gerontology, (<sup>2</sup>) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Second): Up-regulation and overproduction of DVL-1, the human counterpart of the Drosophila dishevelled gene, in cervical squamous cell carcinoma. *Oncology Reports* 2003; 10: 1219-1223.
- 6) Fujiwara M, Mohammad G, Kawanami O: Up and down with PARs in vivo. *Thromb Haemost* 2003; 90 (5): 772-773.
- 7) Fujiwara M, Jin E, Ghazizadeh M, Kawanami O: Differential expression of Protease-Activated receptors 1, 2, and 4 on human endothelial cells from different vascular sites. *Pathobiology* 2004; 71: 52-58.
- 8) 清水 一, 原 博<sup>1</sup>), 鈴木成治<sup>2</sup>), ガジザデ モハマッド, 永島幹夫, 横崎 宏<sup>3</sup>)(<sup>1</sup>)原産婦人科医院, (<sup>2</sup>)日本医科大学多摩永山病院外科, (<sup>3</sup>)神戸大学生体情報医学講座外科病理学): 細胞診に有用な分子生物学的解析の実際. *日本臨床細胞学会神奈川県支部会誌* 2003; 8(1): 6-14.

## 著 書

- 1) 川並汪一: [共著]呼吸器学 100年史. *日本呼吸器学会誌*, 2003; pp61-64, 社団法人日本呼吸器学会.
- 2) 川並汪一: [分担]ランゲルハンス細胞性組織球症(肺好酸球性肉芽腫症). *呼吸器科 特集 希少呼吸器疾患*, 2004; 科学評論社.
- 3) 川並汪一, 金 恩京: [分担]ARDS/ALIの病理: 好中球-トロンピン-内皮細胞. *医学のあゆみ(石井芳樹)*, 2004; pp21-27, 医歯薬出版.
- 4) 川並汪一: [分担]肺血管内皮細胞の機能と形態. 別冊 *医学のあゆみ 呼吸器疾患 State of Atrts 2003-2005*, 2004; pp99-104, 医歯薬出版.

## 学会発表

### (1) 招待講演:

- 1) Kawanami O, Jin E: Alveolar wall angiogenesis: Functional morphology in lung diseases. Division of Pulmonary and Critical Care Medicine (The Arthur and Rochelle Belfer Gene Therapy Core Facility Cornell University, Weill Medical College, USA), 2003. 10.

### (2) 一般講演:

- 1) Jin E, Pan X, Fujiwara M, Ghazizadeh M, Tachihara A, Nakatani C, Ban E, Inagaki N, Kawanami O: A novel ABCA3 protein, a lamellar body membrane protein, expressed in normal type II pneumocytes and neoplastic cells of primary lung adenocarcinoma. 99th American Thoracic Society (ATS) International Conference (Seatl, USA), 2003. 5.
- 2) Tachihara A, Jin E, Nakatani C, Masakazu F, Yoshino S<sup>1</sup>), Takemura T<sup>2</sup>), Kawanami O (<sup>1</sup>) Department of Rheumatology, NMS, (<sup>2</sup>) Department of Pathology, Japan Red Cross Center Hospital): Angiogenesis and immunohistochemical property of the alveolar wall capillaries in patients with rheumatoid arthritis, usual and nonspecofoc interstitial pneumonias. AACR New aspects angiogenesis conference (Chicago, USA), 2003. 10.
- 3) Jin E, Fujiwara M, Takemura T, Tachihara A, Nakatani C, Kawanami O: Angiogenesis in primary lung adenocarcinoma is enhanced by protease-activated receptors in alveolar capillary endothelium. AACR New aspects angiogenesis conference (Chicago, USA), 2003. 10.
- 4) Kawanami O, Jin E, Fujiwara M: Differential DNA synthesis of endothelial cells from different vasculatures by activation of protease-activated receptor (PAR) 1, PAR2, and PAR4. AACR New aspects angiogenesis conference (Chicago, USA), 2003. 10.
- 5) Ghazizadeh M, 金 恩京, 清水 一, 藤原正和, 枝川聖子, 井上京子<sup>1</sup>), 潘 欣, 川並汪一 (<sup>1</sup>) Central Institute for Electron Microscopic Resarches): Efficient Gene Silencing by Small Interfering RNA. 第92回日本

病理学会, 2003 . 4 .

- 6) Jin E, Fujiwara M, Pan X, Ghazizadeh M, Arai S<sup>1)</sup>, Ozaki Y<sup>1)</sup>, Kajiwara K<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup>Surgical Pathology Section, Nippon Medical School Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School Second Hospital, <sup>3)</sup> Department of Surgical Pathology Section, Japan Red Cross Center Hospital ): Protease-Activated Receptor ( PAR ) -1 and PAR-2 Participate in the Cell Growth of Alveolar Capillary Endothelium in Primary Lung Adenocarcinomas . 5th Tokyo Lung research Conference , 2003 . 6 .
- 7) ガジザデ モハマッド, 清水 一, 枝川聖子, 小西英喜<sup>1)</sup>, 藤原正和, 潘 欣, 金 恩京, 川並汪一 ( <sup>1)</sup> 女性診療科・産科 ): Enhanced cisplatin cytotoxicity by frataxin inhibition in ovarian cancer cell lines . 第62回日本癌学会総会, 2003 . 9 .
- 8) 金 恩京, 潘 欣, 藤原正和, 武村民子<sup>1)</sup>, 川並汪一 ( <sup>1)</sup> 日本赤十字社医療センター病理部門 ): 高分化型肺腺癌における肺胞毛細血管新生と protease-activated receptor ( PAR ) -1, PAR-2, PAR-4 の発現 . 第92回日本病理学会, 2003 . 4 .
- 9) 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 川並汪一, 松本光司<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 同外科, <sup>3)</sup> 第二病院病理部, <sup>4)</sup> 付属病院病理部 ): 約18年の長期経過を経て急性転化した肺原発・低悪性度B細胞性縁帯リンパ腫 ( LG-MZBL ) の1部剖検例 . 第92回日本病理学会, 2003 . 4 .
- 10) 潘 欣, 金 恩京, 藤原正和, 枝川聖子, 清水 一, ガジザデ モハマッド, 川並汪一: 肺腺癌細胞と腺癌細胞株における免疫組織化学的特徴 . 第92回日本病理学会, 2003 . 4 .
- 11) 清水 一, 福田剛明<sup>1)</sup>, ガジザデ モハマッド, 川並汪一, 鈴木利光<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 福島県立医科大学医学部病理学第2 ): 多剤耐性白血病細胞株の分子病理学的解析 . 第92回日本病理学会, 2003 . 4 .
- 12) 川並汪一, 藤原正和, 金 恩京, ガジザデ モハマッド: 血管リモデリングに關与する protease-activated receptor ( PAR ) -1, PAR-2, PAR-4 と内皮細胞 . 第92回日本病理学会, 2003 . 4 .
- 13) 新井 悟<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 金 恩京, 藤原正和, 潘 欣, 枝川聖子, ガジザデ モハマッド, 川並汪一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部 ): 肺腺癌における癌細胞の免疫組織学的表現型と committed precursor cell との關係 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 14) 梶原景子<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 太田吉男<sup>2)</sup>, 大庭孝男<sup>2)</sup>, 斉藤良明<sup>2)</sup>, 金 恩京, 枝川聖子, 清水 一, ガジザデ モハマッド, 川並汪一 ( <sup>1)</sup> 放射線医学, <sup>2)</sup> 第二病院病理部 ): 小型肺腺癌におけるCT画像と組織診断学的対比について . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 15) 菊地真理<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 金 恩京, 枝川聖子, 清水 一, ガジザデ モハマッド, 川並汪一 ( <sup>1)</sup> 第二病院放射線科, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科 ): 肺扁平上皮癌における肺胞毛細血管内皮細胞の増生能と免疫組織学的リモデリング . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 16) 藤原正和: Protease-activated receptor ( PAR ) -1, -2の肺血管内皮細胞における細胞増殖への影響 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 17) 峯岸正治<sup>1)</sup>, 駒崎敏明<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 矢部 彩<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 金 恩京, 川並汪一 ( <sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門 ): ヒト肝芽細胞腫における JAK/SAT 系の抑制因子異常 . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .
- 18) 清水 一, 福田剛明<sup>1)</sup>, ガジザデ モハマッド, 川並汪一, 鈴木利光<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 福島県立医科大学医学部病理学第2 ): 多剤耐性白血病細胞株における Wnt シグナル経路の關与について . 第62回日本癌学会総会, 2003 . 9 .
- 19) 鈴木成治, 江上 各, 笹島耕二, Ghazizadeh M, 清水 一, 渡辺秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 松久威史, 松田 健, 沖濱裕司, 川並汪一, 田尻 孝: 定量的 real time マイクロサテライト分析法 ( QuMA ) による胃癌組織の DNA コピー数異常の検出と予後因子に關する検討 . 第62回日本癌学会総会, 2003 . 9 .
- 20) 立原章年, 吉野慎一, 金 恩京, 枝川聖子, 中谷千瑞子, 清水 一, 藤原正和, ガジザデ モハマッド, 川並汪一: リウマチ肺の肺胞毛細血管における免疫組織学的リモデリング . 第71回日本医科大学医学会総会, 2003 . 9 .

## [ 生化学部門 ]

### 研究概要

現在進行中の主な研究テーマは、(1) 細胞死抑制強化蛋白質を用いた蛋白質導入治療法の開発、(2) 脳神経変性疾患におけるミトコンドリアと酸化ストレスの役割、(3) ミトコンドリア遺伝子の体細胞変異と癌、老化、疾患の関連、(4) ミトコンドリアと核のクロストークの分子機構、(5) ミトコンドリア脳筋症の分子機構と治療法の開発、(6) ミトコンドリアと細胞分化との関連などである。

いずれも基本的な生命現象からはじまって、臨床への応用へと向かっている。

(1) 蛋白質導入治療；アポトーシスを抑制する因子 Bcl-x の遺伝子を改変し、強力にアポトーシスを抑制する因子 FNK を作製した。さらに、FNK 蛋白質を細胞内に導入する系を作り出した。この FNK 蛋白質はアポトーシスのみならずネクロシスも抑制することがより明確となり、動物実験により FNK の細胞内導入が有効であることがますます明らかになってきているので、ハードルは大きいものの実用化へ向かって研究を進めていきたい。

(2) 神経変性疾患；ALDH2 (アルデヒド脱水素酵素 2) は、生理的には酸化ストレスの防御機構として働き、疾患へ関与することを明らかにした。さらにトランスジェニックマウスを作製し、その性質を明らかにした。骨格筋の ALDH2 酵素活性を低下させたマウスでは骨格筋に酸化ストレスが蓄積し、筋萎縮をおこしていた。その他、骨密度の低下、神経伝導速度の低下など認められ、ALDH2 が広範に必要な酵素であることを明らかにした。

(3) ミトコンドリア遺伝子の体細胞変異の蓄積：癌には変異ミトコンドリア DNA が蓄積していることが知られていたが、癌の結果変異 mtDNA が蓄積するのか、変異 mtDNA が癌の進行の一要因になるのかが明確でなかった。核を共通にもち、mtDNA だけが異なる人工細胞サイブリドを作製することにより、mtDNA の配列と癌の進行の関連を明確にすることができた。さらに、変異 mtDNA が多いと抗癌剤に耐性を示すという結果も得られ、今後の癌治療に一石を投じることができそうである。

糖尿病との関連も明確になりつつある。神経障害を合併症にもつ糖尿病患者に変異 mtDNA が蓄積したヒトが多いことが明らかとなった。

(4) ミトコンドリアと核のクロストーク：ミトコンドリアを増殖させる因子 MIDAS の挙動があきらかとなった。

(5) ミトコンドリア脳筋症：ミトコンドリア脳筋症の培養細胞では核遺伝子の変異によってミトコンドリア機能が改善することを明らかにした。この遺伝子を同定できれば、治療への道がひらけることが期待される。

本年は、「日本アポトーシス研究会」を主宰した。「日本アポトーシス研究会」は東京を中心としたグループと東海地方を中心とするグループが合併してできた研究会の第一回の年会であった。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

1) Suzuki Y, Taniyama M<sup>1)</sup>, Muramatsu T<sup>2)</sup>, Ohta S, Atsumi Y<sup>3)</sup>, Matsuoka K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Fujigaoka Hosp., Showa Univ., <sup>2)</sup> Dept. Neuropsychiatry, Keio Univ., <sup>3)</sup> Saiseikai Cent. Hosp. ): Influence of Alcohol Intake and Aldehyde Dehydrogenase 2 Phenotype on Peripheral Neuropathy of Diabetes. Diabetes Care 2003 ; 26 ( 1 ): 249-249 .

2) Suzuki Y, Taniyama M<sup>1)</sup>, Muramatsu T<sup>2)</sup>, Higuchi S<sup>3)</sup>, Ohta S, Atsumi Y<sup>4)</sup>, Matsuoka K<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Fujigaoka Hosp., Showa Univ., <sup>2)</sup> Dept. Neuropsychiatry, Keio Univ., <sup>3)</sup> Natl. Inst. Alcoholism, Kurihama Natl. Hosp., <sup>4)</sup> Saiseikai Cent. Hosp. ): Diabetic Vasculopathy and Alcohol Tolerance Trait in Type 2 Diabetes. Diabetes Care 2003 ; 26 ( 1 ): 246-247 .

- 3) Ohsawa I , Nishimaki K , Yasuda C , Kamino K , Ohta S : Deficiency in a mitochondrial aldehyde dehydrogenase increases vulnerability to oxidative stress in PC12 cells . *J Neurochem* 2003 ; 84 ( 5 ) : 1110-1117 .
- 4) Suzuki Y , Taniyama M<sup>1)</sup> , Muramatsu T<sup>2)</sup> , Ohta S , Murata C<sup>3)</sup> , Atsumi Y<sup>3)</sup> , Matsuoka K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Fujigaoka Hosp. , Showa Univ. , Dept. , <sup>2)</sup> Neuropsychiatry Keio Univ. , <sup>3)</sup> Saiseikai Cent. ) : Mitochondrial tRNA ( Leu ( UUR )) mutation at position 3243 and symptomatic polyneuropathy in type 2 diabetes . *Diabetes Care* 2003 ; 26 ( 4 ) : 1315-1316 .
- 5) Suzuki Y , Kuriyama S<sup>1)</sup> , Atsumi Y<sup>1)</sup> , Murata C<sup>1)</sup> , Matsuoka K<sup>1)</sup> , Taniyama M<sup>2)</sup> , Muramatsu T<sup>3)</sup> , Ohta S ( <sup>1)</sup> Saiseikai Cent. Hosp. , <sup>2)</sup> Fujigaoka Hosp. , Showa Univ. , <sup>3)</sup> Dept. Neuropsychiatry Keio Univ. ) : Maternal inheritance of diabetes is associated with inactive ALDH2 genotype in diabetics with renal failure in Japanese . *Diabetes Res Clin Pract* 2003 ; 60 ( 2 ) : 143-145 .
- 6) Usui K<sup>1)</sup> , Saijo YA<sup>1,2)</sup> , Narumi K<sup>1)</sup> , Koyama S<sup>1)</sup> , Maemondo M<sup>1)</sup> , Kikuchi T<sup>1)</sup> , Tazawa R<sup>1)</sup> , Hagiwara K<sup>1)</sup> , Ishibashi Y , Ohta S , Nukiwa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Respiratory Oncology and Molecular Med. , Inst. Devel. , Aging and Cancer, Tohoku Univ. , <sup>2)</sup> Dept. Molecular Med. gene Transfer Res. , Tohoku Univ. ) : N-terminal deletion augments the cell-death-inducing activity of BAX in adenoviral gene delivery to nonsmall cell lung cancers . *Oncogene* 2003 ; 22 ( 17 ) : 2655-2663 .
- 7) Tahara K<sup>1,2)</sup> , Tsuchimoto D<sup>1,2)</sup> , Tominaga Y<sup>1,2)</sup> , Asoh S , Ohta S , Kitagawa M<sup>3)</sup> , Horie H<sup>4)</sup> , Kadoya T<sup>5)</sup> , Nakbeppu Y<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> Med. Inst. Bioregulation, Kyushu Univ. , <sup>2)</sup> CREST, Japan Sci. Technol. Co. Ltd. , <sup>3)</sup> Dept. Biochem. , Hamamatsu Univ. Sch. Med. , <sup>4)</sup> Advanced Res. Ctr. Biol. Sci. , Waseda Univ. , <sup>5)</sup> Pharm. Res. Lab. , Kirin Brewery Co. Ltd. ) : DeltaFosB, but not FosB, induces delayed apoptosis independent of cell proliferation in the Rat1a embryo cell line . *Cell Death Differ* 2003 ; 10 ( 5 ) : 496-507 .
- 8) Kanamori T , Nishimaki K , Asoh S , Ishibashi Y , Takata I<sup>1)</sup> , Kuwabara T<sup>1)</sup> , Taira K<sup>1,2)</sup> , Yamaguchi H<sup>3)</sup> , Sugihara S<sup>4)</sup> , Yamazaki T<sup>5)</sup> , Ihara Y<sup>5)</sup> , Nakano K<sup>6)</sup> , Matuda S<sup>7)</sup> , Ohta S ( <sup>1)</sup> Gene Function Res. Ctr. , Natl. Inst. Advanced Industrial Sci. Technol. ( AIST ) , Cent. 4 , <sup>2)</sup> Dept. Chem. Biotechnol. , Sch. Engin. , Univ. Tokyo , <sup>3)</sup> Gunma Univ. , Sch. Health Sci. , <sup>4)</sup> Dept. Pathol. , Gunma Cancer Ctr. , <sup>5)</sup> Dept. Neuropathol. , Faculty of Med. , Univ. , <sup>6)</sup> Dept. Biochem. , Kagoshima Women's Junior Coll. , <sup>7)</sup> Dept. Biol. Health Sci. , Kanoya Natl. Inst. Fit. Sport ) : Truncated product of the bifunctional DLST gene involved in biogenesis of the respiratory chain . *EMBO J* 2003 ; 22 ( 12 ) : 2913-2923 .
- 9) Abe H<sup>1)</sup> , Nishimura T<sup>1)</sup> , Asoh S , Ohta S ( <sup>1)</sup> Dept. Urol. ) : Expression of Bcl-2 on leukocytes in prostatic fluid from patients with acute and chronic prostatitis . *J Infect Chemother* 2003 ; 9 ( 2 ) : 496-507 .
- 10) Ohsawa I , Kamino K<sup>1)</sup> , Nagasaka K , Ando F<sup>2)</sup> , Niino N<sup>2)</sup> , Shimokata H<sup>2)</sup> , Ohta S ( <sup>1)</sup> Osaka Univ. Graduate Med. Sch. , <sup>2)</sup> Dept. Epidemiology, Natl. Inst. Longevity Sci. ) : Genetic deficiency of a mitochondrial aldehyde dehydrogenase increases serum lipid peroxides in community-dwelling females . *J Hum Genet* 2003 ; 48 ( 8 ) : 404-409 .
- 11) Nakano K<sup>1)</sup> , Ohsawa I , Yamagata K , Nakayama T<sup>1)</sup> , Sasaki K<sup>1)</sup> , Tarashima M<sup>1)</sup> , Saito K<sup>1)</sup> , Osawa M<sup>1)</sup> , Ohta S ( <sup>1)</sup> Dept. Pediatrics, Tokyo Women's Med. Univ ) : Continuous culture of novel mitochondrial cells lacking nuclei . *Mitochondrion* 2003 ; 3 ( 1 ) : 21-27 .
- 12) Okura T<sup>1)</sup> , Koda M<sup>2)</sup> , Ando F<sup>1)</sup> , Niino N<sup>1)</sup> , Ohta S , Shimokata H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Epidemiology, Natl. Inst. Longevity Sci. , <sup>2)</sup> Dept. Nutrition, Faculty of EIllness, Chukyo Women's Univ. ) : Association of polymorphisms in the estrogen receptor gene with body fat distribution . *J Obesity* 2003 ; 27 ( 9 ) : 1020-1027 .
- 13) Ohta S : A Multi-Functional Organelle Mitochondrion is Involved in Cell Death, Proliferation and Disease . *Current Medicinal Chemistry* 2003 ; 10 ( 23 ) : 2485-2494 .
- 14) Ozaki D , Sudo K , Asoh S , Yamagata K , Ito H<sup>1)</sup> , Ohta S ( <sup>1)</sup> Dept. Orthopedic Surgery ) : Transduction

of anti-apoptotic proteins into chondrocytes in cartilage slice culture . Biochem Biophys Res Commun 2004 ; 313 ( 3 ): 522-527 .

- 15) Aokage T , Ohsawa I , Ohta S : Green fluorescent protein causes mitochondria to aggregate in the presence of the Bcl-2 family proteins . Biochem Biophys Res Commun 2004 ; 314 ( 3 ): 711-716 .
- 16) Miyasaka K<sup>1)</sup> , Yosida Y<sup>1)</sup> , Matsushita S<sup>4)</sup> , Higuchi S<sup>4)</sup> , Maruyama A<sup>5)</sup> , Niino N<sup>2)</sup> , Ando F<sup>2)</sup> , Shimokata H<sup>2)</sup> , Ohta S , Funakoshi A<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Clin. Physiol. , Tokyo Met. Inst. Gerontol. , <sup>2)</sup> Dept. Epidemiol. , Natl. Inst. Longevity Sci. , <sup>3)</sup> Division of Gastroenterol. , Natl. Kyusyu Cancer , <sup>4)</sup> Inst. Clin. , Res. , Natl. Alcoholism Ctr. , <sup>5)</sup> Natl. Alcoholism Ctr, Kuraihama Hosp. ) : Association of cholecystokinin-a receptor gene polymorphism with alcohol dependence in a Japanese population . Alcohol Alcohol 2004 ; 39 ( 1 ): 25-28 .
- 17) 水谷 聡 , 塩谷 猛<sup>1)</sup> , 渋谷哲男<sup>1)</sup> , 松本光司<sup>2)</sup> , 藤井博昭<sup>3)</sup> , 森山雄吉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院消化器病センター , <sup>2)</sup> 同病理部 , <sup>3)</sup> 順天堂大学病理 ) : 肛門管への壁内転移が膈直接浸潤を呈した上部直腸癌の1例 . 日本消化器外科学会雑誌 2003 ; 36 ( 9 ): 1336-1341 .

## (2) 綜説 :

- 1) 太田成男 : アルツハイマー , お酒に弱い人は要注意 . 臨床検査学雑誌メディカル・テクノロジー 2003 ; 31 ( 9 ): 938-940 .
- 2) 麻生定光 , 太田成男 : ミトコンドリアによるアポトーシス制御とその応用 . 実験医学 2003 ; 21 ( 13 ): 1742-1748 .
- 3) 太田成男 : 細胞死抑制強化因子を用いた蛋白質治療法の開発 . J Nippon Med Sch 2003 ; 170 ( 5 ): 442-446 .
- 4) 太田成男 : ミトコンドリア tRNA 病 : 変異 tRNA におけるアンチコドン塩基修飾欠損 . 蛋白質核酸酵素増刊号 2003 ; 48 ( 4 ): 493-500 .

## 著 書

- 1) 太田成男 : [ 自著 ] アポトーシスと疾患 . 図解 分子病態学 ( 一瀬白帝 鈴木宏治 ) , 2003 ; pp65-68 , 中外医学社 .

## 学会発表

### (1) 招待講演 :

- 1) 太田成男 : 糖尿病とミトコンドリア . 第9回糖尿病個別治療研究会 , 2003 . 4 .
- 2) 太田成男 : 科学研究とトランスレーション : ミトコンドリア研究と新しい概念の蛋白質治療法開発を例にとって . 日本耳学会 , 2003 . 10 .
- 3) 太田成男 , 金森 崇 , 西楨貴代美 , 麻生定光 : ミトコンドリアの多様性と機能障害 . 第76回日本生化学会大会 , 2003 . 10 .

### (2) シンポジウム :

- 1) 太田成男 : Development of protein delivery therapeutics using the super anti-cell death factor FNK targeting mitochondria . Symposium on Single-Molecule Bioanalysis and Nano-biodesives , 2004 . 3 .
- 2) 太田成男 : スーパー細胞死制御因子を用いた蛋白治療法 . 日本医科大学医学会第13回公開「シンポジウム」 , 2003 . 6 .
- 3) 水谷 聡 , 設楽雄次郎 , 山縣久美 , 麻生定光 , 太田成男 : 癌細胞の抗癌剤耐性の一因はミトコンドリアDNAの体細胞変異にある . 第26回日本分子生物学会年会 , 2003 . 12 .

### (3) 一般講演 :

- 1) 永井信也 , 小林靖宏 , 鈴木 操 , 森 隆 , 麻生定光 , 森山雄吉<sup>1)</sup> , 太田成男 ( <sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター ) : スーパーアポトーシス抑制因子 FNK 蛋白投与による肝虚血再灌流における細胞死の抑制 . 第12回日本ア

ポトーシス研究会年会，2003．8．

- 2) 水越元気<sup>1)</sup>，麻生定光，桂研一郎<sup>1)</sup>，高橋久美子<sup>1)</sup>，五十嵐弘中<sup>1)</sup>，大久保誠二<sup>1)</sup>，渡辺めぐみ<sup>1)</sup>，森 隆，片山泰朗<sup>1)</sup>，太田成男<sup>(1)</sup>内科学第2): PTD (TAT) により静脈投与可能となった super anti-apoptotic FNK fusion protein による脳硬塞縮小効果．第12回日本アポトーシス研究会年会，2003．8．
- 3) 麻生定光，桂研一郎<sup>1)</sup>，高橋久美子<sup>1)</sup>，森 隆，五十嵐博中<sup>1)</sup>，大久保誠二<sup>1)</sup>，尾崎大也，山縣久美，片山泰雄<sup>1)</sup>，太田成男<sup>(1)</sup>内科学第2): 細胞導入型アポトーシス抑制活性強化蛋白質PTD-FNK 投与による脳硬塞縮小及び病態の軽減効果．第26回日本分子生物学会，2003．12．
- 4) 大澤郁朗，石井徳恵，金森 崇，西槇貴代美，紙野晃人，太田成男: 神経細胞分化におけるエネルギー代謝の必要性: 神経芽細胞における DLST 遺伝子点突然変異の解析．第26回日本分子生物学会，2003．12．
- 5) 須藤賢太郎，尾崎大也，山縣久美，麻生定光，成田哲也<sup>1)</sup>，伊藤博元<sup>2)</sup>，太田成男<sup>(1)</sup>第二病院整形外科，<sup>2)</sup> 付属病院整形外科): アポトーシス抑制活性強化因子 FNK 蛋白導入によるヒト軟骨組織の凍結再融解によって生じる細胞死の抑制．第26回日本分子生物学会，2003．12．
- 6) 太良修平，宮本章歳，麻生定光，高野照夫<sup>1)</sup>，太田成男<sup>(1)</sup>内科学第1): 細胞内導入型アポトーシス抑制活性強化因子PTD-FNK の骨髄単核球細胞に対する細胞死抑制効果．第26回日本分子生物学会，2003．12．
- 7) 上村尚美，麻生定光，太田成男: ミトコンドリアの障害によりミトコンドリアの増殖を促進する因子 MIDAS の細胞内局在．第26回日本分子生物学会，2003．12．
- 8) 西槇貴代美，大澤郁朗，抽名 武，下野祥子，太田成男: ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素の活性低下に伴う酸化ストレスの蓄積と筋萎縮．第26回日本分子生物学会，2003．12．
- 9) 金森 崇，西槇貴代美，麻生定光，太田成男: ミトコンドリア呼吸鎖酵素複合体形成に必須な因子 MIRTD : アルツハイマー病におけるエネルギー代謝低下との関連．第3回日本ミトコンドリア研究会年会，2003．12．
- 10) 麻生定光，桂研一郎<sup>1)</sup>，高橋久美子<sup>1)</sup>，森 隆，五十嵐博中<sup>1)</sup>，大久保誠二<sup>1)</sup>，尾崎大也，山縣久美，片山泰雄<sup>1)</sup>，太田成男<sup>(1)</sup>内科学第2): ミトコンドリアにターゲットするアポトーシス抑制強化蛋白質PTD-FNK による虚血性脳神経細胞死抑制: 脳硬塞縮小及び病態の軽減効果．第3回日本ミトコンドリア研究会年会，2003．12．
- 11) 大澤郁朗，石井徳恵，金森 崇，西槇貴代美，紙野晃人，太田成男: エネルギー代謝低下による神経細胞分化促進機構の解明: 神経芽細胞における DLST 遺伝子点突然変異の解析．第3回日本ミトコンドリア研究会年会，2003．12．
- 12) 上村尚美，麻生定光，太田成男: ミトコンドリアの増殖を促進する因子 MIDAS の細胞内局在の変動．第3回日本ミトコンドリア研究会年会，2003．12．
- 13) 西槇貴代美，大澤郁朗，抽名 武，下野祥子，太田成男: ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素の活性低下を伴う酸化ストレスの蓄積と筋萎縮をおこしたトランスジェニックマウスの症例．第3回日本ミトコンドリア研究会年会，2003．12．
- 14) 山縣久美，杉本 泉，安川武宏，西槇貴代美，鈴木 勉<sup>1)</sup>，林 純一<sup>2)</sup>，渡辺公綱<sup>1)</sup>，太田成男<sup>(1)</sup>東京大学大学院新領域創成科学研究科，<sup>2)</sup> つくば大学生物科学系): 核遺伝子変異による変異ミトコンドリア tRNA をもつ細胞の呼吸回復．第3回日本ミトコンドリア研究会年会，2003．12．



## [ 免疫部門 ]

### 研究概要

我々は、p53依存性に転写誘導される新規 Bcl-2 ファミリー分子（この分子群で BH3-only 因子と呼ばれる因子に属する）Noxa を単離し解析を行っており、本年度は Noxa 欠損マウスを作製して解析を行った。癌遺伝子であるアデノウイルス E1A を遺伝子導入したマウス胎児線維芽細胞（MEF）に DNA 損傷刺激を加えると p53 依存性のアポトーシスが誘導されるが、Noxa 欠損 MEF ではこのアポトーシス誘導が減弱していた。同時に、マウス個体に X 線照射した際の急性に起こる個体死が、p53 欠損マウスと同様に Noxa 欠損マウスで低下していること、急性に起こる腸上皮細胞のアポトーシスが p53, Noxa 欠損マウス共に低下している事を見出した。これらの結果から、実際に p53 によるアポトーシスの誘導を Noxa が（全てでは無いものの、その一部を）媒介しているということを明らかにした。一方、我々の発表の後になって Noxa と同様に p53 によって発現誘導される BH3-only 因子 PUMA の欠損マウスが作製され、Noxa と同様に様々な p53 誘導性アポトーシスの制御に部分的に関わることが報告された。この結果と我々の解析と合わせて p53 によるアポトーシスの誘導には BH3-only 因子の発現誘導が重要であることが明らかになった。

これらの研究と平行して、癌遺伝子が活性化した細胞で誘導性が上昇する p53 の標的遺伝子がこの選択的アポトーシスを制御している予想の基に、p53 標的遺伝子の単離を進めた。マイクロアレイ法による解析、RNA プロットによる確認作業を経て、新規の p53 標的遺伝子と共に癌遺伝子を導入した MEF で p53 による誘導性が変化する標的遺伝子もいくつか同定した。今後、これらの標的遺伝子の解析を通して、癌遺伝子が活性化した細胞を p53 が特異的に排除する機構を明らかにしていきたいと考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shibue T<sup>1)</sup>, Takeda K<sup>2)</sup>, Oda E, Tanaka H<sup>1)</sup>, Murasawa H<sup>1)</sup>, Takaoka A<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>3)</sup>, Akira S<sup>2)</sup>, Taniguchi T<sup>1)</sup>, Tanaka N ( <sup>1)</sup> Department of Immunology, Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, University of Tokyo, <sup>2)</sup> Department of Host Defense, Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, University of Tokyo): Integral role of Noxa in p53-mediated apoptotic response. *Genes Dev* 2003; 17 ( 18): 2233-2238.

##### (2) 綜説：

- 1) 織田恵理, 田中信之: p53 とがん. 最新医学 増刊「臨床遺伝学'03 がんのジェネティクス」 2003; 58: 2243-2252.
- 2) 田中信之: BH3-only タンパク質の機能. *細胞工学* 2003; 22 ( 10): 1097-1101.
- 3) 田中信之: p53 による細胞機能調節の分子機構. *Biotherapy* 2003; 17 ( 6): 537-545.

#### 著書

- 1) 田中信之: [ 編集協力及び共著 ] 新・ラボマニュアル遺伝子工学 ( 村松正實編 ), 2003; 丸善.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 田中信之: Molecular mechanism of apoptosis induced by Bcl-2 family proteins in mitochondria. 第76回日本生化学会大会, 2003. 10.

##### (2) 一般講演：

- 1) 織田恵理, 上原郁野, 八木修立郎, 安藤 大, 田中信之: p53 標的遺伝子群の機能解析. 第26回日本分子生物

学会年会，2003．12．

- 2) 飛梅 圭，中嶋 亘，浅野由ミ，織田恵理，田中信之：BH-3 only 分子による Multi-domain Bcl-2 ファミリー分子を介したアポトーシス誘導機構の解析．第26回日本分子生物学会年会，2003．12．
- 3) 阿部芳憲，飛梅 圭，織田恵理，田中信之：p53の機能抑制に働く新たなシグナル伝達経路の解析．第26回日本分子生物学会年会，2003．12．
- 4) 川内敬子，織田恵理，田中信之：NF- $\kappa$ B と p53 のシグナルクロストークの分子機構．第26回日本分子生物学会年会，2003．12．

## [ 疫学部門 ]

### 研究概要

神経内分泌学を中心とした生理学的研究を行っている。生体の個体としての機能とその制御機構をホルモンを対象として研究を行う。

#### I. Corticotropin-releasing factor (CRF) の生理作用

- 1) 視床下部CRF 1型受容体 (CRFR-1) 発現調節機構：マウス視床下部のCRFR-1遺伝子発現調節がラットと異なることを示した。
- 2) 慢性ストレスモデルでの視床下部 下垂体 副腎 (HPA) 系の機能解析：坐骨神経部分結紮により神経因性疼痛を惹起したラットでは、主にCRFの過剰産生・分泌によりHPA系の機能亢進が見られることを示した。
- 3) 脳内CRF反応遺伝子群の検索：ノックアウトマウスを用いて小脳においてCRFにより制御される遺伝子群の検索を行った。

#### II. 成長ホルモンの分泌調節機構

- 1) GHの分泌リズム：アンドロゲンが視索前野にどのような影響を与えるか検討した。
- 2) GHによって発現誘導される遺伝子の同定：GHによって極めて短時間に発現誘導される遺伝子を、ラット視床下部および肝において検討した。
- 3) GHのオートフィードバック機構と細胞内シグナル伝達に関する研究：GHは視床下部細胞では、JAK2-STAT系のうち主としてSTAT5bを活性化し、SOCS3を発現誘導することがわかった。

#### III. 三量体G蛋白質を介する細胞内シグナル伝達活性化機構

三量体G蛋白質G12によって活性化される細胞内シグナル伝達経路の解明をめざしている。Ga12の直接の標的分子として、Rho Gアニンヌクレオチド交換促進因子 LARGを同定し機能を解析した。

#### IV. 臨床内分泌研究：視床下部 下垂体 副腎系の疾患

原発性アルドステロン症の診断。ACTH依存性Cushing症候群における副腎腫大の程度とコルチゾール分泌能について検討した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Konishi S, Kasagi Y, Katsumata H, Minami S, Imaki T: Regulation of corticotropin-releasing factor (CRF) type-1 receptor gene expression by CRF in the hypothalamus. *Endocrine Journal* 2003; 50: 21-36.
- 2) Imaki T, Katsumata H, Konishi S, Kasagi Y, Minami S: Corticotropin-releasing factor type-1 receptor mRNA is not induced in mouse hypothalamus by either stress or osmotic stimulation. *J Neuroendocrinol* 2003; 15: 916-924.
- 3) Nigawara T<sup>1)</sup>, Horiba N<sup>1)</sup>, Tozawa F<sup>1)</sup>, Kasagi Y, Uchida K<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>2)</sup>, Suda T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Hirosaki Univ. School of Medicine, <sup>2)</sup> Nagoya Univ. School of Medicine ): Regulation of corticotropin releasing hormone receptor (CRH-R) in the rat anterior pituitary as assessed by radioimmunoassay. *Pituitary* 2003; 6: 67-73.
- 4) Tanabe A<sup>1)</sup>, Naruse M, <sup>1)</sup>, Takagi S<sup>1)</sup>, Tsuchiya K<sup>1)</sup>, Imaki T, Takano K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Medical Univ. ): Variability in the renin/aldosterone profile under random and standardized sampling conditions in

primary aldosteronism . J Clin Endocrinol Metab 2003 ; 88 : 2489-2494 .

- 5) Imaki T , Naruse M<sup>1)</sup> , Takano K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Medical Univ. ) : Adrenocortical Hyperplasia Associated with ACTH-dependent Cushing's Syndrome : Comparison of the Size of Adrenal Glands with Clinical and Endocrinological Data . Endocrine Journal 2004 ; 51 : 89-95 .

## (2) 綜説 :

- 1) 今城俊浩 : ストレスと自律神経機能 . Clinical Neuroscience 2003 ; 21 : 1018-1021 .  
2) 今城俊浩 : CRH 受容体の発現と作用 . 内分泌・糖尿病科 2003 ; 17 : 117-126 .  
3) 田辺晶代<sup>1)</sup> , 成瀬光栄<sup>1)</sup> , 今城俊浩 , 伊藤悠基夫<sup>2)</sup> , 小原孝男<sup>2)</sup> , 西川俊郎<sup>3)</sup> , 相羽元彦<sup>4)</sup> , 高野加寿恵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医大2内 , <sup>2)</sup> 同内分泌外科 , <sup>3)</sup> 同病理科 , <sup>4)</sup> 同第2病院病理科 ) : 両側性多発性の皮質結節を示した若年性の原発性アルドステロン症 . ホルモンと臨床 内分泌病理学最近の進歩 2003 ; 51 : 127-136 .  
4) 成瀬光栄<sup>1)</sup> , 田辺晶代<sup>1)</sup> , 渡辺大輔<sup>1)</sup> , 高木佐知子<sup>1)</sup> , 今城俊浩 , 高野加寿恵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医大2内 ) : ウロコルチンIIの心血管系への作用に関する最近の知見 . ホルモンと臨床 2003 ; 51 : 723-729 .

## 著 書

- 1) 成瀬光栄<sup>1)</sup> , 今城俊浩 , 田辺晶代<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立京都病院 , <sup>2)</sup> 東京女子医大2内 ) : [ 共著 ] 副腎髄質 . Annual Review 内分泌・代謝 , 2003 ; pp268-270 , 中外医学社 .

## 学会発表

### (1) 教育講演 :

- 1) 成瀬光栄<sup>1)</sup> , 田辺晶代<sup>2)</sup> , 渡部大輔<sup>2)</sup> , 立木美香<sup>2)</sup> , 高野加寿恵<sup>2)</sup> , 臼井 健<sup>1)</sup> , 島津 章<sup>1)</sup> , 今城俊浩 ( <sup>1)</sup> 国立京都病院 , <sup>2)</sup> 東京女子医大2内 ) : 両側性副腎病変の臨床 . 第14回臨床内分泌代謝Update , 2004 . 3 .

### (2) 一般講演 :

- 1) Imaki T , Katsumata H , Konishi S , Kasagi Y , Imaki J , Minami S : Partial sciatic nerve injury in the rat as a model of neuropathic pain ; its effect on hypothalamic-pituitary-adrenal axis . 85th Annual Meeting of Endocrine Society ( Philadelphia ) , 2003 . 9 .  
2) Kasagi Y , Katsumata H , Minami S , Imaki T : Investigation of signal transduction pathways involved in the up-regulation of corticotropin-releasing factor ( CRF ) type-1 receptor gene expression by norepinephrine and acetylcholine in cultured rat hypothalamic neurons in vitro . 85th Annual Meeting of Endocrine Society ( Philadelphia ) , 2003 . 9 .  
3) 今城俊浩 , 勝又晴美 , 笠木陽子 , 小西俊一郎 , 須田俊宏<sup>1)</sup> , 南 史朗 ( <sup>1)</sup> 弘前大3内 ) : Corticotropin-releasing factor ( CRF ) の鎮痛作用への関与 : ノックアウトマウスを用いた解析 . 第76回日本内分泌学会学術総会 , 2003 . 5 .  
4) 中田朋子 , 笠木陽子 , 時田玲子 , 今城俊浩 , 南 史朗 : 視床下部プロラクチン : プロラクチン受容体に対するエストロゲンの効果 . 第76回日本内分泌学会学術総会 , 2003 . 5 .  
5) 笠木陽子 , 勝又晴美 , 南 史朗 , 今城俊浩 : ノルアドレナリン , アセチルコリンによる視床下部CRF1型受容体の発現増加におけるcAMP-response-element binding protein ( CREB ) の関与 . 第76回日本内分泌学会学術総会 , 2003 . 5 .  
6) 成瀬光栄<sup>1)</sup> , 田辺晶代<sup>2)</sup> , 原 芳子<sup>2)</sup> , 今城俊浩 , 高木佐知子<sup>2)</sup> , 飯原雅季<sup>3)</sup> , 小原孝男<sup>3)</sup> , 高野加寿恵<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立京都病院 , <sup>2)</sup> 東京女子医大2内 , <sup>3)</sup> 同内分泌外科 ) : 原発性アルドステロン症における各種ホルモン受容体発現について . 第76回日本内分泌学会学術総会 , 2003 . 5 .  
7) 成瀬光栄<sup>1)</sup> , 田辺晶代<sup>2)</sup> , 今城俊浩 , 伊藤悠基夫<sup>3)</sup> , 小原孝男<sup>3)</sup> , 相羽元彦<sup>4)</sup> , 高野加寿恵<sup>2)</sup> , 河合紀生子<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立京都病院 , <sup>2)</sup> 東京女子医大2内 , <sup>3)</sup> 同内分泌外科 , <sup>4)</sup> 同第2病院病理科 , <sup>5)</sup> 長崎市立市民病院病理

- 科): 両側副腎に多発性結節性病変を認めた高血圧の症例. 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 8) 田辺晶代<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 高木佐知子<sup>1)</sup>, 原 芳子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 土谷 健<sup>1)</sup>, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内): グルココルチコイドが心筋の線維化におよぼす影響と作用機序の検討. 第76回日本内分泌学会学術総会, 2003. 5.
- 9) 笠木陽子, 勝又晴美, 南 史朗, 今城俊浩: ラット下垂体前葉におけるCRF1型受容体(CRFR-1)の発現パターン及びbinding abilityに関する検討. 第30回日本神経内分泌学会, 2003. 9.
- 10) 今城俊浩, 宮田麻理子<sup>1)</sup>, 勝又晴美, 笠木陽子, 南 史朗(<sup>1)</sup>国立岡崎共同研究機構生理学研究所): ラット坐骨神経部分結紮による慢性ストレスモデルでの視床下部-下垂体-副腎系の機能亢進の機序. 第30回日本神経内分泌学会, 2003. 9.
- 11) 近田直子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 佐藤幹二<sup>1)</sup>, 堀田真理<sup>1)</sup>, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内): グルココルチコイド補充療法における骨密度の検討. 第31回内分泌代謝研究会, 2003. 12.
- 12) 田中知恵, 勝又晴美, 笠木陽子, 須田俊宏<sup>1)</sup>, 今城俊浩(<sup>1)</sup>弘前大3内): グルココルチコイドはラット・マウスの視床下部室傍核(PVN)のCRF1型受容体遺伝子の発現を抑制する. 第15回CRHACTH研究会, 2004. 3.

## [ 分子生物学部門 ]

### 研究概要

高脂血症の体系的SNP解析：

ヒト疾患に対する遺伝的感受性を規定している遺伝子多型解析を用いて、高脂血症の候補遺伝子について、大規模な人口の解析から各遺伝子座の遺伝的多様性と表現型間の関係を検討している。

新規がん関連遺伝子の同定：

肝癌、乳癌、膀胱癌の検体を用いて、cDNA発現プロファイル解析を行うことにより、種々のヒトがんにて発現消失を示す新規遺伝子のクローニングする。

骨粗鬆症の体系的SNP解析：

骨粗鬆症の発症関連遺伝子を同定するために、遺伝子多型のゲノムワイドな多型マーカーを用いることにより、骨量減少機序、骨粗鬆症の発症、進展に関与する遺伝子を同定する。

乳癌・甲状腺癌の体系的遺伝子発現解析：

乳癌・甲状腺癌を25000遺伝子の載ったcDNAマイクロアレイを用いた体系的遺伝子発現解析を行い、癌において高率に発現亢進または発現低下を呈するものを明らかにする。

若手交流：齋藤 実がポスドク（博士研究員）として赴任した。また、日本医科大学大学院医学研究科の多くの研究分野から多数の若手大学院生、大学院研究生が、学外からも東京女子医大、宮崎医科大学、横浜市立大などの大学院生が国内留学生として参加し、若手研究者間の相互刺激、共同研究活動が活発に行われた。

理研・遺伝子多型研究センターとの研究交流・連携の推進：理研遺伝子多型研究センター（SRC）部門のプロジェクト・リーダーおよびサブリーダーらとの研究交流・連携を深めた。

海外との研究交流・連携：学術フロンティア推進事業分担研究施設である米国ユタ大学およびハワイ大学医学部との間に、引き続き国際研究交流を行っている。また、本部門に在籍していた吹野晃一（脳外科）が、米国オハイオ州立大学癌研究所に留学している。

知的財産・ベンチャー育成（TLO）センター関係：今年度本部門からは、研究成果を元に4件の特許出願を行った。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Nagai H, Yabe A, Mine N, Mikami I, Fujiwara H, Terada Y, Hirano A, Tsuneizumi M, Yokota T, Emi M : Down-regulation in Human Cancers of DRHC, a Novel Helicase-like Gene from 17q25. 1 That Inhibit Cell Growth . *Cancer Lett* 2003 ; 193 ( 1 ): 41-47 .
- 2) Hirano H<sup>1)</sup>, Ezura Y, Ishiyama N<sup>1)</sup>, Yamaguchi M<sup>1)</sup>, Nasu I<sup>2)</sup>, Yoshida H<sup>3)</sup>, Suzuki T<sup>3)</sup>, Hosoi T<sup>4)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Geriatr. Med. Ctr. , <sup>2)</sup> Nihon Univ. Sch. Dentistry Matudo , <sup>3)</sup> Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , <sup>4)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Med. Cent. ) : Association of Natural Tooth Loss with Genetic Variation at the Human Matrix Gla Protein Locus in Elderly Women . *J Hum Genet* 2003 ; 48 ( 6 ): 288-292 .
- 3) Fujita Y, Ezura Y, Emi M, Ono S, Takada D, Iino Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Bujo H<sup>2)</sup>, Saito Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Intern. Med. II. , <sup>2)</sup> Chiba Univ. Graduate Sch. ) : Hypertriglyceridemia associated with amino acid variation Asn985Tyr of RP1 gene . *J Hum Genet* 2003 ; 48 ( 6 ): 305-308 .
- 4) Omasu F, Emi M, Ezura Y, Kajita M, Ishida R, Kodaira M, Yoshida H<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Hosoi T<sup>1)</sup>, Inoue S<sup>2)</sup>, Shiraki M<sup>3)</sup>, Orimo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , <sup>2)</sup> Tokyo Univ. , <sup>3)</sup> Res. Inst. Prac. Invol. Dis. ) : Association of Genetic Variation of a Gene Encoding a PDZ-LIM Domain Protein, RIL Localized in 5q31. 1 with low Bone Mineral Density in Adult Japanese Women . *J Hum Genet* 2003 ; 48 ( 7 ): 342-345 .

- 5) Nagahata T , Shimada T , Harada A , Nagai H , Onda M , Yokoyama S<sup>1)</sup> , Shiba T<sup>2)</sup> , Jin E<sup>3)</sup> , Kawanami O<sup>3)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Nagano Red Cross Hosp. , <sup>2)</sup> Kitasato Univ. , <sup>3)</sup> Pathol ): Amplification, Up-regulation and Over-expression of *Dvl-1*, the Human Counterpart of the *Drosophila disheveled* gene, in Primary Breast Cancers . *Cancer Sci* 2003 ; 94 ( 6 ): 515-518 .
- 6) Nagai H , Emi M , Terada Y , Baba M<sup>1)</sup> , Shimizu M , Konishi N<sup>2)</sup> , Kaneko S<sup>3)</sup> , Kobayashi K<sup>3)</sup> , Yumoto Y<sup>4)</sup> , Ghazizadeh M<sup>5)</sup> , Kawanami O<sup>5)</sup> , Matsubara K<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Mie Univ. , <sup>2)</sup> Nara Med. Univ. , <sup>3)</sup> Kanazawa Univ. , <sup>4)</sup> Okayama Univ. , <sup>5)</sup> Pathol. , <sup>6)</sup> Nara Inst. Sci. Technology Nara Inst. Sci. Technology ): DNA Alterations during Multi-step Development of Human Hepatocellular Carcinomas Revealed by Laser Capture Microdissection . *Hepatology Res* 2003 ; 26 ( 3 ): 199-208 .
- 7) Ishida R , Ezura Y , Emi M , Kajita M , Yoshida H<sup>1)</sup> , Suzuki T<sup>1)</sup> , Hosoi T<sup>1)</sup> , Inoue S<sup>2)</sup> , Shiraki M<sup>3)</sup> , Ito H<sup>4)</sup> , Orimo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , <sup>2)</sup> Tokyo Univ. , <sup>3)</sup> Res. Inst. Prac. Invol. Dis. , <sup>4)</sup> Dept. Orthoped. ): Association of a promoter haplotype ( -1542G/-525C ) in the Tumor Necrosis Factor Receptor Associated Factor-Interacting Protein ( I-TRAF ) Gene with Low Bone Mineral Density in Japanese Postmenopausal Women . *Bone* 2003 ; 33 ( 2 ): 237-241 .
- 8) Takada D , Ezura Y , Ono S , Iino Y<sup>1)</sup> , Katayama Y<sup>1)</sup> , Xin Y<sup>2)</sup> , Wu LL<sup>2)</sup> , Larringa-Shum S<sup>2)</sup> , Stephenson SH<sup>2)</sup> , Hunt SC<sup>2)</sup> , Hopkins PN<sup>2)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Intern. Med. II. , <sup>2)</sup> Cardiovascular Genet. Res. Ctr. ): Growth Hormone Receptor Variant ( L526I ) Modifies Plasma HDL Cholesterol Phenotype in Familial Hypercholesterolemia : Intrafamilial Association study in an eight-generation hyperlipidemic kindred . *Am J Med Genet* 2003 ; 121A ( 2 ): 136-140 .
- 9) Ezura Y , Nakajima T , Kajita M , Ishida R , Inoue S<sup>1)</sup> , Yoshida H<sup>2)</sup> , Suzuki T<sup>2)</sup> , Shiraki M<sup>3)</sup> , Hosoi T<sup>2)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Univ. , <sup>2)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , <sup>3)</sup> Res. Inst. Prac. Invol. Dis. ): Association of molecular variants, haplotypes, and linkage disequilibrium within the human vitamin D-binding protein( DBP ) gene with postmenopausal bone mineral density . *J Bone Miner Res* 2003 ; 18 ( 9 ): 1642-1649 .
- 10) Okino K , Nagai H , Hatta M<sup>1)</sup> , Nagahata T , Yoneyama K<sup>1)</sup> , Kurose K<sup>2)</sup> , Nakayama H<sup>2)</sup> , Jin E<sup>3)</sup> , Kawanami O<sup>3)</sup> , Araki T<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Gyn. Obs. , <sup>2)</sup> Kanagawa Cancer Ctr. , <sup>3)</sup> Pathol. ): Up-regulation and overproduction of *DVL-1*, the Human Counterpart of the *Drosophila disheveled* gene, in cervical squamous cell carcinoma . *Oncol Rep* 2003 ; 10 ( 5 ): 1219-1223 .
- 11) Konishi N<sup>1)</sup> , Nakamura M<sup>1)</sup> , Kishi M<sup>1)</sup> , Ishida E<sup>1)</sup> , Shimada K<sup>1)</sup> , Matsuyoshi S<sup>1)</sup> , Nagai H , Emi M ( <sup>1)</sup> Nara Univ. ): Genetic Mapping of allelic loss on chromosome 6q within heterogeneous prostate carcinoma . *Cancer Science* 2003 ; 94 ( 9 ): 764-768 .
- 12) Ono S , Ezura Y , Emi M , Fujita Y , Takada D , Sato K<sup>1)</sup> , Ishigami T<sup>1)</sup> , Umemura S<sup>1)</sup> , Takahashi K<sup>2)</sup> , Kamimura K<sup>2)</sup> , Bujo H<sup>3)</sup> , Saito Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Yokohama City Univ. , <sup>2)</sup> Awa Med. Association Hosp. , <sup>3)</sup> Chiba Univ. ): A Promoter SNP ( -1323T>C ) in G-substrate Gene ( GSBS ) Correlates with Hypercholesterolemia . *J Hum Genet* 2003 ; 48 ( 9 ): 447-450 .
- 13) Fujimoto T , Onda M , Nagai H , Nagahata T , Ogawa K<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Univ. ): Upregulation and Overexpression of Human X-box binding protein 1 ( hXBP-1 ) Gene in Primary Breast Cancers . *Breast Cancer* 2003 ; 10 ( 4 ): 301-306 .
- 14) Hirano H<sup>1)</sup> , Ezura Y , Yoshida H<sup>2)</sup> , Suzuki T<sup>2)</sup> , Hosoi T<sup>3)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Geriatr. Med. Ctr. , <sup>2)</sup> Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , <sup>3)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Med. Cent. ): Association of Natural Tooth Loss with Genetic Variation at the SRC Locus among Elderly Women in Japan . *Geriatr Gerontol Int* 2003 ; 3 ( 3 ): 159-163 .
- 15) Yokota T , Tachizawa T<sup>1)</sup> , Fukino K<sup>2)</sup> , Teramoto A<sup>2)</sup> , Kouno J<sup>2)</sup> , Matsumoto K<sup>3)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyorosai

- Hosp. , <sup>2)</sup> Dept. Neurosurg. , <sup>3)</sup> Pathol. ): A family with spinal anaplastic ependymoma : evidence of loss of chromosome 22q in tumor . J Hum Genet 2003 ; 48 ( 11 ): 598-602 .
- 16) 江面陽一 : 骨粗鬆症の遺伝因子 . Geriatric Medicine 2003 ; 41 ( 11 ): 1586-1592 .
- 17) Nakagawachi T<sup>1)</sup>, Soejima H<sup>1)</sup>, Urano T<sup>2)</sup>, Zhao W<sup>1)</sup>, Higashimoto K<sup>1)</sup>, Satoh Y<sup>1)</sup>, Matsukura S<sup>1)</sup>, Kudo S<sup>3)</sup>, Kitajima Y<sup>1)</sup>, Harada H<sup>4)</sup>, Furukawa K<sup>2)</sup>, Matsuzaki H<sup>5)</sup>, Emi M<sup>6)</sup>, Nakabeppu Y<sup>6)</sup>, Miyazaki K<sup>1)</sup>, Sekiguchi M<sup>7)</sup>, Mukai T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Saga Med. School , <sup>2)</sup> Nagoya Univ. , <sup>3)</sup> Hokkaido Inst. Public Health , <sup>4)</sup> Int. Med. Ctr. Japan Res. Inst. , <sup>5)</sup> Riken , <sup>6)</sup> Japan Sci. Tech. Co. , <sup>7)</sup> BERI ): Silencing effect of CpG island hypermethylation and histone modifications on O6-methylguanine-DNA methyltransferase ( MGMT ) gene expression in human cancer . Oncogene 2003 ; 22 ( 55 ): 8835-8844 .
- 18) Takada D , Ezura Y , Ono S , Iino Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Xin Y<sup>2)</sup>, Wu LL<sup>2)</sup>, Larringa-Shum S<sup>2)</sup>, Stephenson SH<sup>2)</sup>, Hunt SC<sup>2)</sup>, Hopkins PN<sup>2)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Intern. Med. II. , <sup>2)</sup> Cardiovascular Genet. Res. Ctr. ): Apolipoprotein H Variant Modifies Plasma Triglyceride Phenotype in Familial Hypercholesterolemia : A molecular study in an eight-generation hyperlipidemic kindred . J Atherosclerosis Thrombosis 2003 ; 10 ( 2 ): 79-84 .
- 19) Fujita Y , Ezura Y , Emi M , Sato K , Takada D<sup>1)</sup>, Iino Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>2)</sup>, Kimimura K<sup>2)</sup>, Bujo H<sup>3)</sup>, Saito Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Intern. Med. II. , <sup>2)</sup> Awa Med. Association Hosp. , <sup>3)</sup> Chiba Univ. ): Hypercholesterolemia Associated with Splice-Junction Variation of Inter-a-Trypsin Inhibitor Heavy Chain 4 ( ITIH4 ) Gene . J Hum Genet 2004 ; 49 ( 1 ): 24-28 .
- 20) Sato K , Emi M , Ezura Y , Fujita Y , Takada D , Ishigami T<sup>1)</sup>, Umemura S<sup>1)</sup>, Xin Y<sup>2)</sup>, Wu LL<sup>2)</sup>, Larringa-Shum S<sup>2)</sup>, Stephenson HS<sup>2)</sup>, Hunt CS<sup>2)</sup>, Hopkins NP<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Yokohama City Univ. , <sup>2)</sup> Univ. Utah. ): Soluble Epoxide Hydrolase Variant ( Arg287Glu ) Modifies Plasma Total Cholesterol and Triglyceride Phenotype in Familial Hypercholesterolemia : Intra-familial Association Study in an Eight-Generation Hyperlipidemic Kindred . J Hum Genet 2004 ; 49 ( 1 ): 29-34 .
- 21) Hatta M , Nagai H , Okino K , Onda M , Yoneyama K<sup>1)</sup>, Ohta Y<sup>1)</sup>, Nakayama H<sup>2)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Gyn. Obs. , <sup>2)</sup> Kanagawa Cancer Ctr. ): Down-regulation of members of glycolipid-enriched membrane raft gene family, MAL and BENE, in cervical squamous cell cancers . J Obstetr Gynecol Res 2004 ; 30 ( 1 ): 53-58 .
- 22) Nagahata T , Onda M , Emi M , Nagai H , Tsumagari K , Fujimoto T , Hirano A , Sato T<sup>1)</sup>, Nishikawa K<sup>1)</sup>, Akiyama F<sup>2)</sup>, Sakamoto G<sup>2)</sup>, Kasumi F<sup>2)</sup>, Miki Y<sup>2)</sup>, Tanaka T<sup>3)</sup>, Tsunoda T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Kayaku Co. , Ltd. , <sup>2)</sup> Cancer Inst. Hosp. , <sup>3)</sup> RIKEN ): Expression profiling to predict postoperative prognosis for estrogen receptor-negative breast cancers by analysis of 25, 344 genes on a cDNA microarray . Cancer Sci 2004 ; 95 ( 3 ): 218-225 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 江面陽一 , 石田良太 , 江見 充 : ゲノム解析からの病態解明 : 骨粗鬆症と遺伝素因 . 現代医療 2003 ; 35 ( 7 ): 57-62 .
- 2) 津曲幸二 , 音田正光 , 長幡武光 , 江見 充 : 乳がんのジェネティクス . 最新医学 2003 ; 58 ( 9 ): 220-227 .
- 3) 音田正光 , 長幡武光 , 永井尚生 , 江見 充 : 乳癌のゲノム解析 . 分子細胞治療 2003 ; 2 ( 5 ): 93-98 .
- 4) 長幡武光 : 乳癌術後予後のDNA, RNA 診断 . Practical Oncology 2004 ; 16 ( 3 ): 14-16 .

## 著 書

- 1) 音田正光 , 長幡武光 , 江見 充 : [ 分担 ] 多型性 DNA マーカーによる乳癌の予後診断 . 乳癌の最新医療 ( 小山博記・霞富士雄 ), 2003 ; pp69-71 , 先端医療技術研究所 .



## 学会発表

### (1) 招待講演 :

- 1) 江見 充 : 泌尿器腫瘍の体系的ゲノム解析 . 第5回泌尿器疾患ゲノム解析研究会 , 2003 . 8 .

### (2) 教育講演 :

- 1) 江面陽一 , 江見 充 : 骨粗鬆症の体系的SNP解析 . 第45回日本老年医学会学術集会 , 2003 . 6 .

### (3) シンポジウム :

- 1) 平野 明<sup>1)</sup>, 歌田貴仁<sup>1)</sup>, 永井尚生, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 小川健治<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>3)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>東京女子医大第二病院, <sup>2)</sup>癌研・乳腺外科, <sup>3)</sup>同・乳腺病理 ): 乳癌における染色体共通欠失領域6q25. 3にはPARK2遺伝子が存在する . 日本外科学会 , 2003 . 6 .
- 2) 江面陽一 , 江見 充 : 骨粗鬆症の体系的SNP解析 . 日本人類遺伝学会第48回大会 , 2003 . 10 .

### (4) 一般講演 :

- 1) Fujimoto T , Nagai H , Onda M , Hirano A<sup>1)</sup>, Nagahata T , Jin E<sup>2)</sup>, Kawanami O<sup>2)</sup>, Watanabe O<sup>1)</sup>, Yoshimatsu K<sup>1)</sup>, Kato H<sup>1)</sup>, Ogawa K<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Tokyo Women's Med. Univ. , <sup>2)</sup>Pathol. ): XBP-1 as a new genetic marker of human breast cancer . AACR ( Toronto, Canada ), 2003 . 4 .
- 2) Hirata T , Nagai H , Okino K , Komazaki T , Koizumi K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Dept. Surg. II. ): Comparison of Gene Profiles between N0 and N2 NSCLC using cDNA Microarray . American Association for Cancer Research 2003 Annual Meeting ( Washington ), 2003 . 7 .
- 3) Hirano A<sup>1)</sup>, Fujimoto T , Shimizu T<sup>1)</sup>, Imamura H<sup>1)</sup>, Watanabe O<sup>1)</sup>, Kinoshita J<sup>1)</sup>, Utada Y<sup>1)</sup>, Okabe T<sup>1)</sup>, Kimura K<sup>1)</sup>, Nagahata T , Nagai H , Ogawa K<sup>1)</sup>, Kitahara O<sup>2)</sup>, Tanaka T<sup>2)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Tokyo Women's Med. Univ. , <sup>2)</sup>Tokyo Univ. ): Characterization of Breast Cancer using cDNA Microarray : Identification of Genes Involved in Breast Carcinogenesis . ポーランド外科学会 ( ポーランド ), 2003 . 9 .
- 4) Ishida R , Sudo Y , Ezura Y , Yoshida H<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Hosoi T<sup>1)</sup>, Inoue S<sup>2)</sup>, Shiraki M<sup>3)</sup>, Orimo H<sup>1)</sup>, Ito H<sup>4)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , <sup>2)</sup>Tokyo Univ. , <sup>3)</sup>Res. Inst. Prac. Invol. Dis. , <sup>4)</sup>Dept. Orthoped. ): Association of Molecular Variants, Haplotypes, and Linkage Disequilibrium within the Tumor Necrosis Factor Receptor Associated Factor-Interacting Protein ( I-TRAF ) Gene with Adult Bone Mineral Density . AZBMR 25th Annual Meeting ( Minneapolis ), 2003 . 9 .
- 5) Onda M , Nagahata T , Tsunoda T<sup>1)</sup>, Kasumi F<sup>2)</sup>, Nagai H , Emi M ( <sup>1)</sup>RIKEN , <sup>2)</sup>Cancer Inst. Hosp. ): Novel molecular prognostic markers for breast cancer . San Antonio Breast cancer Symposium( San Antonio ), 2003 . 12 .
- 6) Nagahata T , Onda M , Sato T<sup>1)</sup>, Tsumagari K , Nagai H , Kasumi F<sup>2)</sup>, Yokoyama S<sup>3)</sup>, Tsunoda T<sup>4)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Nippon Kayaku Co. , <sup>2)</sup>Cancer Inst. Hosp. , <sup>3)</sup>Nagano Red Cross Hosp. , <sup>4)</sup>RIKEN ): Novel genetic markers for prediction of postoperative prognosis in estrogen receptor-negative breast cancer . San Antonio Breast cancer Symposium ( San Antonio ), 2003 . 12 .
- 7) Emi M , Onda M , Nagahata T : Prognosis Prediction in ER-Negative Breast Cancer Expression Profiling to Predict Postoperative Prognosis for Estrogen Receptor-Negative Breast Cancers by Analysis of 25, 344 Genes on a cDNA microarray . 第6回日米がん合同会議 ( ワイコリア ), 2004 . 1 .
- 8) Yoshimatsu K<sup>1)</sup>, Fujimoto T<sup>1)</sup>, Watanabe K<sup>1)</sup>, Ishibashi K<sup>1)</sup>, Watanabe O<sup>1)</sup>, Nagai H , Onda M , Emi M ( <sup>1)</sup>Tokyo Women's Med. Univ. ): Overexpression of human X-box binding protein-1 ( XBP-1 ) in Colorectal Cancer . AACR 94th Annual Meeting ( Orlando ), 2004 . 3 .
- 9) Onda M , Nagai H , Nagahata T , Kasumi F<sup>1)</sup>, Tsunoda T<sup>2)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Cancer Inst. Hosp. , <sup>2)</sup>RIKEN ): Novel molecular prognostic index for 5-years prognosis of breast cancer . AACR 94th Annual Meeting ( Orlando ), 2004 . 3 .

- 10) 藤本崇司, 音田正光, 長幡武光, 清水忠夫<sup>1)</sup>, 今村 洋<sup>1)</sup>, 渡辺 修<sup>1)</sup>, 木下 淳<sup>1)</sup>, 歌田貴仁<sup>1)</sup>, 平野 明<sup>1)</sup>, 吉松和彦<sup>1)</sup>, 加藤博之<sup>1)</sup>, 小川健治<sup>1)</sup>, 永井尚生, 江見 充<sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大第二病院)</sup>: ヒト乳癌における XBP-1 遺伝子の発現. 日本外科学会, 2003. 6.
- 11) 音田正光, 藤本崇司, 津曲幸二, 長幡武光, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 三木義男<sup>2)</sup>, 角田達彦<sup>3)</sup>, 永井尚生, 江見 充<sup>(<sup>1)</sup>癌研・乳腺外科, <sup>2)</sup>同ゲノムセンター, <sup>3)</sup>理研・遺伝子多型)</sup>: Microarray 解析による新しい乳癌予後マーカー. 第11回日本乳癌学会, 2003. 6.
- 12) 長幡武光, 音田正光, 津曲幸二, 藤本崇司, 永井尚生, 江見 充, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂本吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>3)</sup>, 横山史朗<sup>4)</sup>, 角田達彦<sup>5)</sup><sup>(<sup>1)</sup>癌研・乳腺外科, <sup>2)</sup>同乳腺病理, <sup>3)</sup>癌研ゲノムセンター, <sup>4)</sup>理研・遺伝子多型)</sup>: ER陰性乳癌の5年生存術後予後と体系的遺伝子発現解析. 第11回日本乳癌学会, 2003. 6.
- 13) 津曲幸二, 江見 充, 永井尚生, 音田正光, 長幡武光, 藤本崇司, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂本吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>3)</sup>, 千々岩一男<sup>4)</sup><sup>(<sup>1)</sup>癌研・乳腺外科, <sup>2)</sup>同乳腺病理, <sup>3)</sup>癌研ゲノムセンター, <sup>4)</sup>宮崎医大第一外科)</sup>: n0 乳癌の再発と体系的遺伝子発現解析. 第11回日本乳癌学会, 2003. 6.
- 14) 浦野友彦<sup>1)</sup>, 星野真二郎<sup>1)</sup>, 白木正孝<sup>2)</sup>, 江面陽一, 江見 充, 細井孝之<sup>3)</sup>, 大内尉義<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>1)</sup><sup>(<sup>1)</sup>東大・老年科, <sup>2)</sup>成人病診療研究所, <sup>3)</sup>都老人医療セ)</sup>: 骨粗鬆症における LRP5 遺伝子多型の関与. 日本老年医学会, 2003. 6.
- 15) 小野秀二, 藤田有子, 佐藤恵子, 石上友章<sup>1)</sup>, 武城英明<sup>2)</sup>, 斉藤 康<sup>2)</sup>, 梅村 敏<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(<sup>1)</sup>横浜市大, <sup>2)</sup>千葉大)</sup>: G-基質蛋白 (GSBS) 遺伝子のプロモーター領域遺伝子多型 - 1323T>C と成人高コレステロール患者における HDL コレステロール値との相関. 第13回 Medical Genetics 研究会, 2003. 6.
- 16) 梶田満子, 江面陽一, 石田良太, 吉田祥子, 小平美奈, 河越美保, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>(<sup>1)</sup>成人病診療研究所, <sup>2)</sup>東大・老年科, <sup>3)</sup>都老人医療セ, <sup>4)</sup>都老人総合研)</sup>: 下垂体グルタミン酸環状化酵素 (QPCT) の遺伝子多型と成人女性の橈骨骨密度との相関. 第13回 Medical Genetics 研究会, 2003. 6.
- 17) 須藤悦宏, 石田良太, 江面陽一, 梶田満子, 吉田祥子, 小平美奈, 河越美保, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 伊藤博元<sup>5)</sup>, 江見 充<sup>(<sup>1)</sup>成人病診療研究所, <sup>2)</sup>東大・老年科, <sup>3)</sup>都老人医療セ, <sup>4)</sup>都老人総合研, <sup>5)</sup>日本医科大学整形外科)</sup>: 腫瘍壊死因子受容体関連因子結合蛋白遺伝子 (I-TRAF) のプロモーター領域遺伝子多型と成人女性の橈骨骨密度との相関. 第13回 Medical Genetics 研究会, 2003. 6.
- 18) 江面陽一, 須藤悦宏, 梶田満子, 大益史弘, 吉田祥子, 小平美奈, 河越美保, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>(<sup>1)</sup>成人病診療研究所, <sup>2)</sup>東大・老年科, <sup>3)</sup>都老人医療セ, <sup>4)</sup>都老人総合研)</sup>: 低密度リポ蛋白受容体関連蛋白5 遺伝子 (LRP5) の第18エクソン内遺伝子多型 A1330V は成人女性の橈骨骨密度と相関する. 第13回 Medical Genetics 研究会, 2003. 6.
- 19) 藤田有子, 江面陽一, 佐藤恵子, 武城英明<sup>1)</sup>, 斉藤 康<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>(<sup>1)</sup>千葉大, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第2)</sup>: Retinitis Pigmentosa 1 遺伝子多型と高脂血症患者における中性脂肪値との相関解析. 第13回 Medical Genetics 研究会, 2003. 6.
- 20) 佐藤恵子, 木原 実<sup>1)</sup>, 江見 充, 梅村 敏<sup>1)</sup><sup>(<sup>1)</sup>横浜市大)</sup>: Angiotensin type 1a 受容体遺伝子欠損マウス (At1a<sup>-/-</sup>) における Endothelial nitric oxide (E-NOS) 発現. 第13回 Medical Genetics 研究会, 2003. 6.
- 21) 長野 誠<sup>1)</sup>, 鯨岡 健<sup>1)</sup>, 石原光昭<sup>1)</sup>, 江頭 徹<sup>1)</sup>, 服部浩明<sup>1)</sup>, 辻 昌宏<sup>1)</sup>, 石井 純<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>(<sup>1)</sup>ビー・エム・エル, <sup>2)</sup>北海道社会保険病院)</sup>: タンジール病患者における ABCA1 遺伝子変異の同定. 第13回 Medical Genetics 研究会, 2003. 6.
- 22) 藤本崇司, 吉松和彦<sup>1)</sup>, 清水忠夫<sup>1)</sup>, 今村 洋<sup>1)</sup>, 渡辺 修<sup>1)</sup>, 平野 明<sup>1)</sup>, 音田正光, 永井尚生, 江見 充, 小川健治<sup>1)</sup><sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大第二病院)</sup>: ヒト乳癌における XBP-1 遺伝子の発現. 第12回癌病態治療研究会, 2003. 7.
- 23) 江見 充, 音田正光, 長幡武光, 藤本崇司, 津曲幸二, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 坂本吾偉<sup>2)</sup>, 角田達彦<sup>3)</sup><sup>(<sup>1)</sup>癌研・乳腺外</sup>

- 科,<sup>2)</sup>同乳腺病理,<sup>3)</sup>理研・遺伝子多型): 乳がん・甲状腺がんのゲノム解析と遺伝子診断. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 24) 永井尚生, 駒崎敏昭, 矢部 彩, 沖野恵子, 嶺岸正治, 長幡武光, 音田正光, 角田達彦<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>理研・遺伝子多型): 背景肝別にみた肝発がん因子の解析. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 25) 音田正光, 永井尚生, 長幡武光, 津曲幸二, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 坂本吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>3)</sup>, 角田達彦<sup>4)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>癌研・乳腺外科,<sup>2)</sup>癌研・乳腺病理,<sup>3)</sup>癌研ゲノムセンター,<sup>4)</sup>理研・遺伝子多型): マイクロアレイ解析で同定された遺伝子の乳癌予後マーカーとしての可能性. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 26) 横田 隆, 河野 潤, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 角田達彦<sup>2)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科,<sup>2)</sup>理研・遺伝子多型): cDNA マイクロアレイを用いた glioblastoma の遺伝子発現解析. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 27) 齋藤 実, 木元真史<sup>1)</sup>, 荒木映雄<sup>2)</sup>, 島田幸恵<sup>1)</sup>, 藤井亮治<sup>1)</sup>, 永井尚生, 江見 充, 秀 道広<sup>3)</sup>, 碓井 亞<sup>2)</sup>, 吉里勝利<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>福山臨床,<sup>2)</sup>広大・医・泌尿器,<sup>3)</sup>同・医・皮膚,<sup>4)</sup>同・院理・生物科学): プロテオーム解析法を用いた膀胱癌診断法の開発. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 28) 長幡武光, 音田正光, 津曲幸二, 藤本崇司, 永井尚生, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂本吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>3)</sup>, 角田達彦<sup>4)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>癌研・乳腺外科,<sup>2)</sup>日本医科大学乳腺病理,<sup>3)</sup>癌研ゲノムセンター,<sup>4)</sup>理研・遺伝子多型): cDNA マイクロアレイによるER陰性乳癌予後マーカー遺伝子の発現解析. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 29) 駒崎敏昭, 永井尚生, 矢部 彩, 江見 充, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>消化器病センター): cDNA マイクロアレイを用いた HCV-RNA レベルの違いによる宿主側の遺伝子発現に対する影響. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 30) 津曲幸二, 音田正光, 永井尚生, 長幡武光, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂本吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>3)</sup>, 千々岩一男<sup>4)</sup>, 角田達彦<sup>5)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>癌研・乳腺外科,<sup>2)</sup>同乳腺病理,<sup>3)</sup>癌研ゲノムセンター,<sup>4)</sup>宮崎医大,<sup>5)</sup>理研・遺伝子多型): n0乳癌における再発予後に関する体系的遺伝子発現解析. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 31) 河野 潤, 永井尚生, 横田 隆, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充, 角田達彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科,<sup>2)</sup>理研・遺伝子多型): cDNA マイクロアレイを用いて神経膠腫のGrade間を比較した遺伝子発現解析. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 32) 沖野恵子, 永井尚生, 中山裕樹<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 角田達彦<sup>3)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>佐賀医大,<sup>2)</sup>女性診療科・産科,<sup>3)</sup>理研・遺伝子多型): 子宮頸部扁平上皮癌の放射線療法感受性における遺伝子発現解析. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 33) 中川内哲治<sup>1)</sup>, 副島英伸<sup>1)</sup>, 浦野 健<sup>2)</sup>, 古川鋼一<sup>2)</sup>, 江見 充, 関口睦夫<sup>3)</sup>, 宮崎耕治<sup>1)</sup>, 向井常博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>佐賀医大,<sup>2)</sup>名古屋大,<sup>3)</sup>生物分子工学研究所): CpG island 高メチル化およびヒストン修飾によるMGMTの転写抑制機構. 第62回日本癌学会総会, 2003. 9.
- 34) 江見 充, 高田大輔, 梶田満子, 小平美奈, 江面陽一: 家族性高脂血症の表現型に及ぼす Apolipoprotein H の修飾効果. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 35) 永井尚生, 矢部 彩, 寺田淑恵, 駒崎敏昭, 江見 充: 肝幹細胞分化の分子機構の解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 36) 音田正光, 赤石純子, 浅香晋一, 津曲幸二, 長幡武光, 永井尚生, 江見 充: マイクロアレイ解析で同定された遺伝子の乳癌予後マーカーとしての可能性. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 37) 江面陽一, 梶田満子, 須藤悦宏, 大益史弘, 吉田祥子, 小平美奈, 河越美保, 江見 充: 低密度リポ蛋白受容体関連蛋白5遺伝子(LRP5)の第18エクソン内遺伝子多型 A1330V は成人女性の橈骨骨密度との相関. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 38) 横田 隆, 河野 潤, 江見 充, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 角田達彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科,<sup>2)</sup>理研・

- 遺伝子多型): cDNA マイクロアレイを用いた glioblastoma の遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 39) 梶田満子, 石田良太, 大益史弘, 吉田祥子, 小平美奈, 河越美保, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 江見 充, 江面陽一 ( <sup>1)</sup>成人病診療研究所, <sup>2)</sup>東大・老年科, <sup>3)</sup>都老人医療セ, <sup>4)</sup>都老人総合研 ): 下垂体グルタミン酸環状化酵素 (QPCT) の遺伝子多型と成人女性の橈骨骨密度との相関. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 40) 齋藤 実, 木本真史<sup>1)</sup>, 荒木映雄<sup>2)</sup>, 島田幸恵<sup>1)</sup>, 藤井亮治<sup>1)</sup>, 永井尚生, 江見 充, 秀 道広<sup>3)</sup>, 碓井 亞<sup>2)</sup>, 吉里勝利<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>福山臨床, <sup>2)</sup>広大・医・泌尿器, <sup>3)</sup>同・医・皮膚, <sup>4)</sup>同・院理・生物科学 ): プロテオーム解析法を用いた膀胱癌診断法の開発. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 41) 長幡武光, 津曲幸二, 音田正光, 江見 充, 永井尚生: ER陰性乳癌術後予後の体系的遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 42) 沖野恵子, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 江見 充, 永井尚生 ( <sup>1)</sup>女性診療科・産科 ): 子宮頸部扁平上皮癌の放射線療法感受性における遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 43) 浅香晋一, 藤本崇司, 赤石純子, 津曲幸二, 永井尚生, 江見 充, 音田正光: ヒト乳癌におけるXBP-1遺伝子の発現. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 44) 津曲幸二, 千々岩一男<sup>1)</sup>, 永井尚生, 長幡武光, 角田達彦<sup>2)</sup>, 江見 充, 音田正光 ( <sup>1)</sup>宮崎医大, <sup>2)</sup>理研・遺伝子多型 ): n0乳癌における再発予後に関する体系的遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 45) 高津圭介, 赤石純子, 清水一雄<sup>1)</sup>, 永井尚生, 長浜充二<sup>2)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 江見 充, 角田達彦<sup>3)</sup>, 音田正光 ( <sup>1)</sup>日本医科大学外科学第2, <sup>2)</sup>伊藤病院, <sup>3)</sup>理研・遺伝子多型センター ): 甲状腺乳頭癌で発現変化をきたす遺伝子の検討. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 46) 河野 潤, 横田 隆, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充, 角田達彦<sup>2)</sup>, 永井尚生 ( <sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup>理研・遺伝子多型 ): cDNA マイクロアレイを用いて神経膠腫のGrade間を比較した遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 47) 藤田有子, 佐藤恵子, 武城英明<sup>1)</sup>, 齋藤 康<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 江見 充, 江面陽一 ( <sup>1)</sup>千葉大, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第2 ): 高脂血症患者における中性脂肪値とRetinitis Pigmentosa 1遺伝子多型との相関解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 48) 水谷和則, 長幡武光, 宮本静代, 永井尚生, 江見 充, 音田正光: 前立腺癌におけるDVL-1遺伝子の発現異常についての検討. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 49) 野辺由紀子, 高田大輔, 藤田有子, 梶田満子, 江見 充, 江面陽一: 家族性高脂血症の表現型に及ぼす成長ホルモン受容体遺伝子 (GHR) のミスセンス単塩基多型 (L526I) の効果について. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 50) 塩路 豪, 永井尚生, 江面陽一, 藤原博通<sup>1)</sup>, 大垣憲司<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>泌尿器科 ): 前立腺癌患者の体系的SNPS解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 51) 佐藤恵子, 木原 実<sup>1)</sup>, 梅村 敏<sup>1)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>横浜市大 ): レニン・アンジオテンシン系遺伝子欠損マウスにおけるEndothelial nitric oxide (E-NOS) 発現. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 52) 須藤悦宏, 石田良太, 梶田満子, 吉田祥子, 小平美奈, 河越美保, 江見 充, 江面陽一: 腫瘍壊死因子受容体関連因子結合蛋白遺伝子 (I-TRAF) のプロモーター領域遺伝子多型と成人女性の橈骨骨密度との相関. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 53) 赤石純子, 浅香晋一, 藤本崇司, 津曲幸二, 永井尚生, 江見 充, 角田達彦<sup>1)</sup>, 音田正光 ( <sup>1)</sup>理研・遺伝子多型センター ): 腋窩リンパ節転移乳癌における遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 54) 矢部 彩, 寺田淑恵, 駒崎敏昭, 長幡武光, 平方敦史<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 江見 充, 永井尚生 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ): 肝発ガン関連遺伝子の段階的発現. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.

- 55) 小平美奈, 梶田満子, 須藤悦宏, 吉田祥子, 河越美保, 江見 充, 江面陽一: 熱ショック蛋白70kDa A1遺伝子 (HSPA1) の第1エクソン内遺伝子多型E110Dと成人女性の橈骨骨密度との相関. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 56) 嶺岸正治, 駒崎敏昭, 寺田淑恵, 矢部 彩, 沖野恵子, 金 恩京<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 江見 充, 永井尚生<sup>(1)</sup> 病理部門): ヒト肝芽細胞腫におけるJAK/STAT系の抑制因子異常. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 57) 内田珠美, 梶田満子, 須藤悦宏, 吉田祥子, 小平美奈, 江見 充, 江面陽一: 亜鉛結合性 2糖蛋白1遺伝子 (AGZP1) の上流領域内単塩基遺伝子多型 (AZGP1-1115C>T) と成人女性の橈骨骨密度との相関. 第71回日本医科大学医学学会総会, 2003. 9.
- 58) 石田良太, 江面陽一, 大益史弘, 梶田満子, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 江見 充, 伊藤博元<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup>成人病診療研究所, <sup>2)</sup>東大・老年科, <sup>3)</sup>都老人医療セ, <sup>4)</sup>都老人総合研, <sup>5)</sup>日本医科大学整形外科学): Tumor Necrosis Factor Receptor Associated Factor-Interacting protein (I-TRAF) 遺伝子多型と成人女性の骨密度の相関. 第18回日本整形外科学会基礎学術集会, 2003. 10.
- 59) 須藤悦宏, 石田良太, 江面陽一, 梶田満子, 吉田祥子, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 伊藤博元<sup>5)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>成人病診療研究所, <sup>2)</sup>東大・老年科, <sup>3)</sup>都老人医療セ, <sup>4)</sup>都老人総合研, <sup>5)</sup>日本医科大学整形外科学): 腫瘍壊死因子受容体関連因子結合蛋白遺伝子 (I-TRAF) のプロモーターSNPと成人女性橈骨骨密度値との相関. 日本人類遺伝学会第48回大会, 2003. 10.
- 60) 江面陽一, 須藤悦宏, 梶田満子, 大益史弘, 吉田祥子, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>成人病診療研究所, <sup>2)</sup>東大・老年科, <sup>3)</sup>都老人医療セ, <sup>4)</sup>都老人総合研): 低密度リポ蛋白受容体関連蛋白5遺伝子 (LRP5) の第18エクソン内遺伝子多型A1330Vと成人女性橈骨骨密度との相関. 日本人類遺伝学会第48回大会, 2003. 10.
- 61) 梶田満子, 江面陽一, 石田良太, 大益史弘, 吉田祥子, 小平美奈, 河越美保, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>成人病診療研究所, <sup>2)</sup>東大・老年科, <sup>3)</sup>都老人医療セ, <sup>4)</sup>都老人総合研): 下垂体グルタミン酸環状化酵素 (QPCT) の遺伝子多型と成人女性の補正橈骨骨密度値との相関. 日本人類遺伝学会第48回大会, 2003. 10.
- 62) 小野秀二, 藤田有子, 佐藤恵子, 石上友章<sup>1)</sup>, 武城英明<sup>2)</sup>, 斉藤 康<sup>2)</sup>, 梅村 敏<sup>1)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>横浜市大, <sup>2)</sup>千葉大): 高脂血症患者におけるHDLコレステロール値とG-基質 (GSBS) 遺伝子のプロモーター領域SNP-1323T>Cとの相関解析下垂体グルタミン酸環状化酵素 (QPCT) の遺伝子多型と成人女性の補正橈骨骨密度値との相関. 日本人類遺伝学会第48回大会, 2003. 10.
- 63) 藤田有子, 江面陽一, 佐藤恵子, 武城英明<sup>1)</sup>, 斉藤 康<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>千葉大, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第2): 高脂血症患者における中性脂肪値とRetinitis Pigmentosa 1 遺伝子多型との相関解析. 日本人類遺伝学会第48回大会, 2003. 10.
- 64) 塩路 豪, 永井尚生, 江面陽一, 藤原博通<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>泌尿器科学): 前立腺癌患者の体系的SNPs解析. 日本人類遺伝学会第48回大会, 2003. 10.
- 65) 佐藤恵子, 藤田有子, 江面陽一, 石上友章<sup>1)</sup>, 梅村 敏<sup>1)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>横浜市大): EPHX2遺伝子のミスセンス単塩基多型による家族性高脂血症の表現型への修飾効果. 日本人類遺伝学会第48回大会, 2003. 10.
- 66) 石原光昭<sup>1)</sup>, 長野 誠<sup>1)</sup>, 鯨岡 健<sup>1)</sup>, 伊藤真由美<sup>1)</sup>, 岩崎忠雄<sup>1)</sup>, 辻 昌宏<sup>1)</sup>, 石井 純<sup>2)</sup>, 江頭 徹<sup>1)</sup>, 服部浩明<sup>1)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>ピー・エム・エル, <sup>2)</sup>北海道社会保険病院): 新たなplatele-activating factor acetylhydrolase (PAF-AH) 遺伝子変異. 日本人類遺伝学会第48回大会, 2003. 10.
- 67) 副島英伸<sup>1)</sup>, 中川内哲治<sup>1)</sup>, 趙 衛<sup>1)</sup>, 東元 健<sup>1)</sup>, 原田晴仁<sup>2)</sup>, 江見 充, 宮崎耕治<sup>3)</sup>, 関口睦夫<sup>1)</sup>, 向井常博<sup>1)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>佐賀医大, <sup>2)</sup>国立国際医療センター, <sup>3)</sup>生物分子工学研究所): CpG island 高メチル化およびヒストン修飾によるMGMTの転写抑制機構. 日本人類遺伝学会第48回大会, 2003. 10.
- 68) 音田正光, 高津圭介, 赤石純子, 浅香晋一, 吉田 明<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 角田彦彦<sup>3)</sup>, 永井尚生, 江見 充 (<sup>1)</sup>神

奈川がんセンター外科,<sup>2)</sup>伊藤病院,<sup>3)</sup>理研・遺伝子多型): 甲状腺未分化癌由来セルラインにおける包括的  
遺伝子発現解析と乳頭癌-未分化癌進展機構の考察. 甲状腺外科検討会, 2003. 10.

(5) 記念講演:

1) 永井尚生: ヒト肝臓癌の発癌分子機構. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.

## [ 臨床部門 ]

### 研究概要

I. ラットにおける高血圧メカニズムの解析で、慶応義塾大学医学部腎臓内科と共同研究している．とくに自律神経の関連から検討している．従来は予想されていても実証できなかった交感神経神経の1Hz以下のゆらぎに高血圧，腎血流に関わる成分があることを発見した．このゆらぎは圧受容体反射とは独立であることを相互情報量解析で明らかにした．さらに，この遅い周期の交感神経活動が低次元カオスを起こして，心拍変動の1/fゆらぎを起こしていることも明らかにした．これにより武者らが心拍変動の1/fゆらぎを先駆的に報告して以来謎であったその機序が明らかにされた．高血圧の薬物療法は単に抹消血管を拡張させるだけではなく，中枢性に過度に興奮している交感神経系を抑制させる必要があると考え，その新しい枠組みを考案する予定である．

II. ラット延髄の交感神経の中核と想定される核の活動電位が，自律的に興奮しているかどうかを非線形解析から明らかにする予定である．

III. ある現象がカオスかどうかを判定するのはむずかしい問題で，さまざまな検出方法が提案されている．筆者もこの問題に精力的に取り組んでいる．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Osaka M, Shinagawa Y<sup>1)</sup>, Matsuoka S<sup>1)</sup>, Noma A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Physiology, Kyoto University ): Estimating the active dimension of cardiac pacemaking dynamics . Physica D 2003 ; 178 : 118-126 .
- 2) Osaka M, Kumagai H<sup>1)</sup>, Sakata K<sup>1)</sup>, Onami T<sup>1)</sup>, Chon KH<sup>2)</sup>, Watanabe M<sup>3)</sup>, Saruta T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Medicine, Keio University , <sup>2)</sup>Dept. of Electrical Engineering, City College of New York , <sup>3)</sup>Institute of Biomedical and Life Sciences, Glasgow University ): Low-order chaos in sympathetic nerve activity and scaling of heartbeat intervals . Phys Rev E 2003 ; 67 : ( 041915 ) 1-4 .
- 3) 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 大坂元久, 小林義典<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第1 ): 心内電位を用いた洞調律および心房ペースング時の房室伝導時間変動の周波数解析：房室結節に及ぼす自律神経活動の評価．心電図 2003 ; 23 : 190-199 .

##### (2) 綜説：

- 1) 山家智之<sup>1)</sup>, 仁田新一<sup>1)</sup>, 大坂元久 ( <sup>1)</sup>東北大学加齢医学研究所 ): ナノテク集積人工心筋開発プロジェクト．循環制御 2003 ; 24 : 111-117 .

#### 学会発表

##### (1) 教育講演：

- 1) Osaka M : Low-order chaos in sympathetic nerve activity causes 1/f-like fluctuation of heart rate variability . Chronotherapy Forum : New insights for the better treatment ( Tokyo ), 2003 . 9 .

##### (2) シンポジウム：

- 1) 大坂元久：人体のゆらぎと健康：ときめきは活性のサイン．国際高等研究所公開講演会「多様性の起源と維持のメカニズム」, 2003 . 11 .

##### (3) 一般講演：

- 1) Osaka M : Low-order chaos in sympathetic nerve activity causes 1/f fluctuation of heartbeat intervals . The 3rd International Symposium on Slow Dynamics in Complex Systems ( Sendai ), 2003 . 11 .
- 2) 大坂元久：交感神経の低次元カオスが心拍変動の1/fゆらぎを生成する．第40回日本臨床生理学会総会生体力

オス研究会，2003．10．

- 3) 大波敏子<sup>1)</sup>，熊谷裕生<sup>1)</sup>，猿田亨男<sup>1)</sup>，大坂元久<sup>(1)</sup>慶応義塾大学医学部内科)：高血圧ラットの神経性循環調節の，高い線形性と低い非線形性を改善させる降圧薬とその機序の違い．第26回日本高血圧学会総会，2003．10．



〔 5 〕 そ の 他

# 1. 教育推進室

## 研究概要

平成14年4月の教育推進室発足以降、2年が経過し、種々の学外における公的なワークショップ、およびセミナーは、すべて参加して新しい教育技法の理解と修得に励むとともに、下記の本学に残された教育上の諸問題の改革・企画・運営に携わってきた。次年度よりこれらに加え、モデル・コア・カリキュラム、基礎・臨床それぞれの間の統合、医学英語、教育評価などに関する学内外の現状分析、経年的学内アンケート等の意識調査など、対象を全学に拡大して検討している。特に平成16年1月より授業評価準備委員会が発足し、学生による授業評価が、基礎科学、基礎医学、臨床医学の一部の授業でトライアルとして開始された。今後このトライアルの結果を分析し、本格的に導入できるような体制を整える予定である。そのほかFaculty Development（以下FDと略す）の一環としての第1回日本医科大学学内公開討論会を行い、また新任・昇任教員を対象とした第1回日本医科大学医学教育セミナーを企画立案している。また教育推進室のホームページを開設し、学内（一部学外）への早期のFD活動の情報開示に努めている。

学内の医学教育への参画について以下に具体的検討項目を列記する。

- (1) カリキュラム、特に臨床系コース講義の評価と有機的な調整
- (2) 学生・教員に対するアンケート調査による授業に関する認識の分析
- (3) 学生の授業評価の実施
- (4) 試験の評価方法と進級・卒業判定制度の見直し
- (5) 特別クラスのカリキュラム編成
- (6) 第6学年特別講義の編成
- (7) 医師国家試験対策
- (8) 総合試験制度の確立
- (9) モデル・コア・カリキュラムと共用試験への対策
- (10) 教育推進室主催の講演会等の企画によるFD活動
- (11) 学長主催による医学教育セミナーの共催と本学学内公開討論会の企画・立案

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Shimura T, Aramaki T, Shimizu K, Miyashita T, Adachi K : Implementation of Integrated Medical Curriculum in Japanese Medical School . J Nippon Med Sch 2004 ; 71 ( 1 ) : 11-16 .
- 2) 荒牧琢己, 志村俊郎, 清水一雄, 宮下次廣, 足立好司 : 日本医科大学における学生による授業評価の実態と教員の意識 : アンケート調査報告 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 6 ) : 469-474 .
- 3) 志村俊郎 : Neuroimaging Quiz : 中枢性神経細胞腫 . Clin Neurosci 2003 ; 21 : 591-592 .

#### (2) 綜説：

- 1) Shimura T, Mori O, Kitamura T, Sanno N, Teramoto A, Ohaki Y, Sugisaki Y : Central Neurocytoma expressing characteristics of ependymal differentiation : electron microscopic findings of two cases . Med Electron Microsc 2003 ; 36 : 98-105 .

#### (3) 研究報告書：

- 1) Sanno N, Hayashi S, Shimura T, Maeda S, Teramoto A : Intracranial Osteosarcoma after radiosurgery : Case Report . Neurol Med Chir ( Tokyo ) 2003 ; 44 ( 1 ) : pp29-32 .

2) 志村俊郎：画像による誌上カンファランス．ブレインレスキュー 2003；4：pp29-30．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

1) 志村俊郎：本学における有機的連携を備えた統合カリキュラムについて．日本医科大学医師会生涯教育講座平成15年度第1回医学講座プログラム，2003．5．

##### (2) 一般講演：

1) 志村俊郎，荒牧琢己，宮下次廣，清水一雄，寺本 明，檀 和夫：本学の臨床系臓器別の統合カリキュラムに関する教員と学生に対するアンケート集計結果の考察．第35回日本医学教育学会総会，2003．7．

2) 宮下次廣，荒牧琢己，志村俊郎：OSCEにおける胸部レントゲン読撮．第35回日本医学教育学会総会，2003．7．

3) 荒牧琢己，志村俊郎：学生による授業評価に関する教員のアンケート調査報告．第71回日本医科大学医学会総会，2003．9．

4) 志村俊郎，寺本 明，荒牧琢己，檀 和夫，清水一雄，宮下次廣：本学における脳神経の統合カリキュラムの検討：私立医科大学のシラバスと対比して．第62回日本脳神経外科学会総会，2003．10．

# 付 表

## 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

### 1. 平成 15 年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	研究代表者	所属・職	決定額： 千円	研究課題
特定領域研究(2)		池島三与子	生化学第二・講師	4,000	MutS ヘテロダイマーによるミスマッチ認識機構の解析
"		西野 武士	生化学第一・教授	3,800	金属が関与するセンサーとスイッチのケミカルバイオロジー
"		西野 武士	生化学第一・教授	13,600	活性酸素種による遺伝子発現誘導の分子基盤
"		江見 充	老人病研究所・教授	12,200	体系的遺伝子異常解析に基づく乳癌・甲状腺癌の遺伝子診断法の開発
"		島田 隆	生化学第二・教授	11,100	HIV ベクターの開発
"		田中 信之	老人病研究所・教授	5,100	癌抑制遺伝子産物による遺伝子発現制御ネットワークの網羅的解析
"		杉田 昌彦	微生物学・免疫学・教授	4,800	結核菌脂質をターゲットにした免疫応答とその制御
"		高橋 秀実	微生物学・免疫学・教授	3,600	HIV 感染細胞を制御する細胞性免疫の解明とその賦活法の開発
"		佐藤(織田) 恵理	老人病研究所・助手	3,800	p53 によるアポトーシス誘導機構の解析
基盤研究(BⅡ2)	一般	田中 信之	老人病研究所・教授	5,200	転写因子 p53 による細胞周期, アポトーシスの制御機構の解析
"	"	西野 武士	生化学第一・教授	3,700	フリーラジカルを生成する複合金属フラビン酵素の構造と機能
"	"	佐久間康夫	生理学第一・教授	3,000	エストロゲン反応性に見られる脳の性差の細胞生理学基盤の解明
"	"	島田 隆	生化学第二・教授	3,400	遺伝子導入及び幹細胞移植技術を応用した遺伝性神変性疾患の治療法の開発
"	"	百束 比古	形成外科学・教授	3,400	ケロイド及び肥厚性癬痕の分子病態と抑制遺伝子の解明：無癬痕外科治療をめざし
"	"	太田 久彦	医療管理学・講師	4,500	アウトカム評価による脳卒中治療品質の改善のための介入策の研究・開発
"	"	杉田 昌彦	微生物学・免疫学・教授	5,700	CD1・脂質抗原提示系に着目した, 新しい抗結核ワクチンの開発
"	"	大久保善朗	精神医学・教授	3,223	統合失調症の進行性増悪課程に関する脳形態および脳機能画像を用いた前方視研究
"	"	寺本 明	脳神経外科学・教授	3,300	低酸素刺激による下垂体腺腫の出血機序の分子生物学的解明
"	"	江面 陽一	老人病研究所・助手	3,800	体系的遺伝子多型の探索と連鎖不平衡解析に基づく骨粗鬆症の感受性遺伝子の同定と解析
"	"	八木 聡明	耳鼻咽喉科学・教授	3,300	前庭性眼振はリスティングの法則に従うか
基盤研究(CⅠ1)	一般	隈崎 達夫	放射線医学・教授	1,000	ハイブリッド・シルクフィブロインによる組織吸収型ステント開発の基盤研究

基盤研究(CⅩ1)	一般	宮本 正章	内科学第一・助教授	2,200	スーパーアポトーシス抑制因子PTD-FNK 蛋白を用いたバイオ人工臓の開発
基盤研究(CⅩ2)	一般	西谷 里美	生物学・講師	200	変動環境におけるプレフォーマーションの意義：北極圏のムカゴトラノオを例として
"	"	池崎 弘之	麻酔科学・講師	400	微小循環不全に対する抗炎症剤の果たす役割の解明
"	"	川田 智之	衛生学・公衆衛生学・教授	500	重症心身障害者の身体活動度が骨密度に及ぼす影響に関する研究
"	"	高橋 秀実	微生物学・免疫学・教授	900	ヘリコバクター・ピロリのウレアーゼ活性を抑制する抗体の認識エピトープの同定
"	"	桂 研一郎	内科学第二・講師	1,100	アシドーシスにより増悪する虚血性神経細胞障害の分子生物学的機構の解明
"	"	浅野 健	小児科学・講師	700	薬剤耐性癌腫における薬剤耐性とトポイソメラーゼ遺伝子のエビジェネティクスの研究
"	"	田尻 孝	外科学第一・教授	500	脾静脈血行動態の肝線維化に及ぼす影響
"	"	鈴木 成治	外科学第一・助手	1,200	CGH 法と定量的経時的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織の新しい遺伝子診断
"	"	新田 隆	外科学第二・助教授	900	左心房容量負荷モデルにおける心房細動の電気生理学的機序
"	"	大久保直子	外科学第二・助手	600	心臓外科手術侵襲と接着分子；特に白血球と血管内皮接着分子の遺伝子発現
"	"	富山 俊一	耳鼻咽喉科学・教授	1,100	内耳自己免疫病における内耳免疫傷害の機序解明の研究
"	"	阿部 靖子	生化学第一・講師	1,500	慢性骨髄性白血病におけるヘム結合蛋白質 HBP23 の役割
"	"	三宅 一昌	内科学第三・助手	1,300	選択的 COX2 阻害による胃腺腫の発癌予防の可能性と COX1 阻害が発癌に与える影響
"	"	吾妻安良太	内科学第四・講師	1,000	インターフェロン 及び の間質性肺炎・肺線維症の細胞内抑制機序に関する研究
"	"	工藤 翔二	内科学第四・教授	1,400	特発性肺線維症における発癌メカニズムとその制御
"	"	片山 泰朗	内科学第二・教授	1,400	超軽微低体温 (35 ) の神経保護作用のメカニズムの解明：脳保護薬との併用療法
"	"	麻生 定光	老人病研究所・助教授	1,200	アポトーシス抑制蛋白質改良型の投与による虚血性神経細胞死抑制と治療への適用
"	"	中込 明裕	内科学第一・助手	1,300	心不全患者の単球上腫瘍壊死因子発現における急性反応性 C 蛋白の関与
"	"	勝部 康弘	小児科学・講師	1,600	ヒト血管平滑筋における酸素感受性イオンチャンネルに関する研究
"	"	福永 慶隆	小児科学・教授	1,100	体外増幅したヒト造血幹細胞に対する CXCR4 遺伝子導入

基盤研究(CⅡ)	一般	小川 俊一	小児科学・助教授	1,300	心筋・交感神経共同培養細胞を用いた交感神経の虚血プレコンディショニング効果の検討
"	"	村田 智	放射線医学・講師	1,000	肝悪性腫瘍に対する非侵襲的閉鎖循環下抗癌剤灌流療法の基礎的研究
"	"	緒方 清行	内科学第三・助教授	900	骨髄異形成症候群芽球の生物学的特性の解明(新規な芽球精製法を用いた解析)
"	"	芝崎 保	生理学第二・教授	1,000	GH分泌惹起物質受容体発現抑制トランスジェニックラットを用いた同受容体の機能解明
"	"	南 史朗	老人病研究所・教授	1,700	成長ホルモンによる視床下部神経修飾作用に関する新規遺伝子の検討
"	"	渡辺 昌則	消化器病センター・講師	1,000	アンチセンスオリゴを応用した線維芽細胞増殖因子(KGF)阻害による大腸癌増殖制御
"	"	菅野 重人	外科学第二・助手	900	虚血心筋 Gap Junction におけるCx43の動態と不整脈発生のメカニズム
"	"	高橋 弘	脳神経外科学・教授	900	DNA マイクロアレイによるインターフェロン抗腫瘍効果に果たすシグナル伝達の解析
"	"	吉田 大蔵	脳神経外科学・講師	800	GFP 遺伝子導入ヒトグリオーマ細胞を用いた脳腫瘍モデルでの抗微小管剤の研究
"	"	山口 文雄	脳神経外科学・講師	700	神経膠細胞の腫瘍化におけるFGFR2の機能解明
"	"	山王 直子	脳神経外科学・講師	800	脳下垂体腫瘍における各種視床下部ホルモン受容体発現の解析
"	"	竹田 晋浩	集中治療室・講師	1,600	内因性カンナビノイドおよびオピオイドによる延髄呼吸中枢抑制メカニズムの解明
"	"	本郷 卓	麻酔科学・助手	1,300	周術期心筋虚血, 動脈血酸素飽和度低下にみる糖尿病性自律神経機能障害の影響への考察
"	"	坂本 篤裕	麻酔科学・助教授	1,100	炎症性サイトカインによる心筋抑制機序におけるガス状メディエータの役割と相互作用
"	"	小野寺英貴	集中治療室・助手	1,300	敗血症性ショック時のHIF-1の発現に対する吸入麻酔薬の影響
"	"	金 徹	麻酔科学・助手	700	呼吸性末梢受容体(頸動脈小体)における酸素感知機構の解明
"	"	近藤 幸尋	泌尿器科学・助教授	1,300	腎細胞癌における低酸素応答性転写因子による腫瘍血管新生に対する制御機構の究明
"	"	澤 倫太郎	産婦人科学・講師	1,400	アデノシンによる胎児心筋ハイパネーションの誘導
"	"	大久保公裕	耳鼻咽喉科学・助教授	700	Explant Cultureを用いた鼻アレルギー過敏性亢進の制御法の開発
"	"	野中 学	耳鼻咽喉科学・講師	900	線維芽細胞の慢性副鼻腔炎における炎症を誘導する細胞としての重要性の解明

基盤研究(CⅡ2)	一般	池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・講師	900	COCH 遺伝子プロモーターを用いた新たな内耳特異的遺伝子治療法の開発
"	"	水野 博司	形成外科学・講師	700	脂肪由来間葉系幹細胞(仮称)による3次元大型脂肪組織の再生構築
"	"	三上 俊夫	スポーツ科学・助教授	500	熱ショック蛋白質(HSP70)の転写調節と生体防御作用から運動適応を検討する
"	"	大澤 郁朗	老人病研究所・講師	1,200	アポトーシス抑制蛋白サバイビンの脳神経細胞生存維持における役割
"	"	Parhar. S. Ishwar	生理学第一・講師	1,000	脳内移動型および非移動型GnRhニューロンにおける新規遺伝子の単離
"	"	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	1,100	パーフォリンノックアウトマウスを用いる有機リン農薬による免疫機能低下の機序の検討
"	"	林田眞喜子	法医学・助手	1,100	脳死判定と薬物に関する臨床法医学中毒学的アプローチ
"	"	石渡 俊行	病理学第二・講師	1,300	線維芽細胞増殖因子(FGF)7とFGF-10による臍組織再生誘導の研究
"	"	清野 精彦	内科学第一・助教授	1,300	Fabry病に対するAAVベクターを用いた酵素補充遺伝子治療
"	"	平山 悦之	内科学第一・助手	1,600	マウス胚性幹細胞から再生された心筋の電気生理学的検討
"	"	弦間 昭彦	内科学第四・講師	2,000	樹立したヒト肺癌高転移株高転移能の解明と関連分子を用いた診断治療法の開発
"	"	内海 甲一	内科学第二・助手	1,600	ファブリー病における腎不全発症進展の病態解明と酵素補充療法の評価法の開発
"	"	神谷 達司	内科学第二・講師	2,100	PARPを介するアポトーシスによる神経細胞死のメカニズムの解明
"	"	山崎 峰雄	内科学第二・助手	2,300	皮質基底核変性症と進行性核上性麻痺の比較臨床分子病理学的研究
"	"	及川 眞一	内科学第三・教授	1,800	新しい糖尿病発症機序とその治療:酸化変性リポ蛋白のインスリン分泌障害とその解除
"	"	亀谷 純	内科学第三・講師	1,600	下垂体グレリンの生理的意義
"	"	猪口 孝一	内科学第三・助教授	2,600	Gap-Rac, CalB等領域機能解析と各サブタイプBcr/Abl Tgマウス
"	"	檀 和夫	内科学第三・教授	2,600	MLL/AF4の癌化メカニズムと分子標的薬の開発
"	"	永島 正一	リウマチ科・助教授	1,300	血管新生抑制遺伝子導入による関節リウマチ遺伝子治療の基礎的研究
"	"	中島 敦夫	リウマチ科・助教授	1,700	自己免疫疾患における免疫抑制性分子の機能解析とその制御
"	"	丸 栄一	生理学第二・助教授	2,400	欠神発作の発生における過分極賦活型チャネルの役割に関する実験的研究



基盤研究(CⅡ)	一般	渡邊 淳	生化学第二・助手	1,900	神経型 Gaucher 病治療に向けた膜透過ペプチド融合酵素による脳内移行性の解析
"	"	川名 誠司	皮膚科学・教授	1,900	毛周期の制御に CRH の果たす役割の解明：CRH ノックアウトマウスを用いて
"	"	山岡 淳一	皮膚科学・講師	2,400	レドックス動態解析による皮膚炎症発症メカニズムの解明
"	"	田島 廣之	放射線医学・助教授	1,900	致命的深部静脈血栓症に対する血栓溶解破砕吸引療法の基礎並びに臨床応用に関する研究
"	"	保坂 純郎	放射線医学・講師	1,500	下肢静脈瘤に対するインターベンション血管閉塞療法の基礎的検討と臨床応用法の確立
"	"	林 宏光	放射線医学・講師	1,100	異種造影剤の直接混合による配合変化とその同時投与が腎機能に与える影響に関する研究
"	"	石原 圭一	放射線医学・講師	1,300	糖尿病性心筋症ラットを用いた Tc-99mMIBI 洗い出し率に関する研究
"	"	清水 一雄	外科学第二・教授	1,100	内分泌頸部外科における整容面を重視した低侵襲手術の確立
"	"	内藤 善哉	病理学第二・教授	900	膝 癌，随伴性膝 炎における Lumican の役割と応用
"	"	横室 茂樹	外科学第一・助手	1,000	胆管癌治療に対するサイトカイン IL-6，HGF，TGFB1 の応用
"	"	北村 晶	麻酔科学・講師	1,700	シングルチャネル解析からみた麻酔薬のイオンチャネルへの作用と臨床効果への考察
"	"	小林 徳行	麻酔科学・助手	2,100	肺低酸素感受機構におけるカリウムチャネルの役割の解明
"	"	中井 章人	産婦人科学・助教授	1,700	脳神経発達障害におけるミトコンドリア膜透過性遷移の役割に関する研究
"	"	米山 剛一	産婦人科学・講師	1,800	血管新生抑制因子エンドスタチンを用いた卵巣癌遺伝子治療への戦略
"	"	米山 芳雄	産婦人科学・講師	1,700	アデノシン代謝が閉経後の血小板 P-selectin 発現におよぼす影響
"	"	Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科学・講師	2,100	Genechip を用いた鼻アレルギー・鼻茸における肥満細胞の新たな役割の解析
"	"	土佐真美子	形成外科学・助手	1,300	ケロイド発生における Wnt シグナル分子機構の解明と新しい分子標的治療に関する研究
"	"	村上 正洋	形成外科学・助手	2,000	皮下脂肪由来組織幹細胞の分化制御による軟骨組織生体内立体再生
"	"	二宮 宣文	救急医学・助教授	2,800	エンドトキシン誘発モルモットイレウスモデルにおける内因性カンナビノイドの関与
萌芽研究		坂本 長逸	内科学第三・教授	1,600	新規蛋白質 tomoregulin の血管新生機序解明と血中濃度測定系の確立

萌芽研究	榊原桂太郎	内科学第四・助手	700	ディーゼル排気ガス暴露が結核感染症に及ぼす影響に関する研究
"	八木 聡明	耳鼻咽喉科学・教授	1,400	新しい視刺激装置による平衡機能検査法の開発
"	川並 汪一	老人病研究所・教授	1,400	ヒト気道 肺胞上皮系における幹細胞の免疫組織学的同定と分離培養
若手研究(B)	山田 丈士	放射線医学・助手	1,100	覚せい剤の体内動態に及ぼすエタノール影響
"	高野 仁司	内科学第一・助手	1,100	経皮的 iNOS 遺伝子治療による心筋梗塞塞縮小効果の研究
"	堺 則康	皮膚科学・講師	2,700	骨髓系幹細胞の可塑性を利用した表皮遺伝子治療に関する基礎研究
"	東 直行	皮膚科学・講師	1,600	DNA マイクロアレイ法によるアトピー性皮膚炎患者末梢血, 皮膚組織の遺伝子解析
"	加藤 陽子	皮膚科学・助手	1,100	アトピー性皮膚炎の病態形成におけるケモカイン、ケモカインレセプターの役割
"	井村 純	皮膚科学・助手	800	新生児・アトピー性皮膚炎バリアー機構における Cohort 調査
"	町田 稔	放射線医学・助手	800	光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いた不安定プラーク形成阻害
"	梶原 景子	放射線医学・助手	1,500	末梢発生肺腺癌における CT 画像上のスピクレーションと組織学的血管リモデリング
"	眞野あすか	生理学第二・助手	1,000	不安調節機構におけるニューロステロイド及び不安関連神経ペプチドの役割の解析
"	中村 恭子	内科学第三・助手	600	微小残存白血球細胞 (MRD) の生物学的特性 (MRD の質と白血病再発との関連)
"	田村 秀人	内科学第三・助手	1,400	白血病における新規の補助刺激分子 B7-H1, B7-H2, B7-H3 の発現と機能
"	笠木 陽子	老人病研究所・助手	1,600	CRF により発現誘導される新規遺伝子の検索 iCRF ノックアウトマウスを用いて
"	吉野 雅則	消化器病センター・助手	500	フッ化ピリミジン系抗癌剤代謝酵素 DPD の mRNA レベルでの阻害による制癌作用増強
"	平井 恭二	外科学第二・助手	700	ヒト非小細胞肺癌における ALCAM/CD166 の発現の意義について
"	田原 重志	脳神経外科学・助手	600	下垂体腺腫における機能分化に関わる転写因子, 各種受容体の発現と協調作用
"	中嶋 祐作	整形外科科学・助手	800	ヒト骨軟部悪性腫瘍の永久保存と抗癌剤感受性試験の確立及びその臨床応用
"	斉藤 明彦	耳鼻咽喉科学・助手	1,000	外リンパ特異的蛋白を用いた新しい外リンパ腫診断法の開発
"	小泉 康雄	耳鼻咽喉科学・助手	700	OVAR と EVAR による眼球運動の三次元解析

若手研究 (B)	三枝 英人	耳鼻咽喉科学・講師	1,000	ヒト舌筋の機能解剖学および機能生理学的研究
"	長谷川 純	耳鼻咽喉科学・助手	1,000	プロテオーム解析を用いた、新たな内耳感染防御機構の解明
"	若林あや子	微生物学・免疫学・助手	1,100	腸内の細菌外毒素が卵白アルブミン特異的免疫反応に与える影響：毒素と食物アレルギー
"	山本 直之	解剖学第二・講師	1,000	複数の GnRH ニューロン群による下垂体の多重支配
"	濱田 知宏	生理学第一・助手	1,000	雌性行動神経回路を構成し可視化した視床下部ニューロンに対するエストロジェンの作用
"	岩崎 俊雄	生化学第一・講師	1,100	超好熱菌の新規呼吸鎖複合体 II のサブユニット会合に伴う機能変換
"	佐藤(織田) 恵理	老人病研究所・助手	1,800	細胞周期制御の破綻時における p53 によるアポトーシス誘導機構の解析
"	西山 康裕	内科学第二・助手	1,400	腸管免疫担当細胞と上皮細胞および腸内細菌群の機能的連絡網の解明
"	宮内 靖史	内科学第一・助手	2,100	高齢ラットにおける肺静脈心筋細胞異常自動能発生のメカニズムの解明
"	功刀しのぶ	病理学第一・助手	2,200	MMP-2 欠損型マウスを用いた創傷治癒過程における肺胞上及遊走機序の解明
"	田村 秀樹	内科学第三・助手	1,800	摂食関連ペプチドによる成長ホルモンの分泌調節
"	田野崎 栄	内科学第三・助手	2,600	C/EBP $\beta$ の造血病機能解析：ヒト試料および遺伝子改変マウスを用いて
"	川瀬里衣子	産婦人科学・助手	1,700	更年期障害患者に対する至適栄養・運動処方指針の開発
"	酒主 敦子	耳鼻咽喉科学・助手	1,500	好酸球性中耳炎における好酸球浸潤機序の解明
"	森 幸子	耳鼻咽喉科学・助手	1,700	鼻アレルギーにおけるマトリックスメタプロテアーゼの新たな役割
"	新藤 晋	耳鼻咽喉科学・助手	1,400	新たな内耳疾患予防・治療法：HSP 誘導剤による内耳保護作用の検討
"	堀 純子	眼科学・講師	2,200	角膜移植における抗原提示細胞の機能解析と不活化抗原提示細胞の移入による免疫調整
"	松井 洋法	眼科学・助手	1,300	正常ラットと糖尿病モデルラットの網膜から採取した毛細血管細胞の研究
"	飛梅 圭	老人病研究所・助手	1,800	アポトーシス促進 Bcl-2 分子 Bax のミトコンドリア移行制御機構の解明

## 2. 平成 15 年度科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況

研究者・所属	種 目	主任研究者・所属	研究課題名
1 仁平 信 法医学	基盤研究(B)(1)	影浦 光義 福岡大学医学部	薬毒物鑑定精度管理・信頼性確保のための戦略研究
2 大久保善朗 精神医学	基盤研究(B)	須原 哲也 放射線医学総合研究所	PET による気分障害患者の病態とその治療法の作用機序に関する研究
3 太田 成男 老人病研究所	特定領域研究	林 純一 筑波大学生物科学系	ミトコンドリア tRNA 遺伝子突然変異導入マウスの病態解析と遺伝子治療
4 江見 充 老人病研究所	特定領域研究(C)(1)	中村 祐輔 東京大学医科学研究所	がん研究の総合的推進に関する研究
補助金合計額			15,940,000 円

## 3. 平成 15 年度厚生労働省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況

研究者・所属	主任 分担	研究事業名・主任研究者・所属	研究課題名
1 芝崎 保 生理学第二	主任	難治性疾患克服研究事業	中枢性摂食異常症に関する調査研究
2 芝崎 保 生理学第二	分担	長寿科学総合研究事業 寒川賢治・国立循環器病センター	高齢者のソフトボーズとエネルギー代謝に及ぼす新規ホルモングレリンの役割と臨床応用
3 福田 悠 病理学第一	分担	難治性疾患克服研究事業 貫和敏博・東北大学 加齢医学・遺伝子呼吸内科	びまん性肺疾患に関する調査研究
4 高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	エイズ対策研究事業 佐多徹太郎・国立感染症研究所	HIV 感染予防に関する研究
5 高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業 本多三男・国立感染症研究所	HIV 構造遺伝子と HIV 制御遺伝子のコンビネーションワクチンの開発に関する研究
6 水野 杏一 内科学第一	分担	循環器病研究委託費 内藤博昭・国立循環器病センター	動脈壁不安定プラークの機能画像診断法の臨床実用化に関する研究
7 新 博次 内科学第一	分担	医薬安全総合研究事業 鎌倉史郎・国立循環器病センター	重篤な循環器系副作用（QT 延長症候群等）の症例情報の収集・評価及びそれに基づく併用薬等のリスク因子解明に関する研究
8 大庭 建三 付属病院老人科	分担	長寿科学総合研究事業 井藤英喜・東京都多摩老人医療センター	高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較研究
9 及川 眞一 内科学第三	分担	難治性疾患克服研究事業 斉藤 康・千葉大学大学院医学研究院	原発性高脂血症に関する調査研究
10 及川 眞一 内科学第三	分担	効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 山田信博・筑波大学臨床医学系	糖尿病における血管合併症の発症予防と進展抑制に関する研究（JDC Study）
11 及川 眞一 内科学第三	分担	長寿科学総合研究事業 井藤英喜・東京都多摩老人医療センター	高齢者糖尿病治療と健康寿命に関するランダム化比較
12 吉村 明修 内科学第四	分担	効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 鈴木隆一郎・大阪府立成人病センター	がんの罹患高危険群の抽出と予後改善のための早期診断及び早期治療に関する研究
13 大久保善朗 精神医学	主任	こころの健康科学研究事業	神経伝達機能イメージングを用いた機能性精神疾患の治療効果の客観的評価法および診断法の確立に関する研究
14 大久保善朗 精神医学	分担	精神・神経疾患研究委託費 松田博史・国立精神神経センター	精神疾患における脳の画像解析学的研究

15	伊藤 敬雄 精神医学	分担	こころの健康科学研究事業 保坂 隆・東海大学医学部	自殺未遂患者と再企図者の背景についての研究
16	大木由加志 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業 松浦信夫・北里大学医学部	糖尿病・生活習慣病を持つ子供のQOL 改善のための研究
17	大木由加志 小児科学	分担	効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 松浦信夫・北里大学医学部	小児2型に関する経口血糖降下薬のエビデンスの確立:特にメトフォルミンの至適投与量,有効性と安全性の検討・評価
18	伊藤 保彦 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業 三池輝久・熊本大学医学部	思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究
19	隈崎 達夫 放射線医学	分担	がん研究助成金 村田 智・日本医科大学放射線医学	難治がんの総合的な対策に関する研究
20	江上 格 外科学第一	分担	効果的医療技術の確立推進臨床研究 山口 健・静岡県立がんセンター	短期(5年以内)がん生存者を中心とした心のケア・医療相談等の在り方に関する調査研究
21	松久 威史 外科学第二	分担	国際医療協力研究委託費 上村直実・国立国際医療センター	開発途上国への内視鏡技術移転およびその精度管理手法開発に関する研究
22	寺本 明 脳神経外科学	分担	難治性疾患克服研究事業 千原和夫・神戸大学医学部	間脳下垂体機能障害に関する調査研究
23	喜多村孝幸 脳神経外科学	分担	効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 坂井文彦・北里大学医学部	片頭痛の具体的な医療手順に関する研究
24	伊藤 博元 整形外科	分担	労働安全衛生総合研究事業 白井康正・日本医科大学名誉教授	座作業における腰痛予防に関する調査研究
25	伊藤 博元 整形外科	分担	医療技術評価総合研究事業 四宮謙一・東京医科歯科大学	腰椎椎間板ヘルニアのガイドライン作成
26	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	主任	免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業	花粉症のQOL からみた各種治療法評価と新しい治療法開発の基礎的研究
27	後藤 穰 耳鼻咽喉科学	分担	免疫・アレルギー疾患予防・治療研究事業 大久保公裕・日本医科大学耳鼻咽喉科学	花粉症のQOL からみた各種治療法評価と新しい治療法開発の基礎的研究
28	池園 哲郎 耳鼻咽喉科学	分担	難治性疾患克服研究事業 高橋正紘・東海大学医学部	前庭機能異常に関する調査研究班
29	黒川 颯 救急医学	分担	効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 島崎修次・杏林大学医学部	心臓,脳卒中の急性期における診療機能の向上およびその研修のありかたに関する研究
30	益子 邦洋 救急医学	分担	医療技術評価総合研究事業 島崎修次・杏林大学医学部	救命救急センターにおける避け得た外傷死の実態とその要因調査のための研究
31	益子 邦洋 救急医学	分担	医療技術評価総合研究事業 小濱啓次・川崎医科大学救急医学	新たな救急医療施設のあり方と病院前救護体制の評価に関する研究
32	横田 裕行 救急医学	主任	ヒトゲノム・再生医療等研究事業	脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究
33	太田 成男 老人病研究所 生化学部門	分担	精神・神経疾患研究委託事業 清水輝夫・帝京大学医学部	筋ジストロフィーに関連する疾患の病態解明と治療法の開発に関する研究
34	太田 成男 老人病研究所・ 生化学部門	分担	長寿医療研究委託事業 下方浩史・国立長寿医療センター	疫学研究による老年病発症予測に関する縦断的研究
35	江見 充 老人病研究所・ 分子生物学部門	分担	ヒトゲノム・再生医療等研究事業 齊藤 康・千葉大学大学院医学研究院	動脈硬化発症要因の遺伝子およびその重積性に関する研究

補助金合計額 153,660,000 円

4. 平成 15 年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況

研究者・所属	各種財団等名称	助成等種目	研究課題等名
1 中村 哲子 英語	慶応義塾大学	学術振興基金	身体医文化論 食餌と身体
2 近藤 保彦 生理学第一	(財)日本性教育協会	学術研究補助金	性指向性決定の神経内分泌学的基盤の研究
3 眞野あすか 生理学第二	(財)成長科学協会	研究助成	グレリン/growth hormone secretagogue 受容体(GHSR)発現抑制トランスジェニックラットを用いた成長・エネルギー代謝調節機構における GHSR の役割に関する検討
4 鈴木 秀典 薬理学	科学技術新興機構 戦略的基礎研究「脳を知る」	分担研究	抑制性シナプス可塑性の分子機構の解明とその応用
5 高橋 秀実 微生物学・免疫学	日米医学協力研究会	医学協力研究費	Poly(I:C)を用いたTLR3刺激による HIV-1gp120 特異的 CTL の誘導
6 川田 智之 衛生学・公衆衛生学	喫煙科学研究財団	研究助成	非喫煙者，喫煙者，禁煙者における血液検査値の統計学的比較検討
7 新 博次 内科学第一	国立循環器病センター	循環器病委託研究	特発性心室細動(Brugada 症候群)の病態とその治療法に関する研究
8 大庭 建三 付属病院老人科	公益信託日本動脈硬化 予防研究基金	研究助成	高齢者高血圧コホート研究
9 片山 泰朗 内科学第二	国立循環器病センター	研究補助金	超急性期虚血性脳血管障害に対する非侵襲的・モニタリングシステムの構築に関する研究
10 猪口 孝一 内科学第三	高橋産業経済研究財団	研究助成	MLL/AF4 の癌化メカニズムと分子標的薬の開発
11 工藤 翔二 内科学第四	喫煙科学研究財団	研究助成	特発性肺線維症における発癌機序の研究
12 工藤 翔二 内科学第四	東京都健康局	特定疾病(難病)に関する専門研究	東京都内呼吸器系 5 疾患認定患者の実態調査に関する研究
13 工藤 翔二 内科学第四	環境再生保全機構	研究補助金	気管支ぜん息等の発症・増悪リスクとしての環境要因の寄与の程度に関する研究
14 木田 厚瑞 内科学第四	公害健康被害補償予防 協会	研究補助金	高齢者の COPD 患者の早期診断，早期治療による発症予防のための地域連携の進め方に関する研究
15 大久保善朗 精神医学	(財)長寿科学振興財団	外国の研究機関等への委託事業	ノルエピネフリントランスポーター生体で画像化するための PET 用放射性リガントの開発
16 寺本 明 脳神経外科学	(財)成長科学協会	研究助成	アドバース・イベントの調査研究
17 伊藤 博元 整形外科	高橋産業経済研究所	研究助成	自家細胞を用いた骨再生・再建における微弱電磁波の研究
18 越野 立夫 産婦人科学	(財)日母おぎゃー献金 基金	研究補助金	脳性麻痺発生におけるミトコンドリア膜透過性遷移の役割に関する研究
19 大久保公裕 耳鼻咽喉科学	東京都衛生局医療 福祉部	東京都花粉症対策事業	アレルギー性鼻炎の経舌下口腔粘膜減感作療法研究
20 内木場拓史 泌尿器科学	内視鏡医学研究振興 財団	研究助成	塩酸ピラルピシンを用いた膀胱上皮内癌の局在診断法
21 田中 信之 老人病研究所 免疫部門	(財)病態代謝研究会	研究助成	p53 及び Bcl-2 ファミリー分子による癌化の抑制機構の解析
研究助成金額合計			66,150,000 円

5. 平成 15 年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕

単位：千円

項 目	平成 15 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
科学研究費補助金			
交付金額		268,223	268,223
私立大学教育研究高度化推進特別補助（文部科学省執行分）			
大学院高度化推進特別経費			
1 大学院整備重点化経費			
教育研究拠点大学院重点経費		399,809	399,809
研究科特別経費			
研究科分	33,020	26,900	59,920
学生分	13,180	10,770	23,950
研究科共同研究経費	13,786	13,500	27,286
特別研究学生経費		594	594
外国人研究員等特別招聘経費			
短期			
長期	300	300	600
2 ティーチング・アシスタント経費	3,500	2,700	6,200
3 教育研究機能活性化特別経費		5,350	5,350
4 専門大学院等支援経費			
学術研究推進特別経費			
1 学術研究高度化推進経費			
ハイテク・フロンティア等経費			
ハイテク・リサーチ・センター整備事業	47,494	47,400	94,894
学術フロンティア推進事業	48,800	48,700	97,500
産学連携研究推進経費	20,000	20,000	40,000
共同研究経費			
新技術開発研究	8,500	11,500	20,000
2 特許化推進経費		500	500
3 リサーチ・アシスタント，ポスト・ドクター等支援経費			
リサーチ・アシスタント，ポスト・ドクター			
リサーチ・アシスタント	30,600	37,200	67,800
ポスト・ドクター	10,800	13,200	24,000
大学教育高度化推進特別経費			
高等教育研究改革推進経費	9,389	10,000	19,389
1 教育・学習方法等改善支援経費			
多元的評価	1,048	300	1,348

2	教養教育改革推進経費	394	900	1,294
3	海外研修派遣	2,285	2,283	4,568
4	国際シンポジウム開催			
5	国際化教育			
	外国人教員による教育		1,000	1,000
	高度情報化推進特別経費			
1	情報通信設備（借入）	10,000	10,000	20,000
2	教育学術情報ネットワーク			
	教育学術情報ネットワーク	54,858	54,700	109,558
3	教育学術コンテンツ			
	教育研究用ソフトウェア	20,195	17,100	37,295
	教育学術情報データベース等の開発	14,200	14,200	28,400
4	サイバー・キャンパス整備経費		6,600	6,600
	合計	342,349	755,506	1,097,855
私立大学等経常費補助金特別補助（私立学校振興・共済事業団執行分）				
	生涯学習推進特別経費			
II	個性化推進特別経費			
	大学院基盤整備経費		136,520	136,520
	少人数教育の推進		6,000	6,000
	外国人留学生の受入れ		2,608	2,608
	研究施設	34,363	31,800	66,163
	大型設備等	9,261	8,200	17,461
	合計	43,624	185,128	228,752
私立大学等における施設・装置・設備関係補助（文部科学省）				
教育研究装置整備費補助				
	研究装置	125,713	125,711	251,424
	情報通信施設	22,807	22,806	45,613
	研究設備	16,917	20,988	37,905
学術研究振興資金（日本学術振興会）				
	学術研究振興資金	7,500	7,500	15,000
未来開拓学術研究費（文部科学省研究振興局振興企画課）				
	未来開拓学術研究費		74,000	74,000
タンパク 3000 プロジェクト（文部科学省産学連携等研究費）				
	タンパク 3000 プロジェクト		14,000	14,000



## あ と が き

現在の研究委員会は、この3月で2年間の任期を終える。大変強力な（と言うか、うるさ方の）委員が多く、時に大激論になることもあったが、重要課題について内容のある議論をすることができた。初年度には懸案であった教育研究費の配分方法の見直しを行った。各教室、各ブロックの利害に直接関係する難題であったが、最終的には共同利用研究施設への予算配分を優先する新しい配分方法の合意に漕ぎ着けることができた。研究環境が比較的恵まれている基礎医学と千駄木付属病院については、外部研究資金の更なる獲得を期待して、大学からの教育研究費については相当な減額を了承していただいた。2年目の研究委員会では丁度、法人より千駄木再開発プラン（アクションプラン21）が提案されたこともあり、日本医科大学の研究体制の将来構想について話し合いたいと考えていた。しかし、残念ながらこれに関しては十分な議論はできなかつた。研究費の不正使用疑惑がマスコミで報道されたことで研究委員会でもその対応に大部分の時間を費やすことになってしまった。日本の科学研究費政策に問題があることは度々指摘されている。総額は大きく伸びているが、いろいろな理由から特定の研究領域へのみ配分が集中しており、若手研究者や、純粋な基礎研究には研究費が回り難い仕組みになっている。流行の研究を行っている一部研究室には、その能力をはるかに越えるような巨額の研究費がトップダウンに配分されている。研究者も研究機関もそのような高額の研究費の取り扱いに慣れていないことから様々な問題が発生している。今回の事件についての詳細は調査委員会の報告を待ちたい。しかし、外部研究費の獲得を推奨してきた研究委員会としては、研究費が原因で研究内容とは無関係な問題が発生していることは極めて残念である。もちろん研究者自身の自覚が第一に重要である。しかし、研究者が複雑な研究費の取り扱いルールに振り回されずに、研究に集中できるような体制作りも重要であると考えている。研究委員会の発案で、新たに創設された学術振興課が中心になって、研究者の負担を軽減し、意図せぬルール違反が起きないように新しい研究費取り扱い規定を作成中である。本研究年報でも明らかなように、研究業績を反映する重要な指標と考えられている原著論文や、文部科学省の科学研究費取得状況において本学は大変健闘している。今回の問題で、若手研究者が研究費の獲得に消極的になることなく、新しい研究プロジェクトに果敢に挑戦してほしいと願っている。

研究委員会委員長 島田 隆

平成17年 1 月 25 日 印 刷

平成17年 1 月 31 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学  
研 究 委 員 会

〒113 8602 東京都文京区千駄木 1 1 5

T E L 03 ( 3822 ) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114 0024 東京都北区西ヶ原 3 46 10

T E L 03 ( 3910 ) 4 3 1 1 5